

# 機構住宅標準詳細設計図集

## 2023（第2版第4刷）

独立行政法人 都市再生機構

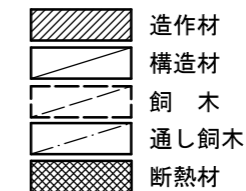
本図集を使用するに当たっては下記の一般事項を必ず確認すること。

### 本図集の構成及び設計図書としての使用方法について

- (1) 本図集は、UR賃貸住宅の共通部分詳細設計の標準を示したものである。なお、本ディテールによることを基本とするが、必要な場合は、本ディテールの主旨を理解した上で適切と判断される他の設計を採用することができる。
- (2) 仕様や部品についての規定は、「公共住宅建設工事共通仕様書」、「別冊 機材の品質・性能基準」、「都市再生機構工事特記基準」及び「機材の品質判定基準」による。
- (3) 本図集は、鉄筋コンクリート造の共同住宅を対象としている。また、意匠設計(建物外部設計図及び建物内部設計図)では、小梁のない大型一枚スラブのラーメン構造で階高2850mm以上の建物を想定した表現としている。
- (4) 本図集は汎用的に用いる標準詳細図と、市場で普及している製品の中の一部を例示した型式図(極力模式化している)とで構成されている。型式図の場合は右下名称欄に〔型式図〕と表示されている。
- (5) 設計図書として取り扱いは下記の通りとする。  
標準詳細図については、特記なき限り本図面に示された通りの内容が適用される。  
型式図については、本図面に示された納まり、寸法及び仕様等の内容が適用されるが、当該製品部分については市場で普及している製品の中から一部を姿図として例示したに過ぎないものである。他の製品で主要な性能が本図面内容を下回らないことについて設計担当課の確認を受けた場合には、適用してよいものである。  
ただし、この場合質疑書等により確認するものとする。
- (6) 本図集に記載してある部品類には品位を傷つけない範囲で、製作所の名称(または登録マーク)の表示を行う。  
なお、工業所有権はもとより商業道德上の一切の事項については当該製品製作者側の責任により措置するものとする。
- (7) 本図集の( )寸法は、参考寸法とする。
- (8) 本図集においては、原則として内部壁断熱材は25mm、屋根外部断熱材は40mm、スラブ下外断熱材は30mmをそれぞれ使用した納まりを表現している。実際の断熱材の厚みは設計図による。

### ◇ 木工事

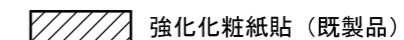
- 本標準詳細設計図集内の木材、断熱材の表示は下記による。



- 本標準詳細設計図集に記載の木工事に関する詳細は、在来工法木造軸組間仕切壁を前提としており、量産間仕切壁による場合の主要部分については、一部のみ図示している。その他の詳細については本詳細図を当該量産間仕切壁の詳細図として適用できるものとする。  
ただし、この場合図面の特記または図面の差し替えにより設計変更処理を行うものとする。
- 木材の断面表示寸法は、構造材、造作材及び板材共ひき立て寸法とする。  
(けずり代は、造作材は片面 3mm又は両面合計 5mmとする。  
構造材は片面 2mm又は両面合計 3mmとする。)

### ◇ 建具工事

- 本標準詳細設計図集内の木製建具枠の表示は下記による。



### ◇ 内装工事

- 断熱・防露工法

本標準詳細設計図集に記載の防露工事に関する詳細は「公共住宅建設工事共通仕様書」19章9節に示す断熱材あと張り工法(S1工法等)を前提としている。その他の工法による場合の工法・種類及び厚さは特記による。

【仕様】

【附記事項】

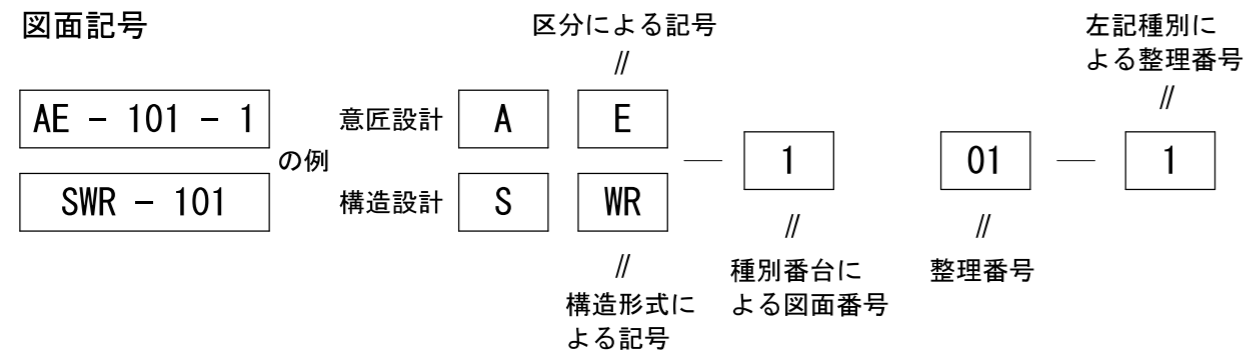
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	一般事項	
・第2版 S. 61. 12. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1	・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1 ・第2版4刷 R. 5. 4. 1	縮尺	共	1
			頁	共-1

図集の構成

各設計図目次

区分 記号 種別	建物外部設計図		建物内部設計図		建具設計図	
	AE	頁数	AI	頁数	AF	頁数
1番台						
100番台	階段室・共用部・エレベーター廻り	12	床廻り・壁廻り・防露壁廻り・出入口わく廻り・天井廻り	40	鋼製建具	6
200番台	外壁廻り	7	押入廻り	10	標準建具(木製建具)	5
300番台	屋根廻り	19	物入廻り	9	ふすま	1
400番台	外廊下廻り	7				
500番台	バルコニー廻り	14	台所廻り	11	建具金物	4
600番台	排水廻り	10	洗面脱衣室廻り	3		
700番台	外部建具廻り	16	浴室廻り	6		
800番台	部品廻り	17	便所廻り	5		
900番台			部品廻り	11		
小計	表紙共	102	表紙共	95	表紙共	16

図面記号



各設計図目次

区分 記号 種別	ラーメン構造設計図					
	SR	頁数				
1番台	共通事項	17				
100番台	中高層住宅	19				
	高層住宅	13				
200番台						
300番台						
400番台						
500番台						
600番台						
700番台						
800番台						
小計	表紙共	49				

【仕様】

【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1
- ・第2版4刷 R. 5. 4. 1

名称	図集の構成	
縮尺	共 - 2	頁 共-2

建物外部設計目録							
区分	図面番号	図面名称	頁	区分	図面番号	図面名称	頁
共通事項	共 - 1	一般事項	共-1	屋根廻り	AE - 301	陸屋根 外断熱アスファルト防水工法	E-20
	共 - 2	図集の構成	共-2		AE - 302	屋根伸縮目地廻り	E-21
		建物外部設計目録	1		AE - 303	外断熱アスファルト防水工法 (外断熱側で断熱性能を強化する場合)	E-22
		建物内部・建具設計目録	2		AE - 305	勾配屋根廻り [型式図]	E-23
		ラーメン構造設計目録 壁式ラーメン構造・壁式構造設計目録	3		AE - 306	屋上出入口わく廻り 外断熱アスファルト防水工法	E-24
					AE - 311	屋上テラス廻りー1 [型式図]	E-25
階段室・共用部・エレベーター廻り	AE - 101	高層住棟1階エントランス ホール廻り [型式図]	E-1	AE - 312	屋上テラス廻りー2 (防水立上り) [型式図]	E-26	
	AE - 102	共用廊下廻り専用部分 MB・EPS廻り(WR) [型式図]	E-2	AE - 320	屋根マンホール [型式図]	E-27	
	AE - 103	共用廊下廻り専用部分 MB・EPS廻り(R) [型式図]	E-3	AE - 321	塔屋タラップ	E-28	
	AE - 104	EV付屋外階段 [型式図]	E-4	AE - 322	アンテナ及び避雷針支持台	E-29	
	AE - 105	階段室一般図	E-5	AE - 323	避雷設備廻り	E-30	
	AE - 106	階段室(コンクリート手摺)	E-6	AE - 324	テレビアンテナ・ 避雷針壁面取付廻り	E-31	
	AE - 112	共用階段手摺 [型式図]	E-7	AE - 325	給水管・通気管立上り	E-32	
	AE - 121	エレベーターホール廻り [型式図]	E-8	AE - 326	消火水槽架台	E-33	
	AE - 122	エレベーター出入口排水溝廻り (ホールが雨がかりになる場合) [型式図]	E-9	AE - 331	屋上緑化廻り平面・断面標準図	E-34	
	AE - 133	マシンルームレス型 エレベーター取付躯体図	E-10	AE - 332	屋上緑化断面標準図(薄層土壌)	E-35	
	AE - 134	エレベーター出入口わく廻り	E-11	AE - 333	大型屋根マンホール [型式図]	E-36	
	AE - 135	機械室廻り	E-12	AE - 334	ドレイン用防塵網 [型式図]	E-37	
				AE - 335	伸長通気管廻り [型式図]	E-38	
	外壁廻り	AE - 201	誘発目地	E-13	外廊下廻り	AE-401-1	共用外廊下手摺図ー1 [型式図]
AE - 202		外壁タイル張目地案内図	E-14	AE-401-2		共用外廊下手摺図ー2 (アンカー工法) [型式図]	E-40
AE - 203		外壁タイル張詳細図	E-15	AE-401-3		共用外廊下手摺図ー3 (無溶接埋込アンカー工法) [型式図]	E-41
AE - 204		打継目地	E-16	AE - 402		防風スクリーン [型式図]	E-42
AE - 205		縦目地・誘発目地	E-17	AE - 403		エアコン室外機置場 [型式図]	E-43
AE - 206		耐震スリット(完全スリット)	E-18	AE - 411		連結送水管放水口(単口) (3~10階) [型式図]	E-44
AE - 207		完全スリット位置図	E-19	AE - 412		連結送水管放水口(双口) (11階以上) [型式図]	E-45
【都市機構第1版からの削除詳細図】		【都市機構第2版からの削除詳細図】		【都市機構第2版3刷からの削除詳細図】			
建物外部設計図 AE - 111:共用階段手摺-1 AE - 131・132:エレベーター取付躯体図-1・2 AE - 714:バルコニー境引違戸わく廻り-4 AE - 715:バルコニー境引違戸わく廻り-5 (和室障子付-1・2) AE - 732:引違窓わく廻り(障子付)		建物外部設計図 AE-818:戸番号標示文字  建物内部設計図 AI-141-4:セットバック部分防露案内図  壁式構造設計図 SW-103:基礎廻り詳細図(4) SW-108:増打ち要領		建物内部設計図 AI-901:水廻り床下通気孔  ラーメン構造設計図 SR-119:ボルト接合一般事項 SR-133:特殊高力ボルト接合(1) SR-134:特殊高力ボルト接合(2) SR-135:特殊高力ボルト接合(3)  壁式ラーメン構造設計図 SWR-000~SWR-113  壁式構造設計図 SW-000~SW-108			
建物内部設計図 AI - 135:薄型コンセントボックス廻り AI - 401~404:床の間詳細-1~4							
建具設計図 AF - 301~304:和ぶすま・・・ AF - 401~403:引違障子 AF - 503:建具金物 引戸用							

建物外部設計目録							
区分	図面番号	図面名称	頁	区分	図面番号	図面名称	頁
バルコニー廻り	AE-501-1	バルコニー手摺図 [型式図]	E-46	外部建具廻り	AE - 716	バルコニー境片開戸わく廻り (サッシ内付の場合)	E-74
	AE-501-2	バルコニー床廻り	E-47		AE - 731	引違窓わく廻り	E-75
	AE - 502	バルコニー隔板廻り (アルミ製) [型式図]	E-48		AE - 733	すべり出し窓わく廻り	E-76
	AE - 503	バルコニー物干金物 天井吊 [型式図]	E-49		AE - 734	内倒し窓わく廻り	E-77
	AE - 504	バルコニー物干金物 手摺付(上下スライド式) [型式図]	E-50		AE - 735	出窓わく廻り	E-78
	AE-505-1	エアコン取付用インサート -1 [型式図]	E-51		AE - 736	外壁窓アルミ製手摺取付詳細図 [型式図]	E-79
	AE-505-2	エアコン取付用インサート (木造ふかし壁取付補強)	E-52-1		AE - 737	共用廊下窓面格子取付詳細図 [型式図]	E-80
	AE-505-3	エアコン取付用下地 (軽量鉄骨壁下地の場合) [型式図]	E-52-2		AE - 741	点検口わく廻り	E-81
	AE - 506	設備機器用・給気用スリーブ (75φ・100φ・107φ) [型式図]	E-53		AE - 742	パイプシャフト扉わく廻り	E-82
	AE-507-1	エアコン室外機置場(天井吊) [型式図] (SWR造の場合のエアコン実装型)	E-54		AE - 743	鋼製戸わく廻り	E-83
	AE-507-2	エアコン室外機置場(天井吊) [型式図] (SR造の場合のエアコン実装型)	E-55		AE - 744	鋼製戸わく廻り (常時開放型)	E-84
	AE - 511	屋外壁掛け給湯機取付廻り	E-56				
	AE - 512	バルコニー垂直避難口 [型式図]	E-57		AE - 801	床下換気孔 [型式図]	E-85
	AE - 513	花台廻り [型式図]	E-58		AE - 802	床化粧マンホール蓋 [型式図]	E-86
					AE - 803	床配線ピット廻り	E-87
排水廻り	AE - 601	外断熱アスファルト防水用 ルーフトレイン(先付用) [型式図]	E-59	AE - 804	軽量鉄骨下地天井廻りー1 天井下地 [型式図]	E-88	
	AE - 602	外断熱アスファルト防水用 横引用ドレイン [型式図]	E-60	AE - 805	軽量鉄骨下地天井廻りー2 開口補強 [型式図]	E-89	
	AE - 603	水はね防止型中継ドレイン 先付用 [型式図]	E-61	AE - 806	軽量鉄骨下地天井廻りー3 点検口 [型式図]	E-90	
	AE - 604	中継ドレイン 先付用 [型式図]	E-62	AE - 811	集郵便受箱取付詳細図	E-91	
	AE - 605	丸型フロアドレイン 先付用 [型式図]	E-63	AE-812-1	掲示板(アルミ製)ー1 [型式図]	E-92-1	
	AE - 606	角型フロアドレイン 先付用 [型式図]	E-64	AE-812-2	掲示板(アルミ製)ー2 [型式図]	E-92-2	
	AE - 607	横引用ドレイン [型式図]	E-65	AE-812-3	掲示板(アルミ製)ー3 [型式図]	E-92-3	
	AE - 611	樋廻り・樋持ち廻り [型式図]	E-66	AE - 813	階数標示板 [型式図]	E-93	
	AE - 612	1階下部樋持ち廻り [型式図]	E-67	AE - 814	住戸玄関室名札板 [型式図]	E-94	
	AE - 613	樋廻り(白ガス管)	E-68	AE - 815	一般室名札板 [型式図]	E-95	
外部建具廻り	AE - 701	玄関ポーチ廻り	E-69	AE - 816	アルミ製棟番号標示文字 [型式図]	E-96	
	AE - 702	玄関鋼製戸わく廻り (中層壁式)	E-70	AE - 817	棟番号標示文字取付部 [型式図]	E-97	
	AE - 711	バルコニー境引違戸わく廻りー1 (サッシ内付の場合)	E-71	AE - 819	手すり注意表示板 (のぼらないで!)	E-99	
	AE - 712	バルコニー境引違戸わく廻りー2 (サッシ外付の場合)	E-72	AE - 820	A L Cパネル [型式図]	E-100	
	AE - 713	バルコニー境引違戸わく廻りー3 (連窓サッシの場合)	E-73				
建物外部設計目録							頁 1

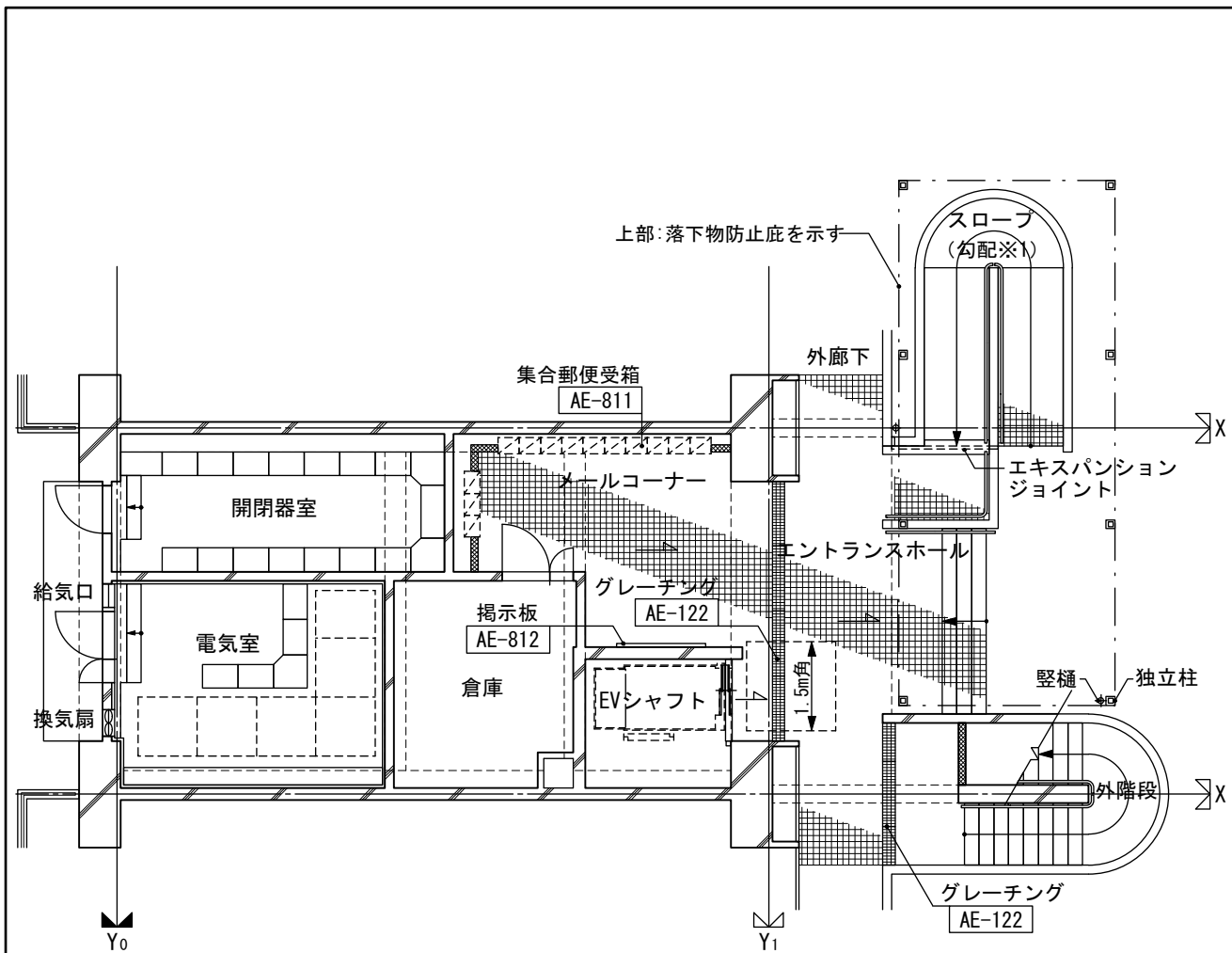
建物内部設計目録							
区分	図面番号	図面名称	頁	区分	図面番号	図面名称	頁
床廻り	AI-101-1	1階床下廻り (発泡プラスチック系床下地材の場合)	1-1	出入口わく廻り	AI - 154	三本引込戸わく廻り	1-34
	AI-101-2	1階床下廻り (乾式遮音二重床工法の場合)	1-2		AI - 155	引違ふすまわく廻り	1-35
	AI-102-1	2階床トレンチピット等廻り (発泡プラスチック系床下地材の場合)	1-3		AI - 156	三本引ふすまわく廻り	1-36
	AI-102-2	2階床トレンチピット等廻り (乾式遮音二重床工法の場合)	1-4		AI - 157	片引ふすまわく廻り	1-37
	AI - 111	床廻り詳細図-1	1-5				
	AI - 112	床廻り詳細図-2 発泡プラスチック系床下地材	1-6	天井廻り	AI - 161	二重天井廻り (和室)	1-38
	AI - 113	床廻り詳細図-3 乾式遮音二重床工法床下地材	1-7		AI - 162	二重天井廻り	1-39
	AI - 114	スラブ上配管スペース (発泡プラスチック系パネル)	1-8		AI - 163	天井配管ダクトカバー廻り	1-40
	AI - 115	温水床暖房用床廻り	1-9				
	AI - 116	床廻り詳細図-4 和洋室可変型住宅 (和室)	1-10		AI - 201	押入廻り-1 (コンクリート壁-1)	1-41
	AI - 117	床廻り詳細図-5 和洋室可変型住宅 (洋室)	1-11	AI - 202	押入廻り-2 (コンクリート壁-2)	1-42	
	AI - 120	玄関上り框廻り	1-12	AI - 203	押入廻り-3 (木造壁-1)	1-43	
				AI - 204	押入廻り-4 (木造壁-2)	1-44	
				AI - 205	押入廻り-5 (天袋なし-1)	1-45	
	壁廻り	AI-131-1	木造壁	1-13-1	押入廻り	AI - 206	押入廻り-6 (天袋なし-2)
AI-131-2		軽量鉄骨壁下地 [型式図]	1-13-2	AI - 207		押入廻り-7 (居室出入口上部天袋付)	1-47
AI - 132		玄関・廊下・洗面脱衣室手摺下地	1-14	AI - 208		押入廻り-8 和洋室可変型住宅 (和室)	1-48
AI - 133		手摺取付補強下地	1-15	AI - 211		押入防露壁廻り-1	1-49
AI - 134		撤去可能間仕切 [型式図]	1-16	AI - 212		押入防露壁廻り-2	1-50
AI - 136		コンセントボックス廻り	1-17				
AI-137-1		床下配線方式木造壁廻り (住宅用分電盤取付)	1-18	物入廻り	AI - 301	折戸物入廻り-1 ハンガーパイプ付	1-51
AI-137-2		床下配線方式木造壁廻り (住宅情報盤取付)	1-19		AI - 302	折戸物入廻り-2 (中棚付-1)	1-52
AI-137-3		床下配線方式木造壁廻り (スイッチ・コンセント廻り)	1-20		AI - 303	折戸物入廻り-3 (中棚付-2)	1-53
AI-137-4		床下配線方式木造壁廻り (防露壁部分ボックス廻り)	1-21		AI - 311	開戸物入廻り-1 ハンガーパイプ付	1-54
AI-137-5		床下配線方式木造壁廻り (弱電端子取付廻り)	1-22		AI - 312	開戸物入廻り-2 (中棚付-1)	1-55
AI - 138		テーブルケーブル廻り詳細図 (電灯用2芯・警報用) (施工要領図)	1-23		AI - 313	開戸物入廻り-3 (中棚付-2)	1-56
AI - 139		給気用ダンパー (電源ボックス取付廻り)	1-24		AI - 314	開戸物入廻り-4 (中棚付-3)	1-57
					AI - 315	引違戸物入廻り-1 和洋室可変型住宅 (洋室)	1-58-1
					AI - 316	システム収納 [型式図]	1-58-2
防露壁廻り	AI-141-1	防露案内図	1-25	台所廻り	AI - 501	キッチンキャビネット-1 (セクショナルキッチン) [組合せ図]	1-59
	AI-141-2	防露案内図 [一般階・最上階] 壁・天井 (スラブ下) 断熱補強	1-26		AI - 502	キッチンキャビネット-2 (セクショナルキッチン) [標準図]	1-60
	AI-141-3	防露案内図 [一般階・最下階] 床 (スラブ上) 断熱補強	1-27		AI - 503	キッチンキャビネット-3 (システムキッチン) [型式図]	1-61
	AI - 142	防露壁S1-RC工法	1-29		AI - 504	キッチンキャビネット-4 (L型)	1-62
	AI - 143	防露天井廻り	1-30		AI - 505	キッチンキャビネット-5 (カウンター型) [型式図]	1-63
出入口わく廻り	AI - 151	木製片開戸わく廻り	1-31	AI - 511	台所流し台下配管ピット	1-64	
	AI - 152	木製片引戸わく廻り	1-32	AI - 512	台所流し水切カバー廻り	1-65	
	AI - 153	木製片引戸わく廻り (戸袋が厚い場合)	1-33	AI - 513	キッチンキャビネット部分詳細図	1-66	

建具設計目録							
区分	図面番号	図面名称	頁	区分	図面番号	図面名称	頁
台所廻り	AI-514-1	台所壁仕上(タイル)	1-67	鋼製建具	AF - 101	玄関鋼製戸	F-1
	AI-514-2	台所壁仕上(不燃化粧板)	1-68		AF - 102	鋼製戸	F-2
	AI - 515	吊戸棚取付	1-69		AF - 103	ステンレス製点検口扉	F-3
			AF - 104		パイプシャフト用扉-1 (柱型付-1)	F-4	
			AF - 105		パイプシャフト用扉-2 (柱型付-2)	F-5	
			AF - 106		パイプシャフト用扉-3 (アルコーブ型)	F-6	
洗面脱衣室廻り	AI - 601	洗面脱衣室出入口わく廻り	1-70	内装ドア	AF - 201	内装ドア建具図-1 [型式図]	F-7
	AI - 602	洗面脱衣室床・壁・天井廻り	1-71		AF - 202	内装ドア建具図-2 [型式図]	F-8
	AI - 603	洗濯機給水用配管立上りカバー	1-72		AF - 203	内装ドア建具図-3 [型式図]	F-9
			AF - 204		内装ドア建具図-4 [型式図]	F-10	
					AF - 205	内装ドア建具図-5 [型式図]	F-11
浴室廻り	AI - 701	浴室ユニット [型式図]	1-73	ふすま	AF - 305	量産ふすま [型式図]	F-12
	AI - 702	浴室ユニット展開図 [型式図]	1-74				
	AI - 703	浴室ユニット 出入口わく廻り-1	1-75				
	AI - 704	浴室ユニット 出入口わく廻り-2	1-76				
	AI - 705	浴室ユニット すべり出し窓わく廻り	1-77				
	AI - 706	浴室ユニット 内倒し窓わく廻り	1-78				
便所廻り	AI - 801	便所廻り	1-79	建具金物	AF - 501	建具金物 丁番 [型式図]	F-13
	AI - 802	便所出入口わく廻り	1-80		AF - 502	建具金物 レバーハンドル・引戸用 [型式図]	F-14
	AI - 803	便所手摺	1-81		AF - 504	建具金物 物入用 [型式図]	F-15
	AI - 804	便所遮音壁廻り	1-82		AF - 505	建具金物 レバーストップパー 戸当り・ [型式図]	F-16
	AI - 805	便所改造可能壁廻り	1-83				
部品廻り	AI - 902	壁・天井点検口 [型式図]	1-85				
	AI - 903	床下点検口	1-86				
	AI - 904	分電盤取付補強	1-87				
	AI - 905	吊棚・吊戸棚	1-88				
	AI - 911	カーテンレール [型式図]	1-89				
	AI - 912	カーテンボックス [型式図]	1-90				
	AI - 913	房掛 [型式図]	1-91				
	AI - 921	住戸壁付部品廻り (RC壁) [型式図]	1-92				
	AI - 922	住戸壁付部品廻り (防露壁) [型式図]	1-93				
	AI - 923	帽子掛 [型式図]	1-94				
AI - 924	タオル掛 [型式図]	1-95					

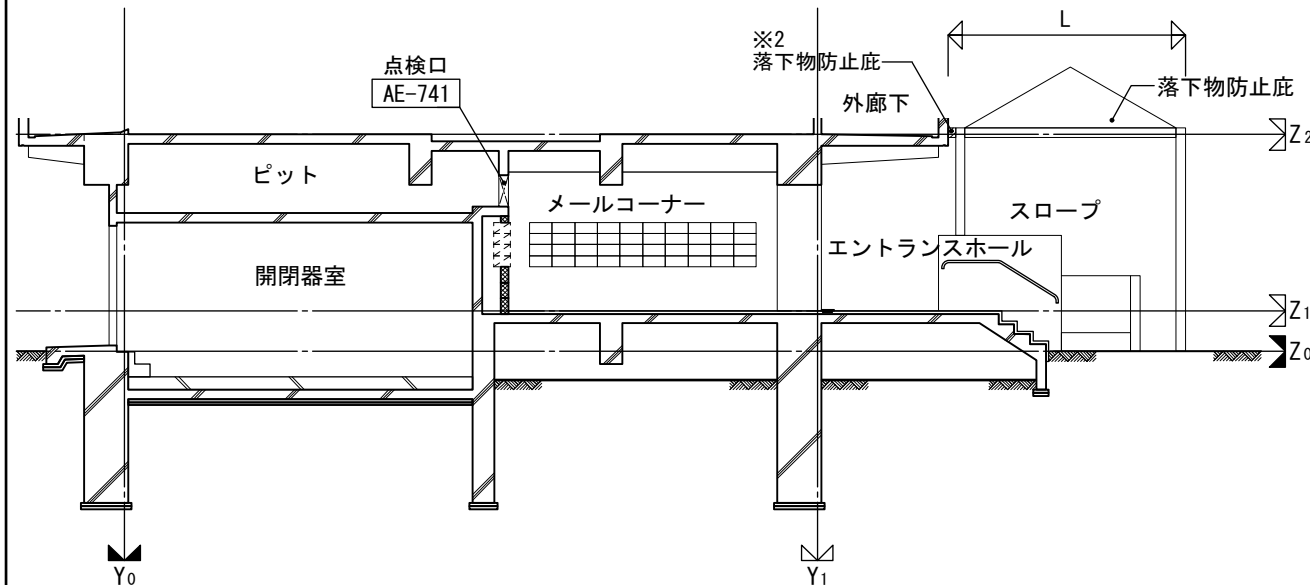
ラーメン構造設計図					
区分	図面番号	図面名称	区分	図面番号	図面名称
共通事項	SR-000	共通事項(1)	中高層住宅	SR-111	梁の貫通孔(1)
	SR-001	共通事項(2)		SR-112	梁の貫通孔(2)
	SR-002	共通事項(3)		SR-113	増打ち要領
	SR-003	共通事項(4)		SR-114	設備機器埋込要領
	SR-004	共通事項(5)		SR-115	非耐力壁(1)
	SR-005	スラブ配筋標準(1)		SR-116	非耐力壁(2)
	SR-006	スラブ配筋標準(2)		SR-117	非耐力壁(3)
	SR-007	スラブ配筋標準(3)		SR-118	耐力壁・地下壁
	SR-008	スラブ配筋標準(4)			
	SR-009	スラブ配筋標準(5)			
	SR-010	スラブ配筋標準(6)		SR-119	溶接接合一般事項(1)
	SR-011	スラブ配筋標準(7)		SR-120	溶接接合一般事項(2)
	SR-012	スラブ配筋標準(8)		SR-121	溶接接合一般事項(3)
	SR-013	階段配筋標準(1)		SR-122	溶接接合一般事項(4)
	SR-014	階段配筋標準(2)		SR-123	溶接接合一般事項(5)
	SR-015	階段配筋標準(3)		SR-124	溶接接合一般事項(6)
SR-016	設計かぶり厚さ一覧	SR-125		柱・梁の基本断面図	
中高層住宅	SR-100	基礎廻り詳細図(1)		SR-126	接合部標準詳細図(1)
	SR-101	基礎廻り詳細図(2)	SR-127	接合部標準詳細図(2)	
	SR-102	基礎廻り詳細図(3)	SR-128	接合部標準詳細図(3)	
	SR-103	基礎廻り詳細図(4)	SR-129	鉄骨柱脚(1)	
	SR-104	柱(1)	SR-130	鉄骨柱脚(2)	
	SR-105	柱(2)	SR-131	鉄骨梁のスリーブ補強	
	SR-106	大梁(1)			
	SR-107	大梁(2)			
	SR-108	大梁(3)			
	SR-109	基礎梁			
	SR-110	小梁			

ラーメン構造設計図					

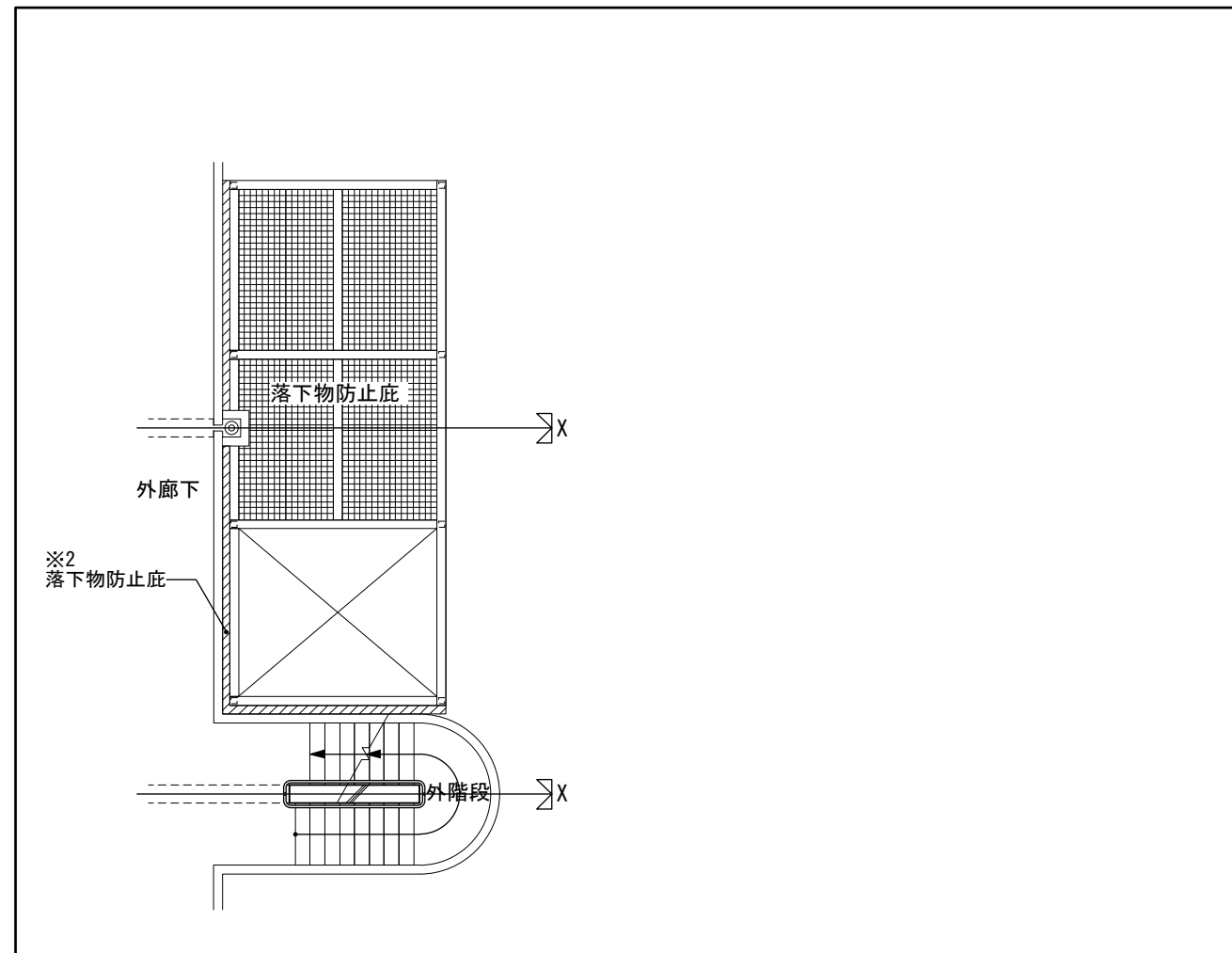
# 建物外部設計図



1階平面図 1:120



断面図 1:120



2階屋根伏図 1:120

【仕様】

・スロープの有無、位置、床仕上等は建物設計図による。

※1スロープの勾配は下記による。

- ・高低差 $\leq 80\text{mm}$ の場合  
勾配 $\leq 1/8$   
有効幅員 $\geq 1200\text{mm}$
- ・高低差 $> 80\text{mm}$ の場合  
勾配 $\leq 1/12$   
有効幅員 $\geq 900\text{mm}$ かつ階段併設
- ・高低差 $> 80\text{mm}$ の場合  
勾配 $\leq 1/15$   
有効幅員 $\geq 1200\text{mm}$
- ・2階床下トレンチピット等廻りは AI-102-1  
AI-102-2 による。

【附記事項】

- ・出入口庇の出(L寸法)は建物設計図による。
- ・※2 : 歩行者専用部分の上には隙間を設けない。
- ・エレベーター乗場には車椅子の回転スペースを設ける。(1.5m $\times$ 1.5m)

【改訂事項(公団住宅)】

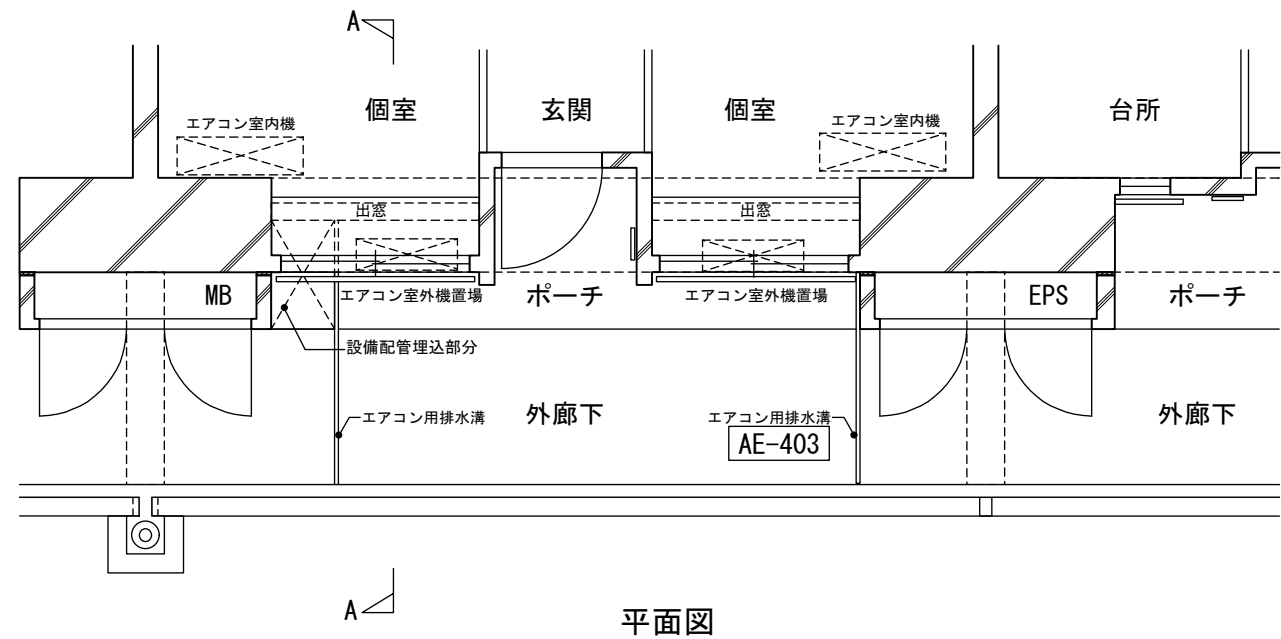
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

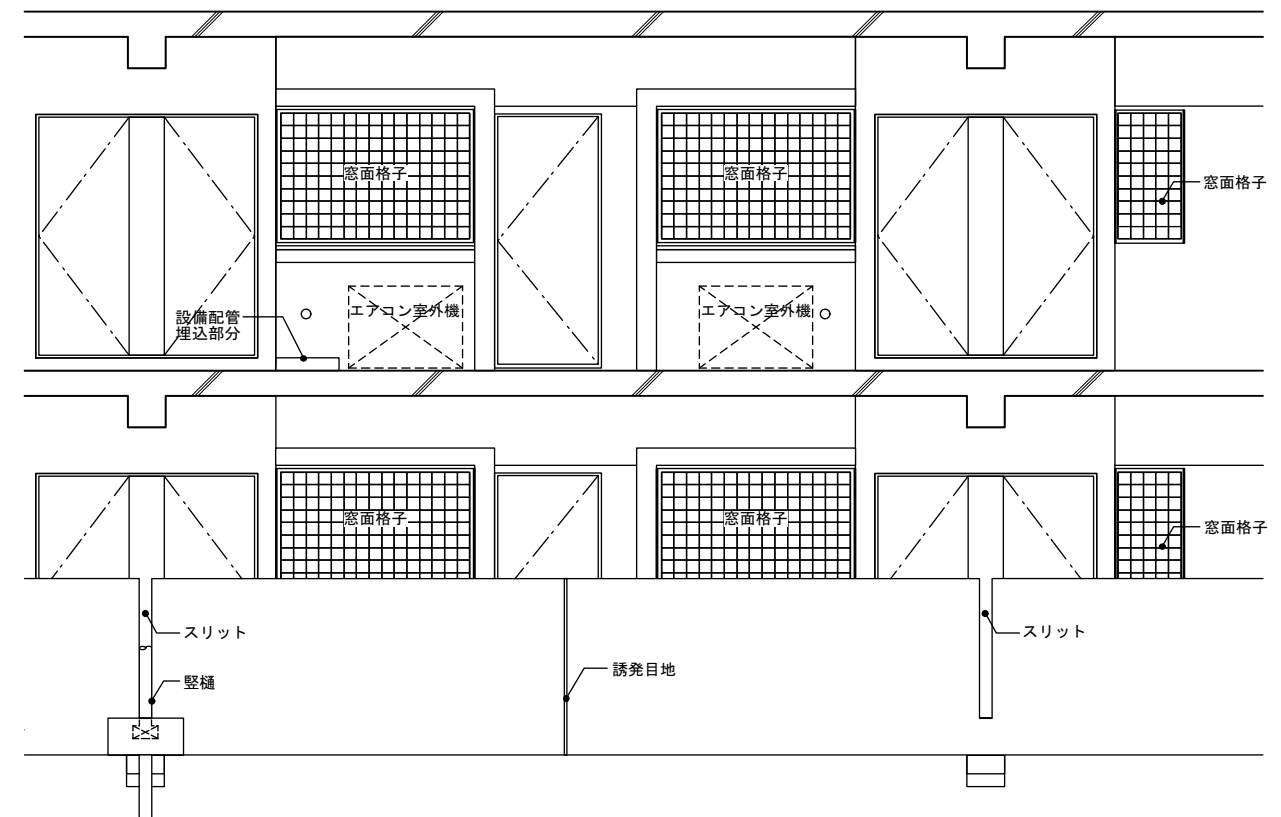
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	高層住棟1階エントランスホール廻り 〔型式図〕		
縮尺	1:120	AE-101	頁 E-1

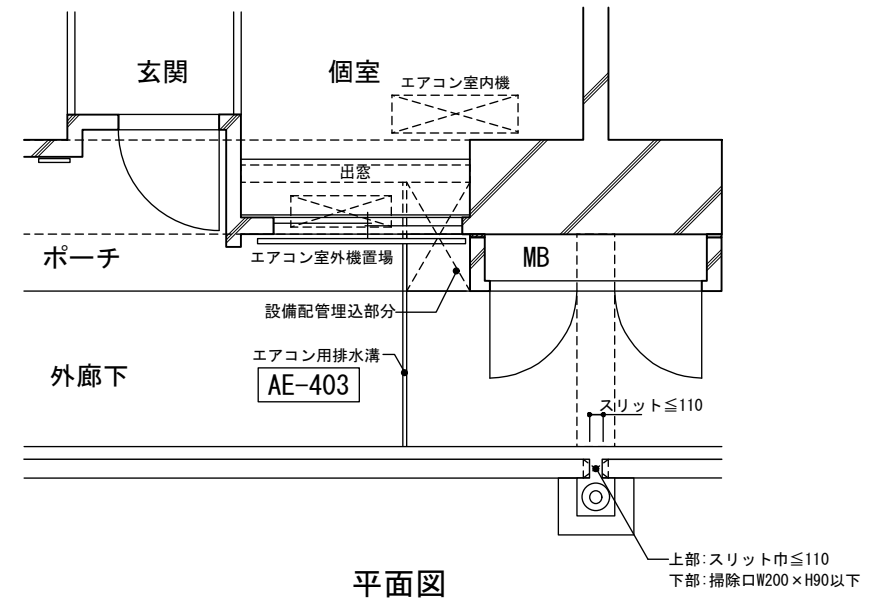




平面図

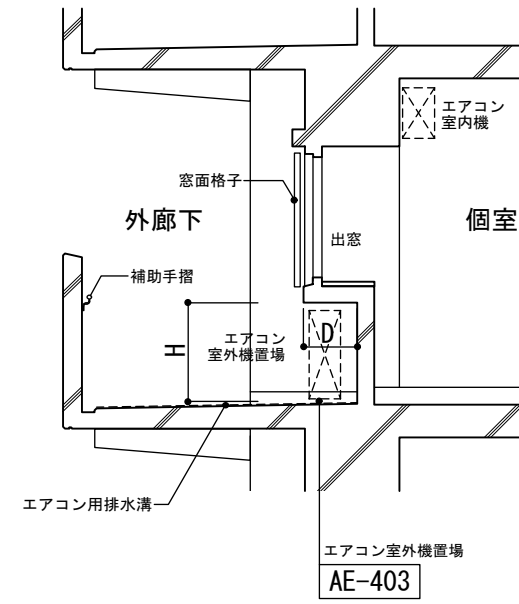


姿図



平面図

上部:スリット巾≤110  
下部:掃除口W200×H90以下



A-A 断面図

【仕様】

【附記事項】

- ・ H、D寸法は建物設計図による。  
(H=700以上、D=350以上を標準とする)
- ・ 縦樋の支持金物はスリットからの足掛かりにならない位置に取り付ける。

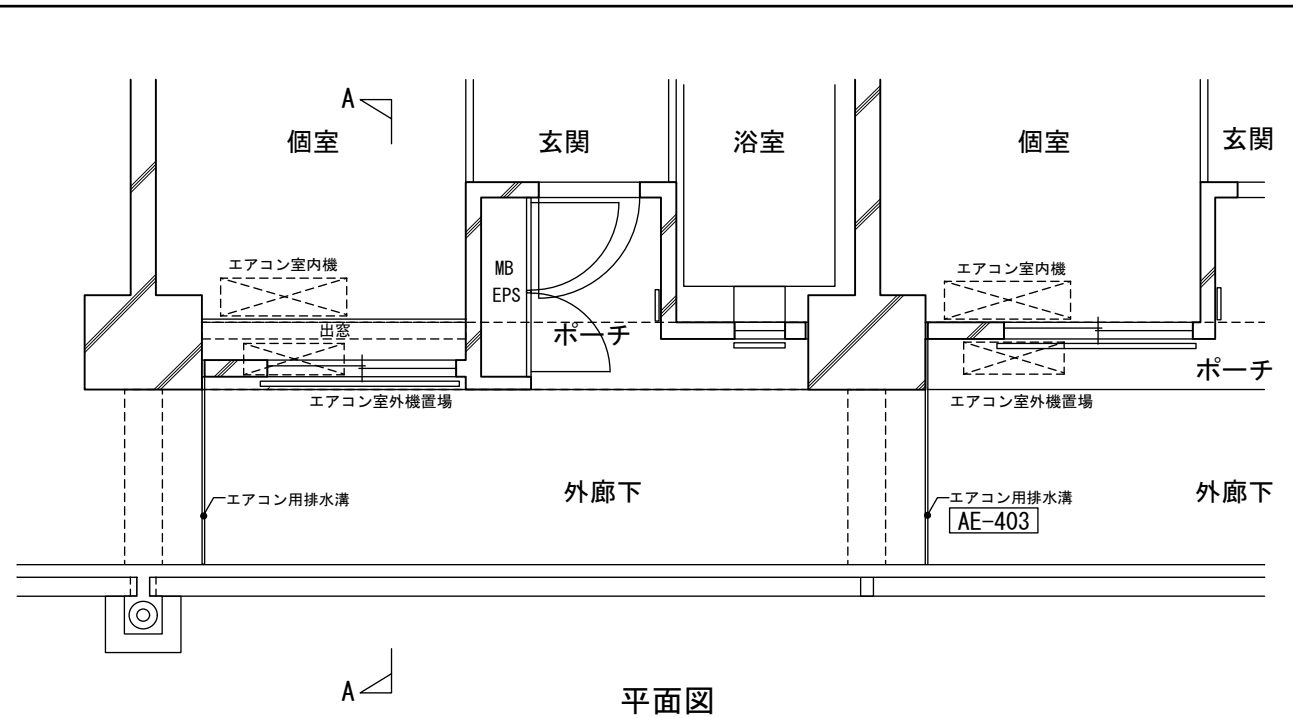
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

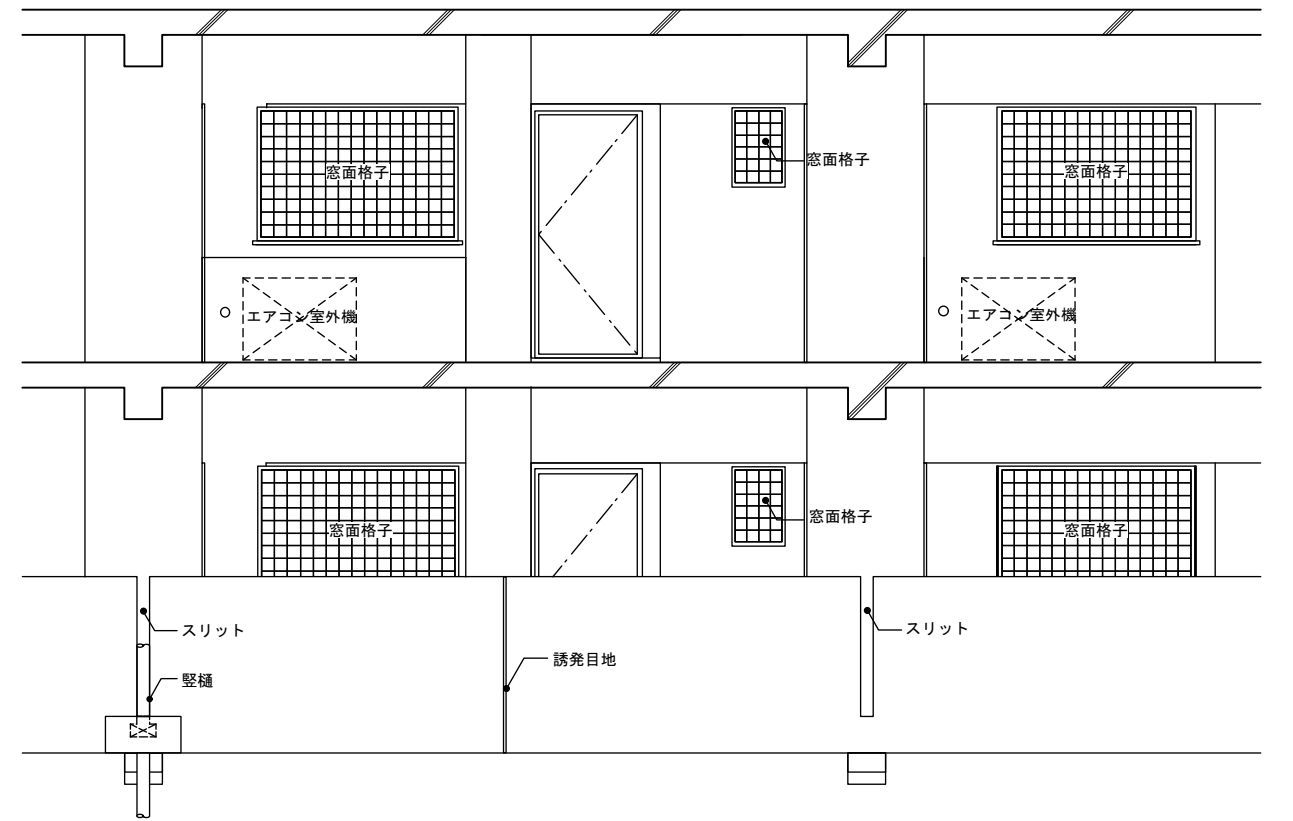
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

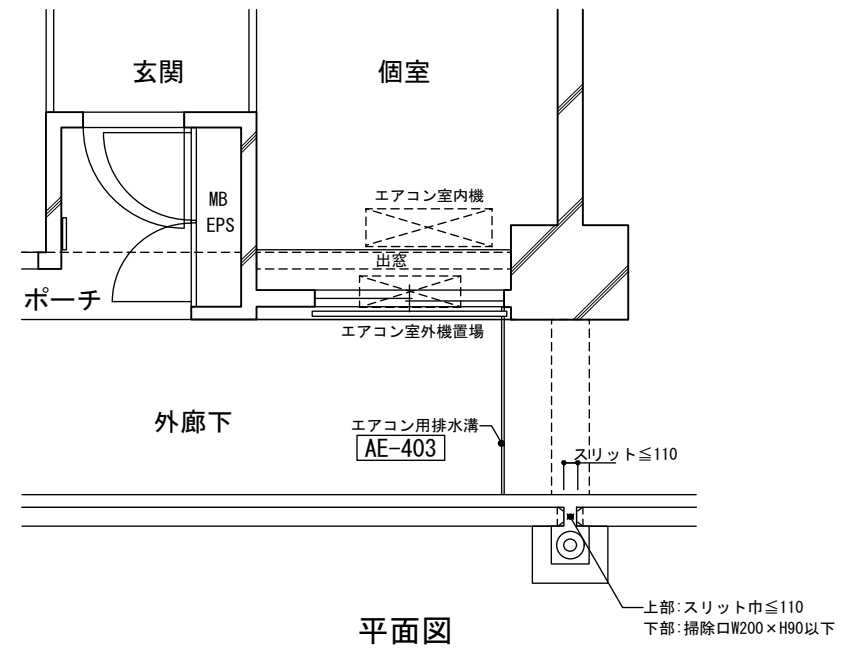
名称	共用廊下廻り専用部分〔型式図〕 MB・EPS廻り(WR)		
縮尺	1 : 60	AE - 102	頁 E-2



平面図

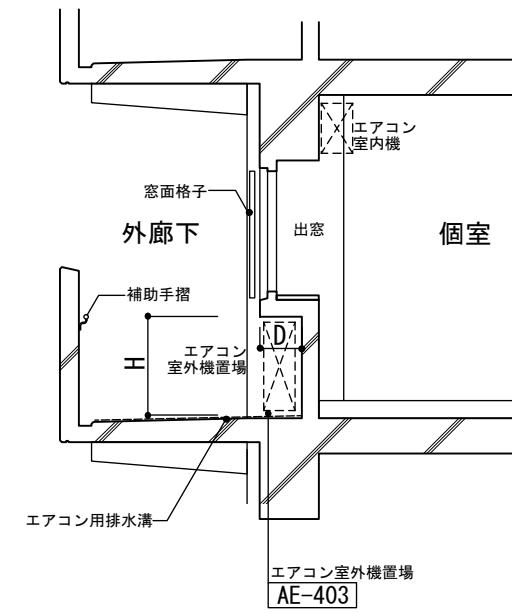


姿図



平面図

上部:スリット巾≦110  
下部:掃除口W200×H90以下



A-A 断面図

【仕様】

【附記事項】

- ・ H、D寸法は建物設計図による。  
(H=700以上、D=350以上を標準とする)
- ・ 縦樋の支持金物はスリットからの足掛かりにならない位置に取り付ける。

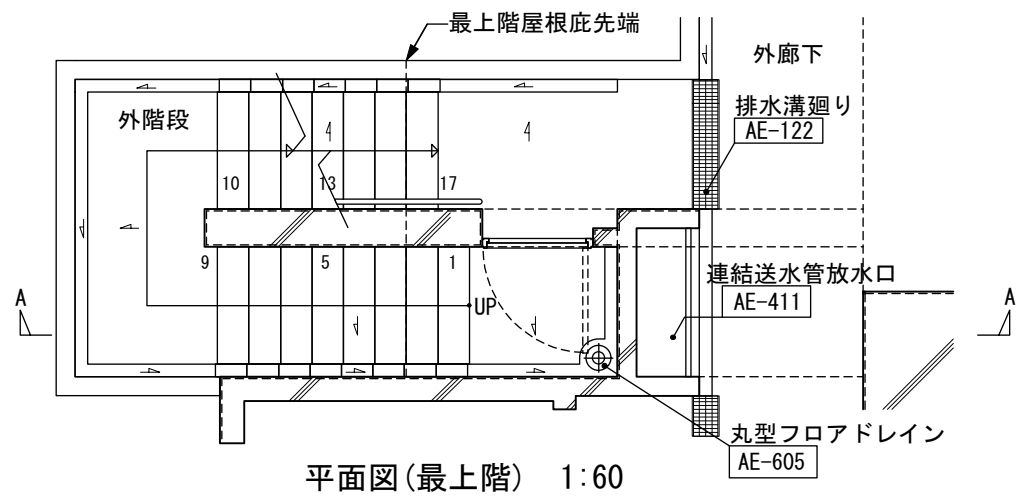
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

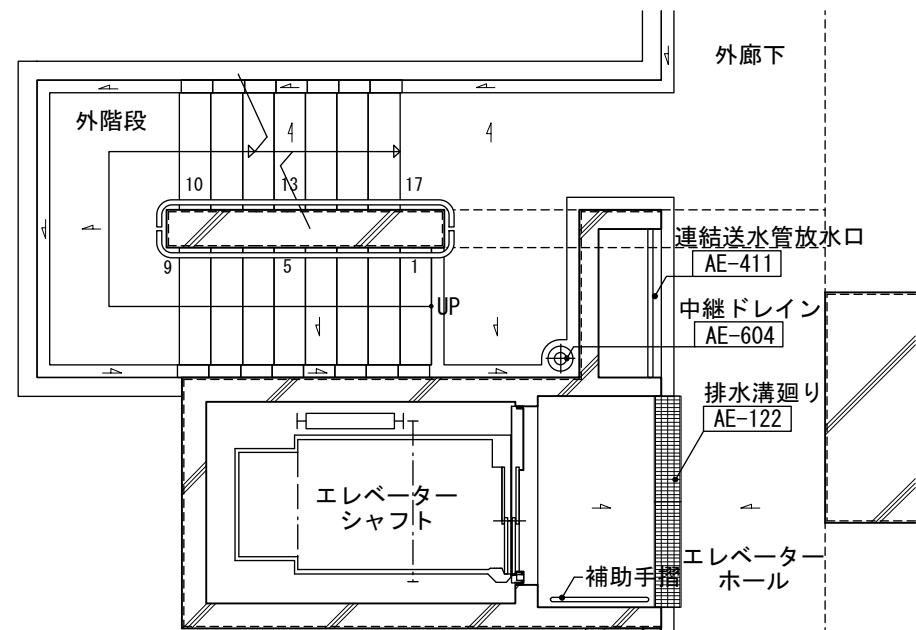
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

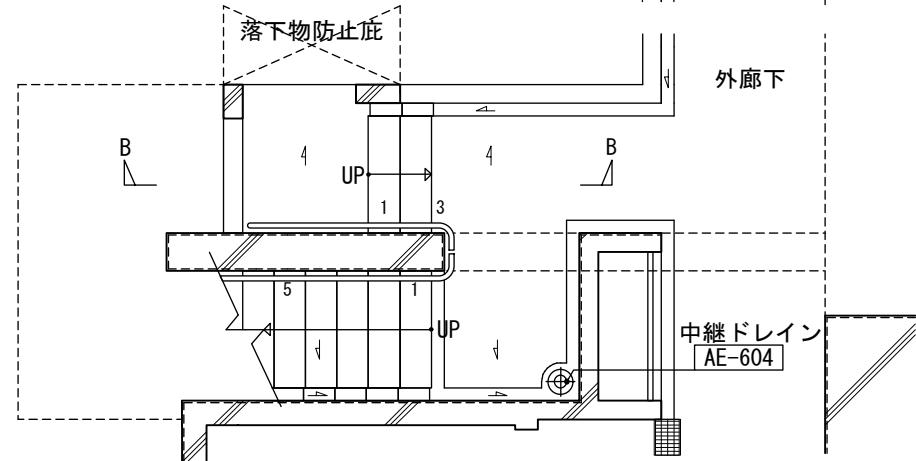
名称	共用廊下廻り専用部分〔型式図〕 MB・EPS廻り(R)		
縮尺	1 : 60	AE - 103	頁 E-3



平面図(最上階) 1:60



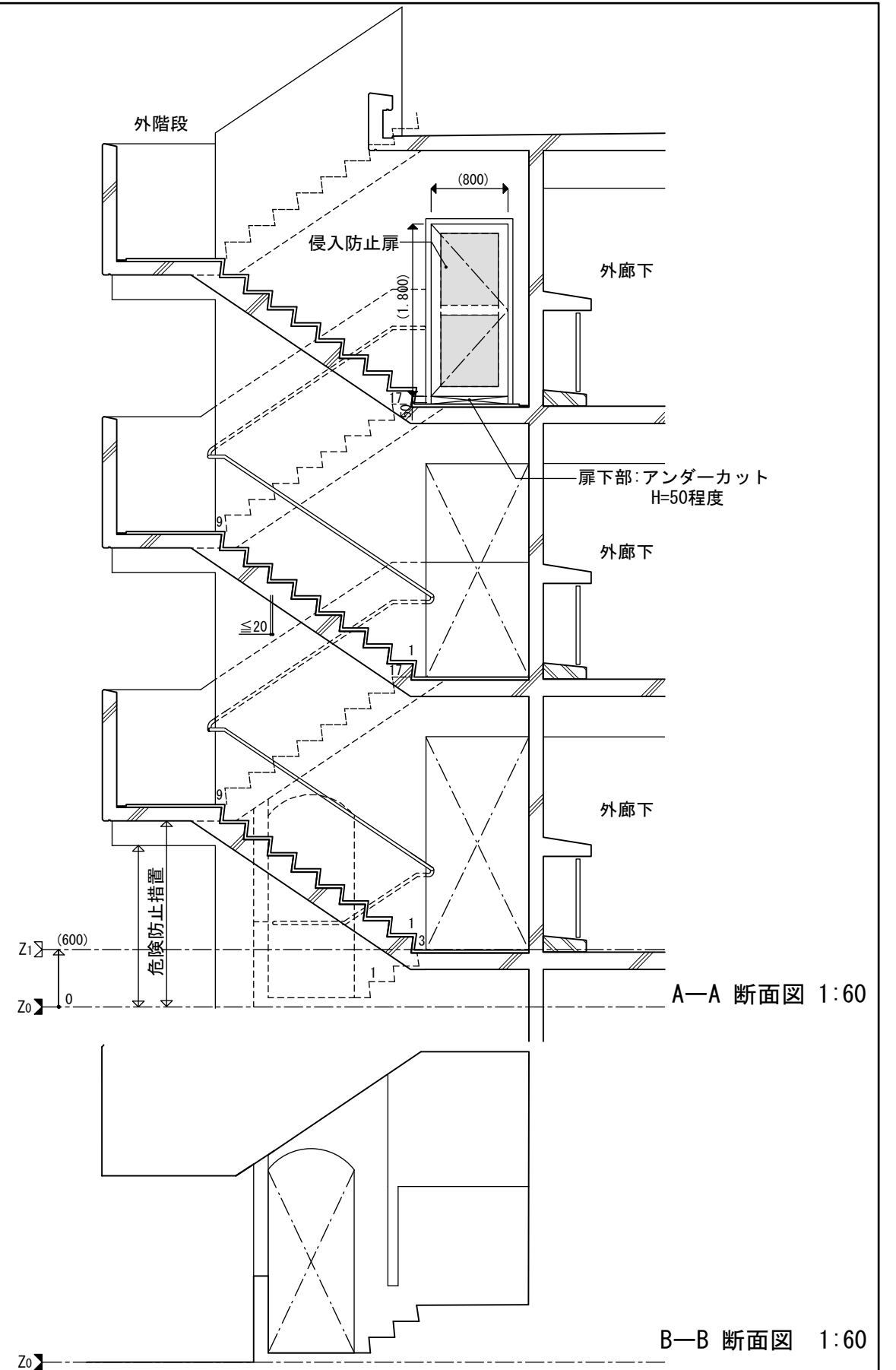
平面図(一般階) 1:60



平面図(1階) 1:60

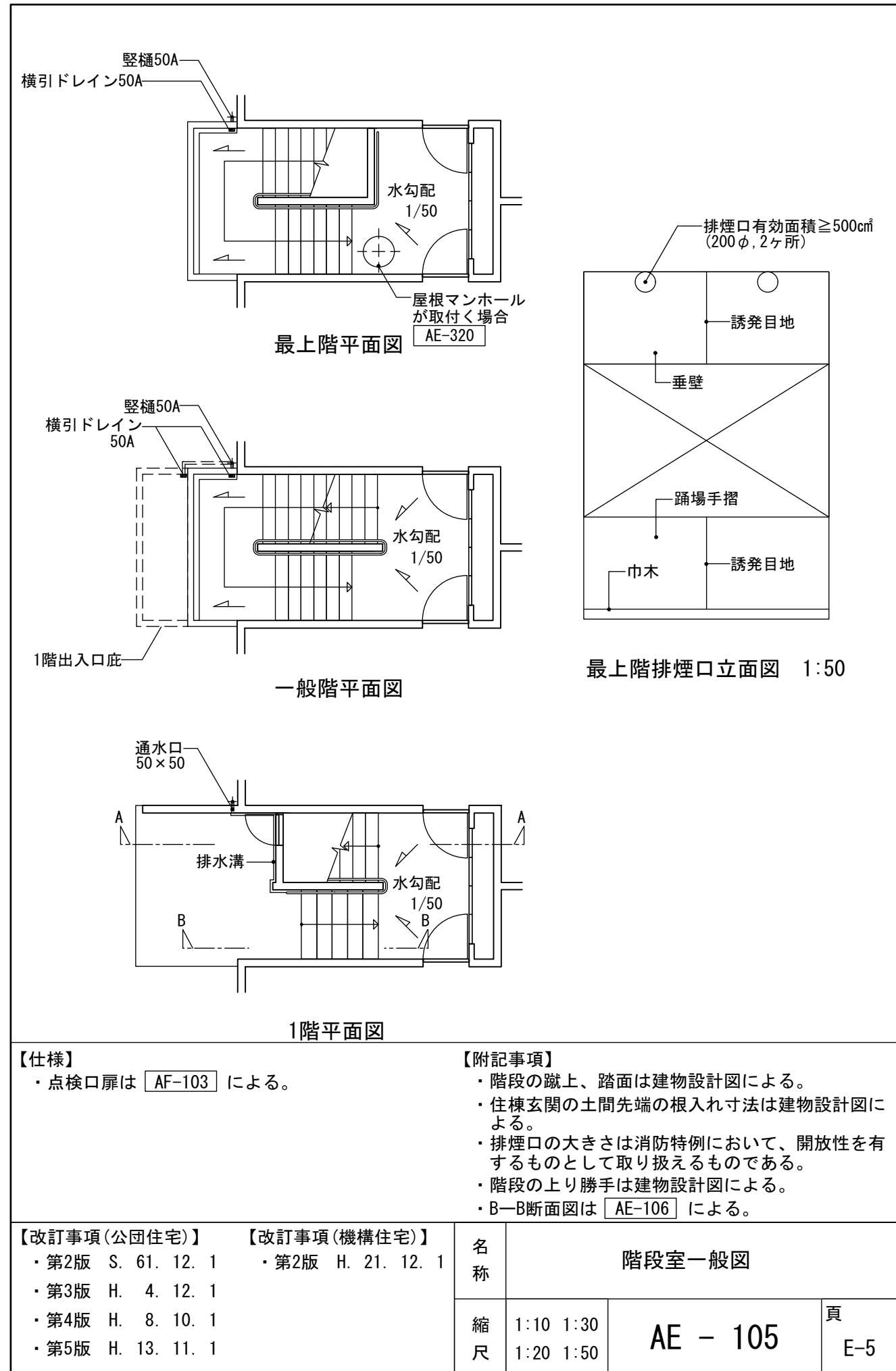
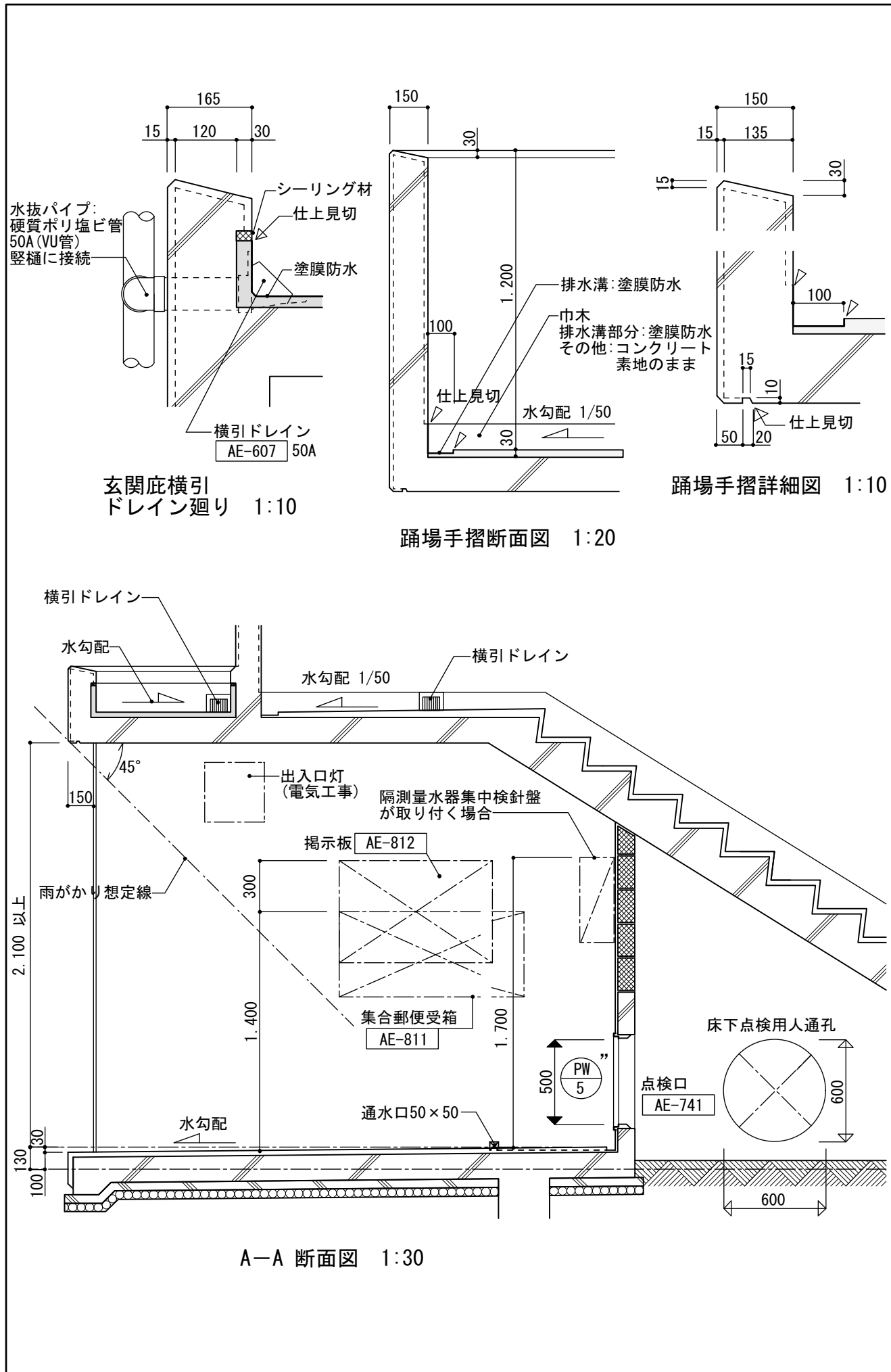
- 【仕様】
- 手摺廻りは AE-105 による。
  - 補助手摺は AE-112 による。

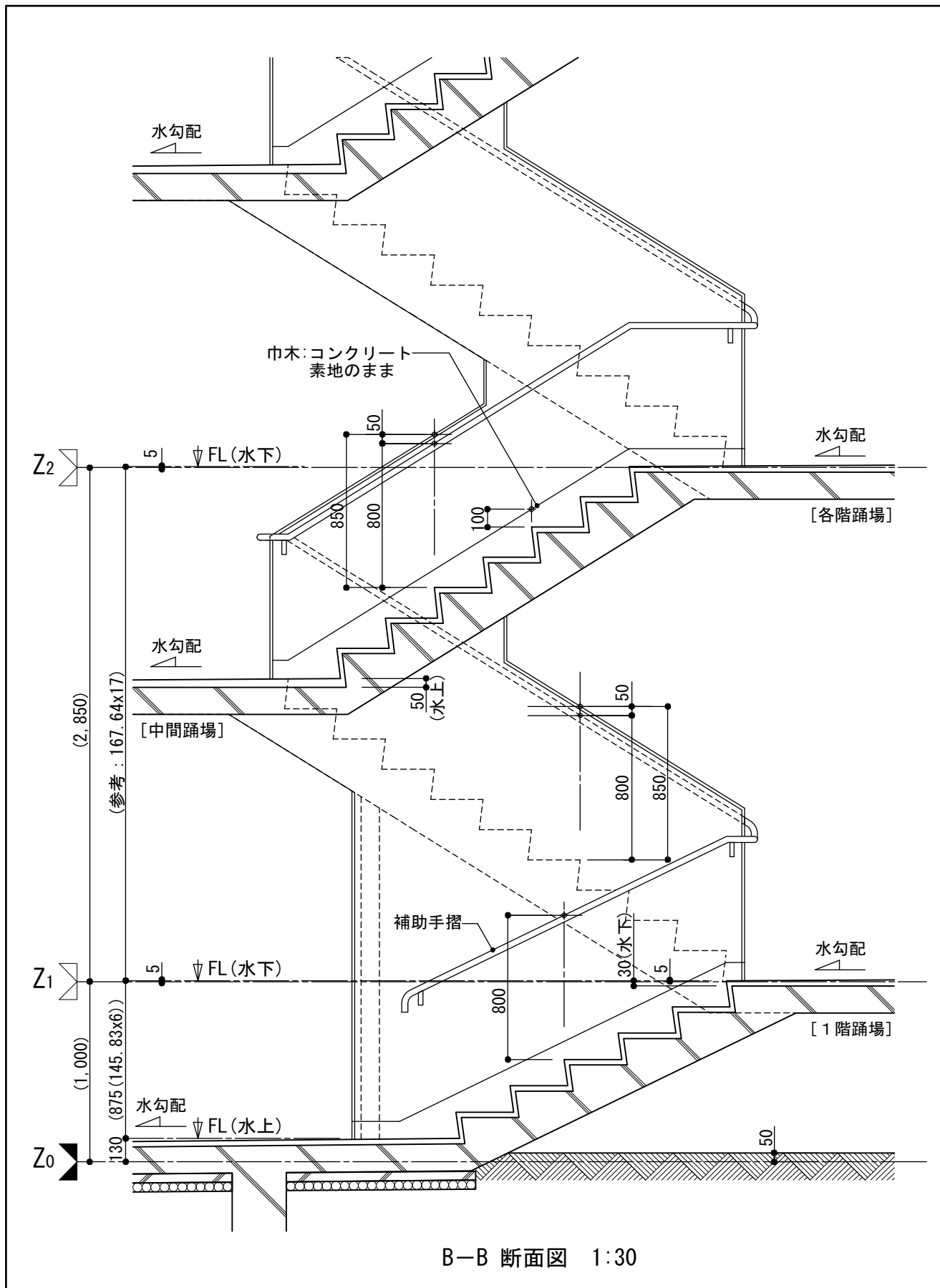
- 【附記事項】
- エレベーターホールに雨水等が侵入する恐れのある場合は、エレベーターホール前に排水溝を、外廊下には縦樋及び防風スクリーンを設ける。
  - 1~2階中間踊場が低く、頭のぶつかり等が生じそうな場合出入口の向き、その他危険防止の措置を行う。
  - 歩行者通路には落下物防止庇を設ける。



- 【改訂事項(公団住宅)】
- 第4版 H. 8. 10. 1
  - 第5版 H. 13. 11. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- 第2版 H. 21. 12. 1
  - 第2版3刷 H. 31. 4. 1

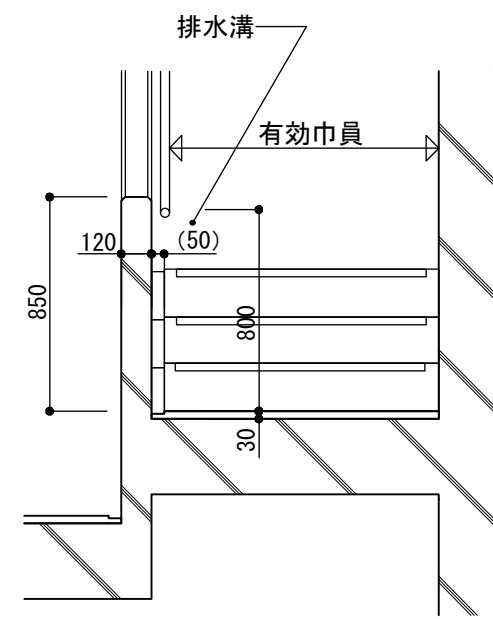
名称	EV付屋外階段〔型式図〕		
縮尺	1:60	AE-104	頁 E-4



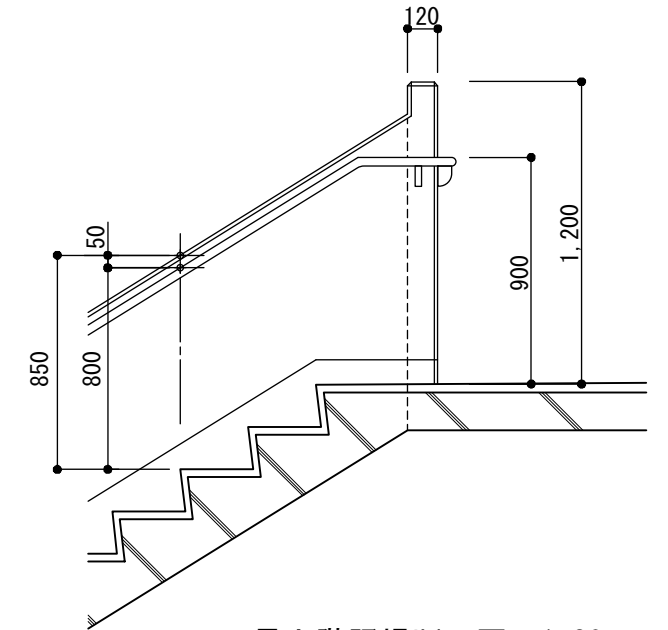


B-B 断面図 1:30

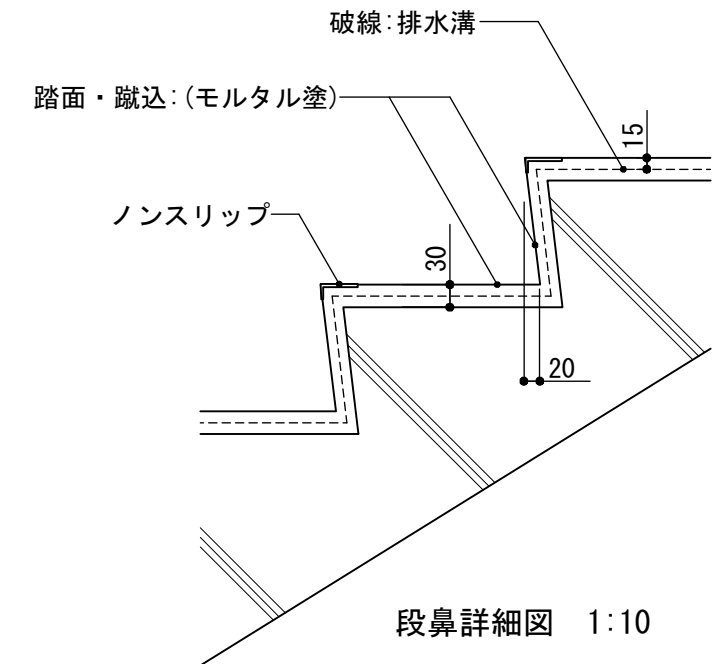
- |  |   |
|--|---|
| <p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンスリップの材質はステンレス製とする。</li> <li>・ノンスリップの巾は40mm内外とする。</li> <li>・ノンスリップの取付け工法はメーカー仕様による。</li> <li>・補助手摺は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">AE-112</span> による。</li> </ul> | <p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助手すりの高さは、H=800(段鼻から手すり天端)を標準とする。</li> </ul> |
|--|---|



階段手摺断面図 1:30



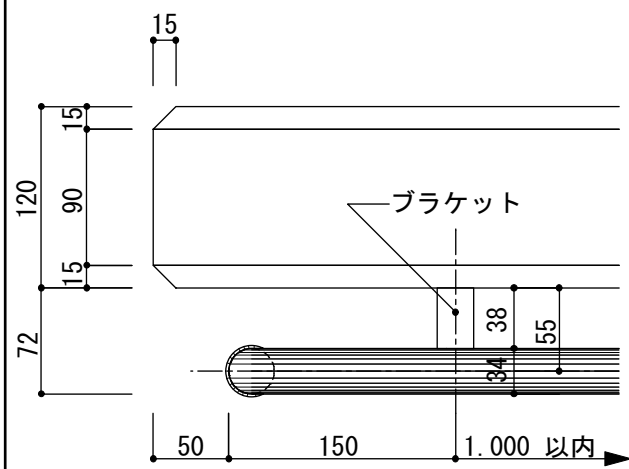
最上階踊場断面図 1:30



段鼻詳細図 1:10

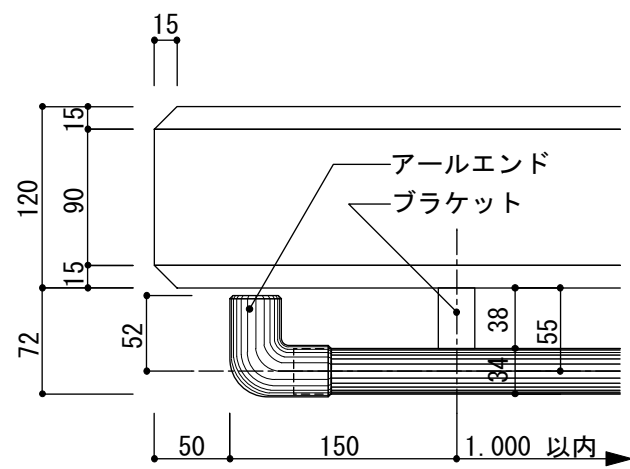
<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>・第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>・第5版 H. 13. 11. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> <li>・第2版3刷 H. 31. 4. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>階 段 室 (コンクリート手摺)</p>	<p>縮尺</p> <p>1 : 3 1 : 10 1 : 30</p>	<p>AE - 106</p>	<p>頁</p> <p>E-6</p>
---	--	---------------------------------------	--	-----------------	---------------------

A:フラットエンドの場合

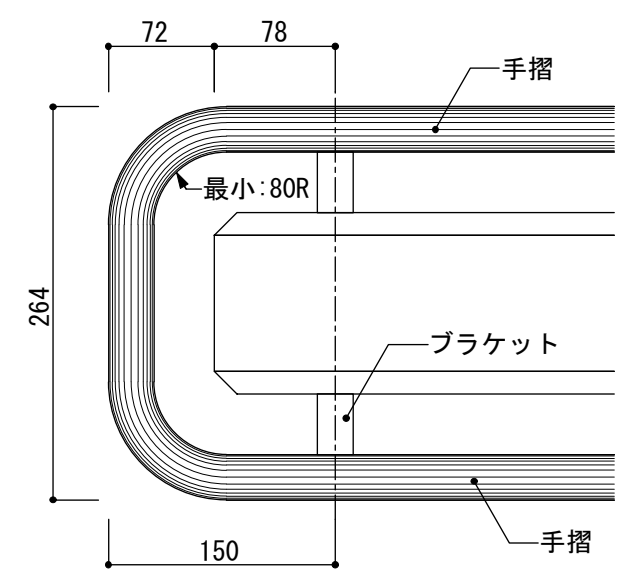


平面図(1階) 1:5

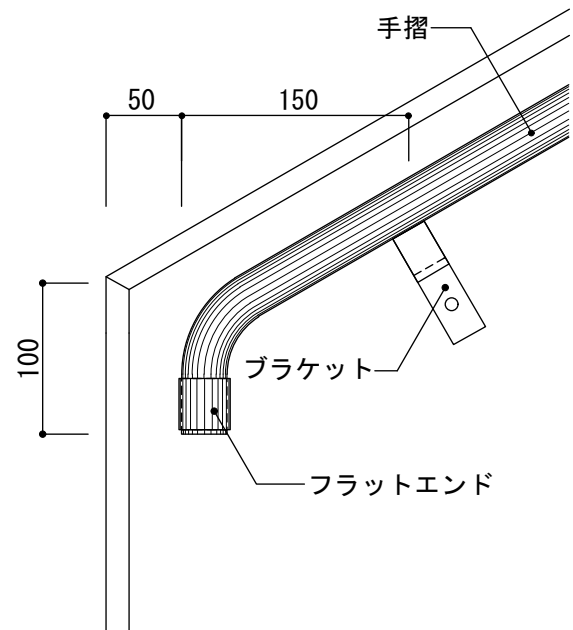
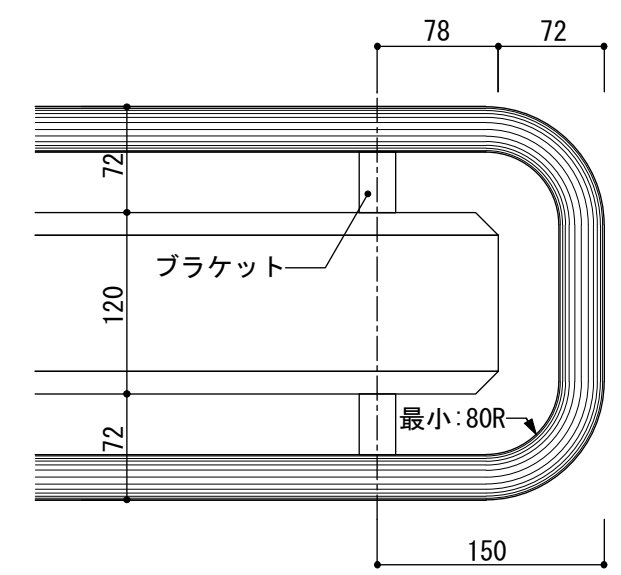
B:アールエンドの場合



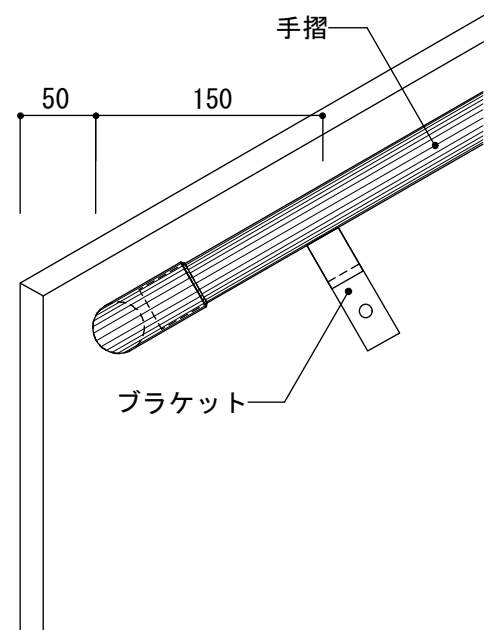
平面図(1階) 1:5



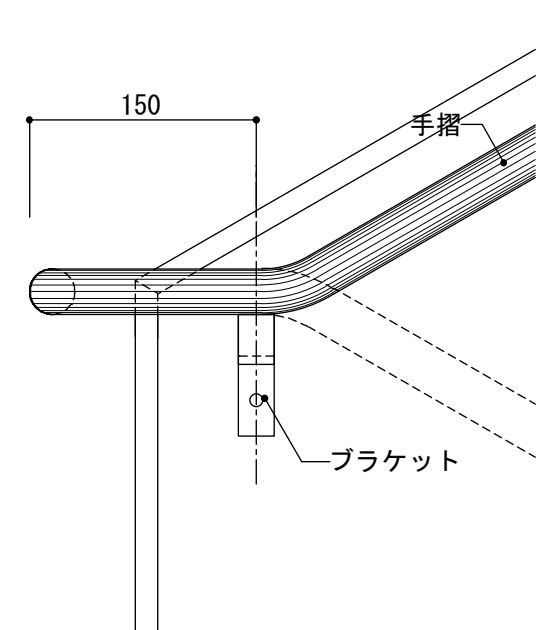
平面図(一般階) 1:5



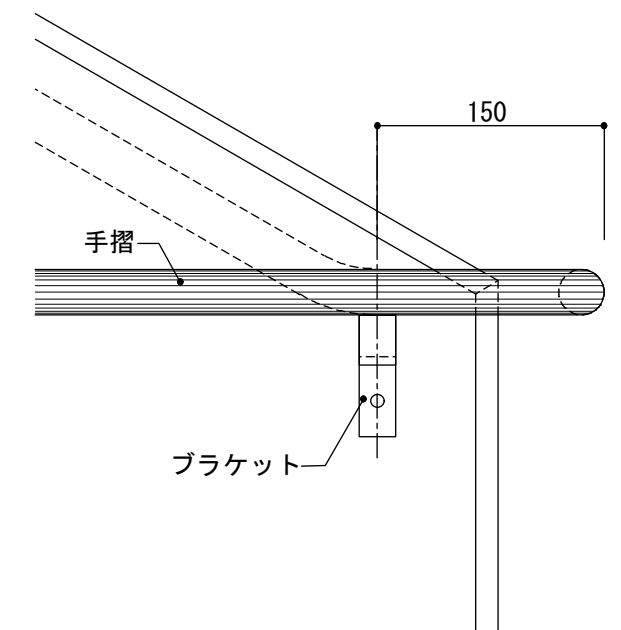
立面図(1階) 1:5



立面図(1階) 1:5



立面図(一般階) 1:5



【附記事項】

【仕様】

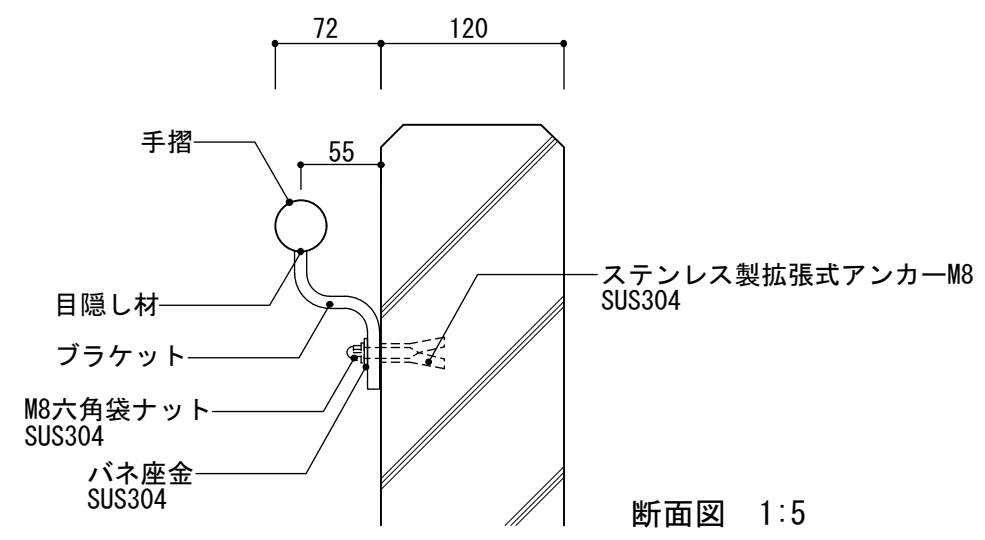
- ・手摺表面材:耐候性樹脂34φ
- ・芯材:アルミニウム合金押出型材
- ・ブラケット:アルミニウム合金押出型材  
仕上:アルマイト処理、アクリルクリア仕上
- ・ブラケットの形状についてはメーカー仕様による。
- ・アールエンド/フラットエンド:ASA樹脂
- ・手摺下部の溝幅が5mmを超えるものについては、目隠し材を設ける。
- ・手摺の仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

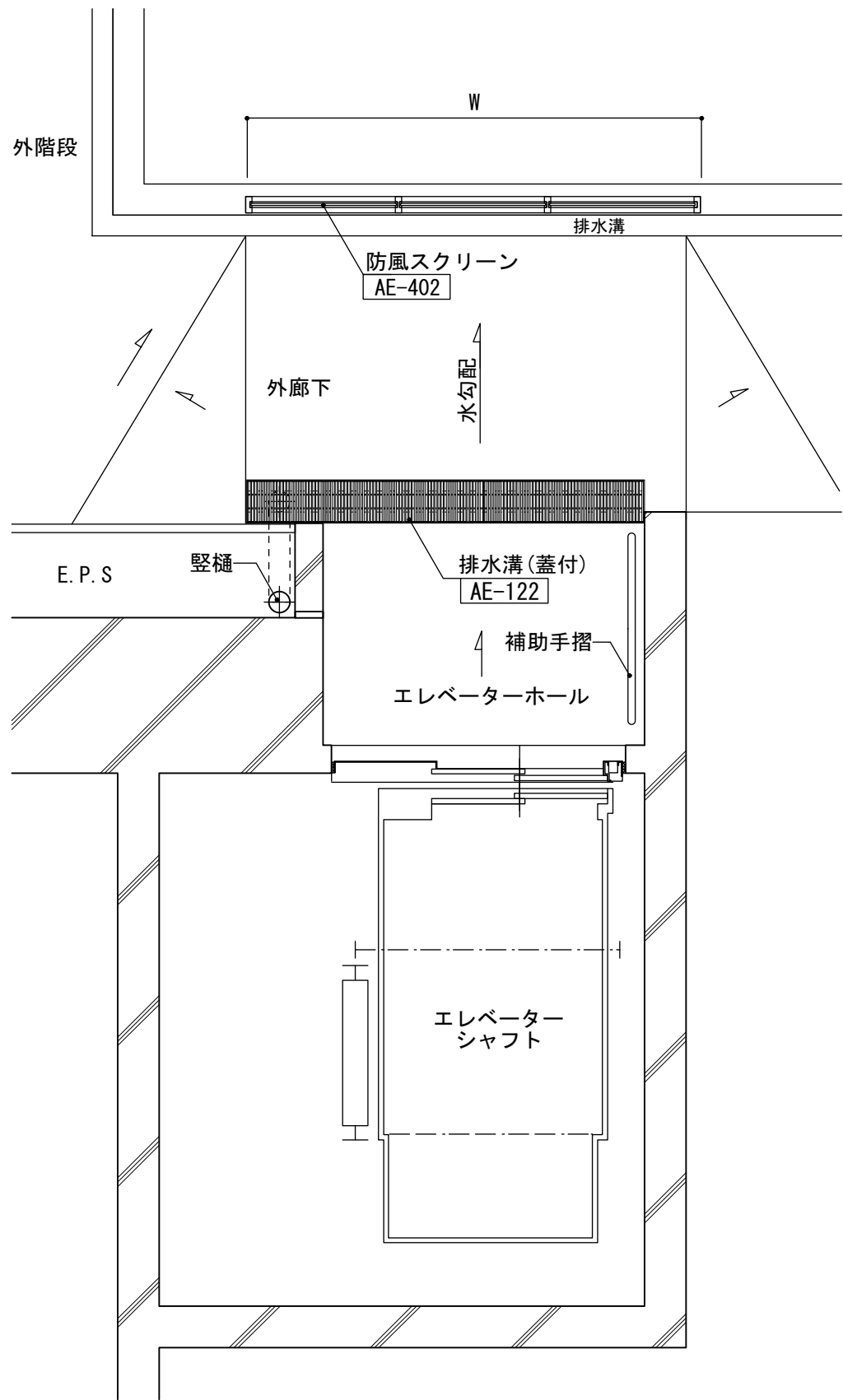
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

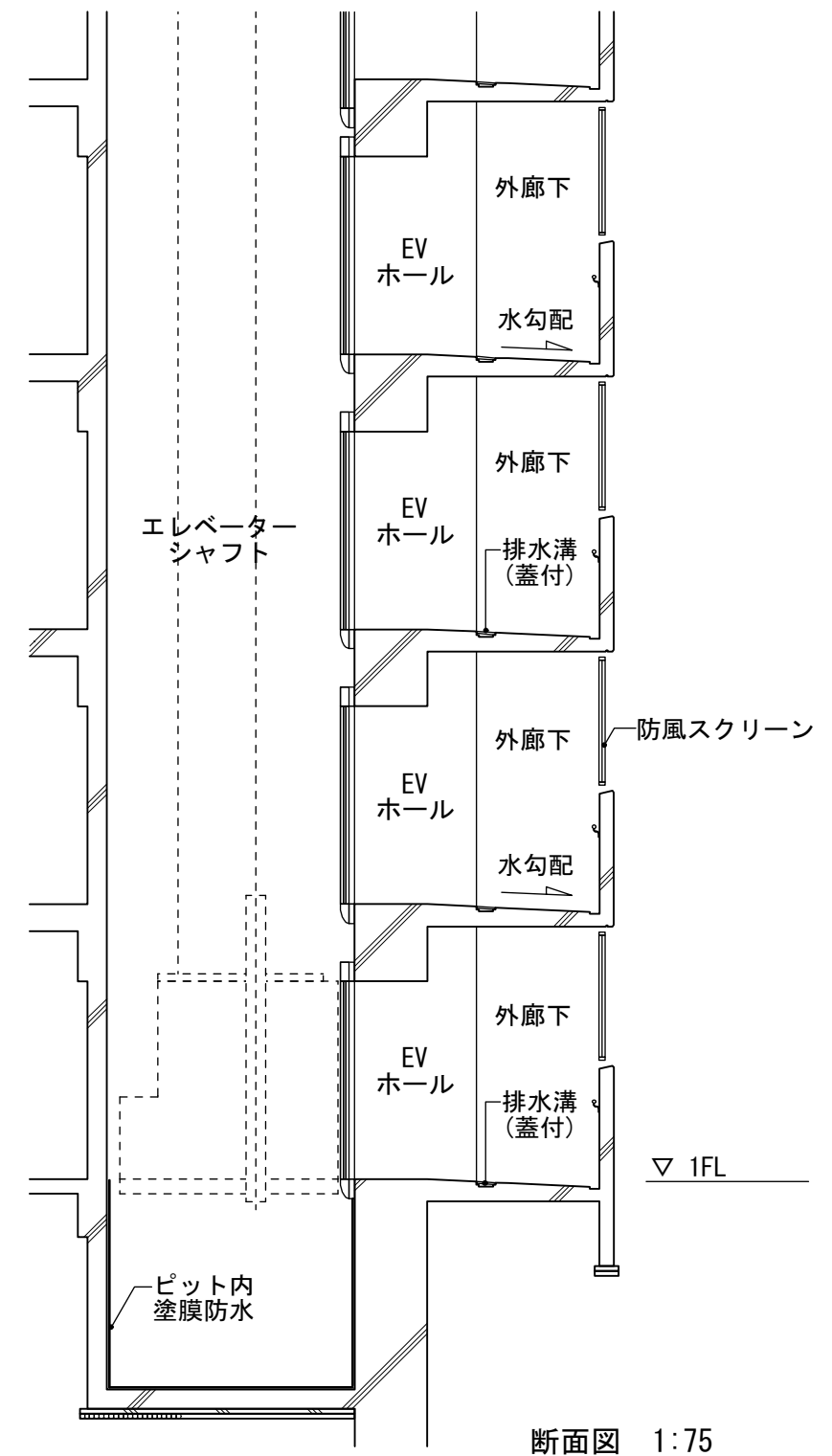


断面図 1:5

名称	共用階段手摺 〔型式図〕		
縮尺	1:5	AE - 112	頁 E-7



平面図 1:30



断面図 1:75

【仕様】

・補助手摺は AE-112 による。

【附記事項】

- ・防風スクリーンのWは建物設計図による。
- ・エレベーターホールに雨水等が侵入する恐れのある場合は、エレベーターホール前に排水溝を、外廊下には縦樋及び防風スクリーンを設ける。

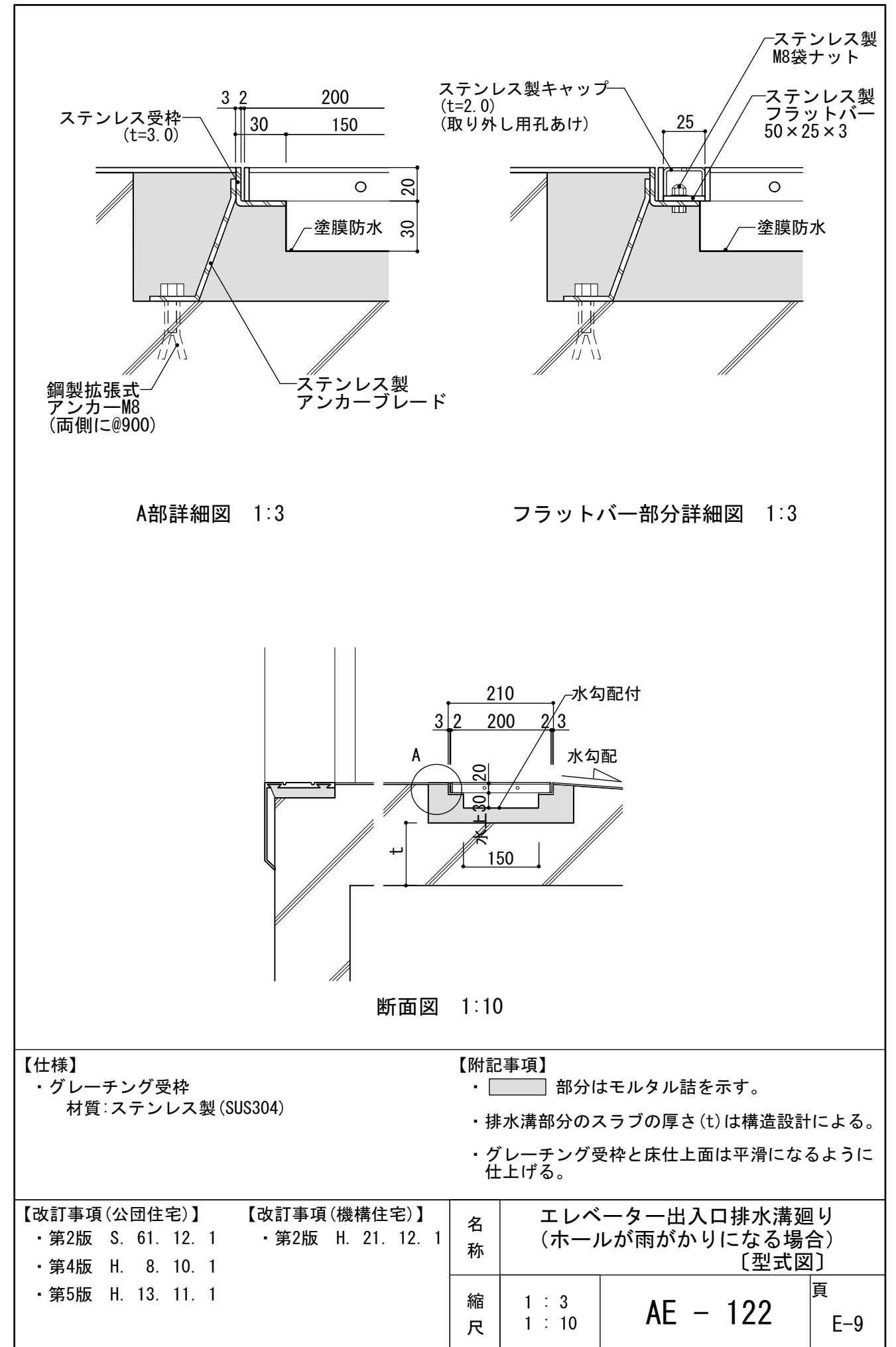
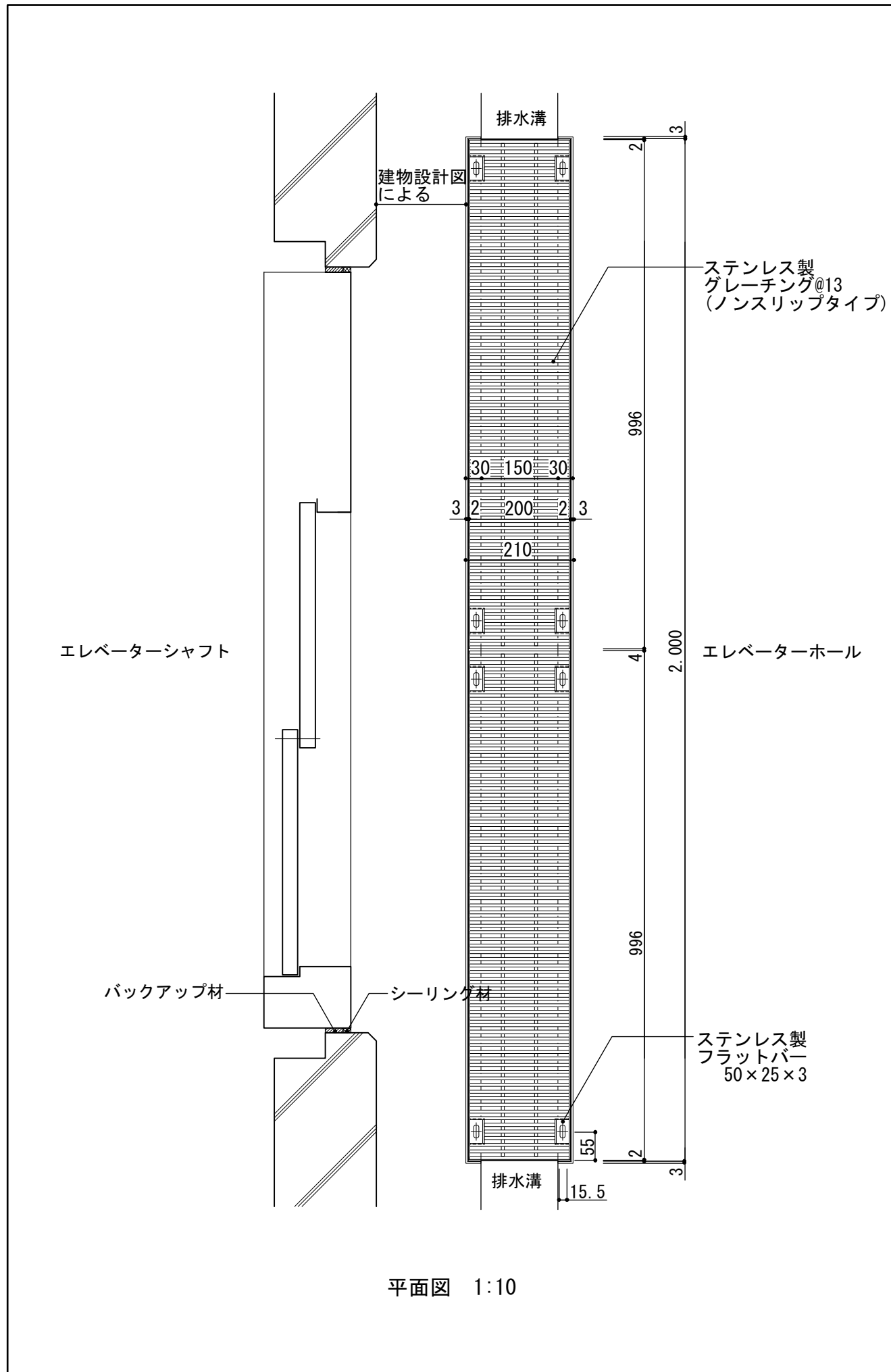
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	エレベーターホール廻り 〔型式図〕		
縮尺	1 : 30 1 : 75	AE - 121	頁 E-8



【仕様】

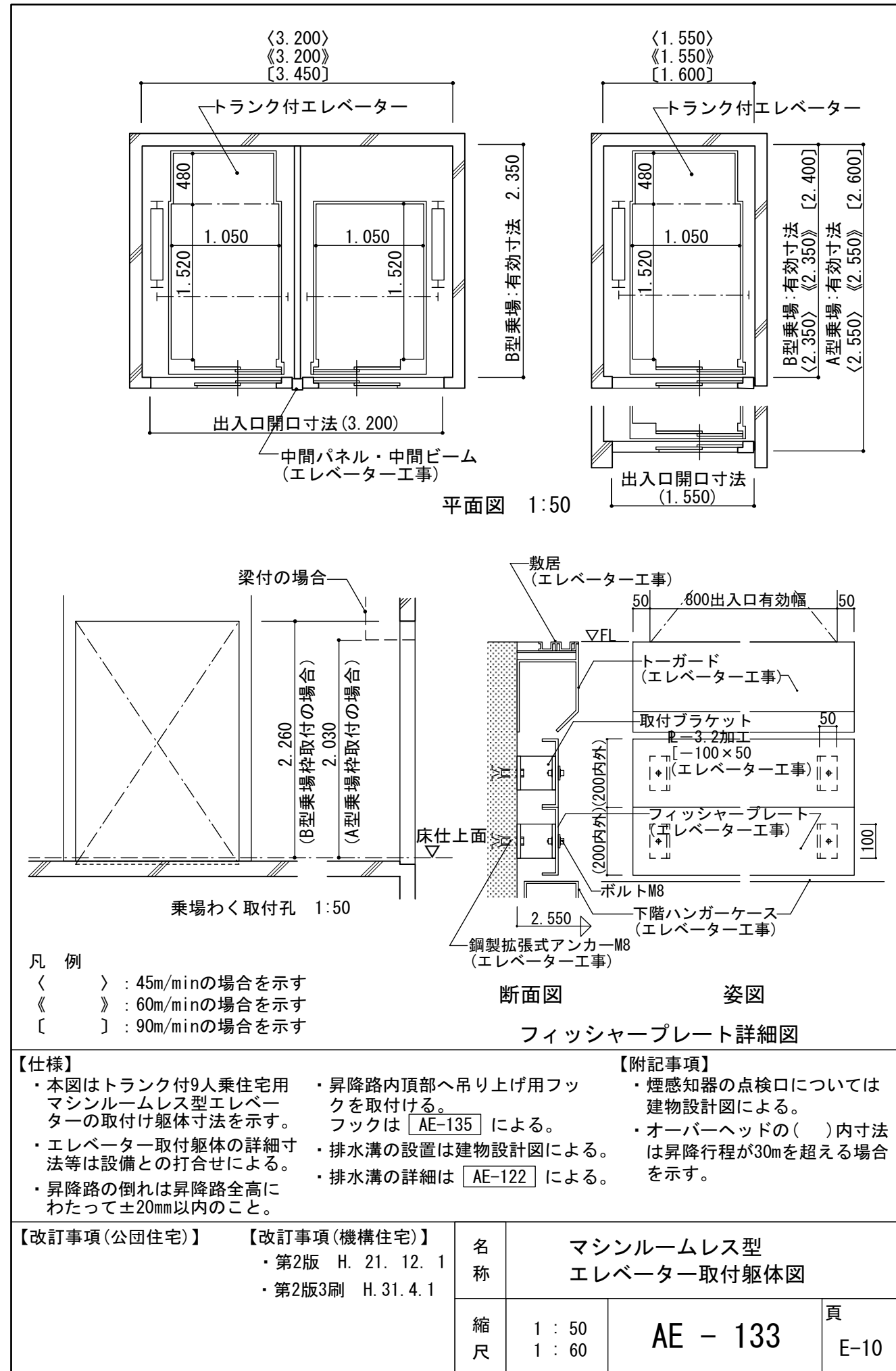
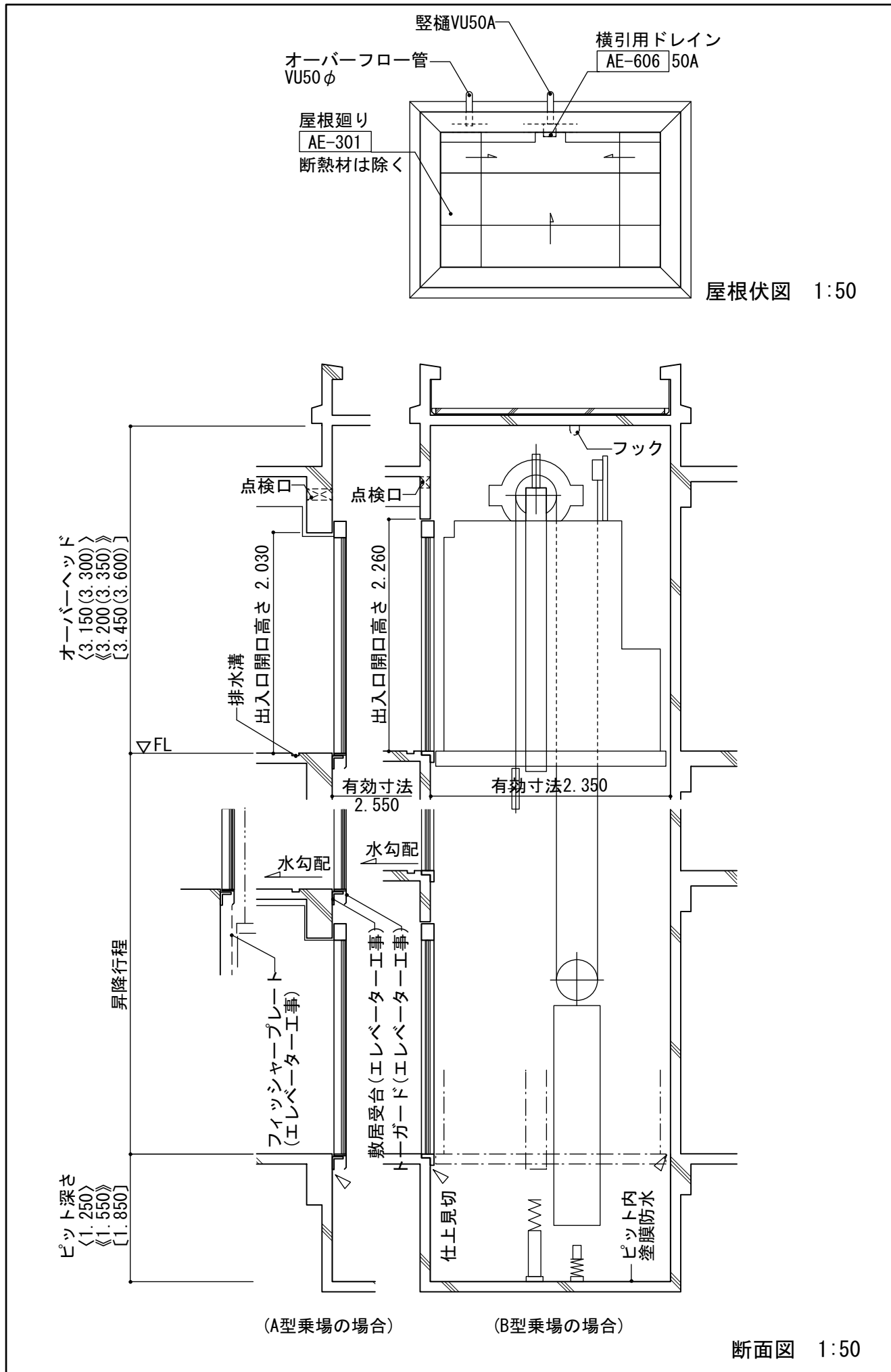
- ・グレーチング受枠
- 材質:ステンレス製 (SUS304)

【附記事項】

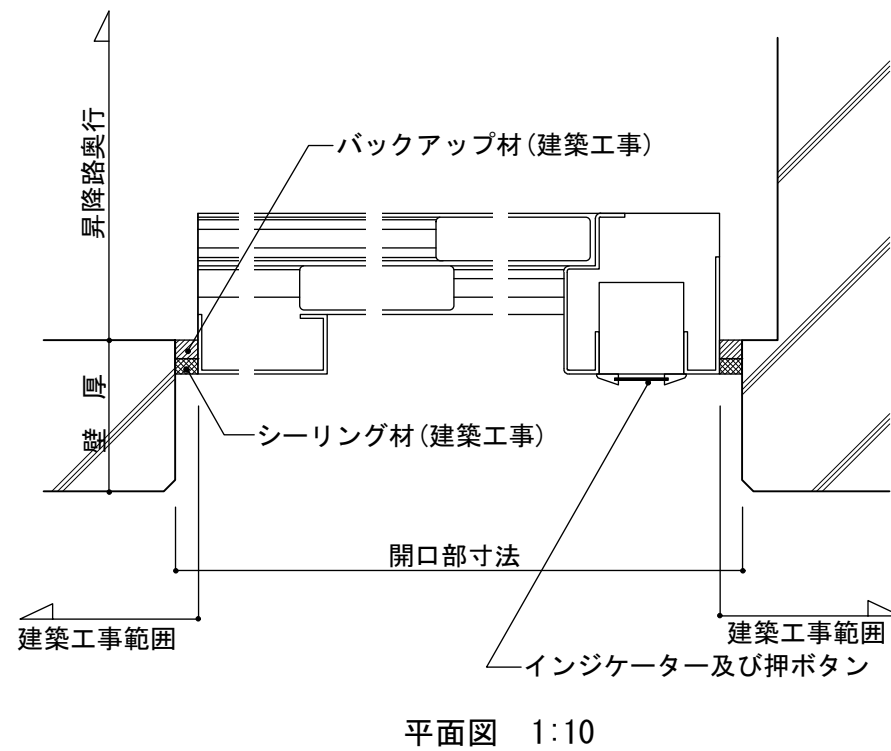
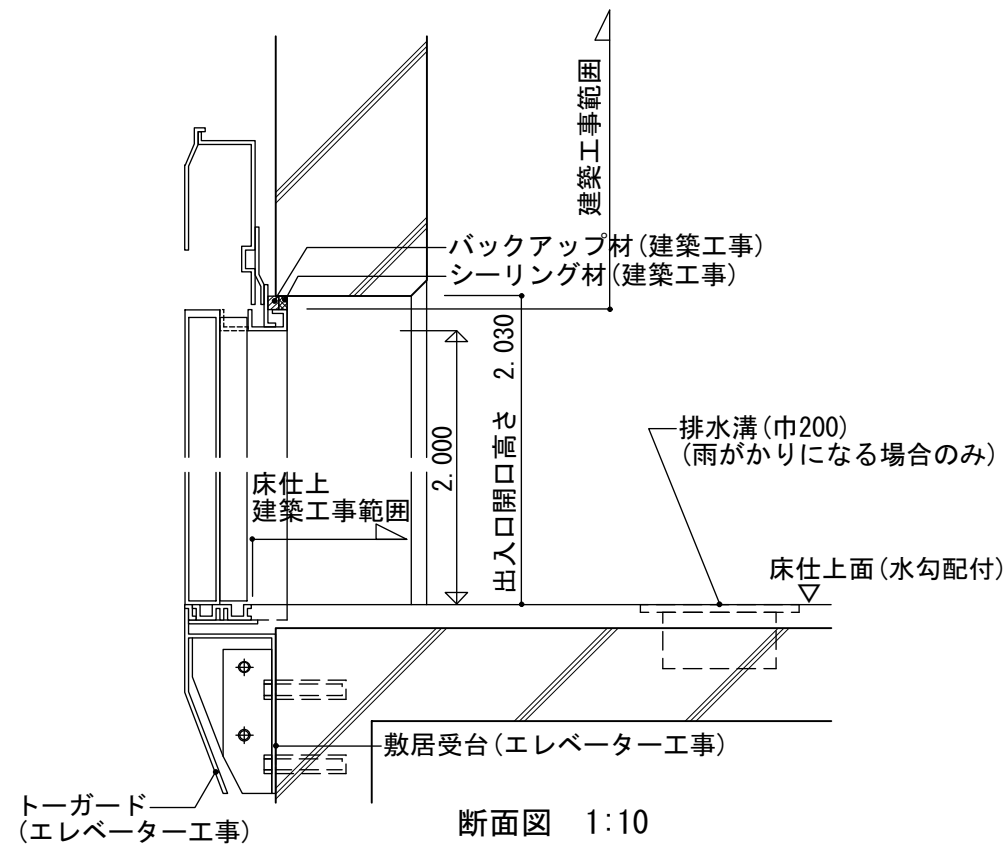
- ・ 部分はモルタル詰を示す。
- ・排水溝部分のスラブの厚さ(t)は構造設計による。
- ・グレーチング受枠と床仕上面は平滑になるように仕上げる。

【改訂事項 (公団住宅)】	【改訂事項 (機構住宅)】	名称	エレベーター出入口排水溝廻り (ホールが雨がかりになる場合) [型式図]	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1		縮尺	1:3 1:10
・第4版 H. 8. 10. 1			AE - 122	
・第5版 H. 13. 11. 1				





### A型乗場

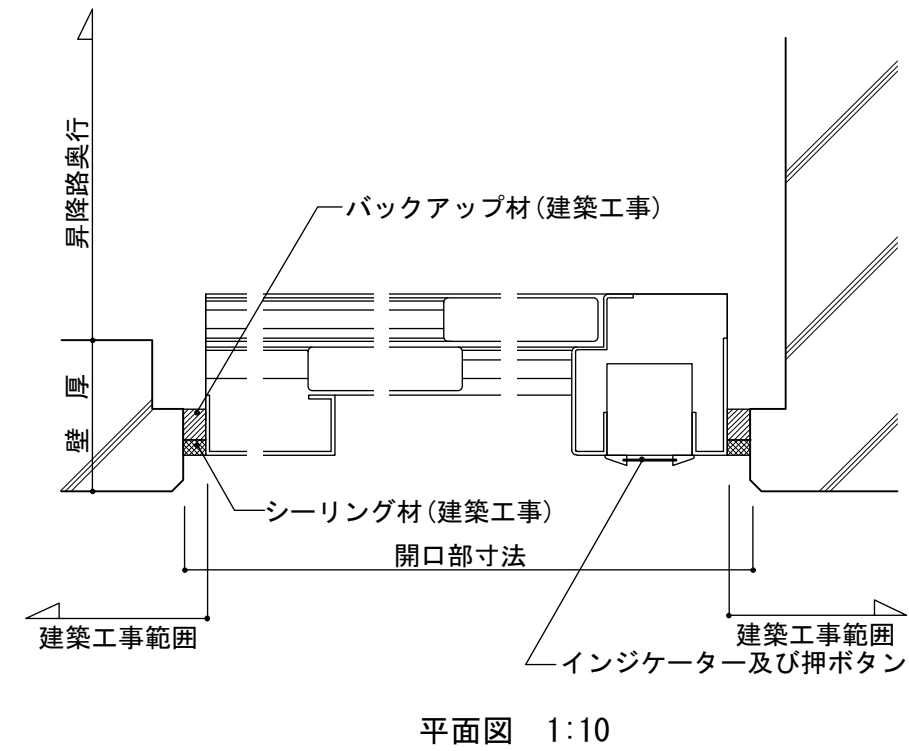
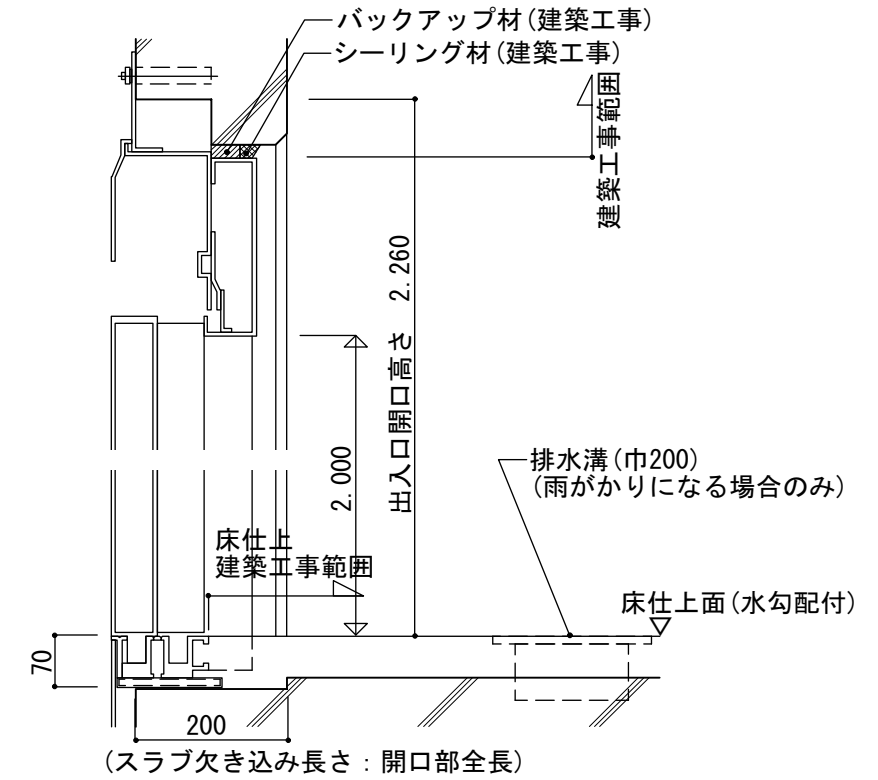


【仕様】

【附記事項】

・排水溝は建物設計図による。

### B型乗場

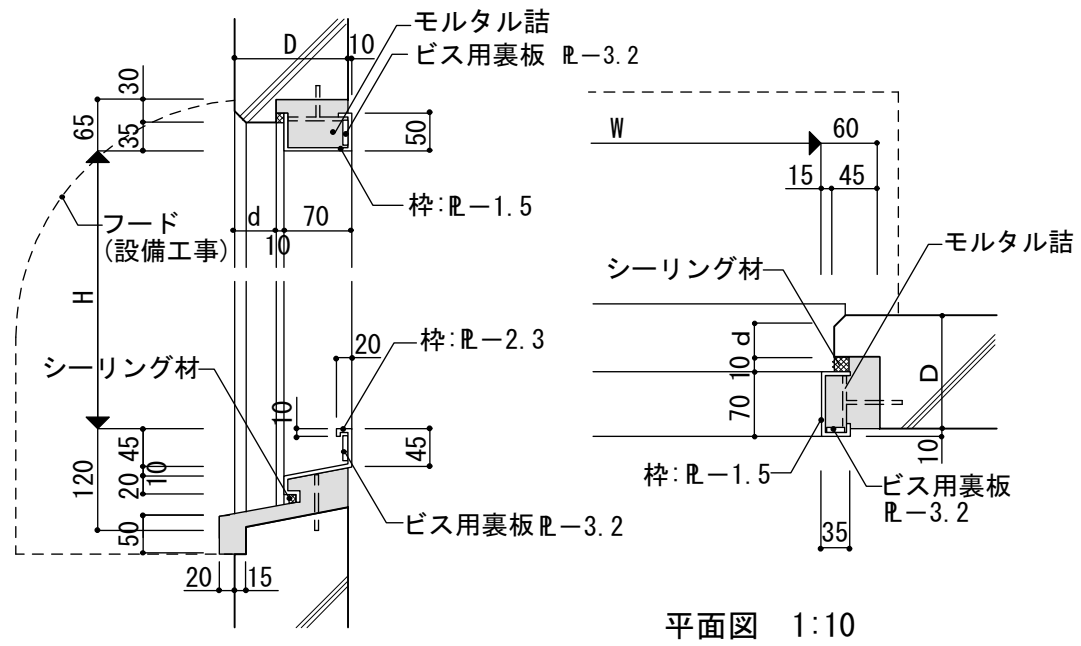


【改訂事項 (公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

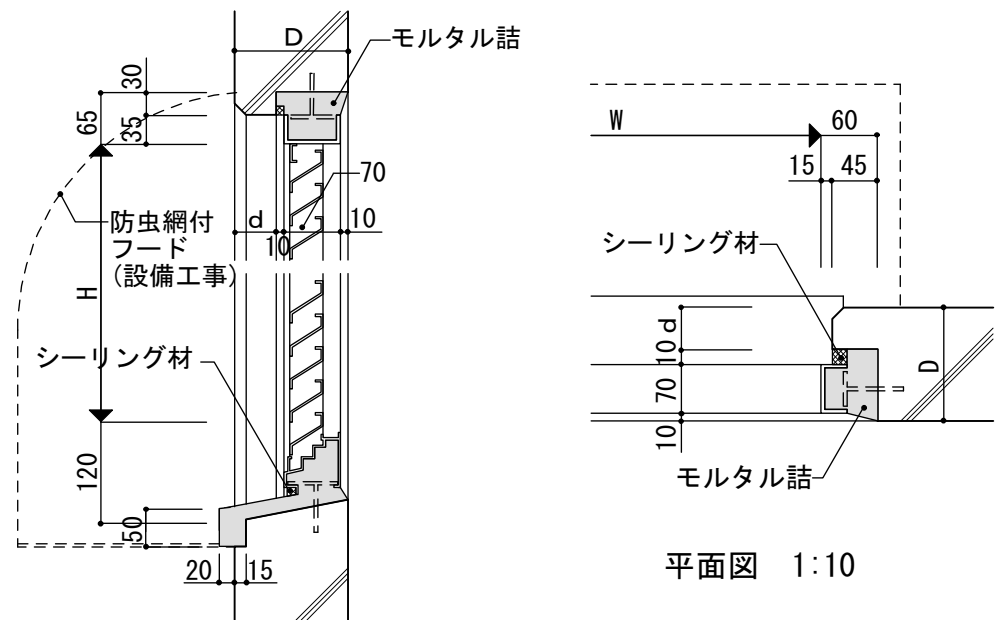
【改訂事項 (機構住宅)】

名称	エレベーター出入口わく廻り		
縮尺	1:10	AE - 134	頁 E-11



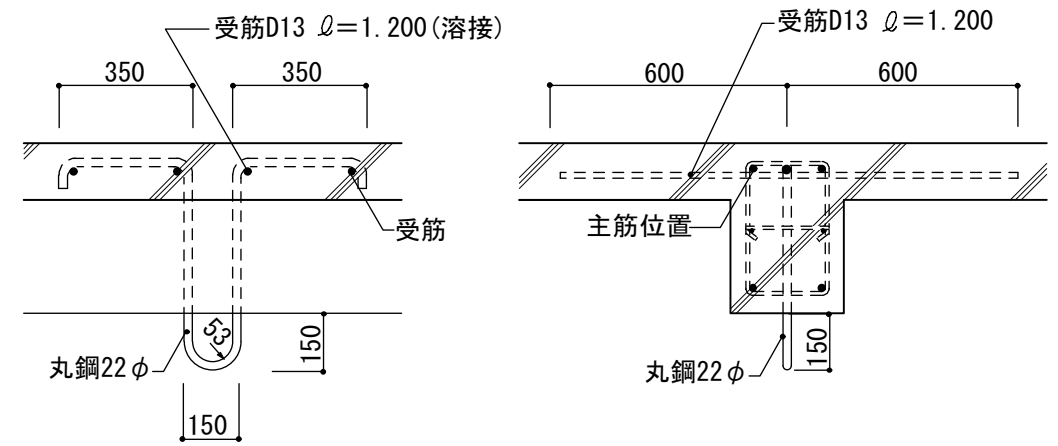
断面図 1:10

A:換気扇取付わく廻り(ステンレス製)

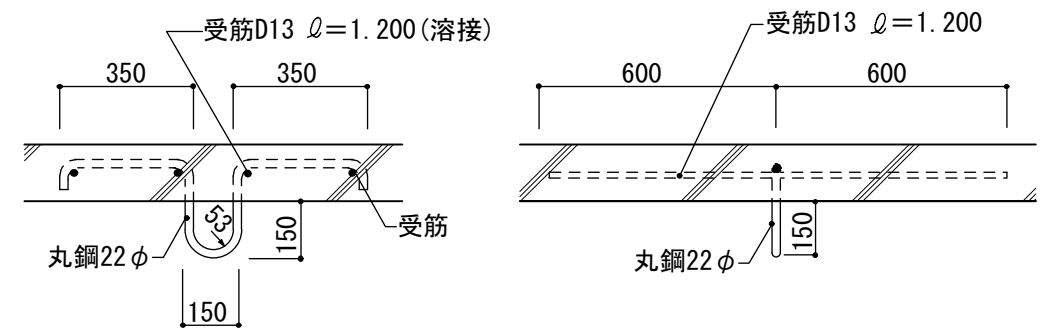


断面図 1:10

B:固定ガラリわく廻り(アルミ製)



A型(梁付け) 1:20



B型(スラブ付け) 1:20

C:吊フック(3t/ヶ所)

【仕様】

- ・換気扇取付わく  
材質：ステンレス製(SUS304)
- ・小梁配筋は建物設計図(構造図)による。

【附記事項】

- ・W, H, D, dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )
- ・わく廻りでアルミ製水切を使用する場合は AE-734 による。

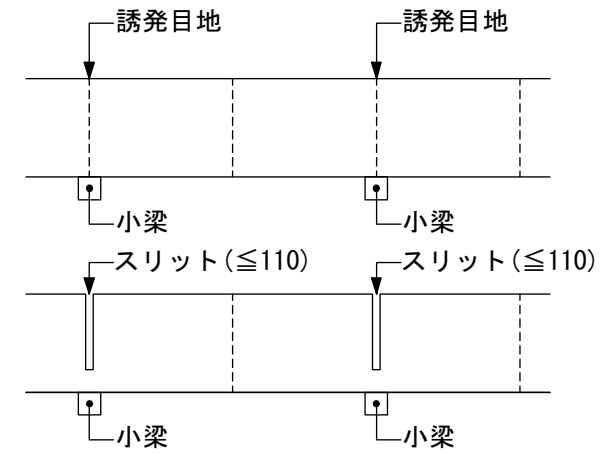
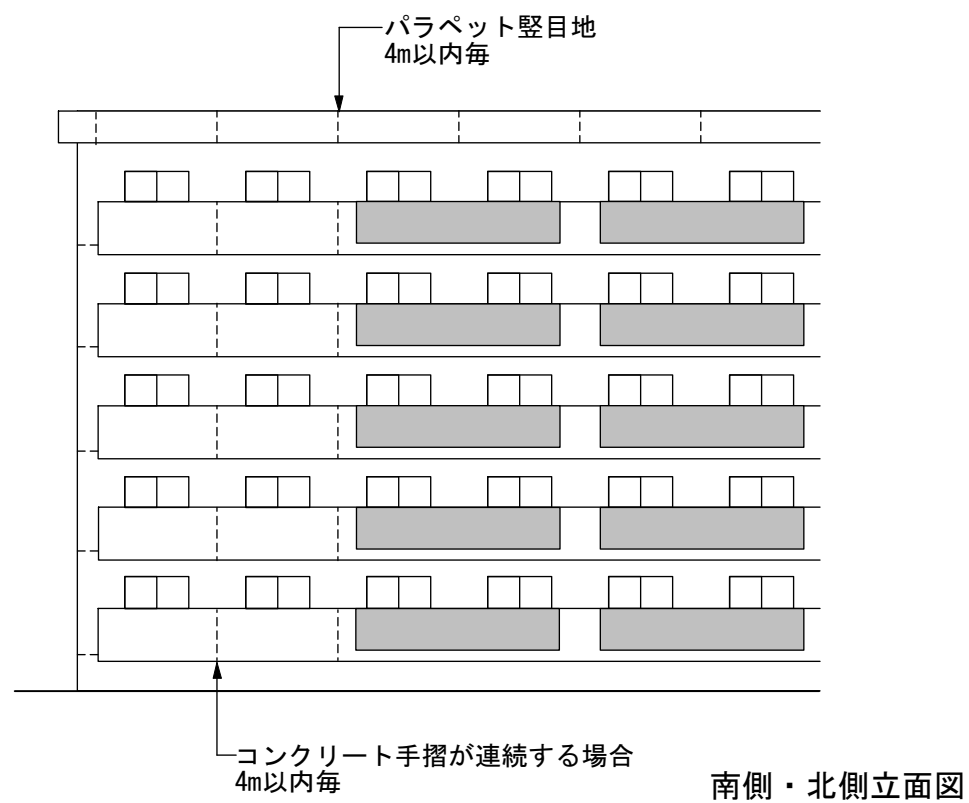
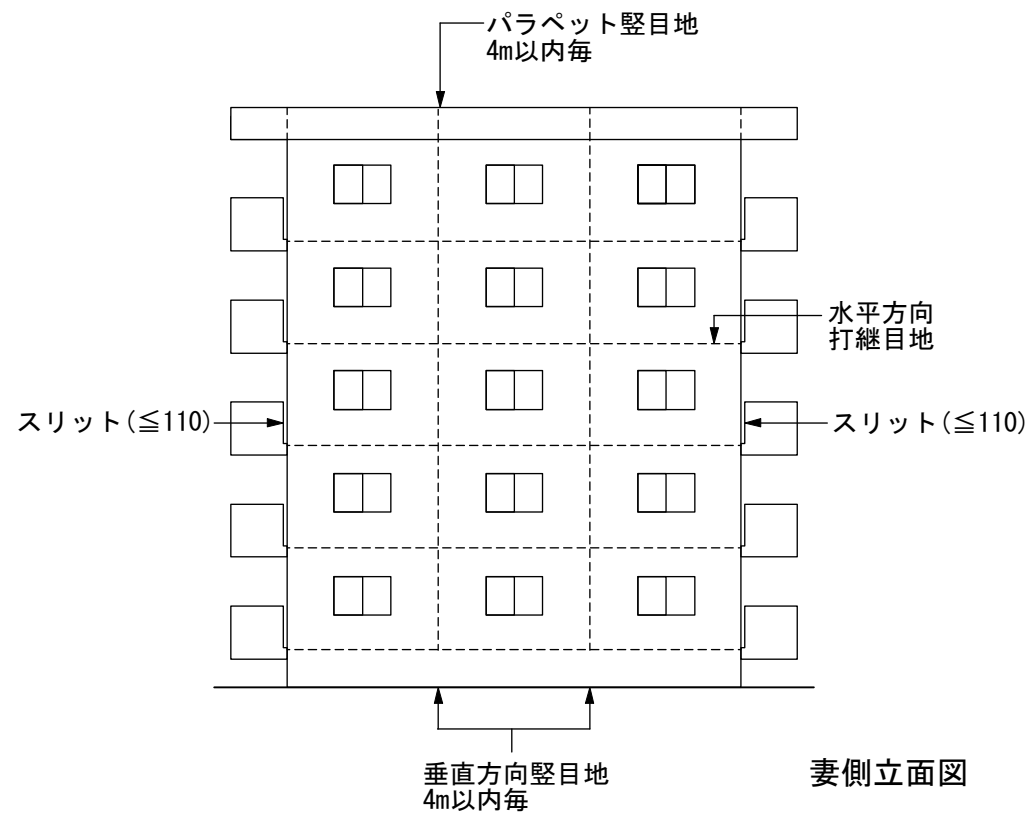
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

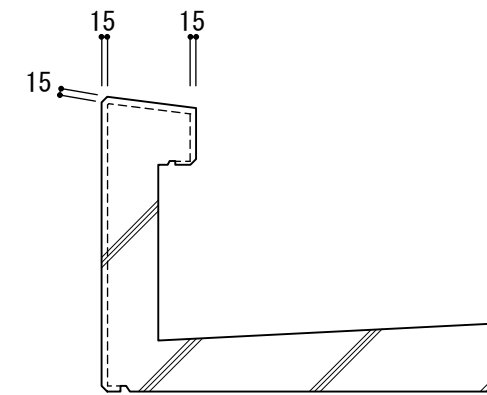
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

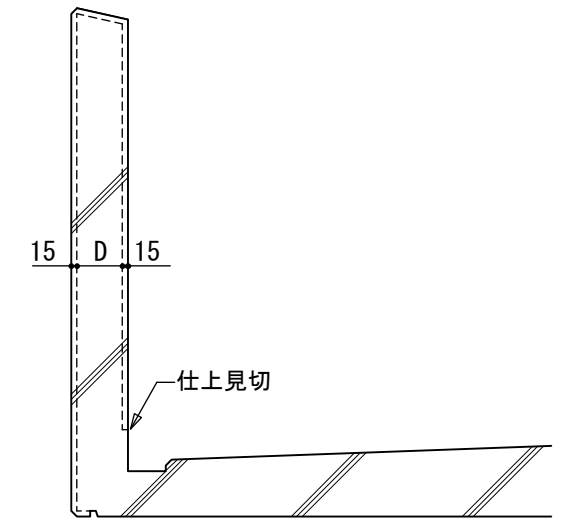
名称	機械室廻り		
縮尺	1:10	AE - 135	頁 E-12
	1:20		



立面図(小梁が付く場合)



パラペット



バルコニー・外廊下手摺

【仕様】

- ・ 豎目地 AE-205 による。
- ・ 豎目地は曲面、パラペット、バルコニー、外廊下、外階段等、躯体挙動の大きい壁面の4m以内毎に設ける。

【附記事項】

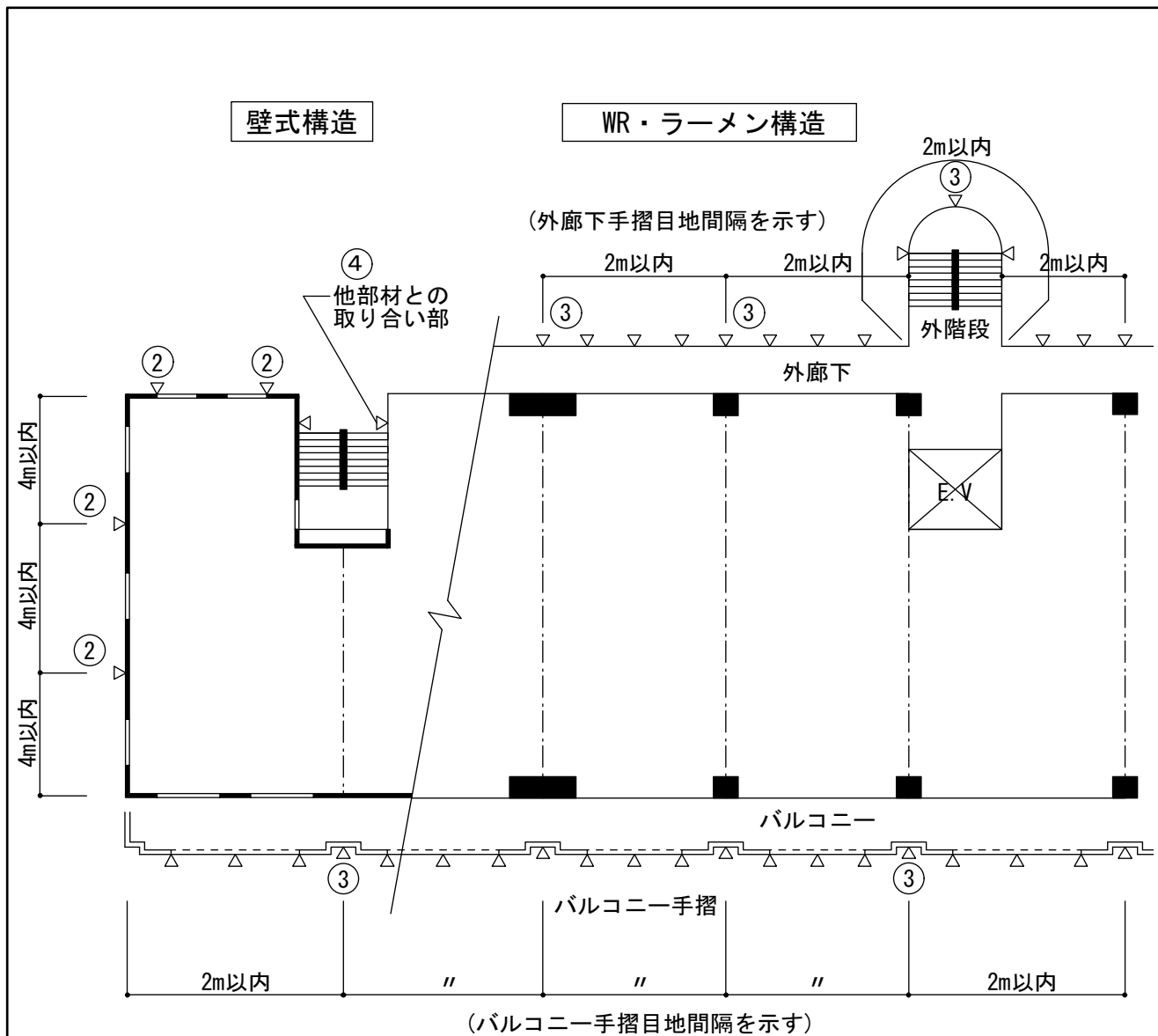
- ・ 目地位置は建物設計図による。
- ・ Dは建物設計図による。(但し、D≧120)

【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

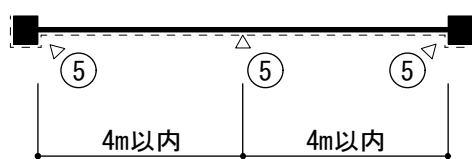
【改訂事項(機構住宅)】

名称	誘発目地	
縮尺	AE - 201	頁 E-13

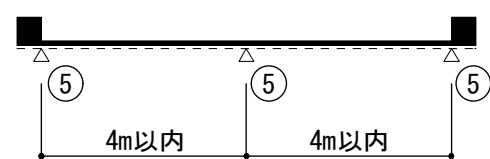


平面図 (凡例) ▽ 伸縮調整目地位置

柱型周囲

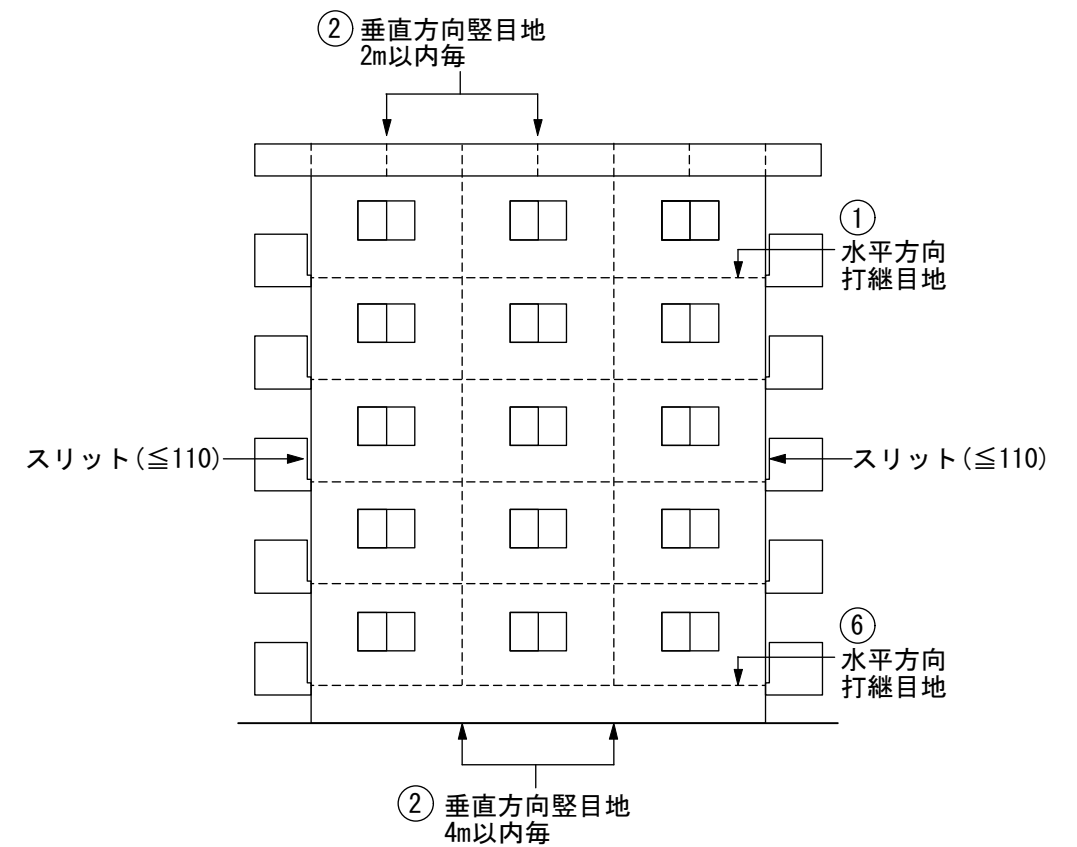
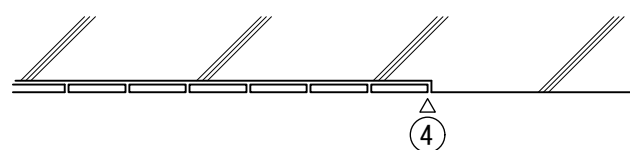


柱間



妻壁等でバルコニー、外廊下の無い場合

他部材との取り合い部



妻側立面図

【仕様】

- 伸縮調整目地の設置箇所は次を標準とする。
- ① コンクリート打継部(水平方向)
- ② 4m以内毎(垂直方向)
- ③ 曲面、パラペット、バルコニー、外廊下、外階段等、躯体挙動の大きい壁面の2m以内毎
- ④ 他部材との取り合い部
- ⑤ 柱型周囲、柱間
- ⑥ コンクリート打継部(水平方向)
- ①～⑥は AE-203 による。

【附記事項】

- 目地位置は建物設計図による。
- タイル伸縮目地は誘発目地と同位置に設ける。

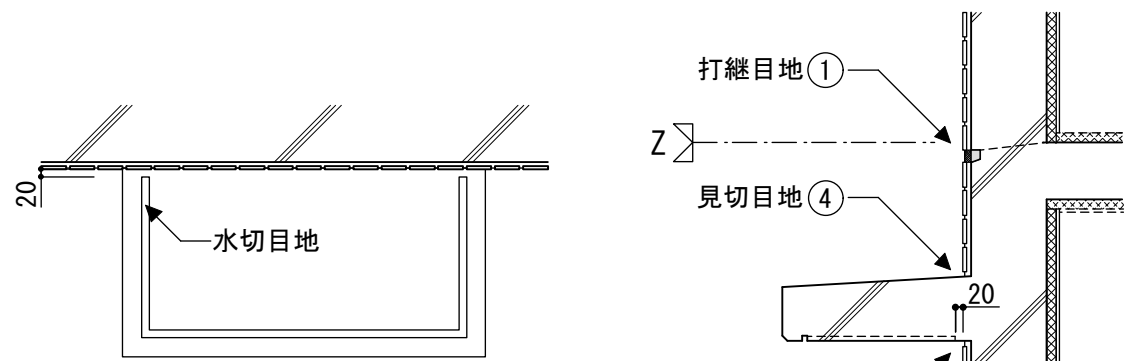
【改訂事項(公団住宅)】

- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第4版2刷 H. 10. 2. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

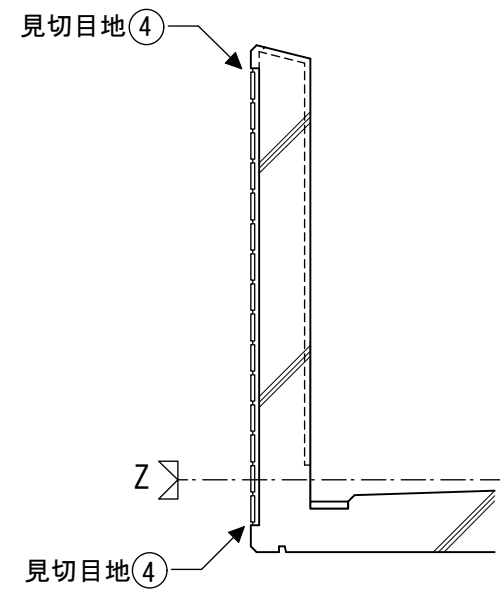
【改訂事項(機構住宅)】

- 第2版 H. 21. 12. 1

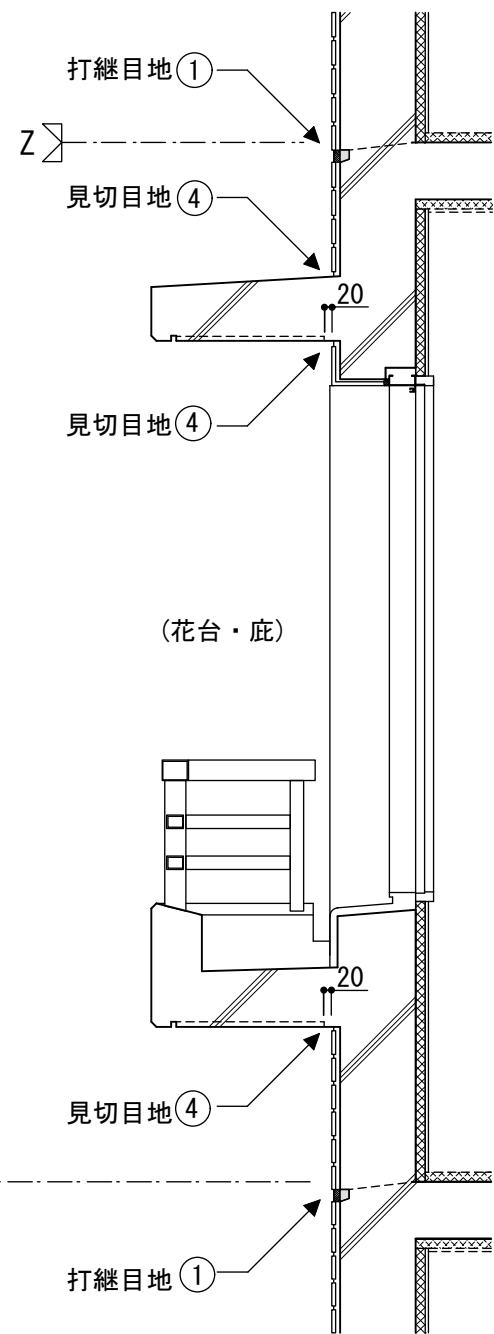
名称	外壁タイル張目地案内図	
縮尺	AE - 202	頁 E-14



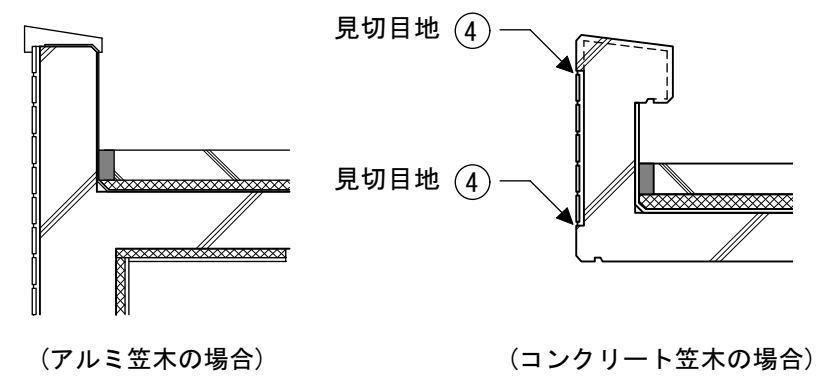
花台・庇見上げ図



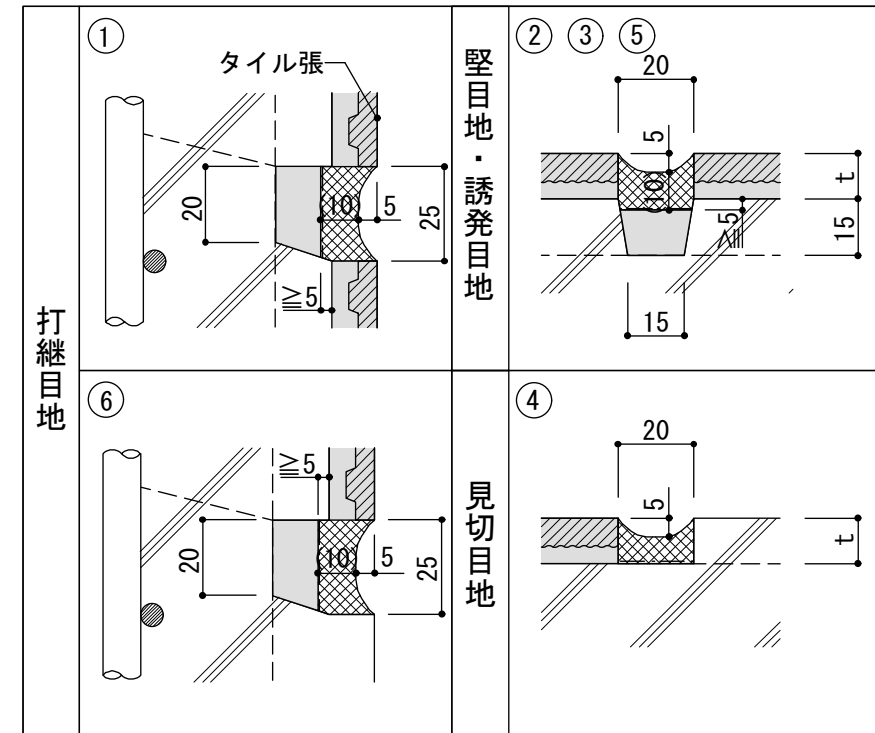
バルコニー・外廊下手摺



断面図



パラペット断面図



タイル目地詳細

【仕様】

- 伸縮調整目地の設置箇所は次を標準とする。
- ①コンクリート打継部(水平方向)
- ②4m以内毎(垂直方向)
- ③曲面、パラペット、バルコニー、外廊下、外階段等、躯体挙動の大きい壁面の2m以内毎
- ④他部材との取り合い部
- ⑤柱型周囲、柱間
- ⑥コンクリート打継部(水平方向)

【附記事項】

- 目地位置は建物設計図による。

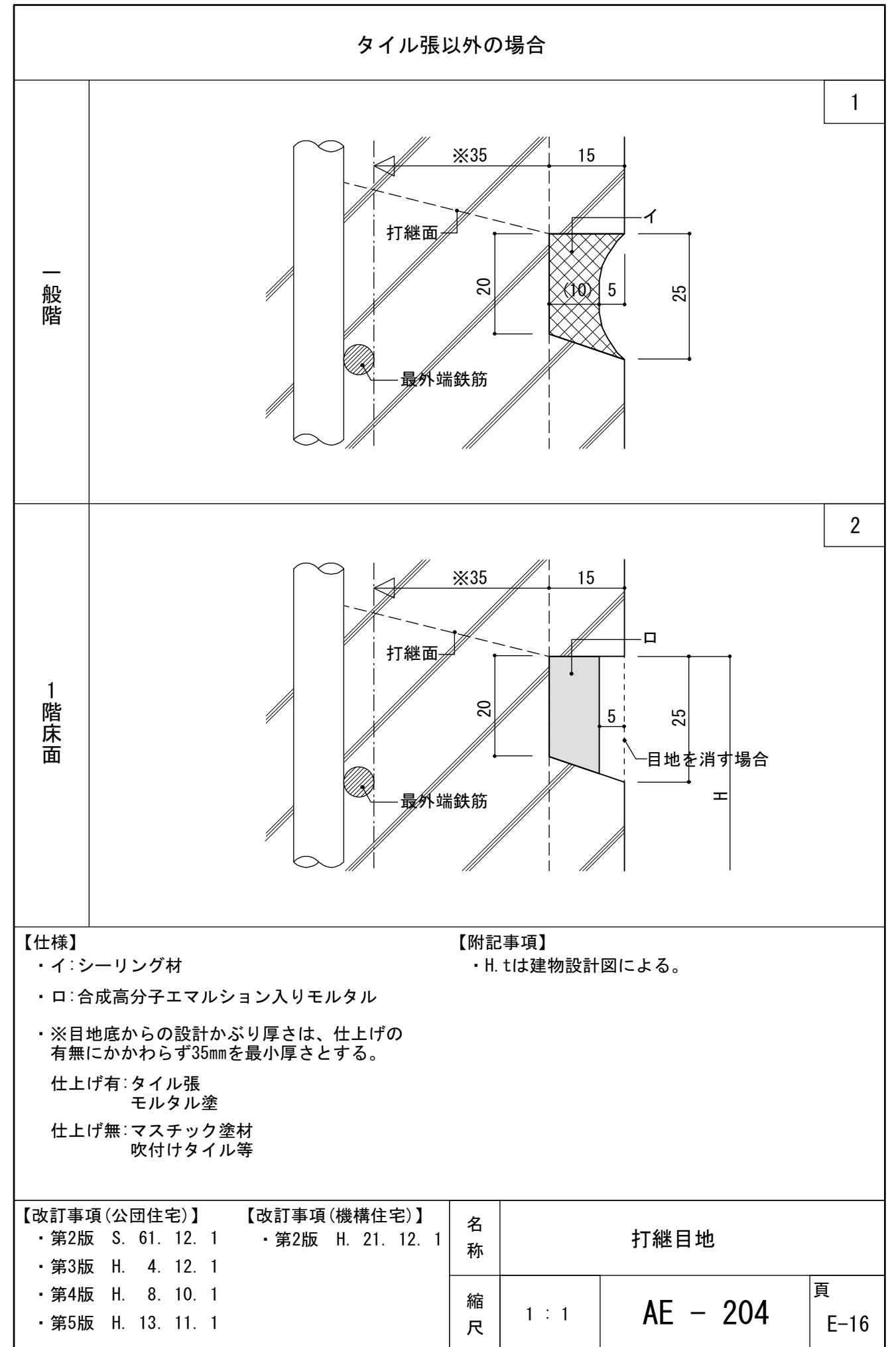
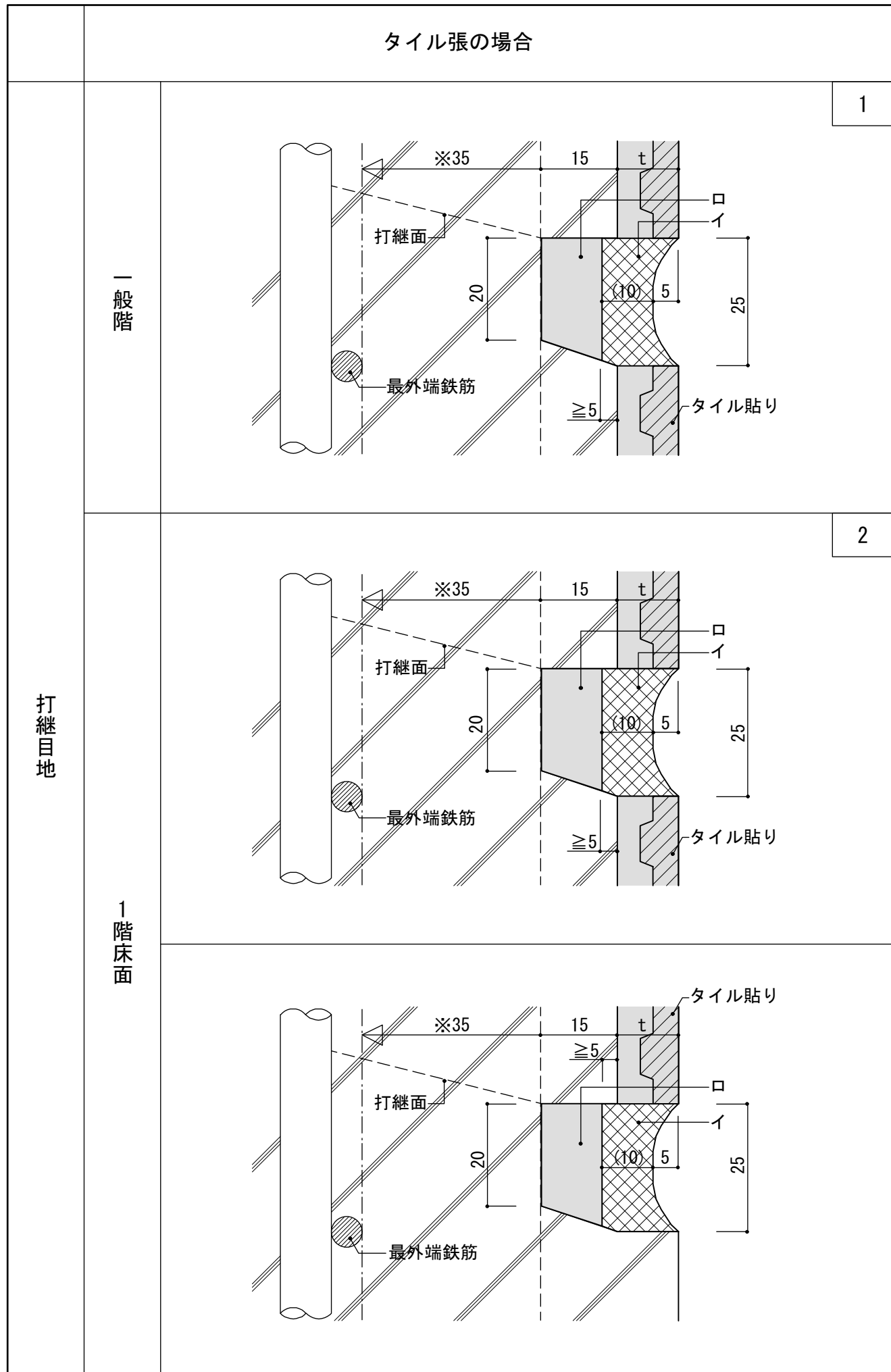
【改訂事項(公団住宅)】

- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第4版2刷 H. 10. 2. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

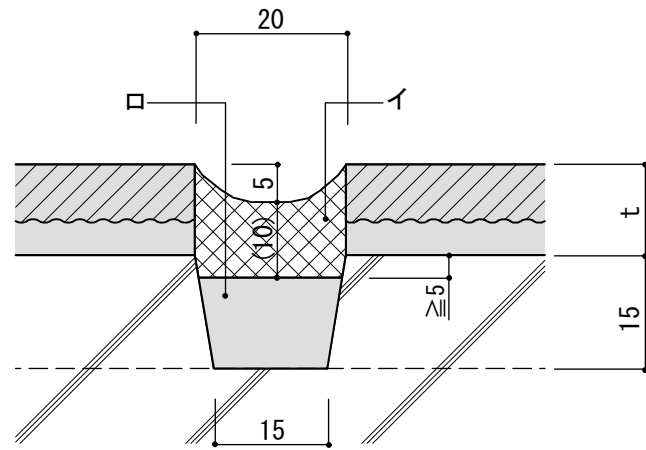
【改訂事項(機構住宅)】

- 第2版 H. 21. 12. 1
- 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	外壁タイル張詳細図		
縮尺	1 : 2 1 : 20	AE - 203	頁 E-15

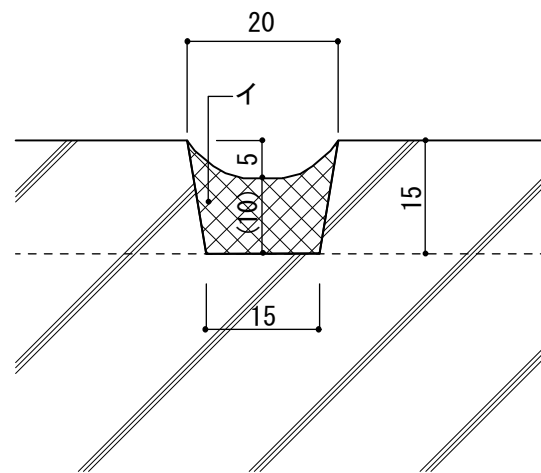


タイル張の場合



断面図 1:1

タイル張以外の場合



断面図 1:1

- 【仕様】
- ・イ：シーリング材
  - ・ロ：合成高分子エマルジョン入りモルタル

- 【附記事項】
- ・tは建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

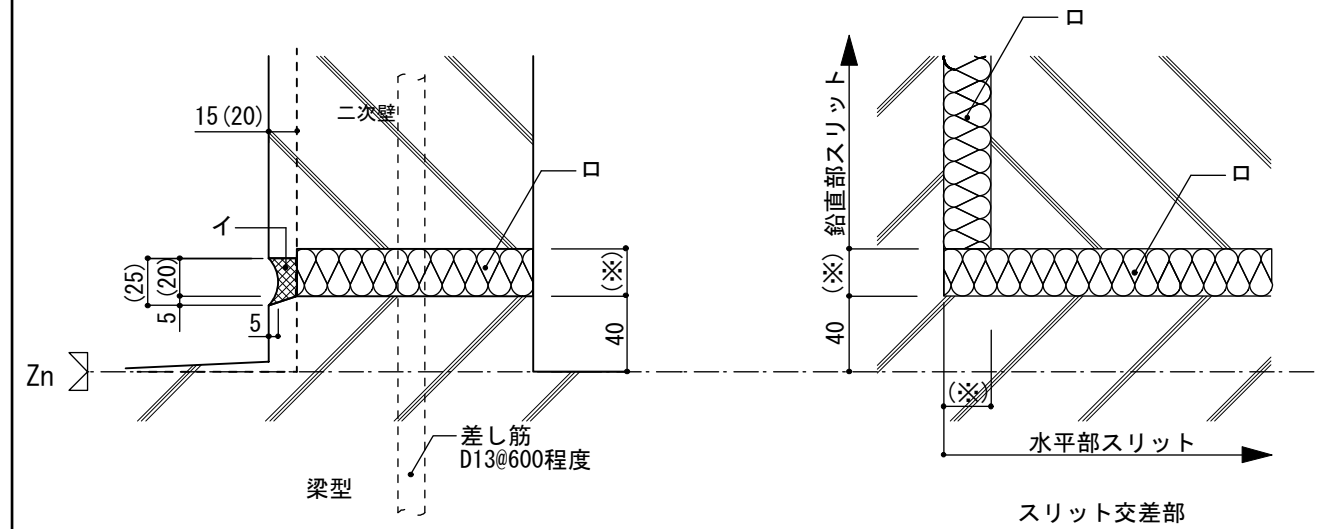
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	豎目地・誘発目地		
縮尺	1:1	AE - 205	頁 E-17

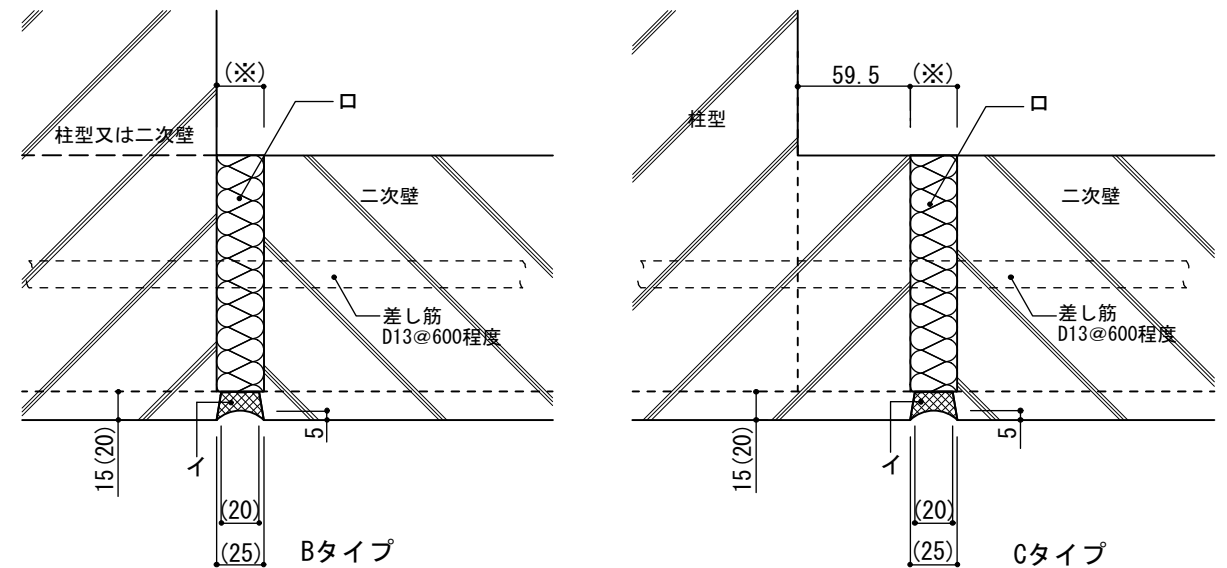
水平部スリット



Aタイプ：床フラットの場合の完全スリット  
(バルコニー・外廊下二次壁下部)

断面図 1:4

鉛直部スリット



平面図 1:4

- 【仕様】
- ・イ：シーリング材
  - ・ロ：スリット型材  
「機材の品質判定基準」による。
  - ・スリット貫通部の差し筋は防錆処理を行う。

- 【附記事項】
- ・(\*)については、構造性能上求める変形可能な幅を確保した数値とする。梁下寸法約2.1mの住宅においては $2.100 \times 1/100 = 21\text{mm}$ 以上必要であり、施工前のスリット材の製品の厚さは25~30mmを標準とする。上記以外については別途検討する必要がある。

【改訂事項(公団住宅)】

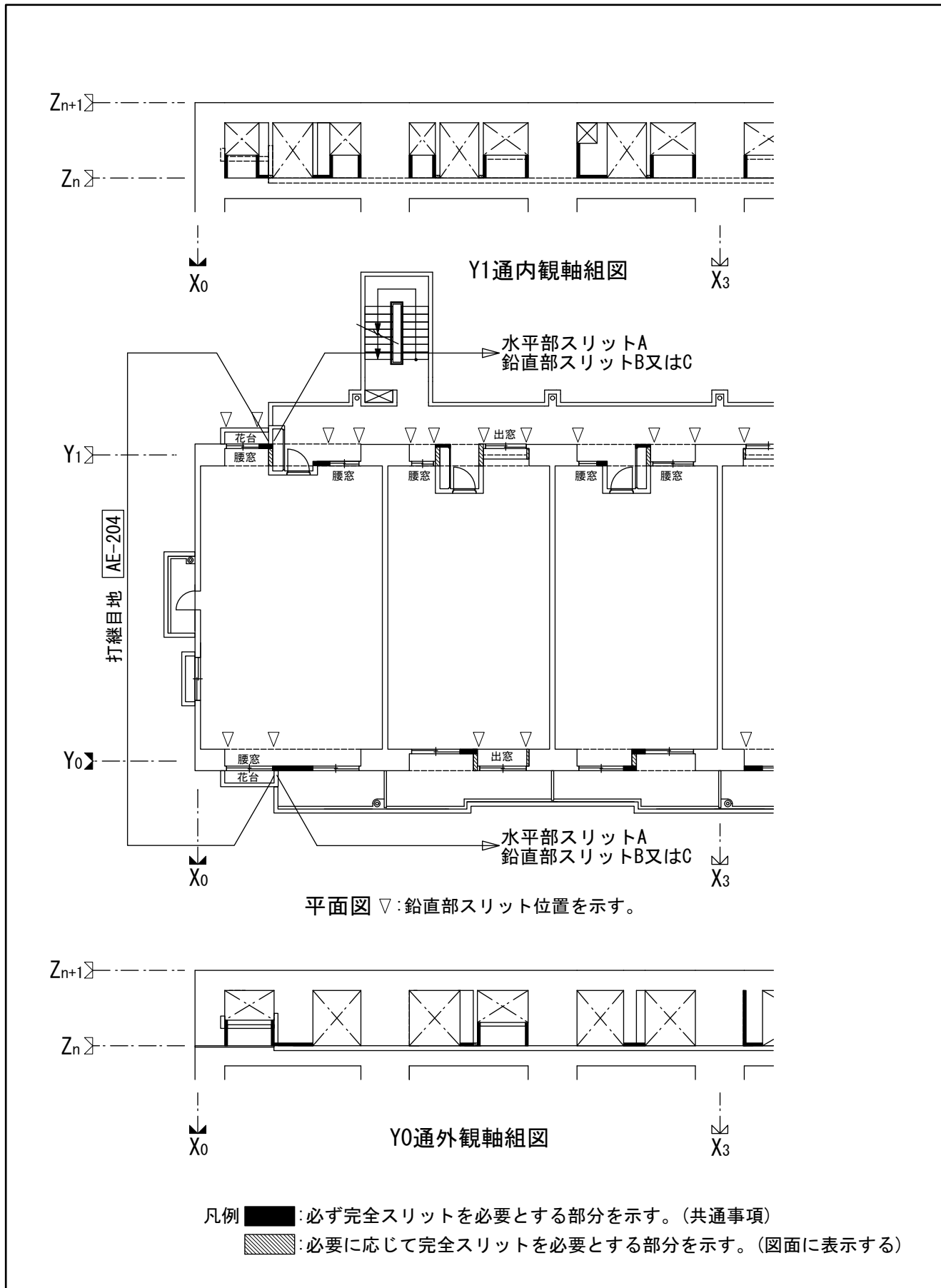
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

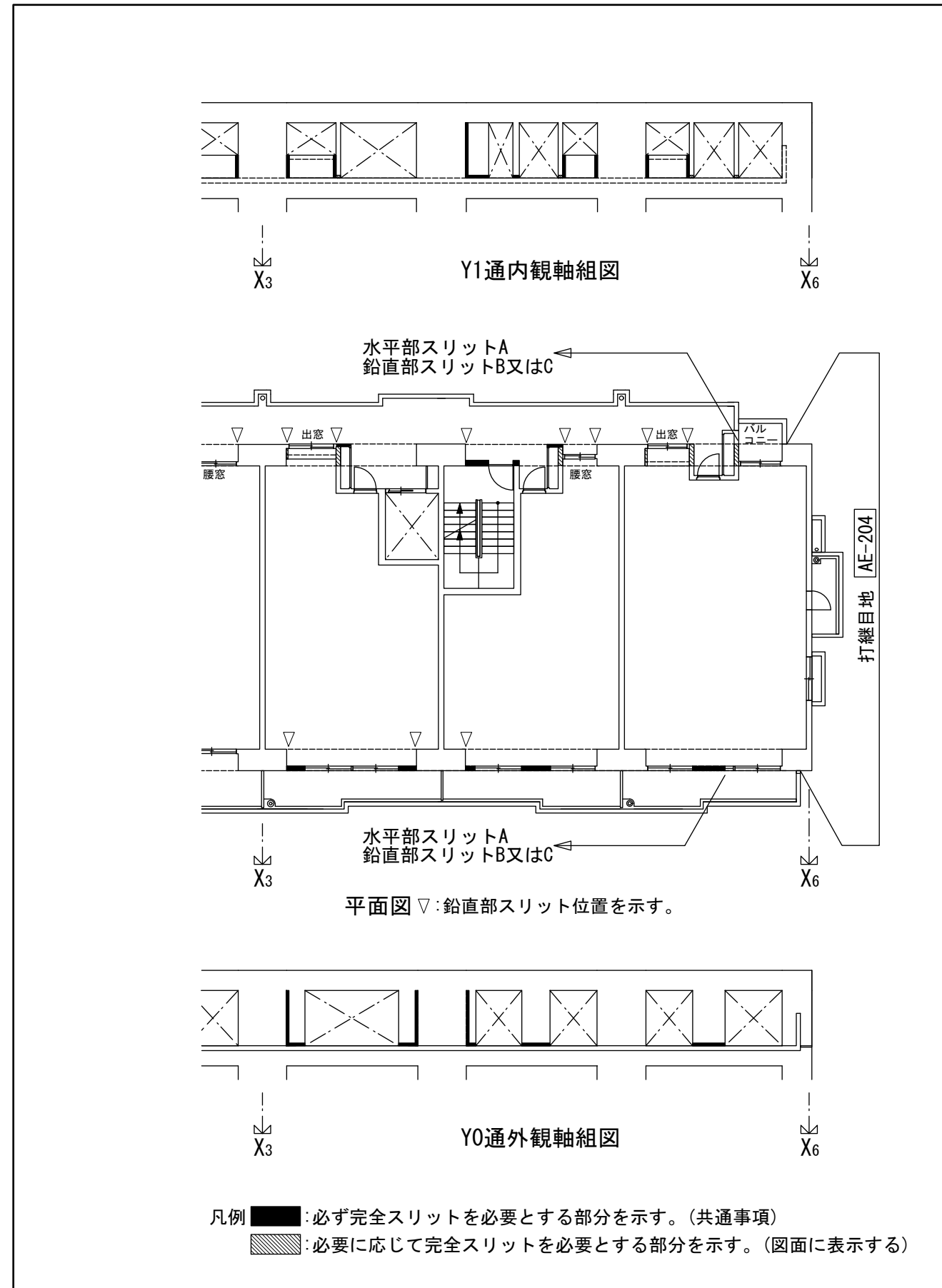
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	耐震スリット(完全スリット)		
縮尺	1:4	AE - 206	頁 E-18

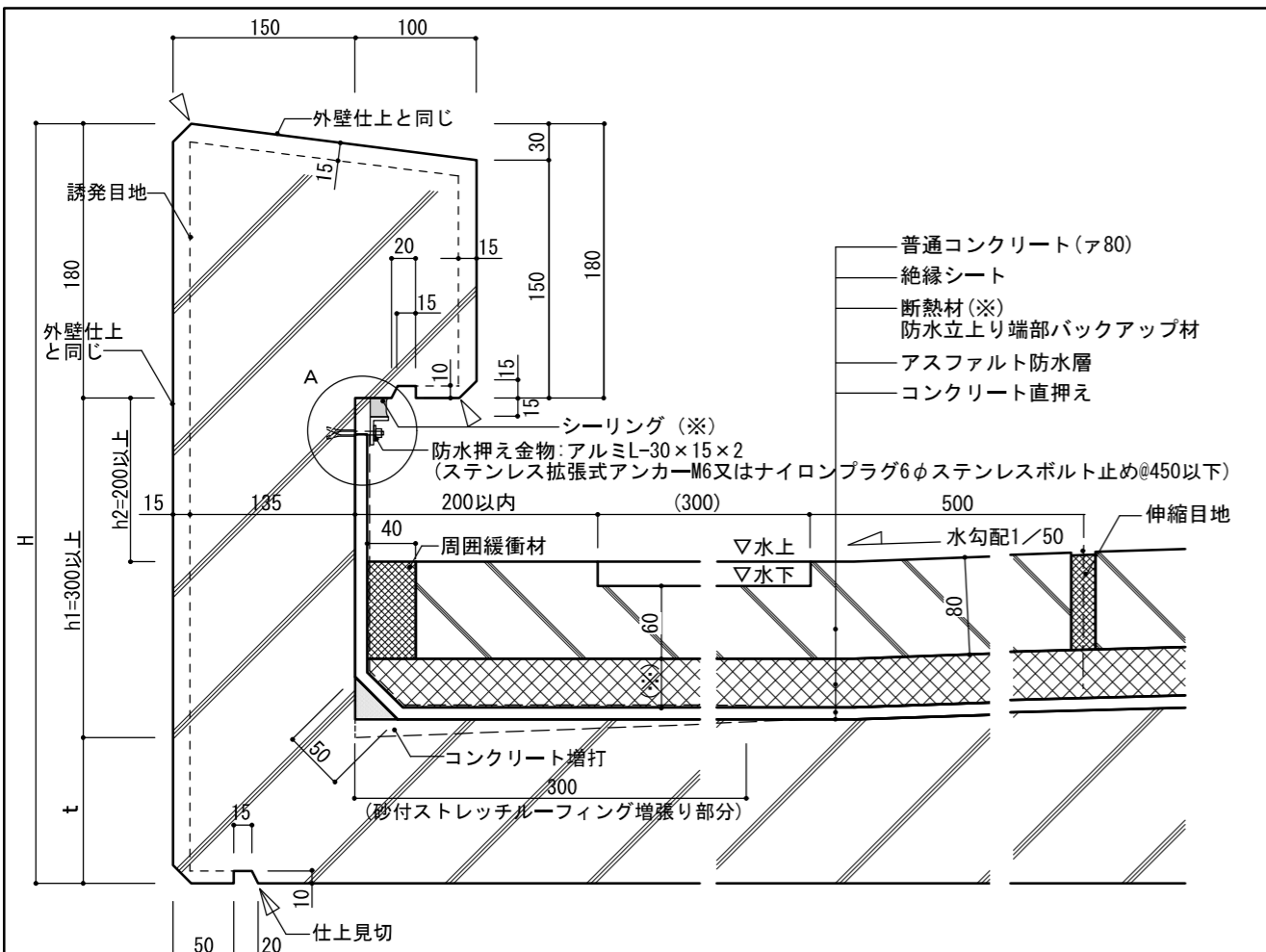




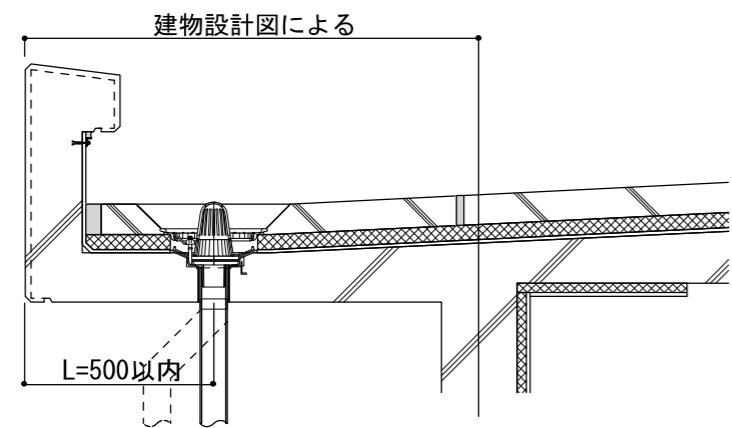
【仕様】	【附記事項】
------	--------



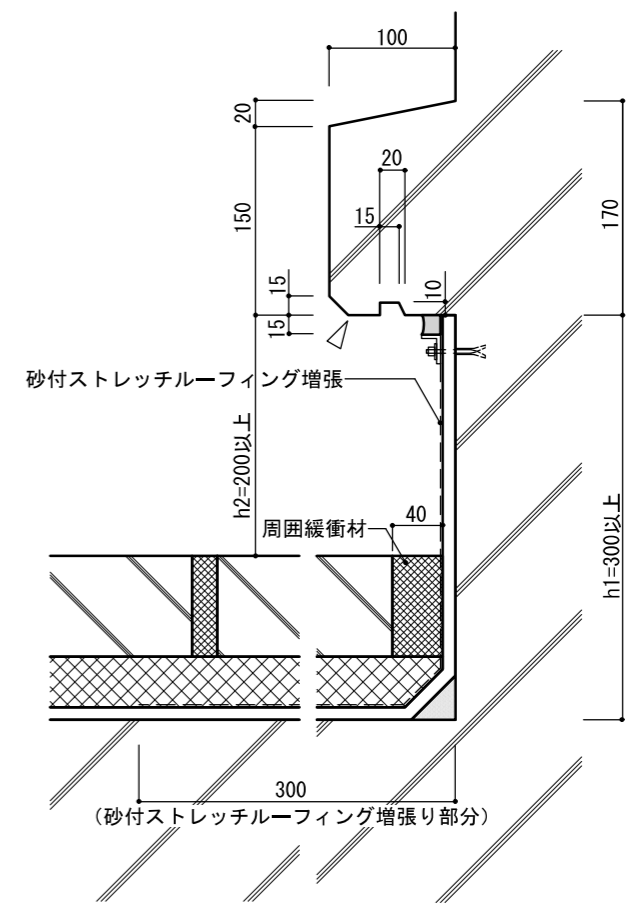
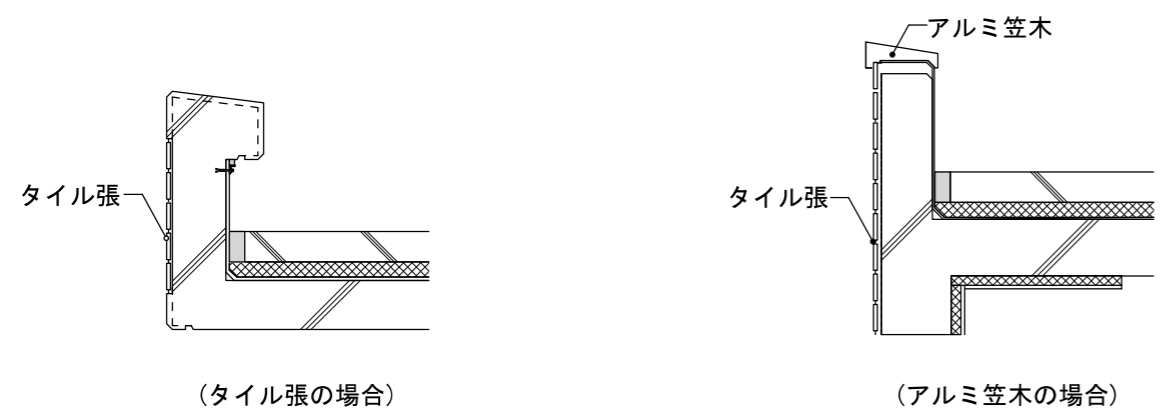
【改訂事項(公団住宅)】 ・第5版 H. 13. 11. 1	【改訂事項(機構住宅)】	名称	完全スリット位置図	
		縮尺	AE - 207	頁 E-19



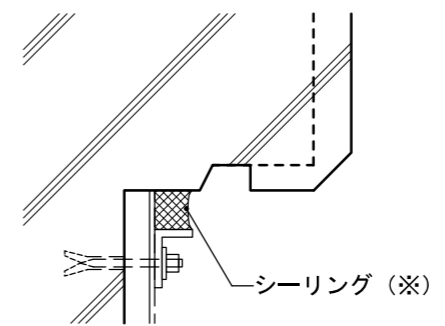
詳細図 1:6



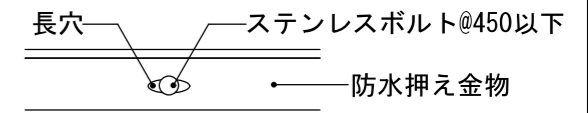
断面図 1:20



詳細図 1:6



A部詳細図 1:3



防水押え金物姿図

【仕様】

- ・アルミ笠木：  
アルミニウム押出型材は、JIS H 4100の規格品とし、附属部分の材料は主材製造所の仕様による。
- ・防水層端部の止水に用いるシーリング(※)の材料は、「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.2(4)による。

【附記事項】

- ・周囲緩衝材は目地材と同質のものとする。
- ・断熱材(※)の材質は特記による。特記が無ければ材質は「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.2(8)による。
- ・保護コンクリートの中に溶接金網を敷き込む。「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.5(4)による。
- ・H, h1, h2, L, tは建物設計図による。
- ・断熱材(※)の厚さは建物設計図による。
- ・▷：仕上見切を示す。

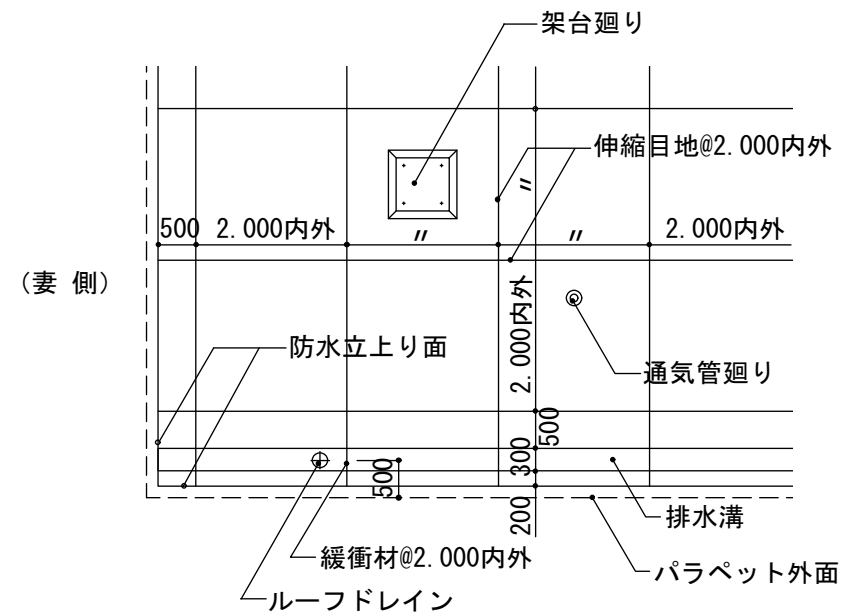
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追)H. 16. 8. 1

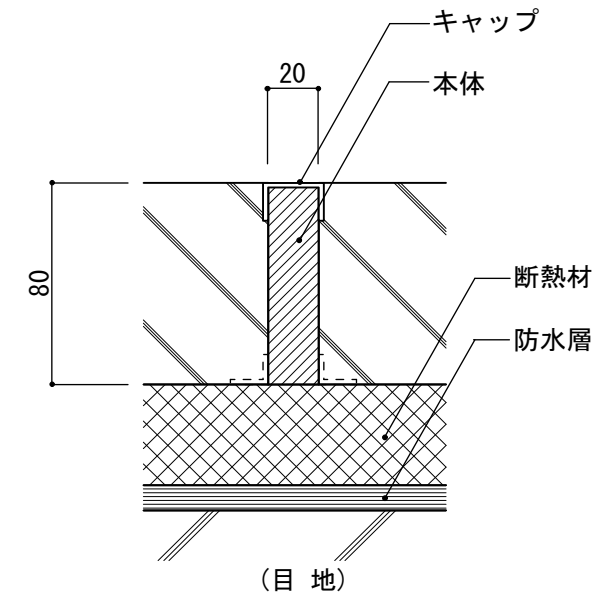
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	陸 屋 根 外断熱アスファルト防水工法		頁 E-20
	縮尺	1:3 1:6 1:20	



伸縮目地割付図の一例 1:100



詳細図 1:3

【仕様】

- ・キャップ: 合成樹脂又は合成ゴムとする。
  - ・本体: 合成樹脂の発泡体とする。
  - ・伸縮目地は断熱材まで達すること。
  - ・架台廻り、通気管廻り等に周囲緩衝材を設ける。
- AE-320・322・325・326

【附記事項】

- ・防水立上り、排水溝端部から500mmの位置に伸縮目地を設ける。

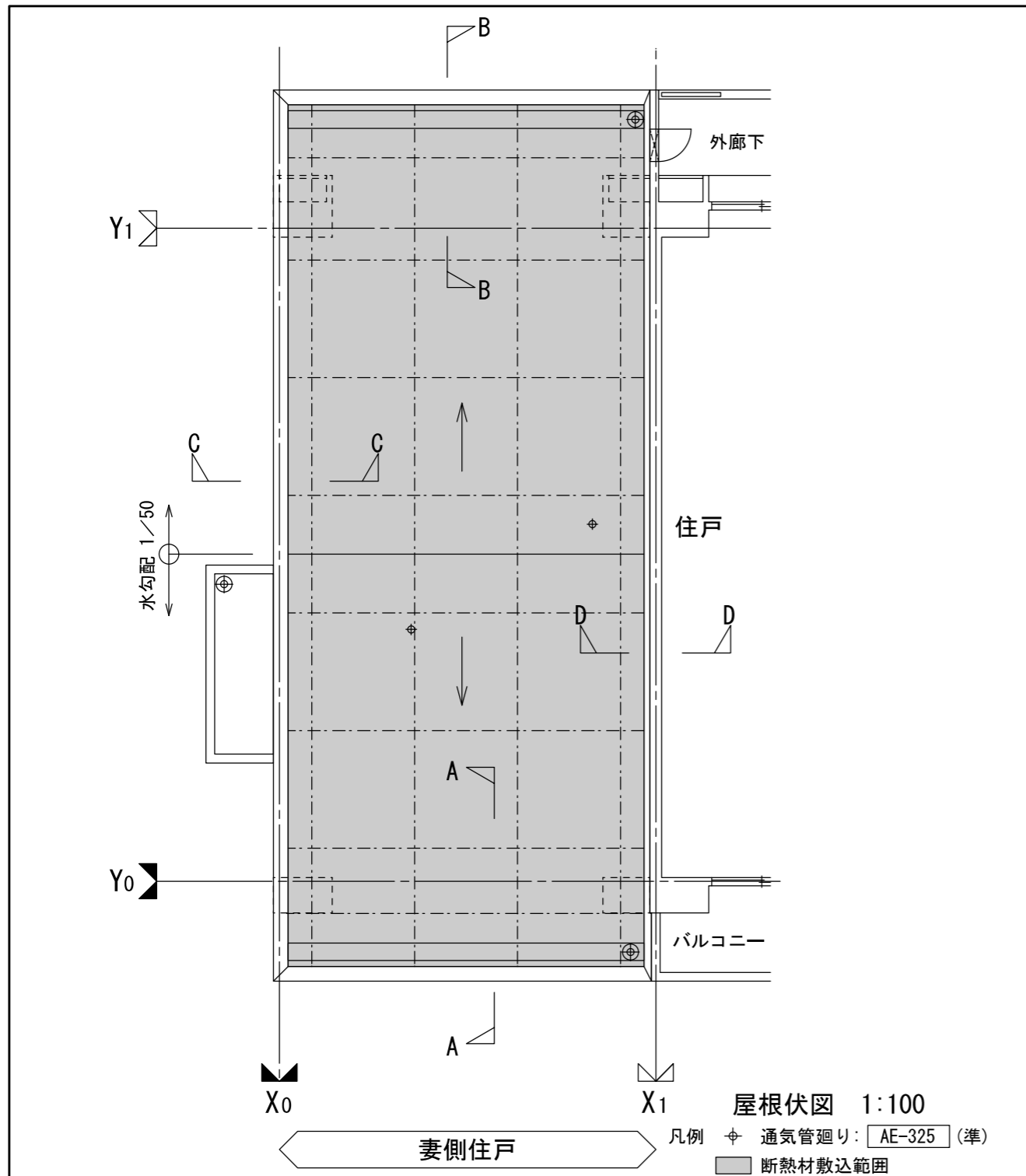
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

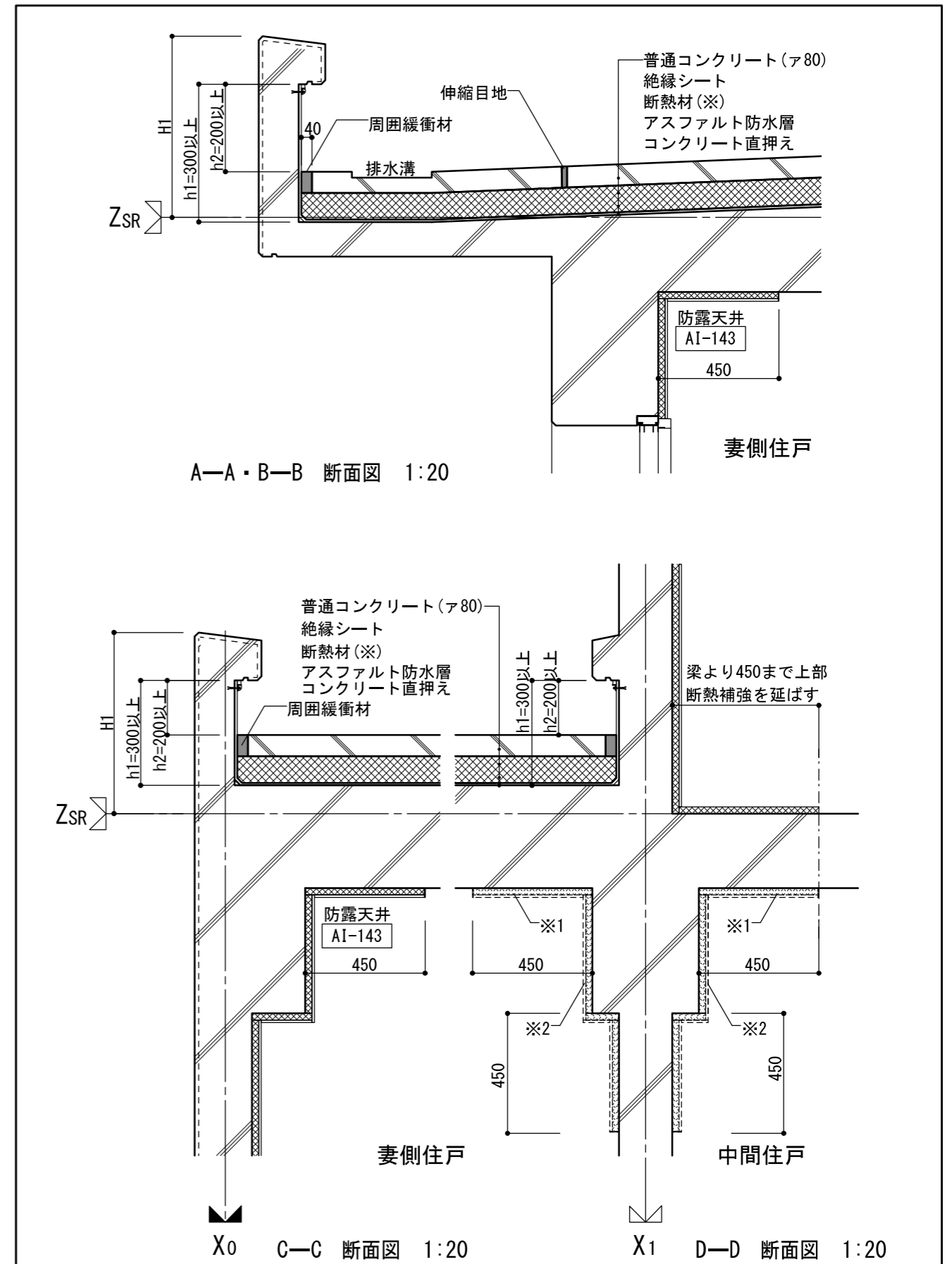
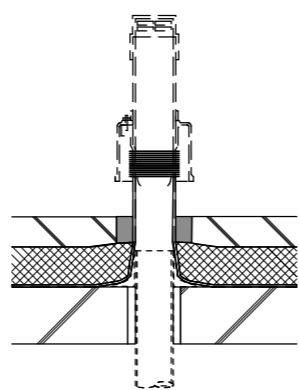
- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	屋根伸縮目地廻り		
縮尺	1:3 1:100	AE - 302	頁 E-21

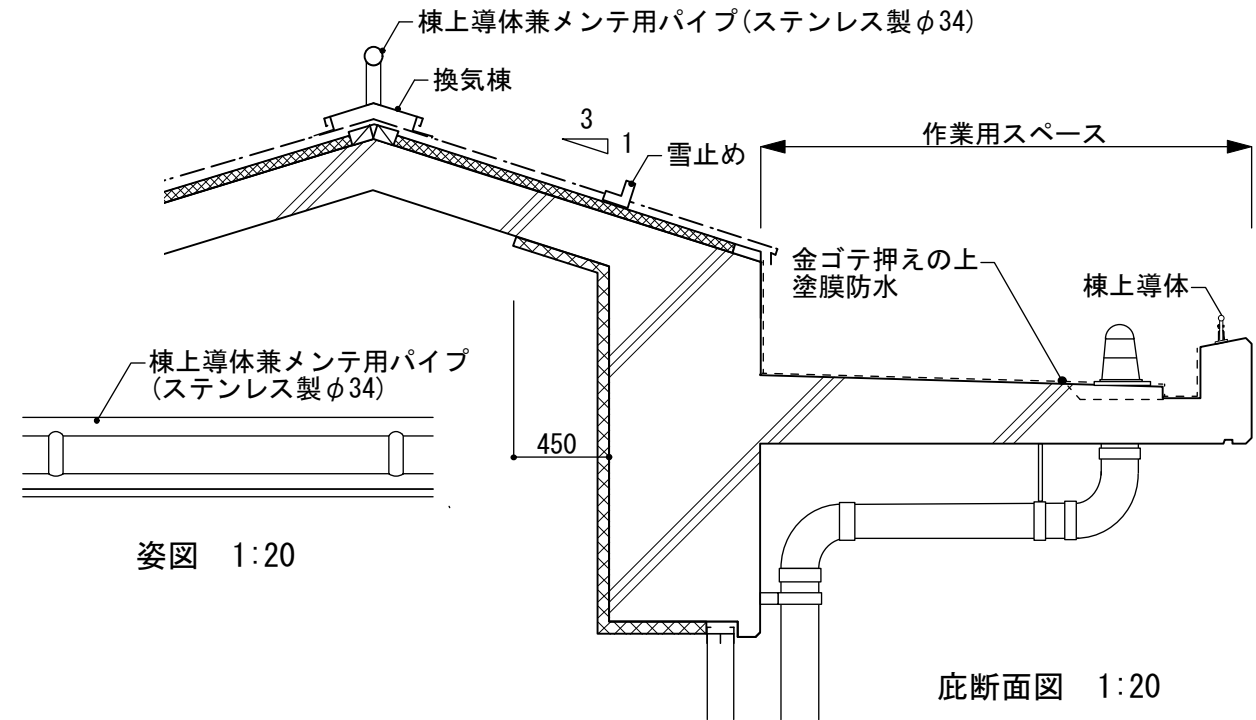


- 【仕様】**
- ・外断熱アスファルト防水工法及び屋根伸縮目地廻りは AE-301・302 による。
  - ・断熱材(\*)の材質は特記による。特記が無ければ材質は「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.2(8)による。
  - ・断熱材を二枚張とする場合の接着はアスファルト又は両面テープによる。
  - ・通気管はカバーが屋根面に接しないように、ロングタイプを使用する。
  - ・各住戸について外皮平均熱貫流率が「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法等に係る事項」(平成28年国土交通省告示第265号)に定める基準値以下となるよう各部の断熱仕様を決定する。  
 なお、屋根の最低限行うべき断熱措置は下記のとおり。
  - ・外断熱工法とする。
  - ・ $r=1.4\text{m}^2\text{K/W}$ 以上の断熱措置を行う。(rは20°Cにおける熱伝達抵抗値)

- 【附記事項】**
- ・H1, h1, h2は建物設計図による。
  - ・断熱材(\*)の厚さは特記による。
  - ・断熱補強※1、※2の有無は建物設計図による。

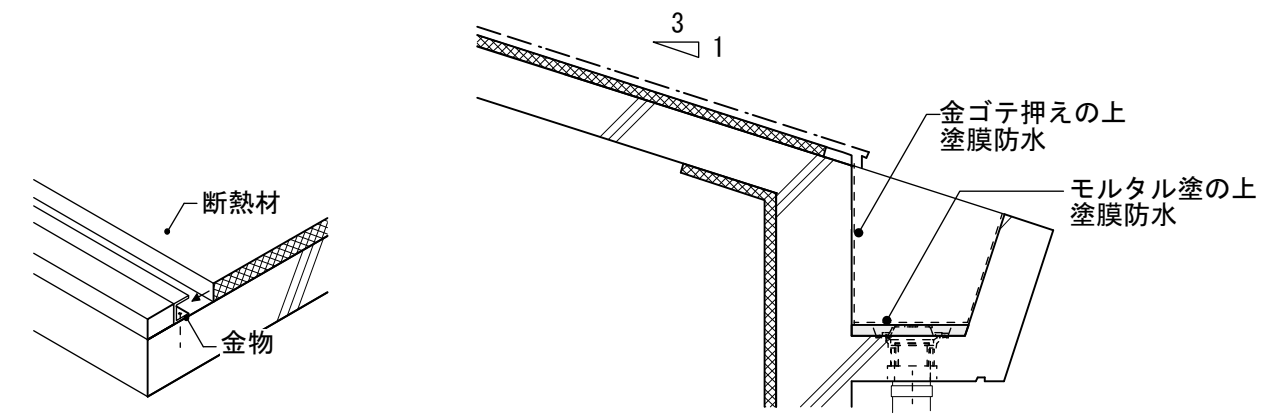


【改訂事項(公団住宅)】 ・第5版(追)H. 16. 8. 1	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称	外断熱アスファルト防水工法 (外断熱側で断熱性能を強化する場合)	
		縮尺	1:20 1:100	AE - 303
		頁	E-22	

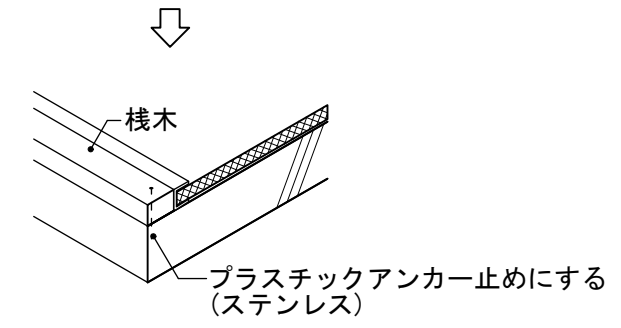


姿図 1:20

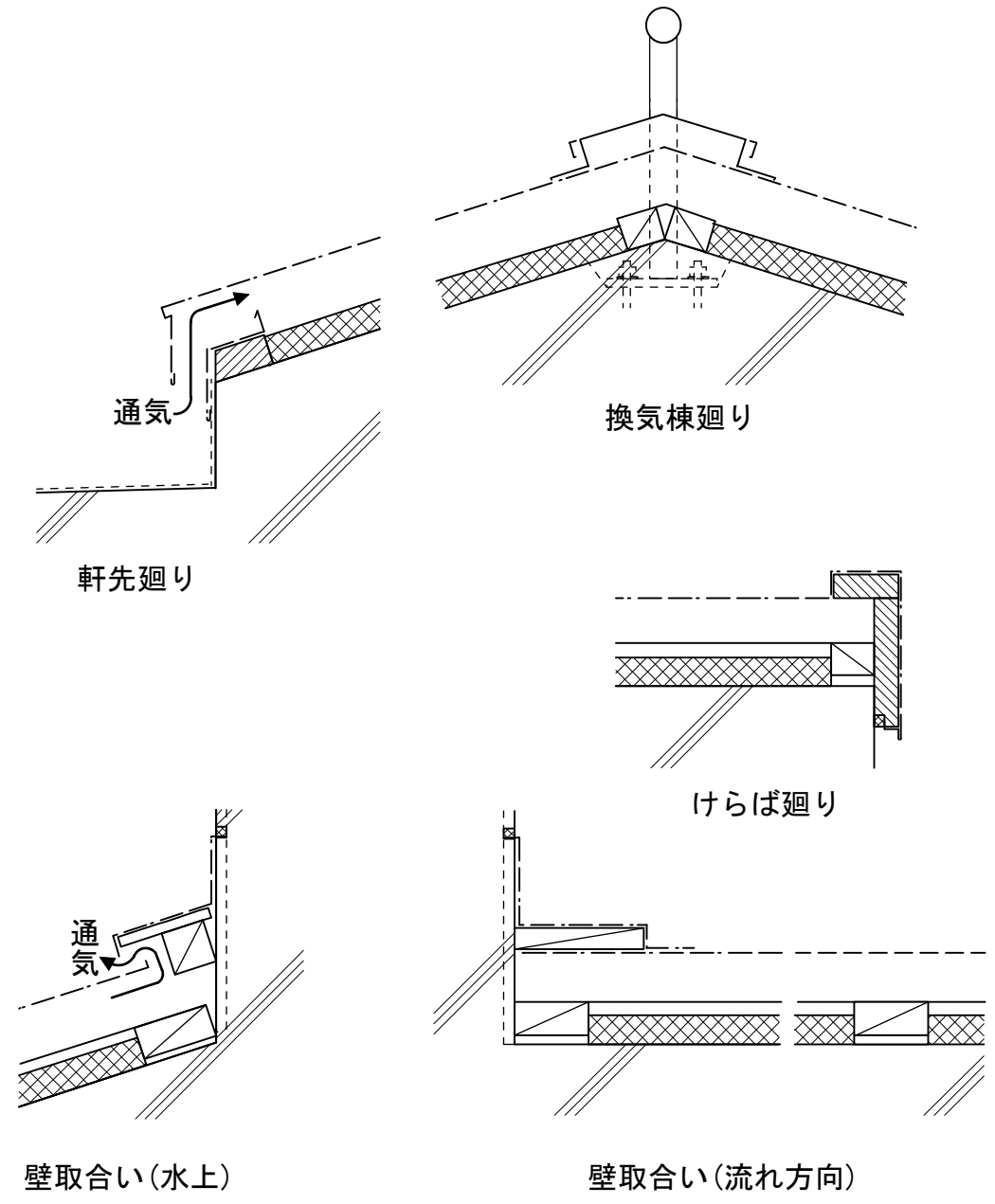
庇断面図 1:20



軒樋断面図 1:20



屋根材の飛散防止



断面図 1:10

【仕様】

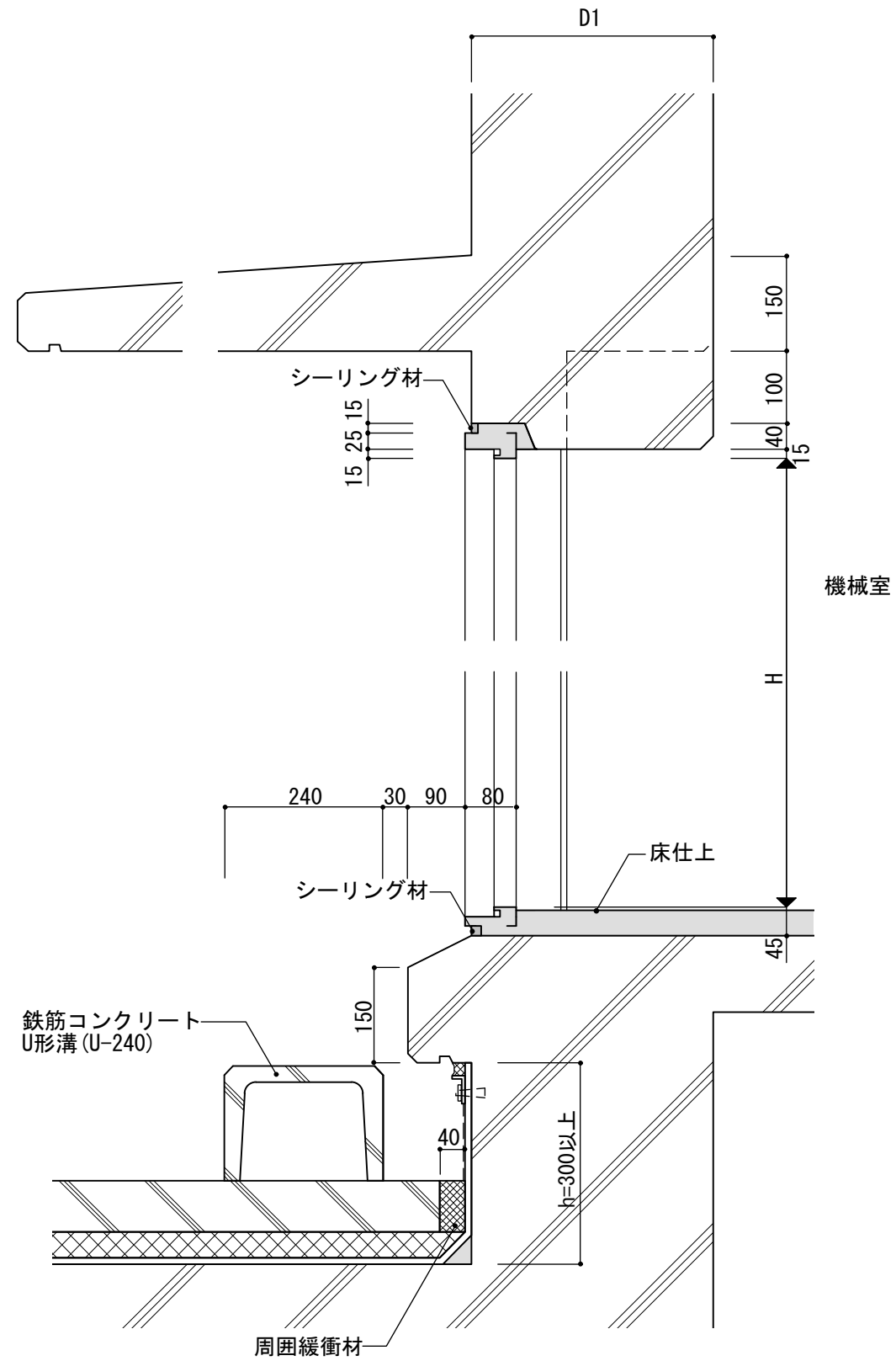
- ・屋根下地材の通気が確保出来るものとする。  
なお、通気の仕様はメーカー仕様による。
- ・作業用スペースは600mm以上とする。

【附記事項】

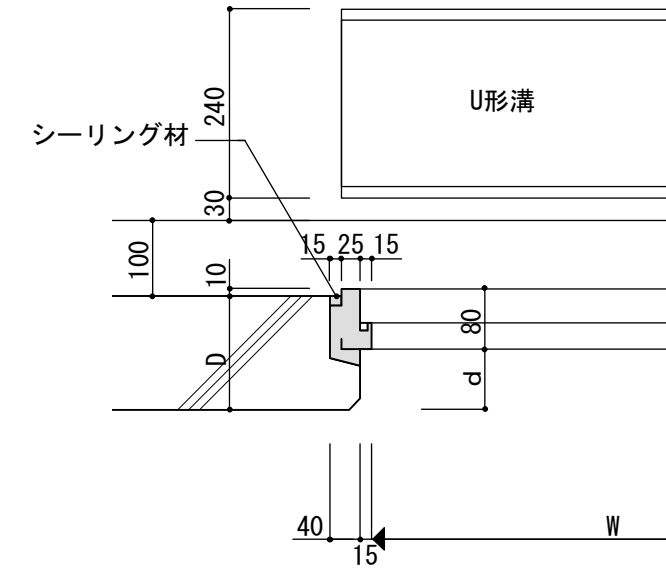
【改訂事項(公団住宅)】  
・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	勾配屋根廻り〔型式図〕		
縮尺	1:10 1:20	AE - 305	頁 E-23



断面図 1:10



平面図 1:10

【仕様】

- ・防水立上り部分は AE-301 による。
- ・鋼製戸わく廻りは AE-743 による。

【附記事項】

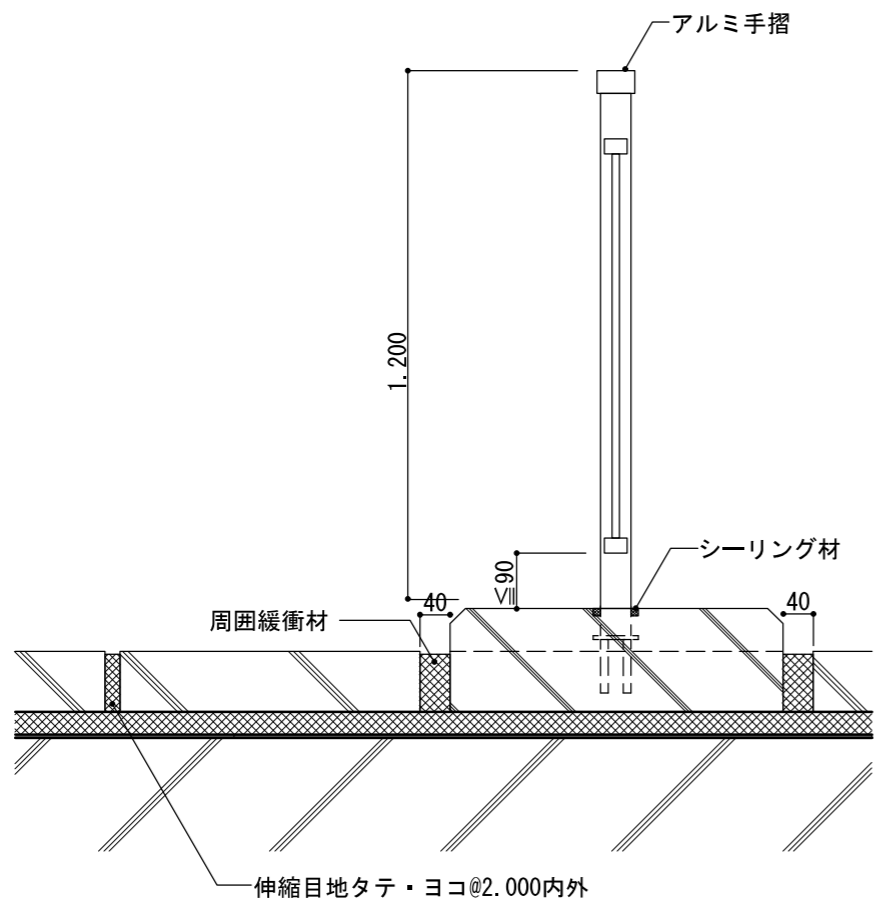
- ・W, H及び建具の種別は建物設計図による。
- ・D, D1, h, dは建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

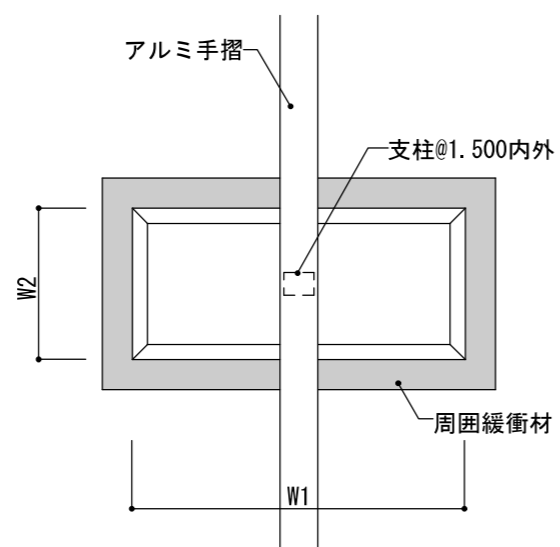
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	屋上出入口わく廻り		
縮尺	1:10	AE - 306	頁 E-24



断面図 1:10 (アルミ手摺:独立基礎の場合)



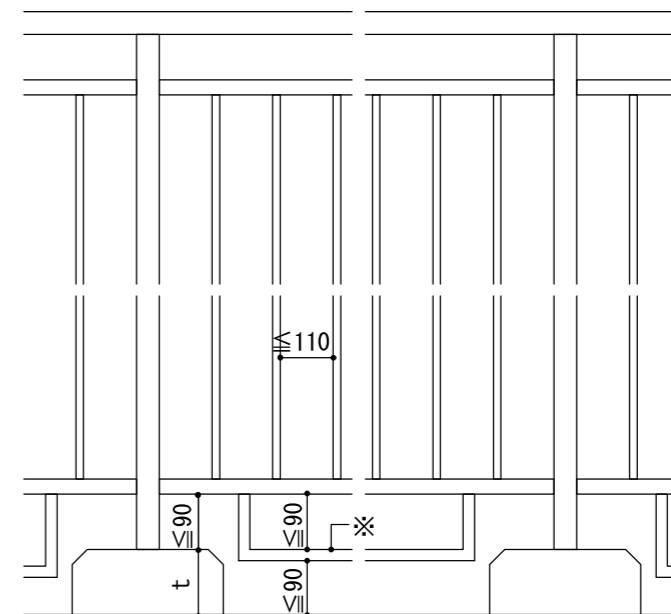
平面図 1:10

【仕様】

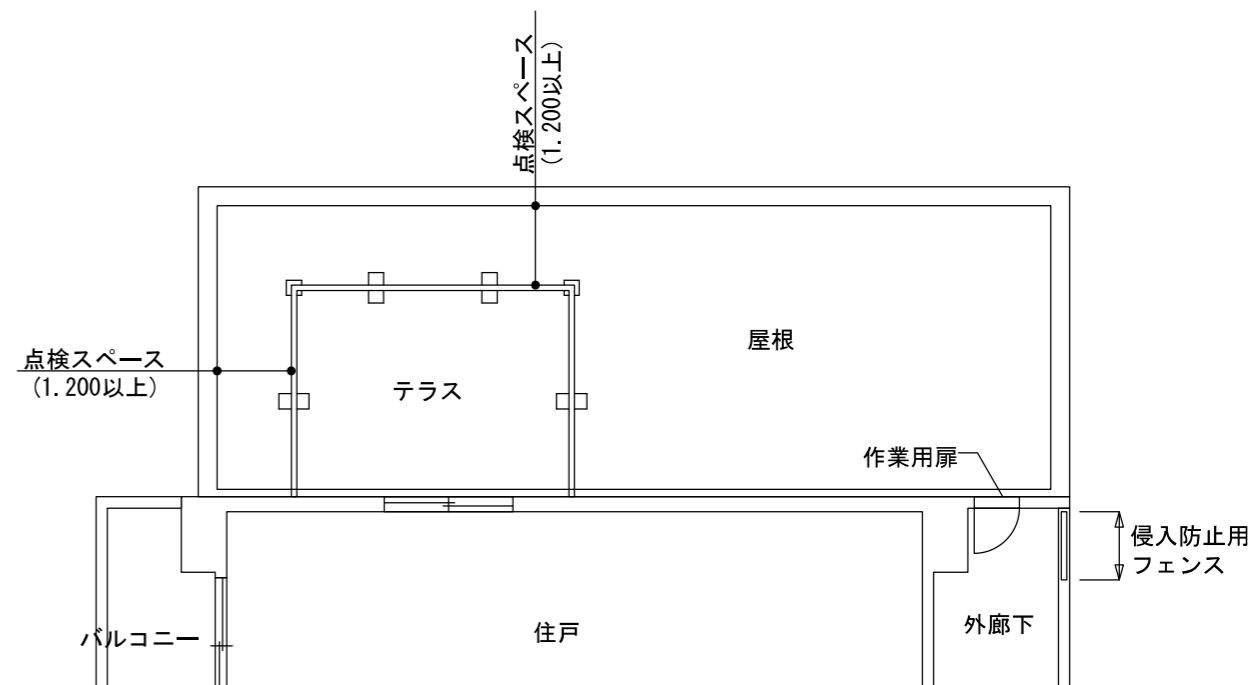
- ・アルミ手摺の強度は「別冊 機材の品質・性能基準」による。(※も含む)
- ・屋根廻りは AE-301・303 による。
- ・断熱材の材質は特記による。特記が無ければ材質は「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.2(8)による。

【附記事項】

- ・ W1, W2, t は建物設計図による。



立面図 1:10



平面図 1:100

【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

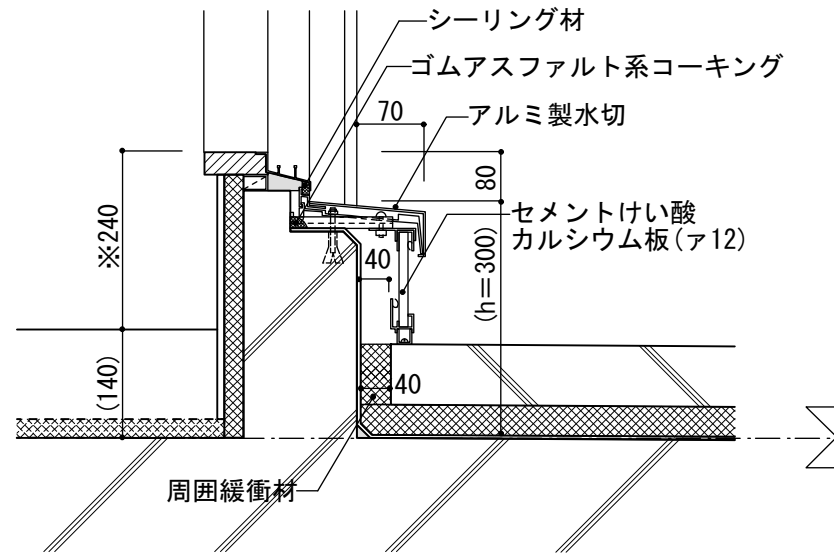
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	屋上テラス廻り-1 〔型式図〕		
縮尺	1:10 1:100	AE - 311	頁 E-25

サッシの下わく部分

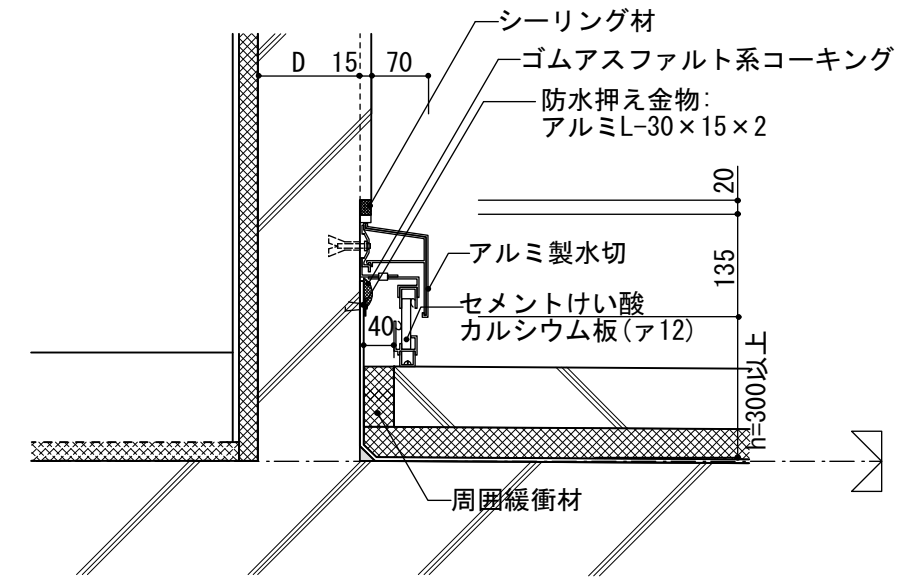
サッシの取り付けられない部分

A  
乾式の場合



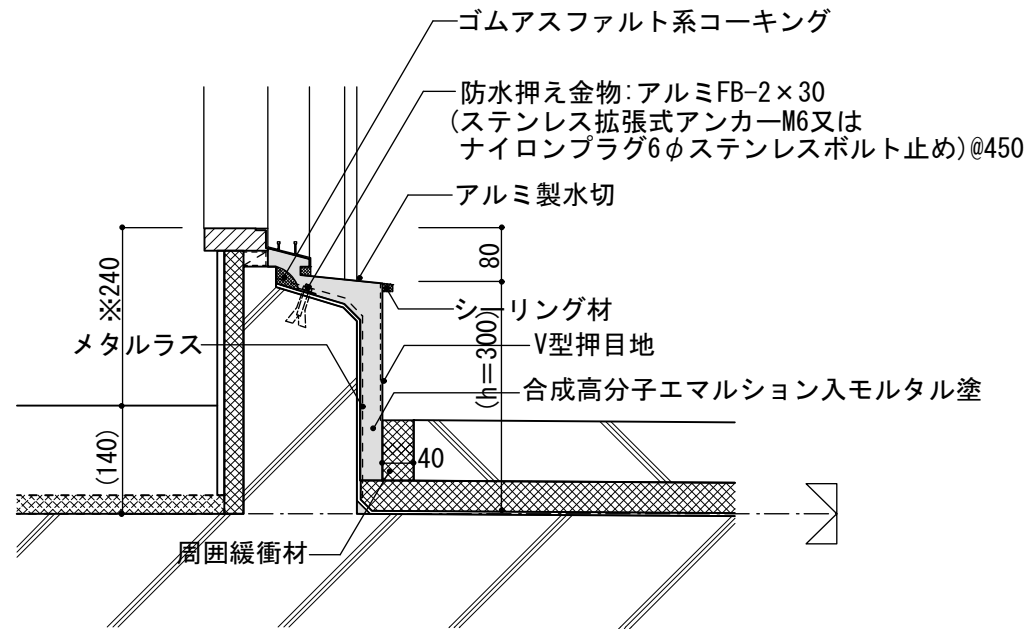
断面図 1:10

A  
乾式の場合



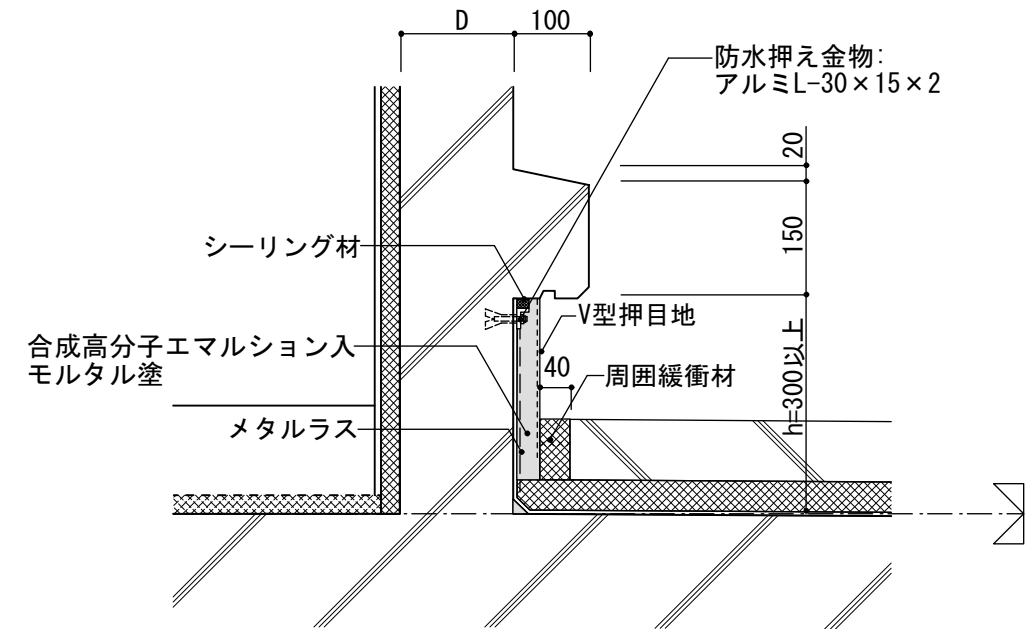
断面図 1:10

B  
湿式の場合



断面図 1:10

B  
湿式の場合



断面図 1:10

【仕様】

- 防水押え金物の取付はステンレス拡張式アンカーM6又はナイロンプラグM6ステンレスボルト止めとする。

【附記事項】

- D, hは建物設計図による。
- V型押目地は@900内外とする。
- 屋上テラス下階での防露対策は充分な配慮をする。
- 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づき行う性能表示において高齢者配慮対策等級3を確保するためには、当該屋上テラスが日常生活空間となる場合は※を180mm以下とし、室外側には180mm以下の踏み段を設置しなければならないため注意する。(室内側の踏み段は不可)

【改訂事項(公団住宅)】

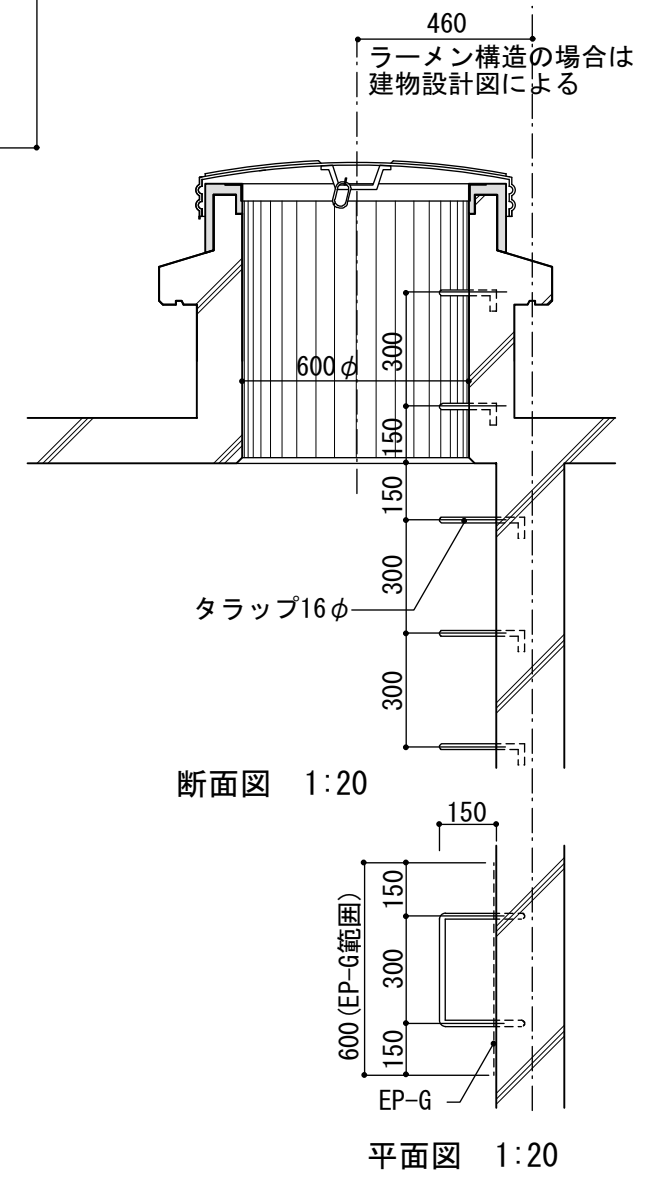
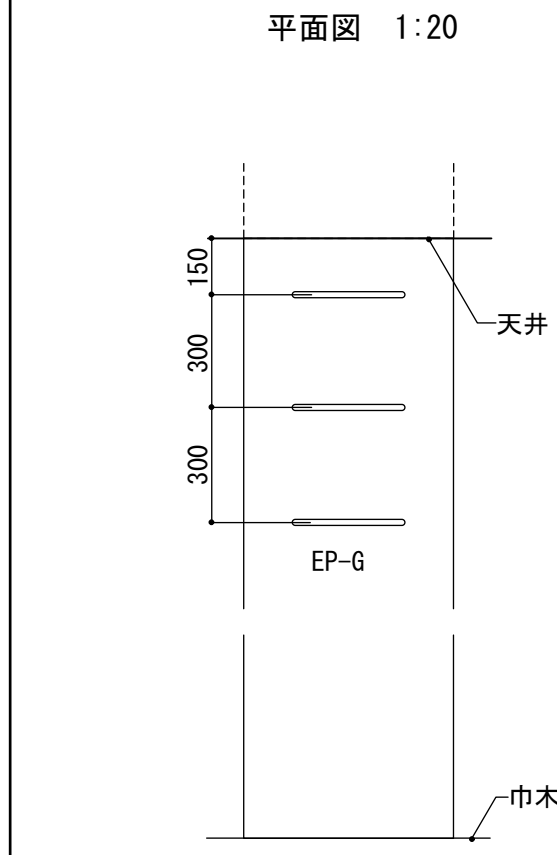
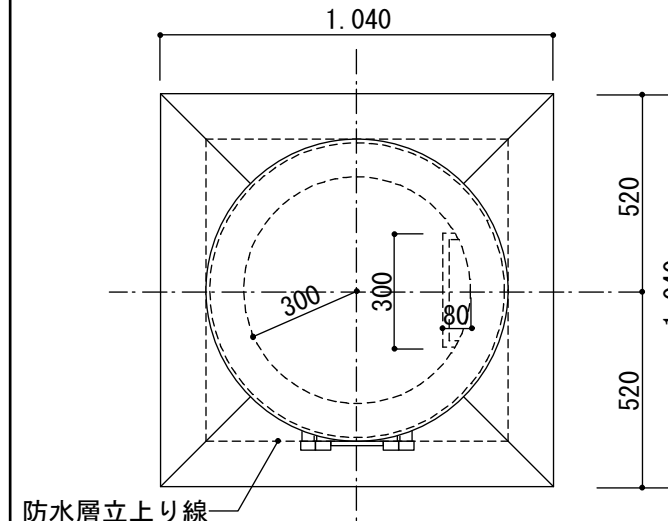
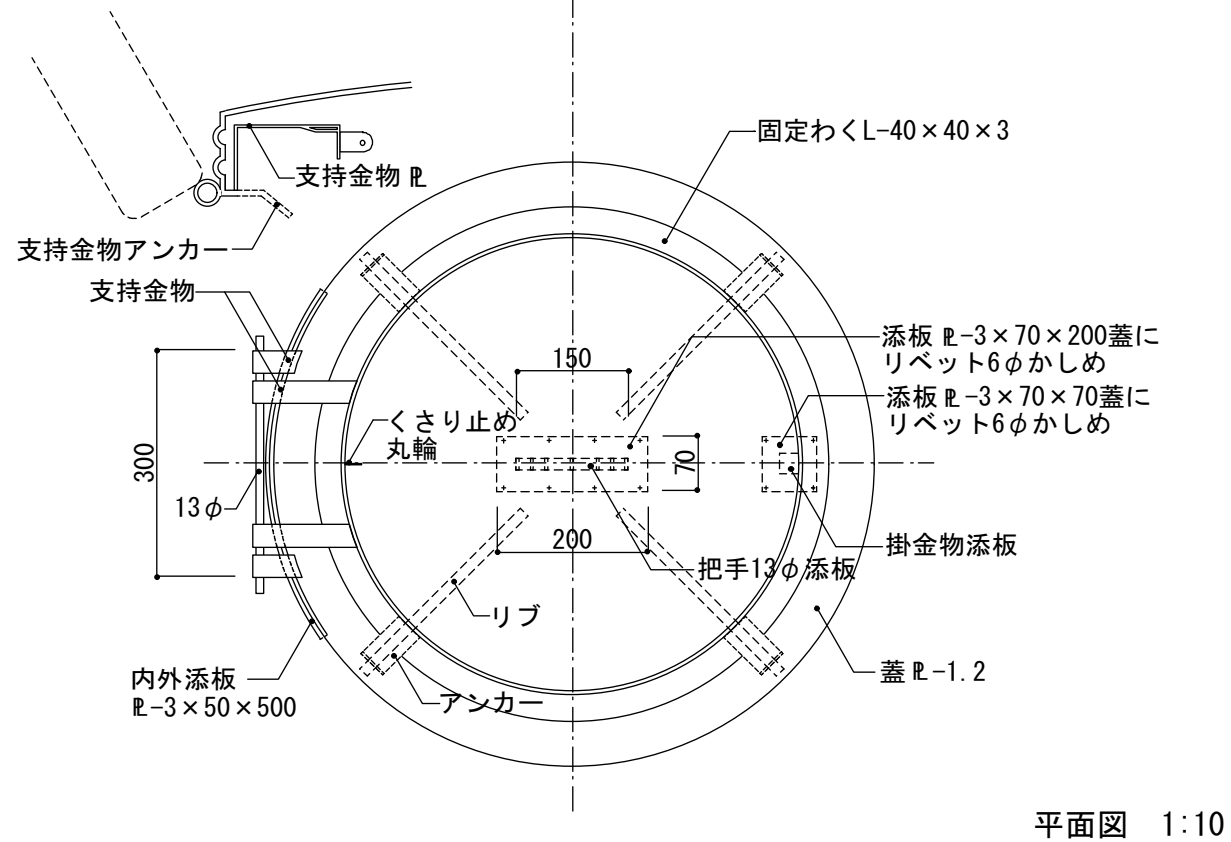
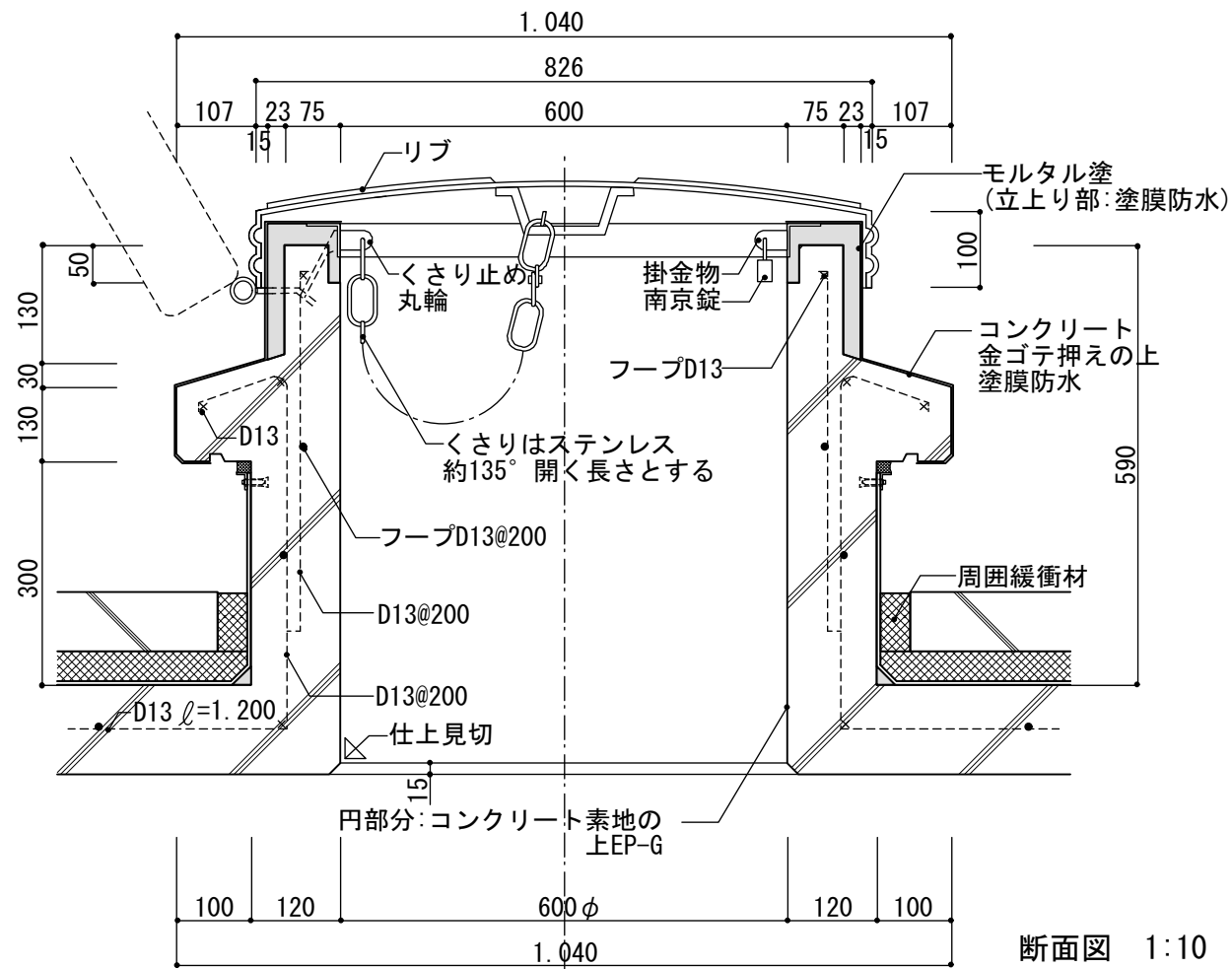
- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- 第2版 H. 21. 12. 1
- 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	屋上テラス廻り-2 (防水立上り) [型式図]		
縮尺	1:10	AE - 312	頁 E-26

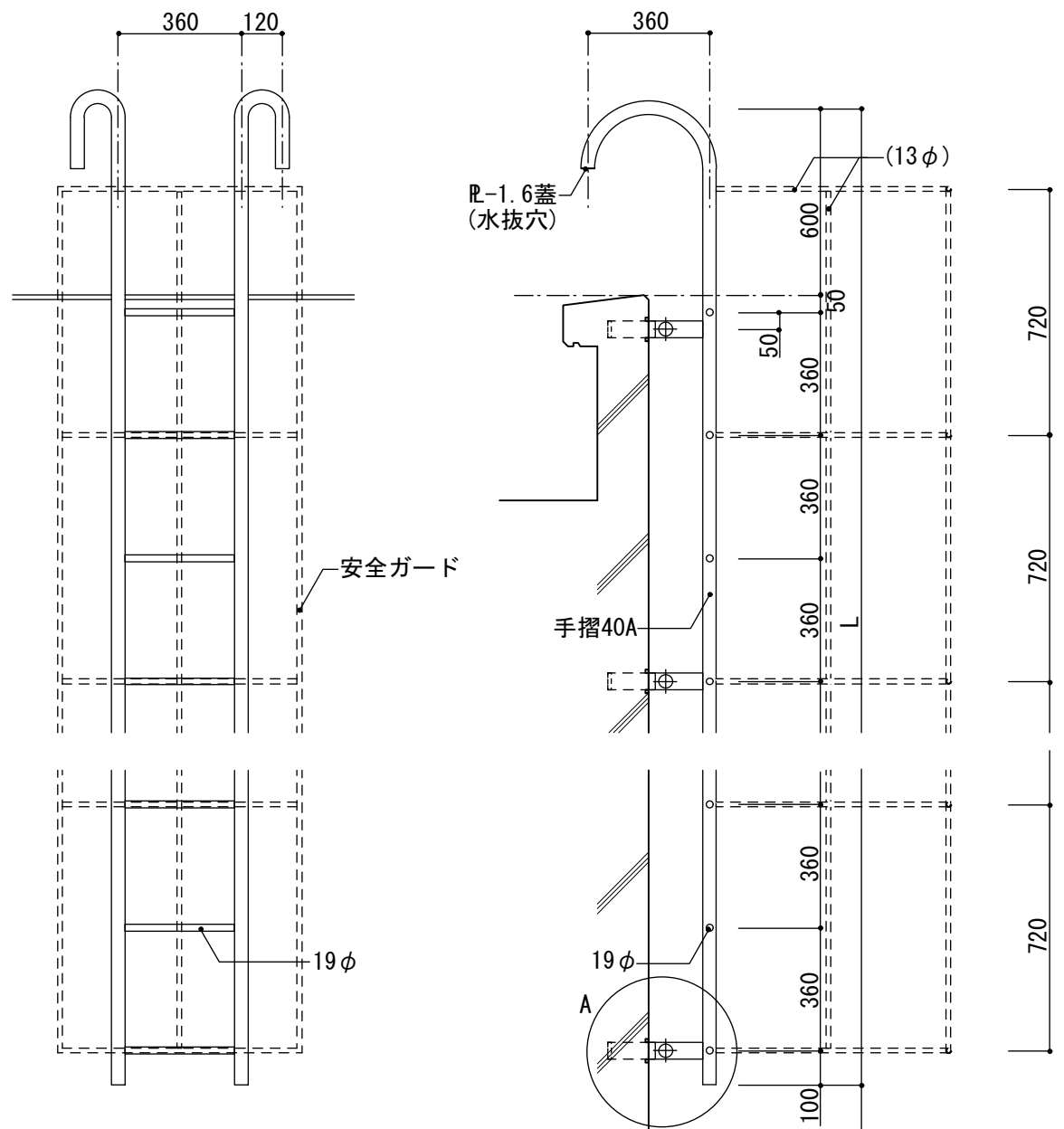




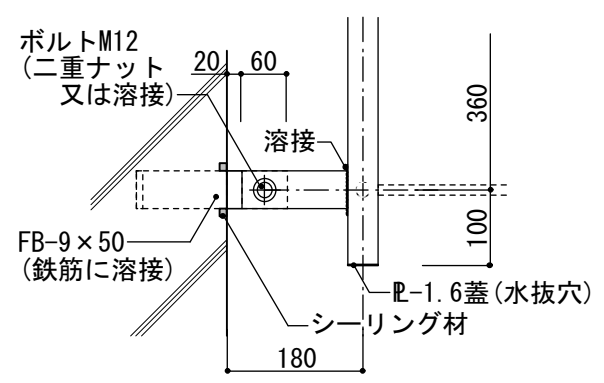
【仕様】  
 ・金属部はステンレス製(SUS304)とする。  
 ・固定枠アンカーはフープD13に溶接する。

【附記事項】  
 ・取付位置、蓋の開き勝手は建物設計図による。

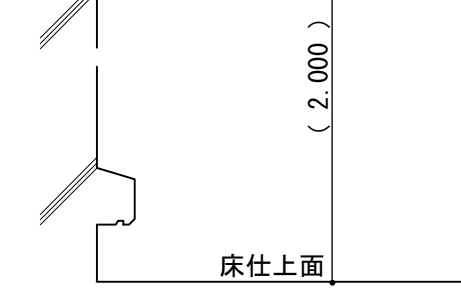
【改訂事項(公団住宅)】 ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称 屋根マンホール〔型式図〕	縮尺 1:10 1:20	AE - 320	頁 E-27
---	---	--------------------	--------------------	----------	-----------



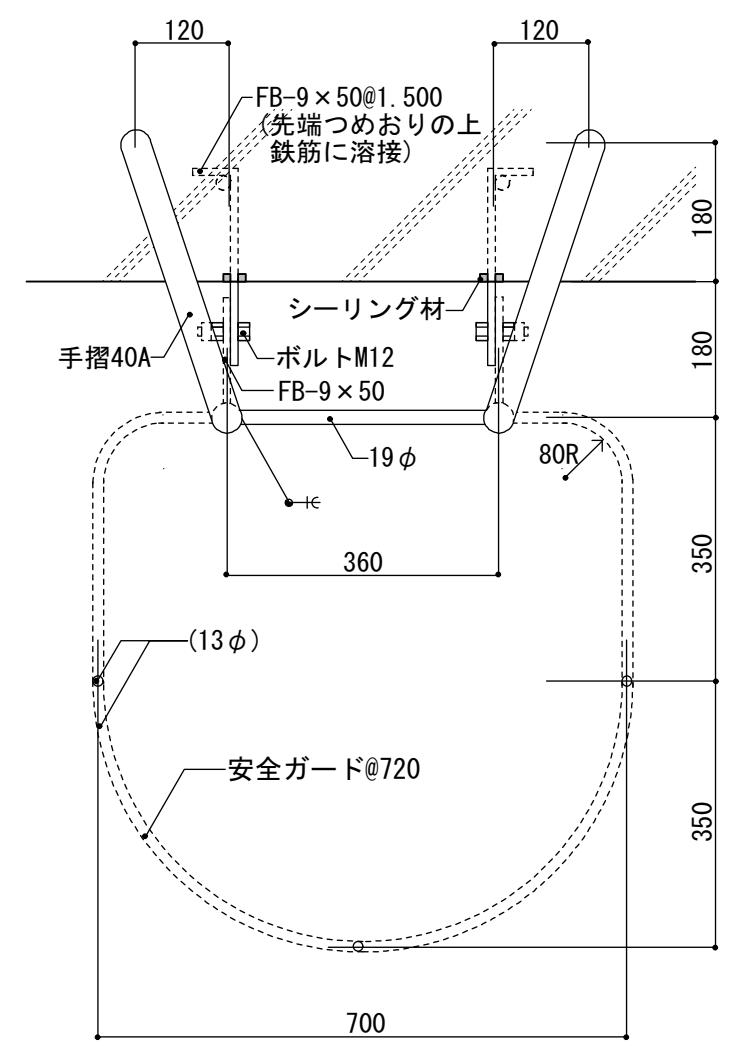
姿図 1:20



A部分詳細図 1:10



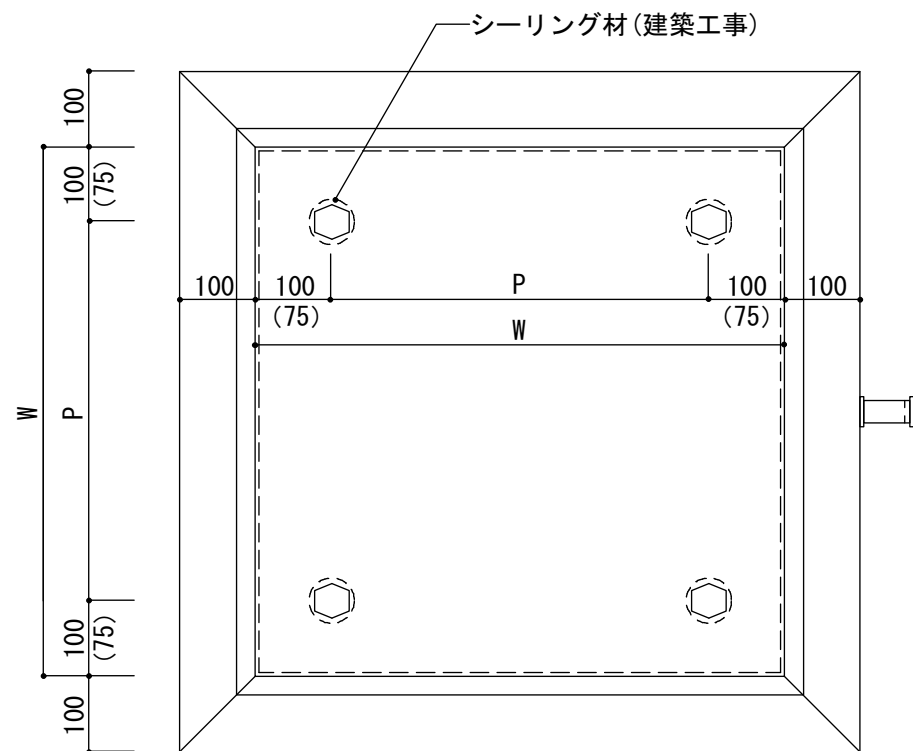
断面図 1:20



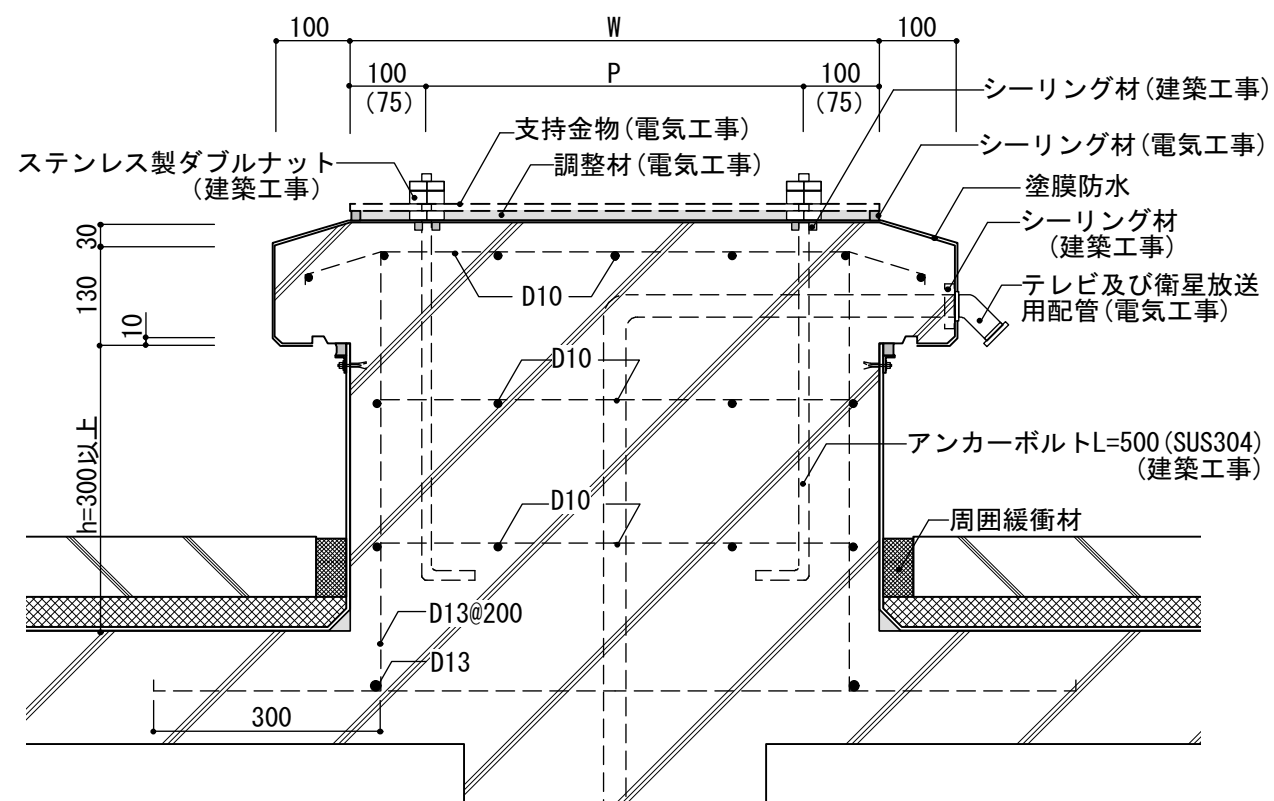
平面図 1:10

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属部はステンレス製 (SUS304) とする。</li> </ul> | <p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取付位置は建物設計図による。</li> <li>・Lは建物設計図による。</li> <li>・安全ガードの有無は建物設計図による。</li> </ul> |
|--|---|

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>・第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>・第4版2刷 H. 10. 2. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p>	<p>塔屋タラップ〔型式図〕</p>		<p>頁</p> <p>E-28</p>
		<p>縮尺</p>	<p>1:10</p> <p>1:20</p>	<p>AE - 321</p>	

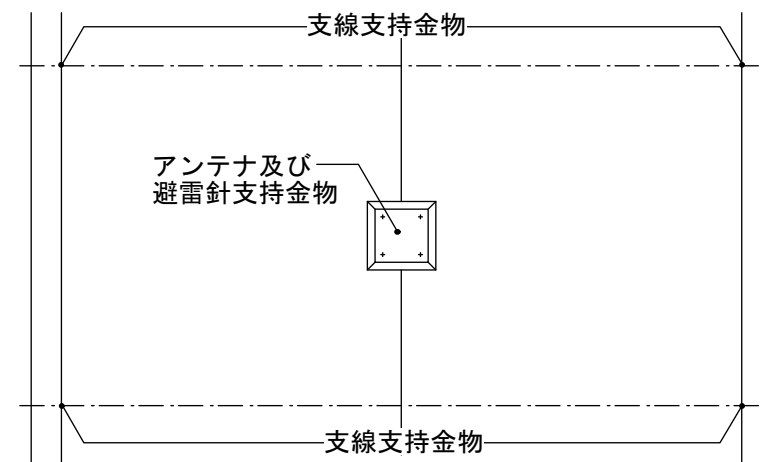


平面図 1:10

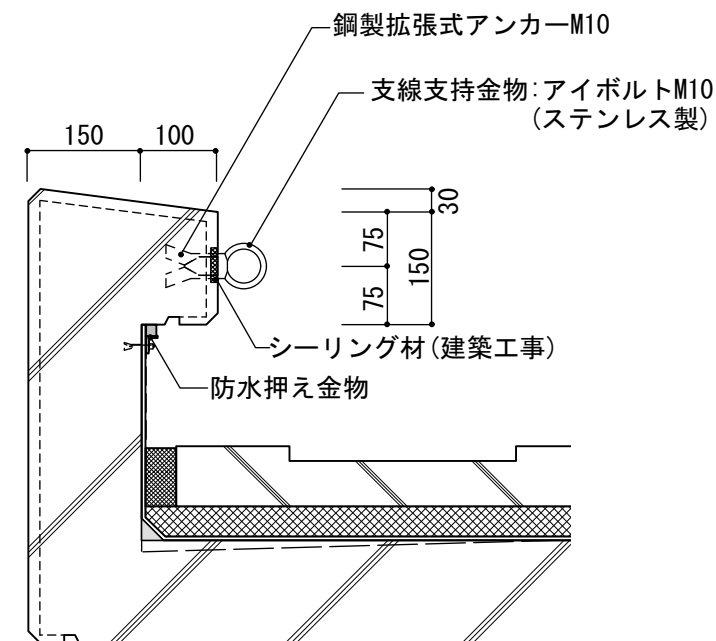


断面図 1:10

	テレビ(一般)用	衛星放送用	避雷針用
P	500	500	350
W	700	700	500
h	300	300	300
アンカーボルト(×4)	13φ	16φ	12φ 16φ



屋根伏図 1:100



断面図 1:10  
(支線支持金物)

【仕様】

【附記事項】

- ・支持台及び支線支持金物の位置は電気工事との打合せによる。
- ・( )内寸法は避雷針用支持台の場合を示す。

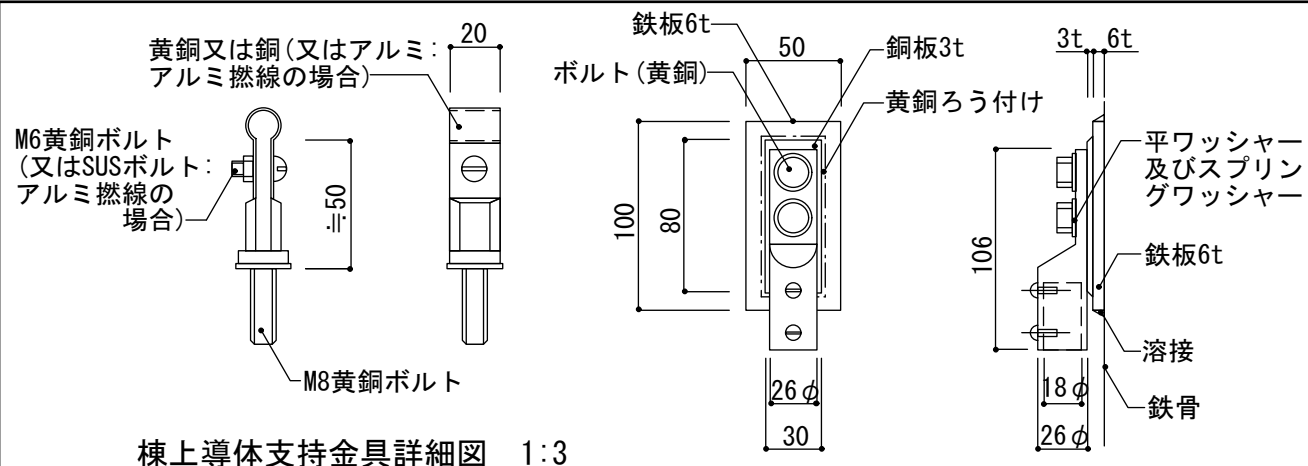
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

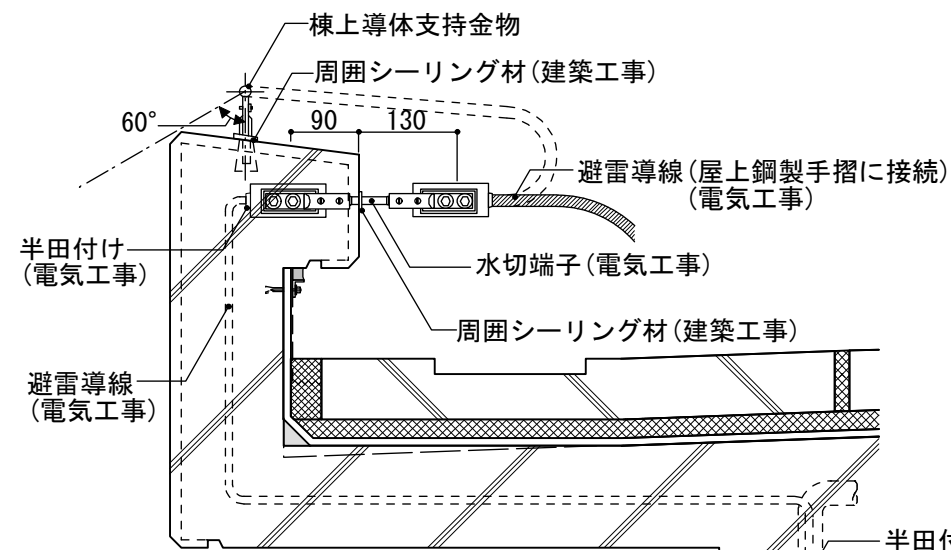
- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	アンテナ及び避雷針支持台		頁 E-29
縮尺	1:10	1:100	

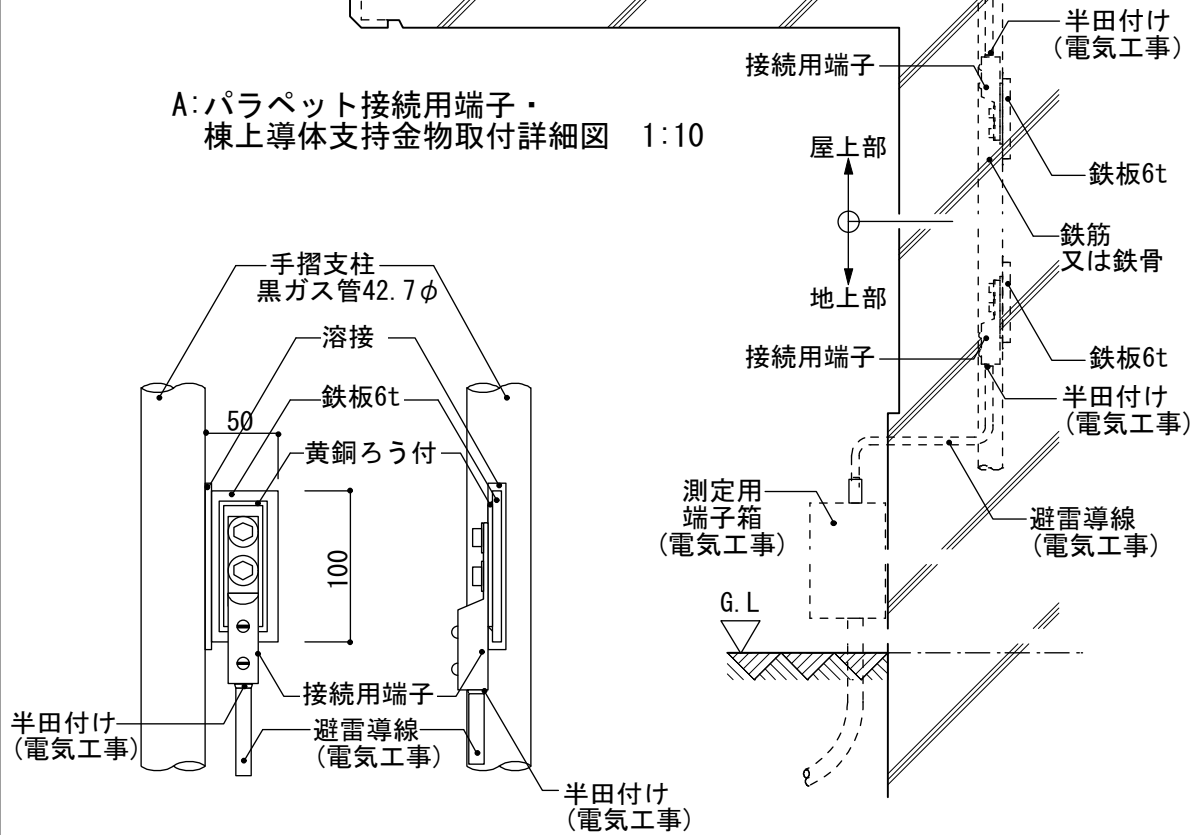


棟上導体支持金具詳細図 1:3

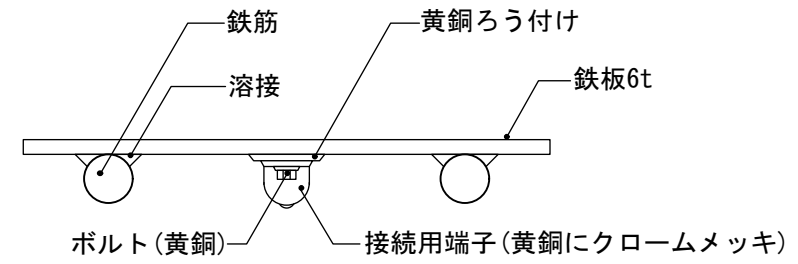
D: 鉄骨接続部詳細図 1:4



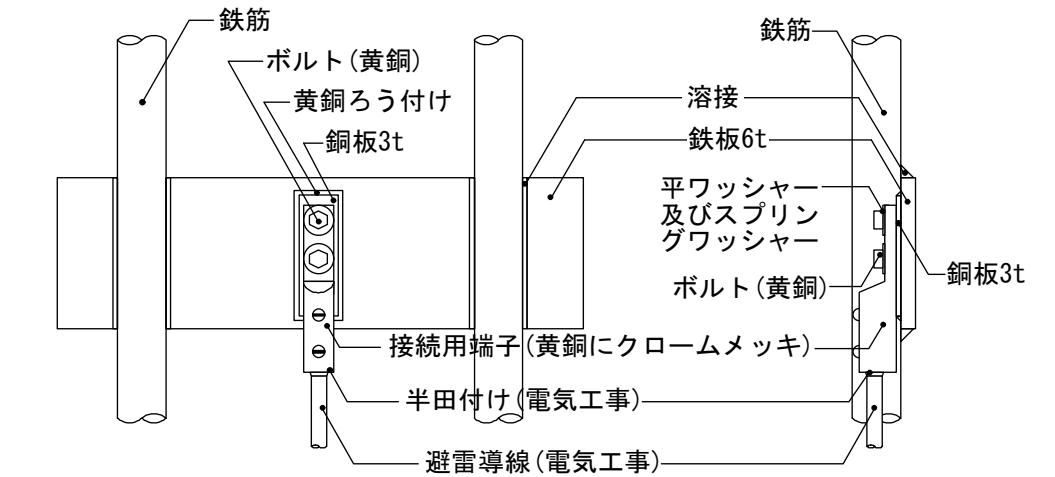
A: パラペット接続用端子・棟上導体支持金物取付詳細図 1:10



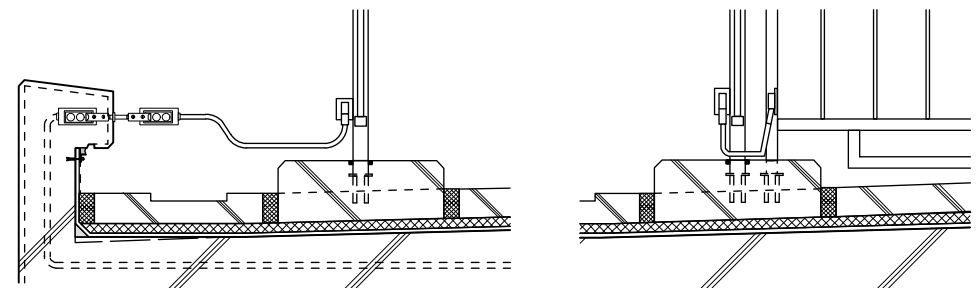
B: 屋上鋼製手摺支柱接続用端子取付詳細図 1:5



C: 接続部詳細図 1:5



E: 屋上鋼製手摺廻り断面図 1:20



【仕様】

・棟上導体支持金具の形状構造はメーカーの仕様による。

棟上導体支持金具	導線サイズ
A1	60mm <sup>2</sup> アルミ燃線 2.0×19相当
A2	78mm <sup>2</sup> アルミ燃線 2.0×25相当
B	40mm <sup>2</sup> 銅燃線 2.0×13相当

【附記事項】

- ・パラペット接続用端子は、パラペット上部出しをしてもよい。
- ・Cは住棟下部でアースと鉄筋との接続の場合に用いる。
- ・棟上導体支持金具A1・A2・Bは建物設計図による。

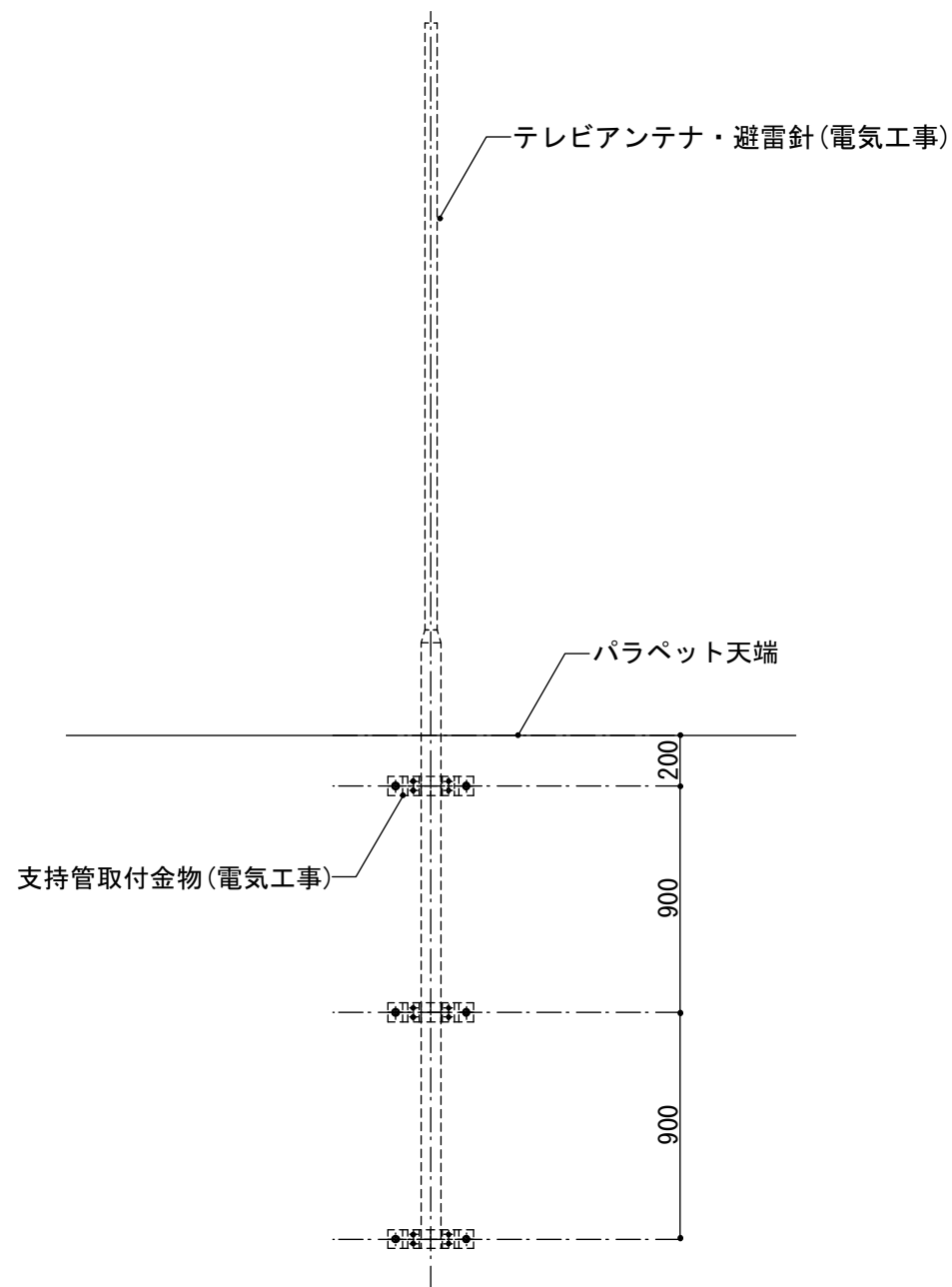
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

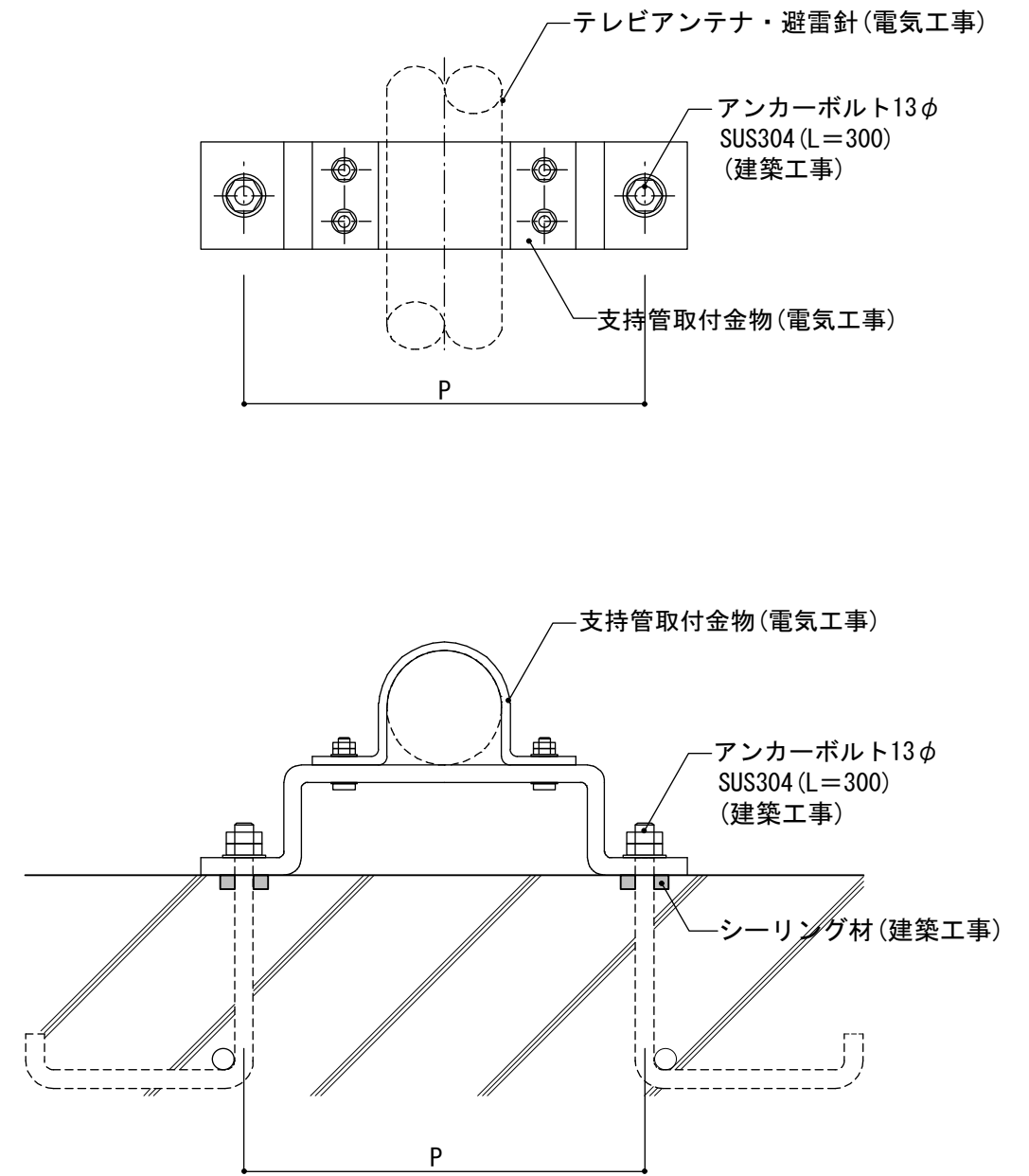
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	避雷設備廻り		頁
	縮尺		
避雷設備廻り	1:3	1:10	AE - 323
	1:4	1:20	
	1:5		
			頁 E-30



テレビアンテナ・避雷針取付詳細図 1:30



支持管取付金物廻り詳細図 1:5

【仕様】

【附記事項】

・Pは電気工事と打ち合わせの上決定する。

【改訂事項(公団住宅)】

・第3版 H. 4. 12. 1

・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称

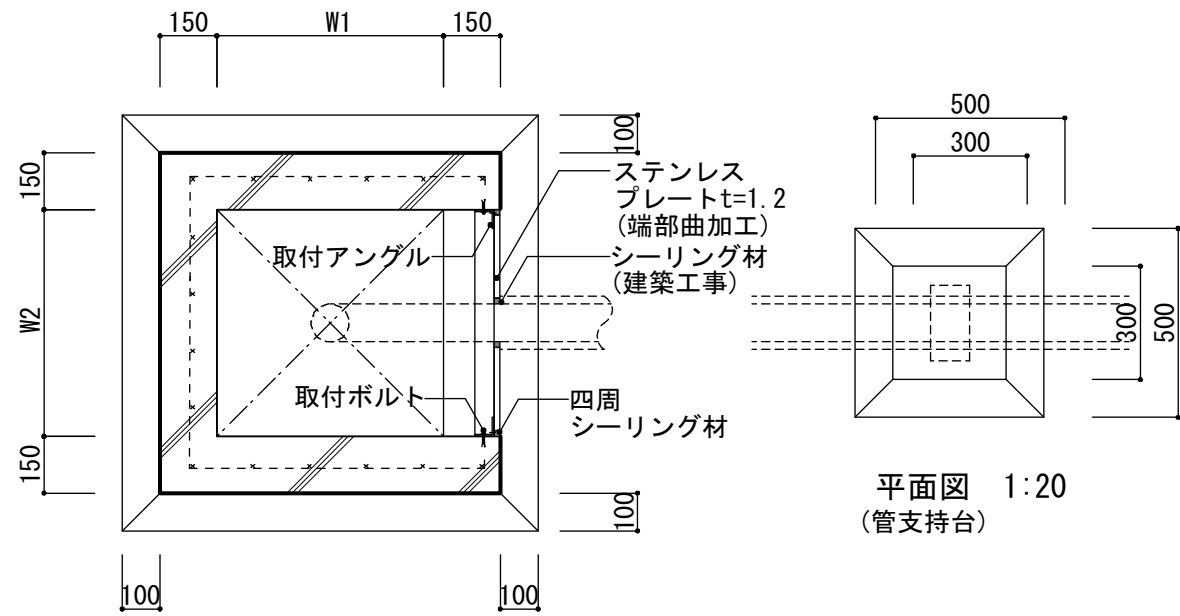
テレビアンテナ・  
避雷針壁面取付廻り

縮尺

1:5  
1:30

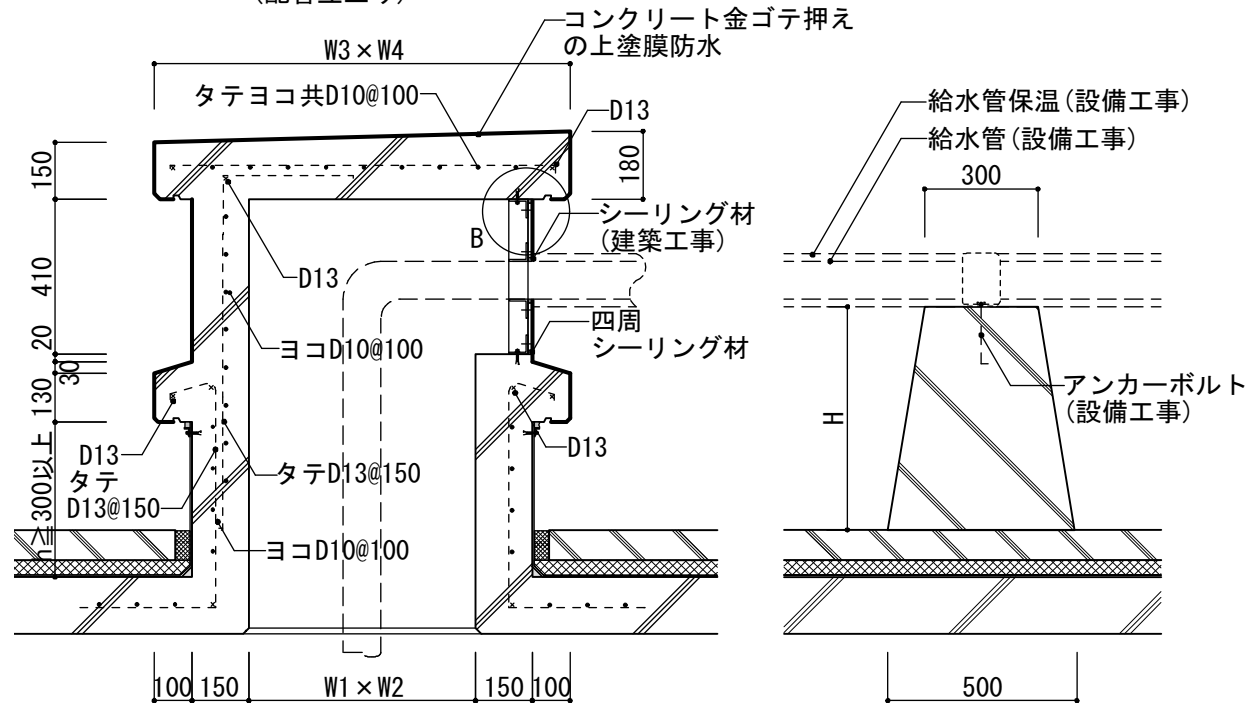
AE - 324

頁  
E-31



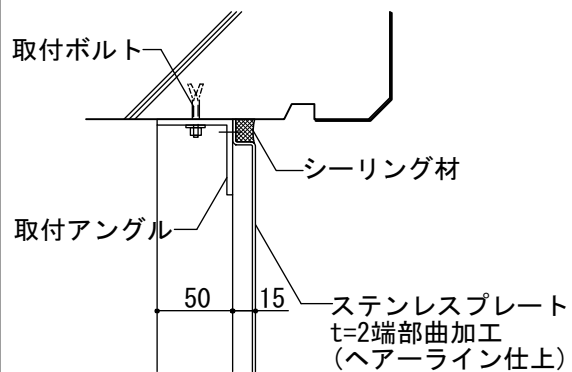
平面図 1:20  
(管支持台)

平面図 1:20  
(配管立上り)

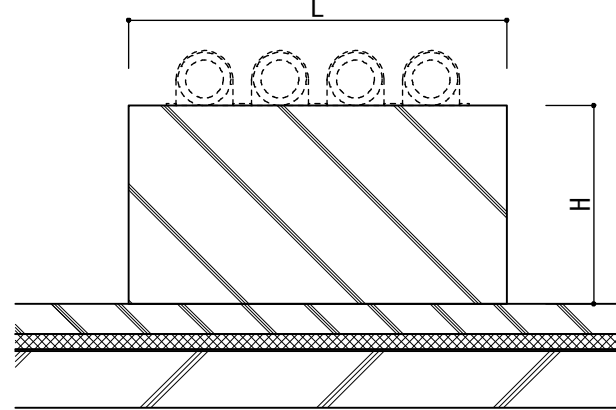


断面図 1:20  
(配管立上り)

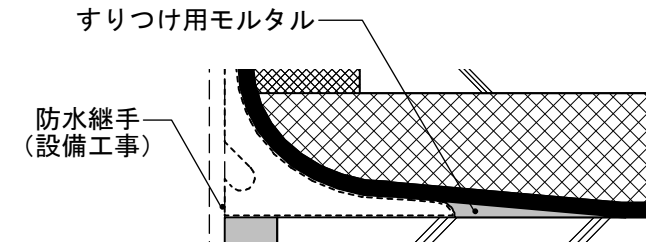
断面図 1:20  
(管支持台)



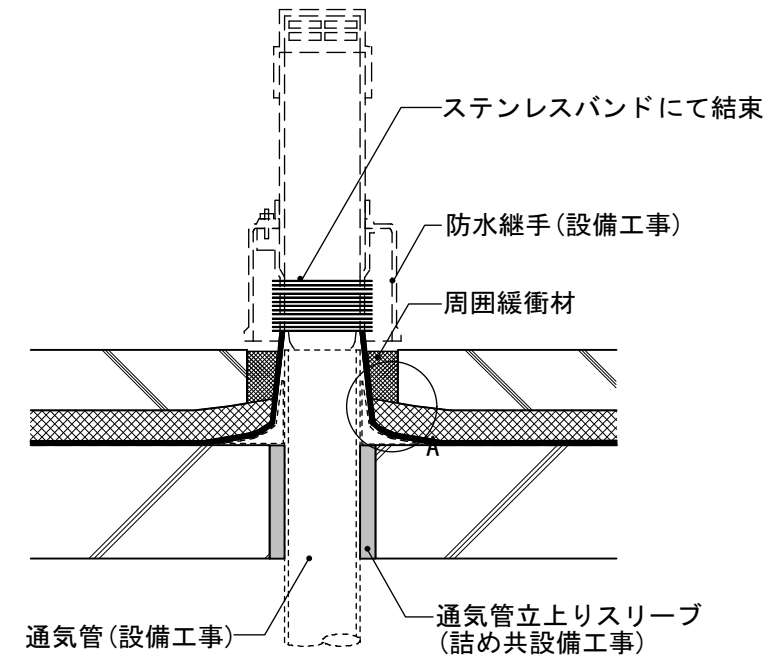
B部分詳細図



断面図 1:20  
(管支持台)



A部分詳細図



断面図 1:10  
(通気管)

【仕様】

- ・ 取付アングル:L-50×50×4(SUS-304)
- ・ 取付ボルト:ステンレス製拡張式アンカーM6又はナイロンプラグ6φステンレスボルト止め

【附記事項】

- ・ W1. W2. W3. W4. H. Lは建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

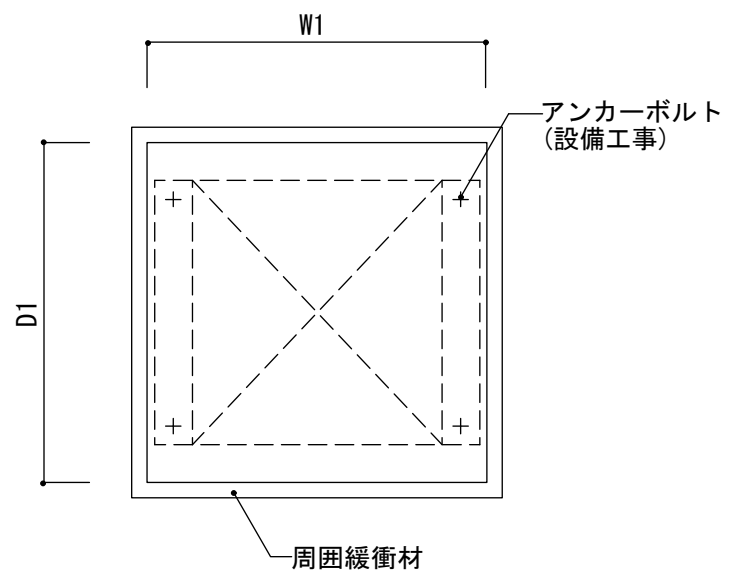
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

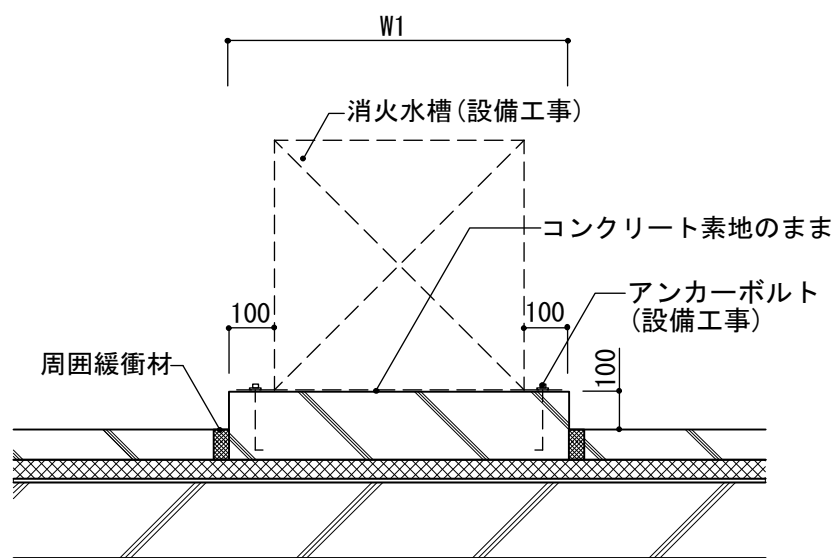
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	給水管・通気管立上り		
縮尺	1:10	AE - 325	頁 E-32
	1:20		

A 型



平面図 1:20

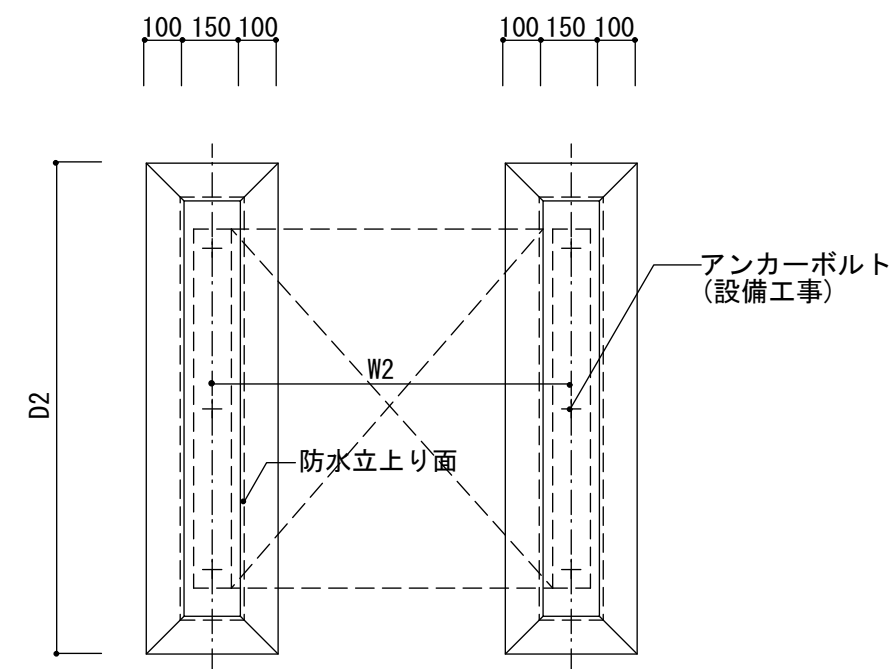


断面図 1:20

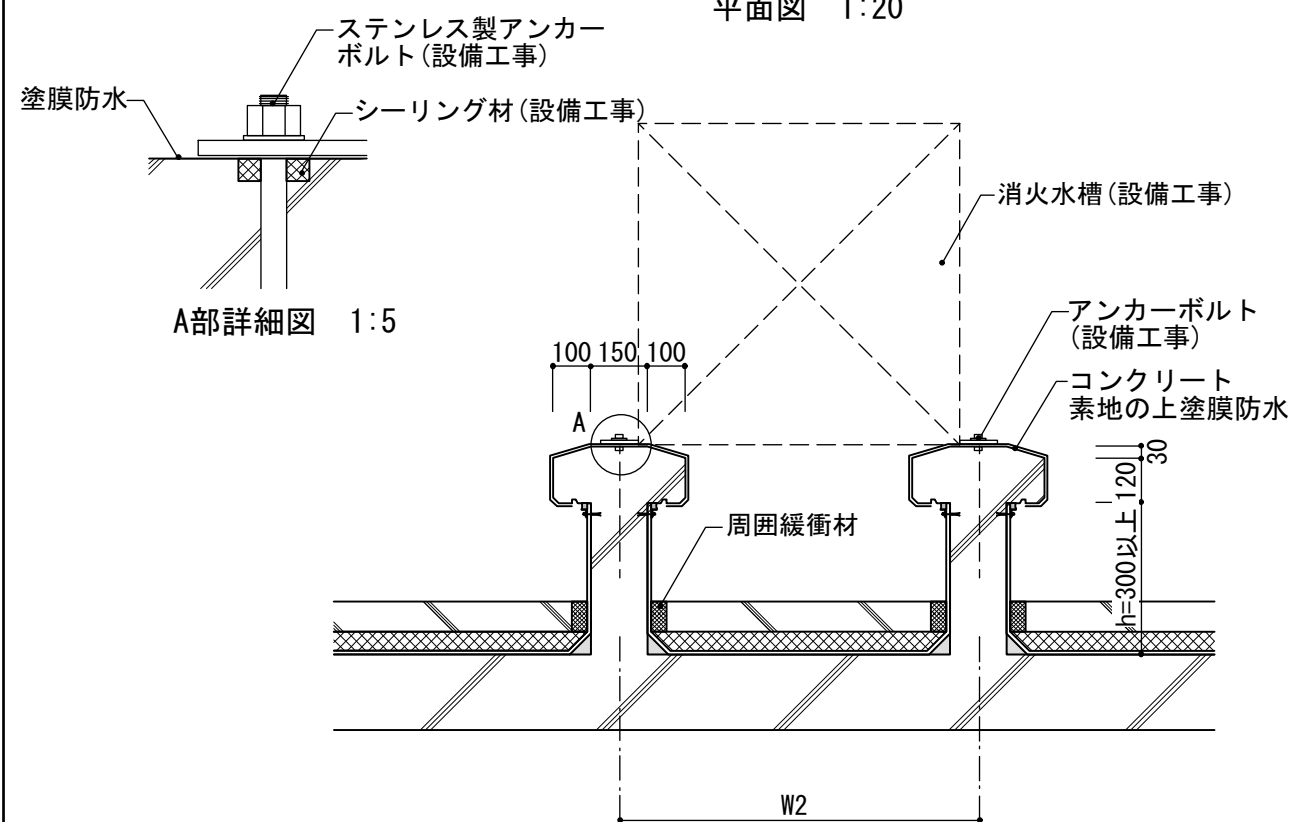
【仕様】  
・防水立上り廻りは AE-301 による。

【附記事項】  
・D1. D2. W1. W2は建物設計図による。

B 型



平面図 1:20

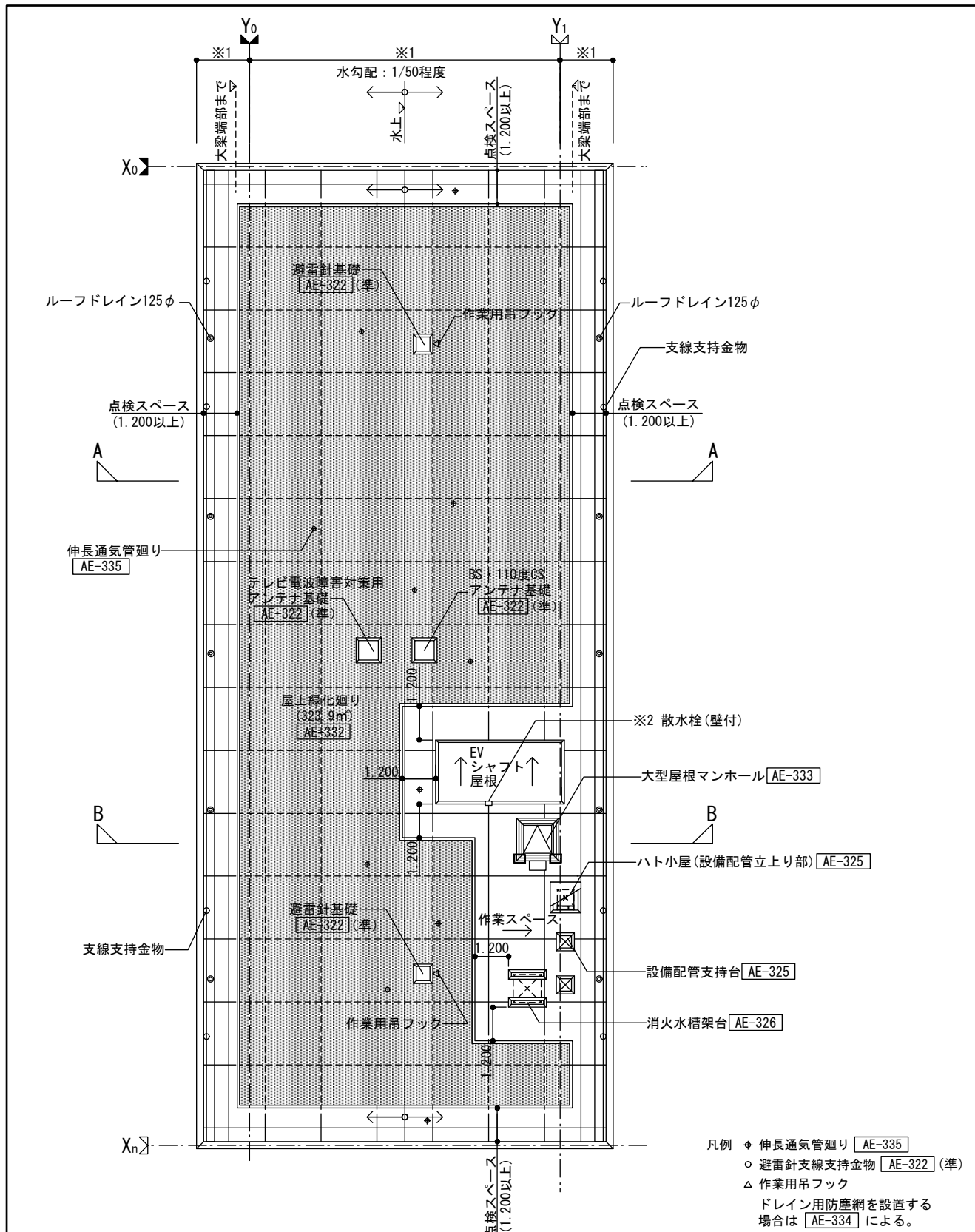


断面図 1:20

【改訂事項(公団住宅)】  
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1

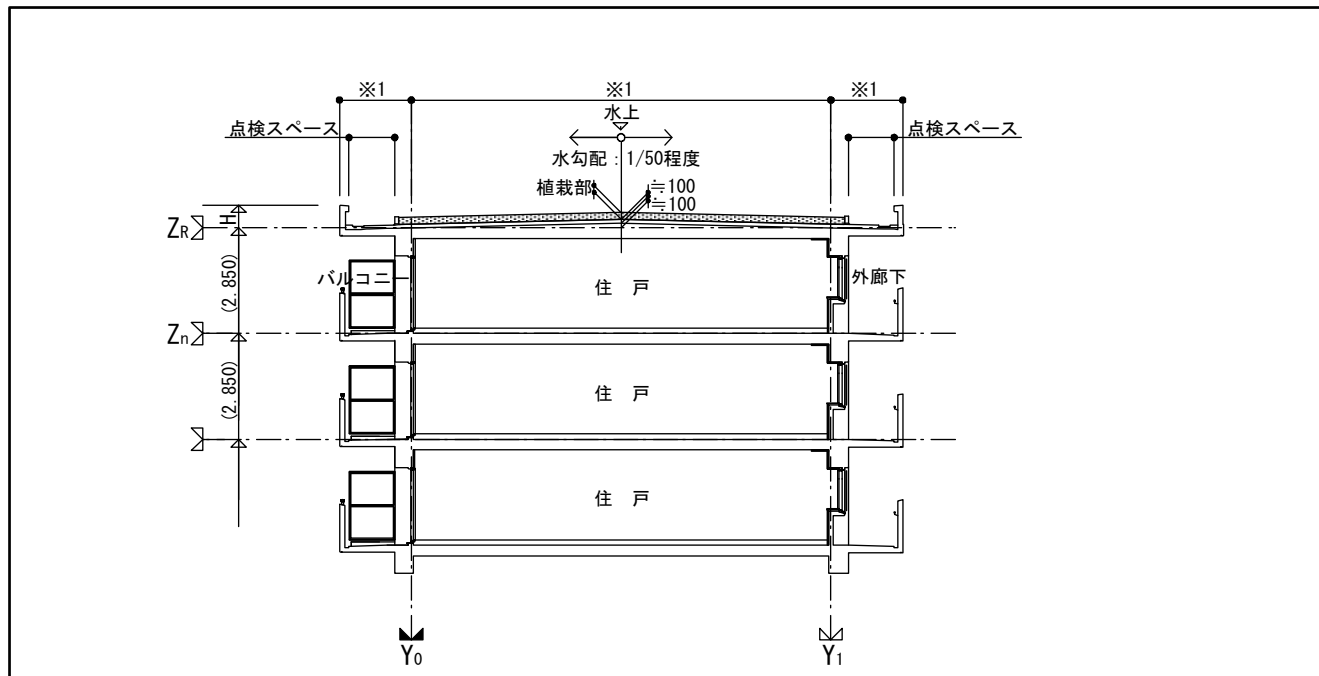
【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	消火水槽架台		
縮尺	1:5 1:20	AE - 326	頁 E-33

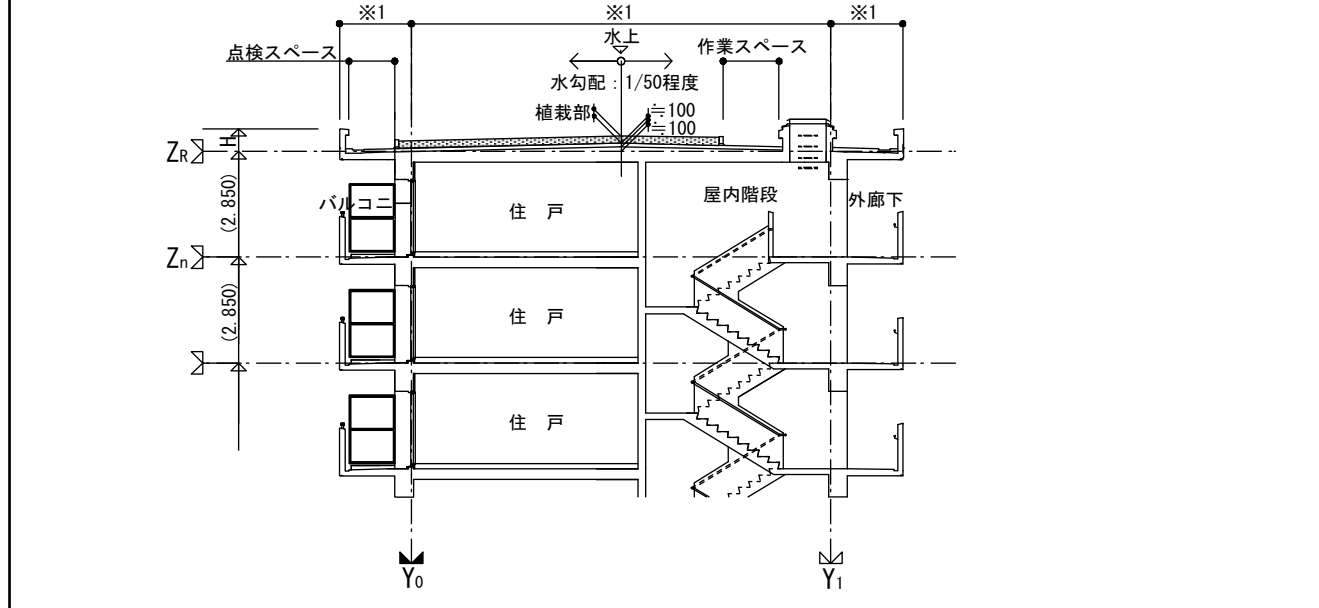


標準屋根伏図 1:200

- 【仕様】**
- パラペット防水立上り部並びにルーフトレイン廻りに直接客土が接しない仕様とする。
  - ルーフトレイン廻りは目詰まり防止に十分留意し、目視点検・清掃が容易に行える構造とする。
  - ルーフトレインは泥水などによる雨水処理性能の悪化に対応するため大型のものを用いる。(縦型ルーフトレイン125φとする。ただし、バルコニー、外廊下は従来通りの径とする。) AE-334
  - 屋根マンホールはメンテナンス時の資機材搬入に支障のない大きさのものとする。 AE-333
  - 作業用吊フックと支線支持金物は兼用しない。
  - 作業用吊フックは外壁メンテナンス等には使用しない。



標準断面図(A-A) 1:200

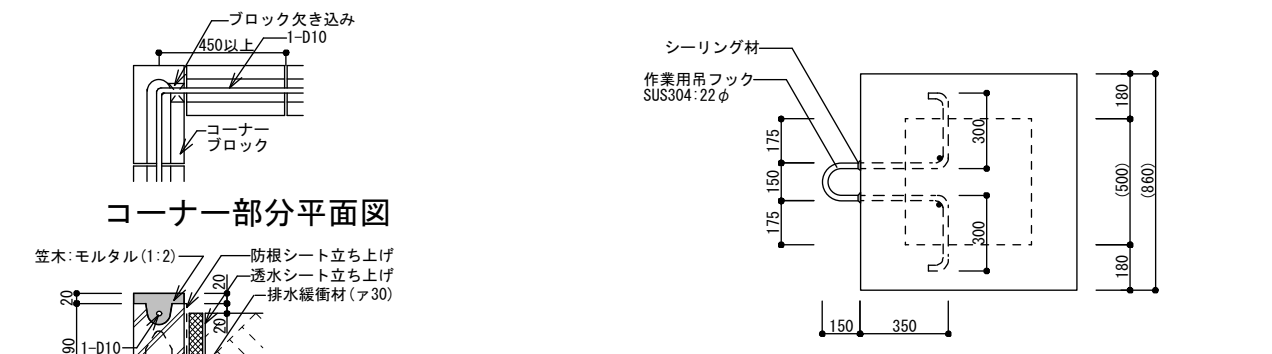


標準断面図(B-B) 1:200

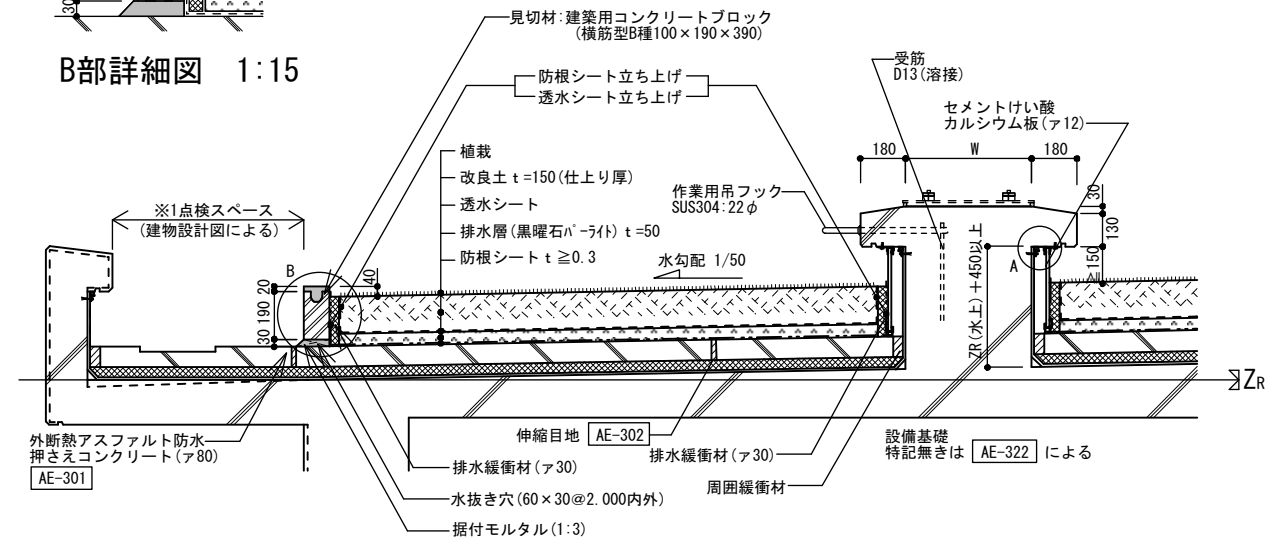
- 【附記事項】**
- ※1寸法及び点検スペース(1200mm以上、但し2階建以下の場合は600mm以上)は建物設計図による。
  - ※2散水栓の有無は建物設計図による。
  - Hは建物設計図による。

名称	屋上緑化廻り平面・断面標準図		頁 E-34
	縮尺	1:200	
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】		
・第5版(追)H.16.8.1	・第2版 H.21.12.1		

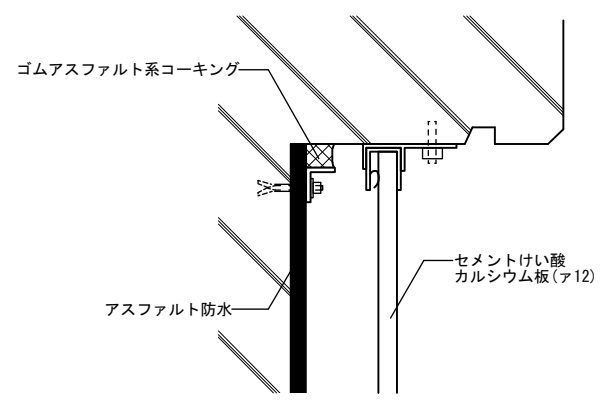




設備基礎平面図 1:30



断面図 1:30



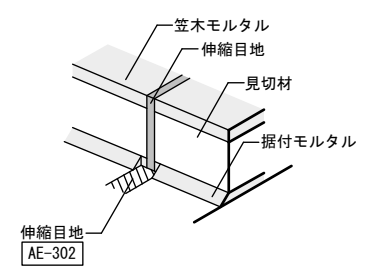
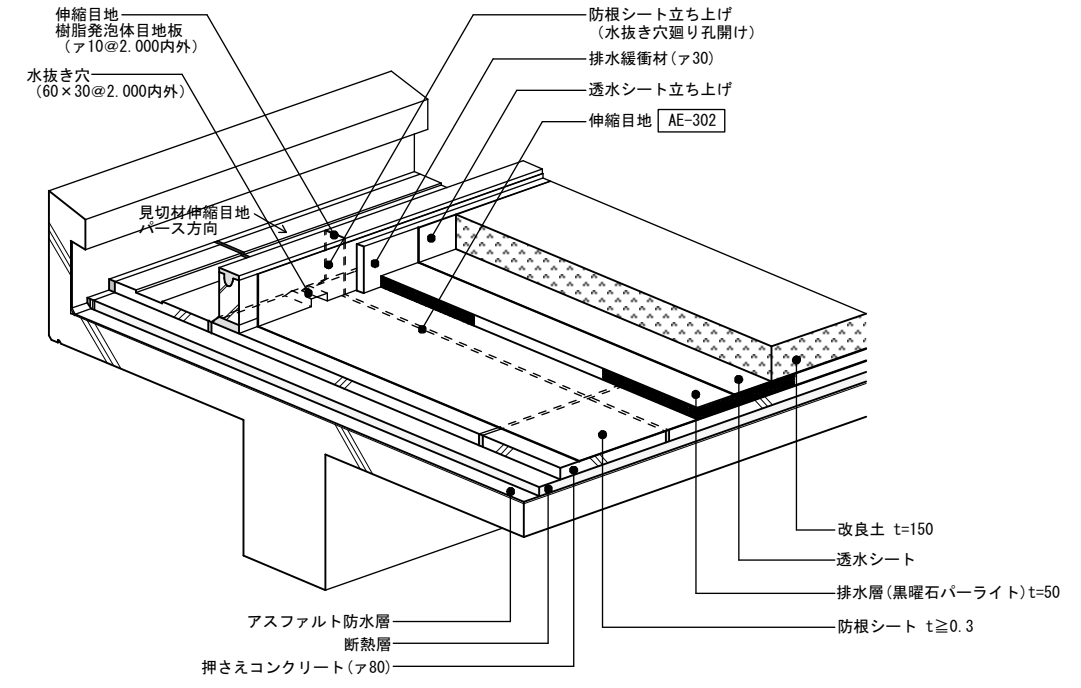
A部詳細図 1:5

**【仕様】**

- 防根シートはポリエチレン系を標準とする。又防根シートの継ぎ目は押えコンクリートの伸縮目地部附近を避け、重ね部分(400mmを標準とし、メーカー仕様による)を設ける。
- 防根シートは長手方向に縮み、幅の方向に伸びる性質があるので、長めに切断して仮置きし、24時間以上放置して巻きぐせをとり、なじむようにする。
- 排水層の透水シートはポリプロピレン系を標準とする。  
透水係数  $1.0 \times 10^{-2}$  cm/sec 以上  
引張強度 25kgf/5cm 以上 (JIS L1096) (245N/5cm) 以上
- 改良土は  
①黒土：真珠岩系パーライト=7:3又は  
②真砂土：真珠岩系パーライト=5:5
- 真珠岩系パーライトは土壌水分恒数pf1.5における比重を0.55以下とする。
- 真砂土は植栽用真砂土とする。
- 排水緩衝材はポリプロピレン系の立体網状成形品を標準とし透水シート巻きとする。
- 排水緩衝材の透水シート巻きの透水シートは、排水層の透水シートより透水係数の高い値とする。
- 水抜き穴部分は、防根シートをカットする。
- 作業用吊りフックの受筋は他の鉄筋に溶接する。
- ブロックの伸縮目地と防水層の伸縮目地は位置をそろえる。
- 防水層の伸縮目地と水抜き穴は重ならないようにする。なお排水溝は伸縮目地から400mm以上の離隔を取ることを。
- ブロックの横筋は伸縮目地ごとに切断しておく。
- 防根シート立上がりはブロックモルタル塗りの天端から20mm下がりとする。
- 透水シート立上がりは客土地際までとする。
- 客土は排水層厚50mm+改良土厚150mmが確保出来る様にする。
- ブロックモルタル塗りの天端からおよそ40mm下がりを客土面とする。
- 見切材の伸縮目地は押えコンクリート天端より据付モルタルを切断し、笠木モルタル天端に達する範囲までを施工範囲とする。

**【附記事項】**

- 散水栓の有無は建物設計図による。

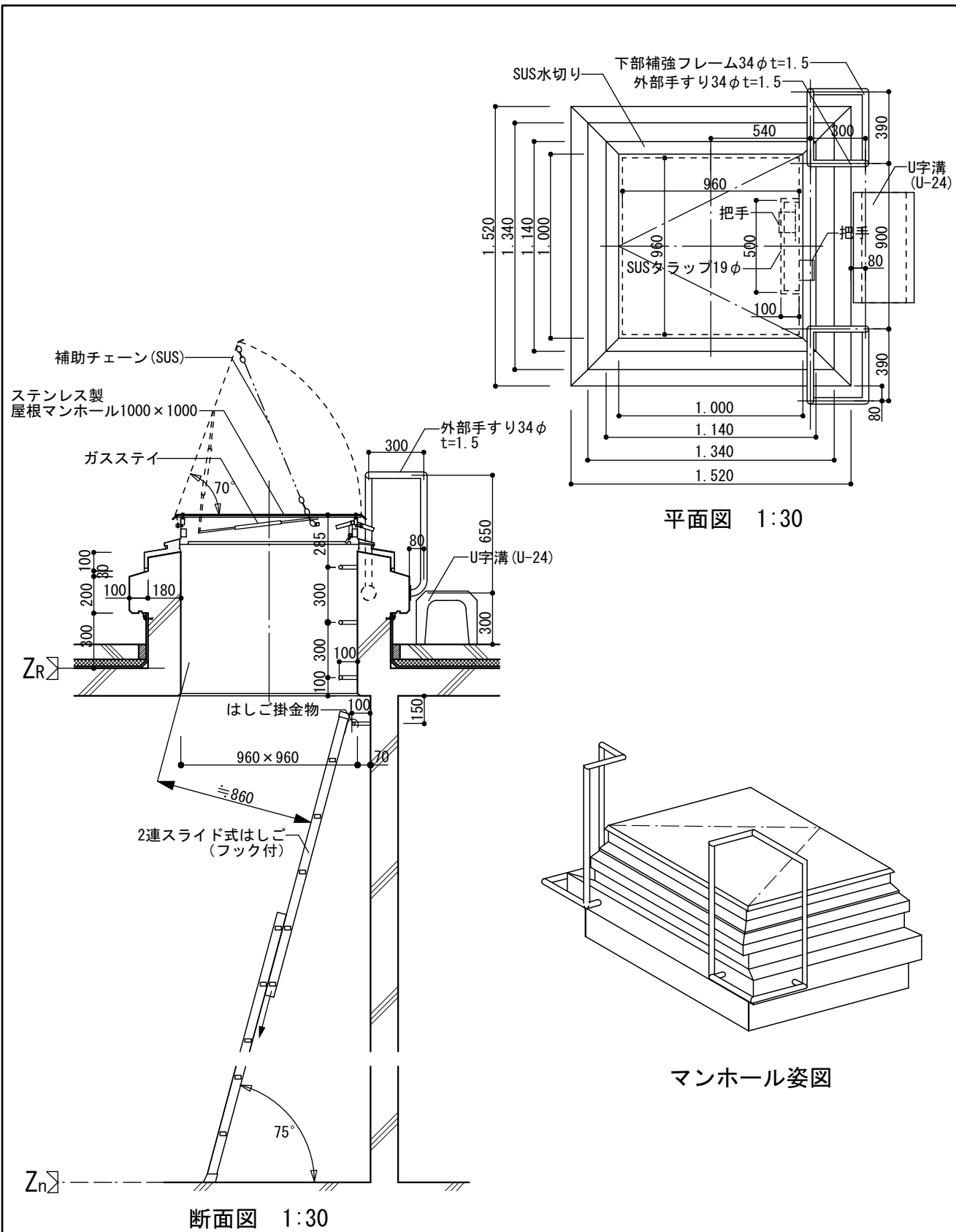


見切材伸縮目地部分

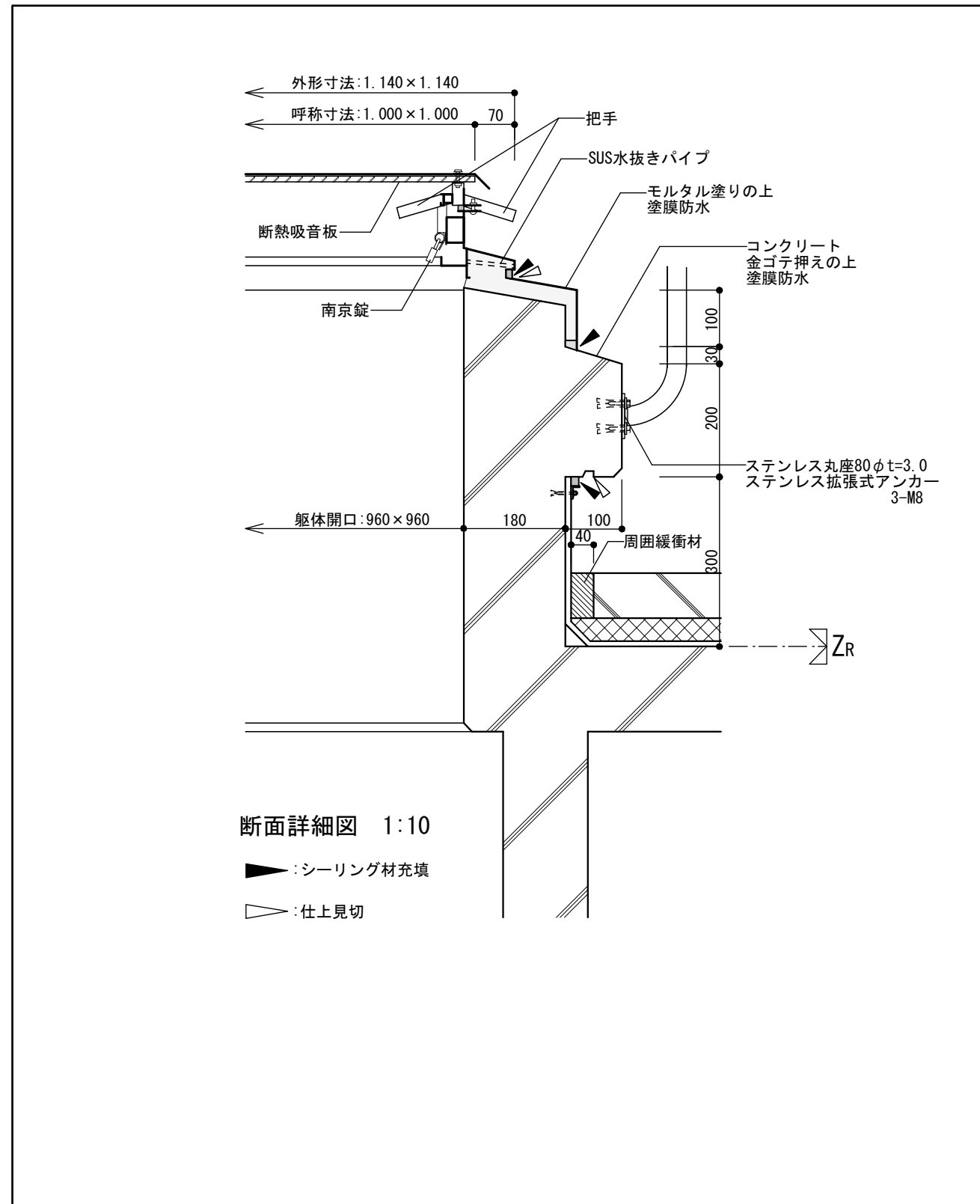
**【附記事項】**

- ※1点検スペース(1,200mm以上、但し2階建以下の場合600mm以上)は建物設計図による。
- 工事範囲は建物設計図による。

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b>	名称	屋上緑化断面標準図(薄層土壌)	
・第5版(追) H.16. 8. 1	・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H.31. 4. 1		縮尺	1:5 1:15 1:30
			AE - 332	

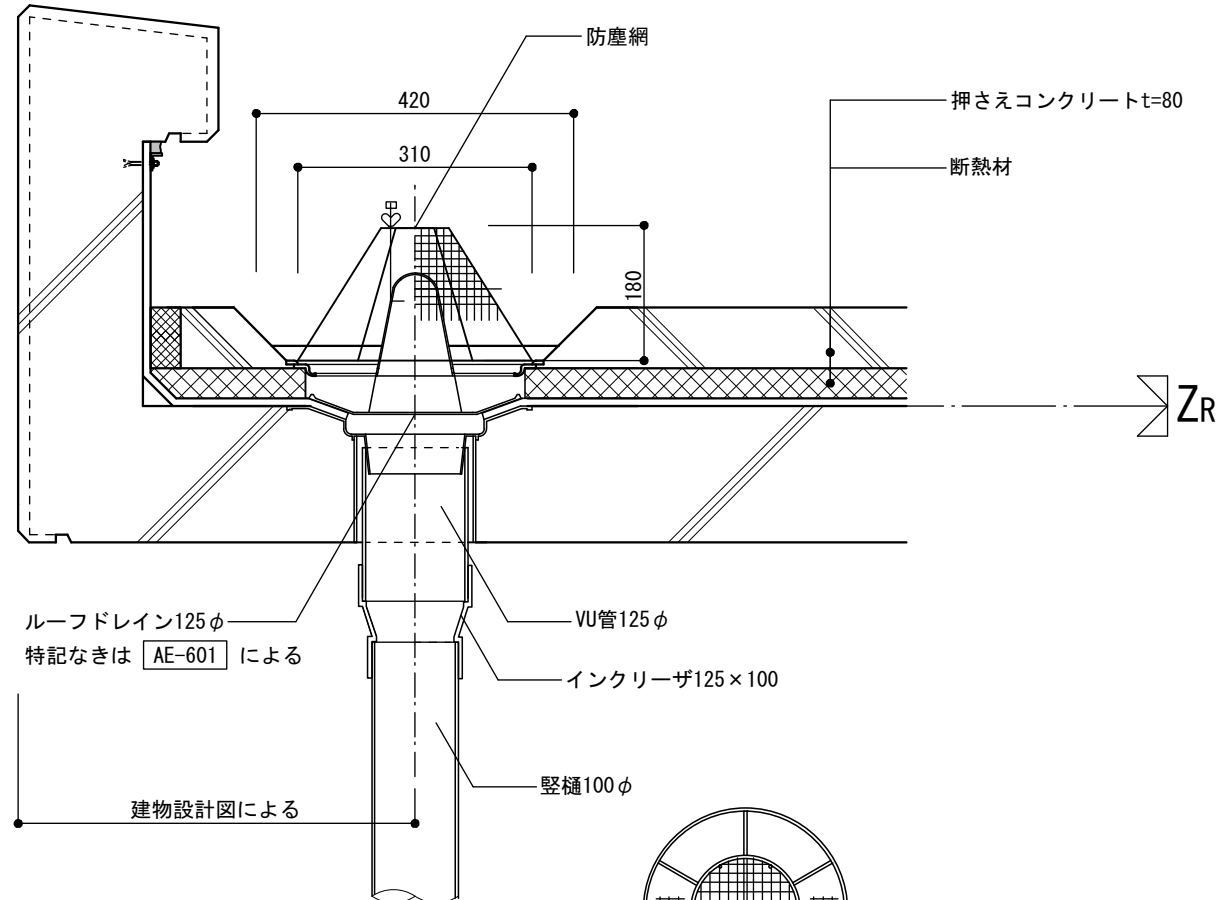


- 【仕様】**
- ・外断熱屋根防水廻りは AE-301 による。
  - ・タラップ廻り及び内部壁仕上要領は AE-320 に準じる。
  - ・屋根マンホールはステンレス製とする他メーカー仕様による。(SUS304ヘアライン仕上)
  - ・外部手すりはステンレス製とする。(SUS304ヘアライン仕上)
  - ・スラブの補強筋は構造設計図による。
  - ・南京錠付とする。(受け金具:SUSアングル加工)
  - ・あおり止め、指はさみ防止措置を講じる。(補助チェーン取付)
  - ・はしご 型式:2連スライド式(フック付) 材質:アルミ製
  - ・はしご掛金物:φ19 L=500 材質:SUS304
  - ・フックは荷重に耐えられる十分な強度を確保する。
  - ・はしごはエレベーターに入る長さに縮められるものとする。
  - ・本ディテールによるはしごの長さは3600mm以下とする。

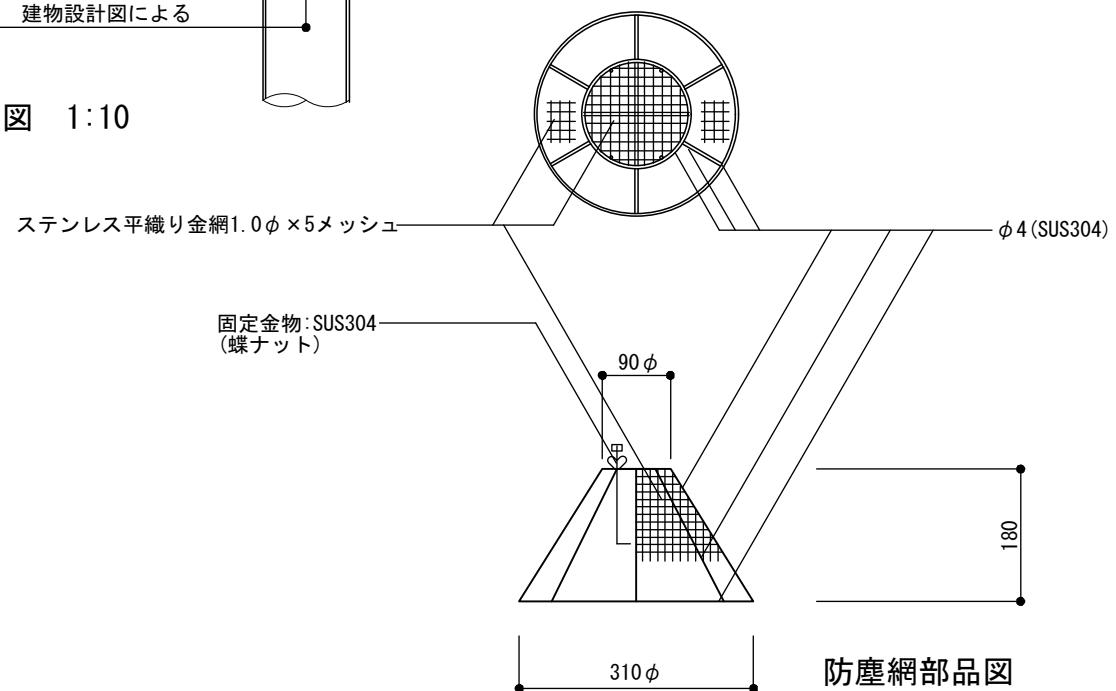


- 【附記事項】**
- ・取付位置は建物設計図による。
  - ・屋根マンホール廻り2m範囲内は点検・作業スペースのため緑化しない。
  - ・はしごの収納場所を考慮する。
  - ・はしごは管理上支障のない範囲で複数棟の共有とし、各工事単位におけるはしごの有無は建物設計図による。

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b>	名称	大型屋根マンホール〔型式図〕		頁 E-36
・第5版(追) H. 16. 8. 1	・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1		縮尺	1:10 1:30	



断面図 1:10

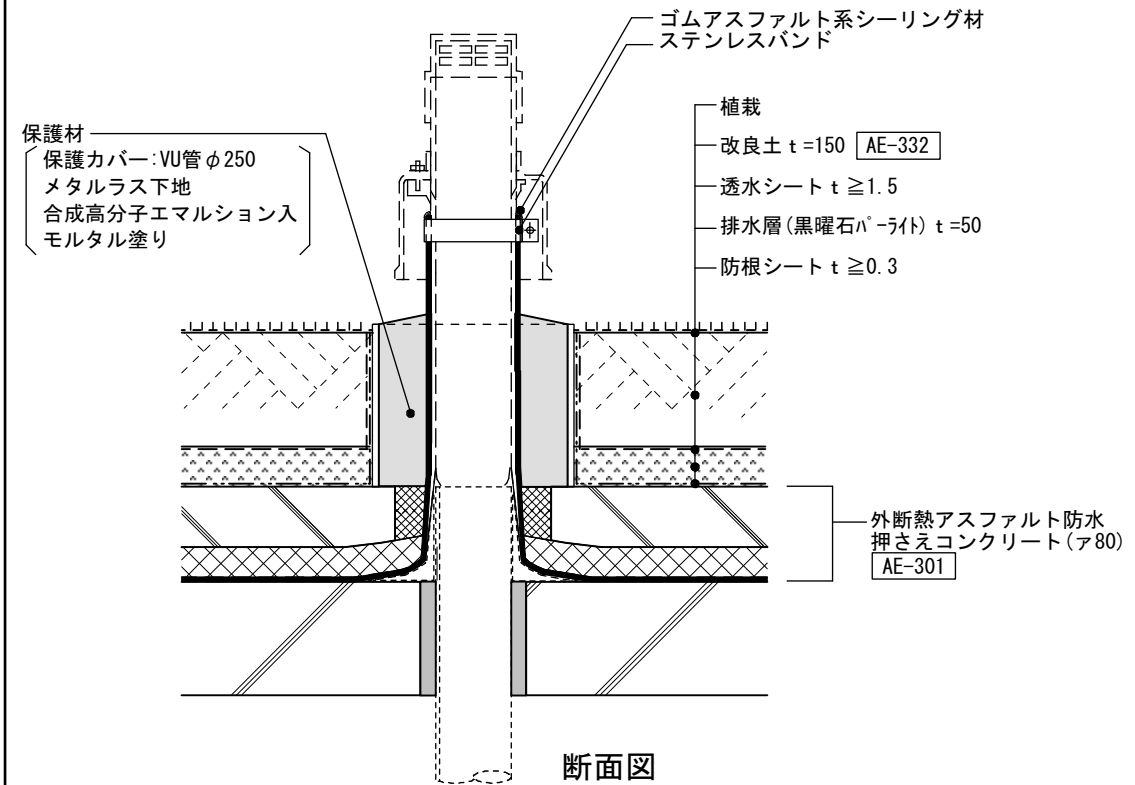
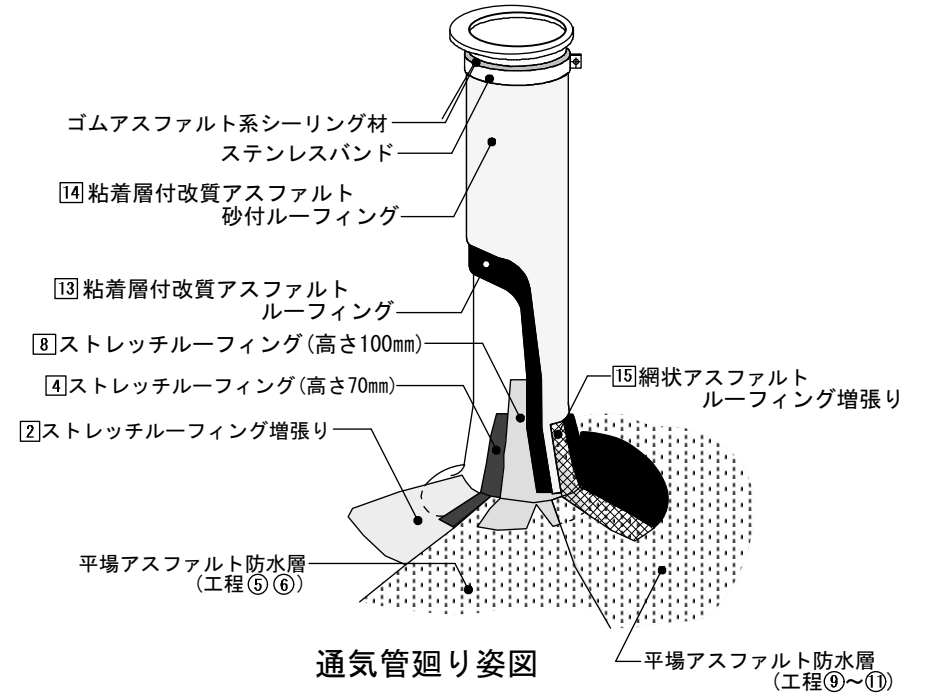


- 【仕様】
- ・防塵網はステンレス製とする。
  - ・外断熱屋根防水廻りは AE-301 による。

【附記事項】

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 【改訂事項(公団住宅)】        | 【改訂事項(機構住宅)】       |
| ・第5版(追) H. 16. 8. 1 | ・第2版 H. 21. 12. 1  |
|                     | ・第2版3刷 H. 31. 4. 1 |

名称	ドレイン用防塵網〔型式図〕		
縮尺	1:10	AE - 334	頁 E-37



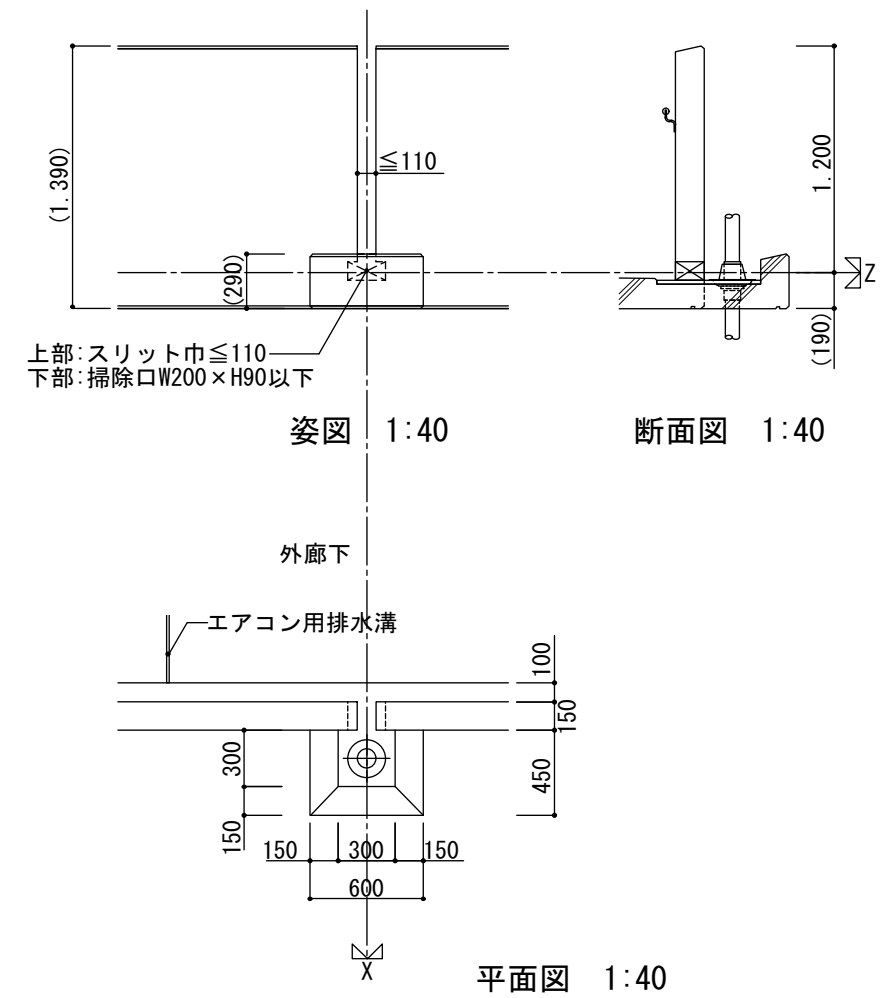
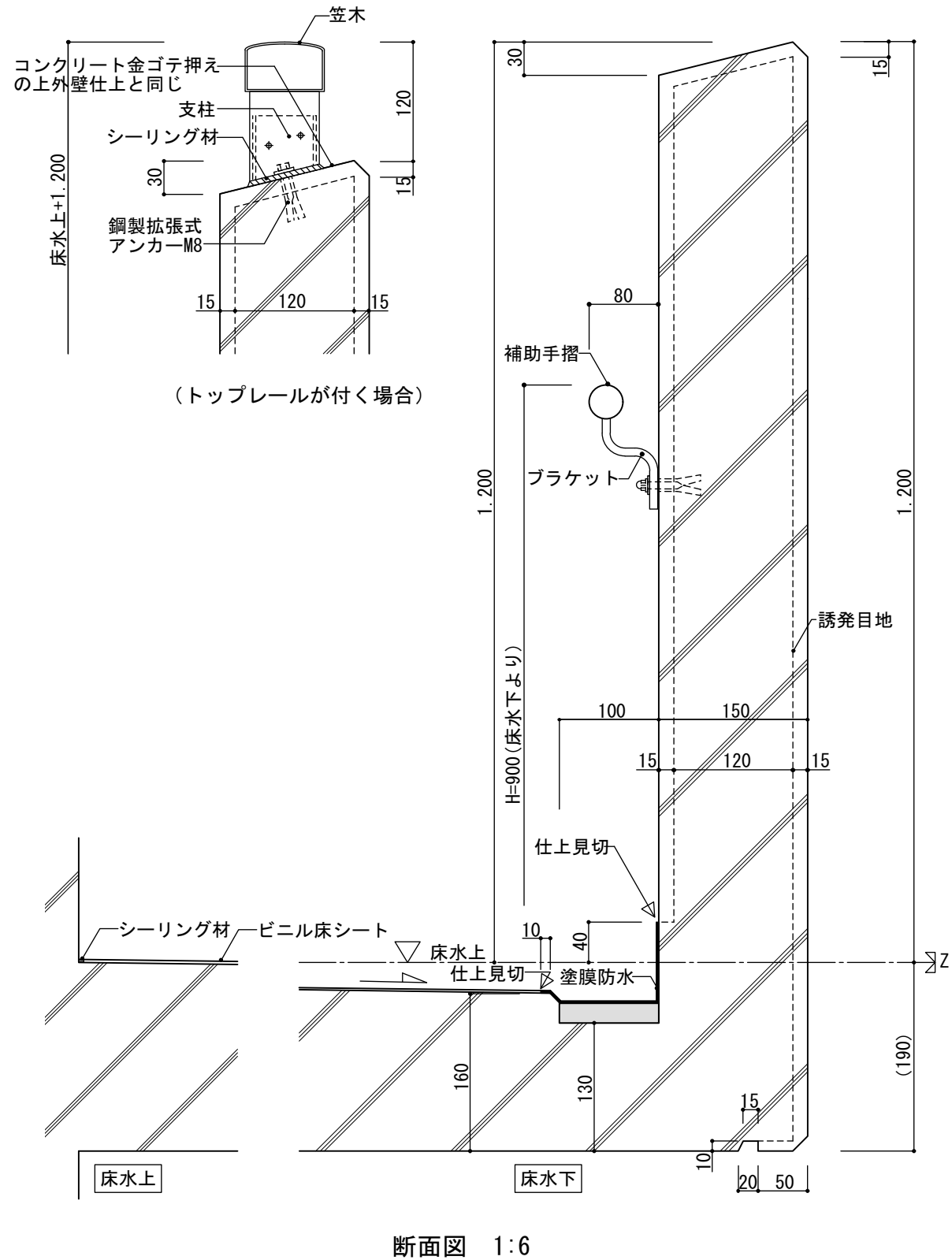
- 【仕様】
- ・伸長通気管廻りの防水は下記による。
- |  |   |   |
|--|---|---|
| ① アスファルトプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup> (通気管下部及び平場) | ⑥ ストレッチルーフィング アスファルト流し張り 1.0kg/m <sup>2</sup> | ⑪ アスファルト 1.0kg/m <sup>2</sup> (通気管下部及び平場) |
| ② ストレッチルーフィング増張り                               | ⑦ アスファルト 1.0kg/m <sup>2</sup>                 | ⑫ アスファルトプライマー 0.2kg/m <sup>2</sup>        |
| ③ アスファルト 1.0kg/m <sup>2</sup>                  | ⑧ ストレッチルーフィング(高さ100mm)                        | ⑬ 粘着層付改質アスファルトルーフィング                      |
| ④ ストレッチルーフィング(高さ70mm)                          | ⑨ ストレッチルーフィング アスファルト流し張り 1.0kg/m <sup>2</sup> | ⑭ 粘着層付改質アスファルト砂付ルーフィング                    |
| ⑤ アスファルトルーフィング アスファルト流し張り 1.0kg/m <sup>2</sup> | ⑩ アスファルト 1.0kg/m <sup>2</sup> (通気管下部及び平場)     | ⑮ 網状アスファルトルーフィング増張り                       |
- 数字の工程は「公共住宅建設工事共通仕様書」9.2.4表「屋根保護防水密着断熱工法」によるもの。

【附記事項】

- ・特記なき部分は AE-325 による。

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】
・第5版(追) H. 16. 8. 1	・第2版 H. 21. 12. 1
	・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	伸長通気管廻り〔型式図〕		
縮尺	1:10	AE - 335	頁 E-38



【仕様】

- 補助手摺の仕様は AE-112 による。

【転落防止のための手摺について】

- 標準高さは床面（水上）からH=1,200mmとし、足掛かりは設けない。（最低限確保する高さは、法令及び住宅性能基準等による、床面から1,100mm以上とする。）
- 手すり子タイプの手すりは設置しない。
- スリット等を設ける場合は、内法寸法で幅110mm以下とすること。
- 高さが650mm未満の足がかりが生じた場合は足がかりから1,200mm以上の高さとする。（最低限確保する高さは1,100mm以上とする。）

- 雨掛かり部のビニル床シート端部処理は特記による。
- 支柱を貫通してボルト類を設置する場合は、支柱への水の浸入を防ぐため、袋ナットやワッシャーを防水パッキン付にするなどの止水対策を行う。

【附記事項】

- 笠木及び補助手摺は型式の一例を示している。
- 補助手摺の有無は建物設計図による。

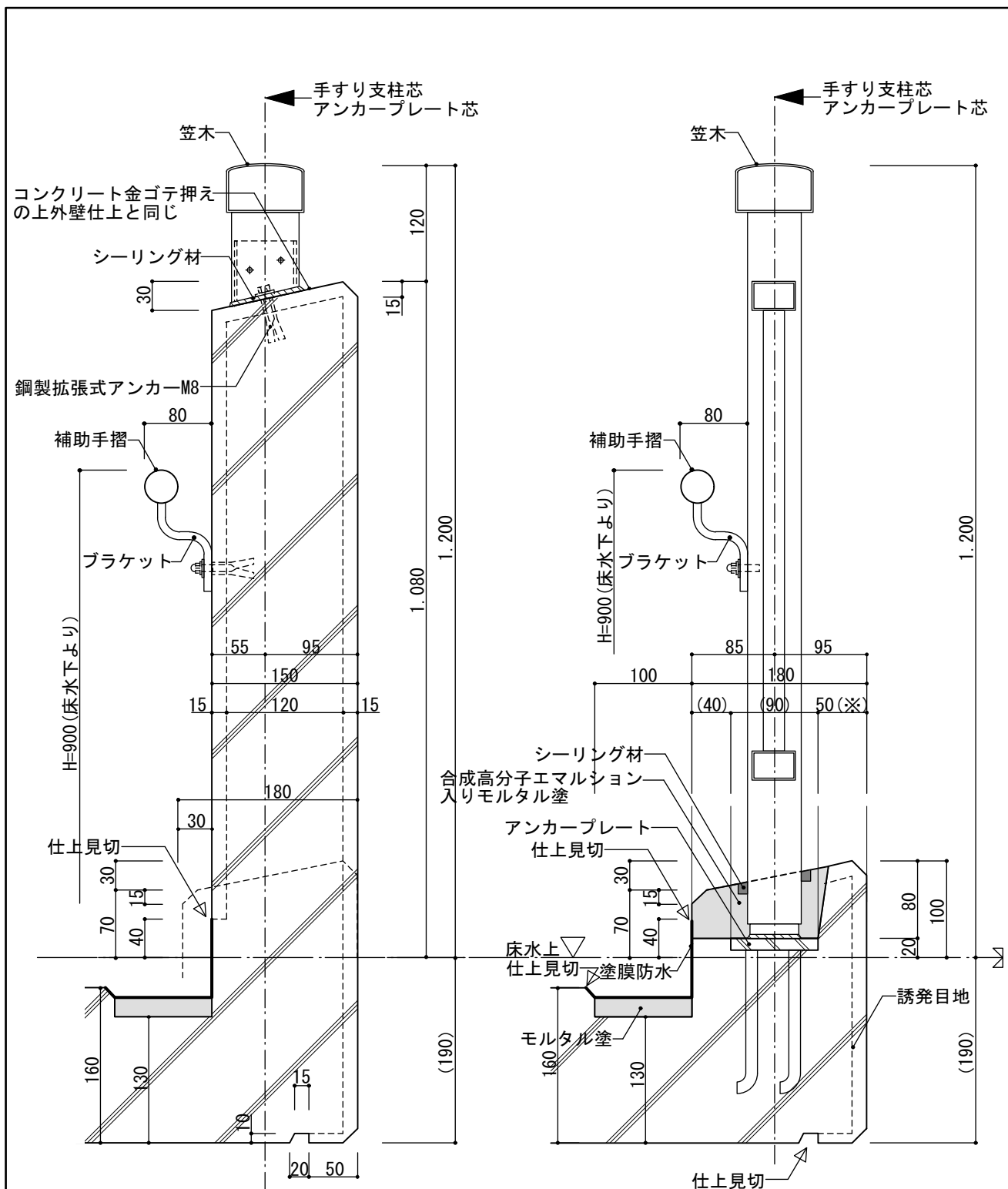
【改訂事項（公団住宅）】

- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第4版2刷 H. 10. 2. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1
- 第5版（追）H. 16. 8. 1

【改訂事項（機構住宅）】

- 第2版 H. 21. 12. 1
- 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	共用外廊下手摺図-1〔型式図〕		
縮尺	1:6 1:40	AE - 401 - 1	頁 E-39

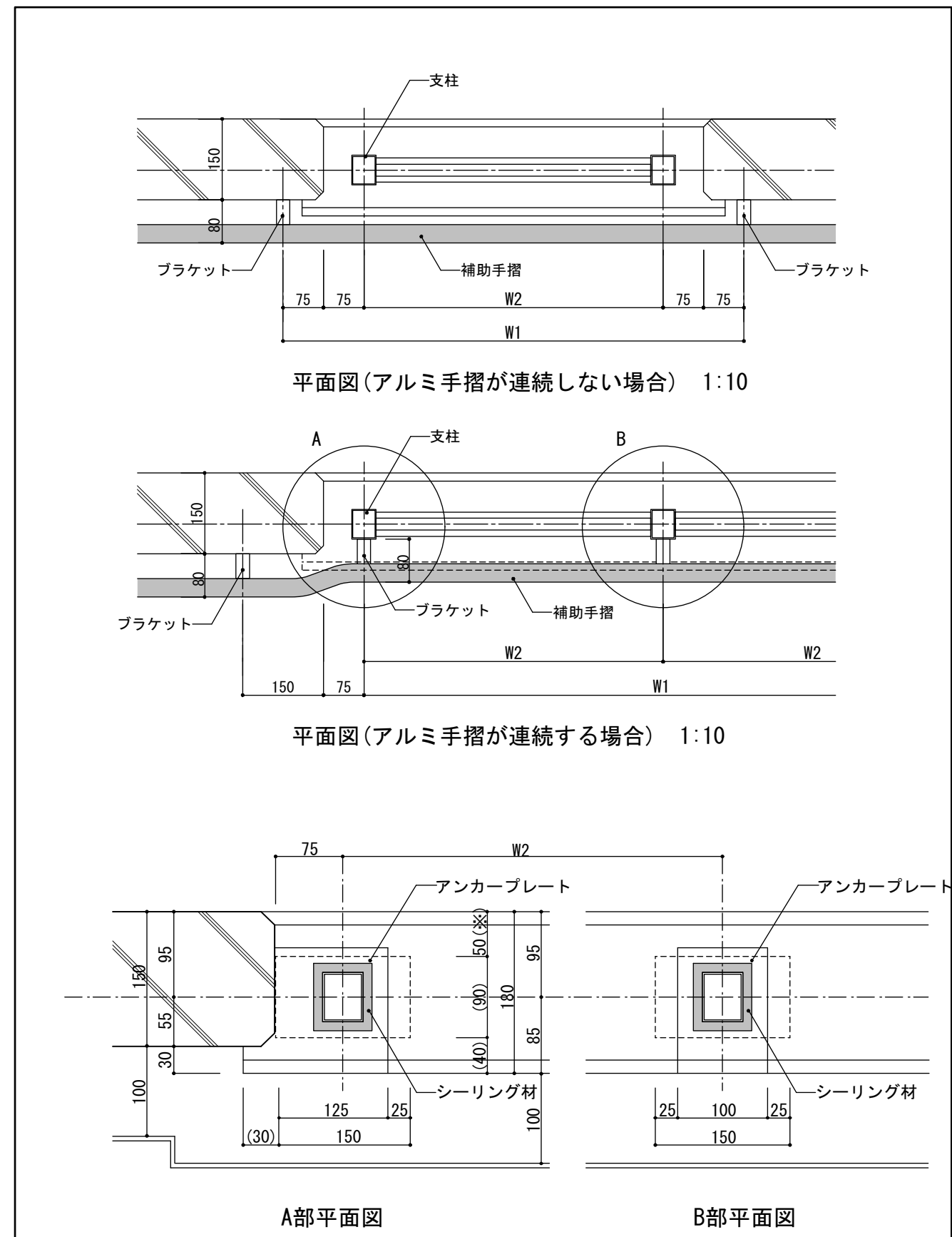


断面図A 1:6

断面図B 1:6

- 【仕様】
- 補助手摺の仕様は AE-112 による。
- 【附記事項】
- 笠木及び補助手摺は型式の一例を示している。
  - 補助手摺の有無は建物設計図による。
  - W1・W2は建物設計図による。
  - 支柱廻りの配筋は構造との協議による。

- (※)手すり支柱基部のかぶり厚さについては、SR-002「鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さの最小値」の表の「スラブ・非耐力壁—屋外に面する部分」のかぶり厚さとする。
- 支柱の取付けを無溶接埋込アンカー工法で行う場合は AE-401-3 による。

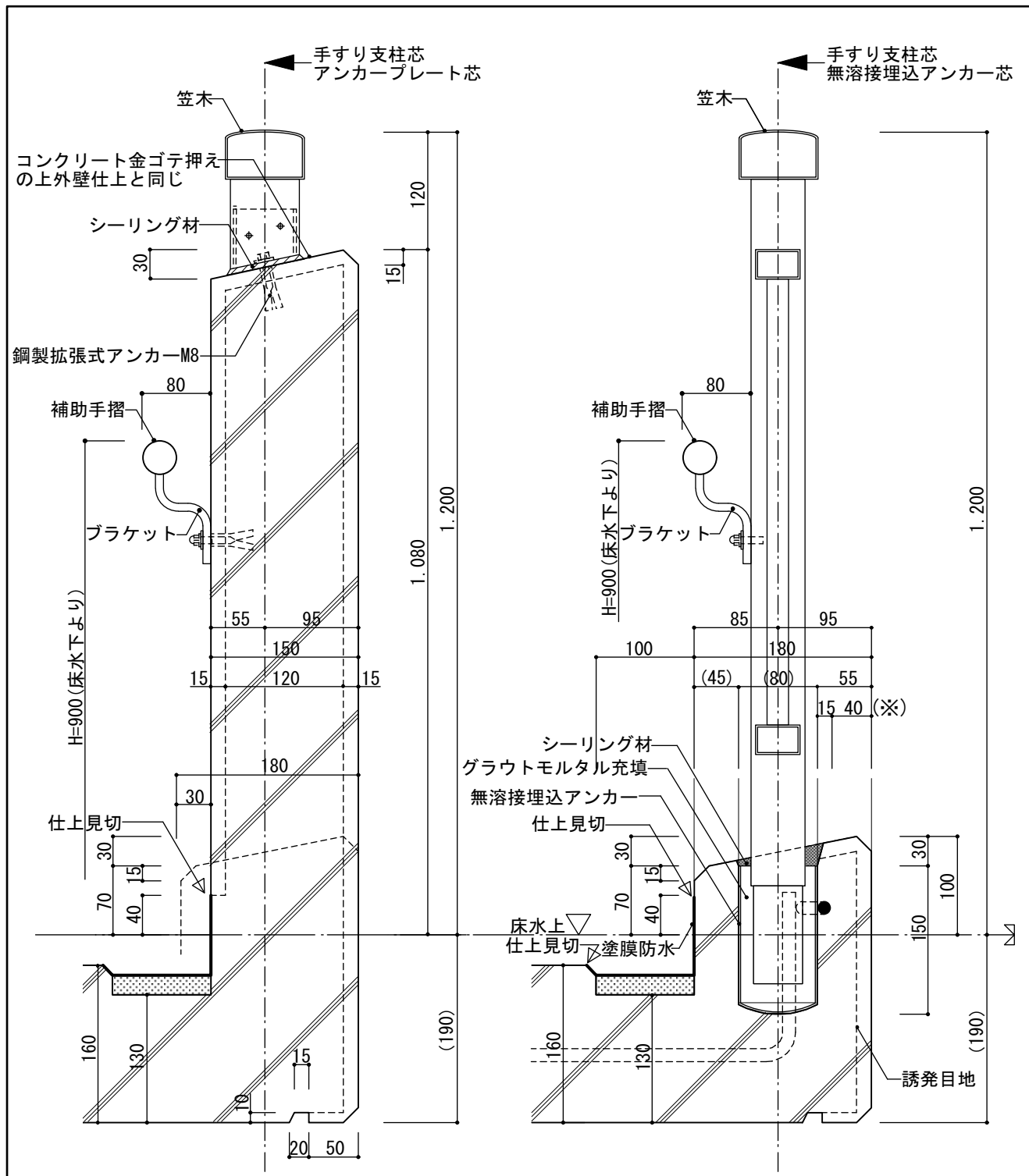


A部平面図

B部平面図

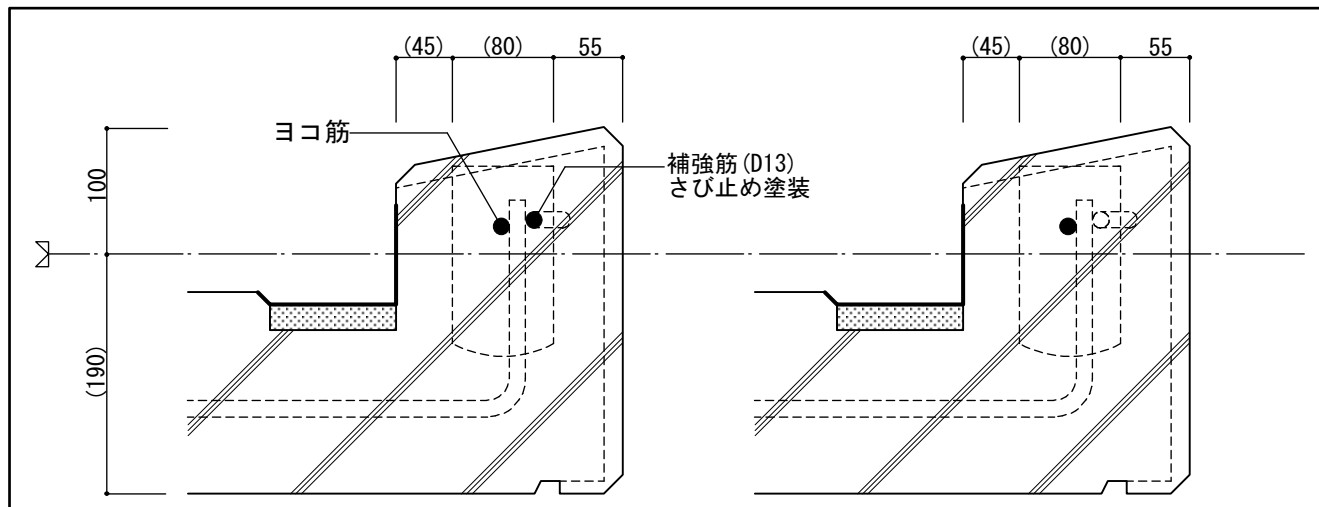
平面図 1:6

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	共用外廊下手摺図-2 (アンカー工法) [型式図]	
・第4版 H. 8. 10. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1	縮尺	1:6	AE - 401 - 2
・第4版2刷 H. 10. 2. 1			1:10	
・第5版 H. 13. 11. 1				頁 E-40
・第5版(追) H. 16. 8. 1				



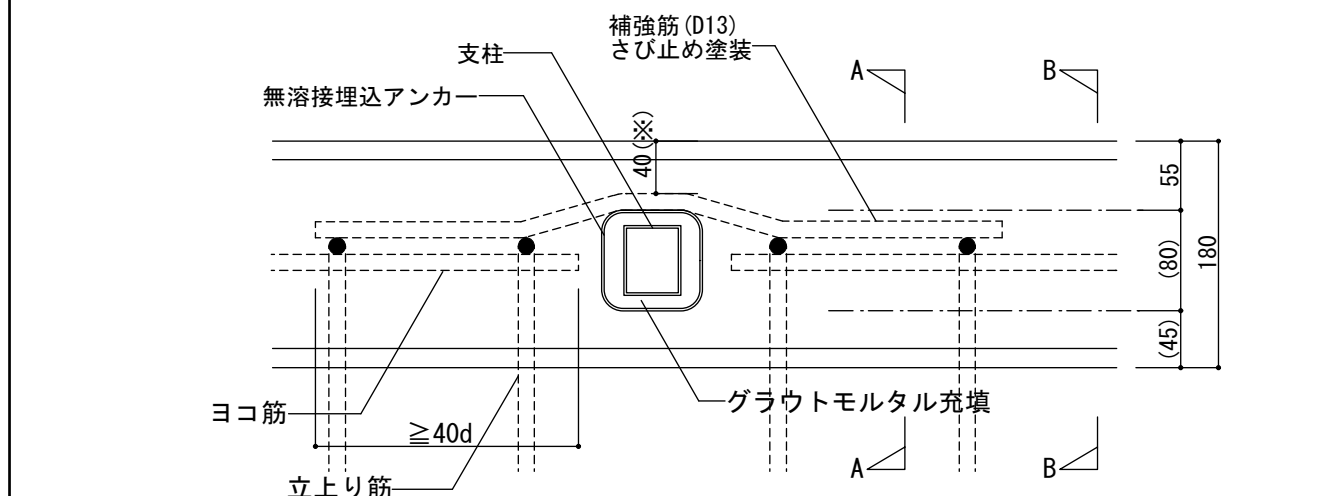
断面図 1:6

断面図 1:6

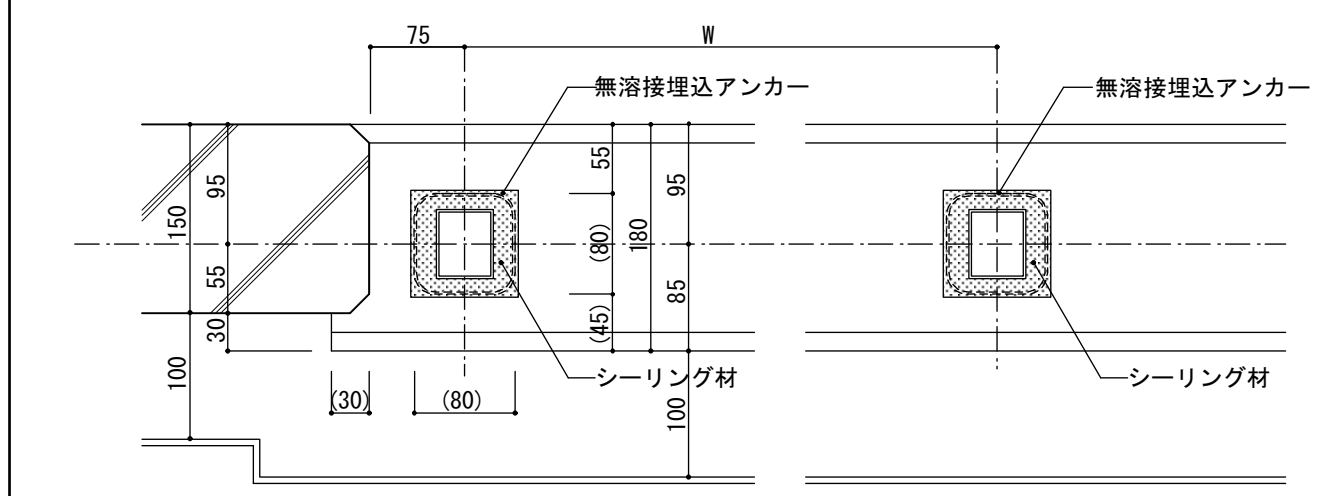


A-A断面図 1:6

B-B断面図 1:6



支柱廻り補強筋平面図 1:6



A部平面図

B部平面図

平面図 1:6

**【仕様】**

- 補助手摺の仕様は AE-112 による。
- 支柱を貫通してボルト類を設置する場合は、支柱への水の進入を防ぐ為、袋ナットやワッシャーを防水パッキン付にするなどの止水対策を行うこと。

**【附記事項】**

- 笠木及び補助手摺は型式の一例を示している。
- 補助手摺の有無は建物設計図による。

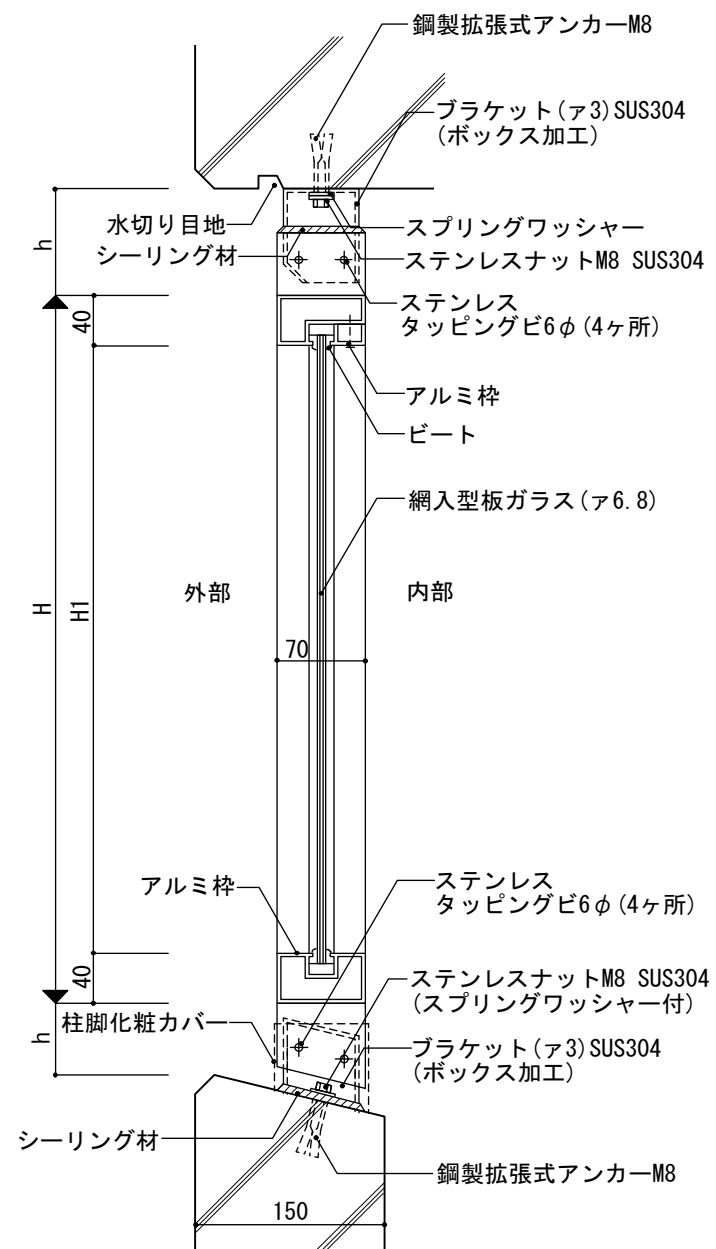
・ W1・W2は建物設計図による。

・ 支柱廻りの配筋は構造との協議による。

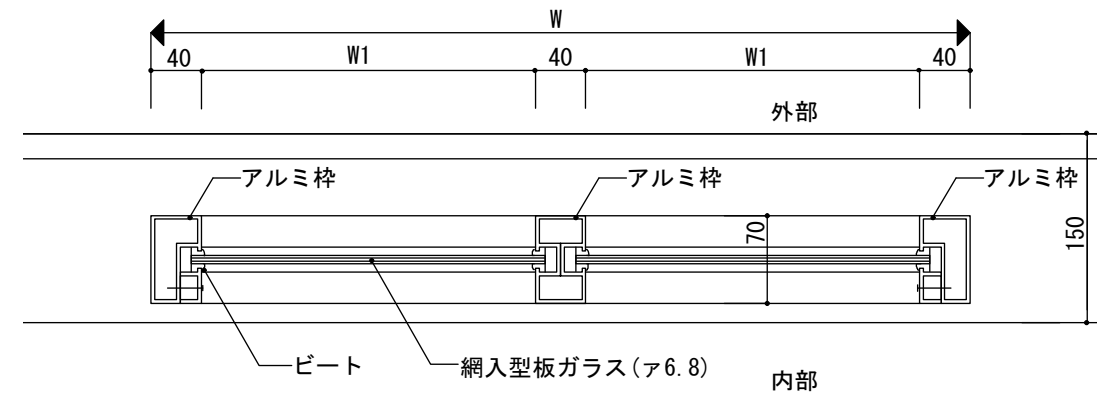
・ (※)手すり支柱基部のかぶり厚さについては、SR-002「鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さの最小値」の表の「スラブ・非耐力壁—屋外に面する部分」のかぶり厚さとする。

・ 支柱の取付けをアンカー工法で行う場合は AE-401-2 による。

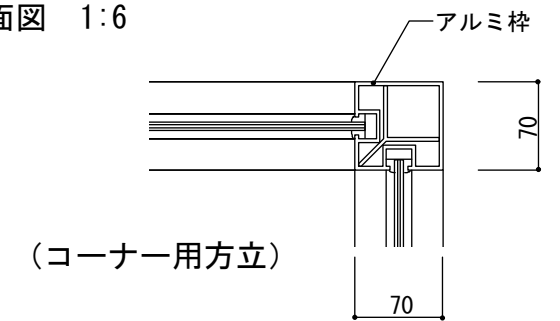
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	共用外廊下手摺図-3 (無溶接埋込アンカー工法) 〔型式図〕		頁 E-41
・ 第4版 H. 8. 10. 1	・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1		縮尺	1:6 1:10	
・ 第4版2刷 H. 10. 2. 1					
・ 第5版 H. 13. 11. 1					
・ 第5版(追) H. 16. 8. 1					



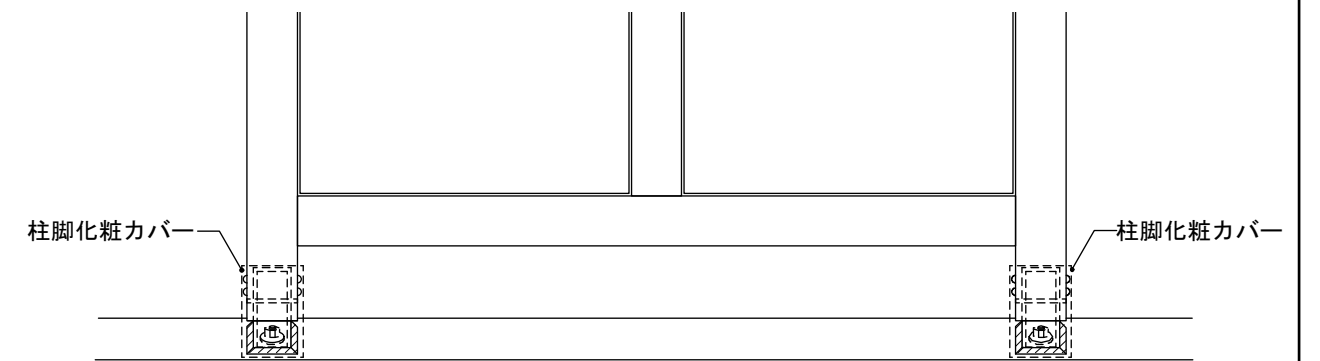
断面図 1:6



平面図 1:6



(コーナー用方立)



立面図 1:6

【仕様】

- ・ 枠はアルミニウム合金押出型材とし、「公共住宅建設工事共通仕様書」14.2.2による。
- ・ 支柱の小口は見え掛り丸くする。
- ・ ブラケットとアルミ建具の固定は現場で穿孔した上ステンレスタッピングビスにて取付ける。
- ・ W1は900程度以下とし、H1は1,200程度以下とする。
- ・ ガラスの下辺及び縦小口には防錆塗料を用い、防錆処置を行う。ただし施工時にガラスの上下が確認できないものは四周を防錆処理する。
- ・ 下枠には結露水の水抜穴を設けること。
- ・ 支柱を貫通してボルト類を設置する場合は、支柱への水の進入を防ぐ為、袋ナットやワッシャーを防水パッキン付にするなどの止水対策を行うこと。

【附記事項】

- ・ W, W1, H, H1, hは建物設計図による。
- ・ 取付位置は建物設計図による。
- ・ 柱脚化粧カバーはメーカー仕様とし、取り付けの有無は建物設計図による。

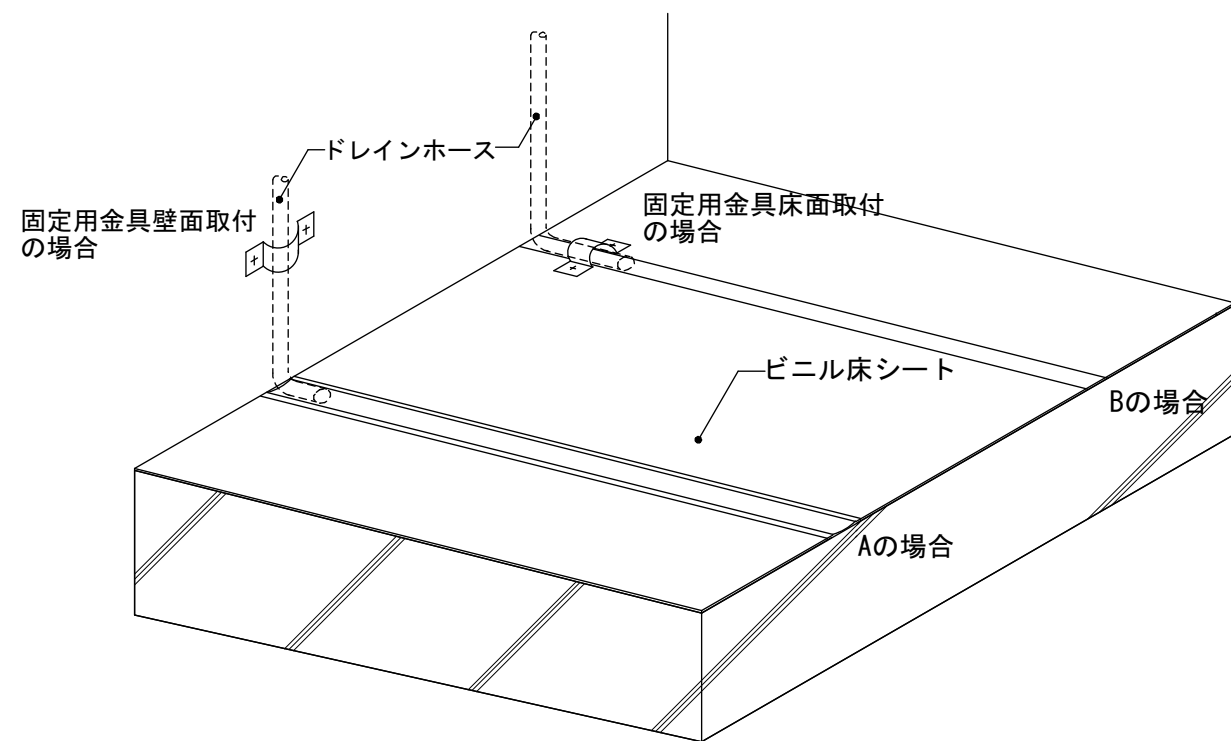
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

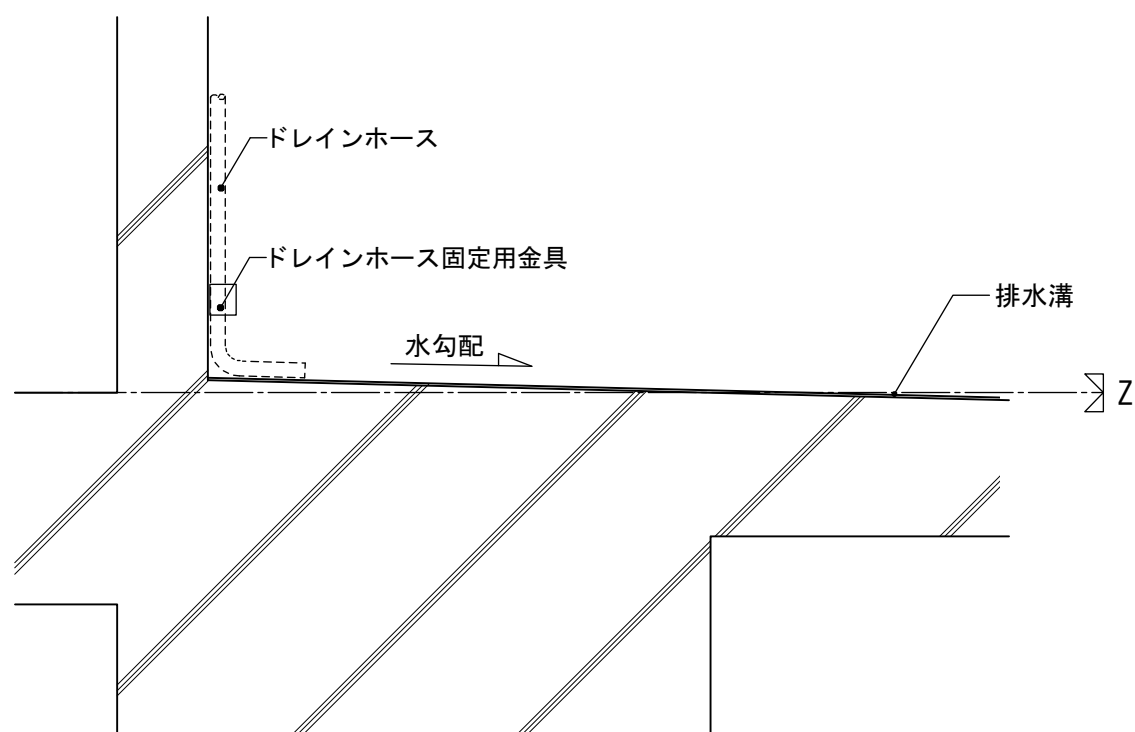
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

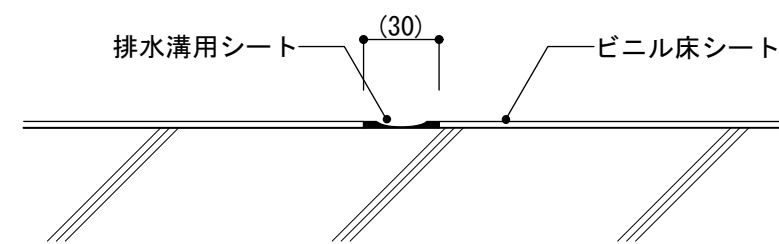
名称	防風スクリーン〔型式図〕		
縮尺	1:6	AE - 402	頁 E-42



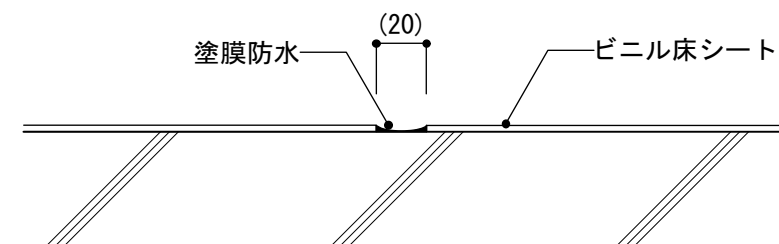
エアコン用排水溝姿図



エアコン置場断面図 1:10



A:排水溝用シート型



B:ビニル床シートカット型

エアコン用排水溝断面図 1:3

【仕様】

- ・排水溝用シートの材質は樹脂製とする。
- ・ドレインホース固定金具の材質はステンレス製又は樹脂製とし建物設計図による。
- ・雨掛かり部のビニル床シート端部処理は特記による。

【附記事項】

- ・排水溝の種別、位置は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

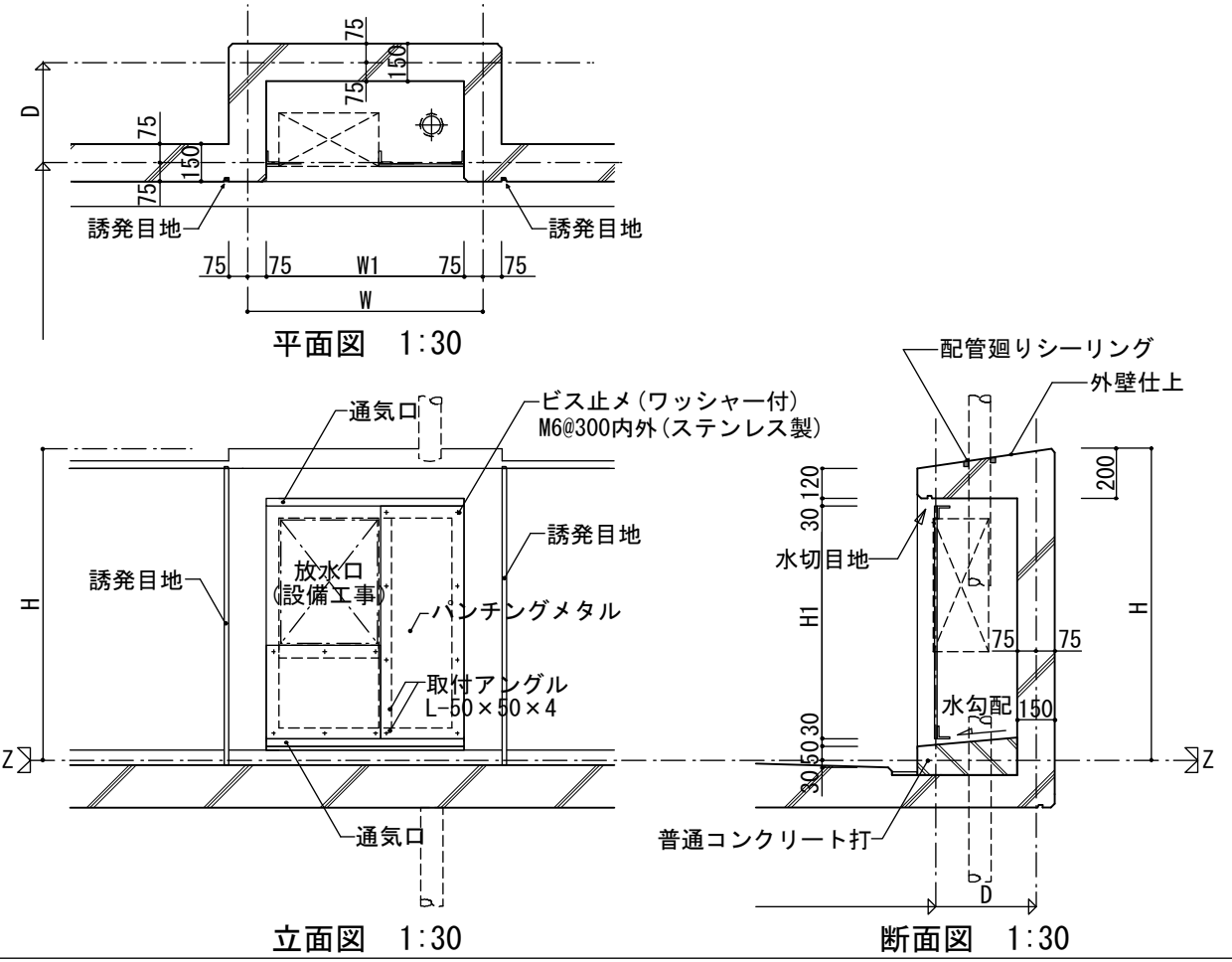
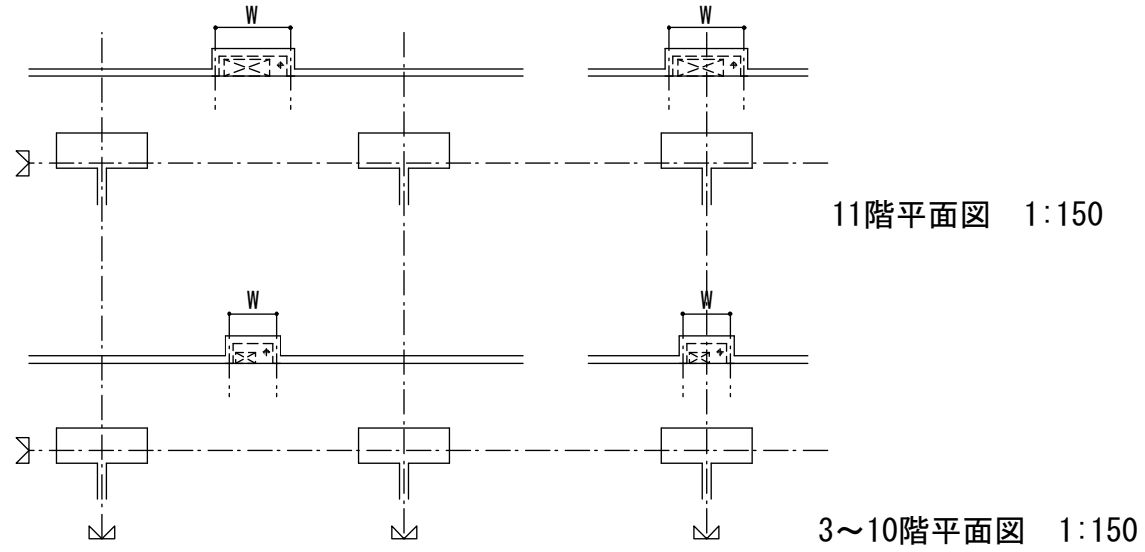
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

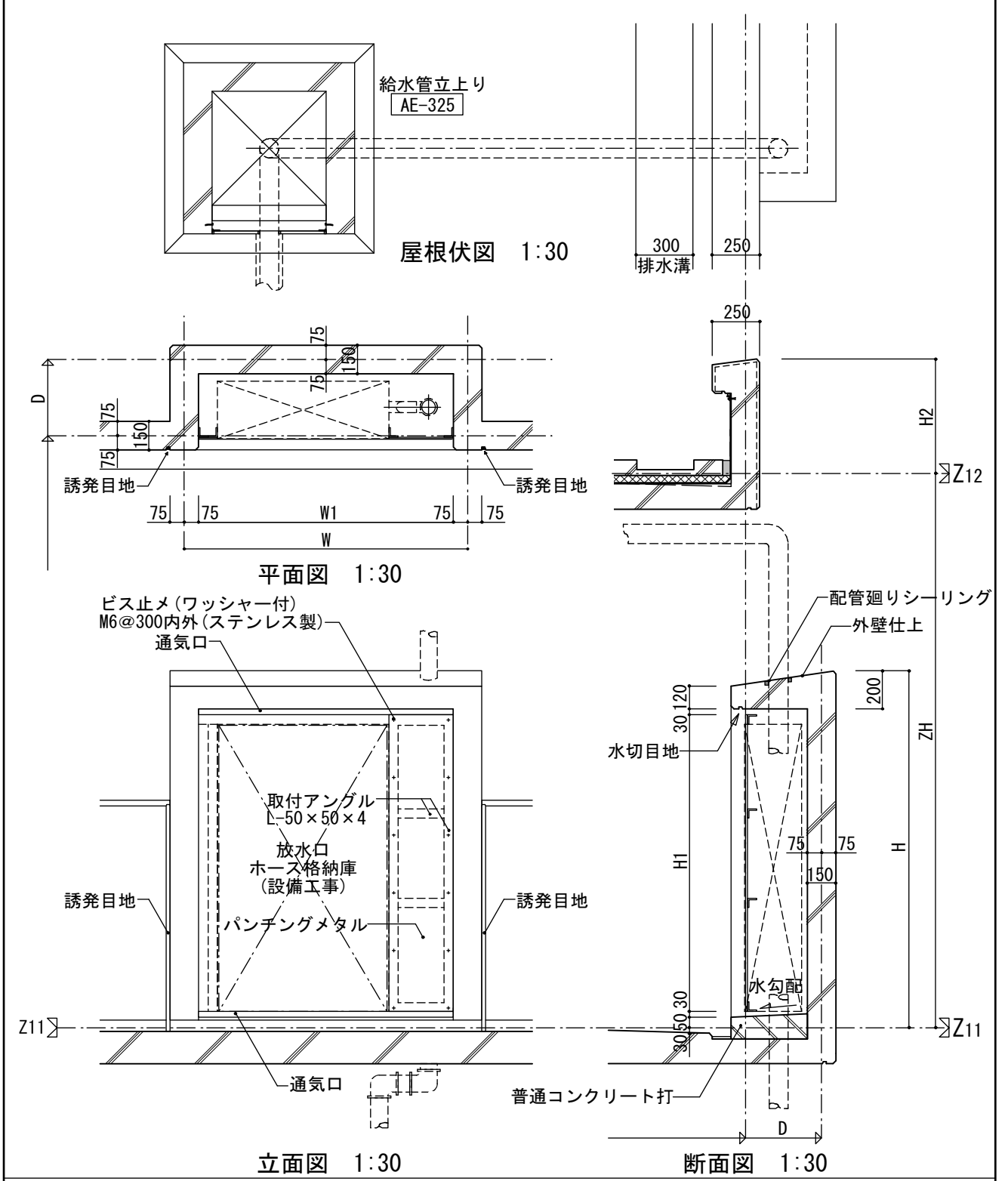
- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	エアコン室外機置場〔型式図〕		
縮尺	1:5 1:10	AE - 403	頁 E-43

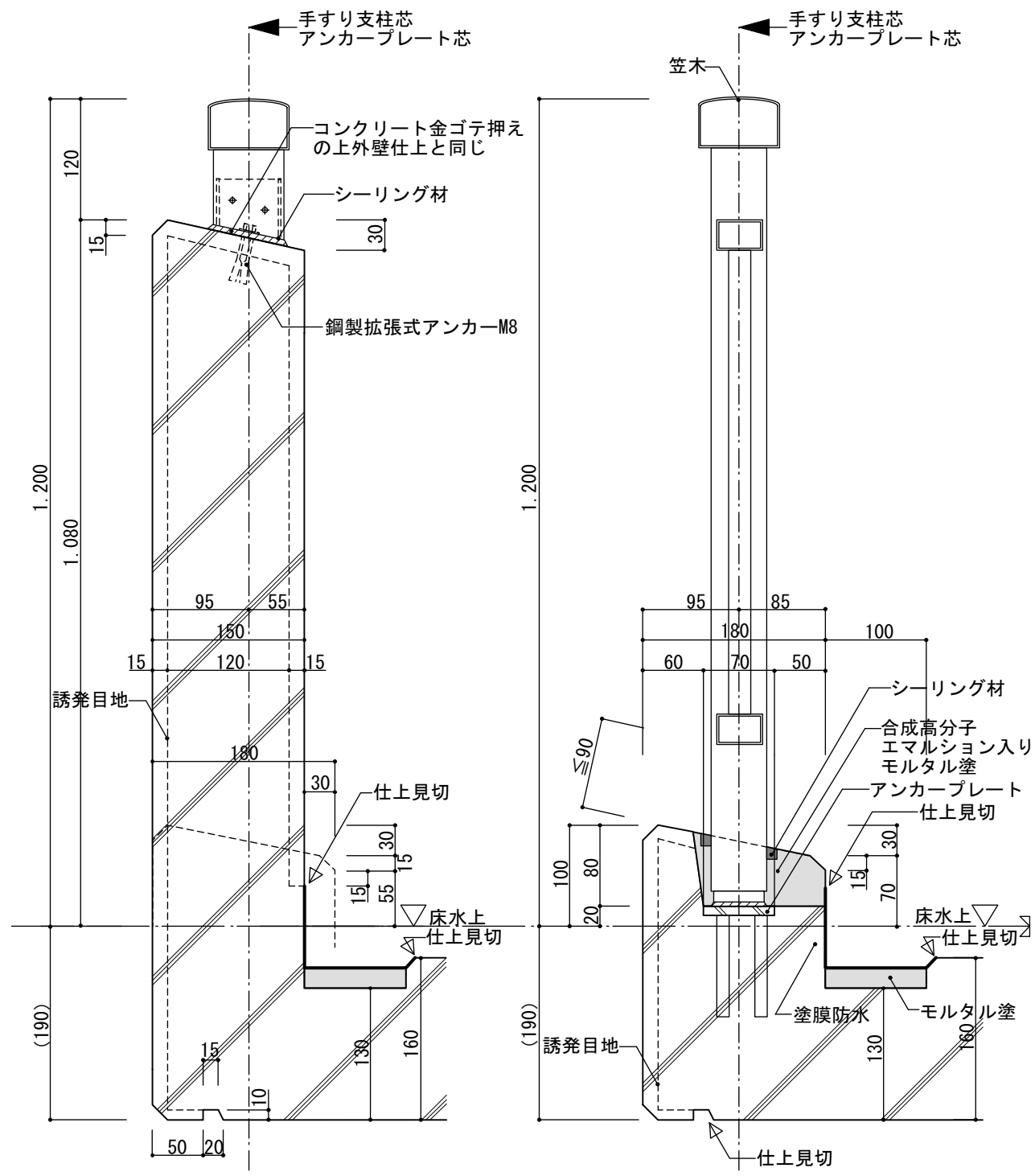




<b>【仕様】</b> [パンチングメタル] 材質: ステンレス製の場合 (SUS-304) ・表面仕上: 研磨 ・厚さ: (ア1.5) ・孔径: 20φ ・配列: 60° チドリ ・ピッチ: 30mm 材質: アルミ製の場合 ・表面仕上: アルマイトシルバー ・厚さ: (ア1.5) ・孔径: 20φ ・配列: 60° チドリ ・ピッチ: 30mm [取付アングル] ・材質: ステンレス製 (SUS-304)	<b>【附記事項】</b> ・H. H1. W. W1. Dは建物設計図による。 ・パンチングメタルの材質は建物設計図による。 ・連結送水管は上部水切目地より内側に設置する。	<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1 <b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1
	名称 連結送水管放水口(単口) (3~10階) [型式図]	縮尺 1:30 1:150



<b>【仕様】</b> ・パンチングメタル、取付アングルは AE-411 による。	<b>【附記事項】</b> ・H. H1. H2. W. W1. Dは建物設計図による。 ・パンチングメタルの材質は建物設計図による。 ・連結送水管は上部水切目地より内側に設置する。	<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1
	名称 連結送水管放水口(双口) (11階以上) [型式図]	縮尺 1:30 1:50	頁 AE - 412 E-45



断面図 1:6

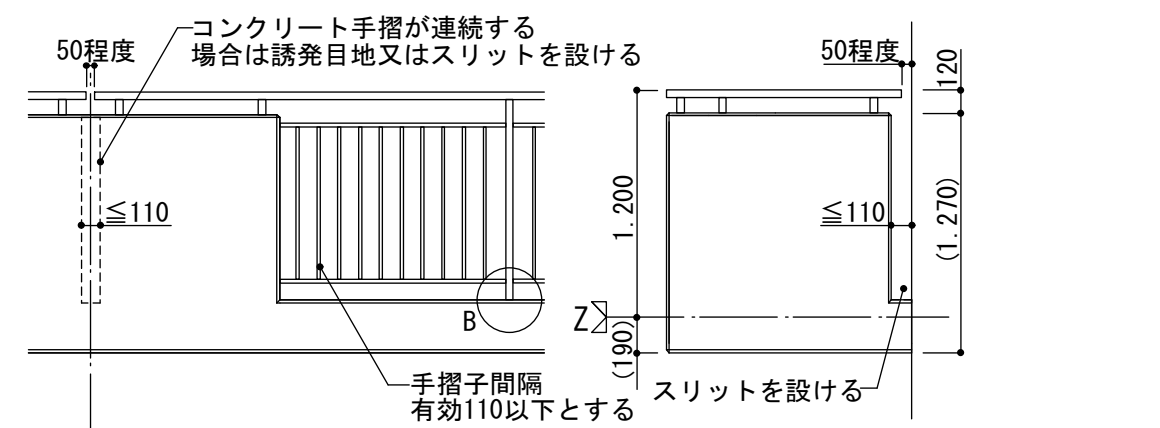
断面図 1:6

- 【仕様】**
- ・笠木支柱後付の場合は AE-402 による。
  - ・手摺が長くなる場合はトップレールを分節する。

- 転落防止のための手摺について**
- ・標準高さは床面（水上）からH=1,200mmとし、足掛かりは設けない。
  - ・手すり相互の間隔は内法寸法で110mm以下とすること。
  - ・300mm以上650mm未満の足がかりが生じた場合は足がかりから900mm以上の高さとする。

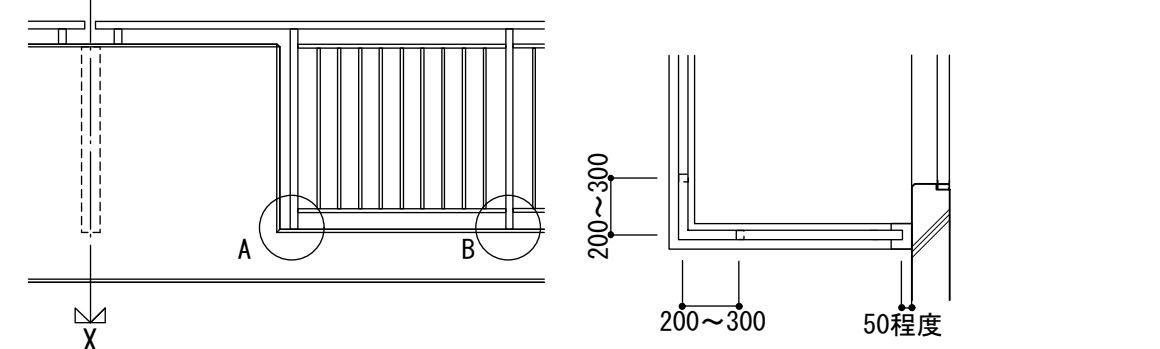
・（※）手すり支柱基部のかぶり厚さについては、SR-002「鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さの最小値」の表の「スラブ・非耐力壁—屋外に面する部分」のかぶり厚さとする。

- 【附記事項】**
- ・笠木及び手摺子は型式の一例を示している。
  - ・A、B立面図の種別は建物設計図による。
  - ・Wは建物設計図による。
  - ・無溶接アンカー工法の場合は AE-401-3 による。



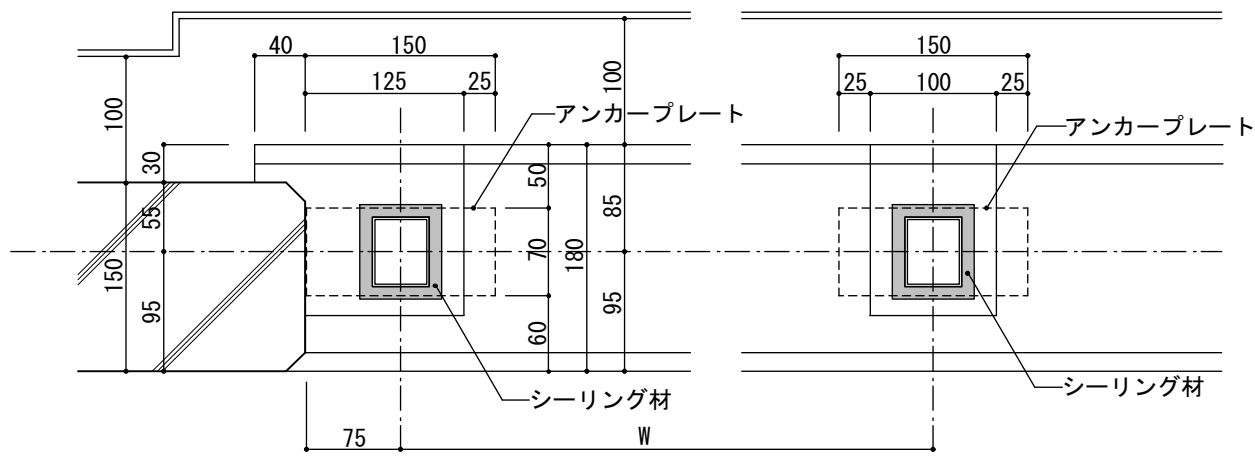
A:立面図 1:40

側面図 1:40



B:立面図 1:40

平面図 1:40

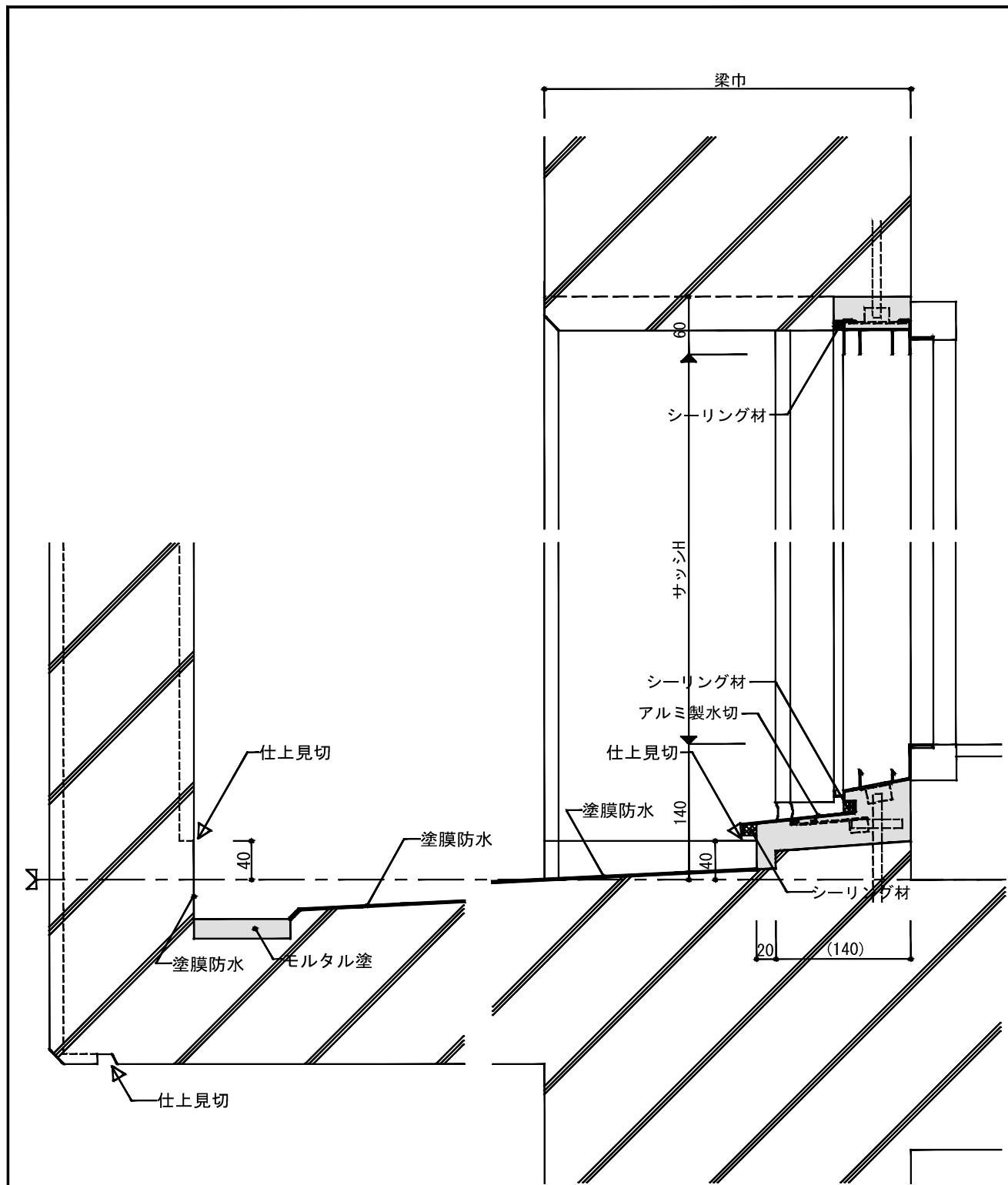


A部平面図

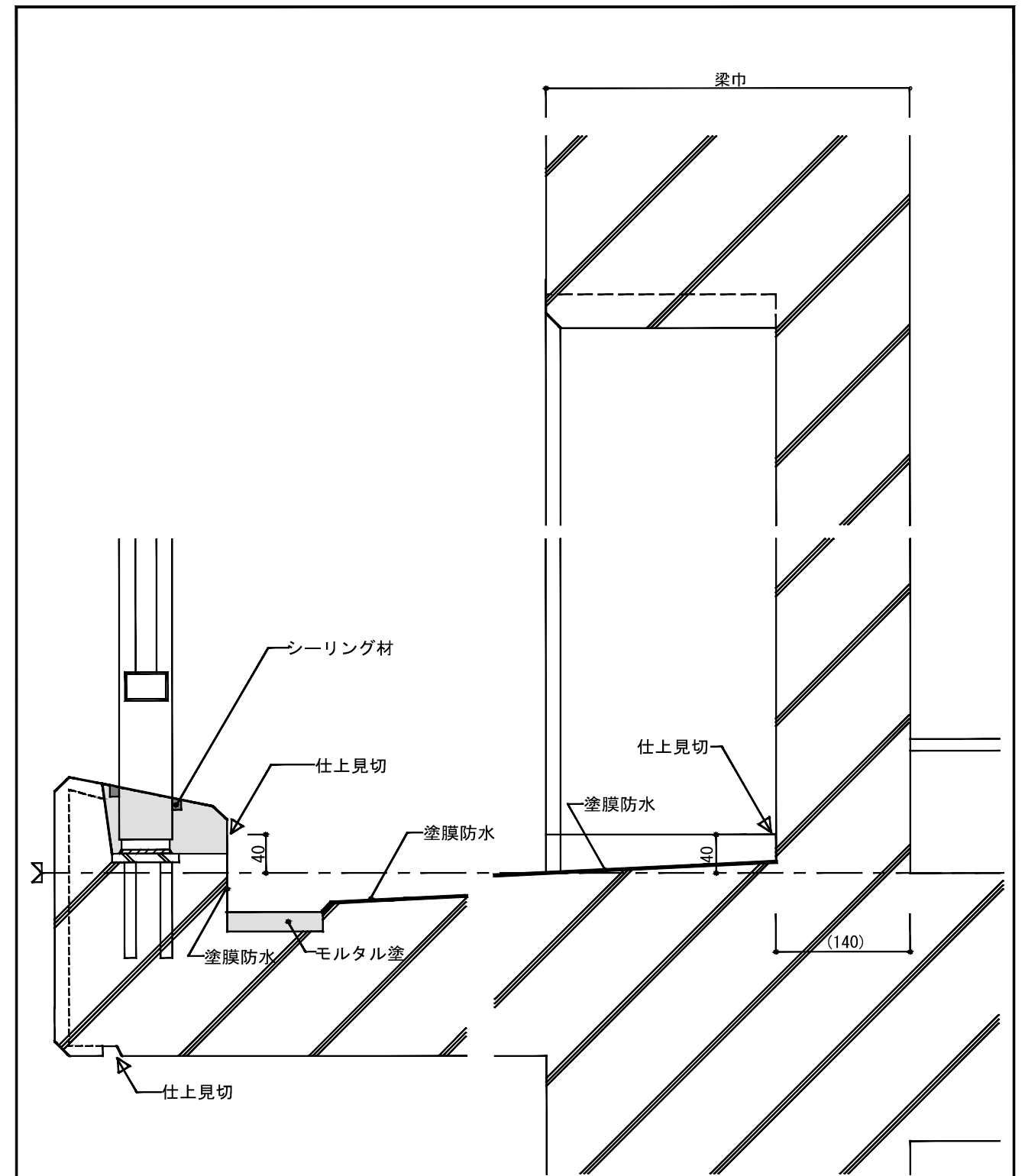
B部平面図

平面図 1:6

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>・第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>・第4版2刷 H. 10. 2. 1</li> <li>・第5版 H. 13. 11. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> <li>・第2版3刷 H. 31. 4. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>バルコニー手摺図〔型式図〕</p>	<p>縮尺</p> <p>1:6</p> <p>1:40</p>	<p>頁</p> <p>AE - 501-1</p> <p>E-46</p>
---	--	--------------------------------	----------------------------------	--



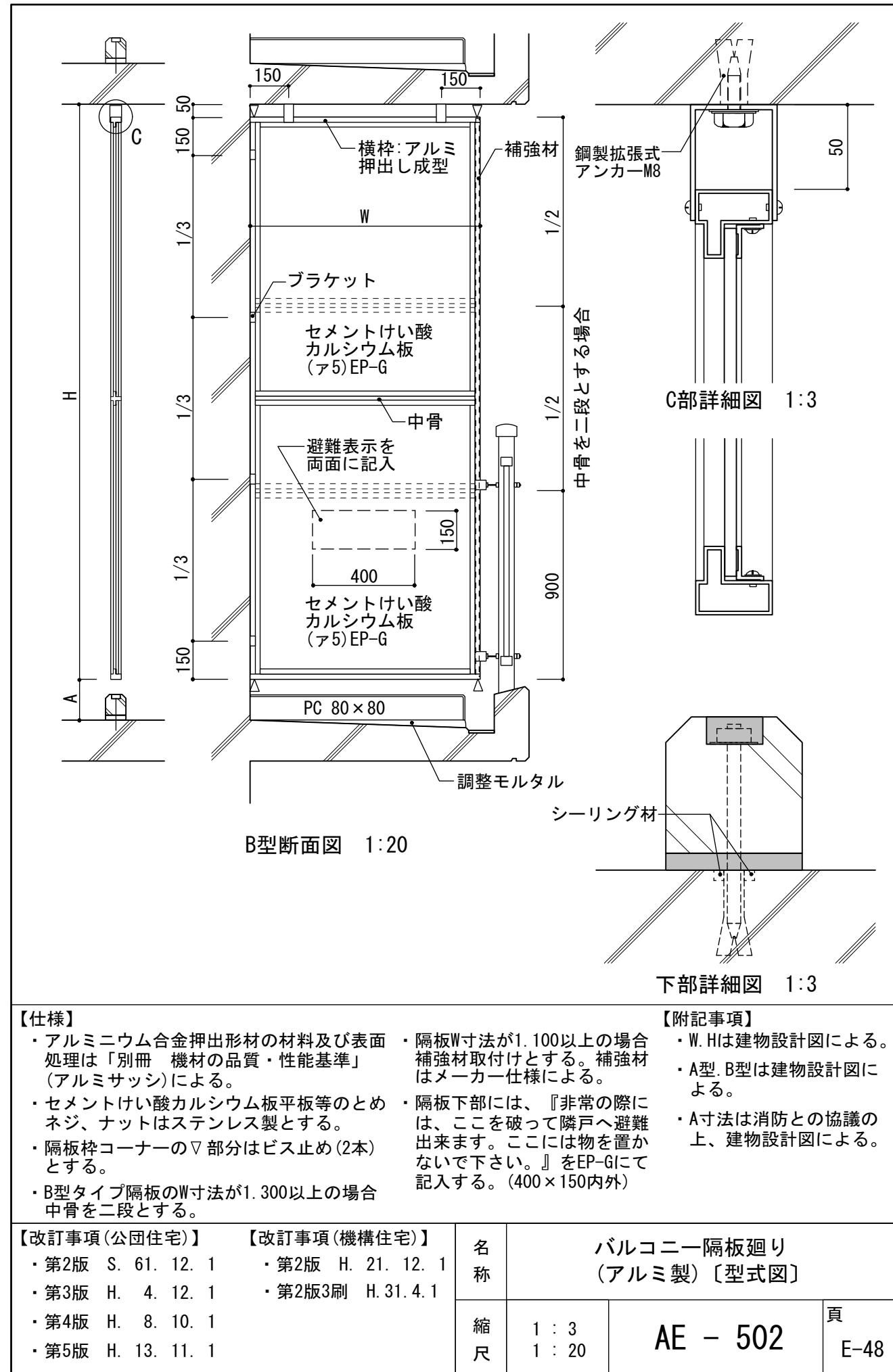
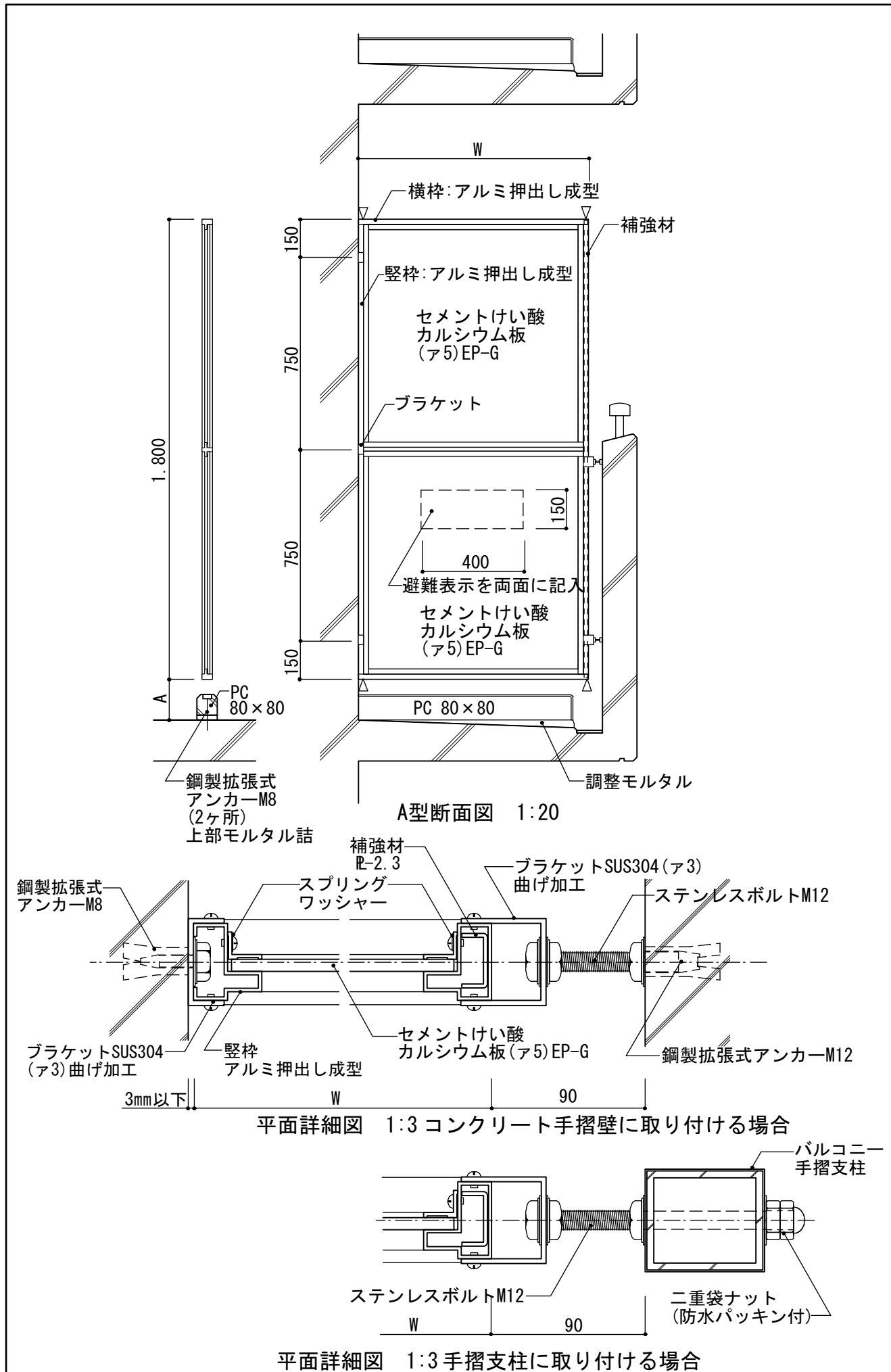
断面図 1:6

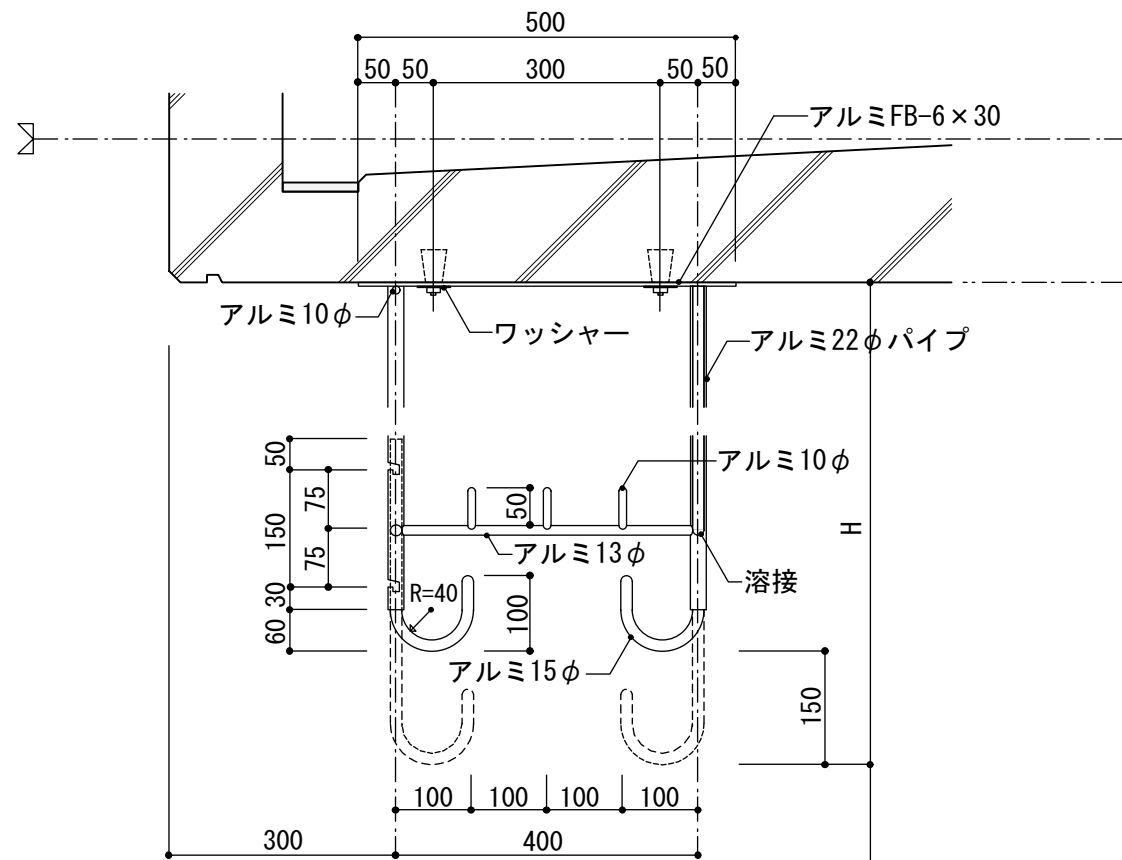


断面図 1:6

【仕様】	【附記事項】
------	--------

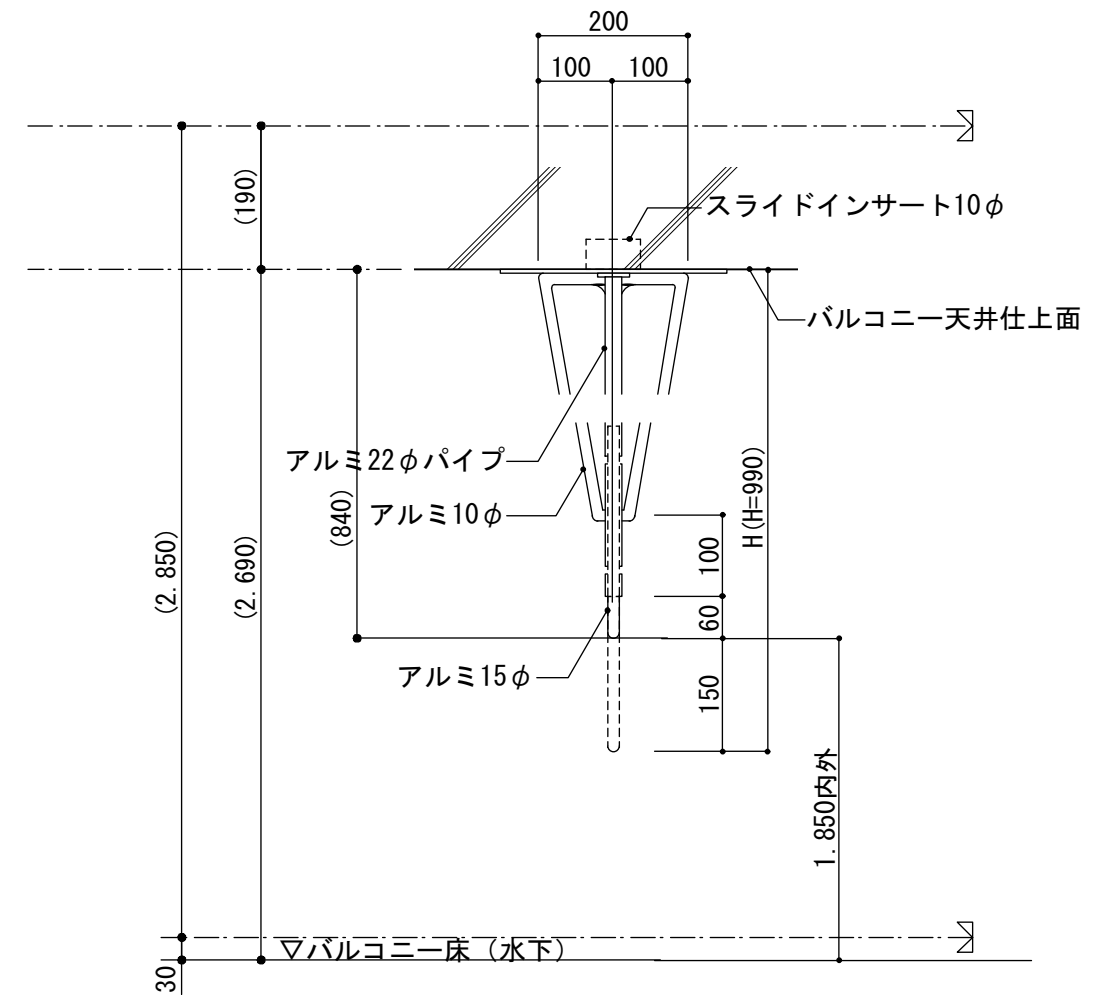
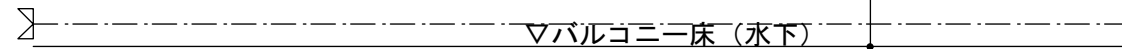
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	バルコニー床廻り	
		縮尺	1:6	AE-501-2
				頁 E-47





正面図(自在型) 1:10

1,700内外



側面図(自在型) 1:10

【仕様】

- ・材質は次のいずれかによる。  
JIS H 4100のA 6063 S-T5  
(押出型材)表面処理は陽極酸化皮膜(厚9ミクロン以上)またはクロム酸処理(皮膜重量1000・/㎡以上)とする。

寸法表

	I型	II型	III型
H	530	640	780
	IV型	V型	
H	900	1000	

【附記事項】

- ・Hは建物設計図による。
- ・3段スライド式も使用可能。
- ・エアコン室外機、給排気口等と交錯しないよう、注意する。
- ・物干ざおが避難器具と干渉しないよう、設置位置に注意する。

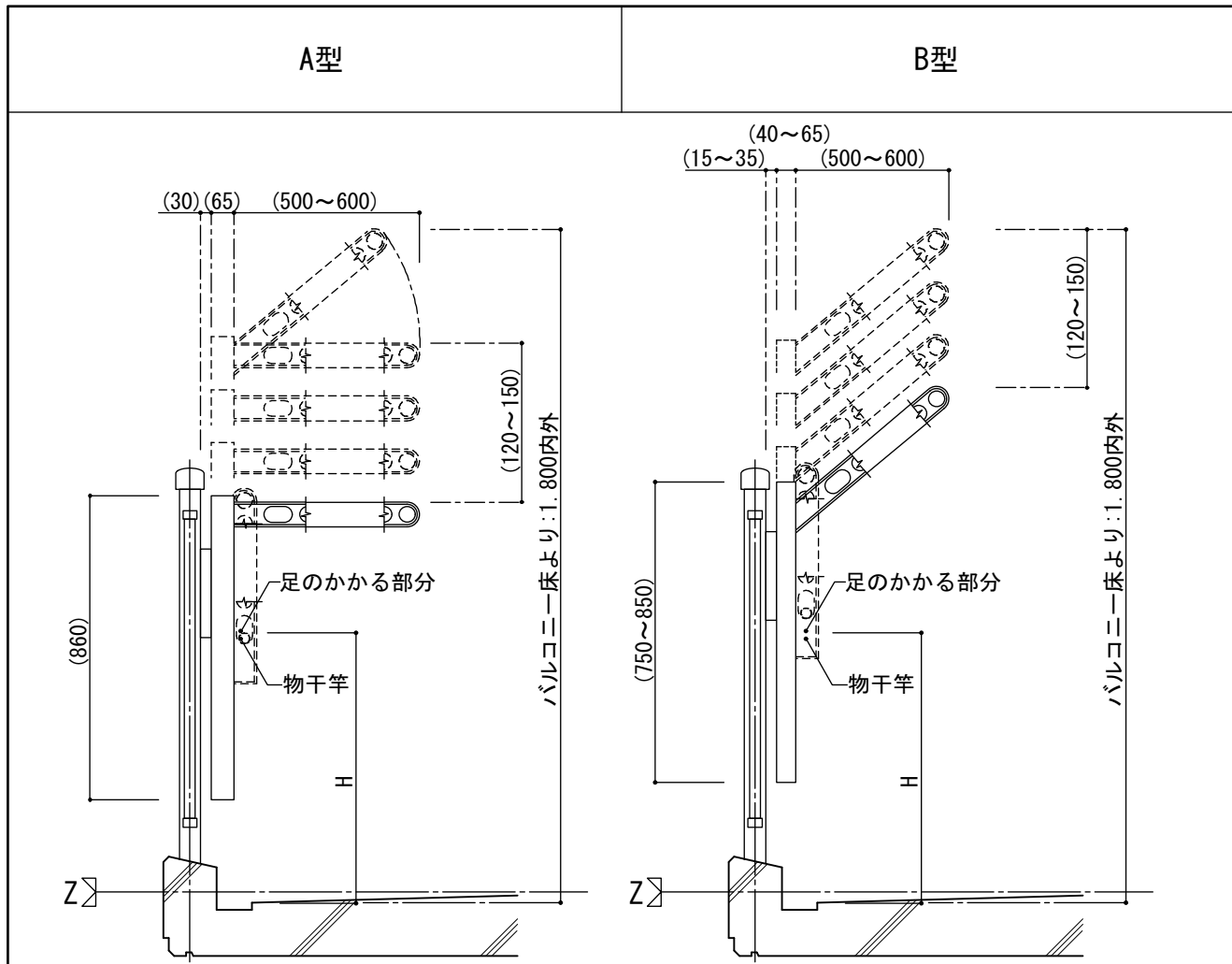
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

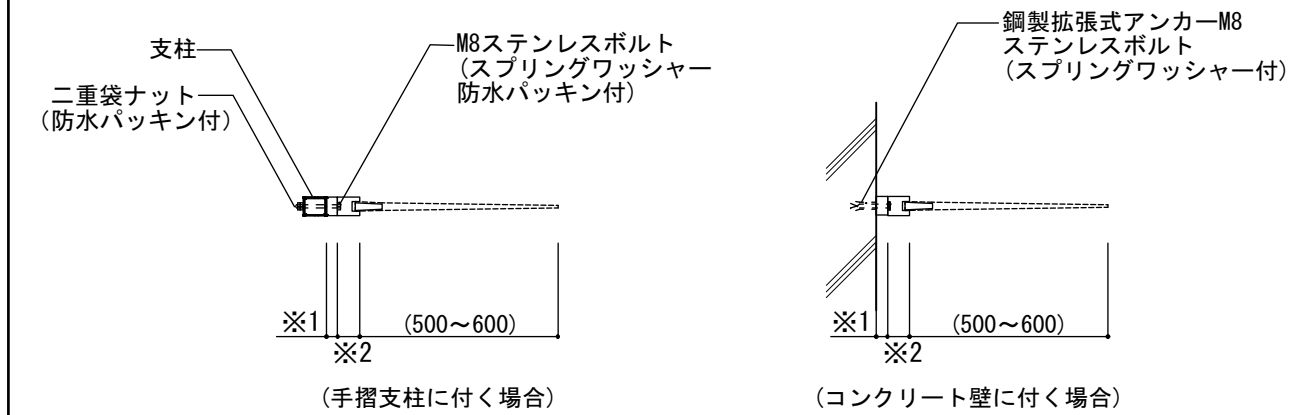
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	バルコニー物干金物 天井吊 [型式図]		
縮尺	1:10	AE - 503	頁 E-49



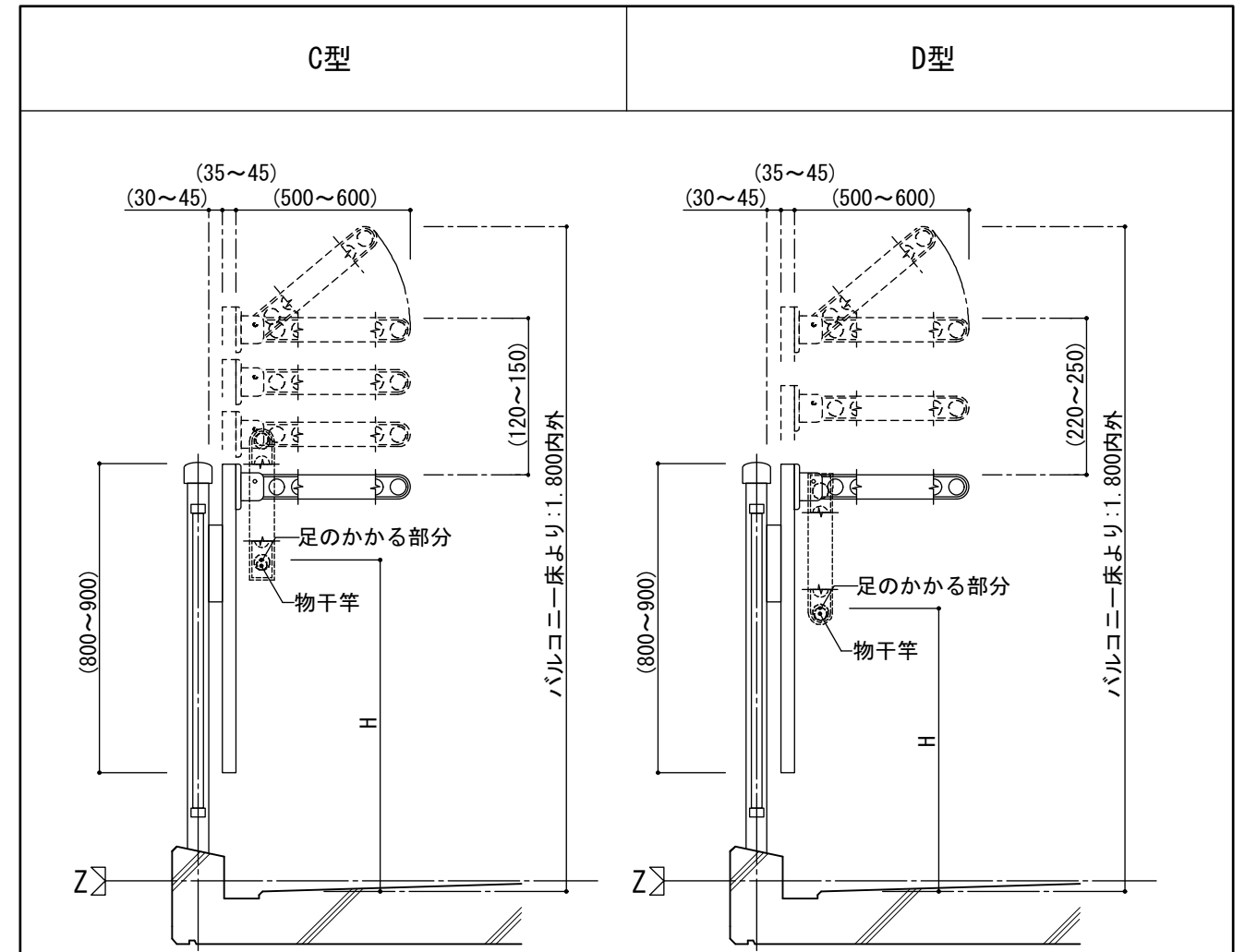
断面図 1:20



平面図 1:20

- 【仕様】
- ・材質はアルミダイカスト製とする。
  - ・支柱に取り付ける場合の外側は二重袋ナット(ステンレス製)締めとする。
  - ・防水パッキンの材質はネオプレンゴムとする。

- 【附記事項】
- ・物干金物取付位置はコンクリート手摺又はアルミ手摺支柱とする。
  - ・バルコニー手摺への取付はメーカー仕様による。
  - ・Hは床からの足掛り高さを示し $\geq 650$ とする。
  - ・物干ざおが避難器具と干渉しないよう、設置位置に注意する。
  - ・※1・※2の寸法は断面図による。

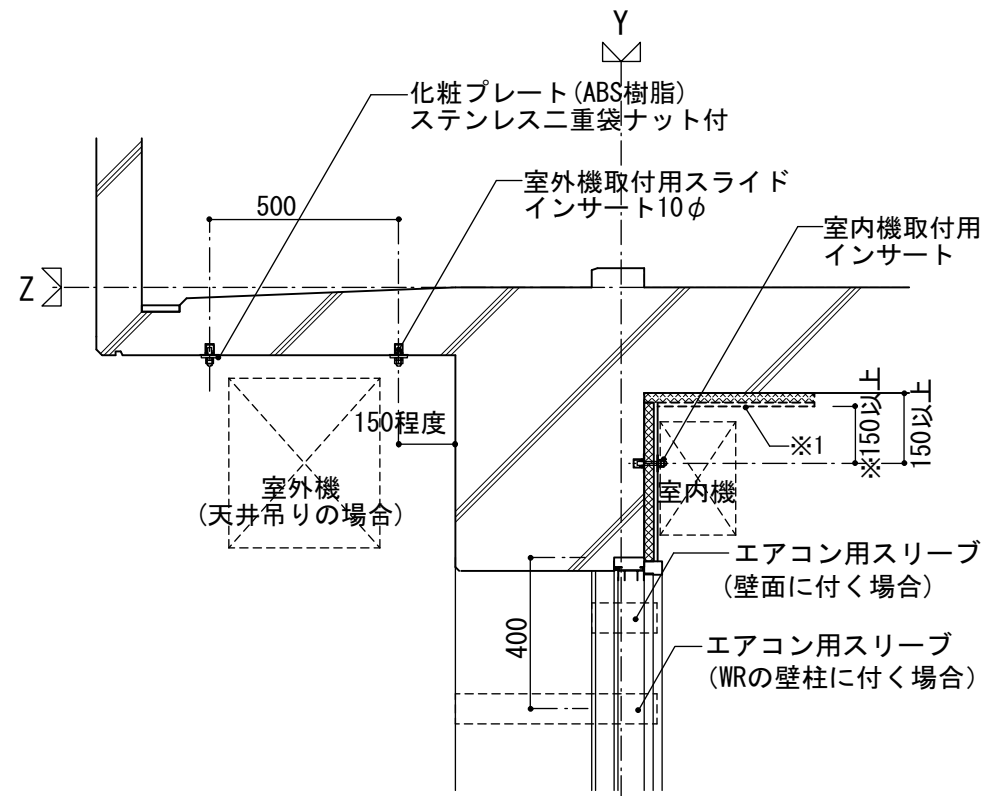


断面図 1:20

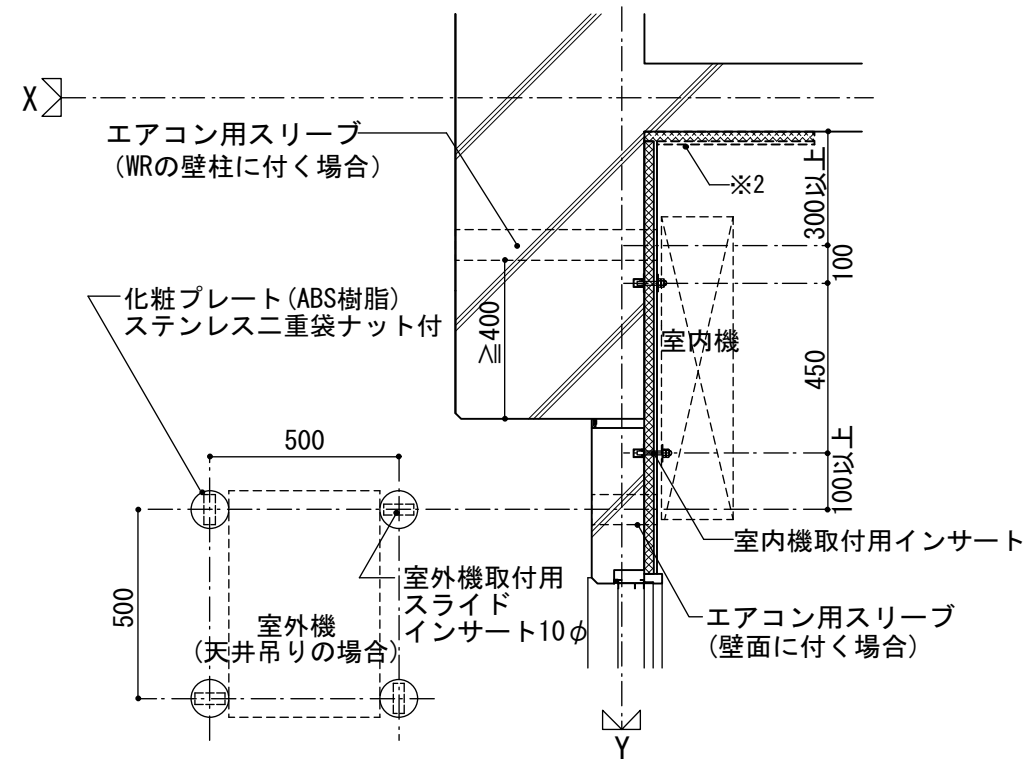
- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・第4版 H. 8. 10. 1
  - ・第5版 H. 13. 11. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- ・第2版 H. 21. 12. 1
  - ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	バルコニー物干金物 手摺付(上下スライド式) [型式図]		
縮尺	1:20	AE - 504	頁 E-50

A: 室外機天井吊りの場合

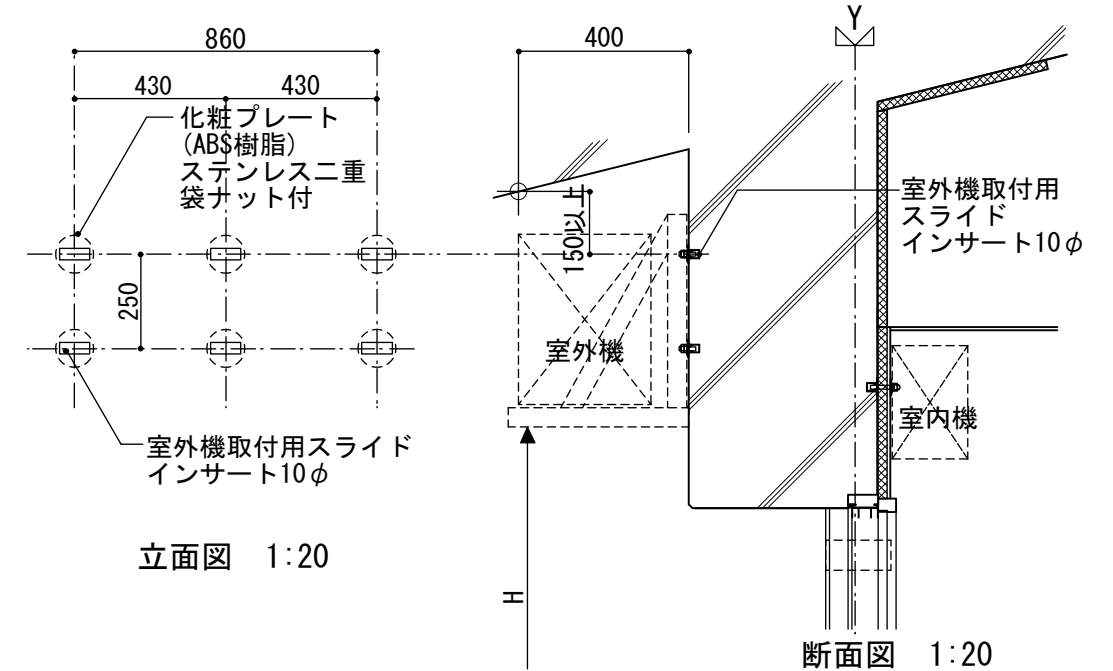


断面図 1:20

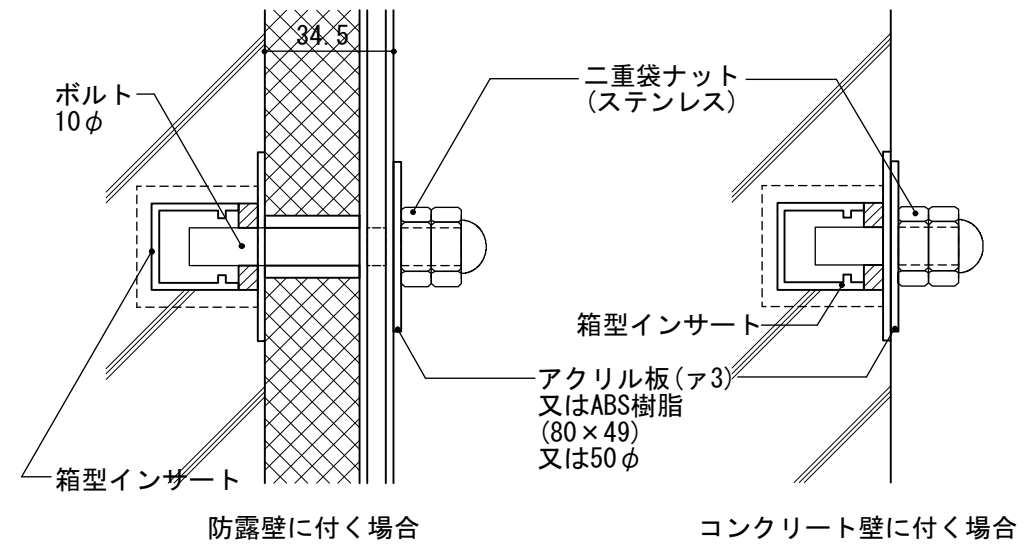


平面図 1:20

B: 室外機壁掛の場合



エアコン取付用インサート



【仕様】

- ・ インサート位置の精度保持に注意する。
- ・ 室外機壁掛の場合H寸法はバルコニー等に出た人が頭をぶつけないようにインサート高さ位置を決める。
- ・ 50φの樹脂プレートは透明又はアイボリー色とする。
- ・ ※和室で廻縁付の場合は廻縁下より150以上、又防露天井の場合は仕上面から150以上とする。

【附記事項】

- ・ 室内外位置については建物設計図による。
- ・ 断熱補強※1、※2の有無は建物設計図による。

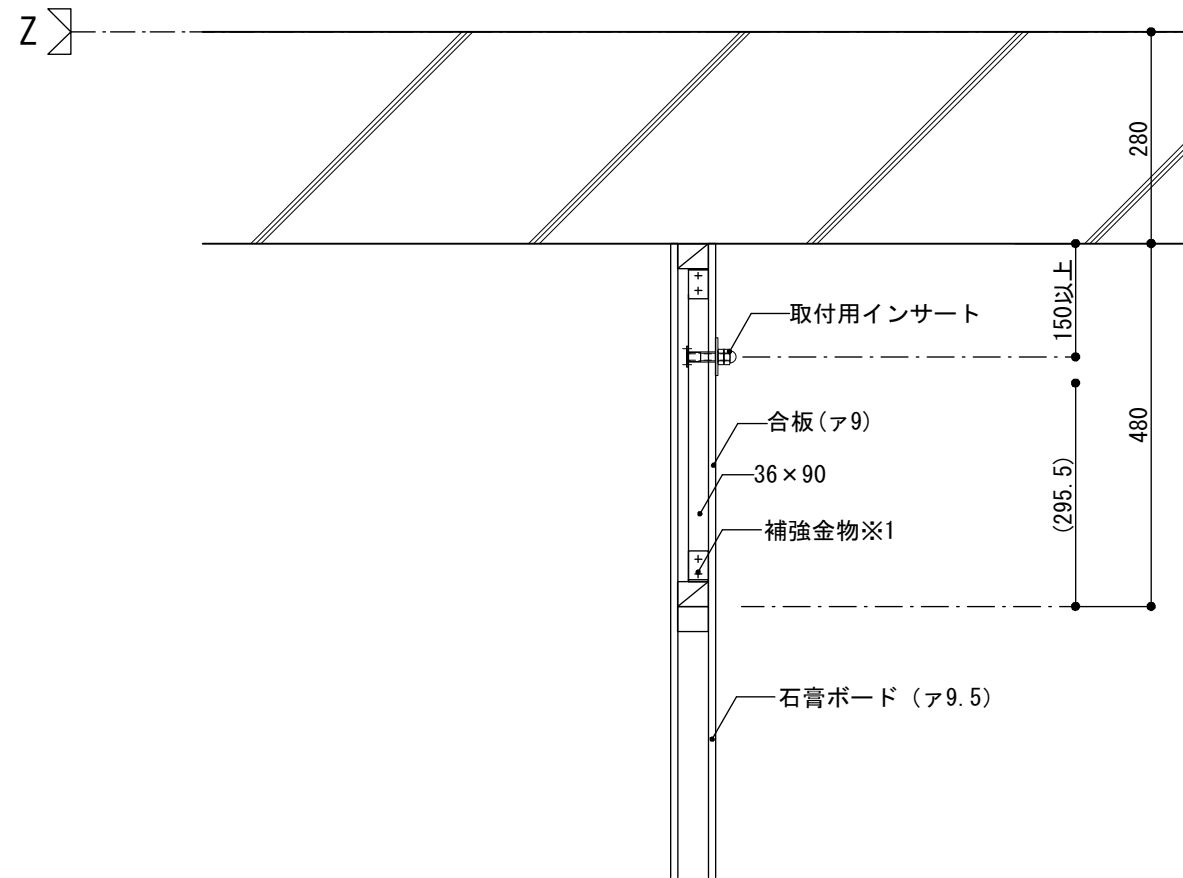
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

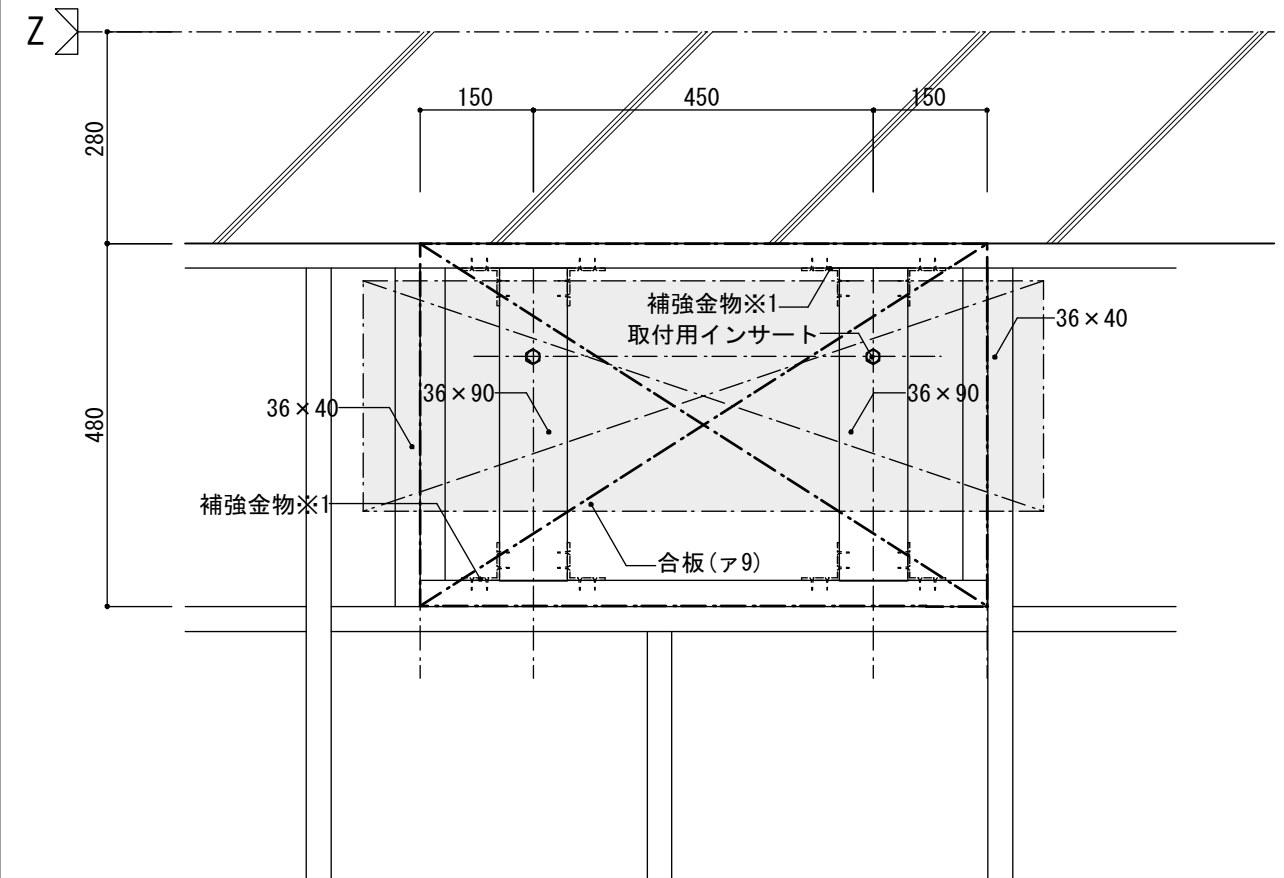
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1


名称	エアコン取付用インサート-1 〔型式図〕		
縮尺	1:2 1:20	AE - 505 - 1	頁 E-51

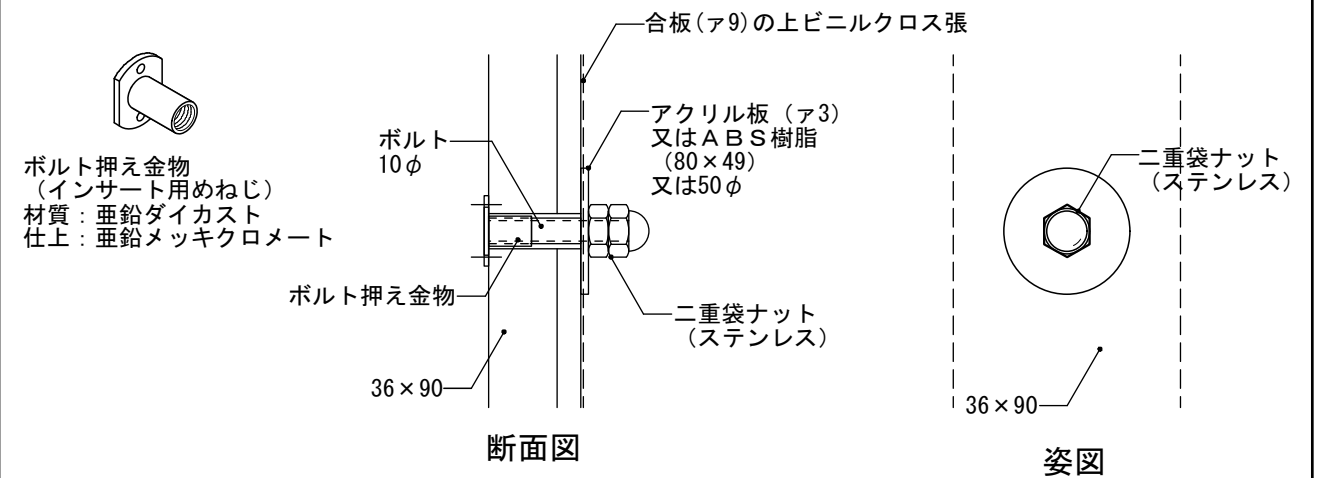


エアコン取付け補強断面図 1:10



エアコン取付け補強正面図 1:10

 : エアコン室内機を示す



室内機取付用インサート (木造胴縁固定) 1:3

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	エアコン取付用インサート (木造ふかし壁取付補強)	
		縮尺	1:3 1:10	AE - 505 - 2
				頁 E-52

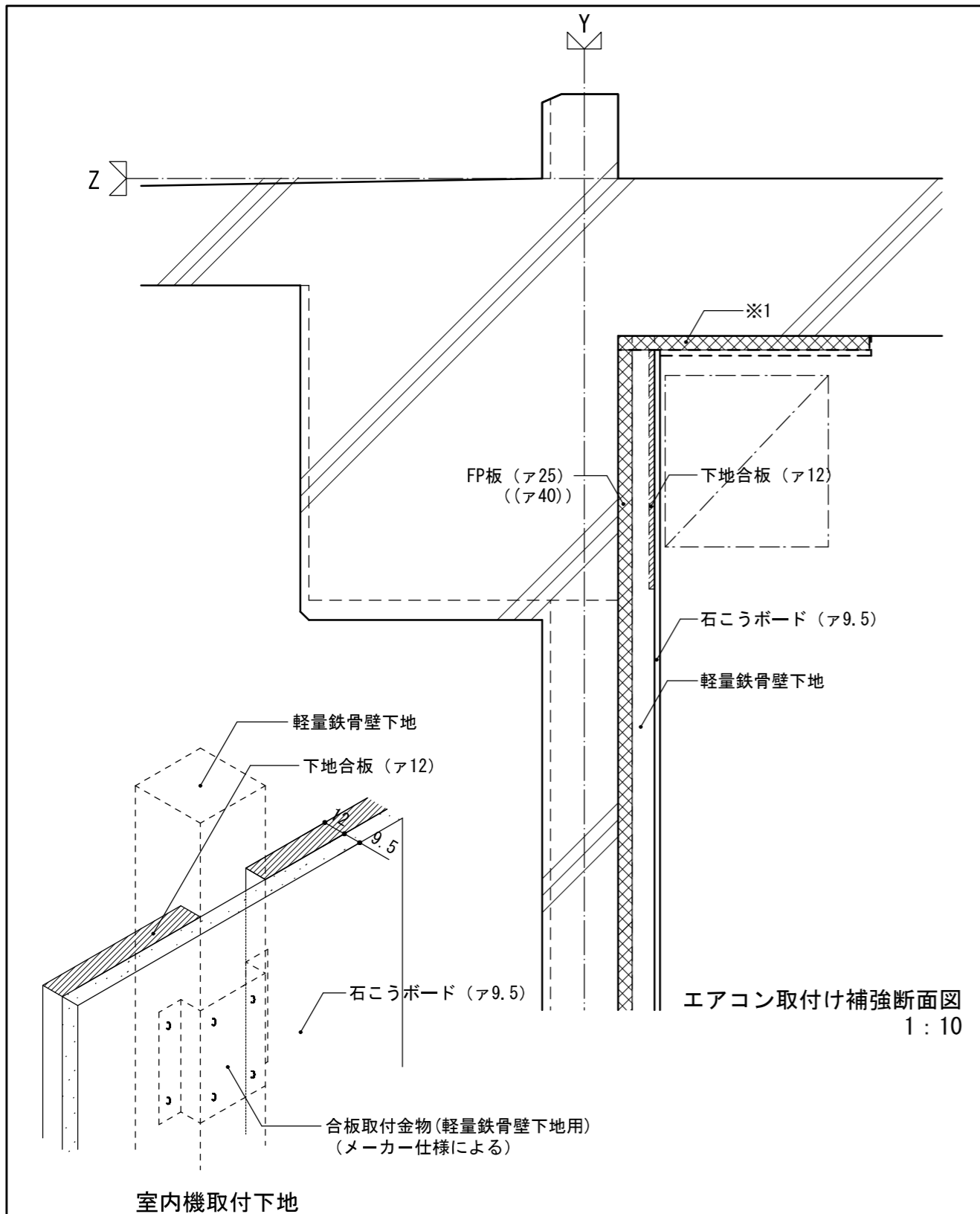
【仕様】

- 合板の範囲はエアコン室内機を取付ける面とし、合板と石膏ボードの不陸についてはパテ処理を行う。
- ボルト押え金物はコンクリート埋込みインサートの鋼製部分を使用する。
- 補強金物※1はL-40×40×2(SUS-304)とする。

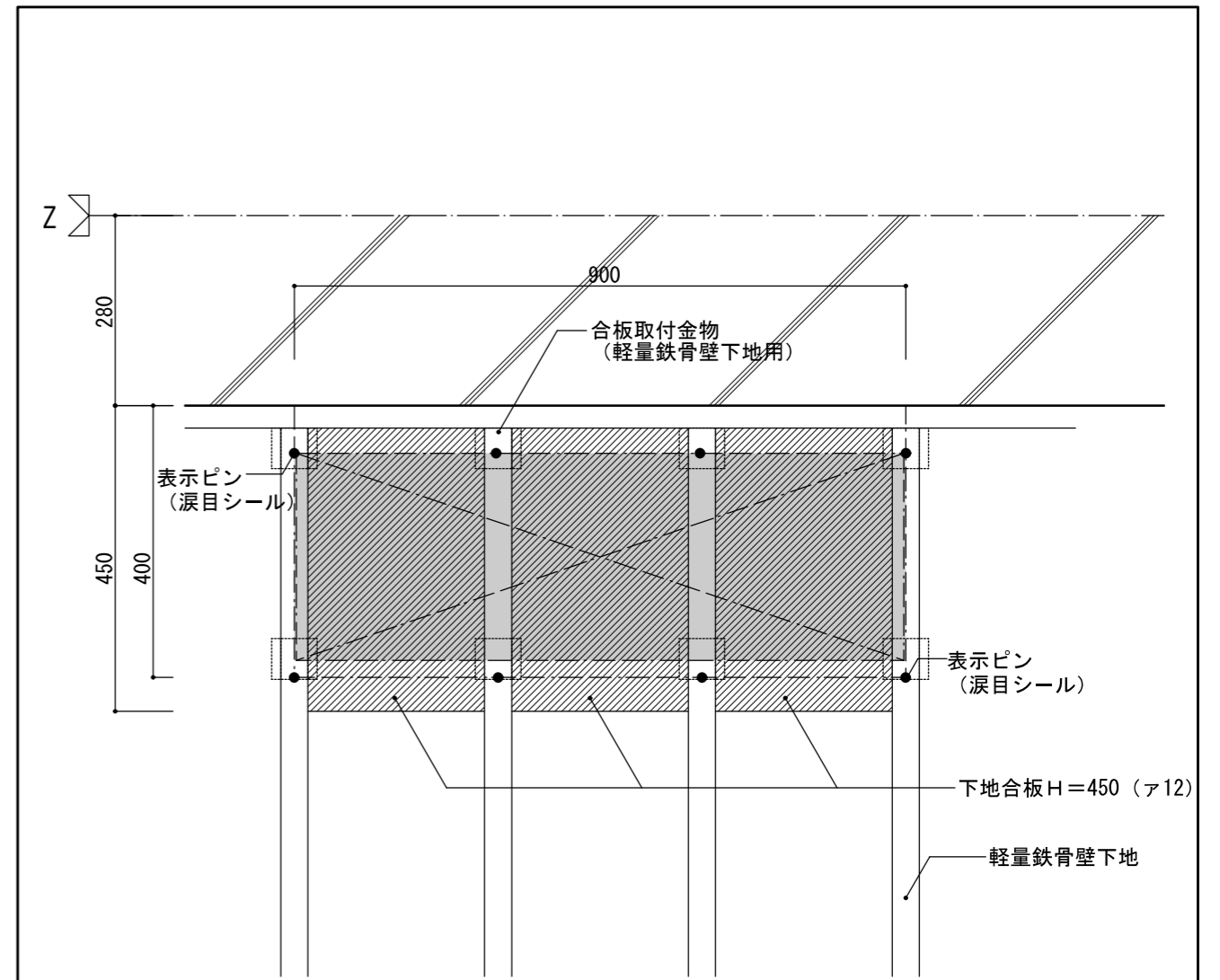
【附記事項】

- 50φの樹脂プレートは透明又はアイボリー色とする。





エアコン取付け補強断面図  
1 : 10



エアコン取付け補強正面図 1 : 10

⊠ : エアコン室内機を示す

【仕様】

- 合板の範囲はエアコン室内機を取付ける面とし、合板と石膏ボードの不陸についてはパテ処理を行う。
- 合板取付金物はメーカー仕様による。

【附記事項】

- エアコン下地合板範囲は450×900とする。
- 断熱補強※1の有無は建物設計図による。
- 断熱材厚み仕様については建物設計図による。

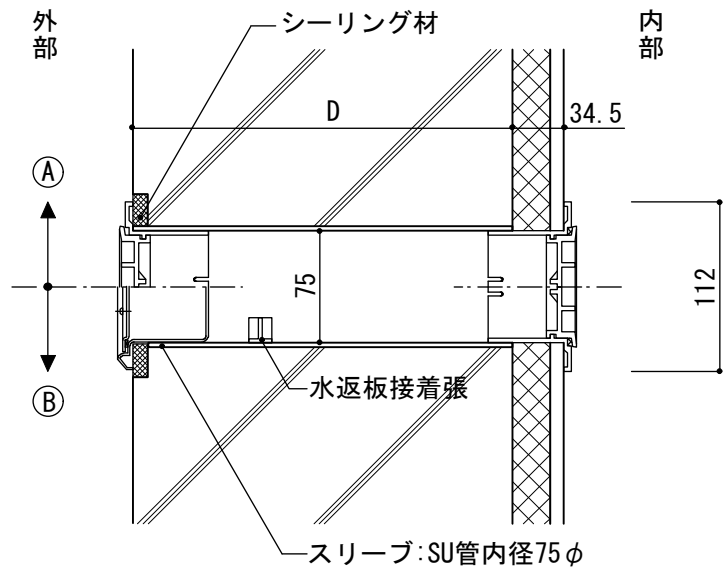
【改訂事項 (公団住宅)】

【改訂事項 (機構住宅)】  
・第2版4刷 R.5.4.1

名称	エアコン取付用下地〔型式図〕 (軽量鉄骨壁下地の場合)		
縮尺	1 : 10	AE - 505 - 3	頁 E-52-2

設備器機用スリーブ

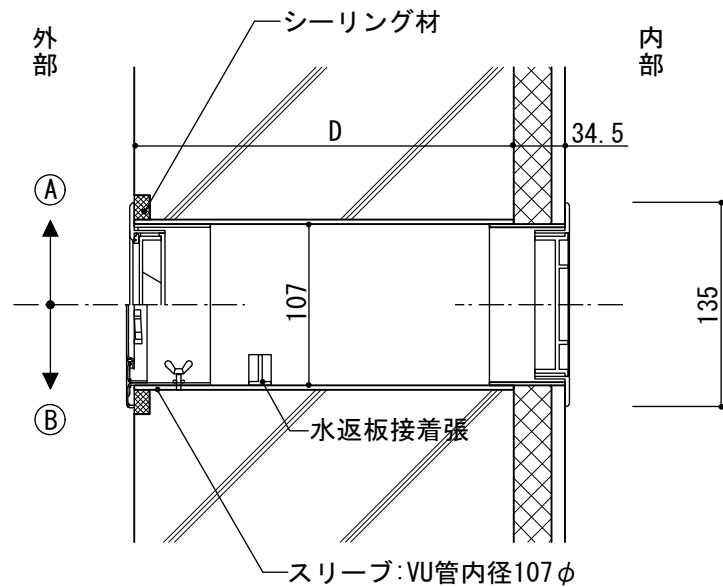
75φ用



A:プラスチック蓋  
B:ステンレス蓋

防露壁廻り

107φ用



A:プラスチック蓋  
B:ステンレス蓋

防露壁廻り

【仕様】

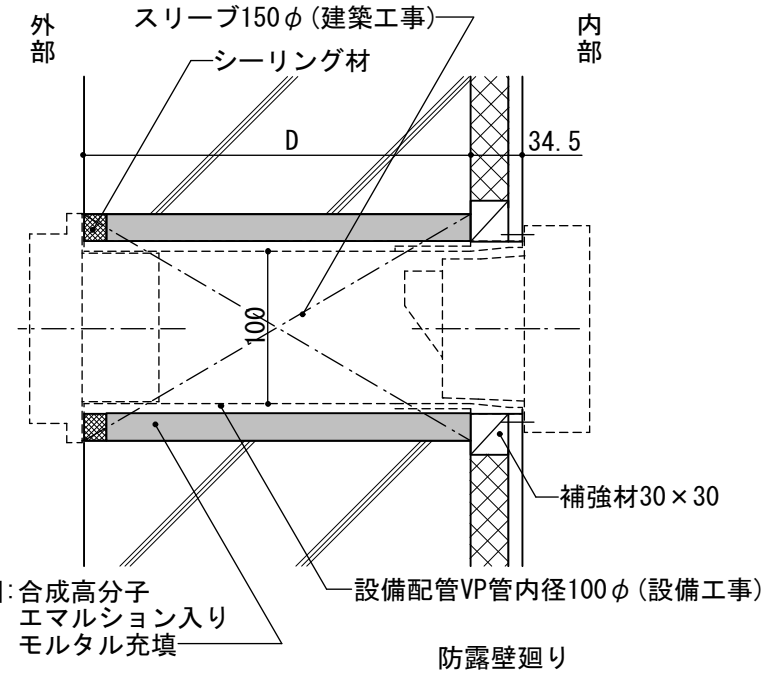
- ・設備機器用スリーブ107φは、外部の蓋が室内から取り外し可能なものとする。
- ・材質ABS樹脂、色アイボリー色とする。
- ・設備機器用スリーブ75φ及び107φは水返板付とする。
- ・外部から蓋がはずせない場合は107φ用を使用する。
- ・防露壁が50mm以上となる場合は室内側のスリーブキャップの納まりに配慮する。
- ・スリーブの設置位置が、屋外階段室から900mm以内又は隣戸間900mm以内の部分に取り付ける場合は、外部のキャップは「B:ステンレス製」とする。

- ・設備機器用スリーブ107φ用の室内側の蓋には下記の文字が表示されていること。

記

設備機器給排気貫通孔フタはねじ込みになっていますので左へ回せば取り外し出来ます。外部のフタは、室内より手を入れて取り外し出来ます。

給気用スリーブ



周囲:合成高分子エマルジョン入りモルタル充填  
設備配管VP管内径100φ(設備工事)

【附記事項】

- ・D(増し打ちを含む)は建物設計図による。
- ・設備機器用スリーブ、給気用スリーブの位置は建物設計図による。

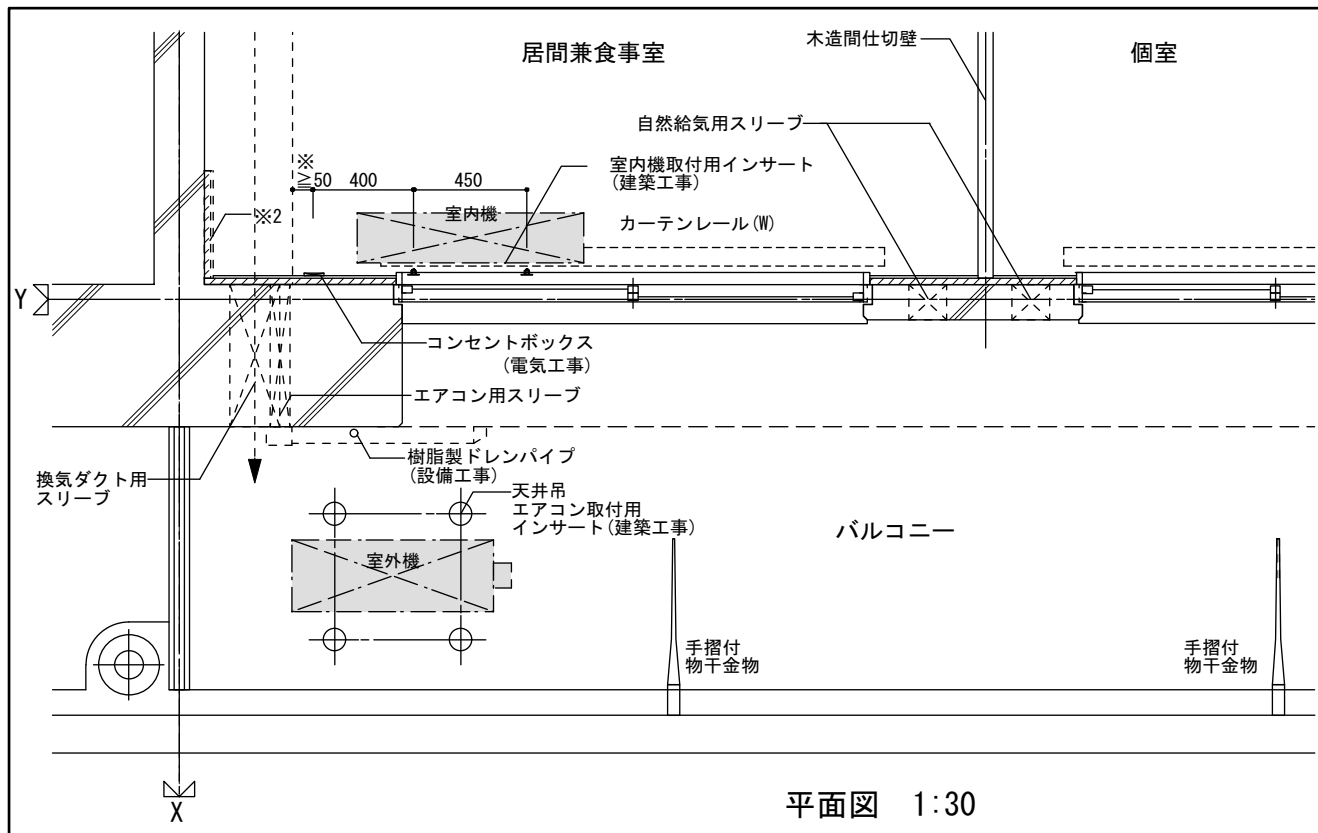
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

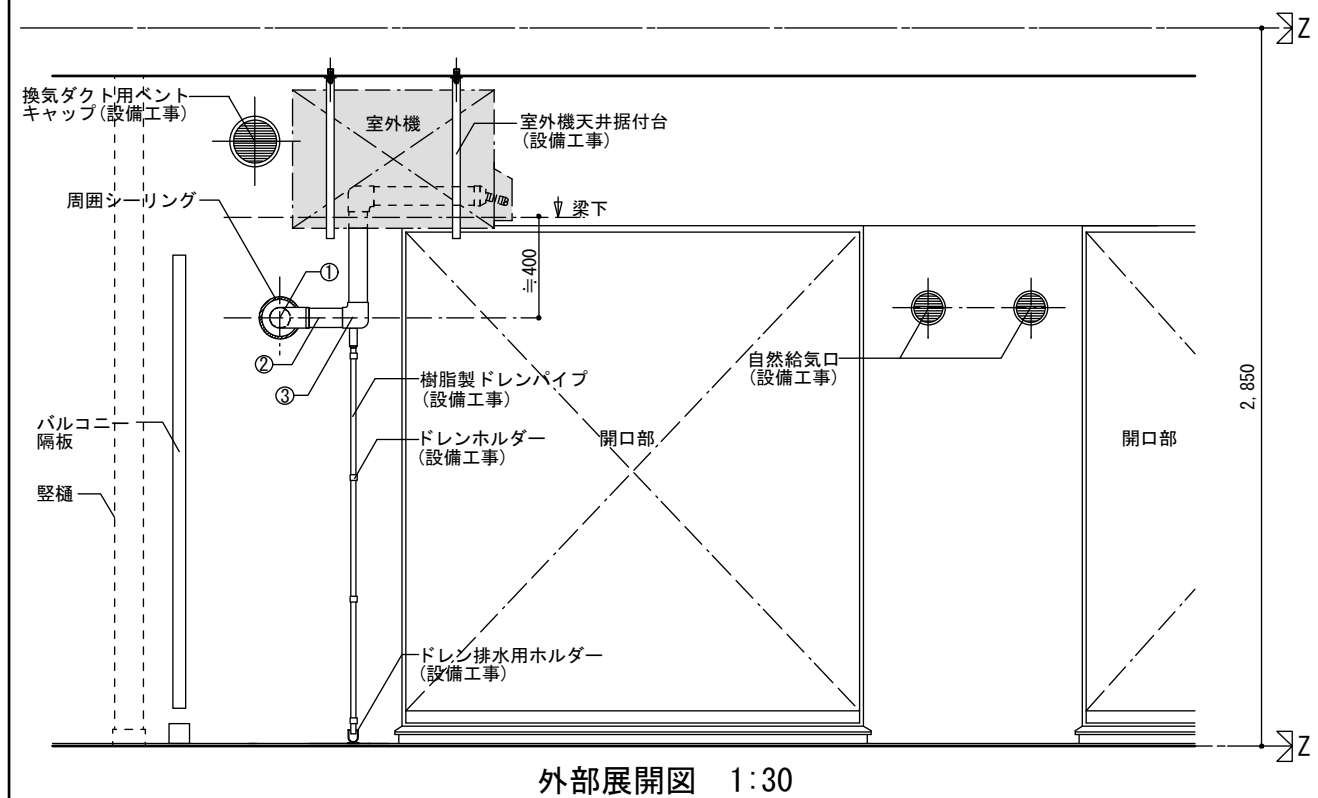
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	設備機器用・給気用スリーブ (75φ・100φ・107φ) [型式図]		
縮尺	1 : 5	AE - 506	頁 E-53

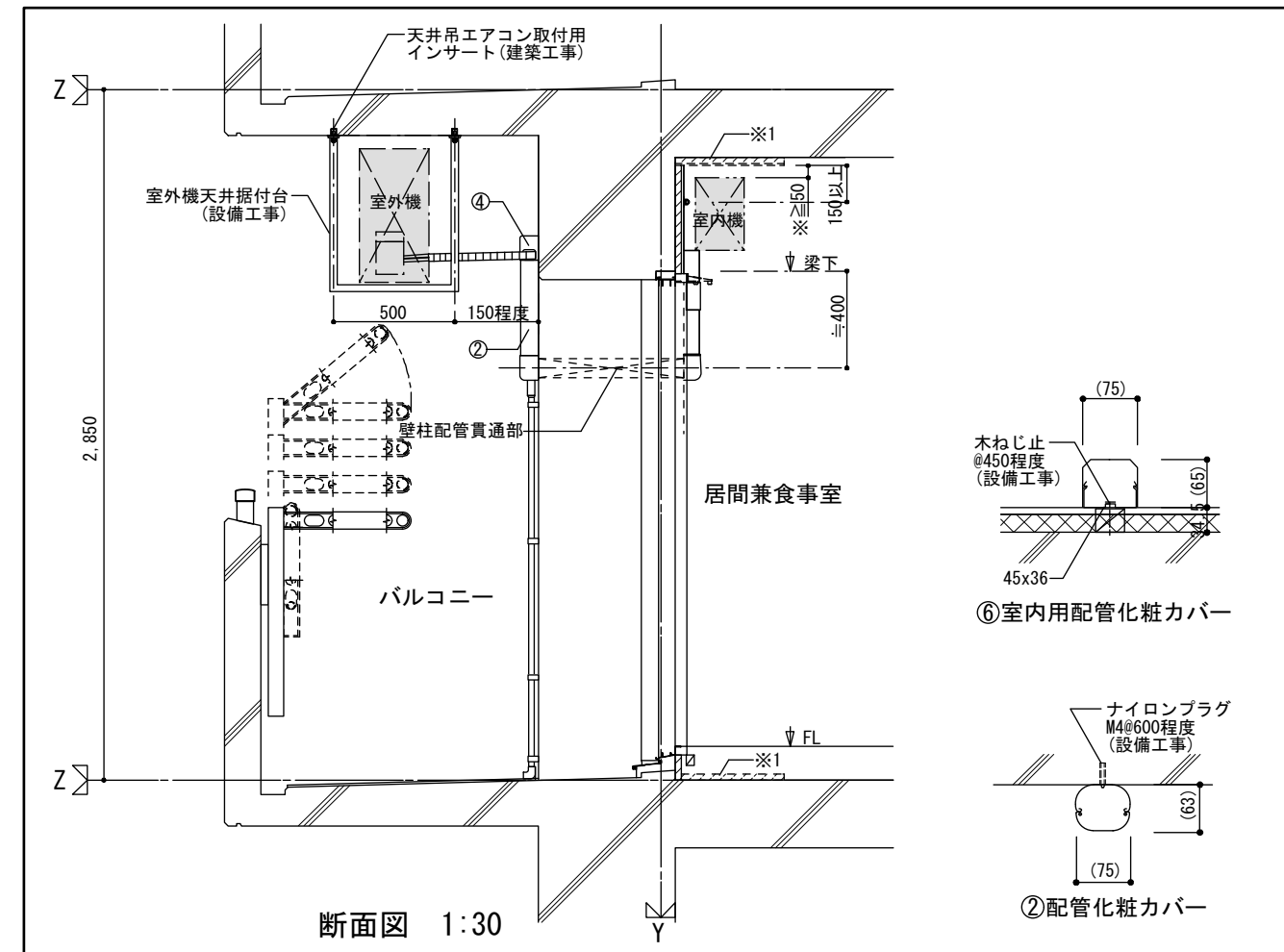


平面図 1:30

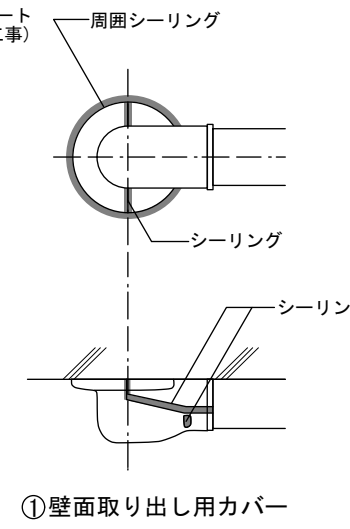
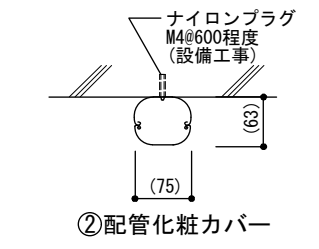
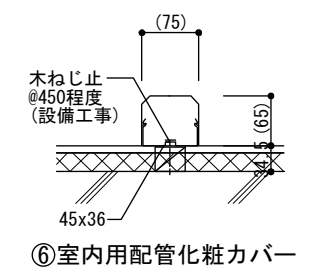


外部展開図 1:30

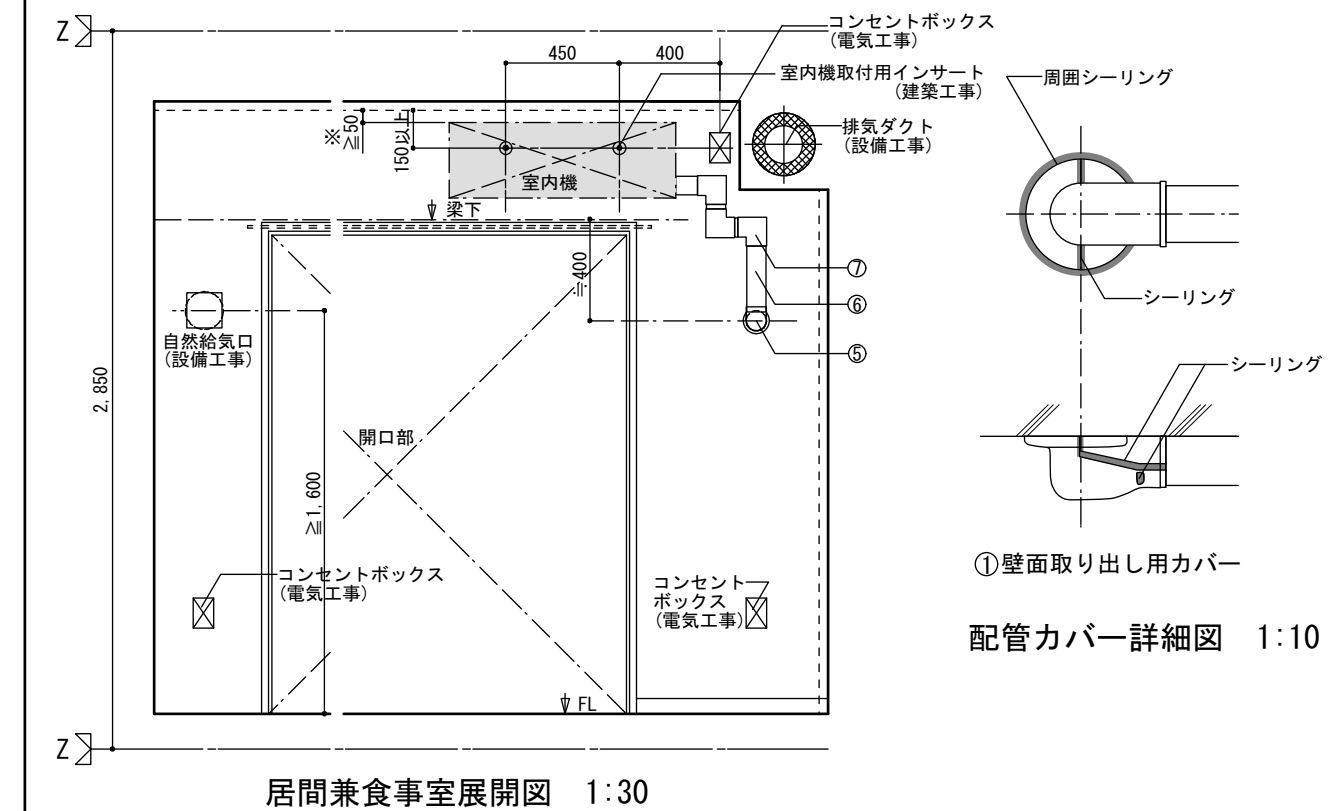
- 【仕様】**
- 以下の工事は設備工事とする。
  - 配管カバー材質：合成樹脂製
  - ①壁面取り出し用カバー
  - ②配管化粧カバー
  - ③平面90° 曲りカバー
  - ④立面90° 曲りカバー
  - ⑤室内用壁面取り出し用カバー
  - ⑥室内用配管化粧カバー
  - ⑦室内用平面90° 曲りカバー
  - ドレンホルダー：合成樹脂製
  - 室外機天井据付台：溶融亜鉛メッキ鋼板アクリル塗装
  - 外部壁面取り出し用カバーの周囲及びカバー接合部にはシーリングを充填する。
  - 壁面配管貫通部はパテにて止水処理を行う。
- 【附記事項】**
- エアコン取付インサートは AE-505-2 による。
  - ※部寸法は最小確保寸法を示す。
  - 壁柱への開口基準は SWR-106 による。
  - は実装エアコン (設備工事) を示す。



断面図 1:30

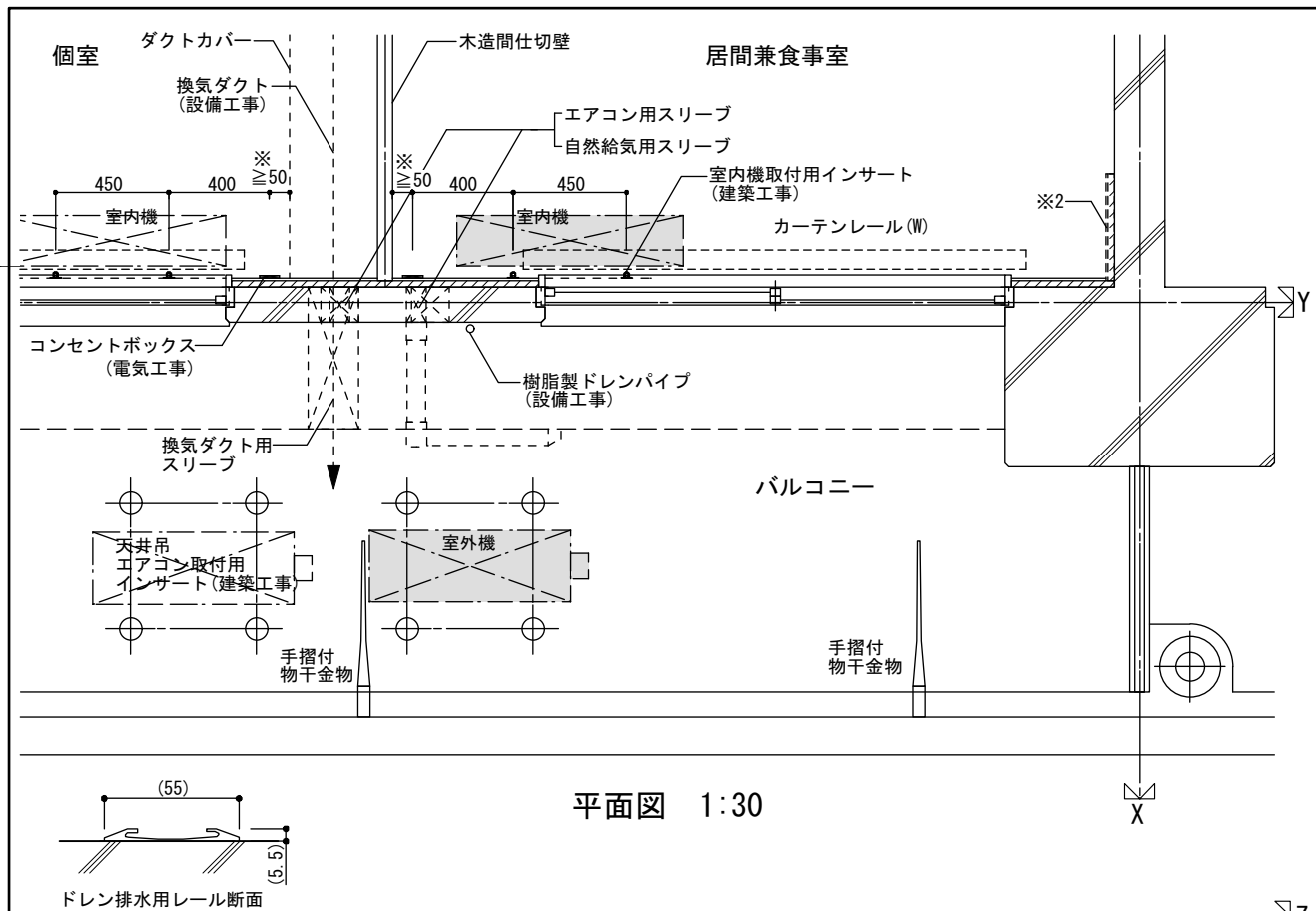


配管カバー詳細図 1:10

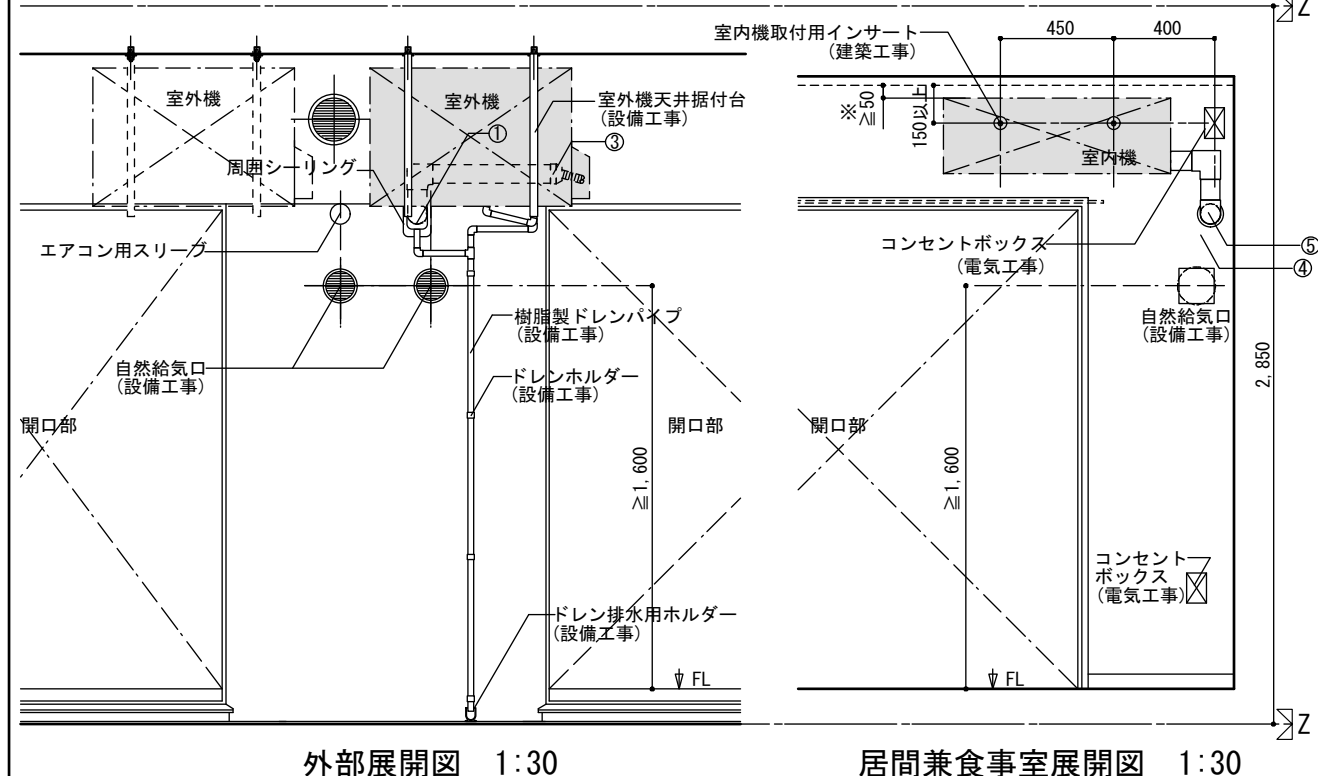


居間兼食事室展開図 1:30

名称	エアコン室外機置場(天井吊) (SWR造の場合のエアコン実装型) 〔型式図〕		頁 E-54
	縮尺	1:10 1:30	
【附記事項】	【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	
・断熱補強※1、※2の有無は建物設計図による。		・第2版3刷 H.31.4.1	



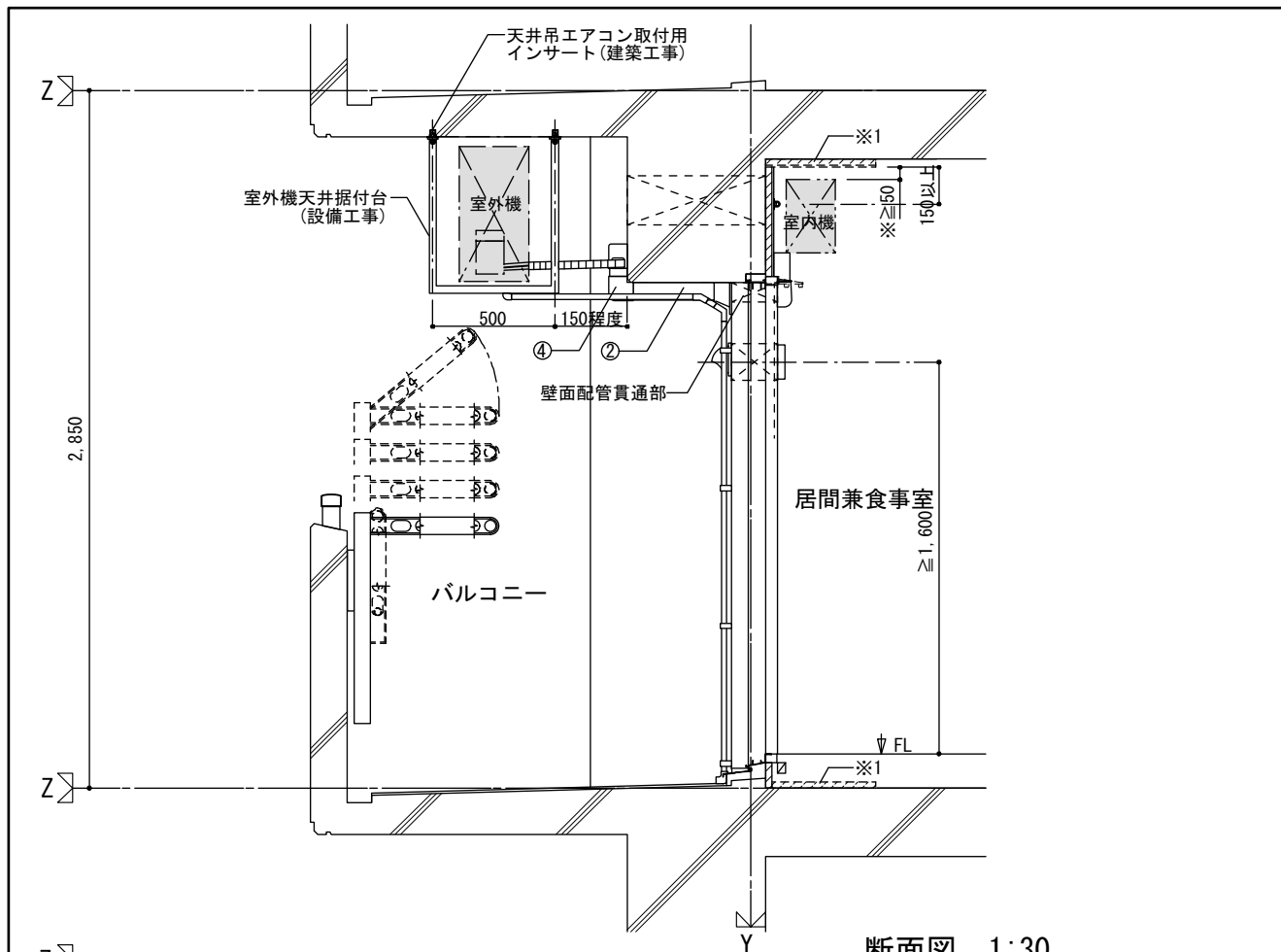
平面図 1:30



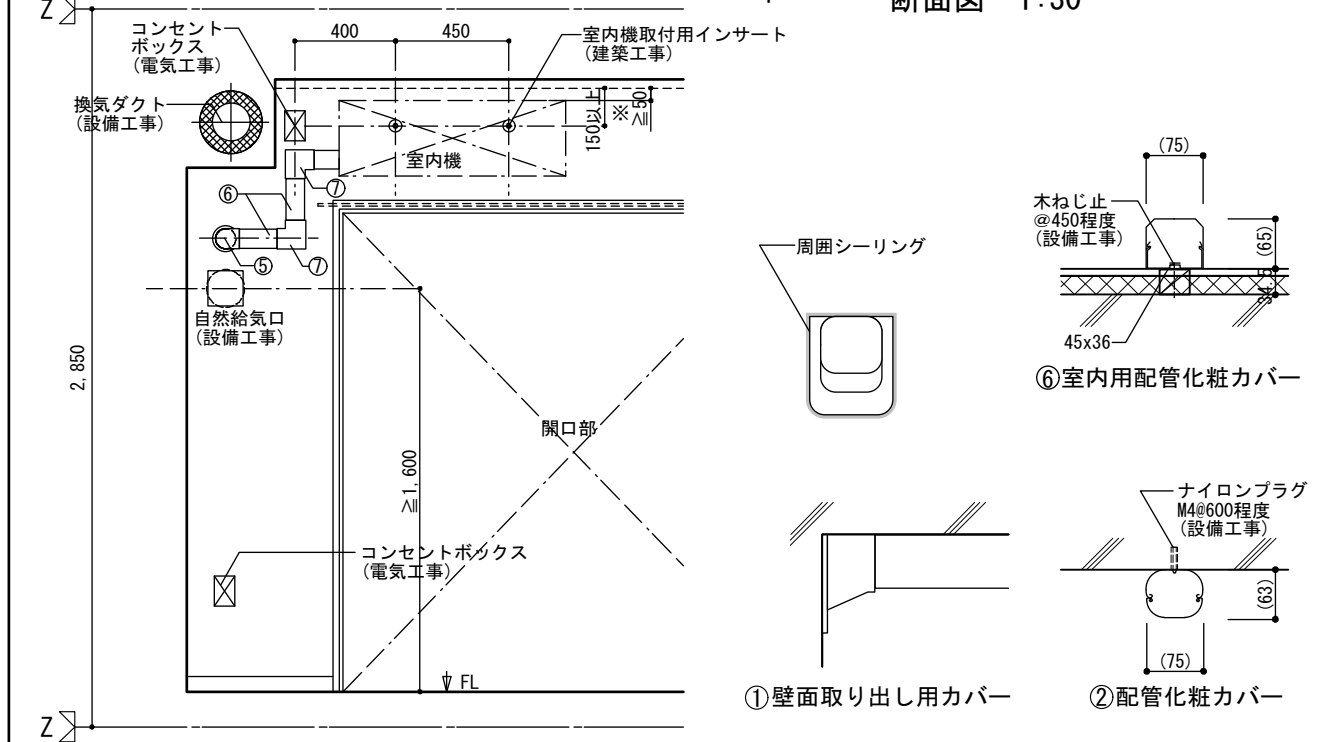
外部展開図 1:30

居間兼食事室展開図 1:30

- 【仕様】**
- ・ドレン排水用レール取付けにねじ等を使用する場合は止水処理を行う。
  - ・以下の工事は設備工事とする。
  - ・配管カバー材質:合成樹脂製
  - ①壁面取り出し用カバー
  - ②配管化粧カバー
  - ③端末カバー
  - ④立面90° 曲りカバー
  - ⑤室内用壁面取り出し用カバー
  - ⑥室内用配管化粧カバー
  - ⑦室内用壁面90° 曲りカバー
- 【附記事項】**
- ・エアコン取付用インサートは「AE-505-2」による。
  - ・※部寸法は最小確保寸法を示す。
  - ・は実装エアコン(設備工事)を示す。
  - ・断熱補強※1、※2の有無は建物設計図による。
- 【附記事項】**
- ・ドレンホルダー:合成樹脂製
  - ・室外機天井据付台:溶融亜鉛メッキ鋼板アクリル塗装
  - ・外部壁面取り出し用カバーの周囲及びカバー接合部にはシーリングを充填する。
  - ・壁面配管貫通部はパテにて止水処理を行う。



断面図 1:30

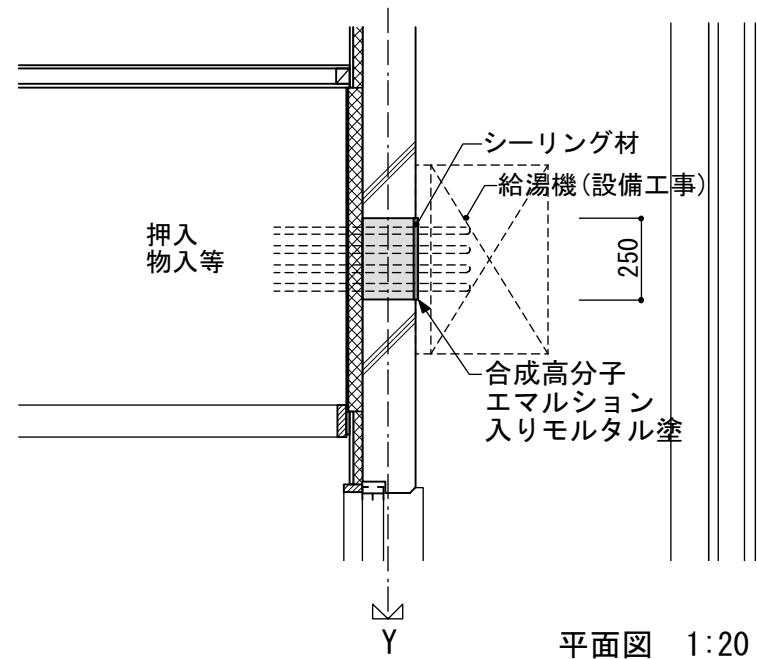


個室展開図 1:30

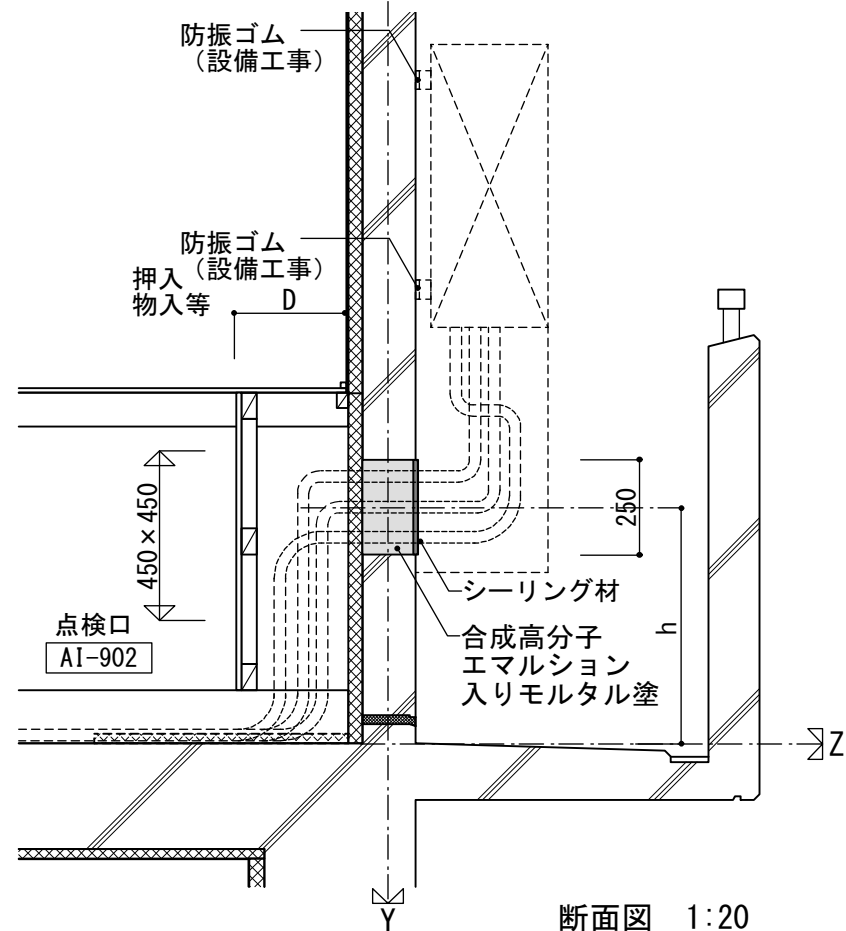
配管カバー詳細図 1:10

【附記事項】	【改訂事項(公団住宅)】	名称	エアコン室外機置場(天井吊) (WR造の場合のエアコン実装型) 【型式図】		頁 E-55
	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版3刷 H.31.4.1		縮尺	1:10 1:30	

A: 押入・物入貫通型



平面図 1:20

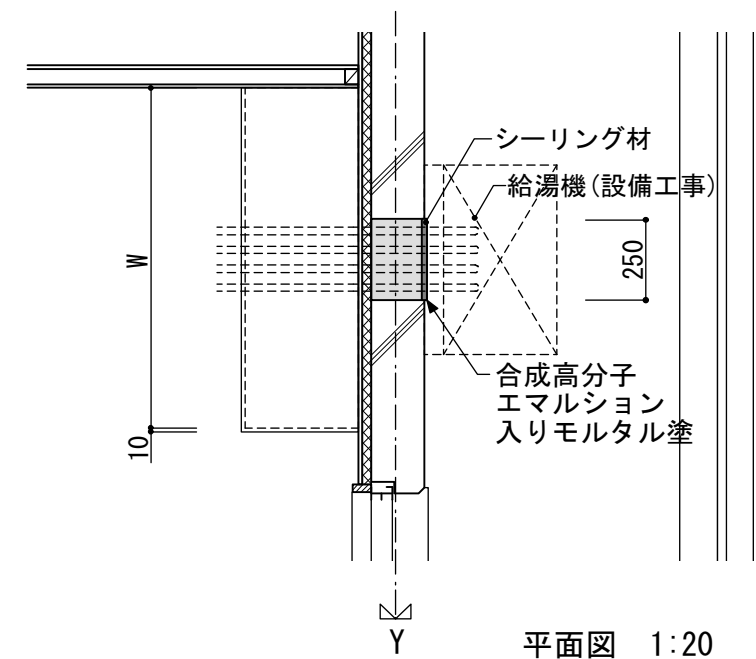


断面図 1:20

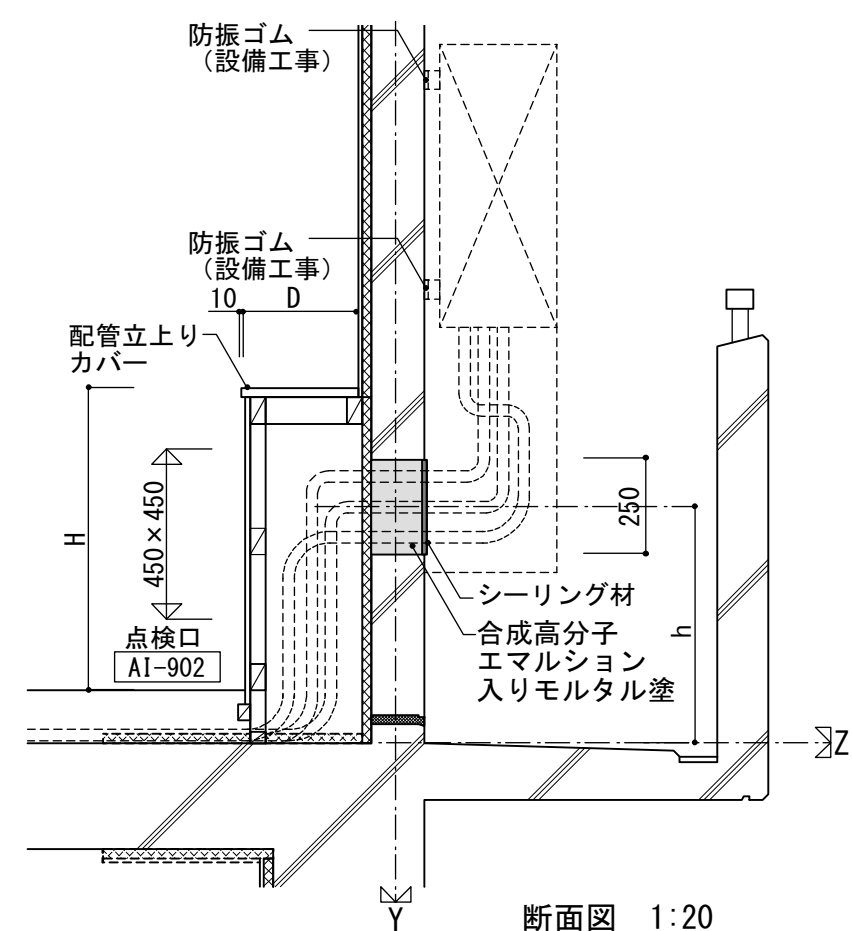
- 【仕様】
- ・コンクリートとモルタルの間及び配管廻りにシーリング材を充填する。
  - ・配管立上りカバーは AI-603 による。
  - ・配管引込による断熱材の欠損が生じないように断熱処理を施す。

- 【附記事項】
- ・外置型追焚装置付給湯機に使用する。
  - ・D、W、H、hは建物設計図による。(但し、 $D \geq 200$ )

B: 居室貫通型



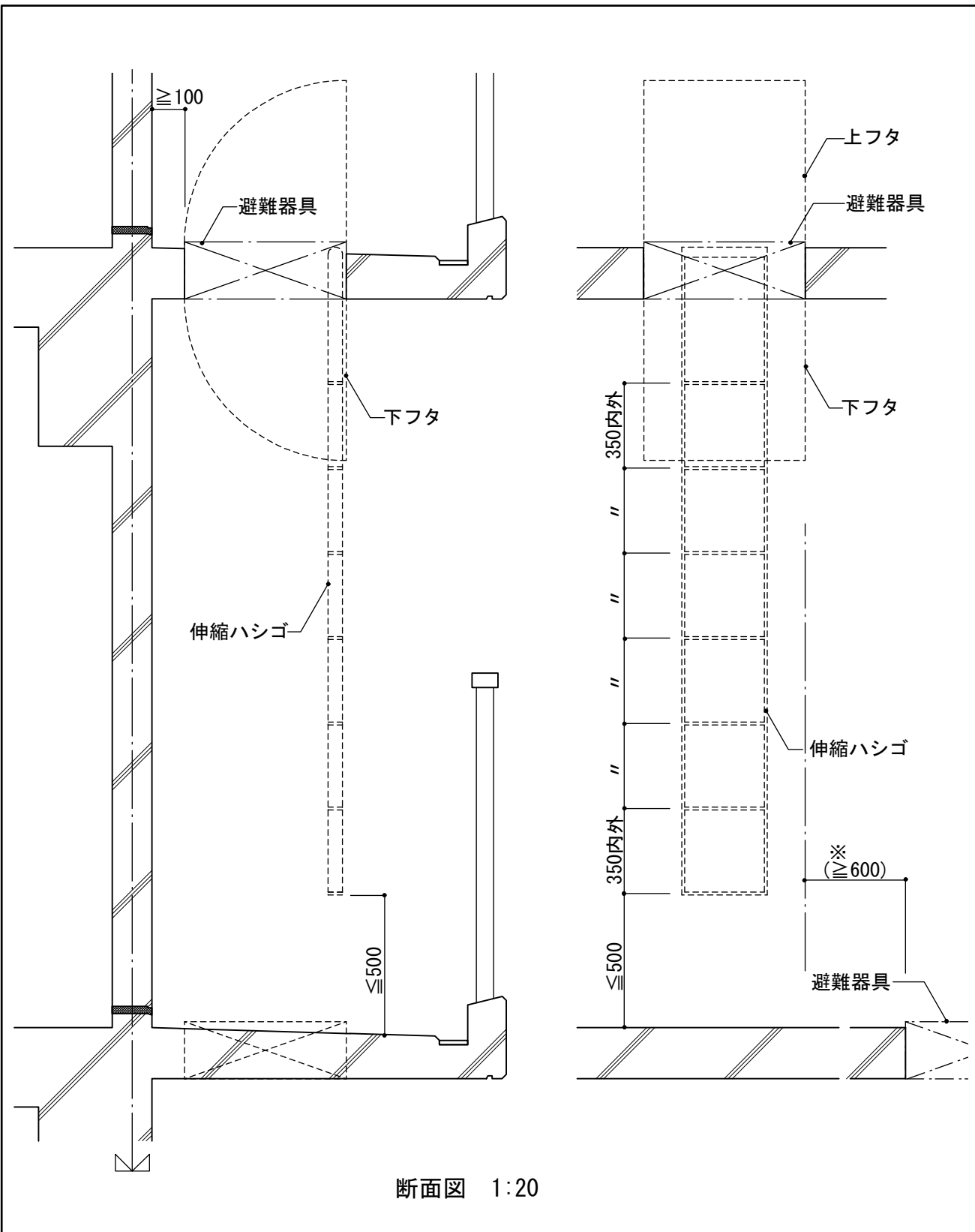
平面図 1:20



断面図 1:20

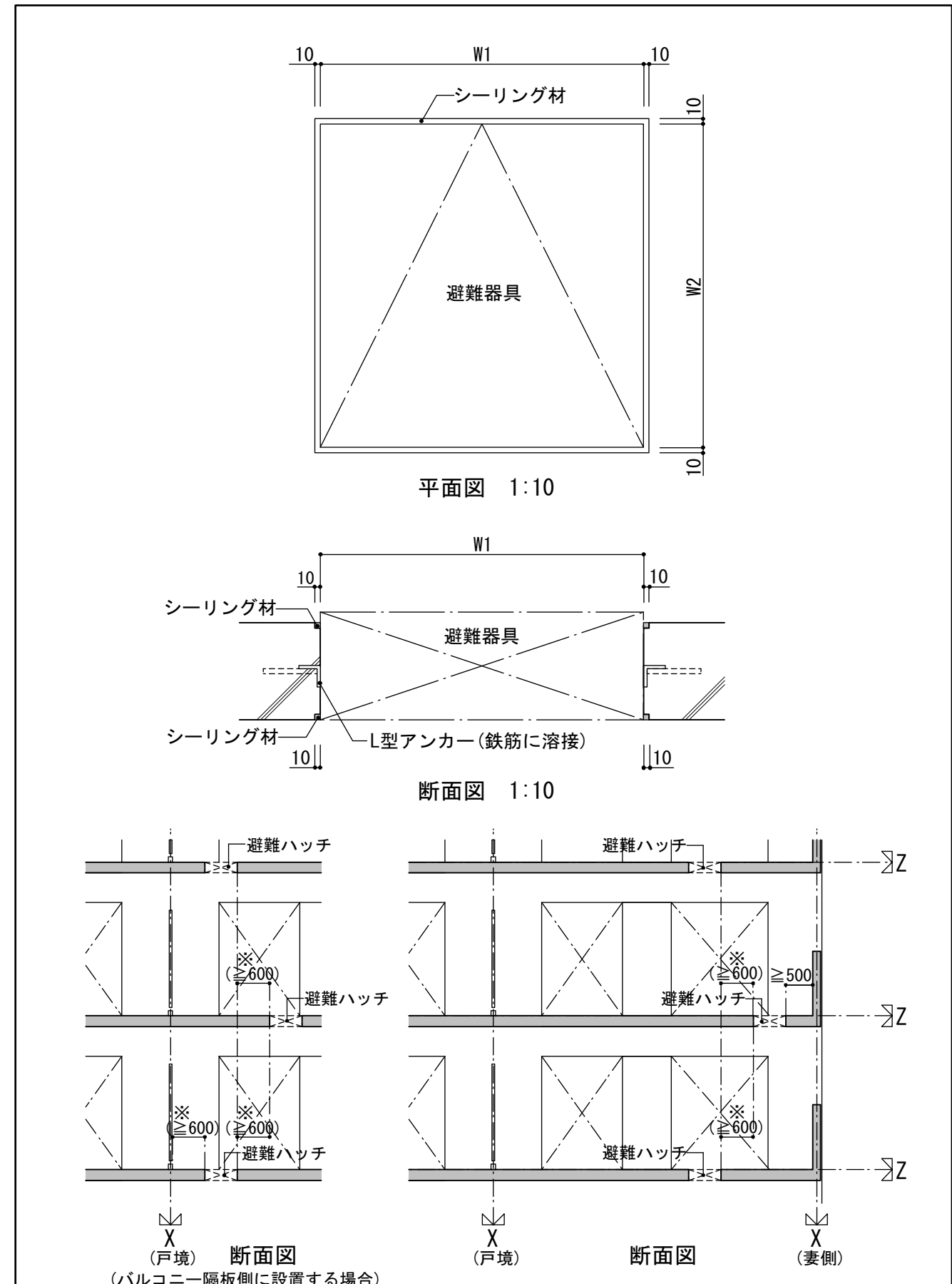
- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 【改訂事項(公団住宅)】      | 【改訂事項(機構住宅)】       |
| ・第2版 S. 61. 12. 1 | ・第2版 H. 21. 12. 1  |
| ・第3版 H. 4. 12. 1  | ・第2版3刷 H. 31. 4. 1 |
| ・第4版 H. 8. 10. 1  |                    |
| ・第5版 H. 13. 11. 1 |                    |

名称	屋外壁掛け型給湯機取付廻り		
縮尺	1:20	AE - 511	頁 E-56



断面図 1:20

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難器具は消防法に基づく検定合格品とする。</li> <li>降下口は直下口と相互に同一直線上にこない位置に設定する。</li> <li>避難器具の取付はコンクリート同時打設8ヶ所のL型アンカーに鉄筋を溶接する。</li> <li>避難器具はメーカー仕様による。</li> <li>避難器具の材質はステンレス製とする。(ハシゴは鋼製でも可)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ハシゴは揺れない構造とすること。(半固定)</li> <li>チャイルドロックの設置にあたっては消防署との協議による。</li> <li>鉄筋による開口補強が確実に出来るように、縦樋等の他の開口部から300mm以上離して配置すること。</li> </ul> | <p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>W1, W2は600を基本とし建物設計図による。</li> <li>取付位置等によりW1が600以下になる場合は消防署との協議による。</li> <li>取付位置と開き勝手は消防署との協議による。</li> <li>※寸法は消防署との協議による。</li> </ul> |
|---|---|--|



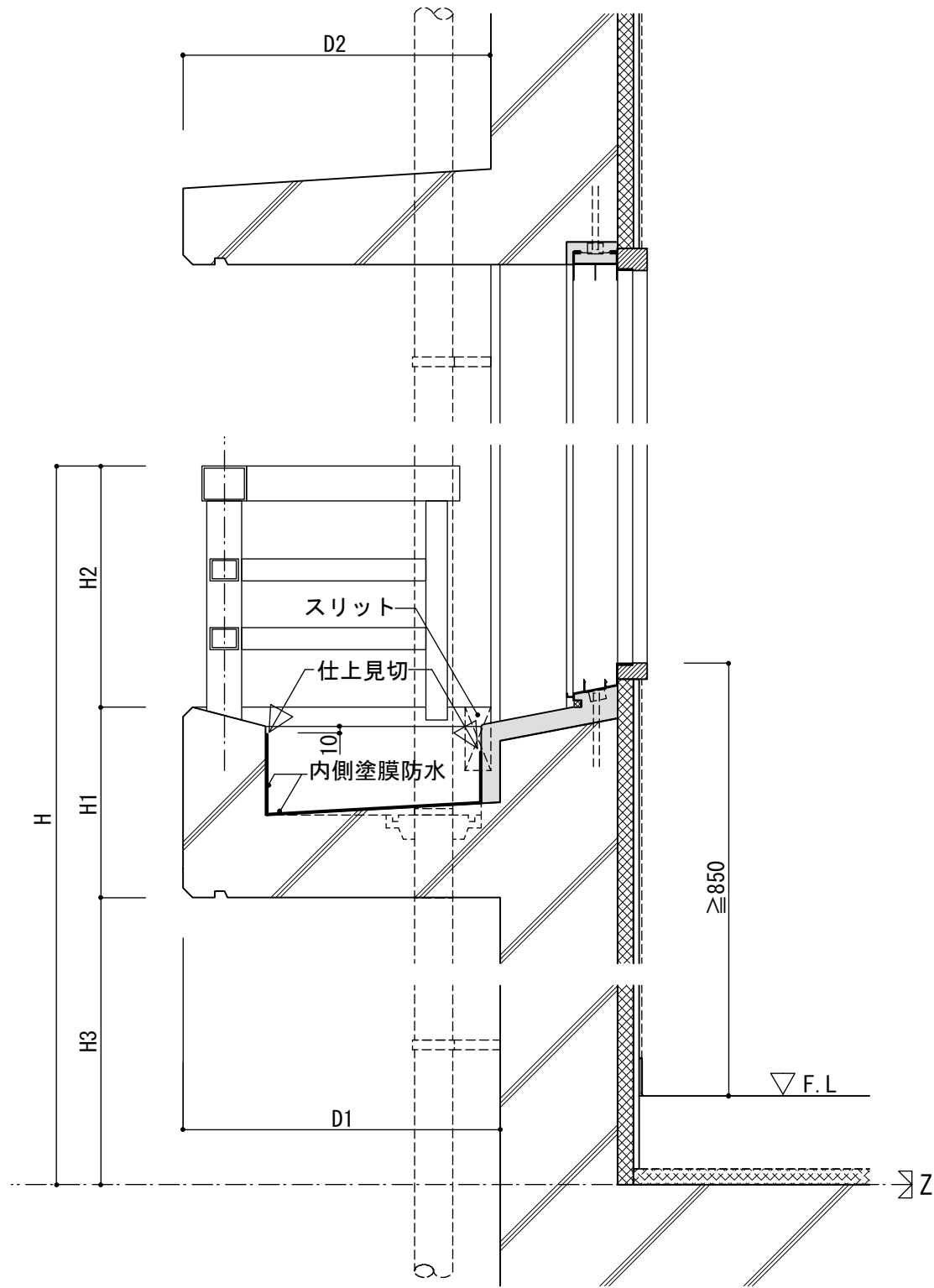
平面図 1:10

断面図 1:10

断面図

断面図

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b>	名称	バルコニー垂直避難口〔型式図〕	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1		縮尺	1:10 1:20
・第3版 H. 4. 12. 1				頁 E-57
・第4版 H. 8. 10. 1				
・第5版 H. 13. 11. 1				



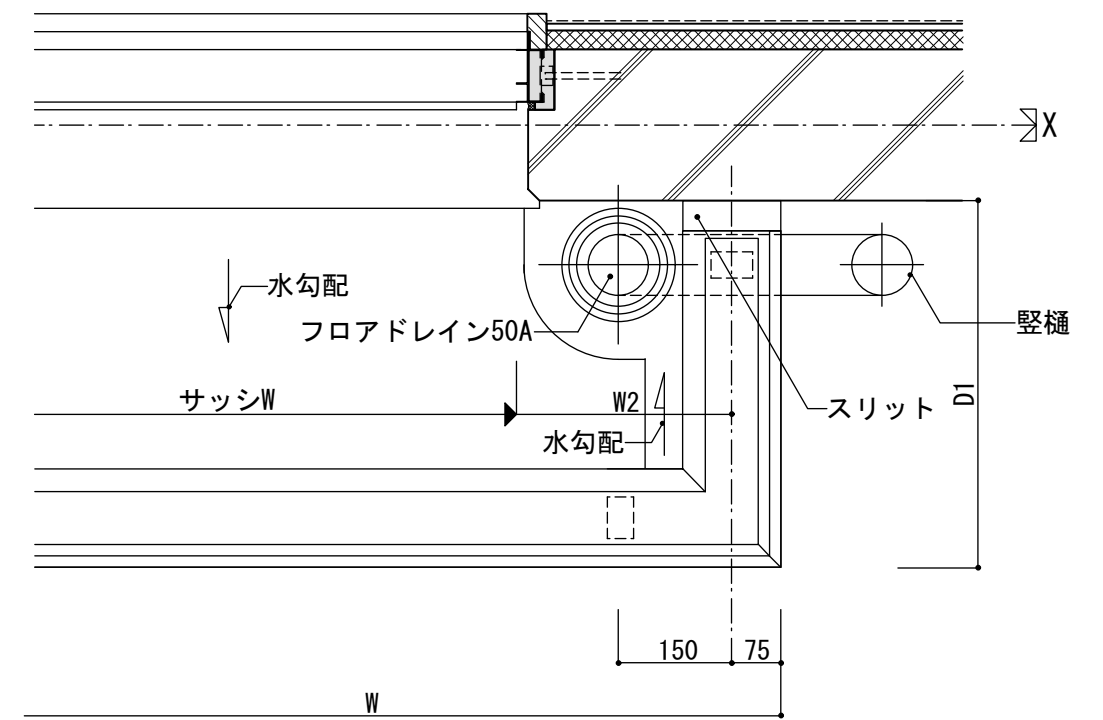
断面図 1:10

【仕様】

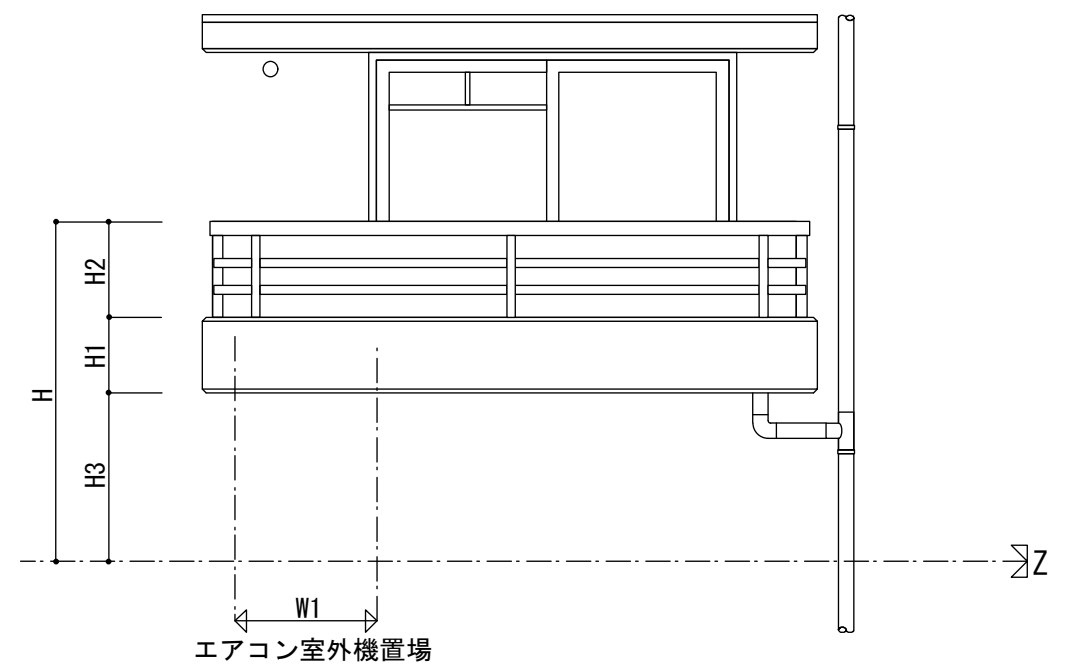
- ・雨水等が溜まらぬ様にオーバーフロー用スリットを設ける。

【附記事項】

- ・H. H1. H2. H3. W. W1. W2. D1. D2. は建物設計図による。
- ・内部手摺の取付けは建物設計図による。
- ・FLから花台手すり上端までの高さは1,200以上確保する。



平面図 1:10



立面図 1:30

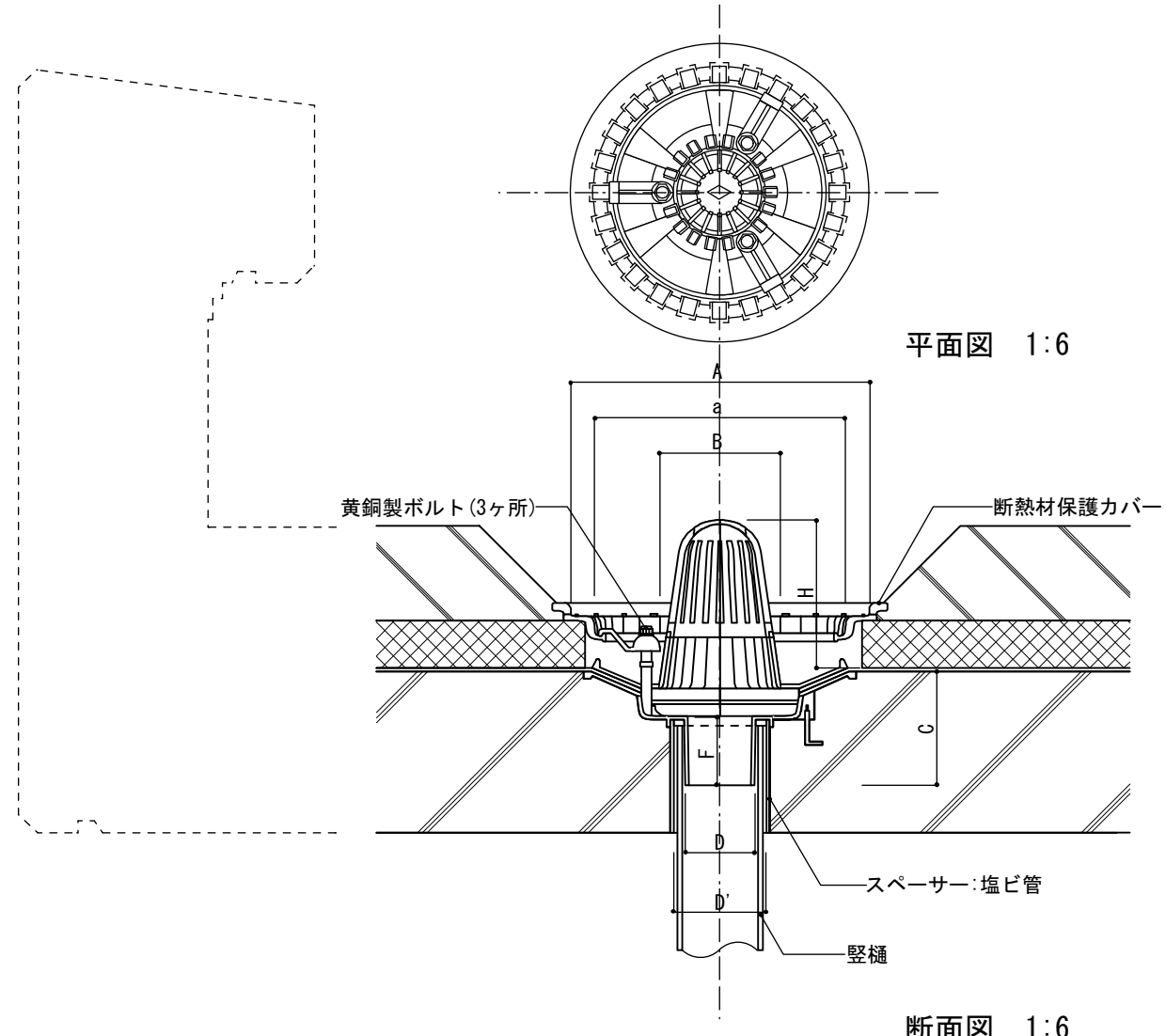
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	花台廻り〔型式図〕		
縮尺	1 : 10 1 : 30	AE - 513	頁 E-58

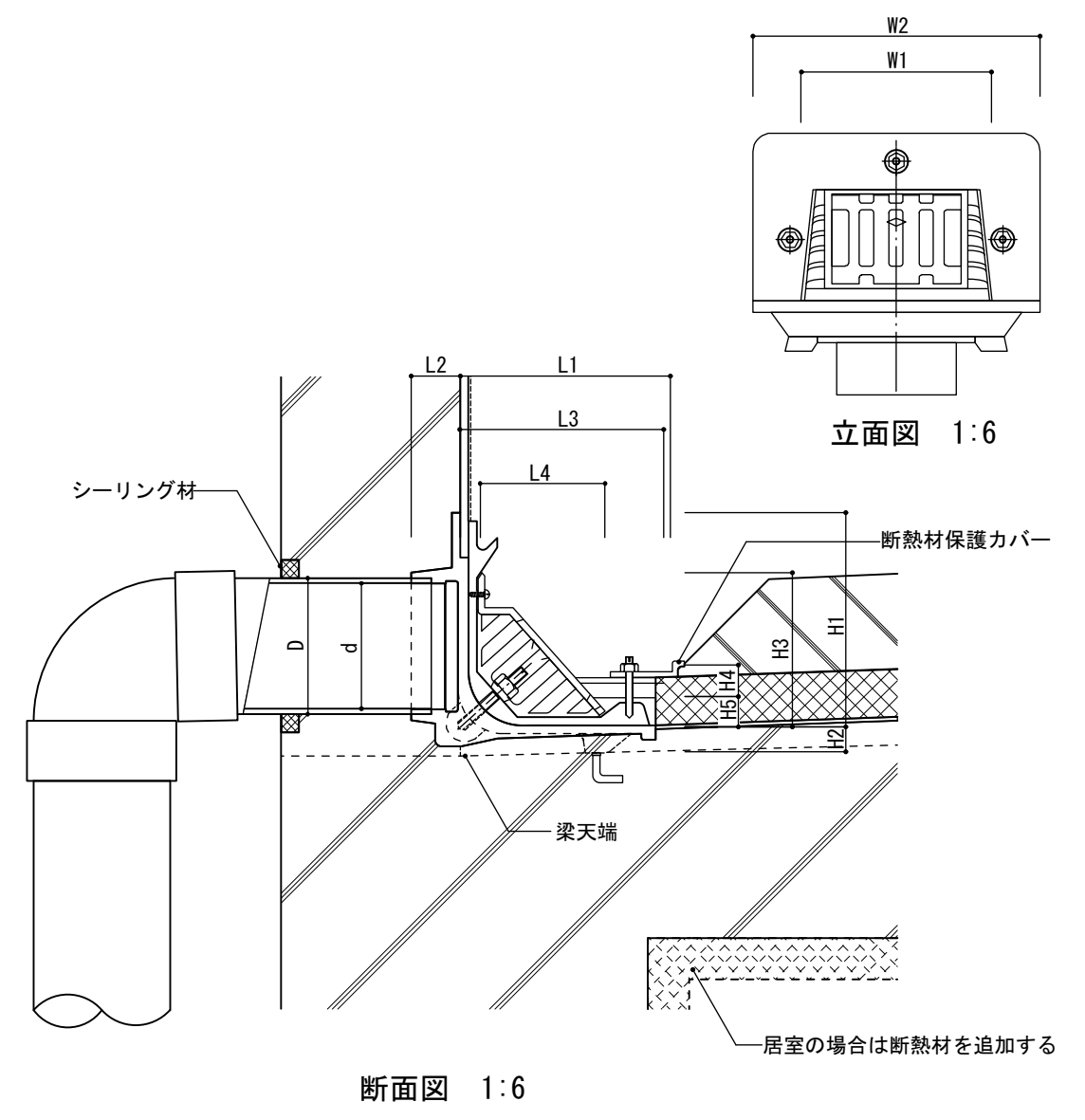


竖樋			ドレイン							
呼び寸法	VU内径	外径	A	a	B	C	D	D'	F	H
50	56	60	220	190	84	90	46	75	50	106
65	71	76	240	210	102		60	83		121
75	83	89	260	230	69		100	125		
100	107	114	280	250	123		94	125		166

**【仕様】**  
 ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鋳鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。  
 ・竖樋はJIS K 6741のVU管とする。

**【附記事項】**  
 ・防水層廻りは AE-301 による。

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称	外断熱アスファルト防水用 ルーフトレイン(先付用)〔型式図〕	
縮尺	1:6	AE - 601	頁	E-59



竖樋			ドレイン													
呼び寸法	VU内径	外径	D	d	H1	H2	H3	H4	H5	L1	L2	L3	L4	W1	W2	
75	83	89	89	80	130	18~29	93	20	12~30	160	35	140	93	140	278	
100	107	114	114	105	140		103			170	40	150	103	155	294	

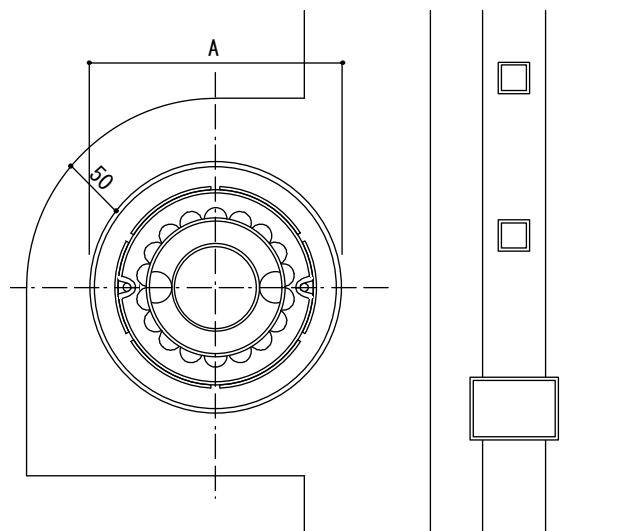
**【仕様】**  
 ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鋳鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。  
 ・竖樋はJIS K 6741のVU管とする。

**【附記事項】**  
 ・横引ドレインは後付けでもよい。

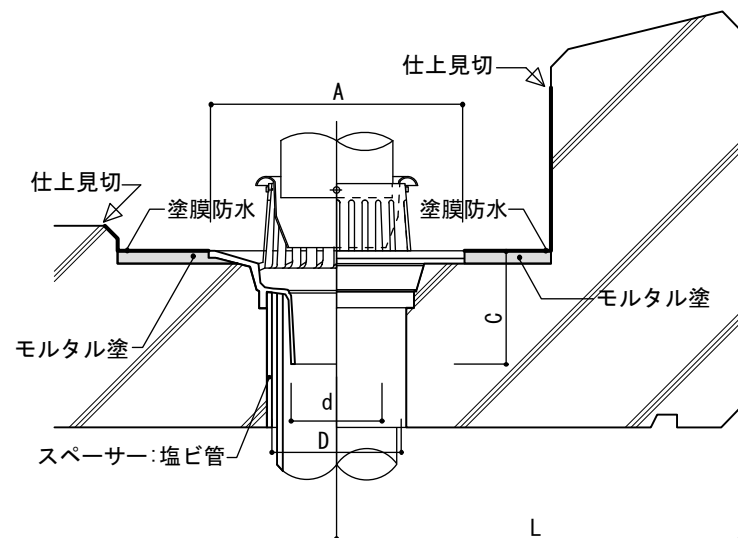
<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称	外断熱アスファルト防水用 横引用ドレイン〔型式図〕	
縮尺	1:6	AE - 602	頁	E-60



A 型



平面図 1:6



断面図 1:6

縦樋			ドレイン			
呼び寸法	VU内径	外径	A	C	D	d
50	56	60	150~170	80~90	49~53	41~45
65	71	76	170~190	80~90	64~68	56~60
75	83	89	190~200	80~90	74~80	66~72
100	107	114	220~230	80~90	100~104	92~96

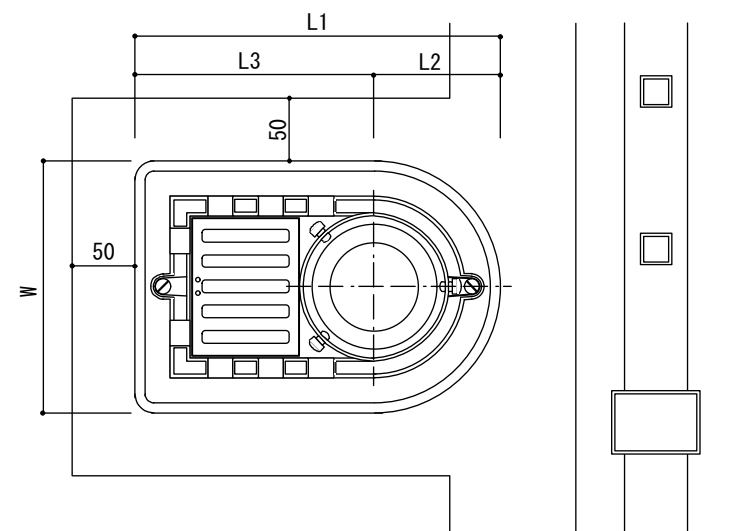
【仕様】

- ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鋳鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。
- ・縦樋はJIS K 6741のVU管とする。
- ・ドレインは水はね防止型又は同等機能を有するものとする。

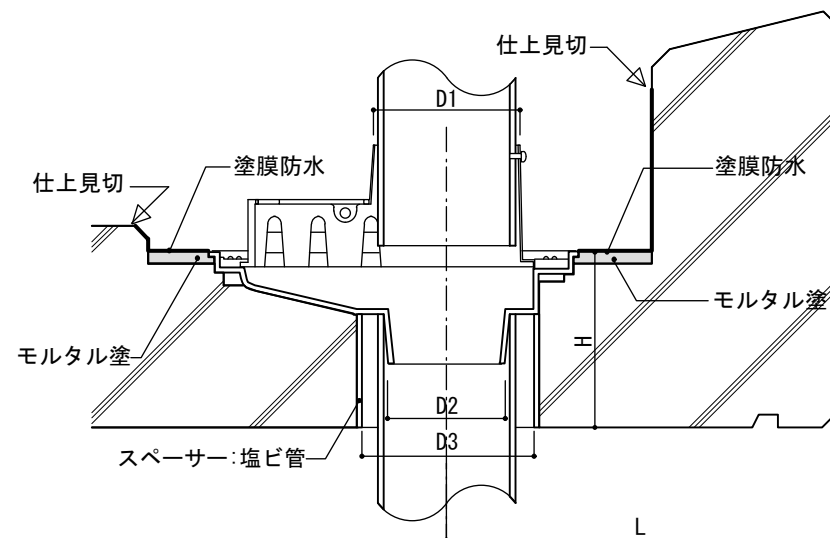
【附記事項】

- ・Lは建物設計図による。

B 型



平面図 1:6



断面図 1:6

呼び寸法	D1	D2	D3	L1	L2	L3	W	H
50	64	46	75	182	62.5	119.5	125	130 ? 200
75	93	69	100	236	80	156	160	
100	118	93	125	290	100	190	200	
125	146	117	154	330	115	215	230	

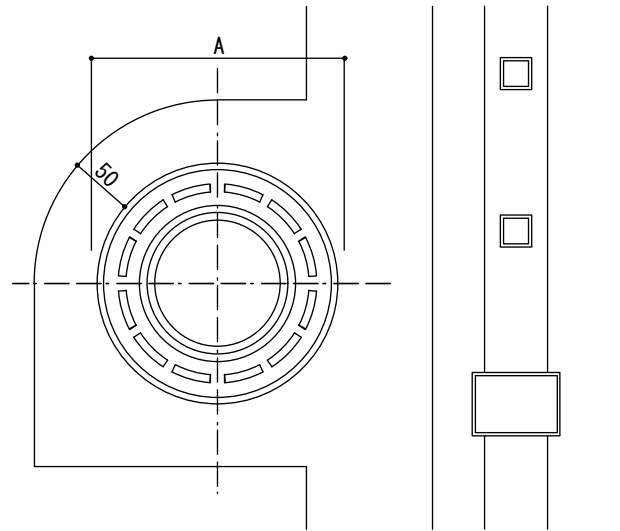
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

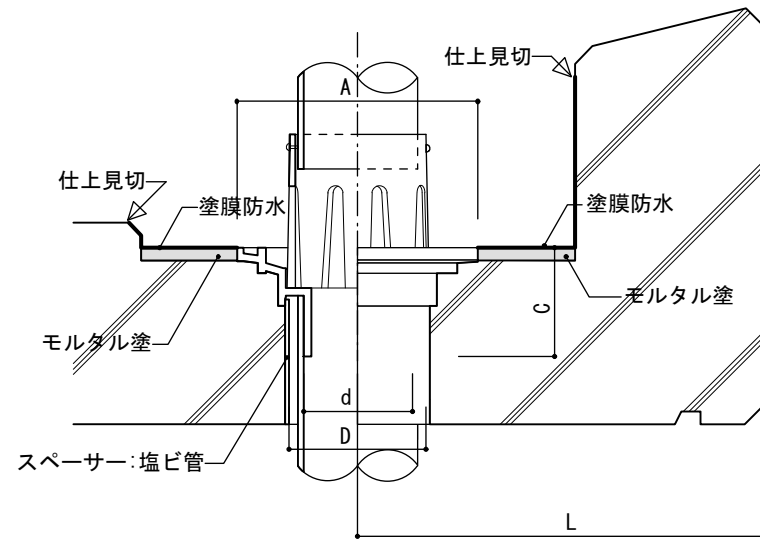
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	水はね防止型中継ドレイン 先付用 [型式図]		
	縮尺	1:6	AE - 603
頁			E-61

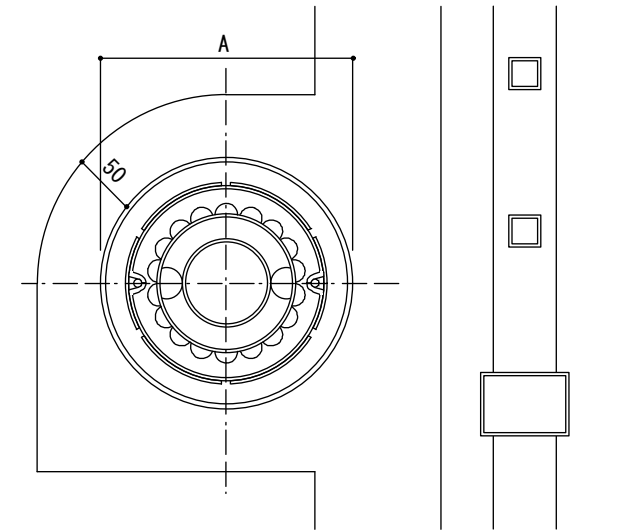


平面図 1:6

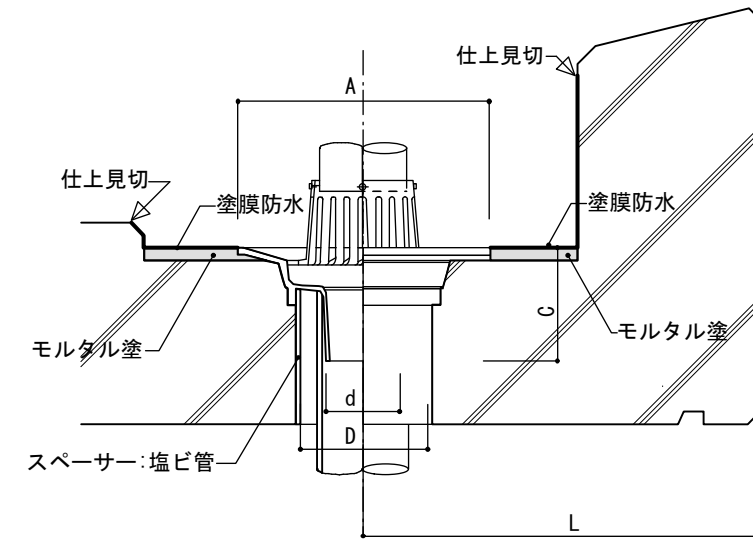


断面図 1:6

縦樋			ドレイン			
呼び寸法	VU内径	外径	A	C	D	d
50	56	60	150~170	80~90	49~53	41~45
65	71	76	170~190	80~90	64~68	56~60
75	83	89	190~200	80~90	74~80	66~72
100	107	114	220~230	80~90	100~104	92~96



平面図 1:6



断面図 1:6

【仕様】

- ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鑄鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。
- ・縦樋はJIS K 6741のVU管とする。

【附記事項】

- ・Lは建物設計図による。

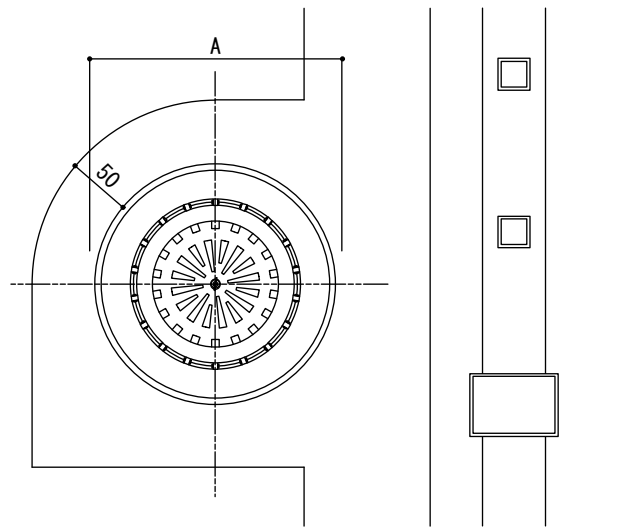
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

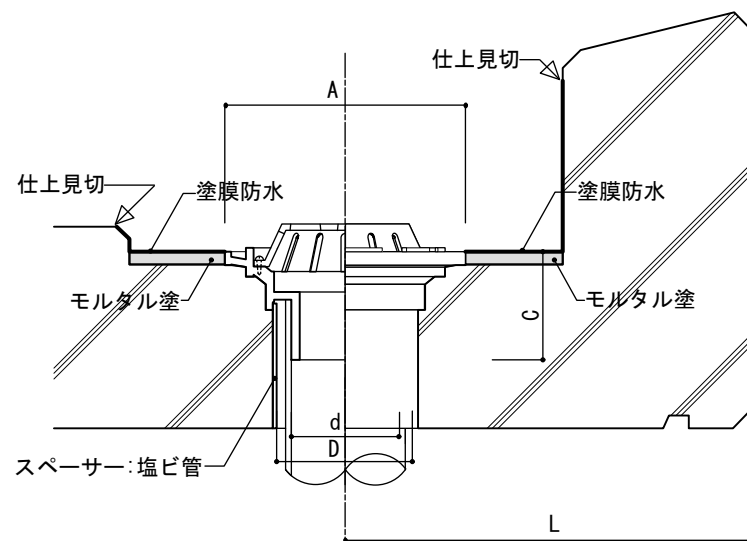
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	中継ドレイン 先付用〔型式図〕			頁
縮尺	1:6	AE - 604	E-62	

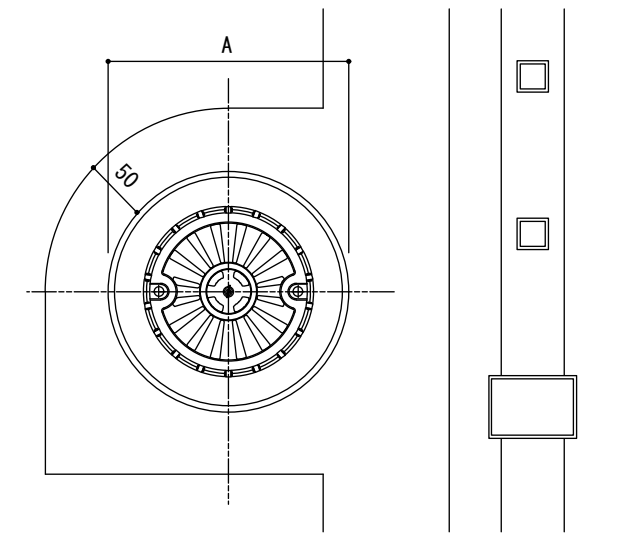


平面図 1:6

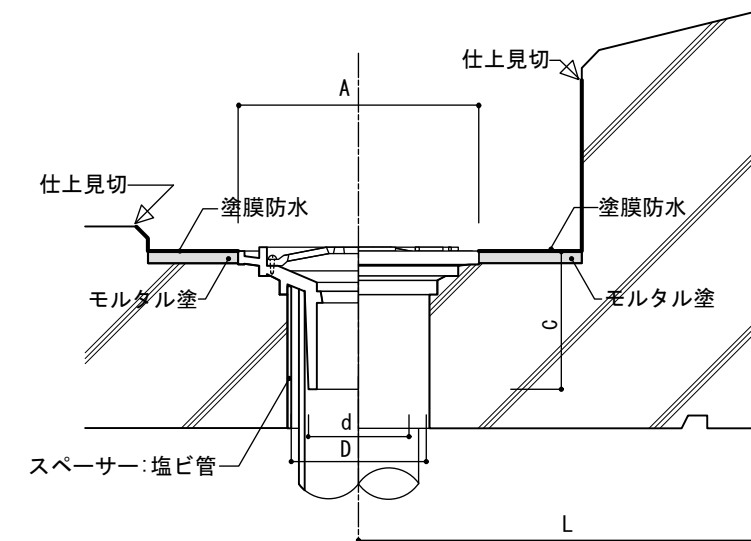


断面図 1:6

縦樋			ドレイン			
呼び寸法	VU内径	外径	A	C	D	d
50	56	60	150~170	80~90	49~53	41~45
65	71	76	170~190	80~90	64~68	56~60
75	83	89	190~200	80~90	74~80	66~72
100	107	114	220~230	80~90	100~104	92~96



平面図 1:6



断面図 1:6

【仕様】

- ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鑄鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。
- ・縦樋はJIS K 6741のVU管とする。

【附記事項】

- ・Lは建物設計図による。
- ・外廊下歩行部分に丸型フロアドレインを設ける場合は、上部に蓋を設けるか角型ドレインにしてつまづきを防ぐ。

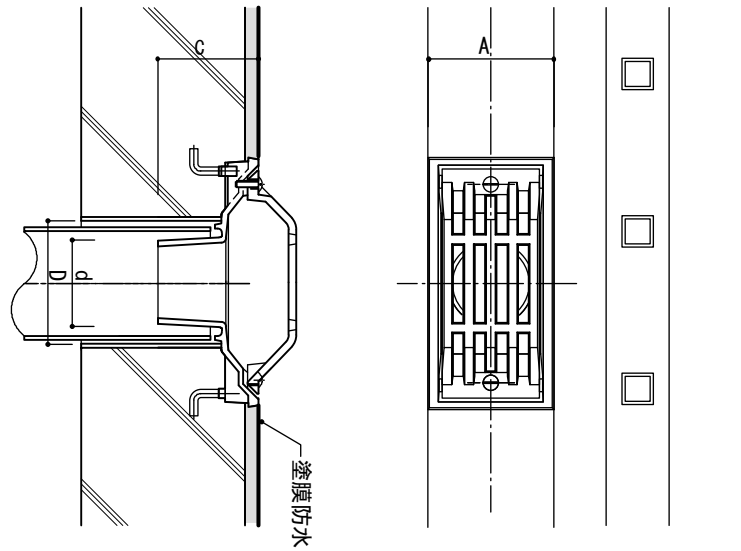
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

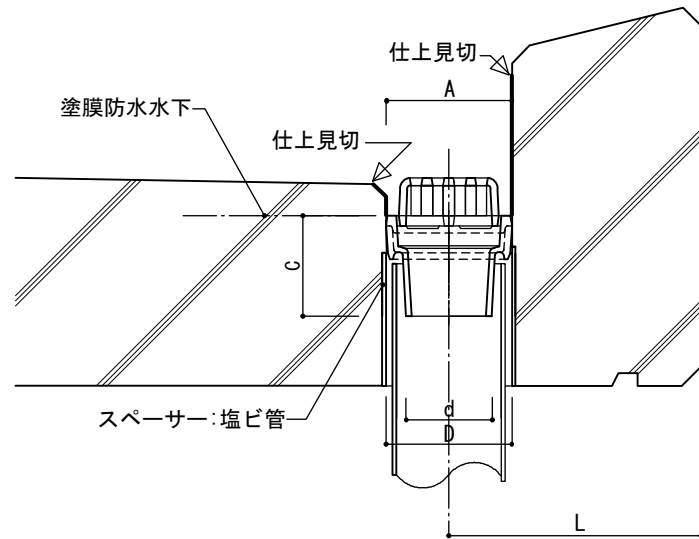
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	丸型フロアドレイン 先付用 [型式図]		
縮尺	1:6	AE - 605	頁 E-63



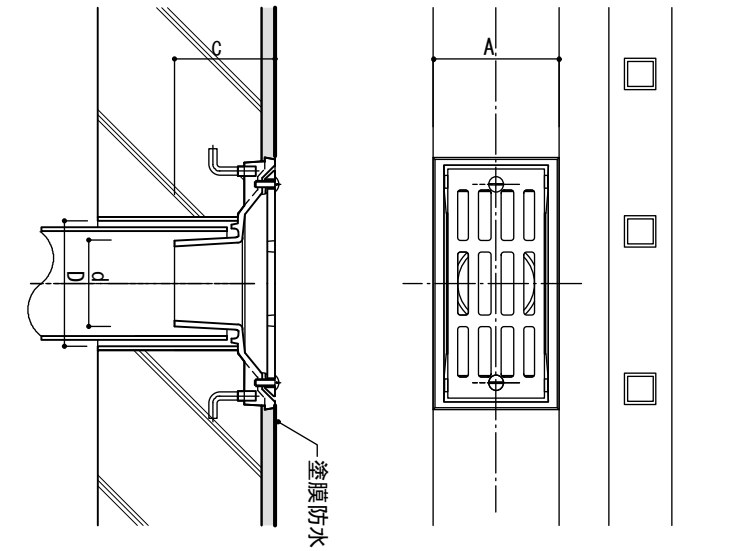
断面図 1:6

平面図 1:6



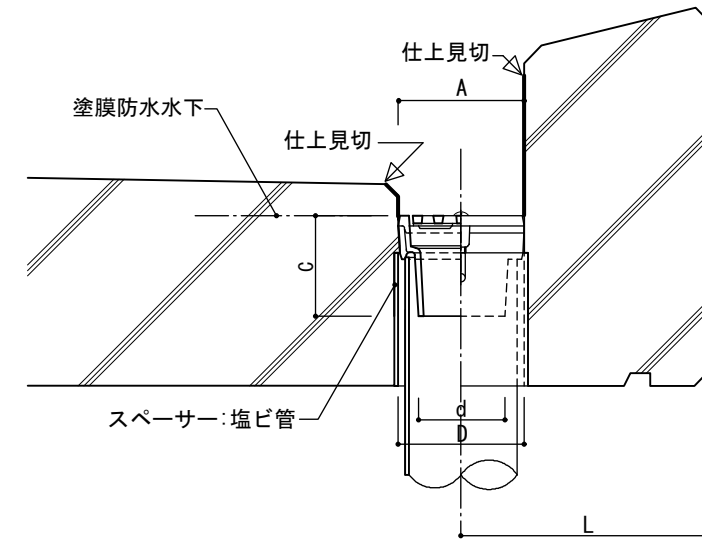
断面図 1:6

縦樋			ドレイン			
呼び寸法	VU内径	外径	A	C	D	d
50	56	60	100	80	75	45
75	83	89	100	80	100	69



断面図 1:6

平面図 1:6



断面図 1:6

【仕様】

- ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鋳鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。
- ・縦樋はJIS K 6741のVU管とする。

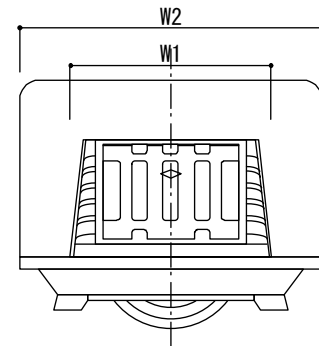
【附記事項】

- ・Lは建物設計図による。

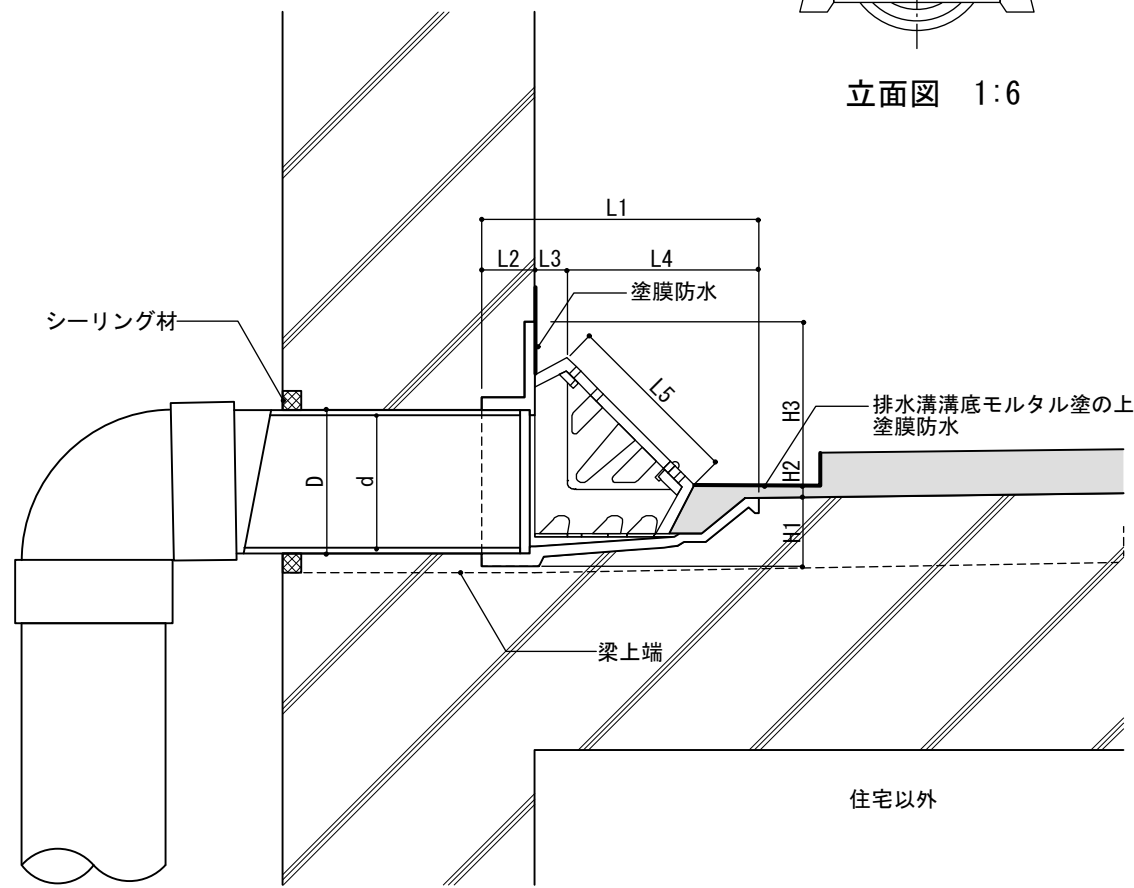
【改訂事項(公団住宅)】  
・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	角型フロアドレイン 先付用 [型式図]			頁
縮尺	1:6	AE - 606	E-64	



立面図 1:6



断面図 1:6

縦樋			ドレイン												
呼び寸法	VU内径	外径	D	d	H1	H2	H3	L1	L2	L3	L4	L5	W1	W2	
50	56	60	61	53	18~25	10	94	160	25	25	110	95	110	180	
65	71	76	76	68			115	194	35	26	133	120	140	220	
75	83	89	89	80	20~27		130	219	42	25	152	143	160	240	
100	107	114	114	105											

【仕様】

- ・ドレインの材質はJIS G 5501のFC-150又はFC-200とし、鑄鉄部は合成樹脂塗装又は合成樹脂焼付け塗装とする。
- ・縦樋はJIS K 6741のVU管とする。

【附記事項】

- ・横引ドレインは後付けでもよい。

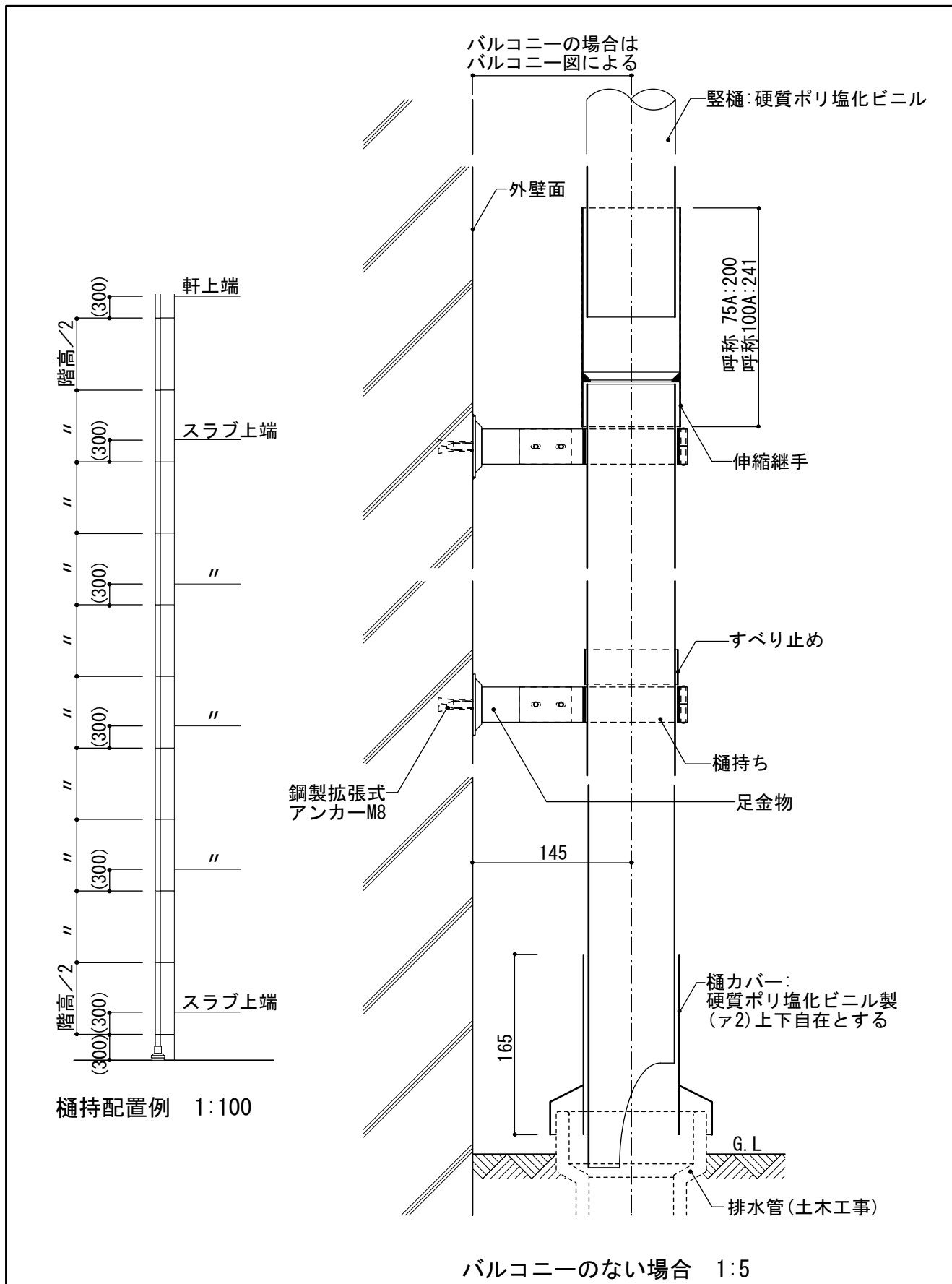
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

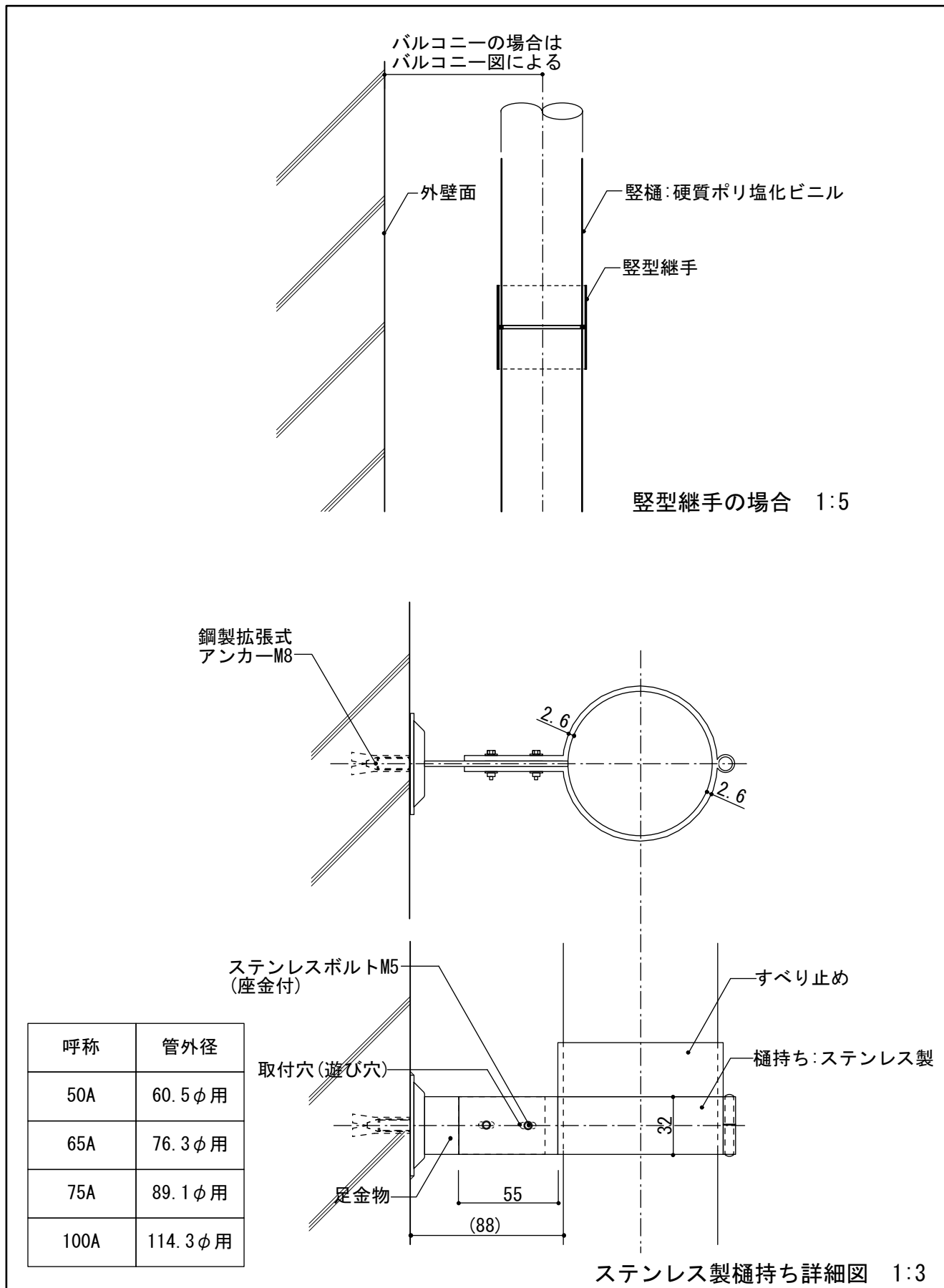
名称	横引用ドレイン 〔型式図〕			頁 E-65
	縮尺	1:6	AE - 607	



樋持配置例 1:100

バルコニーのない場合 1:5

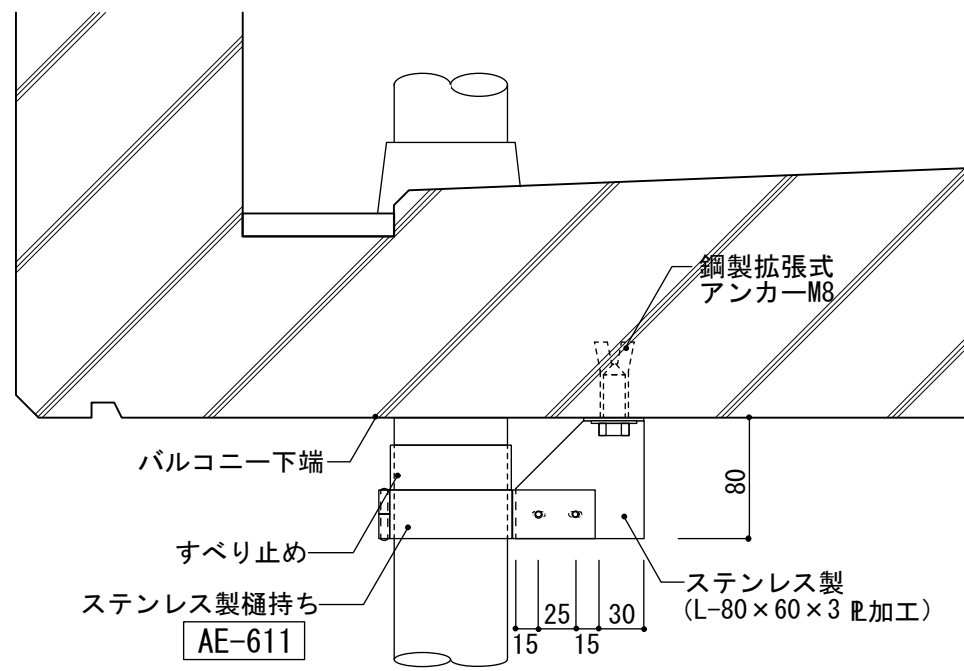
- 【仕様】**
- ・ 樋はJIS K 6741のVU管とする。
  - ・ 色はクリーム色を標準とする。
  - ・ すべり止めは樋と同径の硬質ポリ塩化ビニル管を割り、接着剤にて貼り付け、間隔は樋持金物の1つおきに取り付ける。
- 【附記事項】**
- ・ 樋持ち輪は、ステンレス製(巾32)とする。
  - ・ 縦型継手は硬質ポリ塩化ビニル製とし、接着剤にて下部樋に取付ける。
  - ・ アンカー周辺にはシーリングを施す。
  - ・ 樋持ち出し寸法は標準を示す。
  - ・ 樋持ち金物の設置にあたっては、足掛りにならないよう配慮する。



縦型継手の場合 1:5

ステンレス製樋持ち詳細図 1:3

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・ 第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>・ 第4版 H. 8. 10. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>樋・樋持ち廻り〔型式図〕</p>	<p>縮尺</p> <p>1 : 3 1 : 5 1 : 100</p>	<p>AE - 611</p>	<p>頁</p> <p>E-66</p>
---	---	-------------------------------	--	-----------------	----------------------

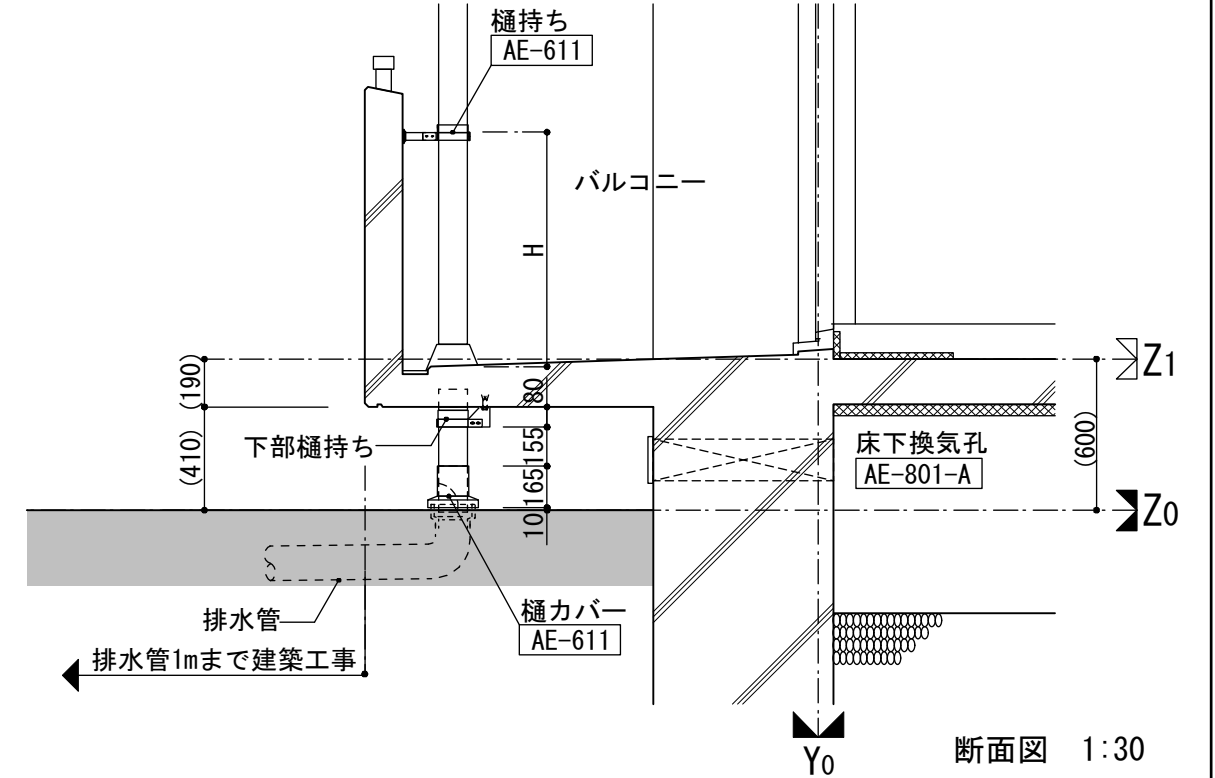


1階バルコニー・外廊下等下部樋持ち 1:5

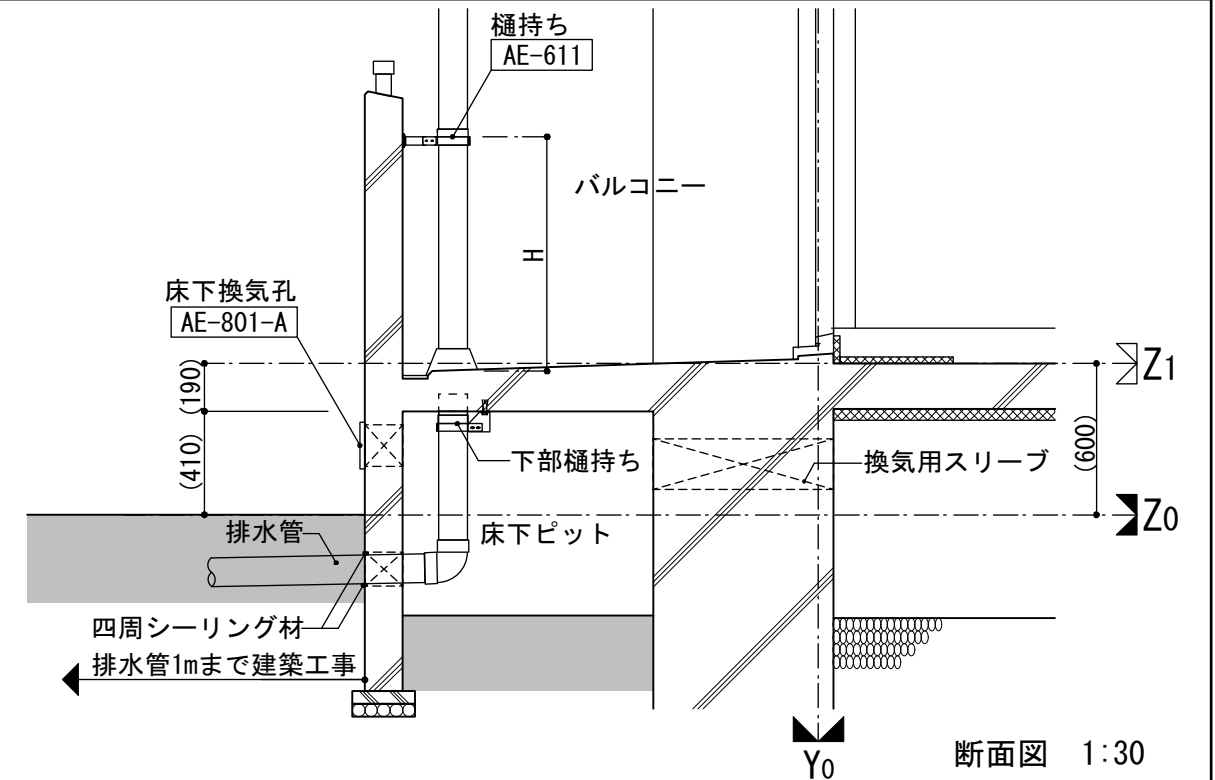
【仕様】  
・すべり止めは AE-611 による。

【附記事項】  
・Hは床からの足掛り高さを示し $\geq 650$ とする。

A:床下にピットを設けない場合



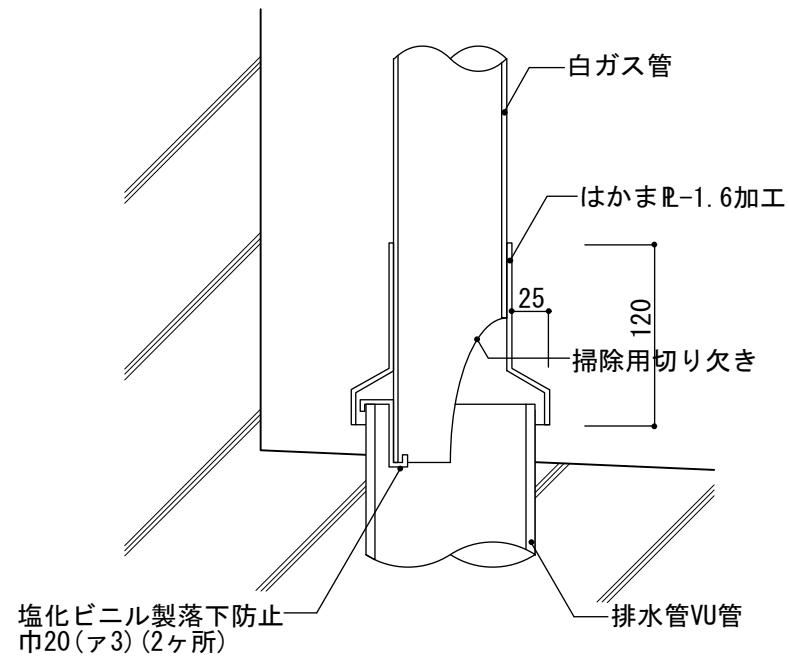
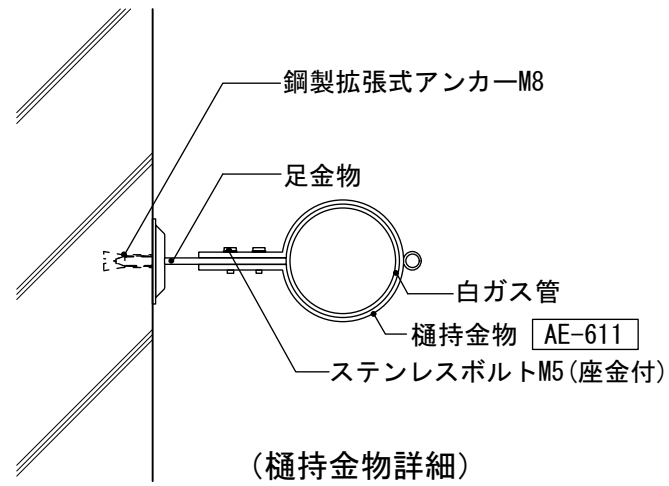
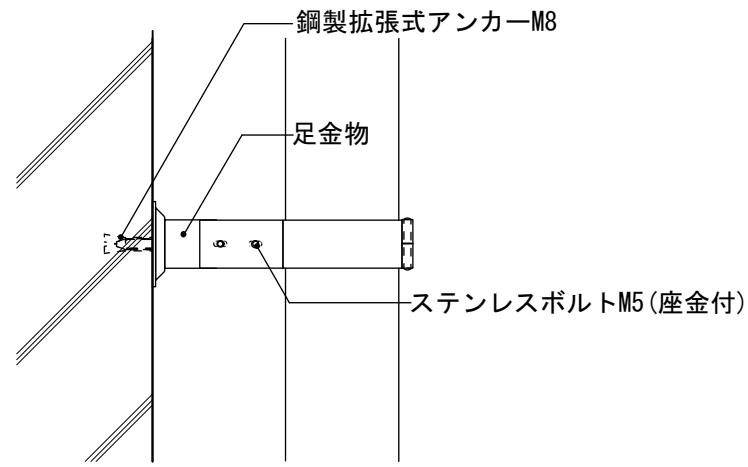
B:床下にピットを設ける場合



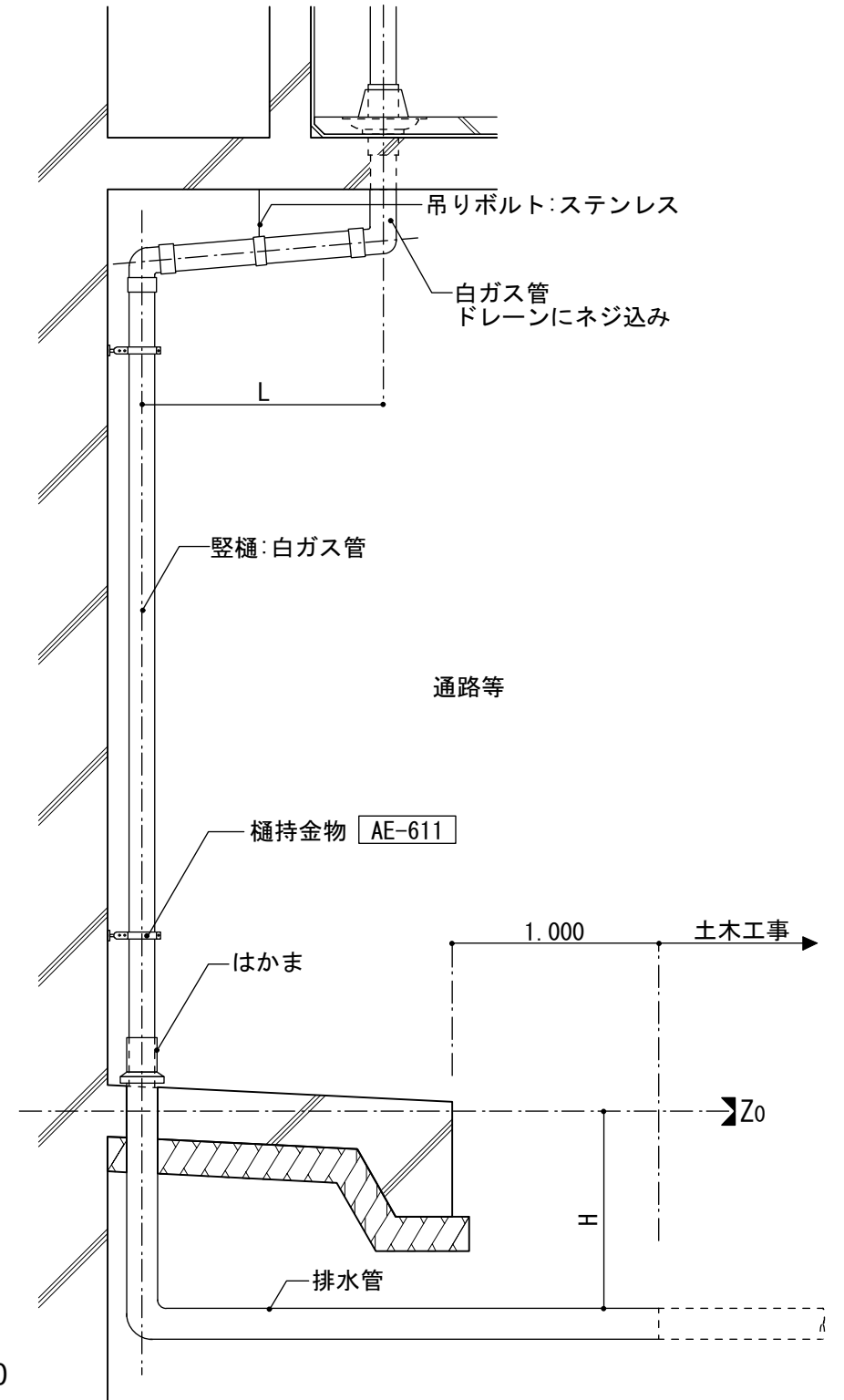
【改訂事項(公団住宅)】  
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	1階下部樋持ち廻り〔型式図〕		
縮尺	1:5	1:30	AE-612
			頁 E-67



詳細図 1:5



【仕様】

- ・鉄部(白ガス管、はかま)は垂鉛メッキの上SOPとする。
- ・排水管の径は縦樋の径よりワンサイズ大きくする。

【附記事項】

- ・H、Lは建物設計図による。
- ・1階にコンクリート床がある場合はその先端より1mまでは建築工事とする。
- ・白ガス管の径は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

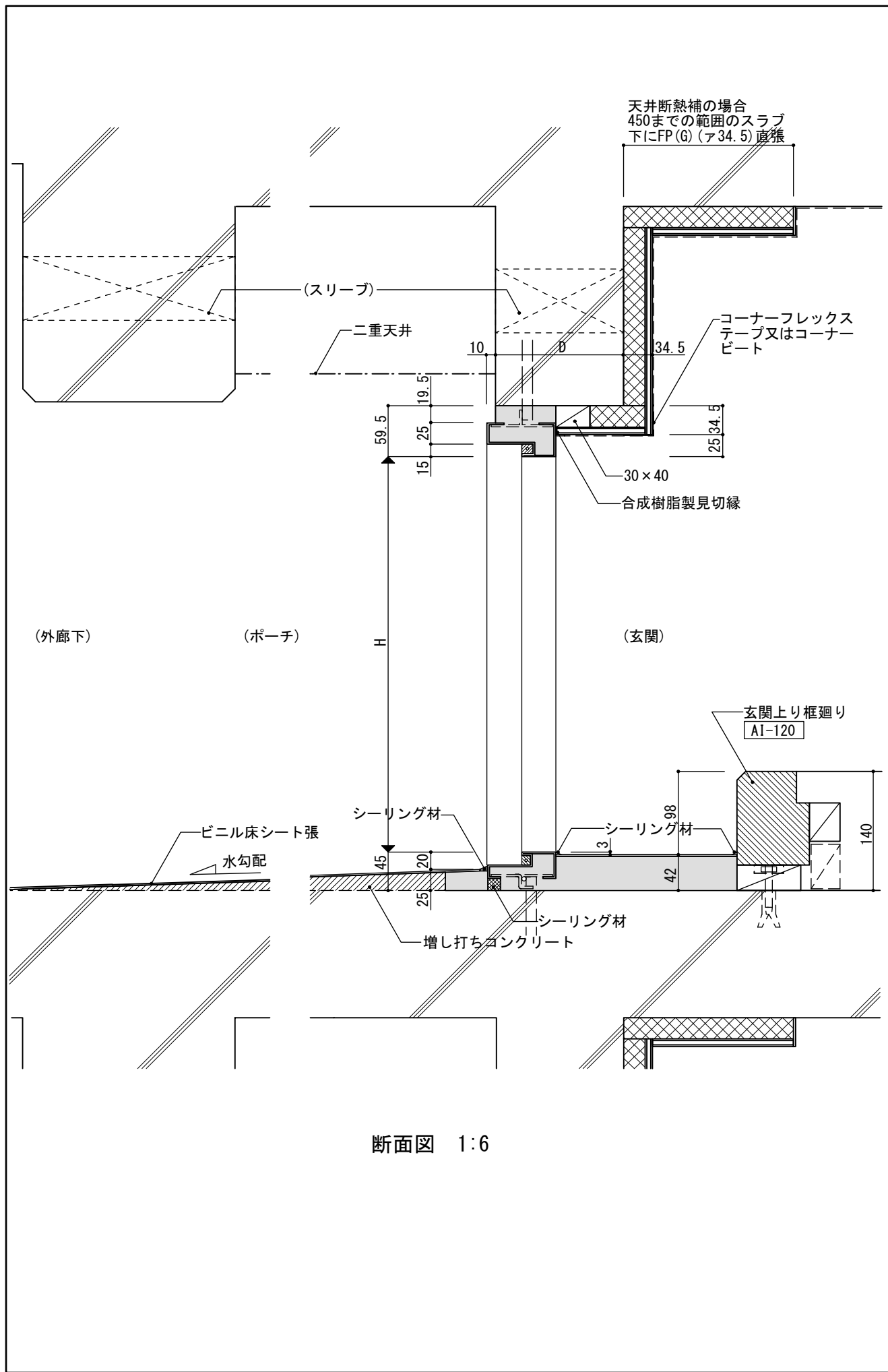
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

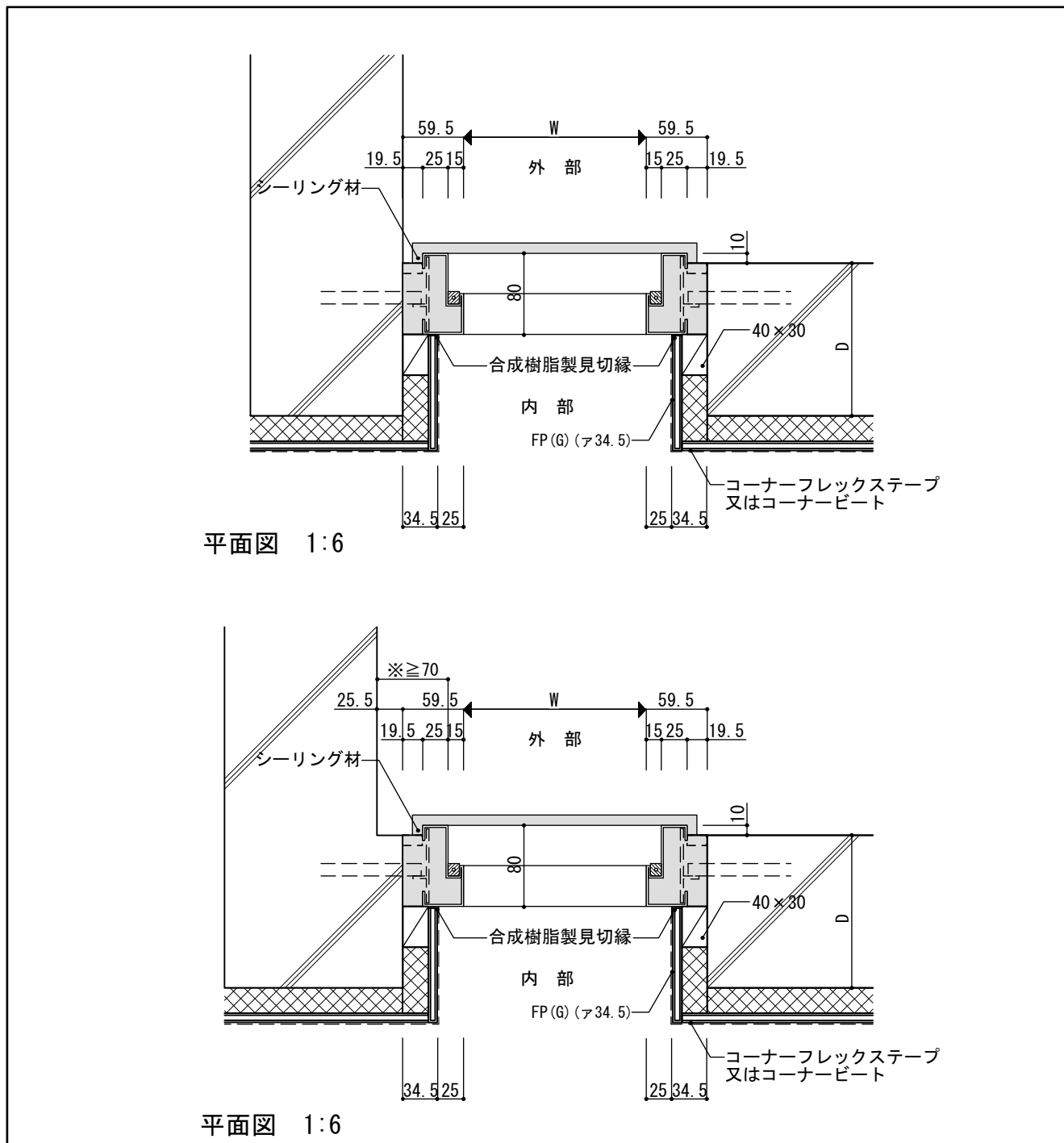
- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	樋廻り(白ガス管)		
縮尺	1:5 1:20	AE - 613	頁 E-68





断面図 1:6



平面図 1:6

平面図 1:6

【仕様】

- ・ 下わくは特記なき限りステンレス製とする。
- ・ 玄関鋼製戸わく廻り仕上げ見切り用の合成樹脂製見切縁は AE-702 による。
- ・ 給気用ダンパーの電源ボックスを躯体に埋込まない場合は、 AI-139 による。

【附記事項】

- ・ D、Hは建物設計図による。
- ・ 見切縁の種別①②(合成樹脂製見切縁)は建物設計図による。
- ・ 玄関ドアが雨がかり部分に有る場合は上わく、壁わくにもシーリング材を充填する。シーリング材の有無は建物設計図による。
- ・ ※左側吊元で90°開きでレバーハンドルが外壁に当たる場合、壁面よりドアわくを離す。
- ・ 天井断熱補強の有無は建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)

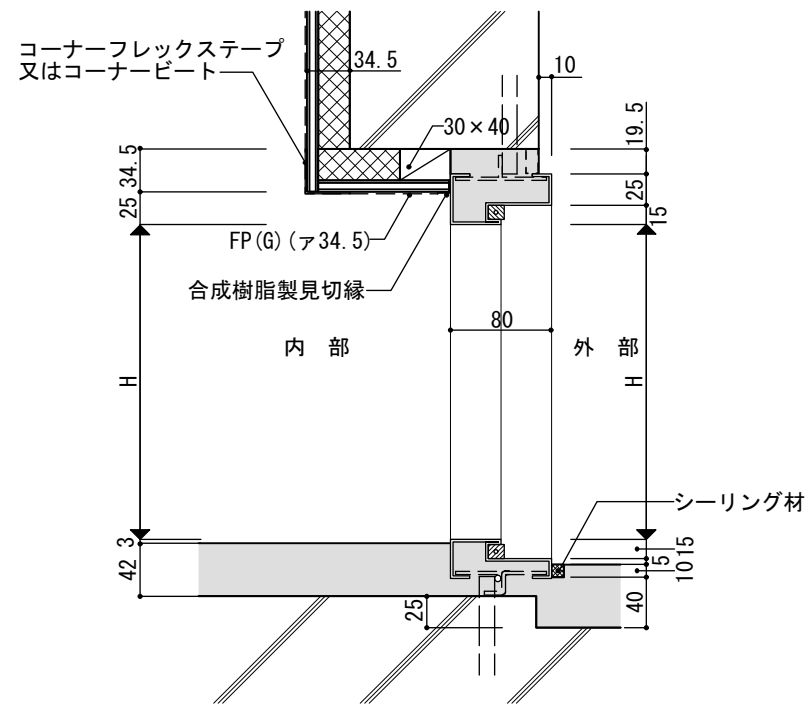
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追)H. 16. 8. 1

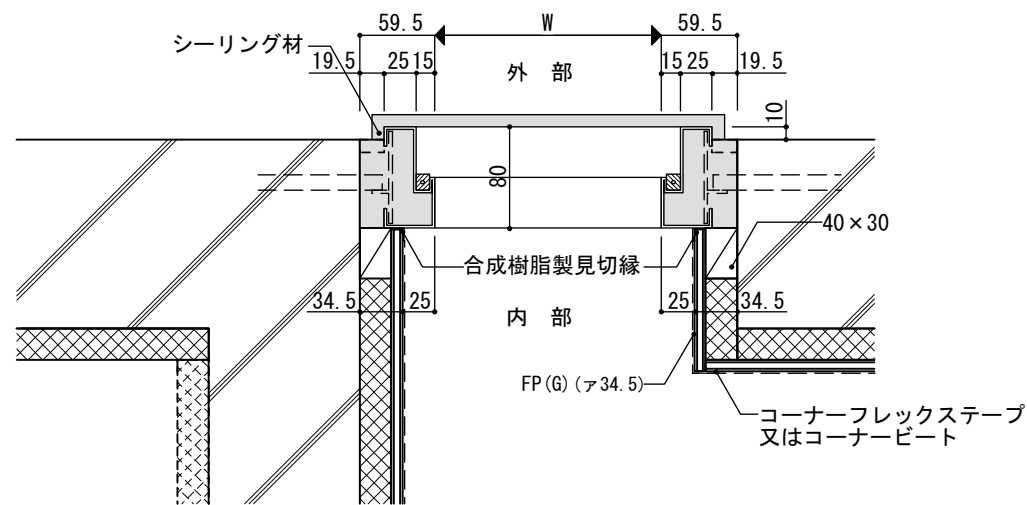
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	玄関ポーチ廻り		
縮尺	1:6	AE - 701	頁 E-69

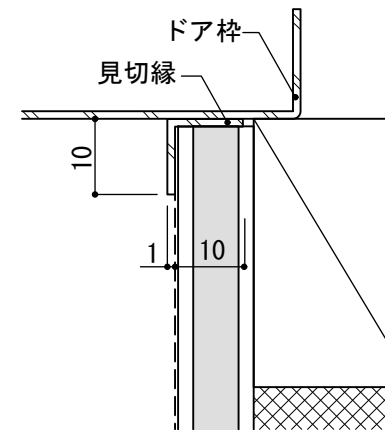


断面図 1:6

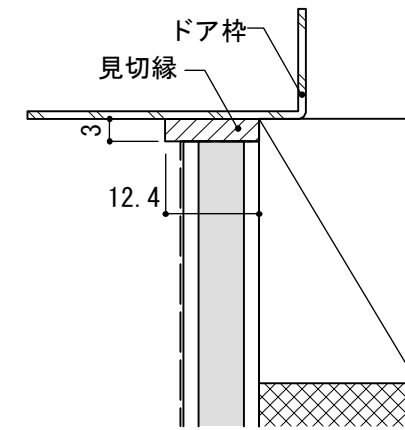


平面図 1:6

ドアわくが壁の外側に付く場合



堅わく合成樹脂製見切縁—① 1:1



堅わく合成樹脂製見切縁—② 1:1

【仕様】

・下わくは特記なき限りステンレス製とする。

【附記事項】

- ・ W, Hは建物設計図による。
- ・ 見切縁の種別(合成樹脂製見縁)は建物設計図による。
- ・ 玄関ドアが雨がかり部分に有る場合は上わく、堅わくにもシーリング材を充填する。シーリング材の有無は建物設計図による。

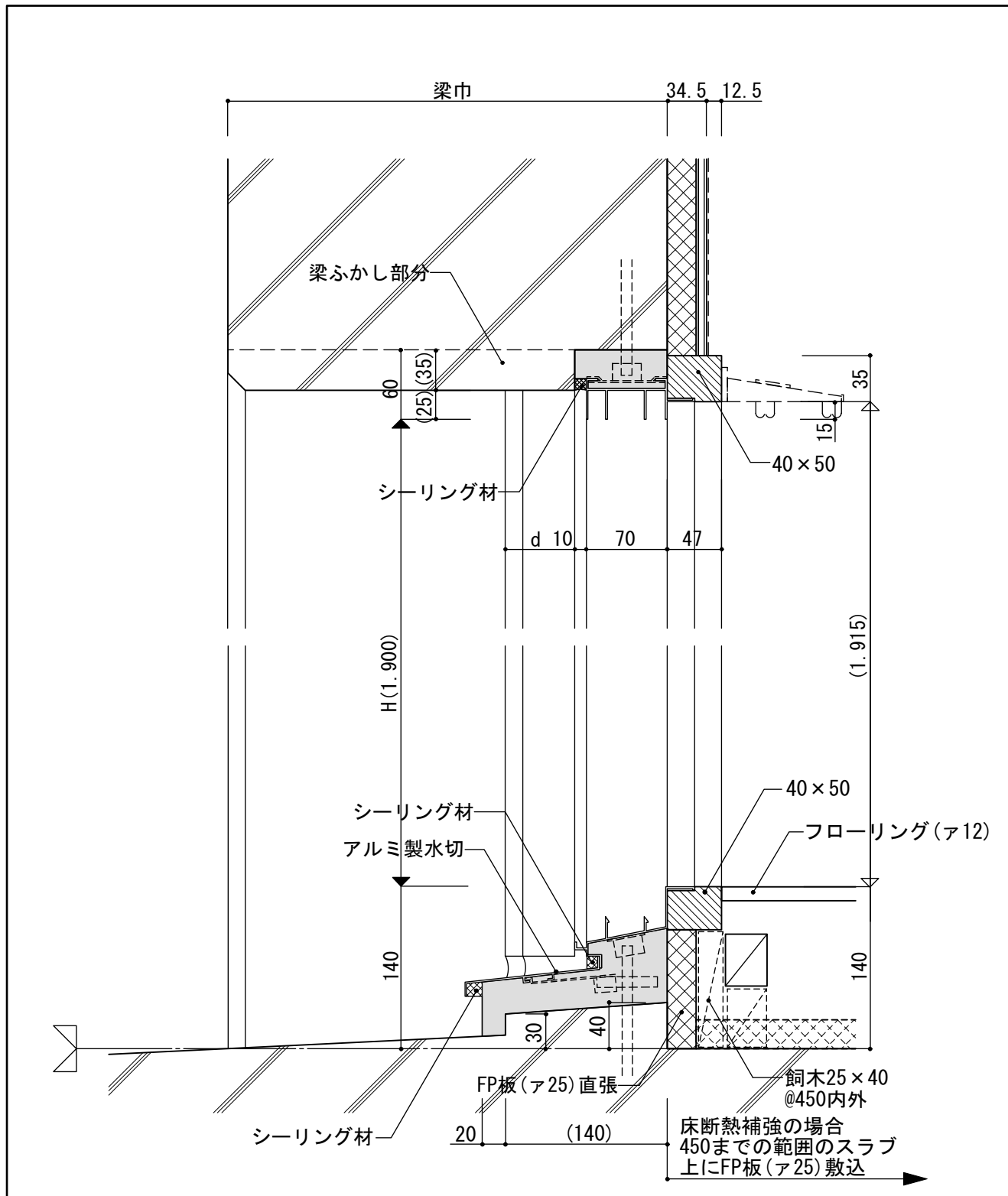
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

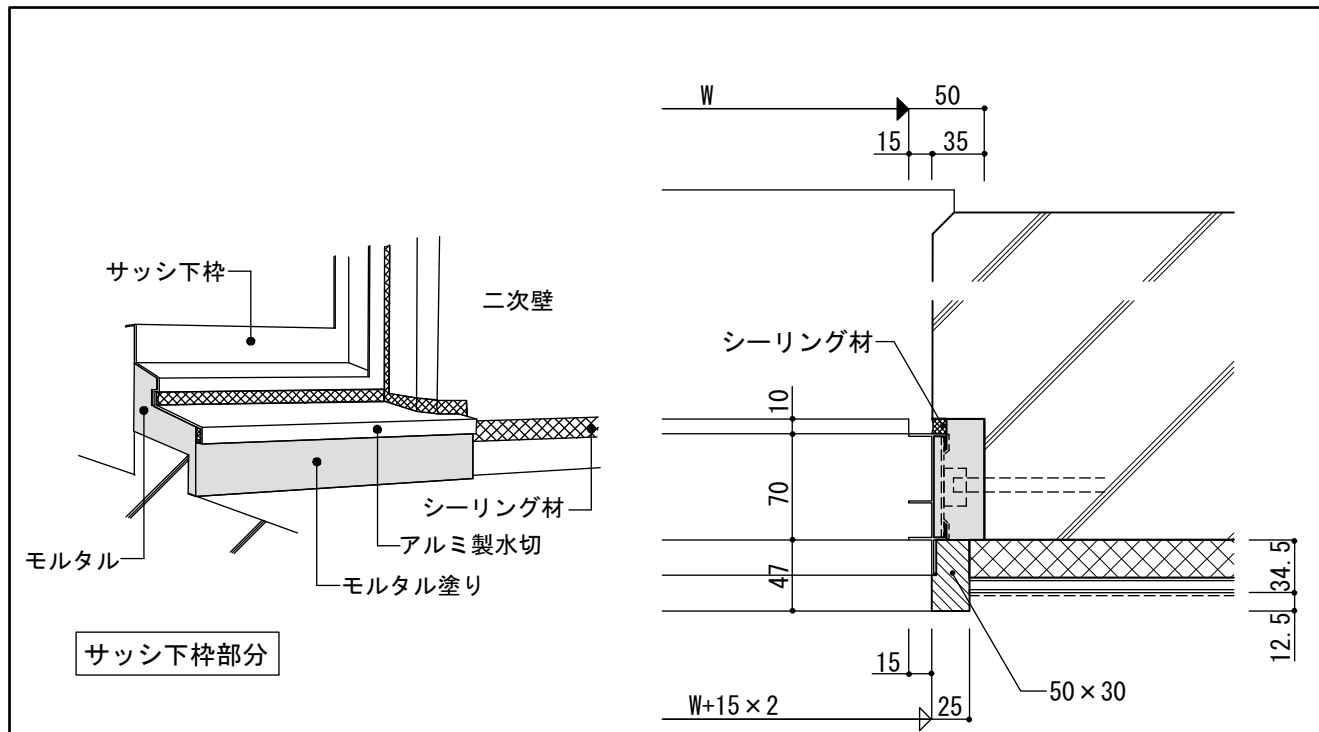
名称	玄関鋼製戸わく廻り (中層壁式)		
縮尺	1:1	AE - 702	頁 E-70
	1:6		



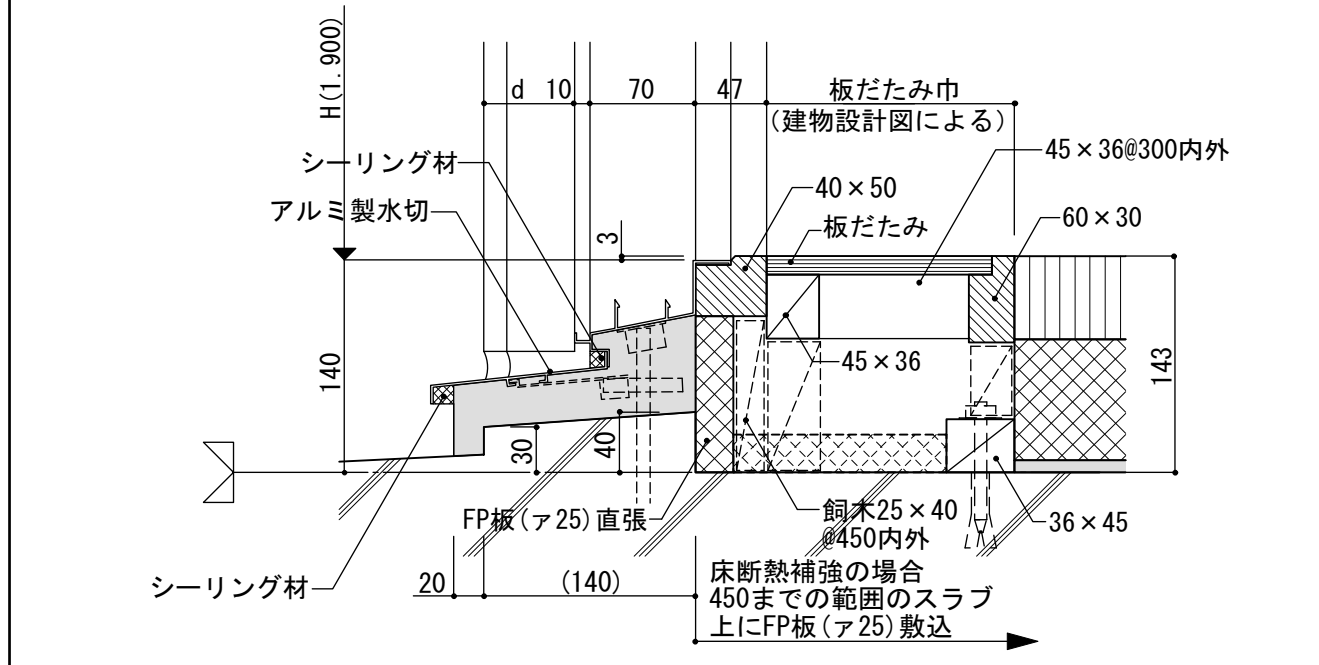
A: 木質系床材  
断面図 1:5

【仕様】  
 ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。  
 ・ 指詰め防止に配慮すること。

【附記事項】  
 ・ W, d, 梁巾, 板だたみ巾は建物設計図による。  
 (但し、 $d \geq 60$ )とする。  
 ・ 床断熱補強の有無は建物設計図による。



平面図 1:5

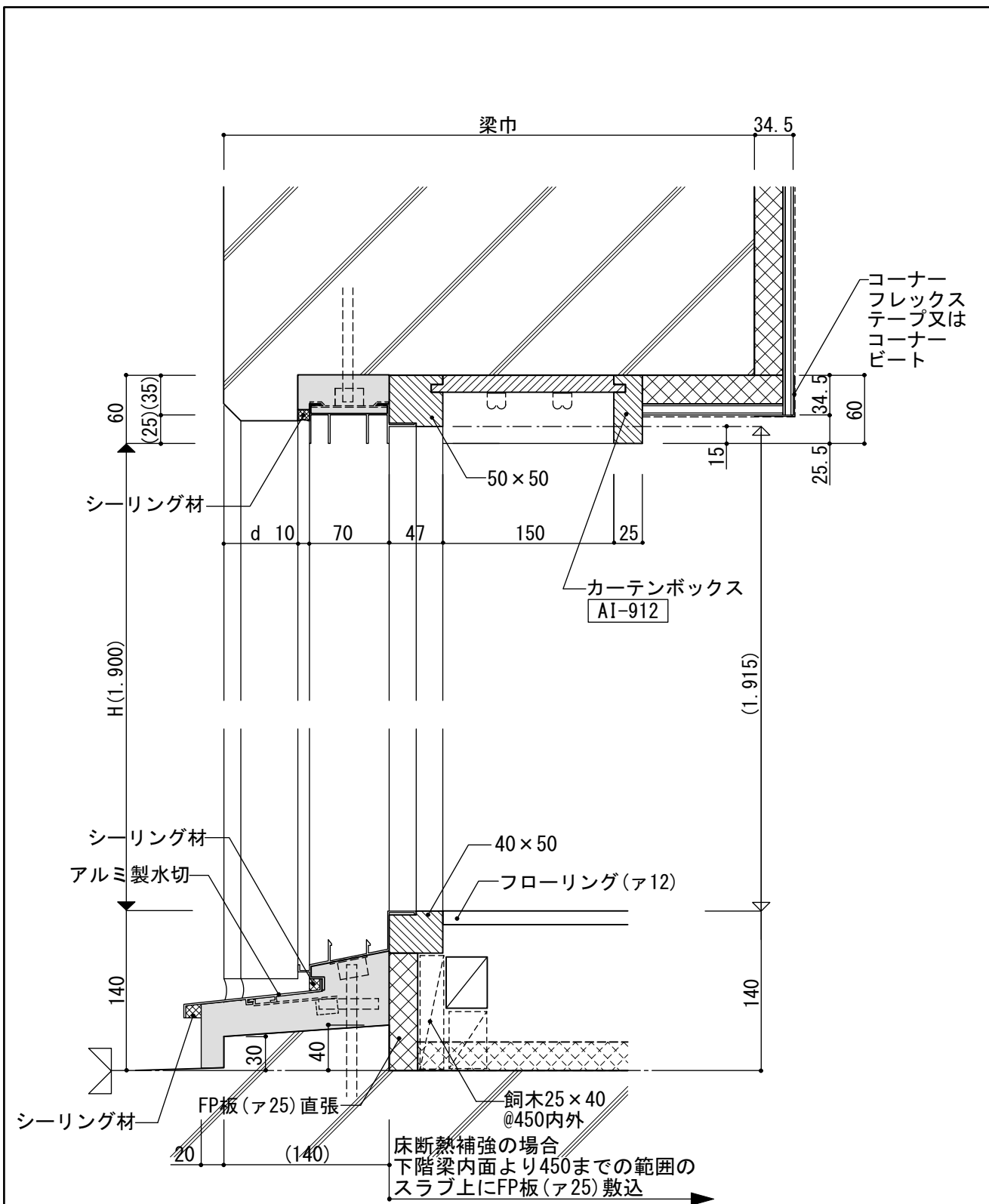


B: たたみ  
断面図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】  
 ・ 第4版 H. 8. 10. 1  
 ・ 第5版 H. 13. 11. 1  
 ・ 第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
 ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	バルコニー境引違戸わく廻り-1 (サッシ内付の場合)		
縮尺	1:5	AE - 711	頁 E-71



A: 木質系床材

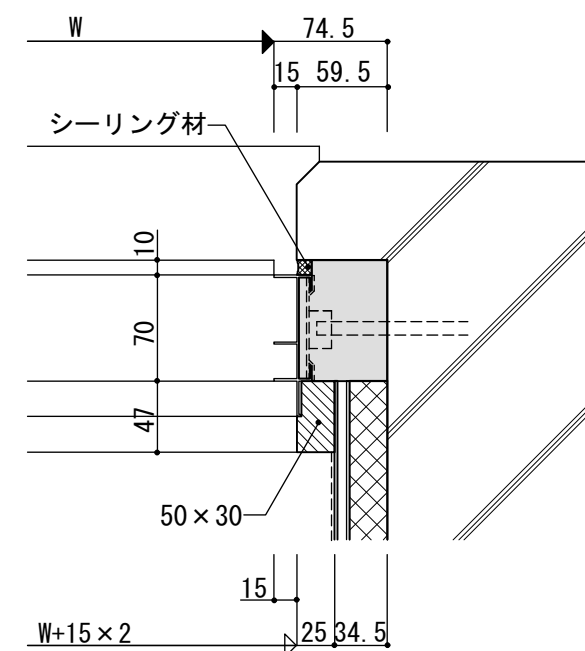
断面図 1:5

【仕様】

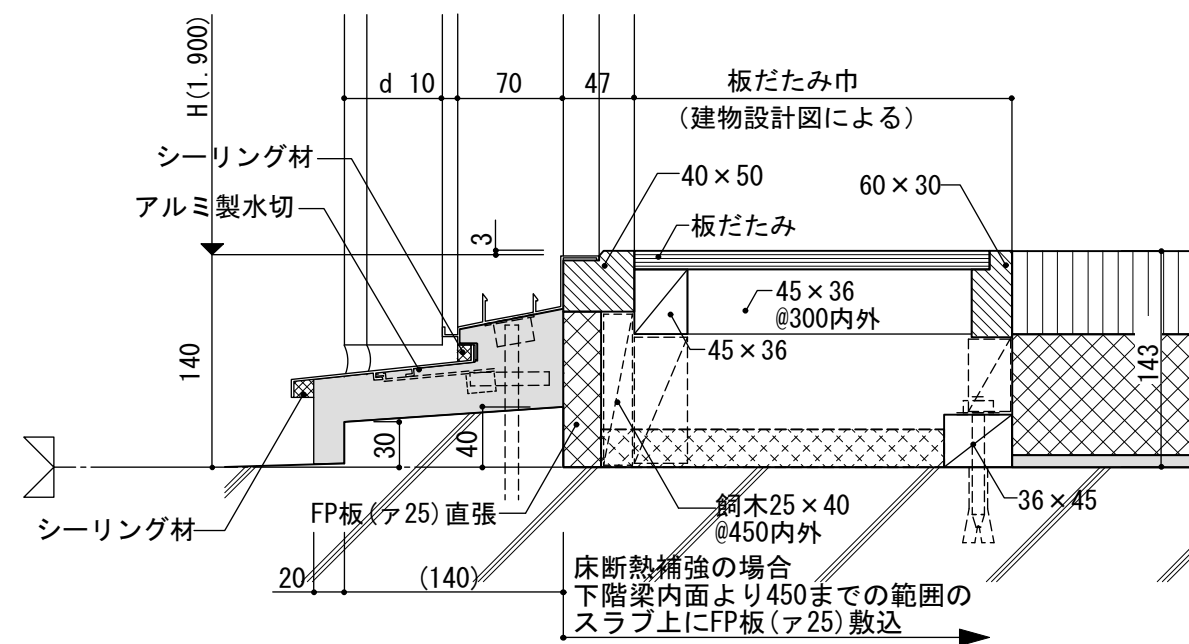
- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
- ・ 指詰め防止に配慮すること。

【附記事項】

- ・ W, d, 梁巾, 板だたみ巾は建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )とする。
- ・ 床断熱補強の有無は建物設計図による。



平面図 1:5



B: たたみ

断面図 1:5

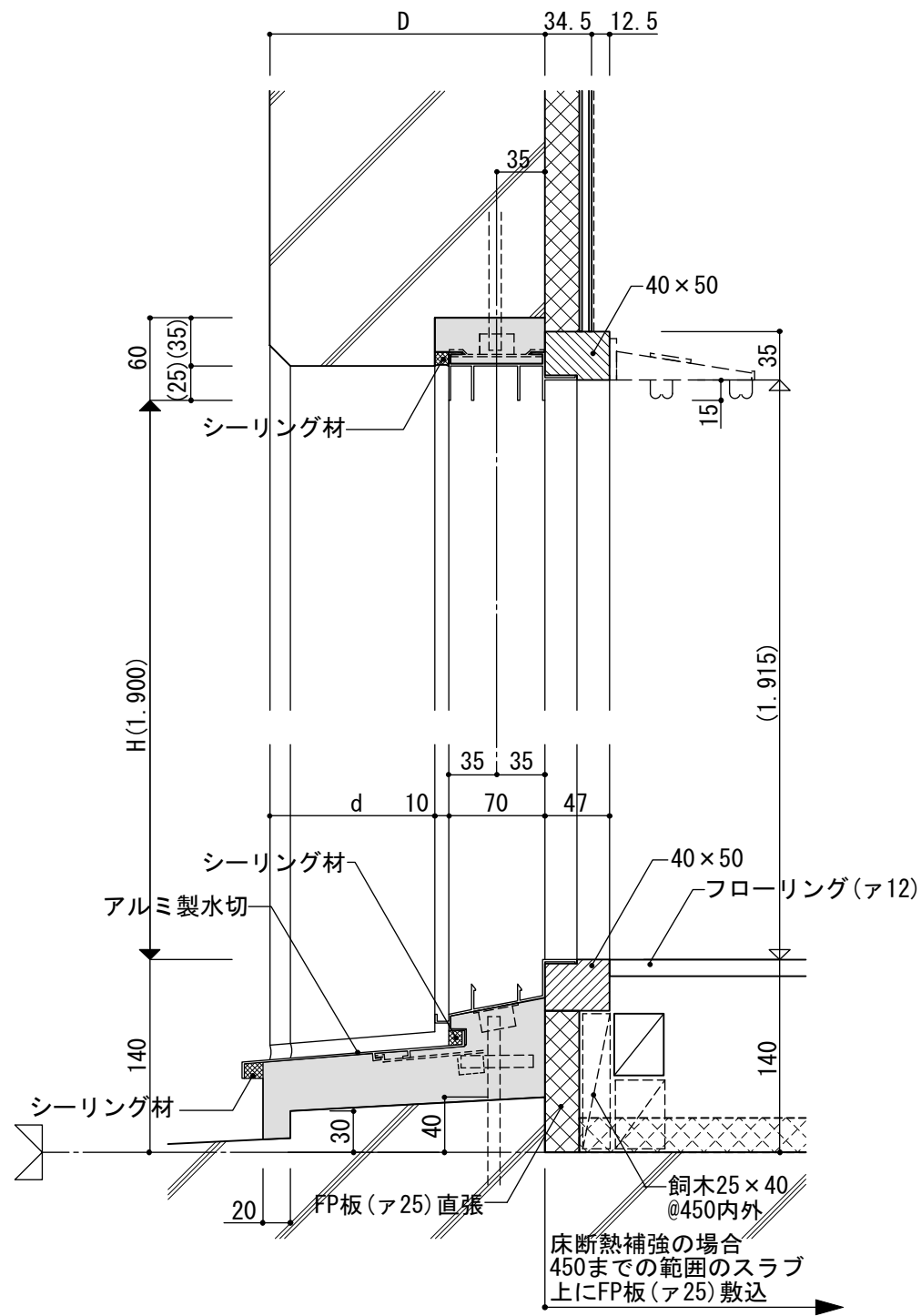
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】

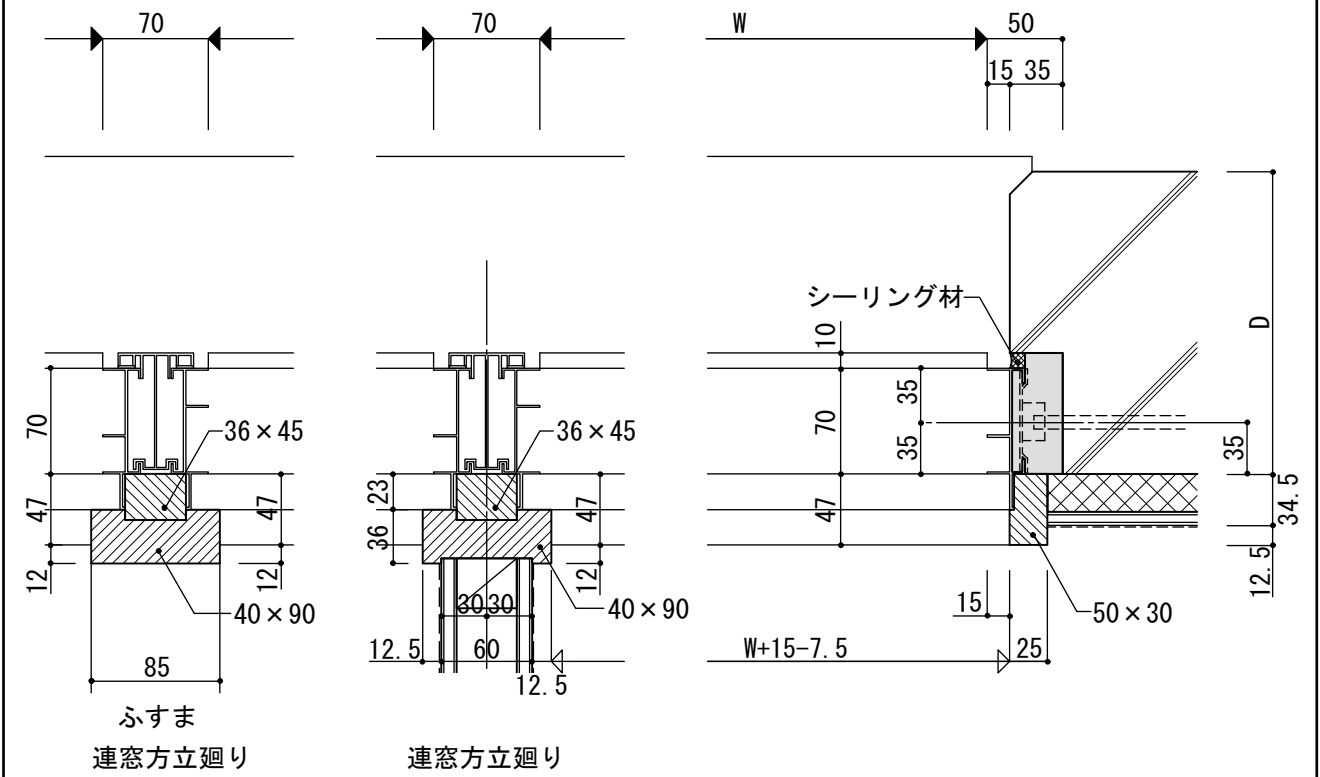
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	バルコニー境引違戸わく廻り-2 (サッシ外付の場合)		
縮尺	1:5	AE - 712	頁 E-72

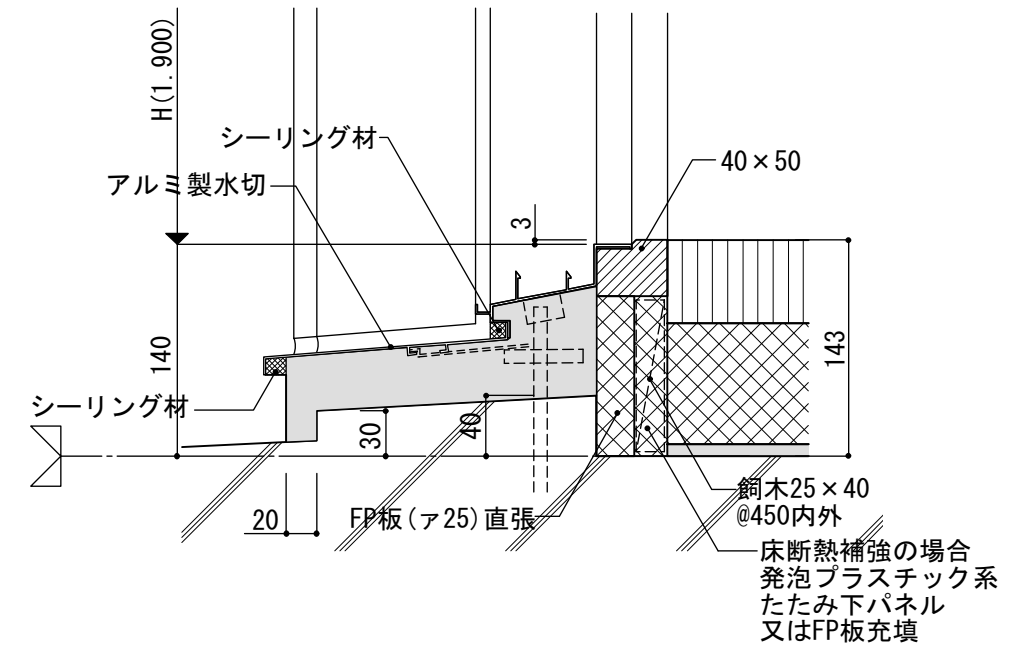


A:木質系床材

断面図 1:5



平面図 1:5



B:たたみ

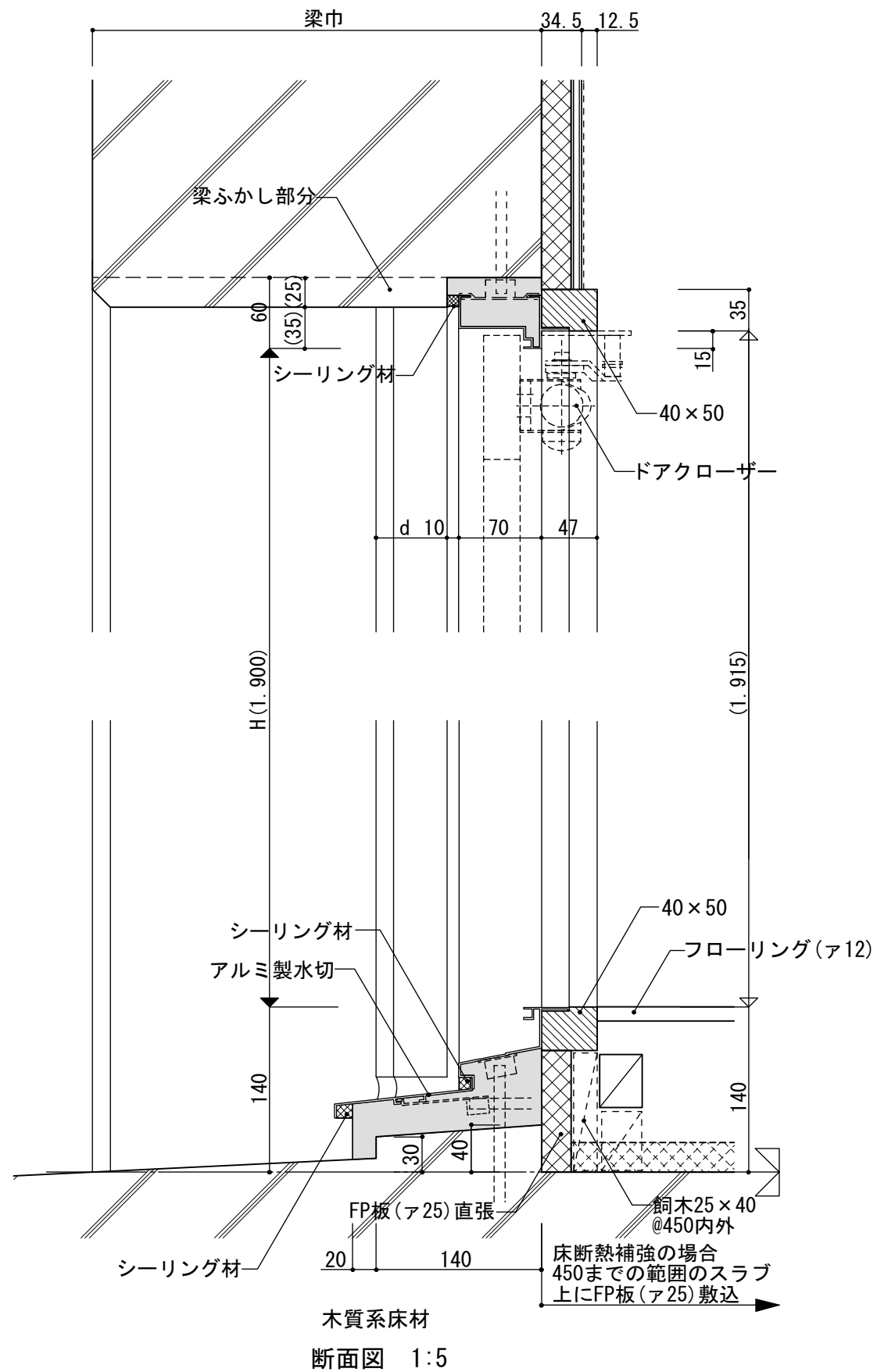
断面図 1:5

- 【仕様】
- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
  - ・ 指詰め防止に配慮すること。

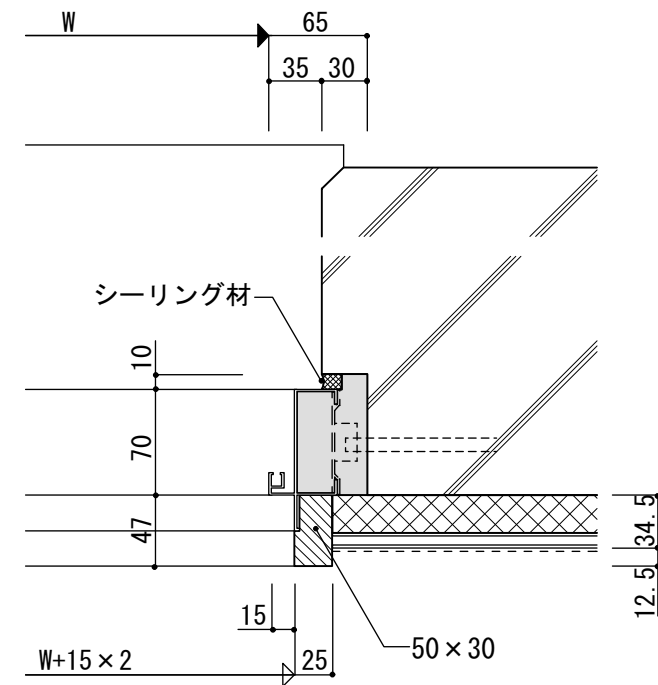
- 【附記事項】
- ・ D, W, dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )
  - ・ 床断熱補強の有無は建物設計図による。

- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
  - ・ 第3版 H. 4. 12. 1
  - ・ 第4版 H. 8. 10. 1
  - ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	バルコニー境引違戸わく廻り-3 (連窓サッシの場合)		
縮尺	1:5	AE - 713	頁 E-73



断面図 1:5



平面図 1:5

【仕様】

- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
- ・ 指詰め防止に配慮すること。

【附記事項】

- ・ W, d 梁巾は建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )
- ・ カーテンレールを取付ける場合は、ドアクローザーとの関係を注意する。
- ・ 床断熱補強の有無は建物設計図による。

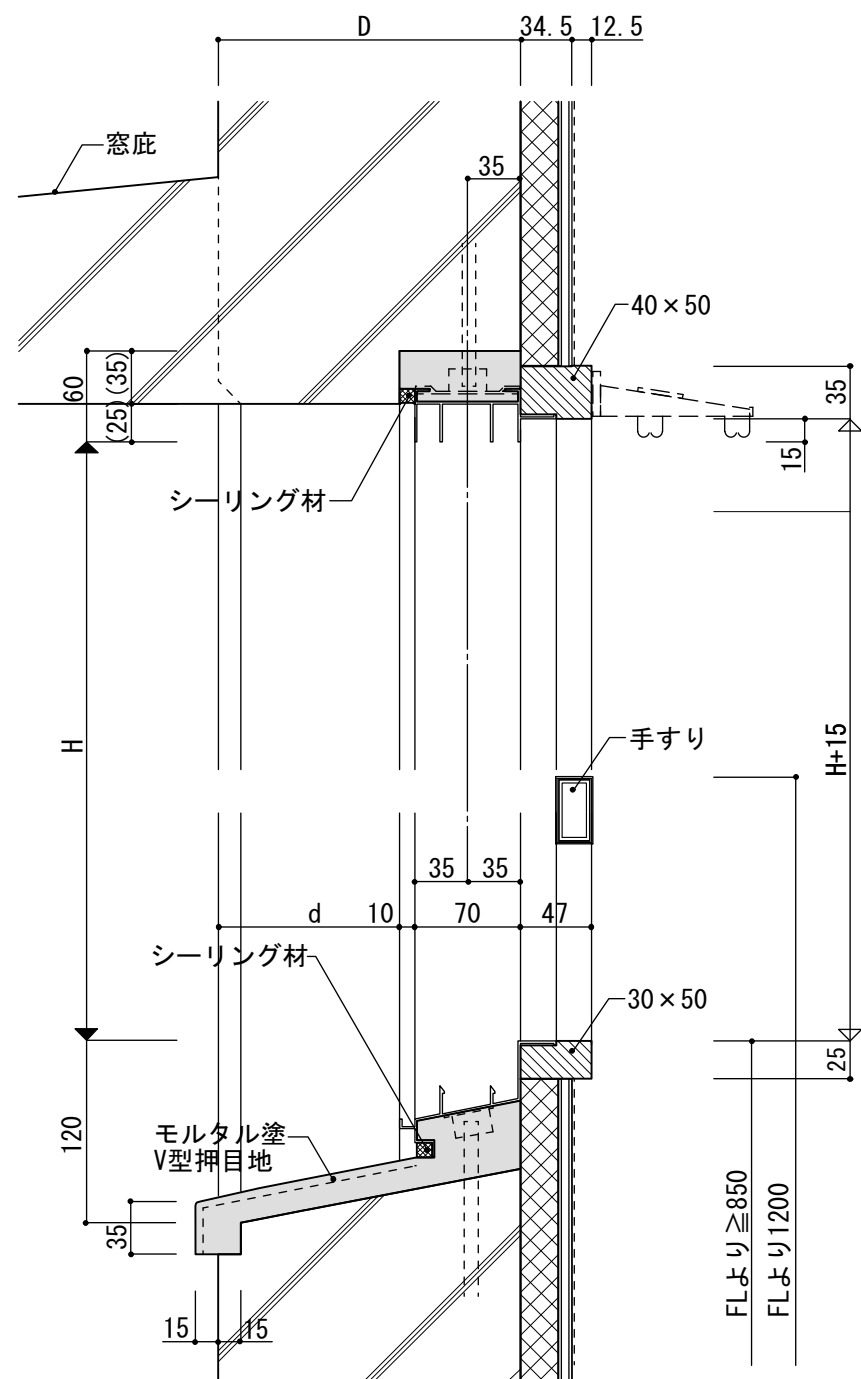
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	バルコニー境片開戸わく廻り (サッシ内付の場合)		
縮尺	1:5	AE - 716	頁 E-74



窓面台:A

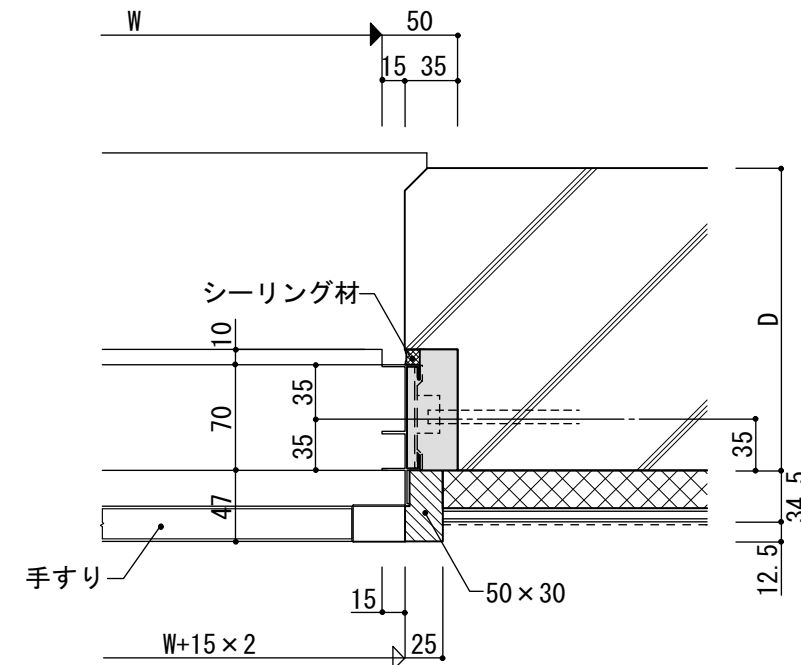
断面図 1:5

【仕様】

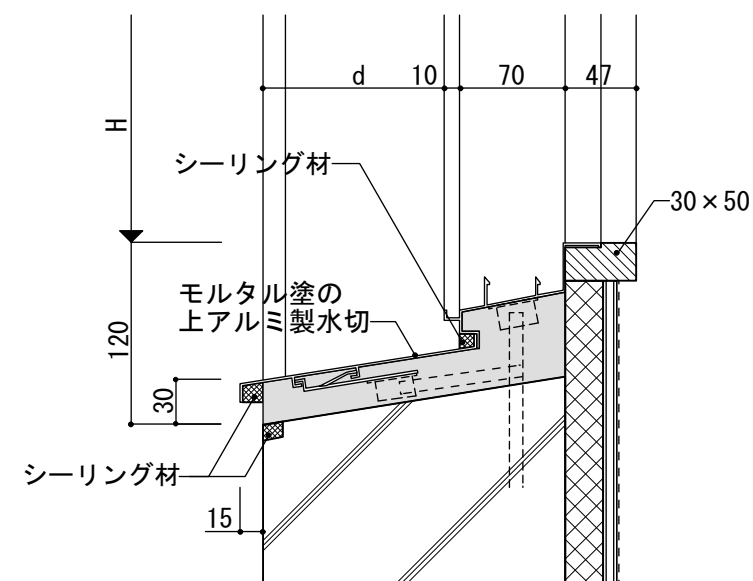
- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
- ・ V型押目地は@900内外とする。

【附記事項】

- ・ D, W, H, dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )
- ・ 腰高に関わらずFLから1200mmの高さに手すりを設置する。
- ・ 窓底の有無は建物設計図による。
- ・ 窓面台のA・Bは建物設計図による。



平面図 1:5



アルミ製水切が取り付けの場合  
窓面台:B

断面図 1:5

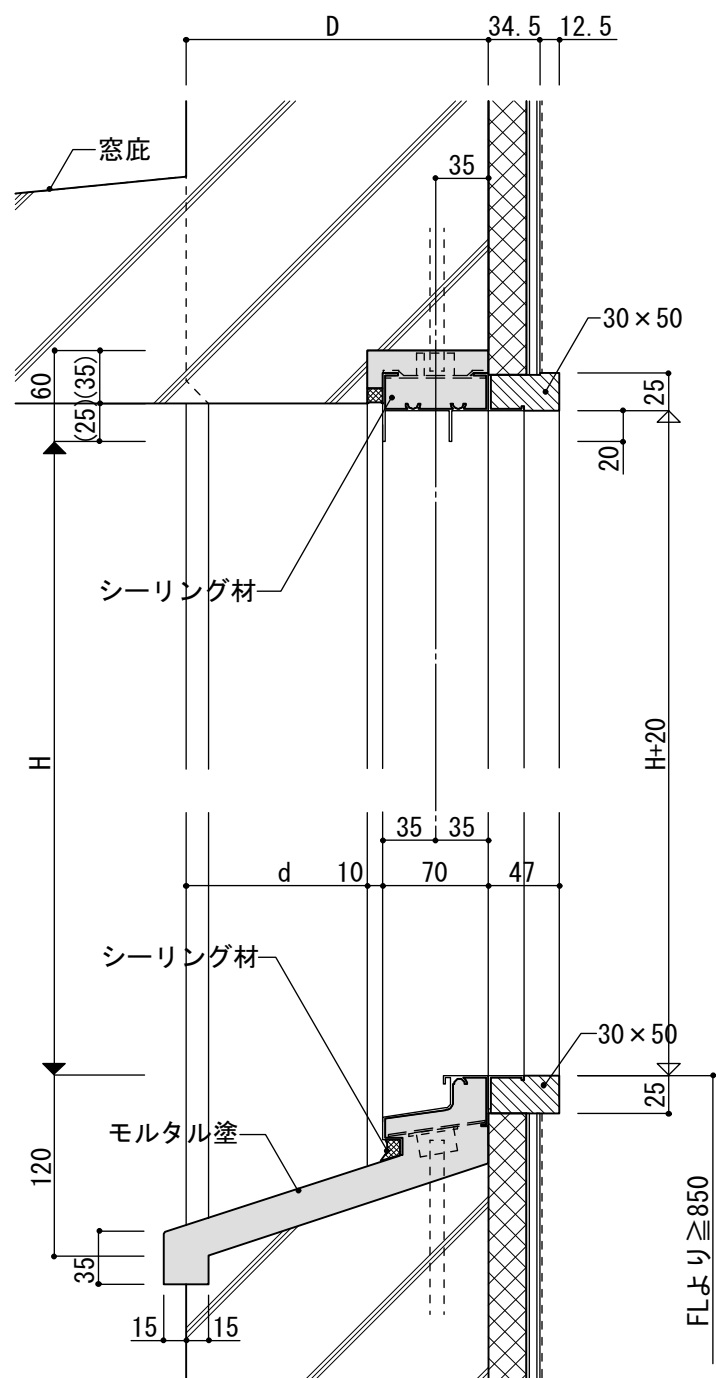
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	引違窓わく廻り		
縮尺	1:5	AE - 731	頁 E-75



窓面台:A

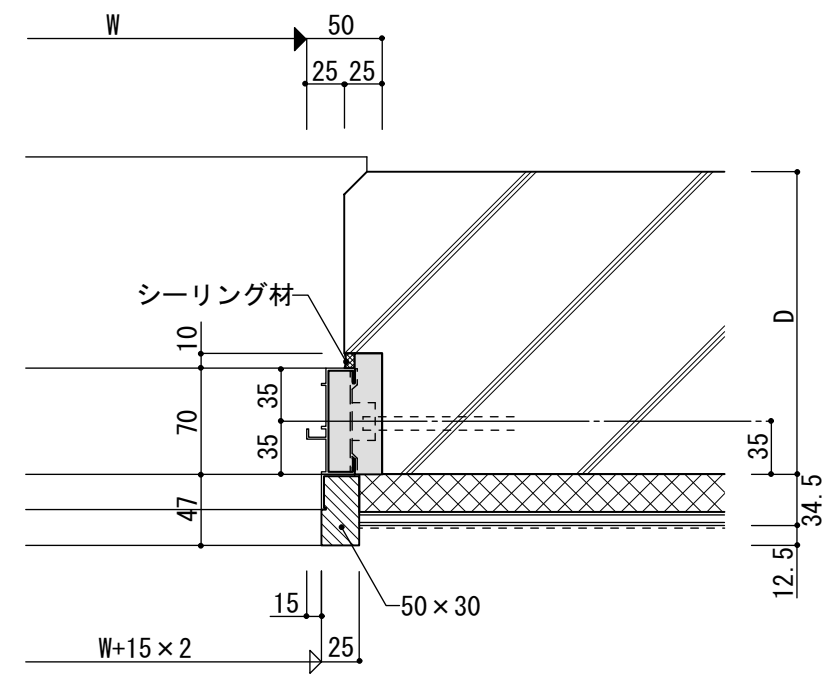
断面図 1:5

【仕様】

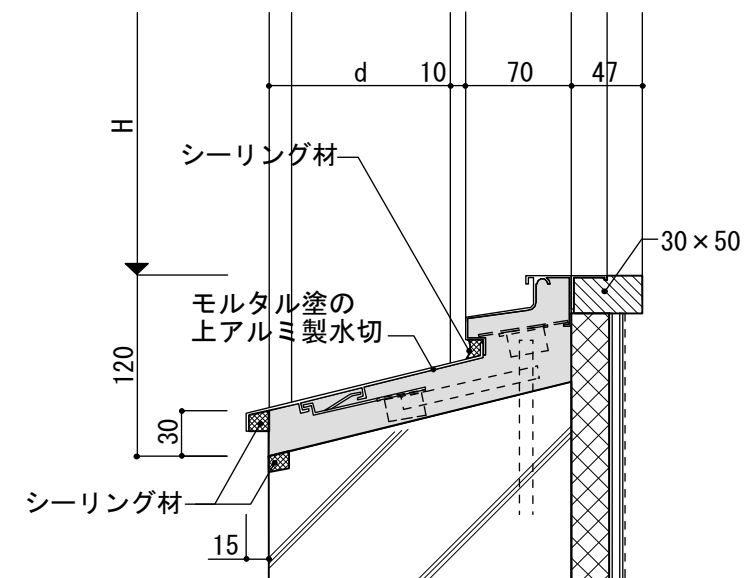
・ W, Hはサッシの公称寸法とする。

【附記事項】

- ・ D, W, H, dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )
- ・ 窓庇の有無は建物設計図による。
- ・ 窓面台のA・Bは建物設計図による。



平面図 1:5



アルミ製水切が取り付けの場合  
窓面台:B

断面図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】

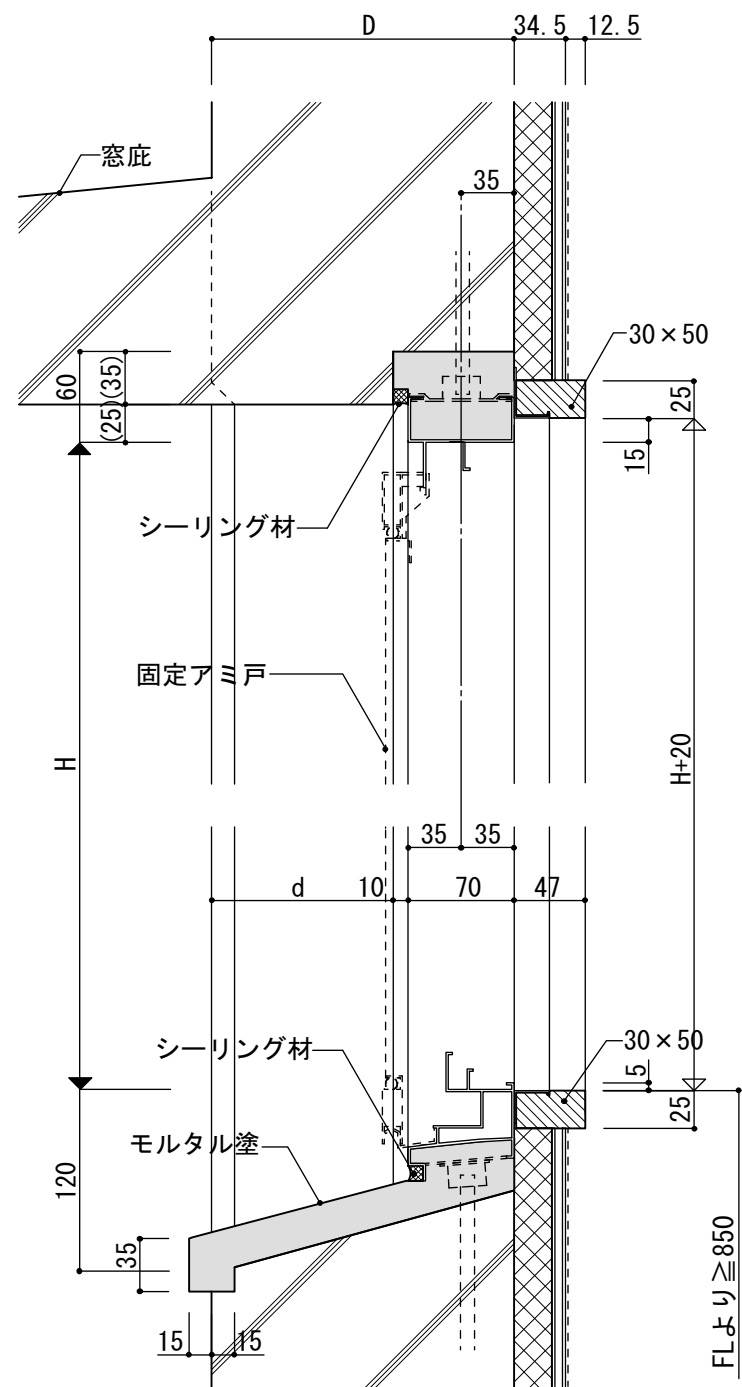
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	すべり出し窓わく廻り		
縮尺	1:5	AE - 733	頁 E-76

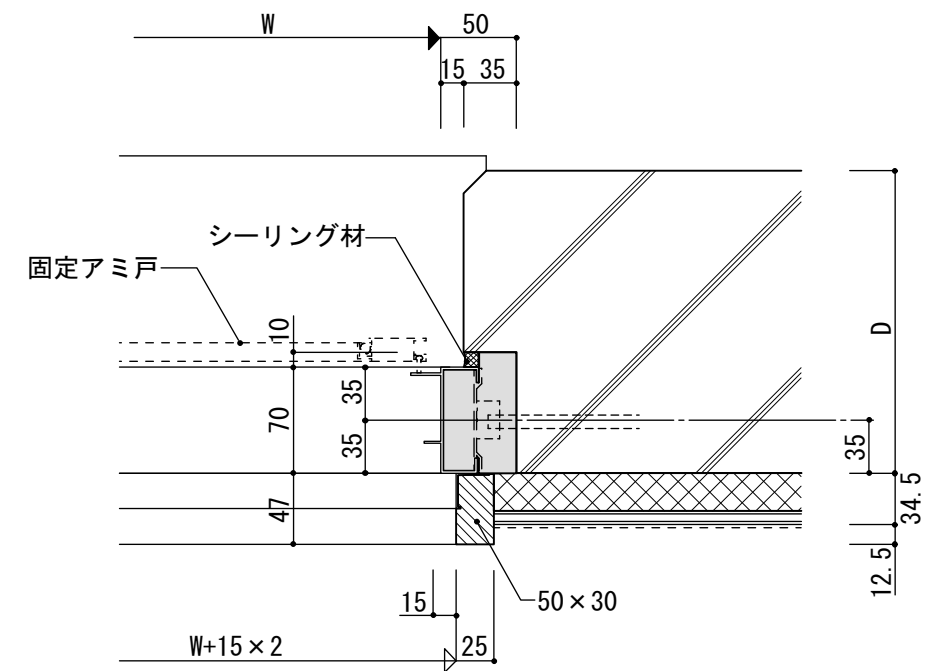




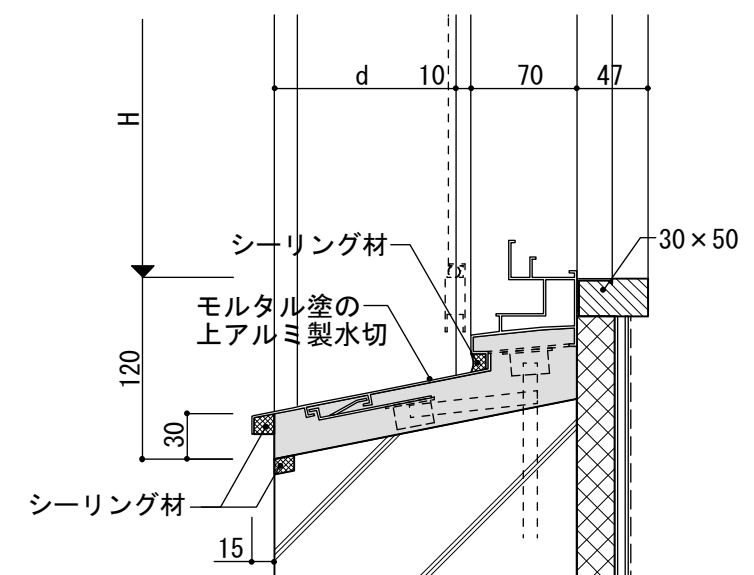
窓面台:A  
断面図 1:5

【仕様】  
・W、Hはサッシの公称寸法とする。

【附記事項】  
・D、W、H、dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ )  
・窓庇の有無は建物設計図による。  
・窓面台のA・Bは建物設計図による。



平面図 1:5

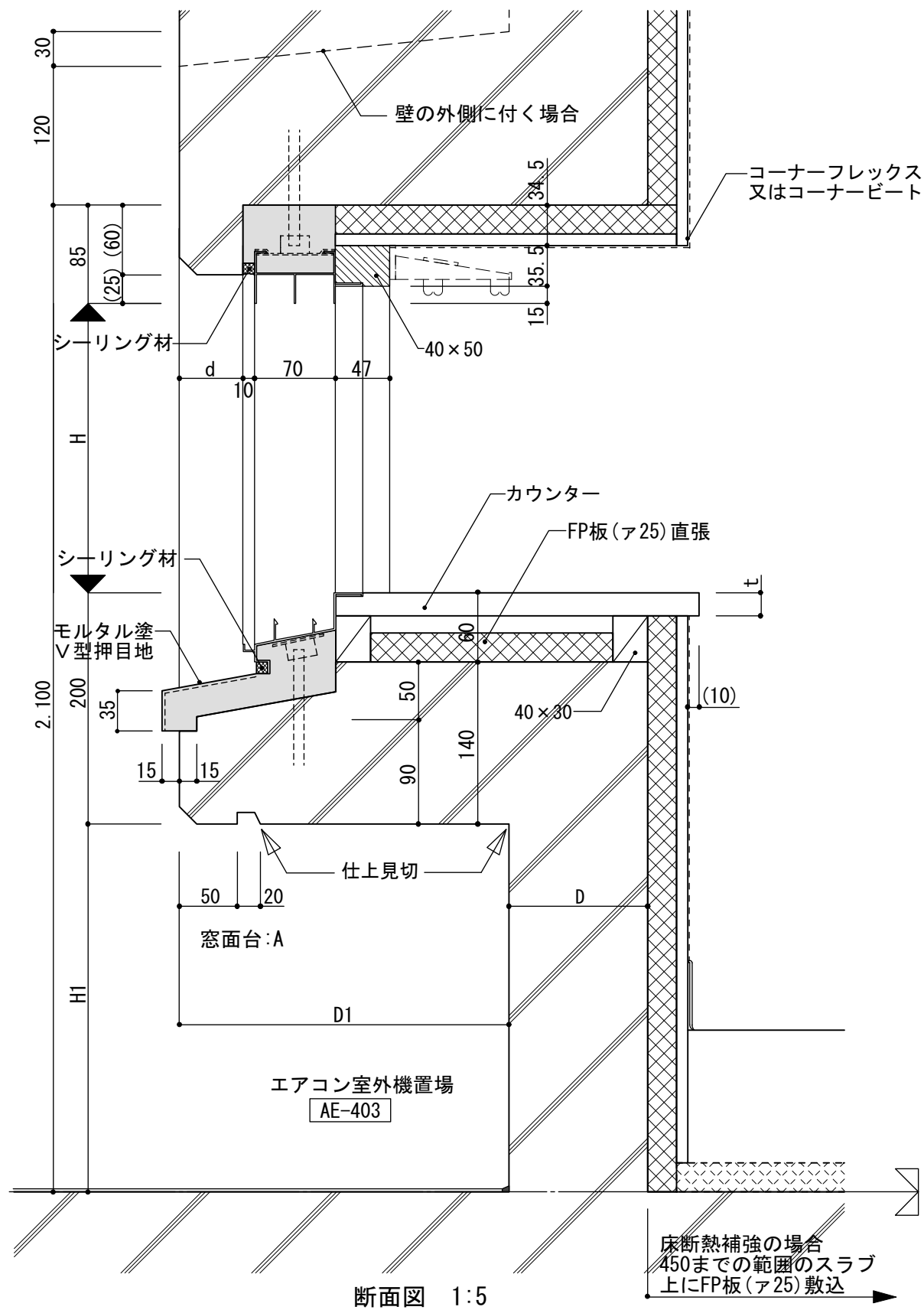


アルミ製水切が取り付く場合  
窓面台:B  
断面図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】  
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	内倒し窓わく廻り		
縮尺	1:5	AE - 734	頁 E-77



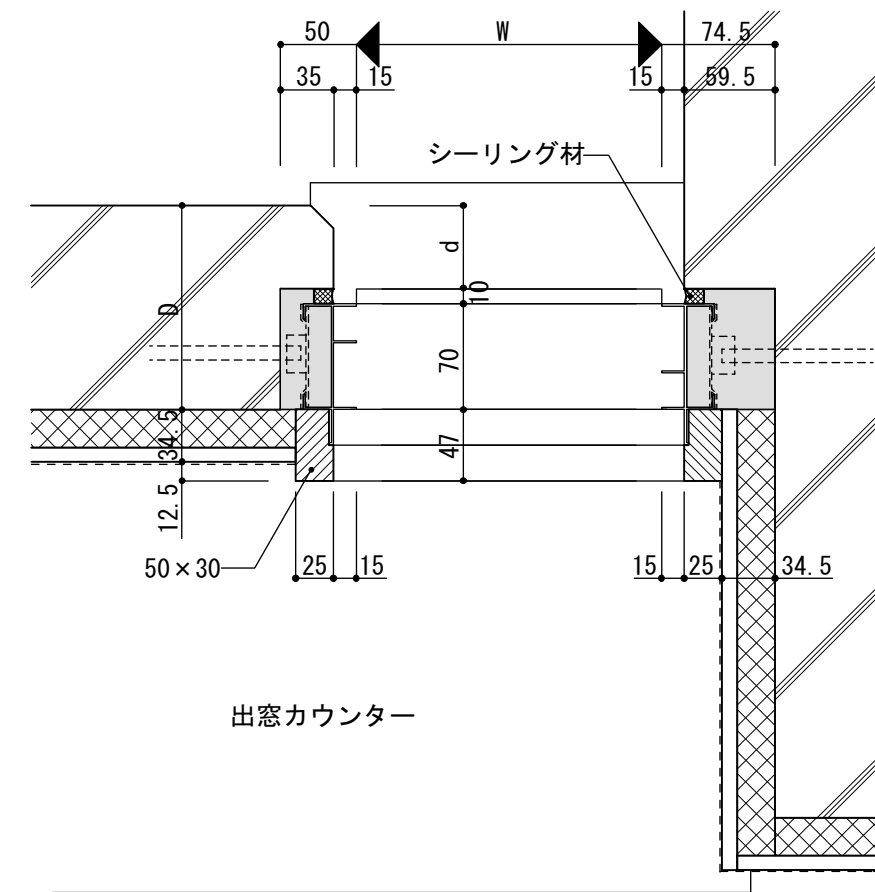
断面図 1:5

【仕様】

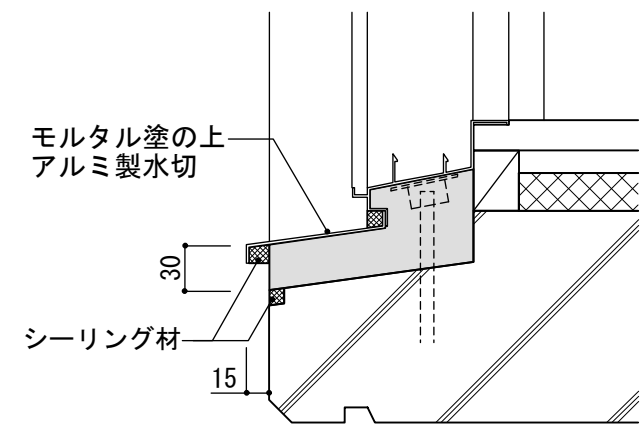
- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
- ・ V型押目地は@900内外とする。

【附記事項】

- ・ 出窓カウンターの材種及び厚さ(t)は建物設計図による。
- ・ D, D1, W, H, H1, dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ ) (エアコン室外機置場は $H1=700$ 以上、 $D1=350$ 以上を標準とする)
- ・ 床断熱補強の有無は建物設計図による。
- ・ 手摺の取付けは建物設計図による。
- ・ 窓面台のA・Bは建物設計図による。



平面図 1:5



窓面台:B アルミ製水切が取り付けの場合

断面図 1:5

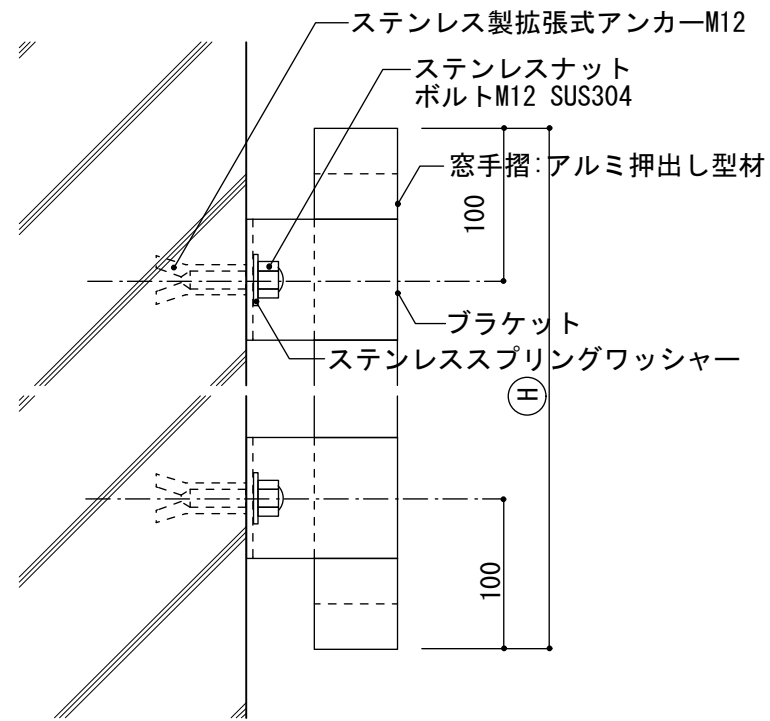
【改訂事項(公団住宅)】

・ 第5版(追)H. 16. 8. 1

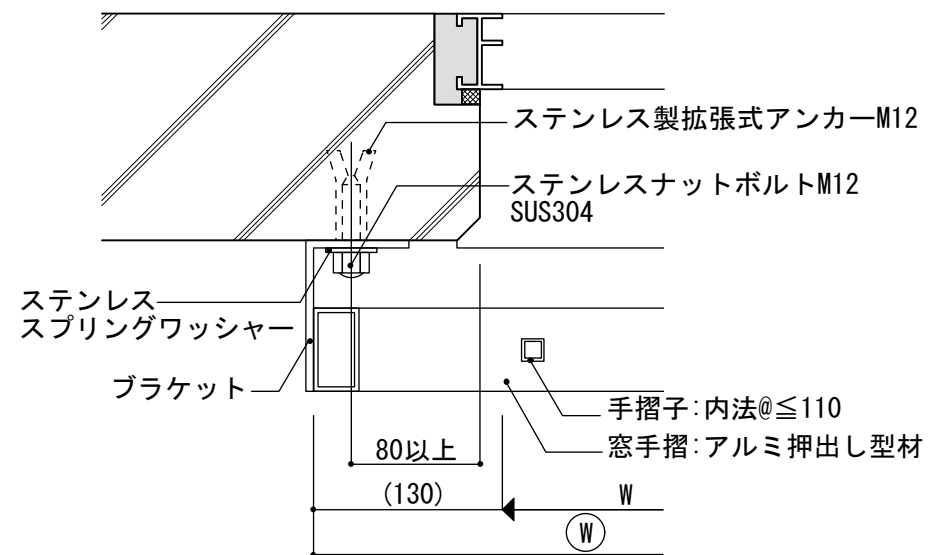
【改訂事項(機構住宅)】

・ 第2版 H. 21. 12. 1

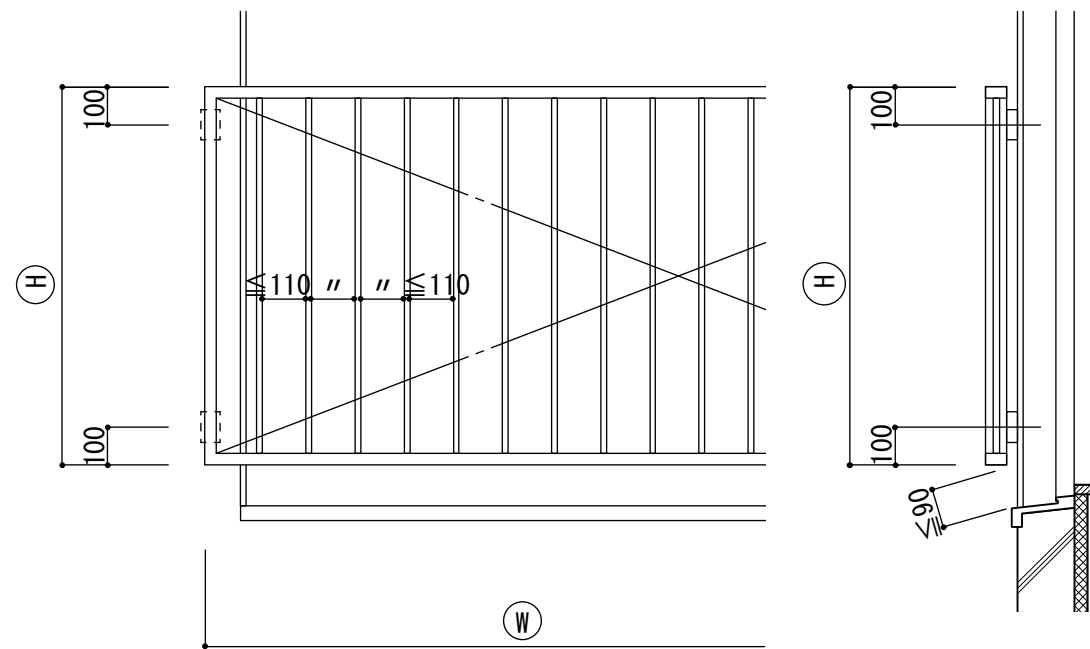
名称	出窓わく廻り		
縮尺	1:5	AE - 735	頁 E-78



断面詳細図 1:5



平面詳細図 1:5



立面図 1:20

断面図 1:20

【仕様】

・ブラケットはステンレス製又はアルミ製とする。

【附記事項】

・W. (W) . (H) は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

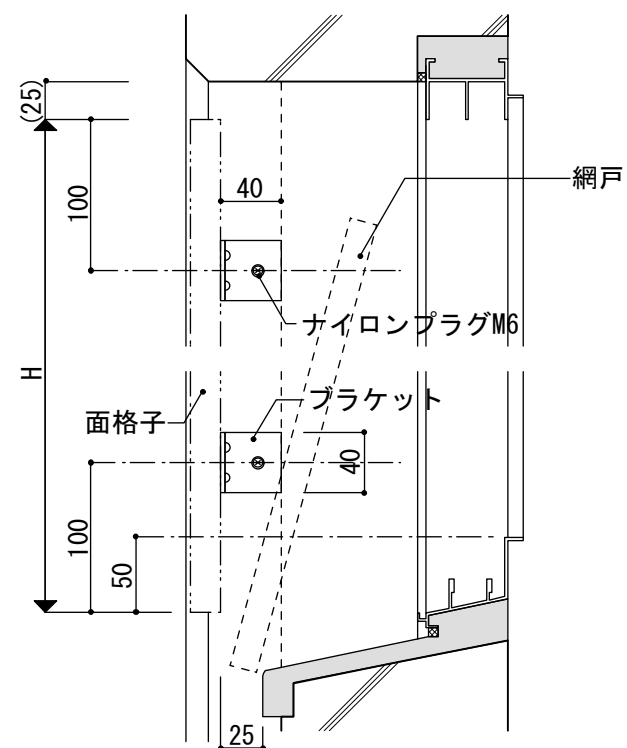
名称 外壁窓アルミ製手摺  
 取付詳細図〔型式図〕

縮尺 1:5  
 1:20

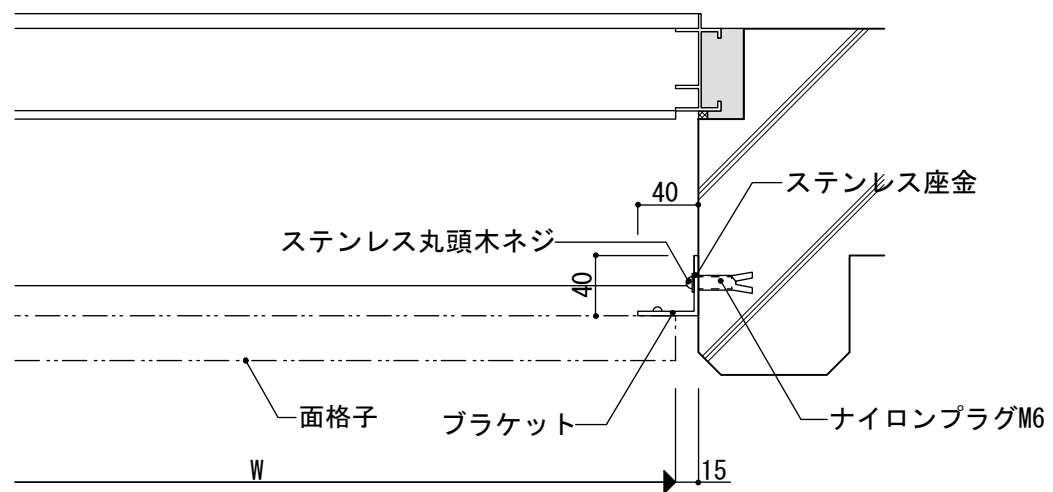
AE - 736

頁 E-79

A: だきにつく場合



断面図 1:5



平面図 1:5

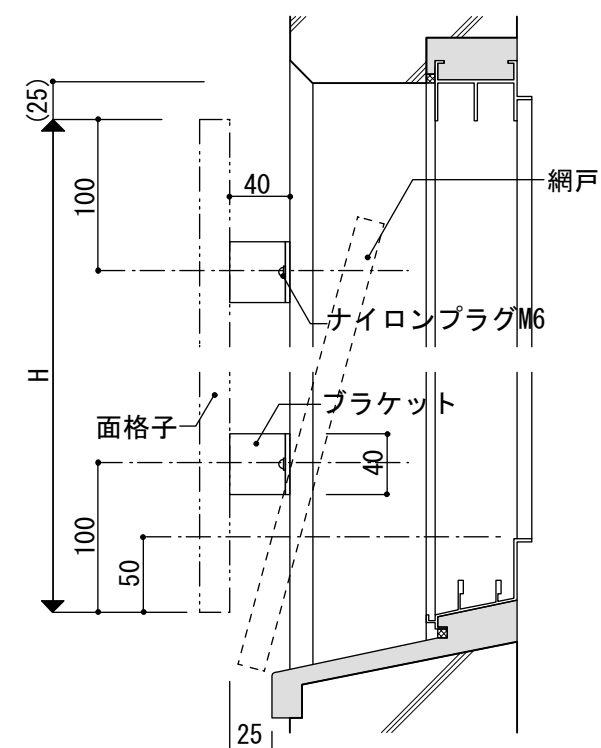
【仕様】

- ・面格子の材質は建物設計図による。
- ・ブラケットはステンレス製又はアルミ製とする。

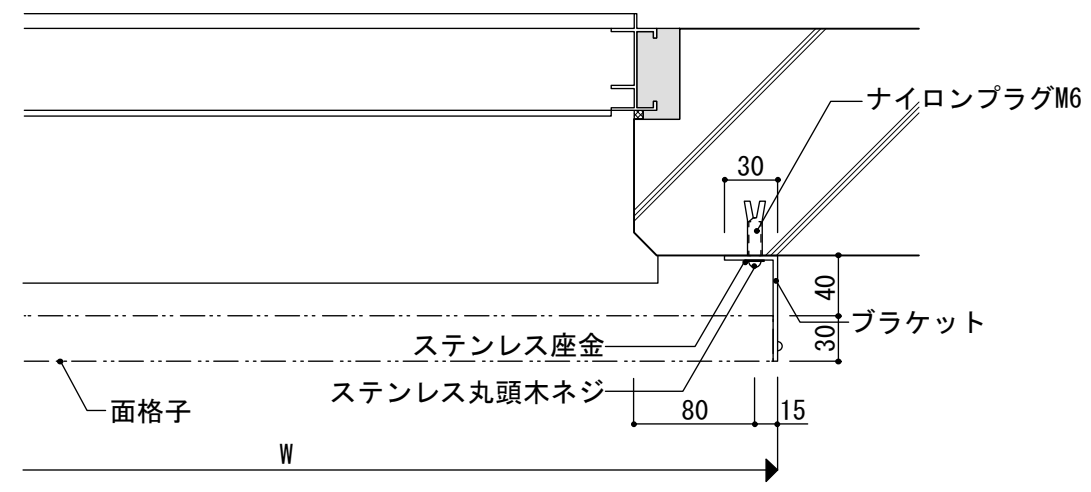
【附記事項】

- ・W, H, 形状等は建物設計図による。
- ・巾が広くなった場合振止めを設置すること。

B: 壁につく場合



断面図 1:5



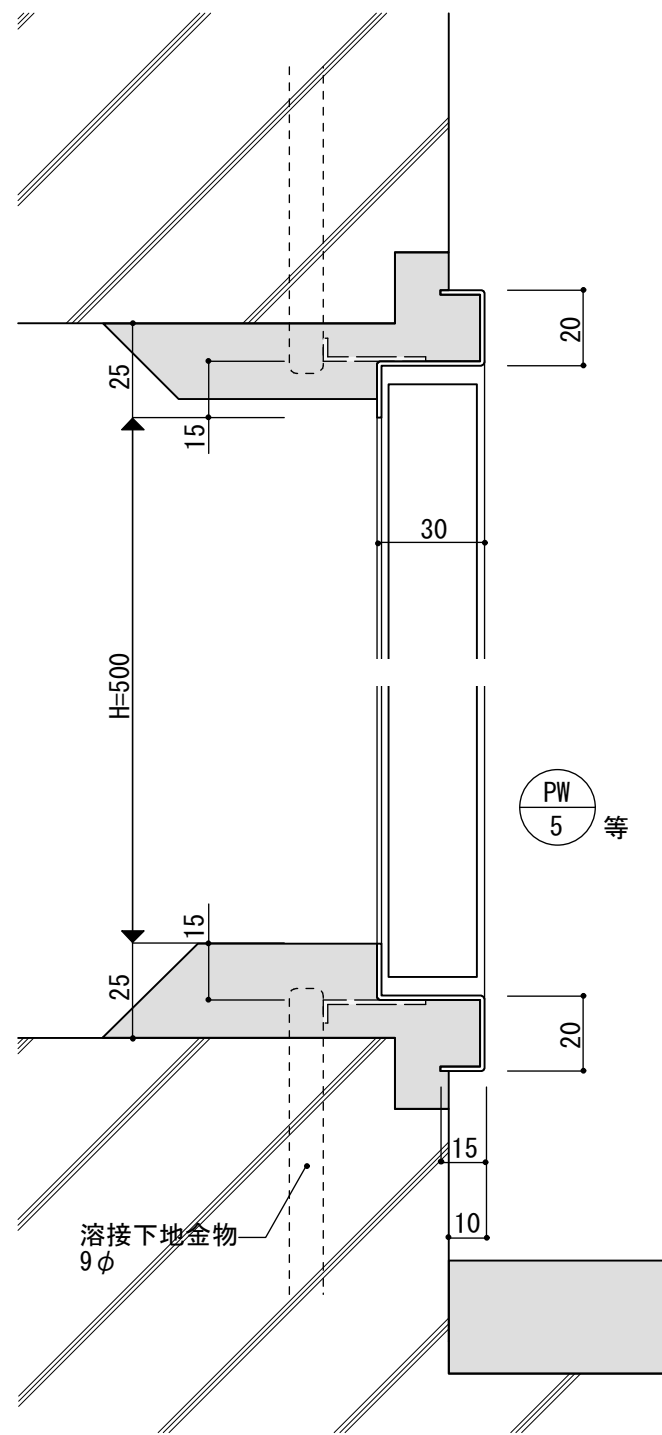
平面図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】

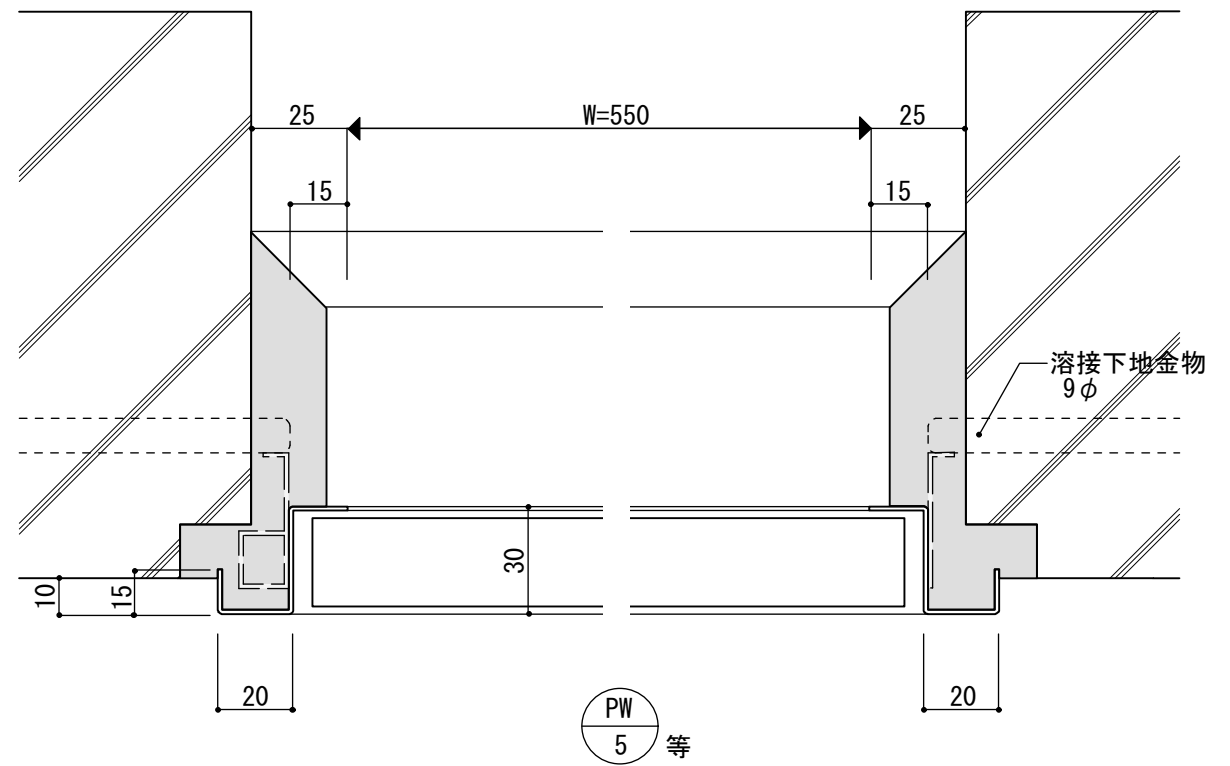
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	共用廊下窓面格子 取付詳細図〔型式図〕		
縮尺	1:5	AE - 737	頁 E-80



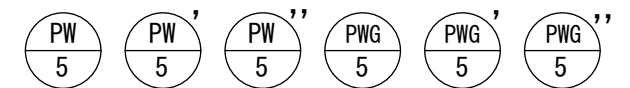
断面図 1:2



平面図 1:2

【仕様】

【附記事項】



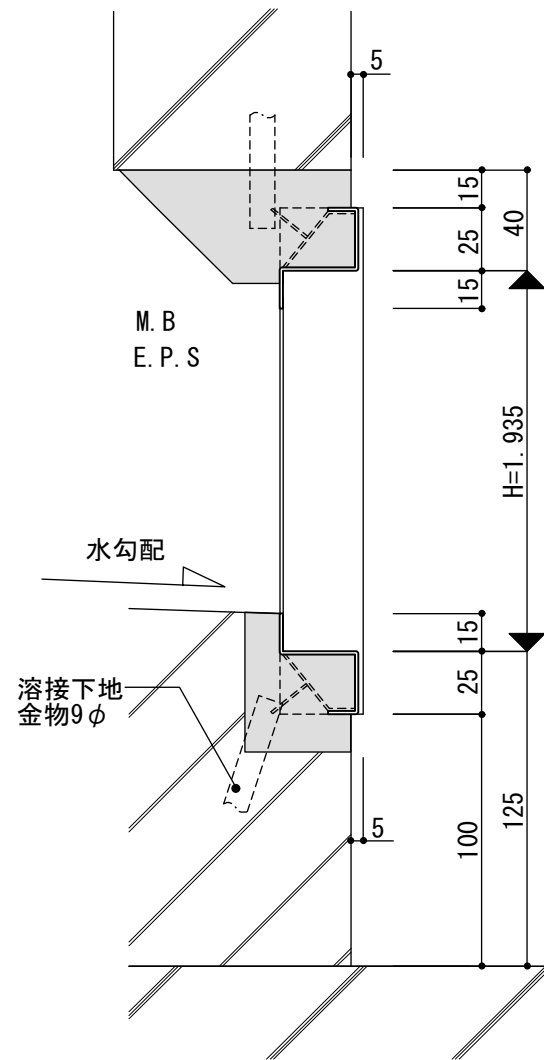
用のわくに使用する。

【改訂事項(公団住宅)】

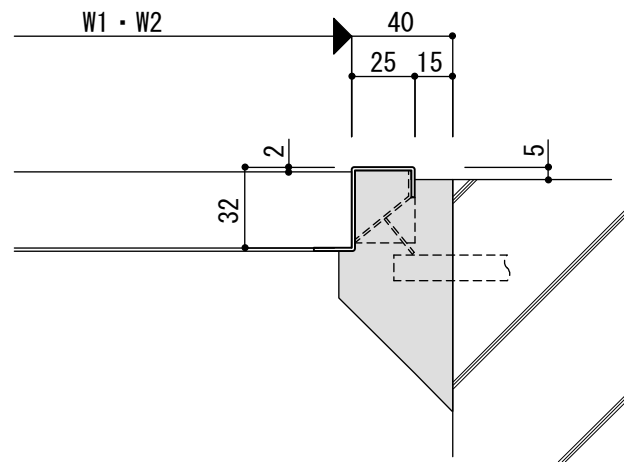
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

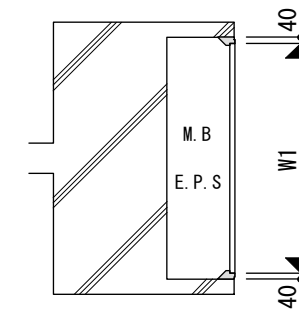
名称	点検口わく廻り		
縮尺	1:2	AE - 741	頁 E-81



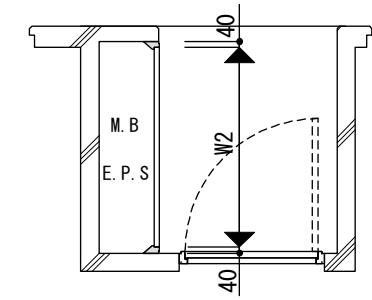
わく廻り断面図 1:3



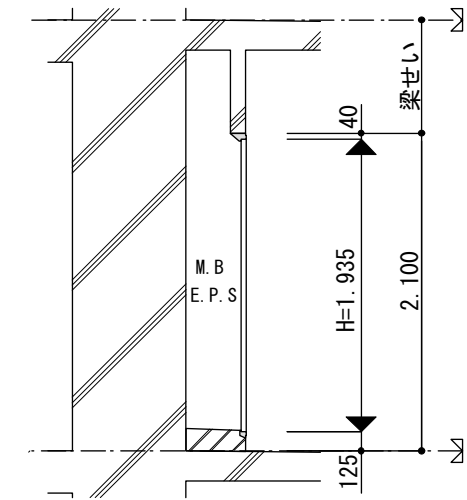
わく廻り平面図 1:3



平面図 1:50

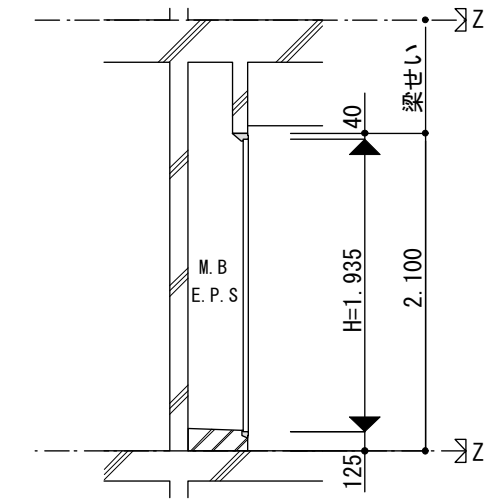


平面図 1:50



断面図 1:50

[柱型付パイプシャフト]



断面図 1:50

[アルコーブ付パイプシャフト]

【仕様】

【附記事項】

・ W1, W2は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】  
・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称

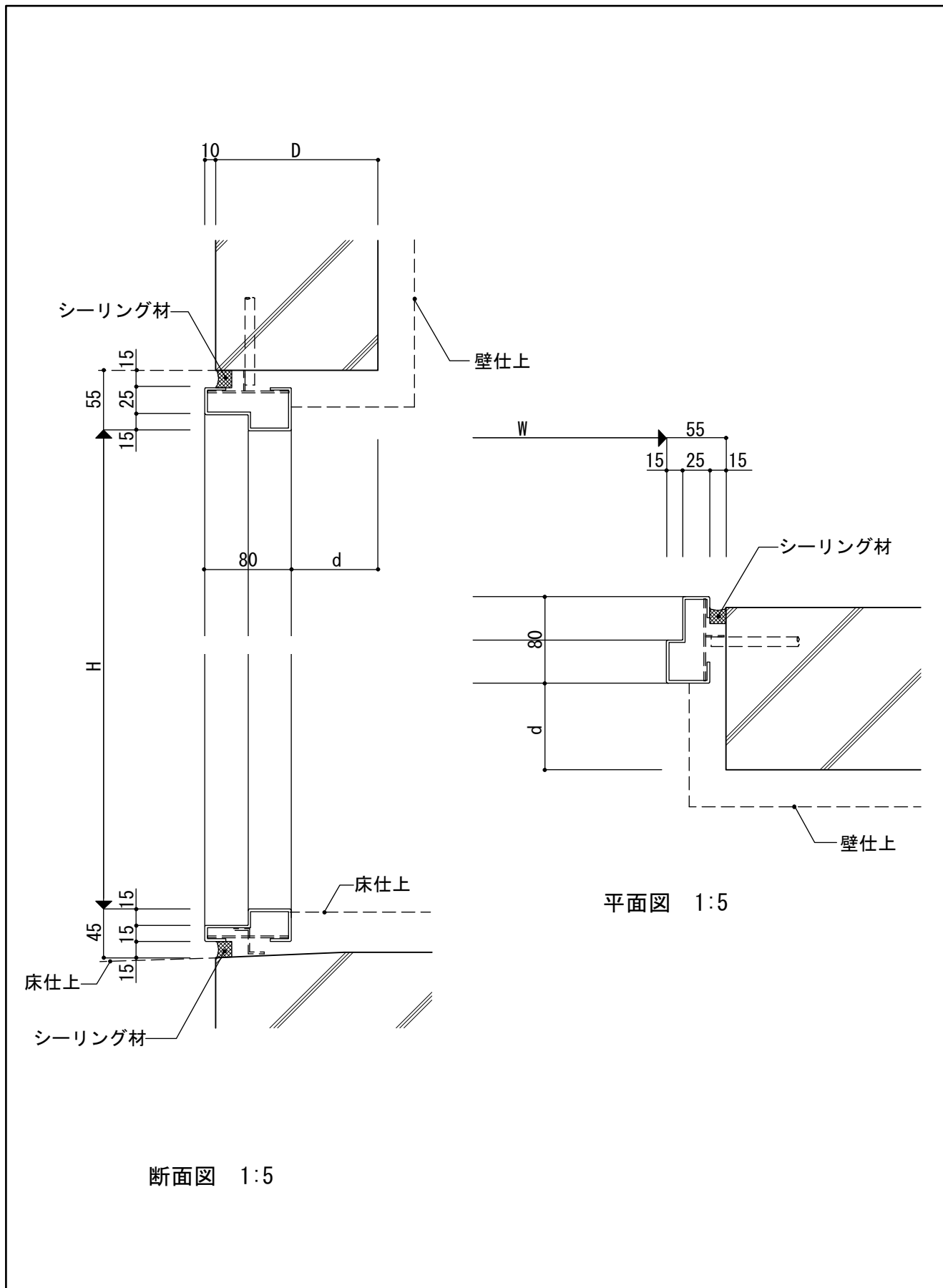
パイプシャフト扉わく廻り

縮尺

1:3  
1:50

AE - 742

頁  
E-82



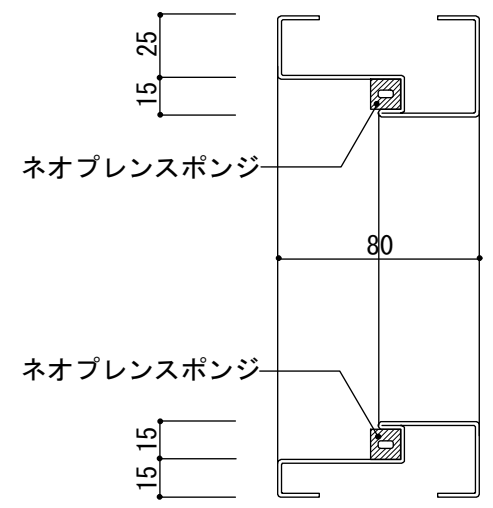
断面図 1:5

平面図 1:5

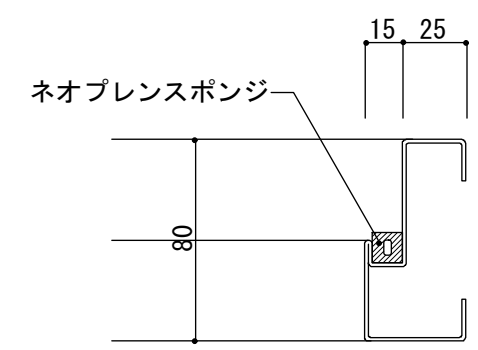
【仕様】  
 ・下わくをステンレス製にする場合は特記による。  
 ・建具の仕様は AF-102 による。

【附記事項】  
 ・ H, W, D, dは建物設計図による。  
 ・ ドアが雨がかりにならない場合上わく、縦わくのシーリングを除くことができる。  
 シーリングの有無は建物設計図による。

【防音わくの場合】



断面 1:3

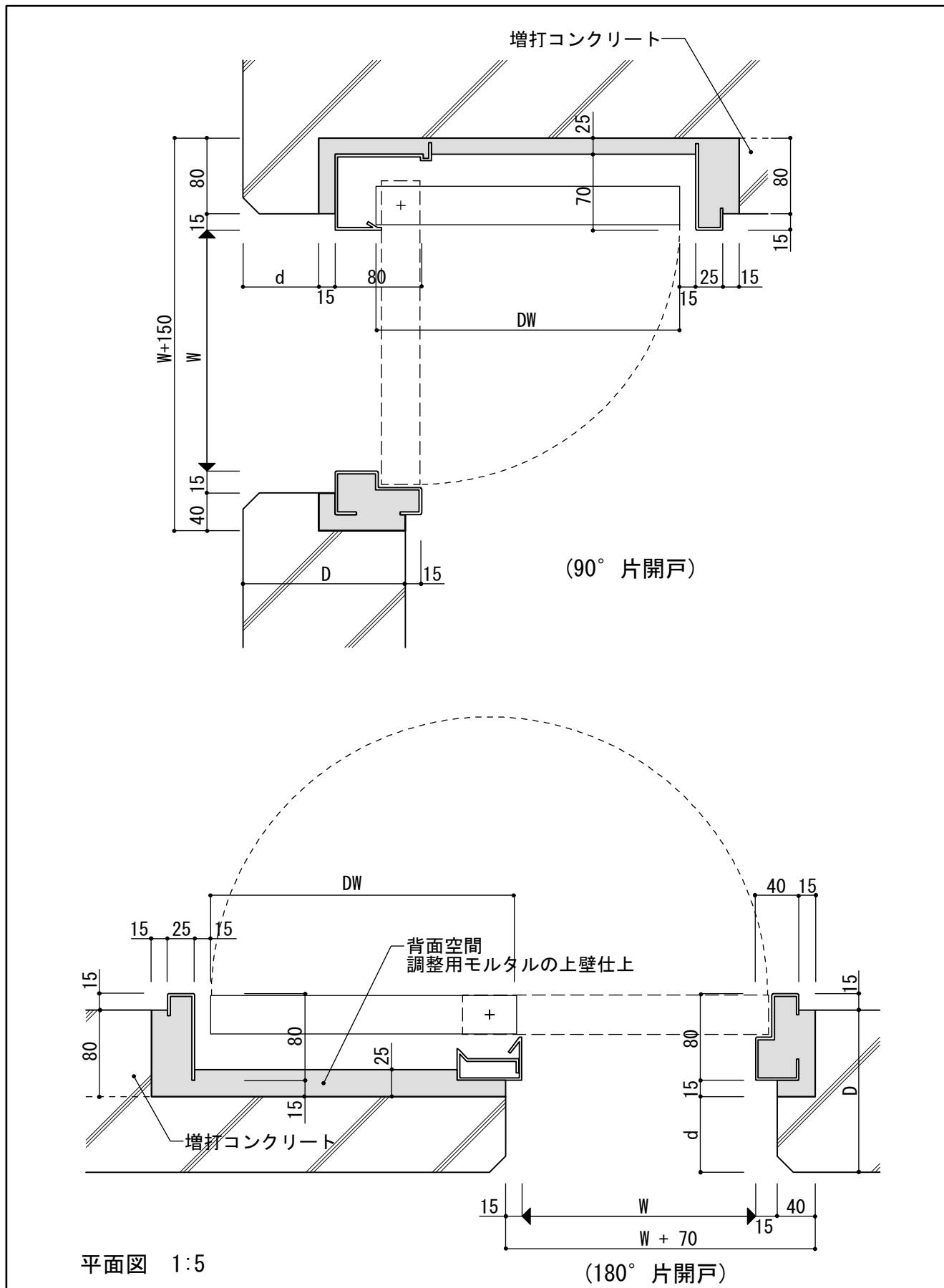
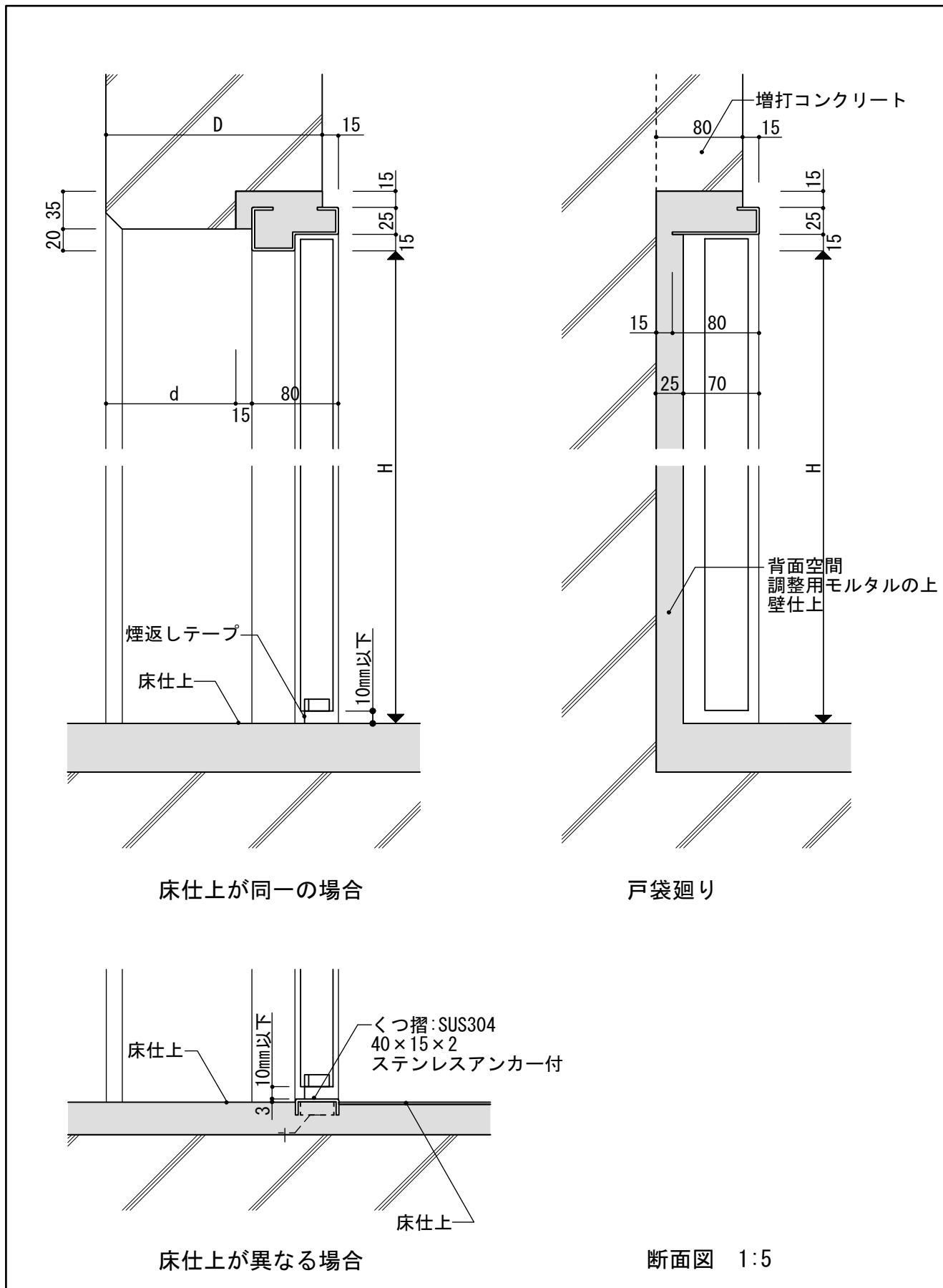


平面 1:3

【改訂事項(公団住宅)】  
 ・ 第2版 S. 61. 12. 1  
 ・ 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
 ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	鋼製戸わく廻り		
縮尺	1:3 1:5	AE - 743	頁 E-83

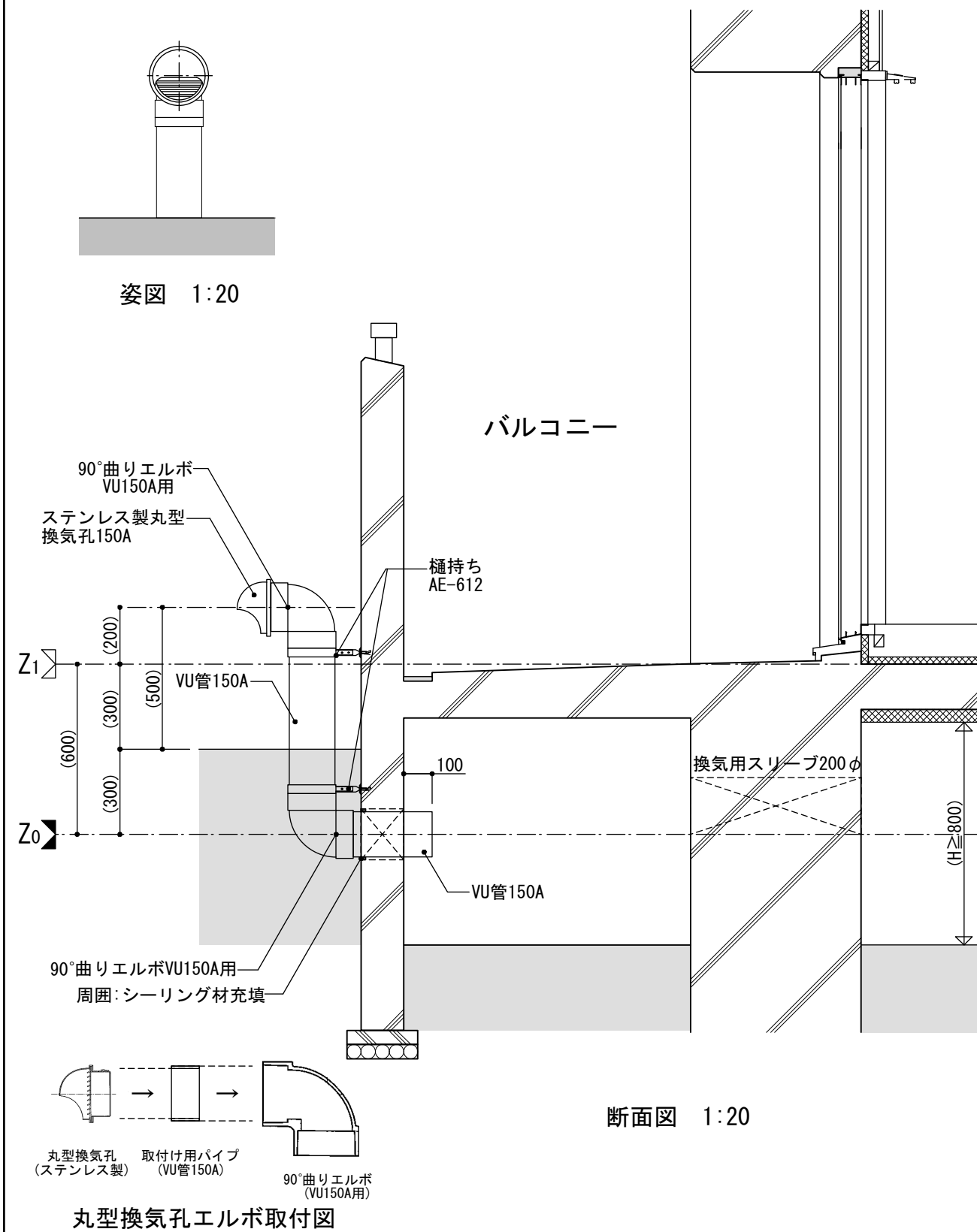


<p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出入口の防火戸は特定防火設備又は防火設備とし建物設計図による。</li> <li>・ 煙感知器装置は別途とする。</li> </ul>	<p>【附記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ W, H, D, dは建物設計図による。</li> </ul>
--	--

<p>【改訂事項(公団住宅)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・ 第4版 H. 8. 10. 1</li> </ul>	<p>【改訂事項(機構住宅)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>鋼製戸わく廻り(常時開放型)</p>	<p>縮尺</p> <p>1:5</p>	<p>AE - 744</p>	<p>頁</p> <p>E-84</p>
---	--	---------------------------------	----------------------	-----------------	----------------------



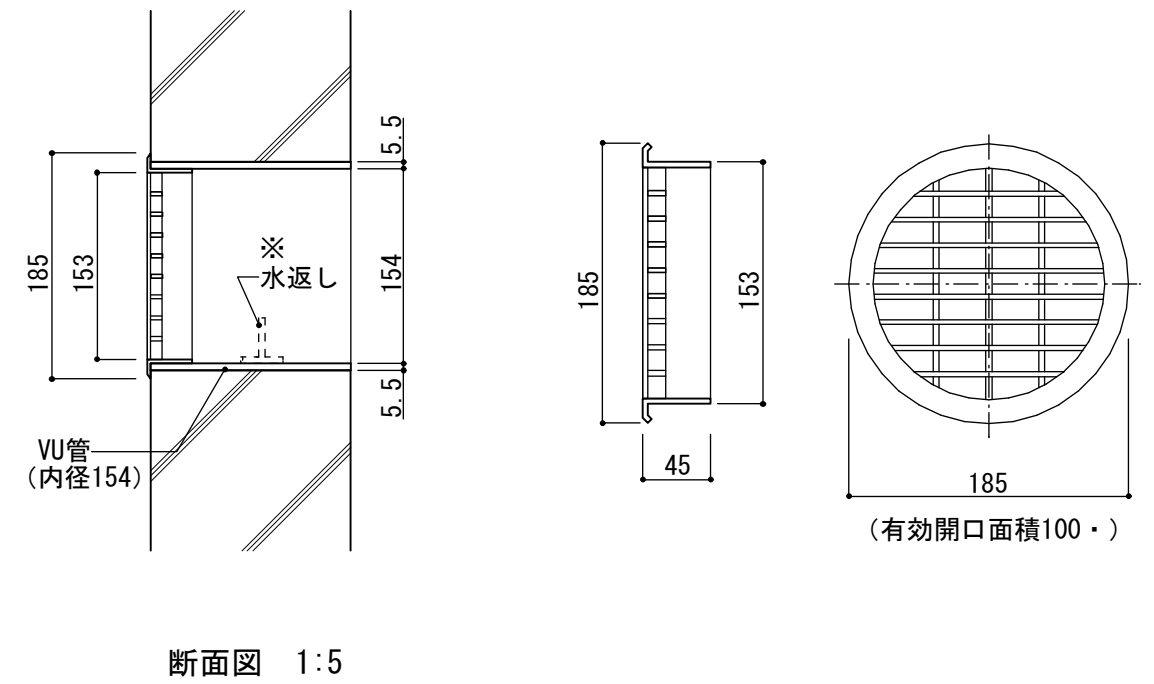
A: ステンレス製埋設型



【仕様】  
・A型換気孔の見え掛り部分に使用するVU管の色はシルバー色を標準とする。

【附記事項】  
・取付位置、箇所数は建物設計図による。  
・※雨がかりになる場合は、水返しを設ける。

B: 合成樹脂製丸型



【改訂事項(公団住宅)】

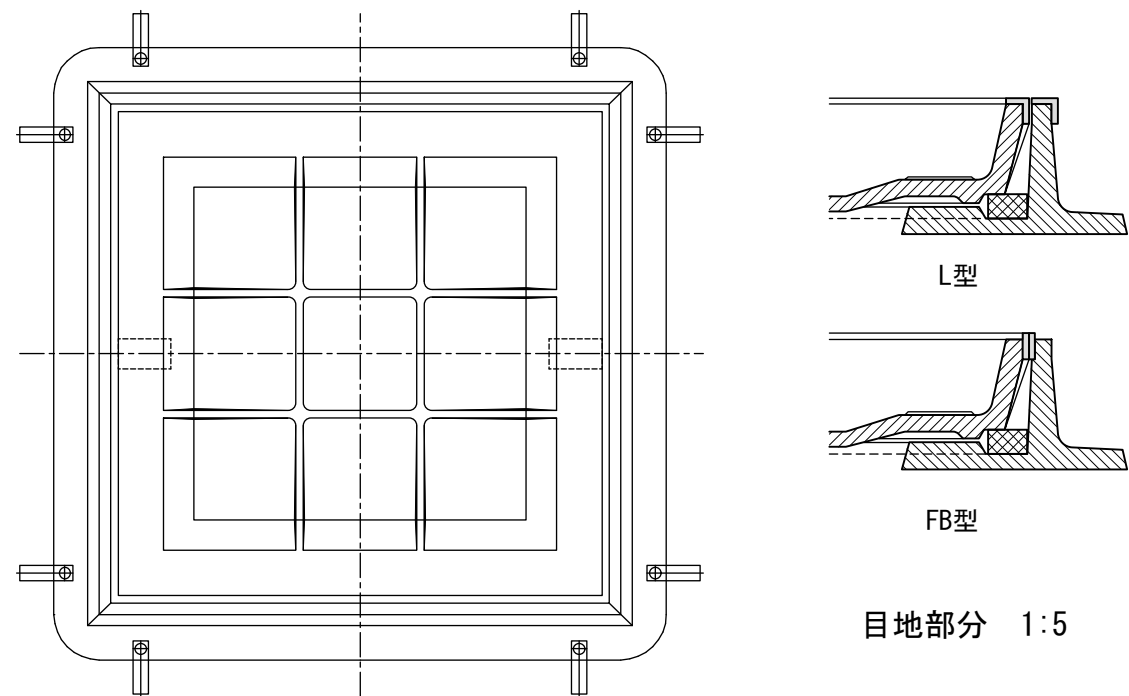
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1  
・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

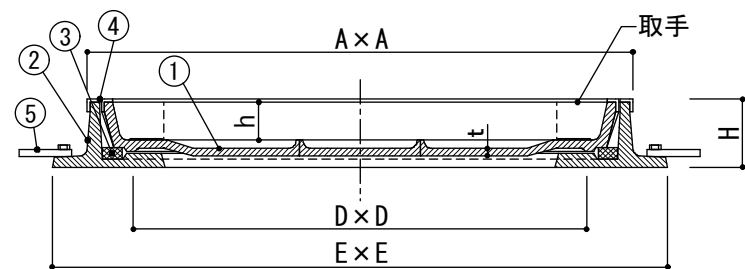
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	床下換気孔〔型式図〕		
縮尺	1 : 5 1 : 20	AE - 801	頁 E-85

A:簡易密閉形(パッキン式)床化粧マンホール蓋



平面図 1:10



断面図 1:10

材料名

部番	名称	種類	材料名	適用規格
①	ふた	1500K	ねずみ鋳鉄品	JIS G 5501-FC200
②	枠			
③	パッキン		クロロブレン系ゴム	JIS K 6380-BC6773
④	目地	L型	ステンレス鋼板	JIS G 4305-SUS304
		FB型	黄銅板	JIS H 3100-C2680P
⑤	アンカー		ステンレス鋼板	JIS G 4305-SUS304
			鋼板	JIS G 3101-SS400

寸法

記号	呼びD	ふた		枠				E	H		
		t	h		A						
			L型	FB型	L型	FB型					
1500K	600	9以上	40	40~44	基準寸法	許容差	692	±1.5	692	760	65以上

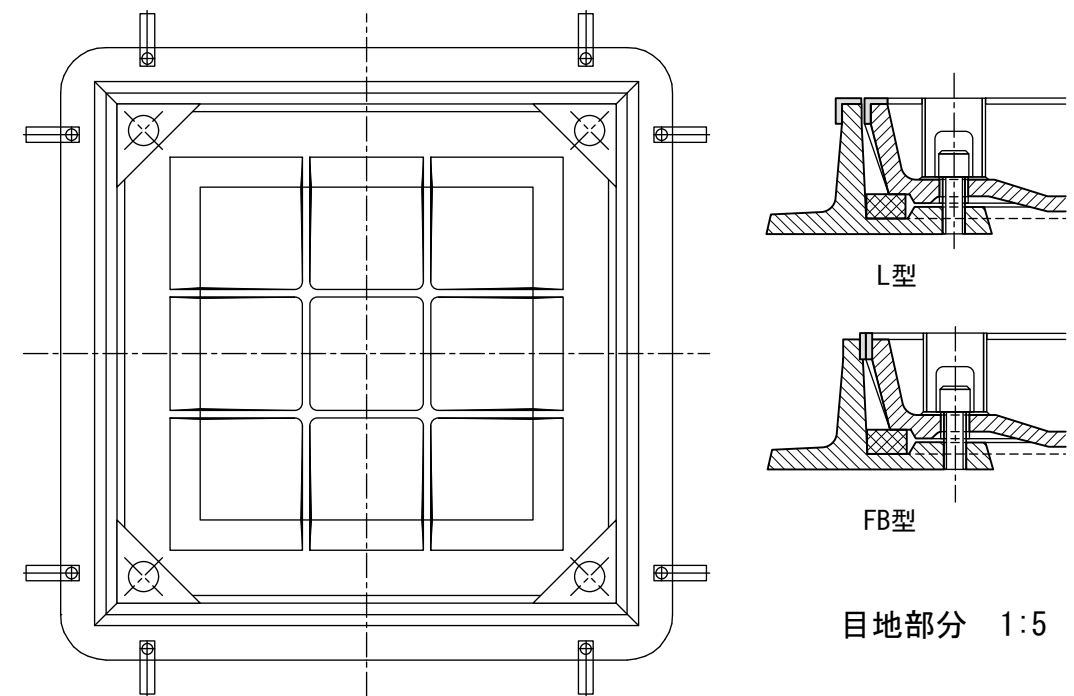
【仕様】

- 取手の構造、配置および数は、製造所の仕様による。
- 塗装は、樹脂塗料・水溶性合成樹脂焼付け塗装又は、エポキシ樹脂塗装のいずれかによる。

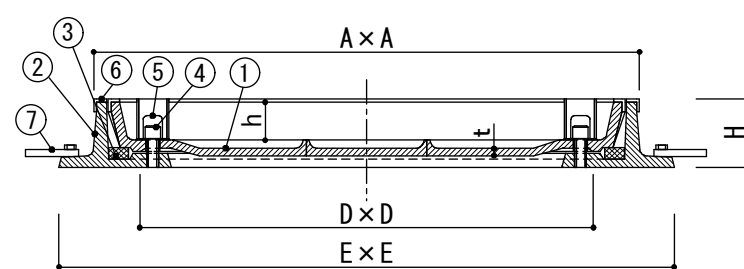
【附記事項】

- 特に許容寸法を表示してあるもの以外の許容差は、JIS B 0403(鋳鉄品一寸法公差方式及び削り代方式)の鋳造公差等級CT12とする。

B:密閉形(ボルト・パッキン式)床化粧マンホール蓋



平面図 1:10



断面図 1:10

材料名

部番	名称	種類	材料名	適用規格
①	ふた	1500K	ねずみ鋳鉄品	JIS G 5501-FC200
②	枠			
③	パッキン		クロロブレン系ゴム	JIS K 6380-BC6773
④	ボルト		ステンレス鋼棒	JIS G 4305-SUS304
⑤	保護キャップ		ステンレス鋼棒	JIS G 4305-SUS304
⑥	目地	L型	ステンレス鋼板	JIS G 4305-SUS304
		FB型	黄銅板	JIS H 3100-C2680P
⑦	アンカー		ステンレス鋼板	JIS G 4305-SUS304
			鋼板	JIS G 3101-SS400

寸法

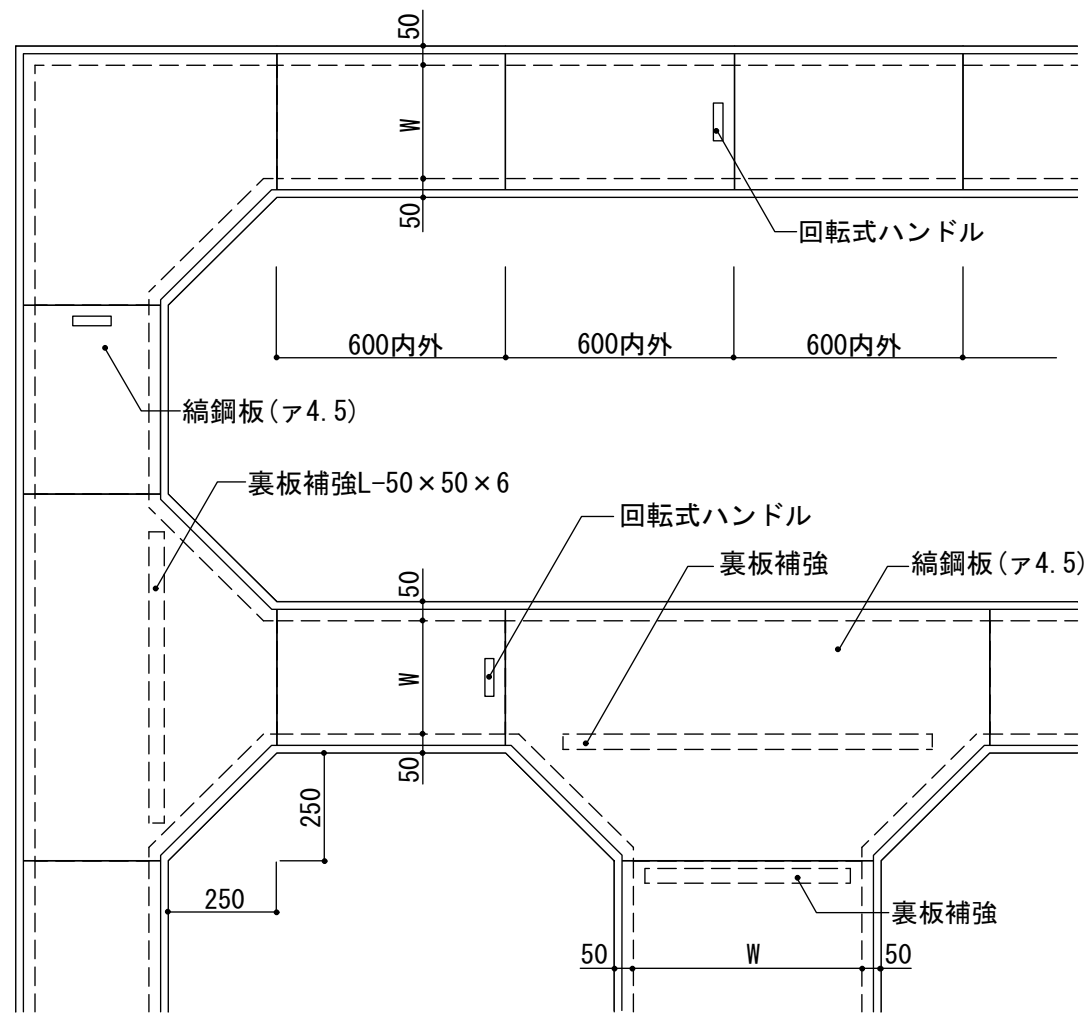
記号	呼びD	ふた		枠				E	H		
		t	h		A						
			L型	FB型	L型	FB型					
1500K	600	9以上	40	40~44	基準寸法	許容差	692	±1.5	692	760	65以上

【改訂事項(公団住宅)】

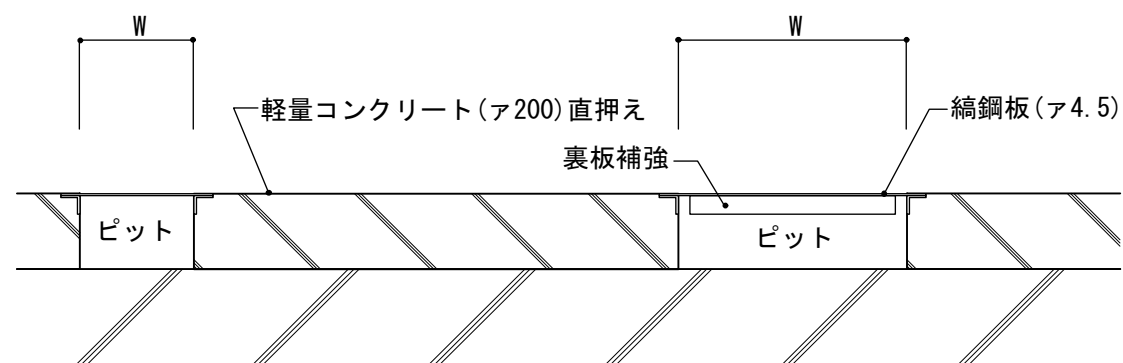
- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

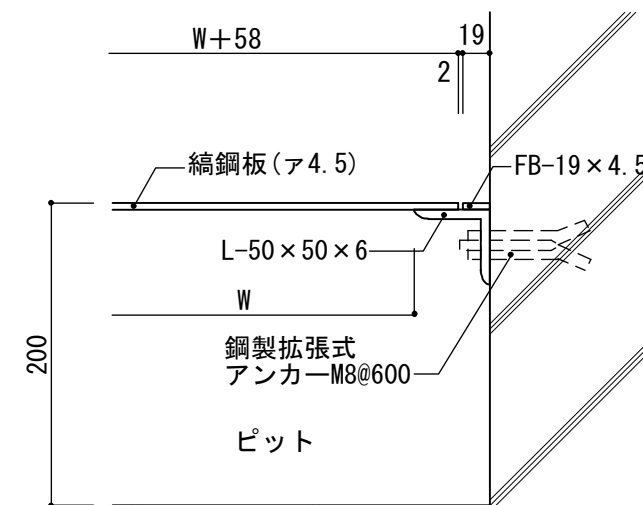
名称	床化粧マンホール蓋 〔型式図〕			頁
縮尺	1:5 1:10	AE - 802	E-86	



平面図 1:20

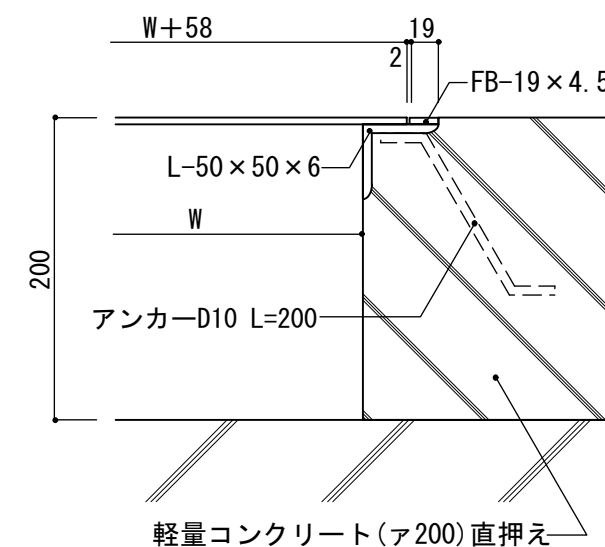


断面図 1:20



(柱・壁付の場合)

断面図 1:5



断面図 1:5

【仕様】

- ・ピット巾Wは下記を標準とする。  
W=300、400、500、600  
Wが500を超える場合は裏板補強L-50×50×6 @600を入れること。
- ・見え掛り鉄部は防錆処理の上SOPその他は防錆処理のままとする。

【附記事項】

- ・ピットの位置及びWは建物設計図による。
- ・ハンドルの必要位置及び箇所数は建物設計図による。

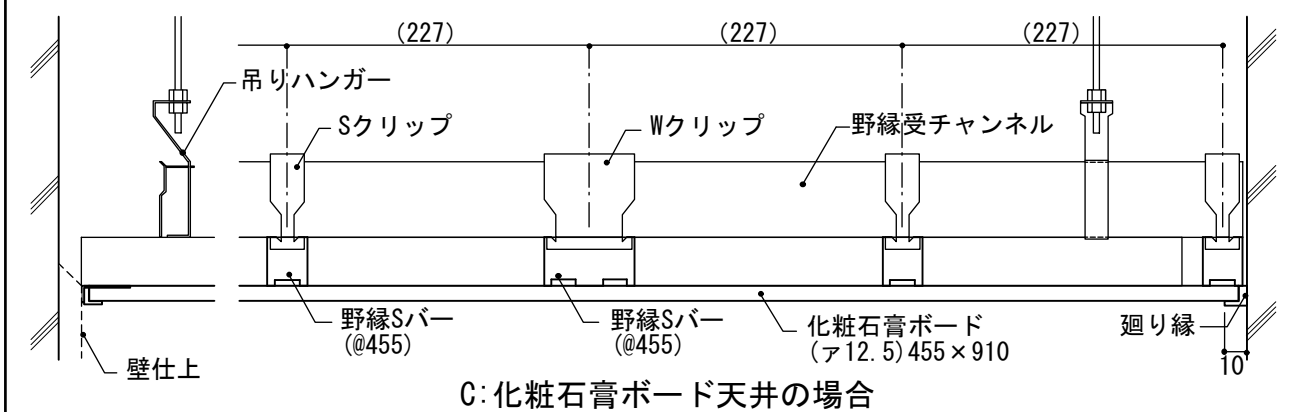
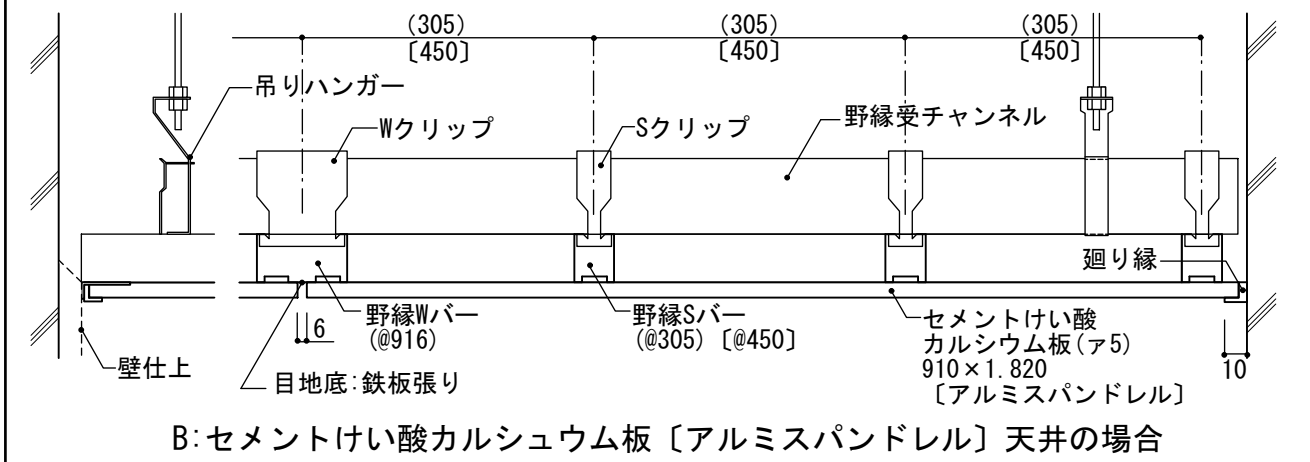
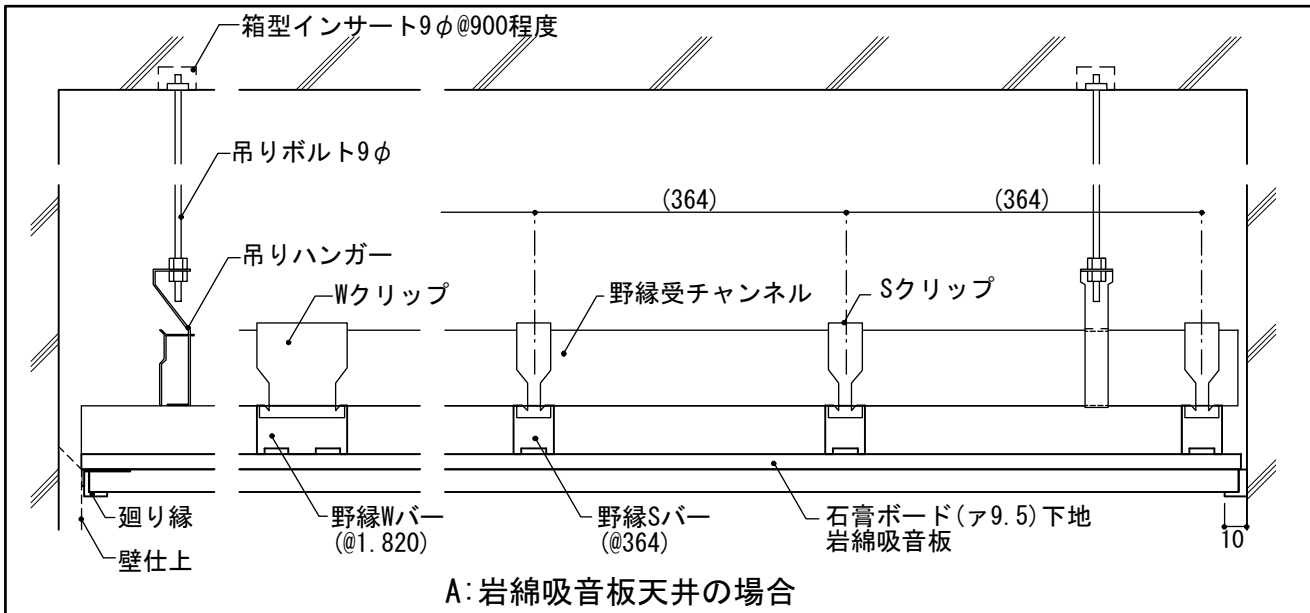
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	床配線ピット廻り		
縮尺	1:5 1:20	AE - 803	頁 E-87



【仕様】

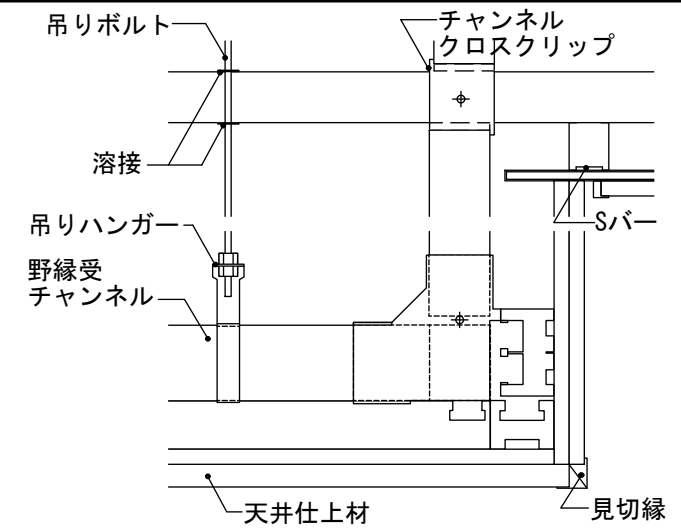
- 天井下地材は、JIS A 6517 (建築用鋼製下地材(壁・天井))のJISマーク表示品とする。
- 野縁などの種類は下表により、特記なき限り屋内は19形、屋外は25形とする。

種類	19形	25形
シングル野縁	25×19×0.5	25×25×0.5
ダブル野縁	50×19×0.5	50×25×0.5
野縁受	38×12×1.2	38×12×1.6

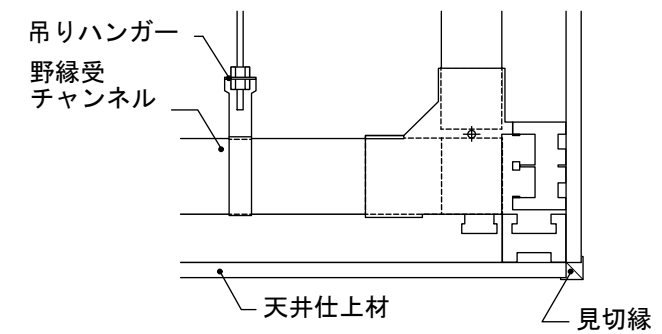
- なお、仕上ボードを接着剤とタッカーによるステープ止め、又はくぎとめで直張りとする場合は野縁は19形にスリット加工したものとす。
- 野縁受ハンガーは厚さ2.0mm以上、クリップは厚さ25形の場合0.8mm以上、19形の場合は0.6mm以上とし、野縁と同程度の亜鉛メッキを行ったものとする。
  - 廻り縁、見切縁はアルミ製とする。

【附記事項】

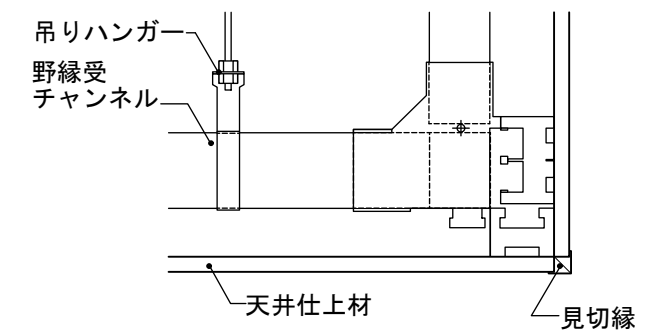
- 天井仕上は建物設計図による。
- [ ] 内はアルミスパンドレルの場合を示す。



天井段差部分



天井段差部分



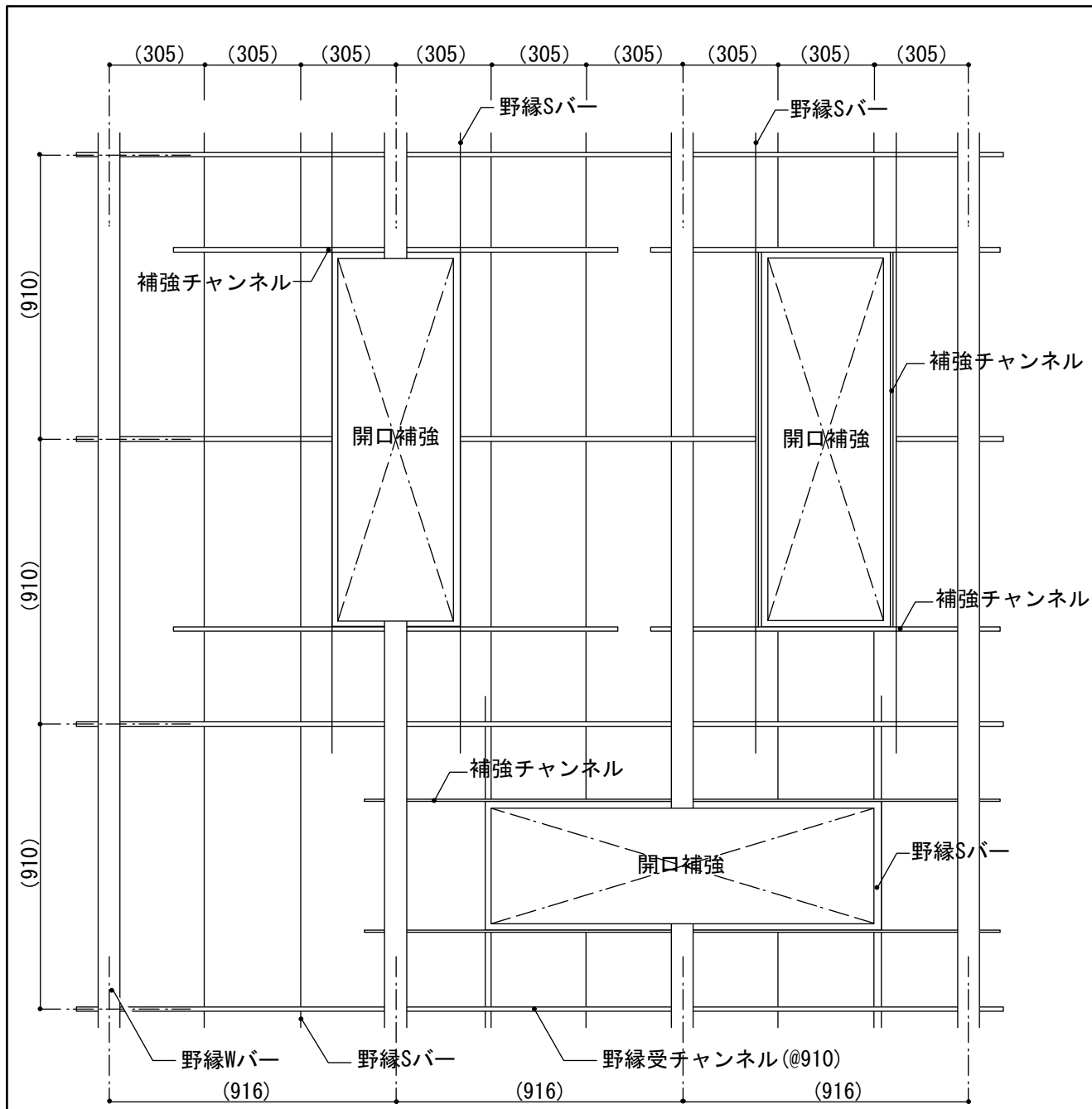
天井段差部分

【改訂事項(公団住宅)】

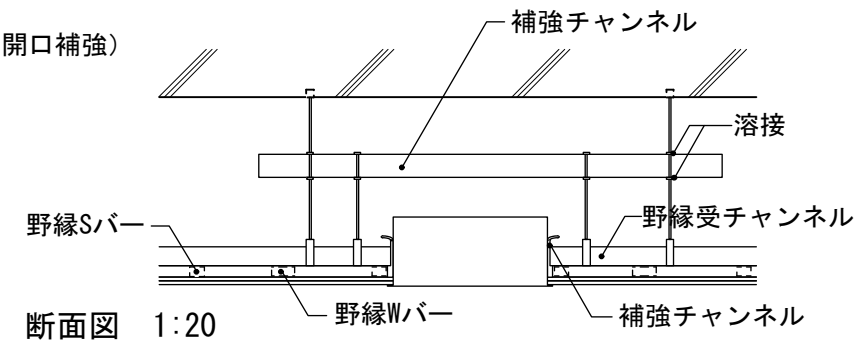
- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	軽量鉄骨下地天井廻り-1 天井下地 [型式図]		
縮尺	1:5	AE - 804	頁 E-88



平面図 1:20(各種開口補強)

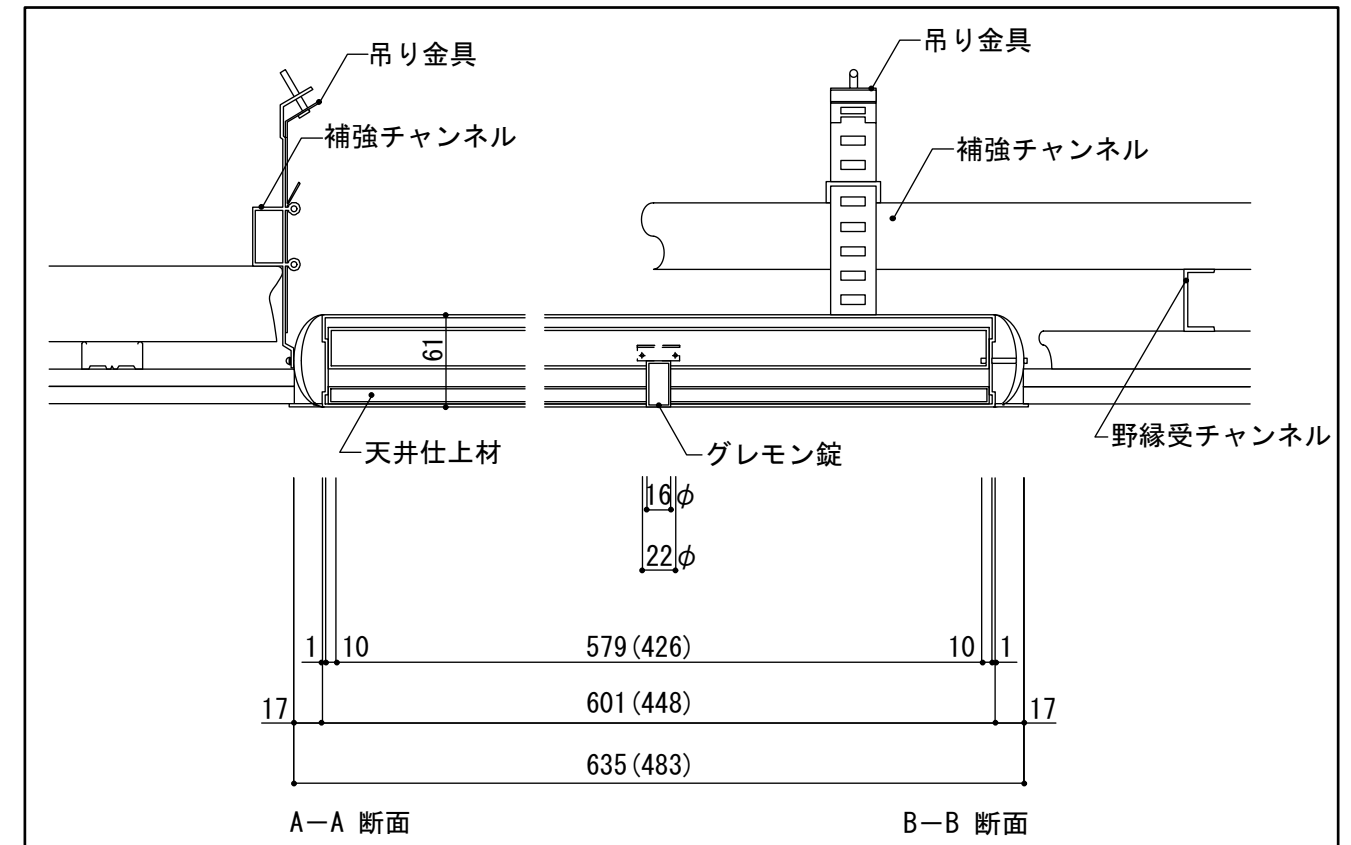


断面図 1:20

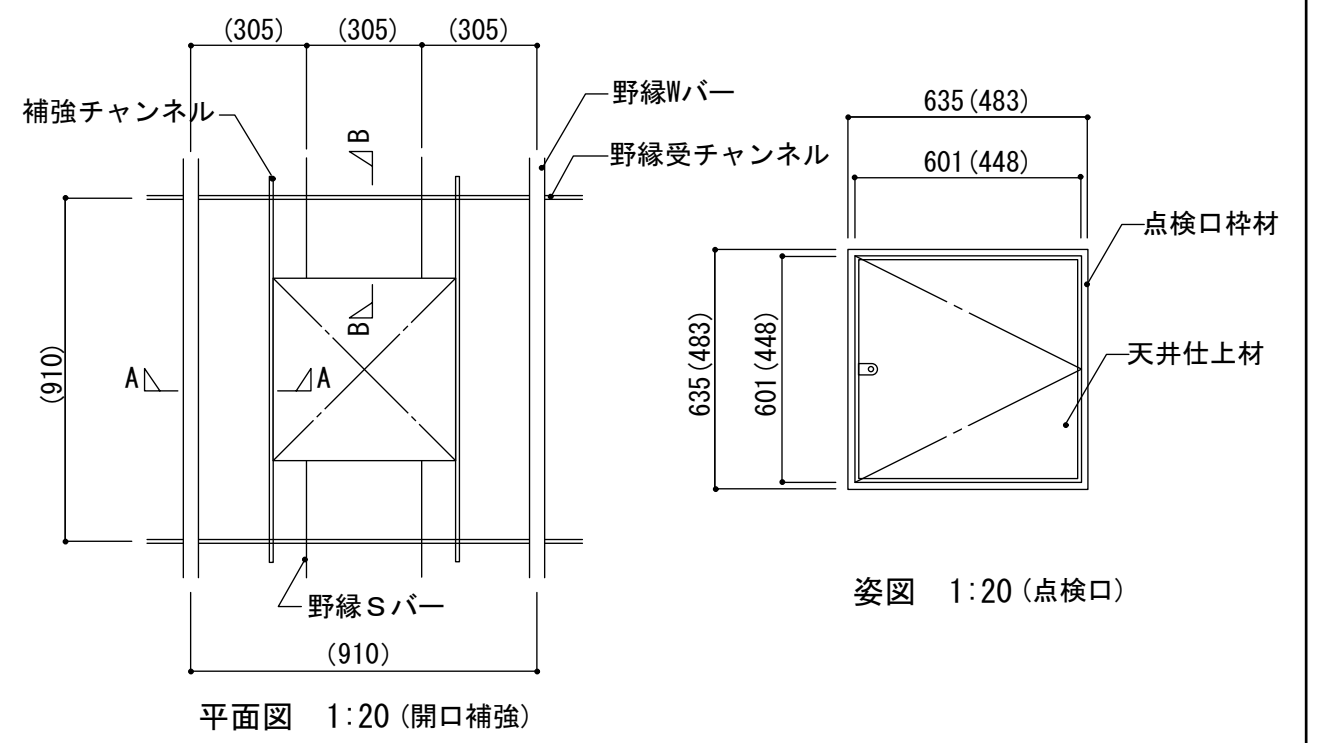
【仕様】  
 ・天井下地の仕様は AE-804 による。

【附記事項】  
 ・開口補強位置は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】 ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1	【改訂事項(機構住宅)】	名称	軽量鉄骨下地天井廻り-2 開口補強 [型式図]		頁
		縮尺	1:20	AE - 805	E-89



断面図 1:5



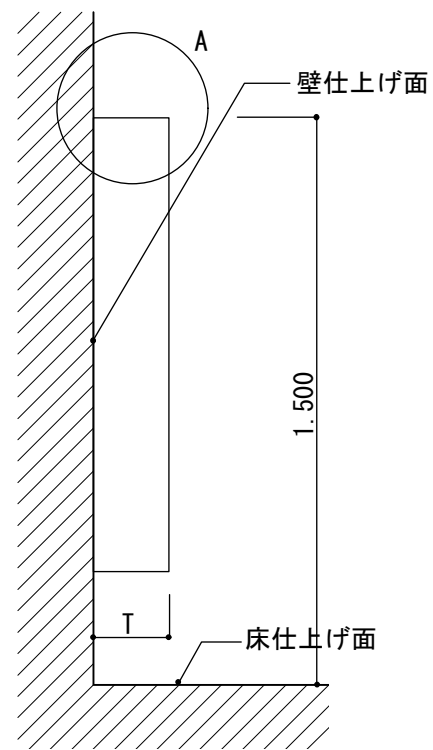
平面図 1:20 (開口補強)

姿図 1:20 (点検口)

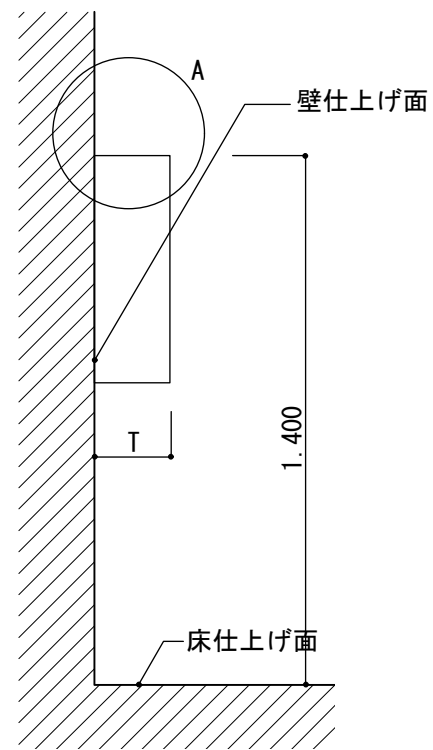
【仕様】  
 ・材質はアルミニウム押出形材アルマイト仕上とする。

【附記事項】  
 ・点検口大きさ600型と450型の使用区分は建物設計図による。

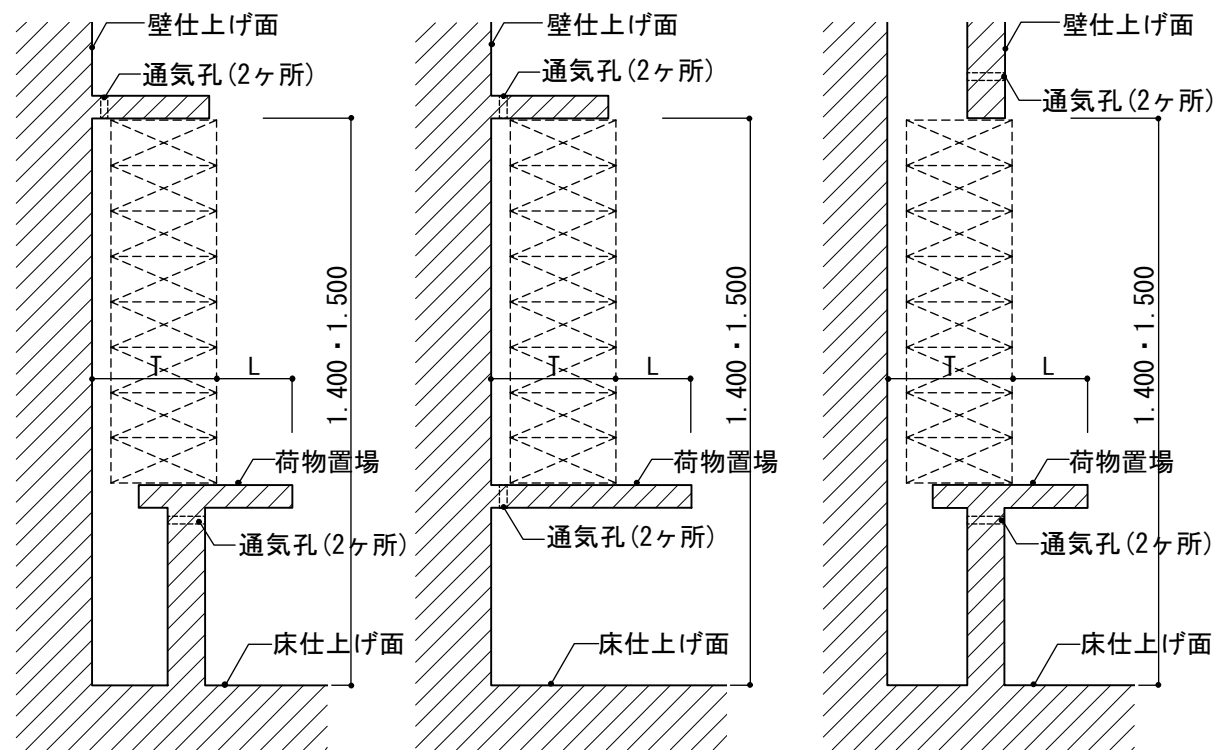
【改訂事項(公団住宅)】 ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1	【改訂事項(機構住宅)】	名称	軽量鉄骨下地天井廻り-3 点検口 [型式図]		頁
		縮尺	1:5 1:20	AE - 806	E-90



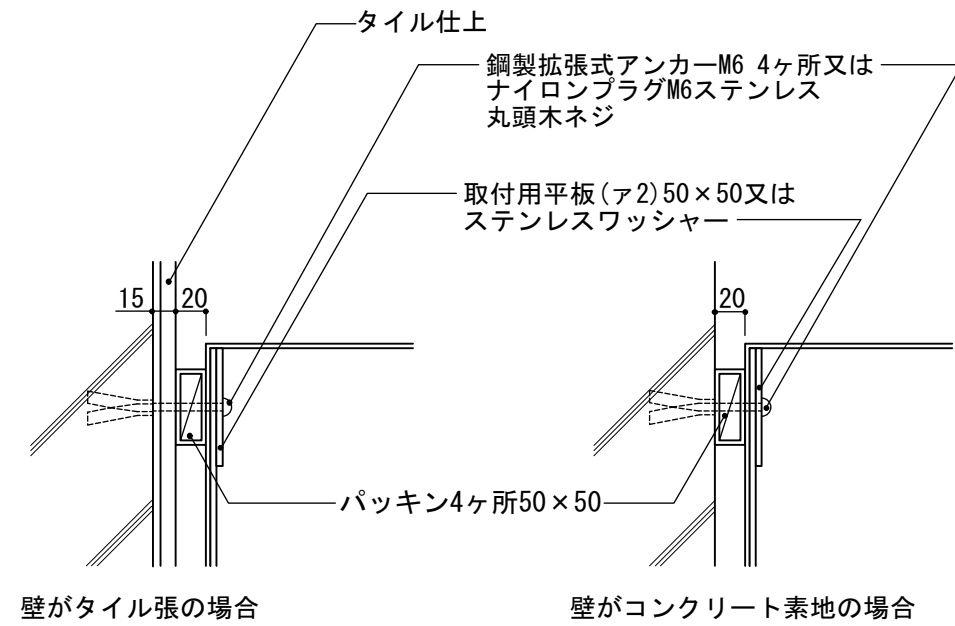
(ステンレス縦型) 1:20



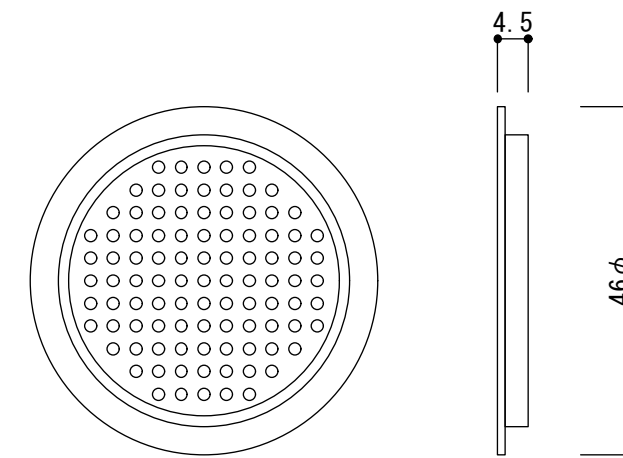
(ステンレス横型) 1:20



(ステンレス埋め込み型) 1:20



A部分詳細図 1:5



通気孔姿図 1:1  
(ステンレス製)

【仕様】

- ・ 住戸番号はアルミ製シール貼付又はエナメルペイント文字書きとする。
- ・ 通気孔は接着貼りとする。

【附記事項】

- ・ T.Lは建物設計図による。

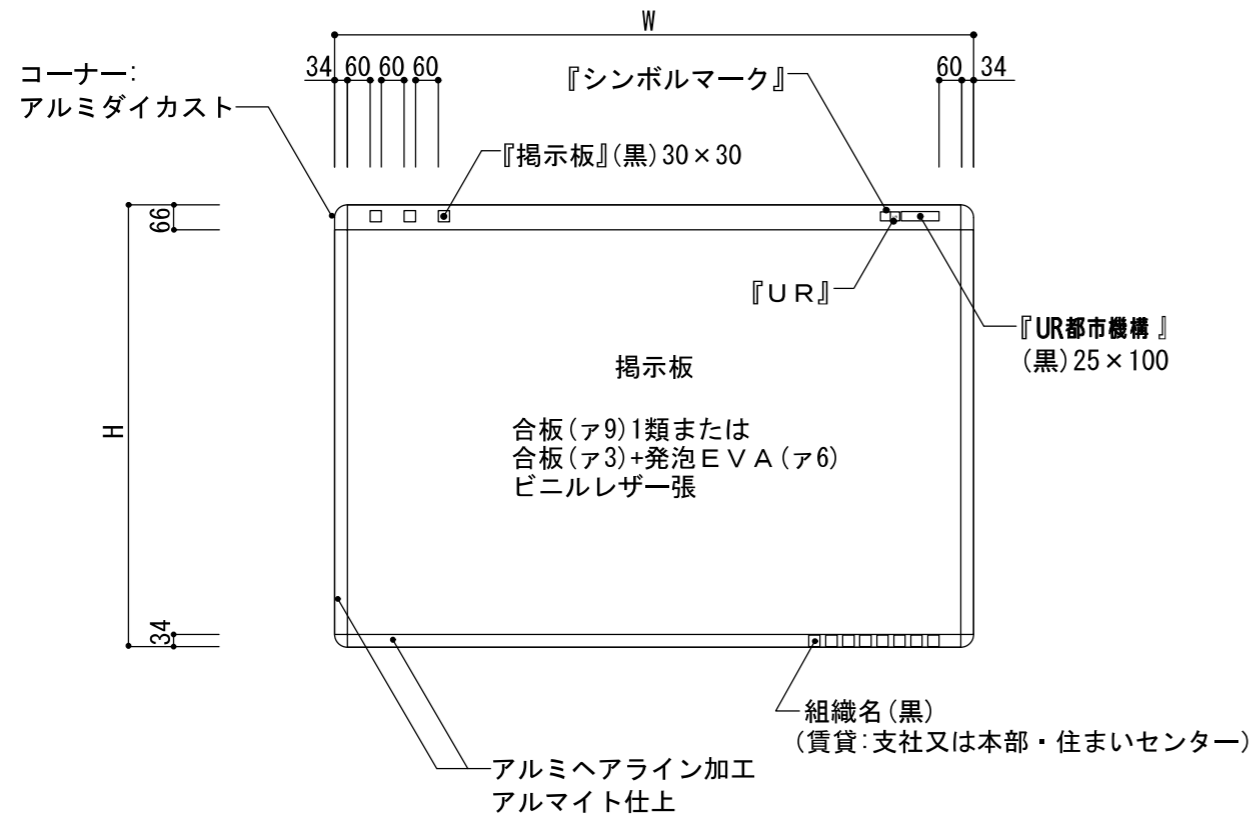
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1

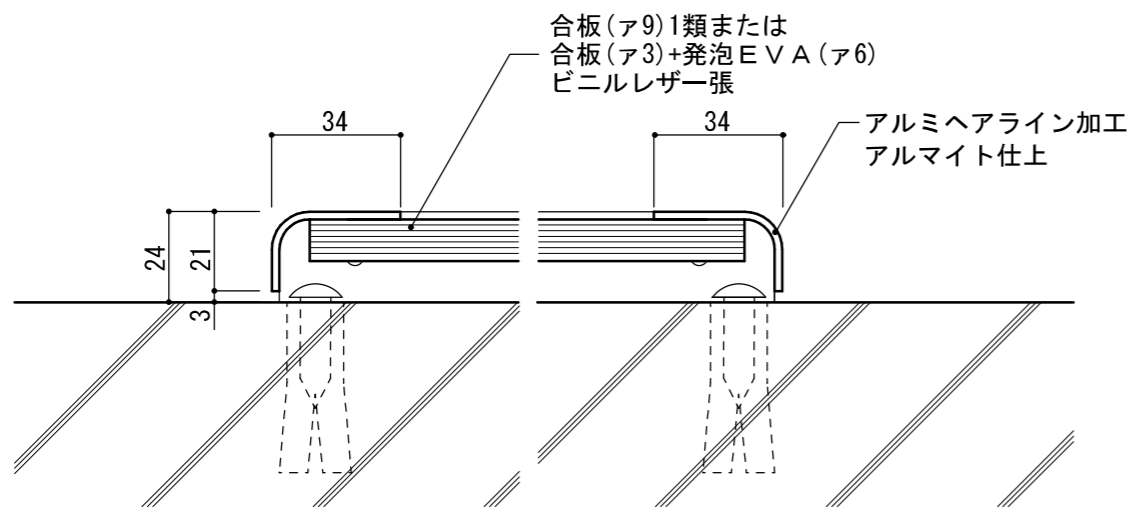
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	集合郵便受箱取付詳細図		
縮尺	1:1 1:5 1:20	AE - 811	頁 E-91



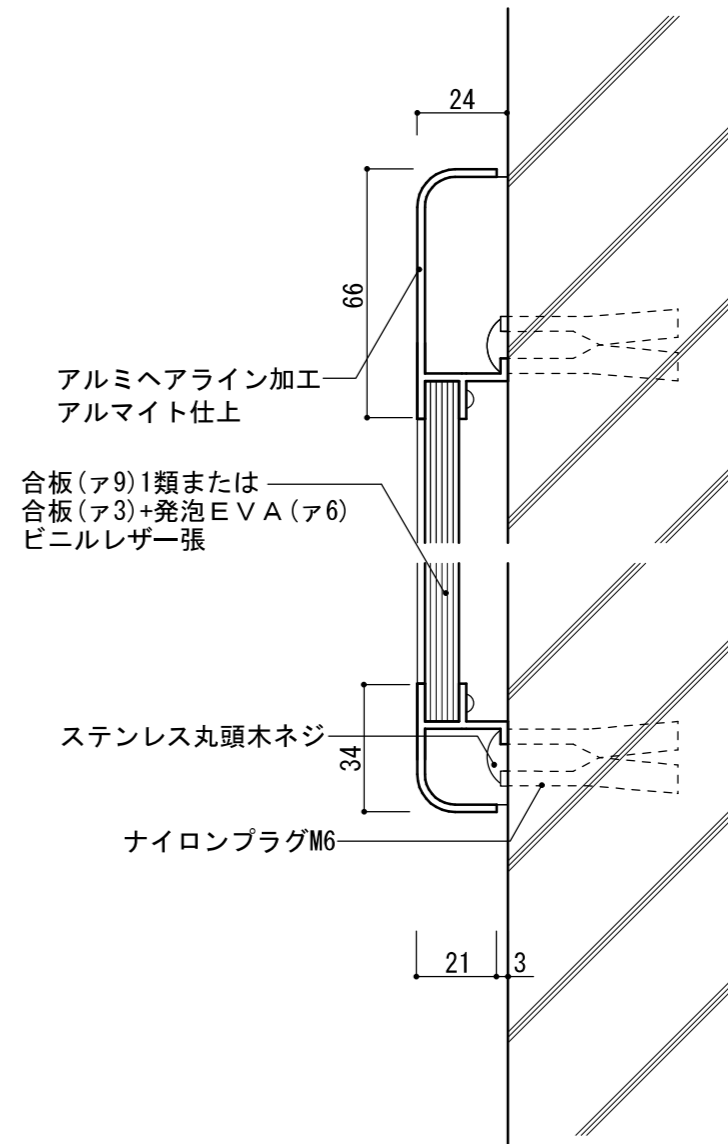
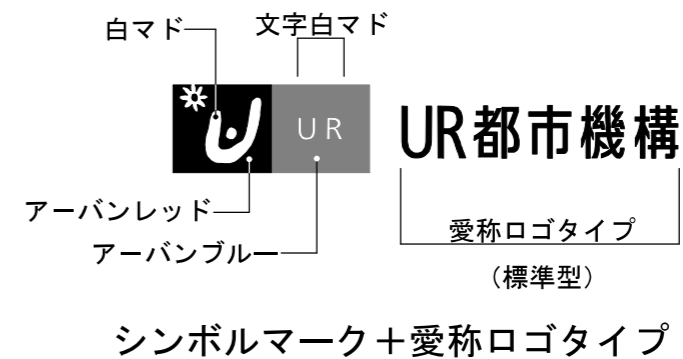
姿図 1:20



平面図 1:2

【仕様】  
・文字、シンボルマークはシルク印刷又は  
カッティングシート張りとする。

【附記事項】  
・W、H及び取付位置は建物設計図による。

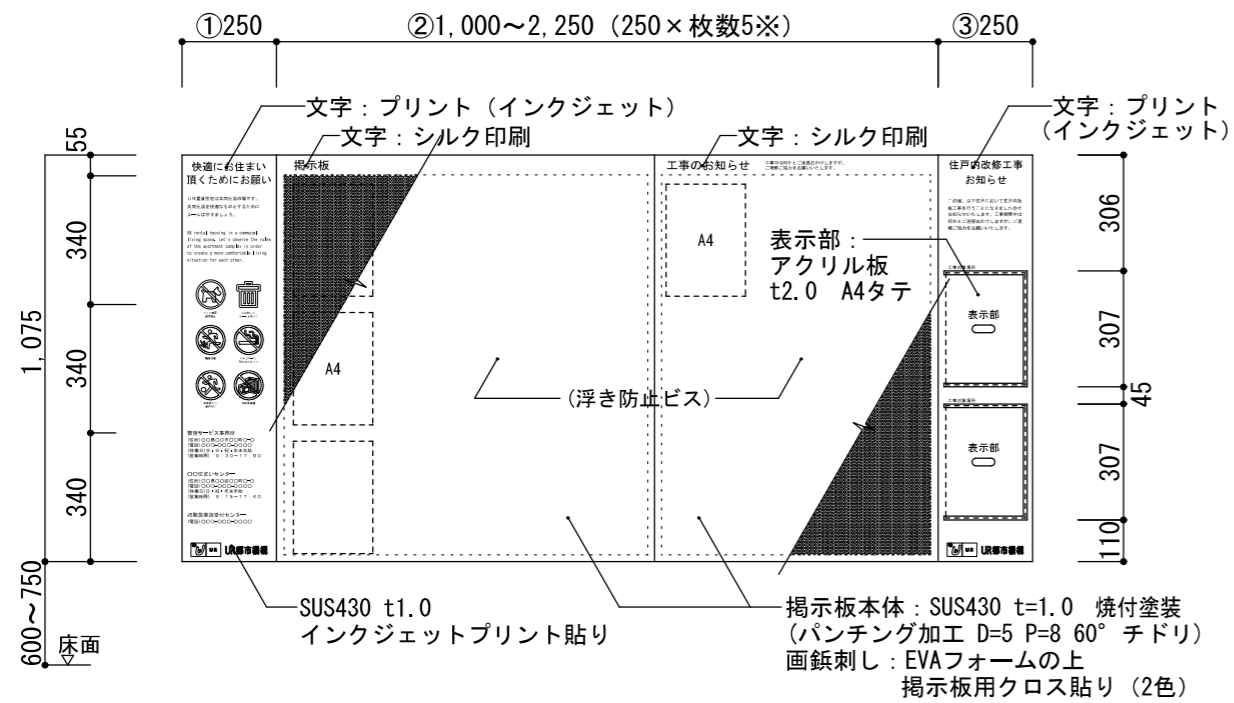


断面図 1:2

※EVA: Ethylene-Vinyl Acetate  
エチレン-酢酸ビニル共重合樹脂

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版4刷 R. 5. 4. 1
・第4版 H. 8. 10. 1	
・第5版 H. 13. 11. 1	
・第5版(追)H. 16. 8. 1	

名称	掲示板(アルミ製)ー1 [型式図]	
縮尺	1:2 1:20	AE - 812 - 1
頁	E-92-1	



正面図 1:20

**快適にお住まい  
頂くためにお願い**

UR賃貸住宅は共同生活の場です。  
共同生活を快適なものするために  
ルールは守りましょう。

UR rental housing is a communal  
living space. Let's observe the rules  
of the apartment complex in order  
to create a more comfortable living  
situation for each other.

管理サービス事務所  
(住所)〇〇県〇〇市〇〇町〇〇  
(電話)〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇  
(休業日)水・日・祝・年末年始  
(営業時間) 9:30~17:00

〇〇住まいセンター  
(住所)〇〇県〇〇市〇〇町〇〇  
(電話)〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇  
(休業日)日・祝・年末年始  
(営業時間) 9:15~17:40

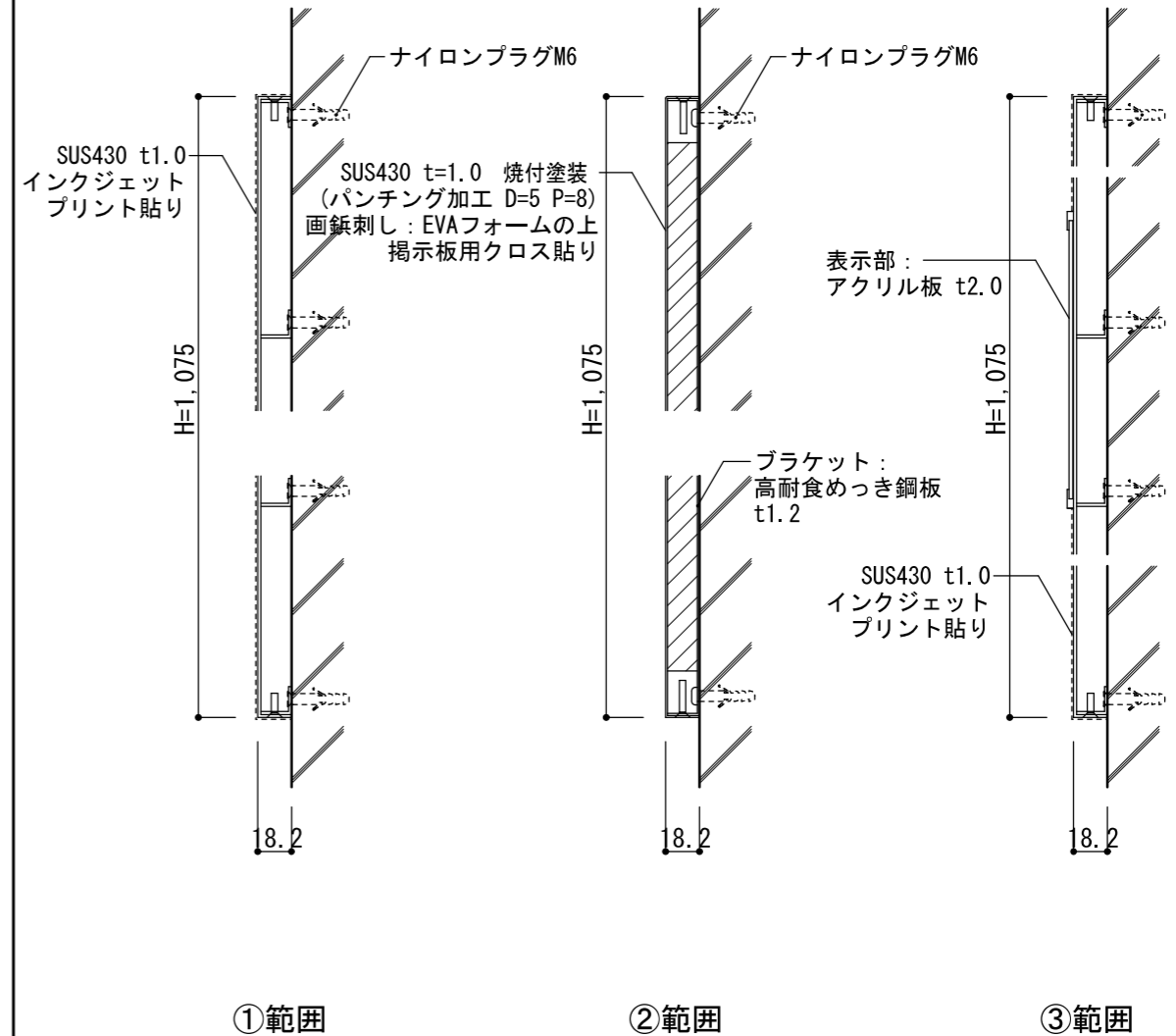
JS緊急事故受付センター  
(電話)〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

UR 都市機構

①範囲 記載例

注意	期日	年月日	～	年月日

③表示部 記載例

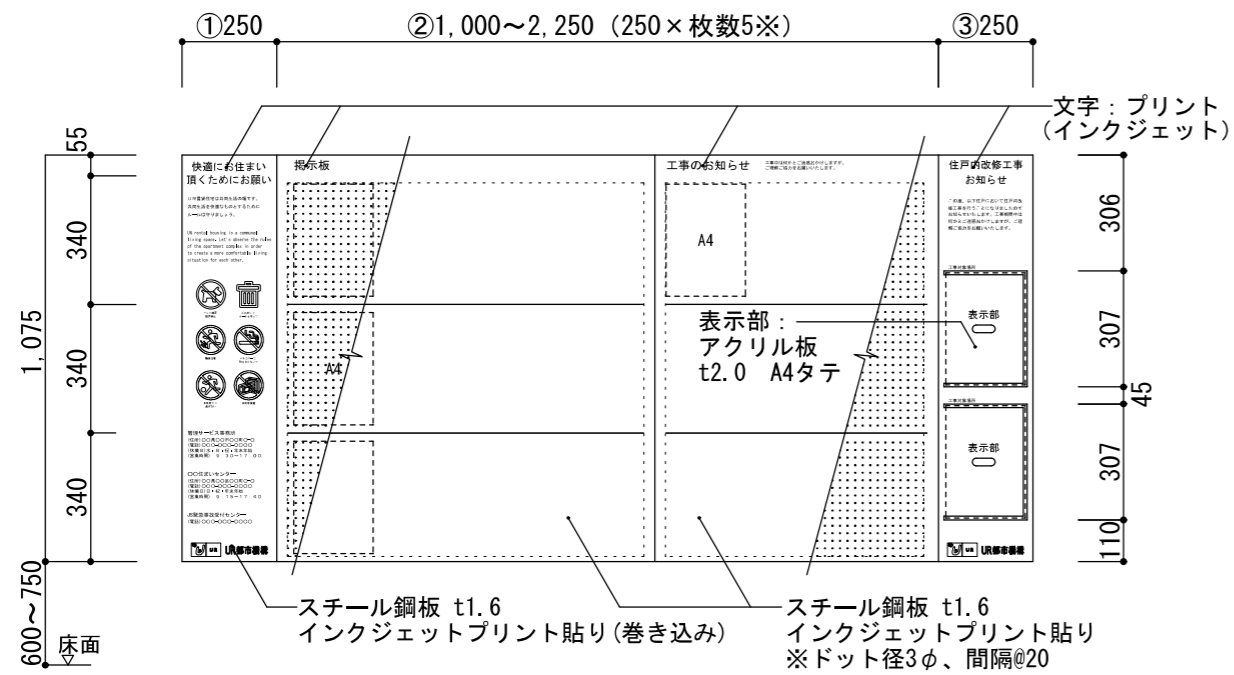


断面図 1:4

- 【仕様】**
- 表示部のアクリル板は、耐擦傷加工されたものとする。
  - 掲示板本体のパンチング加工面がEVAフォームより浮く場合は、浮き防止ビス(SUS)で固定すること。
- 【附記事項】**
- 「管理サービス事務所」「住まいセンター」の記載内容を事前に確認すること。
  - ピクトの表示内容については、建物設計図による。
  - 掲載文字及び多言語表記については、建物設計図による。
  - ①、②、③の組み合わせは、建物設計図による。
  - 横方向の最大枚数※は、9枚までとする。
  - 文字のフォントは特記なき限り「ヒラギノ角ゴ」とする。

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版4刷 R.5.4.1	名称	掲示板(アルミ製)ー2〔型式図〕	
縮尺	1:4 1:20	AE - 812 - 2	頁	E-92-2





正面図 1:20

**快適にお住まい  
頂くためにお願い**

UR賃貸住宅は共同生活の場です。  
共同生活を快適なものとするために  
ルールは守りましょう。

UR rental housing is a communal  
living space. Let's observe the rules  
of the apartment complex in order  
to create a more comfortable living  
situation for each other.

管理サービス事務所  
(住所)〇〇県〇〇市〇〇町〇〇  
(電話)〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇  
(休業日)水・日・祝・年末年始  
(営業時間) 9:30~17:00

〇〇住まいセンター  
(住所)〇〇県〇〇市〇〇町〇〇  
(電話)〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇  
(休業日)日・祝・年末年始  
(営業時間) 9:15~17:40

JS緊急事故受付センター  
(電話)〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

UR 都市機構

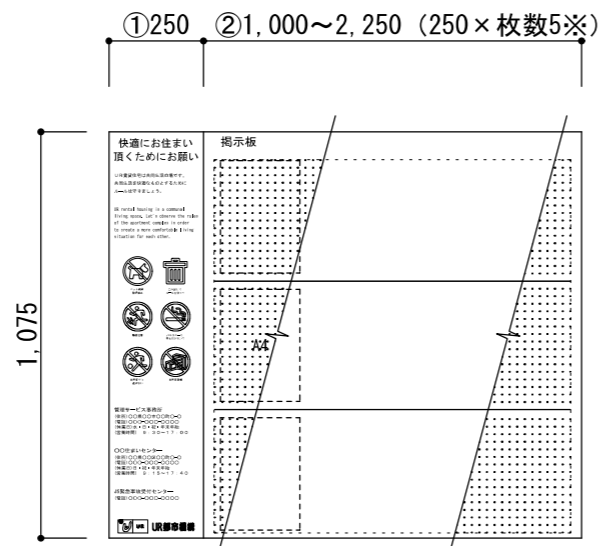
①範囲 記載例

告示欄

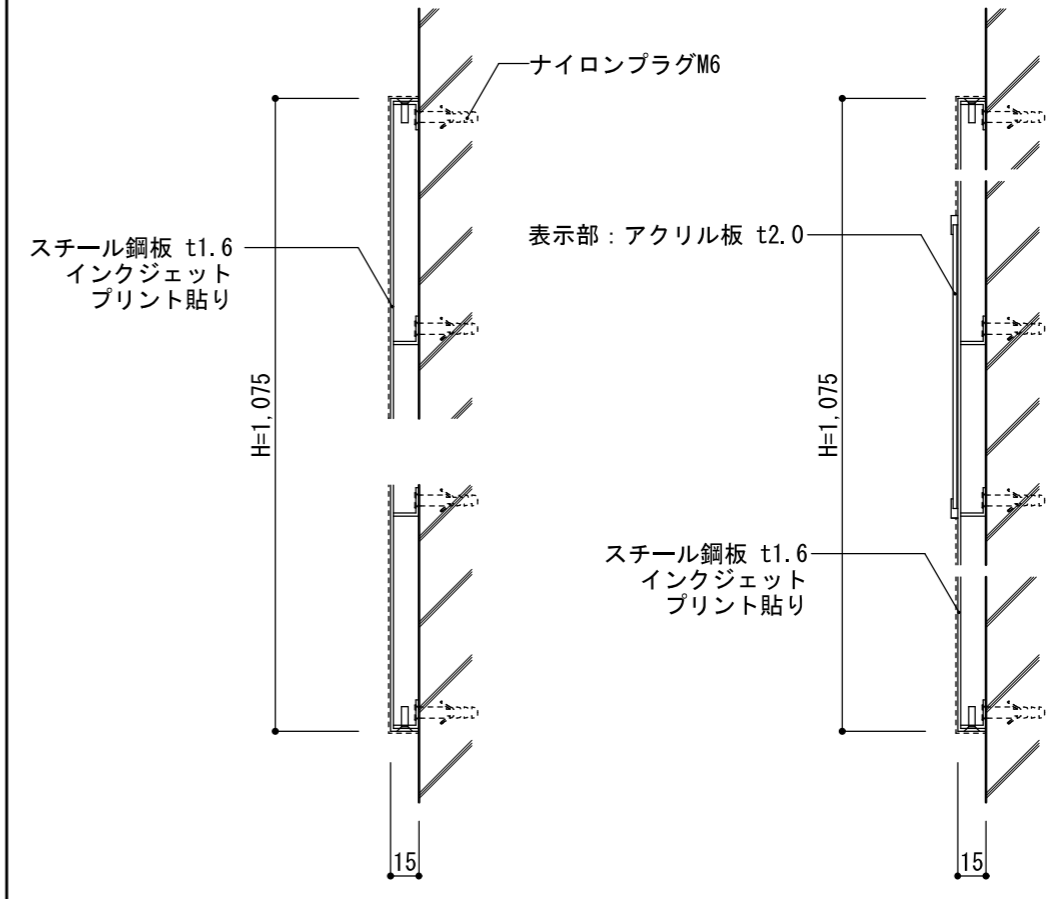
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日
告示	期間	年月日	～	年月日

株式会社〇〇建設  
専任代理人 〇〇 太郎  
連絡先 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

③表示部 記載例



バリエーション例  
正面図 (①+②) 1:20



①②範囲

③範囲

断面図 1:4

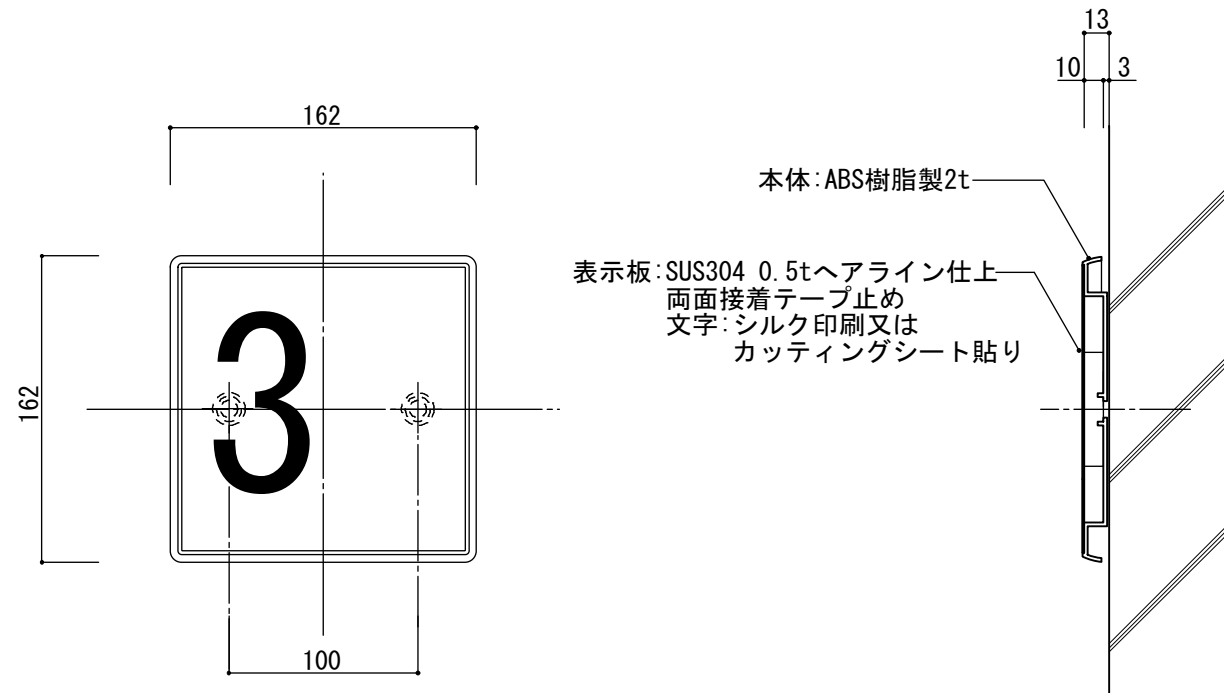
【仕様】

- ・表示部のアクリル板は、耐擦傷加工されたものとする。

【附記事項】

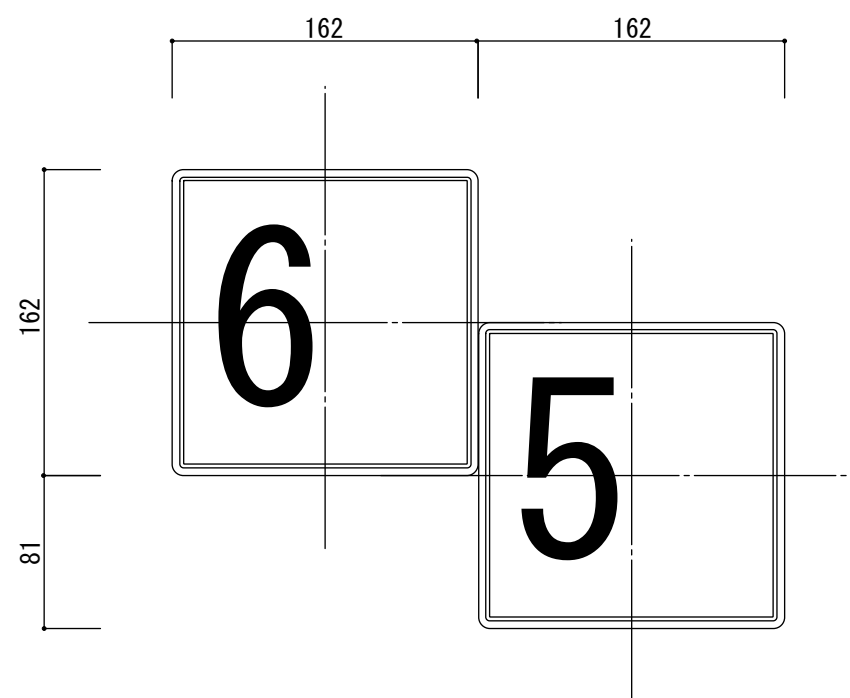
- ・「管理サービス事務所」「住まいセンター」の記載内容を事前に確認すること。
- ・ピクトグラムの表示内容は、建物設計図による。
- ・掲載文字及び多言語表記については、建物設計図による。
- ・①、②、③の組み合わせは、建物設計図による。
- ・横方向の最大枚数※は、9枚までとする。
- ・文字のフォントは特記なき限り「ヒラギノ角ゴ」とする。

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版4刷 R.5.4.1	名称	掲示板(アルミ製)ー3 [型式図]	
縮尺	1:4 1:20	AE - 812 - 3	頁	E-92-3

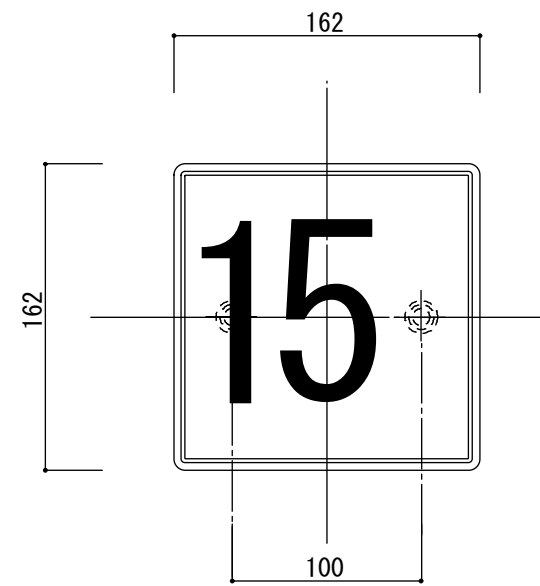


姿図 1:4

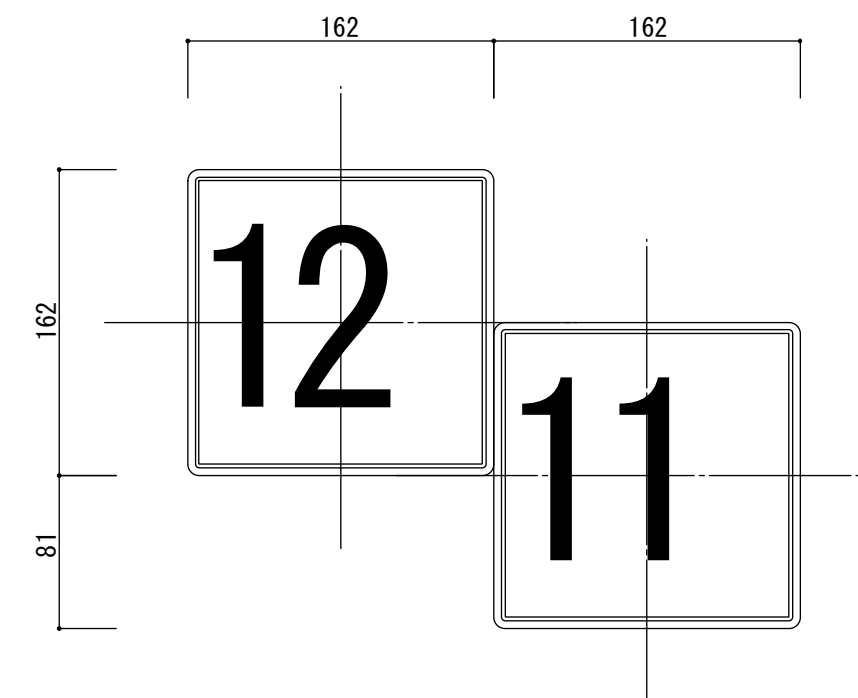
断面図 1:4



姿図 1:4  
(踊場付の場合)



姿図 1:4



姿図 1:4  
(踊場付の場合)

【仕様】

- ・ 取付方法: ナイロンプラグM6、2ヶ所止めとする。
- ・ 文字はシルク印刷又はカッティングシート貼りとする。

【附記事項】

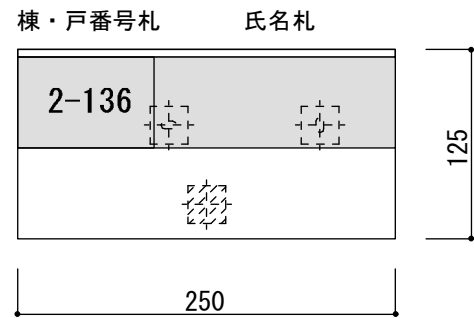
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第4版 H. 8. 10. 1

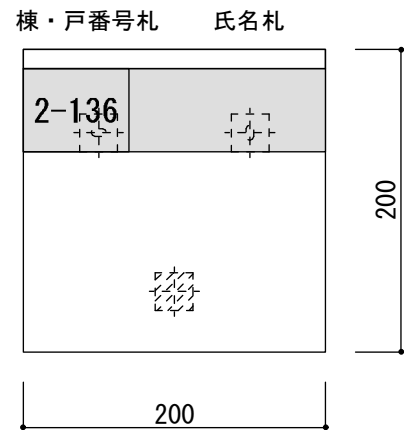
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

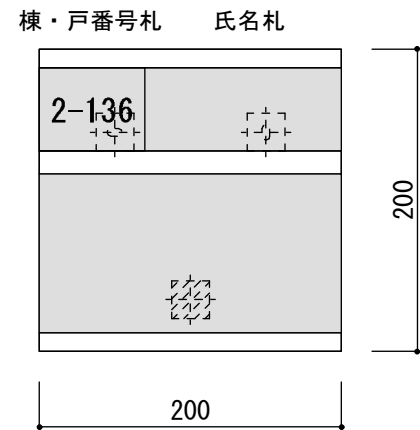
名称	階数標示板〔型式図〕		
縮尺	1:4	AE - 813	頁 E-93



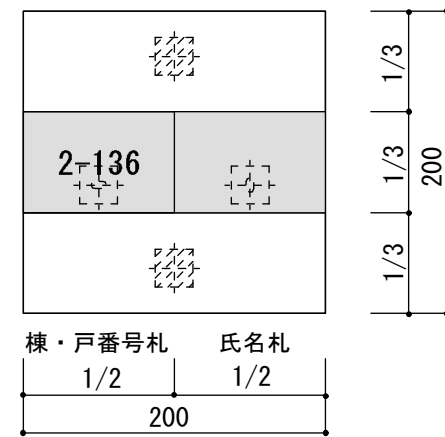
A-1 型



A-2 型



A-3 型

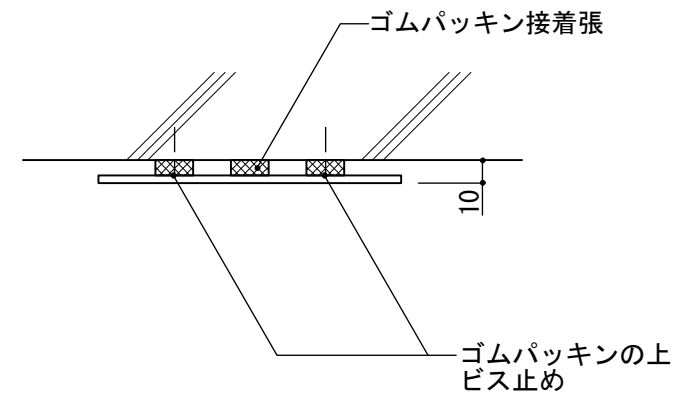


A-4 型

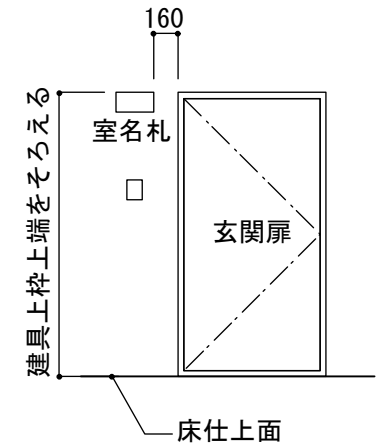
凡例

ゴムパッキンの上ビス止め

ゴムパッキン接着張



取付平面図



標準取付位置図

【仕様】

【アルミ押出型】

- ・アルミニウム合金、押出形材の材質及び表面処理はアルミサッシの仕様にて準ずる。
- ・アルミニウム合金、押出形材の切断部分は、けれんを行うこと。
- ・ はアクリル板を示す。

- ・棟、戸番号の文字はアクリル板に彫込（表彫）黒エナメルラッカー塗とする。
- ・棟、戸番号部分は接着剤で固定する。
- ・接着剤はエポキシ系（トウメイ）を使用する。
- ・取付けは、ナイロンプラグ止めとする。

【附記事項】

- ・設置位置については氏名欄の抜き差しに配慮すること。

【改訂事項（公団住宅）】

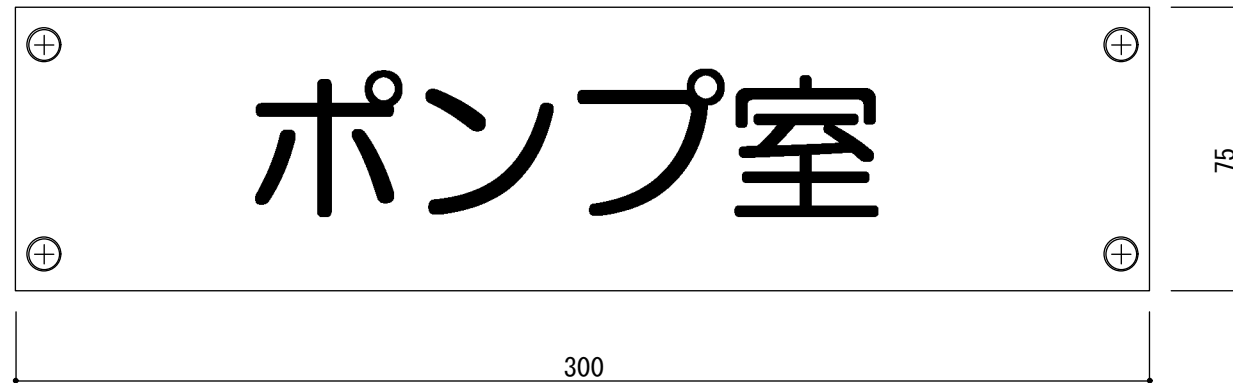
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項（機構住宅）】

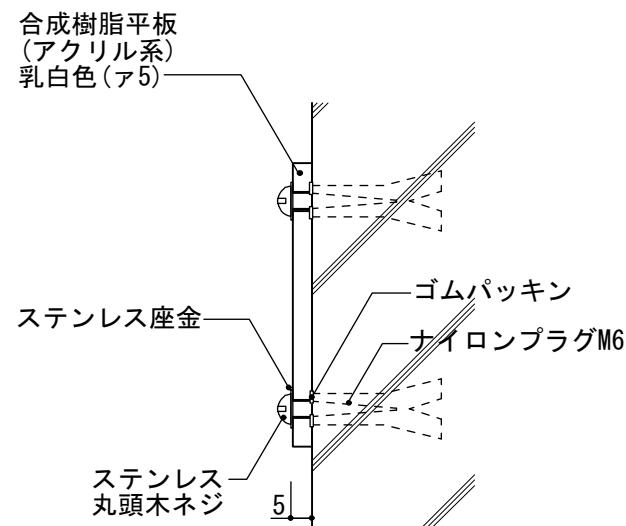
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	住戸玄関室名札板〔型式図〕		
縮尺	1 : 5	AE - 814	頁 E-94

A: 合成樹脂製室名札板



姿図 1:2



断面図 1:2

【仕様】

・文字はシルク印刷又はカッティングシート貼りとする。

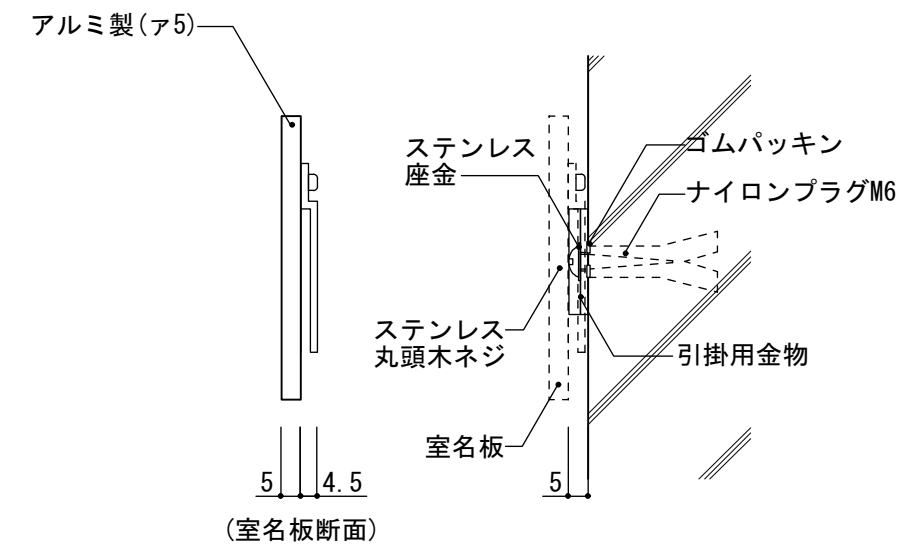
【附記事項】

・A、Bタイプ、取付位置、および各室名については、建物設計図による。

B: アルミ製室名札板



姿図 1:2



断面図 1:2

【改訂事項 (公団住宅)】

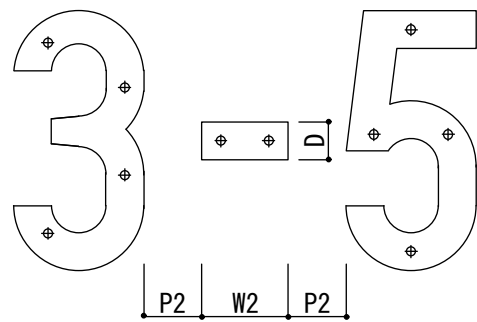
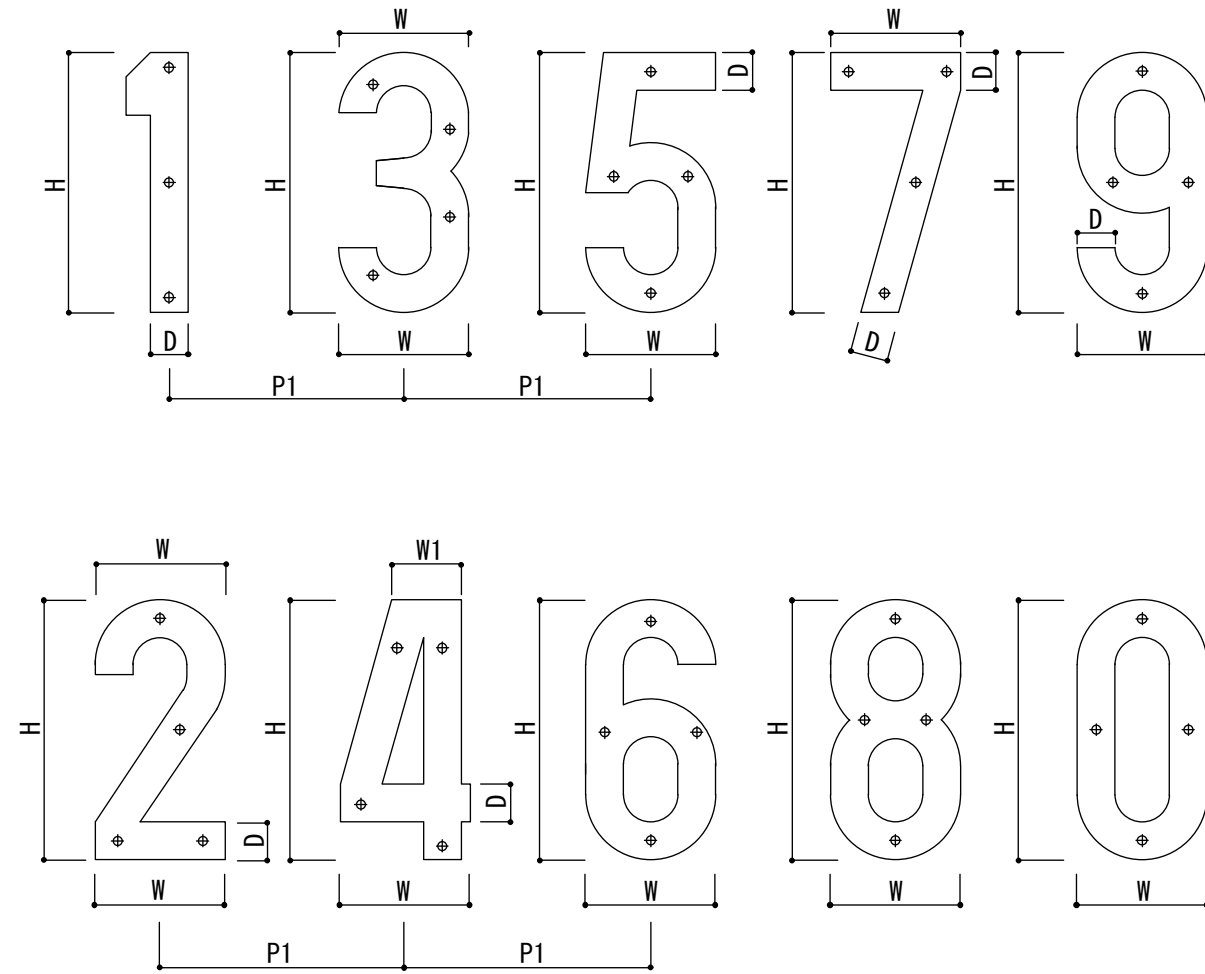
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項 (機構住宅)】

・第2版 H. 21. 12. 1  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

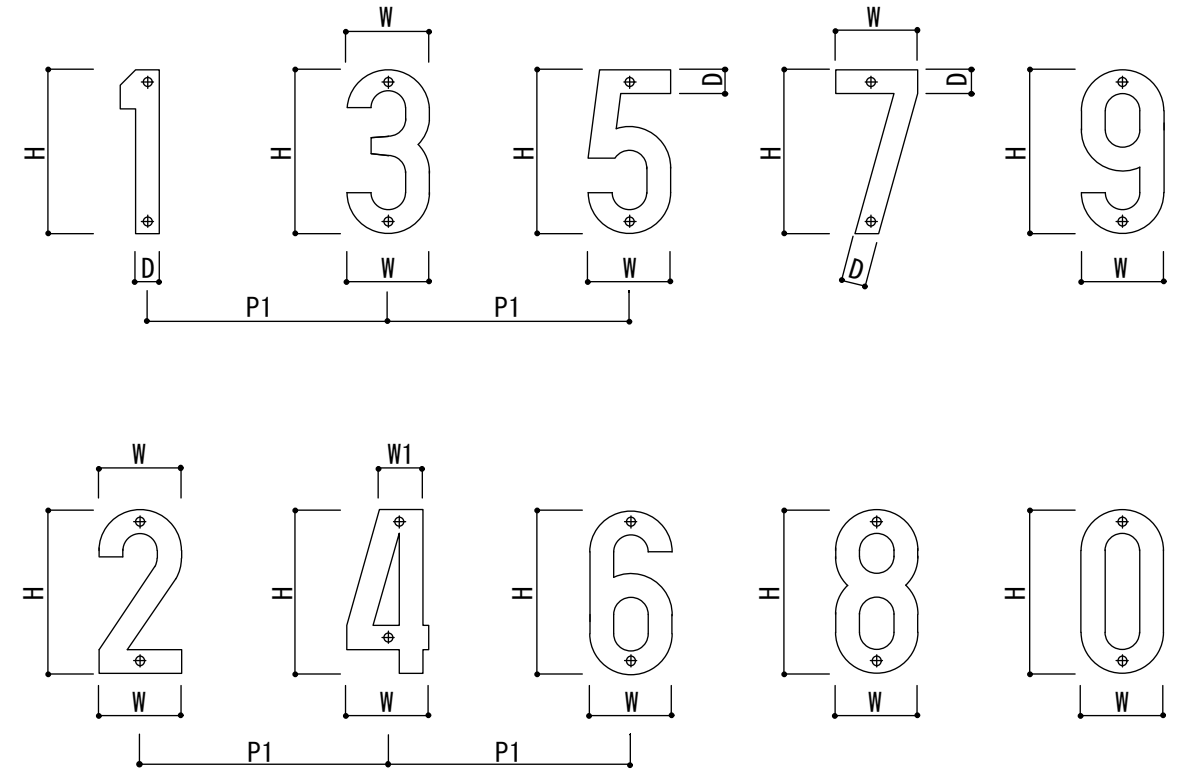
名称	一般室名札板〔型式図〕		
縮尺	1:2	AE - 815	頁 E-95

大型



	大型	中型	小型
W	430	270	165
W1	230	144	88
W2	285	180	120
H	860	540	330
D	125	80	50
P1	480	320	215
P2	190	120	80

中型・小型



【仕様】

- ・ 材質: JIS H 5202 AC4C
- ・ 表面処理はJIS H 8601により、アルミ陽極酸化皮膜9ミクロン以上(9)、耐食性(K2)、耐摩耗性(R2)とし自然発色とする。

【附記事項】

- ・ 取付位置は建物設計図による。
- ・ P1は2桁以上の場合を示す。

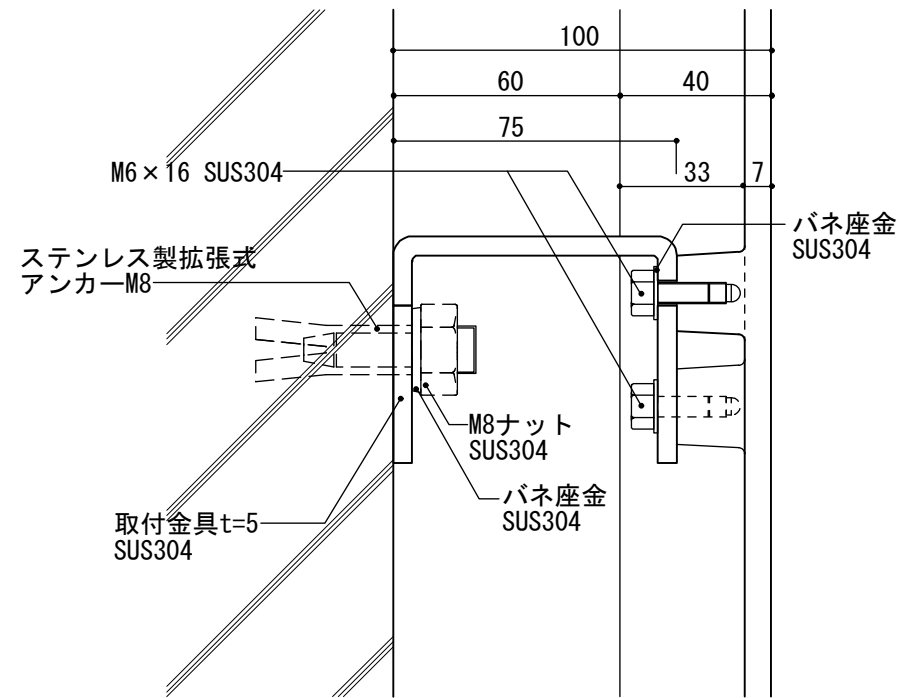
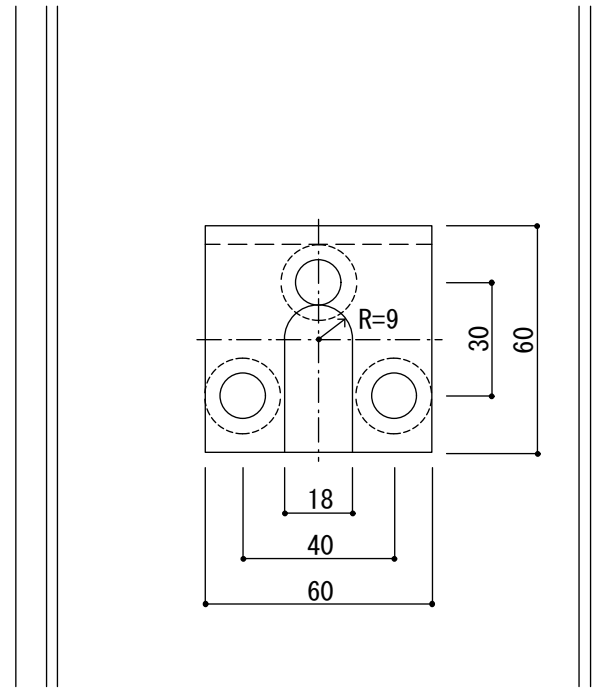
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	アルミ製棟番号標示文字 〔型式図〕		
	縮尺	1 : 25	AE - 816
			頁 E-96

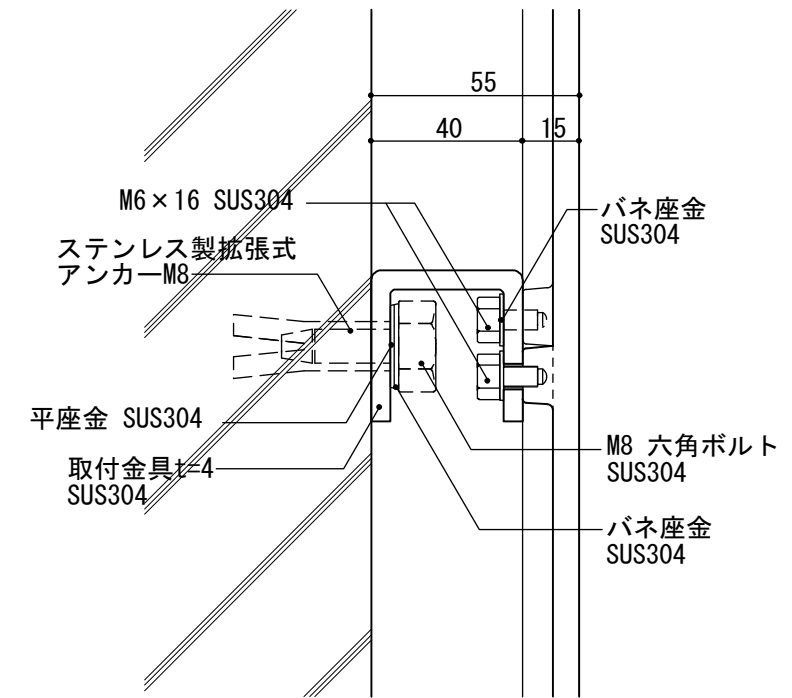
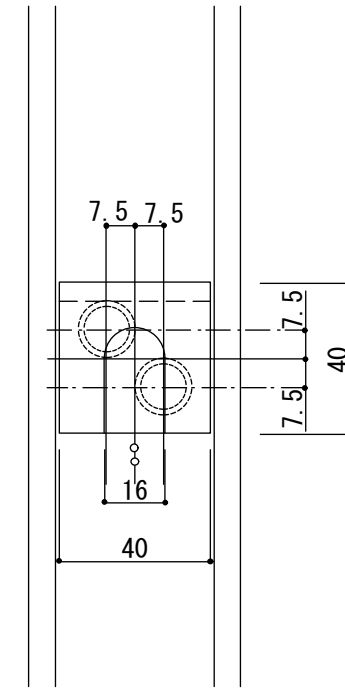
大型・中型



【仕様】

【附記事項】

小型



【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

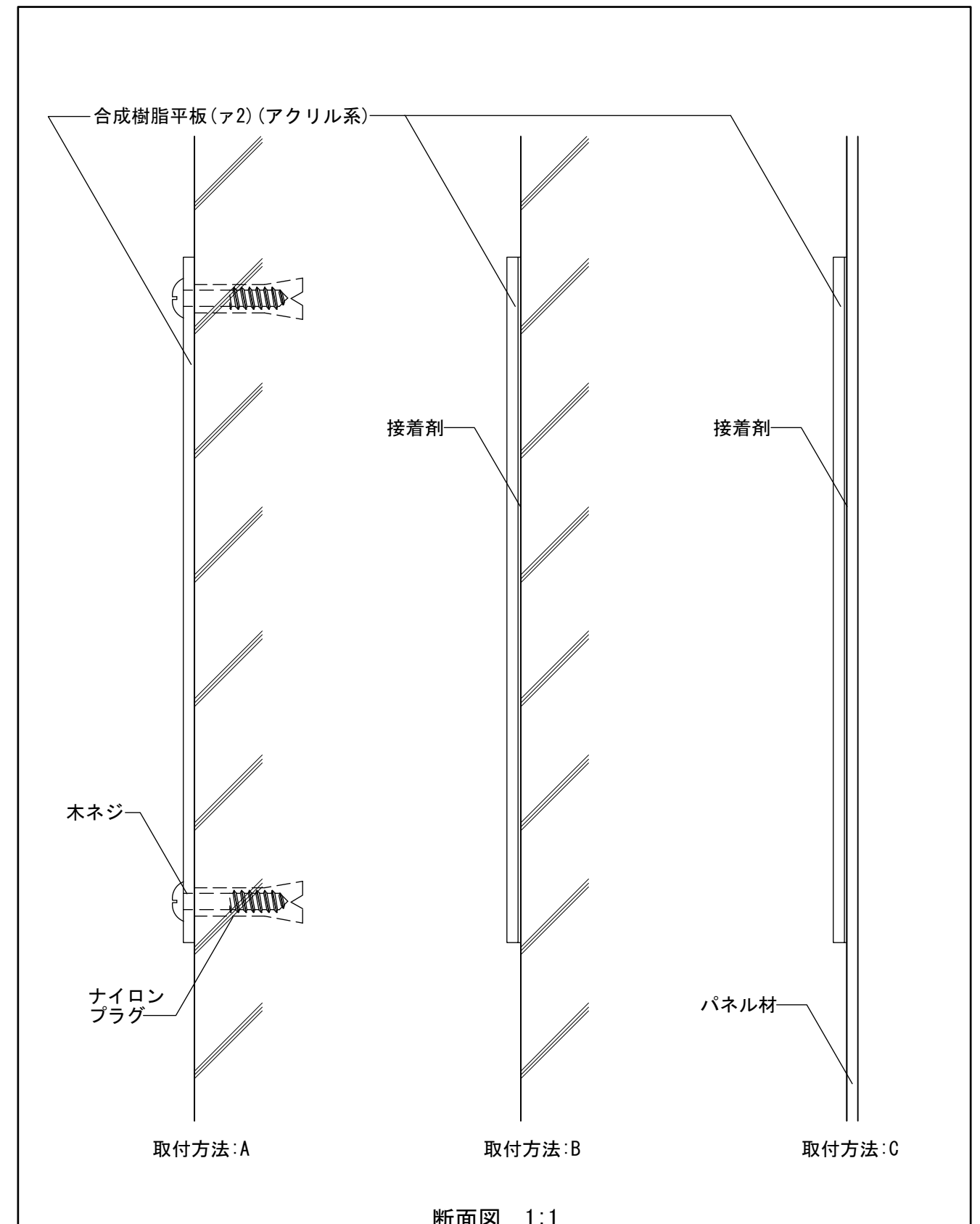
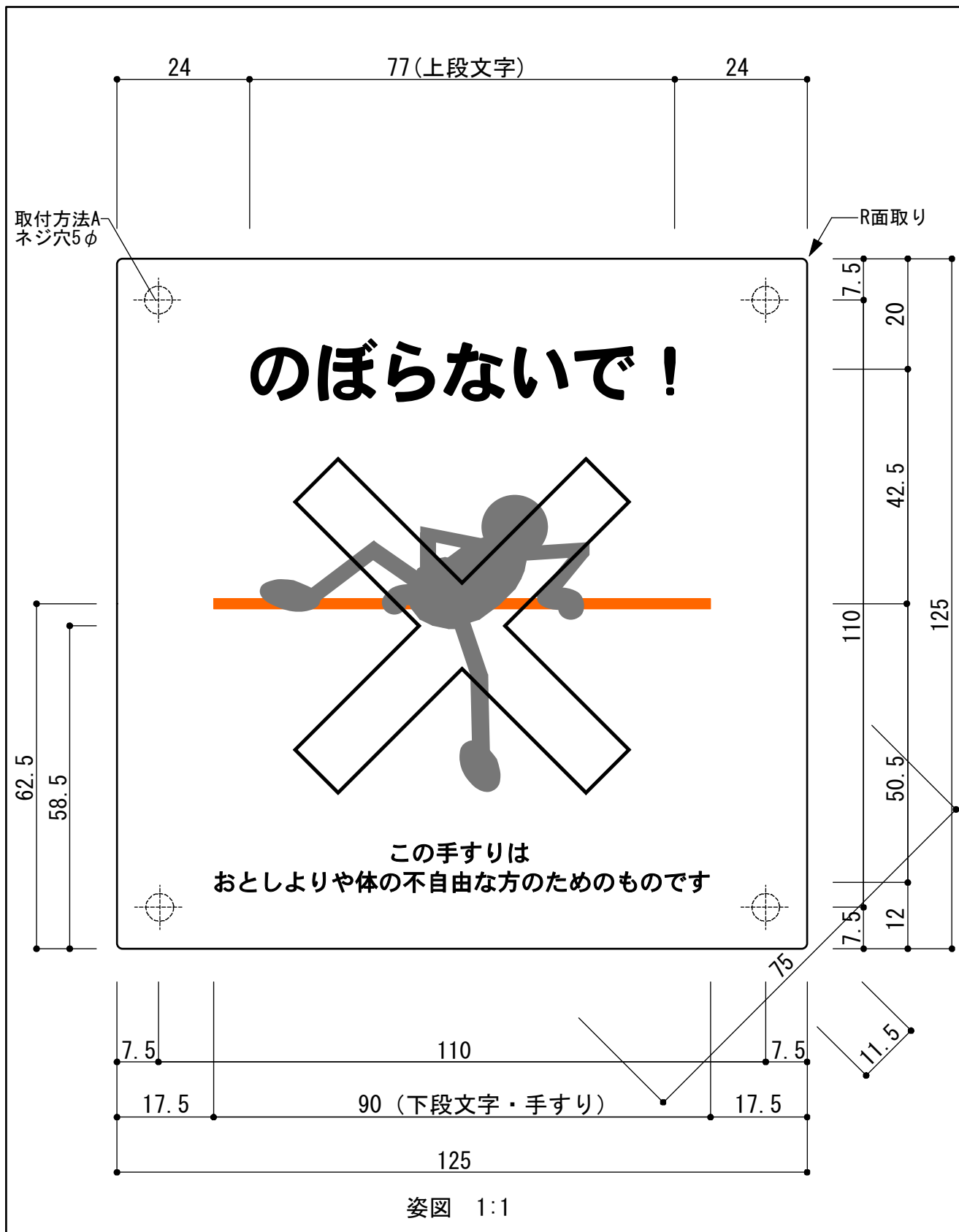
名称 棟番号標示文字取付部  
〔型式図〕

縮尺

1 : 2

AE - 817

頁  
E-97



【仕様】

- ・ 平板:透明(ア2)
- ・ シルク印刷裏刷り
- ・ 色は特記なき限り以下による。  
下地---ホワイト  
人---グレー  
文字・×---ブラック  
手すり---オレンジ
- ・ 図柄は手前より×.人.手すりとする。

- ・ 取付方法  
A:木ネジ工法  
ステンレス丸頭木ネジ4φ  
ナイロンプラグM4  
B・C:接着工法  
無溶剤変成エポキシ系弾性  
接着剤とし、JIS A 5548の  
タイプIIに準ずるものとする。

【附記事項】

- ・ 取付位置、取付方法は建物設計図による。

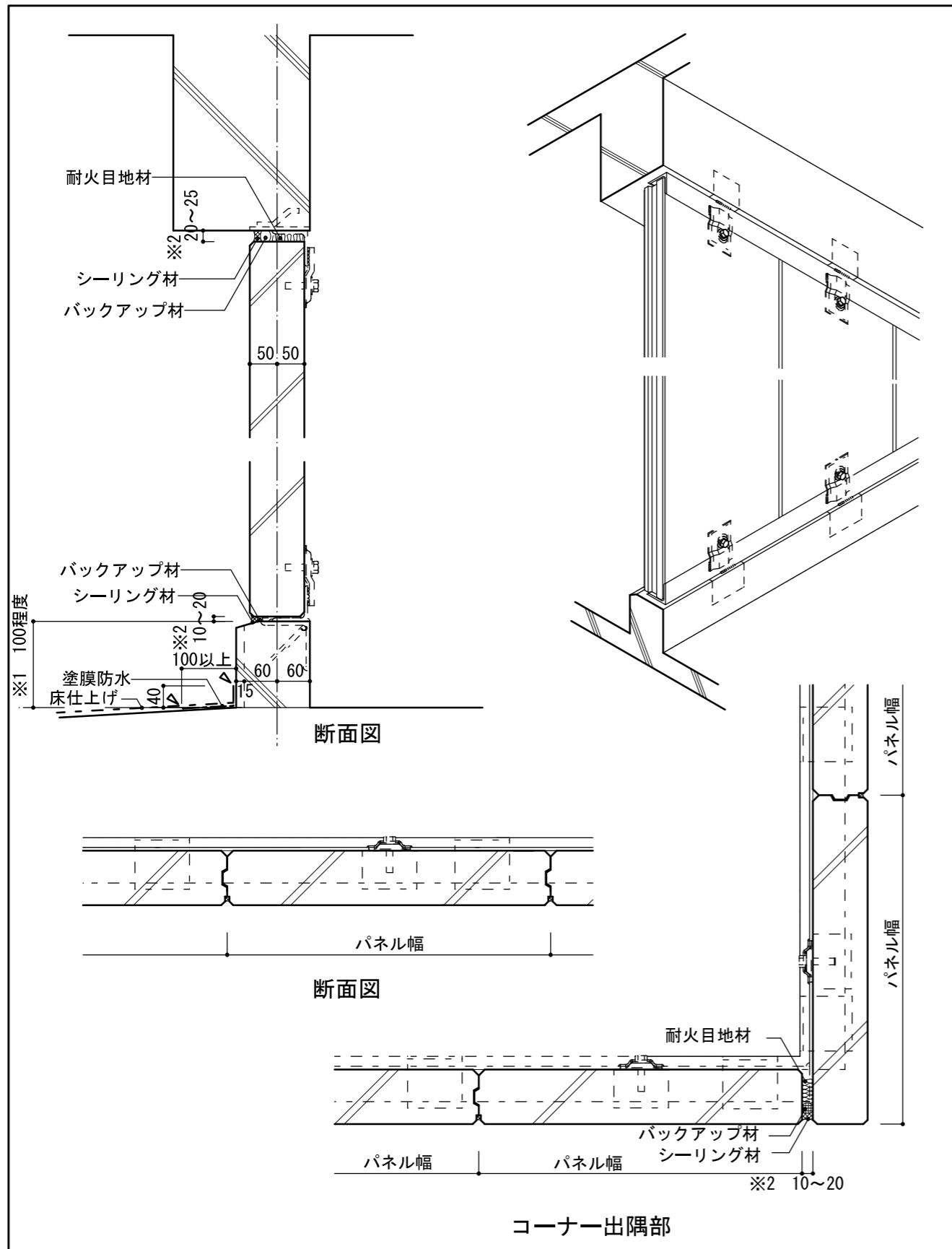
【改訂事項(公団住宅)】

・ 第5版(追)H.16. 8. 1

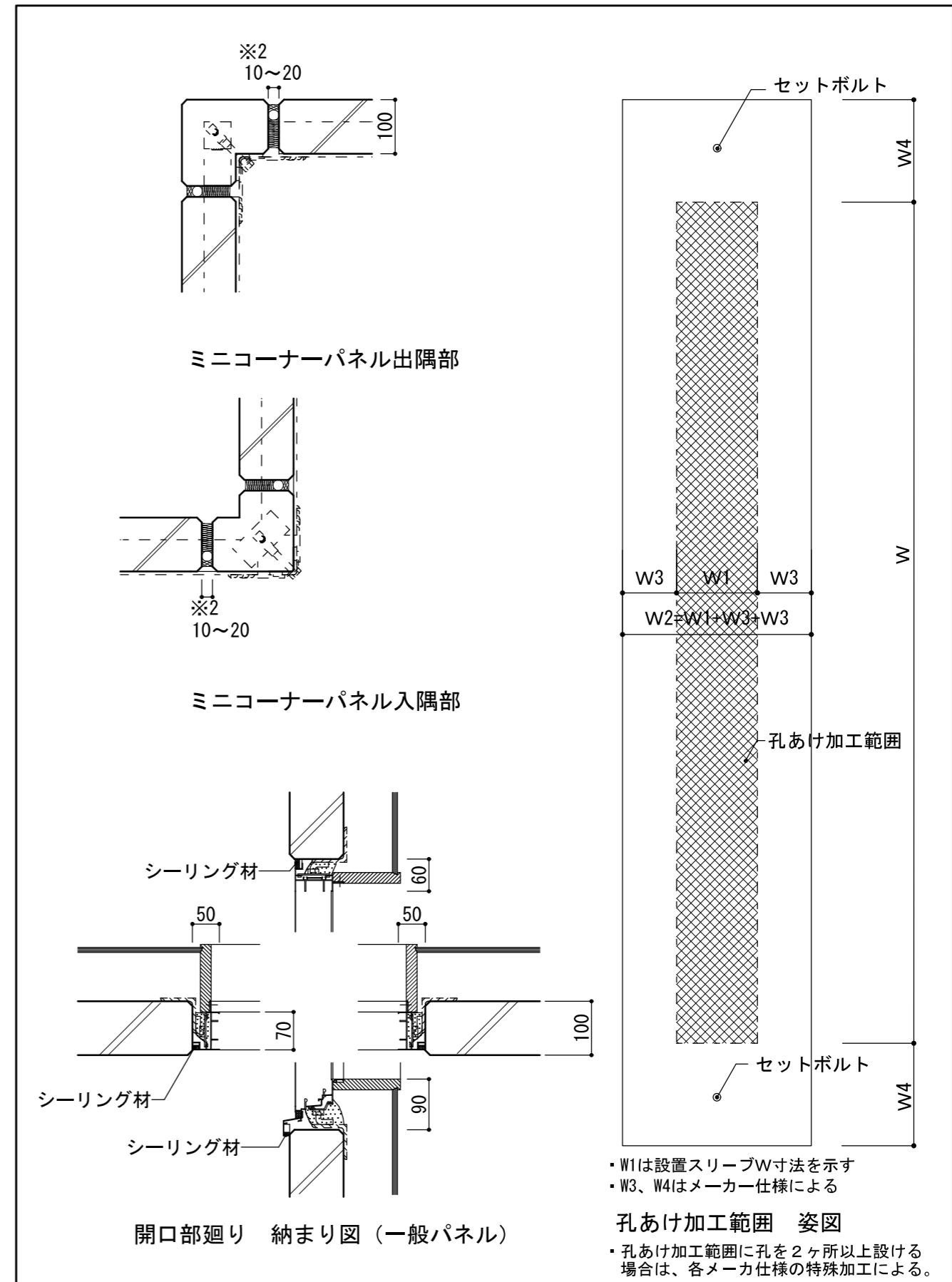
【改訂事項(機構住宅)】

・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	手すり注意表示板 (のぼらないで!)		
縮尺	1:1	AE - 819	頁 E-99



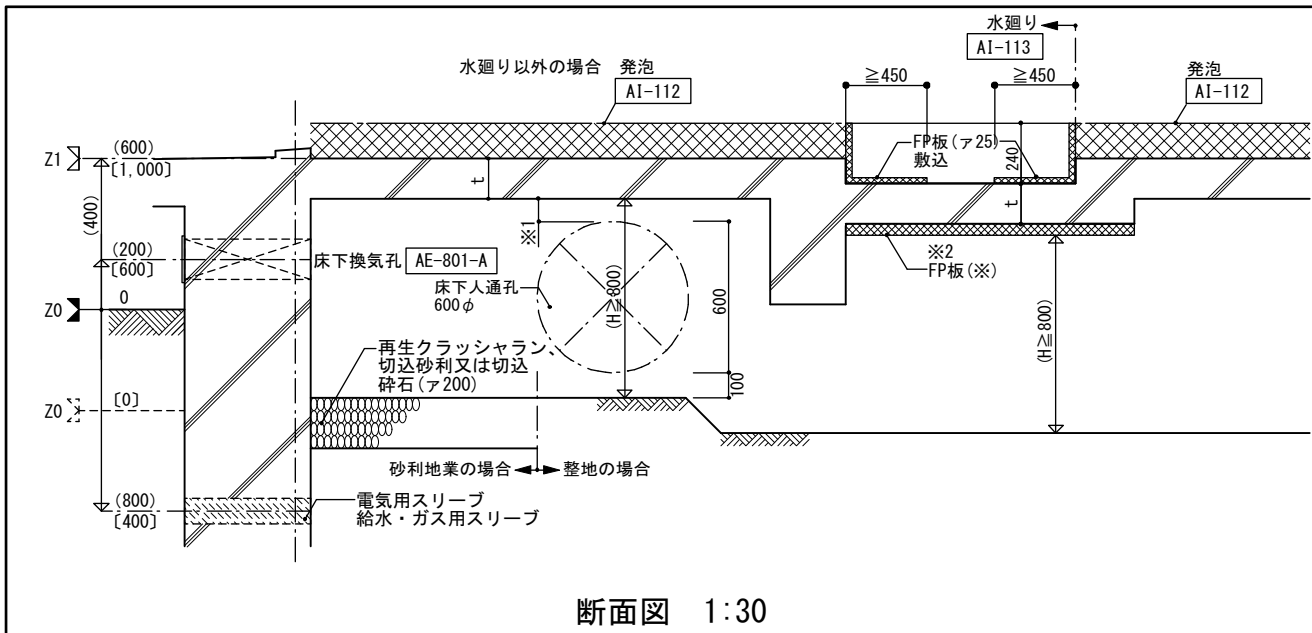
<p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取付金物はメーカー仕様による。</li> <li>・耐火目地材（60分）</li> <li>・※1：建物設計図による。</li> <li>・※2：メーカー仕様による。</li> </ul>	<p>【附記事項】</p>
--	---------------



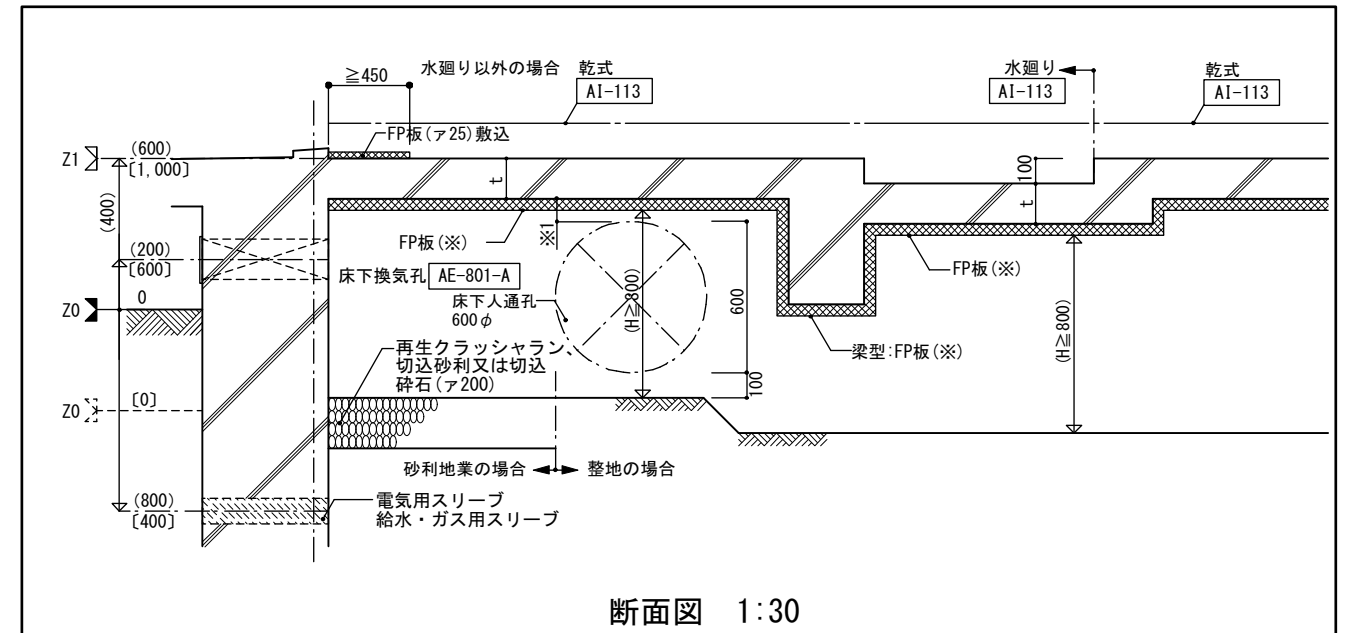
<p>【改訂事項（公団住宅）】</p>	<p>【改訂事項（機構住宅）】 ・第2版4刷 R.5.4.1</p>	<p>名称</p>	<p>A L Cパネル〔型式図〕</p>	
<p>縮尺</p>	<p>1 : 30</p>	<p>AE - 820</p>	<p>頁</p>	<p>E-100</p>



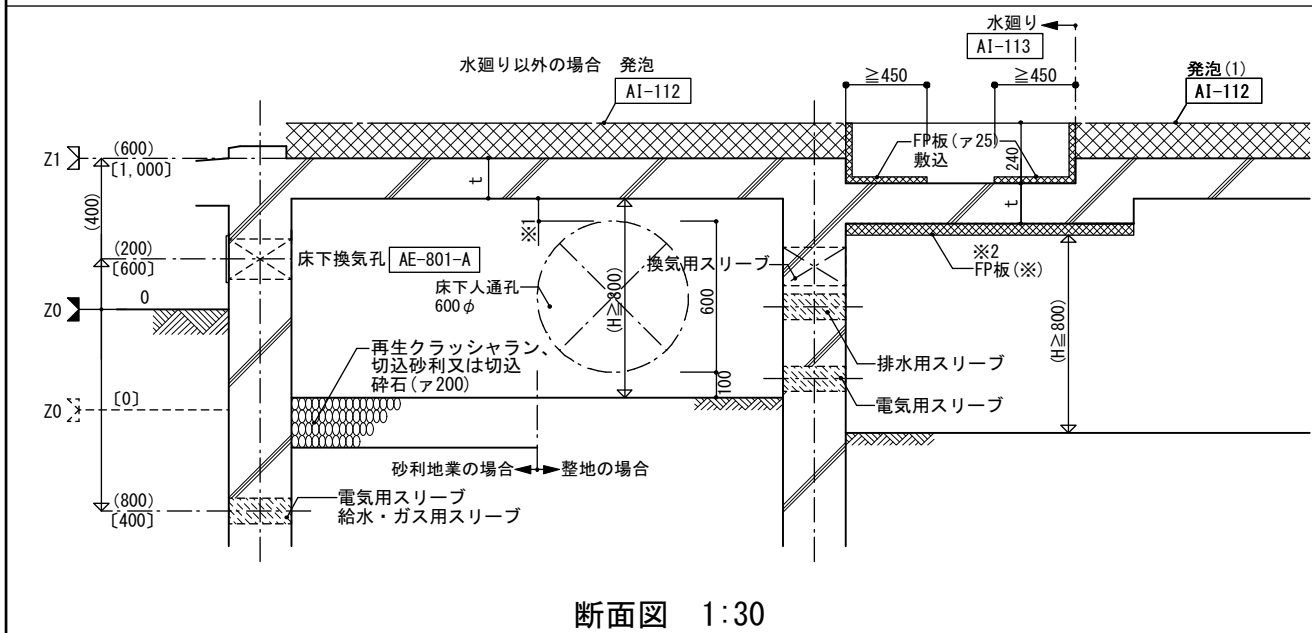
# 建物内部設計図



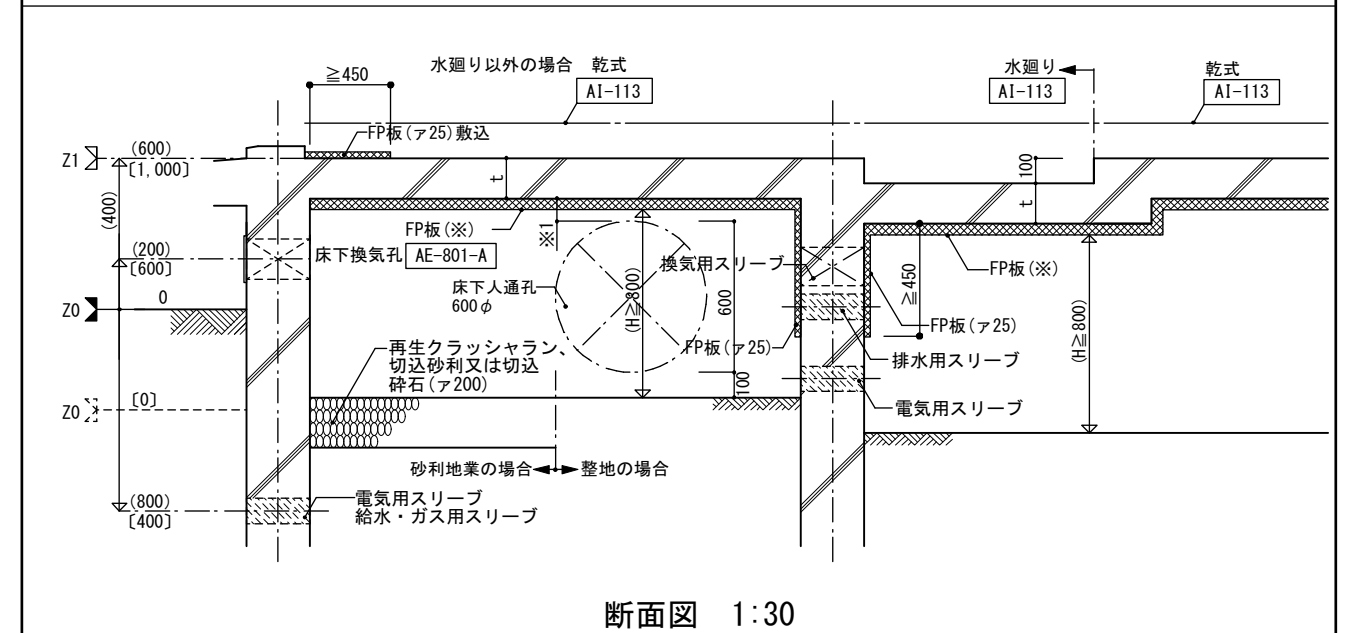
WR・Rコンクリートスラブ Z0+(600又は1,000)の場合



WR・Rコンクリートスラブ Z0+(600又は1,000)の場合



Wコンクリートスラブ Z0+(600又は1,000)の場合



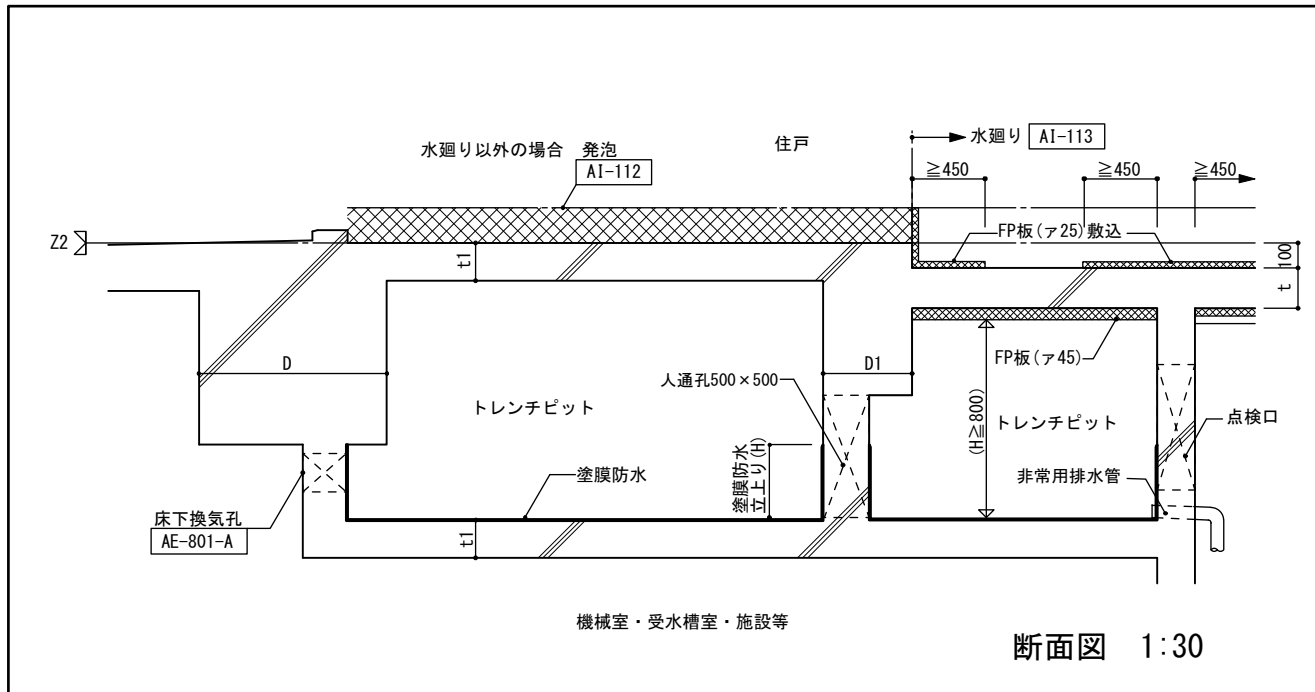
Wコンクリートスラブ Z0+(600又は1,000)の場合

- 【仕様】**
- 床下点検口、人通孔は全ての構造区画に行きわたるように設ける。
  - 床下仕様(砂利地業又は整地)は建物設計図による。
  - 床下人通孔はなるべく耐力壁の下に設ける。
  - スリーブ間隔、水廻りのスラブ段違部は構造と協議の上決定する。
- 【附記事項】**
- t寸法は、建物設計図による。
  - 各スリーブの位置、寸法等は建物設計図による。
  - 床下浸水しない様に地下水位、排水経路を確認。
  - 床下断熱材の施工範囲は建物設計図による。
  - 床下防湿対策を行う場合は建物設計図による。
- 【改訂事項(公団住宅)】**
- 第2版 S. 61. 12. 1
  - 第3版 H. 4. 12. 1
  - 第4版 H. 8. 10. 1
  - 第5版 H. 13. 11. 1
  - 第5版(追)H. 16. 8. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】**
- 第2版 H. 21. 12. 1

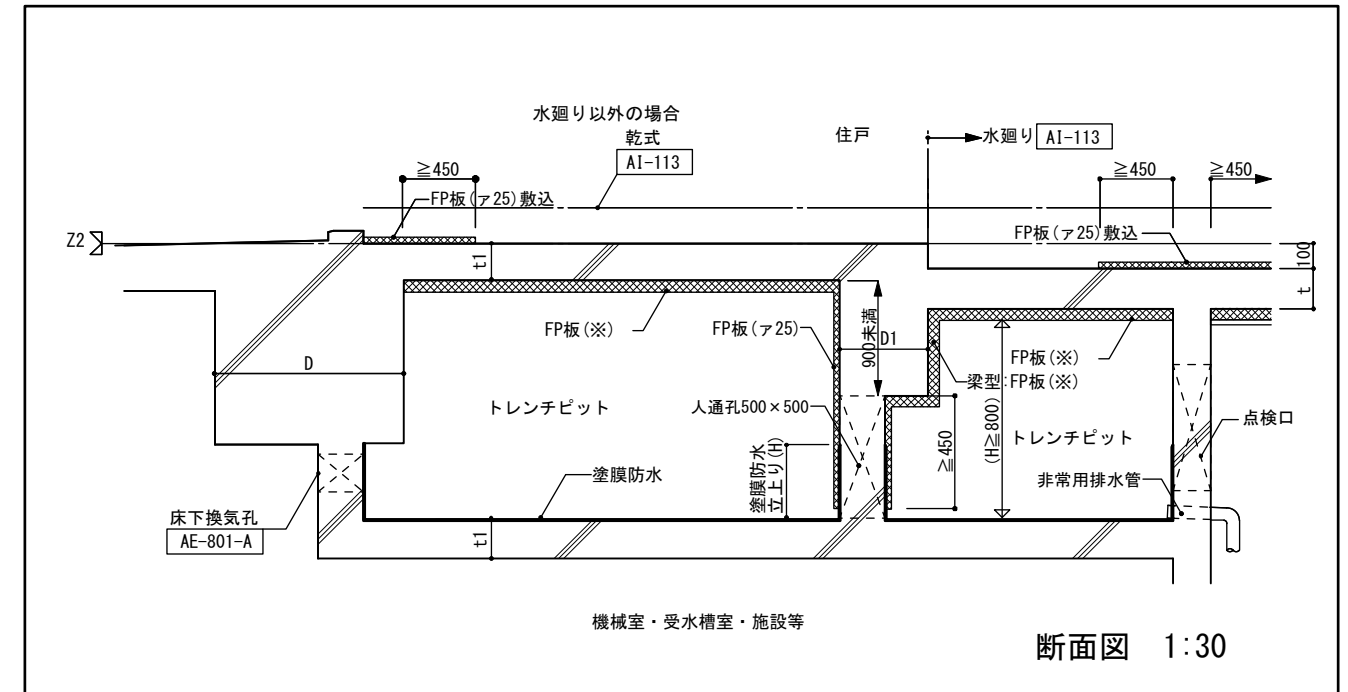
- 【仕様】**
- 床下点検口、人通孔は全ての構造区画に行きわたるように設ける。
  - 床下仕様(砂利地業又は整地)は建物設計図による。
  - 床下人通孔はなるべく耐力壁の下に設ける。
  - スリーブ間隔、水廻りのスラブ段違部は構造と協議の上決定する。
- 【附記事項】**
- t寸法は、建物設計図による。
  - 各スリーブの位置、寸法等は建物設計図による。
  - 床下浸水しない様に地下水位、排水経路を確認。
  - 床下断熱材の施工範囲は建物設計図による。
  - 床下防湿対策を行う場合は建物設計図による。
- 【改訂事項(公団住宅)】**
- 第2版 S. 61. 12. 1
  - 第3版 H. 4. 12. 1
  - 第4版 H. 8. 10. 1
  - 第5版 H. 13. 11. 1
  - 第5版(追)H. 16. 8. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】**
- 第2版 H. 21. 12. 1

名称	1階床下廻り (発泡プラスチック系床下地材の場合)		
	縮尺	1:30	AI-101-1
頁	I-1		

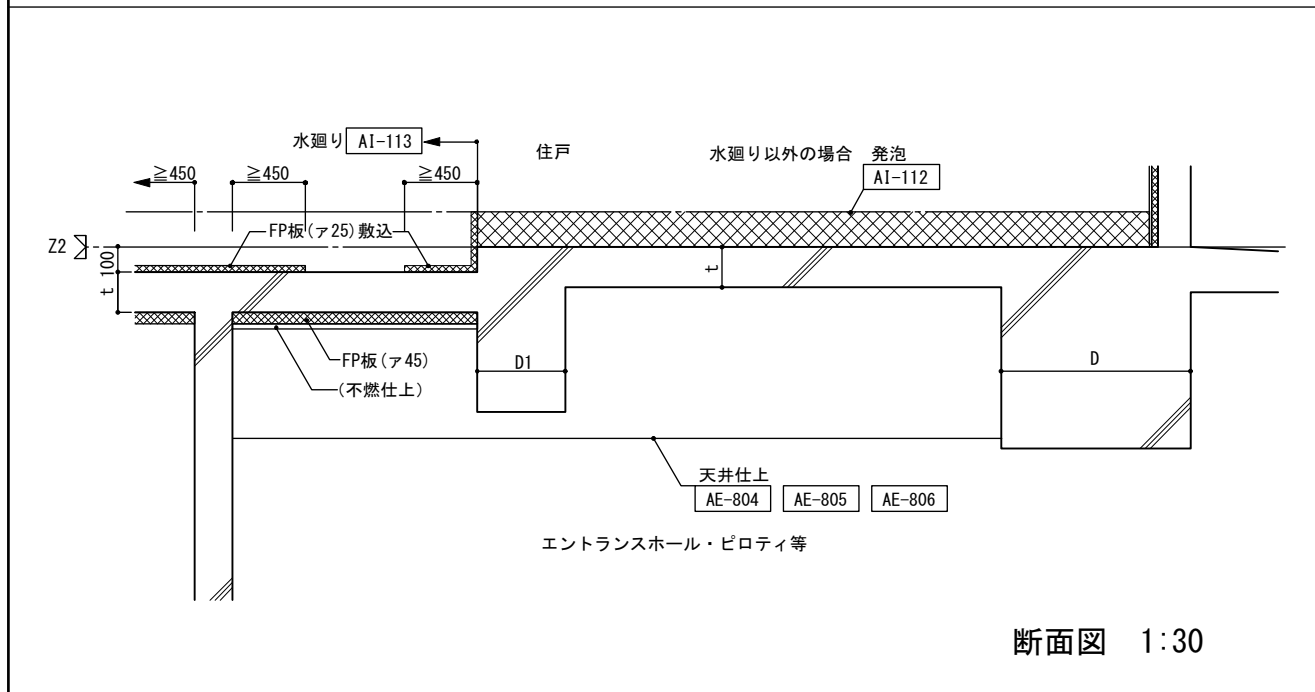
名称	1階床下廻り (乾式遮音二重床工法の場合)		
	縮尺	1:30	AI-101-2
頁	I-2		



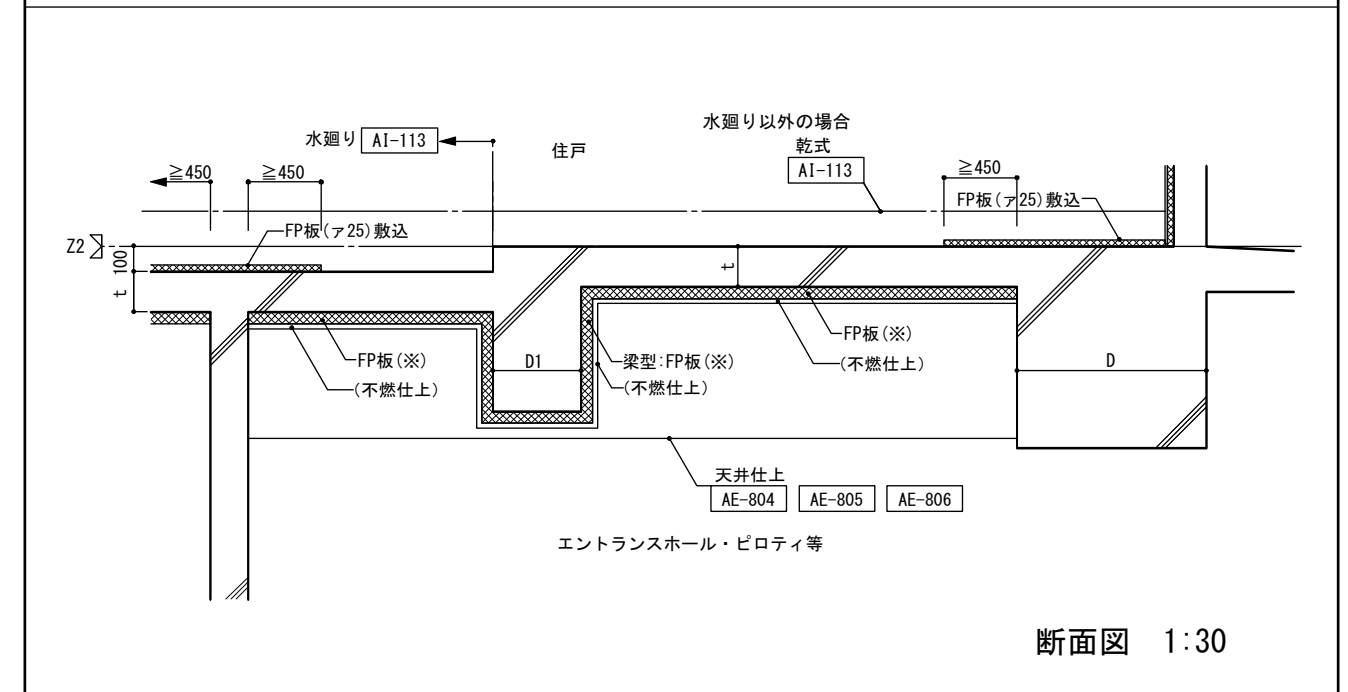
床下二重ピットの場合



床下二重ピットの場合



床下二重天井の場合



床下二重天井の場合

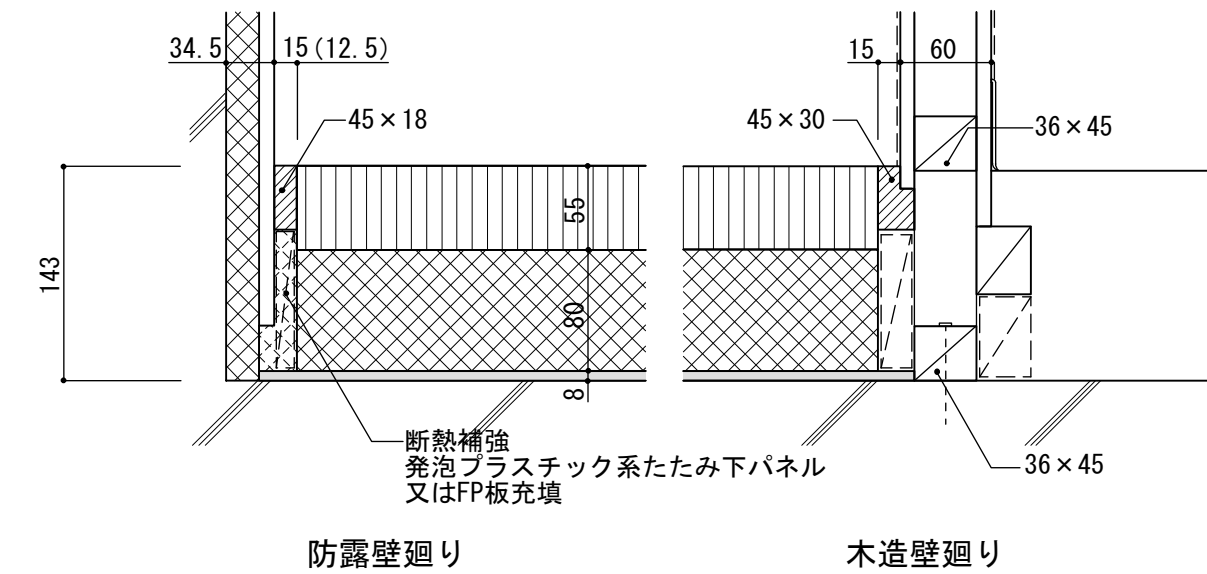
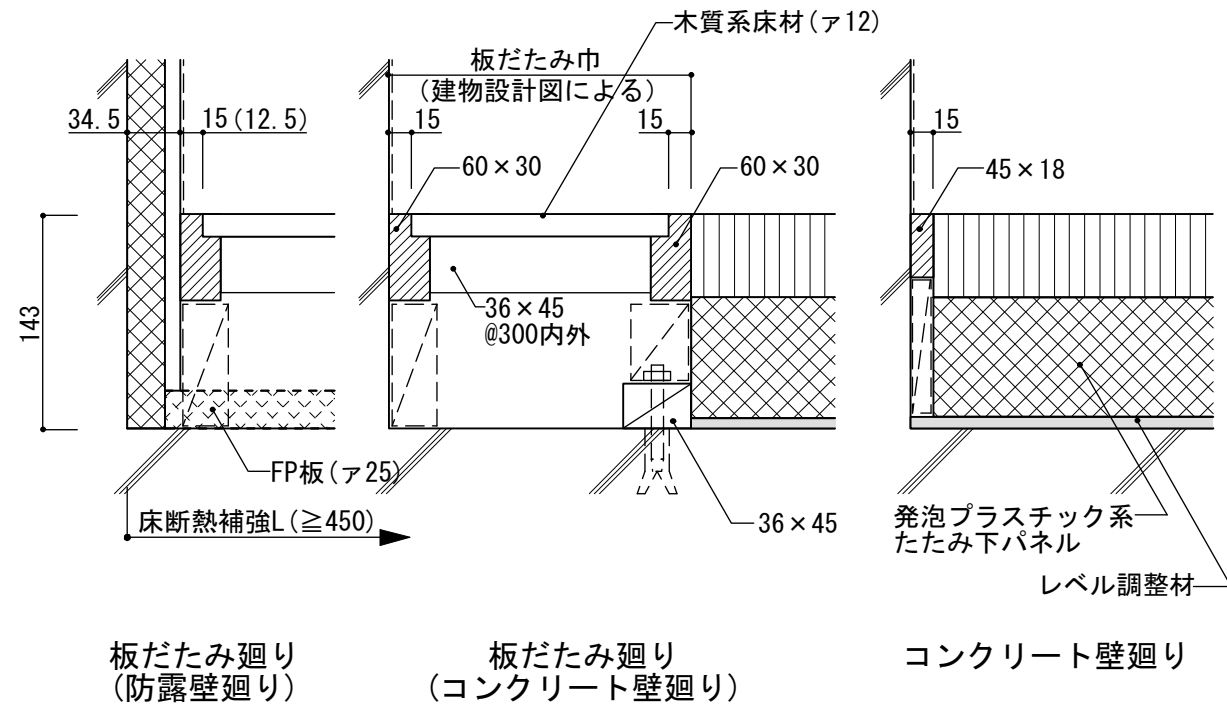
<p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発砲プラスチック系床下地材のない範囲の最下階住戸のスラブ下には、外断熱を行う。</li> </ul>	<p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・D, D1, t, t1寸法は、建物設計図による。</li> <li>・塗膜防水立上り(H)は、建物設計図による。</li> <li>・各スリーブの位置、寸法等は建物設計図による。</li> <li>・床下断熱材の施工範囲は建物設計図による。</li> <li>・床下断熱材の不燃化処理は建物設計図による。</li> </ul>
---	---

<p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最下階住戸のスラブ下には、外断熱を行う。</li> </ul>	<p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・D, D1, t, t1寸法は、建物設計図による。</li> <li>・塗膜防水立上り(H)は、建物設計図による。</li> <li>・各スリーブの位置、寸法等は建物設計図による。</li> <li>・床下断熱材の施工範囲は建物設計図による。</li> <li>・床下断熱材の不燃化処理は建物設計図による。</li> </ul>
--	---

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>・第5版 H. 13. 11. 1</li> <li>・第5版(追)H. 16. 8. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p>	<p>2階床トレンチピット等廻り (发泡プラスチック系床下地材の場合)</p>	<p>縮尺</p>	<p>1 : 30</p>	<p>AI - 102 - 1</p>	<p>頁</p>	<p>I-3</p>
--	--	-----------	---	-----------	---------------	---------------------	----------	------------

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5版(追)H. 16. 8. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p>	<p>2階床トレンチピット等廻り (乾式遮音二重床工法の場合)</p>	<p>縮尺</p>	<p>1 : 30</p>	<p>AI - 102 - 2</p>	<p>頁</p>	<p>I-4</p>
---	--	-----------	---	-----------	---------------	---------------------	----------	------------

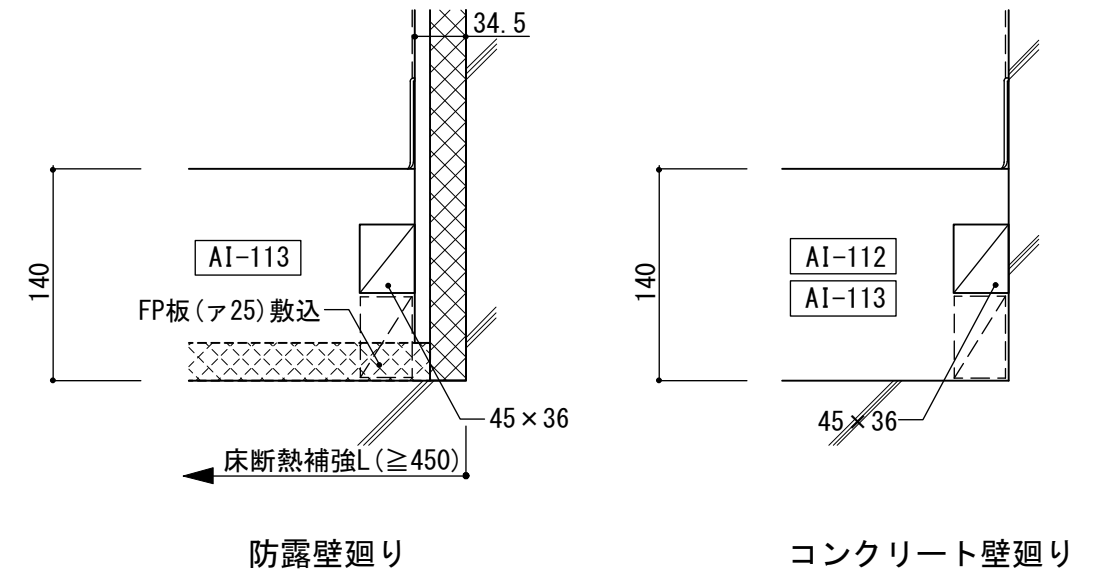
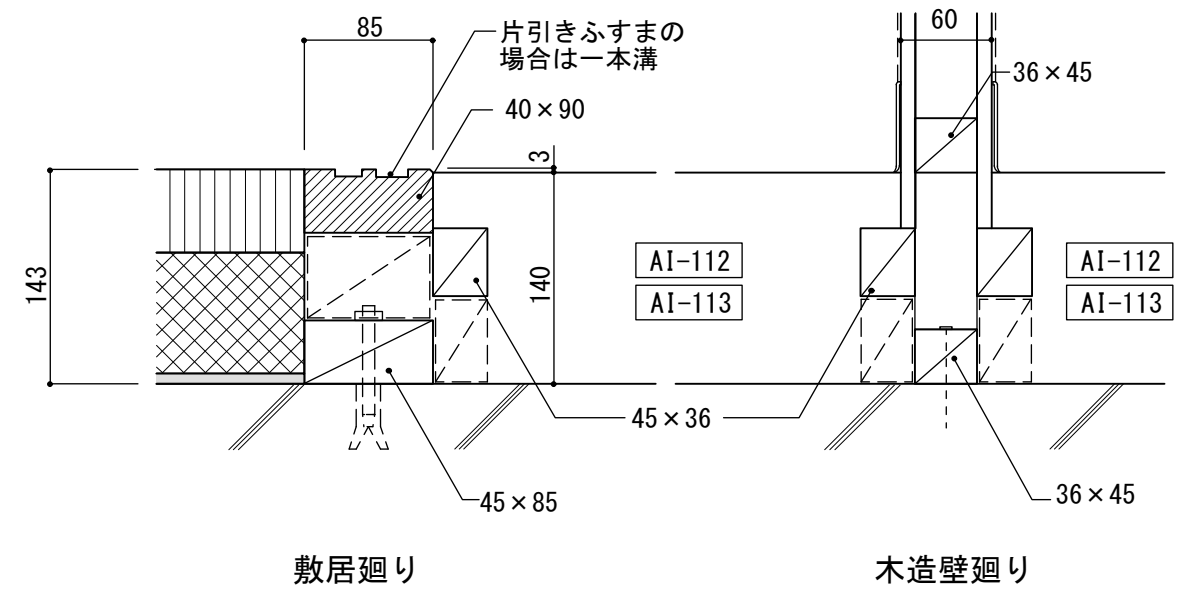
たたみ床廻り



【仕様】  
・たたみ下パネル用セメント系レベル調整材は空ねりモルタル又はモルタルとし詳細は製造所の仕様による。  
・脚固めの止め付けは鋼製拡張式アンカーM8 @900内外とする。

【附記事項】  
・板たたみ巾は建物設計図による。  
・( )内寸法はサッシ下枠と連続する場合を示す。  
・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)

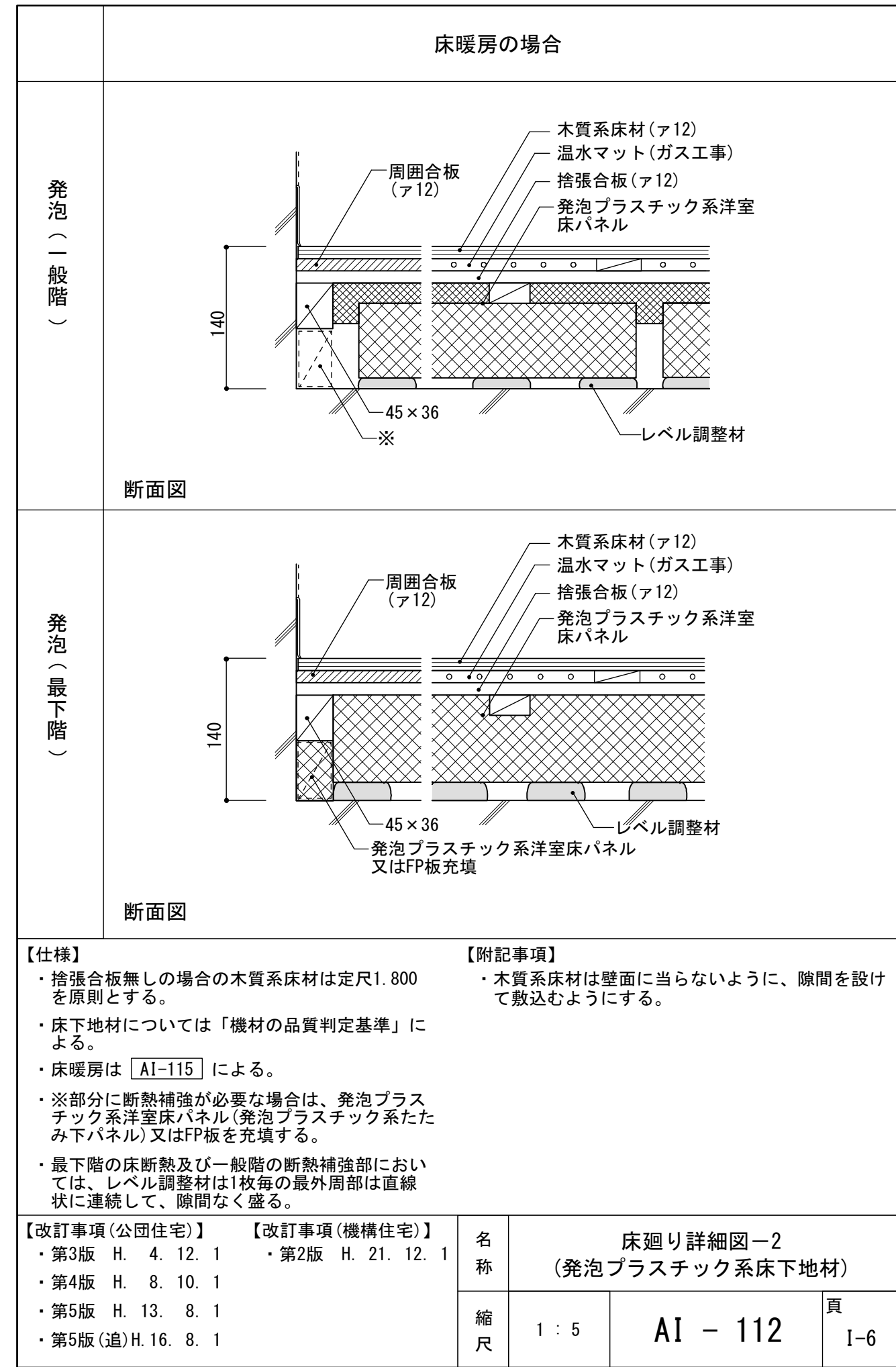
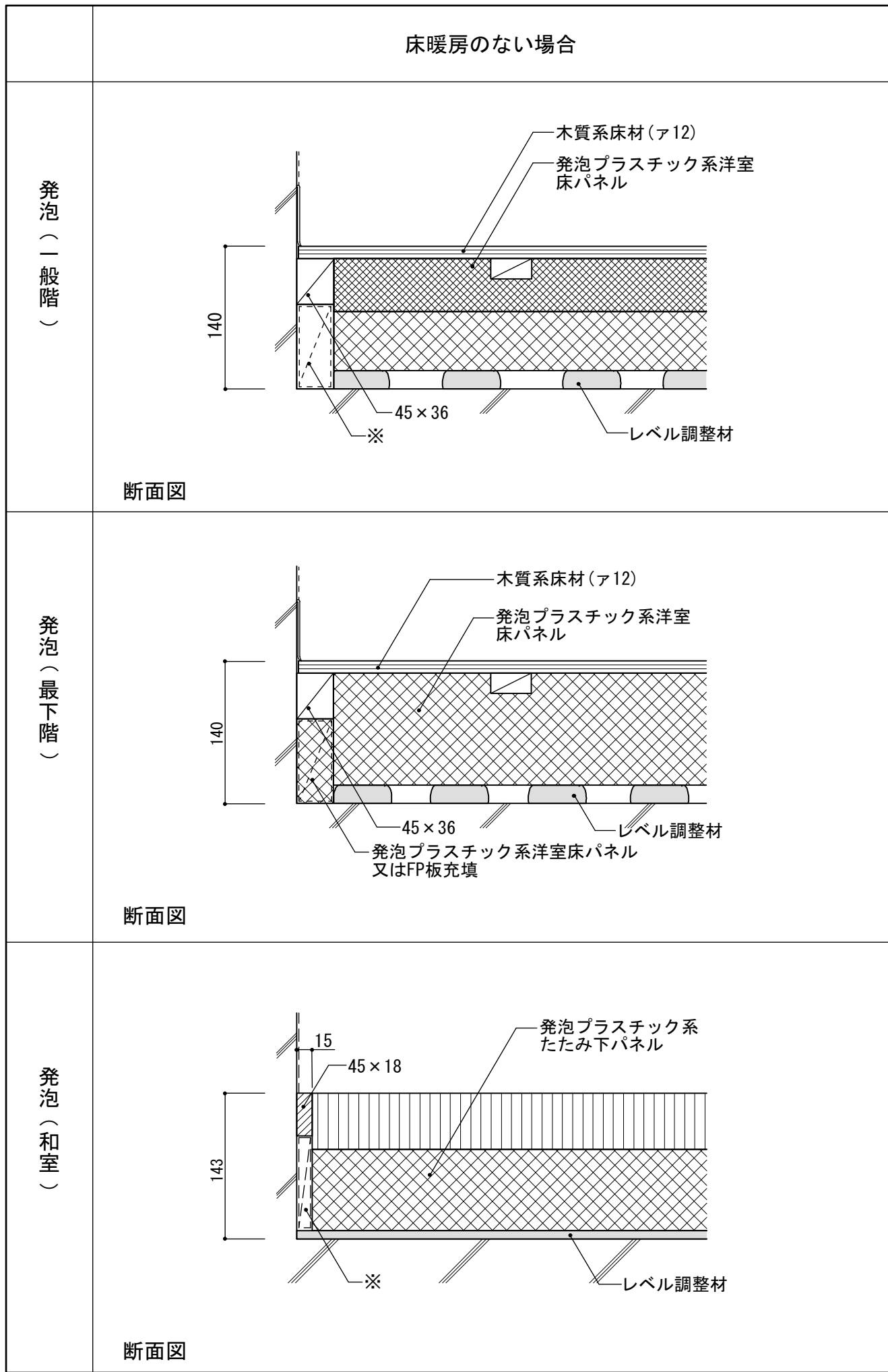
木質系床廻り



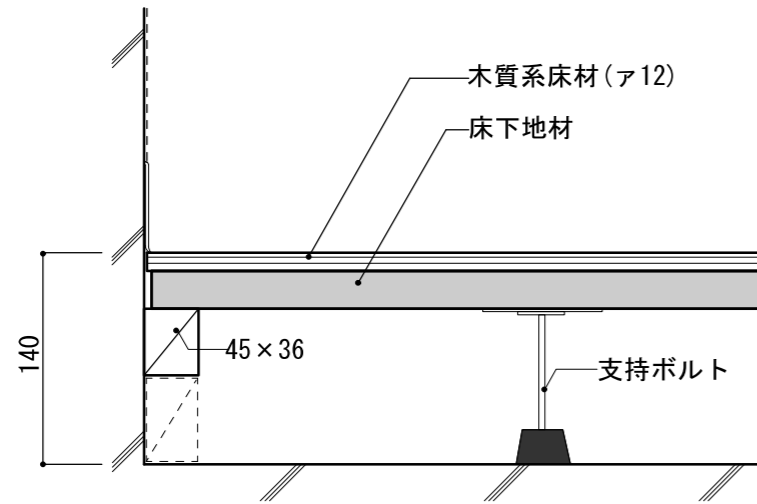
【改訂事項(公団住宅)】  
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1  
・第5版 H. 13. 11. 1  
・第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	床廻り詳細図-1		
縮尺	1:5	AI-111	頁 I-5

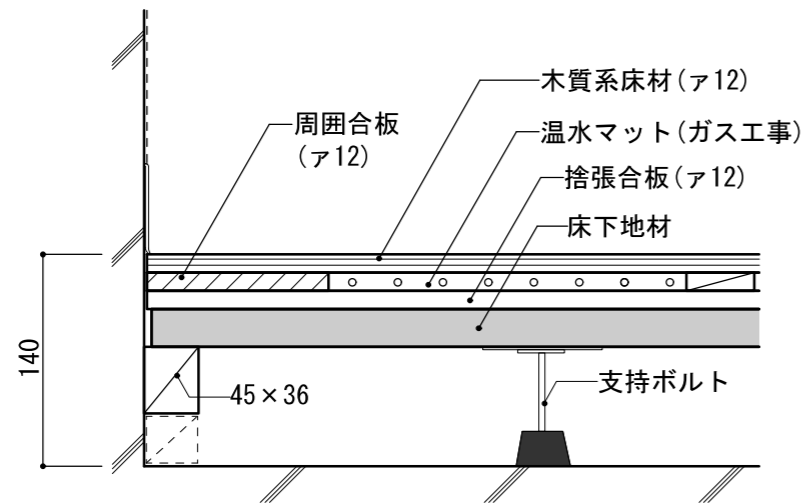


居室・廊下部分



断面図

床暖房部分



断面図

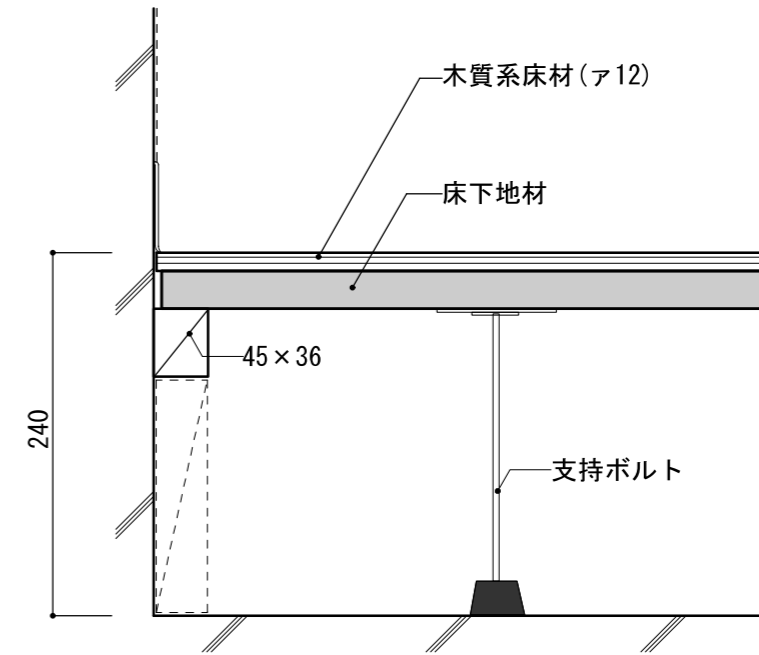
【仕様】

- ・最下階住戸に乾式遮音二重床工法を使用する場合はスラブ下に外断熱を行う。
- ・床下地材については「機材の品質判定基準」による。
- ・断熱材の種類は特記による。特記が無ければ種類は「公共住宅建設工事共通仕様書」19.9.4(1)による。
- ・床暖房は AI-115 による。

【附記事項】

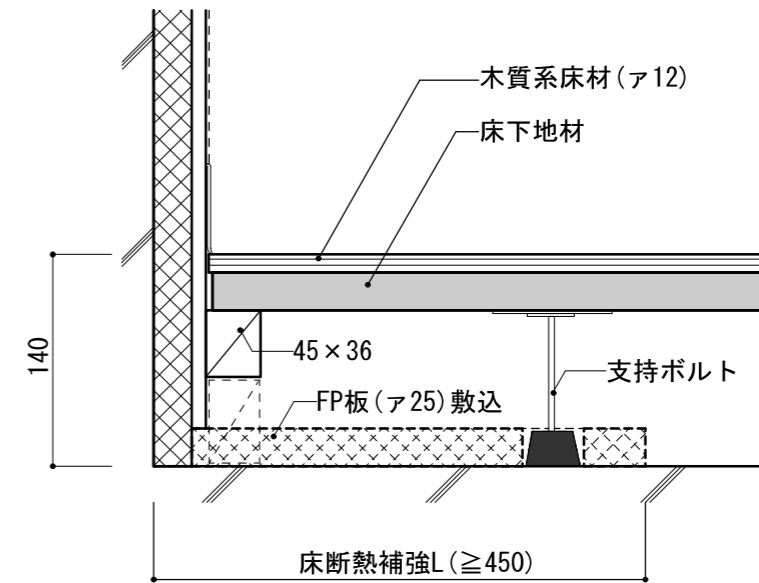
- ・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
- ・木質系床材は壁面に当たらないように、隙間を設けて敷込むようにする。

水廻り部分



断面図

床断熱補強廻り



断面図

【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】

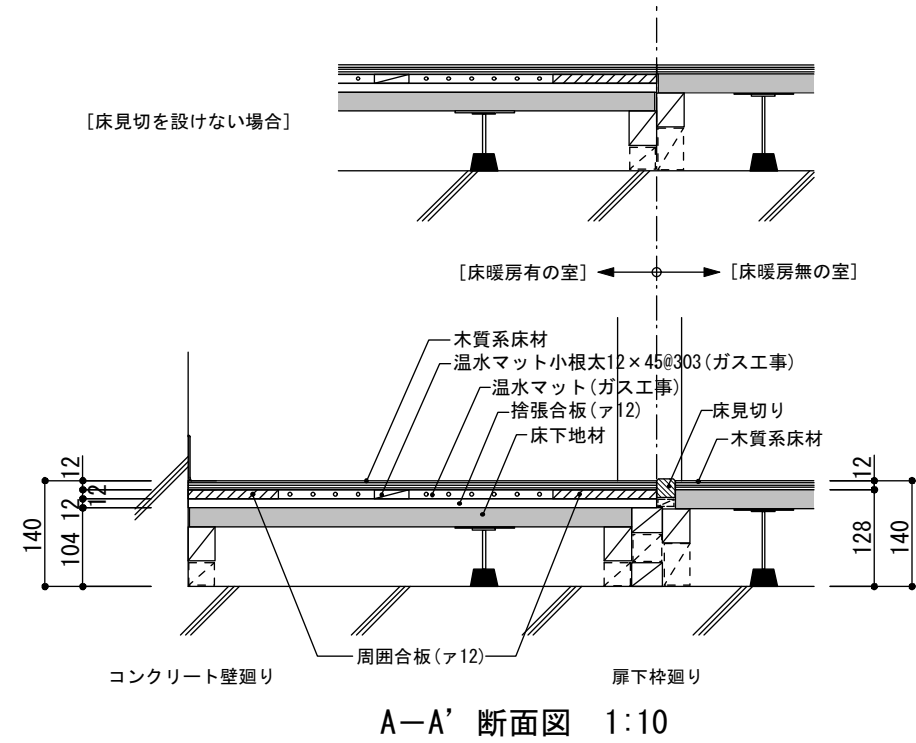
- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	床廻り詳細図-3 (乾式遮音二重床工法床下地材)		
	縮尺	1:5	AI - 113
頁			1-7

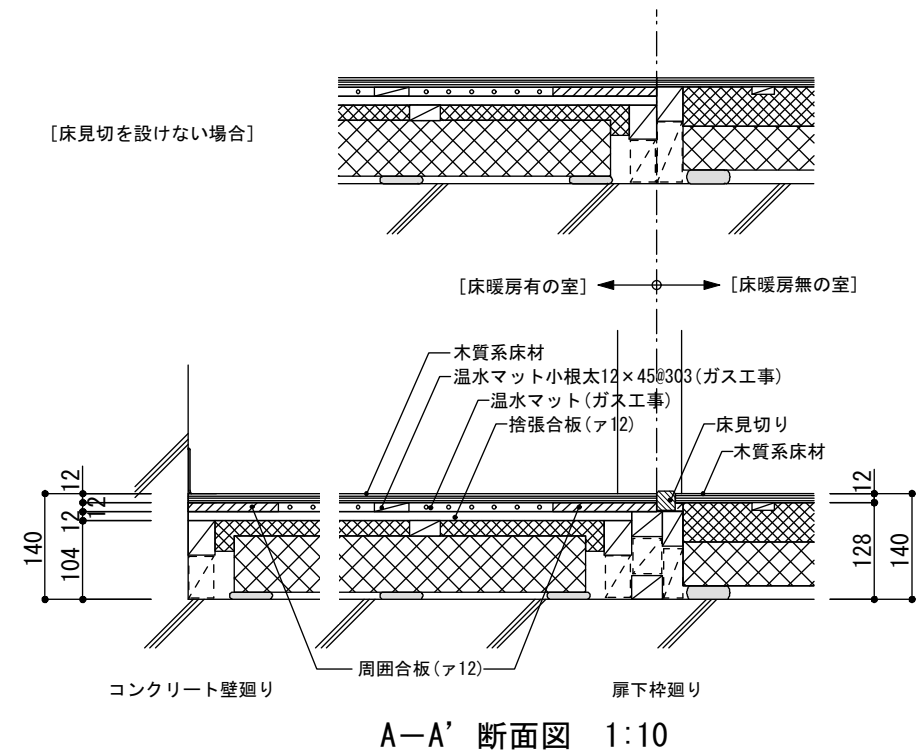
配管分離	
現場カットで納める	
和室	
洋室（基準階）	
洋室（最下階）	
<p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金属管の場合は、モルタルが配管に接触しても良いように、防錆処理をする。</li> <li>プラスチック製CD管（サヤ管）の場合は、CD管上に直にモルタルを置く。</li> <li>配管は、パネルの棧方向と直行に交わる方向（フローリングの長手方向に一致する方向）に配管するのが好ましい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>現場カットで納める場合は、配管及び止め具との間隔が10mm以上になるようにパネル発泡部分を切り欠く。また、床強度確保及び床キシミ防止のため、製造所の標準仕様により補強する。</li> <li>ヘッダー周辺部等で配管が集中しやむをえず、標準納まりによることが出来ない箇所は、製造所の仕様により補強する。</li> </ul>	

配管集中（配管が多い場合はできるだけまとめる）											
壁際に配管スペースを設ける		現場カットで納める									
和室											
洋室（基準階）											
洋室（最下階）											
<p><b>【附記事項】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th colspan="3">スラブ上配管スペース（発泡プラスチック系パネル）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>縮尺</td> <td>1:5</td> <td>AI - 114</td> <td>頁 I-8</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【改訂事項（公団住宅）】</b>          ・第2版 S. 61. 12. 1          ・第3版 H. 4. 12. 1          ・第4版 H. 8. 10. 1          ・第5版 H. 13. 11. 1</p> <p><b>【改訂事項（機構住宅）】</b></p>				名称	スラブ上配管スペース（発泡プラスチック系パネル）			縮尺	1:5	AI - 114	頁 I-8
名称	スラブ上配管スペース（発泡プラスチック系パネル）										
縮尺	1:5	AI - 114	頁 I-8								

乾式遮音二重床工法床下地材の場合

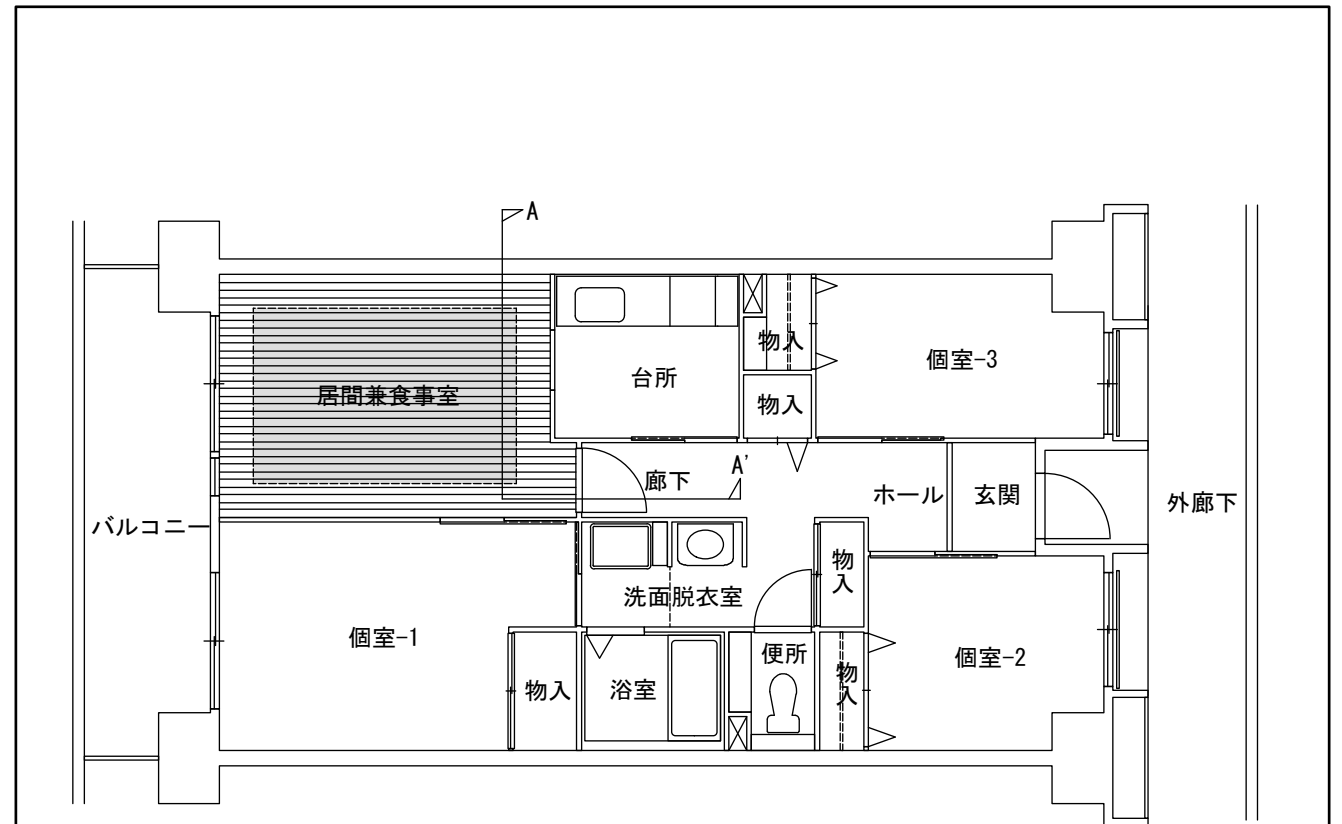


発泡プラスチック系床下地材の場合

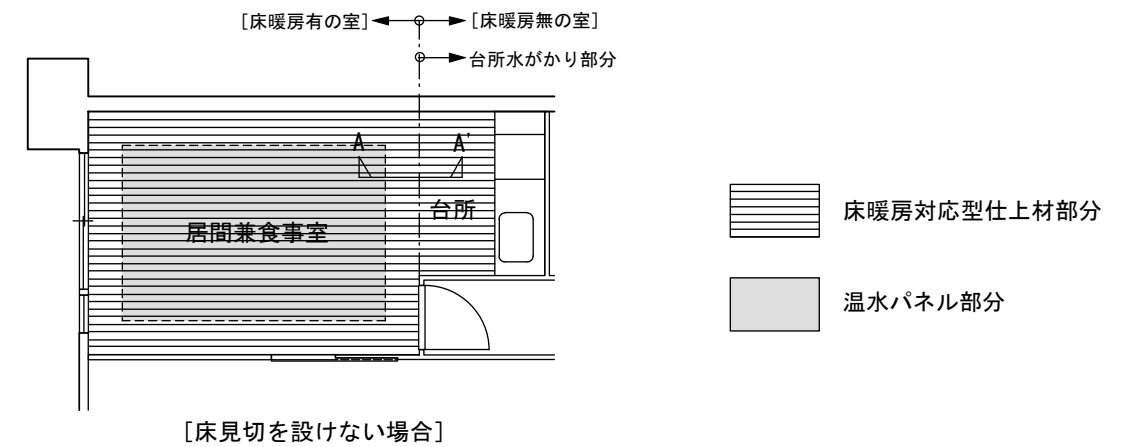


【仕様】

- ・温水床暖房採用室と廊下その他の室とは扉下枠見切り、床仕上が連続しないようにする。
- ・温水パネル小根太方向とフローリング貼方向が直行するよう、パネル位置、方向等について十分に検討する。
- ・家具配置、住まい方等を十分に検討した上でパネル位置を設定する。又温水床暖房(温水パネル)の設置範囲は平面詳細図等に明記する。
- ・床暖房を設置する室の仕上材は床暖房対応型で指定された物を使用する。
- ・暖房配管の立ち上がり開口穴開け工事は建築工事とする。
- ・床仕上げ材の釘打ち、接着剤については、ガス事業者認定メーカーの仕様による。
- ・扉下枠廻りは AI-151 による。



温水床暖房設置範囲(例)



【附記事項】

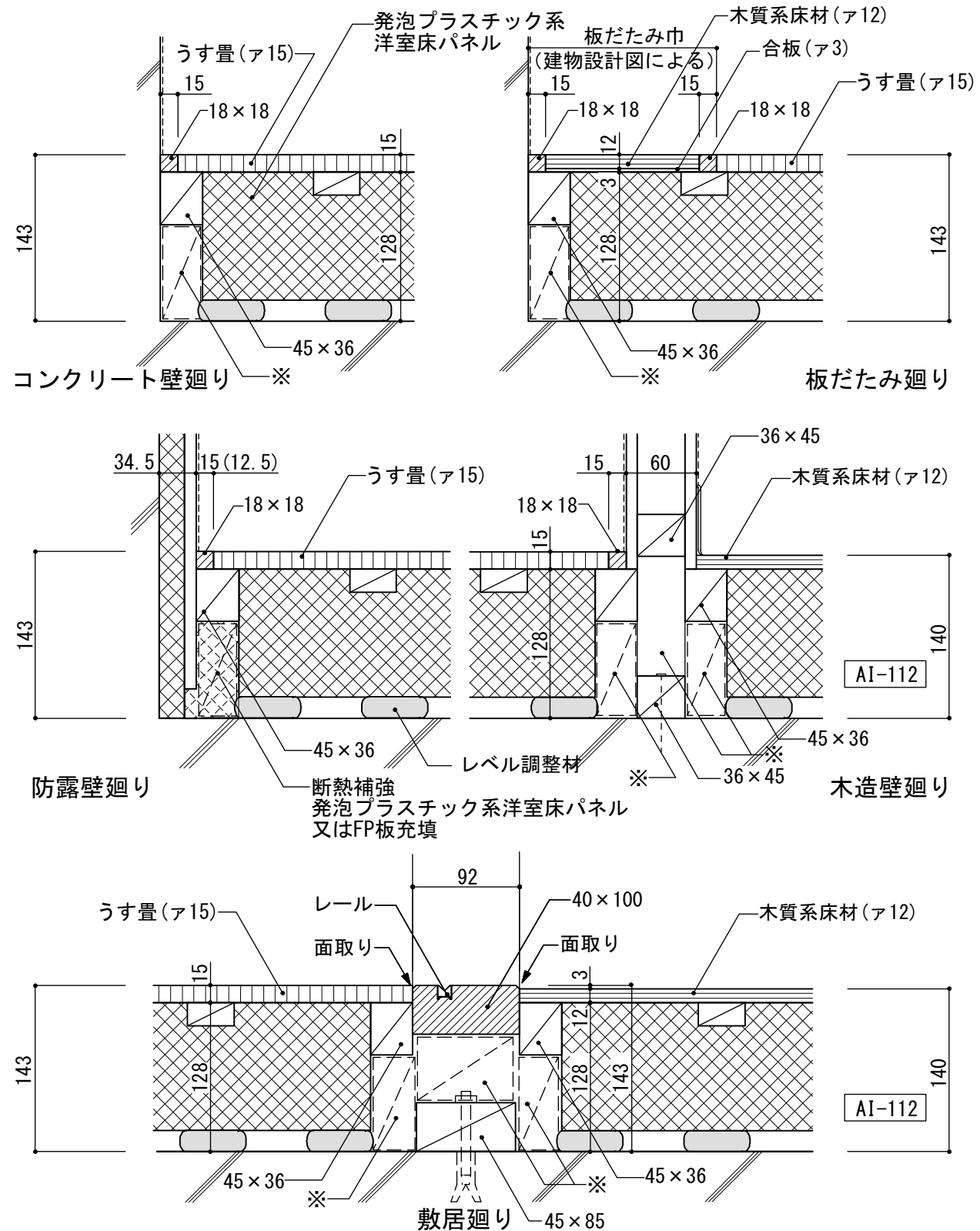
【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】

名称	温水床暖房用床廻り		
縮尺	1 : 10 1 : 100	AI - 115	頁 I-9



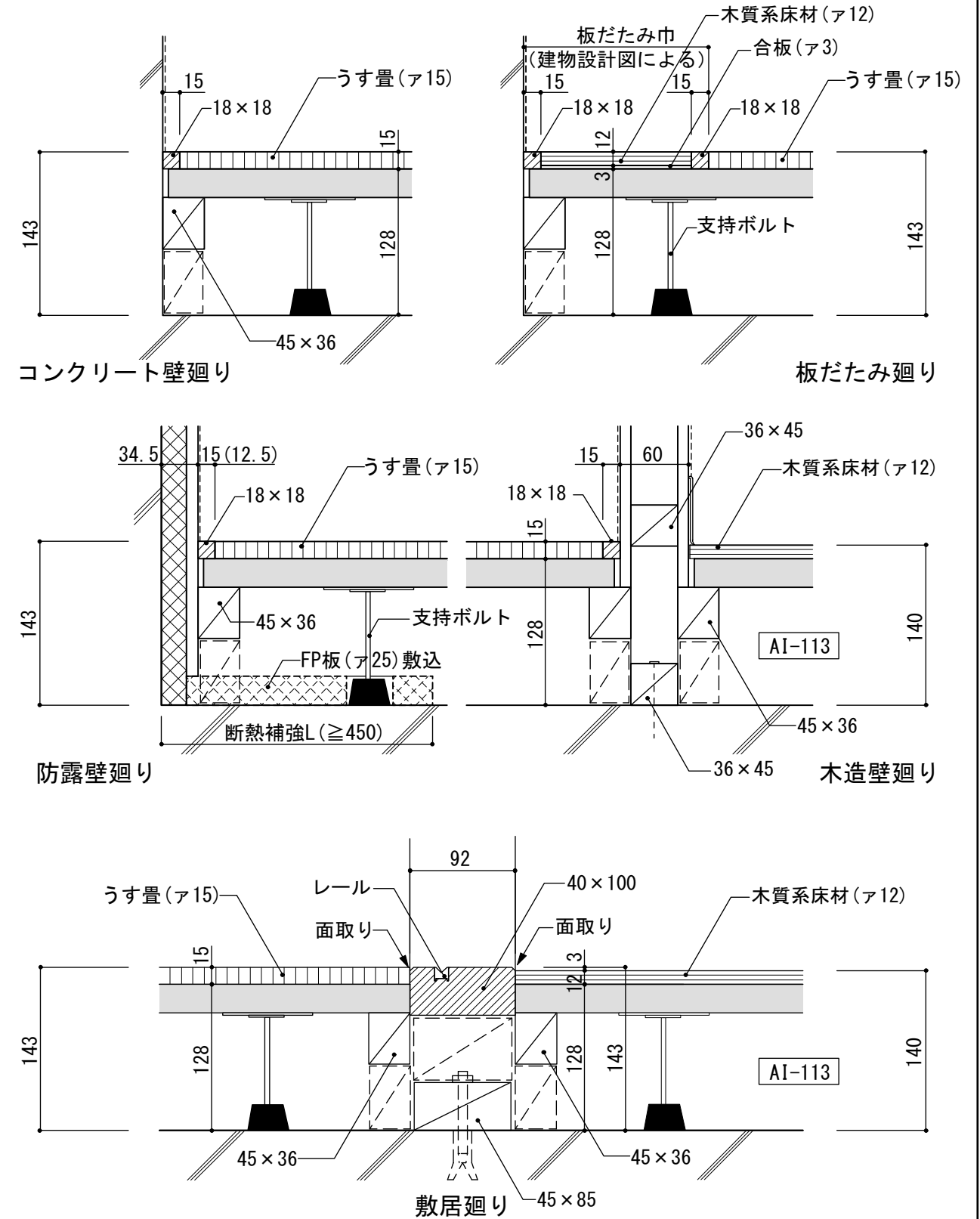
発泡プラスチック系床下地材



- 【仕様】
- 床下地材については「機材の品質判定基準」による。
  - うす畳については「機材の品質判定基準」による。
  - 足固めの止め付けは鋼製拡張式アンカーM8@900内外とする。
  - ※部分に断熱補強又は床断熱が必要な場合は、発泡プラスチック系洋室床パネル又はFP板を充填する。
  - 最下階住戸に乾式二重床工法を使用する場合はスラブ下に外断熱を行う。

- 【附記事項】
- 板だたみ巾は建物設計図による。
  - ( )内寸法はサッシ下枠と連続する場合を示す。
  - 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)

乾式遮音二重床工法床下地材

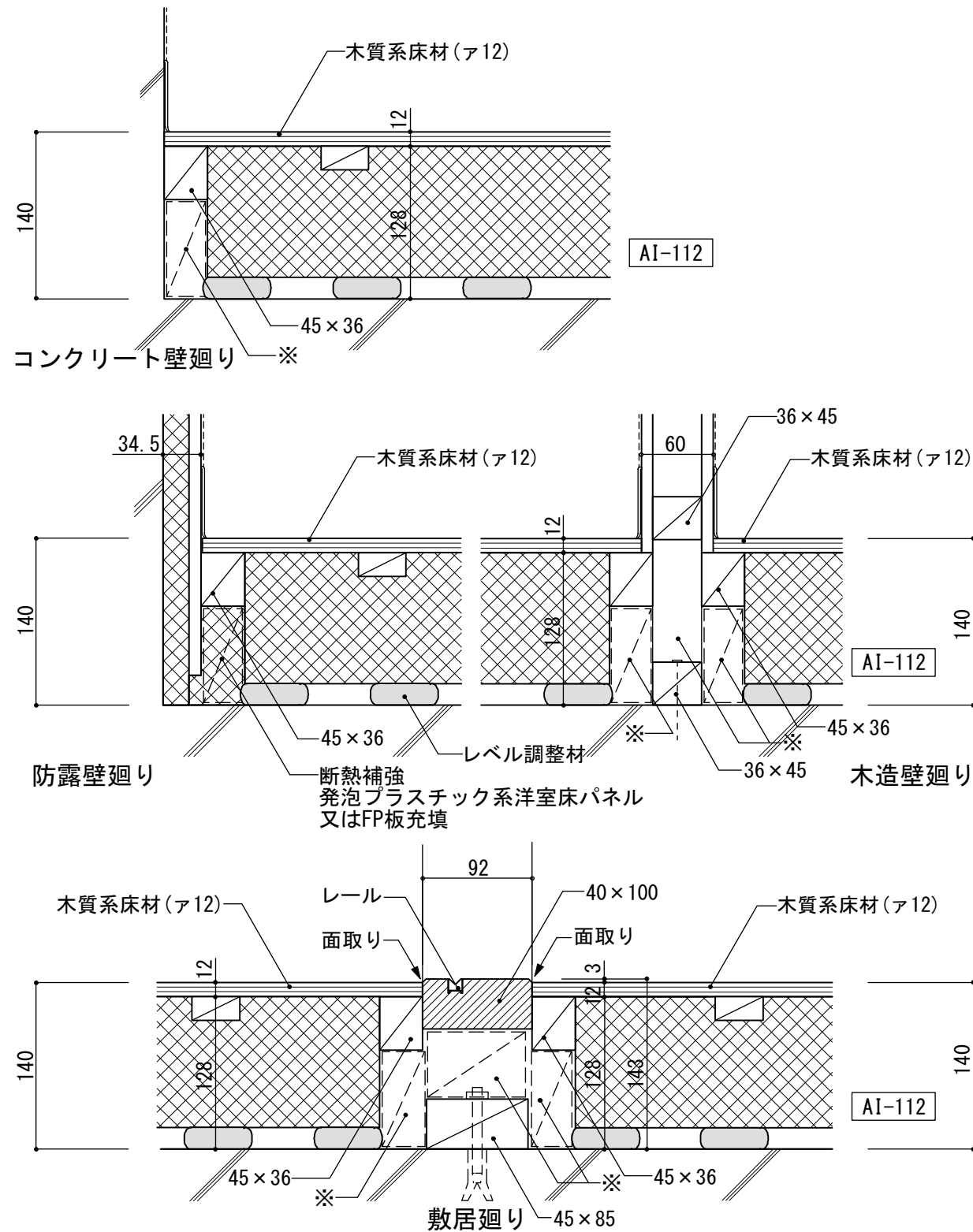


【改訂事項(公団住宅)】

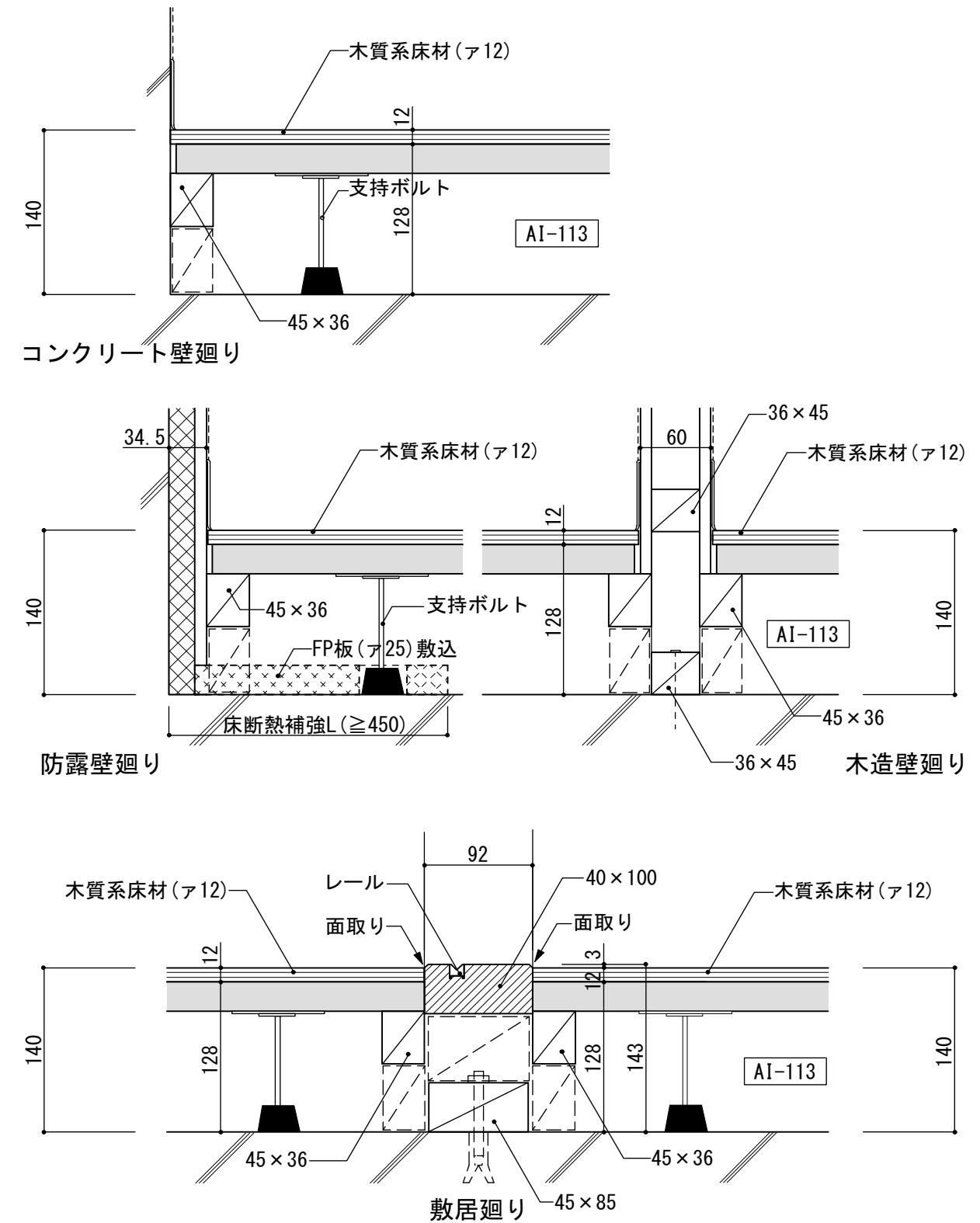
- 【改訂事項(機構住宅)】
- 第1版(追) H. 17. 12. 1
  - 第2版 H. 21. 12. 1
  - 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	床廻り詳細図-4 和洋室可変型住宅(和室)		
縮尺	1:5	AI-116	頁 I-10

発泡プラスチック系床下地材



乾式遮音二重床工法床下地材



- 【仕様】
- 床下地材については「機材の品質判定基準」による。
  - 足固めの止め付けは鋼製拡張式アンカーM8@900内外とする。
  - ※部分に断熱補強又は床断熱が必要な場合は、発泡プラスチック系洋室床パネル又はFP板を充填する。
  - 発泡プラスチック系床下地材を使用し、捨張合板無しの場合の木質系床材は定尺1.800を原則とする。
  - 最下階住戸に乾式二重床工法を使用する場合はスラブ下に外断熱を行う。

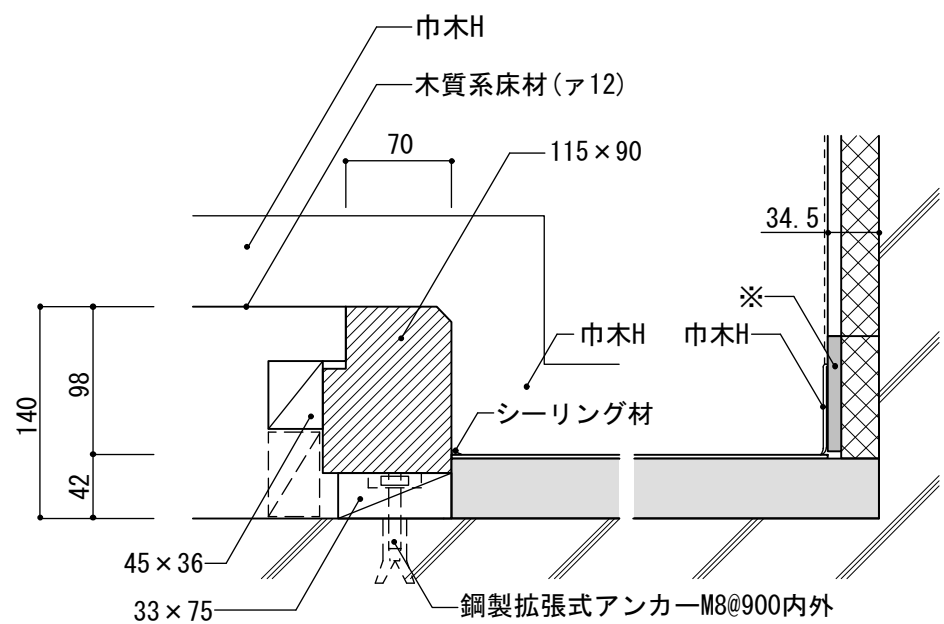
- 【附記事項】
- 木質系床材は壁面に当たらないように、隙間を設けて敷込むようにする。
  - 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)

【改訂事項(公団住宅)】

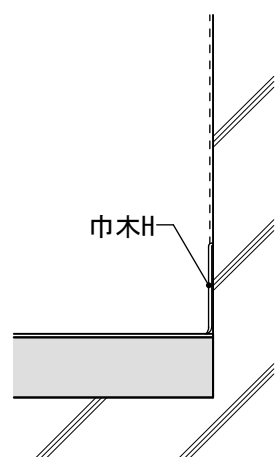
- 【改訂事項(機構住宅)】
- 第1版(追) H. 17. 12. 1
  - 第2版 H. 21. 12. 1
  - 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	床廻り詳細図-5 和洋室可変型住宅(洋室)		
縮尺	1:5	AI-117	頁 I-11

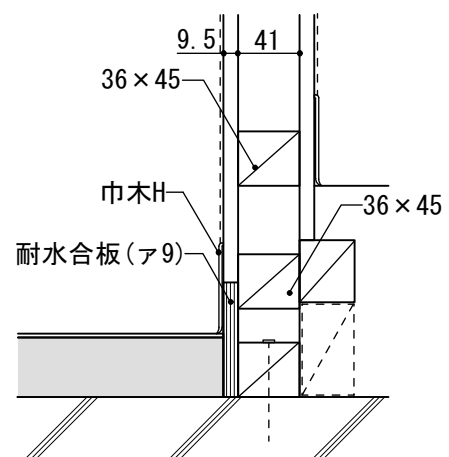
A



防露壁廻り



コンクリート壁廻り



木造壁廻り

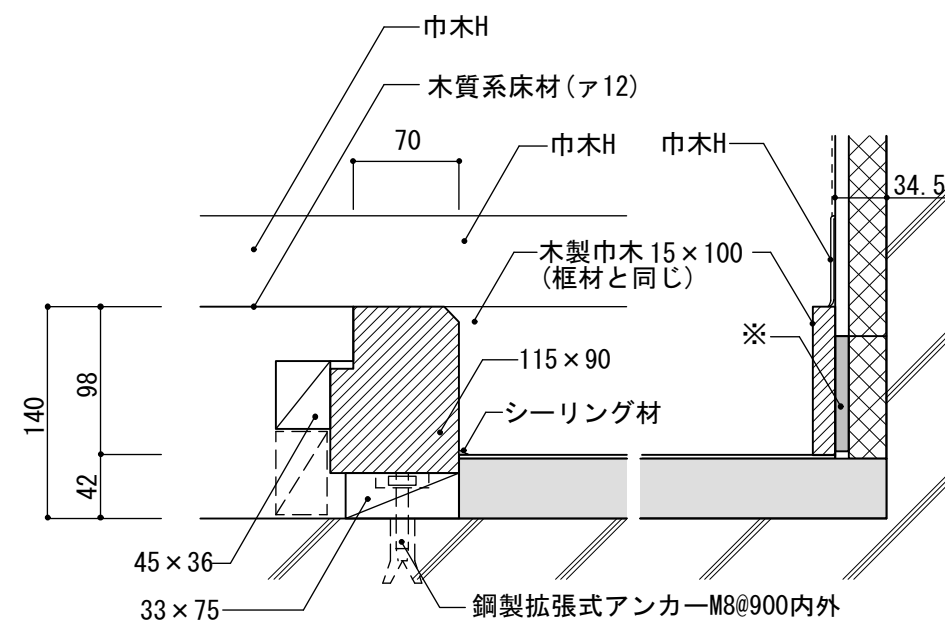
【仕様】

- ・ 框の材種は堅木とし、建物設計図による。
- ・ ※部分の防露壁はシーリング石こうボード(ア9.5)を使用する。

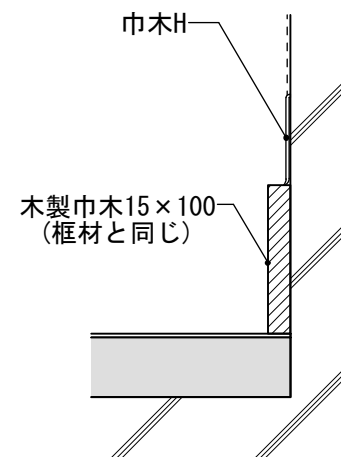
【附記事項】

- ・ 巾木の高さHは建物設計図による。
- ・ 巾木のA・Bは建物設計図による。

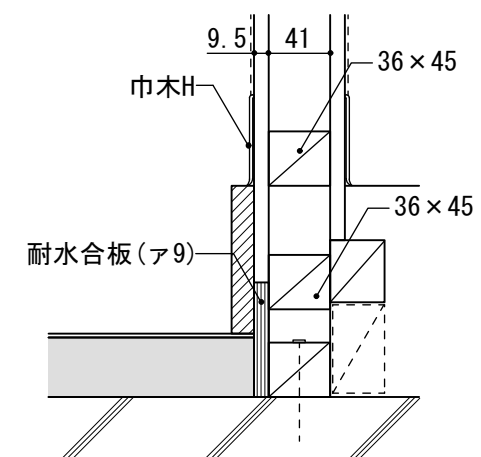
B



防露壁廻り



コンクリート壁廻り



木造壁廻り

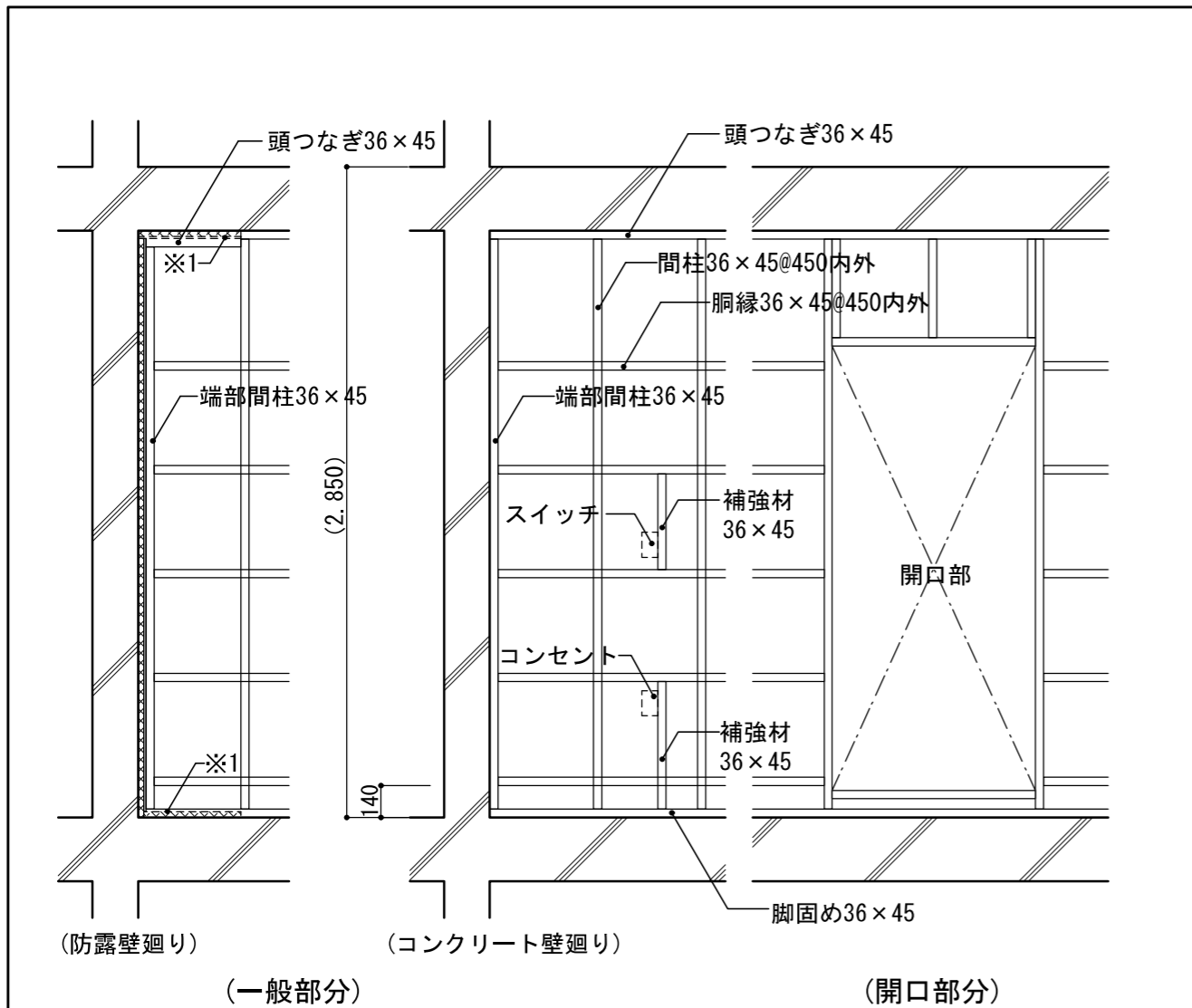
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】

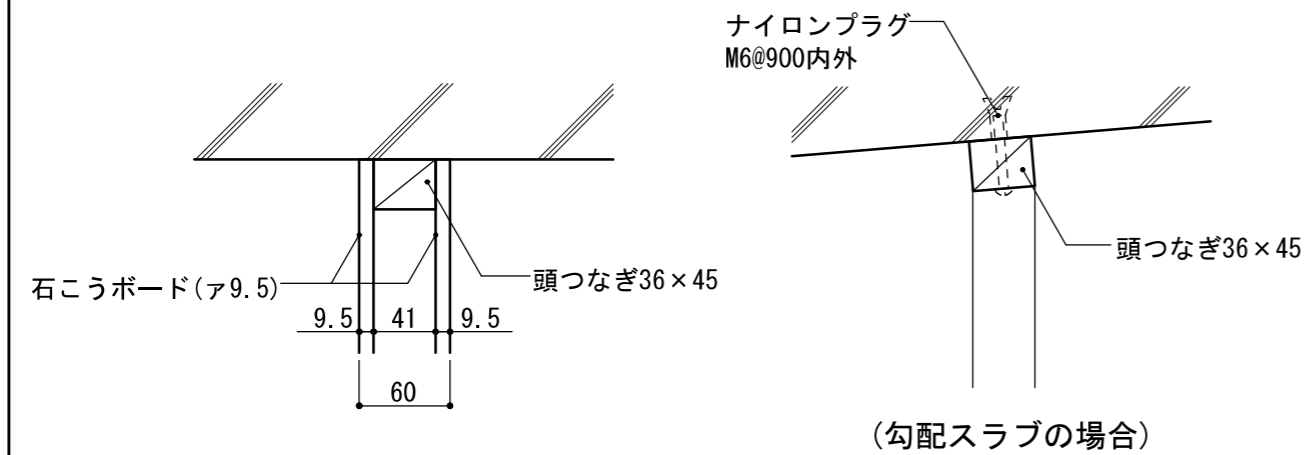
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	玄関上り框廻り		
縮尺	1:5	AI - 120	頁 I-12

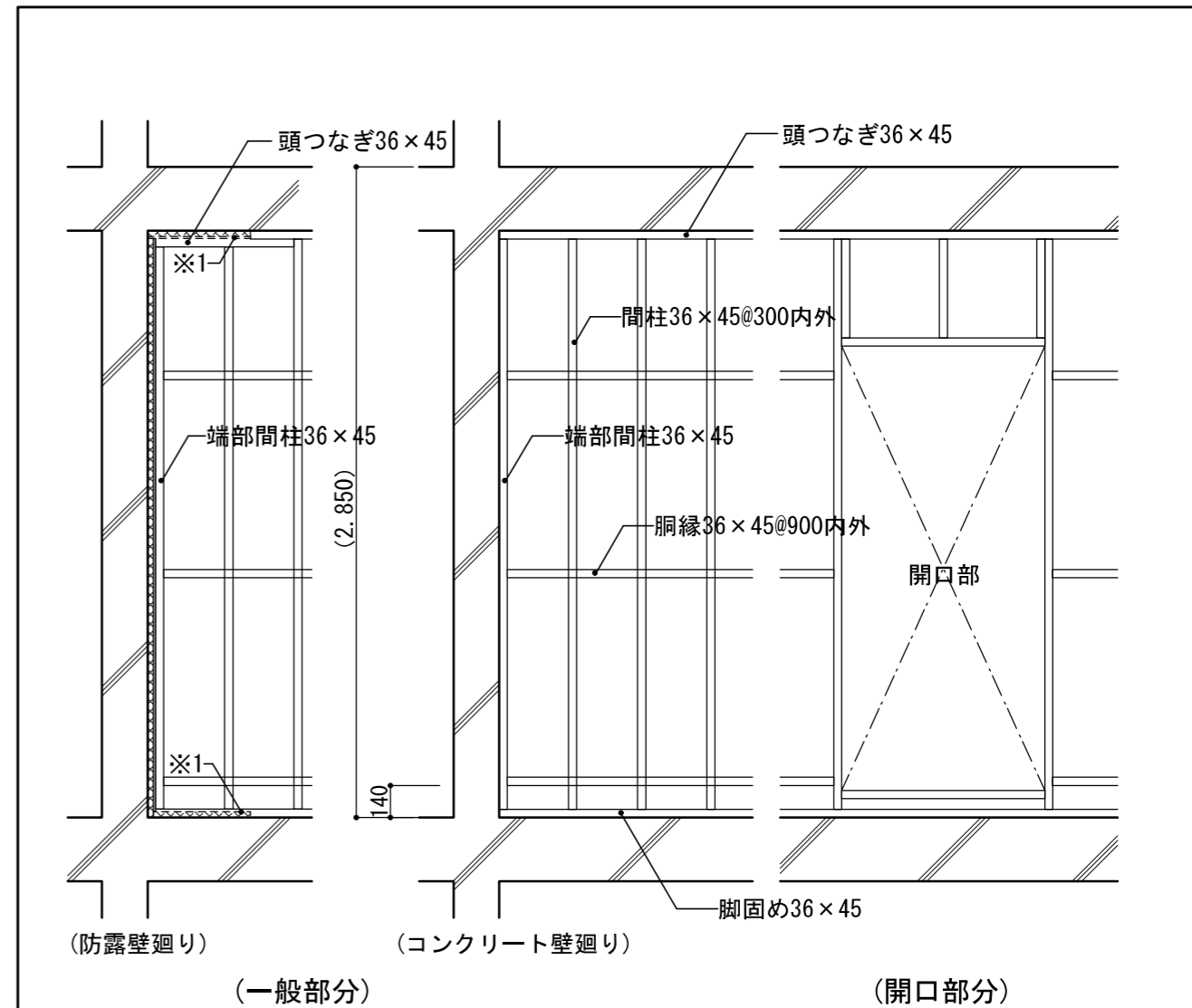


間柱、胴縁共@450内外の場合

軸組図 1:30



上部断面図 1:5



間柱@300内外・胴縁@900内外の場合

軸組図 1:30

【仕様】

- ・脚固め、頭つなぎは接着剤を併用し、両端を押え中間を600mm内外の間隔でスラブ下にコンクリート釘又はコンクリートビス打ちとする。
- ・防露壁廻りの端部間柱、頭つなぎは接着剤を併用し、両端を押え中間を600mm内外の間隔でコンクリート壁にナイロンプラグM6止めとする。

【附記事項】

- ・断熱補強の※1は建物設計図による。

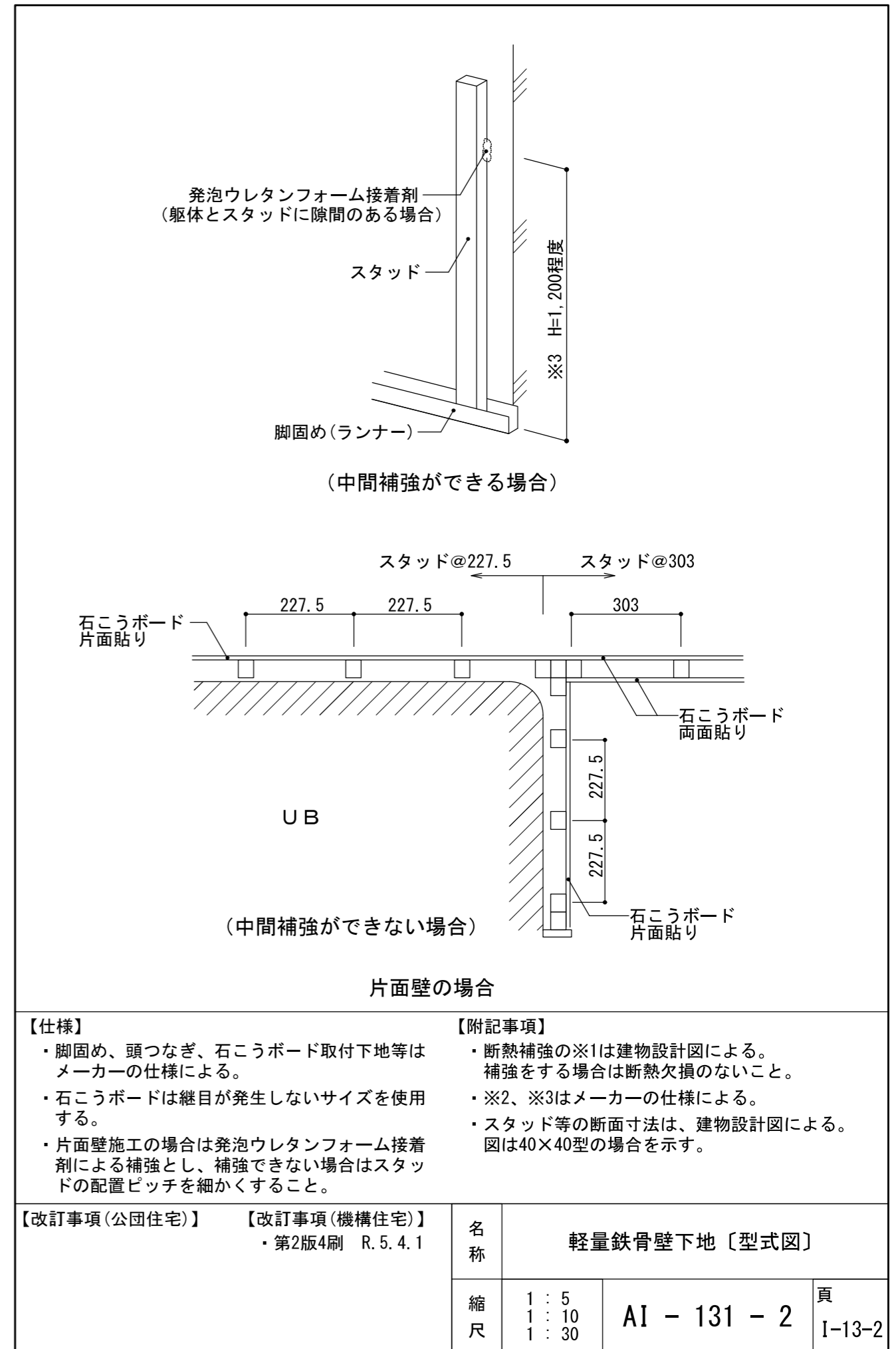
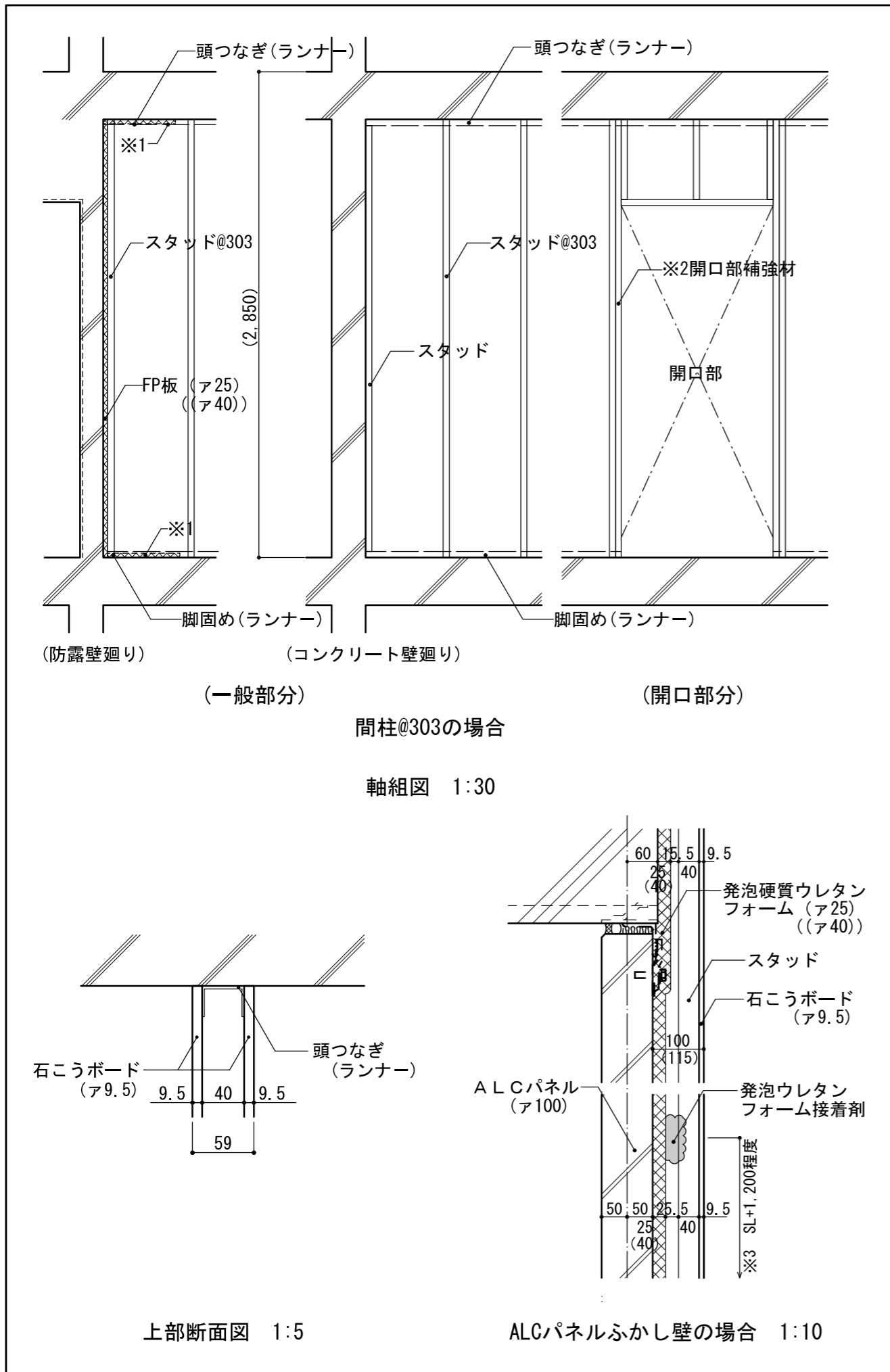
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

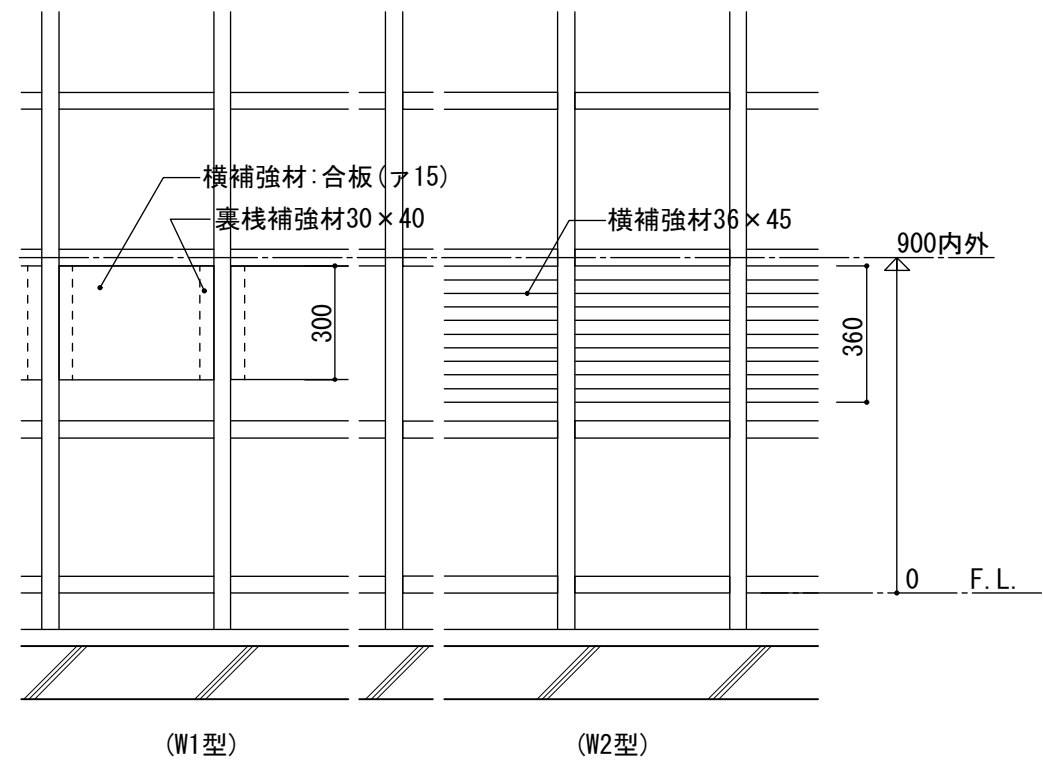
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

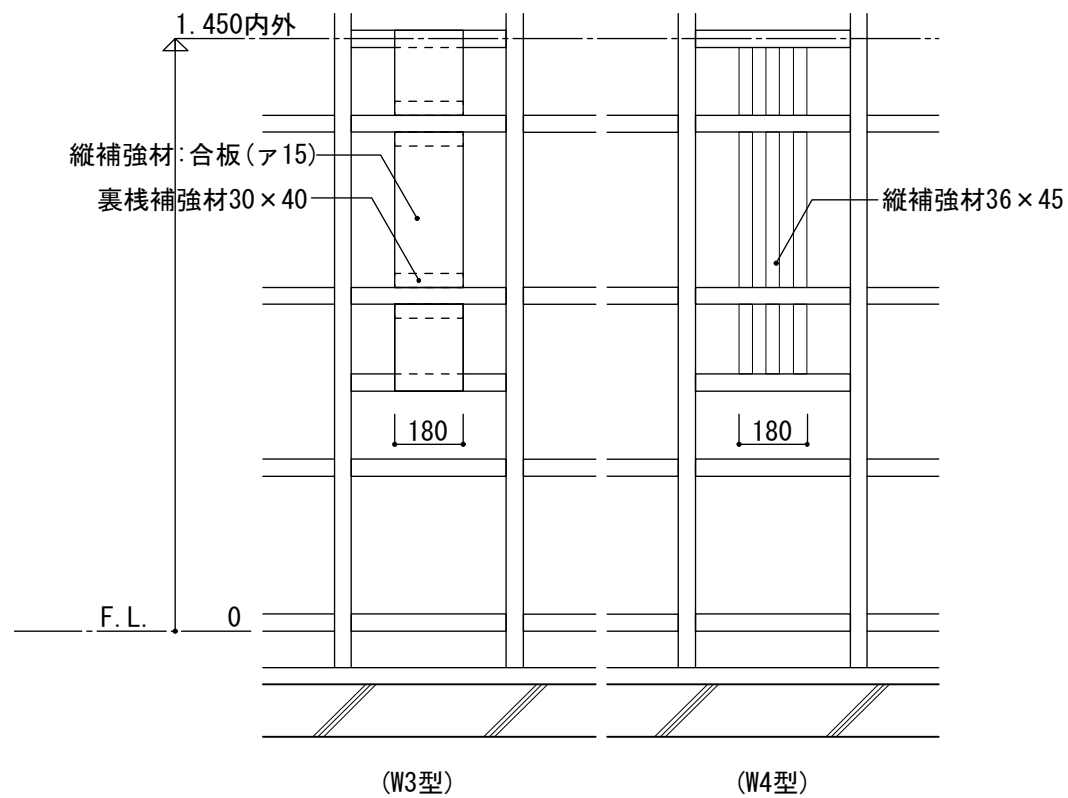
名称	木造壁		
縮尺	1:5 1:30	AI - 131 - 1	頁 I-13-1



下地補強

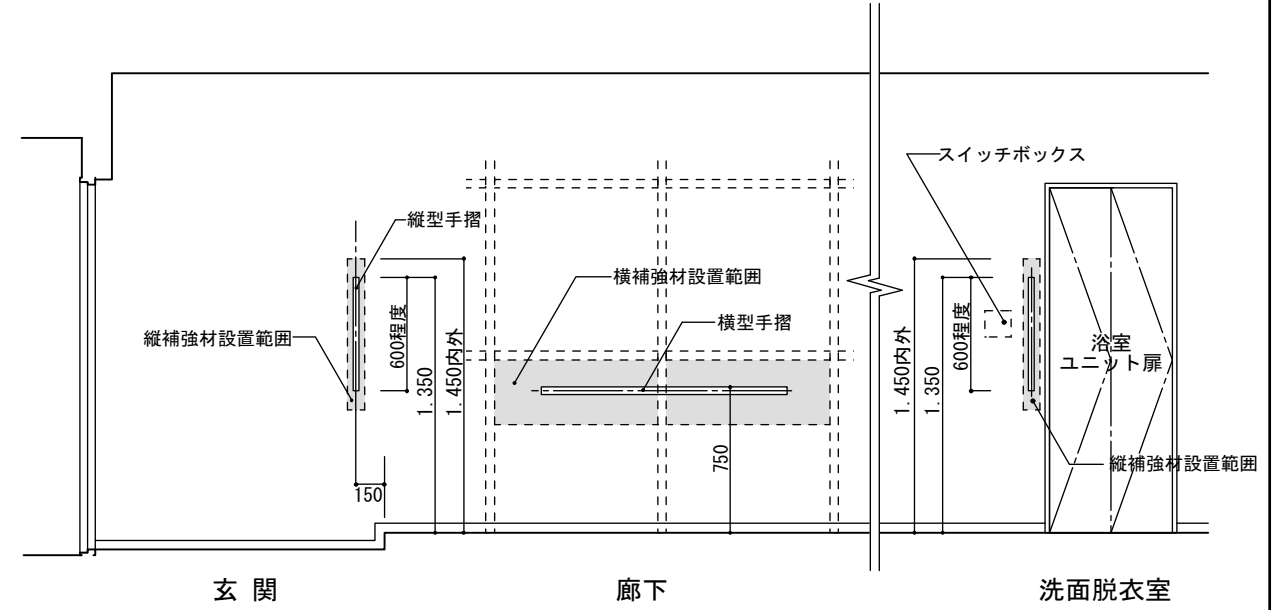


下地姿図 1:20



下地姿図 1:20

手摺取付位置図



展開図 1:40

【仕様】

- ・ [ ] : 手摺下地補強を示す。

【附記事項】

- ・ 手摺補強材の位置は建物設計図による。
- ・ 手すり取付用補強材の範囲がわかるように表示ピン等を取付ける。

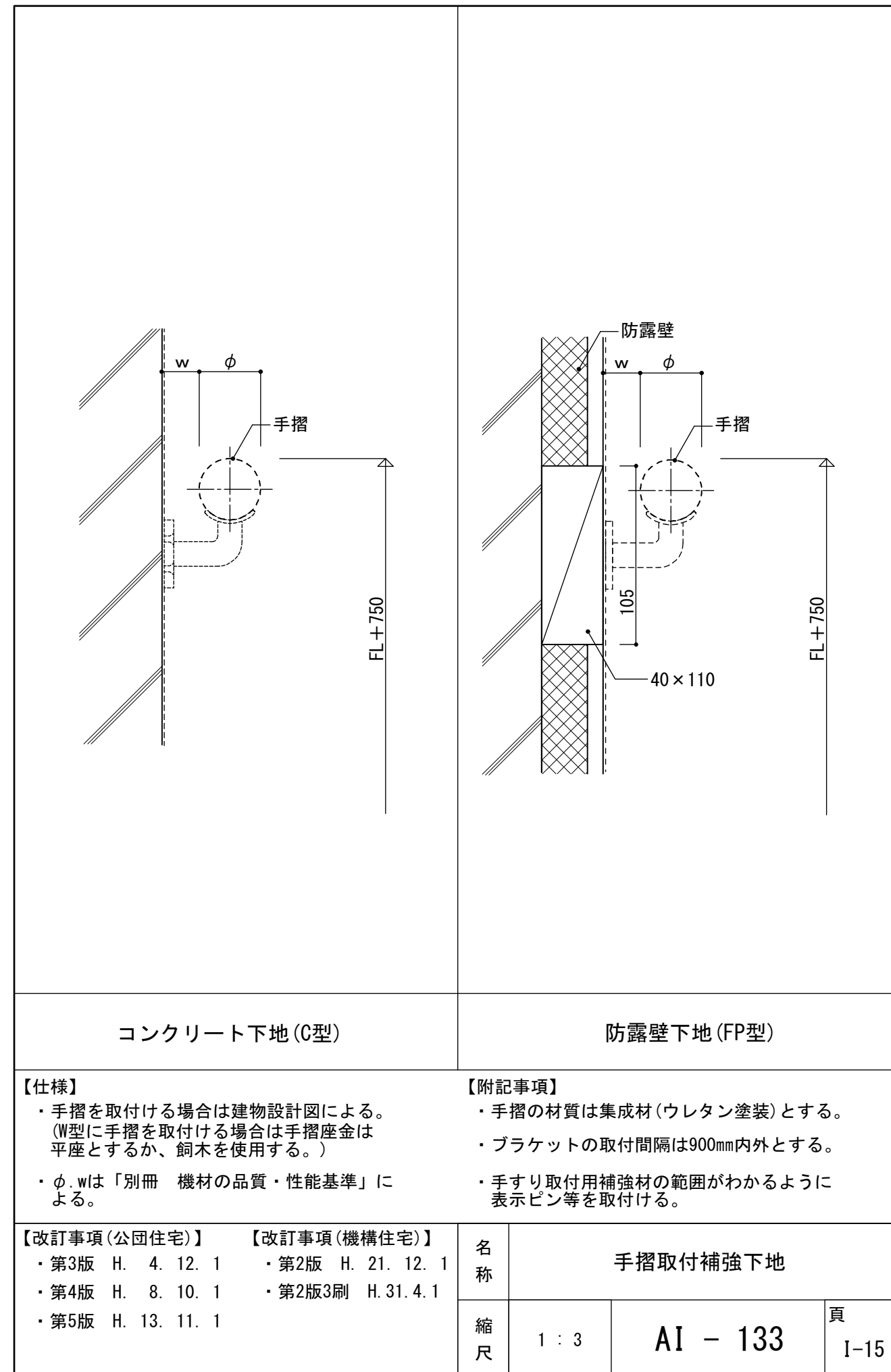
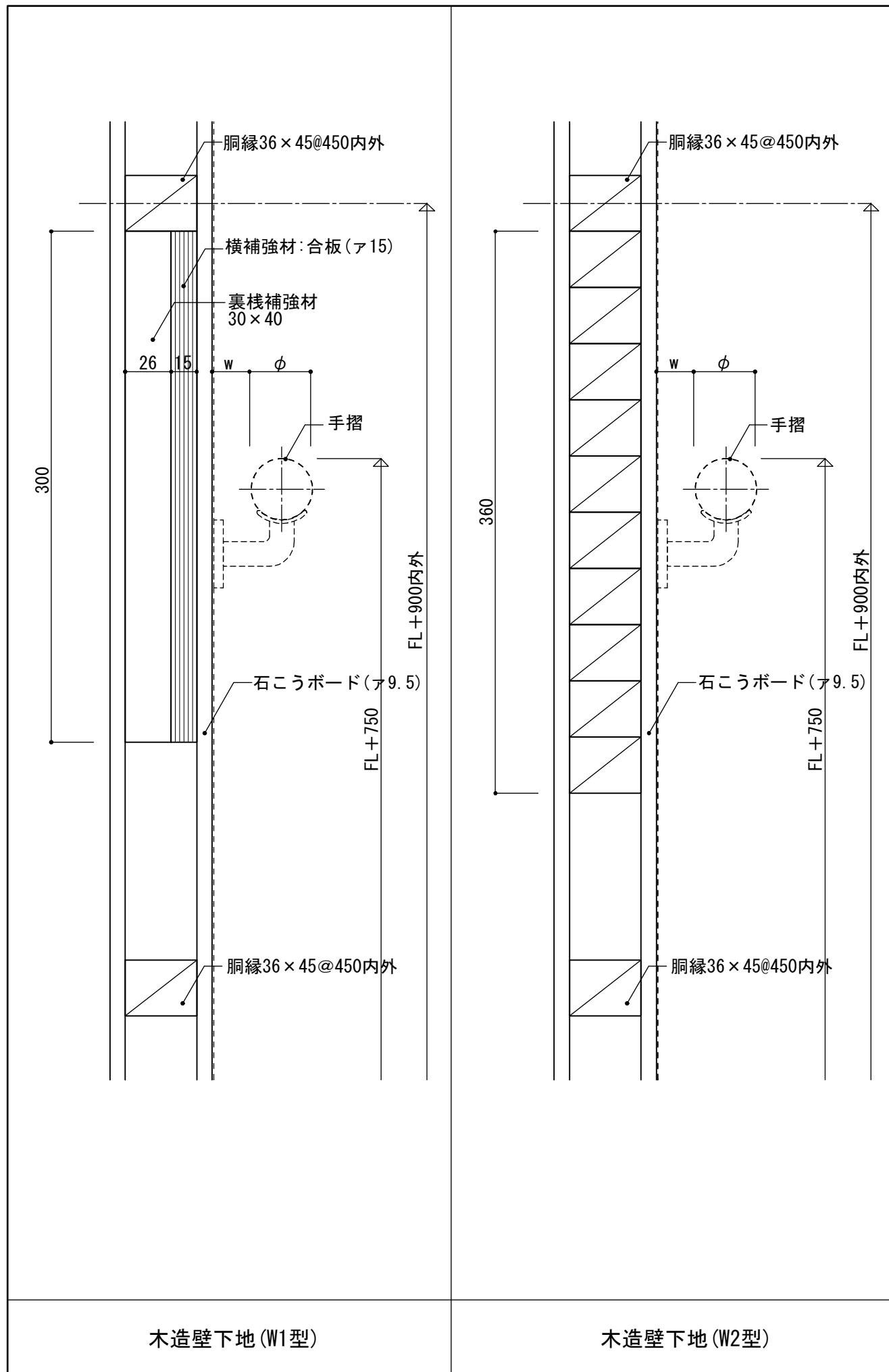
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

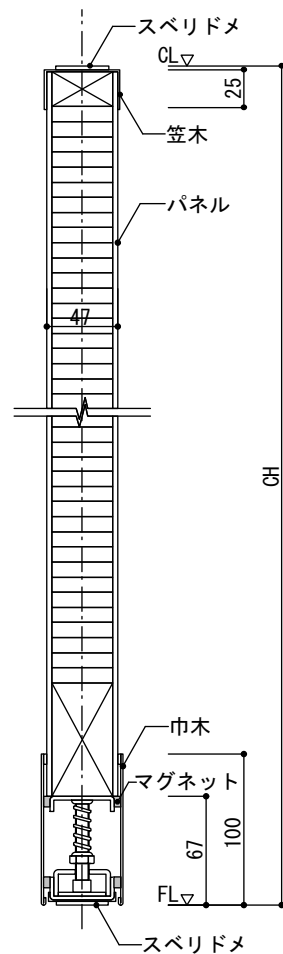
名称	玄関・廊下・洗面脱衣室 手摺下地		
縮尺	1:20 1:40	AI - 132	頁 I-14



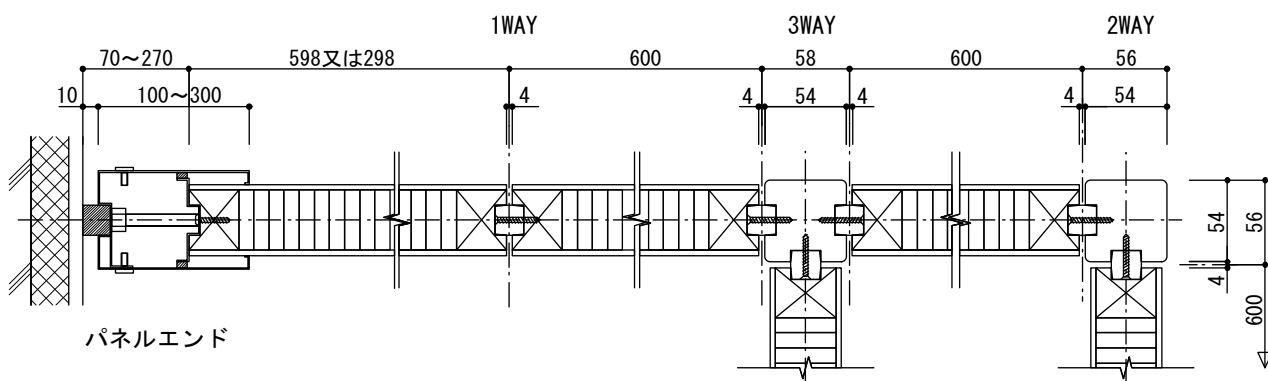
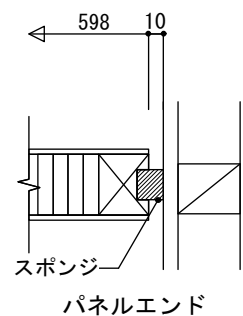
コンクリート下地 (C型)	防露壁下地 (FP型)
---------------	-------------

<p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手摺を取付ける場合は建物設計図による。(W型に手摺を取付ける場合は手摺座金は平座とするか、飼木を使用する。)</li> <li>φ.wは「別冊 機材の品質・性能基準」による。</li> </ul>	<p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手摺の材質は集成材(ウレタン塗装)とする。</li> <li>ブラケットの取付間隔は900mm内外とする。</li> <li>手すり取付用補強材の範囲がわかるように表示ピン等を取付ける。</li> </ul>
--	--

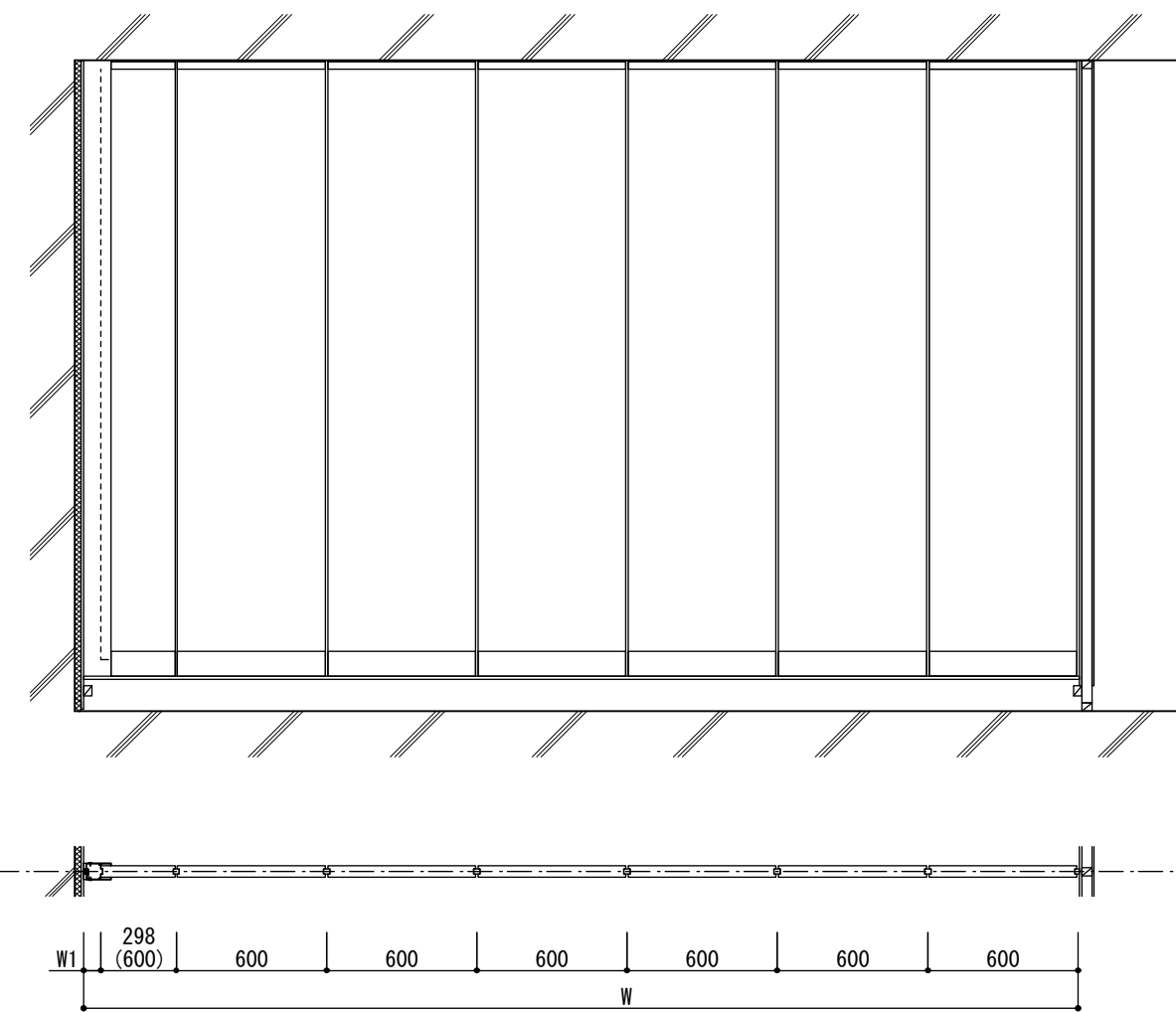
<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>第5版 H. 13. 11. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2版 H. 21. 12. 1</li> <li>第2版3刷 H. 31. 4. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>手摺取付補強下地</p>	<p>縮尺</p> <p>1 : 3</p>	<p>AI - 133</p>	<p>頁</p> <p>I-15</p>
---	--	---------------------------	------------------------	-----------------	----------------------



断面詳細図 1:5



平面部分詳細図 1:5



正面図 1:30

【仕様】

・部品等の仕様はメーカー仕様による。

【附記事項】

・ W. W1. W2. CHは建物設計図による。  
 ・ CHの高さは2.400を標準とする。

【改訂事項(公団住宅)】

・ 第3版 H. 4. 12. 1  
 ・ 第4版 H. 8. 10. 1  
 ・ 第5版 H. 13. 11. 1

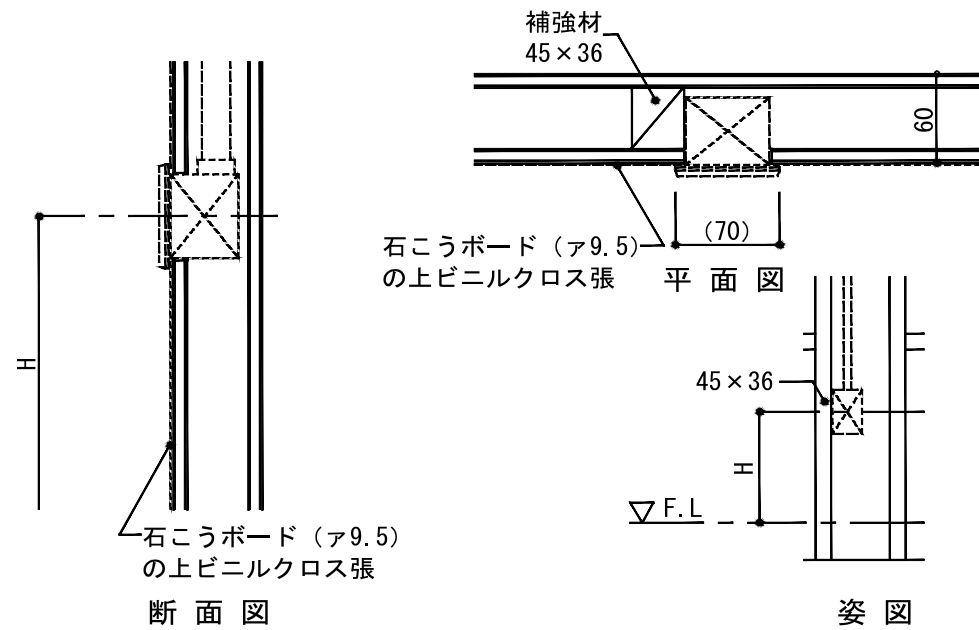
【改訂事項(機構住宅)】

名称 撤去可能間仕切〔型式図〕

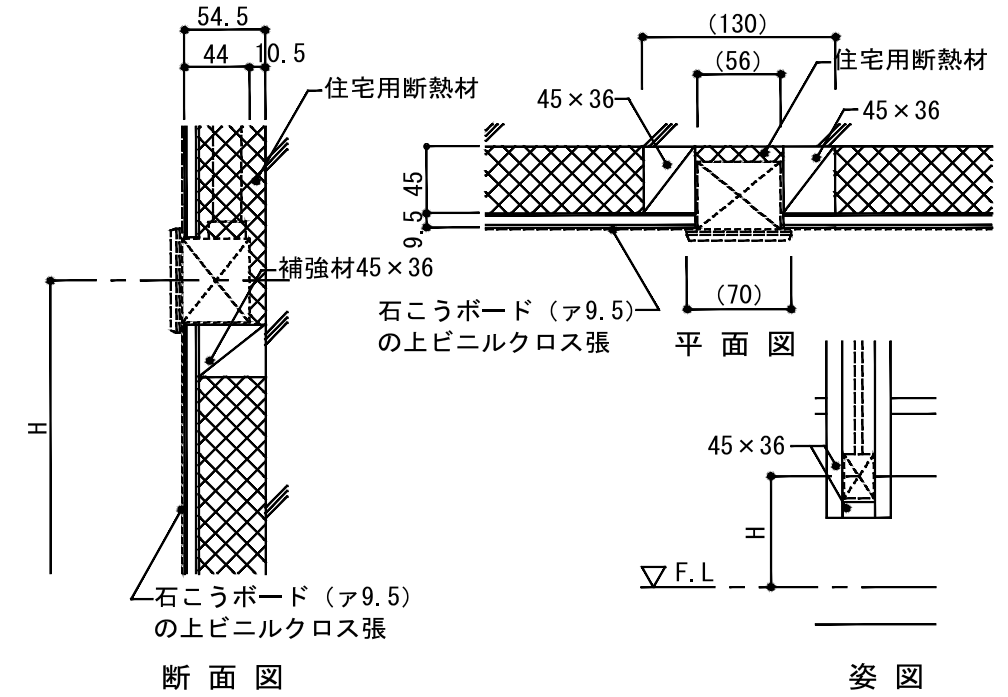
縮尺	1:5	AI - 134	頁 I-16
	1:30		



木造壁廻り（在来工法の場合）



防露壁廻り



【仕様】

- ※：壁式ラーメン構造の壁柱部分に設備機器を設ける場合は、**SWR - 106**により乾式の壁を設けて取り付ける。躯体コンクリートの増し打ちは行ってはならない。耐力壁に設備機器を埋込みで設ける場合の鉄筋の補強及び鉄筋とのあきは**SWR - 110**による。
- ※：壁式構造の耐力壁に設備機器を埋込みで設ける場合の鉄筋の補強及び鉄筋とのあきは**SW - 106**による。

- ※：ラーメン構造の柱部分には原則として設備機器の埋込みは行わない。埋込みで設置する場合は躯体コンクリート増し打ちとし**SR - 113・114**による。壁に設備機器を埋込みで設ける場合の鉄筋の補強及び鉄筋とのあきは**SR - 114**による。

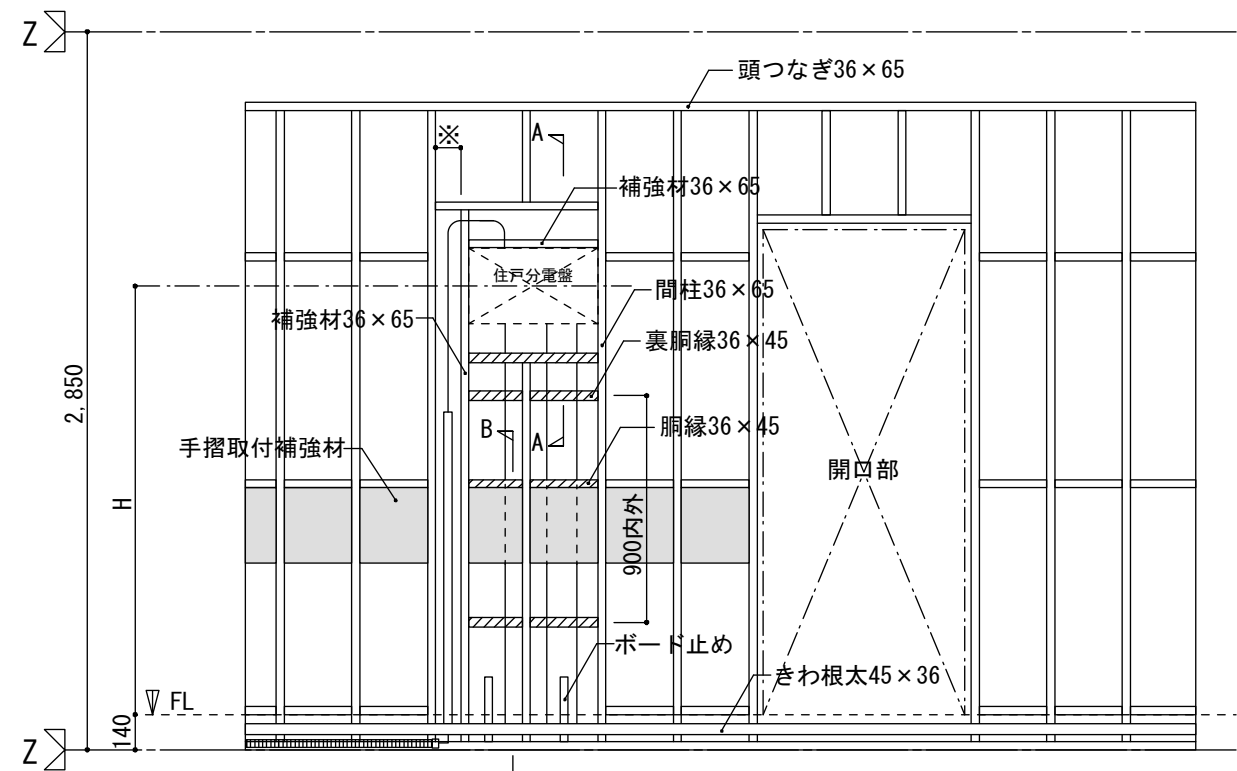
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

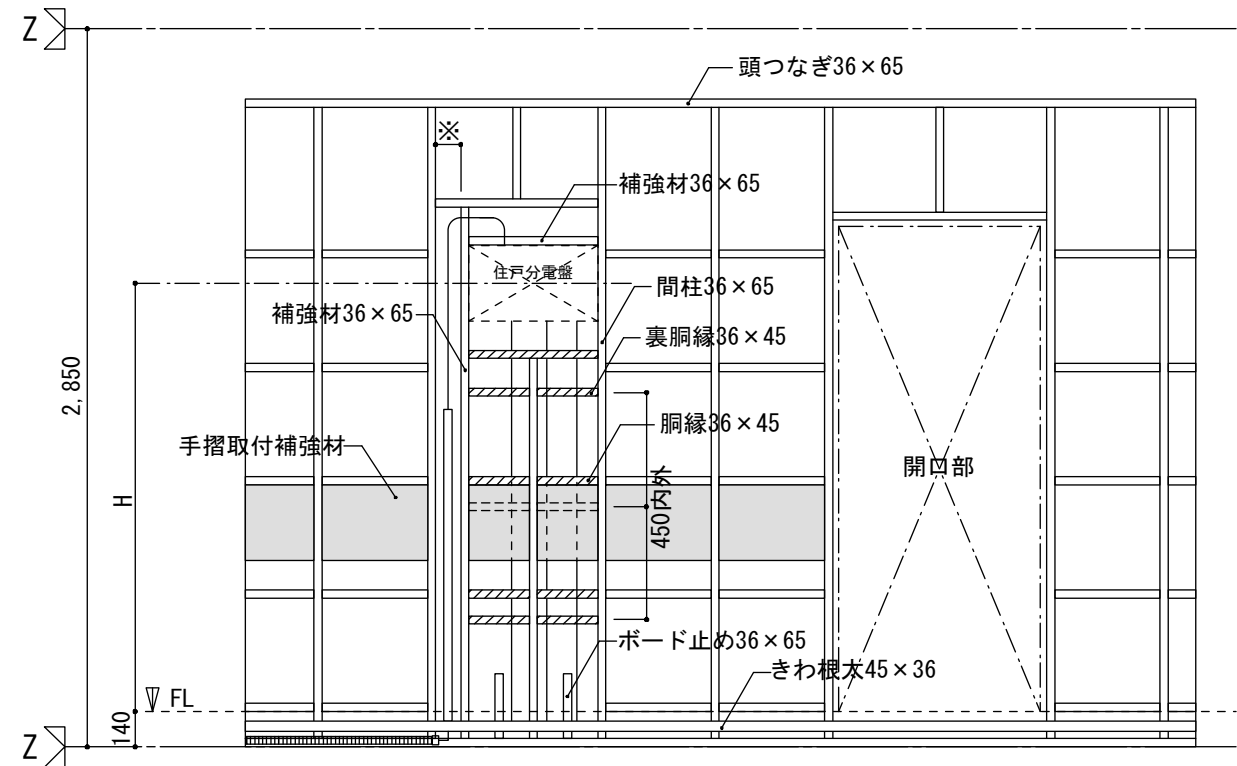
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷
- ・第2版 H. 31. 4. 1

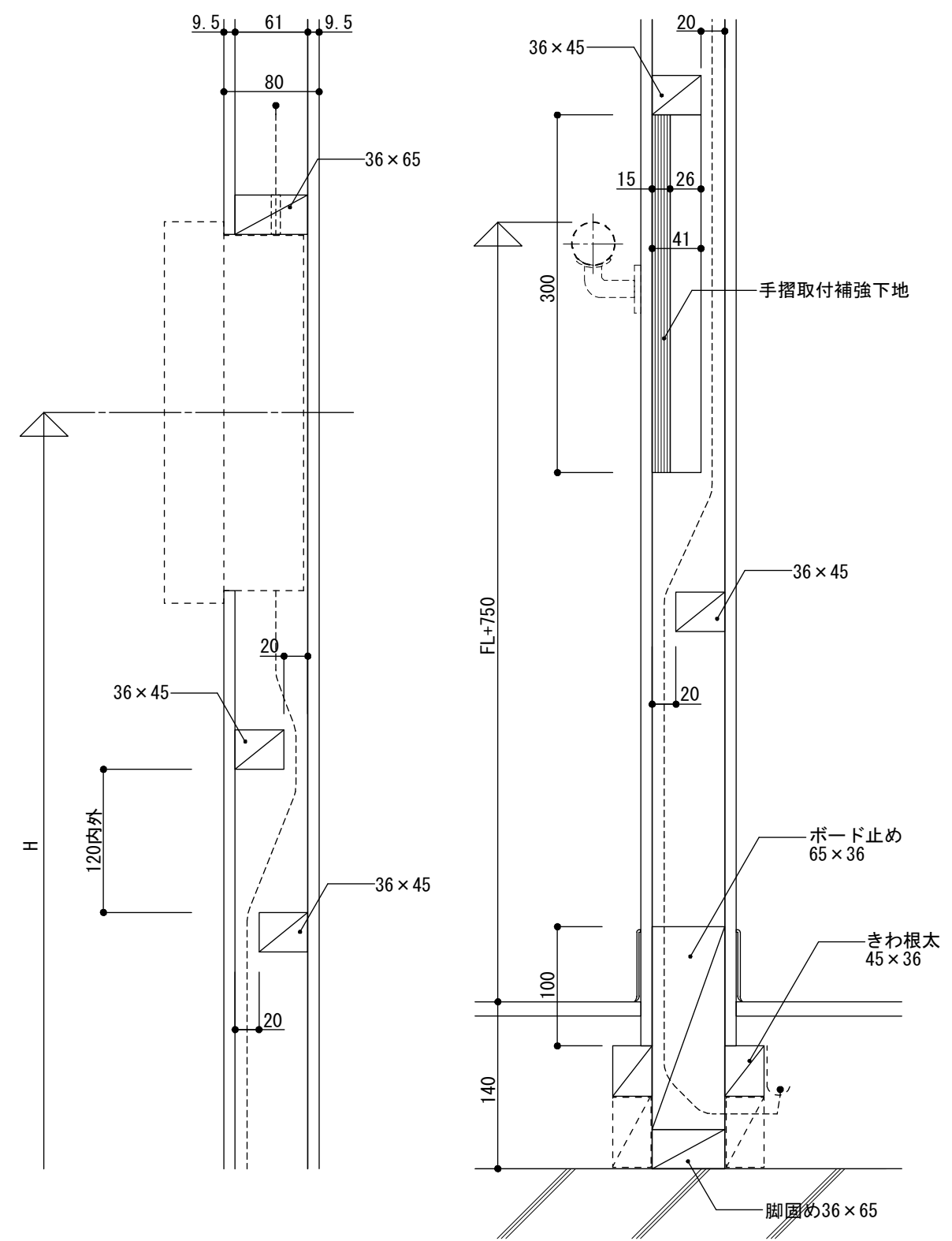
名称	コンセントボックス廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 136	頁 I-17



軸組図 1:30 間柱@300内外、胴縁@900内外の場合



軸組図 1:30 間柱、胴縁共@450内外の場合

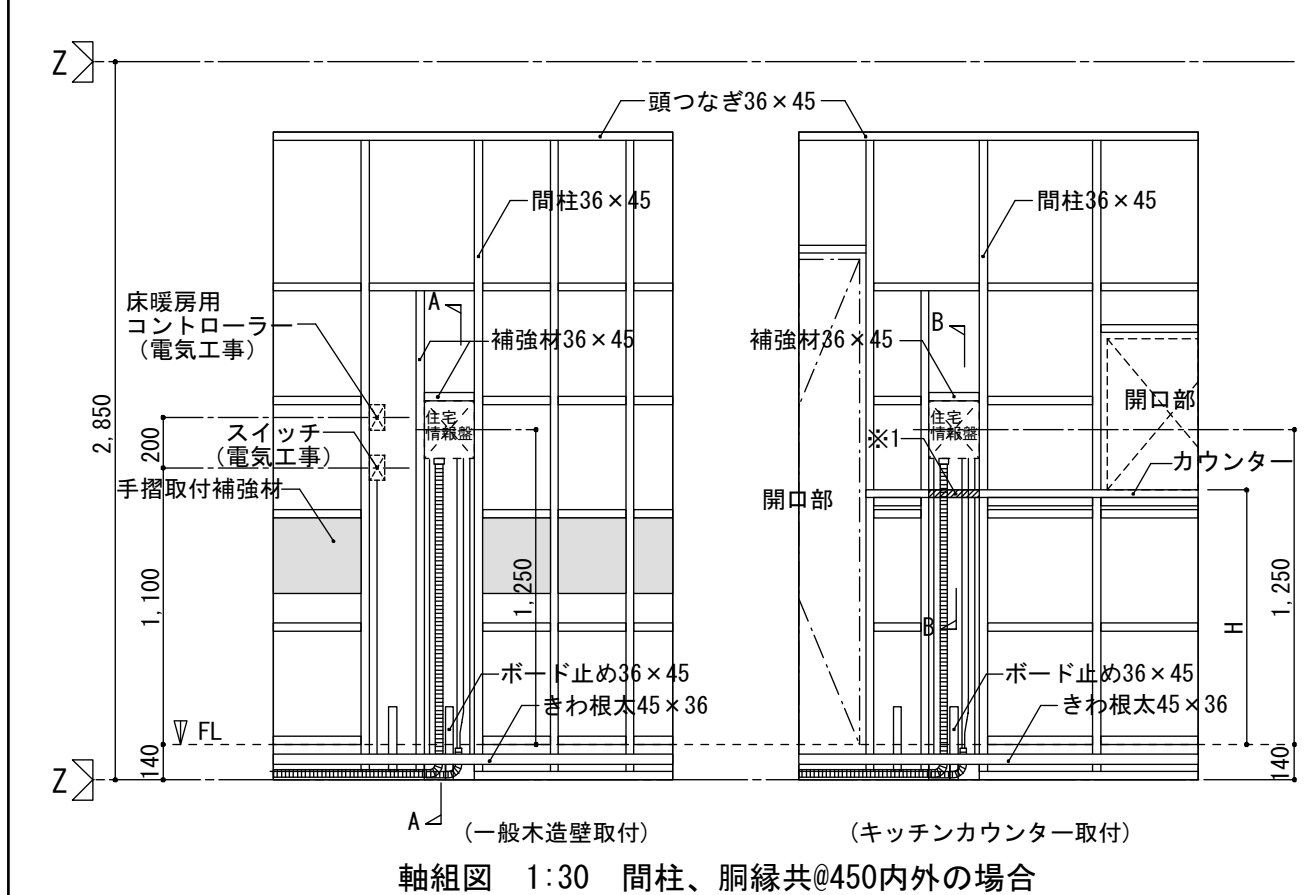
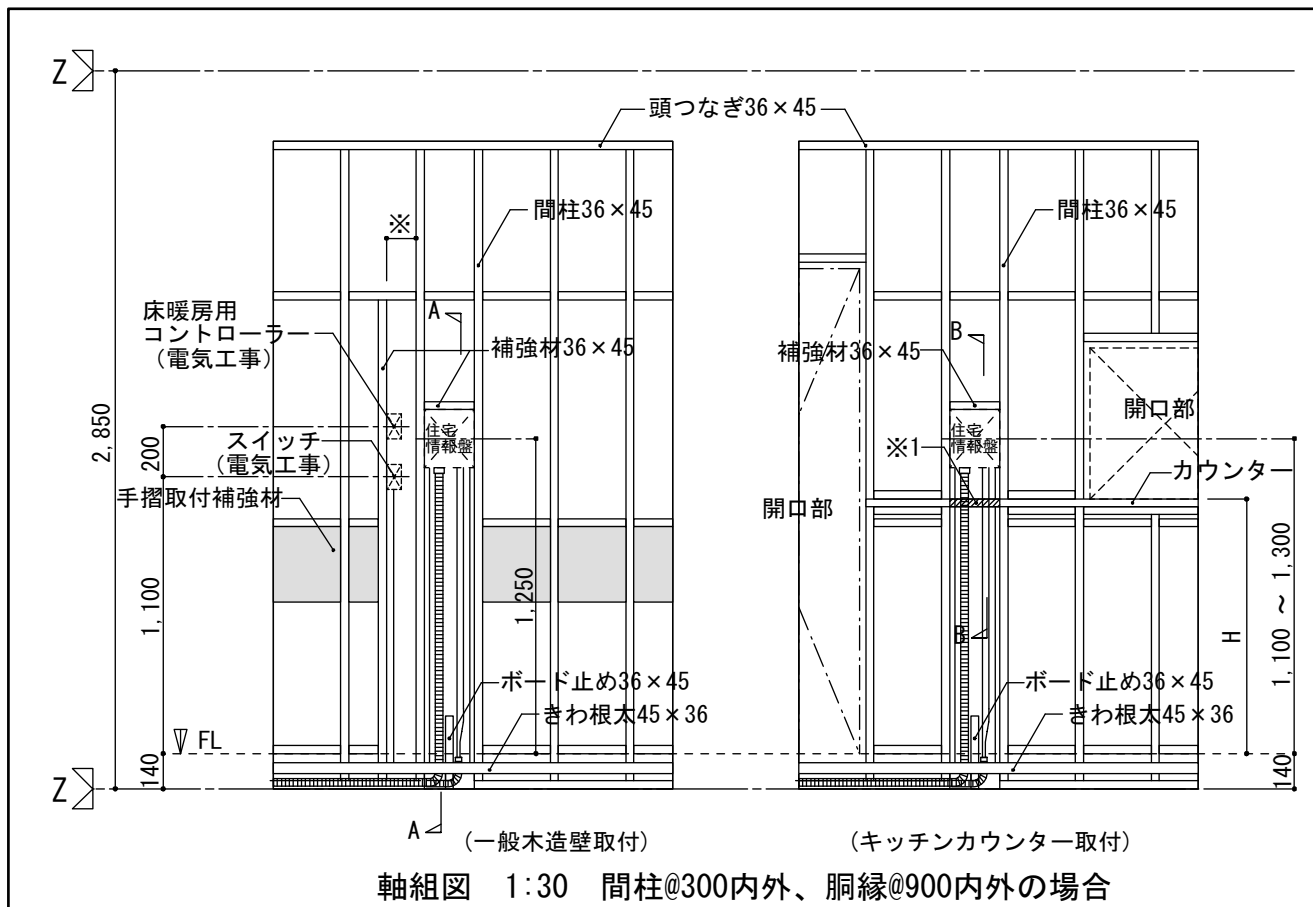


A-A 断面図 1:5

B-B 断面図 1:5

- |  |  |
|--|--|
| <p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部分的胴縁は36×45とする。</li> <li>手摺取付補強下地は AI-133 による。</li> </ul> | <p>【附記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H. ※寸法は設備と協議の上決定する。</li> <li>手摺取付補強下地の有無は建物設計図による。</li> </ul> |
|--|--|

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	床下配線方式木造壁廻り (住宅用分電盤取付)	
	・第1版(追) H. 17. 12. 1 ・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1:5 1:30	頁 I-18
			AI - 137 - 1	

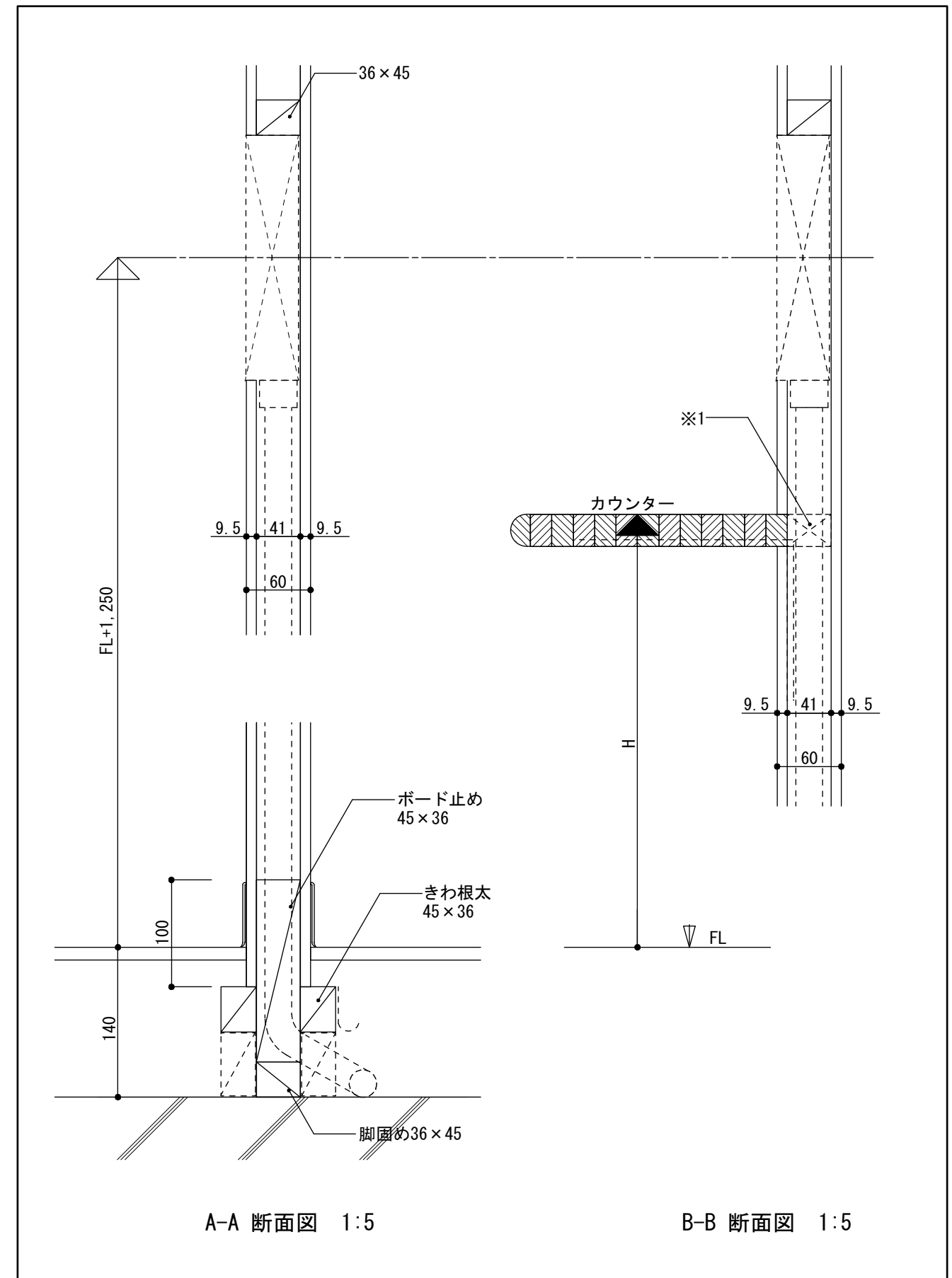


【仕様】

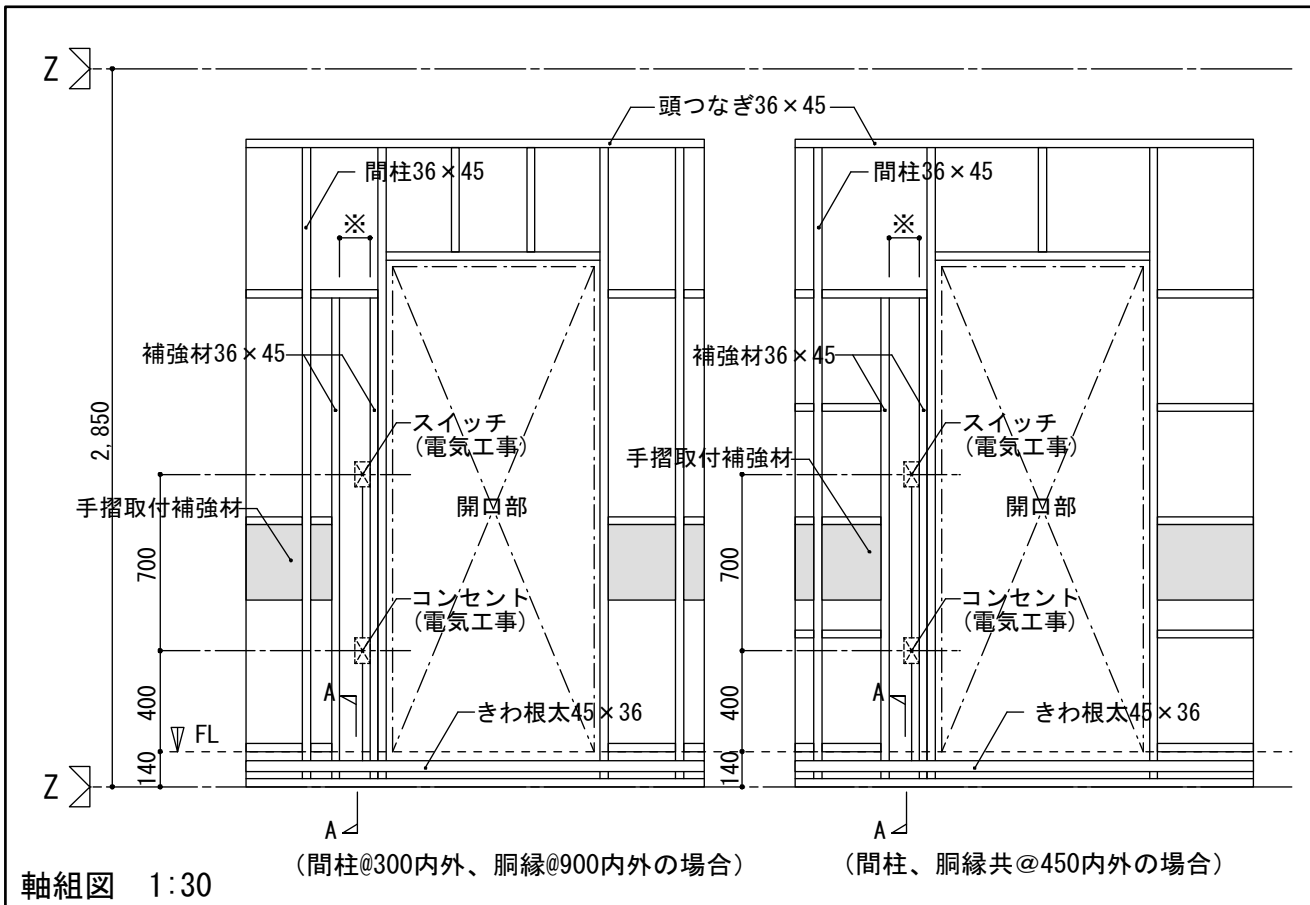
- ・※1カウンターを間柱の奥までのばす場合は、配線部分は欠込みを行う。
- ・手摺取付補強下地は AI-133 による。

【附記事項】

- ・Hは建物設計図による。
- ・※寸法は設備と協議の上決定する。
- ・手摺取付補強下地の有無は建物設計図による。



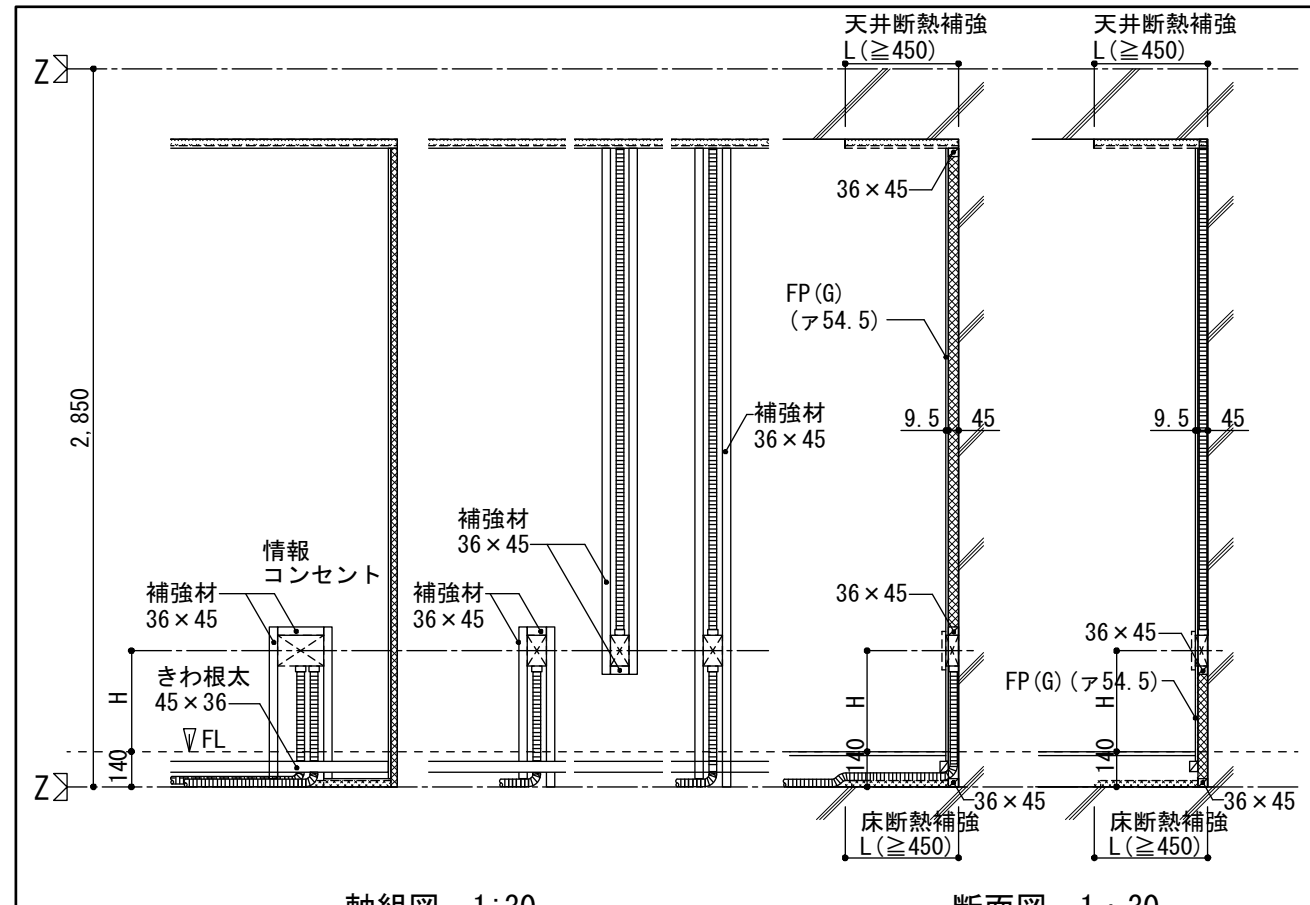
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	床下配線方式木造壁廻り (住宅情報盤取付)	
	・第1版(追) H.17.12.1 ・第2版 H.21.12.1	縮尺	1:5 1:30	頁 I-19
			AI - 137 - 2	



軸組図 1:30

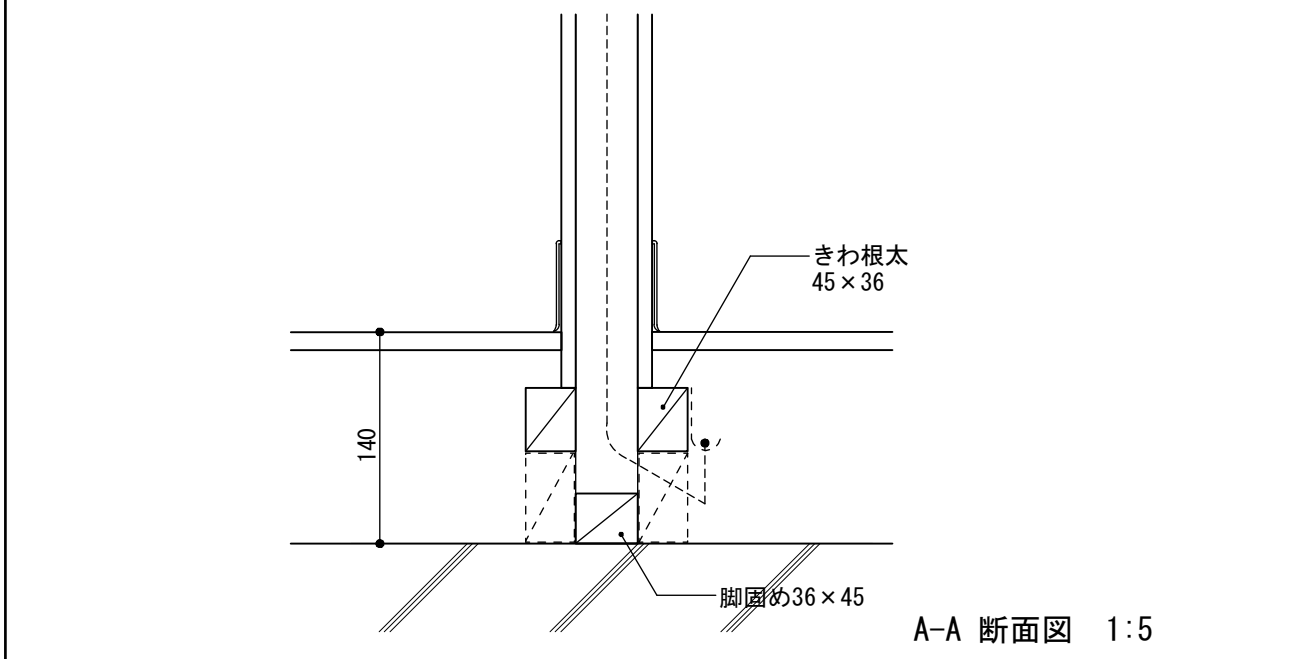
(間柱@300内外、胴縁@900内外の場合)

(間柱、胴縁共@450内外の場合)



軸組図 1:30

断面図 1:30

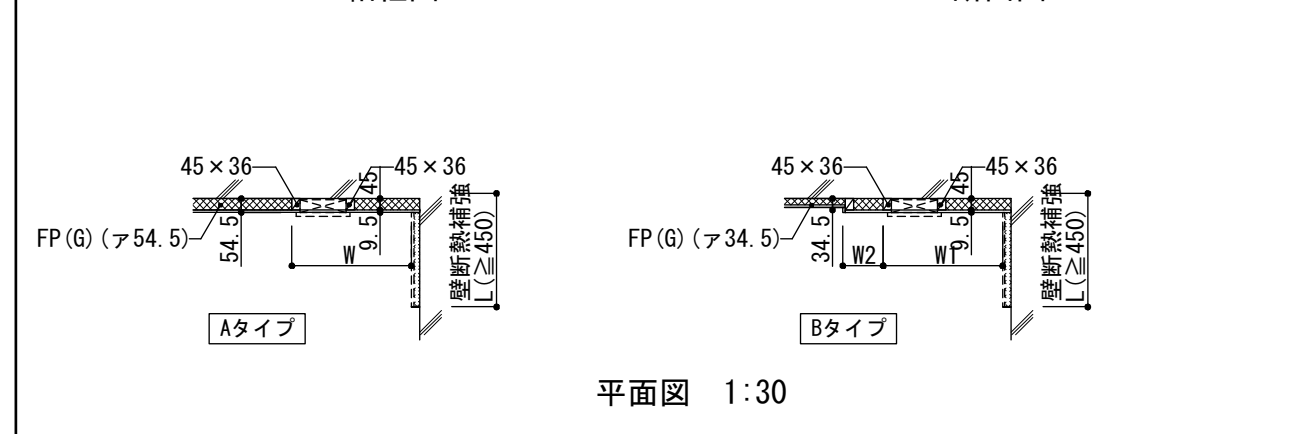


A-A 断面図 1:5

**【仕様】**  
 ・手摺取付補強下地は AI-133 による。

**【附記事項】**  
 ・※寸法は設備と協議の上決定する。  
 ・手摺取付補強下地の有無は建物設計図による。

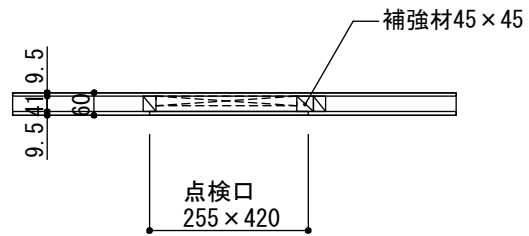
<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第1版(追) H. 17. 12. 1 ・第2版 H. 21. 12. 1	名称	床下配線方式木造壁廻り (スイッチ・コンセント廻り)	
縮尺	1:5 1:30	頁	AI - 137 - 3	I-20



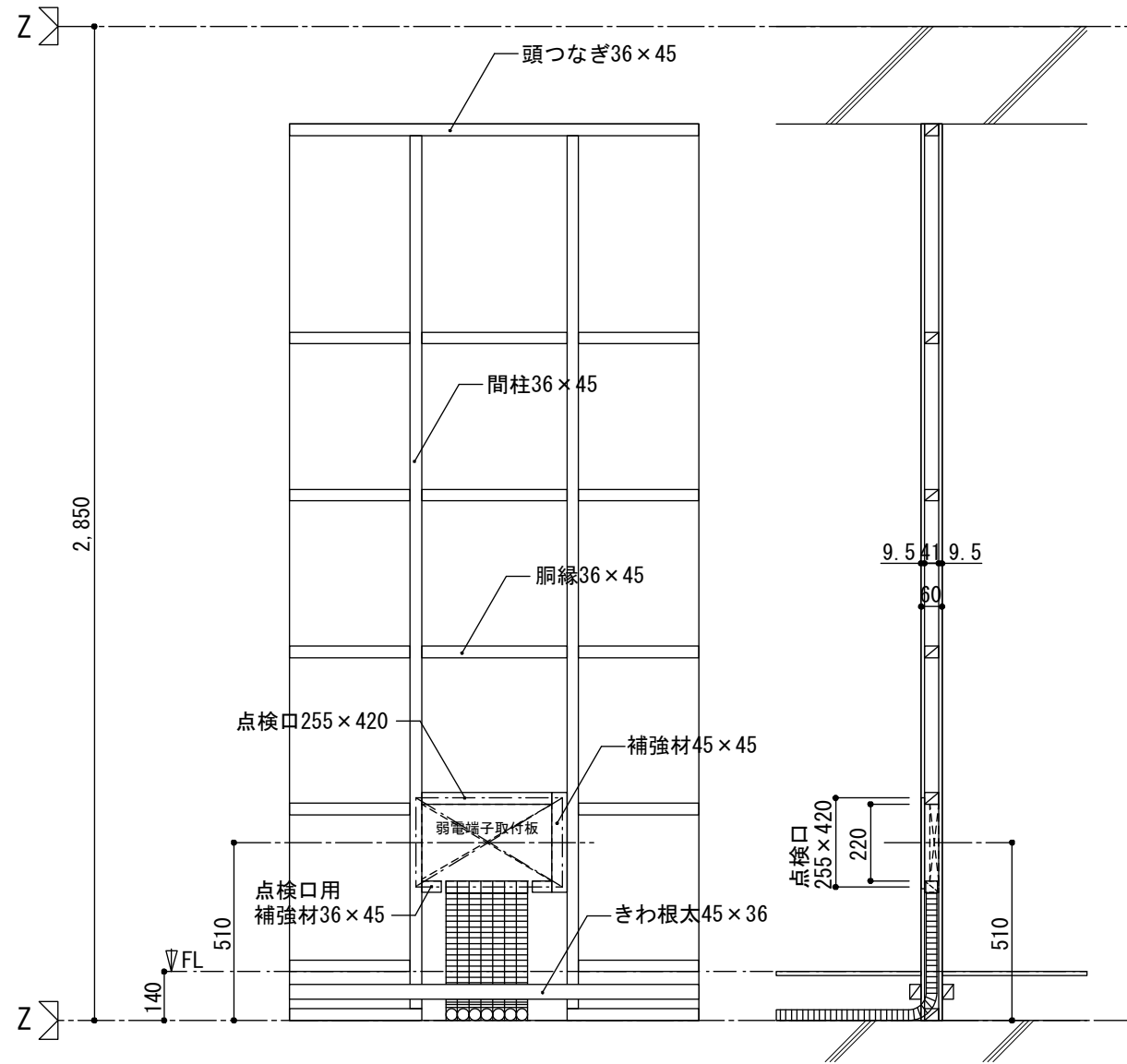
平面図 1:30

**【附記事項】**  
 ・W1. W2. Hは建物設計図による。  
 ・断熱補強の有無は建物設計図による。

<b>【仕様】</b>	<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	名称	防露壁部分ボックス廻り	
<b>【附記事項】</b> ・W1. W2. Hは建物設計図による。 ・断熱補強の有無は建物設計図による。	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第1版(追) H. 17. 12. 1 ・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1:20	AI - 137 - 4 頁 I-21



平面図 1:20



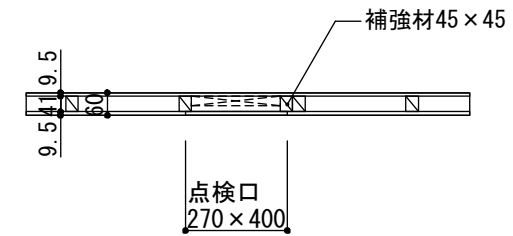
軸組図 1:20

断面図 1:20

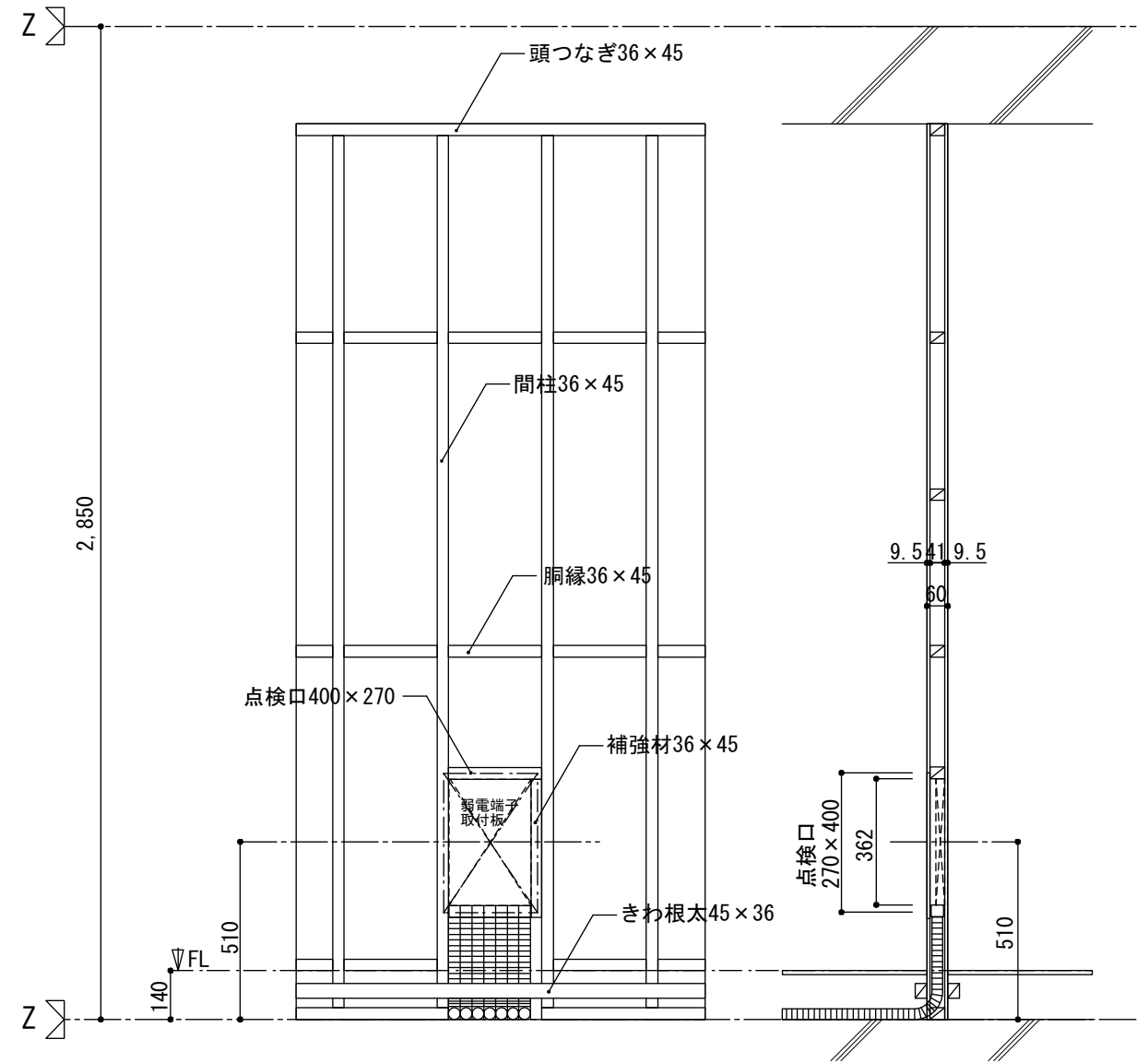
(間柱、胴縁共@450内外の場合)

【仕様】  
・点検口の種類は AI-902 による。

【附記事項】  
・点検口を床に設ける場合、点検口の大きさは450×300mmを標準とし設置位置は電気設備との協議による。



平面図 1:20



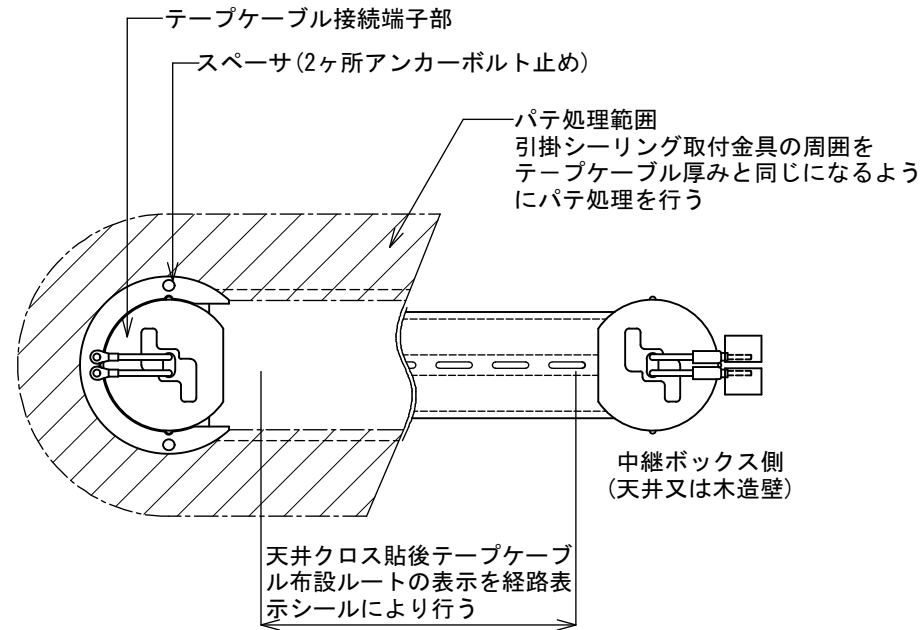
軸組図 1:20

断面図 1:20

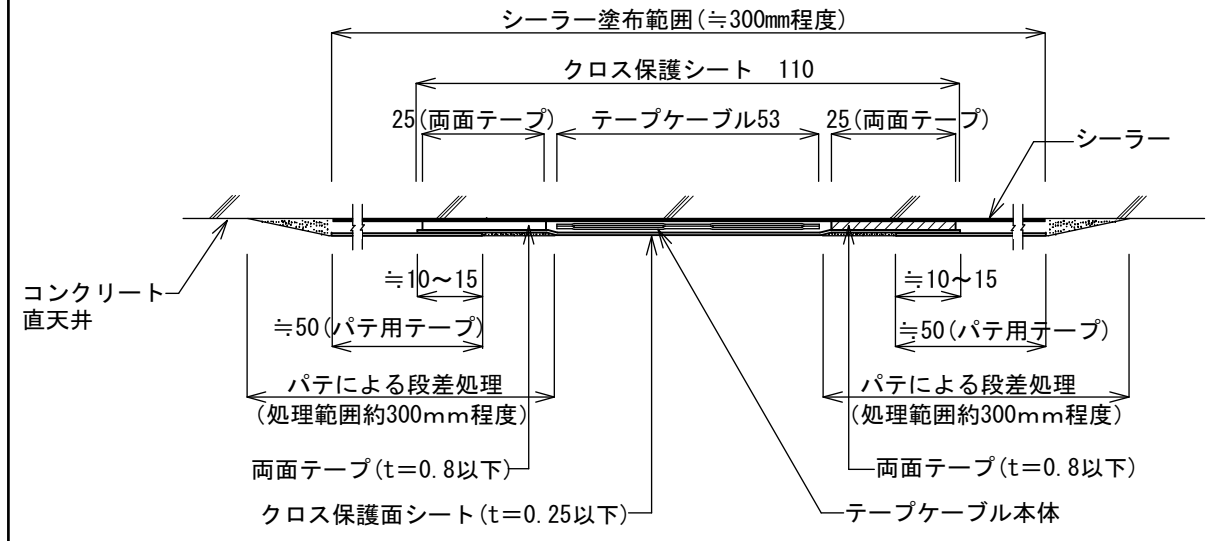
(間柱@300内外、胴縁@900内外の場合)

【改訂事項(公団住宅)】  
【改訂事項(機構住宅)】  
・第1版(追) H. 17. 12. 1  
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	床下配線方式木造壁廻り (弱電端子取付廻り)		
縮尺	1:20	AI-137-5	頁 I-22



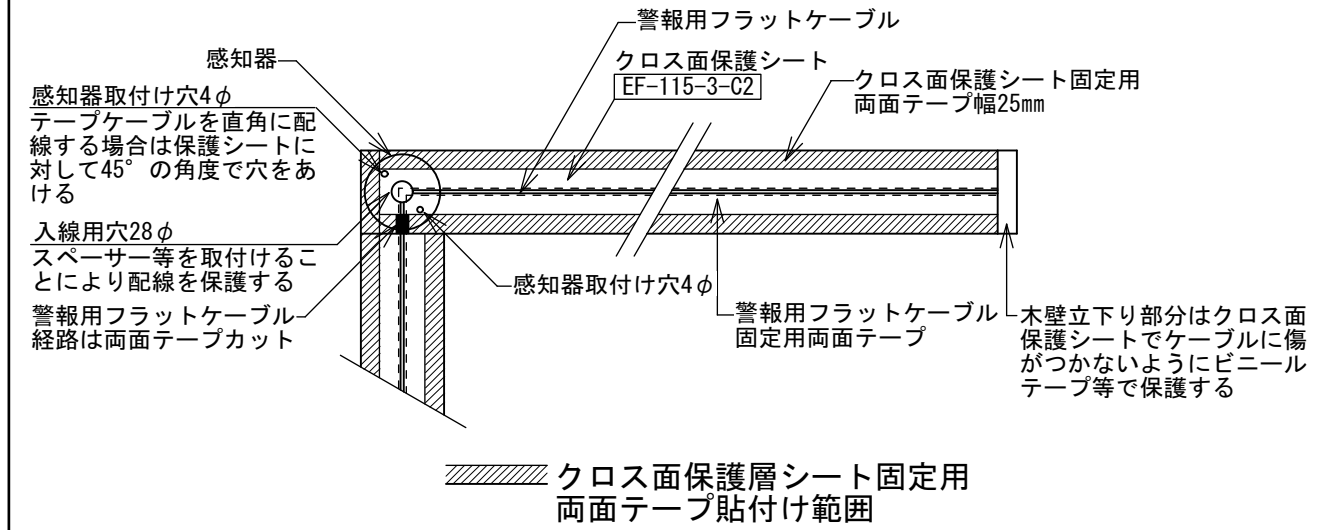
クロス面保護シート布設後のパテ処理範囲



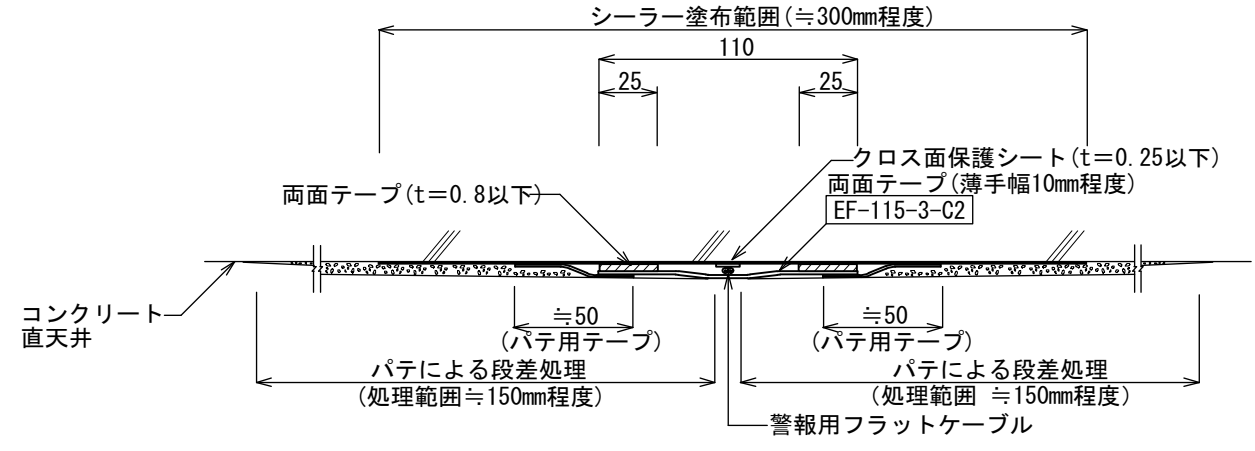
テープケーブル施工要領断面図

施工区分	
コンクリート素地シーラー塗布	電気設備工事
テープケーブル本体、クロス面保護シートの布設(両面テープ及び経路表示シール含む)	
パテ用テープ布設	建築工事
パテ処理	
天井クロス貼り	

【仕様】 【附記事項】



クロス面保護層シート固定用両面テープ貼付け範囲

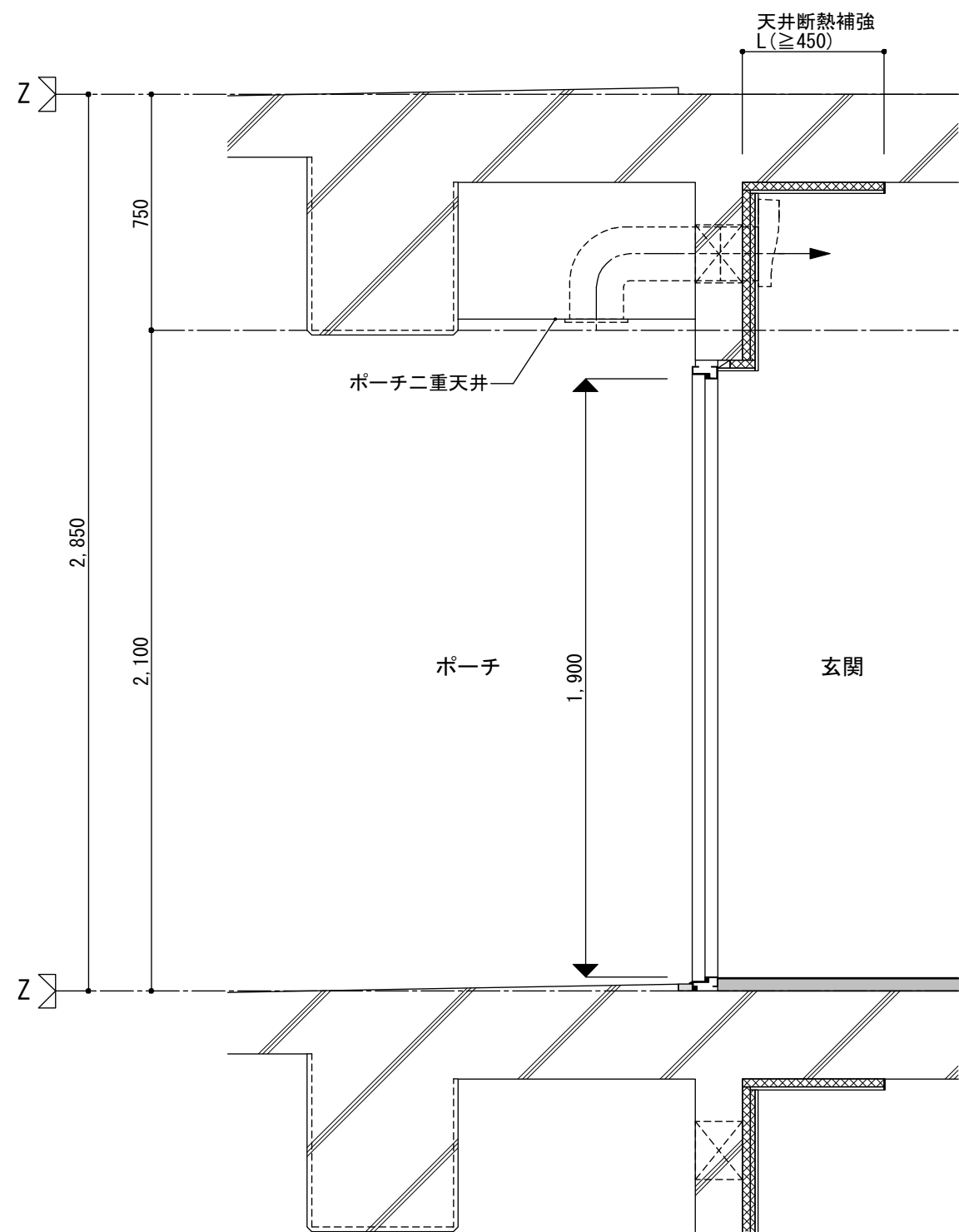


警報用テープケーブル施工要領図

施工区分	
コンクリート素地シーラー塗布	電気設備工事
警報用フラットケーブル、クロス面保護シートの布設(両面テープ含む)	
パテ用テープ布設	建築工事
パテ処理	
天井クロス貼り	

【改訂事項(公団住宅)】 【改訂事項(機構住宅)】

名称	テープケーブル廻り詳細図 (電灯用2芯・警報用) (施工要領図)	
縮尺	AI - 138	頁 I-23



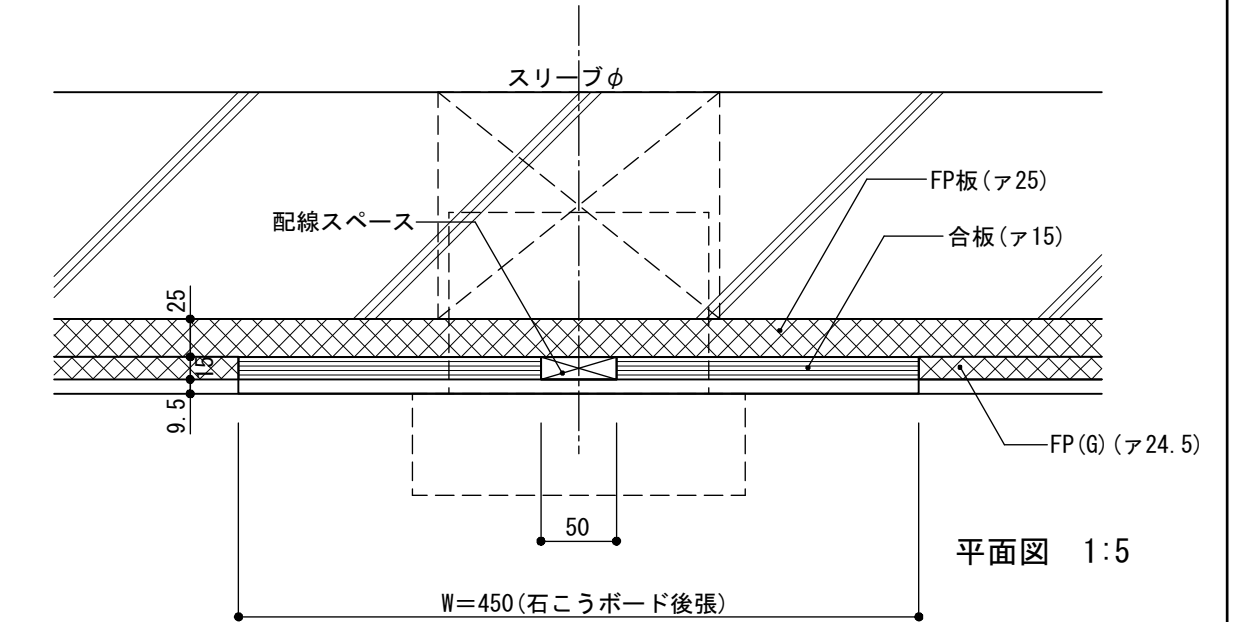
断面図 1:20

【仕様】

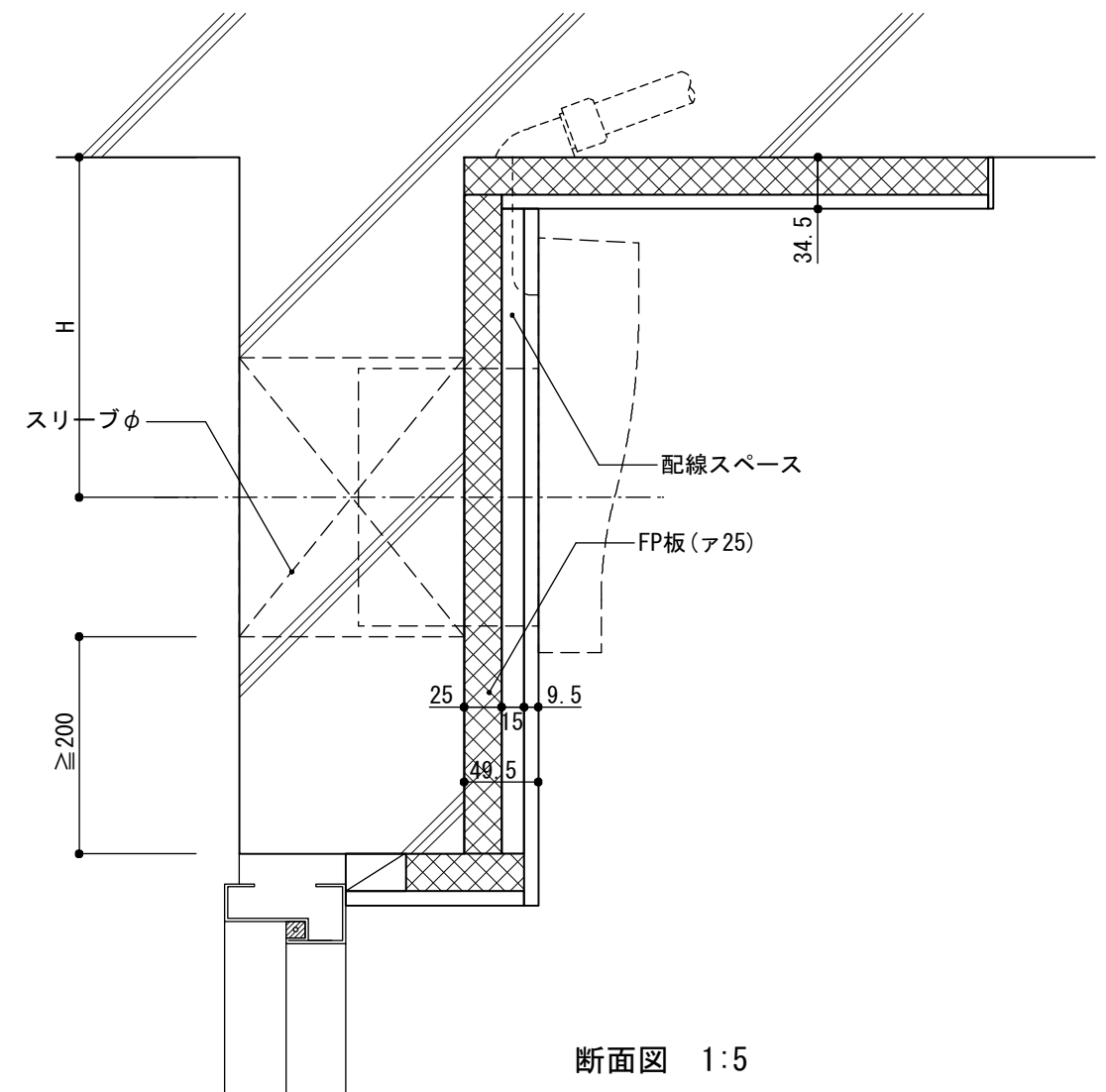
・スリーブ径φ、取付高さHは建物設計図による。

【附記事項】

・天井断熱補強は AE-701 による。



平面図 1:5



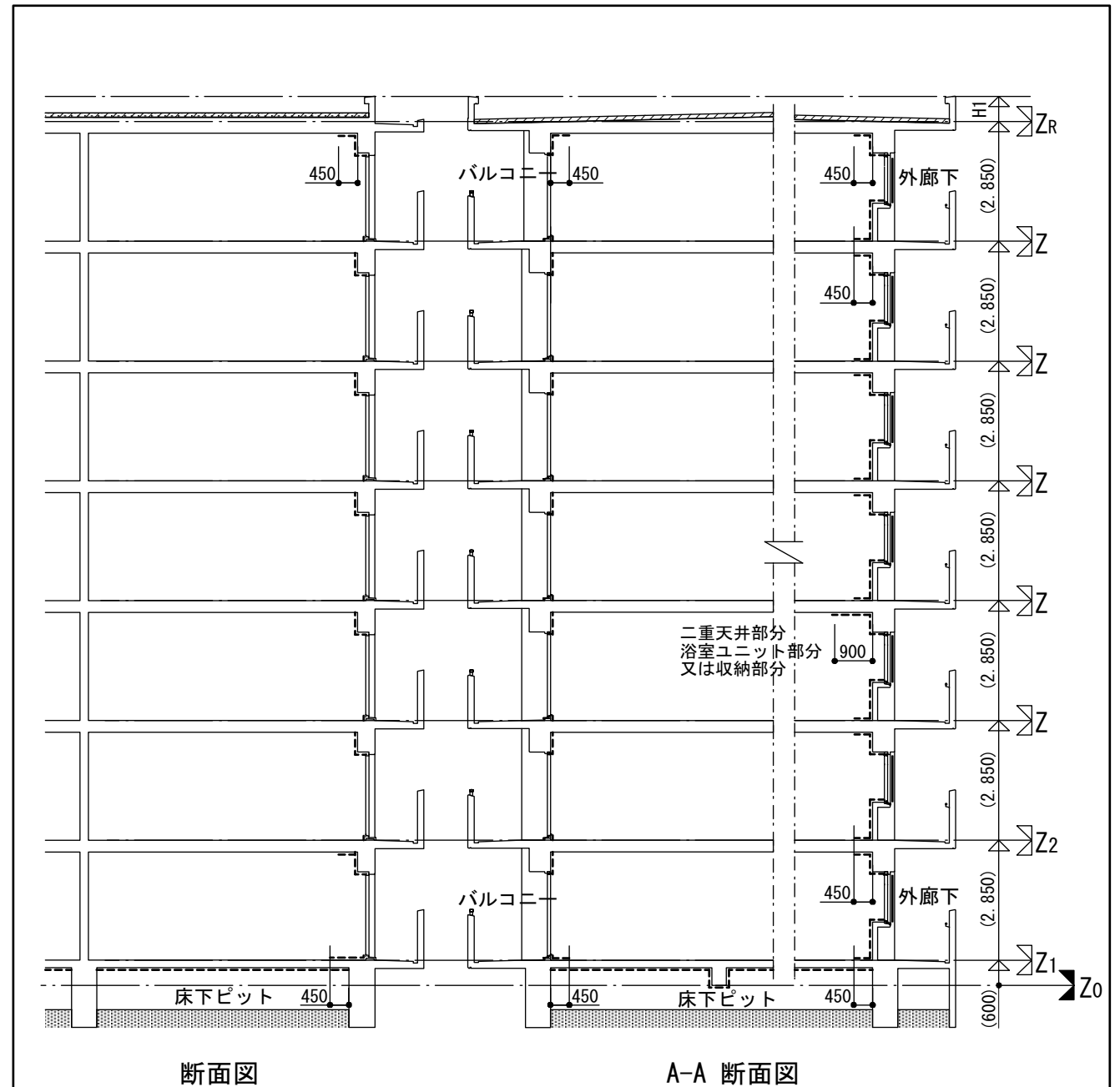
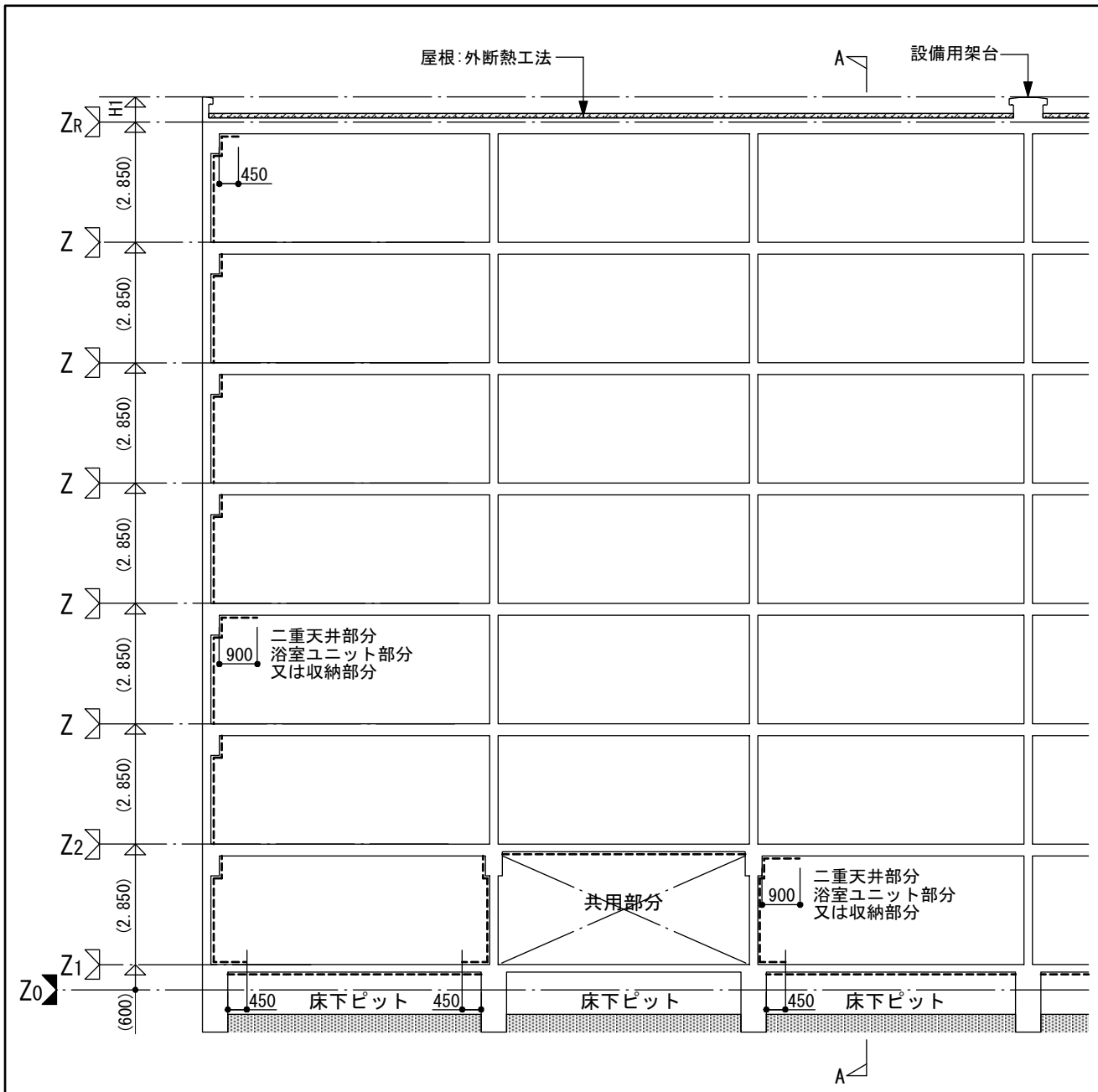
断面図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第1版(追) H. 17. 12. 1
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	給気用ダンパー (電源ボックス取付廻り)		
縮尺	1:5 1:20	AI - 139	頁 I-24



断面図

A-A 断面図

【仕様】

- ・外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置
- 最低限行うべき断熱措置は下記のとおり
- イ) 屋根：外断熱工法により、 $r=1.4\text{m}^2\text{K/W}$ 以上の断熱措置を行う。(rは $20^\circ\text{C}$ における熱伝達抵抗値)
- ロ) 外壁：内断熱により以下に示す断熱措置を行う。使用する断熱材の熱伝導率は $0.029\text{W/mK}$ 以下とする。
  - (a) (b)を除く全ての外壁内面
    - ：ポリスチレンフォーム25mm
  - (b) 押入・浴室ユニットまわり
    - ：ポリスチレンフォーム40mm
- ハ) 一階床及び外気とみなされる部分の直上階住戸床
  - ・ $r=0.86\text{m}^2\text{K/W}$ 以上の断熱措置を行う。
  - ・土間床の場合には外断熱とし、あわせて床上への防湿対策を行う。

・結露防止の対策として必要な断熱補強

- 以下に示す断熱措置を行う。  
使用する断熱材の熱伝導率は $0.029\text{W/mK}$ 以下とする。
- (1)：(2)及び(3)を除く北側の躯体天井・梁面、床面（玄関土間除く）の外壁または梁から450mmの範囲（ただし、3辺が外気に面する部分の天井は全面）：ポリスチレンフォーム 25mm
  - (2)：押入・物入・浴室ユニット部の外壁または梁から900mmの範囲の躯体梁面、壁面
    - ：ポリスチレンフォーム 40mm
  - (3)：押入・物入・浴室ユニット部・二重天井内の外壁または梁から900mmの範囲の躯体天井面
    - ：ポリスチレンフォーム 25mm

【附記事項】

- ・本図は「外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置」及び「結露防止の対策として必要な断熱補強」の範囲を示したものである（外廊下側が北側の場合）。この他に住宅設計標準仕様に基づき、断熱等性能等級4及び一次エネルギー消費量等級4を満たす為に必要な断熱措置を行うこと。
- ・本図における一階床及び外気とみなされる部分の直上階住戸床の断熱措置はスラブ下から行った場合を示す。
- ・壁、天井（スラブ下）及び床（スラブ上）の断熱補強はAI-141-2, AI-141-3による。

【凡例】

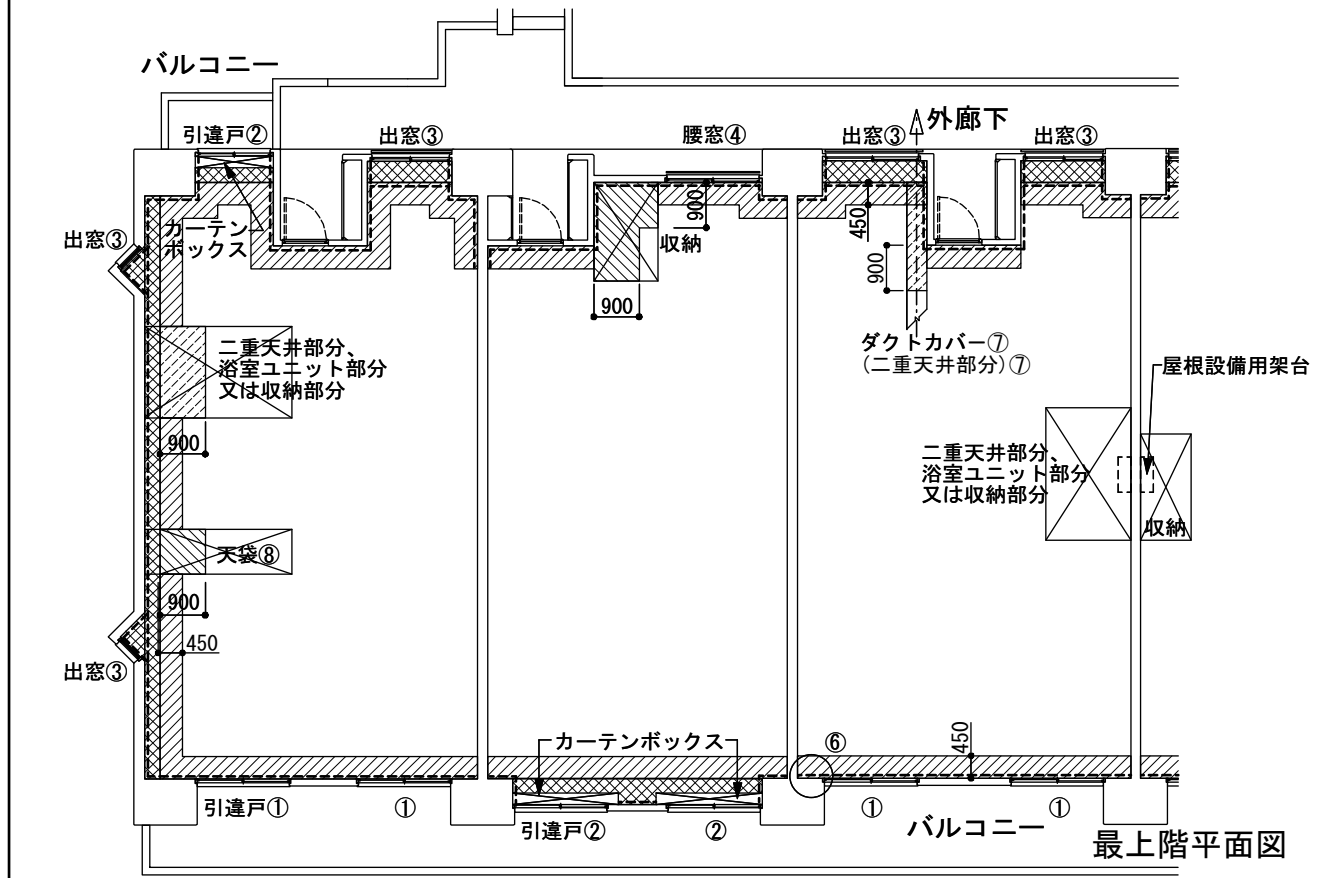
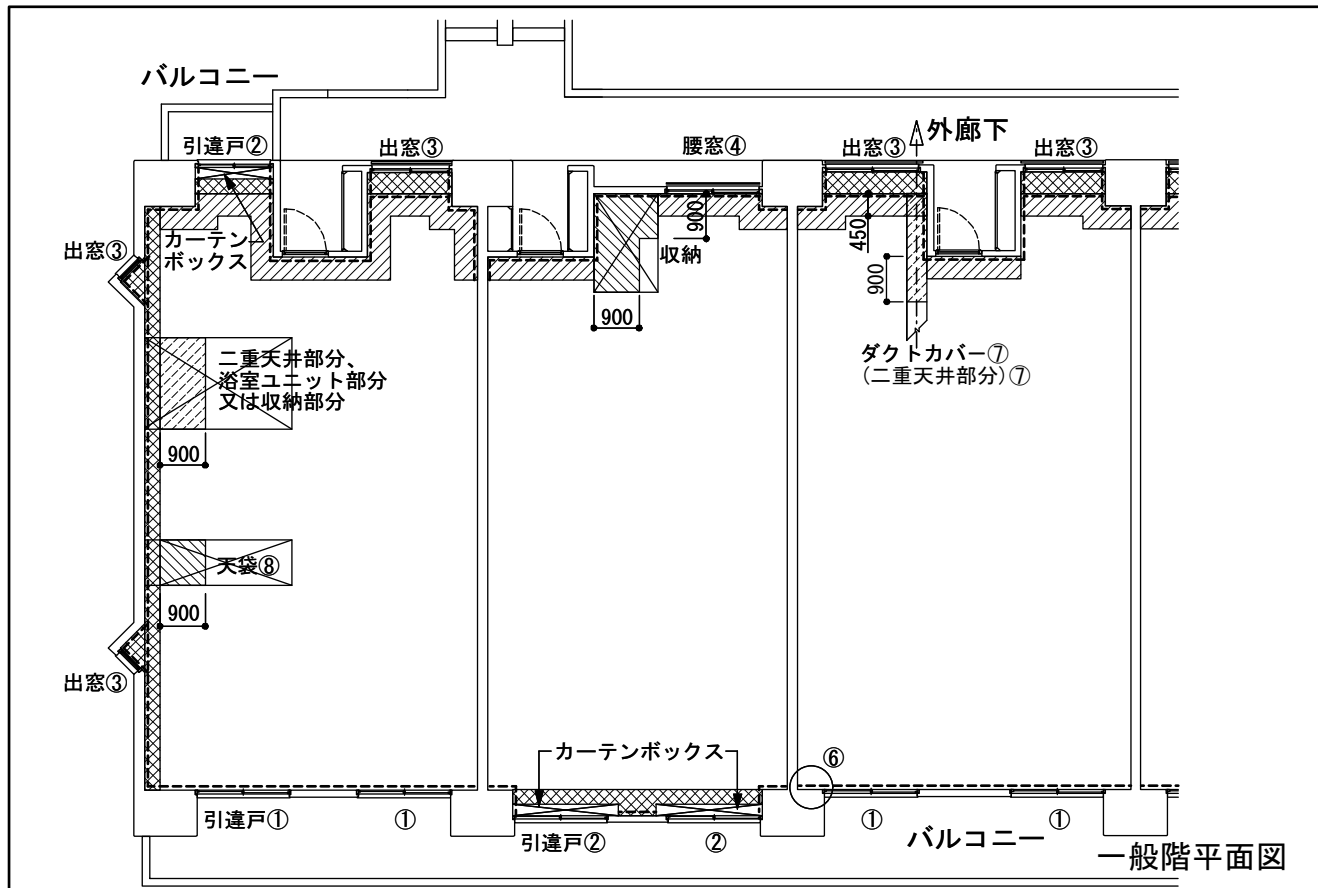
- ・防露壁、断熱補強 -----
- ・屋根外断熱工法AE-301
- ・1階床下廻りAI-101-1, AI-101-2
- ・2階床トレンチピット等廻りAI-102-1, AI-102-2
- ・防露壁廻りAI-142
- ・防露天井廻り AI-143
- ・二重天井の場合 AI-602
- ・収納直天井の場合 AI-301(準)
- ・プラスチックピンの本数 AI-143

【改訂事項(公団住宅)】

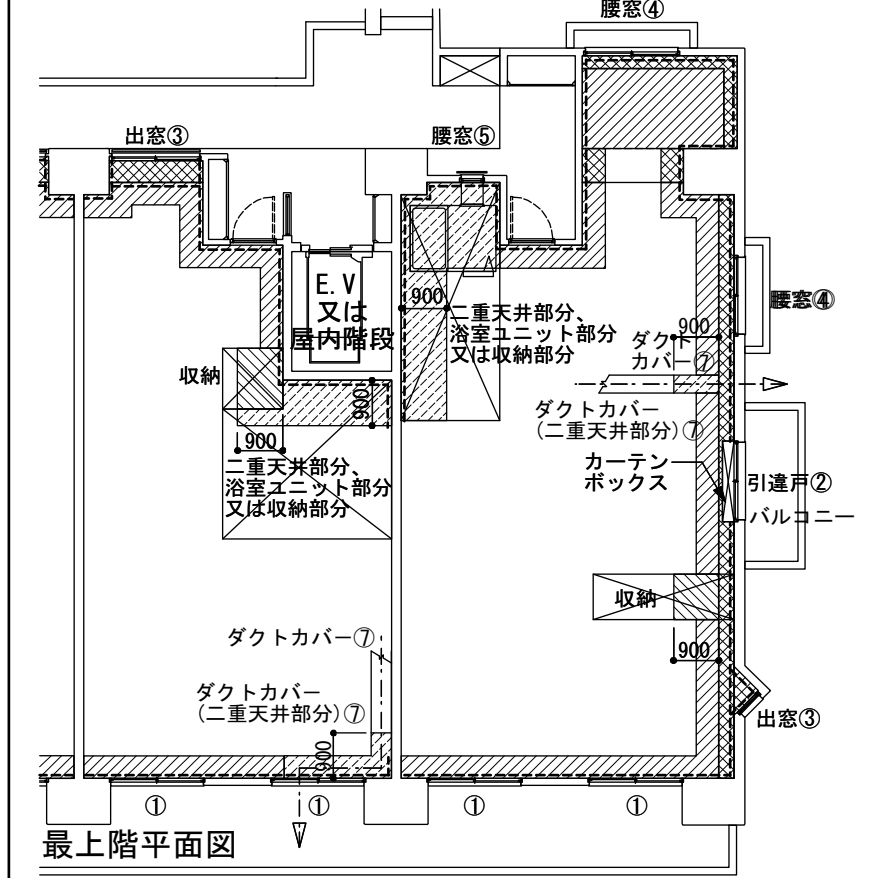
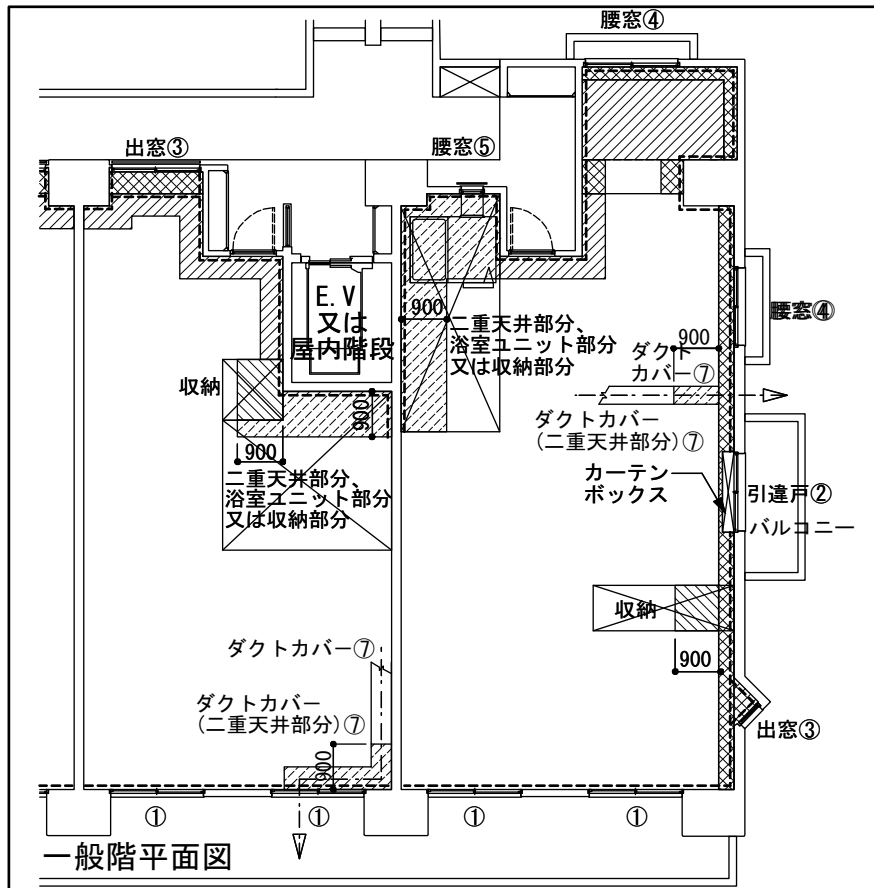
【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	防露案内図	
縮尺	AI - 141 - 1	頁 I-24





【仕様】  
 ・「外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置」及び「結露防止の対策として必要な断熱補強」についての【仕様】はAI-141-1による。



- 【凡例】
- ・防露壁
  - ・梁下、梁側面防露部分 AI-142
  - ・防露天井廻り AI-143
  - ・二重天井の場合 AI-602
  - ・収納直天井の場合 AI-301(準)
  - ・プラスチックピンの本数 AI-143

・上記の他に断熱措置を行う場合の各部の標準的な詳細図は下記による。実際の断熱措置の材料と範囲は特記及び設計図による。

- ① 引違戸(内付) AE-711
- ② 引違戸(外付) AE-712
- ③ 出窓 AE-735
- ④ 腰窓(引違窓) AE-731
- ⑤ 腰窓(小窓) AI-706
- ⑥ コンセント廻り AI-136
- ⑦ ダクトカバー AI-163
- ⑧ 天袋 AI-211, 212

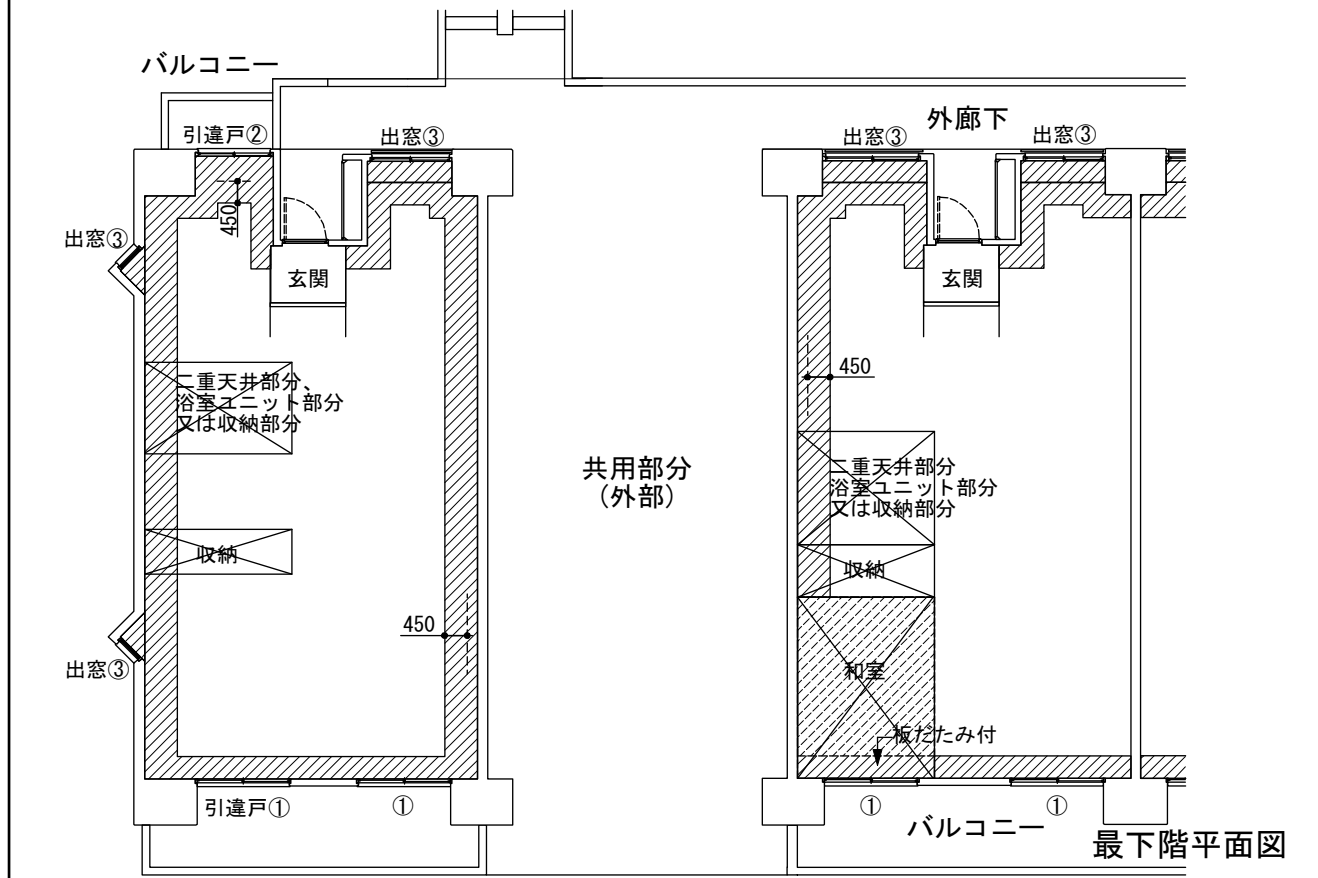
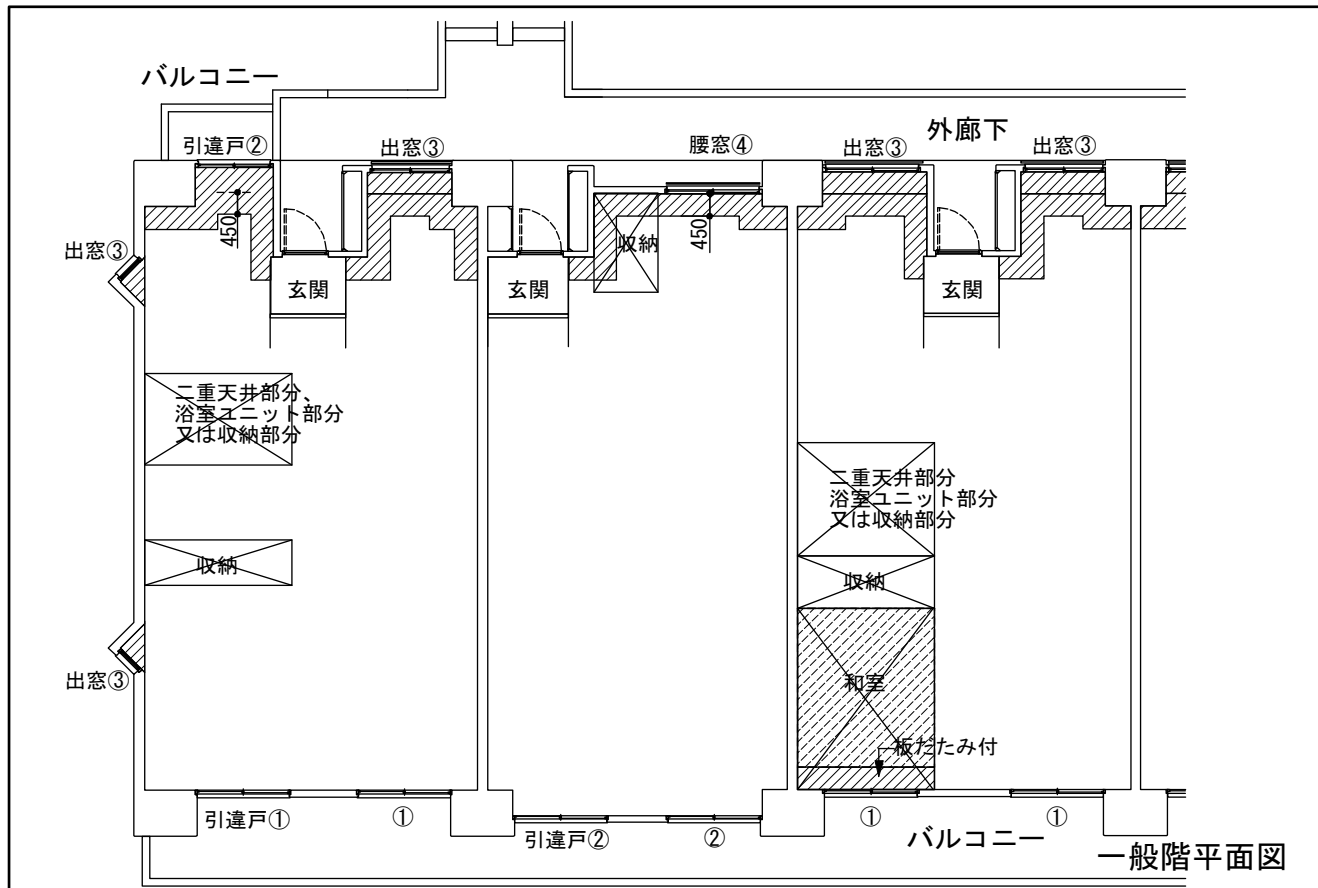
【附記事項】

・本図は「外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置」及び「結露防止の対策として必要な断熱補強」の範囲のうち、壁・天井に係る部分を示したものである(外廊下側が北側の場合)。この他に住宅設計標準仕様に基づき、断熱等性能等級4及び一次エネルギー消費量等級4を満たす為に必要な断熱措置を行うこと。

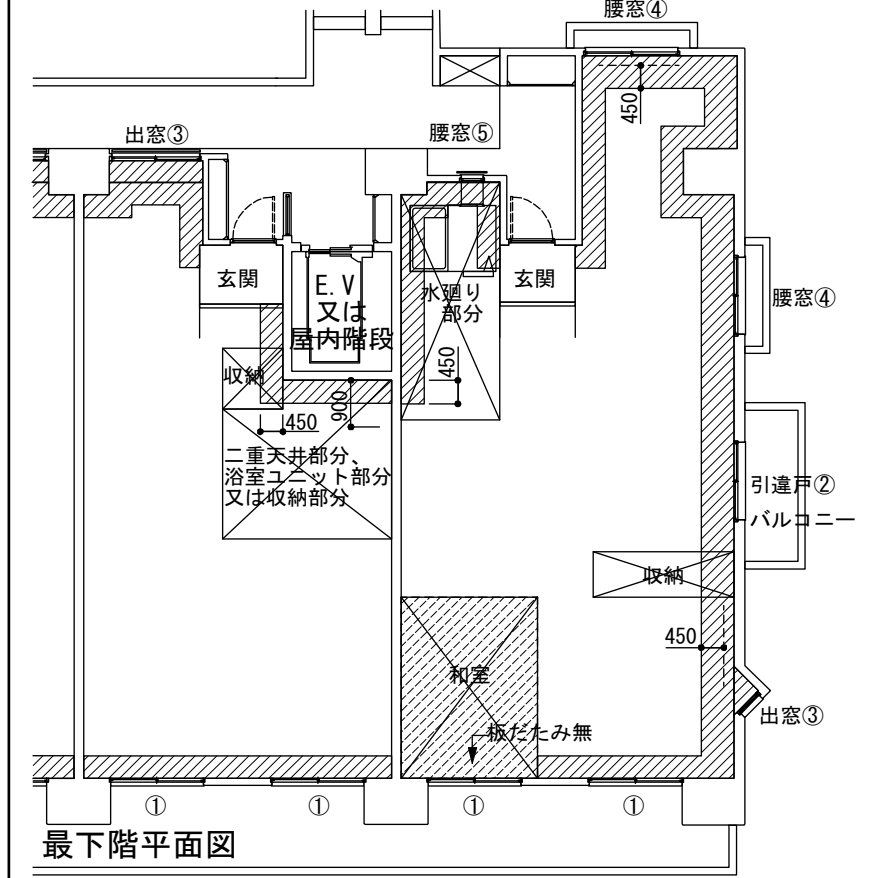
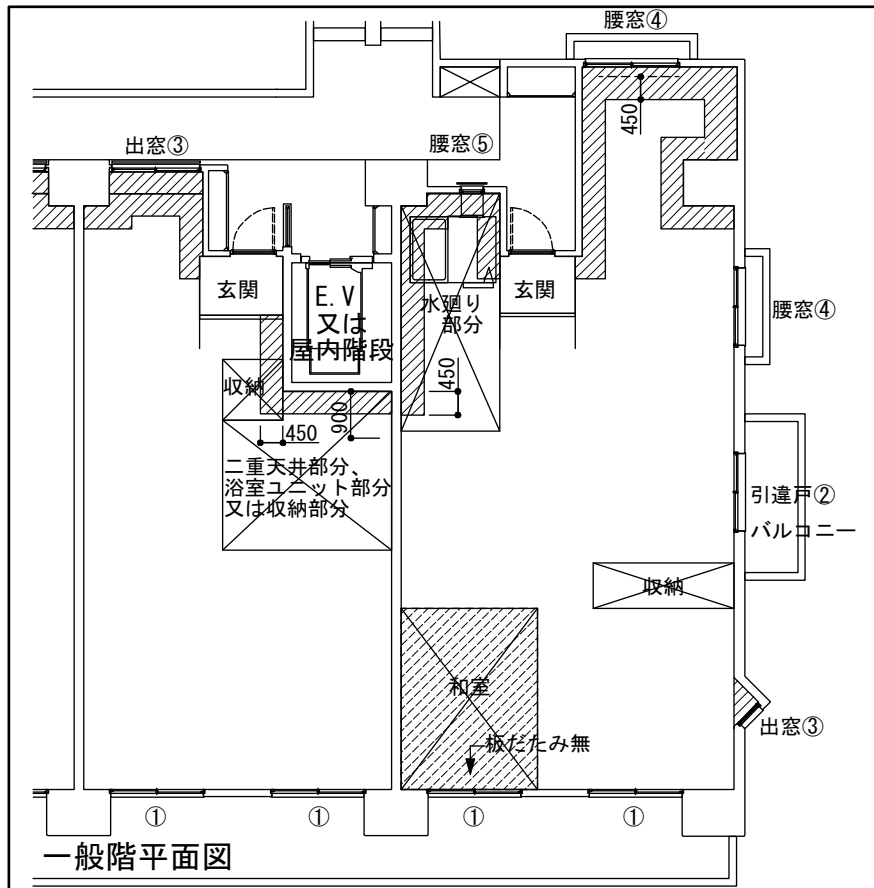
・範囲は意匠上の納まりを考慮の上決定すること。

- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・第5版(追) H. 16. 8. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- ・第2版 H. 21. 12. 1
  - ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	防露案内図[一般階・最上階] 壁・天井(スラブ下)断熱補強	
縮尺	AI - 141 - 2	頁 I-25



**【仕様】**  
 ・「外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置」及び「結露防止の対策として必要な断熱補強」についての【仕様】は AI-141-1 による。



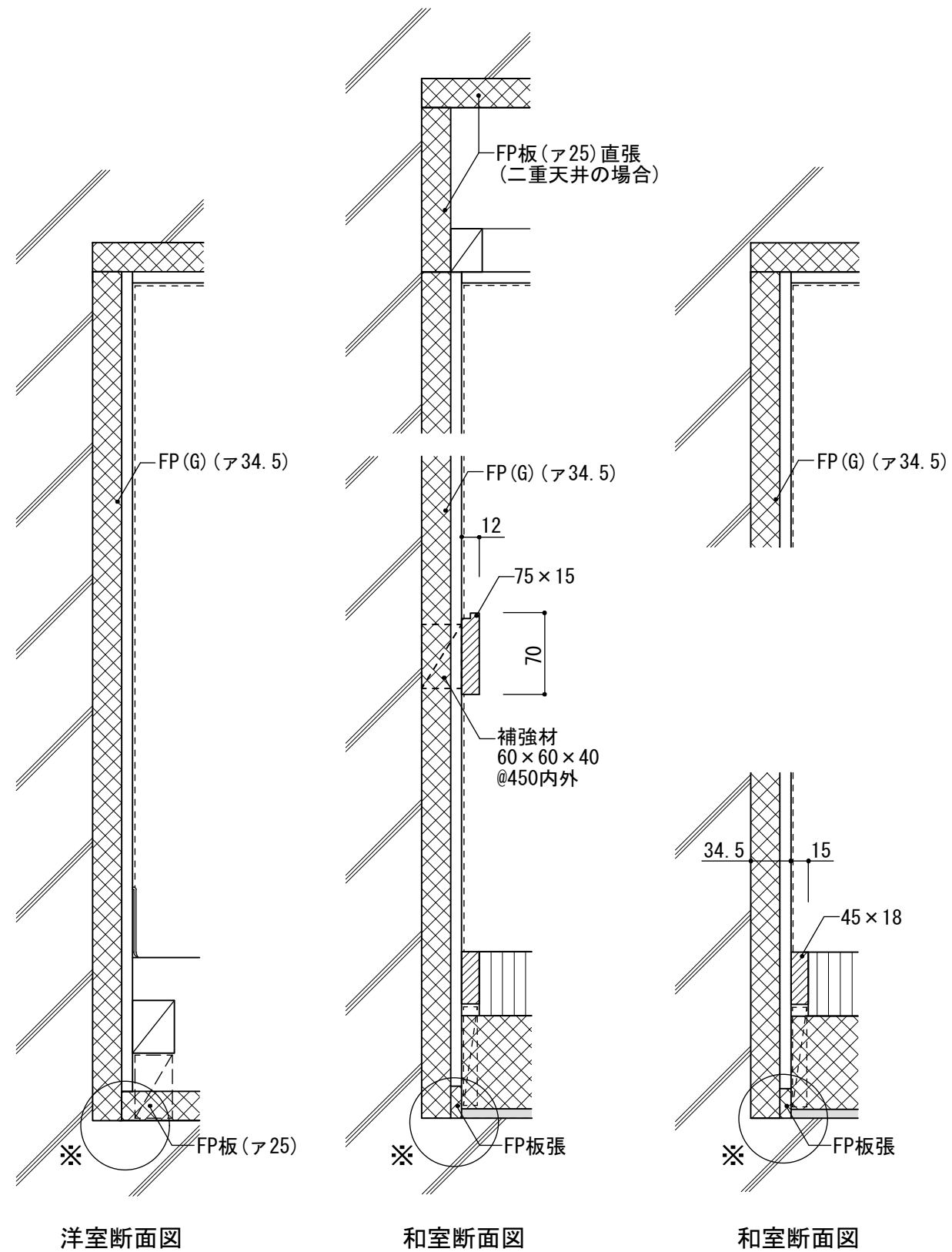
- 【凡例】**
- ・FP板 $\alpha$ 25敷込 AE-711
  - ・発泡プラスチック系床下地材 AI-111・AI-112
  - ・上記の他に断熱措置を行う場合の各部の標準的な詳細図は下記による。実際の断熱措置の材料と範囲は特記及び設計図による。
- ① 引違戸(内付) AE-711  
 ② 引違戸(外付) AE-712  
 ③ 出窓 AE-735  
 ④ 腰窓(引違窓) AE-731  
 ⑤ 腰窓(小窓) AI-706  
 ⑥ コンセント廻り AI-136

**【附記事項】**  
 ・本図は「外皮平均熱貫流率の基準値を満たすために各部で最低限行うべき断熱措置」及び「結露防止の対策として必要な断熱補強」の範囲のうち、壁・天井に係る部分を示したものである(外廊下側が北側の場合)。この他に住宅設計標準仕様に基づき、断熱等性能等級4及び一次エネルギー消費量等級4を満たす為に必要な断熱措置を行うこと。  
 ・範囲は意匠上の納まりを考慮の上決定すること。

**【改訂事項(公団住宅)】**  
 ・第5版(追) H. 16. 8. 1

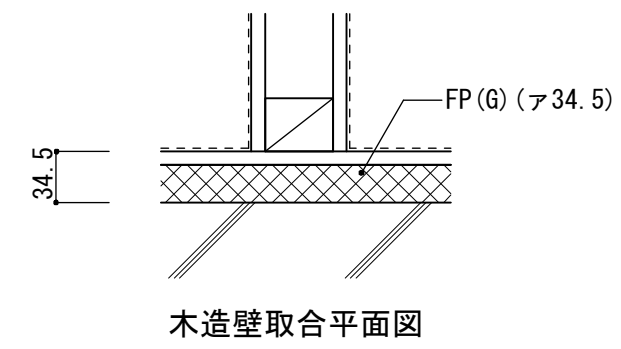
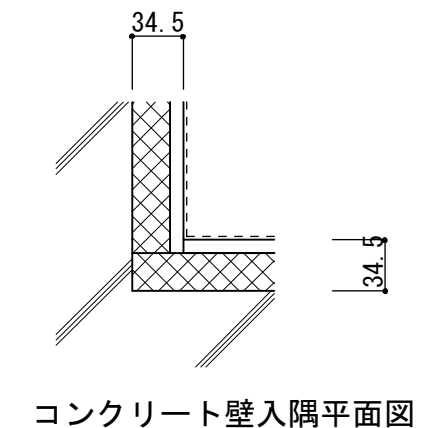
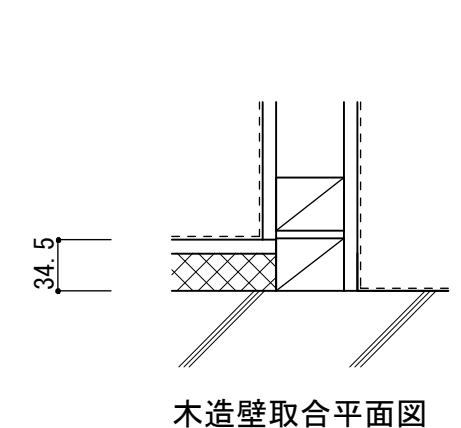
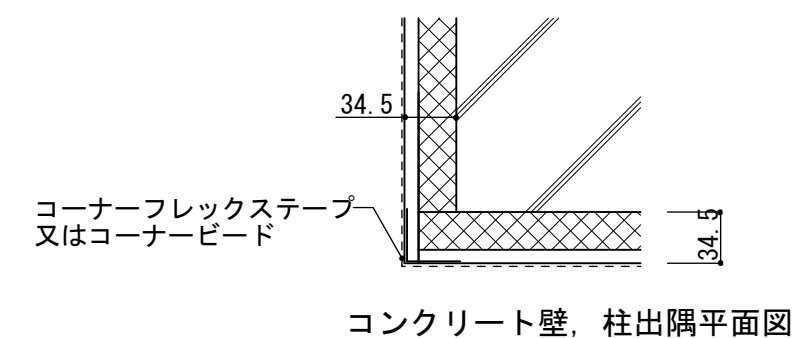
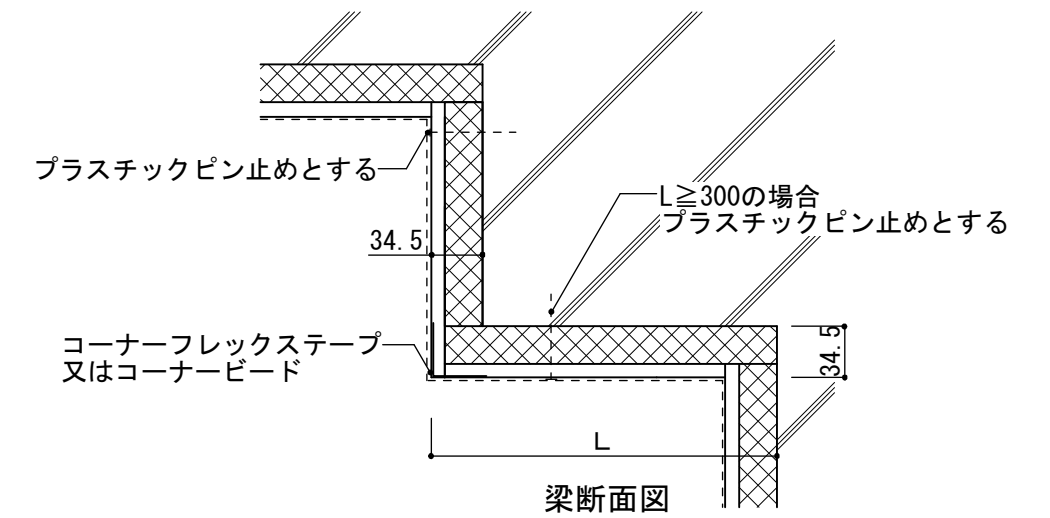
**【改訂事項(機構住宅)】**  
 ・第2版 H. 21. 12. 1  
 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	防露案内図[一般階・最下階] 床(スラブ上)断熱補強	
縮尺	AI - 141 - 3	頁 I-26



【仕様】  
 ・木造見え掛かりはつぶし釘打ちとする。  
 ・プラスチックピンの本数は AI-143 による。

【附記事項】  
 ・※:石こうボードへの湿気の吸込みを防ぐため端部石こうボードに欠込みを行う。石こうボードの欠込み部分には断熱補強のためFP板で補強を行う。



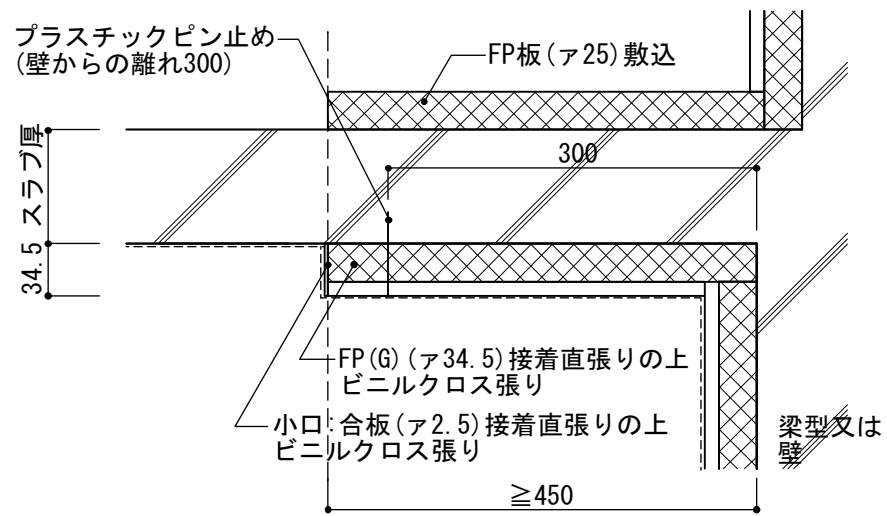
【改訂事項(公団住宅)】  
 ・第2版 S. 61. 12. 1  
 ・第3版 H. 4. 12. 1  
 ・第4版 H. 8. 10. 1  
 ・第5版 H. 13. 11. 1  
 ・第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
 ・第2版 H. 21. 12. 1

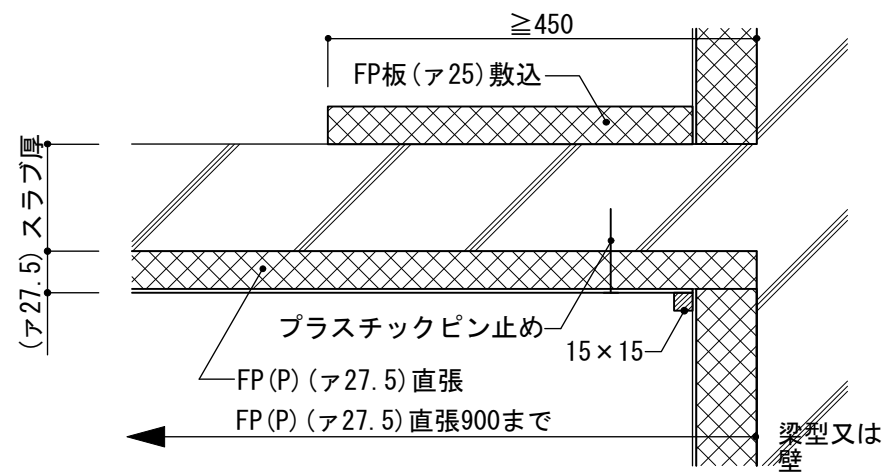
名称	防露壁S1-RC工法		
縮尺	1 : 5	AI - 142	頁 I-29

外周部のみ断熱材を張る場合（断熱補強）

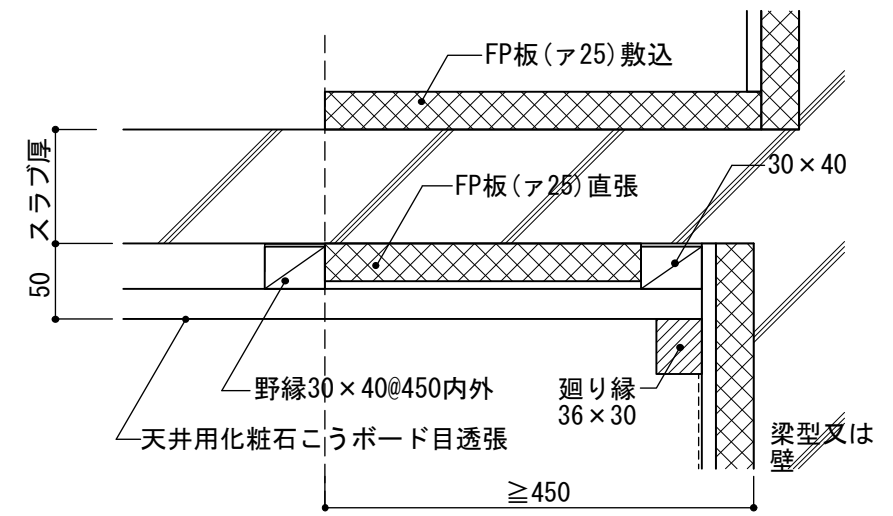
A 直張り天井廻り



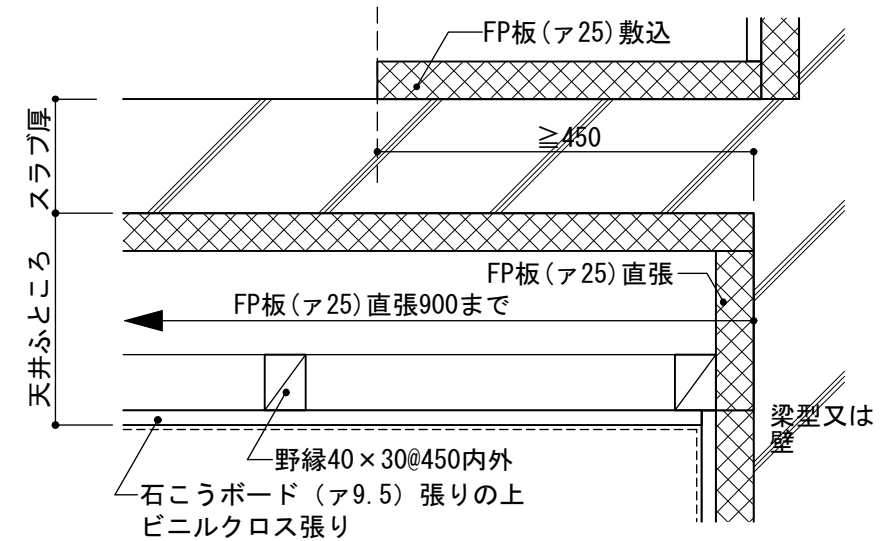
B 直張り天井廻り（収納）



C 二重天井廻り（和室）

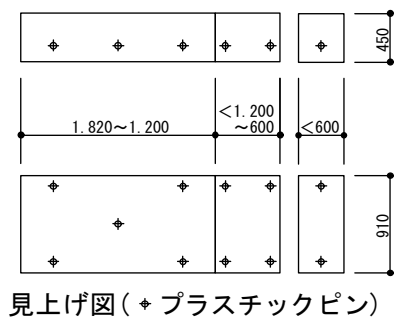


D 二重天井廻り（水廻り）



【仕様】

- ・FP (G) 34.5切断は工場加工とする。（見え掛かり出隅部分）
- ・野縁受金物は AI-161 による。
- ・二重天井廻りは AI-162 による。
- ・プラスチックピンの本数は右記による。



見上げ図（+プラスチックピン）

【附記事項】

- ・断熱補強の範囲は建物設計図による。（必要範囲は AI-141-1~3 参照）
- ・A. B. C. Dの使い分けについては建物設計図による。

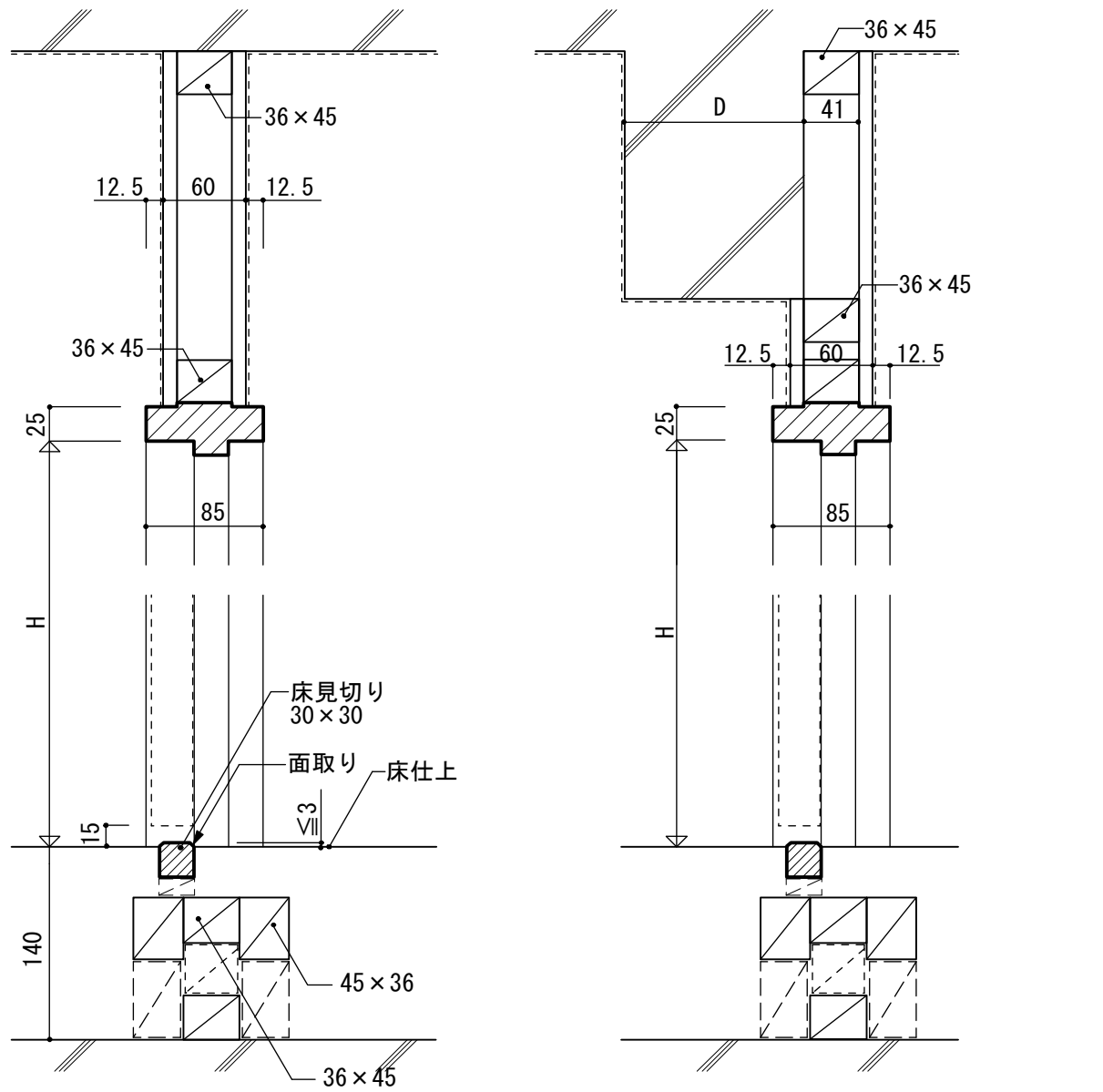
【改訂事項（公団住宅）】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版（追）H. 16. 8. 1

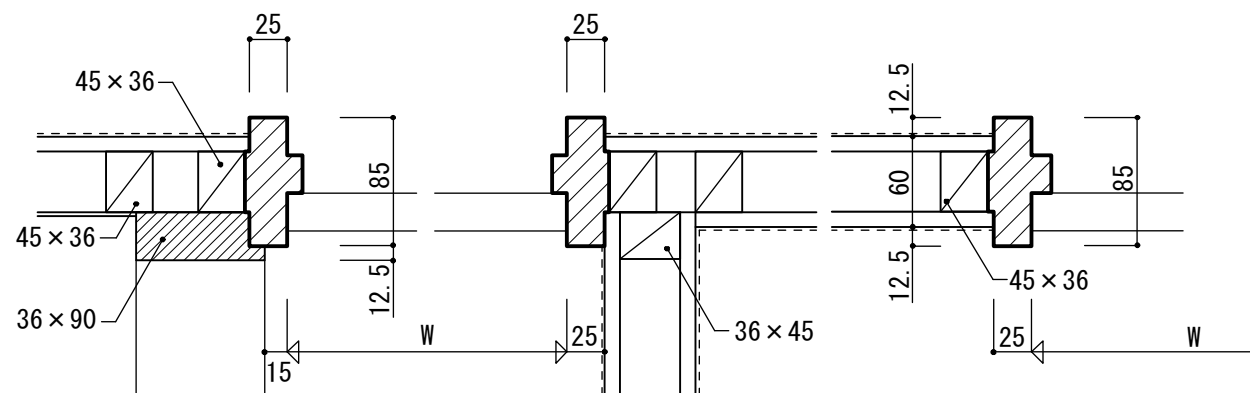
【改訂事項（機構住宅）】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	防露天井廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 143	頁 I-30



断面図



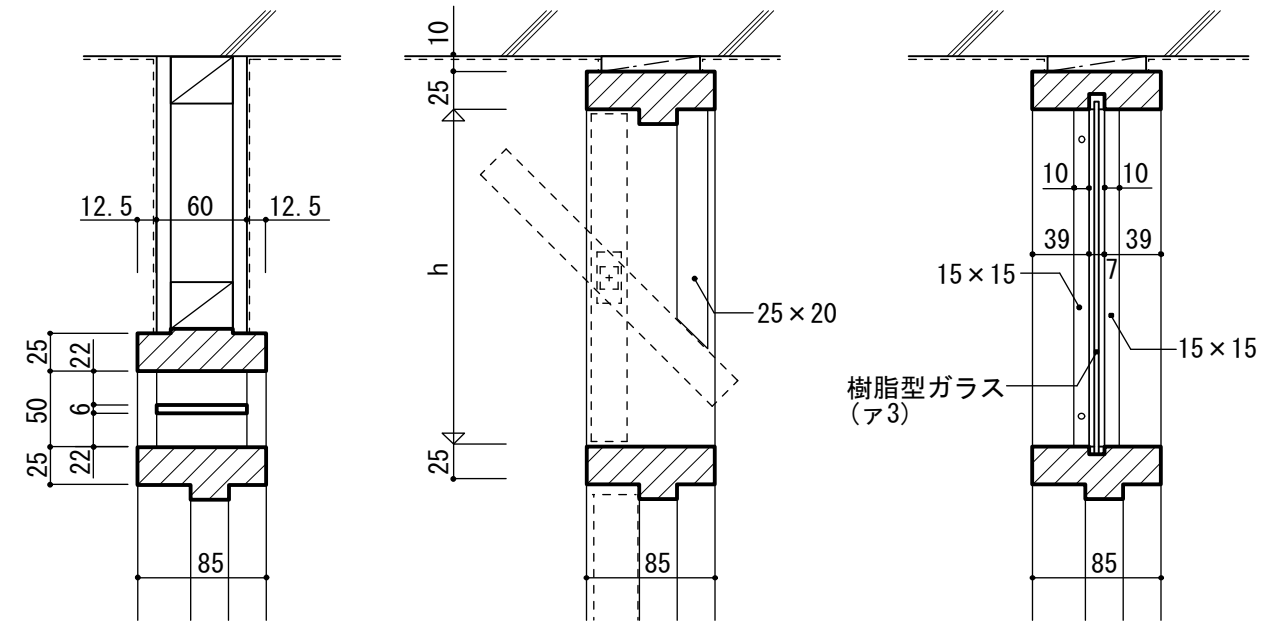
平面図

【仕様】

・回転ランマの金物は AF-204 による。

【附記事項】

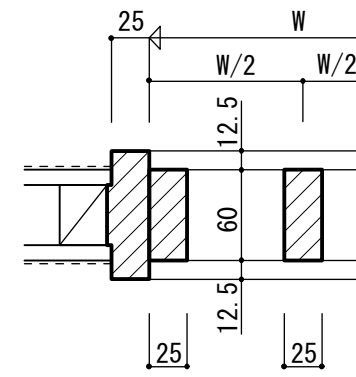
- ・D, W, H, hは建物設計図による。
- ・扉の付かない場合のわくは戸当りなしとする。
- ・回転ランマの引手は部屋内側を標準とする。



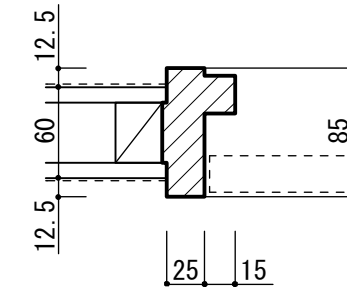
給気口ランマ断面図

回転ランマ断面図

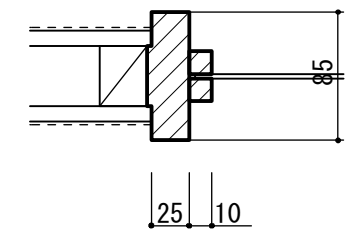
嵌殺しランマ断面図



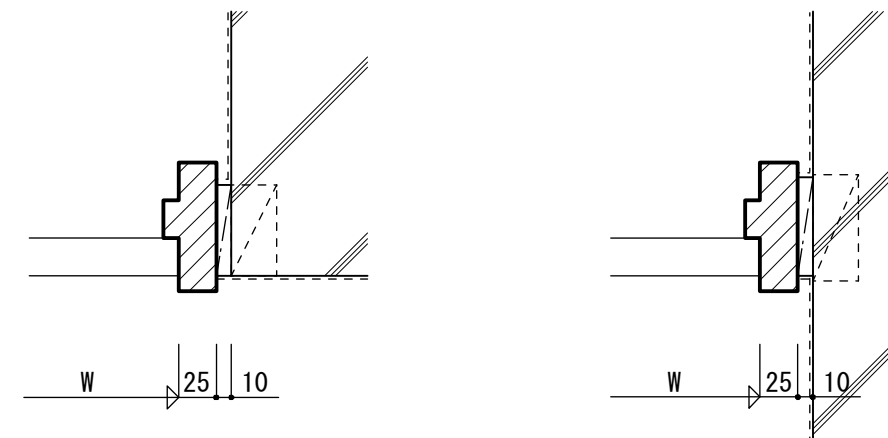
給気口ランマ平面図



回転ランマ平面図



嵌殺しランマ平面図



平面図

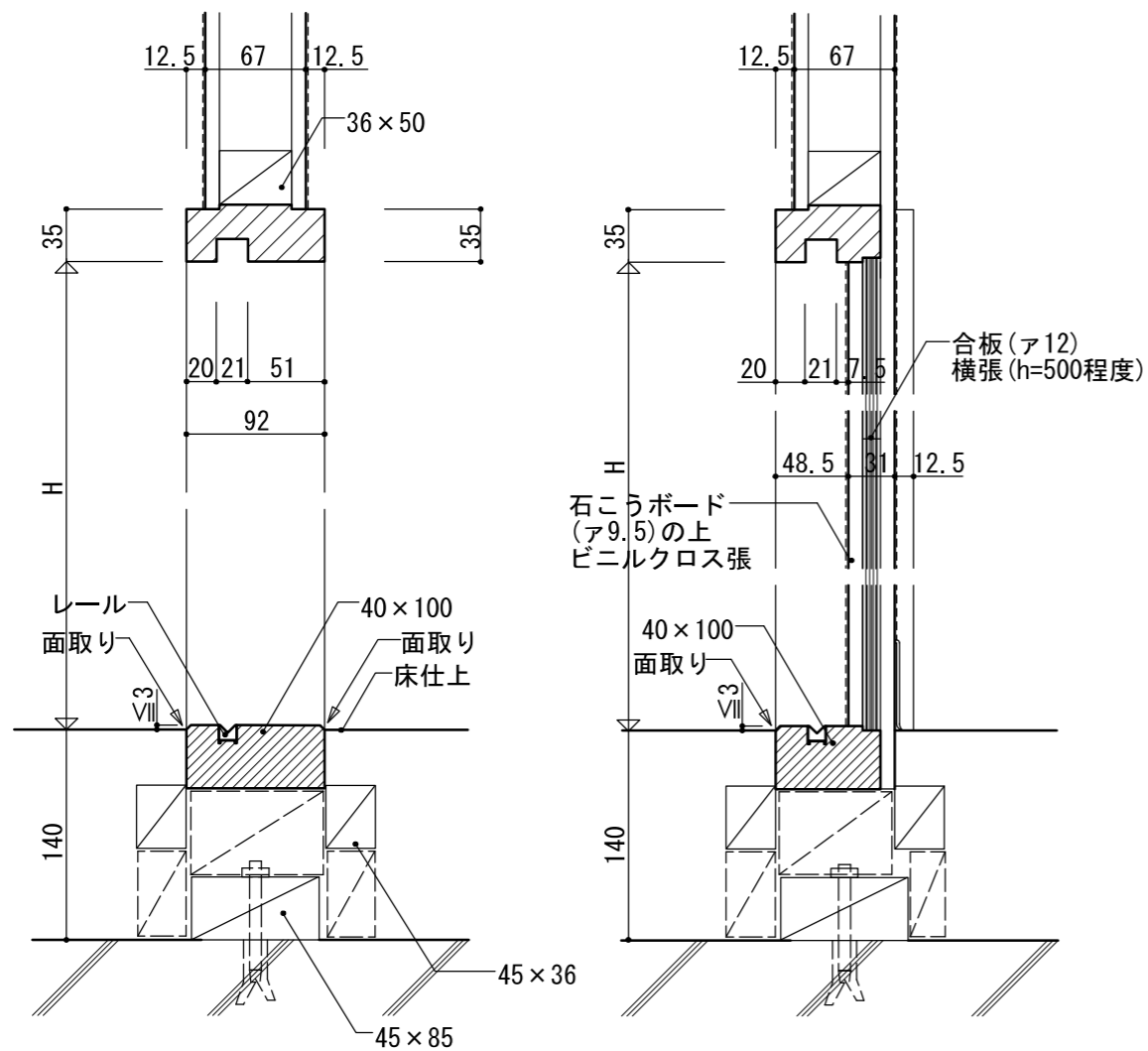
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

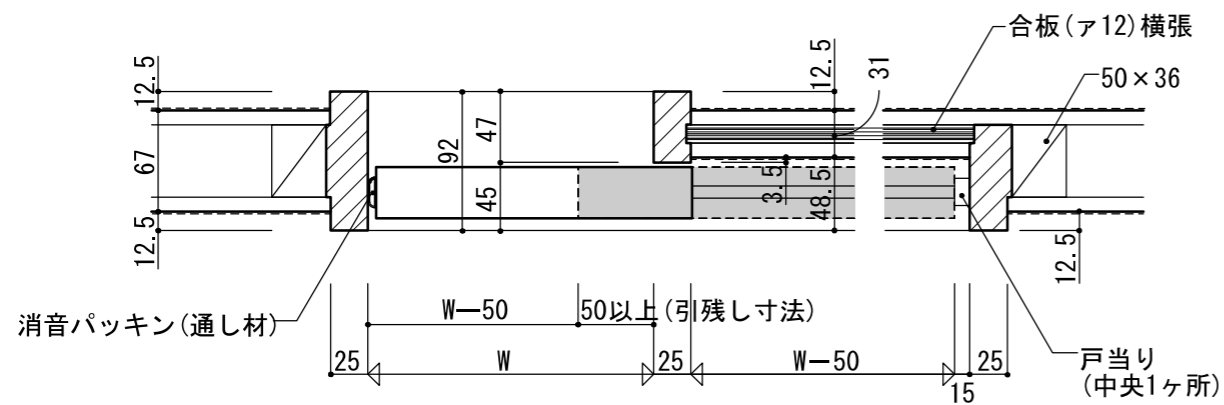
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

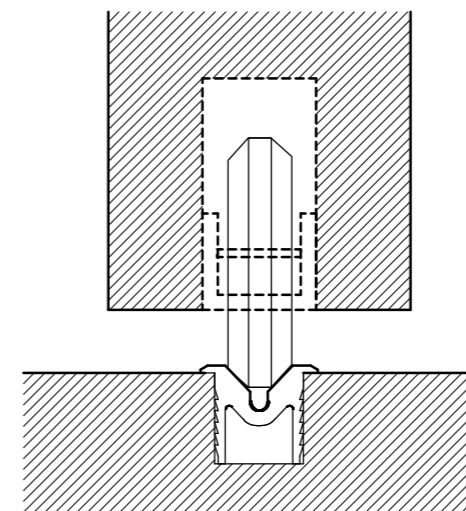
名称	木製片開戸わく廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 151	頁 I-31



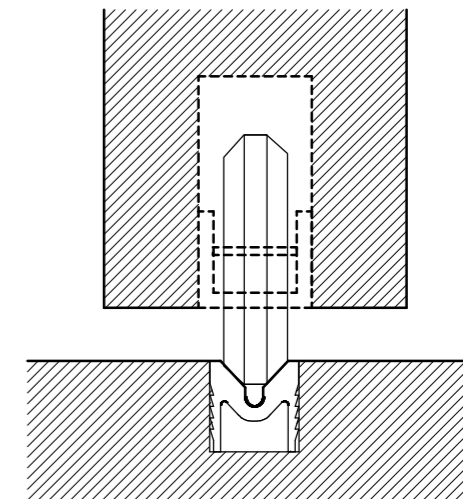
断面図



平面図



レール廻り(1)



レール廻り(2)

【仕様】

- ・戸車はサイレント型(ナイロン製)とし、レールとの接地面が多い物とする。
- ・戸袋壁の下地合板は、1枚当たりh=500程度に切断したものを使用する。

【附記事項】

- ・W、Hは建物設計図による。
- ・建具附属金物の仕様は AF-203・502 による。
- ・戸袋壁の裏側には補助手摺は取付けない。
- ・戸袋壁に巾木を取付ける場合は建物設計図による。

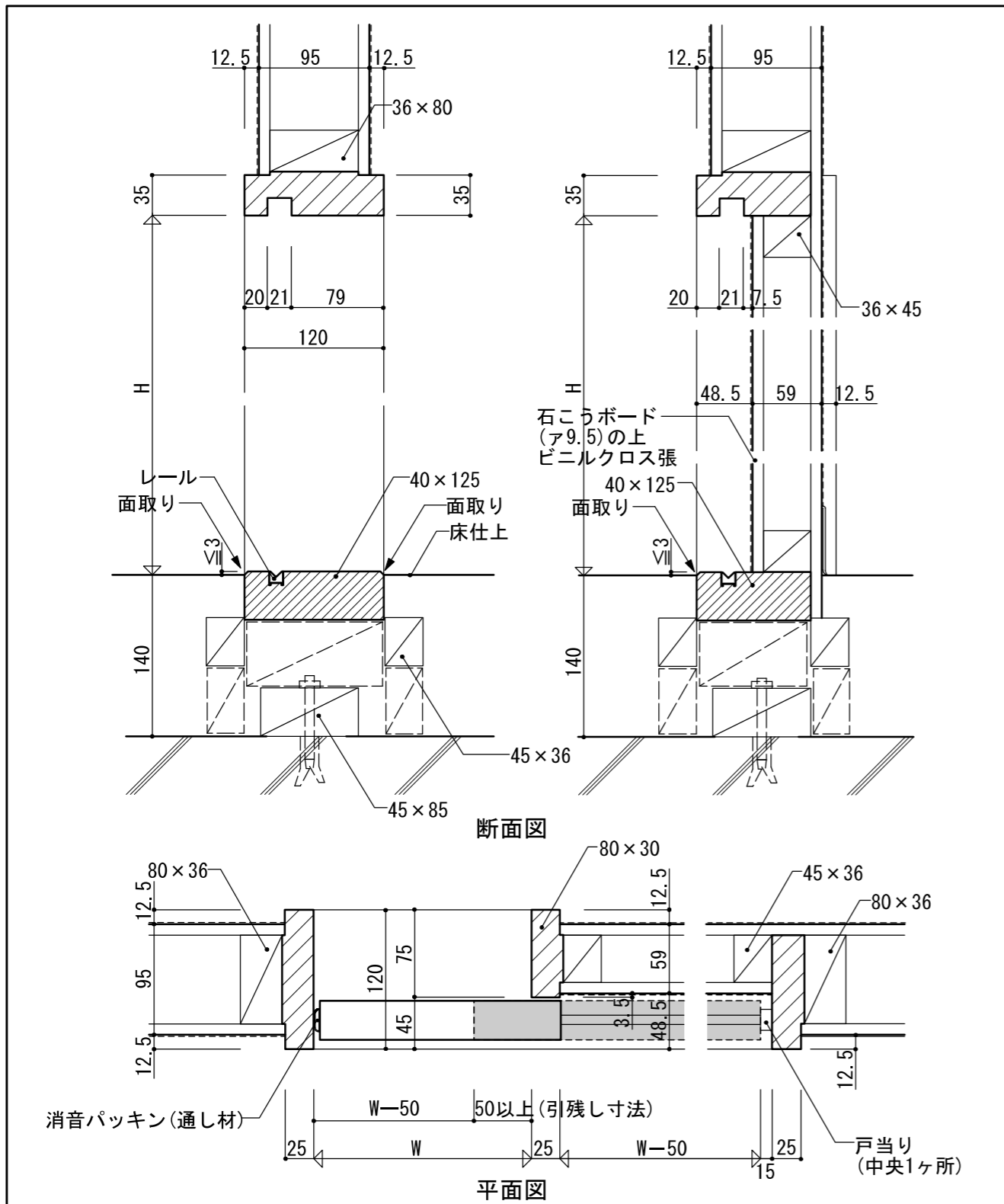
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

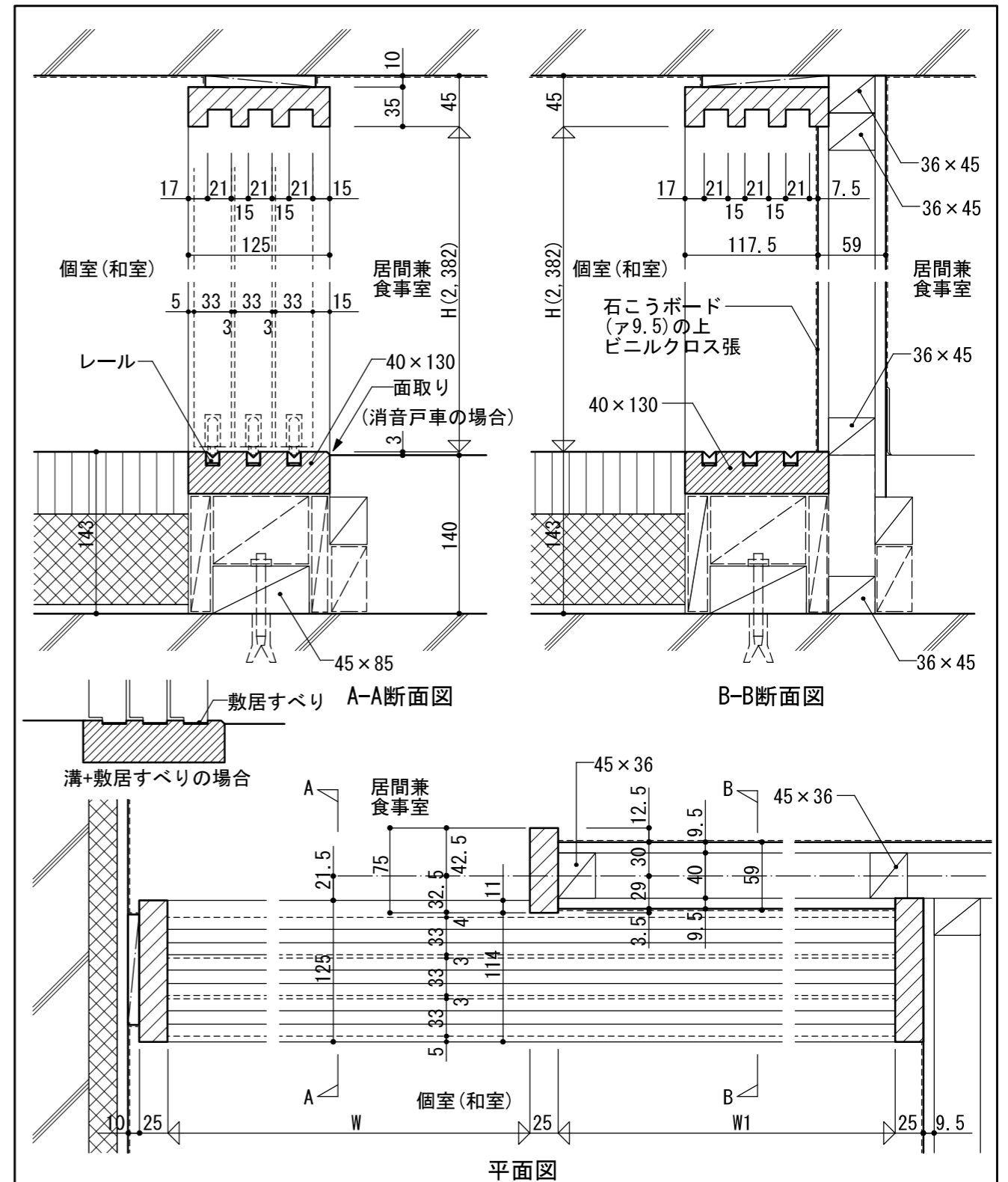
名称	木製片引戸わく廻り		
縮尺	1:1 1:5	AI - 152	頁 I-32



【仕様】  
 ・戸車はサイレント型(ナイロン製)とし、レールとの接地面が多い物とする。

【附記事項】  
 ・W, Hは建物設計図による。  
 ・建具附属金物の仕様は AF-203・502 による。

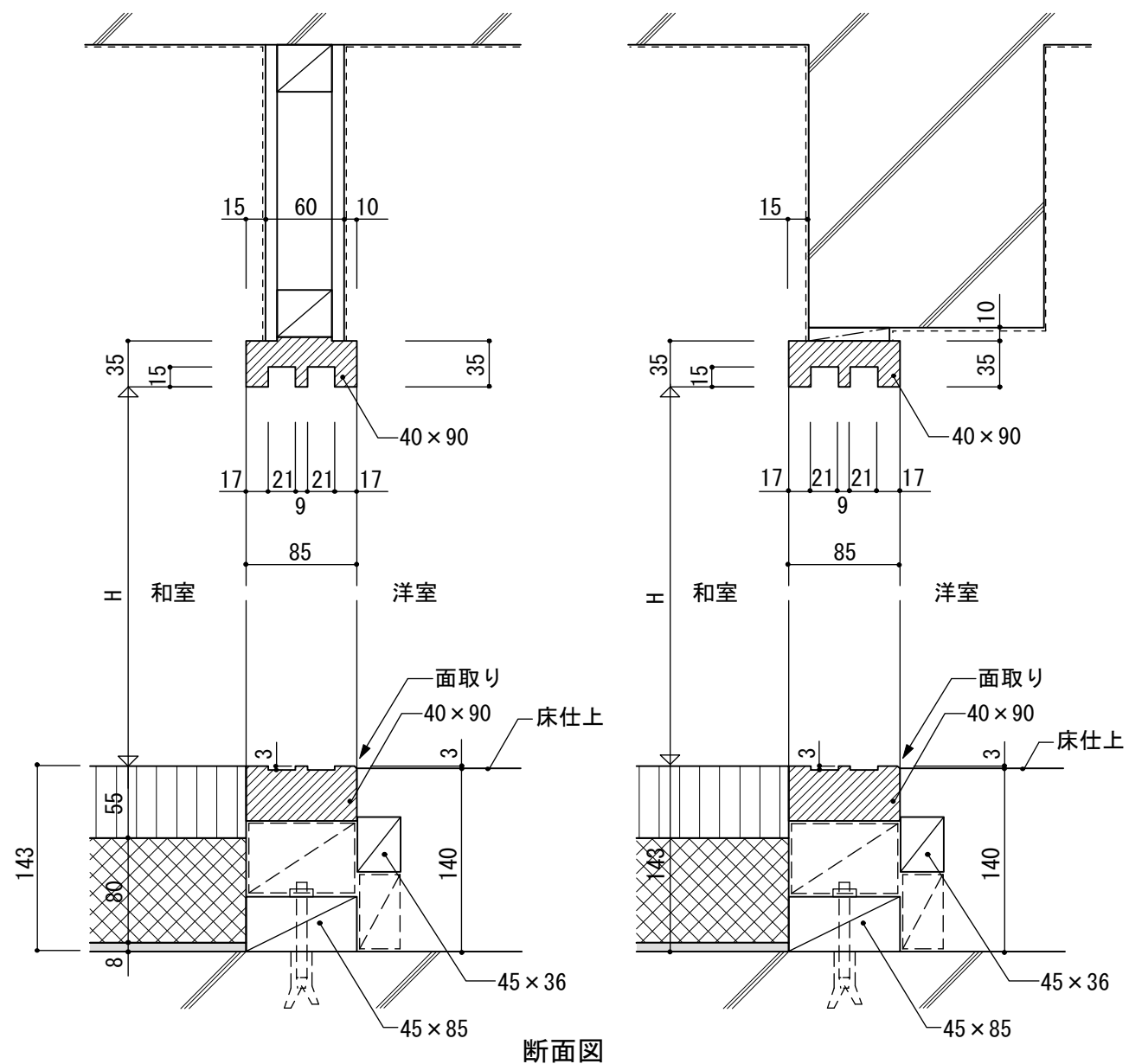
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(都市機構)】 ・第2版 H. 22. 4. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称	木製片引戸わく廻り (戸袋壁が厚い場合)	
		縮尺	1 : 5	AI - 153
				頁 I-33



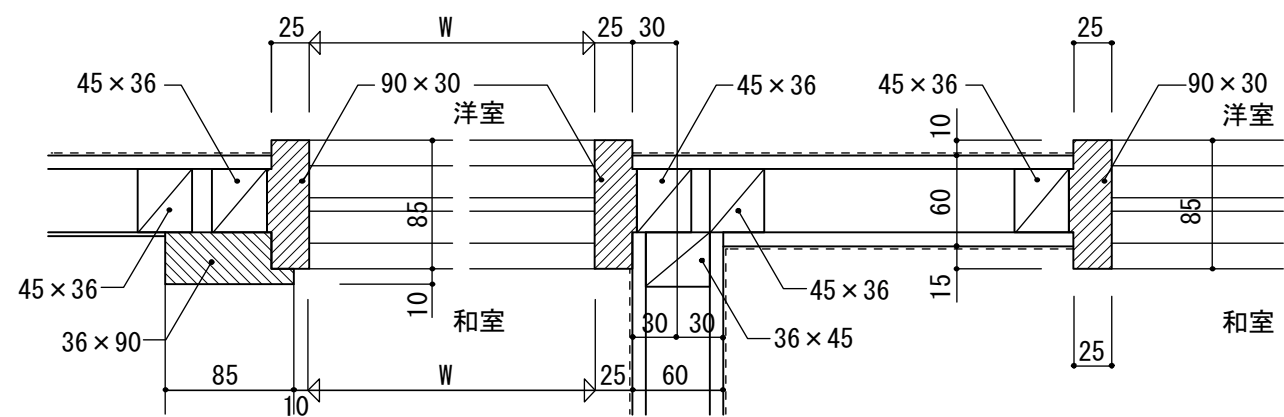
【仕様】  
 ・戸車を仕様する場合はサイレント型(ナイロン製)とし、レールとの接地面が多い物とする。

【附記事項】  
 ・W, W1, Hは建物設計図による。  
 ・建具附属金物の仕様は AF-203・502 による。  
 ・戸袋壁に巾木を取付ける場合は建物設計図による。  
 ・本図は戸厚33mmの場合を示し、( )内寸法は戸厚30mmの場合を示す。  
 ・建具Hが2mを超える場合は、強度を考慮し戸厚を33mm又は36mm等とする。

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】 ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称	三本引込戸わく廻り	
		縮尺	1 : 5	AI - 154
				頁 I-34



断面図

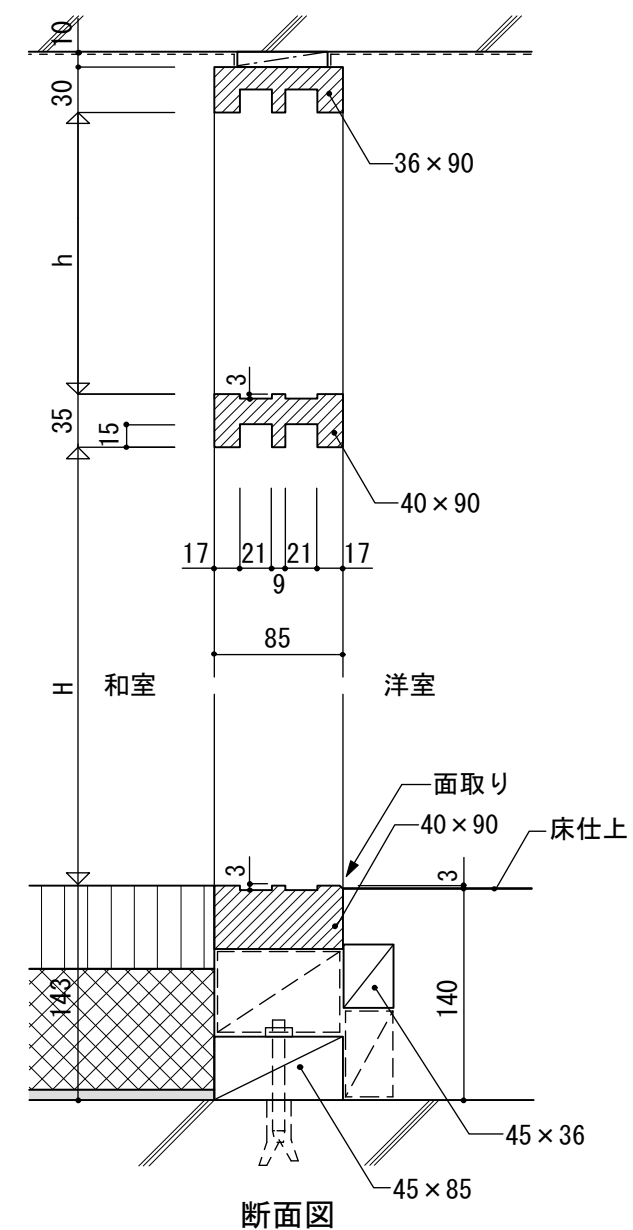


平面図

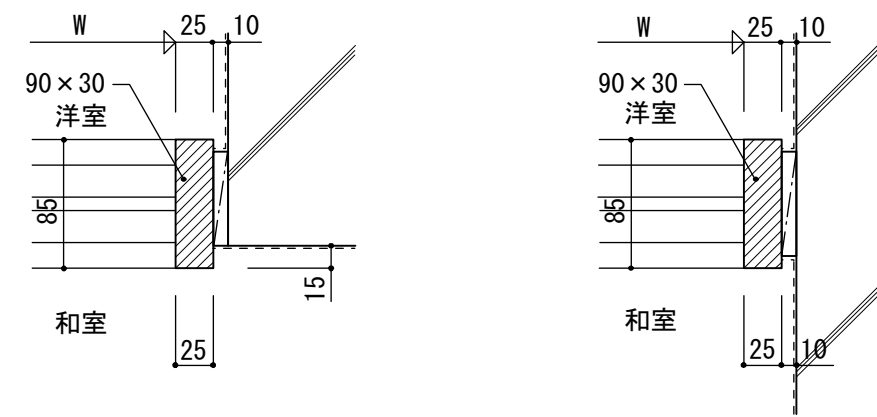
【仕様】

【附記事項】

・ W, H, hは建物設計図による。



断面図



平面図

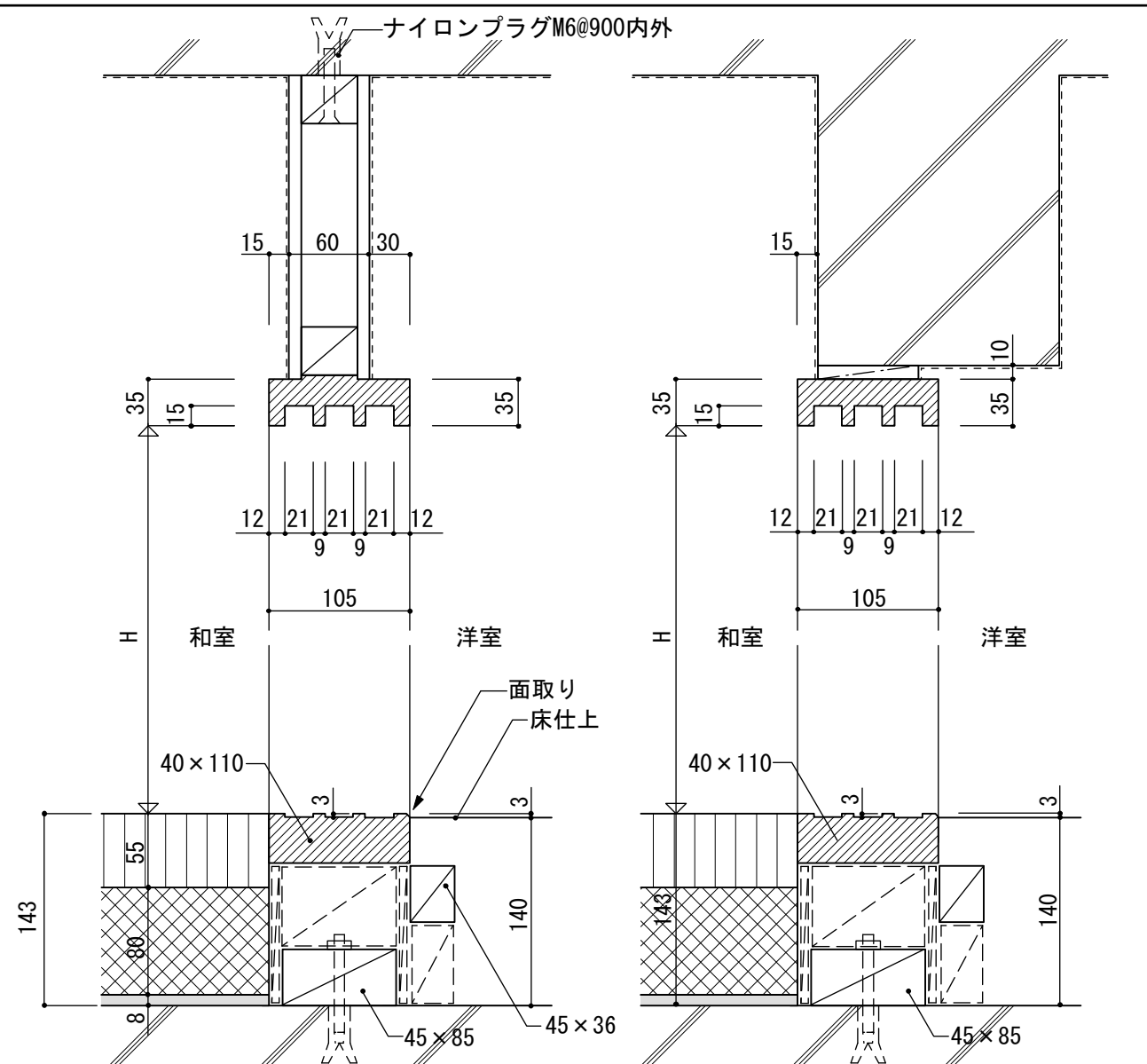
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

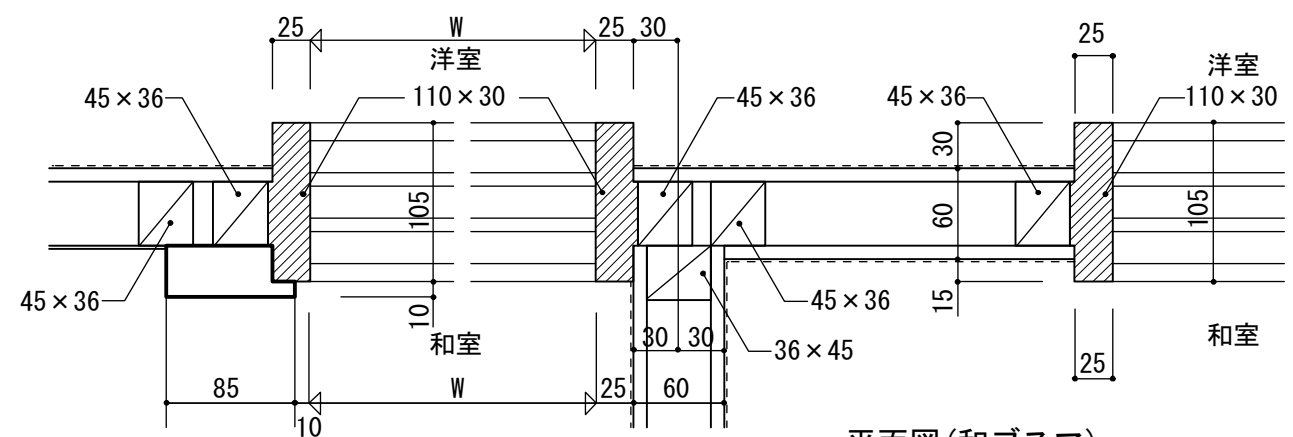
【改訂事項(機構住宅)】

名称	引違ふすまわく廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 155	頁 I-35





断面図(和ブスマ)

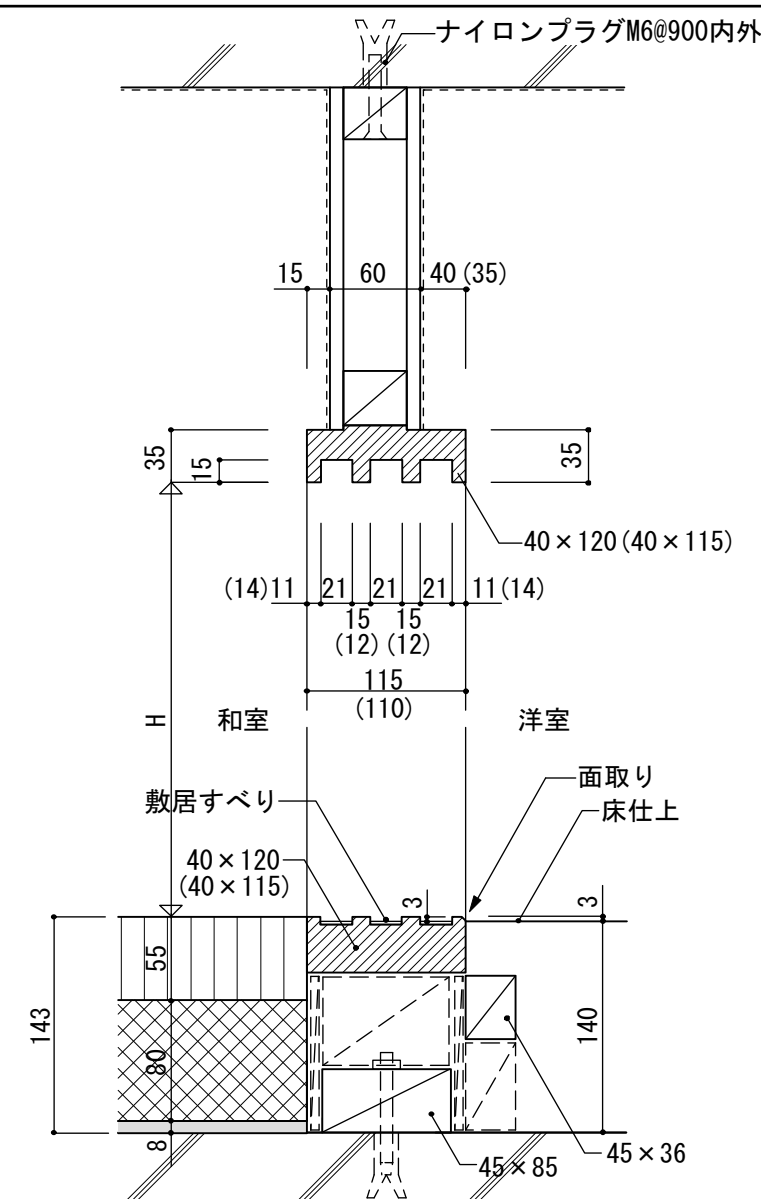


平面図(和ブスマ)

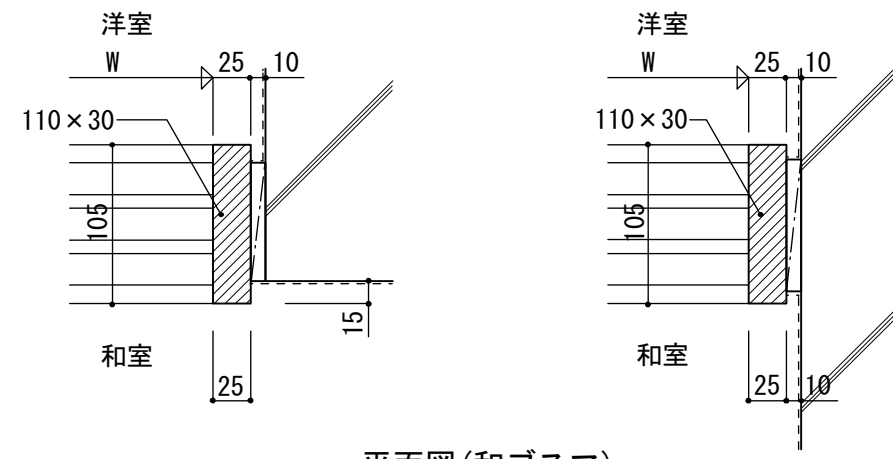
【仕様】

【附記事項】

- ・ W, Hは建物設計図による。
- ・ 戸ブスマ断面図は戸厚33mmの場合を示し、( )内寸法は戸厚30mmの場合を示す。
- ・ 建具Hが2mを超える場合は、強度を考慮した戸厚とする。



断面図(戸ブスマ)



平面図(和ブスマ)

【改訂事項(公団住宅)】

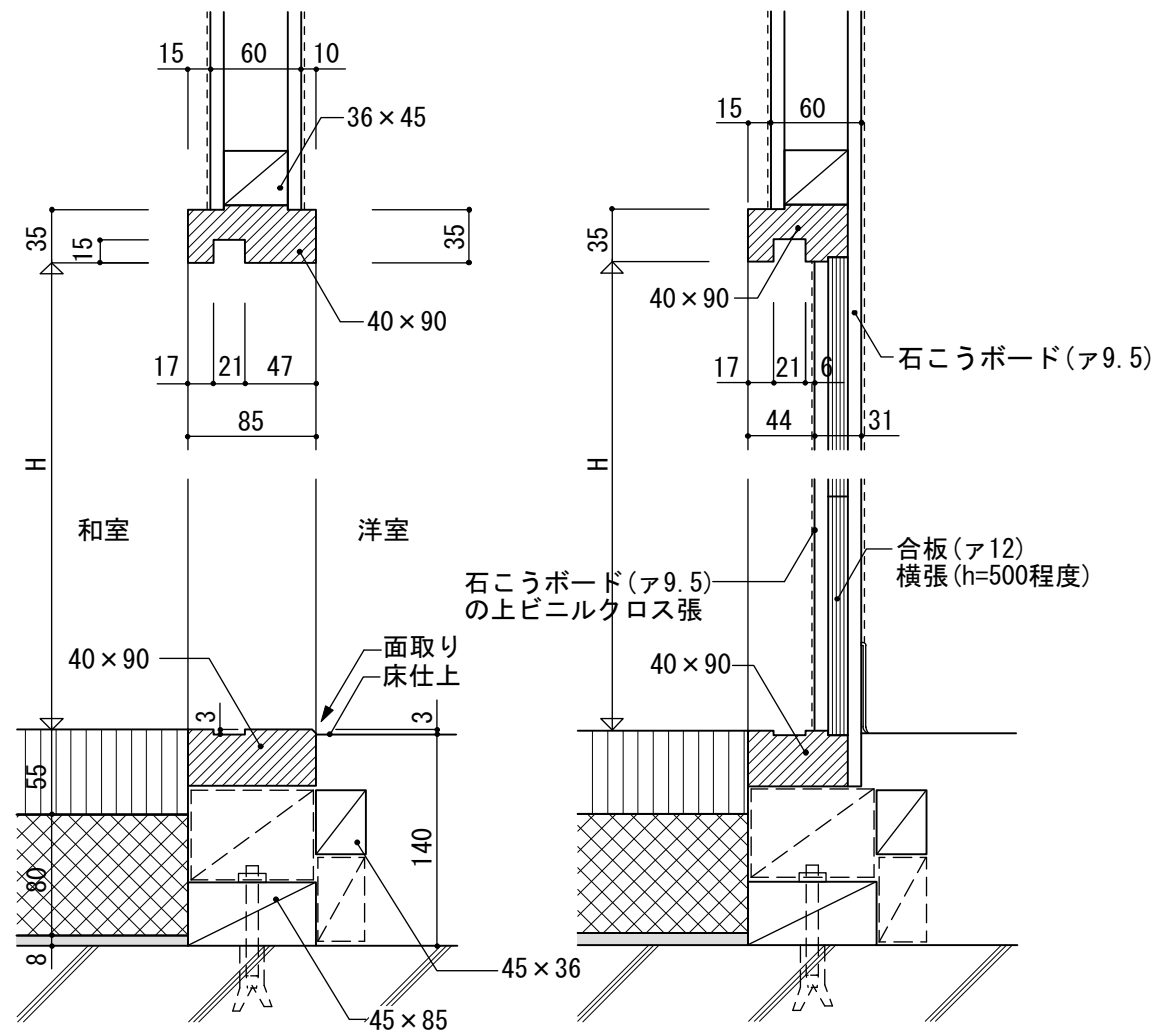
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

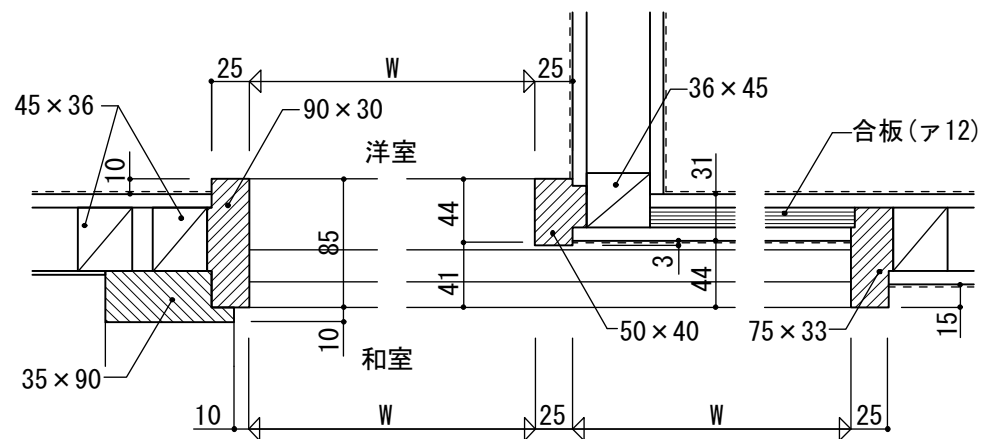
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	三本引ふすまわく廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 156	頁 I-36

A: 木造壁の場合



断面図



平面図

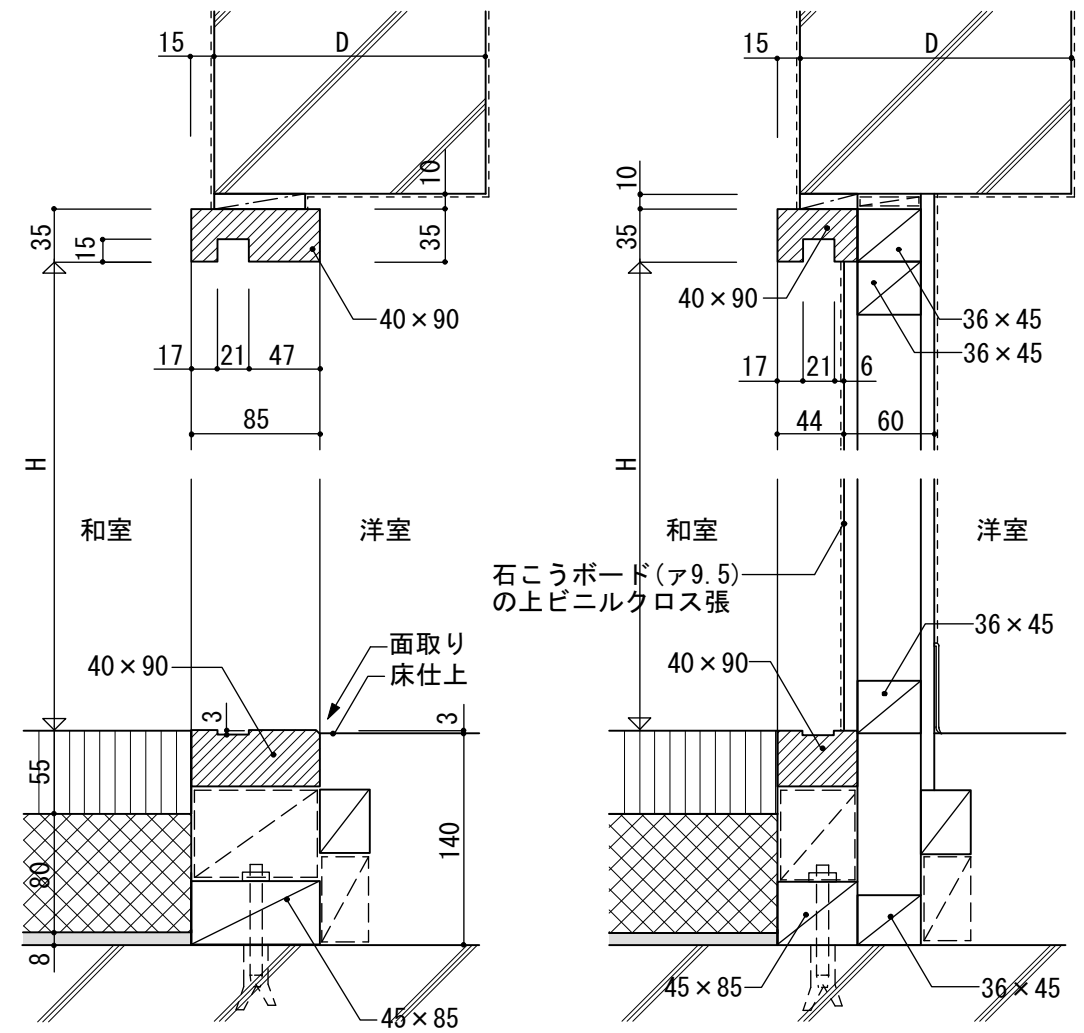
【仕様】

・戸袋壁の下地合板は、1枚当たりh=500程度に切断したものを使用する。

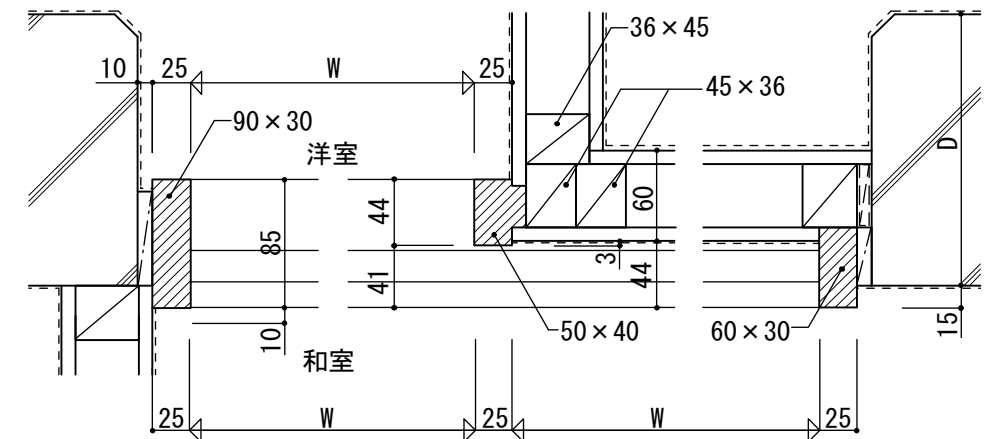
【附記事項】

・W, H, Dは建物設計図による。  
 ・戸袋壁の下地が合板の場合、裏側には補助手摺は取付けない。

B: 木造壁の場合(梁下につく場合)



断面図



平面図

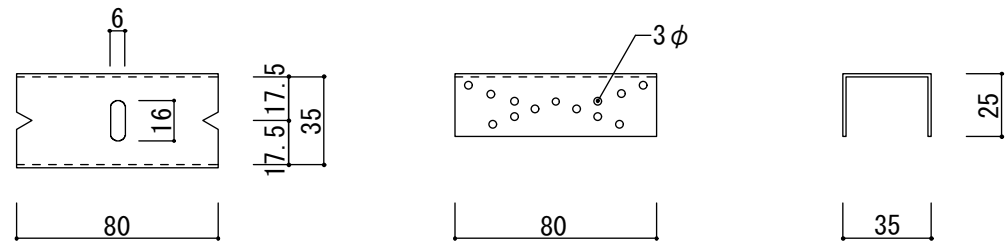
【改訂事項(公団住宅)】

・第2版 S. 61. 12. 1  
 ・第3版 H. 4. 12. 1  
 ・第4版 H. 8. 10. 1  
 ・第5版 H. 13. 11. 1

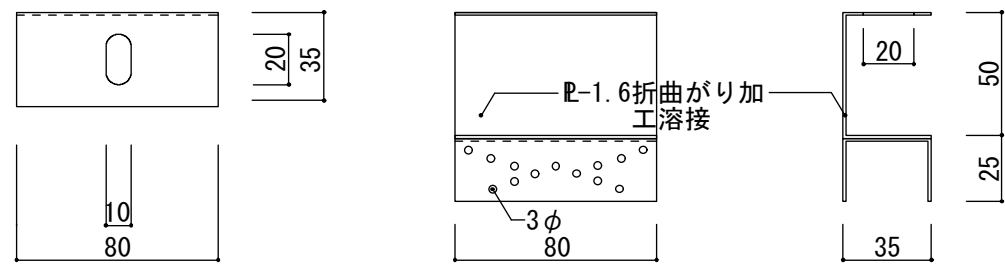
【改訂事項(機構住宅)】

・第2版 H. 21. 12. 1  
 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	片引ふすまわく廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 157	頁 I-37



一般階野縁受金物

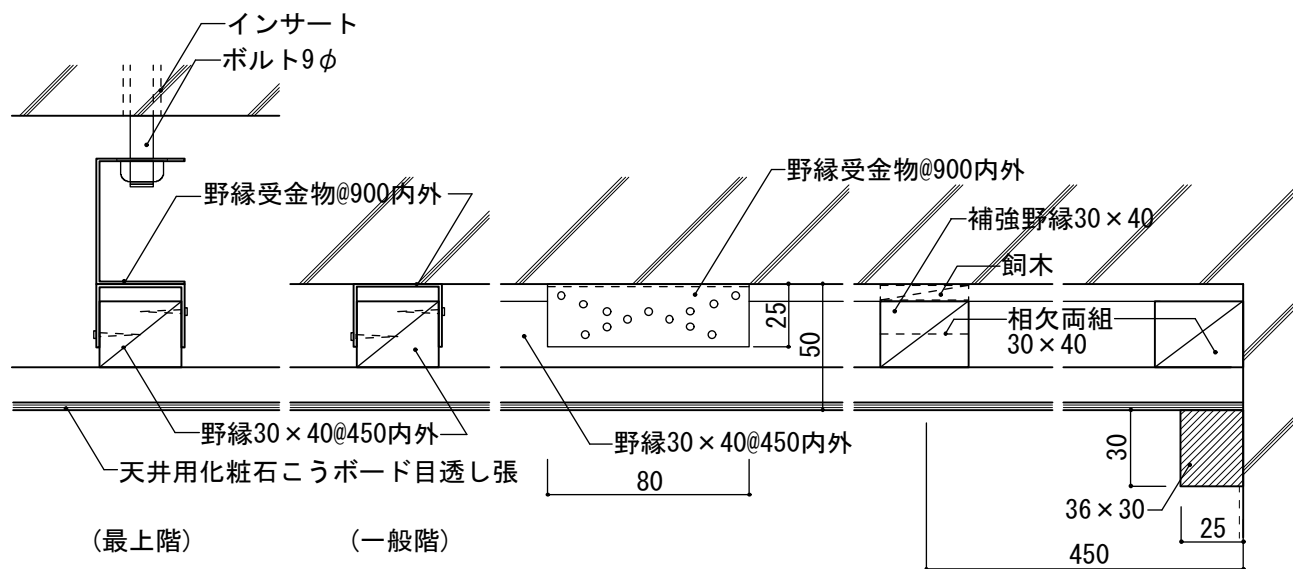


最上階野縁受金物

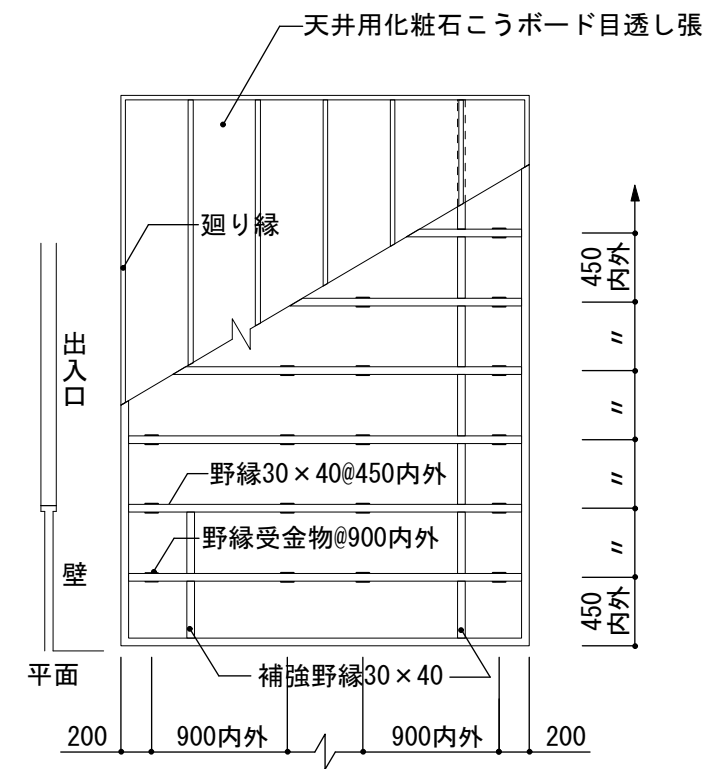
平面図 1:3

側面図 1:3

断面図 1:3



断面図 1:3



天井伏図 1:50

【仕様】

- ・野縁受金物(レベル調整材)
- ・垂鉛鉄板2種(ア0.8)SPG2種(JIS-G3302)
- ・天井用化粧石こうボードの取付けは接着、釘、併用にて行う。

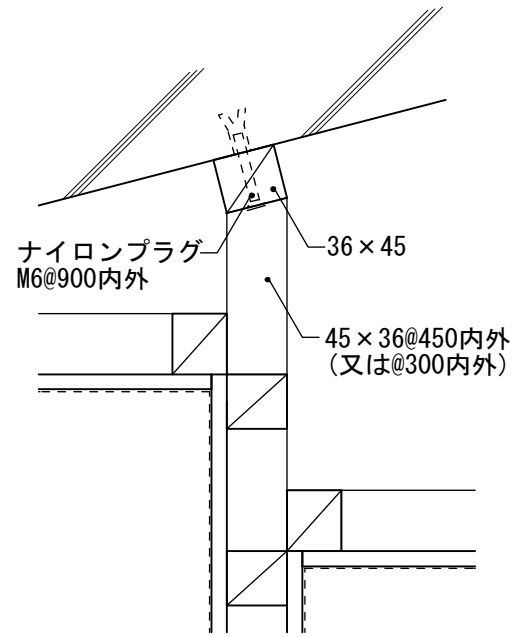
【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

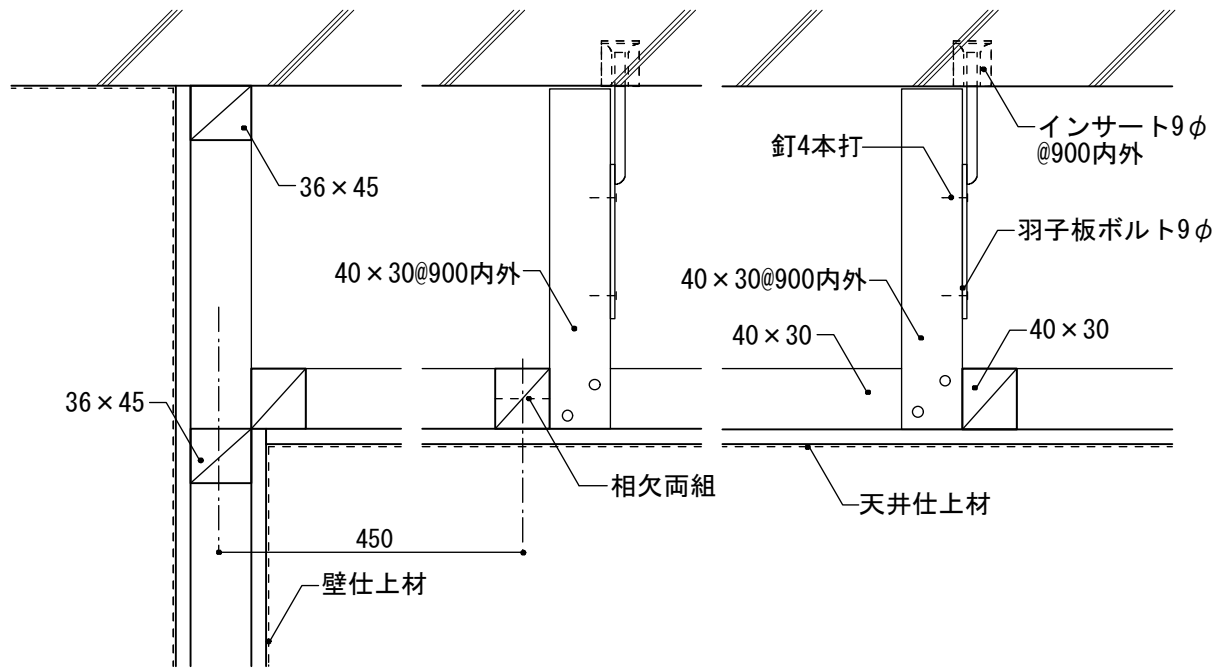
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	二重天井廻り(和室)		
縮尺	1:3 1:50	AI - 161	頁 I-38

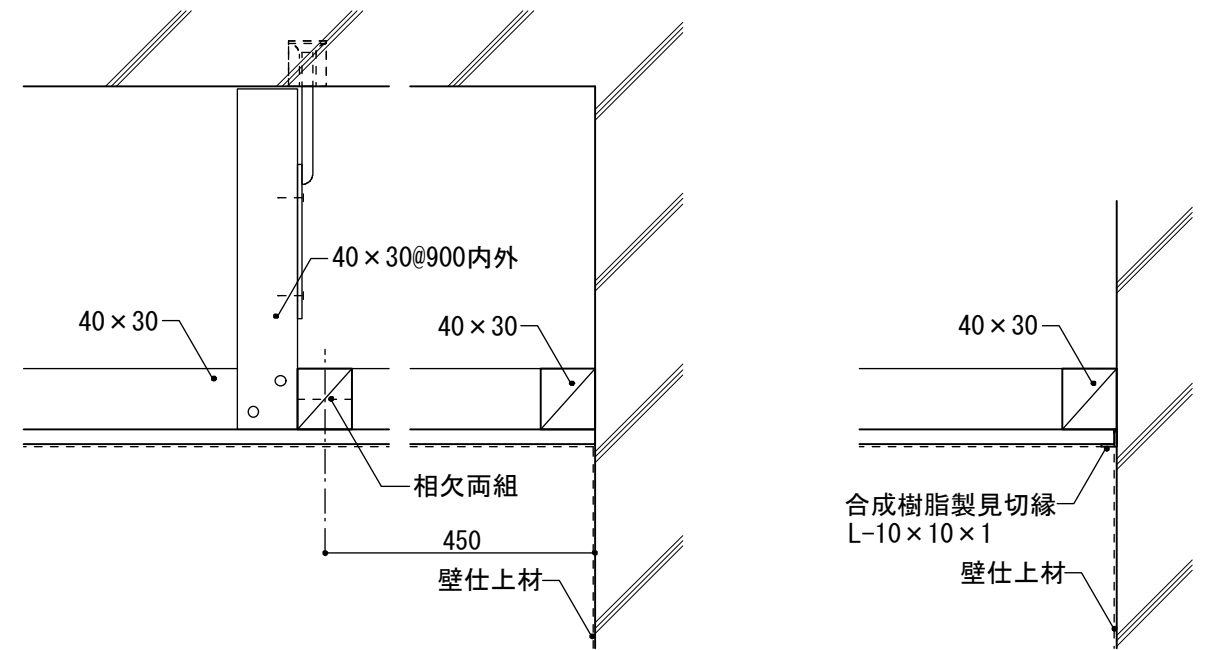


勾配スラブ木造壁天井内納り



木造壁天井内納り

野縁納り



A: コンクリート壁天井内納り

B: 天井見切縁付の場合

天井野縁寸法表

	合板、石こうボード、セメントけい酸カルシウム板等
タテ方向	40 x 30 @ 450 内外
ヨコ方向	40 x 30 @ 450 内外

【仕様】

【附記事項】

・見切縁付の場合は、建物設計図による。

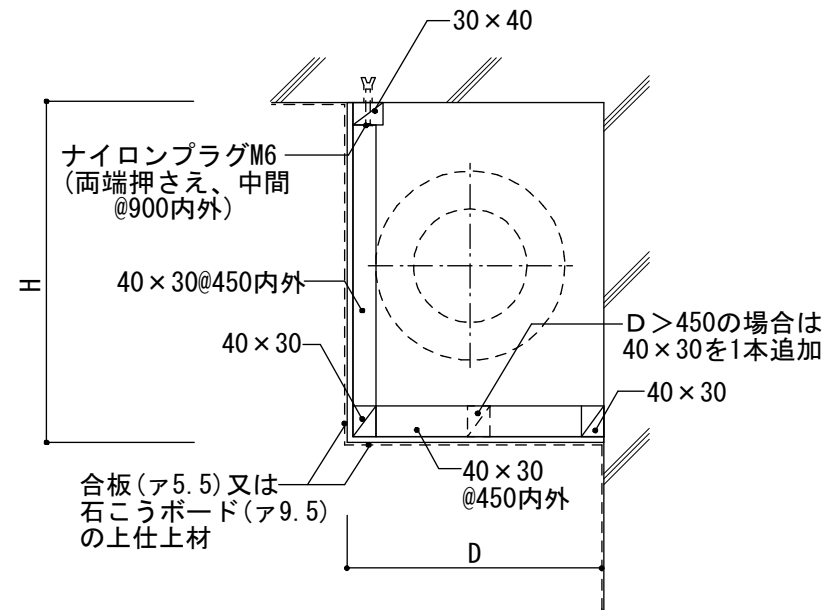
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

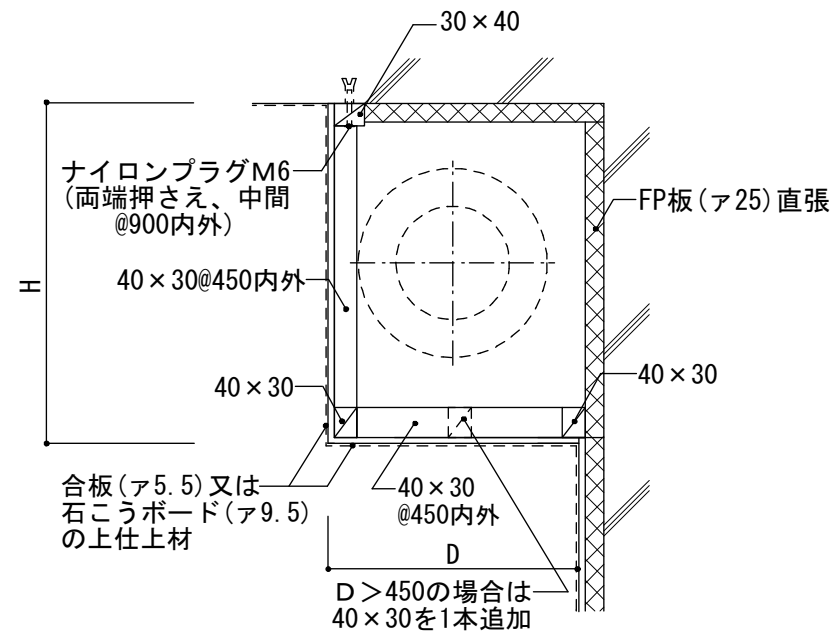
【改訂事項(機構住宅)】

名称	二重天井廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 162	頁 I-39

下り天井ダクトカバー断面図 1:10



A (コンクリート壁廻り)



B (防露壁廻り)

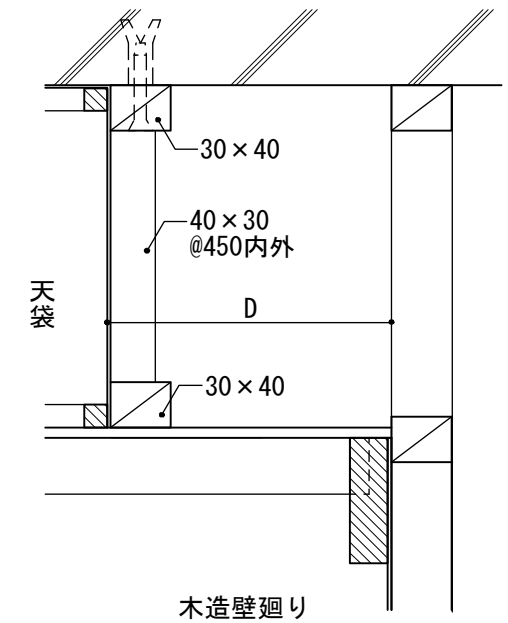
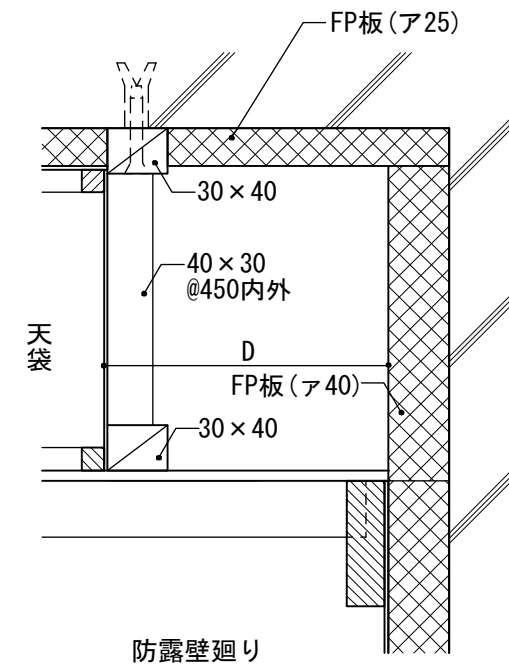
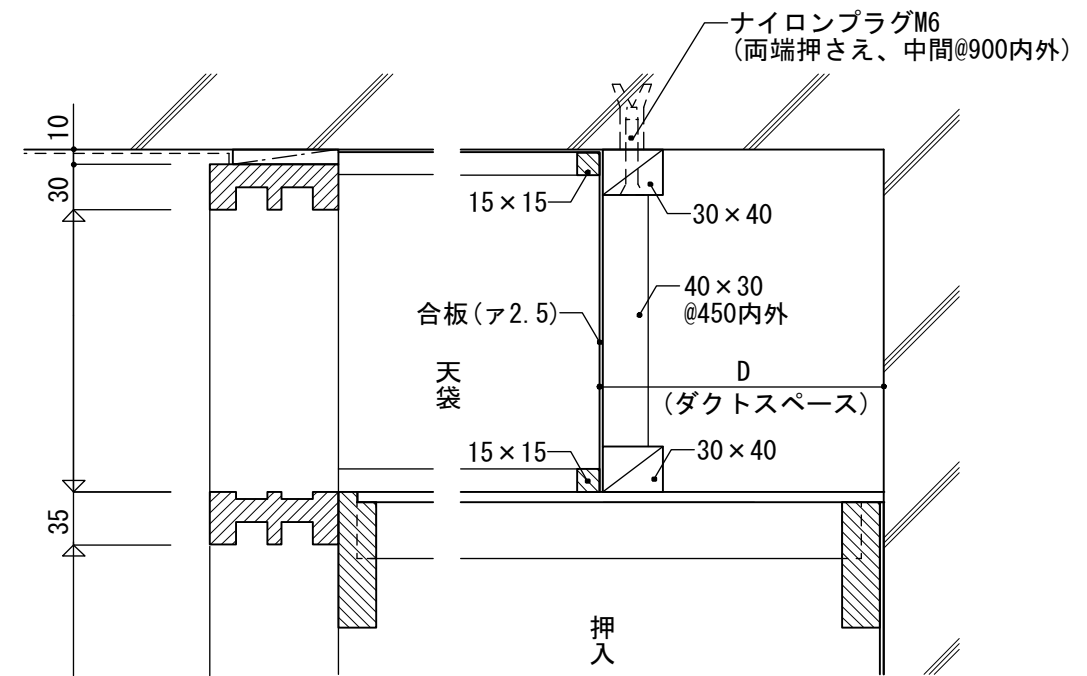
【仕様】

- ・外壁貫通部の外壁側の配管廻りシーリングは建築工事とする。
- ・バルコニー、庇がない場合はウェザーカバー(設備工事)を取付ける。但しウェザーカバーのシーリングは建築工事とする。

【附記事項】

- ・H、Dは建物設計図による。

天袋内ダクトカバー断面図 1:5



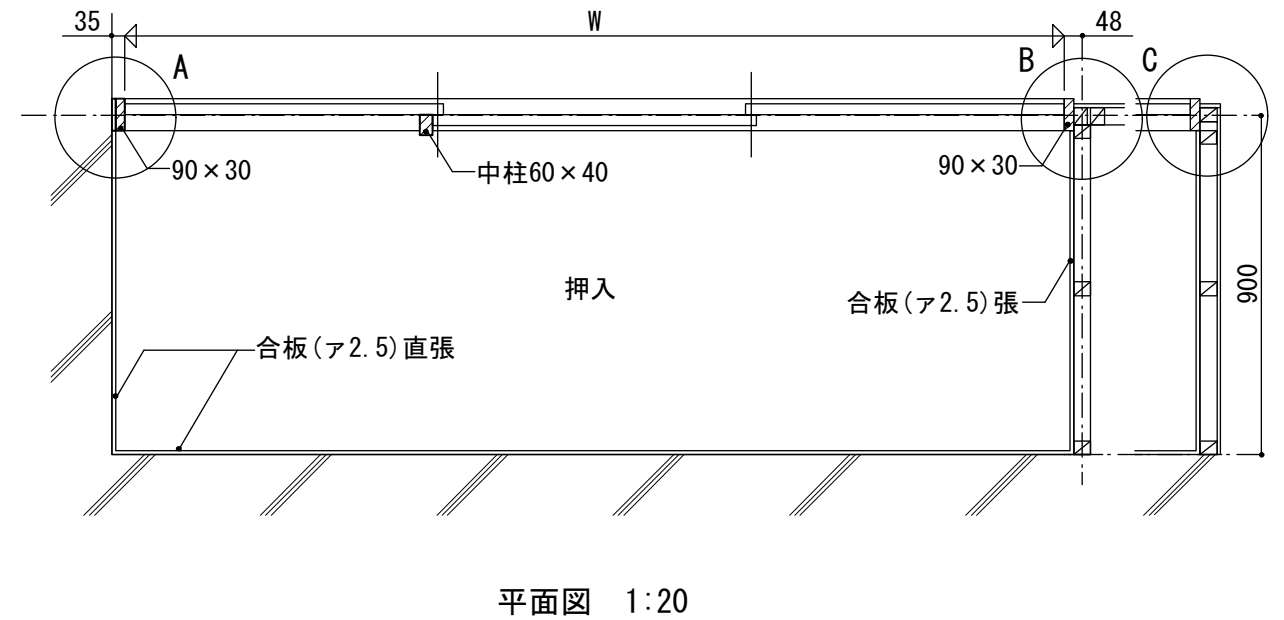
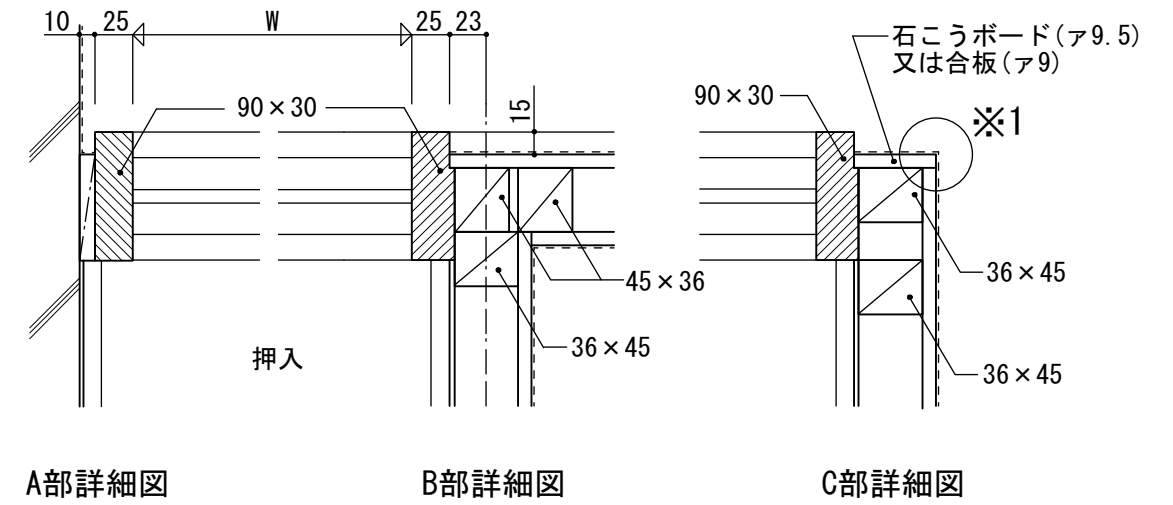
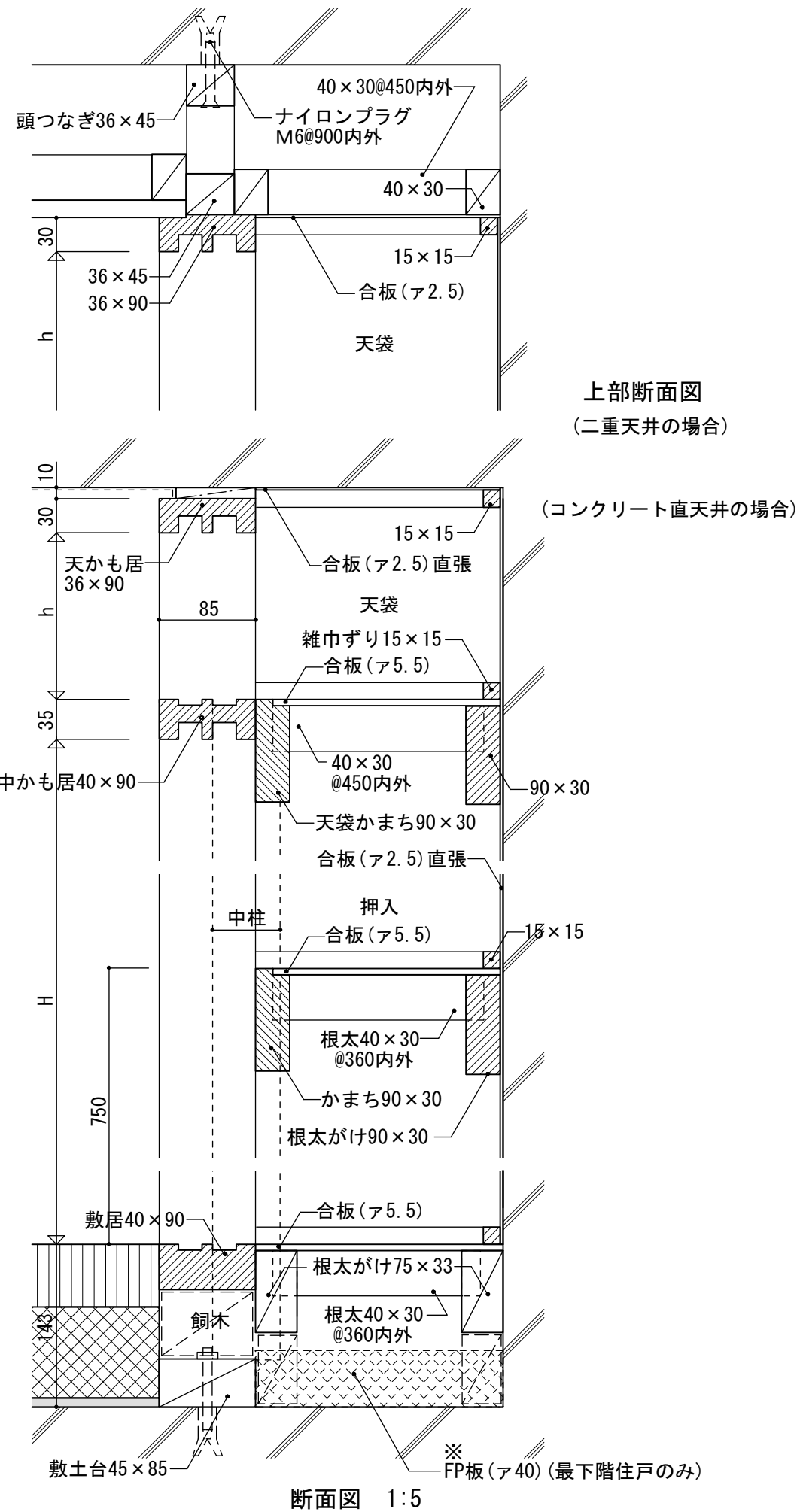
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	天井配管ダクトカバー廻り		
縮尺	1:5 1:10	AI - 163	頁 I-40



【仕様】

- ・天袋かまちと中かも居は釘止めしないこと。
- ・※1石こうボードの場合はコーナーフレックステープ又はコーナービードを設ける。

【附記事項】

- ・W, H, hは建物設計図による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。
- ・中柱は押入間口が1.8mを超える場合に設ける。

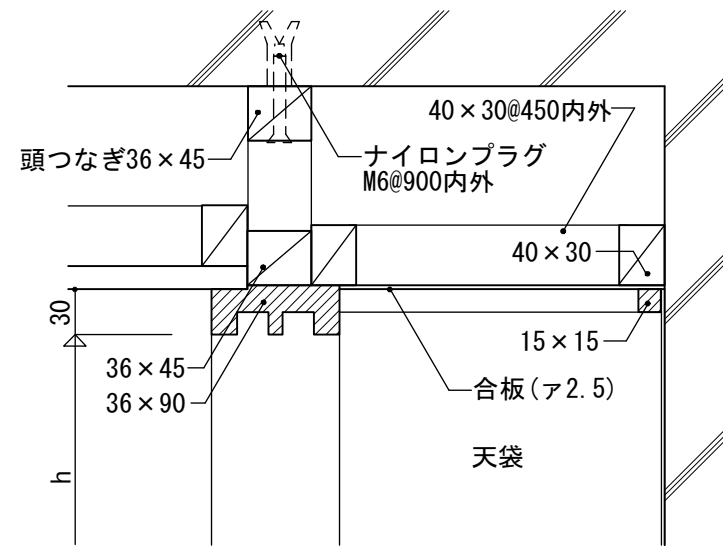
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

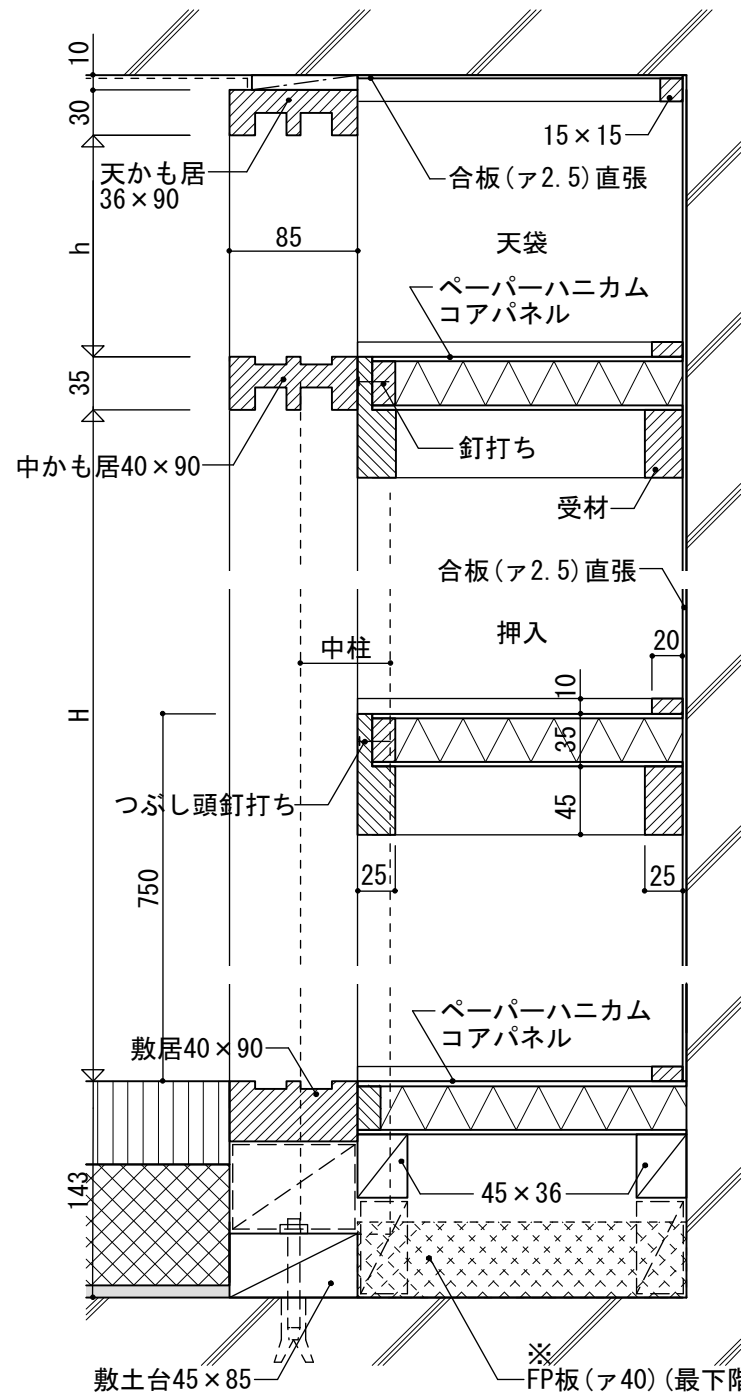
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	押入廻り-1 (コンクリート壁-1)		
縮尺	1:5 1:20	AI - 201	頁 I-41

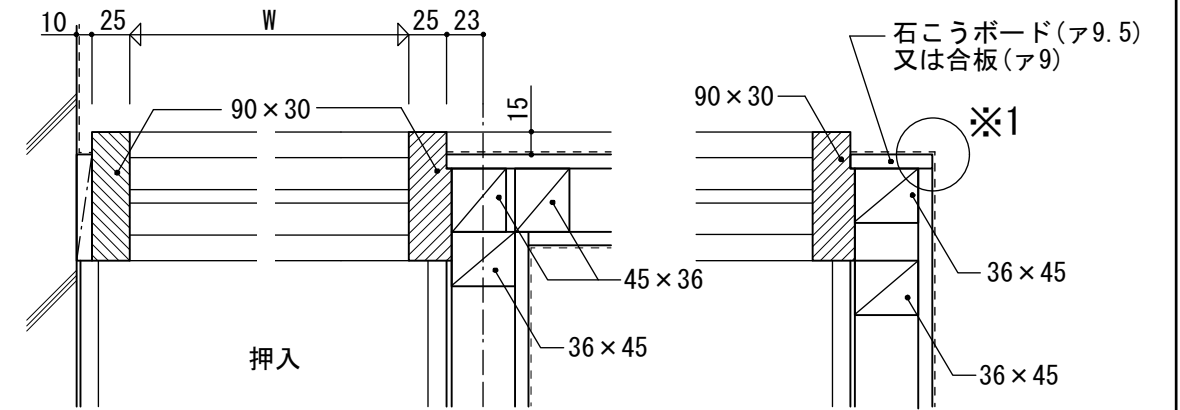


(二重天井の場合)  
上部断面図



(コンクリート直天井の場合)

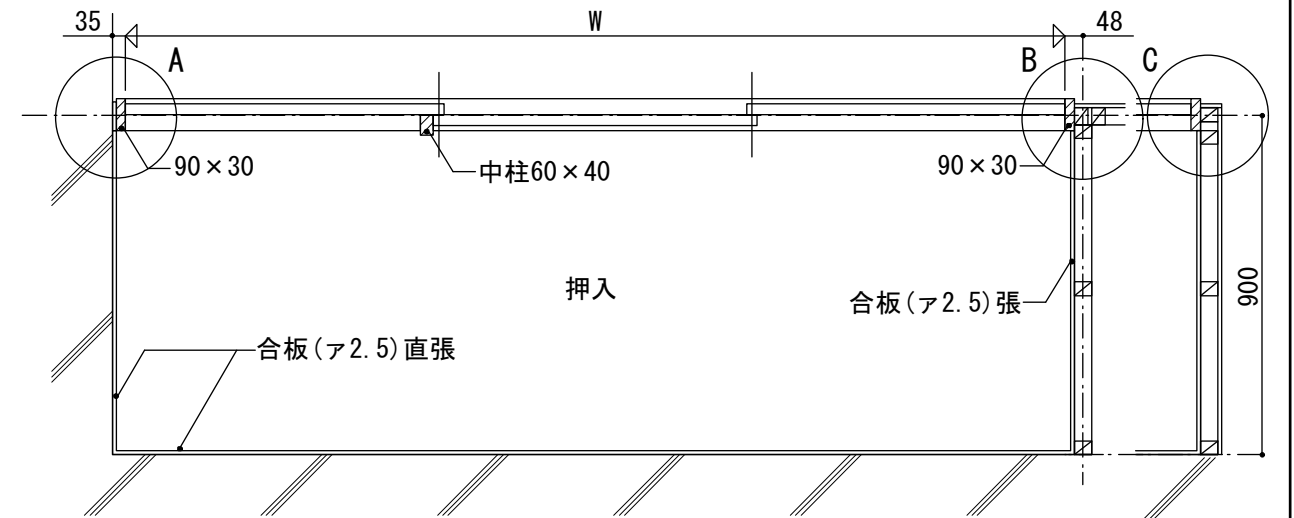
断面図 1:5



A部詳細図

B部詳細図

C部詳細図



平面図 1:20

【仕様】

- ・天袋かまちと中かも居は釘止めしないこと。
- ・ペーパーハニカムコアパネルのパネル用ペーパーコアはJIS A 6931のIV種とする。
- ・※1石膏ボードの場合はコーナフレックステープ又はコーナービードを設ける。

【附記事項】

- ・W, H, hは建物設計図による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。
- ・中柱は押入間口が1.8mを超える場合に設ける。

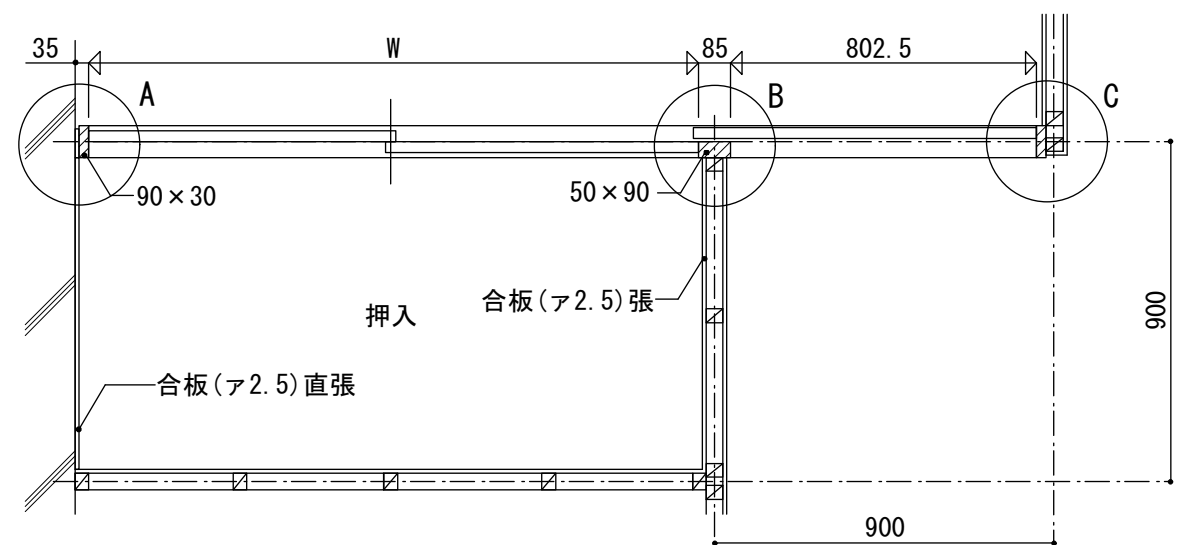
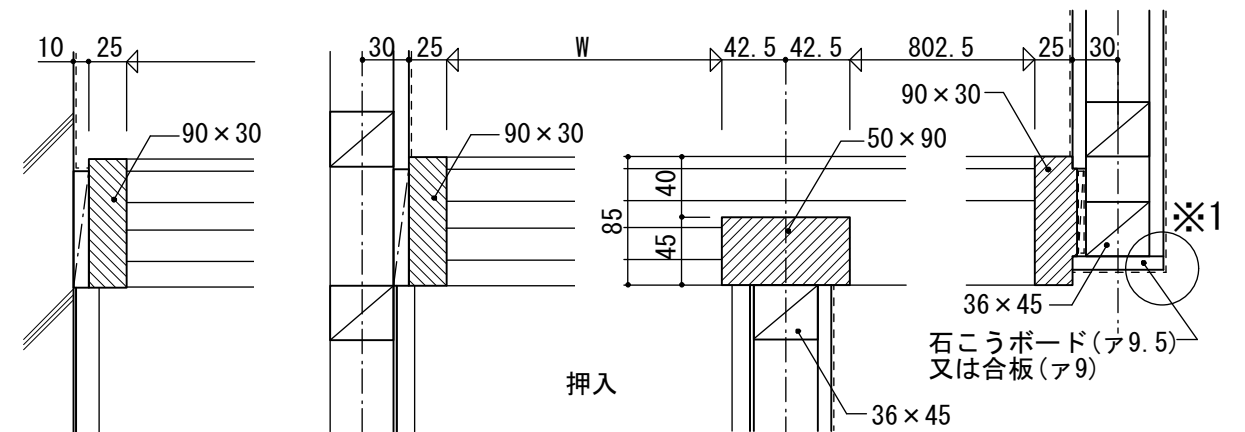
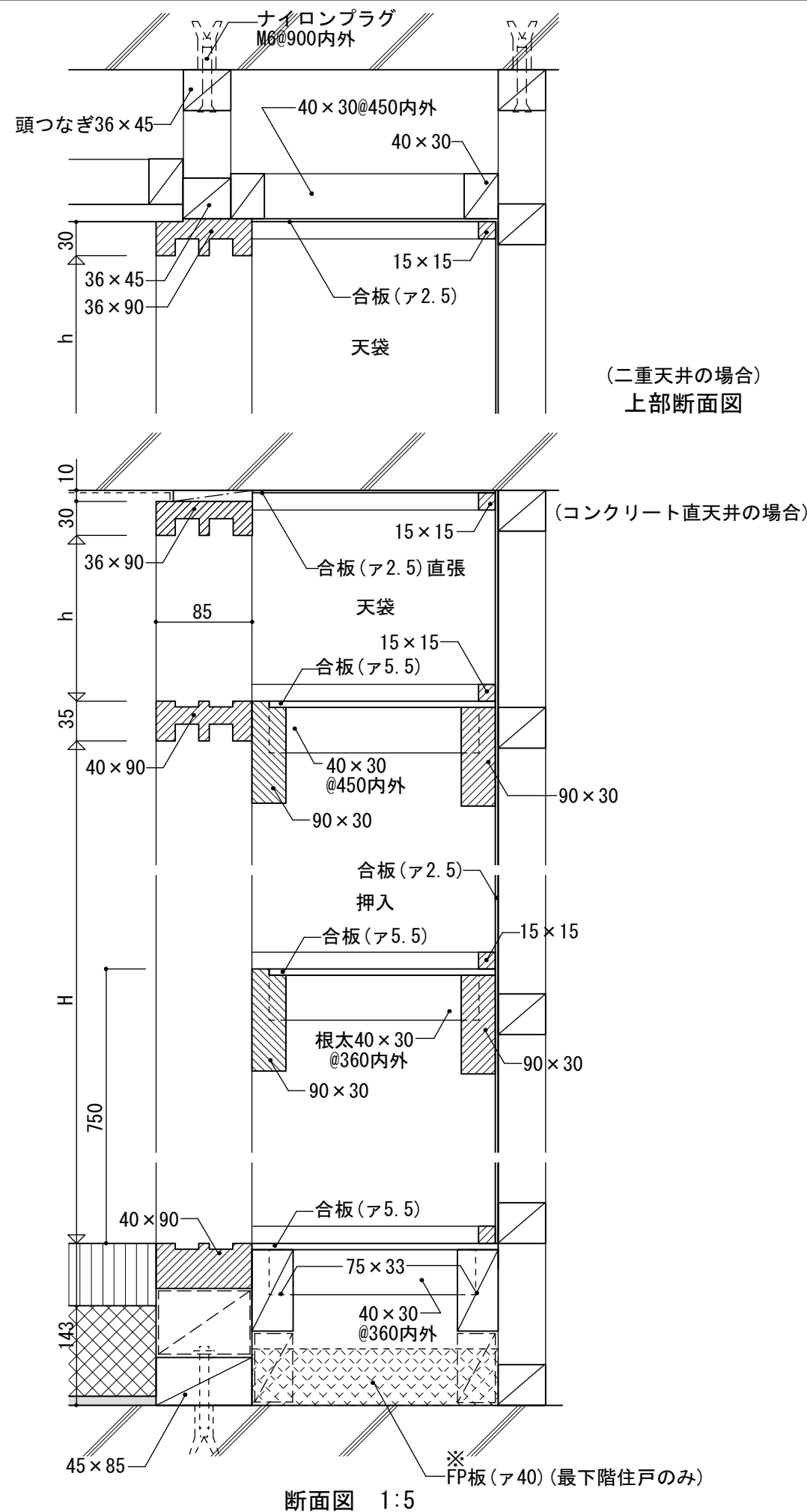
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	押入廻り-2 (コンクリート壁-2)			頁
縮尺	1:5	1:20	AI - 202	I-42



【仕様】

- ・天袋かまちと中かも居は釘止めしないこと。
- ・※1石こうボードの場合はコーナフレックステープ又はコーナビードを設ける。

【附記事項】

- ・W, H, hは建物設計図による。
- ・棚板にペーパーハニカムコアパネルを使用する場合は AI-202 による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

【改訂事項(公団住宅)】

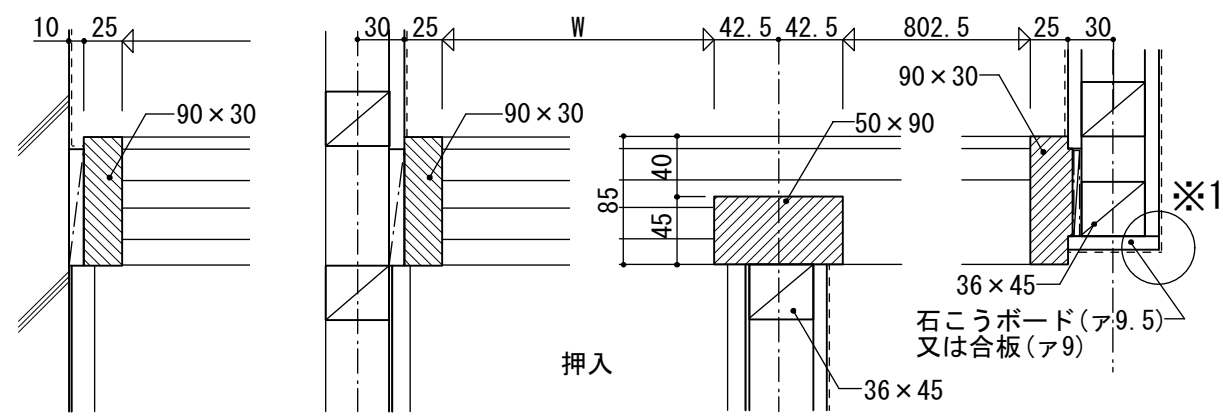
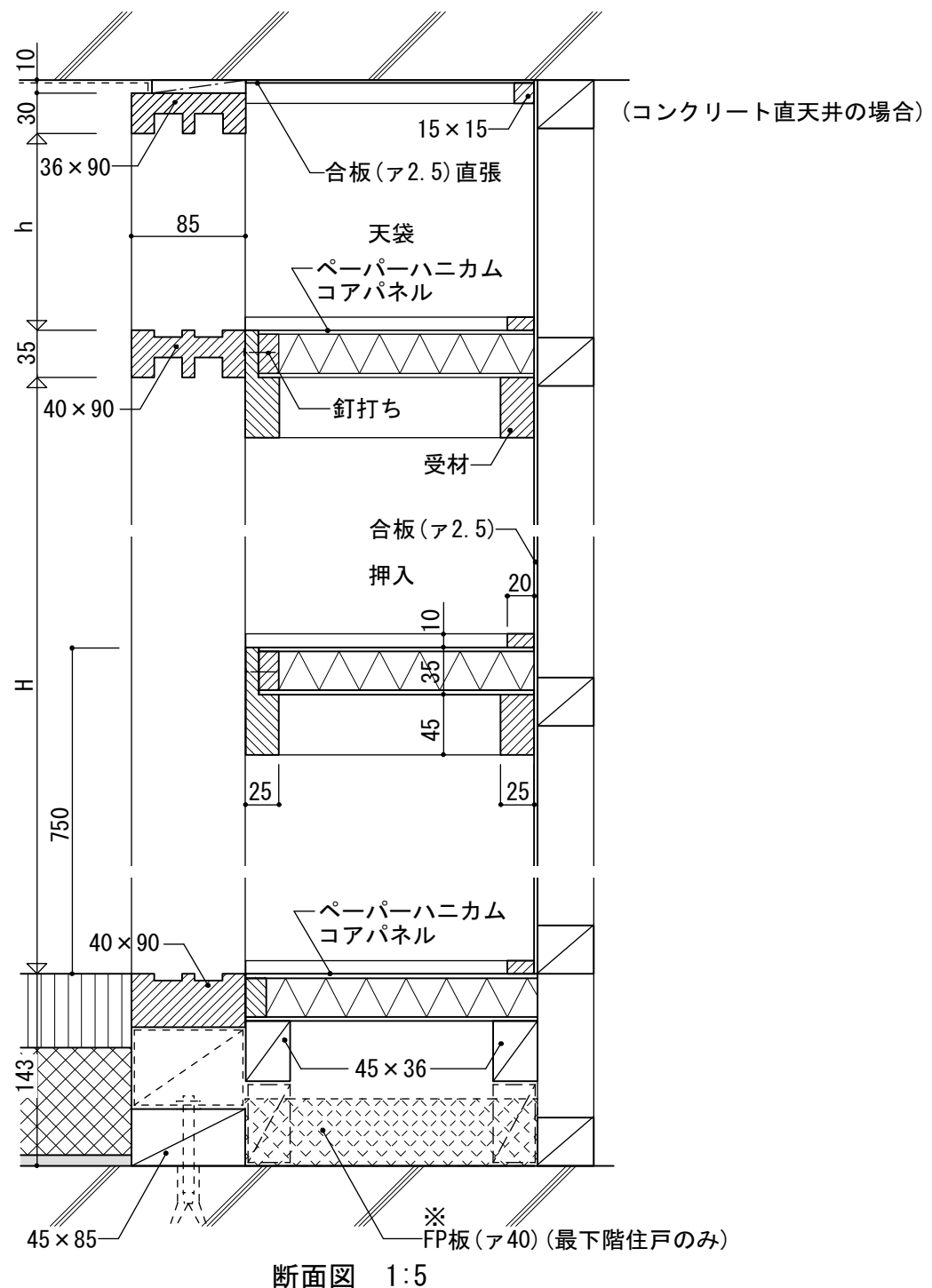
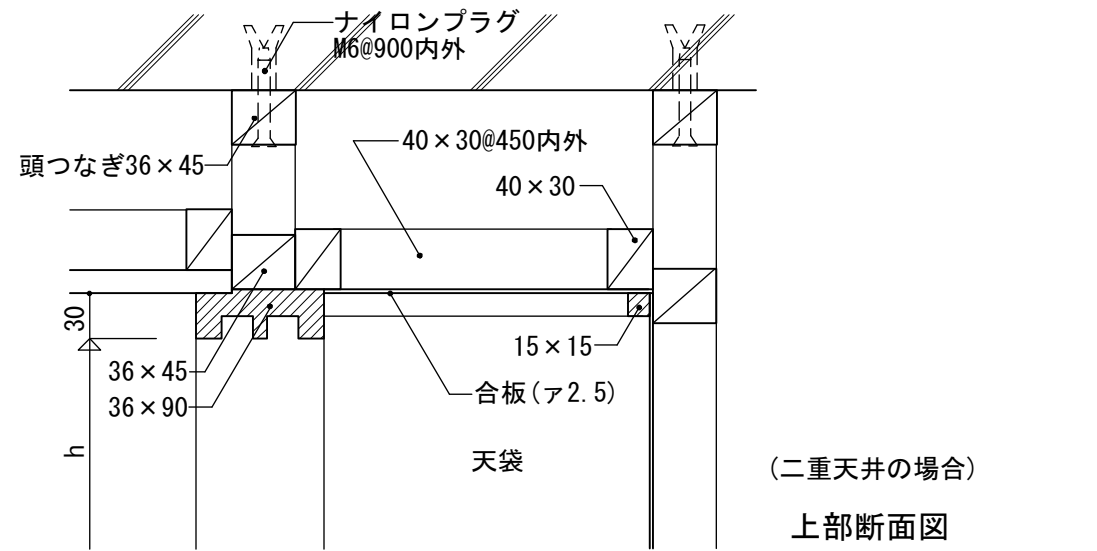
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

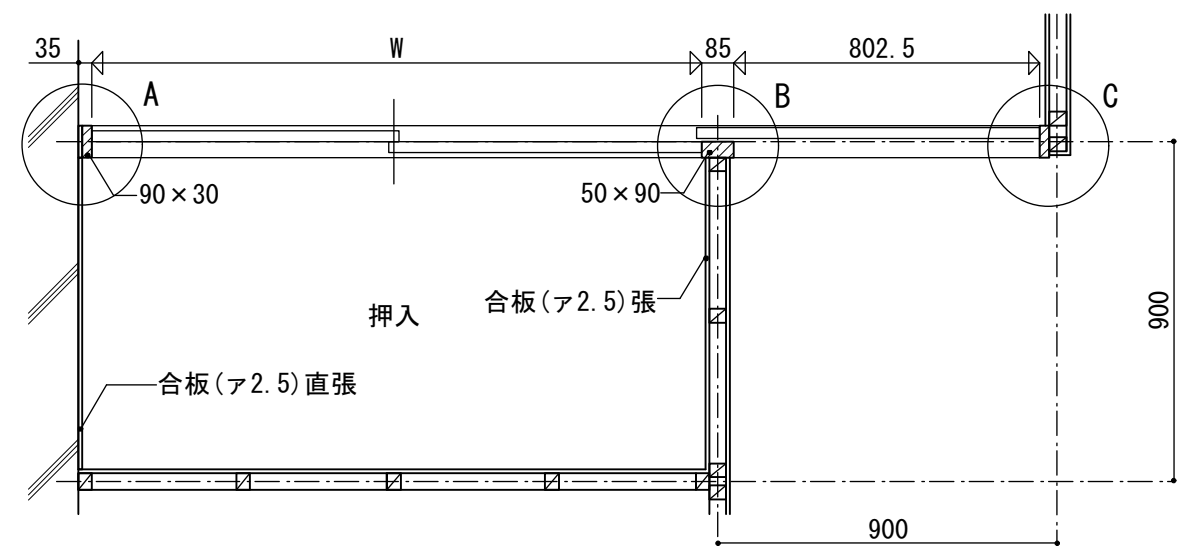
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	押入廻り-3 (木造壁-1)		頁 I-43
縮尺	1:5 1:20	AI - 203	





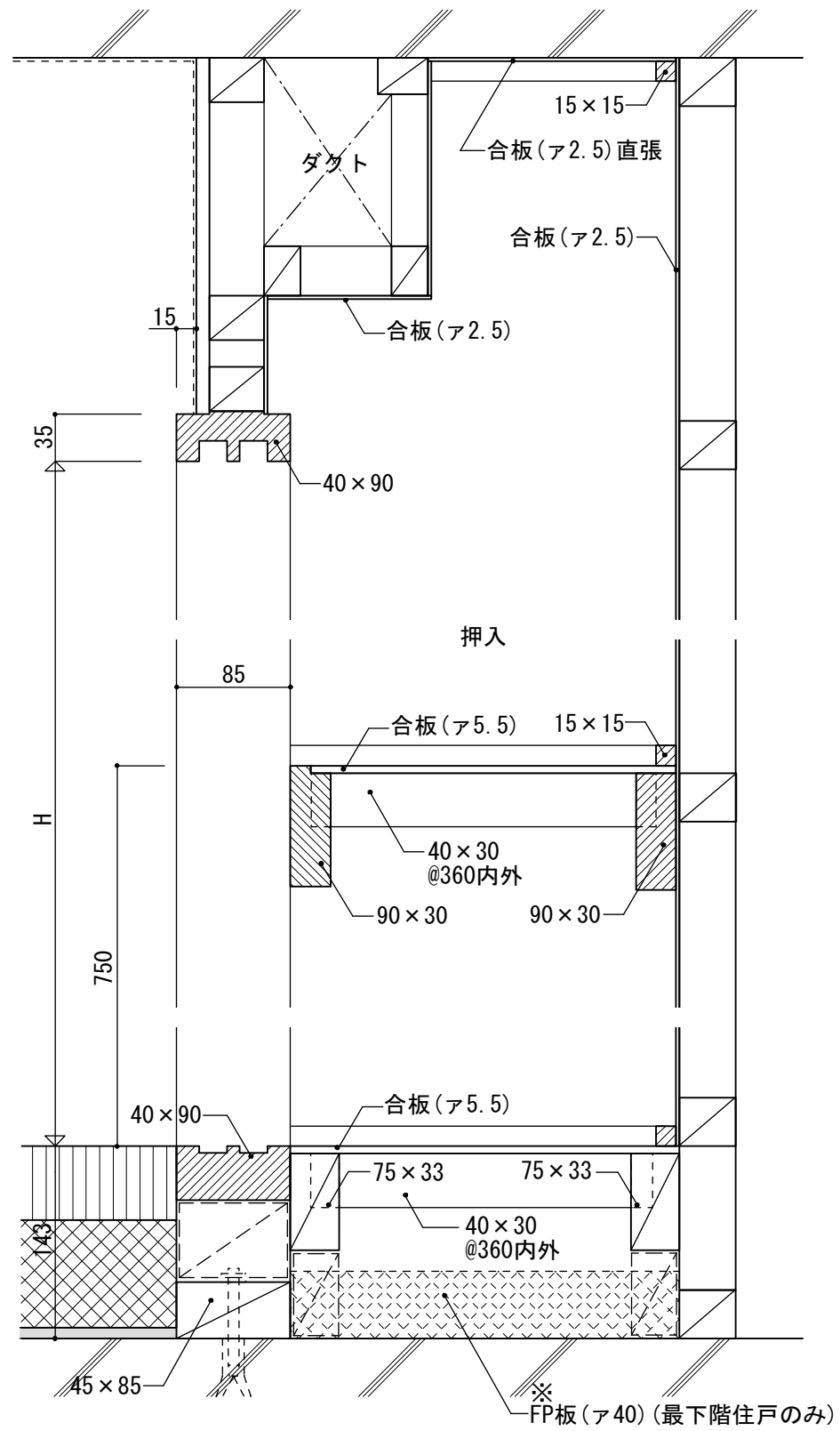
A部詳細図 (コンクリート壁の場合)    A部詳細図 (木造壁の場合)    B部詳細図    C部詳細図



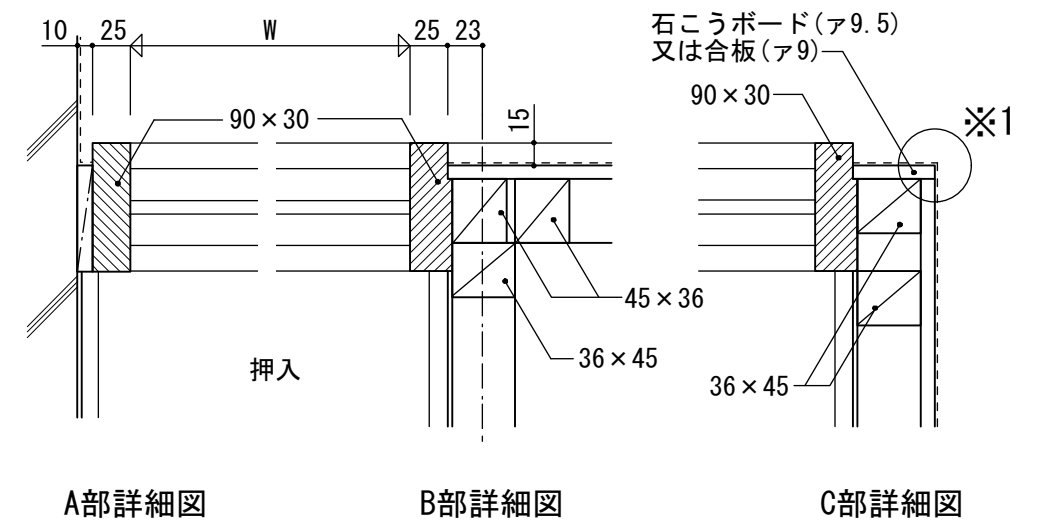
平面図 1:20

- 【仕様】**
- 天袋かまちと中かも居は釘止めしないこと。
  - ペーパーハニカムコアパネルのパネル用ペーパーコアはJIS A 6931のIV種とする。
  - ※1石こうボードの場合はコーナフレックステープ又はコーナービードを設ける。
- 【附記事項】**
- W, H, hは建物設計図による。
  - ※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1	名称 押入廻り-4 (木造壁-2)	縮尺 1:5 1:20	頁 AI - 204 I-44
---	--	-------------------------	-------------------	-----------------------



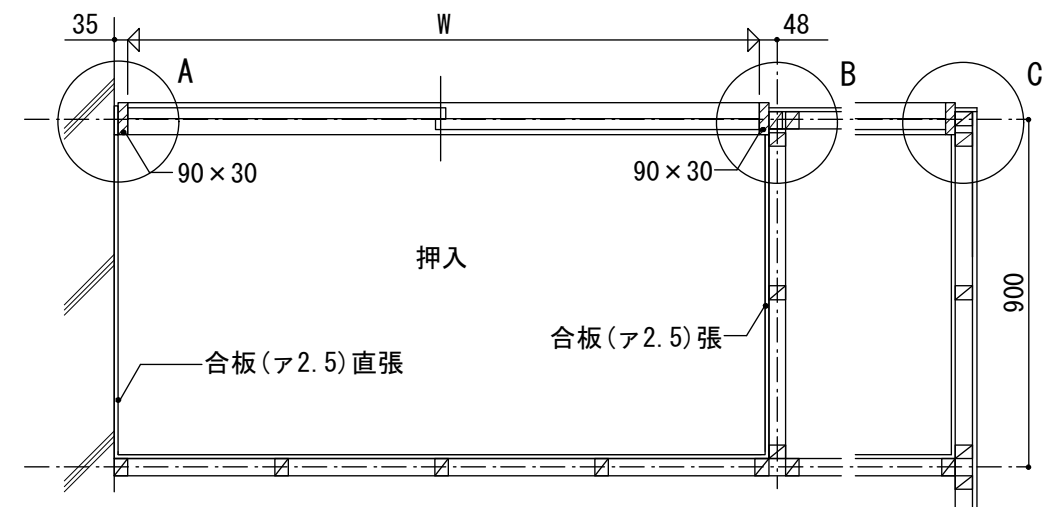
断面図 1:5



A部詳細図

B部詳細図

C部詳細図



平面図 1:20

【仕様】

- ・※1石こうボードの場合はコーナフレックステープ又はコーナビードを設ける。

【附記事項】

- ・W, H, Dは建物設計図による。
- ・ダクトは AI-163 による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

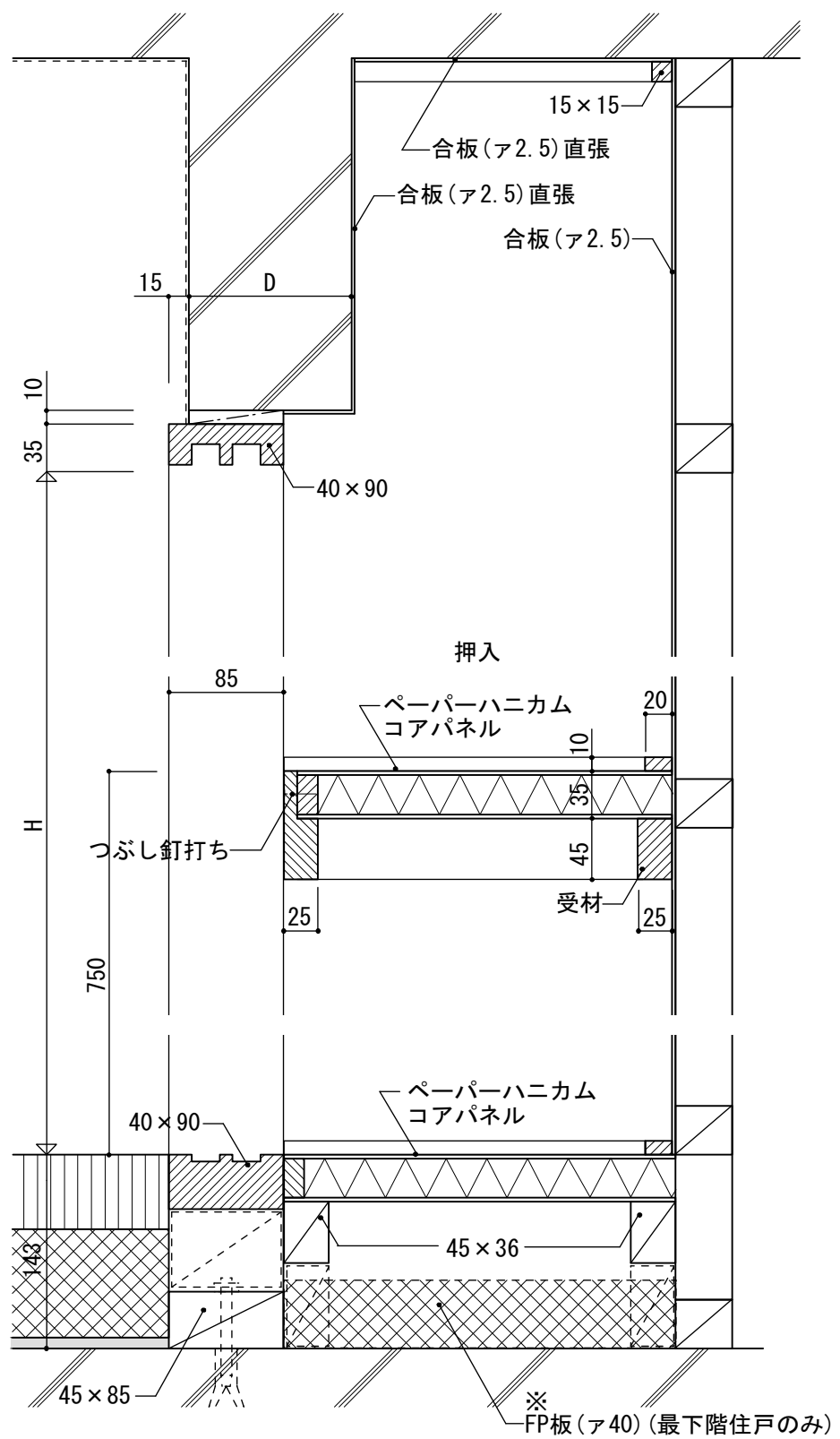
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

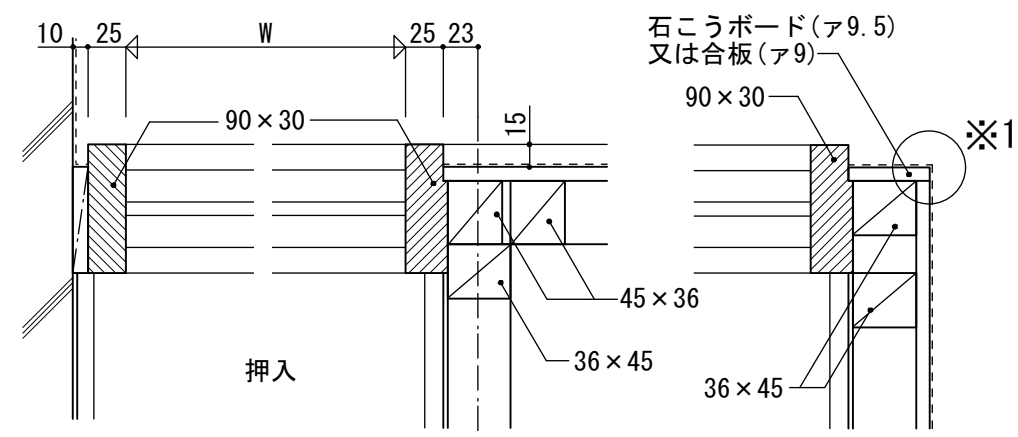
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	押入廻り-5 (天袋なし-1)		
縮尺	1:5	AI - 205	頁 I-45
	1:20		



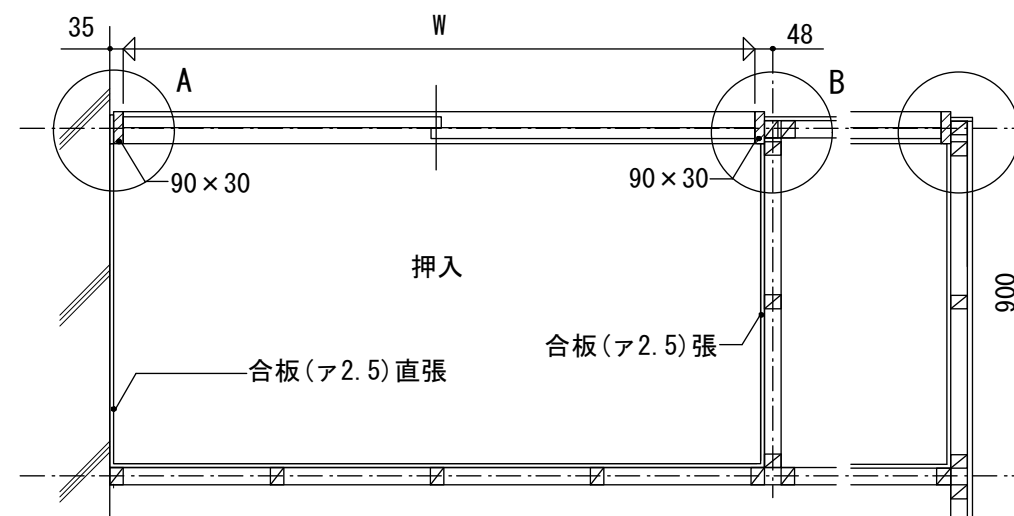
断面図 1:5



A部詳細図

B部詳細図

C部詳細図



平面図 1:20

【仕様】

- ・紙ハニカムコアパネルのパネル用ペーパーコアはJIS A 6931のIV種とする。
- ・※1石膏ボードの場合はコーナフレックステープ又はコーナビードを設ける。

【附記事項】

- ・W, H, Dは建物設計図による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

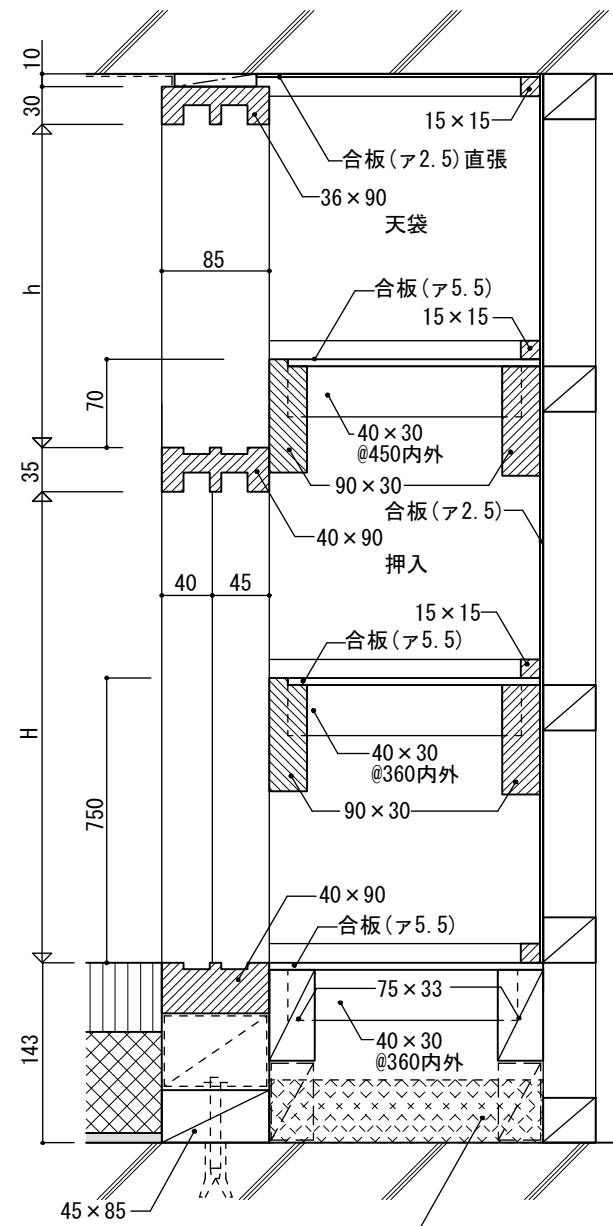
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

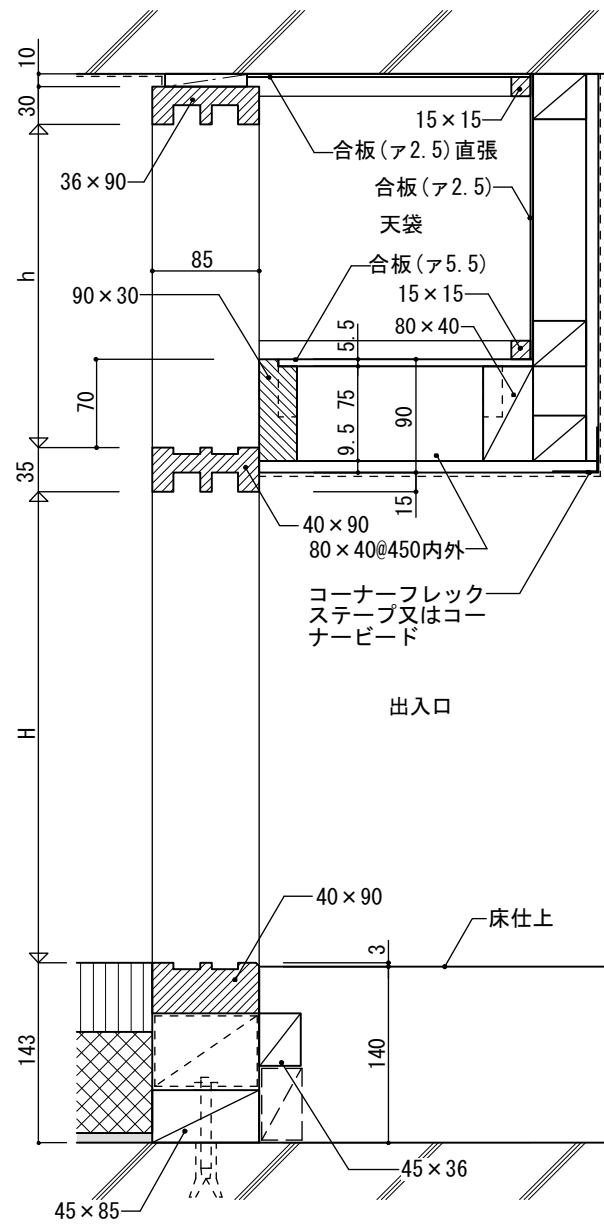
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	挿入廻り-6 (天袋なし-2)		
縮尺	1:5 1:20	AI - 206	頁 I-46

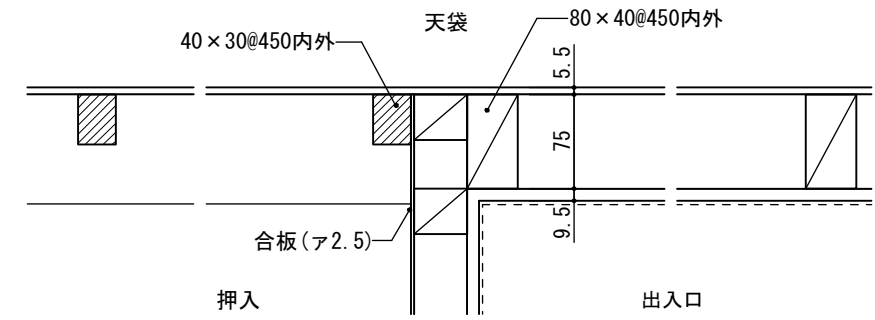


A-A 断面図 1:6

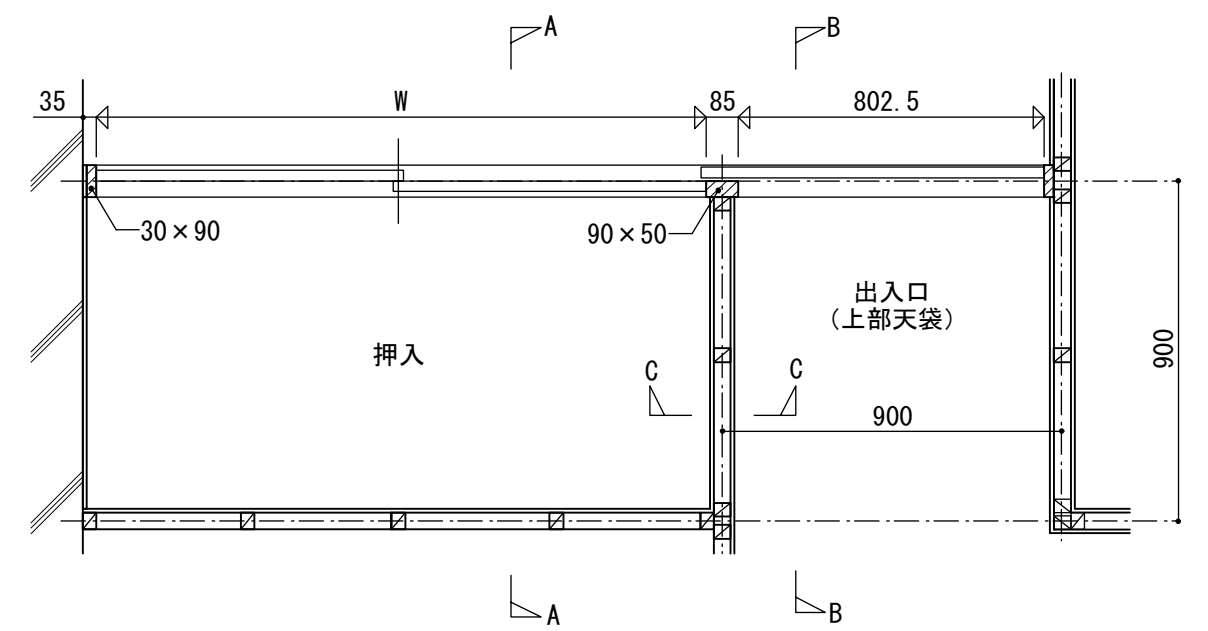
※FP板(ア40)(最下階住戸のみ)



B-B 断面図 1:6



(押入出入口壁廻り)  
C-C 断面図 1:6



平面図 1:20

【仕様】

- ・天袋かまちと中かも居は釘止めしないこと。
- ・平面詳細廻りは AI-203 による。

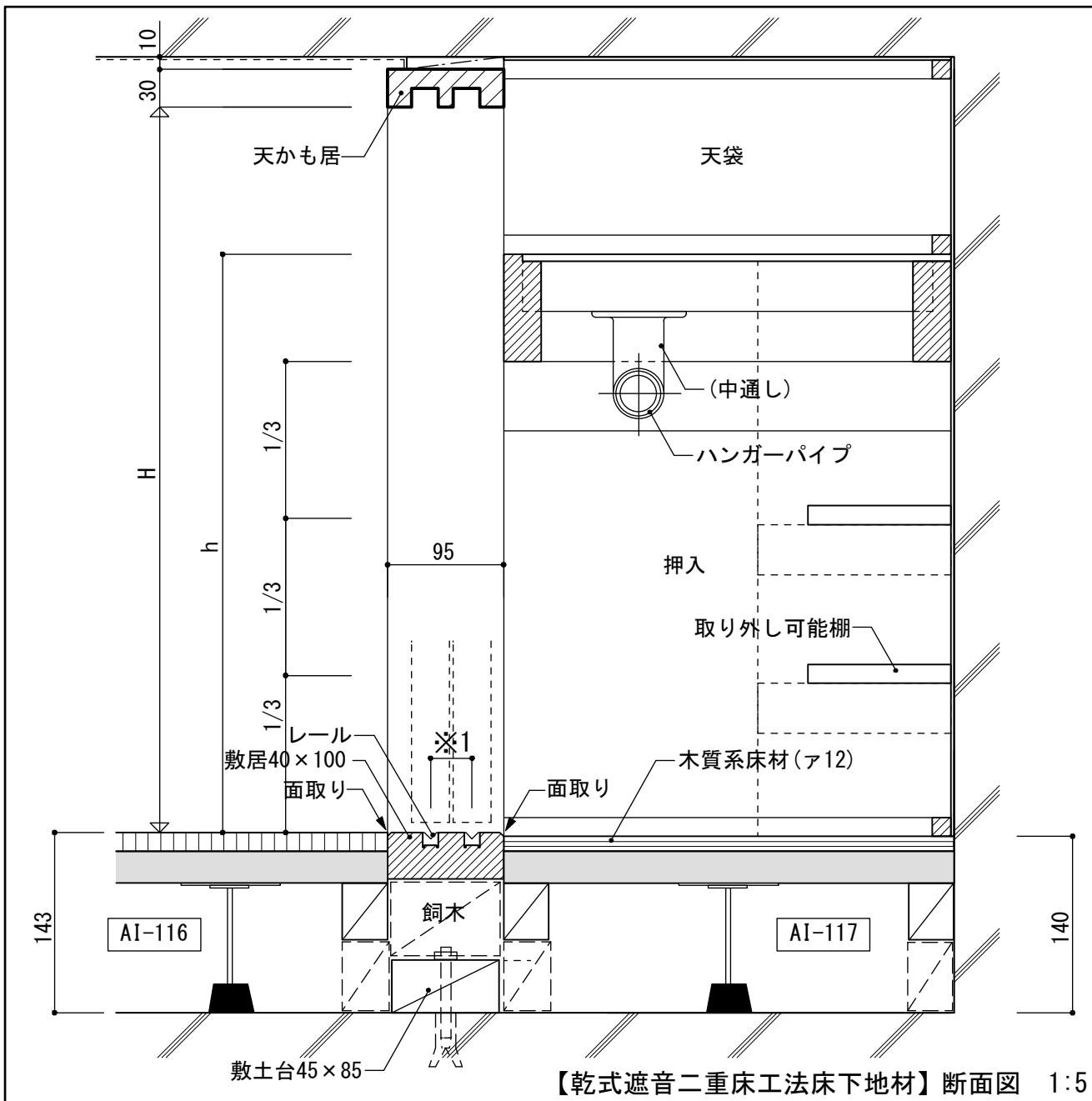
【附記事項】

- ・W, H, hは建物設計図による。
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

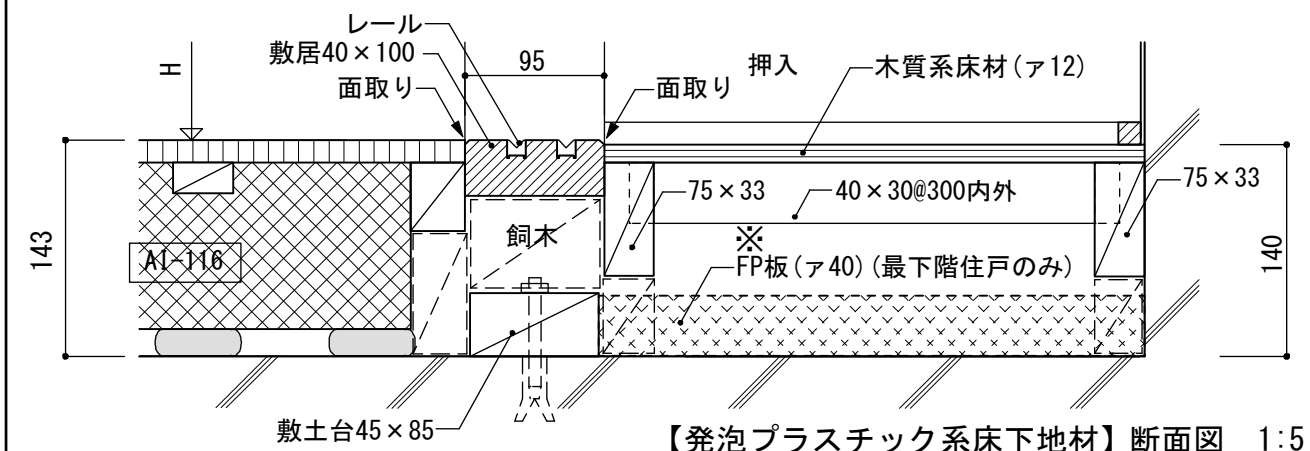
【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	押入廻り-7 (居室出入口上部天袋付)		
縮尺	1:6 1:20	AI - 207	頁 I-47



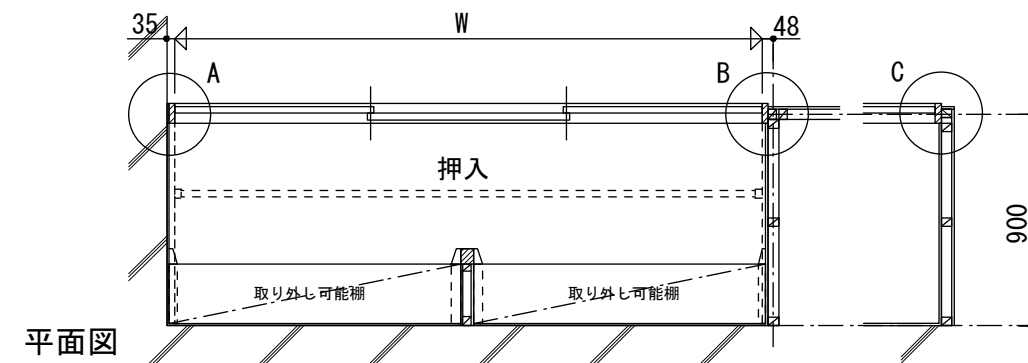
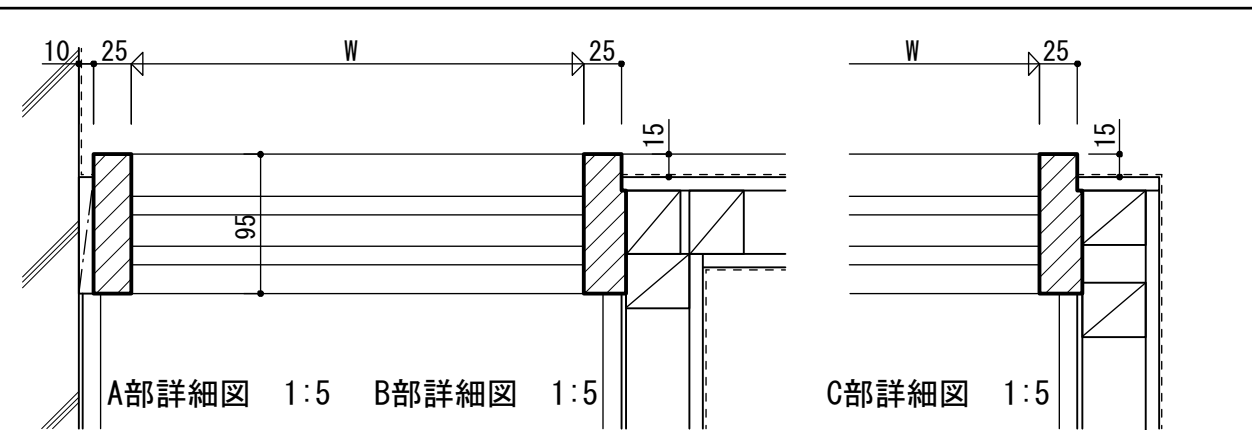
【乾式遮音二重床工法床下地材】断面図 1:5



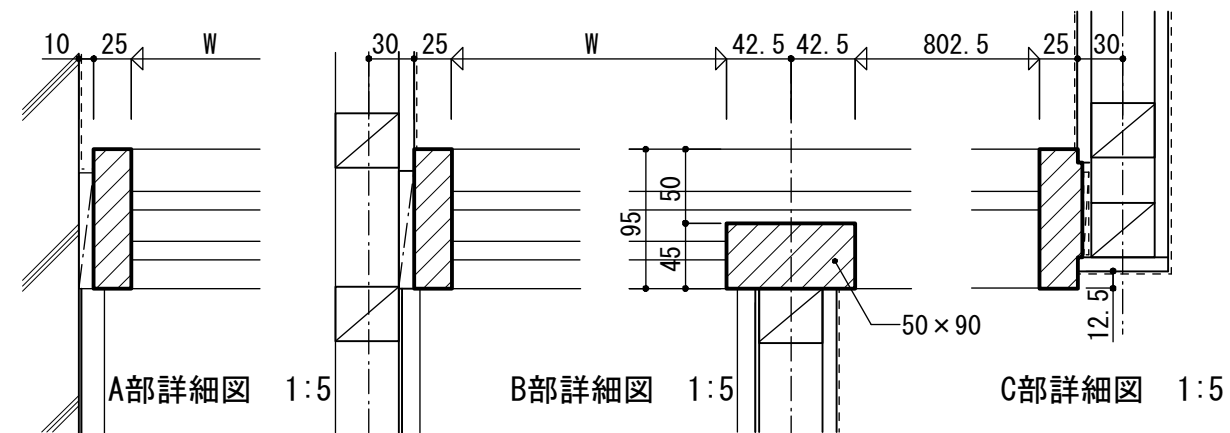
【発泡プラスチック系床下地材】断面図 1:5

【仕様】  
 ・ 押入内部は押入廻り AI-201~207 による。  
 ・ ※1レールの間隔は戸厚により決定する。

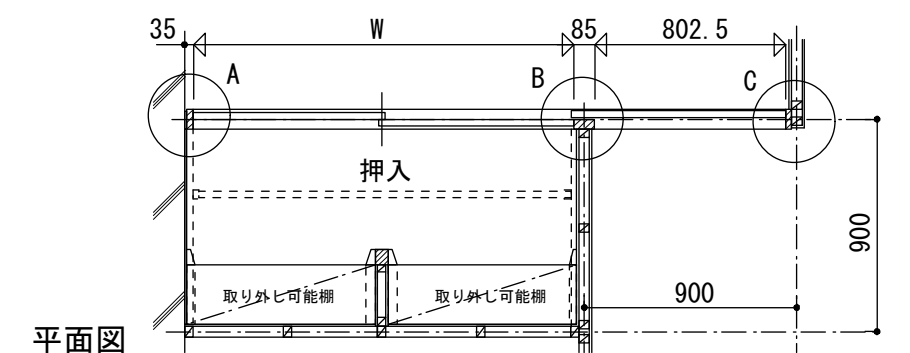
【附記事項】  
 ・ W, H, hは建物設計図による。  
 ・ ※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。



平面図



(コンクリート壁の場合) (木造壁の場合)

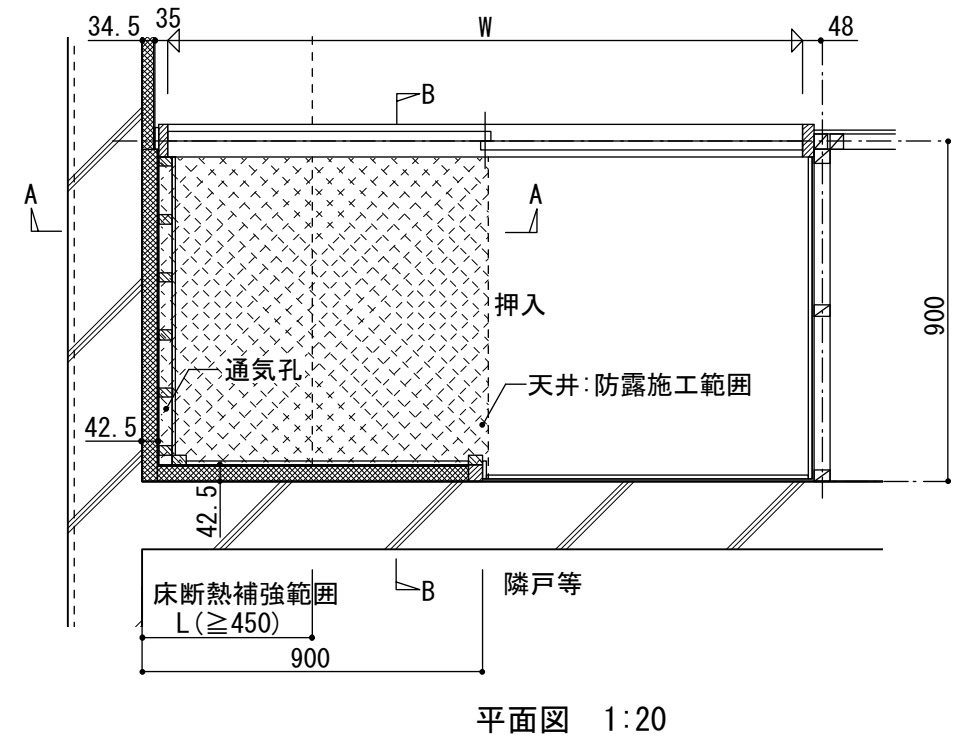
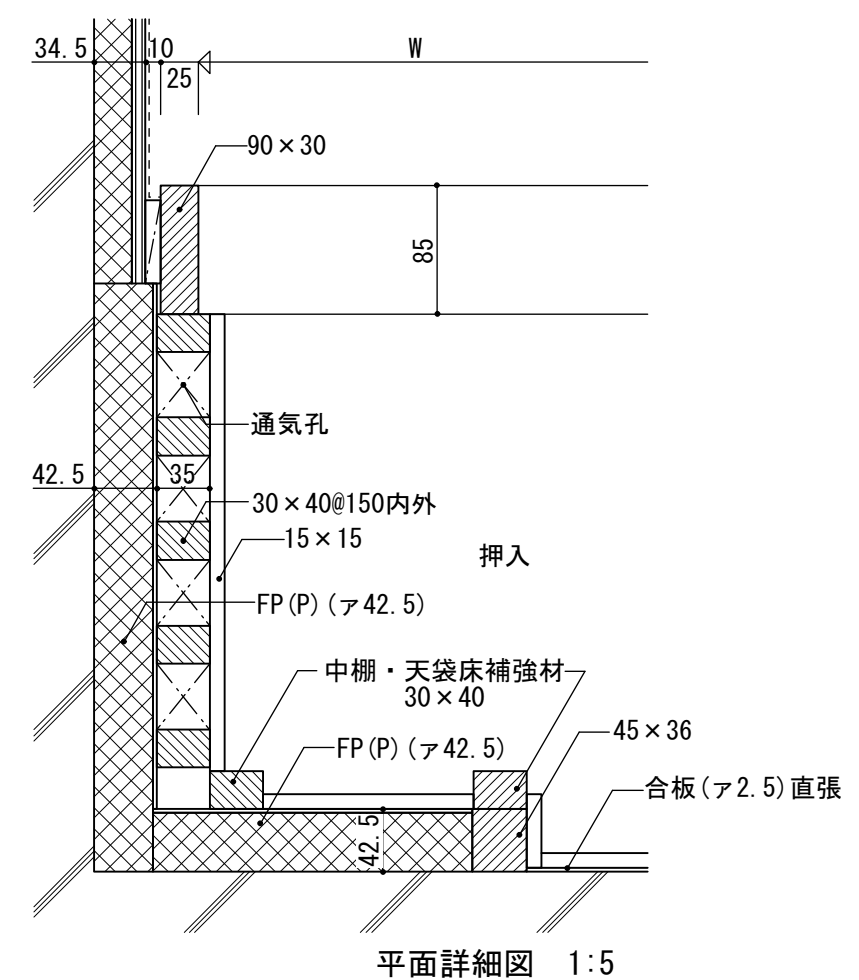
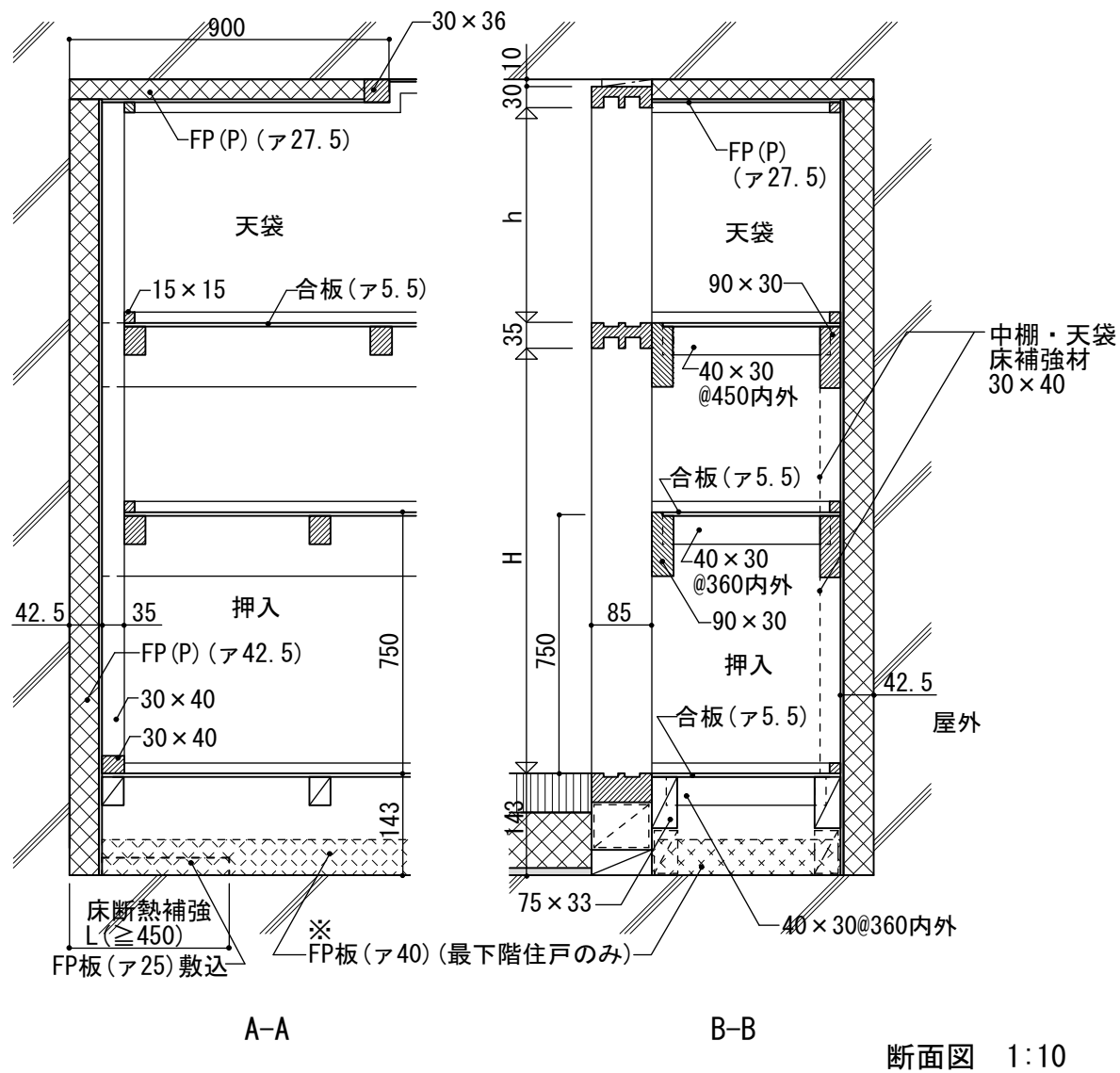
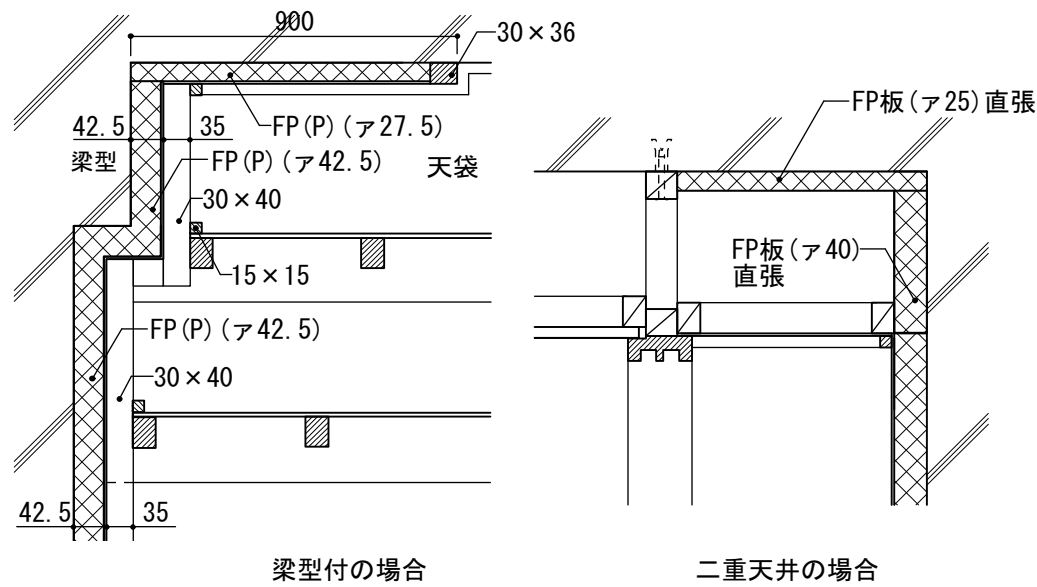


平面図

【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】  
 ・ 第1版(追) H. 17. 12. 1  
 ・ 第2版 H. 21. 12. 1  
 ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	押入廻り-8 和洋室可変型住宅(和室)		
縮尺	1:5	AI - 208	頁 I-48



【仕様】

【附記事項】

- ・ W, H, hは建物設計図による。
- ・ 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。  
(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
- ・ ※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

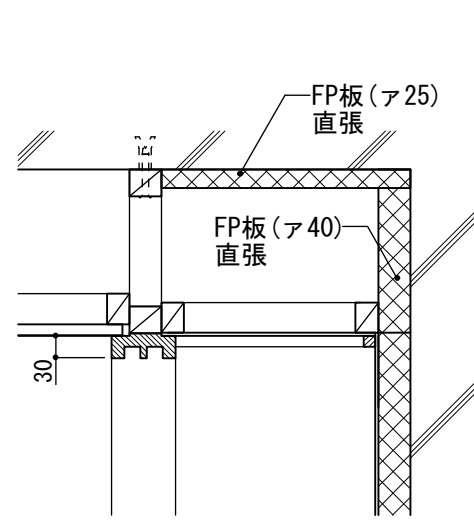
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追) H. 16. 8. 1

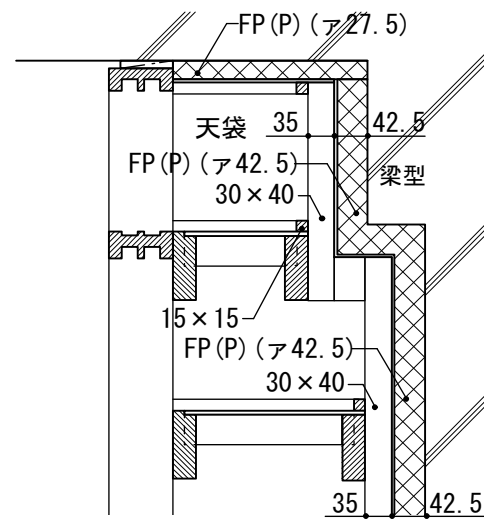
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

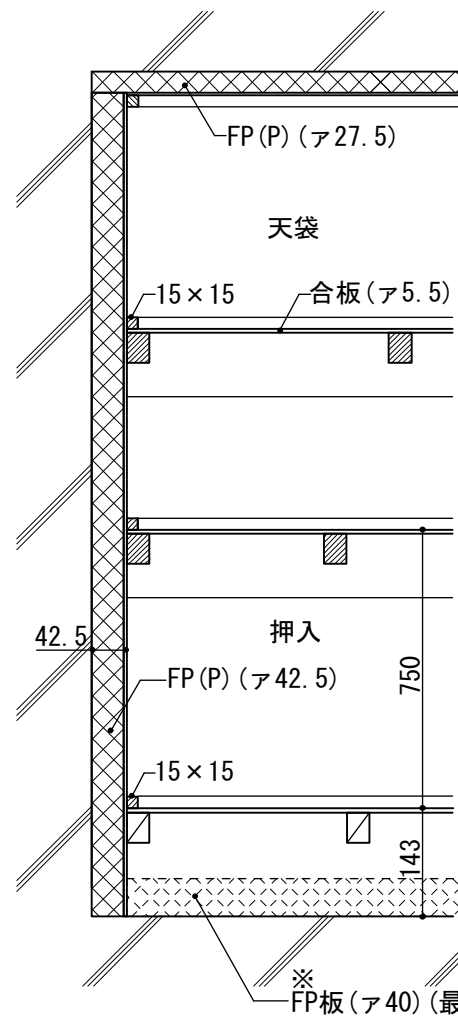
名称	押入防露壁廻り-1		
縮尺	1:5	1:10	1:20
	AI - 211		頁 I-49



二重天井の場合

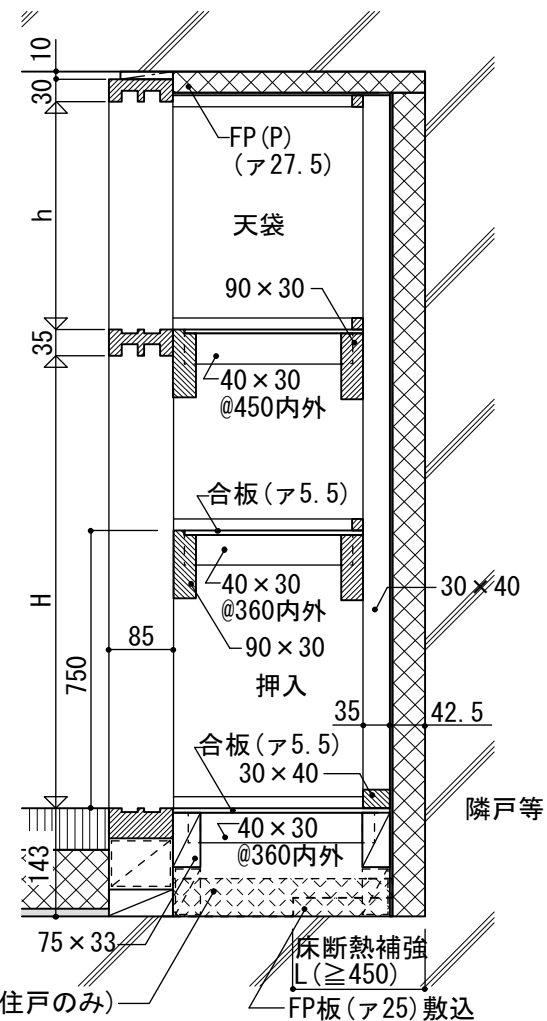


梁型付の場合

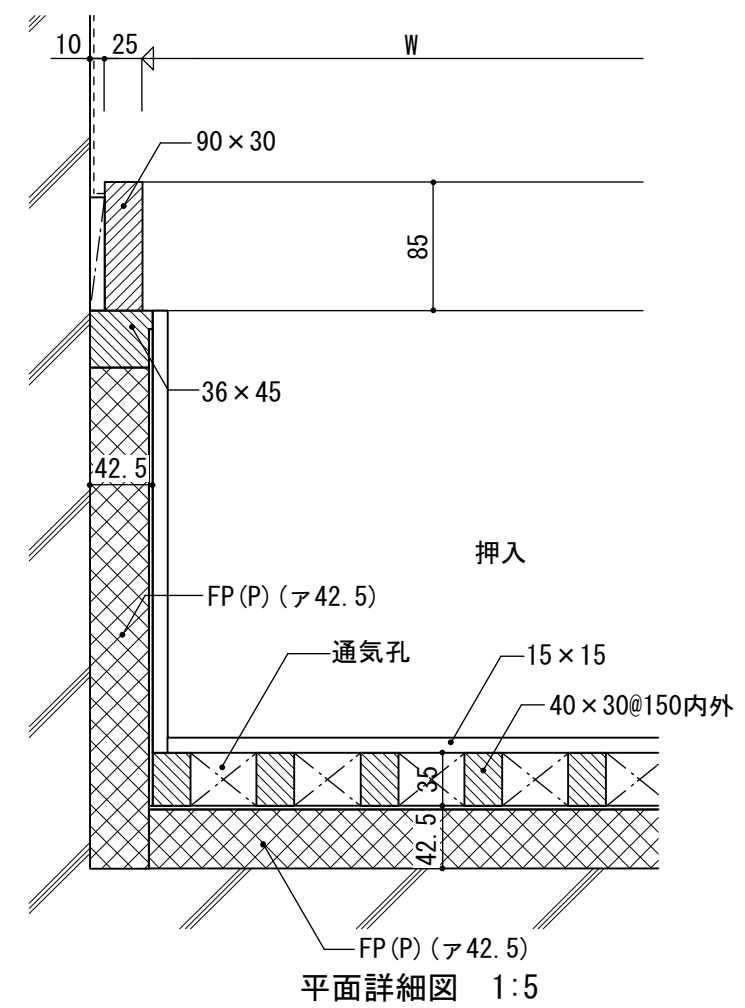


断面図 1:10

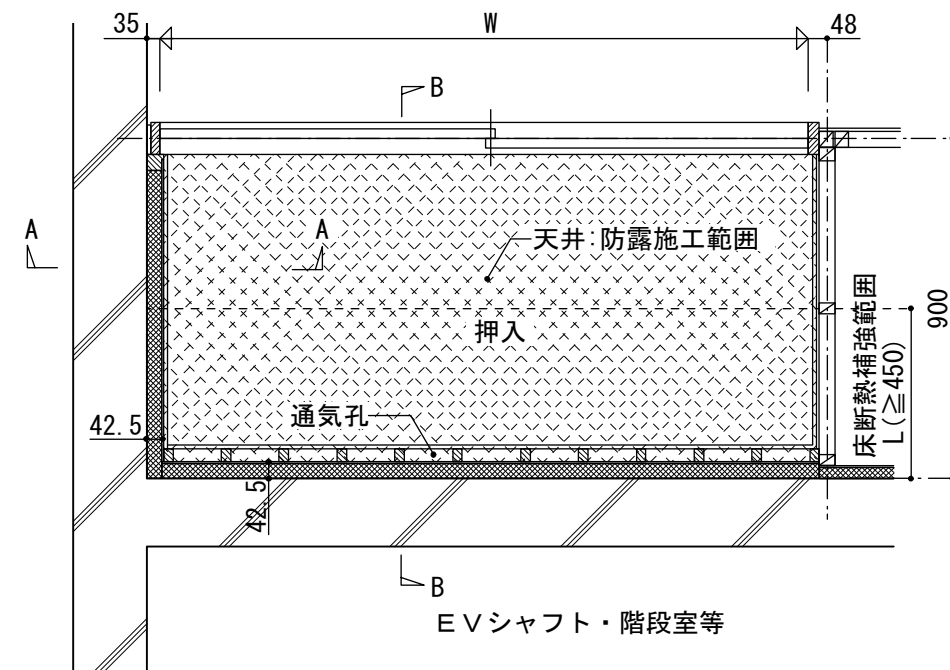
A-A



B-B



平面詳細図 1:5



平面図 1:20

【仕様】

【附記事項】

- ・ W, H, hは建物設計図による。
- ・ 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。  
(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
- ・ ※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追) H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称

押入防露壁廻り-2

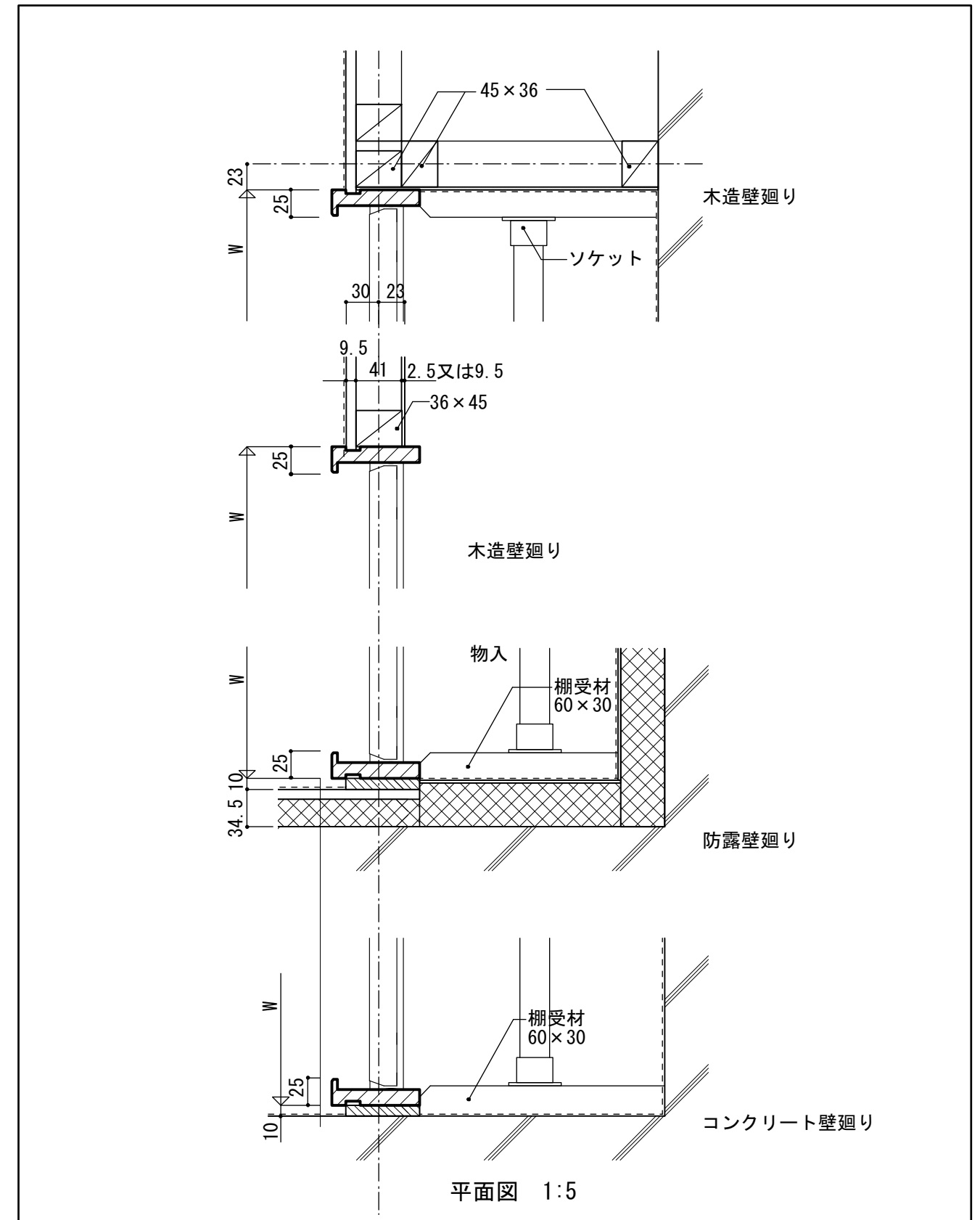
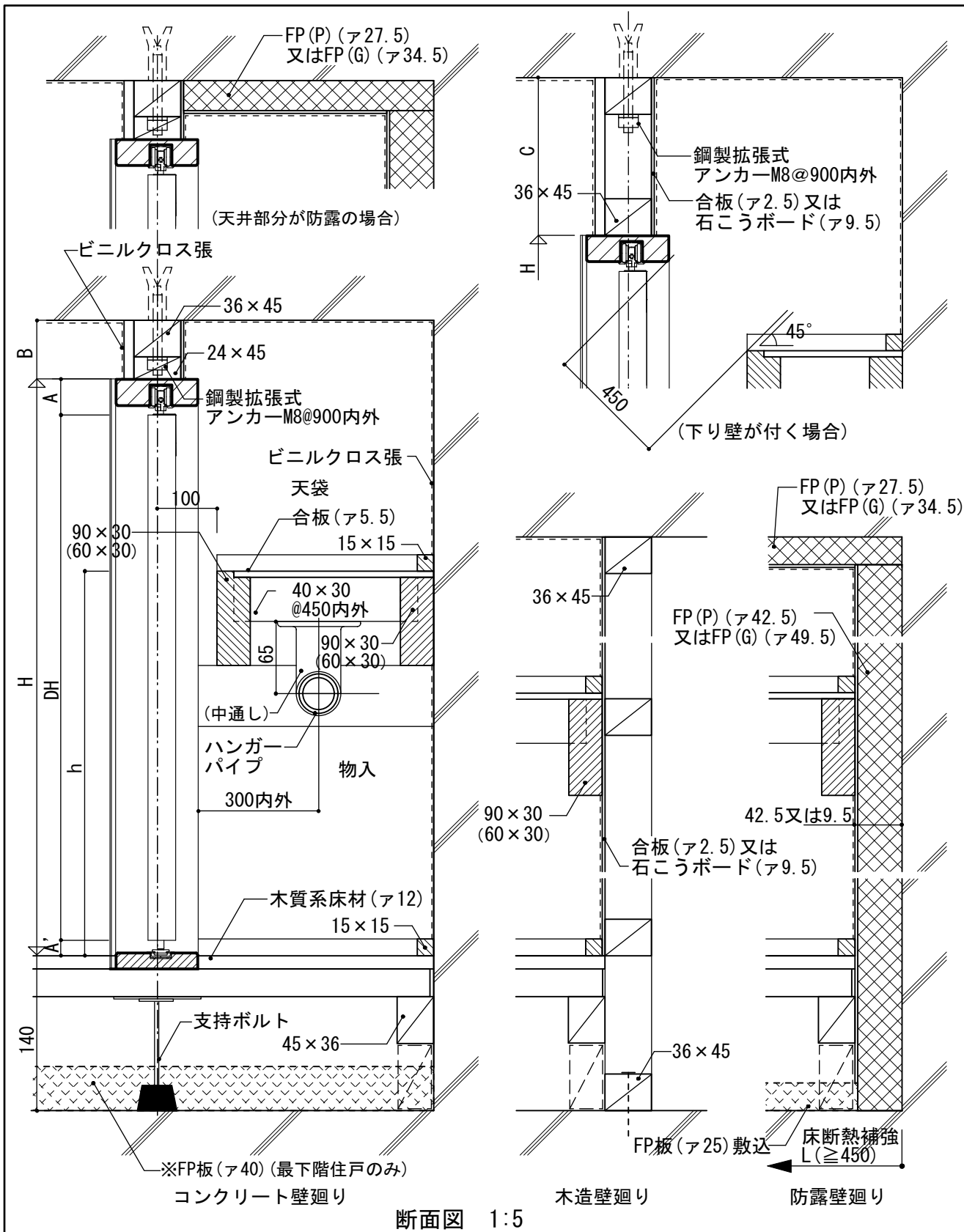
縮尺

1:5  
1:10  
1:20

AI - 212

頁

I-50



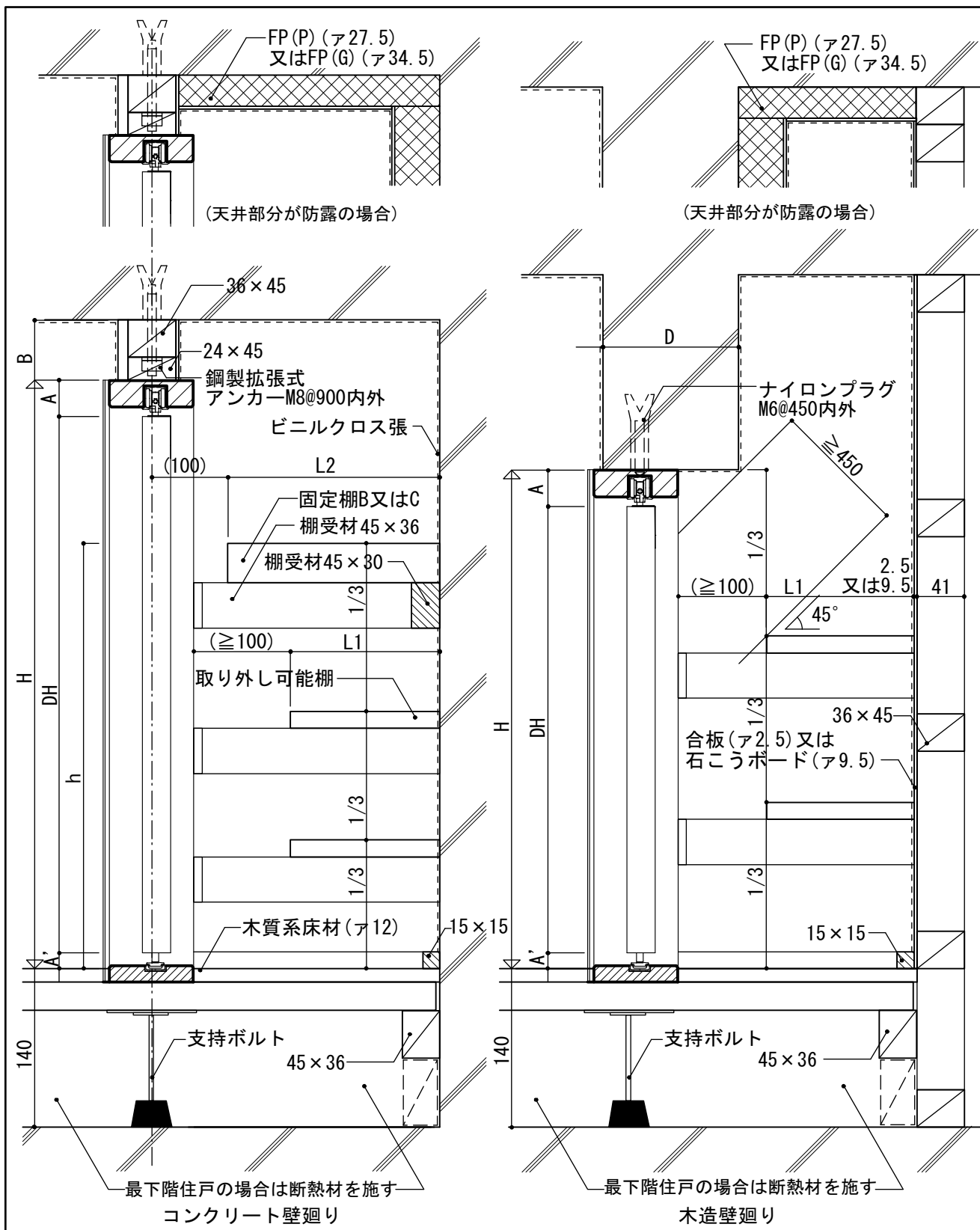
- 【仕様】
- ・内部仕上は建物設計図による。
  - ・ハンガーパイプ:ステンレスヘアライン仕上又はクロムメッキ仕上φ25とする。
  - ・ソケット:材質はステンレスとし壁面への取付はステンレス平ビス止め(コンクリート壁はナイロンプラグ併用)とする。
  - ・ブラケット(中通し):材質は垂鉛ダイカスト製クロムメッキ仕上とする。

- 【附記事項】
- ・W. H. h. B. Cは建物設計図による。
  - ・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
  - ・DH. A. A'はメーカー寸法による。
  - ・ハンガーパイプの長さが1.200未満の場合は中通しはなしとする。
  - ・中通しなしの場合の中棚は前框、根太掛の部材寸法を( )内寸法とする。

- 【附記事項】
- ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	折戸物入廻りー1 ハンガーパイプ付	
・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1 ・第4版2刷 H. 10. 2. 1 ・第5版 H. 13. 11. 1 ・第5版(追)H. 16. 8. 1	・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	縮尺	1:5	AI - 301
				頁 I-51

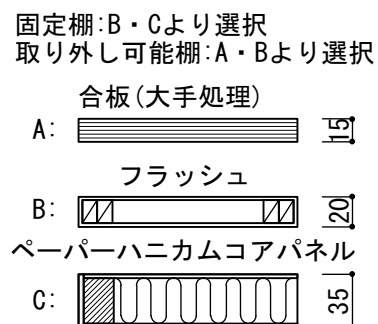




断面図 1:5

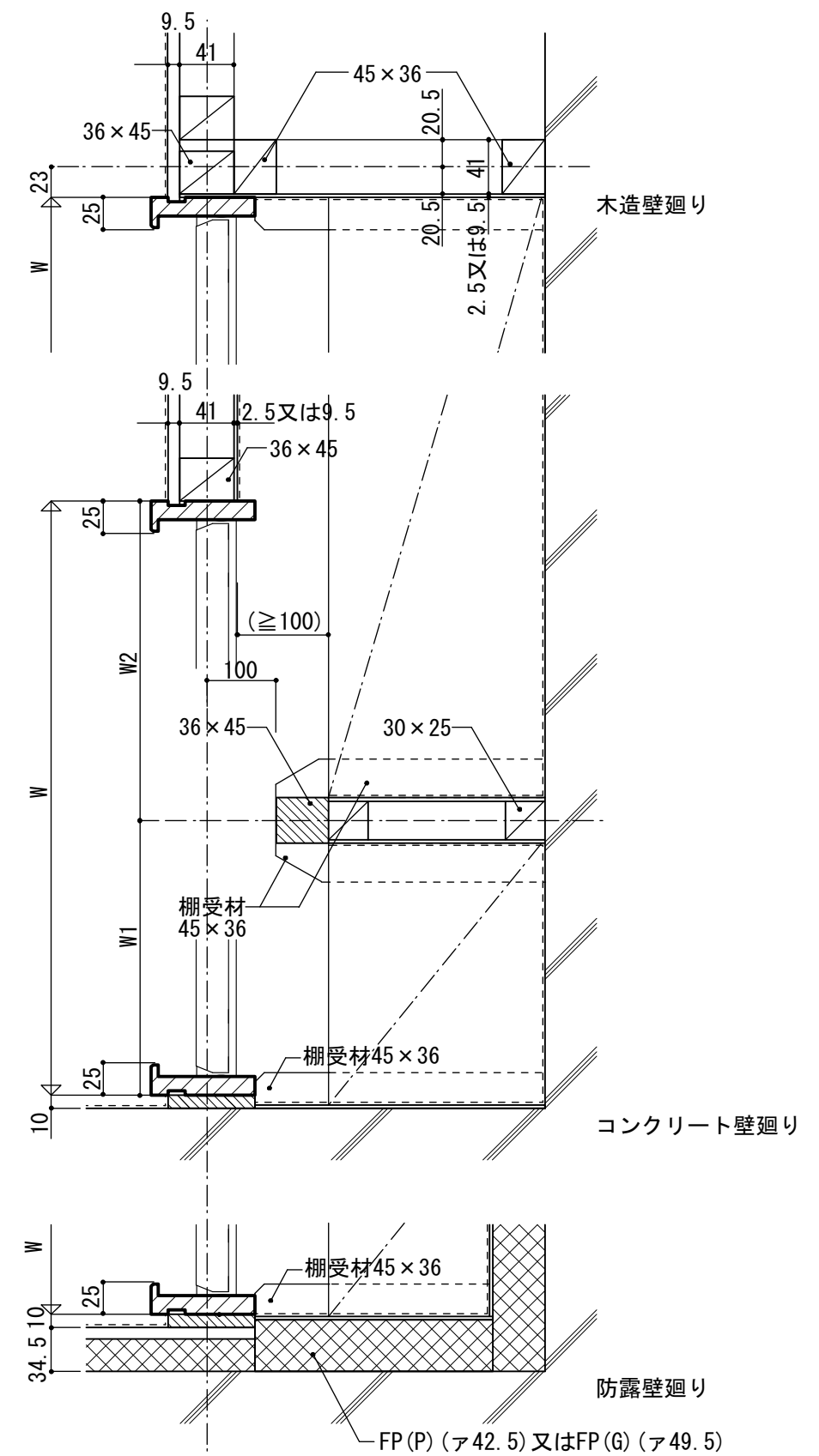
【仕様】

- ・内部仕上は建物設計図による。
- ・固定棚の種別は建物設計図による。
- ・取り外し可能棚の種別は建物設計図による。L1が800程度以上の場合は2枚割りとする。
- ・ペーパーハニカムコアパネルのパネル用ペーパーコアはJIS A 6931のIV種とする。



【附記事項】

- ・W, W1, W2, H, h, L1, L2, B, Dは建物設計図による。
- ・DH, A, A'はメーカー寸法による。
- ・中間の棚受材については、物入内法長さが1,200を超える場合に標準として設置するが、設置の有無については建物設計図による。



平面図 1:5

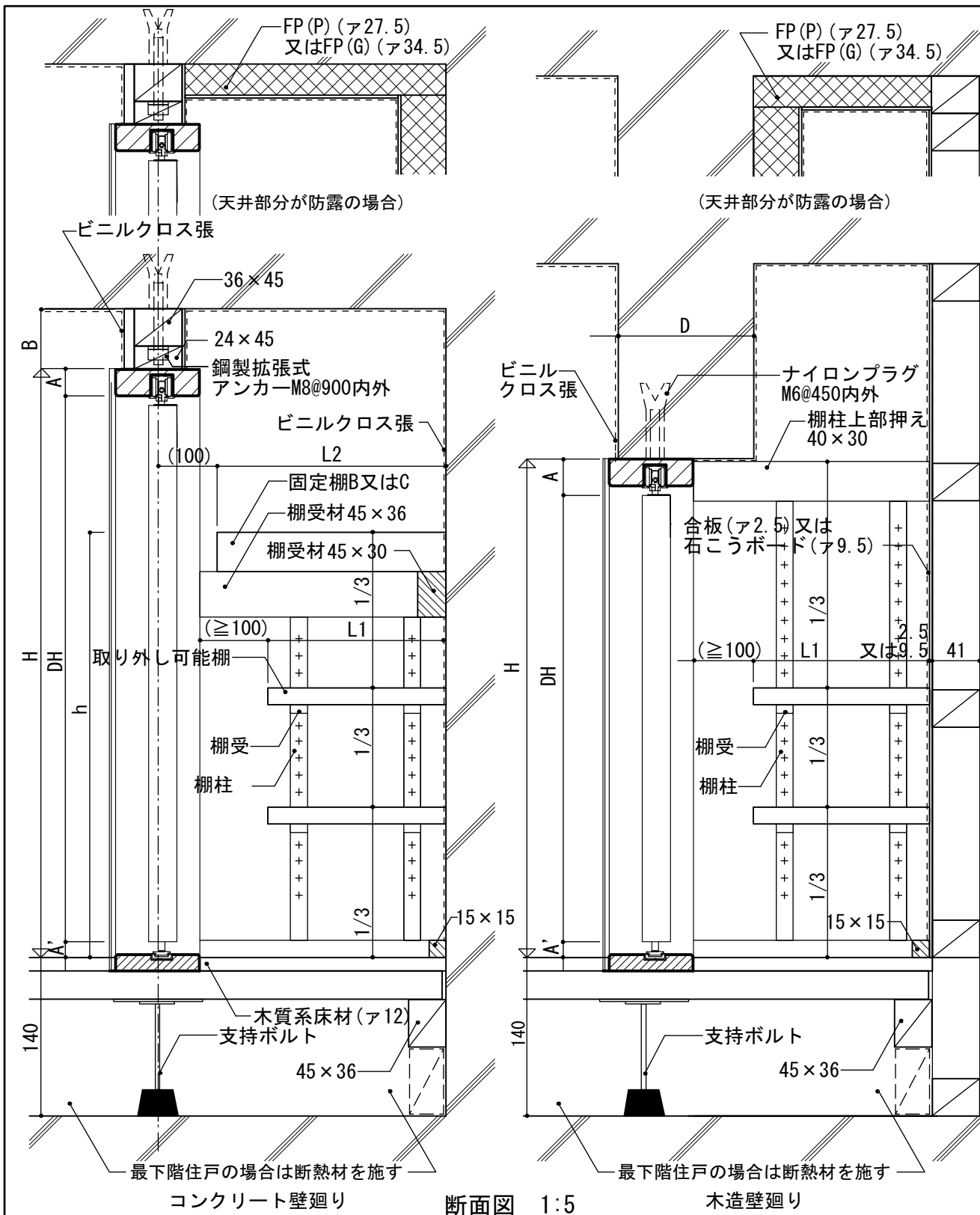
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	折戸物入廻り-2 (中棚付-1)		
縮尺	1:5	AI - 302	頁 I-52



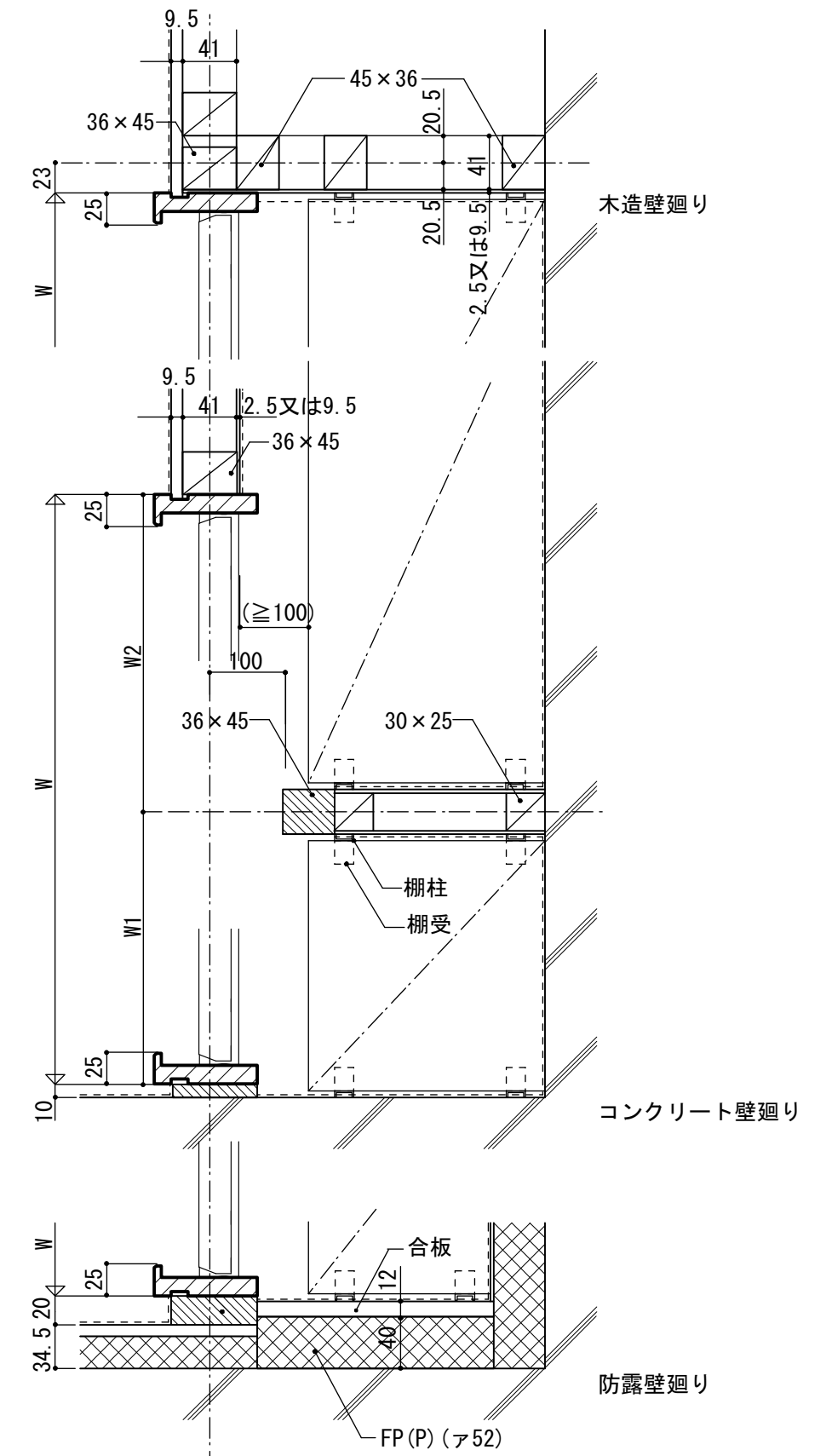
断面図 1:5

木造壁廻り

- 【仕様】
- 内部仕上は建物設計図による。
  - 棚柱の材質はステンレス製(SUS-304)又はアルミニウム合金押出型材とし取り付けはメーカー仕様による。
  - 棚受の材質は、合成ゴム製カバー付とする。
  - 棚受の間隔は20mm前後とし、棚板1枚当たりの耐荷重は30kg程度とする。
  - 固定棚の種別は建物設計図による。
  - 取り外し可能棚の種別は建物設計図による。

- ペーパーハニカムコアパネルのパネル用ペーパーコアはJIS A 6931のIV種とする。
- 固定棚・B・Cより選択
- 取り外し可能棚・A・Bより選択
- 合板(大手処理)
- A: 15
- フラッシュ
- B: 20
- ペーパーハニカムコアパネル
- C: 35

- 【附記事項】
- W, W1, W2, H, h, L1, L2, B, Dは建物設計図による。
  - DH, A, A'はメーカー寸法による。
  - 中間の棚受材については、物入内法長さが1,200をこえる場合に標準として設置するが、設置の有無については建物設計図による。

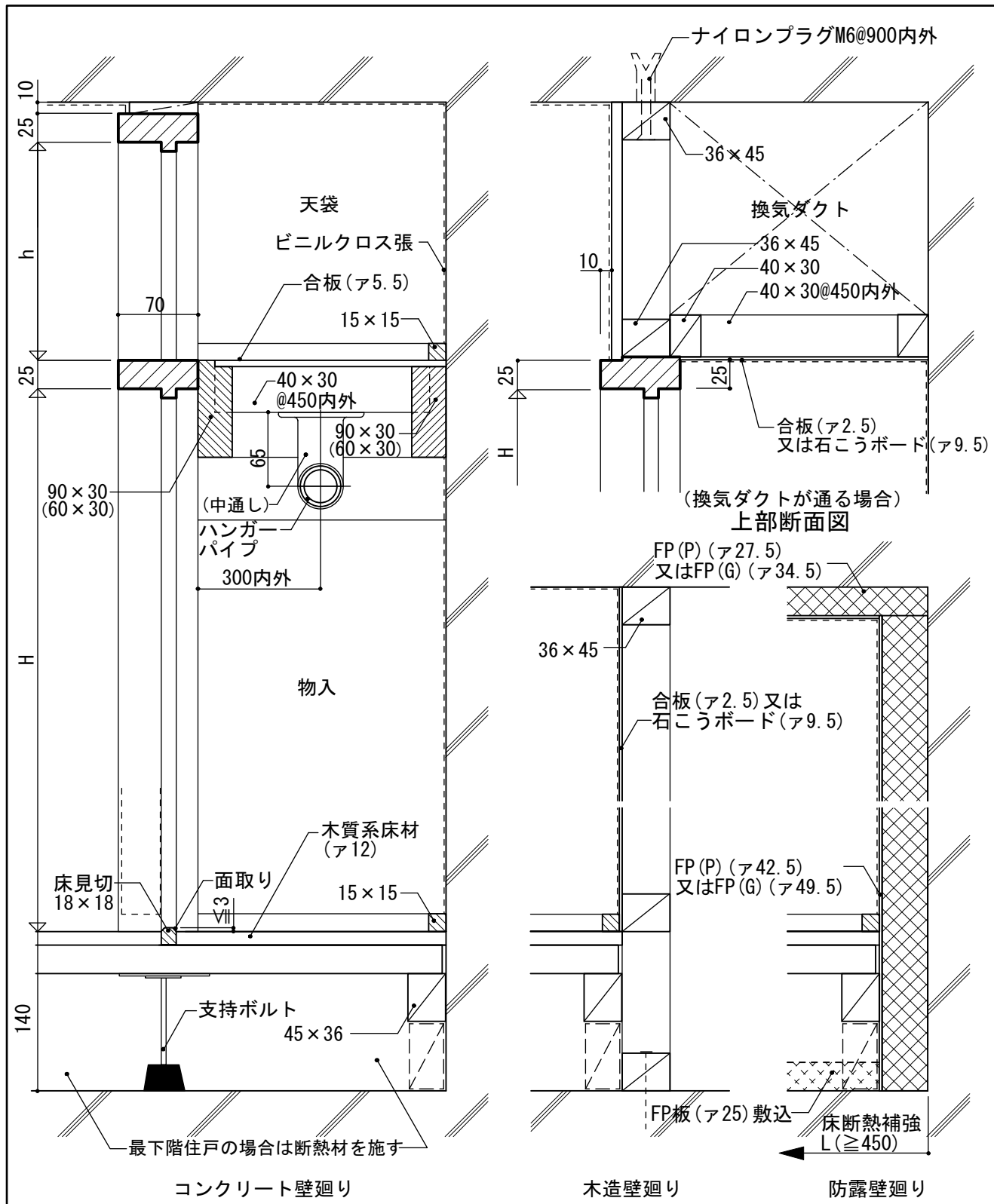


平面図 1:5

- 【改訂事項(公団住宅)】
- 第2版 S. 61. 12. 1
  - 第3版 H. 4. 12. 1
  - 第4版 H. 8. 10. 1
  - 第5版 H. 13. 11. 1

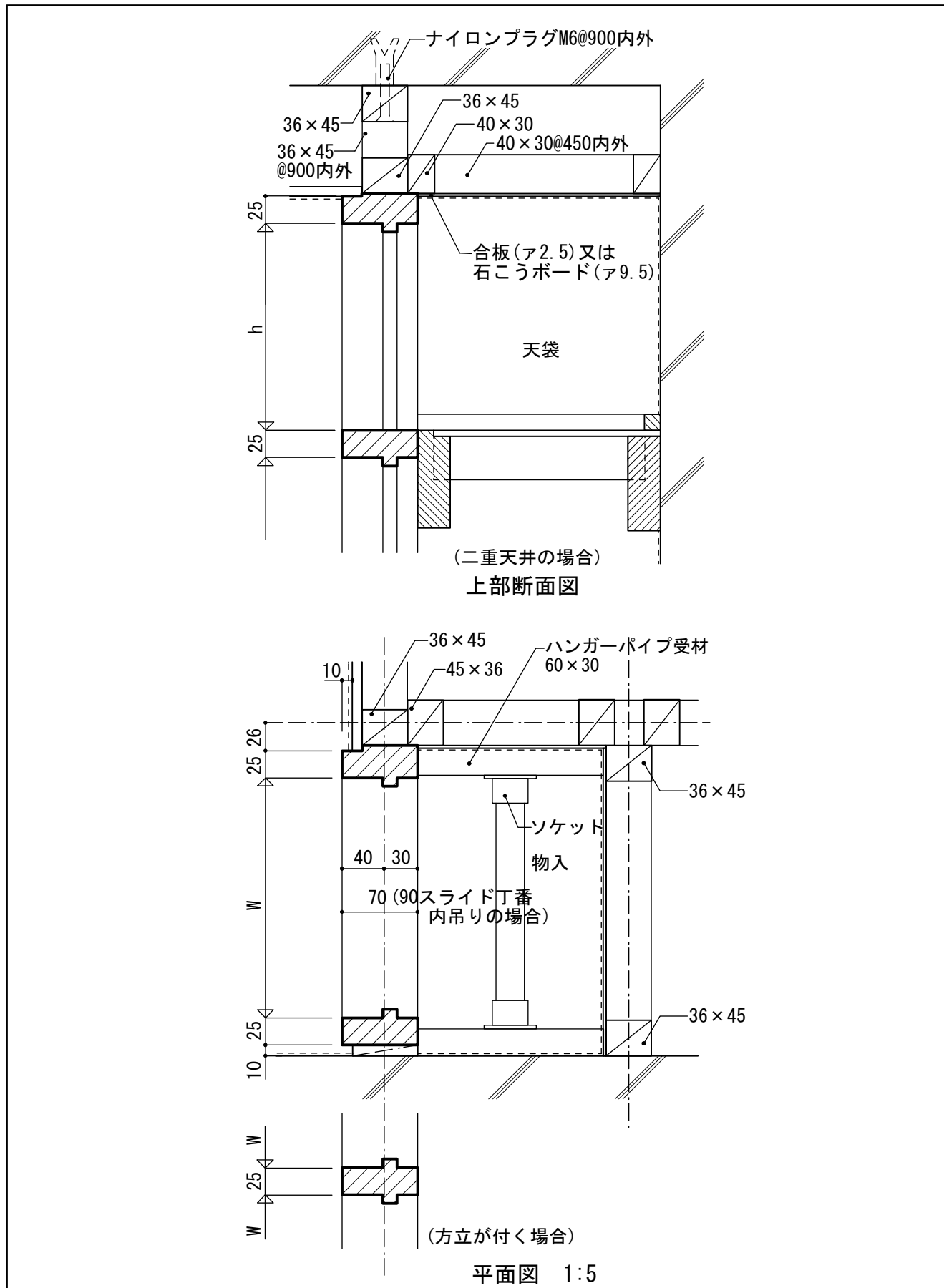
- 【改訂事項(機構住宅)】
- 第2版 H. 21. 12. 1
  - 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	折戸物入廻り-3 (中棚付-2)		
縮尺	1:5	AI - 303	頁 I-53

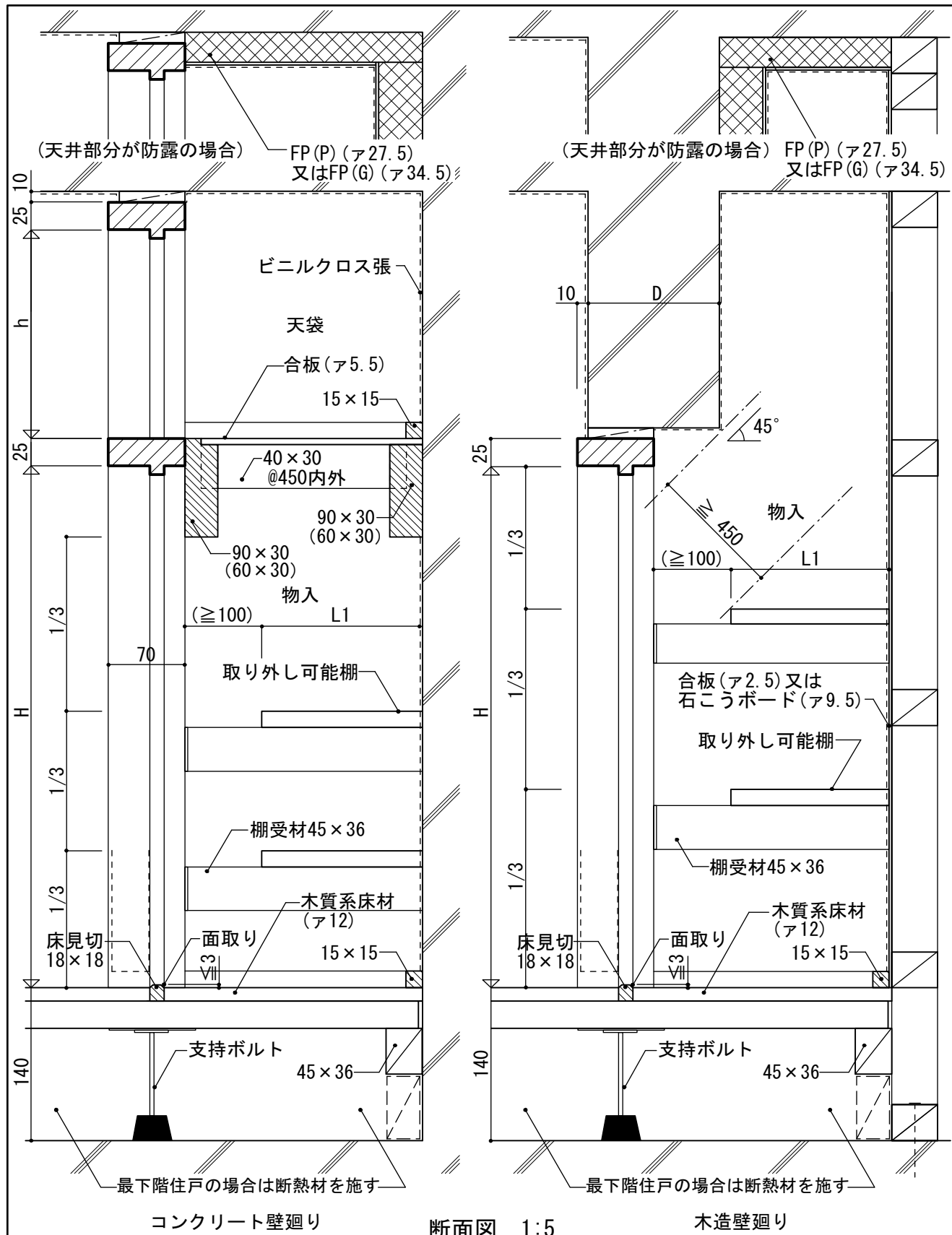


断面図 1:5

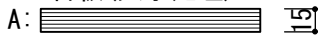
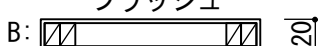
- 【仕様】
- ・内部仕上は建物設計図による。
  - ・ハンガーパイプ:ステンレスヘアライン仕上又はクロムメッキ仕上φ25とする。
  - ・ソケット:材質はステンレスとし壁面への取付はステンレス平ビス止め(コンクリート壁はナイロンプラグ併用)とする。
  - ・ブラケット(中通し):材質は垂鉛ダイカスト製クロムメッキ仕上とする。
- 【附記事項】
- ・W, H, hは建物設計図による。
  - ・ハンガーパイプの長さが1,200未満の場合は中通しはなしとする。
  - ・中棚の間口長さが1200未満の場合のかまち、根太がけの部材寸法は( )内寸法とする。
  - ・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)



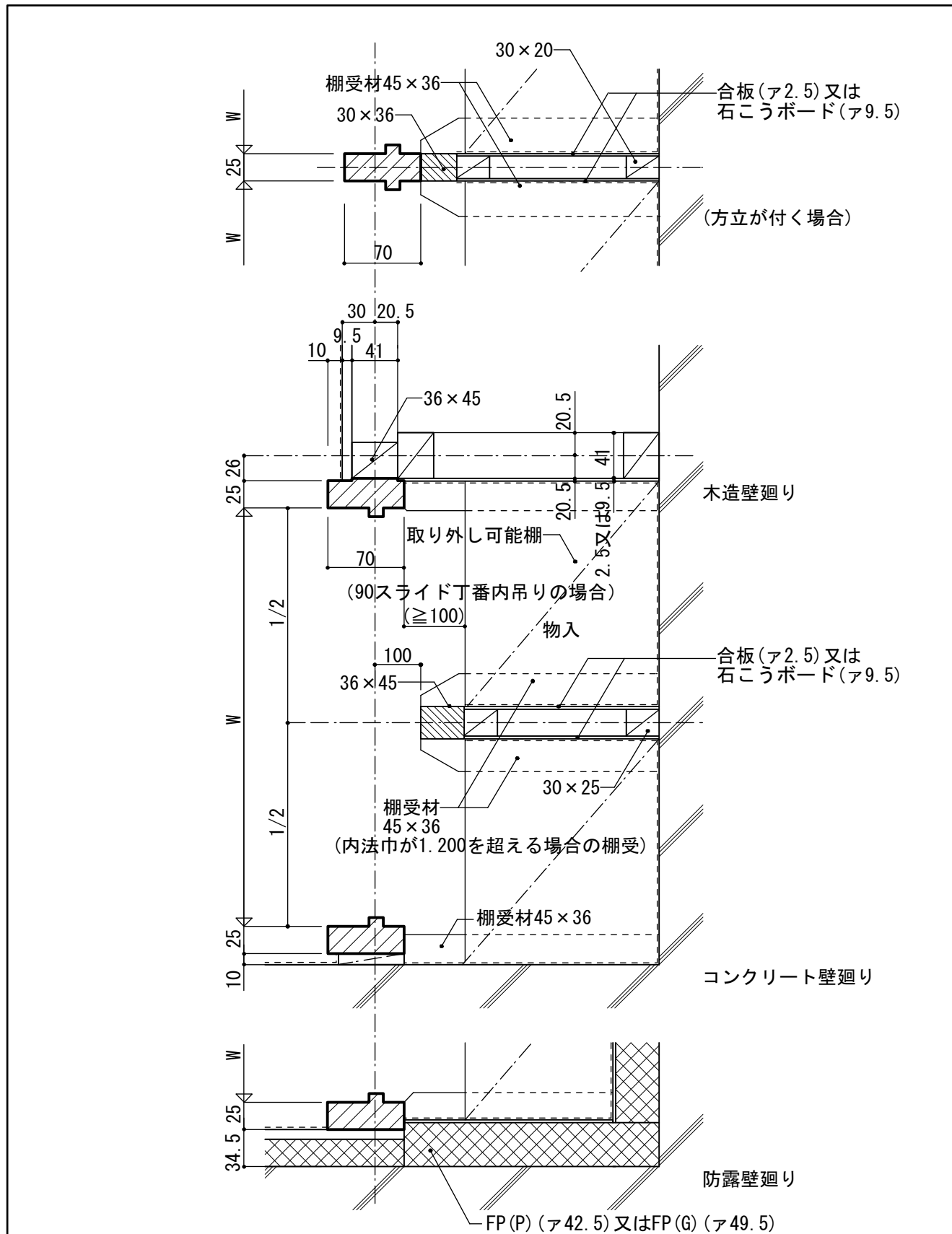
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	開戸物入廻り-1 ハンガーパイプ付	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1:5	頁 I-54
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1		AI - 311	
・第4版 H. 8. 10. 1				
・第4版2刷 H. 10. 2. 1				
・第5版 H. 13. 11. 1				



断面図 1:5

- 【仕様】
- ・内部仕上は建物設計図による。
  - ・中棚の種別は建物設計図による。
- 取り外し可能棚
- 合板(大手処理)
- A:  15
- フラッシュ
- B:  20

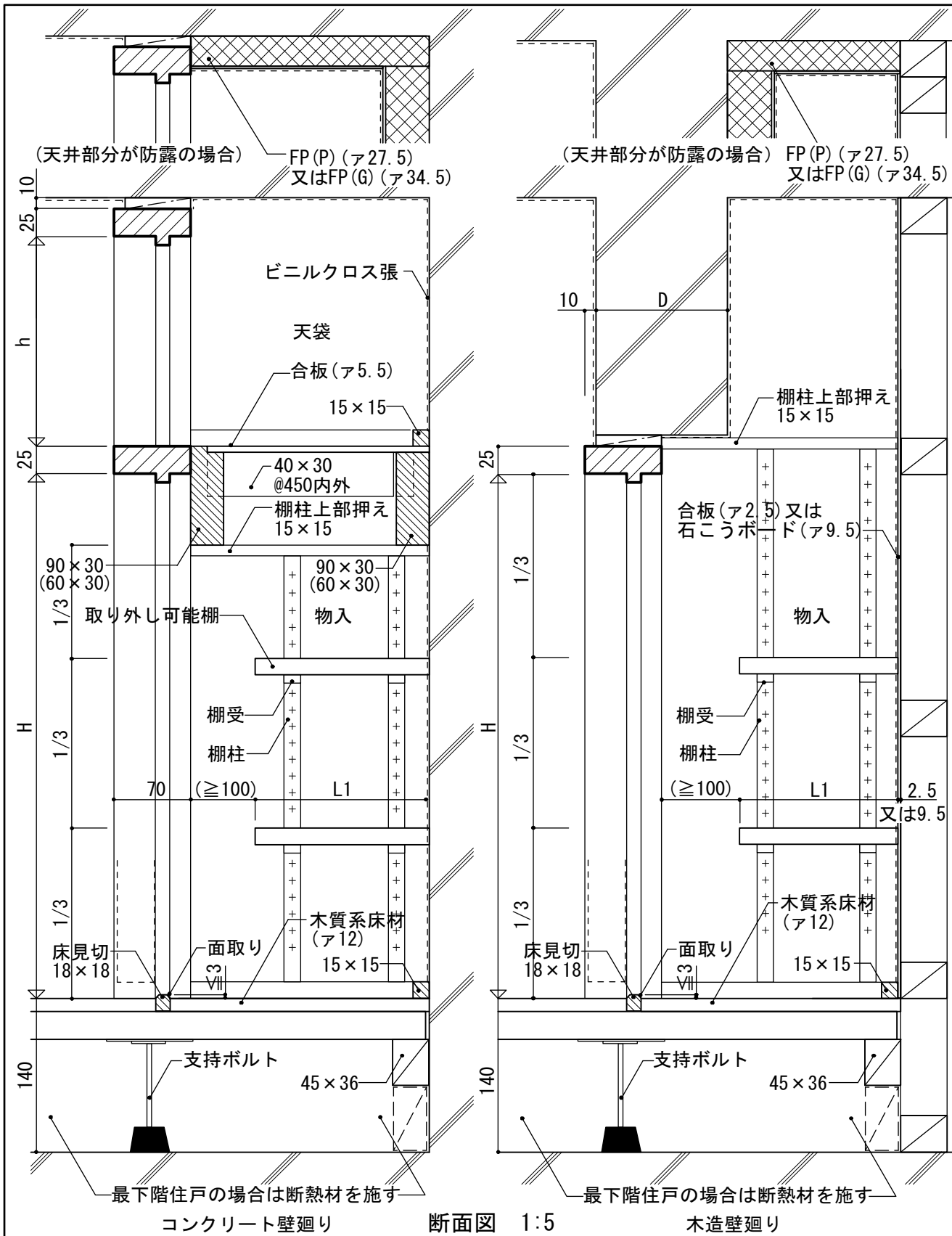
- 【附記事項】
- ・ W, H, L1, h, Dは建物設計図による。
  - ・ 中間の棚受材については、物入内法長さが 1.200 をこえる場合に標準として設置するが、設置の有無については建物設計図による。
  - ・ 物入の内法長さが 1.200 以下の場合の中棚はかまち、根太がけの部材寸法を( )内寸法とする。
  - ・ 上部に換気ダクトが通る場合は AI-311 による。



平面図 1:5

- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
  - ・ 第3版 H. 4. 12. 1
  - ・ 第4版 H. 8. 10. 1
  - ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
  - ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	開戸物入廻り-2 (中棚付-1)		
縮尺	1:5	AI - 312	頁 I-55




断面図 1:5

**【仕様】**

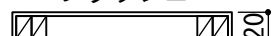
- 内部仕上は建物設計図による。
- 棚柱の材質はステンレス製(SUS-304)又はアルミニウム合金押出型材とし取り付けはメーカー仕様による。
- 棚受の材質は、合成ゴム製カバー付とする。
- 棚受の間隔は20mm前後とし、棚板1枚当たりの耐荷重は30kg程度とする。

取り外し可能棚

合板(大手処理)

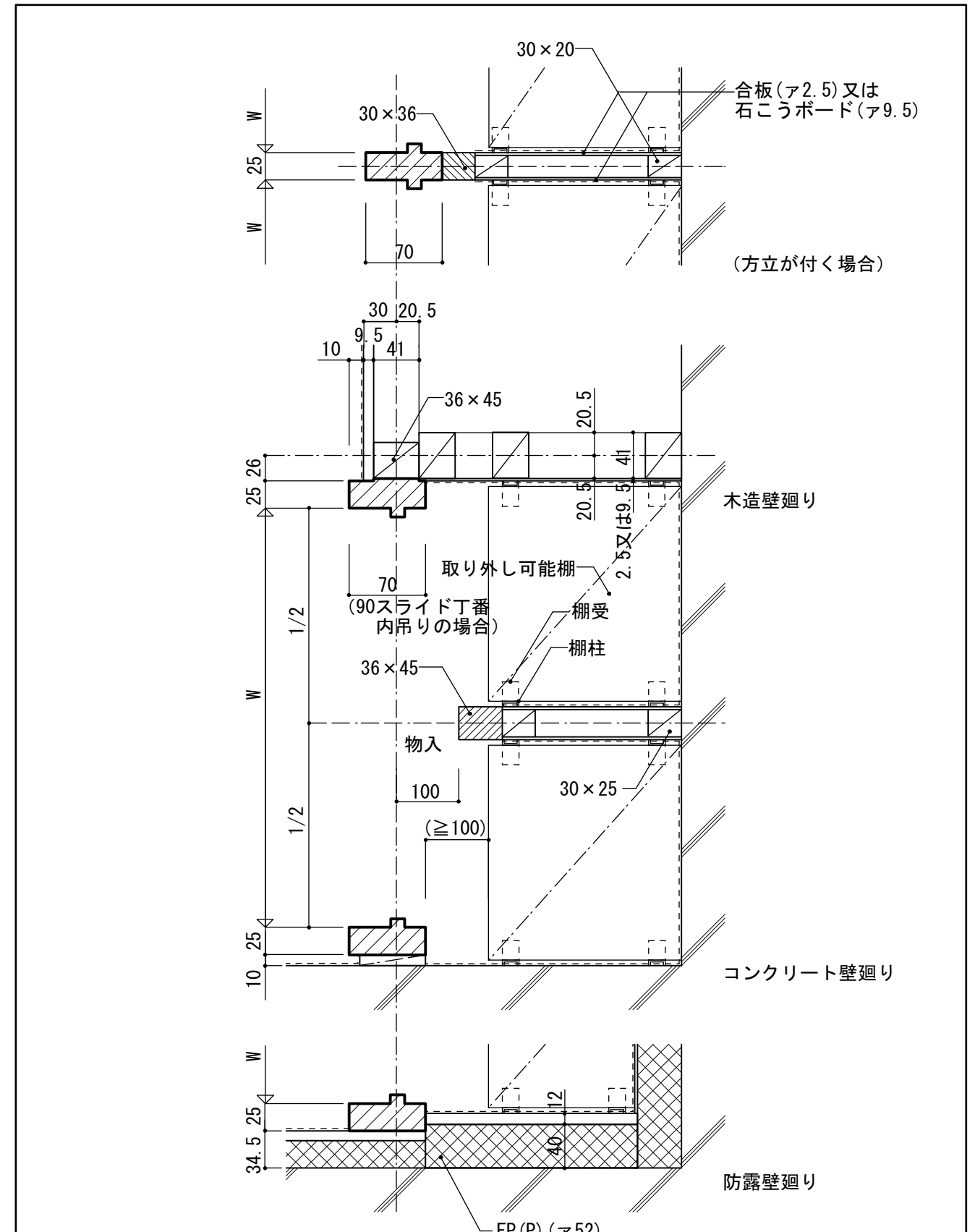
A:  20

フラッシュ

B:  20

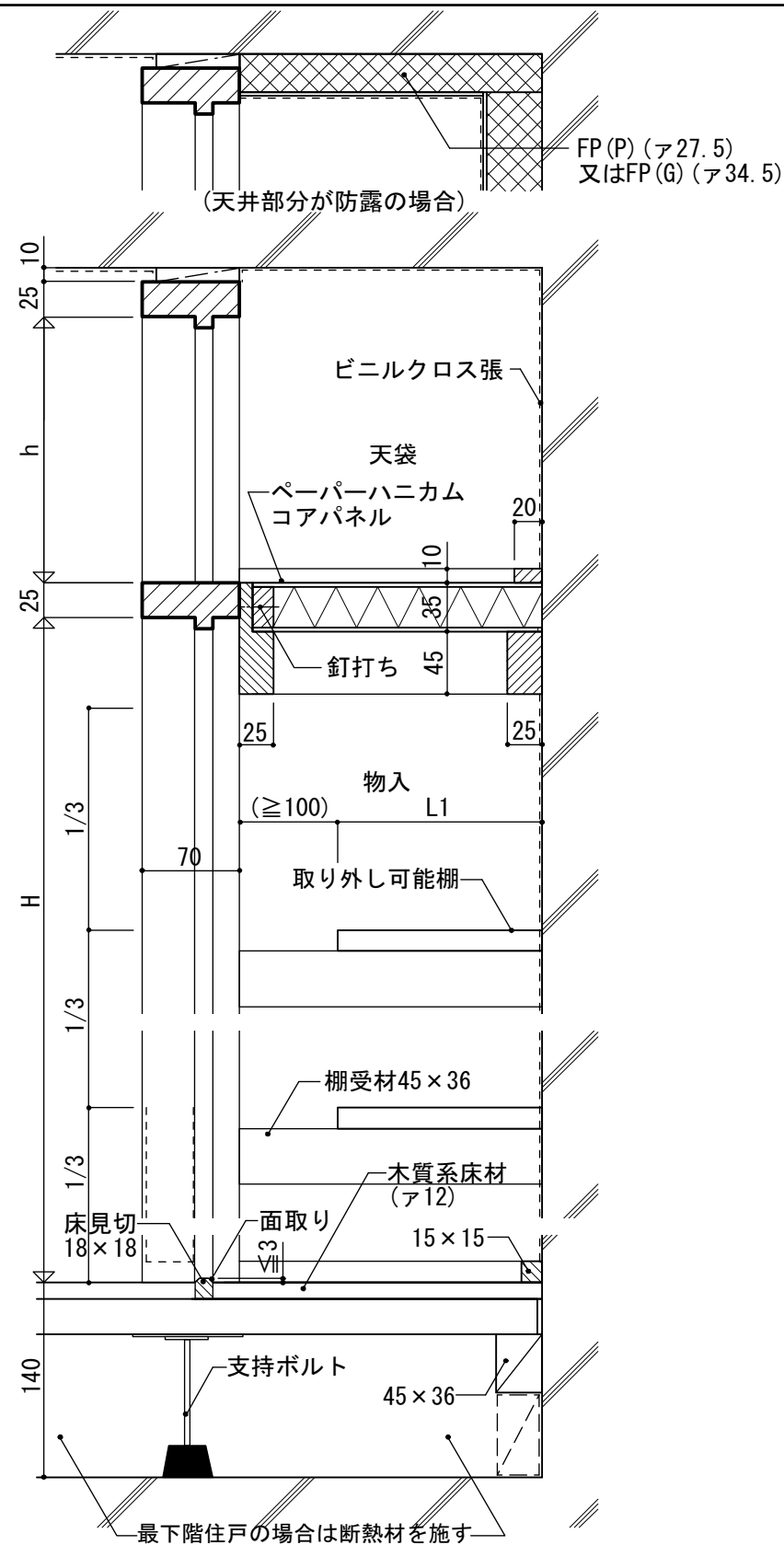
**【附記事項】**

- W, H, L1, h, Dは建物設計図による。
- 中間の棚受材については、物入内法長さが1.200をこえる場合に標準として設置するが、設置の有無については建物設計図による。
- 物入の内法長さが1.200以下の場合の中棚はかまち、根太がけの部材寸法を( )内寸法とする。
- 上部に換気ダクトが通る場合はAI-311による。



平面図 1:5

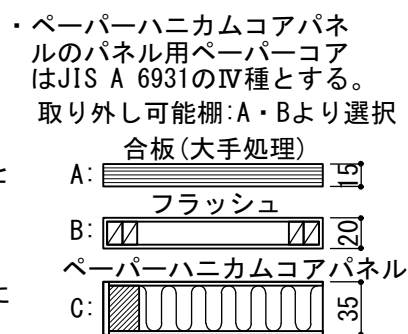
<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b>	名称	開戸物入廻り-3 (中棚付-2)	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1:5	頁
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1		AI - 313	I-56
・第4版 H. 8. 10. 1				
・第5版 H. 13. 11. 1				



断面図 1:5

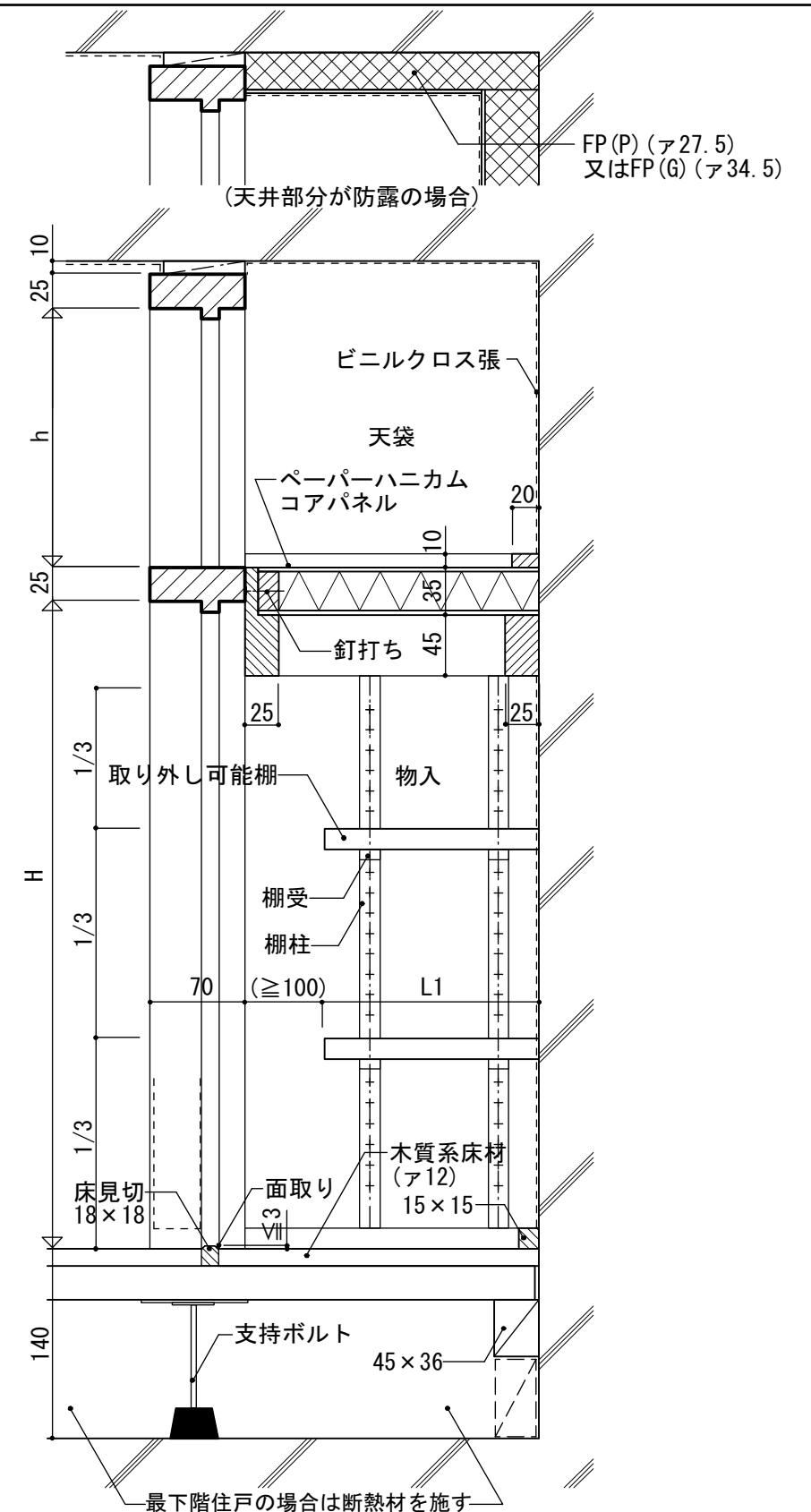
【仕様】

- ・内部仕上は建物設計図による。
- ・棚柱の材質はステンレス製(SUS-304)又はアルミニウム合金押出型材とし取り付けはメーカー仕様による。
- ・棚受の材質は、合成ゴム製カバー付とする。
- ・棚受の間隔は20mm前後とし、棚板1枚当りの耐荷重は30kg程度とする。
- ・取り外し可能棚の種別は建物設計図による。



【附記事項】

- ・H, h, L1は建物設計図による。
- ・その他の詳細は AI-312・313 による。
- ・上部に換気ダクトが通る場合は AI-311 による。



断面図 1:5

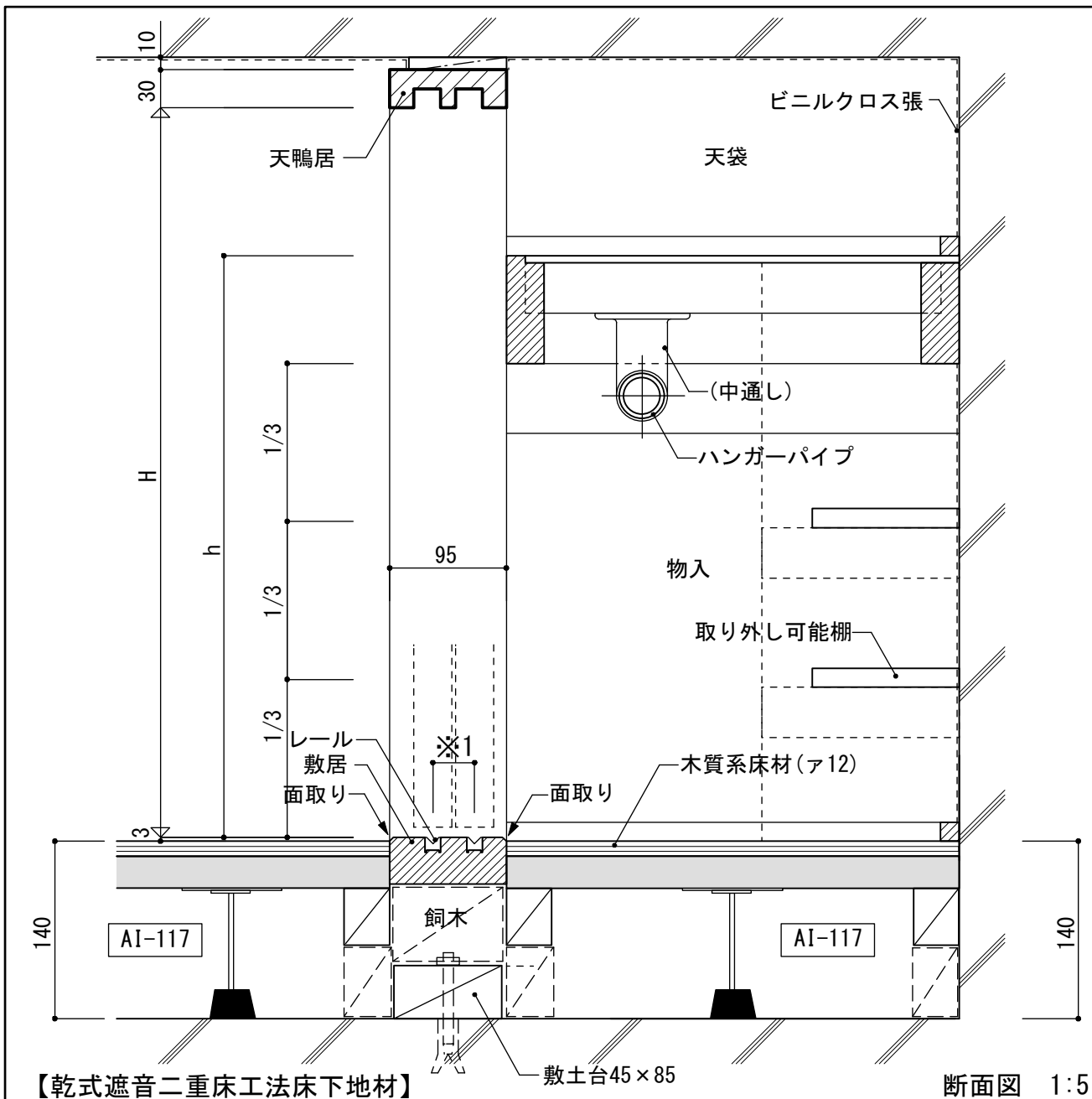
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

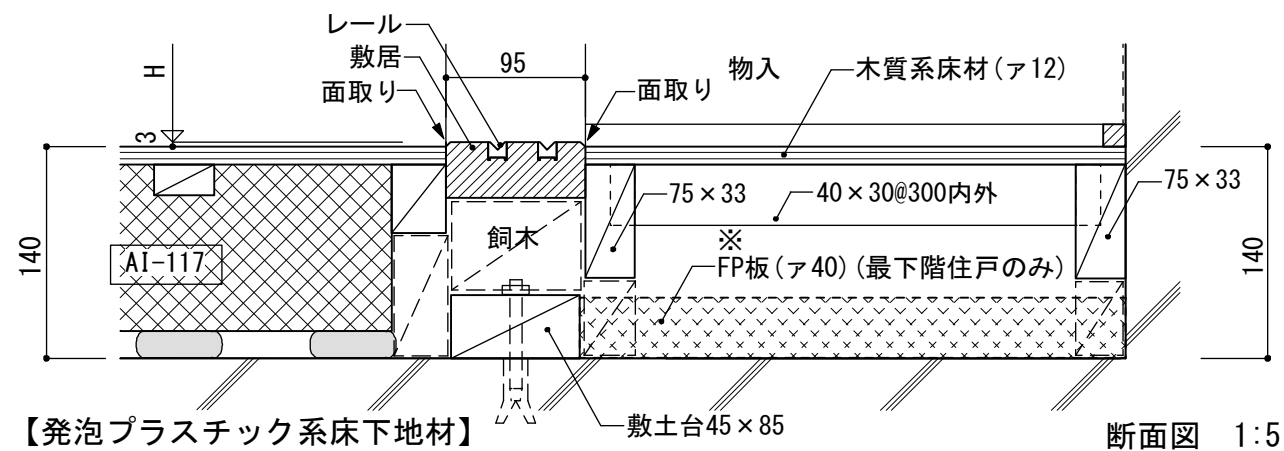
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	開戸物入廻り-4 (中棚付-3)		
縮尺	1:5	AI - 314	頁 I-57



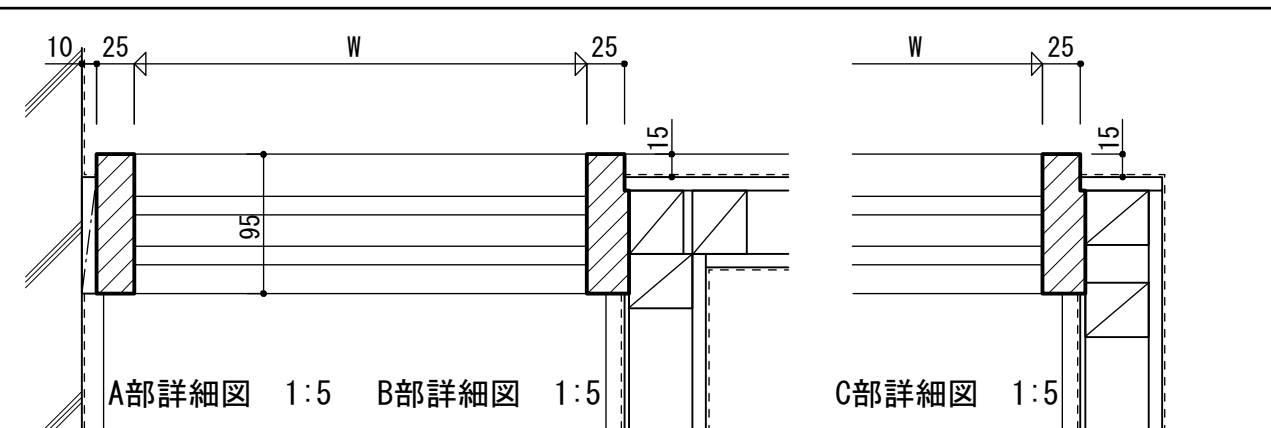
【乾式遮音二重床工法床下地材】 断面図 1:5



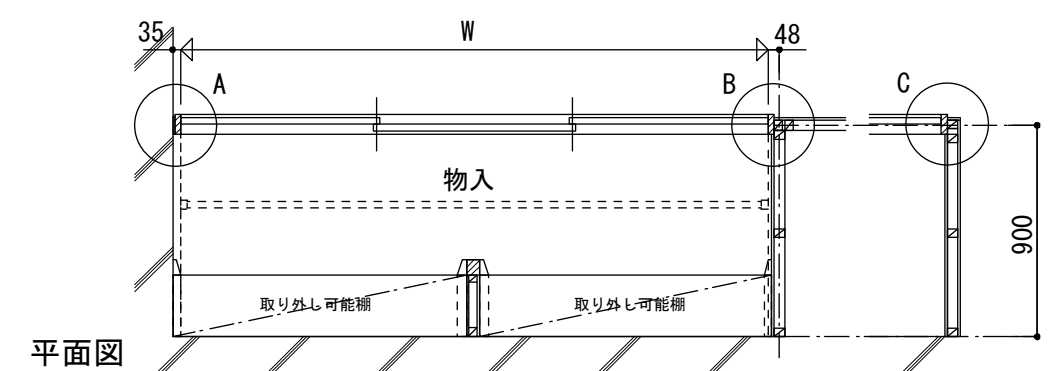
【発泡プラスチック系床下地材】 断面図 1:5

【仕様】  
 ・物入内部は物入廻り AI-301~303 による。  
 ・※1レールの間隔は戸厚により決定する。

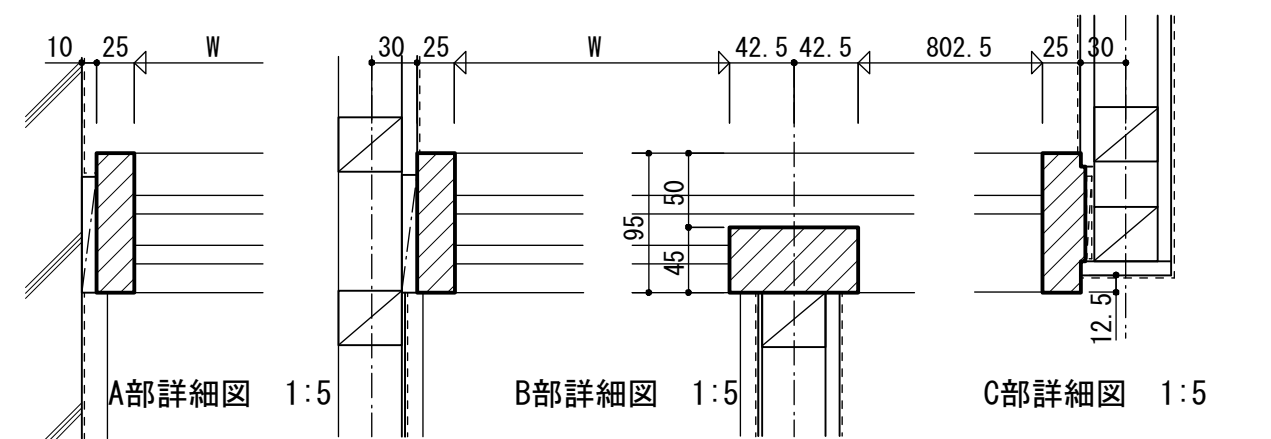
【附記事項】  
 ・W, H, hは建物設計図による。  
 ・※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。



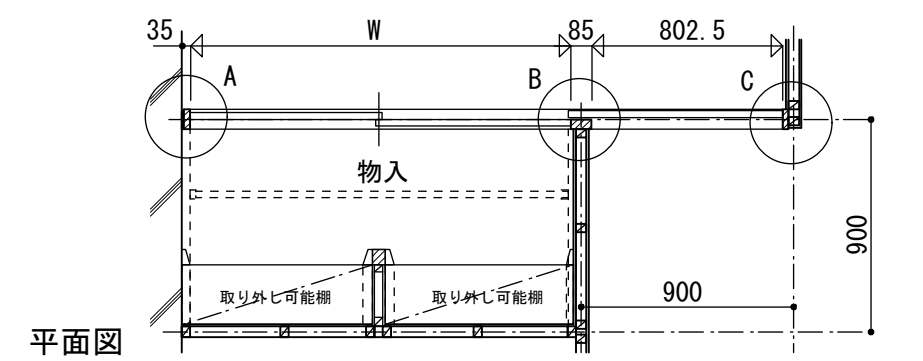
A部詳細図 1:5 B部詳細図 1:5 C部詳細図 1:5



平面図



A部詳細図 1:5 B部詳細図 1:5 C部詳細図 1:5



平面図

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	引違戸物入廻り-1 和洋室可変型住宅(洋室)	
	・第1版(追) H. 17. 12. 1 ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	縮尺	1:5	AI - 315
				頁 I-58

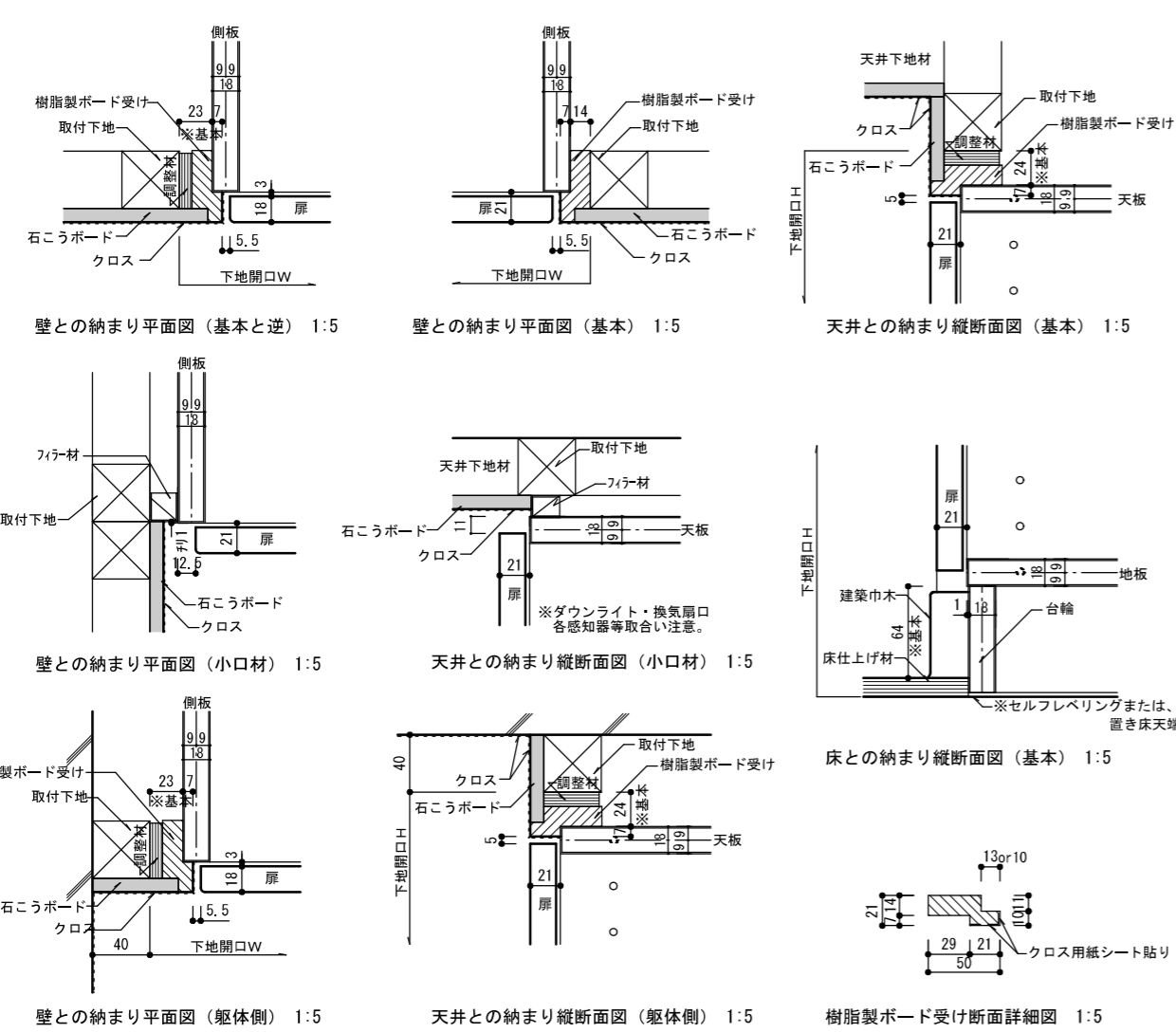
バリエーション (巾と奥行き)

製品寸法 (mm)	箱W寸法 (間口 50mm ピッチ)															
	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900
154	○	○	○	○	○	○										
186	○	○	○	○	○	○										
218	○	○	○	○	○	○										
250	○	○	○	○	○	○										
282	○	○	○	○	○	○										
314	○	○	○	○	○	○										
346	○	○	○	○	○	○										
378	○	○	○	○	○	○										
410	○	○	○	○	○	○										
442	○	○	○	○	○	○										
474																
506																
538																
570																
602																
634																
666																
698																
730																
762																
794																
826																
858																

バリエーション (高さ)

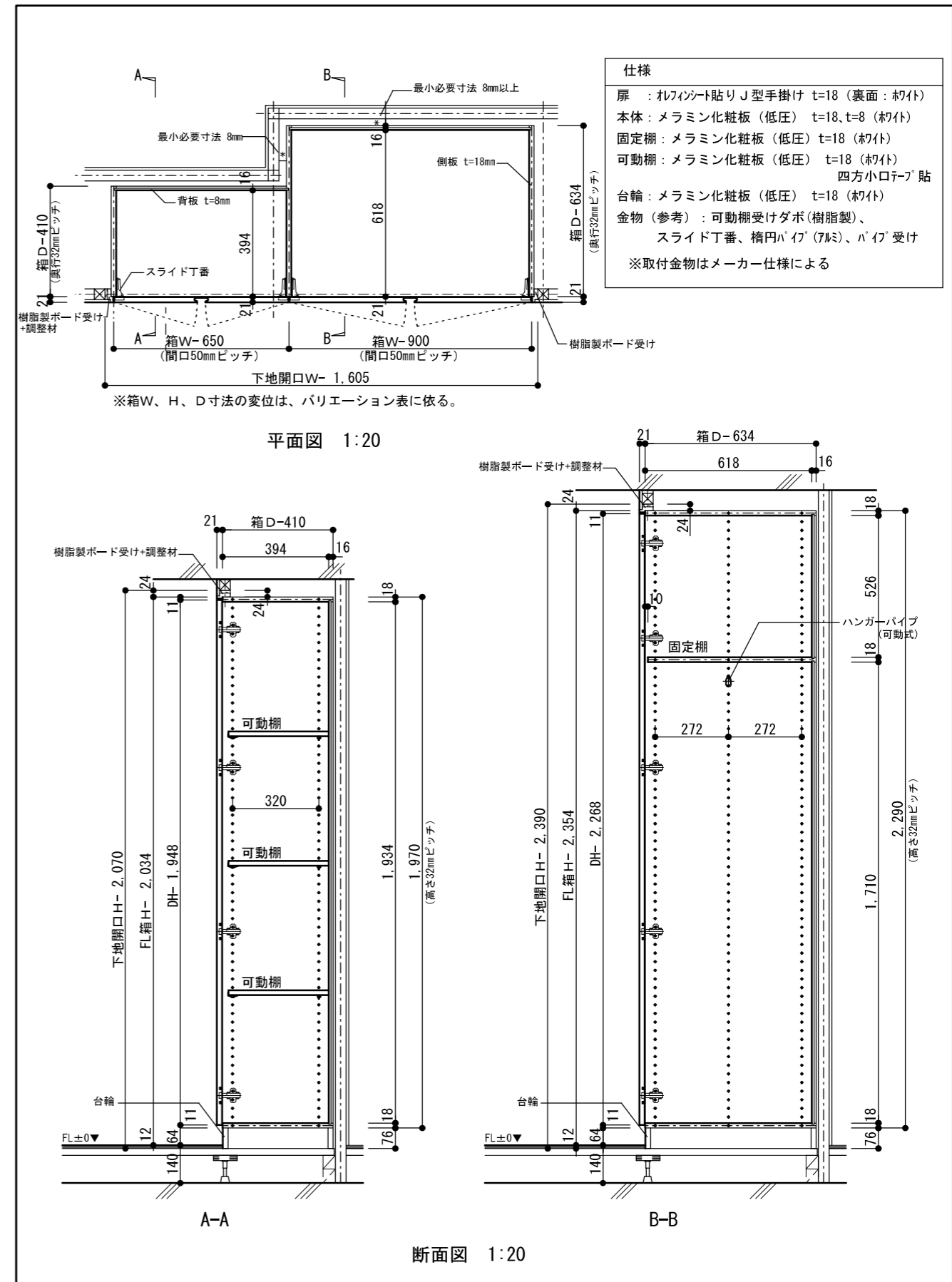
箱FL箱H (mm)	クロゼット標準仕様	物入標準仕様
2,482	○	○
2,450	○	○
2,418	○	○
2,386	○	○
2,354	○	○
2,322	○	○
2,290	○	○
2,258	○	○
2,226	○	○
2,194	○	○
2,162	○	○
2,130	○	○
2,098	○	○
2,066	○	○
2,034	○	○
2,002	○	○
1,970	○	○

凡例 HP:ハンガーパイプ  
 ○ は作図寸法を示す。  
 □ は作図寸法を示す。



**【仕様】**  
 ・本ディテールは型式図であり、実際の使用にあたっては設計図、及びメーカー仕様による。

**【附記事項】**  
 ・W、H、hは建物設計図による。

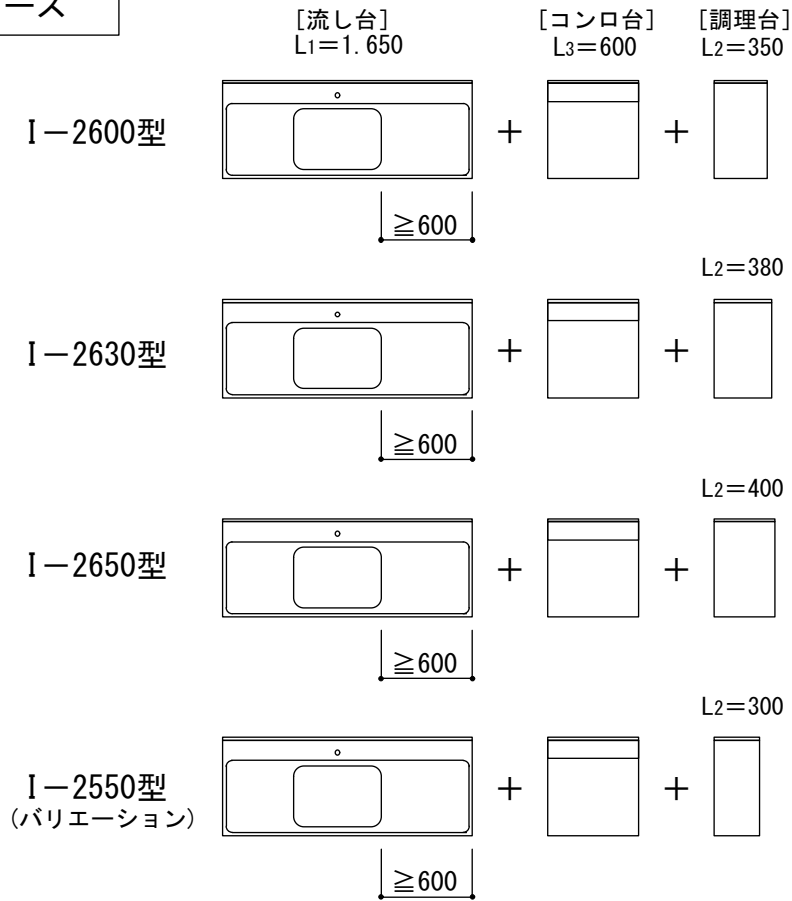


<b>【改訂事項 (公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項 (機構住宅)】</b>	名称	システム収納 [型式図]	
	・第2版4刷 R.5.4.1	縮尺	1:5 1:20	頁 I-58-2
			<b>AI - 316</b>	

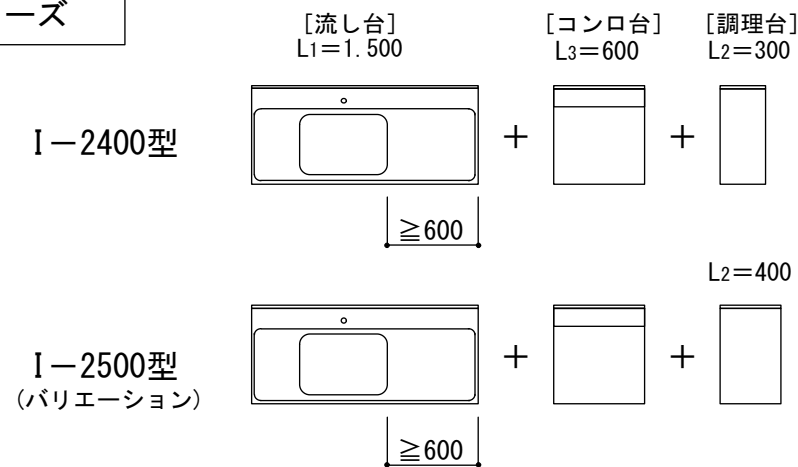


キッチンキャビネット組合せ図

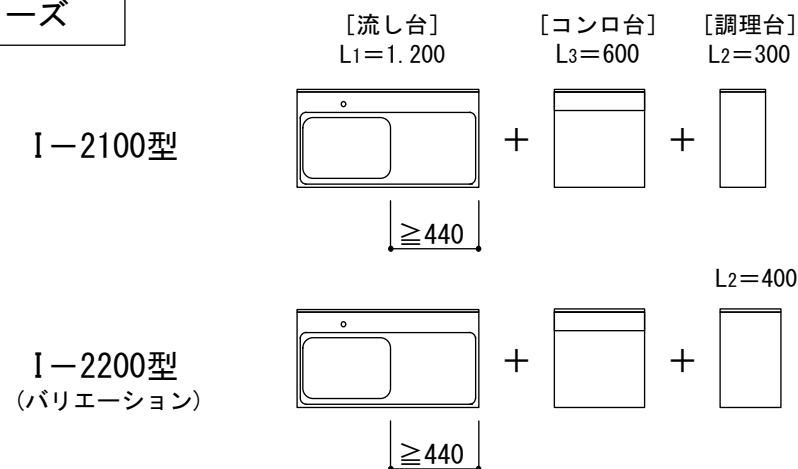
I-2700シリーズ



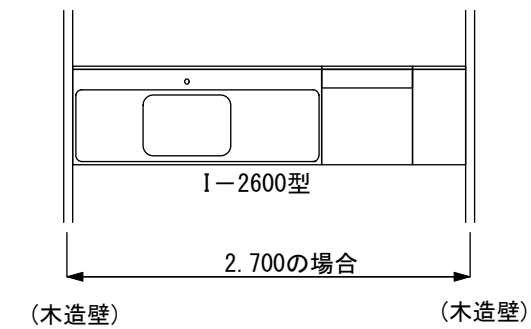
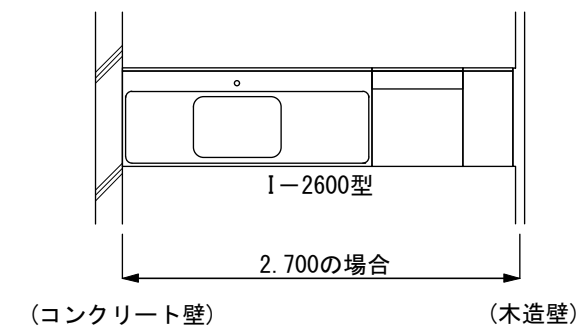
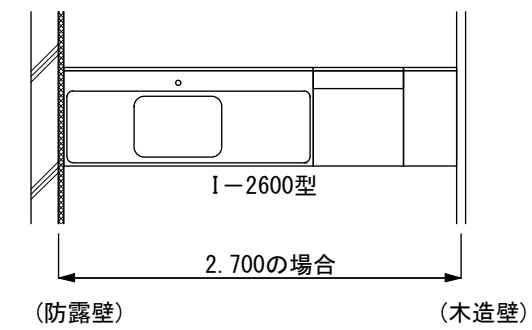
I-2400シリーズ



I-2100シリーズ



キッチンキャビネットの壁対応



【仕様】

・キッチンキャビネットの材料、仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。

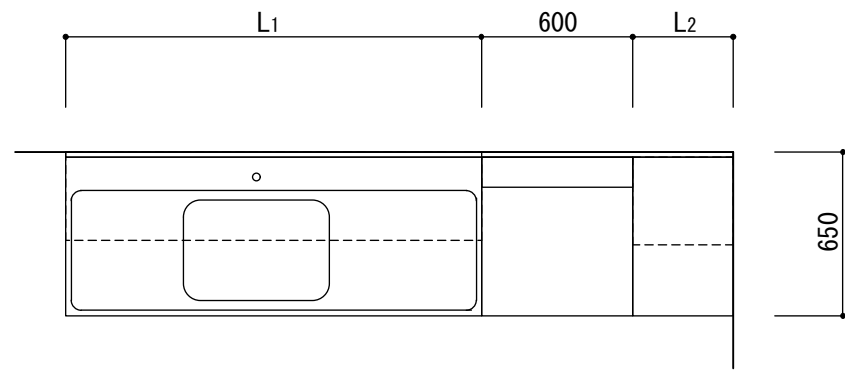
【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

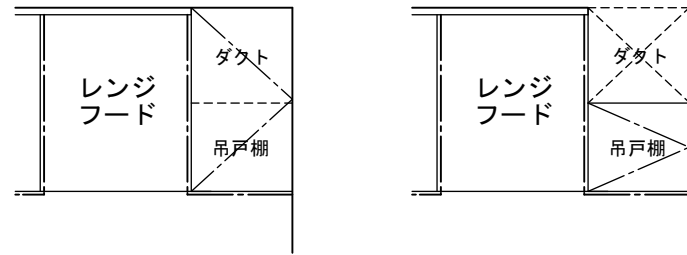
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追) H. 17. 2. 1

【改訂事項(機構住宅)】

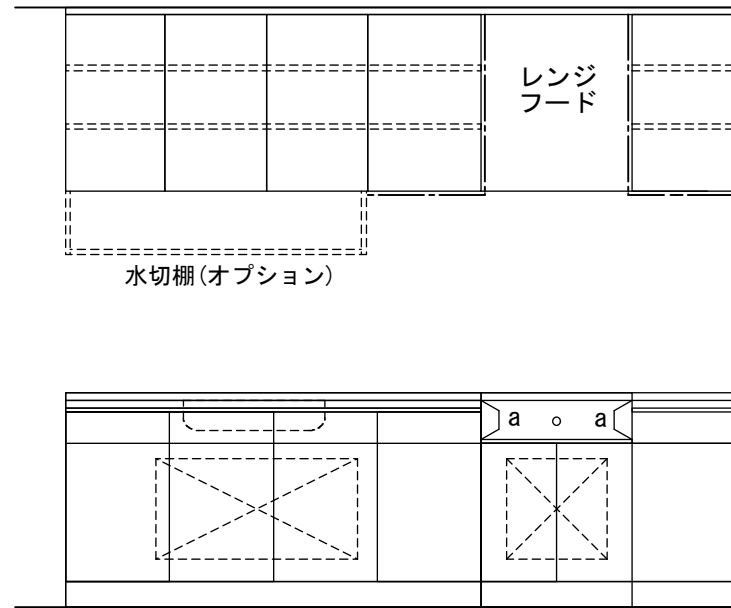
名称	キッチンキャビネット-1 (セクショナルキッチン) 〔組合せ図〕		
縮尺	1 : 50	AI - 501	頁 I-59



平面図 1:30



ダクトカバー兼用の場合を示す



正面図 1:30

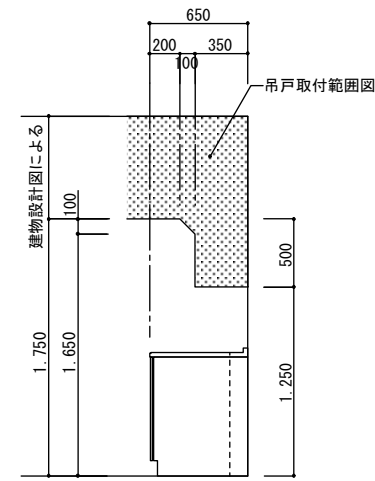
(注) --- は不燃材を示し、範囲は建物設計図による。  
 a は側面ステンレス貼範囲を示す。  
 [ ] は背面点検口をしめす。

【仕様】

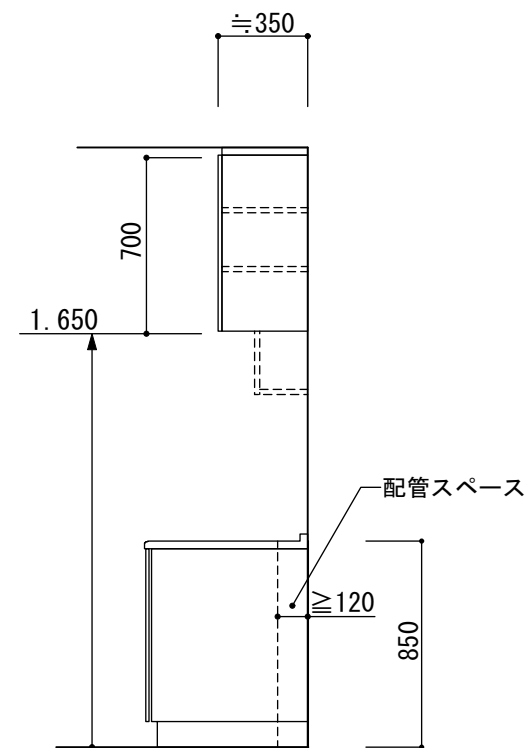
- ・取手は一文字型とし、ビス間の寸法は90mm、ビスはM4とする。
- ・吊戸棚取り付け下地、壁取り合い部分のシーリング、吊戸棚取り付け下地の見えがかり部分と吊戸棚の側面、裏面、上面の見えがかり部分の化粧処理、吊戸棚扉が壁面やレンジフードに当たる場合の戸当りパッキンは、別途建築工事とする。

【附記事項】

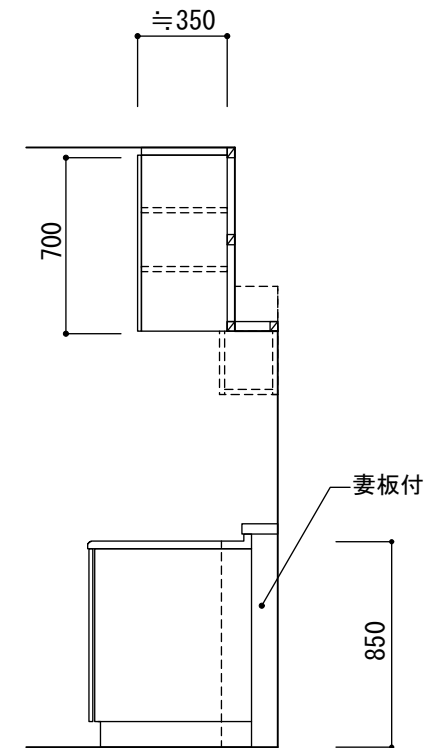
- ・キッチンキャビネットの材料、仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。
- ・吊戸棚は扉キャッチ機構付とする。
- ・水切り棚の有無は建物設計図による。
- ・L1.L2 寸法は建物設計図による。
- ・吊戸棚下端は照明器具取付補強板付とする。



吊戸取付範囲図



側面図 1:30



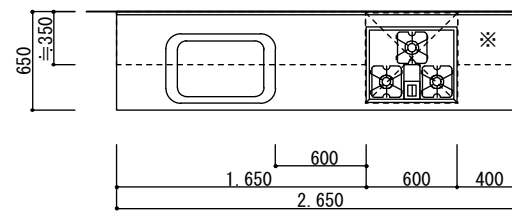
側面図 1:30  
(梁型)

【改訂事項(公団住宅)】

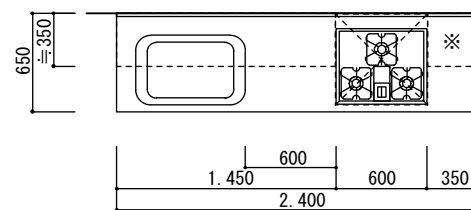
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追)H. 17. 2. 1

【改訂事項(機構住宅)】

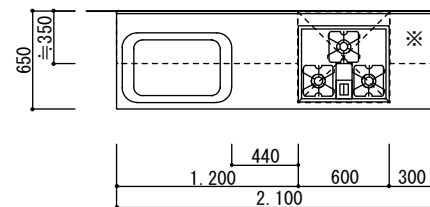
名称	キッチンキャビネット-2 (セクショナルキッチン) [標準図]		
縮尺	1:30 1:50	AI - 502	頁 I-60



(L=2.650)

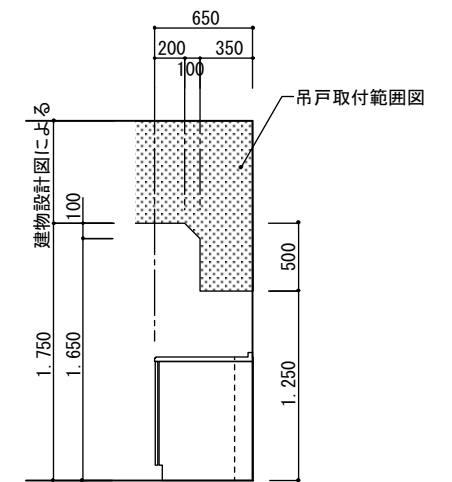


(L=2.400)

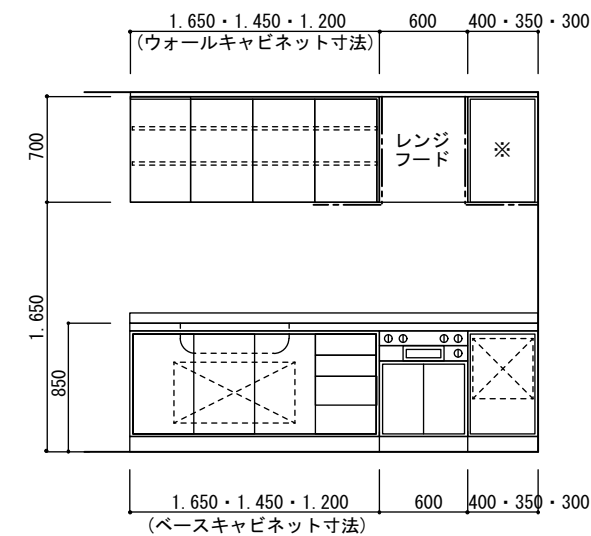


(L=2.100)

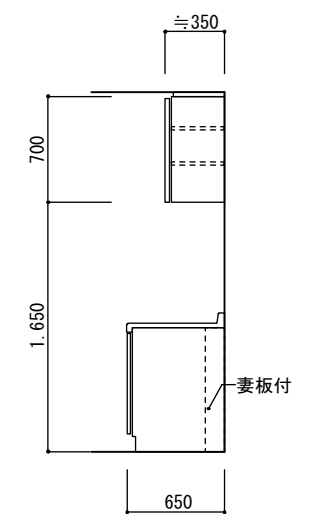
平面図



吊戸取付範囲図



正面図  
(グリル付コンロ)



断面図

(注) --- は不燃材を示し、範囲は建物設計図による。

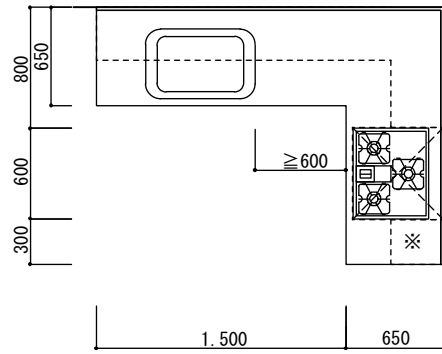
☒ は背面点検口を示す。

- 【仕様】
- ・キッチンキャビネットの材料、仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。
  - ・吊戸棚の扉はキャッチ機構付とする。

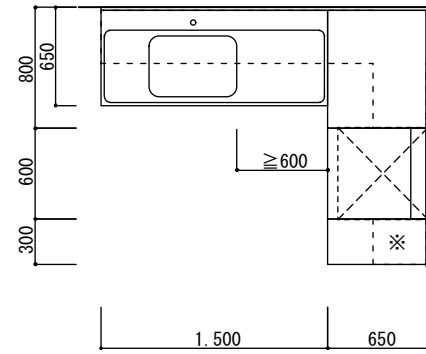
- 【附記事項】
- ・※印の吊戸棚はレンジフードのダクトが通る場合はダクトカバーを兼用する。(扉は点検口)
  - ・吊戸棚下端は照明器具取付補強板付とする。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 【改訂事項(公団住宅)】       | 【改訂事項(機構住宅)】      |
| ・第2版 S. 61. 12. 1  | ・第2版 H. 21. 12. 1 |
| ・第3版 H. 4. 12. 1   |                   |
| ・第4版 H. 8. 10. 1   |                   |
| ・第5版 H. 13. 11. 1  |                   |
| ・第5版(追)H. 17. 2. 1 |                   |

名称	キッチンキャビネット-3 (システムキッチン)		
縮尺	1 : 50	AI - 503	頁 I-61

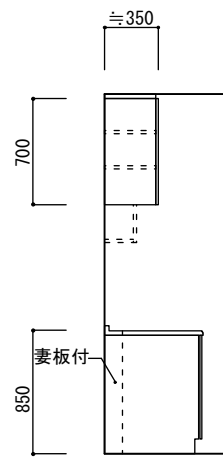


(システムキッチン)

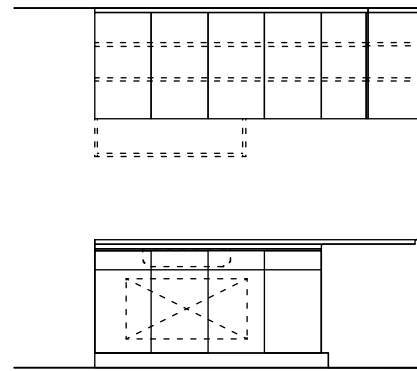


(セクショナルキッチン)

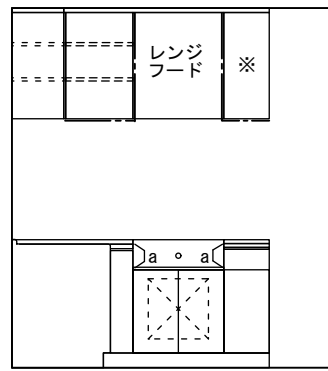
平面図



側面図



正面図



(グリル付コンロの場合)

正面図

(注) --- は不燃材を示し、範囲は建物設計図による。

a は側面ステンレス貼範囲を示す。

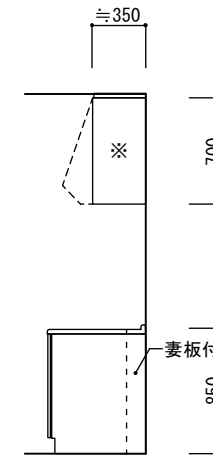
☒ は背面点検口を示す。

【仕様】

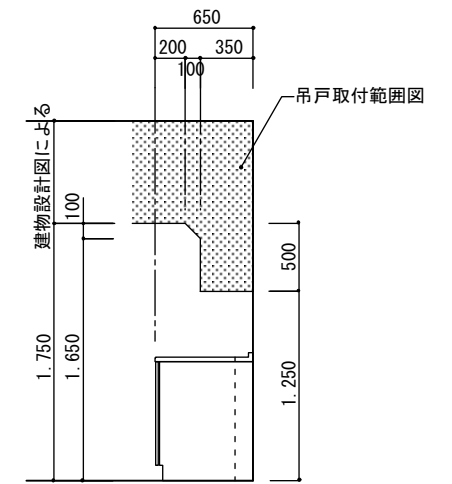
- ・キッチンキャビネットの材料、仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。
- ・吊戸棚の扉はキャッチ機構付とする。

【附記事項】

- ・※印の吊戸棚はレンジフードのダクトが通る場合はダクトカバーを兼用する。
- ・吊戸棚下端は照明器具取付補強板付とする。
- ・水切り棚の有無は建物設計図による。



側面図



吊戸取付範囲図

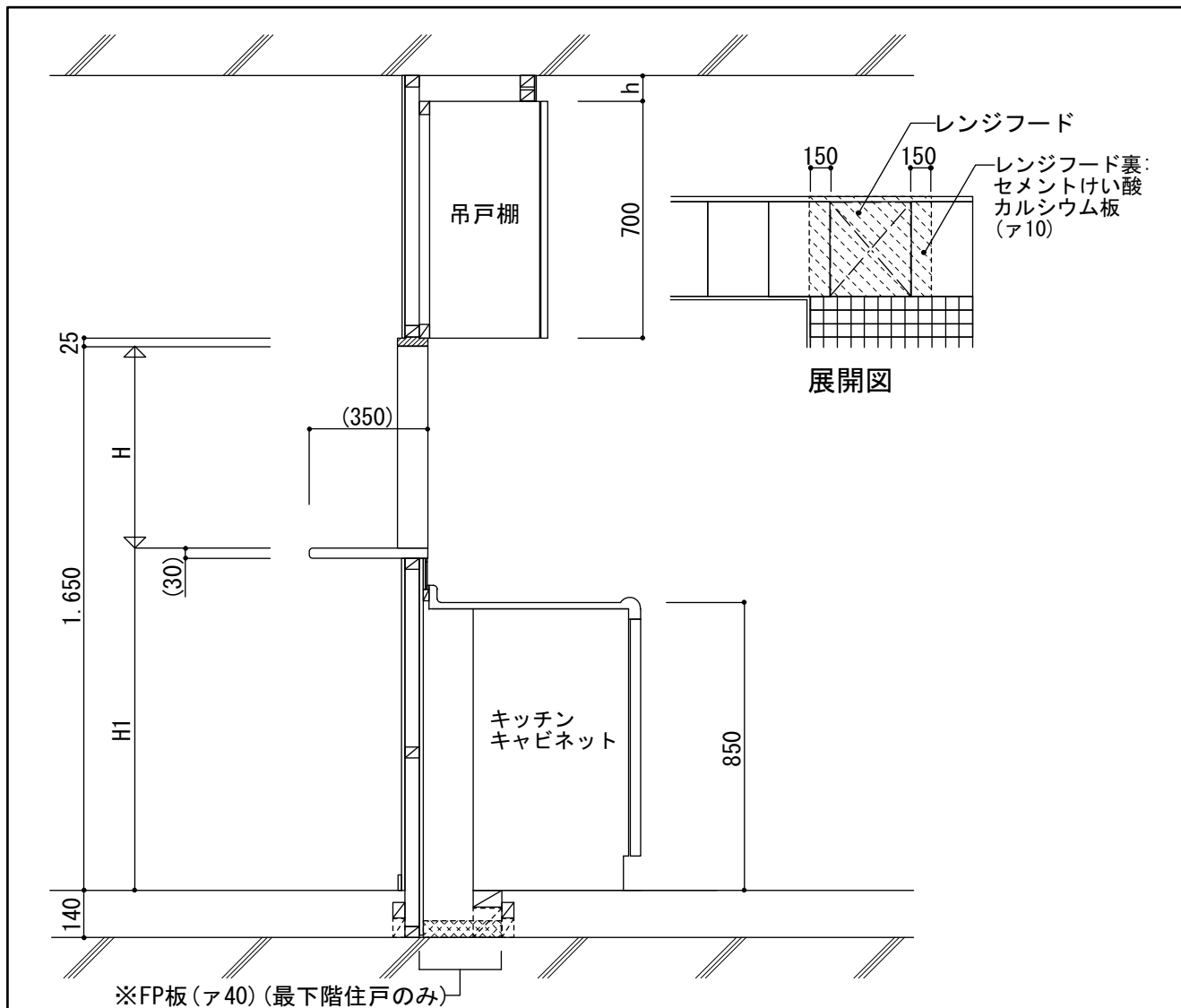
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追) H. 17. 2. 1

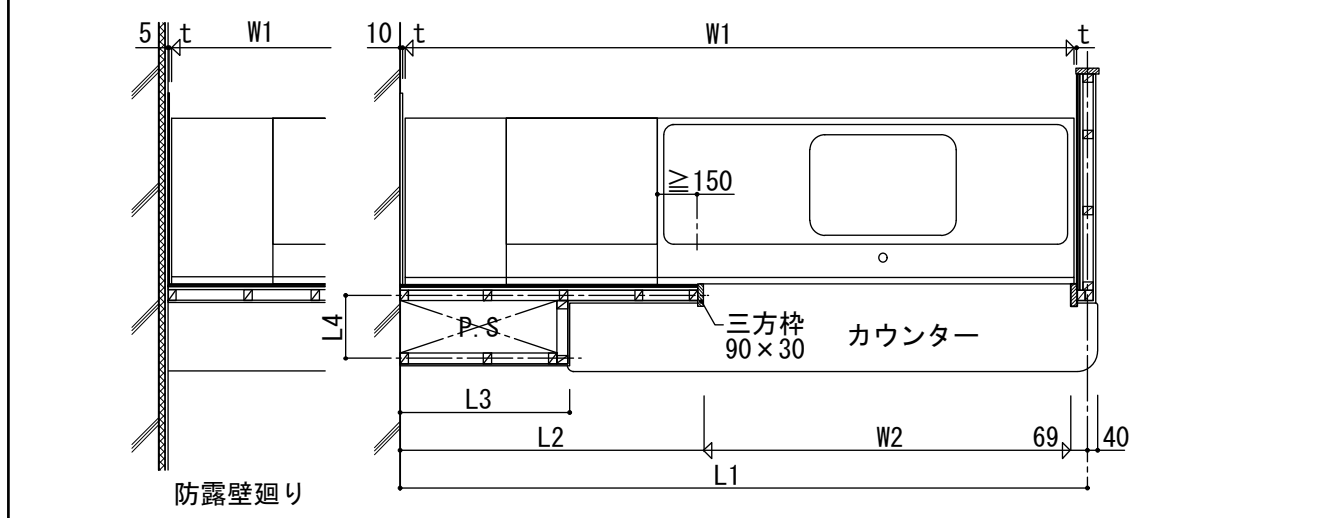
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

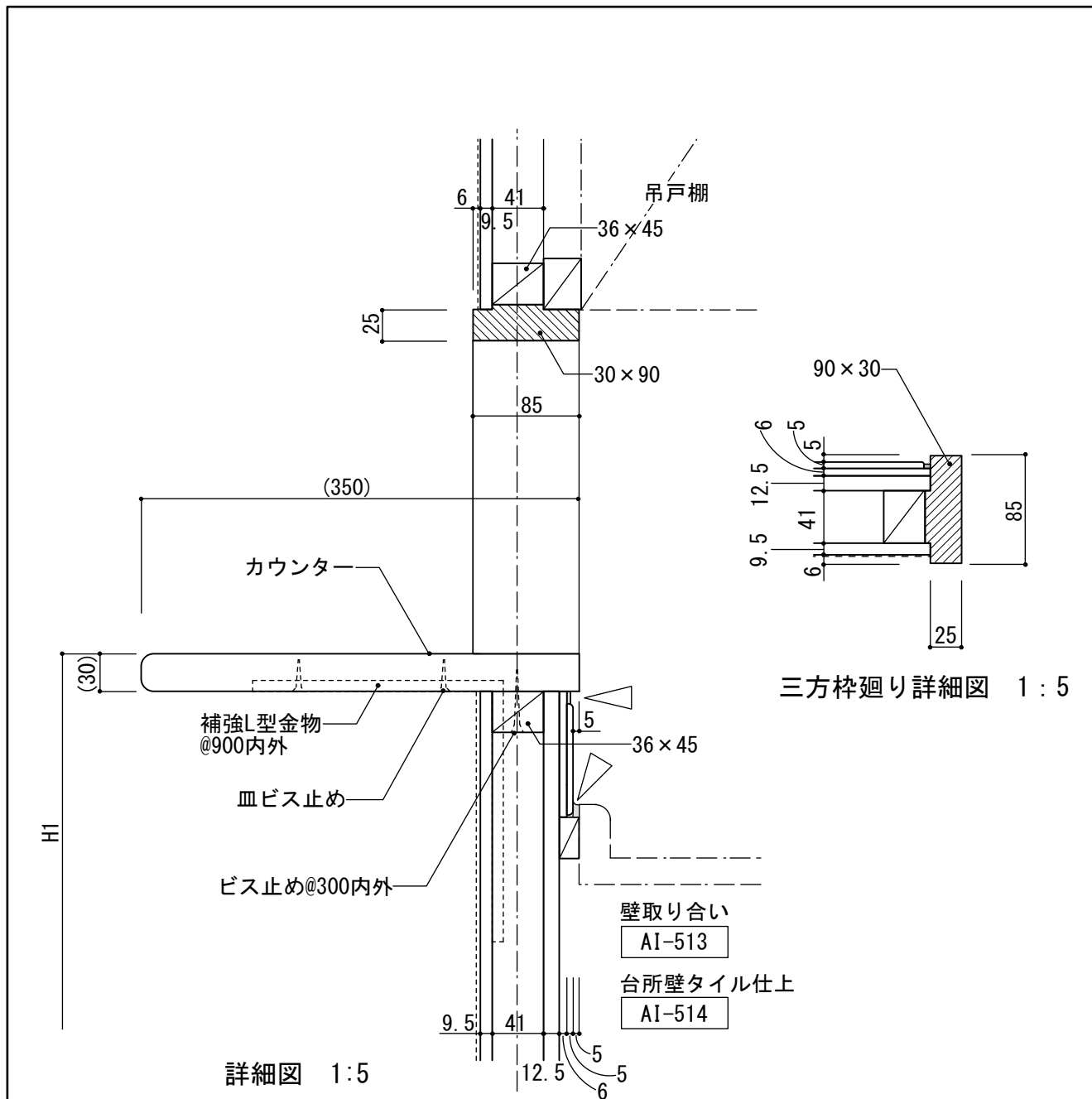
名称	キッチンキャビネット-4 (L型)		
縮尺	1 : 50	AI - 504	頁 I-62



断面図 1:20



平面図 1:30

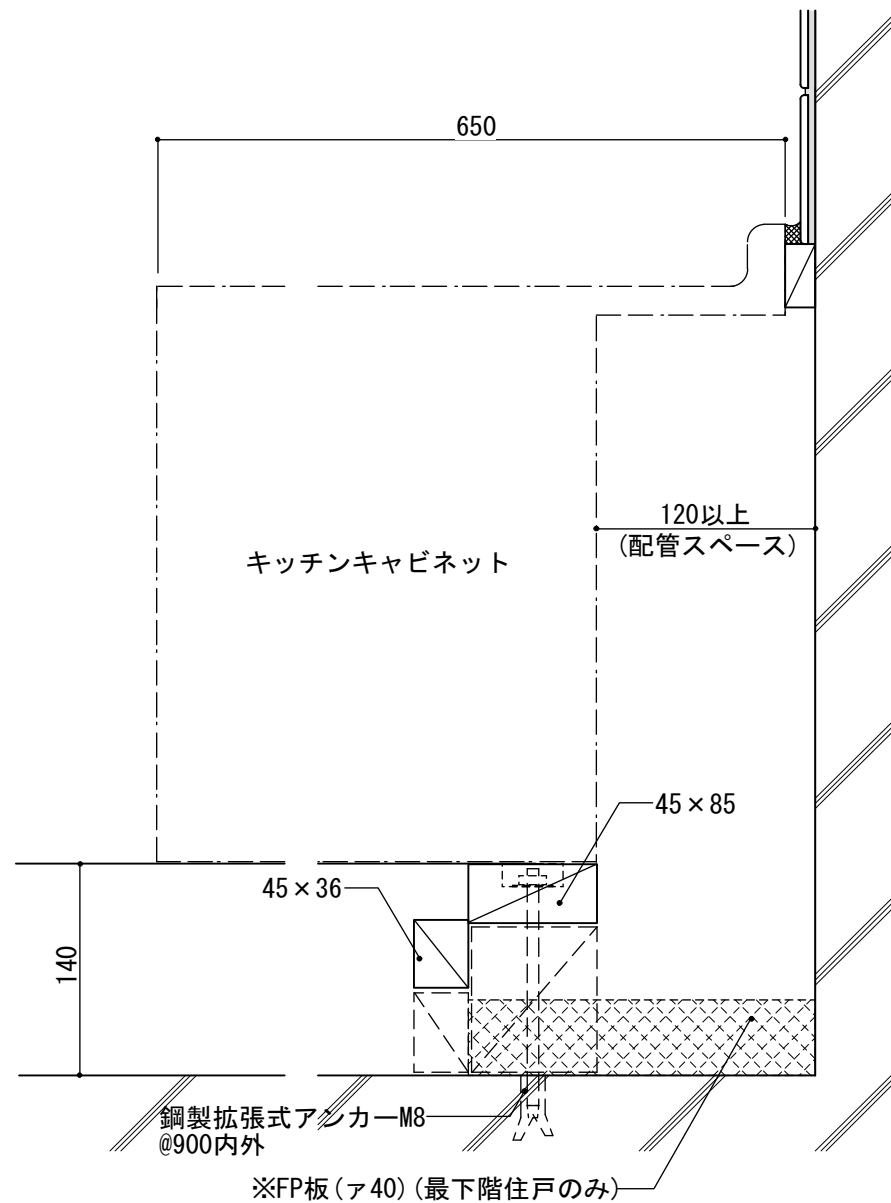


三方枠廻り詳細図 1:5

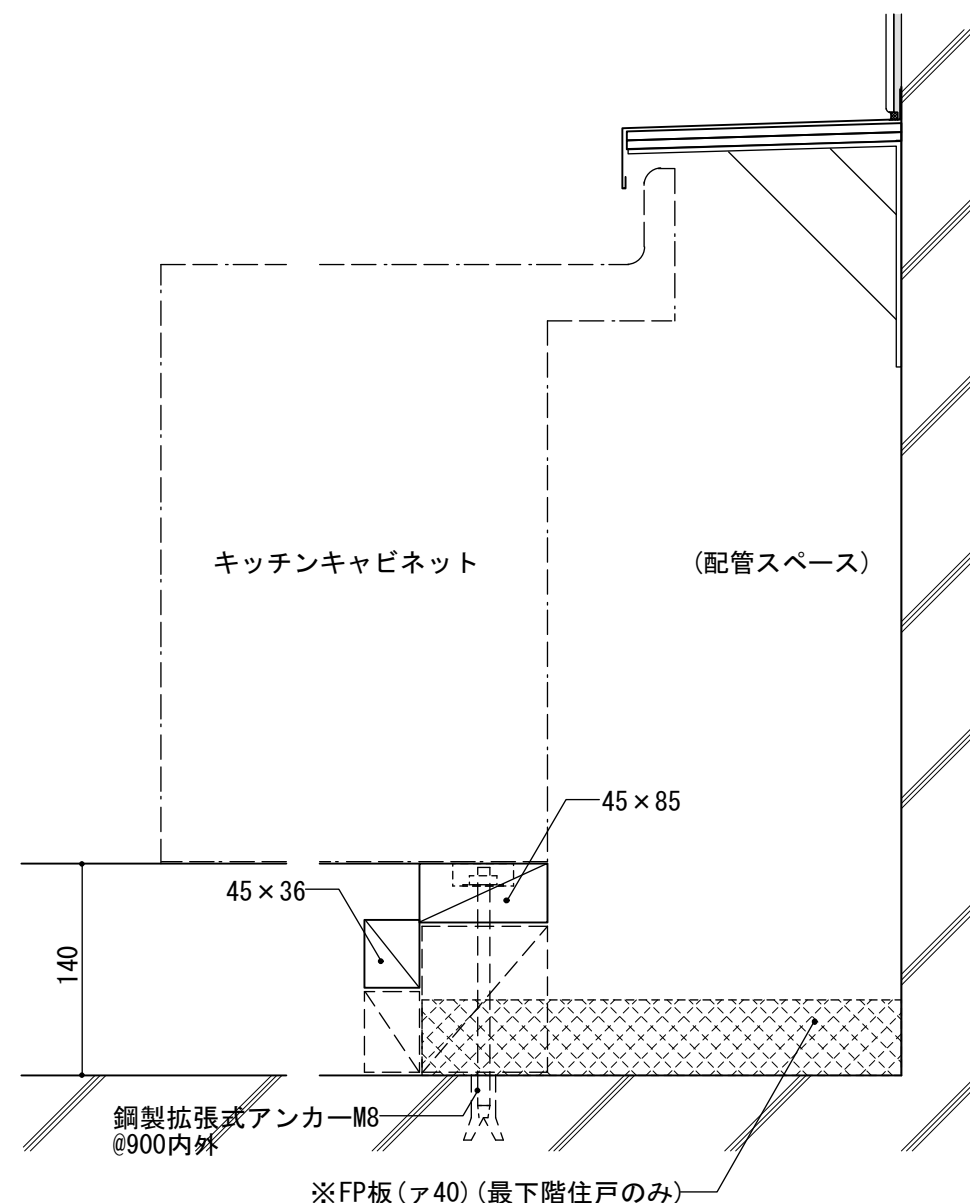
詳細図 1:5

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>【仕様】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◁ : シーリング材充填</li> <li>補強L型金物:<br/>材質: ステンレスSUS304<br/>寸法: L-200×150×20 (ア6)</li> <li>キッチンキャビネットの材料、仕様については「別冊 機材の品質・性能基準」による。</li> </ul> | <p><b>【附記事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カウンターの材質は建物設計図になき限りタモ集成材 (UC塗装) とする。</li> <li>h, H, H1, W1, W2, L1, L2, L3, L4 は建物設計図による。</li> <li>tはシーリングしろを示し建物設計図による。</li> <li>※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。</li> </ul> |
|--|---|

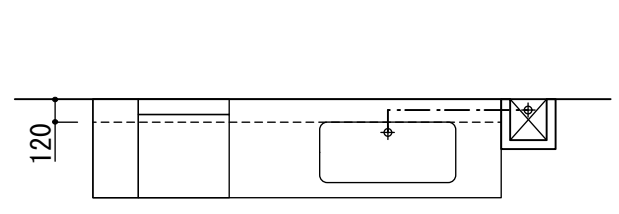
<p><b>【改訂事項 (公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>第5版 H. 13. 11. 1</li> <li>第5版 (追) H. 17. 2. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項 (機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul>	<p>名称</p>	<p>キッチンキャビネット-5 (カウンター型) [型式図]</p>	<p>頁</p>	
		<p>縮尺</p>	<p>1:5 1:20 1:30</p>	<p>AI - 505</p>	<p>I-63</p>



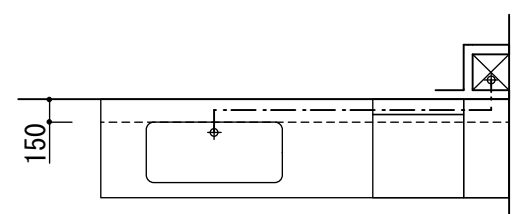
断面図 1:5 ( AI-501~504 の場合)



断面図 1:5 ( AI-502 梁型が出る場合)



排水縦管に1回の曲がりて接続する場合  
配管スペース巾:120mm



排水縦管に2回以上の曲がりて接続する場合  
配管スペース巾:150mm

【仕様】

【附記事項】

- ・ 流し台裏から壁面までの寸法は建物設計図による。
- ・ ※スラブ下に外断熱を行わない場合の最下階住戸を示す。

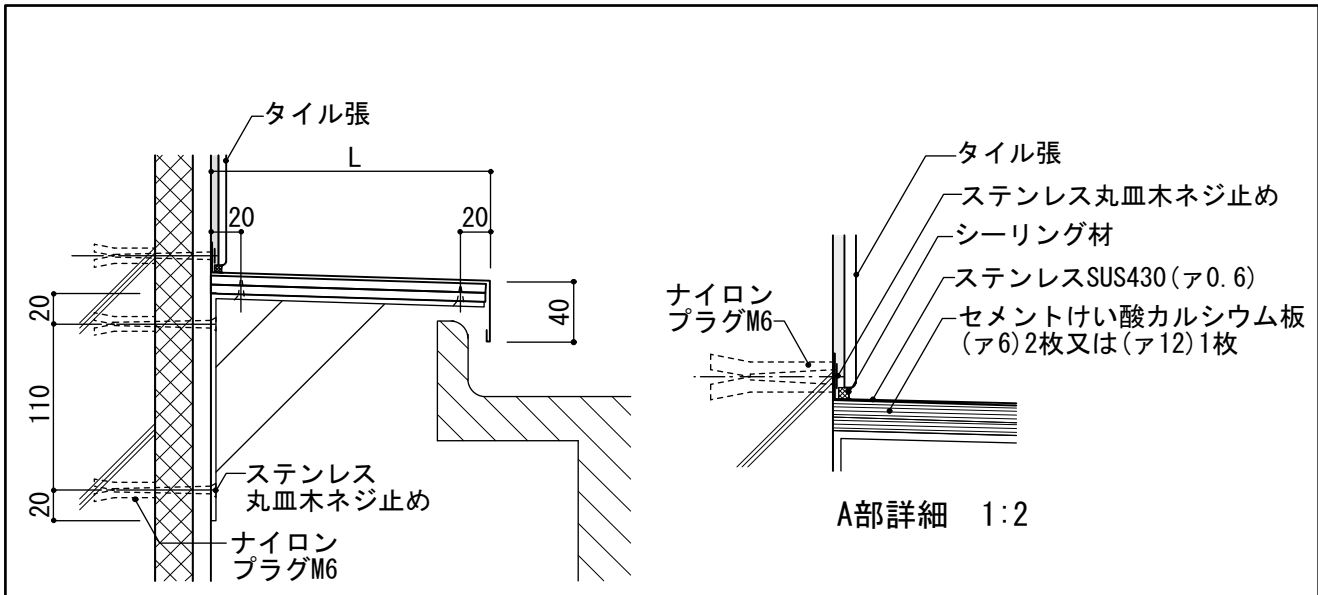
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1
- ・ 第5版(追) H. 17. 2. 1

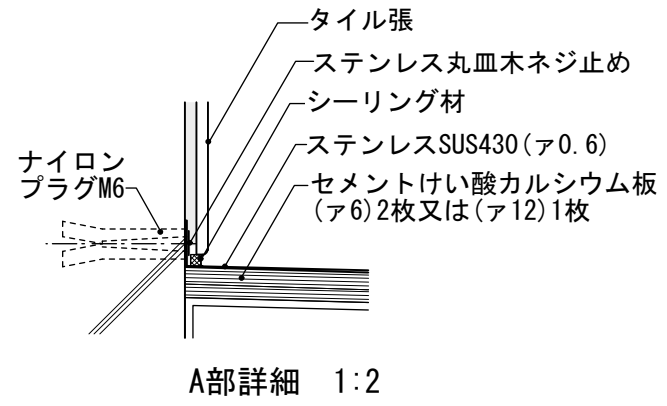
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

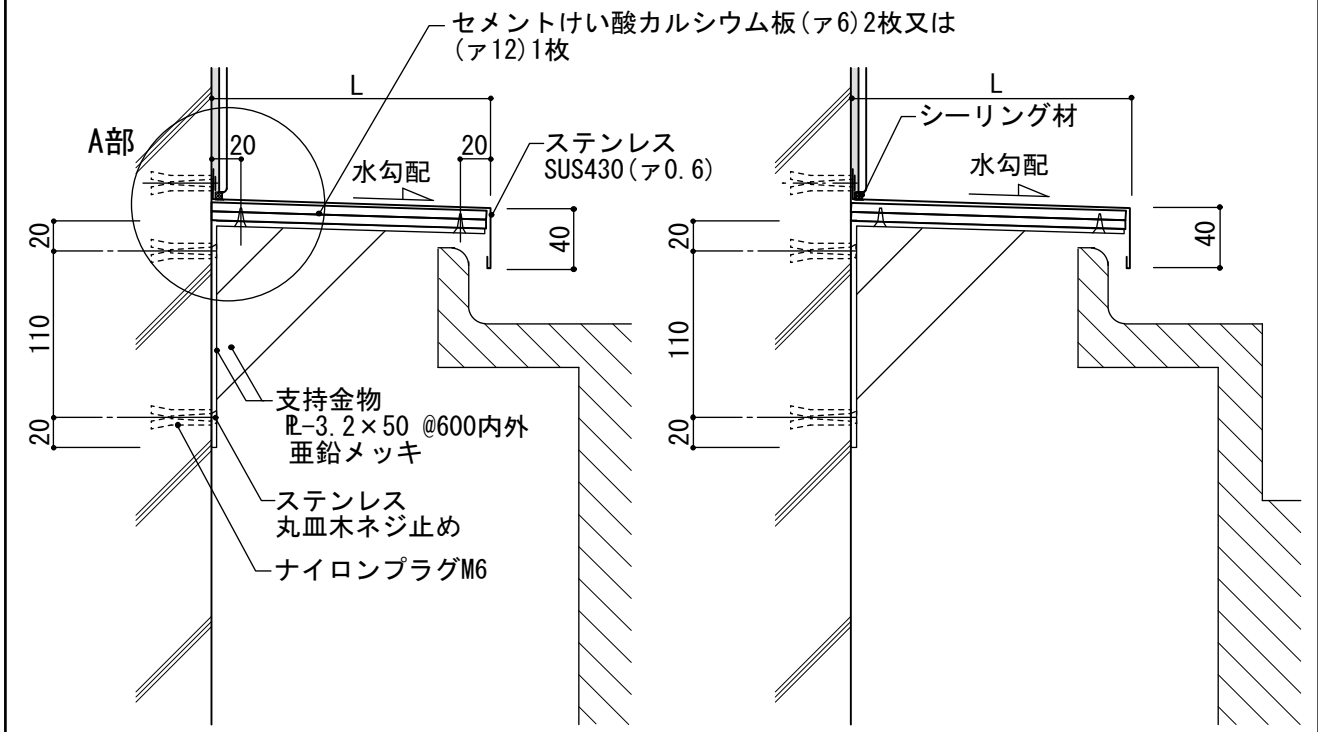
名称	台所流し台下配管ピット		
縮尺	1:5	AI - 511	頁 I-64



防露壁廻り  
断面図 1:5



A部詳細 1:2



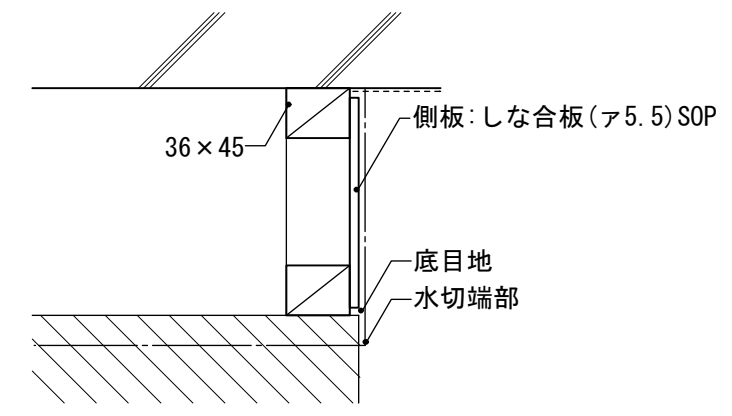
流し台・調理台部分

コンロ台部分

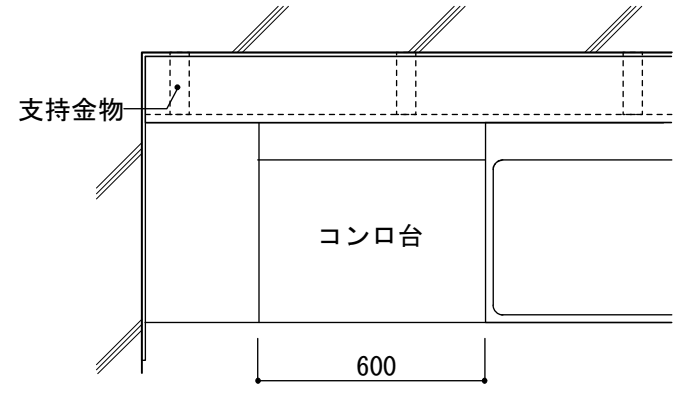
断面図 1:5

【仕様】  
・ガス、給水、給湯管立上り用穴明けは本工事とし、位置寸法等は設備と打合せすること。

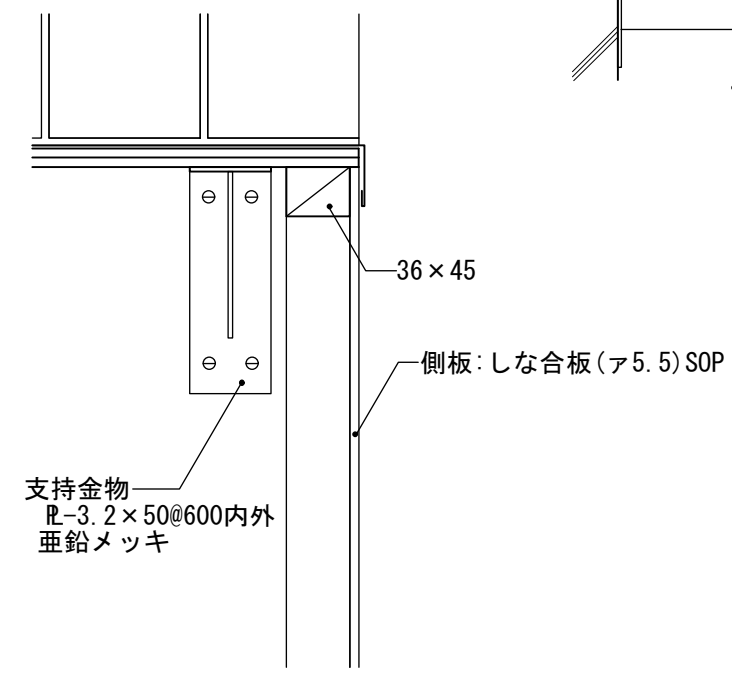
【附記事項】  
・Lは建物設計図による。  
・側板の仕上は建物設計図による。



平面図 1:5



平面図 1:20



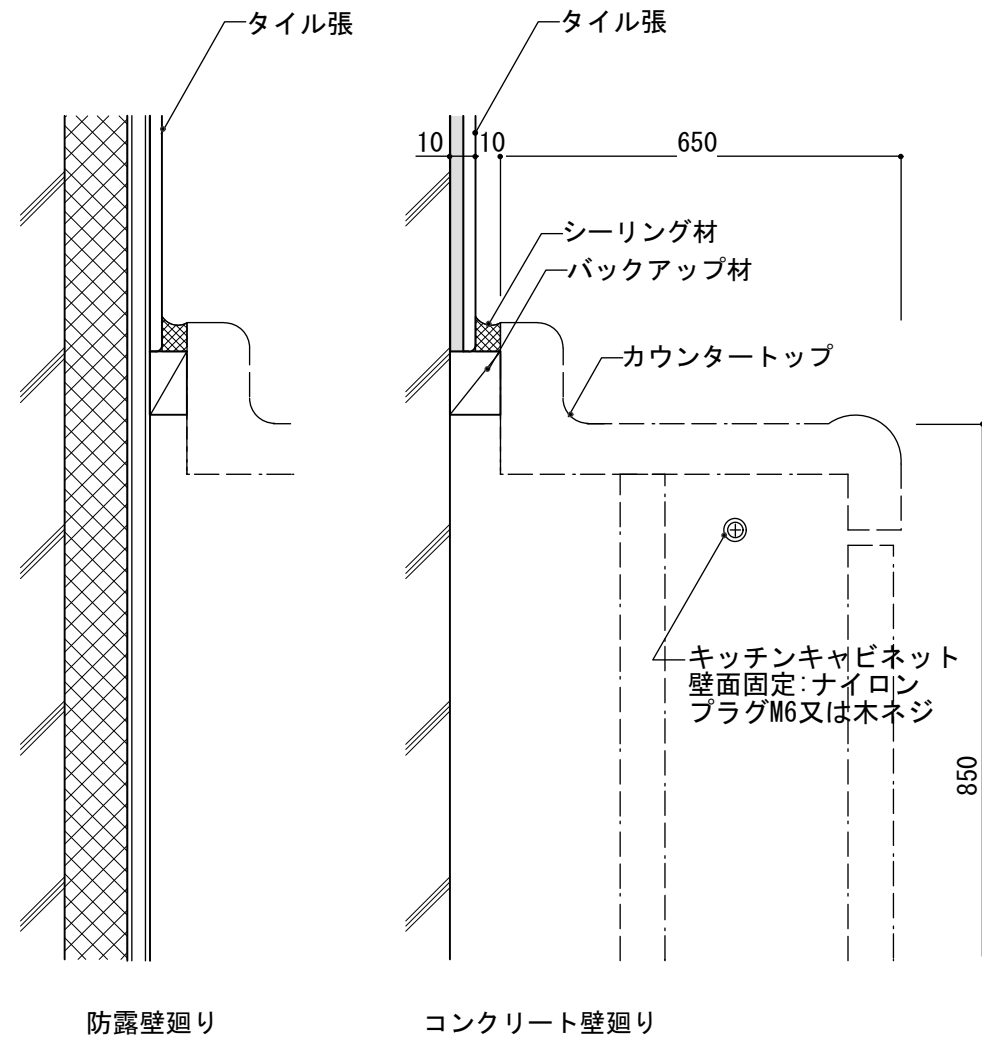
水切端部

断面図 1:5

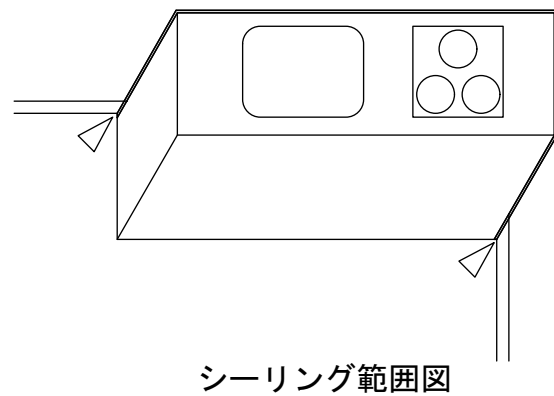
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1
・第4版 H. 8. 10. 1	
・第5版 H. 13. 11. 1	

名称	台所流し水切カバー廻り		頁
縮尺	1:2 1:5 1:20	AI - 512	I-65

A: 壁取り合い部分



詳細図 1:3



シーリング範囲図

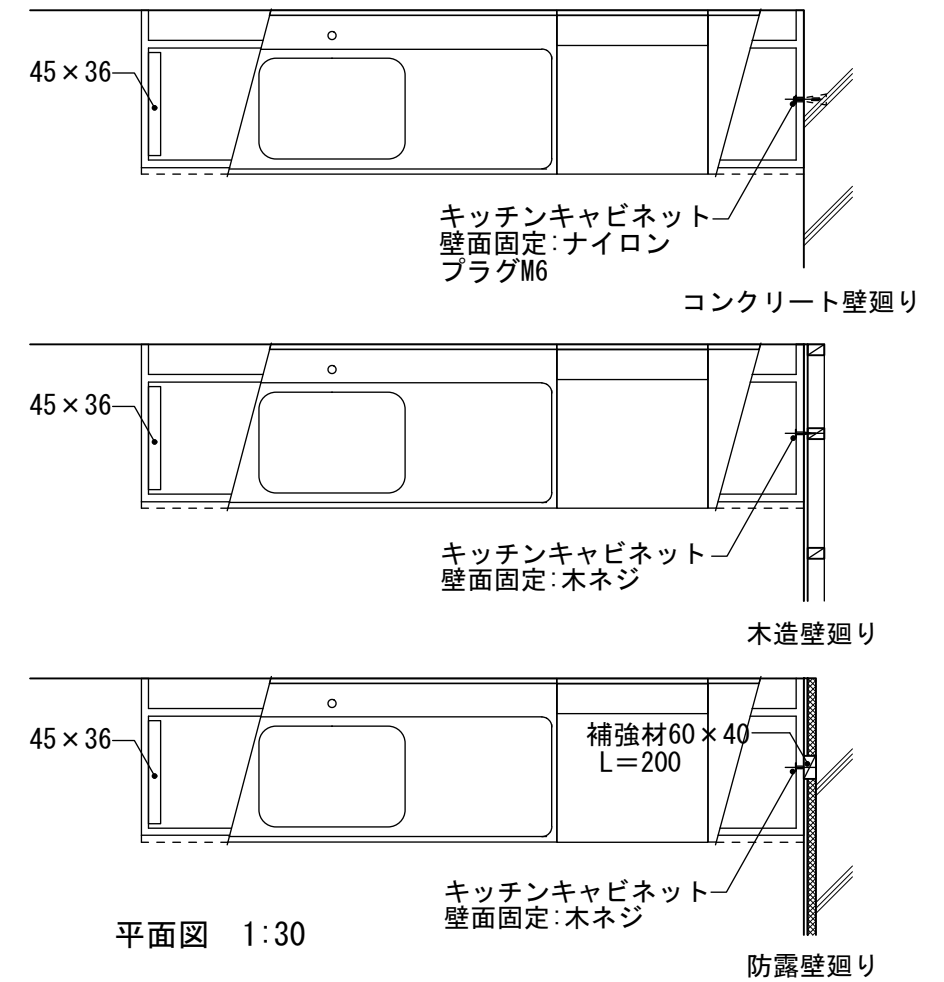
【仕様】

- ▷: シーリング材充填

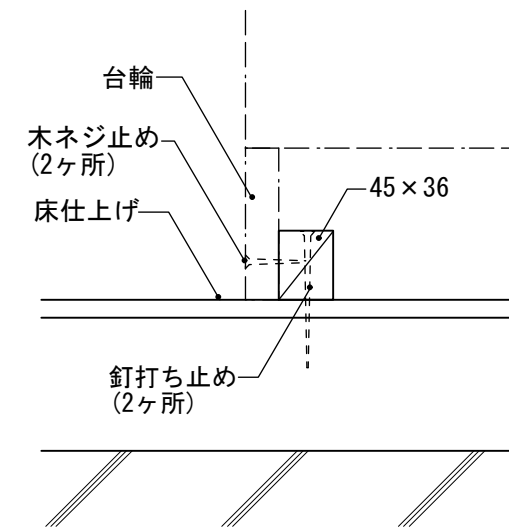
【附記事項】

- AI-501~504 の部分詳細を示す。

B: キッチンキャビネット固定詳細



平面図 1:30



(床面固定の場合)

詳細図 1:5

【改訂事項(公団住宅)】

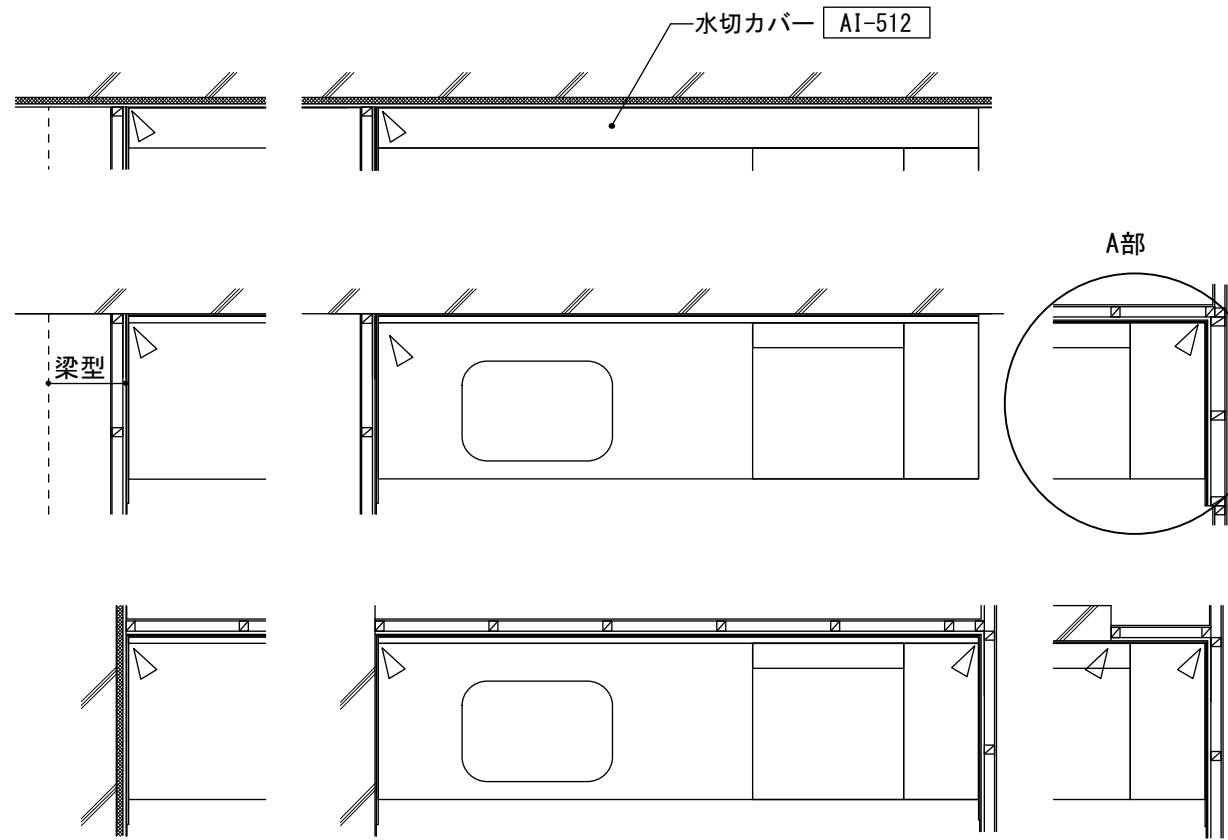
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追) H. 17. 2. 1

【改訂事項(機構住宅)】

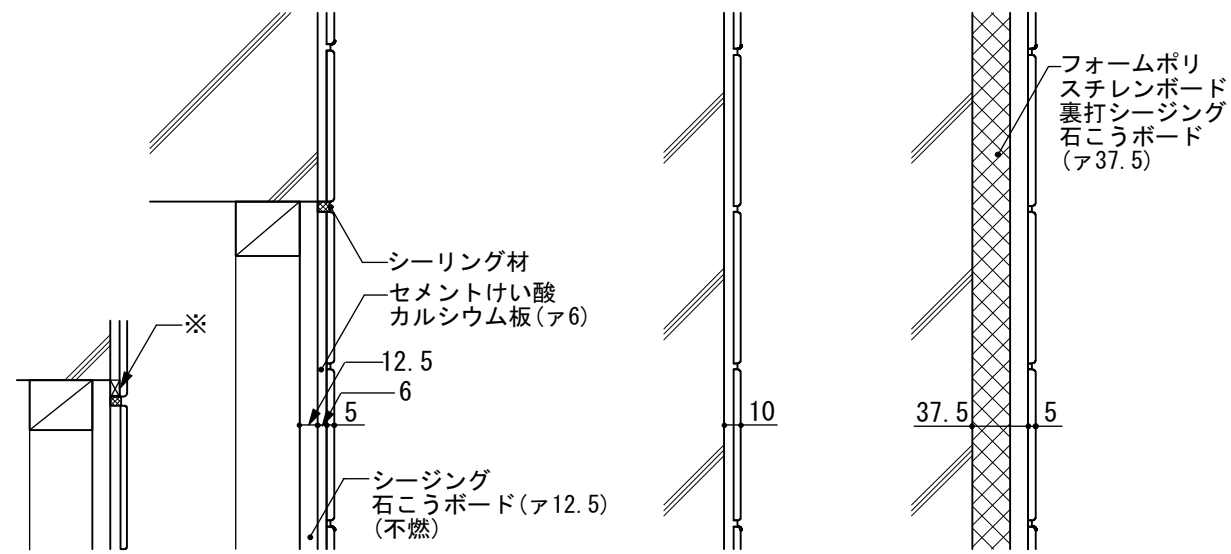
- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	キッチンキャビネット 部分詳細図		頁
	縮尺	1:3 1:5 1:30	





平面図 1:30



(異種下地材壁廻り)

(コンクリート壁廻り)

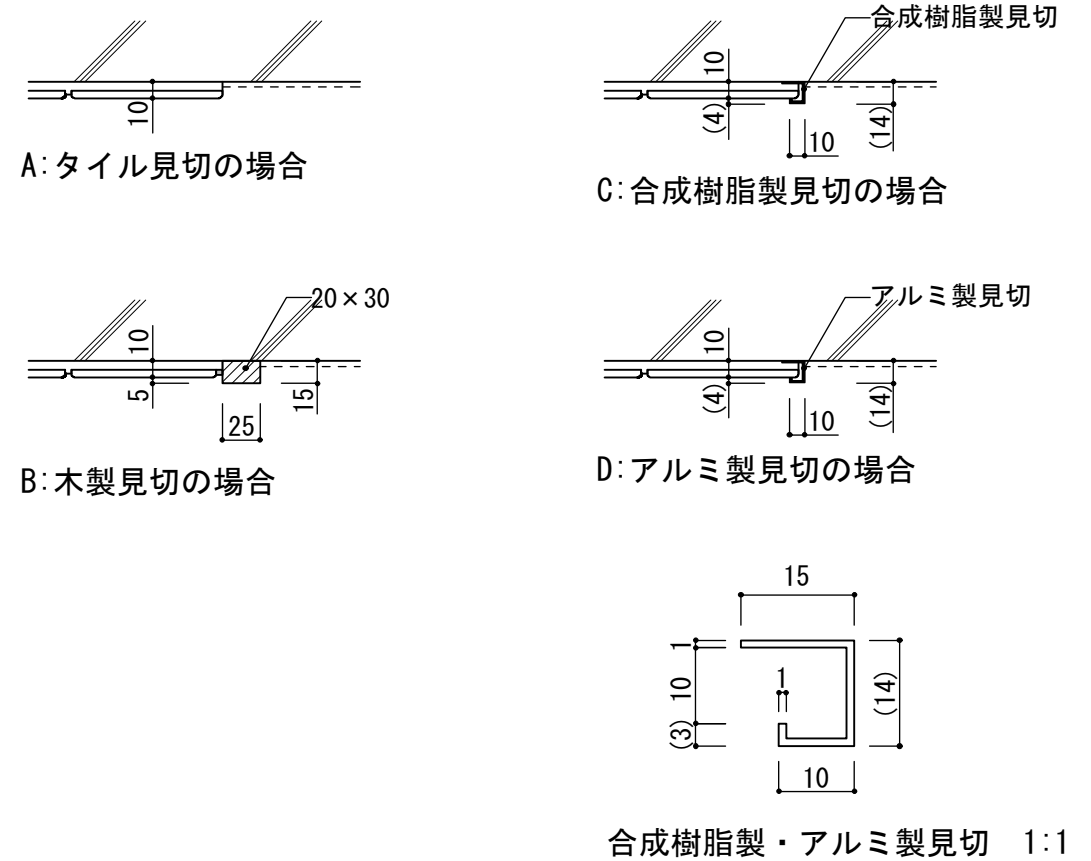
(防露壁廻り)

【仕様】

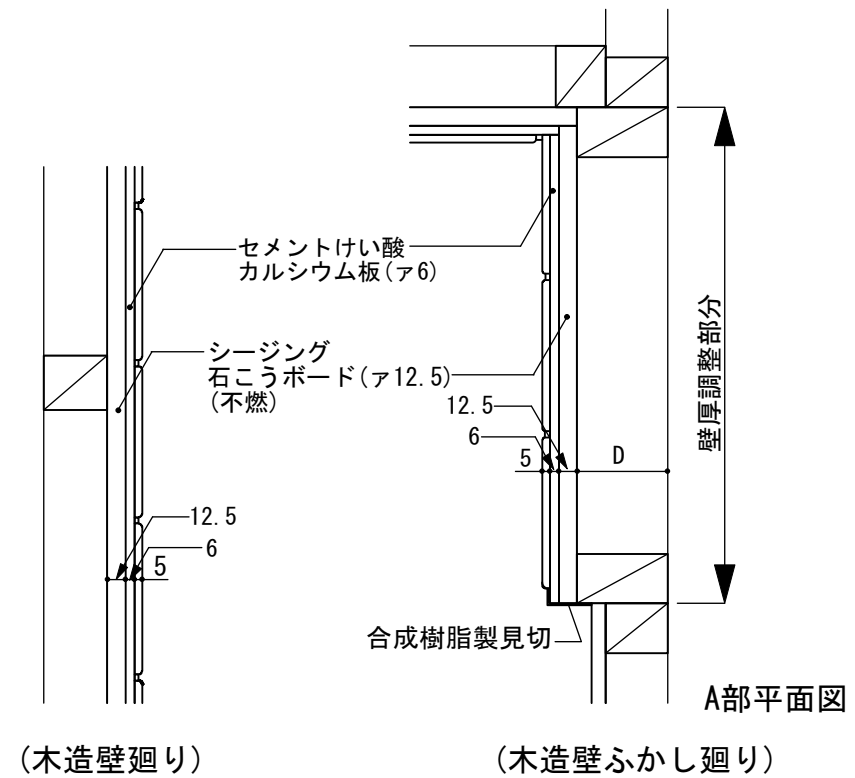
- ・ :シーリング材充填
- ・ ※:タイルが異種下地材にまたがる場合、その部分は接着しない。
- ・ 水掛りの範囲の防露壁はシージング石こうボード(ア12.5)(不燃)を使用する。

【附記事項】

- ・ タイル張りじまいのA. B. Cは建物設計図による。
- ・ 木造壁ふかしDは建物設計図による。



合成樹脂製・アルミ製見切 1:1



(木造壁廻り)

(木造壁ふかし廻り)

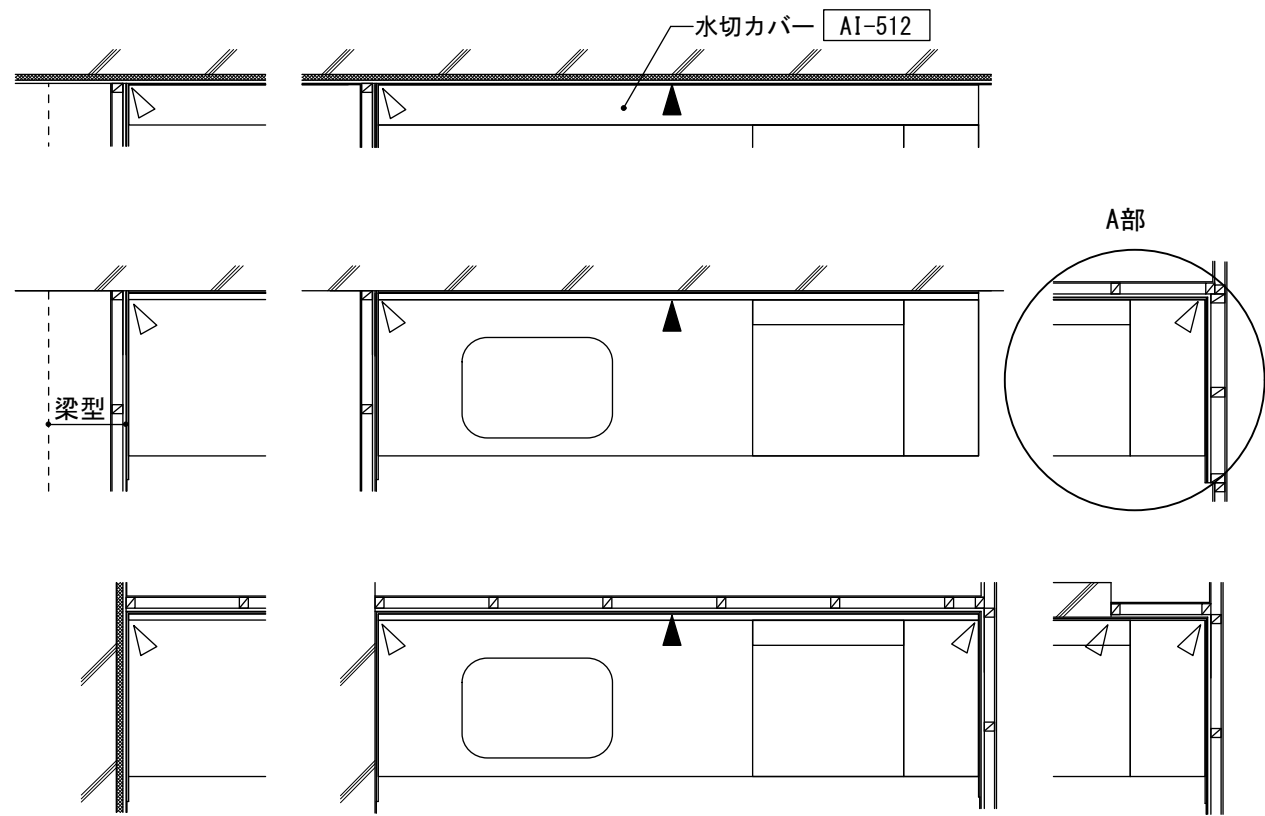
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

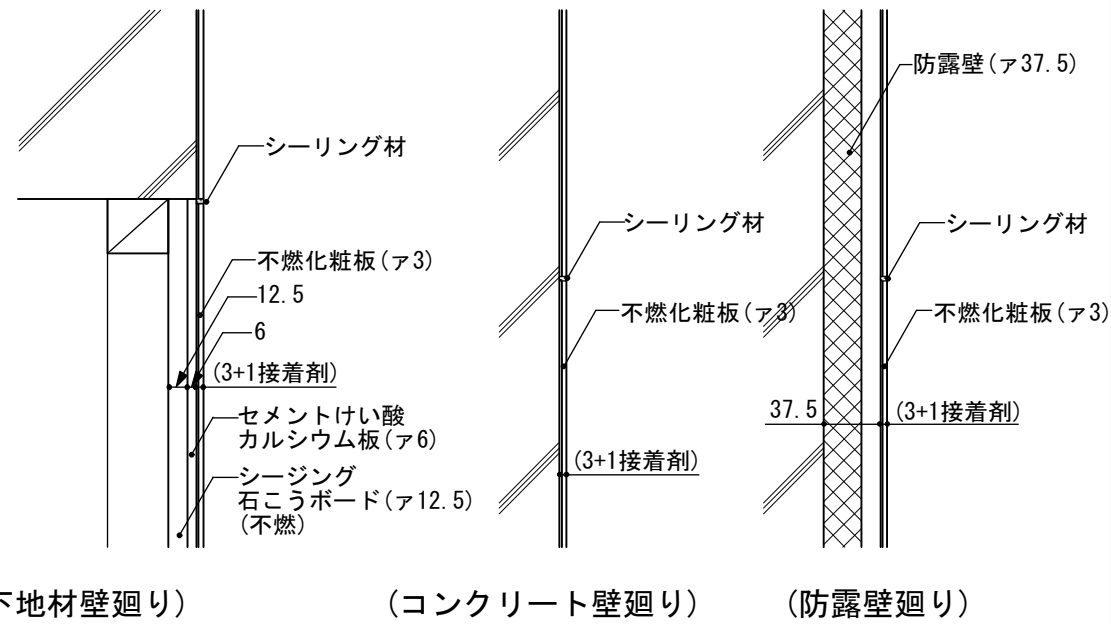
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	台所壁仕上(タイル)		
縮尺	1:1 1:5 1:30	AI - 514 - 1	頁 I-67



平面図 1:30



(異種下地材壁廻り)

(コンクリート壁廻り)

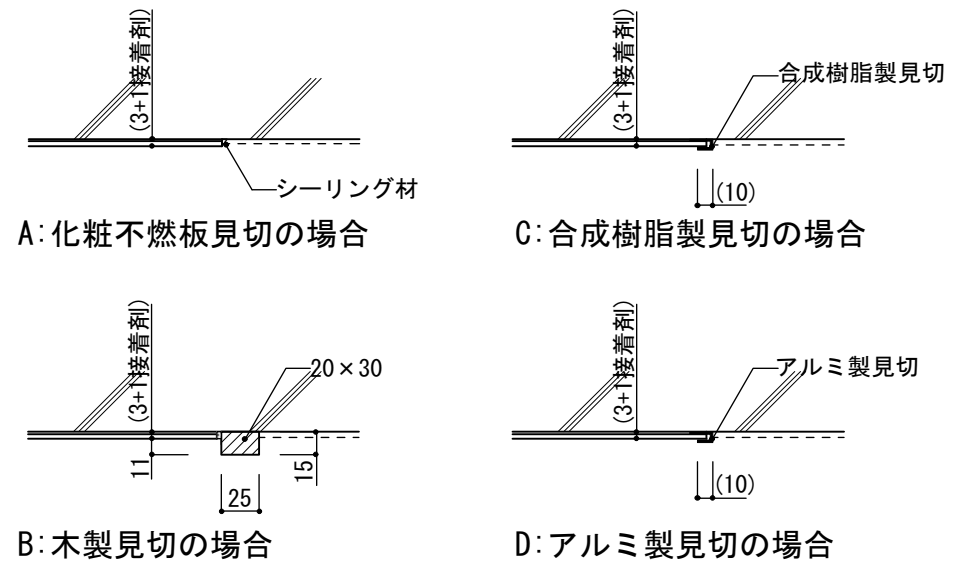
(防露壁廻り)

【仕様】

- ・不燃化粧板はメラミン不燃化粧板を標準とし他の材質は建物設計図による。
- ・ : シーリング材充填
- ・ : シーリング材充填は不燃化粧板の割付けにより決定する。
- ・ 水掛りの範囲の防露壁はシージング石こうボード(ア12.5) (不燃)を使用する。
- ・ シージング石こうボードの上不燃化粧板張は、互いに継目が合わないよう、千鳥張とする。

【附記事項】

- ・ 不燃化粧板張りじまいのA. B. Cは建物設計図による。
- ・ 木造壁ふかしDは建物設計図による。
- ・ 不燃化粧板の目地部分にアルミ見切り縁を使用する場合は建物設計図による。

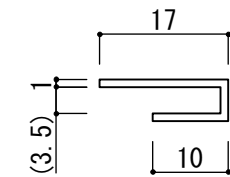


A: 化粧不燃板見切の場合

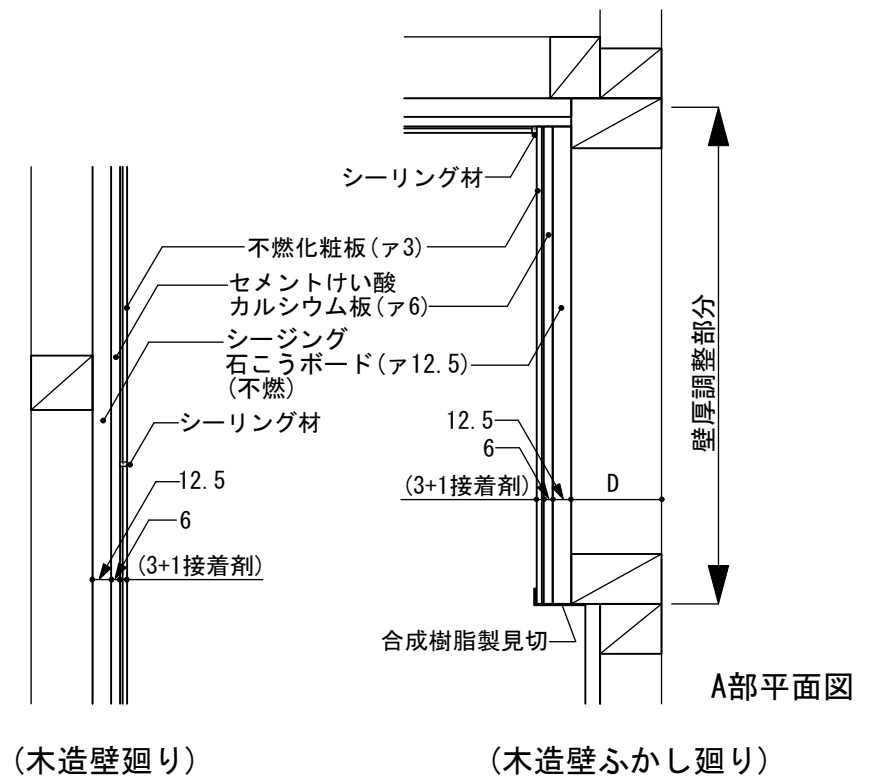
C: 合成樹脂製見切の場合

B: 木製見切の場合

D: アルミ製見切の場合



合成樹脂製・アルミ製見切 1:1

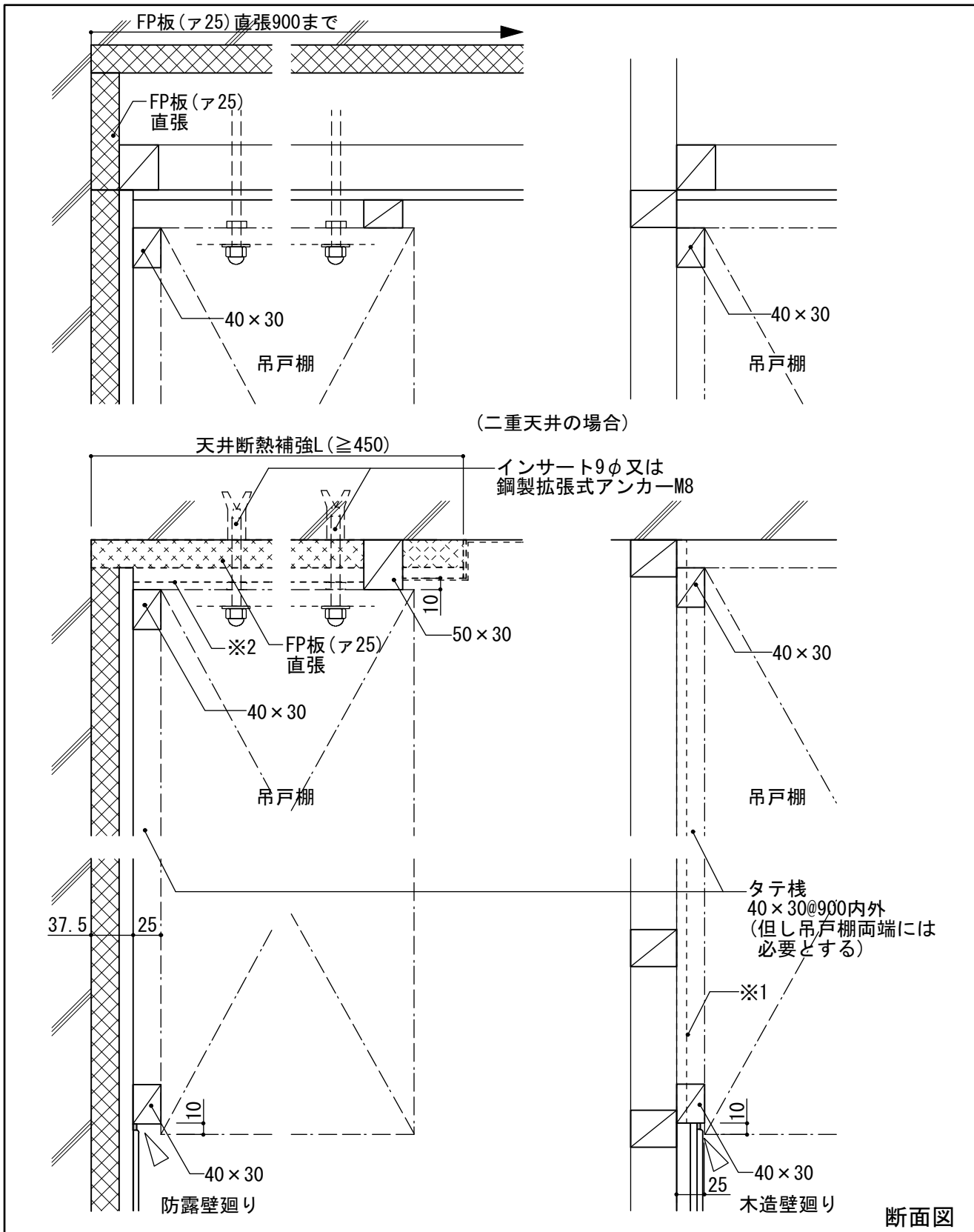


(木造壁廻り)

(木造壁ふかし廻り)

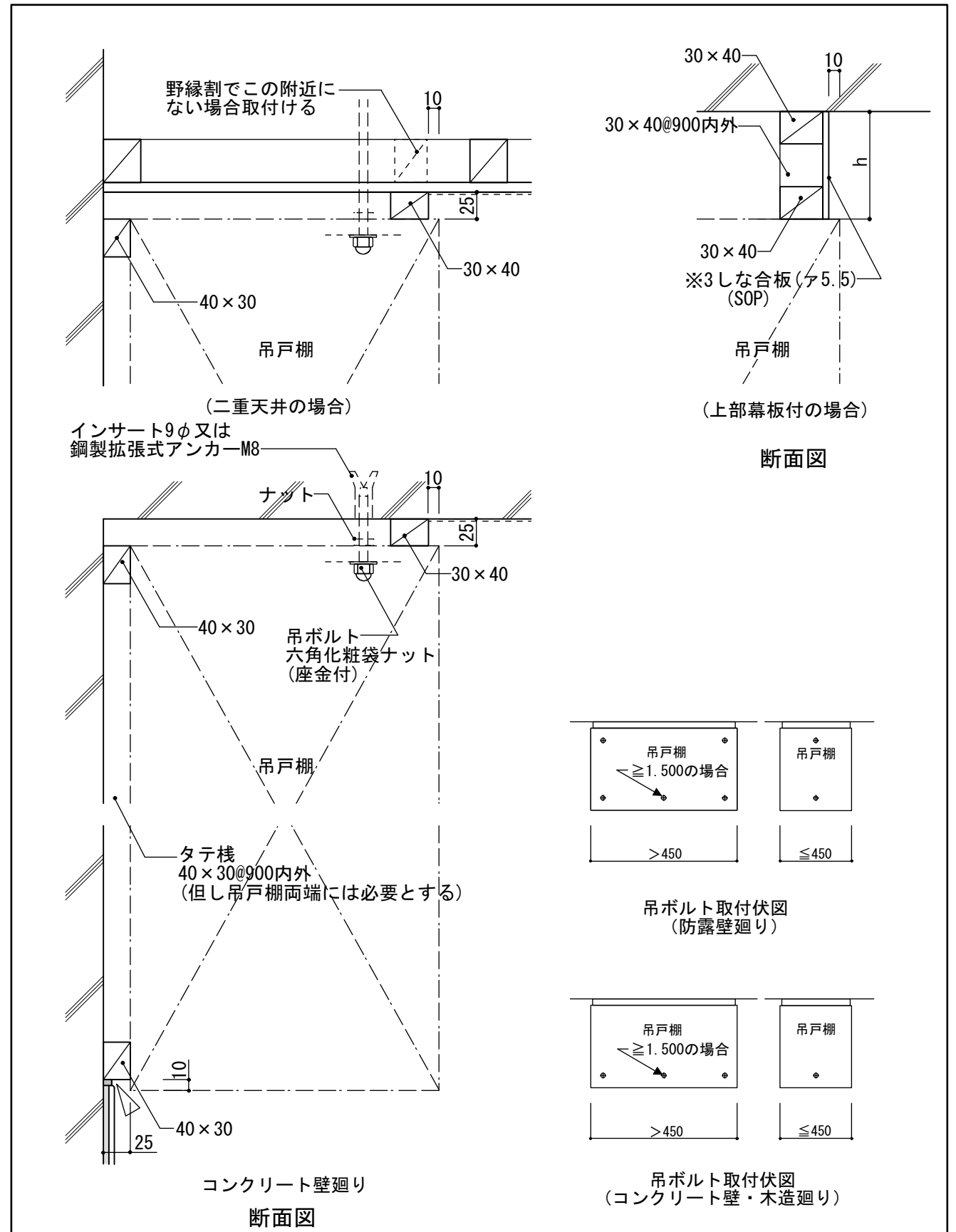
A部平面図

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	台所壁仕上(不燃化粧板)	
		縮尺	1:5 1:30	頁 I-68
			AI - 514 - 2	



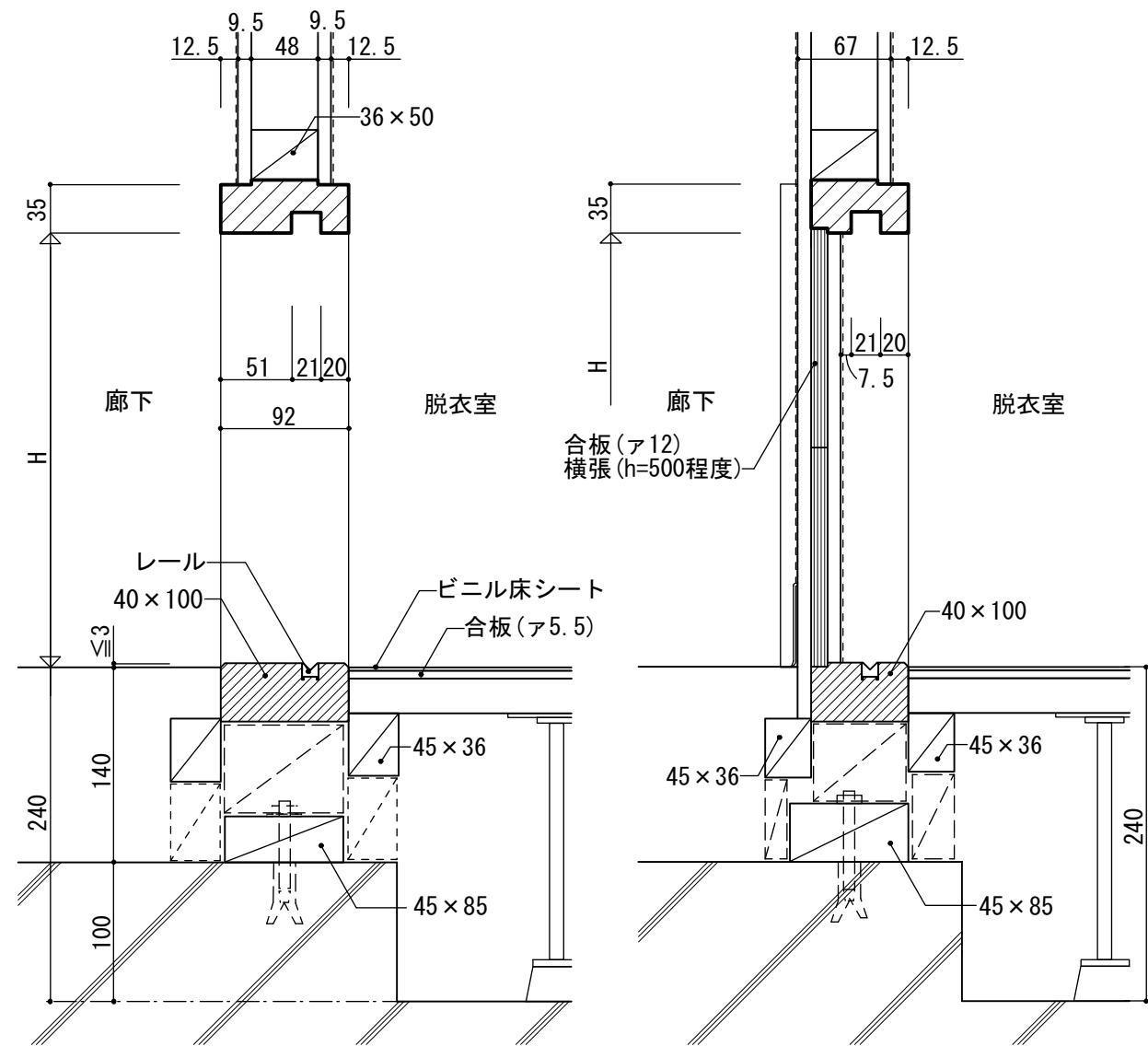
断面図

- 【仕様】**
- シリング材充填
  - 吊ボルトは吊戸棚の中が1.500以上の場合 3本、450をこえ、1.500未満の場合 2本、450以下の場合 1本とする。
  - 又取付壁面が防露壁の場合は吊戸棚裏側に吊ボルトを巾が450をこえる場合は2本、450以下の場合1本追加する。
- 【附記事項】**
- 吊戸棚取付用木材の見え掛り部はSOPとする。
  - 六角化粧袋ナット、座金ともステンレス製とする。
  - ※1: 木造壁にレンジフードを取り付ける場合は、下地をセメントけい酸カルシウム板(ア9)張りとする。
  - ※2: 防露壁にレンジフードを取り付ける場合は、下地をFP(G)(ア37.5)張りとする。
  - hは建物設計図による。
  - 上部幕板の仕上は建物設計図による。
  - ※3: しな合板SOP仕上を標準とし建物設計図による。
  - 天井断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)

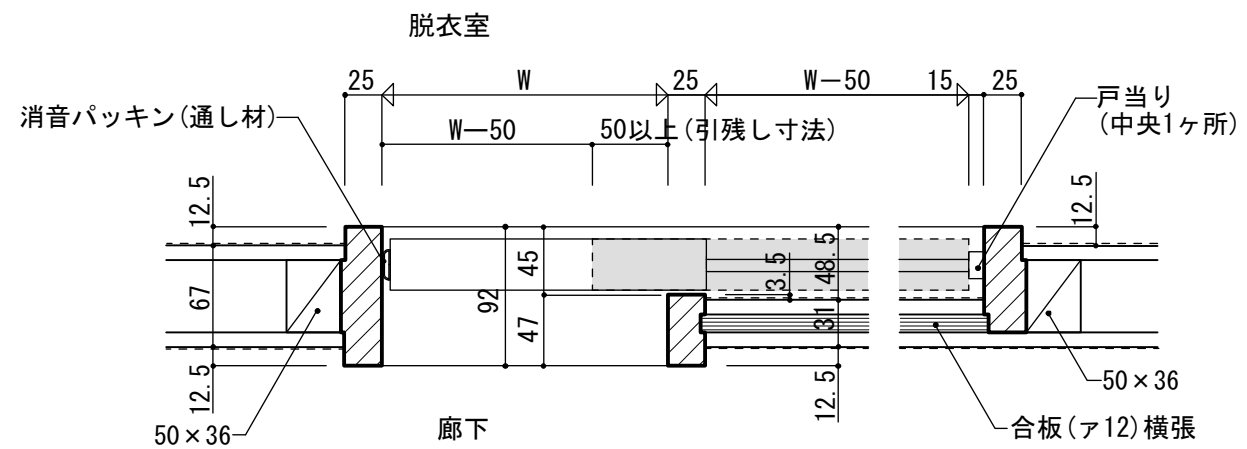


断面図

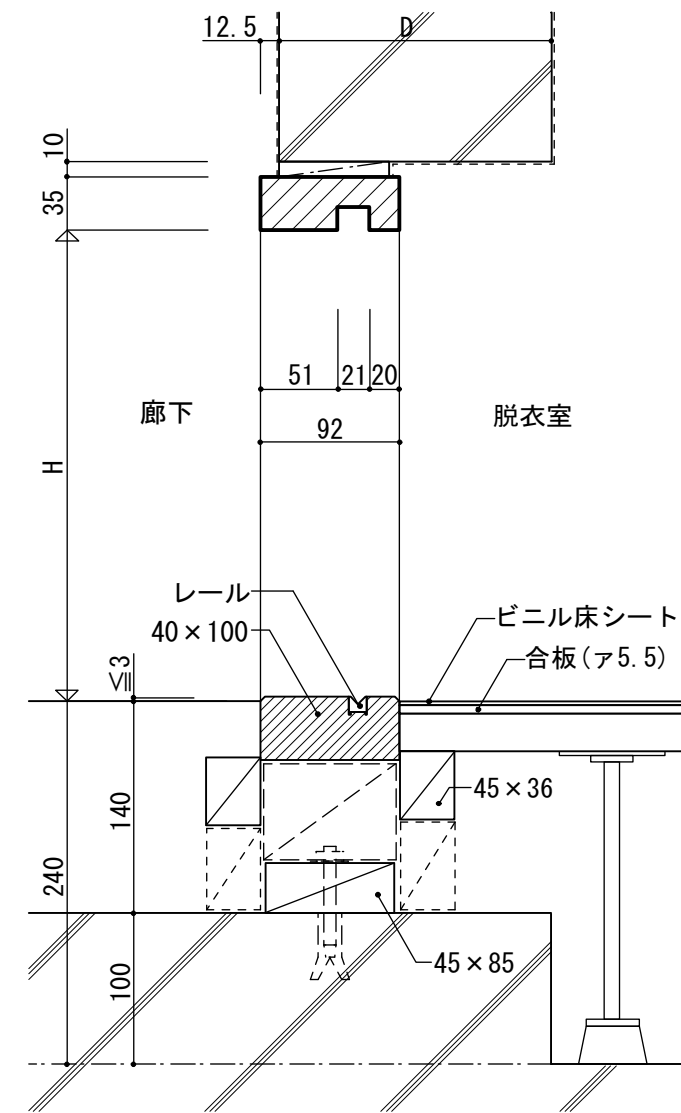
名称	吊戸棚取付		
	縮尺	1 : 5	頁 I-69
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】		
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1		
・第4版 H. 8. 10. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1		
・第5版 H. 13. 11. 1			



断面図



平面図



断面図

【仕様】

- ・ W. H. Dは建物設計図による。
- ・ 片引戸わく廻りは AI-152 による。
- ・ 戸袋壁の裏側には補助手摺は取り付けない。

【附記事項】

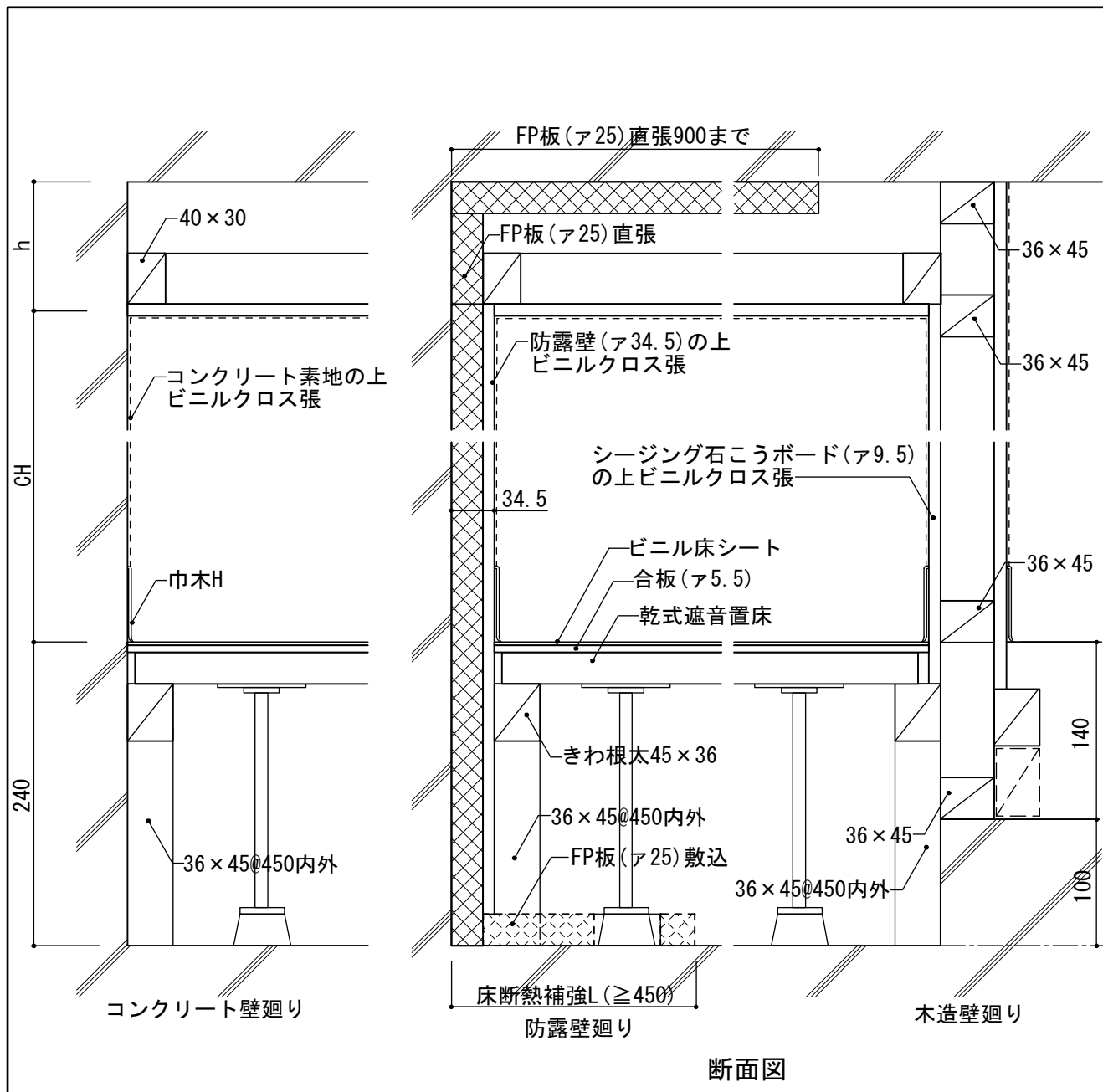
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

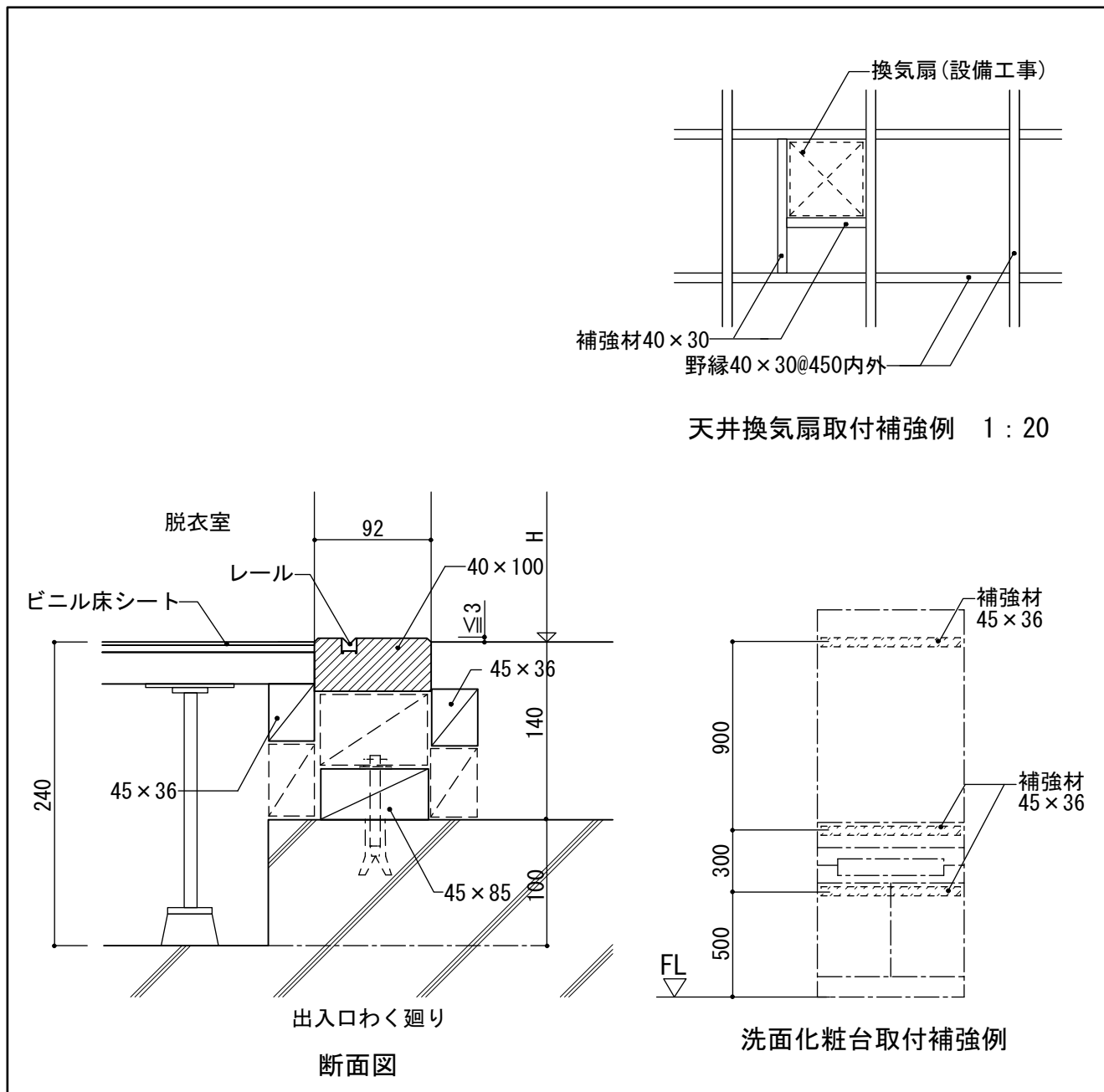
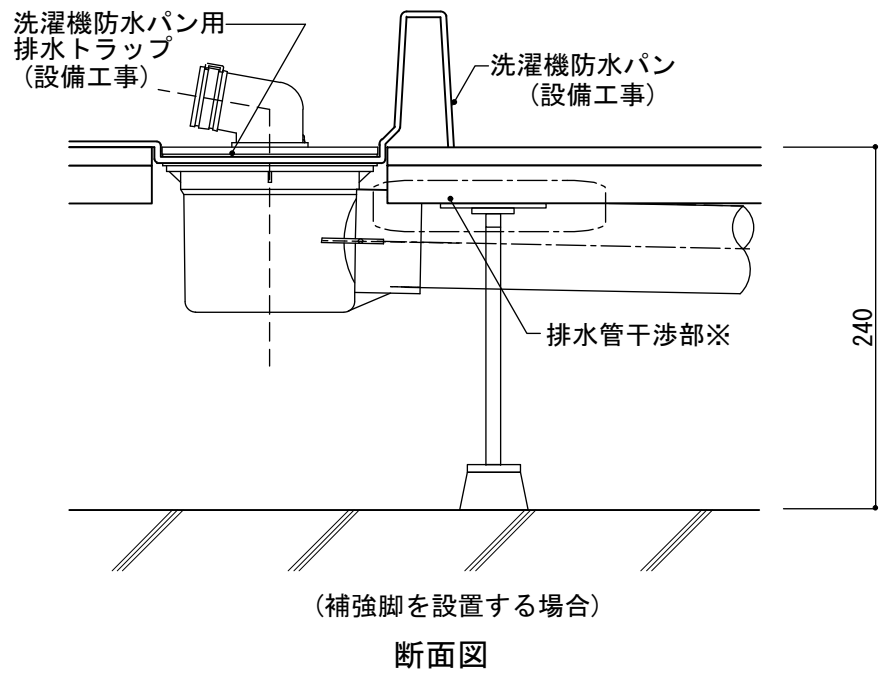
【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	洗面脱衣室出入口わく廻り		
縮尺	1 : 5	AI - 601	頁 I-70



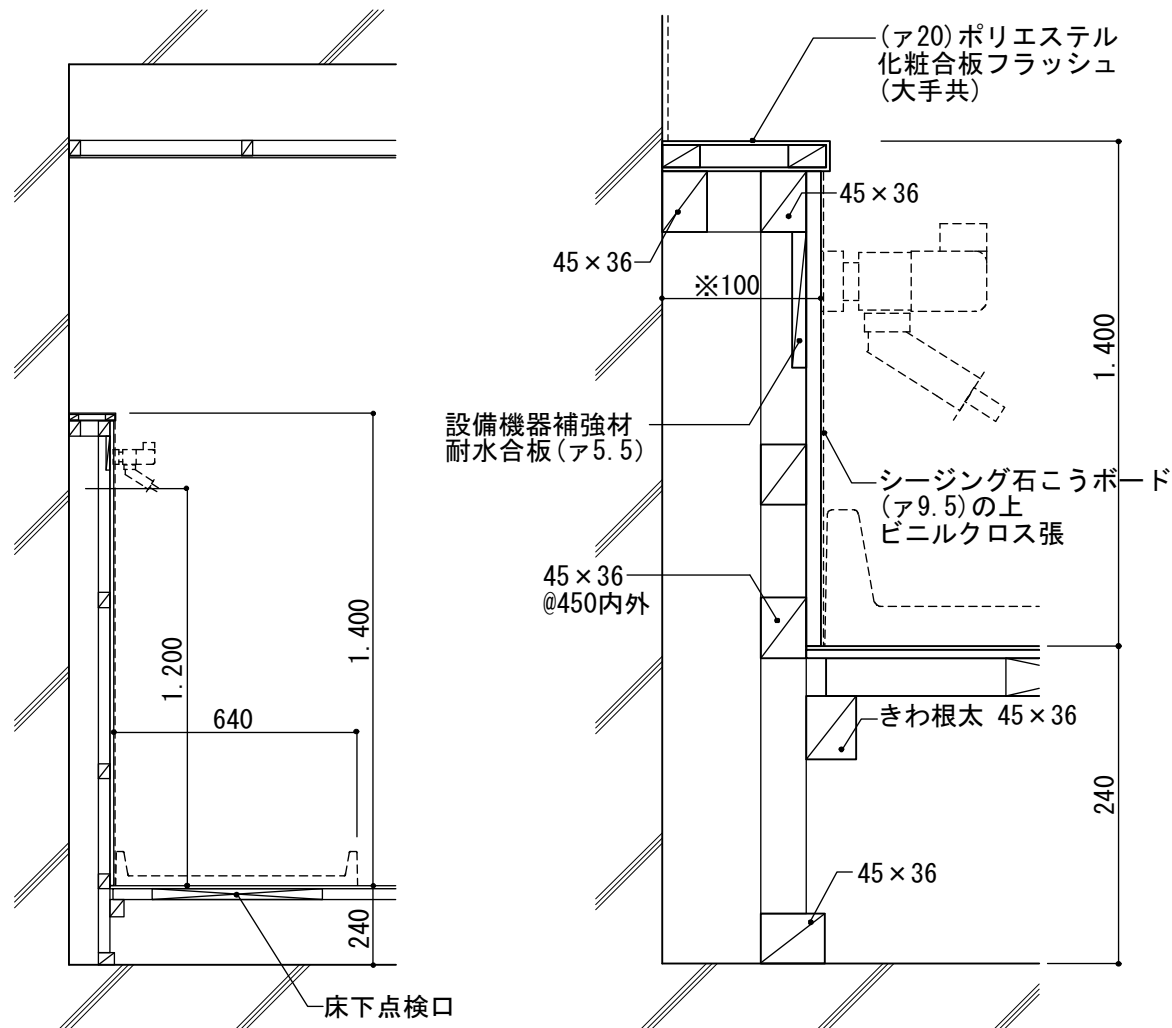
断面図



断面図

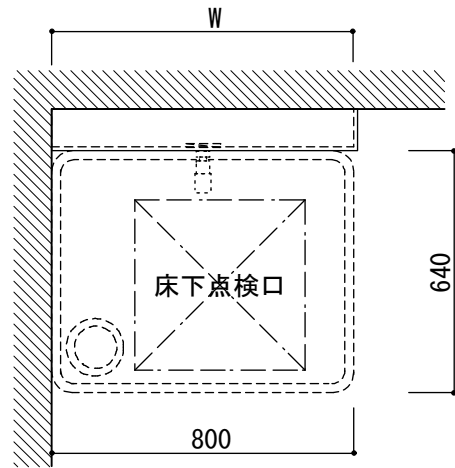
- 【仕様】**
- 洗面脱衣室の防露壁はシージング石こうボード(ア9.5)を使用する。
- 【附記事項】**
- CH, h, 巾木Hは建物設計図による。
  - 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲はAI-141-1~3参照)
  - 洗面化粧台壁取付用補強材は建築工事とし、取付位置は設備図による。(壁と洗面化粧台の隙間にはシーリング材(建築工事)を施す。)
  - きわ根太の位置は建物設計図による。
  - 換気扇取付用補強材は建築工事とする。
  - ※排水管が干渉する部分の床下地材は最小限の欠き込みを行う。

<p><b>【改訂事項(公団住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>第5版 H. 13. 11. 1</li> <li>第5版(追)H. 16. 8. 1</li> </ul>	<p><b>【改訂事項(機構住宅)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2版 H. 21. 12. 1</li> <li>第2版3刷 H. 31. 4. 1</li> </ul>	<p>名称</p> <p>洗面脱衣室 床・壁・天井廻り</p>	<p>縮尺</p> <p>1:5 1:20</p>	<p>AI - 602</p>	<p>頁</p> <p>I-71</p>
--	--	-------------------------------------	-------------------------------	-----------------	----------------------

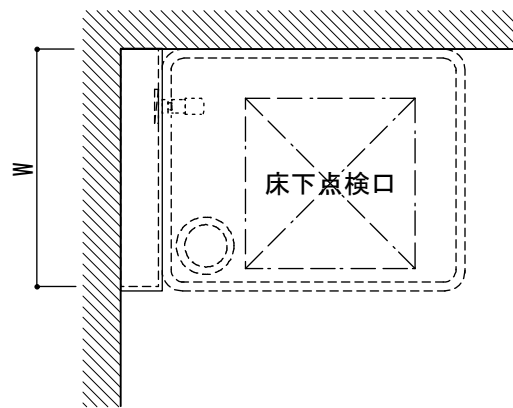


断面図 1:20

コンクリート壁廻り  
断面図 1:5



配管立上りカバー付(背面)



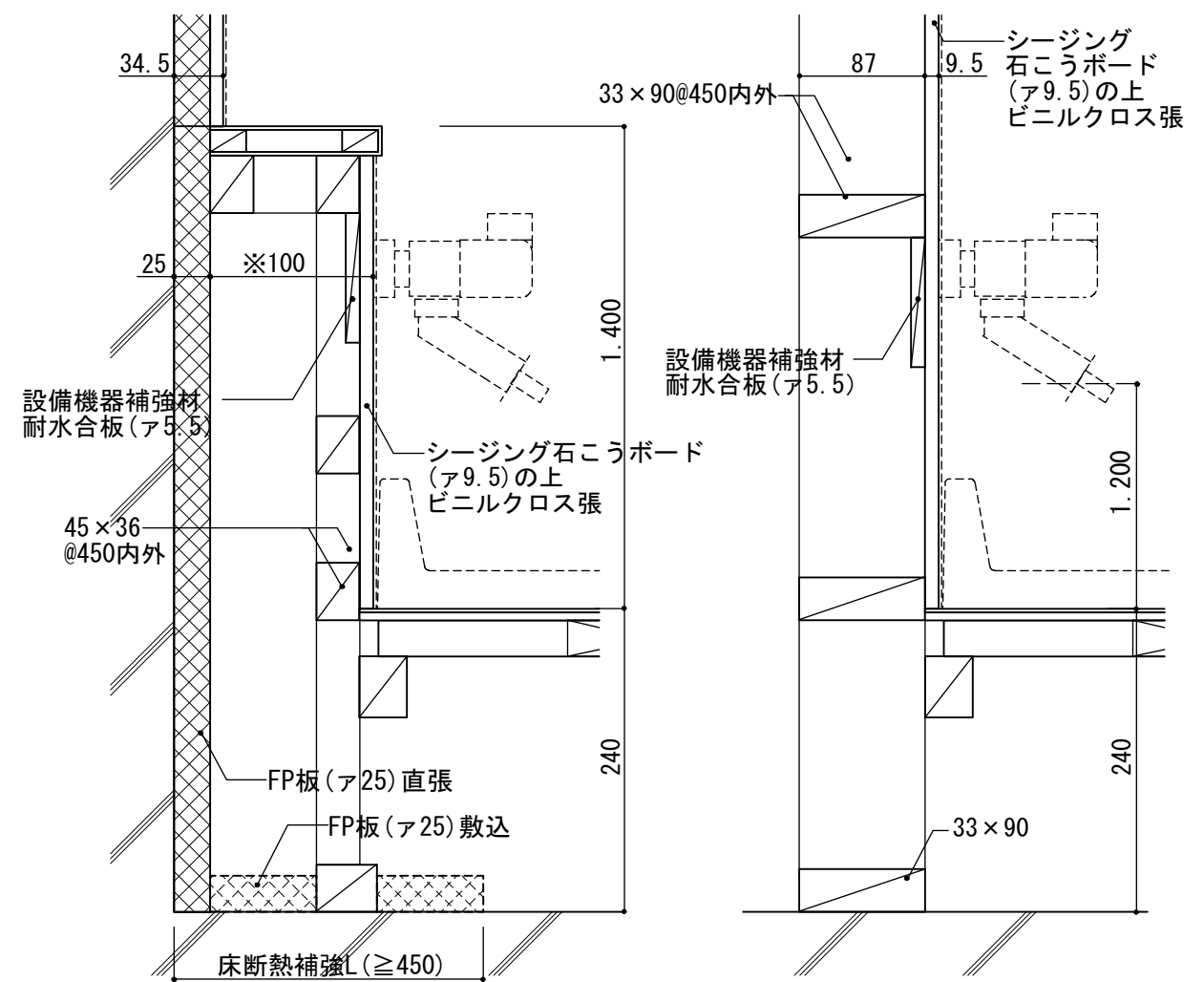
配管立上りカバー付(側面)

平面図 1:20

【仕様】

【附記事項】

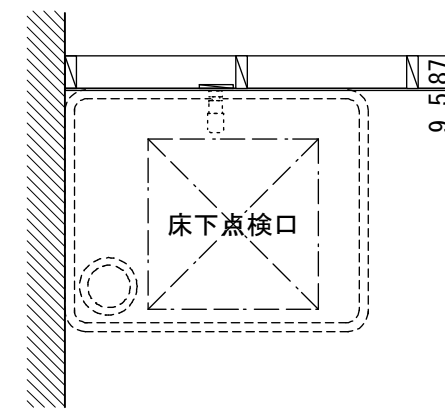
- ・Wは建物設計図による。
- ・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
- ・設備機器補強材は建築工事とし、取付位置は設備図による。
- ・きわ根太の位置は建物設計図による。
- ・※ヘッダー置場になる場合の寸法及び点検口は建物設計図による。



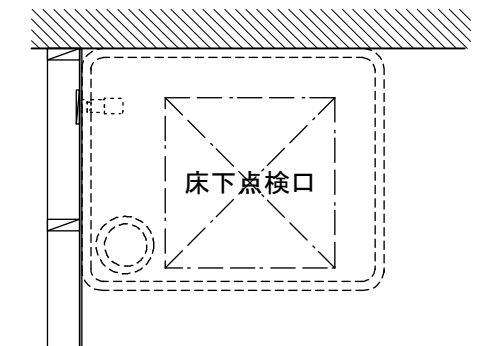
防露壁廻り

木造壁廻り(壁内配管の場合)

断面図 1:5



壁内配管(背面)



壁内配管(側面)

平面図 1:20

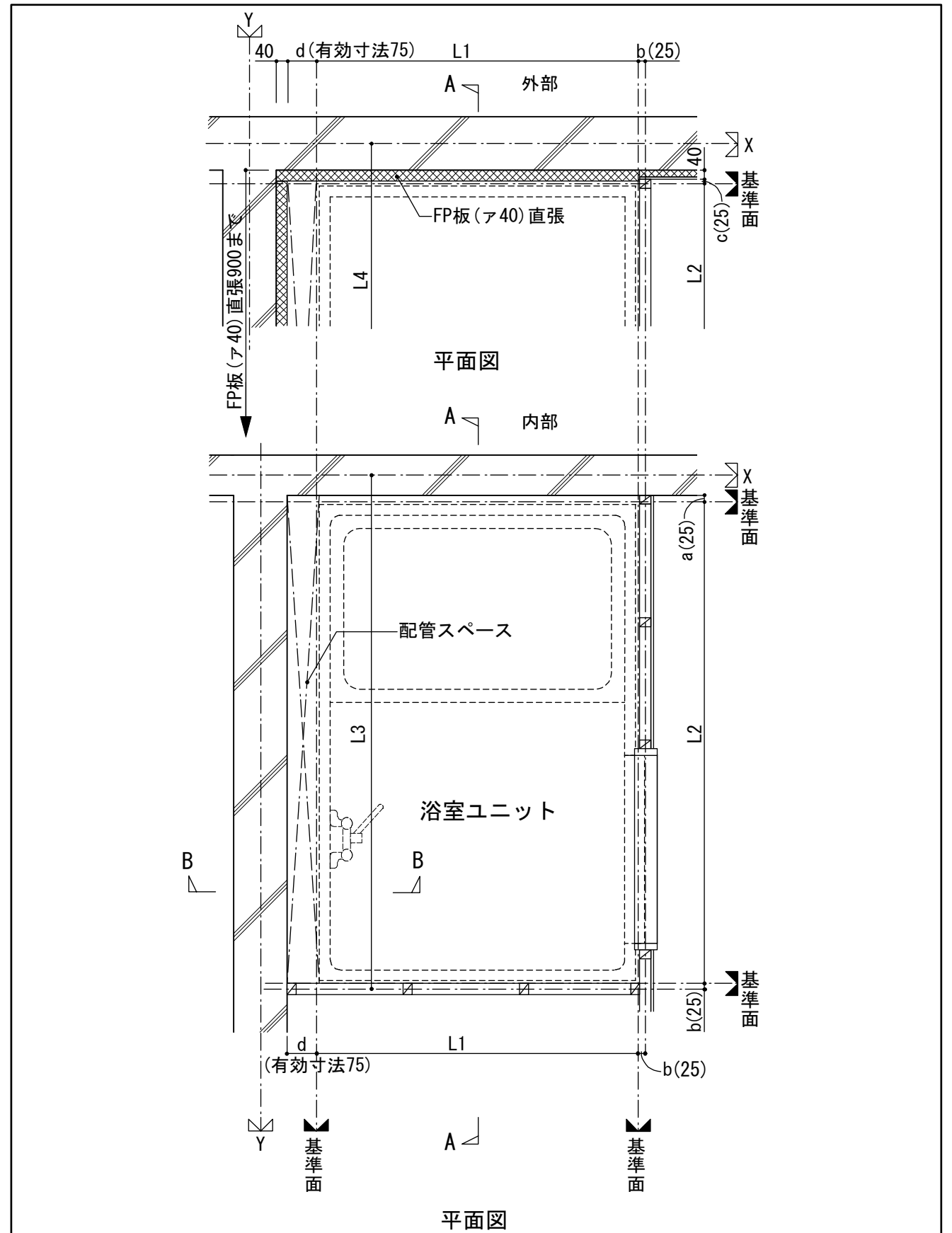
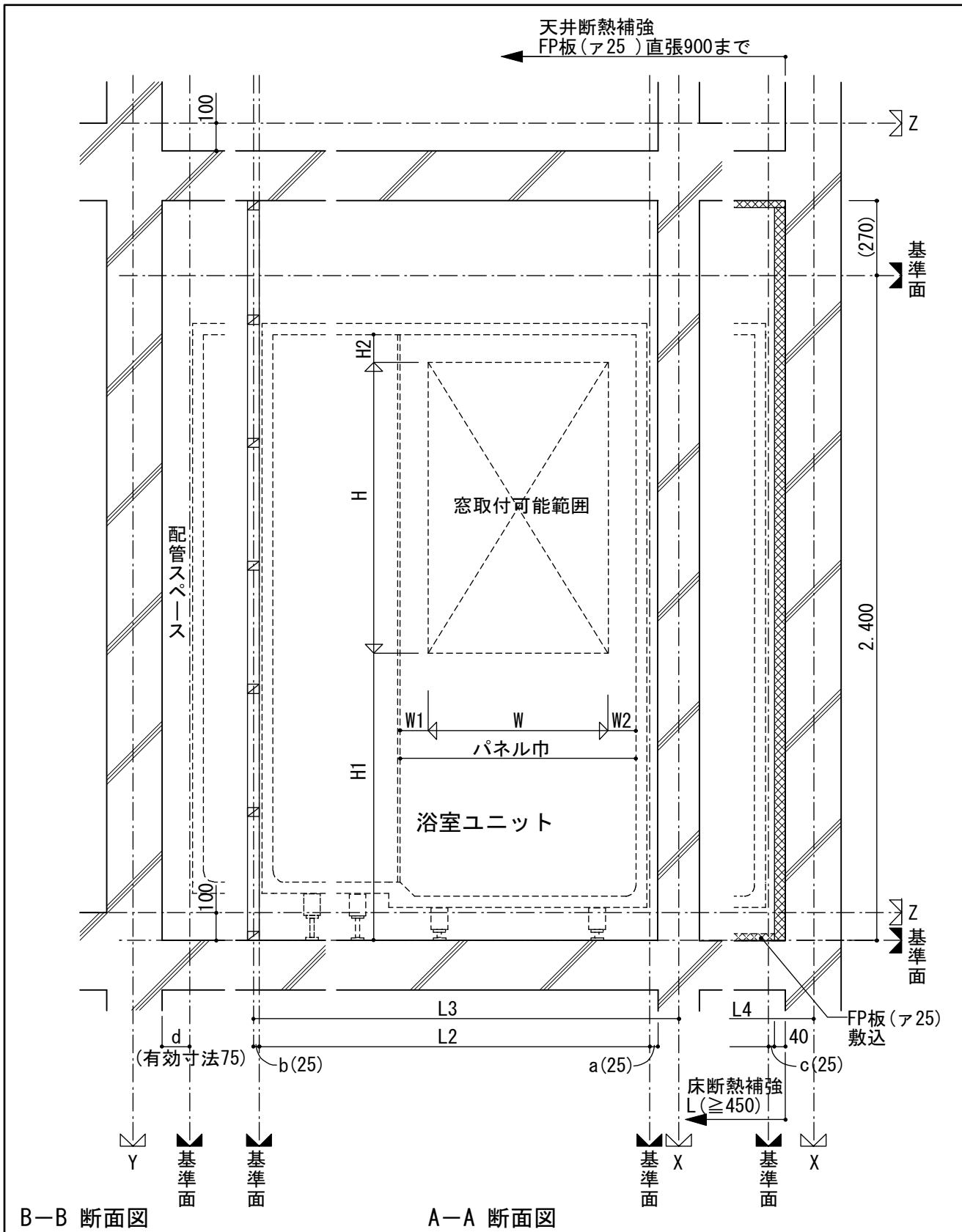
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追)H. 16. 8. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	洗濯機給水用 配管立上りカバー		
縮尺	1:5 1:20	AI - 603	頁 I-72



- 【仕様】**
- ・手摺は建物設計図による。
  - ・浴室ユニットタイプ別による基準面間寸法は下表による。

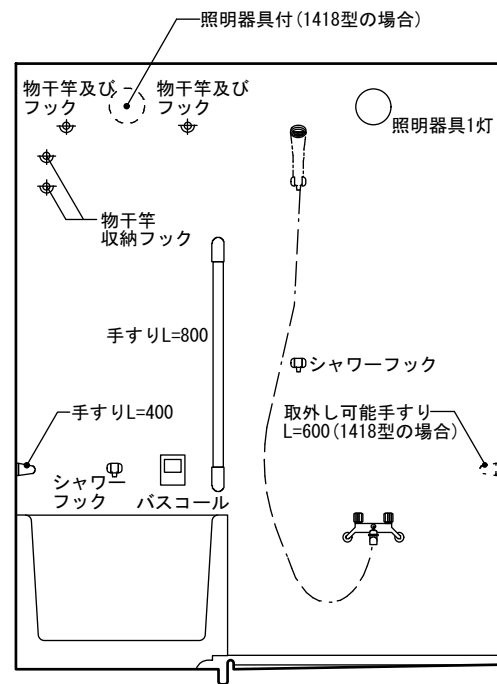
	L1	L2
1216型	1.300	1.700
1317型	1.400	1.800
1418型	1.500	1.900

- ・窓取付可能範囲は浴室ユニット四方向のいずれかとし、パネル間にまたがらない範囲で設けW. W1. W2. H. H1. H2はメーカー仕様による。
- ・浴室ユニットは「別冊 機材の品質・性能基準」による。

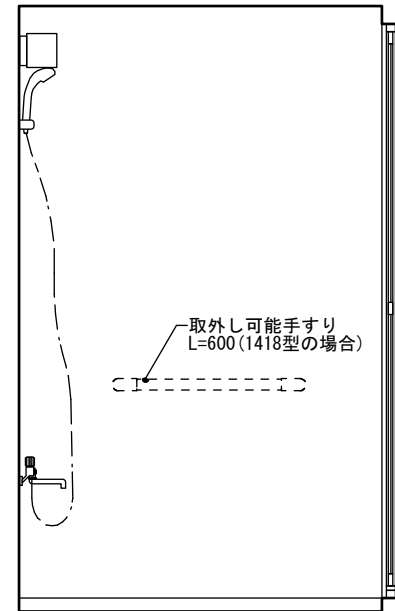
- 【附記事項】**
- ・ a. b. c. d. L3. L4は建物設計図による。
  - ・ 床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
  - ・ 配管スペースは75を標準とするが設備と協議の上建物設計図による。

- 【改訂事項(公団住宅)】**
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
  - ・ 第3版 H. 4. 12. 1
  - ・ 第4版 H. 8. 10. 1
  - ・ 第5版 H. 13. 11. 1
  - ・ 第5版(追) H. 16. 8. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】**
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
  - ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

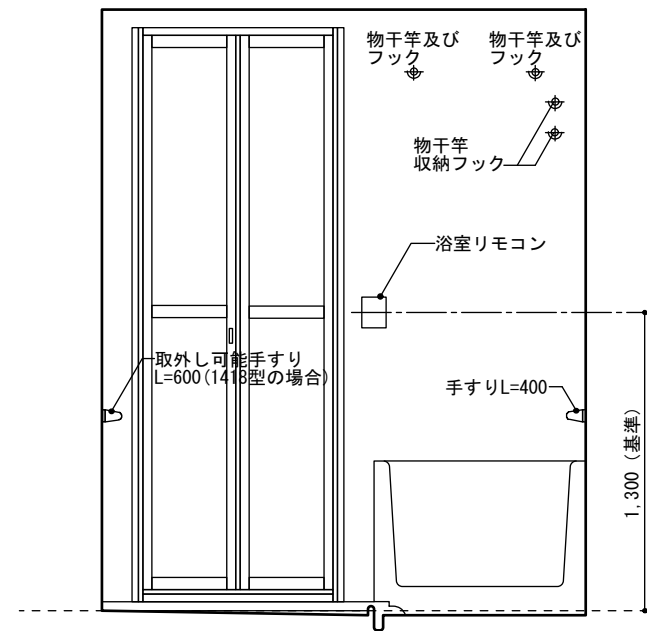
名称	浴室ユニット 〔型式図〕		頁
縮尺	1 : 20	AI - 701	I-73



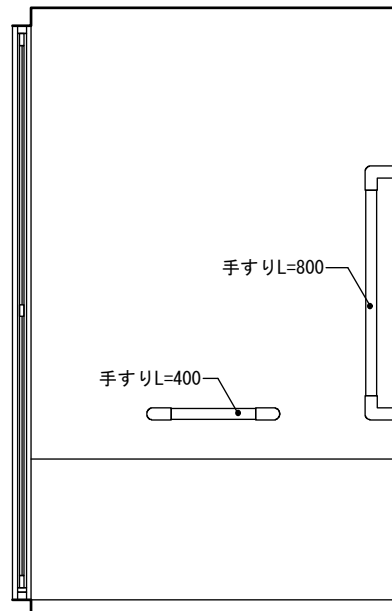
A展開図



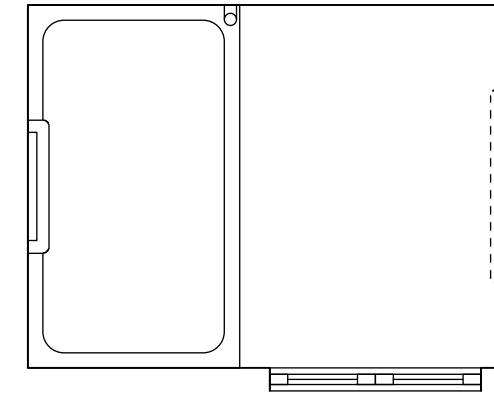
B展開図



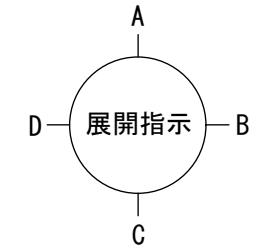
C展開図



D展開図



キープラン



【仕様】

【附記事項】

・シャワーフック取付用補強材、水栓ボックス取付用補強材は建築工事とする。取付位置は浴室ユニット選定段階で設備工事と調整を図ること。

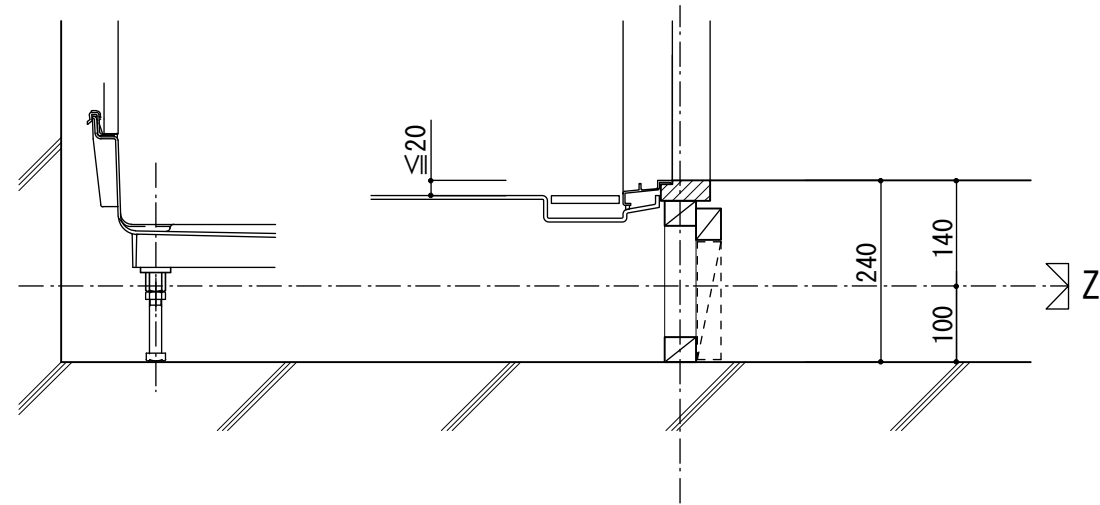
【改訂事項(公団住宅)】  
・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】  
・第2版 H. 21. 12. 1  
・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	浴室ユニット展開図 〔型式図〕		
縮尺	1 : 20	AI - 702	頁 I-74

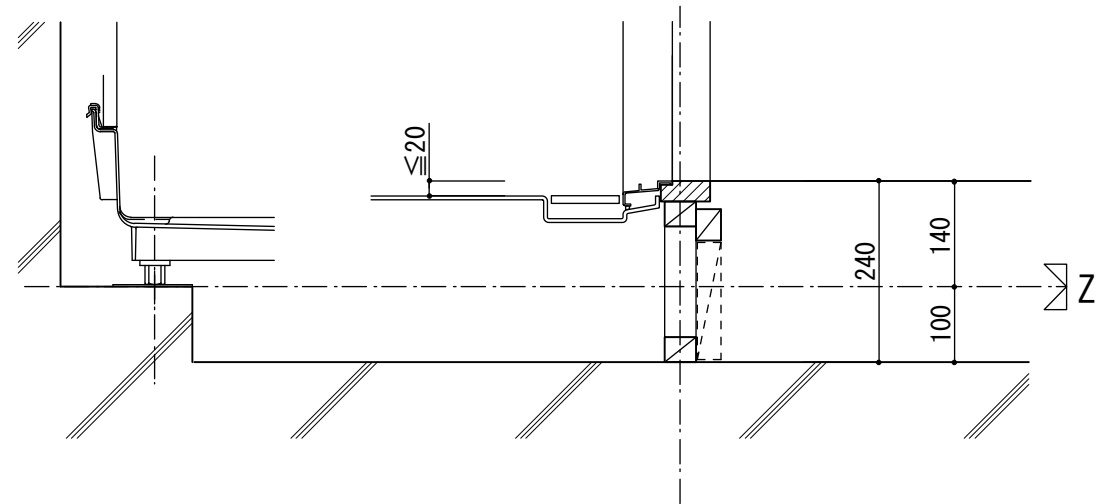


段差スラブに梁型が出ない場合

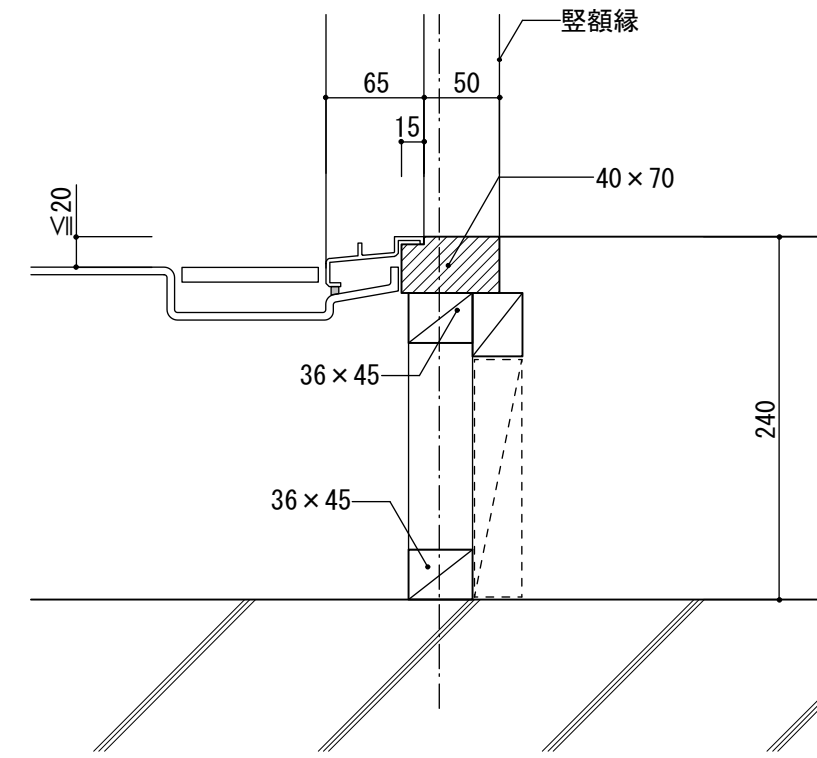


断面図 1:10

段差スラブに梁型が出る場合



断面図 1:10



断面詳細図 1:5

【仕様】

【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

・第4版 H. 8. 10. 1

・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称

浴室ユニット  
出入口わく廻り-1

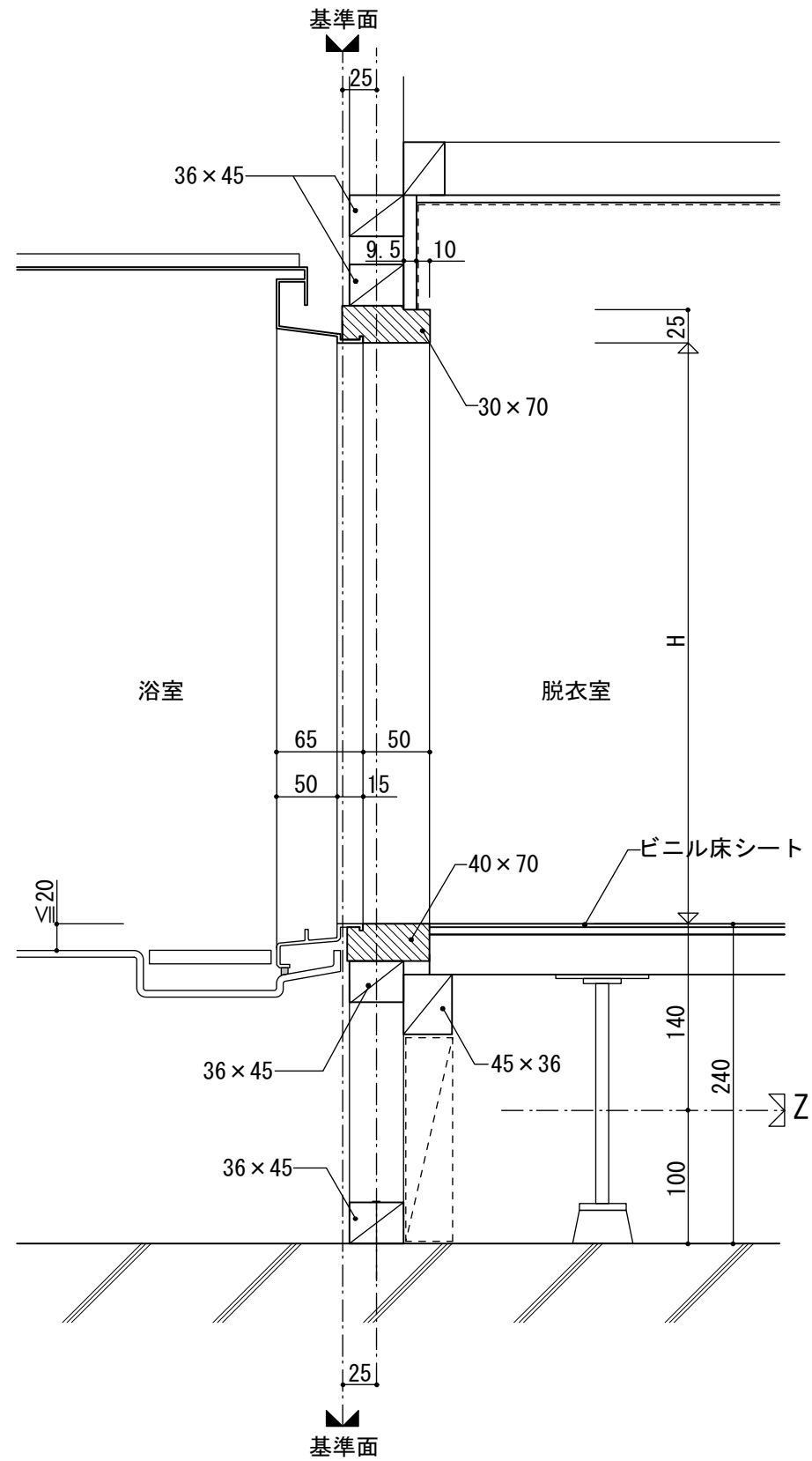
縮尺

1:5  
1:10

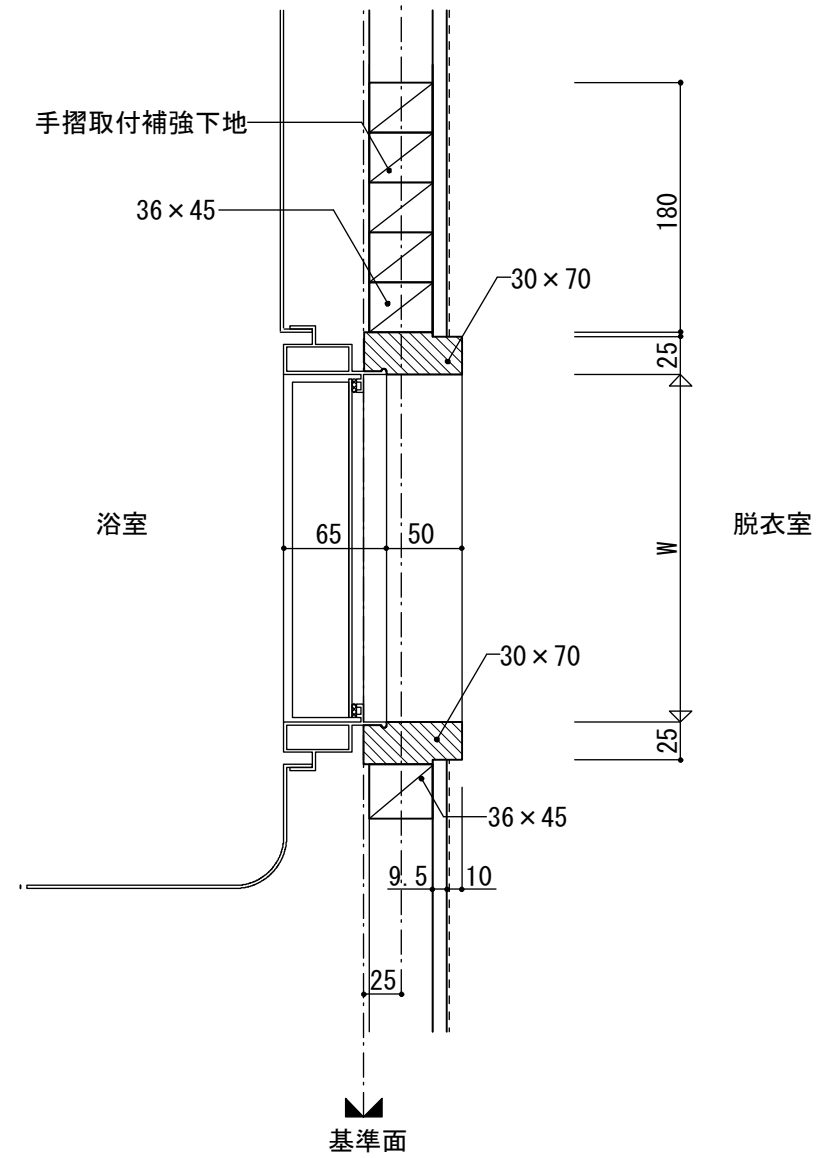
AI - 703

頁

I-75



断面図 1:5



平面図 1:5

【仕様】

・W.Hは「別冊 機材の品質・性能基準」による。

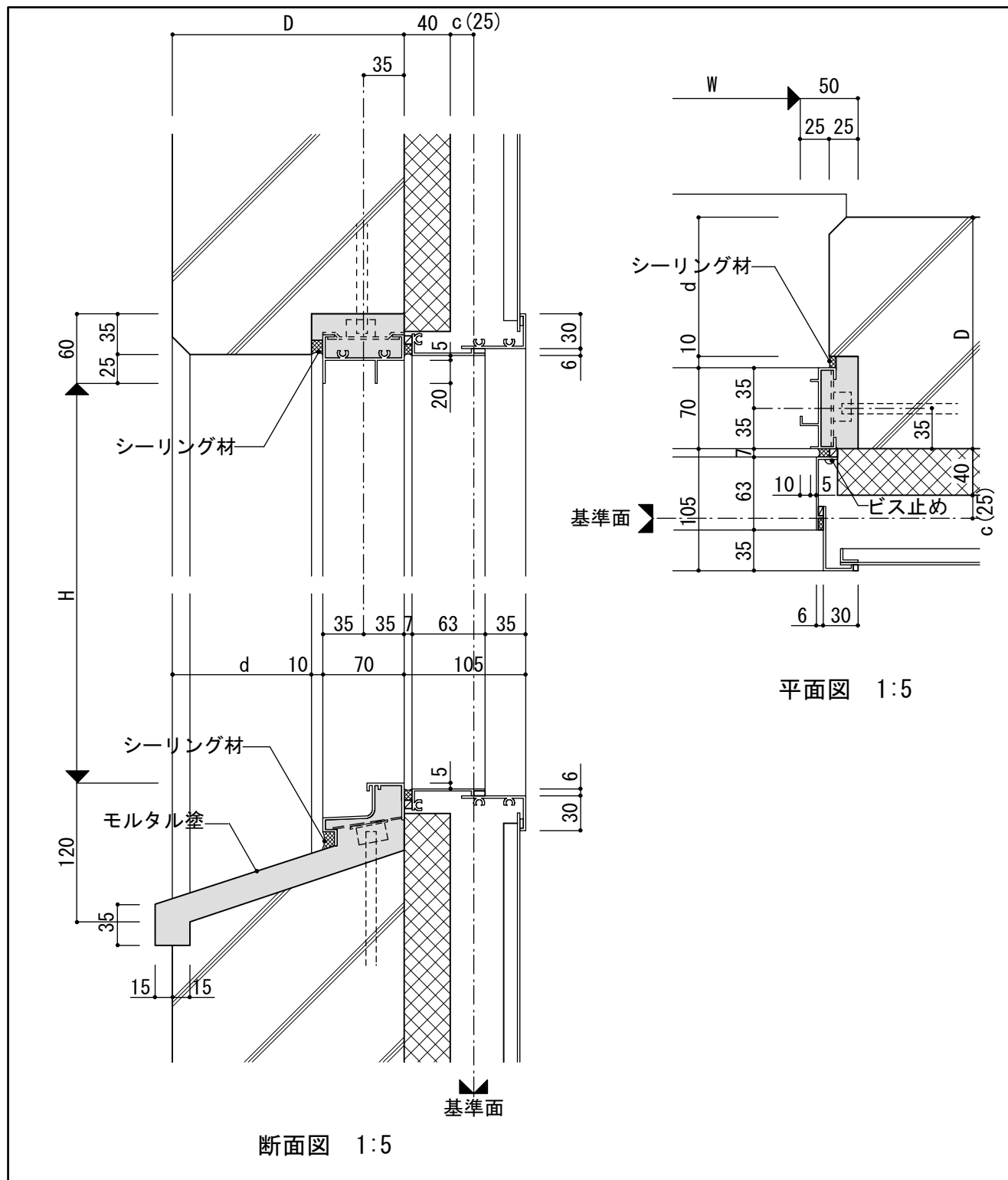
【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

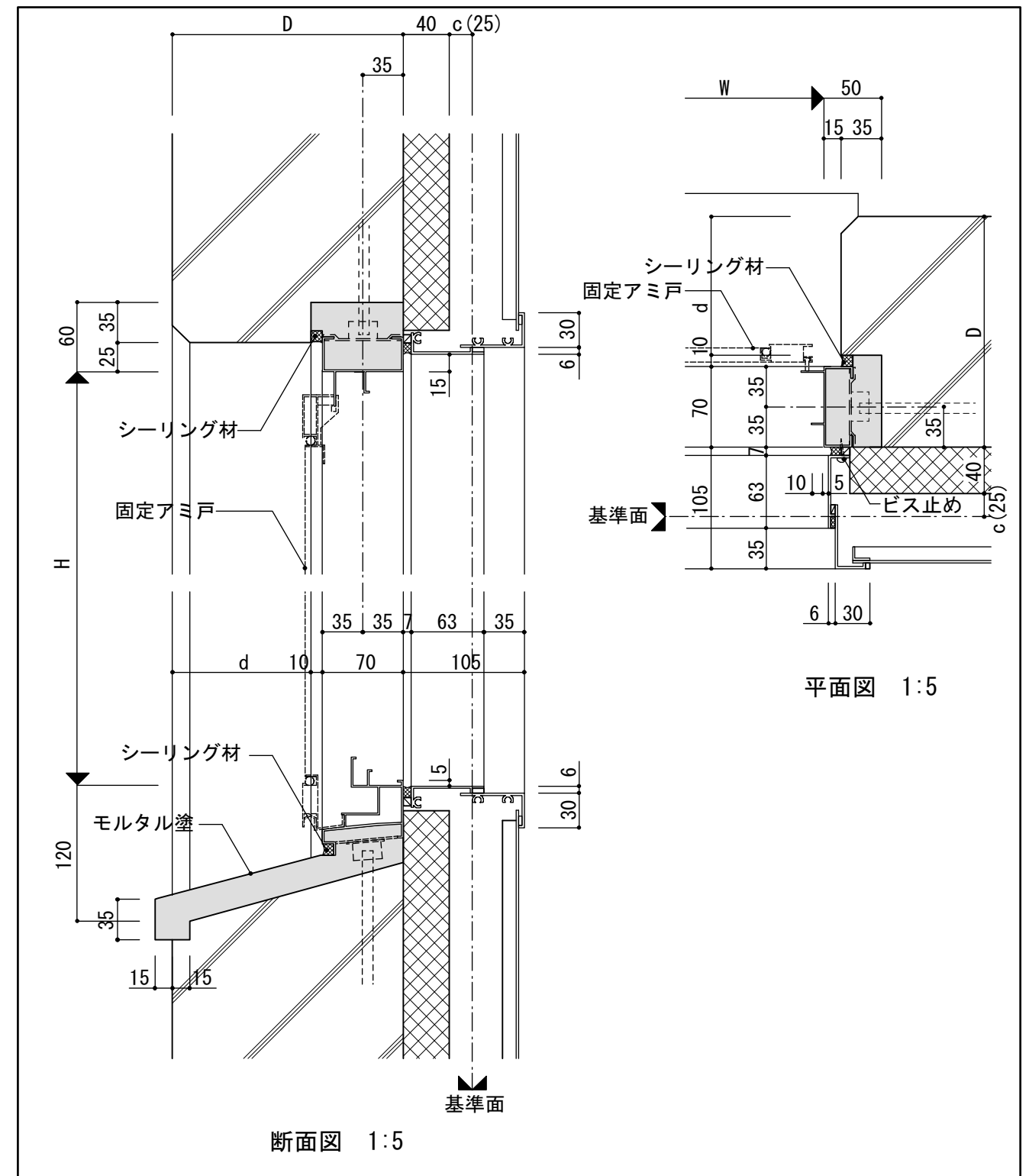
- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

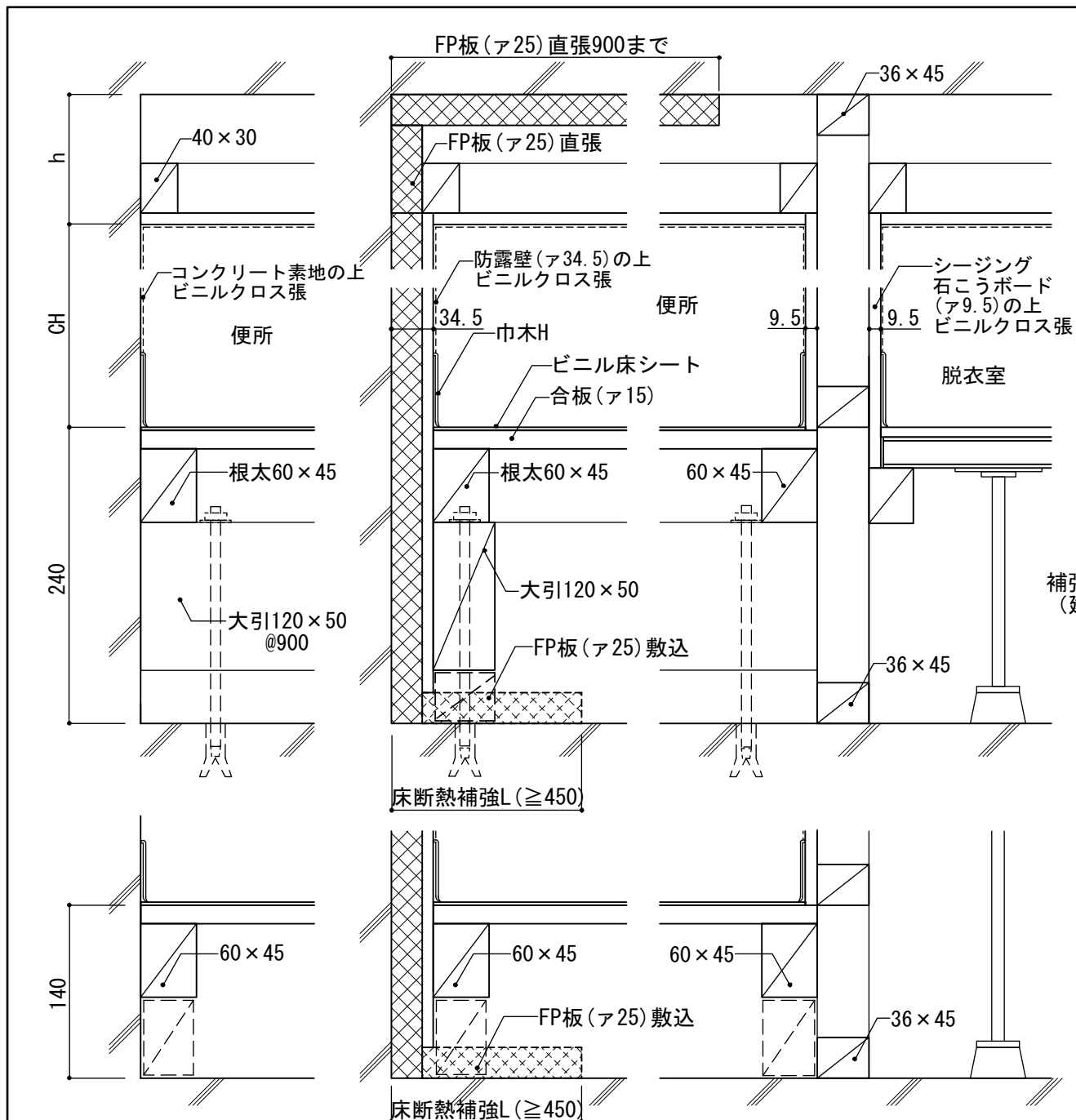
名称	浴室ユニット 出入口わく廻り-2		
縮尺	1:5	AI - 704	頁 I-76



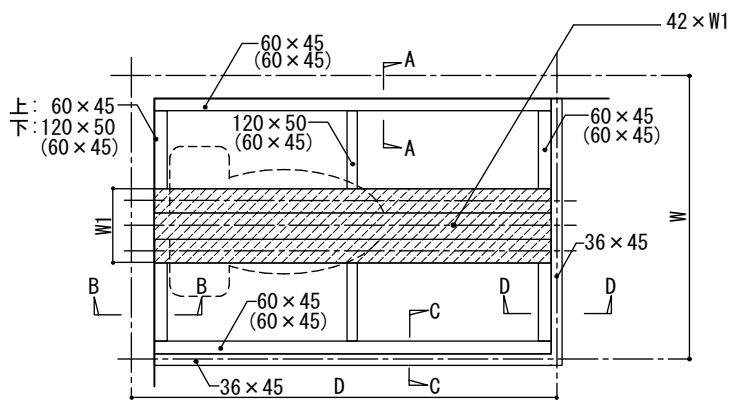
<b>【仕様】</b> ・窓廻り額縁(四周)はアルミ押し成型材とする。厚さ、形状はサッシメーカーの仕様による。		<b>【附記事項】</b> ・D、W、H、dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ ) ・アルミ製水切を使用する場合は AE-733 による。 ・外廊下、バルコニーに面さない場合で下図の開き寸法が $\geq 90$ mmの場合は腰高に関わらずFLから1200mmの高さに手すりを設置。	
<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 S. 61. 12. 1 ・第3版 H. 4. 12. 1 ・第4版 H. 8. 10. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称 浴室ユニット すべり出し窓わく廻り	縮尺 1 : 5 AI - 705 頁 I-77



<b>【仕様】</b> ・窓廻り額縁(四周)はアルミ押し成型材とする。厚さ、形状はサッシメーカーの仕様による。		<b>【附記事項】</b> ・D、W、H、dは建物設計図による。(但し、 $d \geq 60$ ) ・アルミ製水切を使用する場合は AE-734 による。 ・アミ戸の有無は建物設計図による。 ・直接雨がかりになる部分には使用しない。	
<b>【改訂事項(公団住宅)】</b>	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1	名称 浴室ユニット 内倒し窓わく廻り	縮尺 1 : 5 AI - 706 頁 I-78

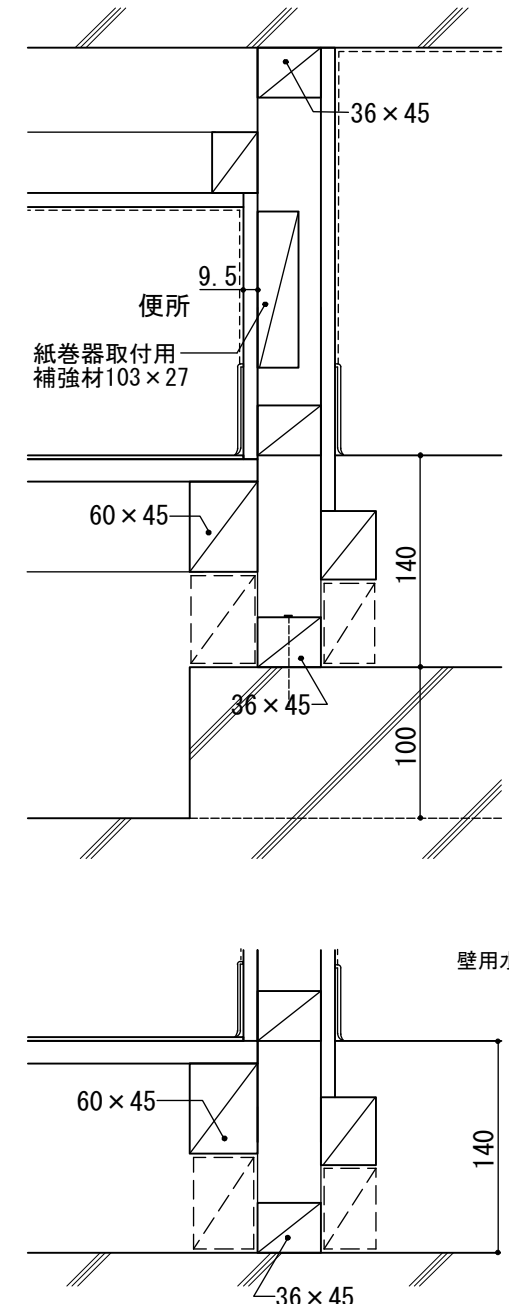


断面図 1:5  
 コンクリート壁廻り (A-A)      防露壁廻り (B-B)      木造壁廻り (C-C)

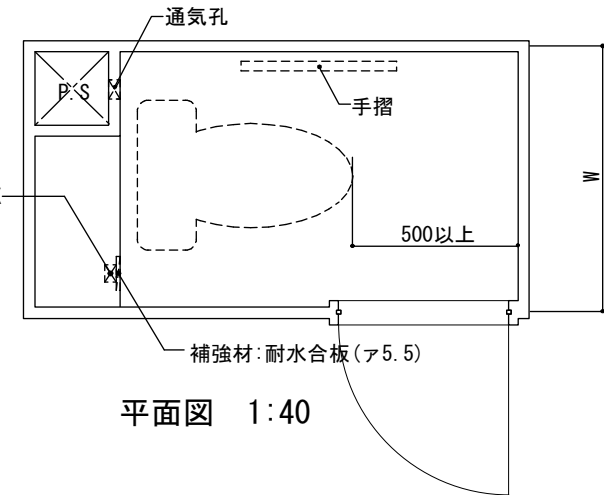
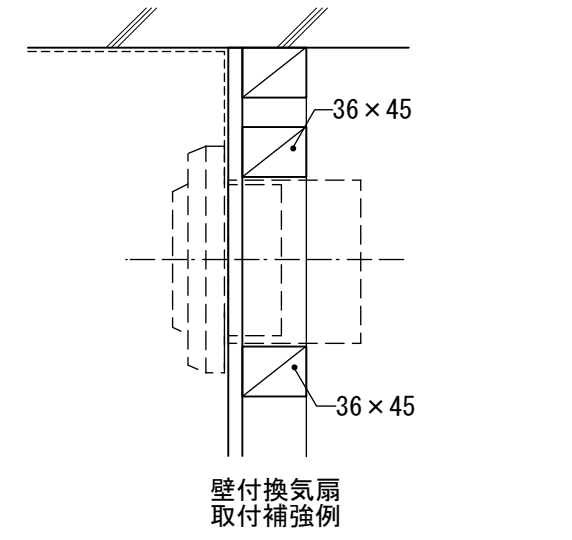


床伏図 ( )内寸法は床上り140の場合を示す

補強材 (耐水性)  
(建築工事)



断面図 1:5  
 木造壁廻り (D-D)



【仕様】

- ・最下階住戸の断熱はスラブ下にFP板(ア45)打込みとする。
- ・防露天井は AI-143 による。
- ・便所の防露壁はシージング石こうボード(ア9.5)を使用する。
- ・天井換気扇取付補強は AI-602 による。

【附記事項】

- ・W, D, CH, h, 巾木Hは建物設計図による。
- ・W1は便器選定段階で設備工事と調整を図ること。
- ・床断熱補強の有無及びLは建物設計図による。(必要範囲は AI-141-1~3 参照)
- ・紙巻器取付用補強材、換気扇取付用補強材、壁用水栓ボックス取付用補強材は建築工事とし、取付位置は設備図による。
- ・タオル掛及び通気孔の取付位置は建物設計図による。
- ・PSの位置は建物設計図による。

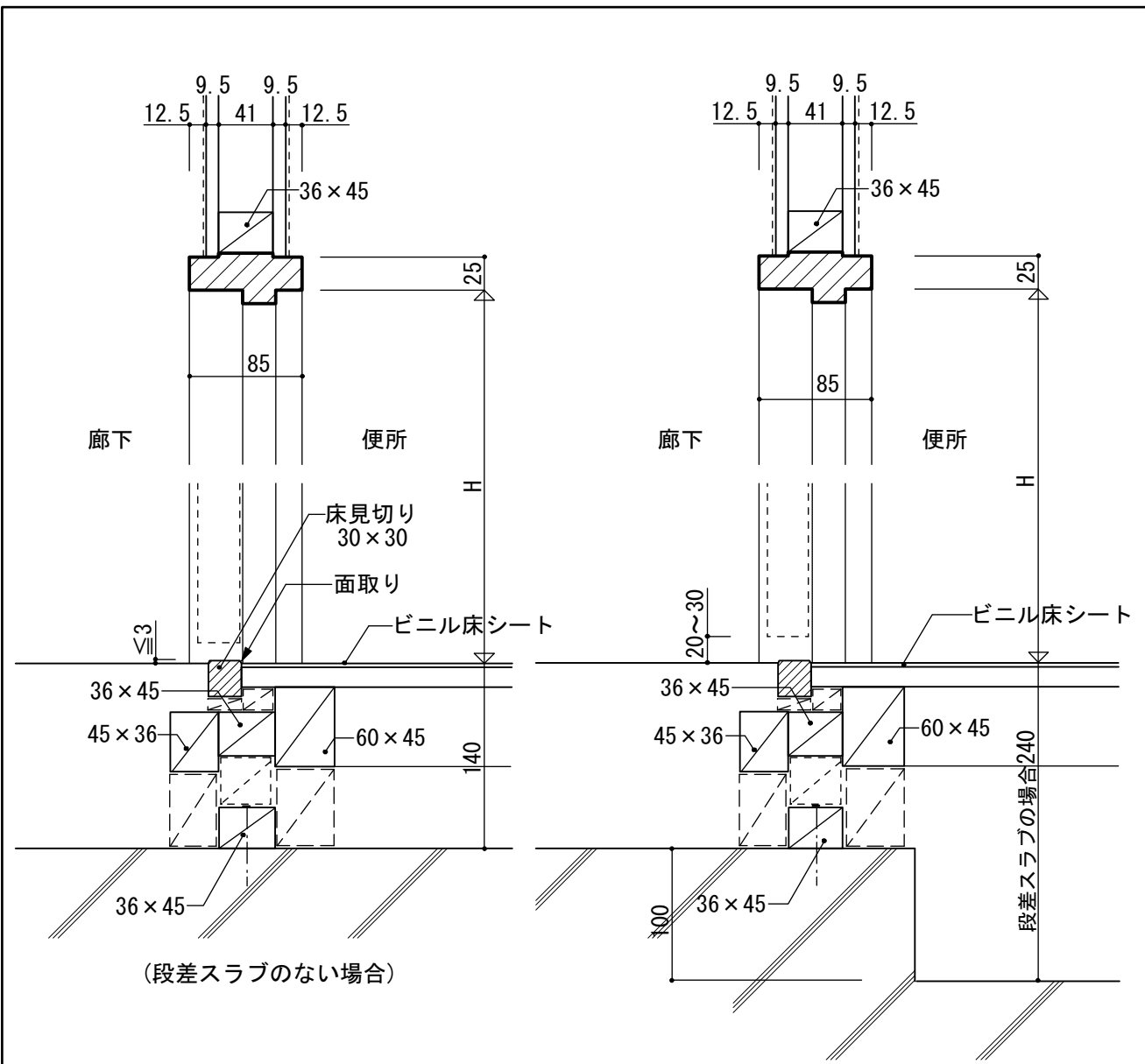
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第4版2刷 H. 10. 2. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1
- ・第5版(追) H. 16. 8. 1

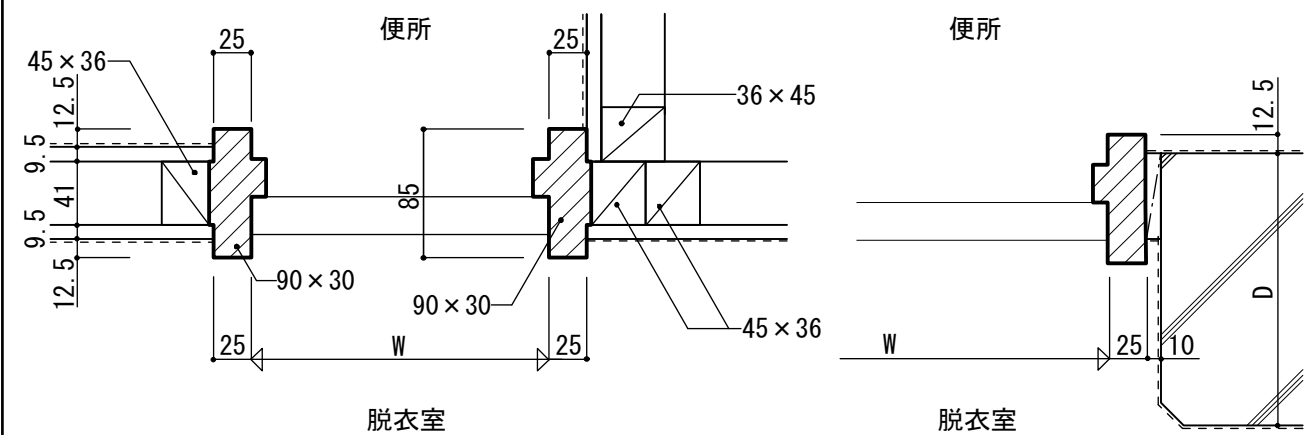
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

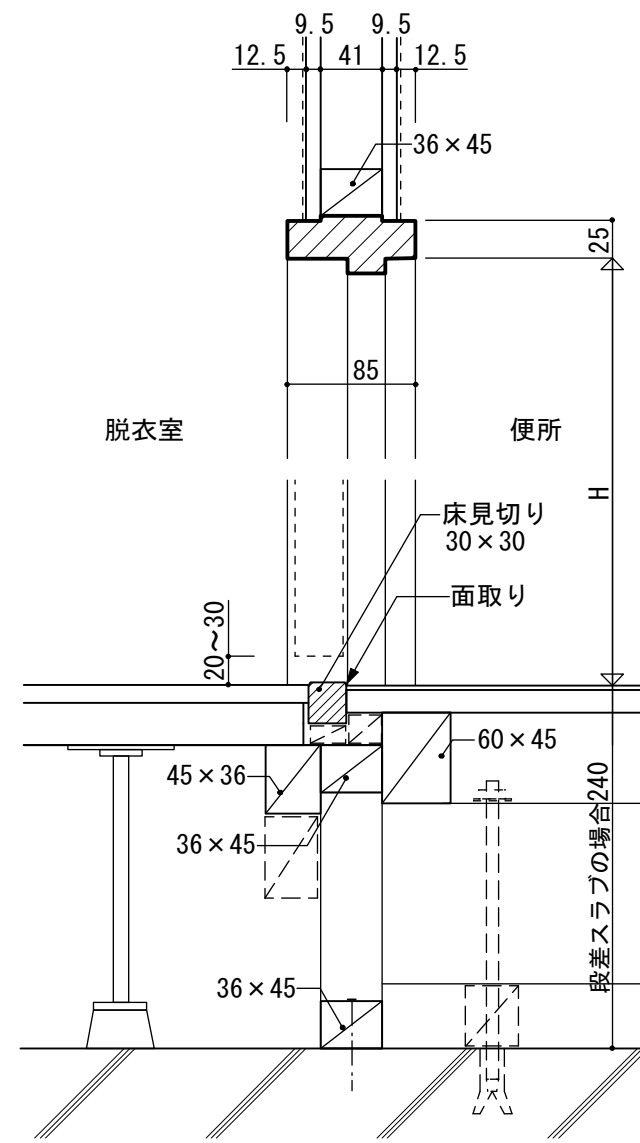
名称	便所廻り		頁
縮尺	1:5 1:40	AI - 801	I-79



断面図 1:5 (段差スラブ部分)



平面図 1:5



断面図 1:5 (段差スラブ内部の場合)

断面図 1:5

【仕様】

【附記事項】

・ W, H, Dは建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

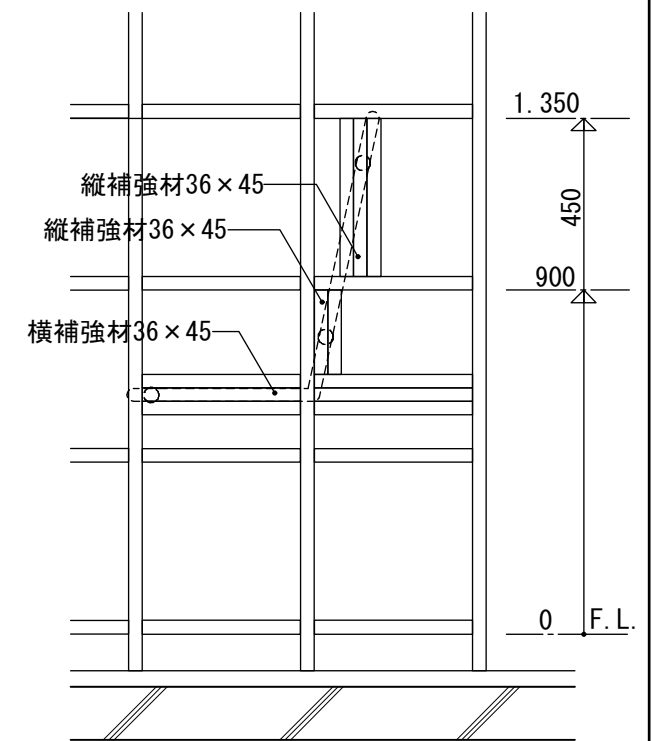
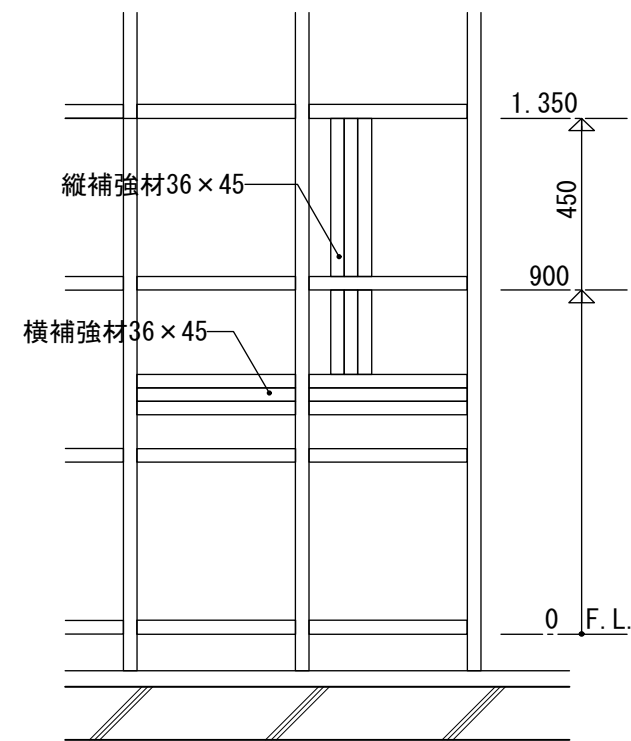
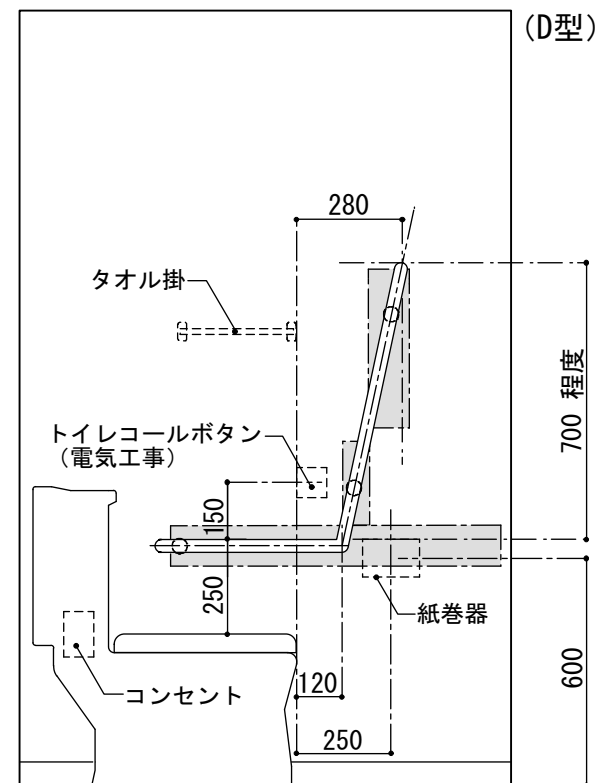
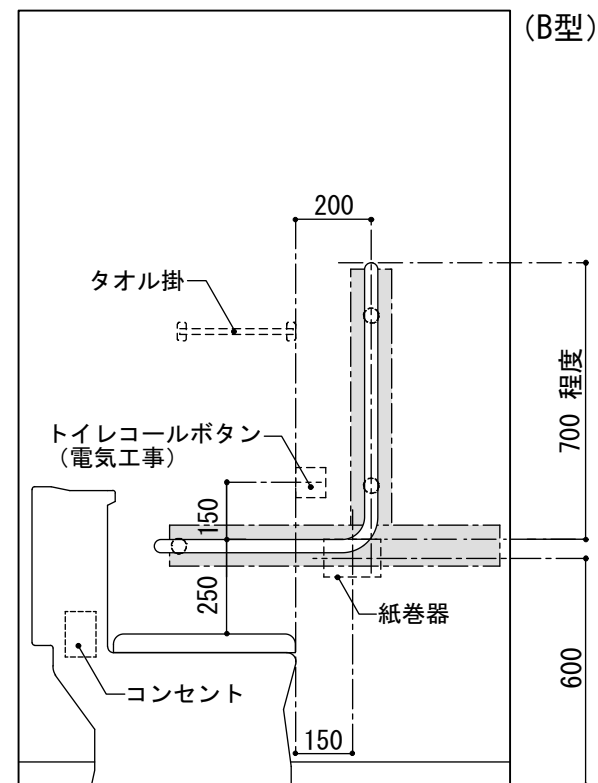
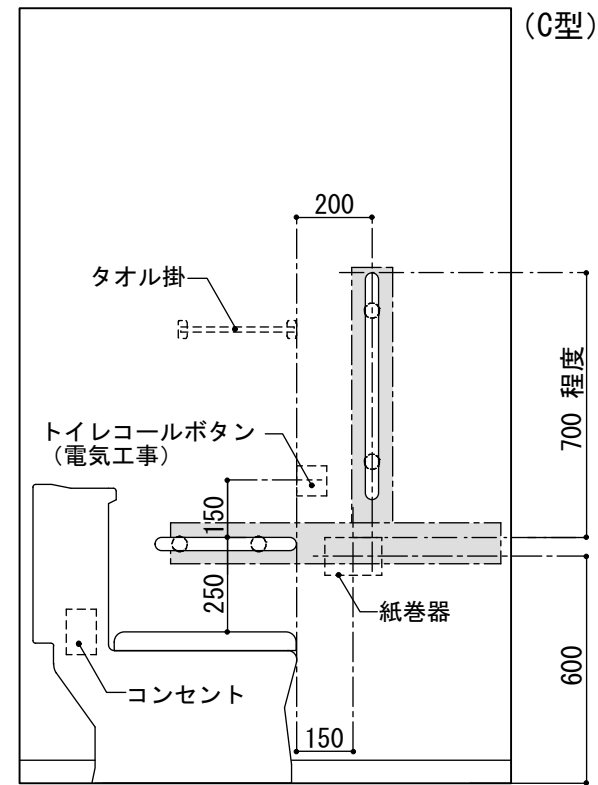
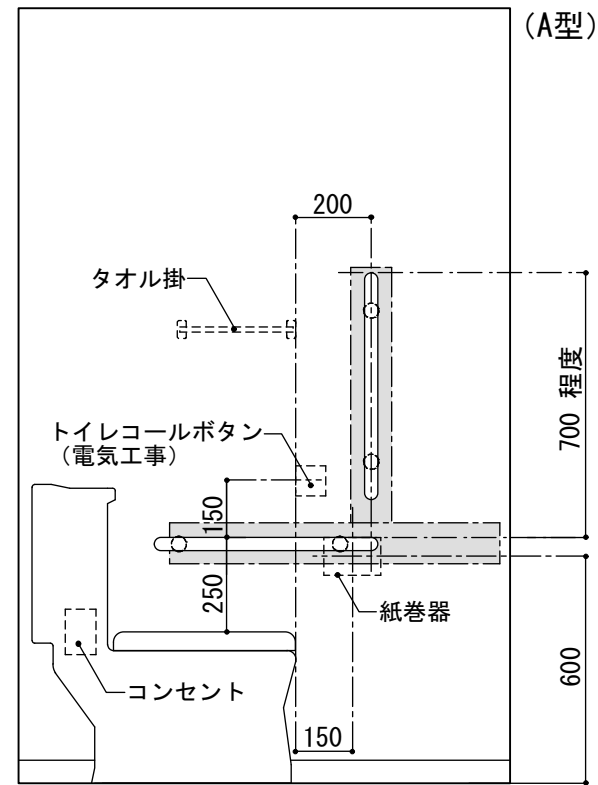
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	便所出入口わく廻り		
縮尺	1:5	AI - 802	頁 I-80

紙巻器が反対の壁に取付く場合

紙巻器が同じ壁に取付く場合

下地補強



A. B. C型下地姿図 1:20

D型下地姿図 1:20

【仕様】

- ・手摺の材質及び実装箇所は建物設計図による。
- ・ :手摺下地補強を示す。

【附記事項】

- ・手摺補強材の位置は建物設計図による。

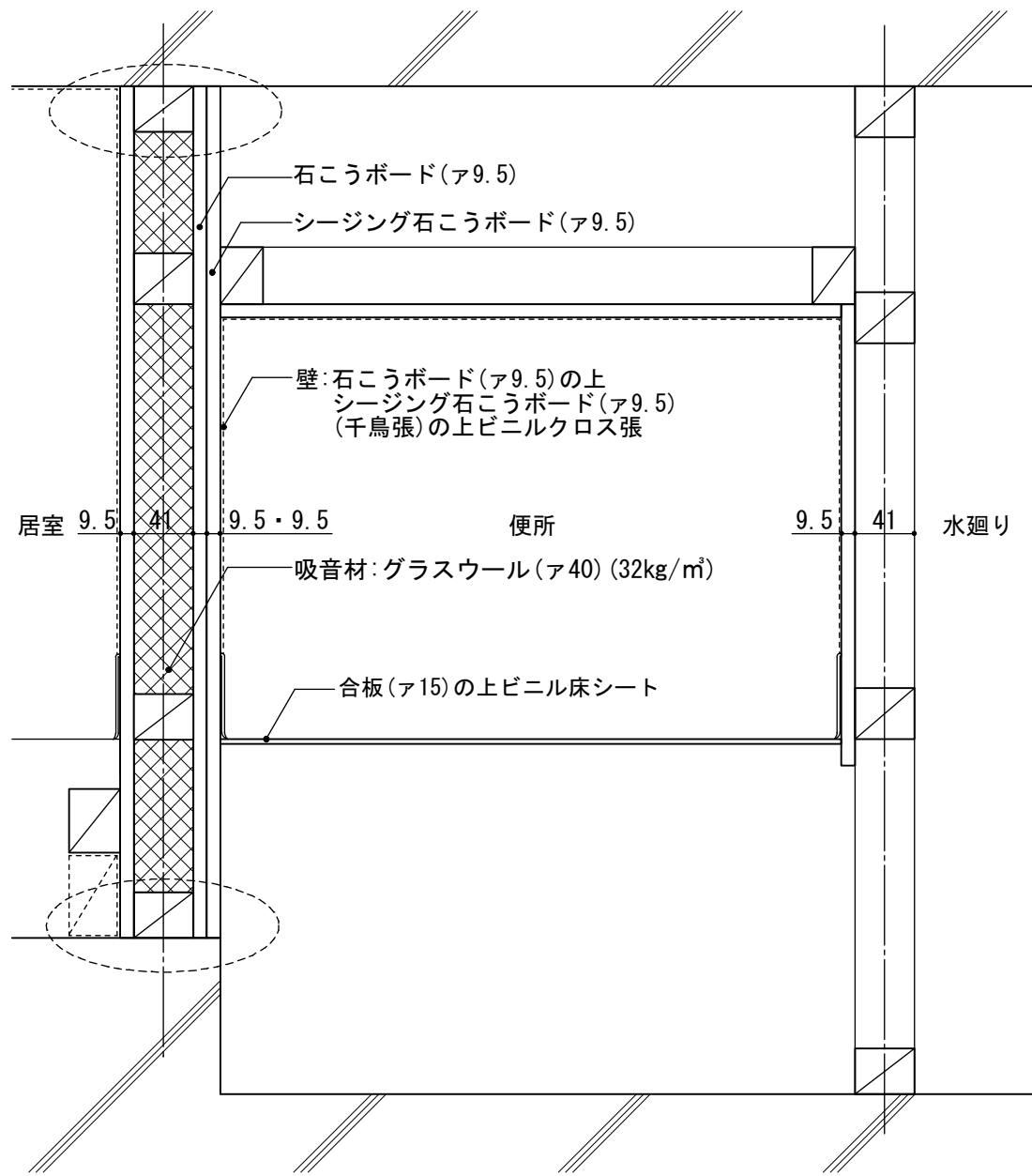
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

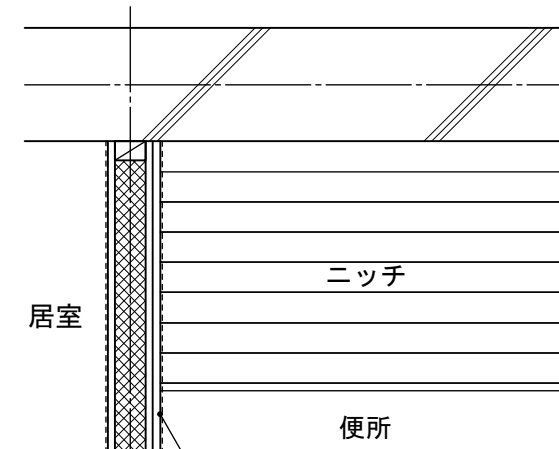
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	便所手摺		
縮尺	1 : 15 1 : 20	AI - 803	頁 I-81

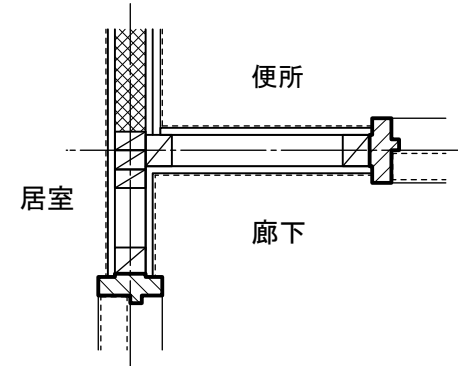


○ 部分の石こうボードはコンクリート面に密着させること。  
(天井部分も同様とする)

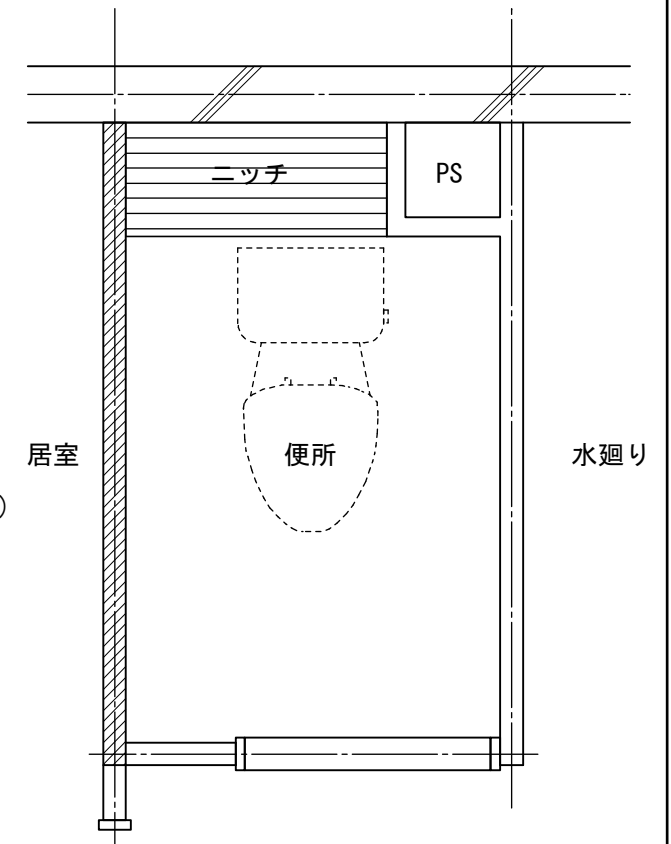
断面図 1:5



壁: 石こうボード(A9.5)の上  
シージング石こうボード(A9.5)  
(千鳥張)の上ビニルクロス張



平面図 1:10



▨ 遮音壁施工部分

平面図 1:20

【仕様】

- ・石こうボードの上シージング石こうボードの2枚張は、互いに継目が合わないよう、千鳥張とする。
- ・最下階住戸の断熱はスラブ下にFP板(A45)打込みとする。
- ・特記なき限り AI-801 による。

【附記事項】

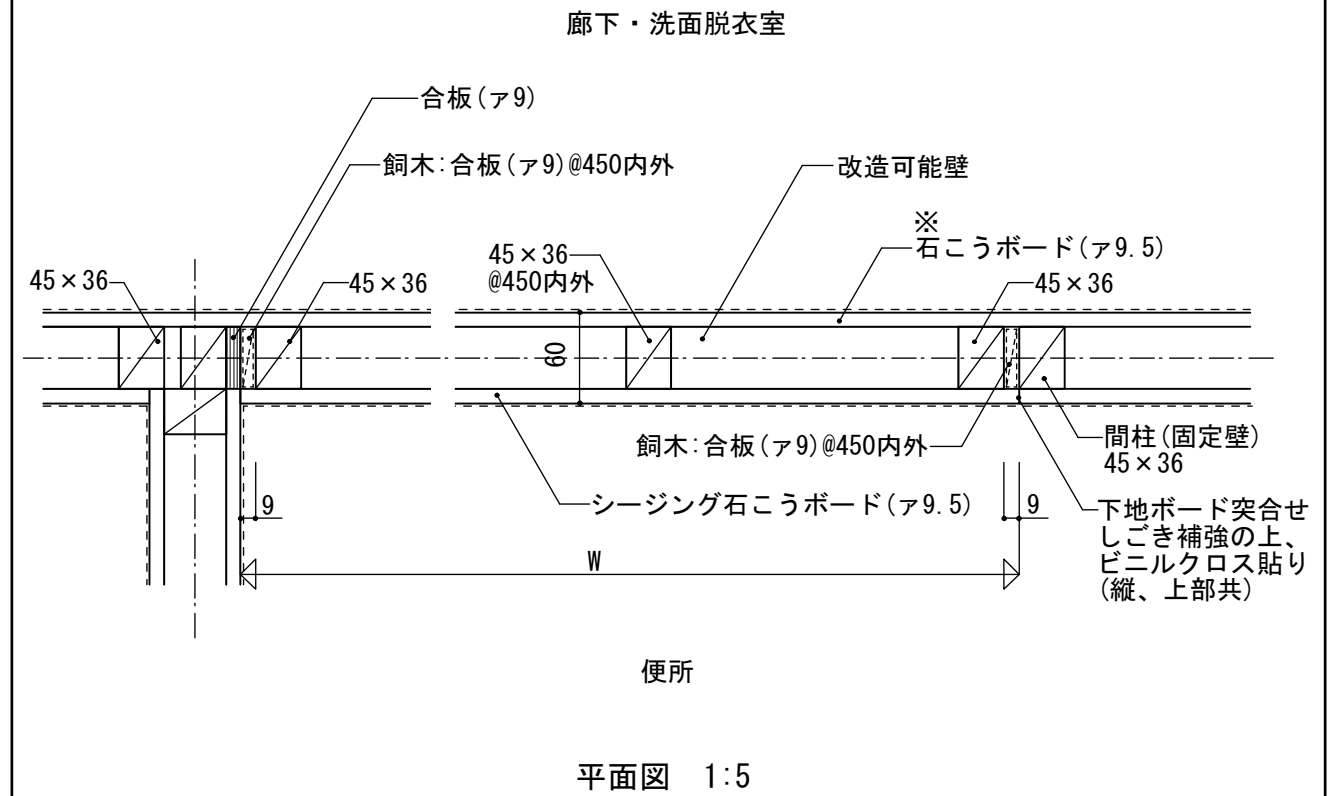
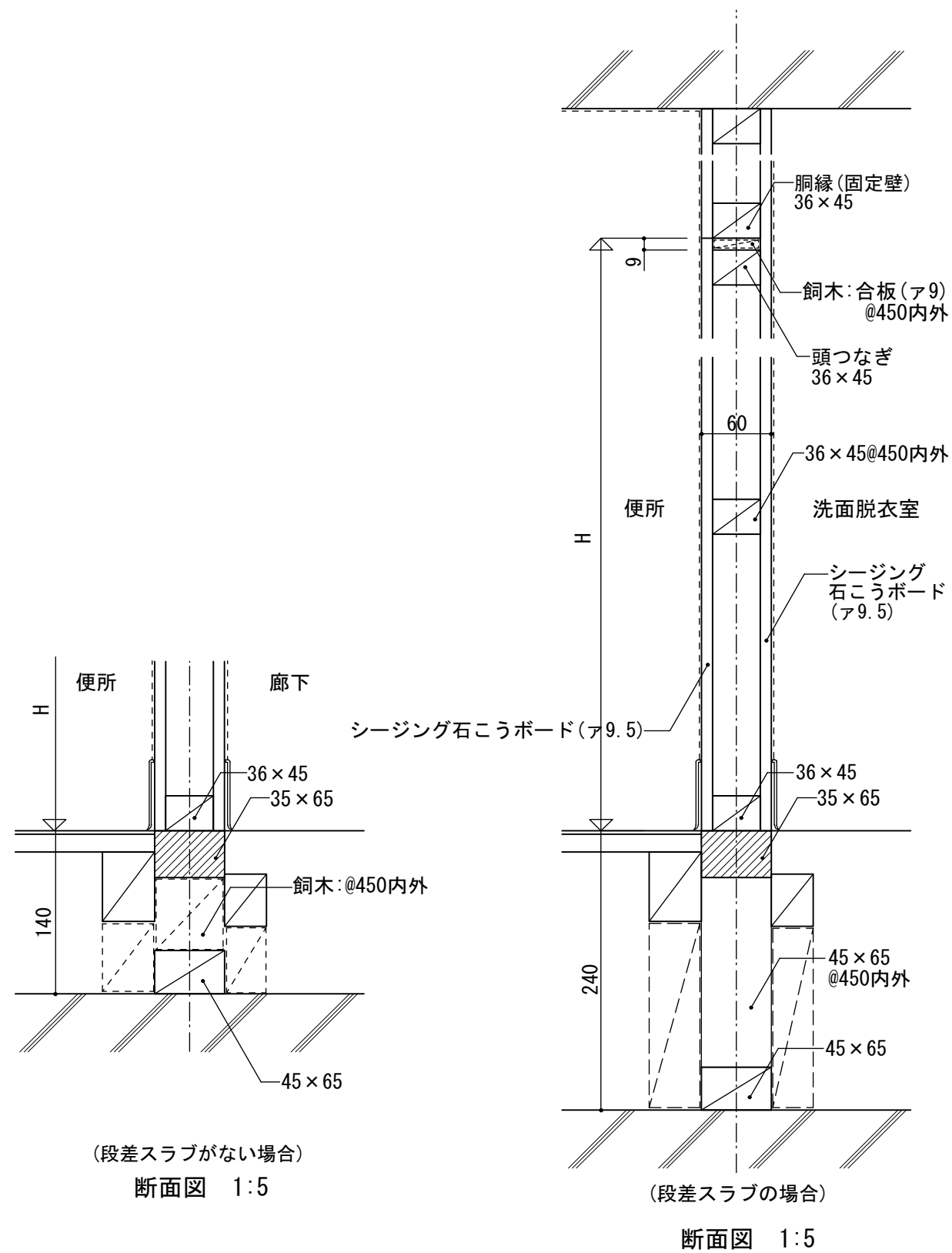
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1
- ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	便所遮音壁廻り		頁
縮尺	1 : 5 1 : 10 1 : 20	AI - 804	I-82



【仕様】

- ・※部分の石こうボードは洗面脱衣室の場合、シージング石こうボードを使用する。

【附記事項】

- ・W、Hは建物設計図による。
- ・飼木の目的  
改造する際、便所側の石こうボードを撤去し、飼木のスリットからカッター又は、千枚通し等で壁裏側まで貫通させ、裏側の石こうボードをカットする。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・第4版 H. 8. 10. 1
- ・第5版 H. 13. 11. 1

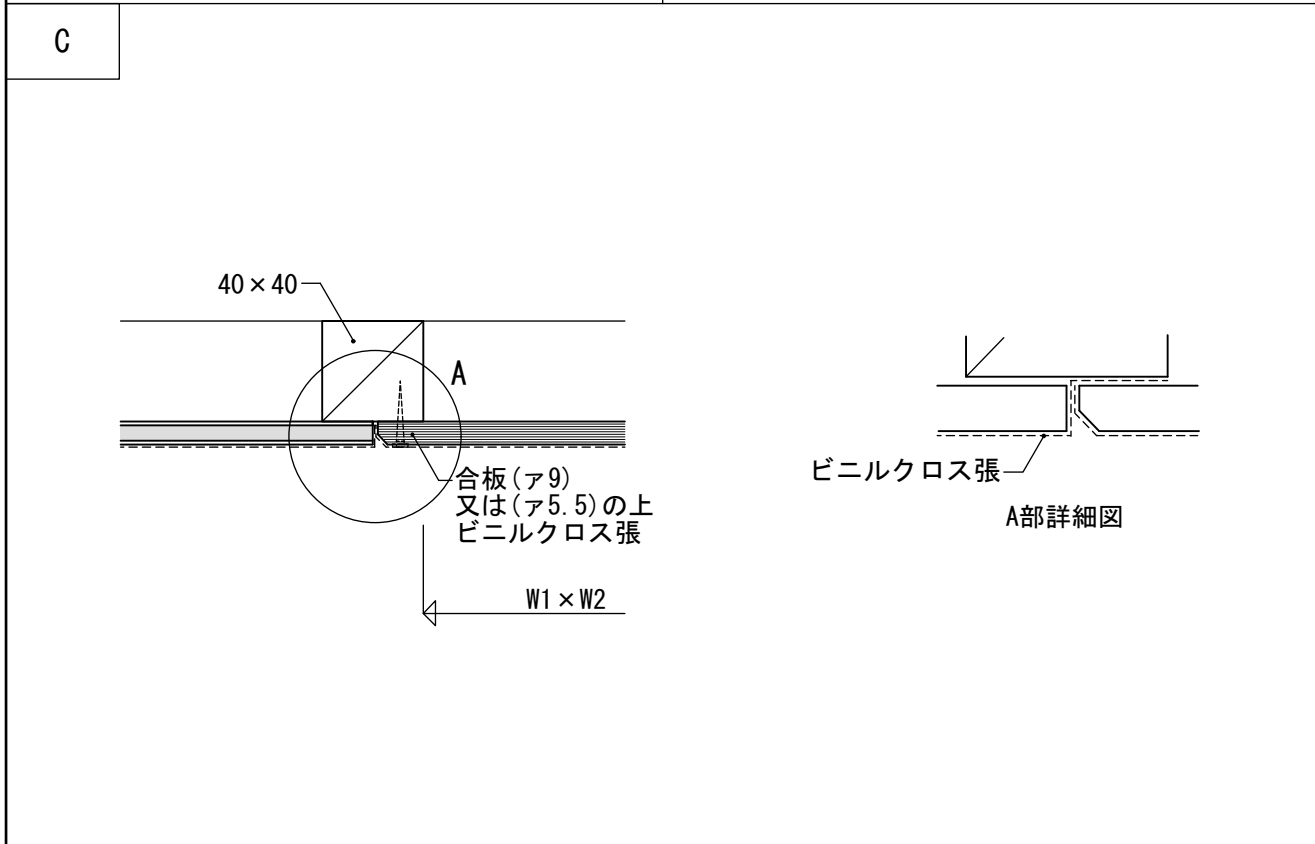
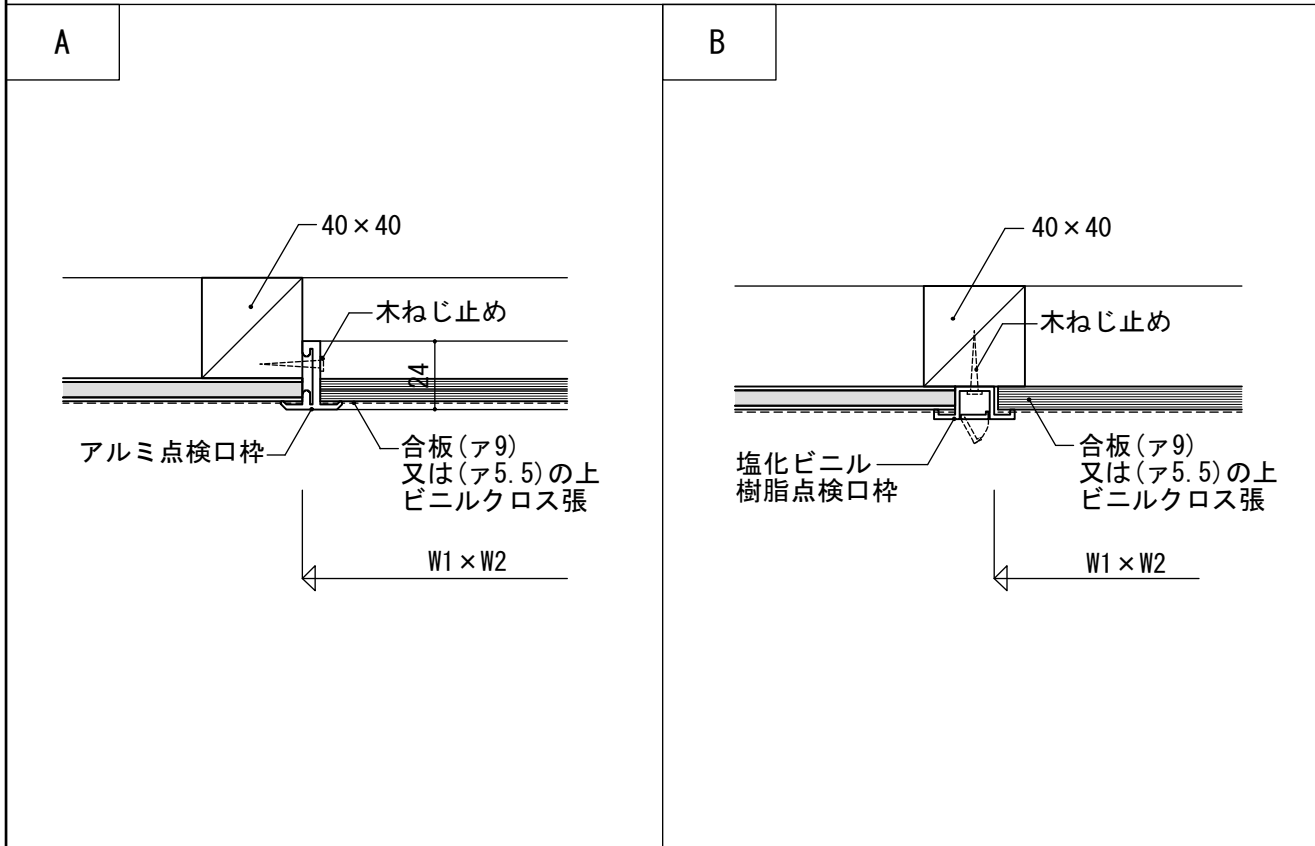
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	便所改造可能壁廻り		
縮尺	1:5	AI - 805	頁 I-83



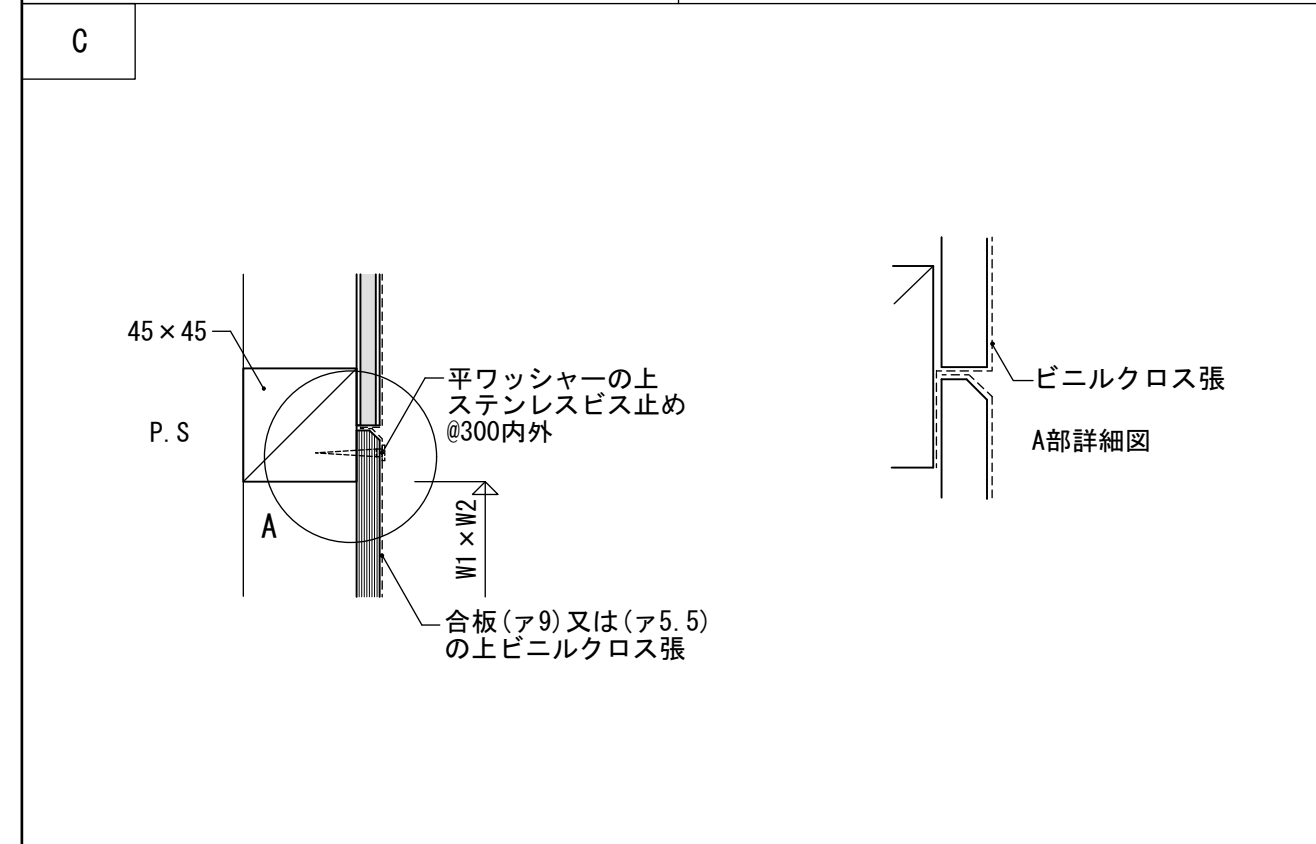
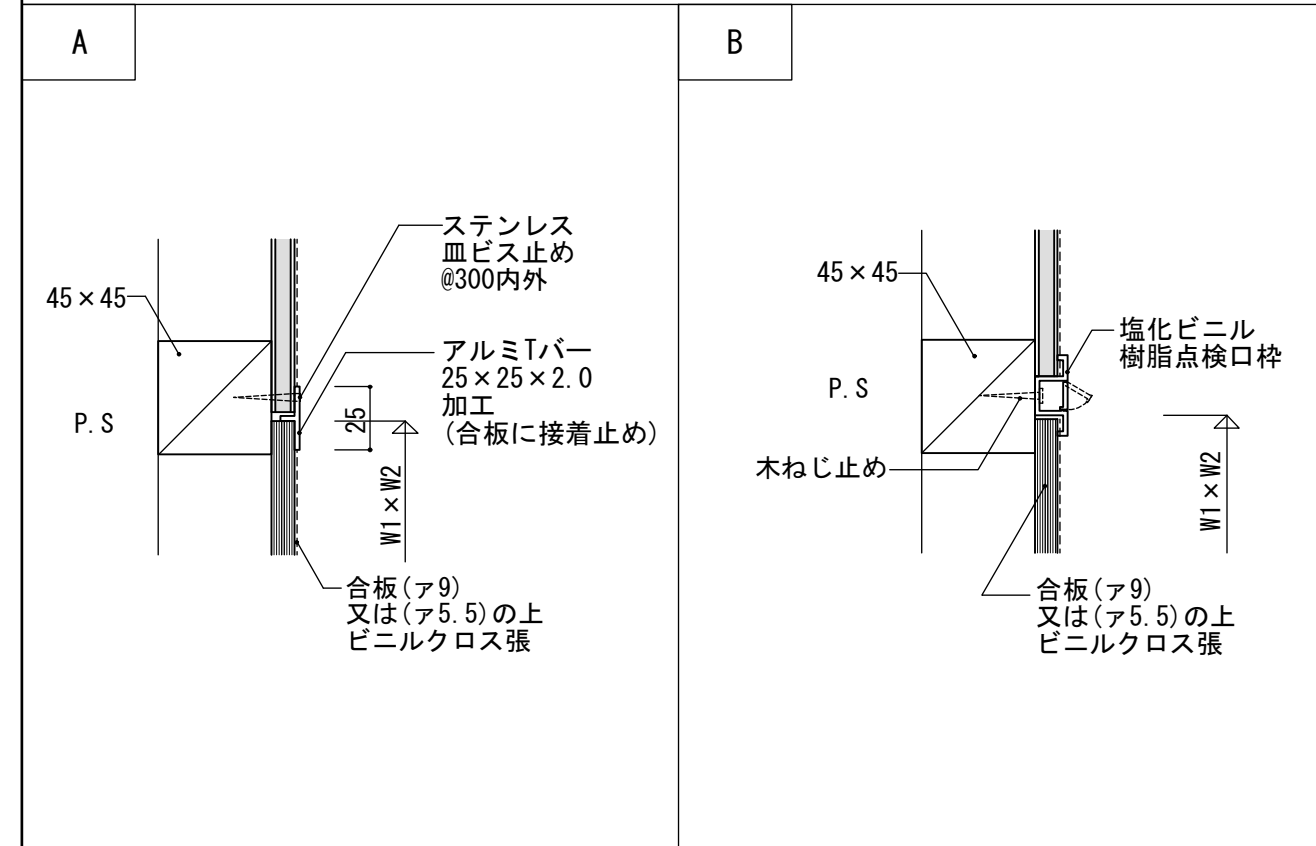
天井点検口



【仕様】  
・水廻りに使用する場合、合板は耐水合板とする。

【附記事項】  
・W1. W2は建物設計図に在る。

壁点検口

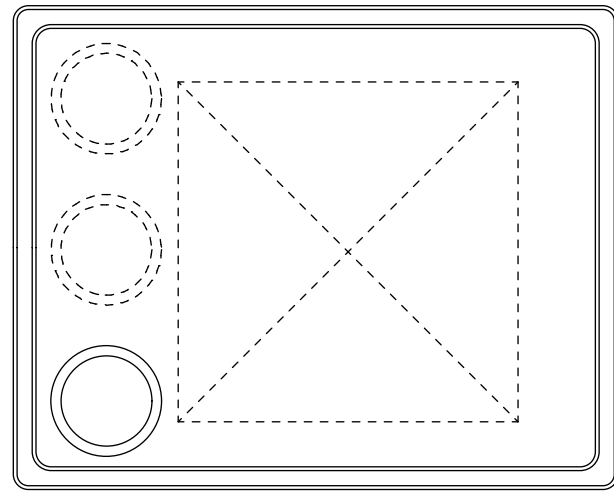


【改訂事項(公団住宅)】  
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1  
・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

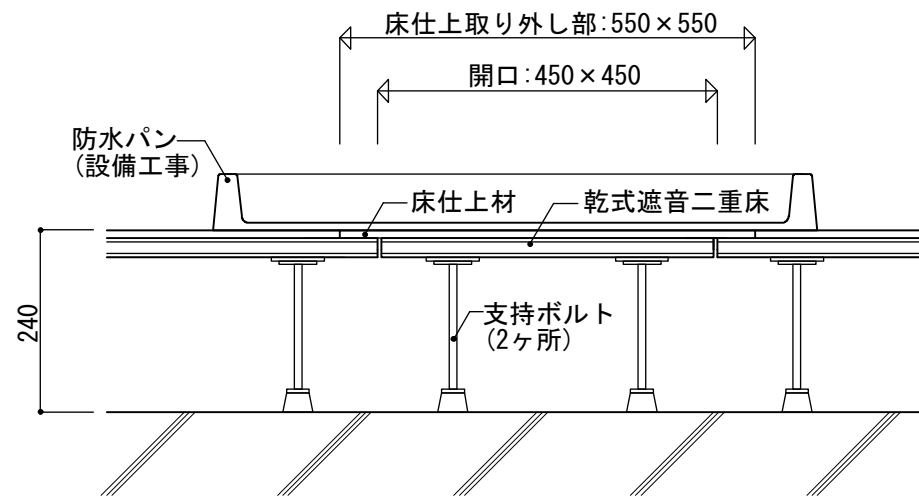
名称	壁・天井点検口 〔型式図〕		
縮尺	1 : 3	AI - 902	頁 I-85

A: 枠なし点検口 (洗濯機防水パン下に設ける)



開口: 450 × 450

平面図 1:10



断面図 1:10

【仕様】

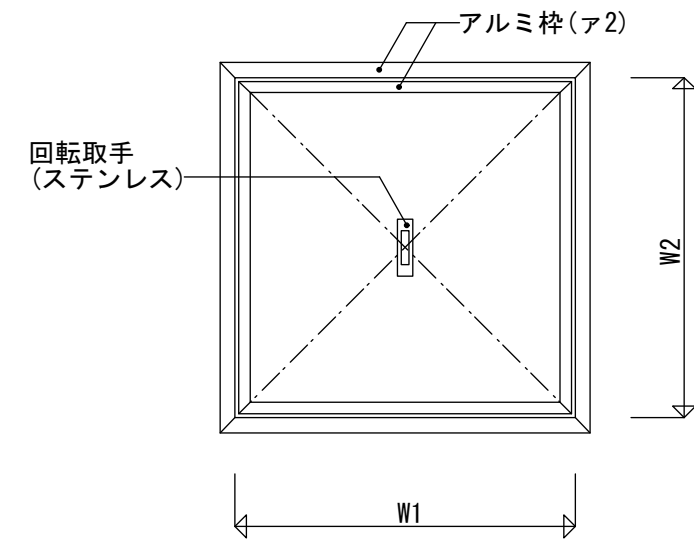
・アルミ枠はアルミニウム合金押出型材JIS H 4100でアルマイト処理(膜厚6ミクロン)をしたものとする。

・※外枠の固定は平ビス止め(ステンレス)又はパネ等で取り付けるものとする。

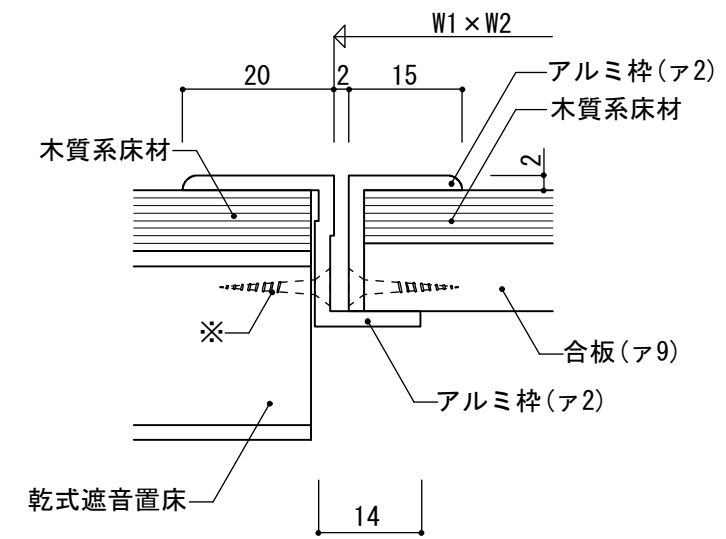
【附記事項】

・W1. W2は建物設計図による。

B: 枠付点検口〔型式図〕



平面図 1:10



断面図 1:1

【改訂事項(公団住宅)】

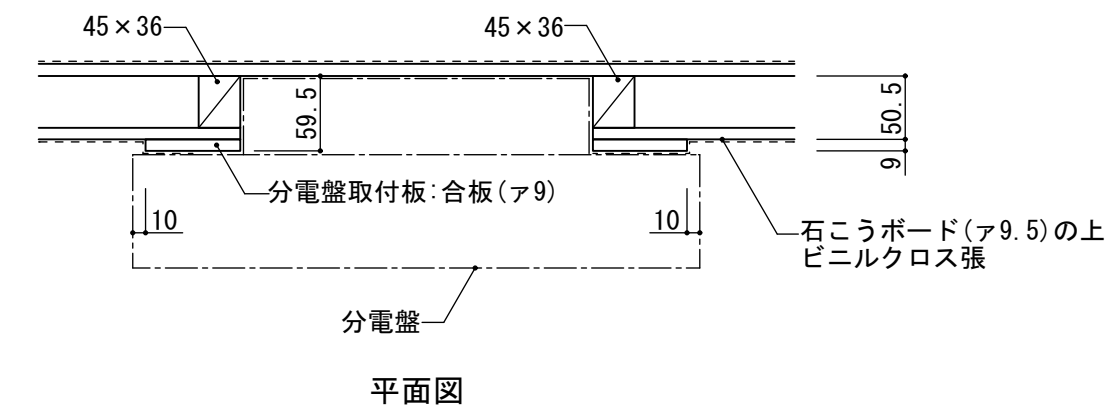
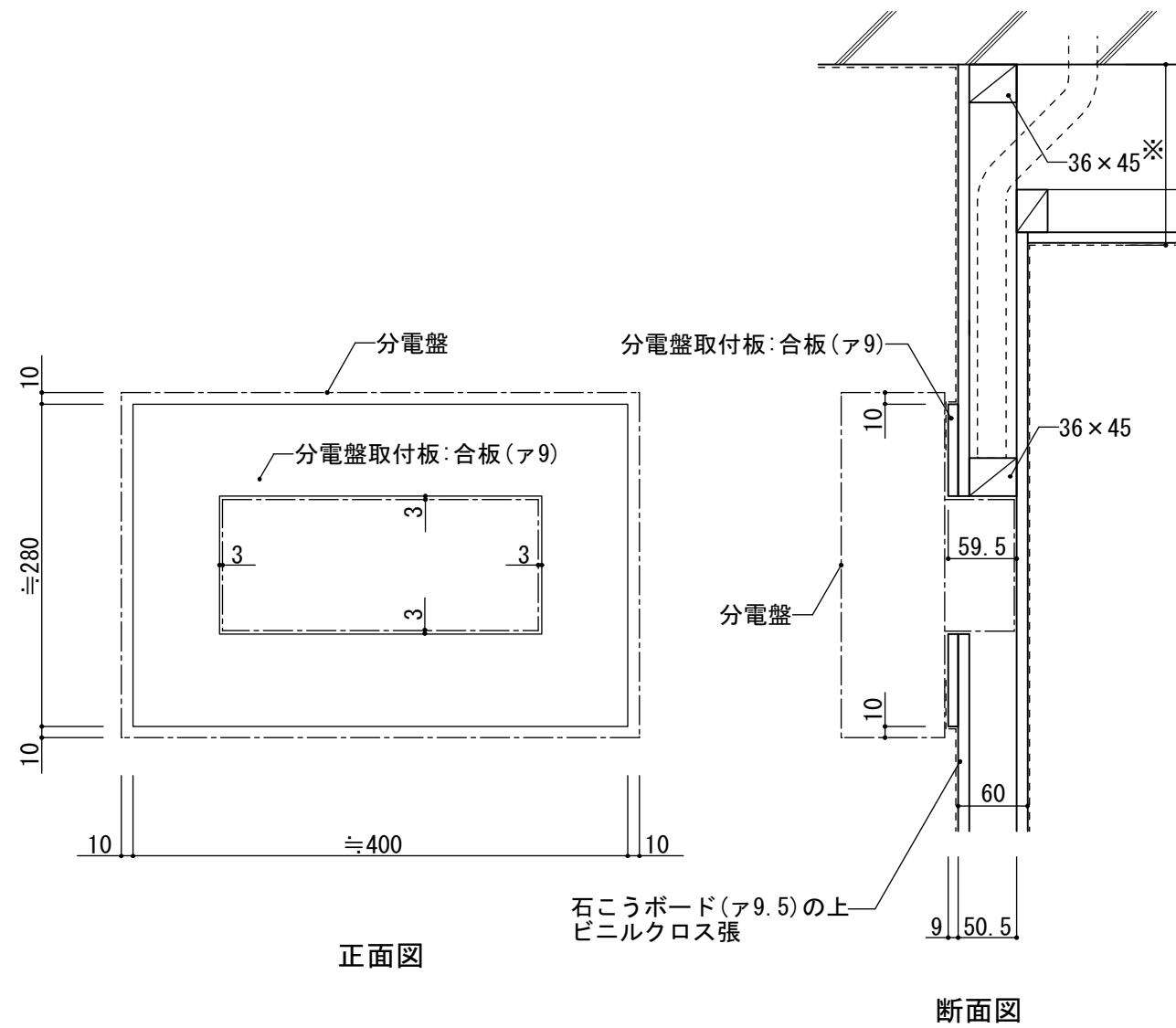
・第2版 S. 61. 12. 1  
・第3版 H. 4. 12. 1  
・第4版 H. 8. 10. 1  
・第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

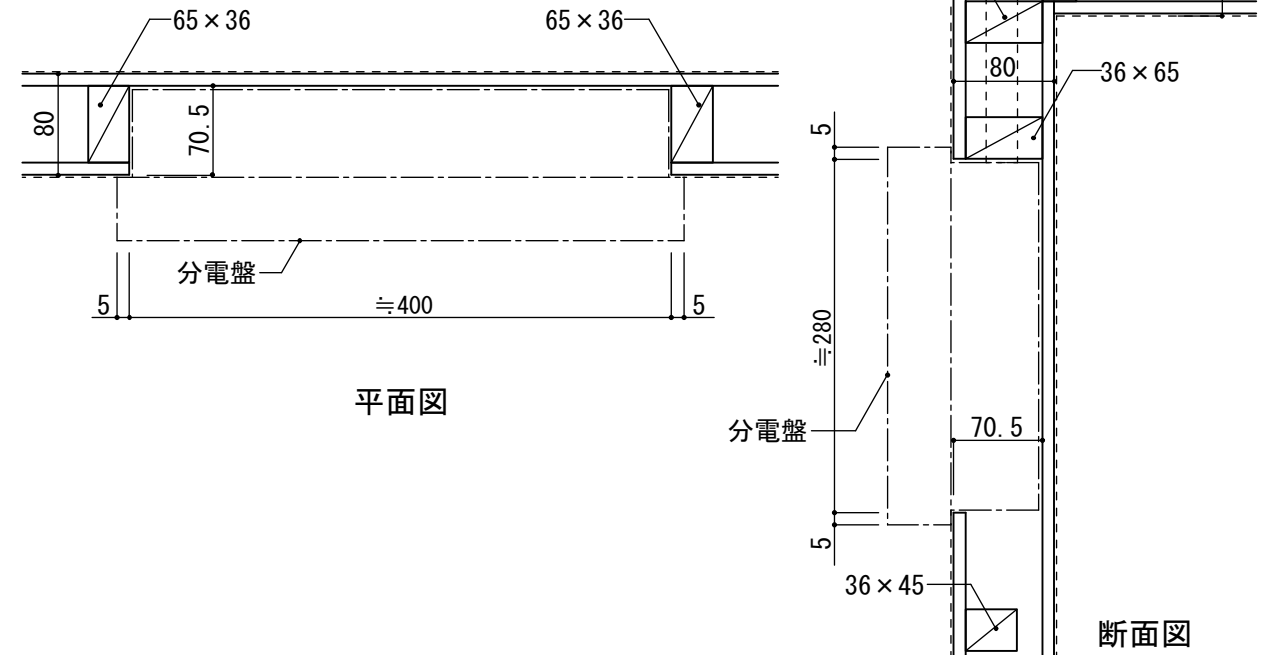
・第2版 H. 21. 12. 1

名称	床下点検口		
縮尺	1:1 1:10	AI - 903	頁 I-86

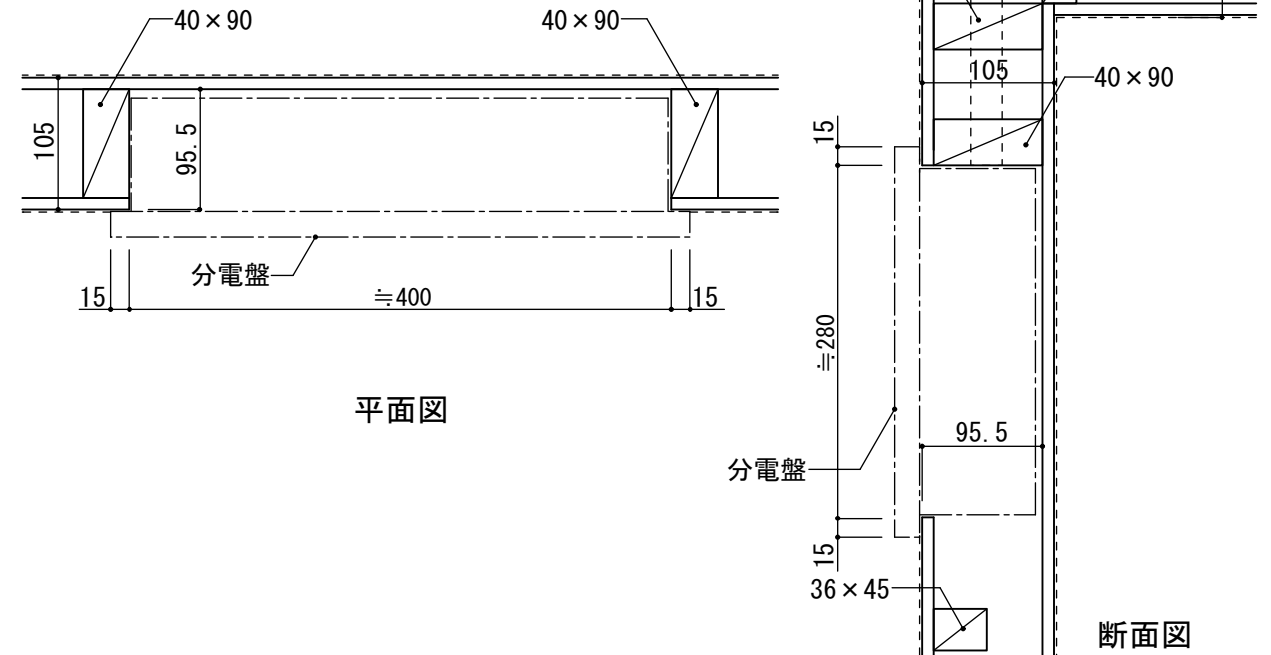
A: 露出型



B: 半埋込型 (樹脂製分電盤)



C: 埋込型 (鋼製分電盤)



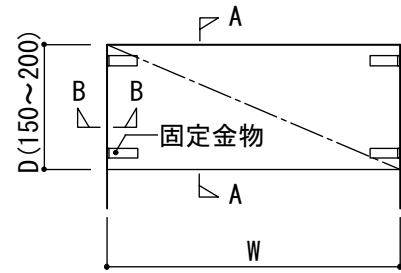
- 【仕様】
- ・露出型の分電盤取付板はクロス巻込み又はSOPとする。
  - ・分電盤は構造躯体に打ち込まないものとする。

- 【附記事項】
- ・分電盤取付板の寸法は標準寸法(≒400×≒280)を示し、実寸法は機種選定後係員の指示により決定する。
  - ・分電盤取付補強材は建築工事とし、取付位置は設備図による。
  - ・※寸法は建物設計図による。

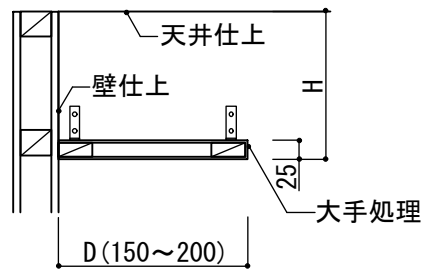
- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・第2版 S. 61. 12. 1
  - ・第4版 H. 8. 10. 1
- 【改訂事項(機構住宅)】
- ・第2版 H. 21. 12. 1
  - ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	分電盤取付補強		
縮尺	1 : 5	AI - 904	頁 I-87

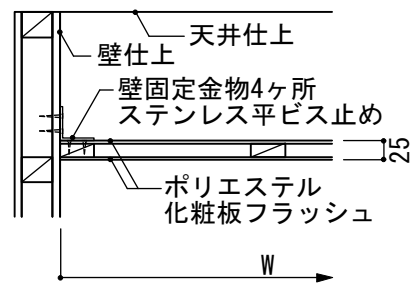
A: 吊棚



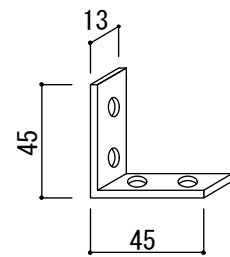
平面図 1:10



A-A 断面図 1:10

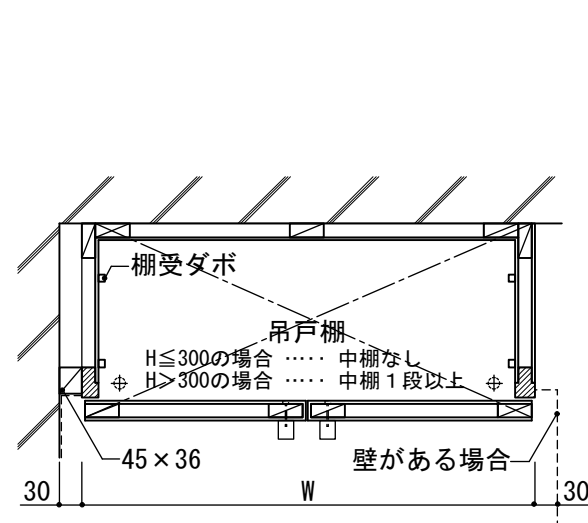


B-B 断面図 1:10

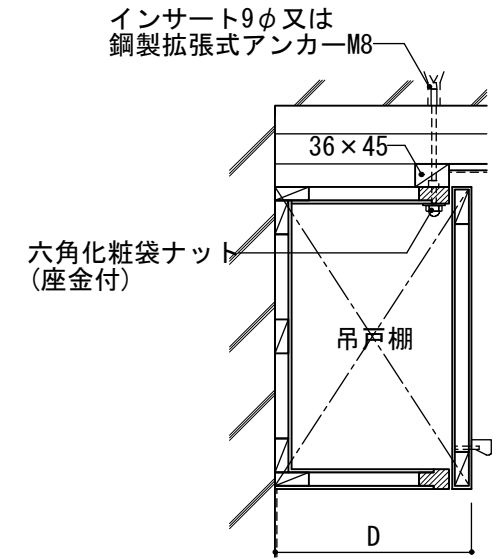


壁固定金物  
ステンレスSUS304(ア3)

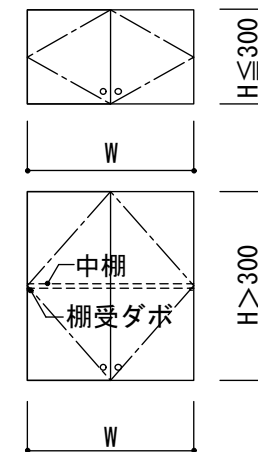
B: 吊戸棚



平面図 1:10



断面図 1:10



姿図

【仕様】

- 吊戸棚はキッチンキャビネットの仕様に準ずる。
- 吊戸棚取付用木材の見え掛り部はSOPとする。
- 丁番はスライド丁番4ヶ所とする。
- 引手は丸型ツマミ2ヶ所とする。
- 棚受ダボはステンレス製φ9とする。
- 六角化粧袋ナット、座金ともステンレス製とする。
- 吊戸棚は扉キャッチ機構付とする。
- 吊戸棚の取付は AI-515 による。

【附記事項】

- W, H, Dは建物設計図による。
- 中棚の有無及び段数は建物設計図による。
- 梁等に扉があたる場合は梁面にゴム製戸当りを取付ける。

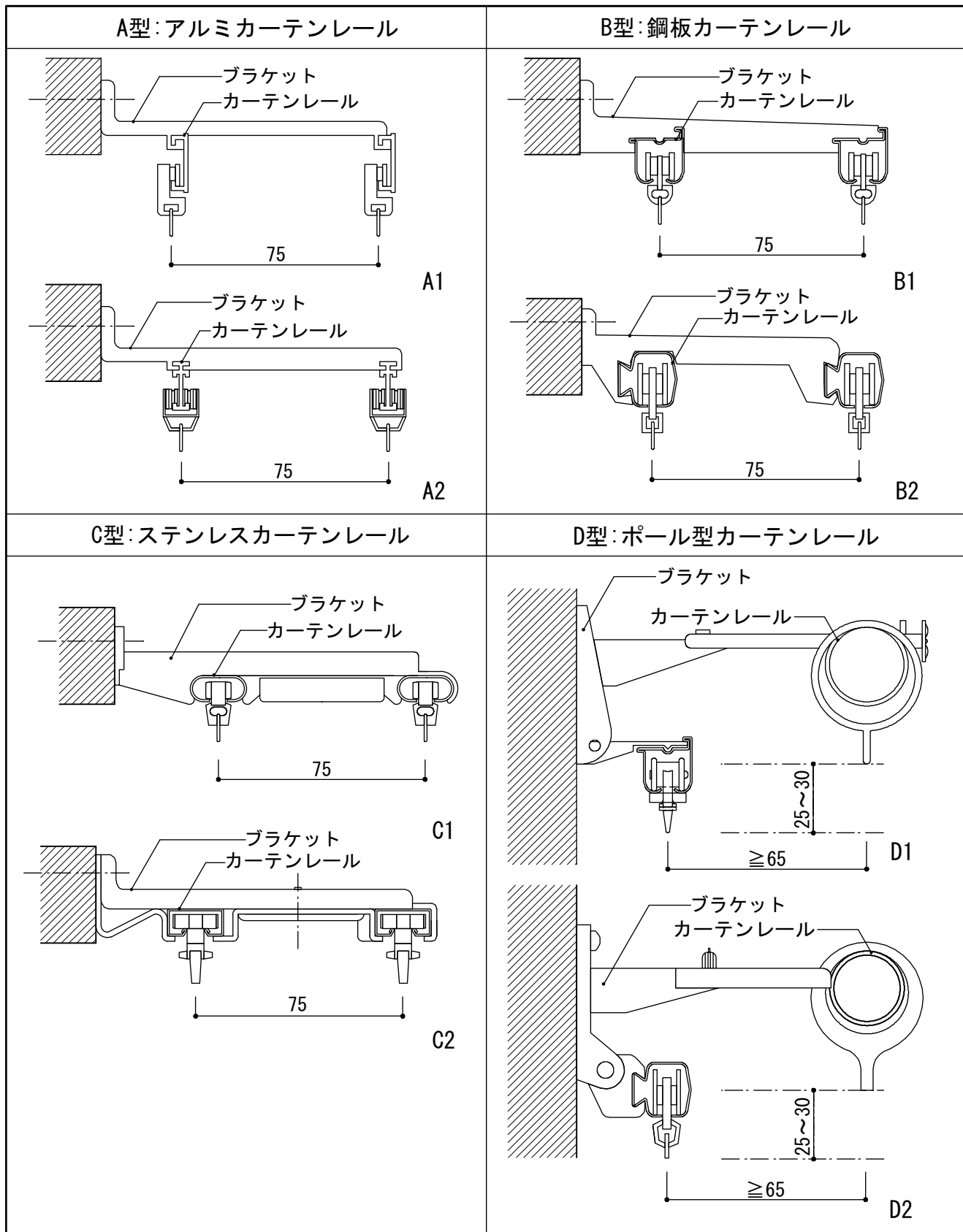
【改訂事項(公団住宅)】

- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

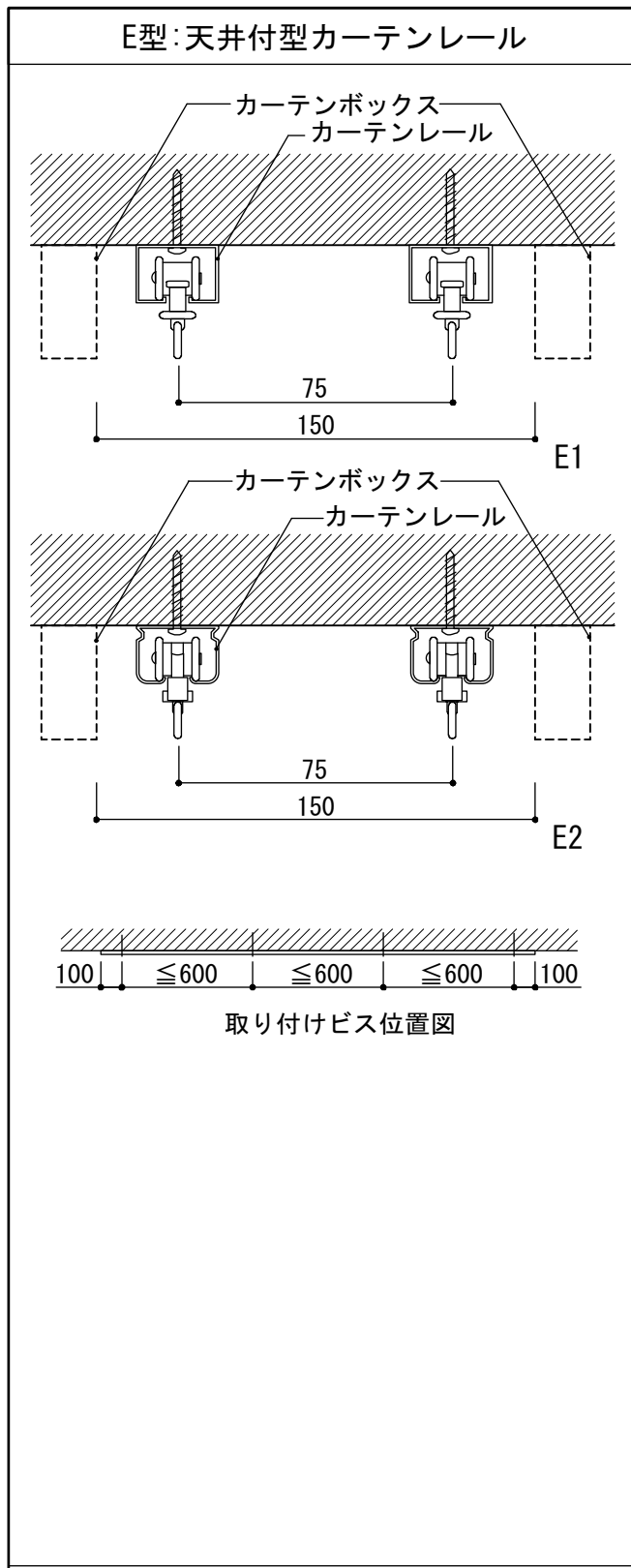
- 第2版 H. 21. 12. 1
- 第2版3刷 H. 31. 4. 1

名称	吊棚・吊戸棚		
縮尺	1:10	AI-905	頁 I-88



**【仕様】**

- ・A型: アルミカーテンレール  
材質: アルミニウム  
仕上: アルマイト仕上又は電気着色仕上
- ・B型: 鋼板カーテンレール  
材質: 鋼板  
仕上: オレフィン系樹脂皮膜
- ・C型: ステンレスカーテンレール  
材質: ステンレス  
仕上: ヘアライン仕上
- ・D型: ポール型カーテンレール  
材質: 鋼管φ25以上  
仕上: オレフィン系樹脂皮膜  
ブラケット取付間隔はメーカー仕様とする。
- ・E型: 天井付型カーテンレール  
材質: 鋼板、アルミニウム  
仕上: オレフィン系樹脂皮膜
- ・F型: 静音型ボックス付カーテンレール  
材質(レール): 鋼板、アルミニウム  
材質(ボックス): オレフィン系樹脂皮膜
- ・A, B, C, F(正面付)のブラケットの材質はメーカー仕様とし、取付間隔は450mm以下とする。
- ・A~C, EとDのレース用ランナーはキャスター付メーカー仕様による。但し、数量は間隔100以下で偶数個とする。(マグネットランナーS=1組、W=2組付)
- ・カーテンレールの取付ネジはステンレス製とする。
- ・A1型でブロンズ色を用いる場合ランナーも同色とする。

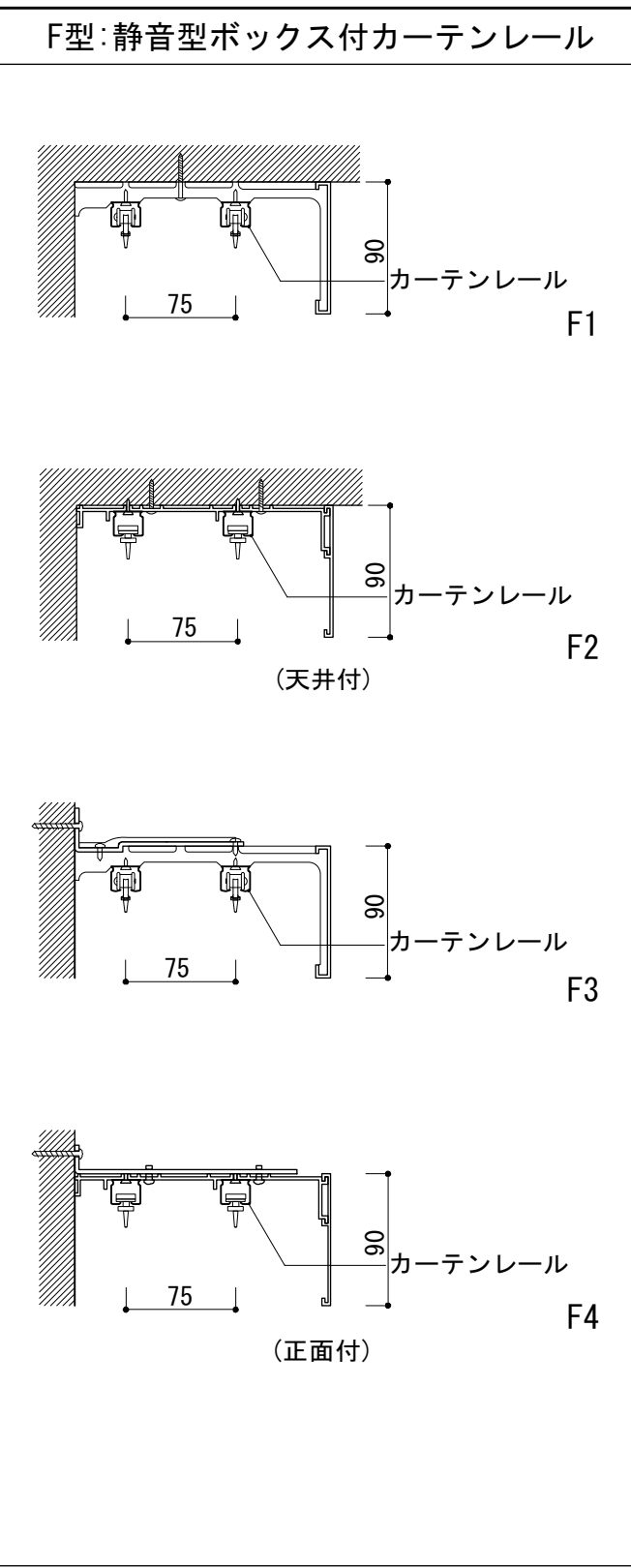


**【附記事項】**

- ・カーテンレールの長さは100+W(サッシ寸法)+100を標準とする。但し、ポール型カーテンレールの長さはAI-913による。
- ・台所のコンロ台わきでは離隔距離を確認する。

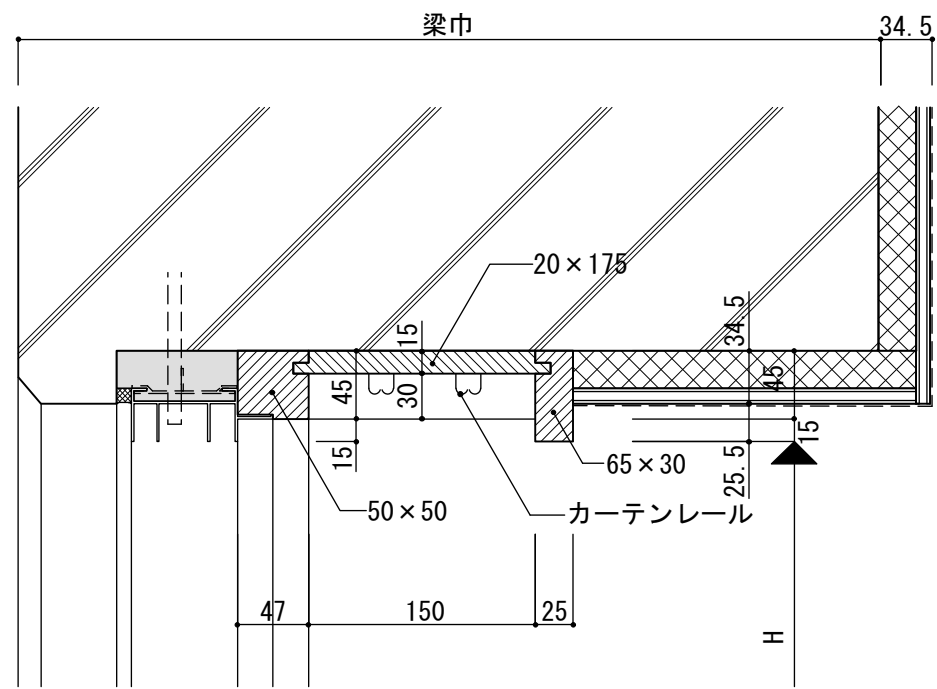
**【改訂事項(公団住宅)】**  
 ・第2版 S. 61. 12. 1  
 ・第3版 H. 4. 12. 1  
 ・第4版 H. 8. 10. 1

**【改訂事項(機構住宅)】**  
 ・第2版 H. 21. 12. 1  
 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1

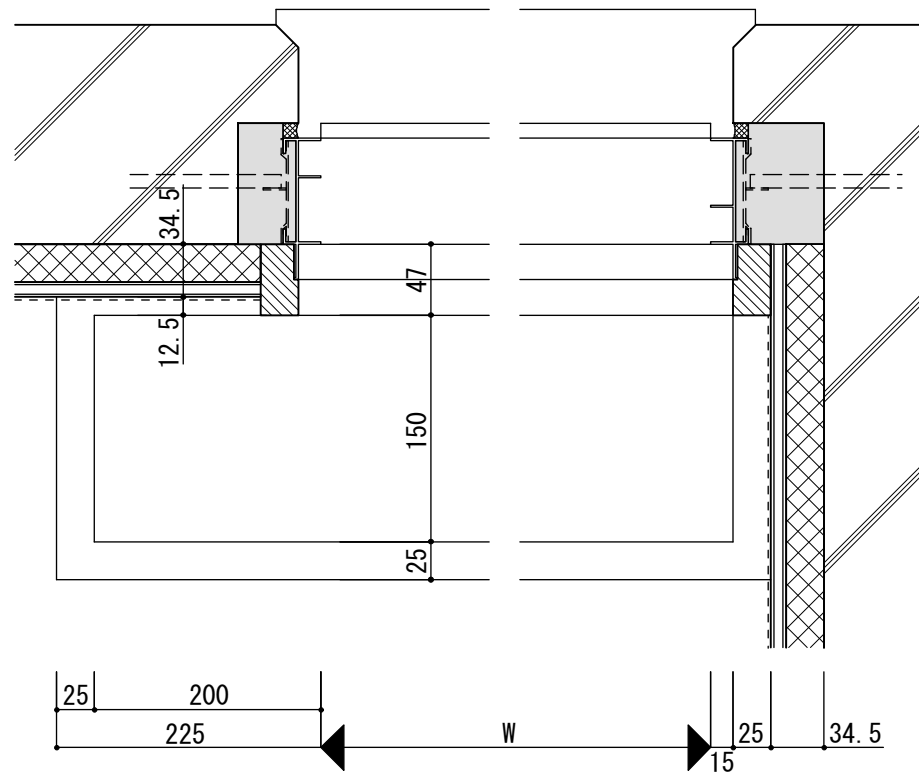


名称	カーテンレール 〔型式図〕		
縮尺	1 : 2 1 : 3 1 : 5	AI - 911	頁 I-89

A: サッシ外付の場合



断面図



平面図(見上げ図)

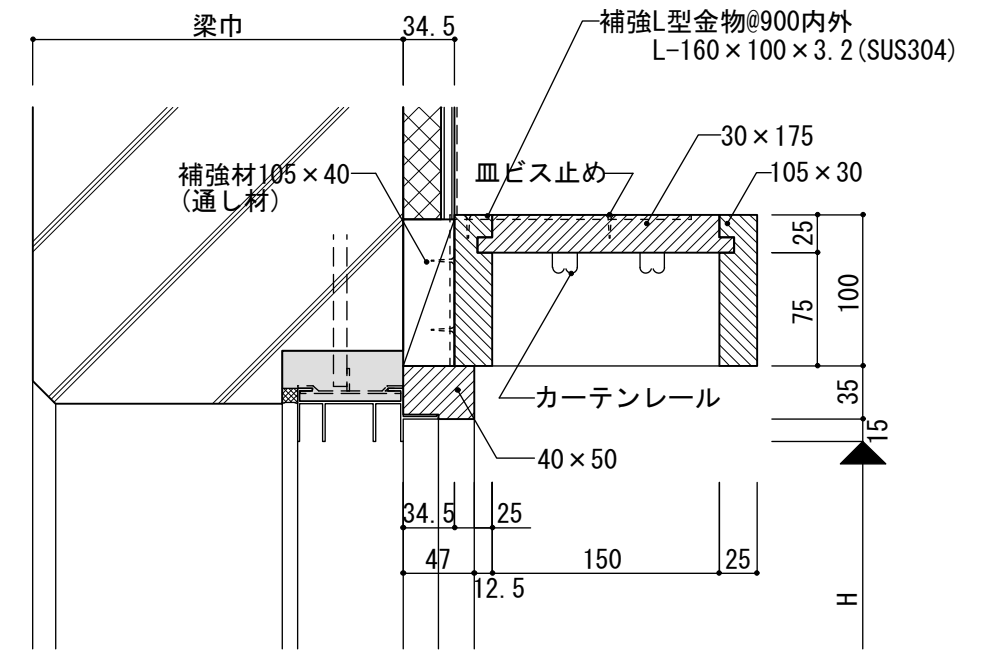
【仕様】

- ・ W, Hはサッシの公称寸法とする。
- ・ 木部仕上: SOP
- ・ 補強材の材種は『米ひば、米桧、台桧、桧、ひば』とする。

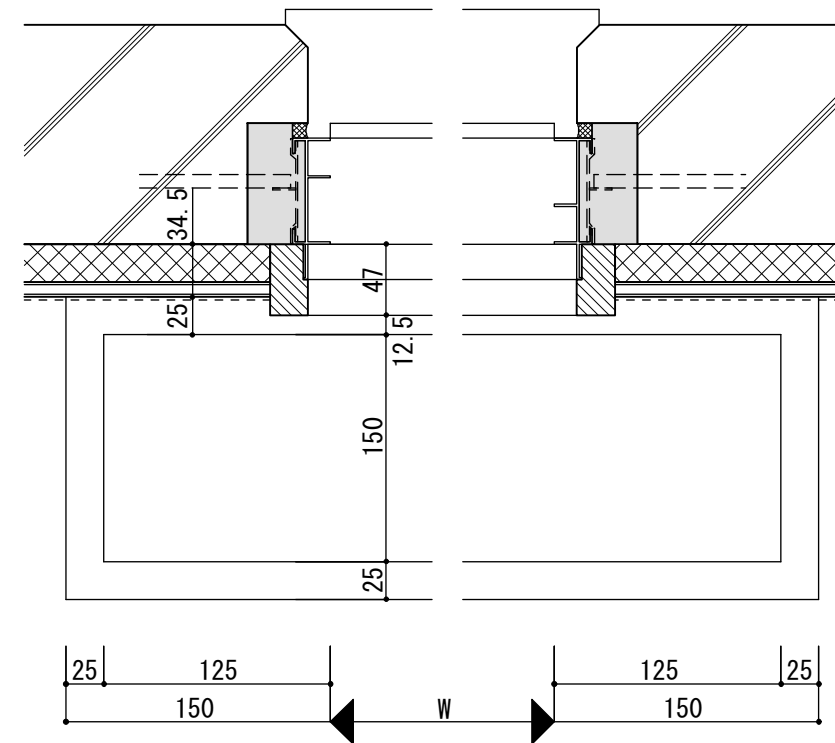
【附記事項】

- ・ D. 梁巾は建物設計図による。
- ・ カーテンレールの種別は建物設計図による。

B: サッシ内付の場合



断面図



平面図(見上げ図)

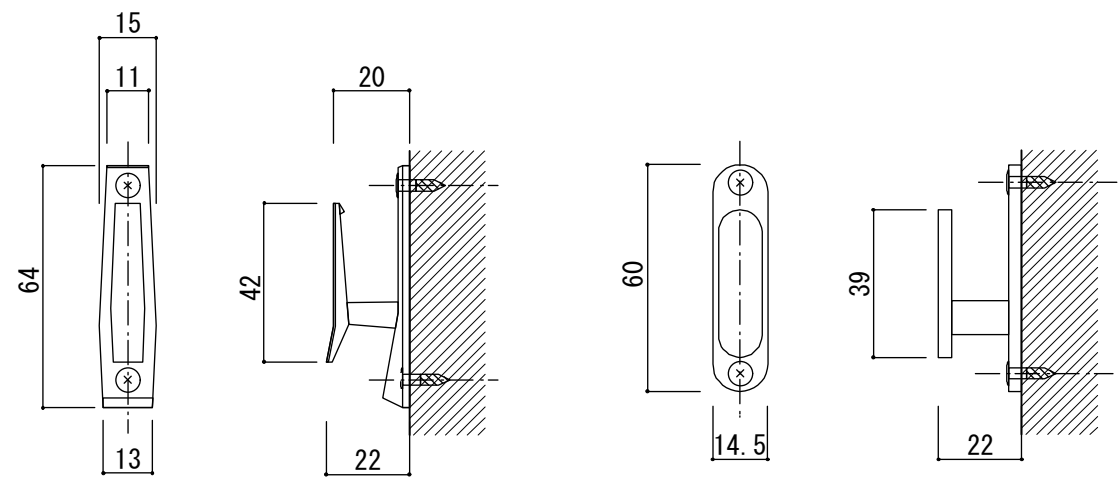
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1
- ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1

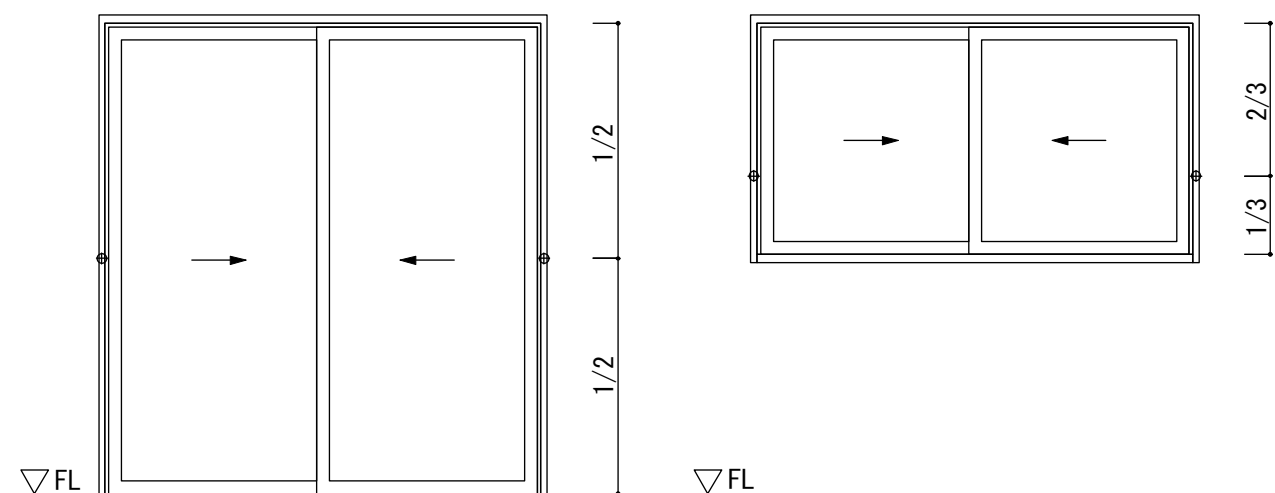
名称	カーテンボックス 〔型式図〕		
縮尺	1 : 5	AI - 912	頁 I-90



1型

2型

房掛



引違い戸の場合

引違い窓の場合

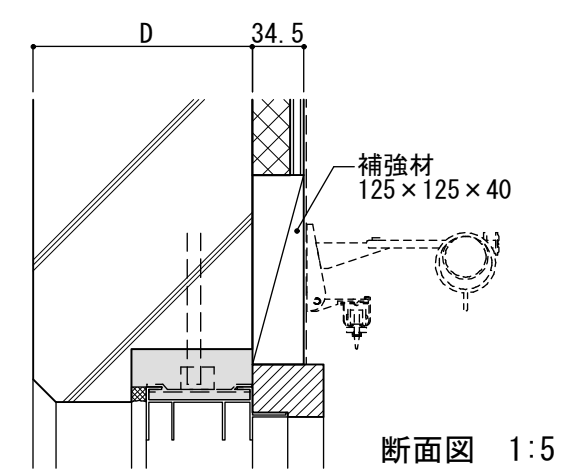
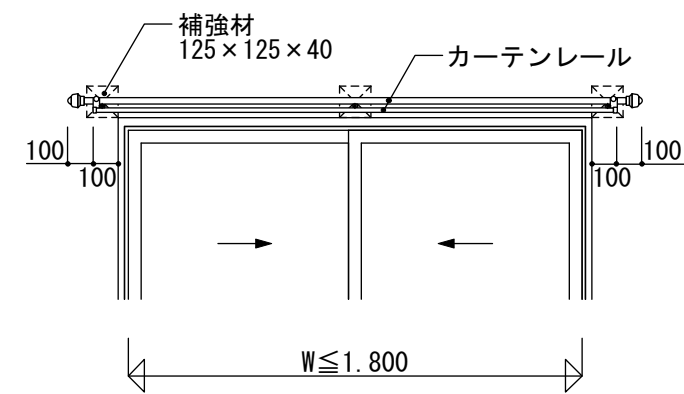
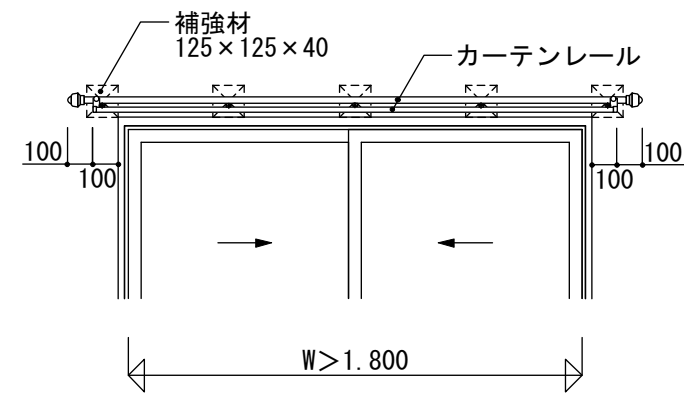
房掛取付位置図

【仕様】

- ・房掛はアルミダイカスト又は、亜鉛ダイカストとする。
- ・補強材の材種は『米ひば、米松、台松、松、ひば』とする。

【附記事項】

- ・房掛の設置については建物設計図による。



D型：ポール型カーテンレール取付補強下地図

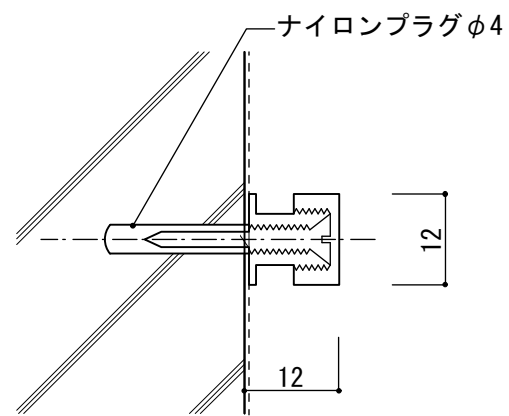
【改訂事項(公団住宅)】

- ・第3版 H. 4. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

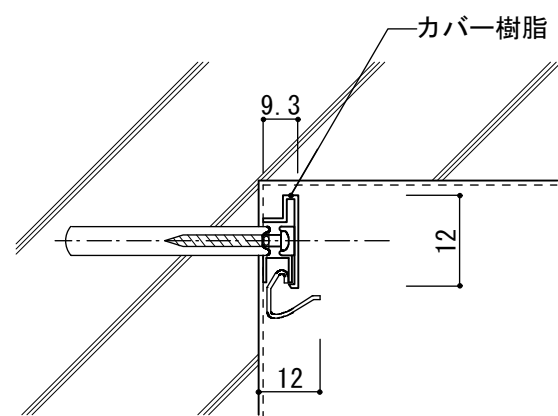
【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	房 掛 〔型式図〕		頁 I-91
縮尺	1 : 2 1 : 5	AI - 913	



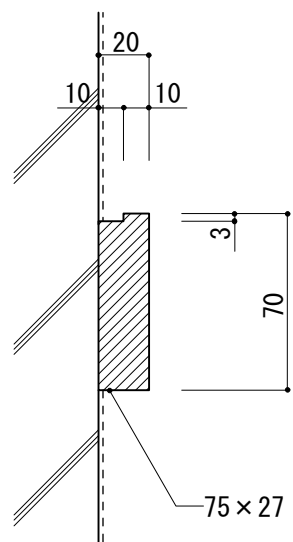
材質—黄銅製サテンニッケル仕上



材質—レール:アルミ製  
フック:ステンレス製  
(個数2ヶ/m)

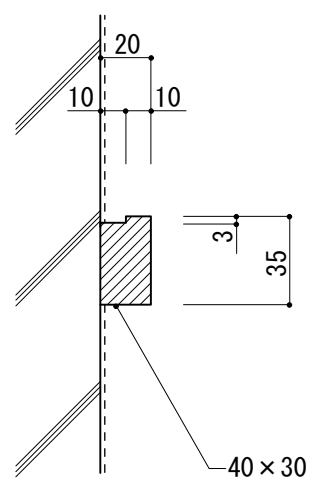
A:ハンガー用化粧ボルト

B:ピクチャーレール

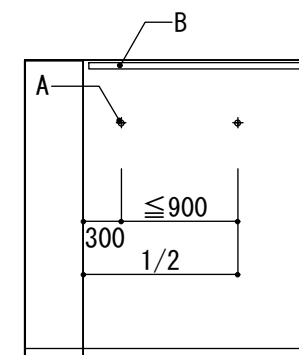


C:巾広付鴨居

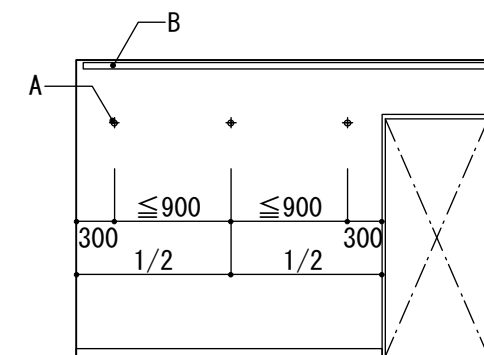
一般造作材  
化粧張集成材



D:付鴨居

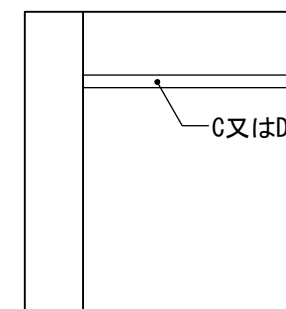


(壁段差:有の場合)

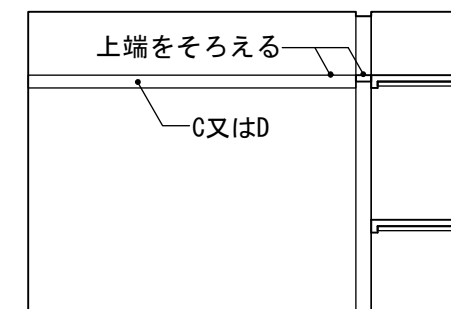


(壁段差:無の場合)

洋室:A. Bの場合の取付位置(参考)



(壁段差:有の場合)



(壁段差:無の場合)

和室:C. Dの場合の取付位置(参考)

【仕様】

- 化粧張集成材巾広付鴨居は下記による。
  - 表面化粧板  
単板(ア0.3mm)を集成材に接着し塗装したものとする。
  - 接着剤  
集成材との接着は尿素酢ビ接着剤とする。
- C. Dの取付けは450mm内外のつぶし頭釘打ちとし、接着剤を併用する。

【附記事項】

- 取付位置は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- 第2版 H. 21. 12. 1

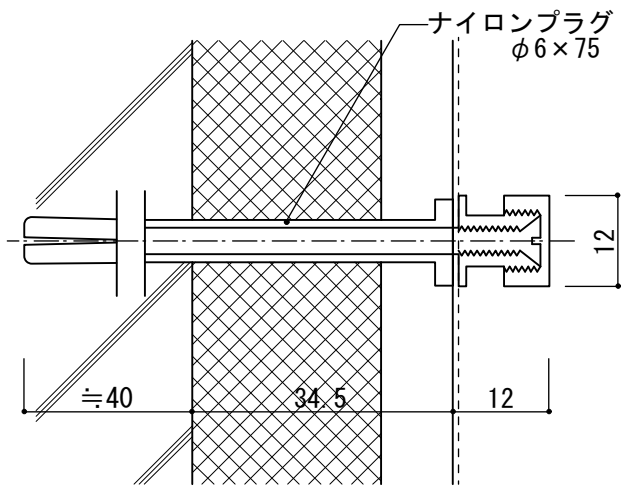
名称 住戸壁付部品廻り(RC壁)  
[型式図]

縮尺 1:1 1:2  
1:3 1:60

AI - 921

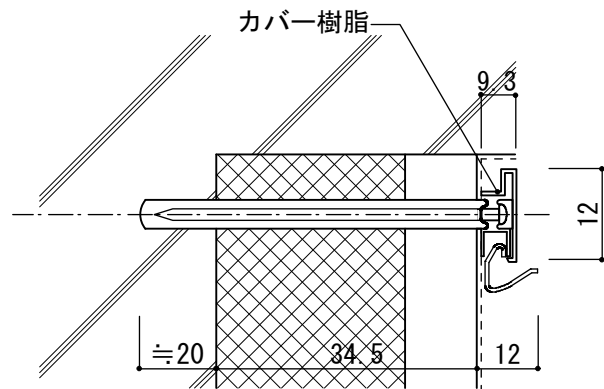
頁 I-92





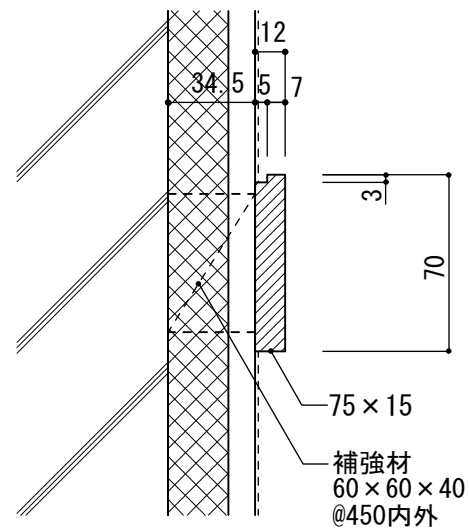
材質-黄銅製サテンニッケル仕上  
木ネジ-ステンレス十字字付皿木ネジ3.5×75

A:ハンガー用化粧ボルト



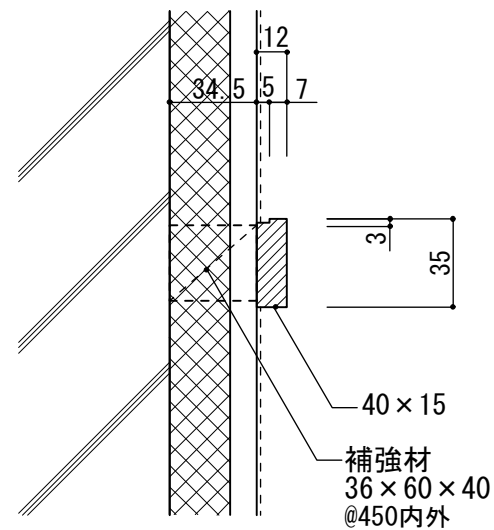
材質-レール:アルミ製  
フック:ステンレス製

B:ピクチャーレール(防露壁)

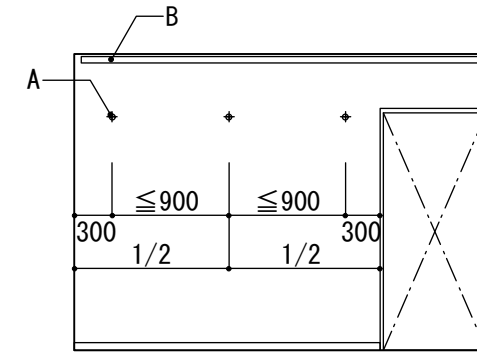


C:巾広付鴨居(防露壁)

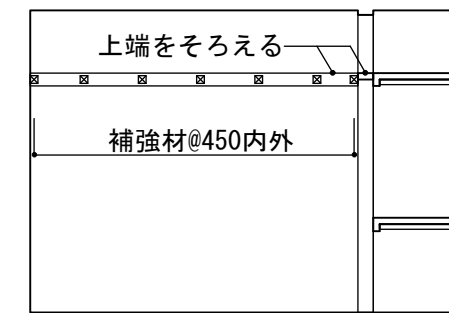
一般造作材  
化粧張集成材



D:付鴨居(防露壁)



洋室:A. Bの場合の取付位置(参考)



和室:C. Dの場合の取付位置(参考)

【仕様】

- 化粧張集成材巾広付鴨居は下記による。
- 1. 表面化粧板  
単板(ア0.3mm)を集成材に接着し塗装したものとする。
- 2. 接着剤  
集成材との接着は尿素酢ビ接着剤とする。
- 補強材の材種は『米ひば、米松、台松、松、ひば』とする。
- C. Dの取付けは450mm内外のつぶし頭釘打ちとし、接着剤を併用する。
- C. Dの補強材の取付けはコンクリート釘又はコンクリートビス打ちとする。

【附記事項】

- 取付位置は建物設計図による。

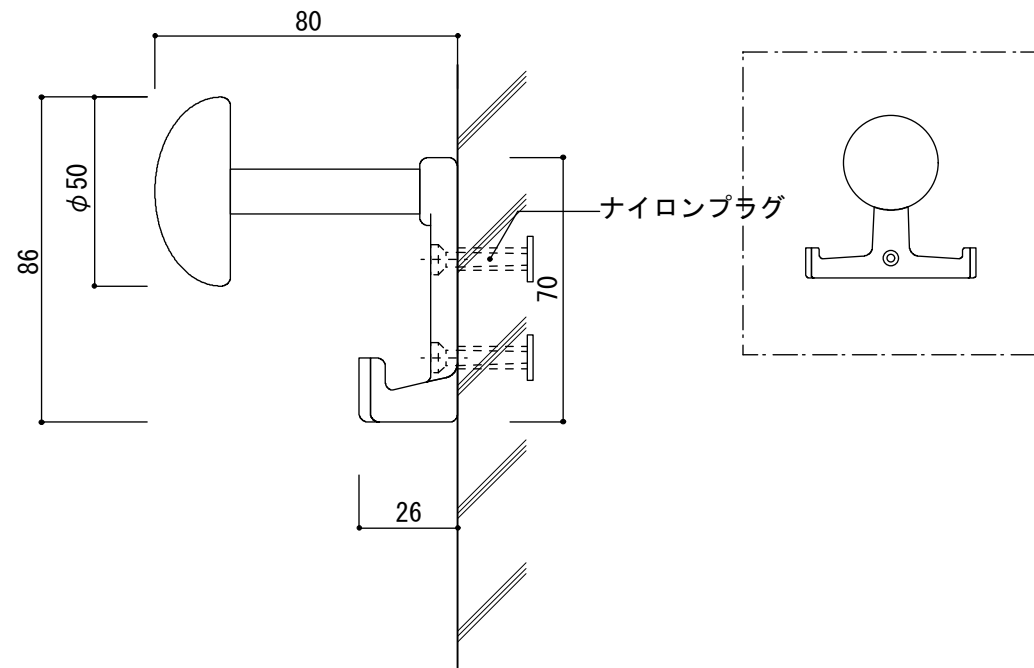
【改訂事項(公団住宅)】

- 第2版 S. 61. 12. 1
- 第3版 H. 4. 12. 1
- 第4版 H. 8. 10. 1
- 第5版 H. 13. 11. 1

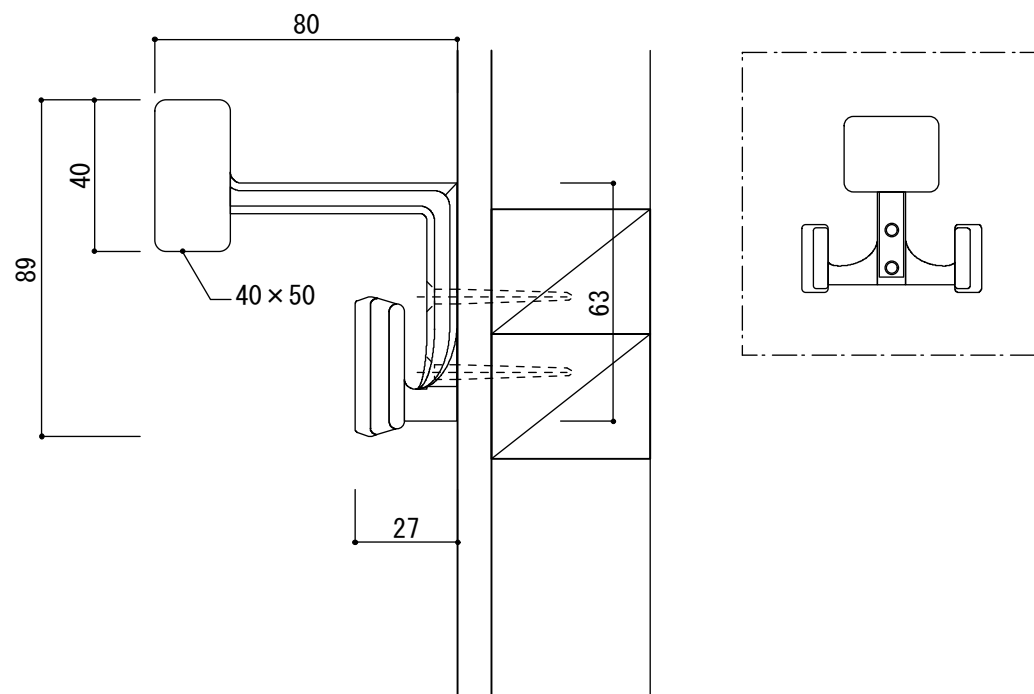
【改訂事項(機構住宅)】

- 第2版 H. 21. 12. 1

名称	住戸壁付部品廻り(防露壁) [型式図]		頁
縮尺	1:1	AI-922	I-93
	1:3		
	1:60		



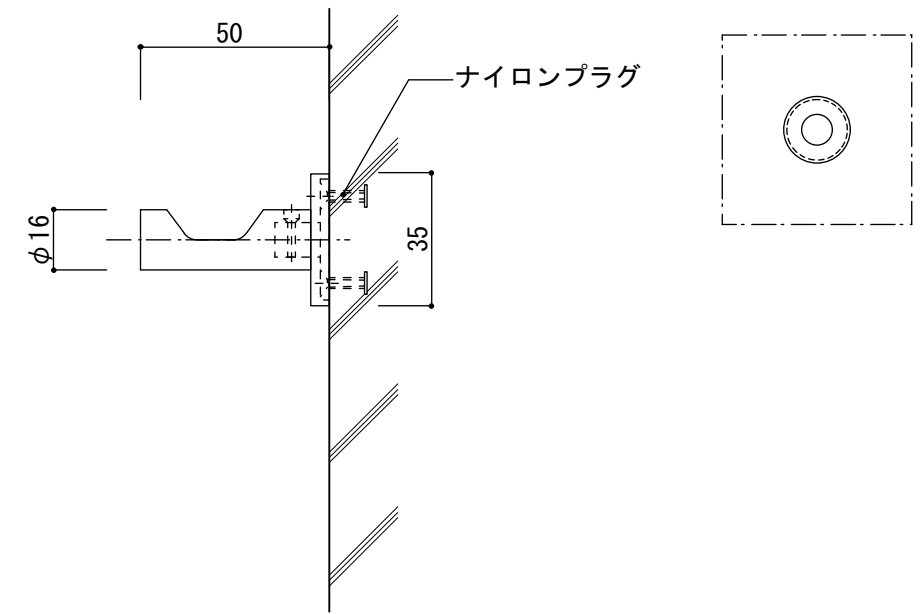
A-1(二股補助フック付)



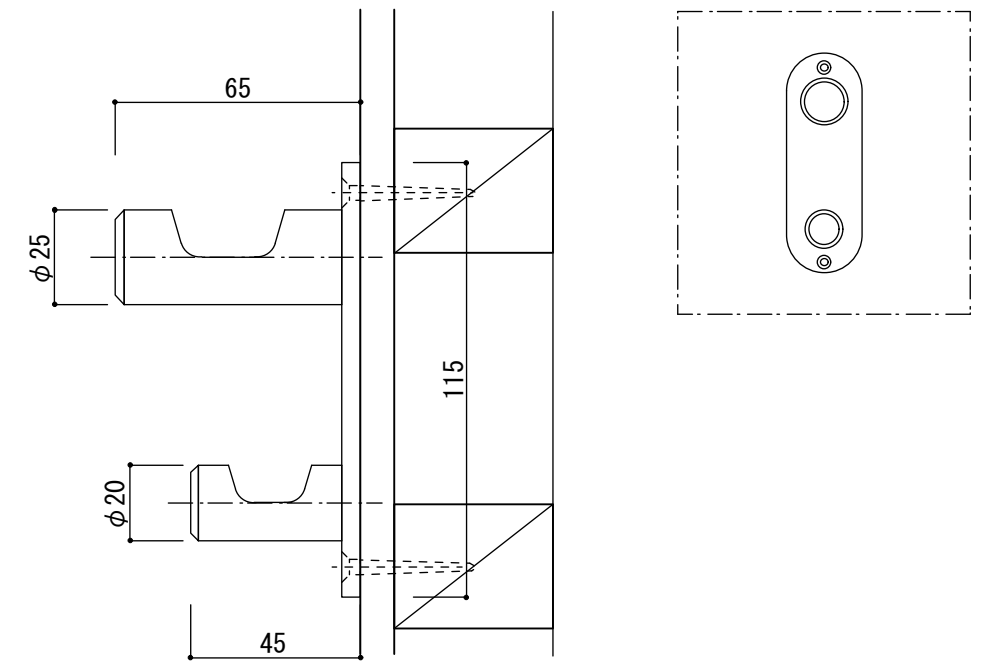
A-2(二股補助フック付)

- 【仕様】
- ・ A型、B型共材質、化粧については、建物設計図による。
  - ・ 金物はメーカー仕様とする。
  - ・ 取付用木ネジは木下地の場合はL=32、コンクリート下地の場合はナイロンプラグL=25とする。

- 【附記事項】
- ・ 取付位置、箇所は建物設計図による。
  - ・ 取付間隔は300を標準とする。



B-1



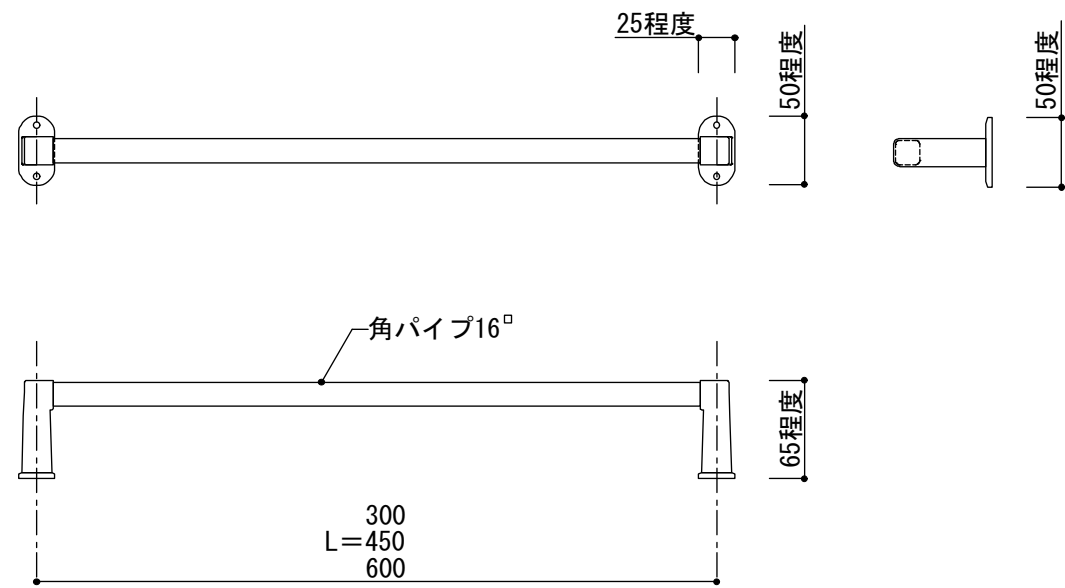
B-2(補助フック付)

- 【改訂事項(公団住宅)】
- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
  - ・ 第3版 H. 4. 12. 1
  - ・ 第4版 H. 8. 10. 1

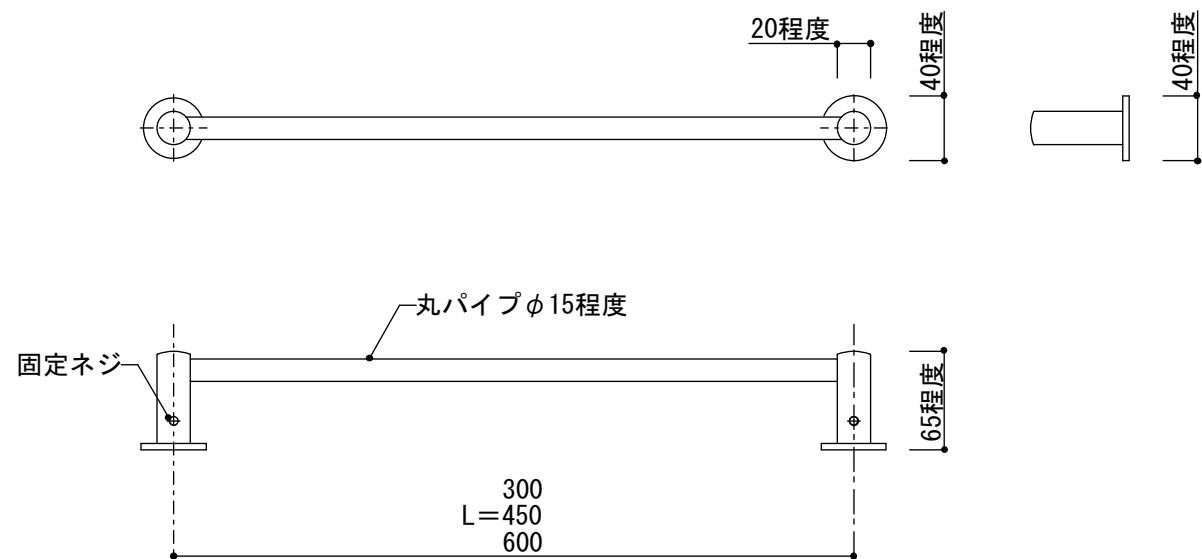
- 【改訂事項(機構住宅)】

名称	帽子掛 〔型式図〕		頁
縮尺	1 : 2	AI - 923	I-94

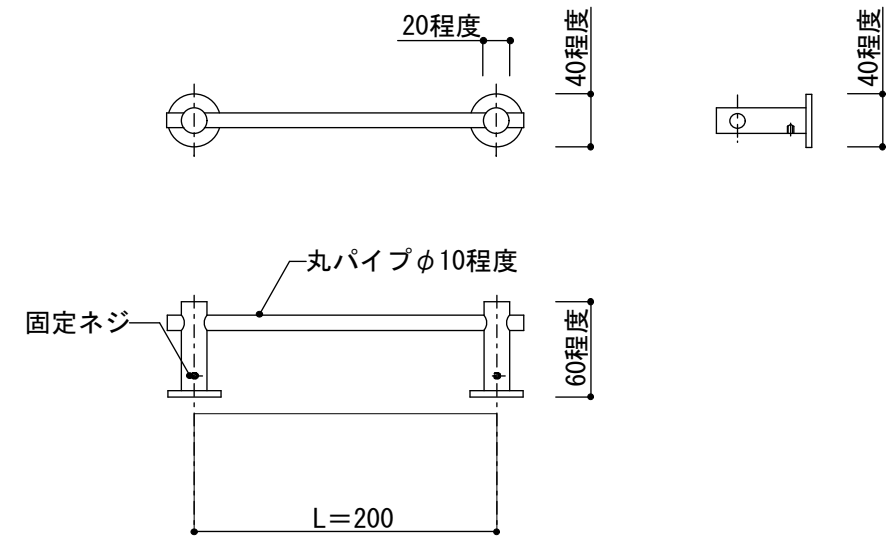
A型タオル掛



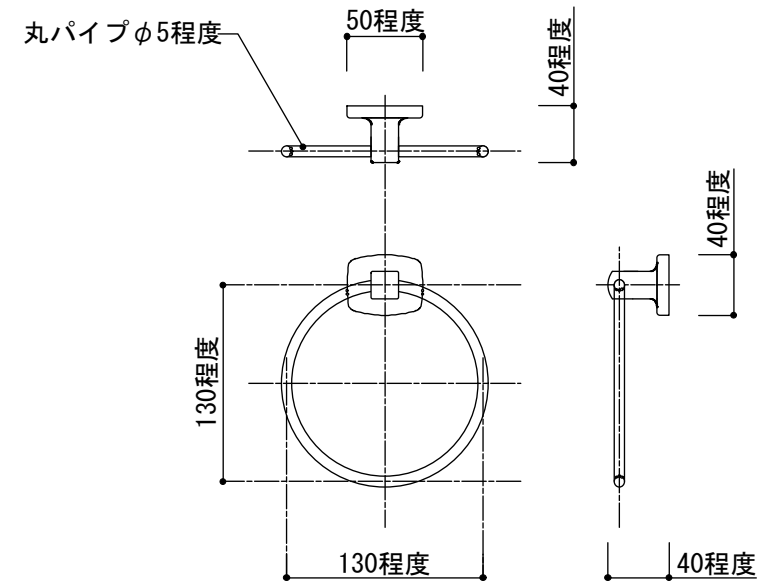
B型タオル掛



C型タオル掛



D型タオル掛



【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】

- ・第2版 S. 61. 12. 1
- ・第4版 H. 8. 10. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・第2版 H. 21. 12. 1

名称	タオル掛 〔型式図〕		
縮尺	1 : 5	AI - 924	頁 I-95

【仕様】

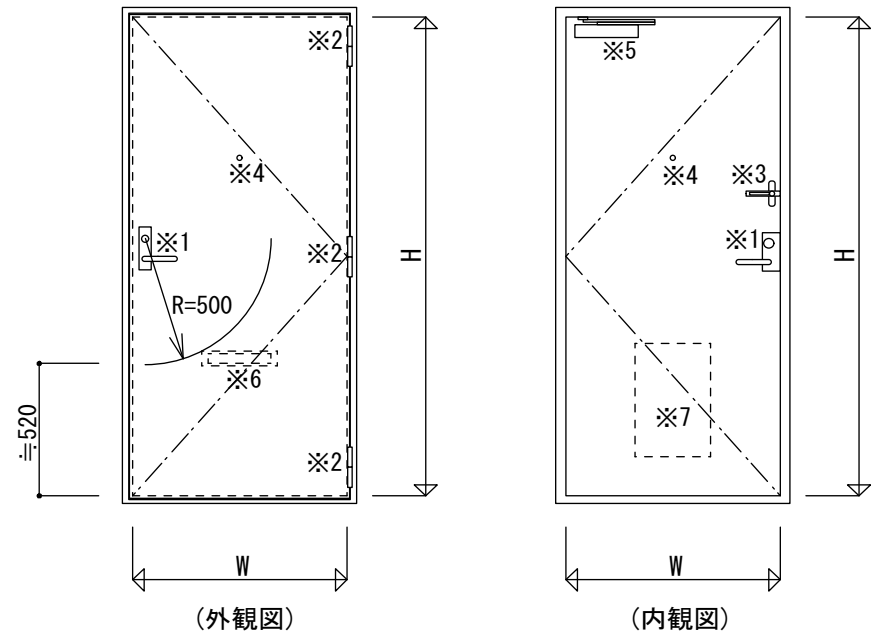
- ・タオル掛の横棒及びビスは黄銅製、アルミ製又はステンレス製SUS304とし、黄銅製の場合はクローム又はサテックローム仕上、アルミ製の場合はシルバー又はクローム仕上とする。
- ・受台は、黄銅又は亜鉛ダイキャストの上クロムメッキとする。
- ・B、C型の取付けは隠し座金を使用する。
- ・クロムメッキはJIS H 8615による3種とする。

# 建具設計図

凡例

- ※1: レバーハンドル (H=950)
- ※2: 丁番類
- ※3: ドアガード

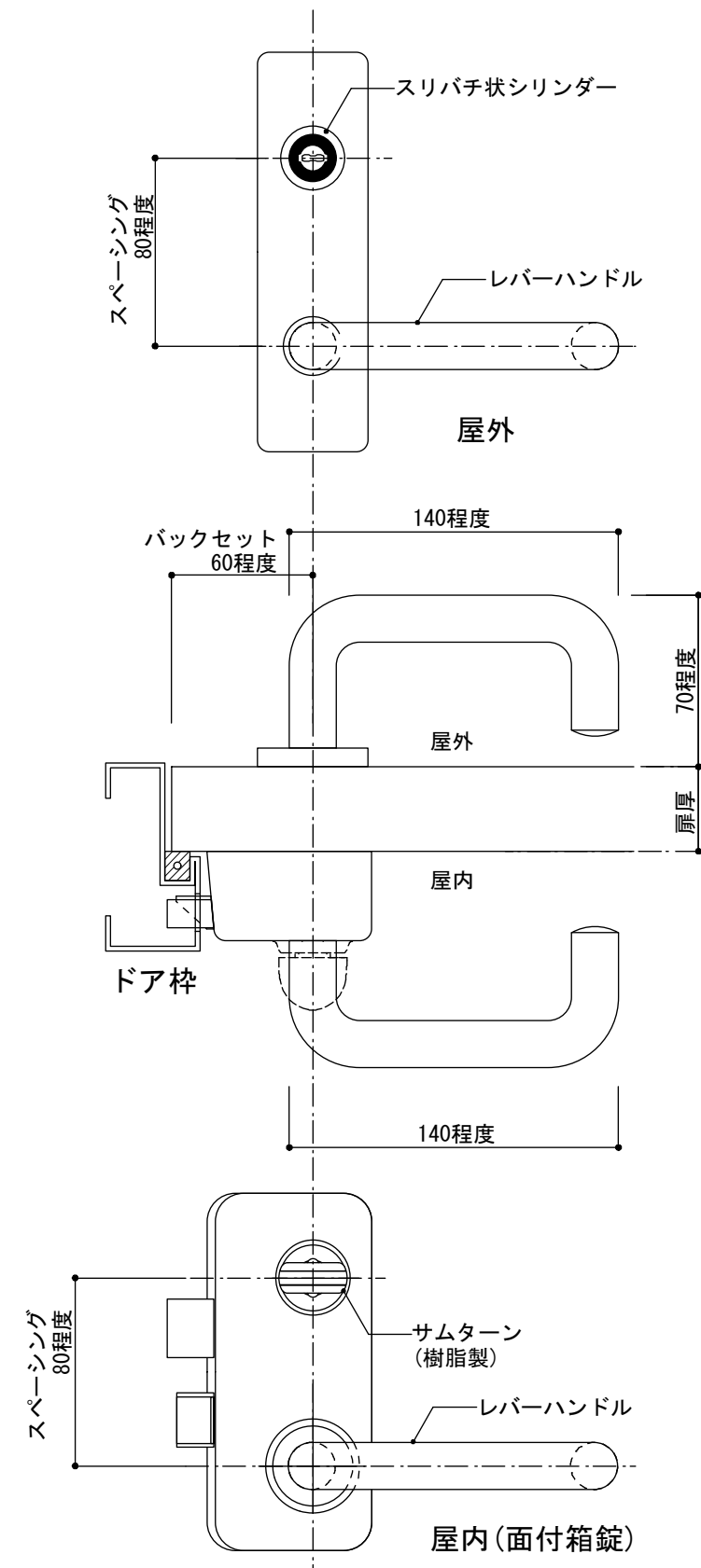
- ※4: ドアアイ (H=1.350)
- ※5: ドア・クローザ
- (※6: 投入口 (H=520))
- (※7: 受け箱)



姿図 1:30

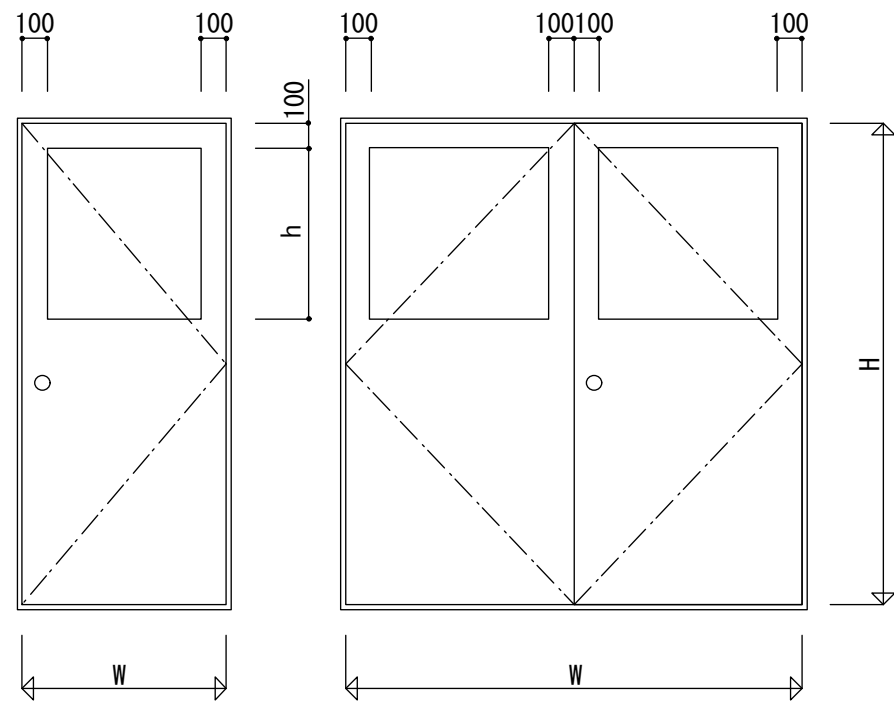
記号	FD 850×1.900	FD 850×2.000
型式	玄関両面フラッシュ戸片開きドア(気密枠)	
見込	枠見込 80	
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による	
ガラス	_____	
仕上	建物設計図による	
金物	レバーハンドル、サムターン付シリンダー面付箱錠〔防犯建物部品〕、丁番類、ドアガード、ドアアイ、ドア・クローザ、(投入口)、(受け箱)	
備考		

- |   |  |
|---|--|
| <p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・錠前は、すりばち型リバーシブル錠とする。</li> </ul> | <p>【附記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・W、Hは建物設計図による。</li> <li>・床付戸当りの有無は建物設計図による。</li> <li>・投入口、受け箱を取付ける場合は建物設計図による。</li> </ul> |
|---|--|



- |   |   |
|---|---|
| <p>【改訂事項(公団住宅)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 S. 61. 12. 1</li> <li>・第3版 H. 4. 12. 1</li> <li>・第4版 H. 8. 10. 1</li> <li>・第4版2刷 H. 10. 2. 1</li> <li>・第5版 H. 13. 11. 1</li> <li>・第5版(追) H. 16. 8. 1</li> </ul> | <p>【改訂事項(機構住宅)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2版 H. 21. 12. 1</li> </ul> |
|---|---|

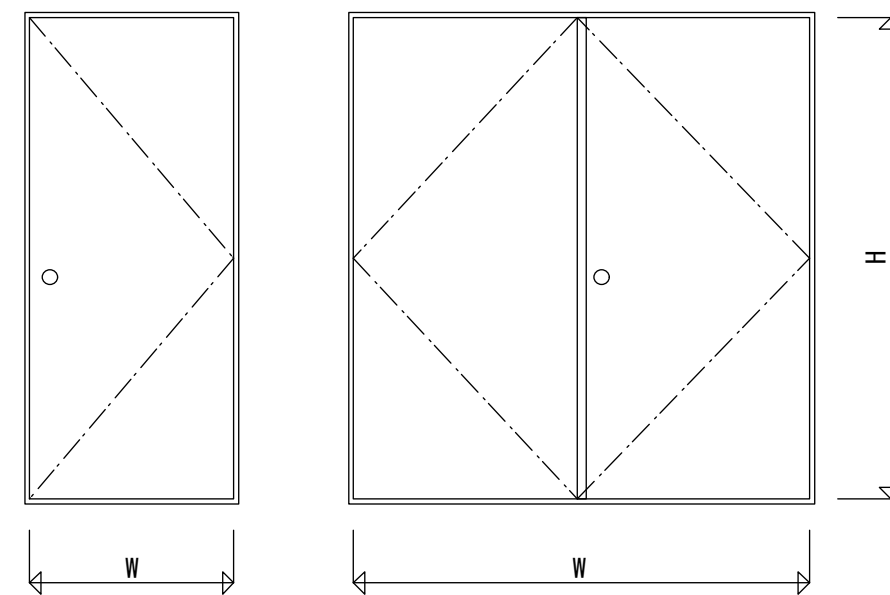
名称	玄関鋼製戸		
縮尺	1:30	AF-101	頁 F-1



姿図 1:30

記号	SD
型式	鋼製戸(額付)
見込	特記なき場合枠見込80、戸厚36とする。
材質	建物設計図による。
ガラス	同上
仕上	SOP
金物	握玉付シリンダー錠 SUS304 1ヶ ピボットヒンジ SUS304 1組(2組) フランス落し SUS304(1組) ドア・クローザ(1ヶ)
備考	両開き扉を防火区画に使用する場合は 順位調整器付とする。

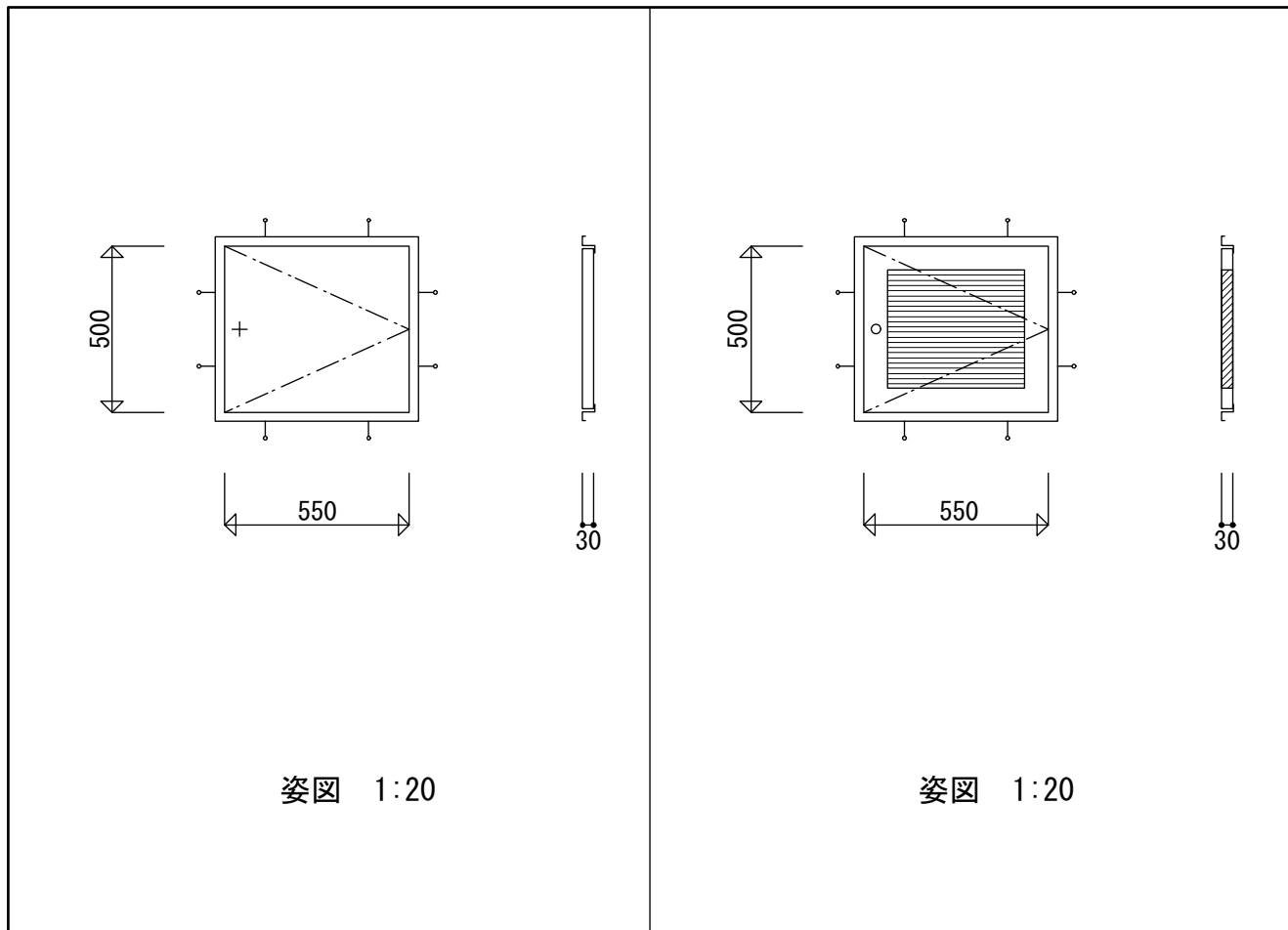
【仕様】	【附記事項】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械室等に使用する場合は防音わくとする。</li> <li>・下枠をステンレス製にする場合は特記による。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・W、H、h、ガラス小窓の有無、大きさ、ドア・クローザの有無、種別、ストッパーの有無は建物設計図による。</li> </ul>



姿図 1:30

記号	SD
型式	鋼製戸
見込	特記なき場合枠見込80、戸厚36とする。
材質	建物設計図による。
ガラス	—————
仕上	SOP
金物	握玉付シリンダー錠 SUS304 1ヶ ピボットヒンジ SUS304 1組(2組) フランス落し SUS304(1組) ドア・クローザ(1ヶ)
備考	両開き扉を防火区画に使用する場合は 順位調整器付とする。

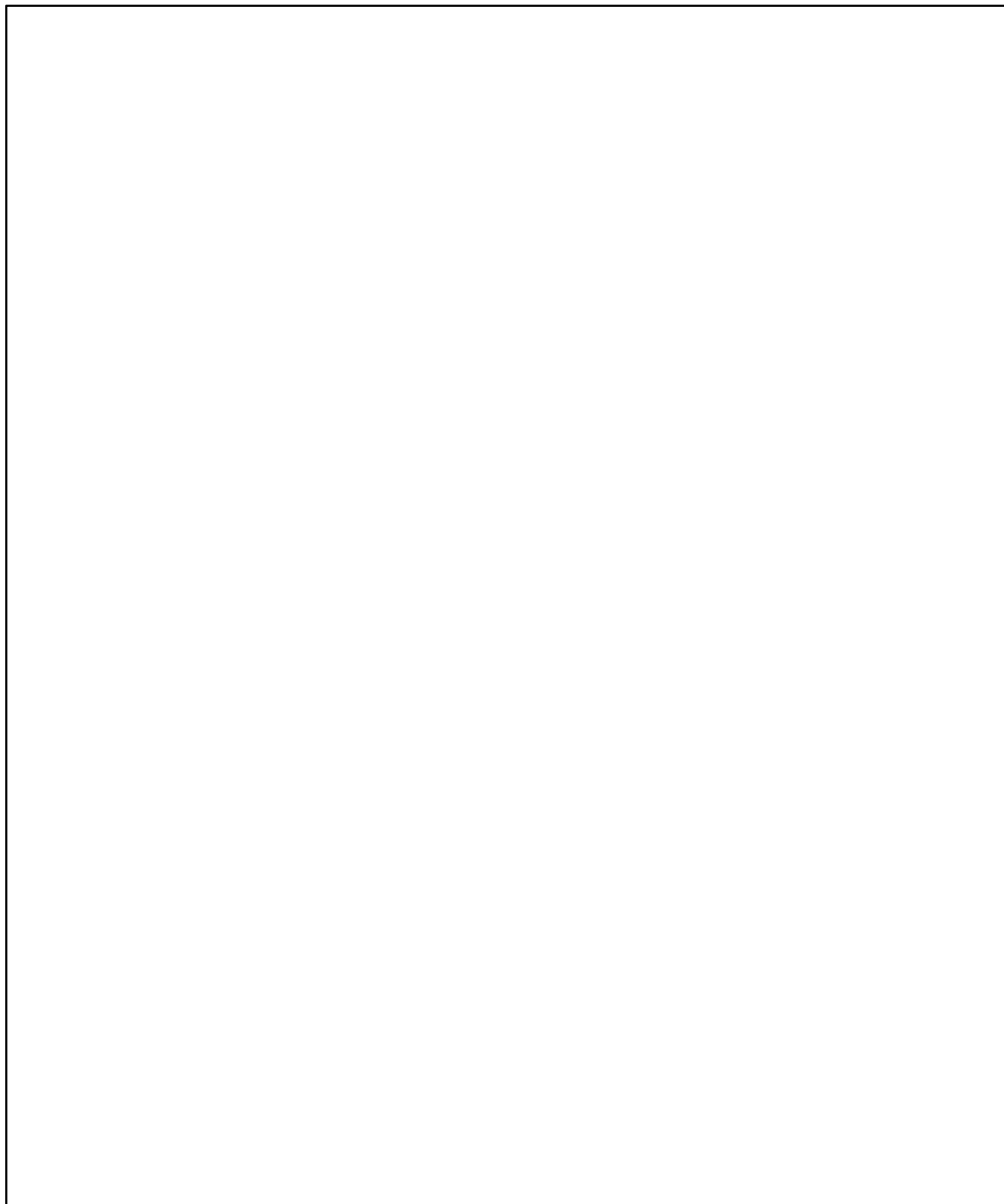
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	鋼製戸	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1	縮尺	1 : 30	AF - 102
・第3版 H. 4. 12. 1				頁 F-2
・第4版 H. 8. 10. 1				
・第4版2刷 H. 10. 2. 1				
・第5版 H. 13. 11. 1				



記号	$\frac{PW}{5}$ $\frac{PW'}{5}$ $\frac{PW''}{5}$	$\frac{PWG}{5}$ $\frac{PWG'}{5}$ $\frac{PWG''}{5}$
型式	ステンレス製点検口	ステンレス製点検口(ガラリ付)
見込	枠見込:30	枠見込:30
材質	枠、扉: R-1.2 (SUS304)	枠、扉: R-1.2 (SUS304)
ガラス	_____	_____
仕上	ヘアーライン	ヘアーライン
金物	ステンレス丁番(75)2ヶ	ステンレス丁番(75)2ヶ
備考	アンカー $\varnothing$ 印は溶接式	アンカー $\varnothing$ 印は溶接式、ステンレス防虫網付 SUS304#21-10メッシュ

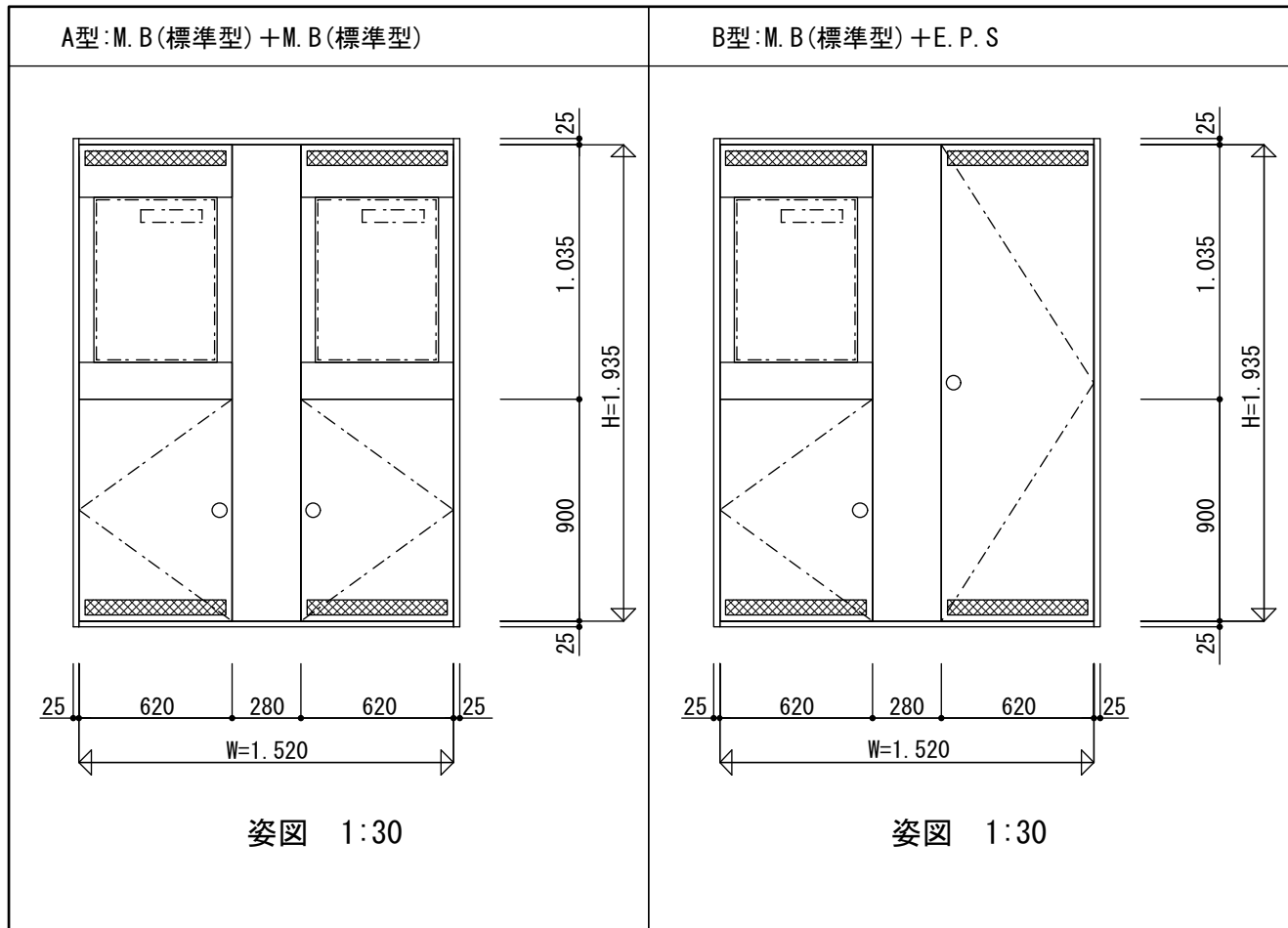
【仕様】

- ・ 丁番は枠側に溶接の上建具にステンレスビス止めとする。
- ・ 鍵は錠1ヶにつき3本を原則とする。
- ・  $\frac{PW}{5}$   $\frac{PWG}{5}$  はT型取手(亜鉛ダイキャスト)付差引式打掛金物。
- ・  $\frac{PW'}{5}$   $\frac{PWG'}{5}$  は差引式取外しハンドル錠(亜鉛ダイキャスト)
- ・  $\frac{PW''}{5}$   $\frac{PWG''}{5}$  は  $\frac{PW}{5}$  にシリンダー面付本締錠付とし、シリンダー性能はピンタンブラーまたはディスクタンブラー5本以上とする。
- ・ 特定防火設備としての性能を要求される場合には扉の材質をR-1.6とする。



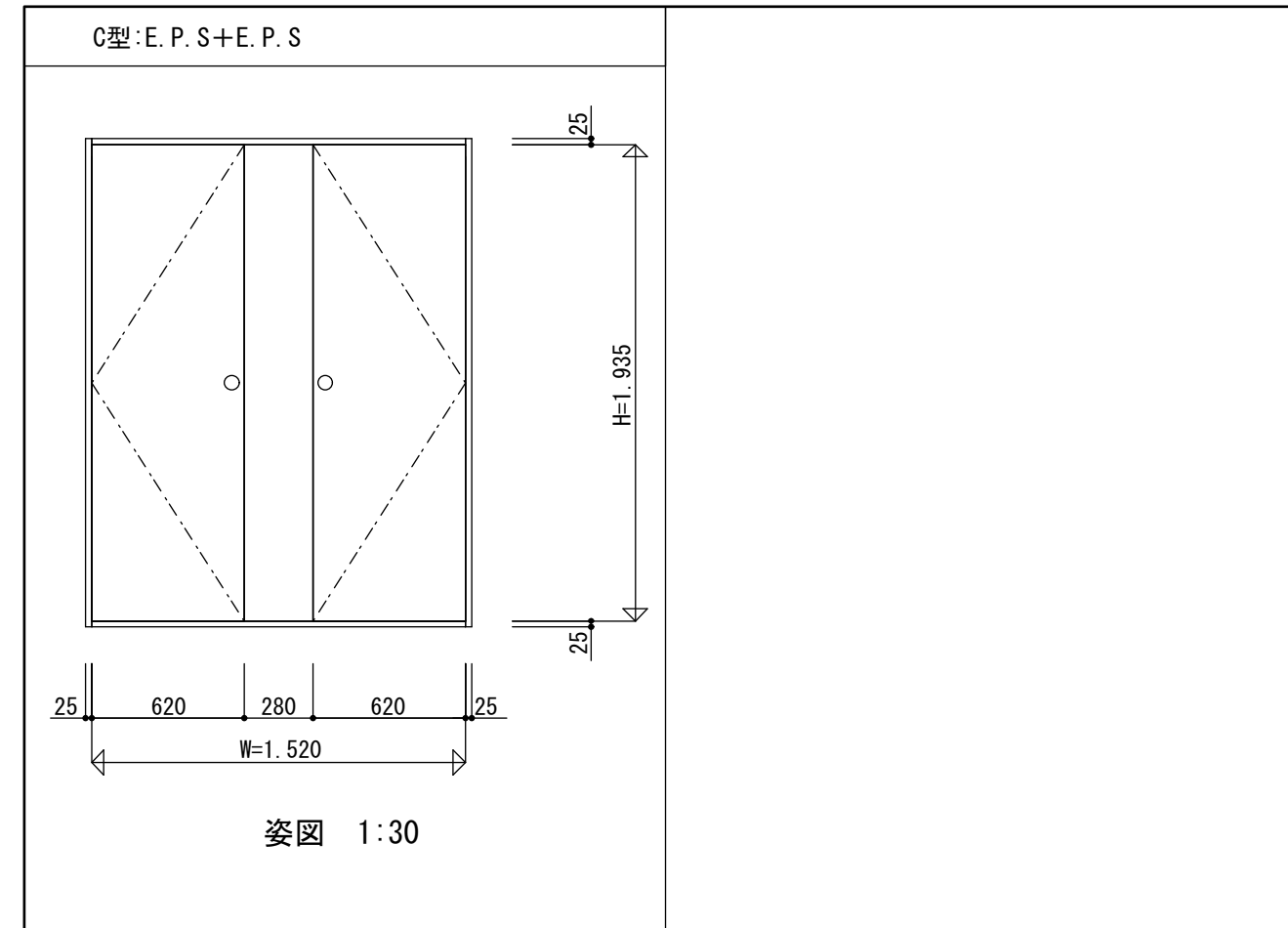
【附記事項】

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	ステンレス製点検口扉		
・ 第2版 S. 61. 12. 1	・ 第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1 : 20	AF - 103	頁 F-3
・ 第4版 H. 8. 10. 1					
・ 第5版 H. 13. 11. 1					



記号	PS	記号	PS
型式	パイプシャフト用扉	型式	パイプシャフト用扉
見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による	見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による
材質		材質	
金物		金物	
仕上	建物設計図による	仕上	建物設計図による
換気口	メーカー仕様による	換気口	メーカー仕様による
備考	換気口の面積は建物設計図による	備考	換気口の面積は建物設計図による

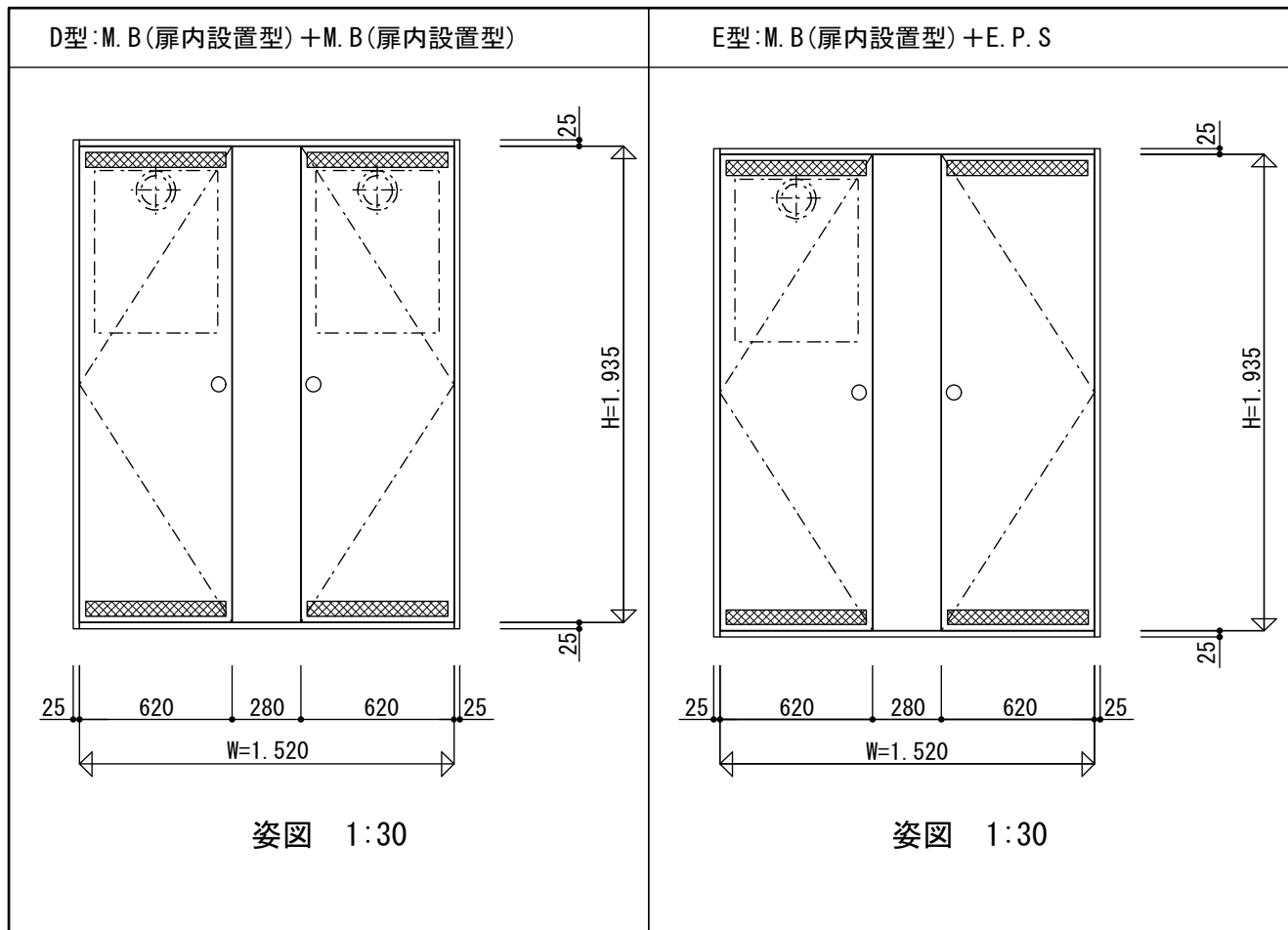
<b>【仕様】</b> ・材質:鋼製又はアルミ製とし建物設計図による。 ・金物:戸当りの有無は建物設計図による。	<b>【附記事項】</b> ・パイプシャフトの同一区画内に電気とガス管を混在させる場合にはPS扉の上下に500・以上かつPS扉見附面積の5%以上の換気口をとること等、換気口の大きさを別に規定している自治体もあるので、詳細は確認すること。
--	---



記号	PS
型式	パイプシャフト用扉
見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による
材質	
金物	
仕上	建物設計図による
換気口	—————
備考	

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・第2版 H. 21. 12. 1	名称	パイプシャフト用扉-1 (柱型付-1)
		縮尺	1:30
			AF - 104
		頁	F-4

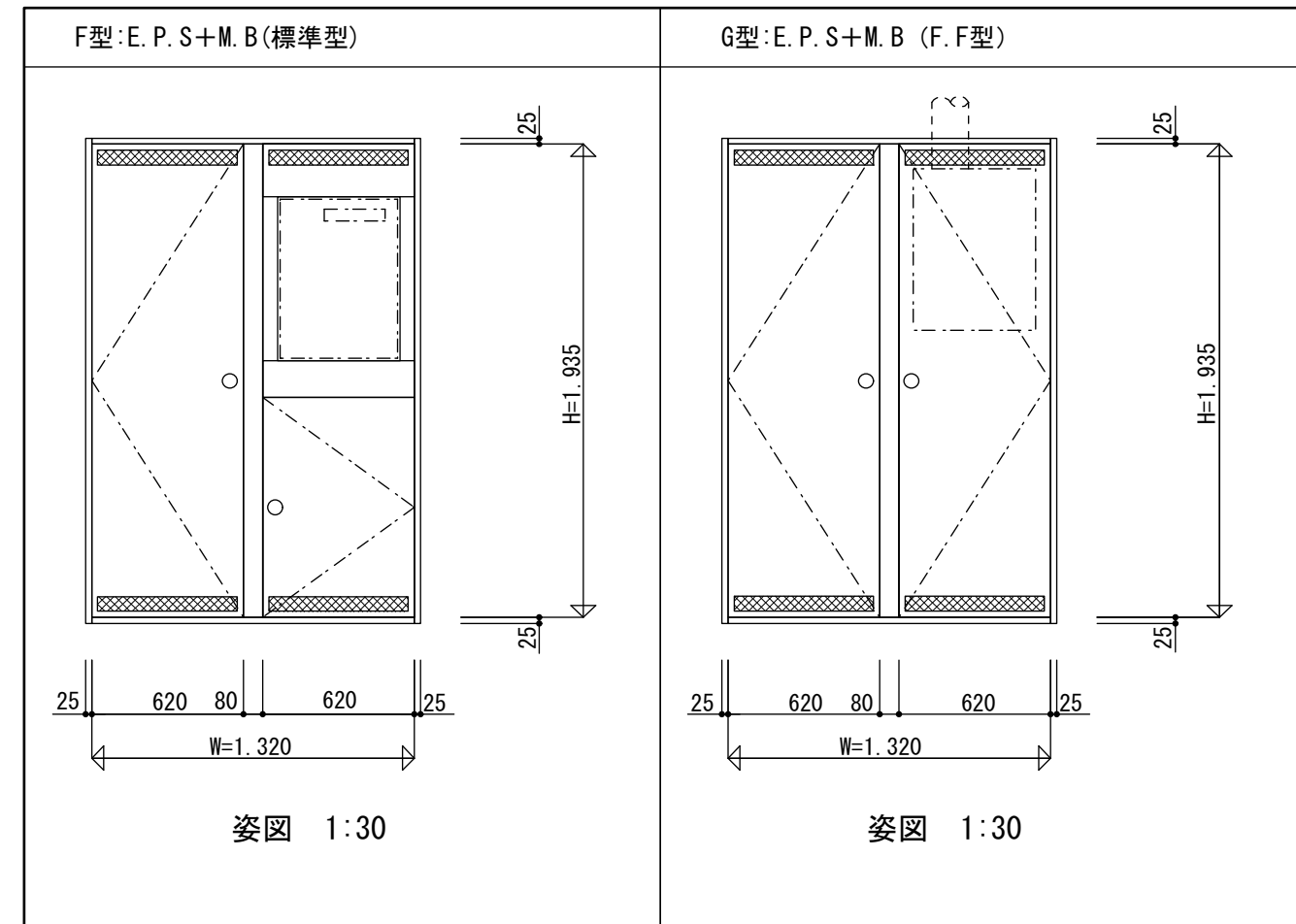




記号	PS	記号	PS
型式	パイプシャフト用扉	型式	パイプシャフト用扉
見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による	見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による
材質			
金物			
仕上	建物設計図による	仕上	建物設計図による
換気口	メーカー仕様による。	換気口	メーカー仕様による。
備考	換気口の面積は建物設計図による	備考	換気口の面積は建物設計図による

<p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質:鋼製又はアルミ製とし建物設計図による。</li> <li>・金物:戸当りの有無は建物設計図による。</li> </ul>	<p>【附記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプシャフトの同一区画内に電気とガス管を混在させる場合にはPS扉の上下に500・以上かつPS扉見附面積の5%以上の換気口をとること等、換気口の大きさを別に規定している自治体もあるので、詳細は確認すること。</li> </ul>
---	--

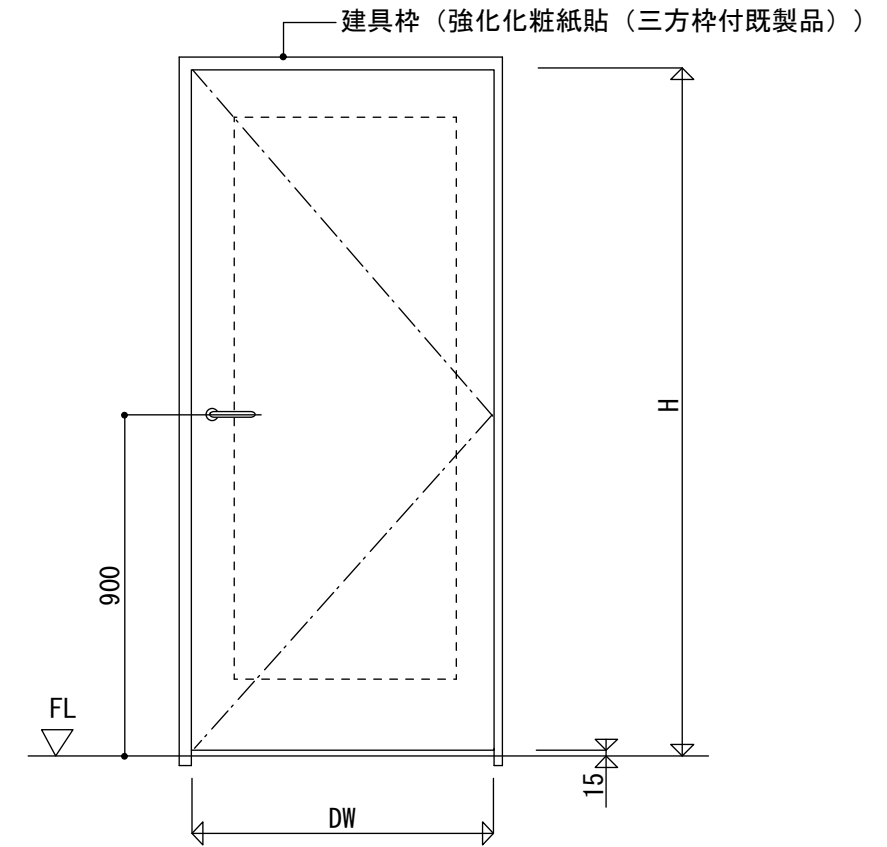
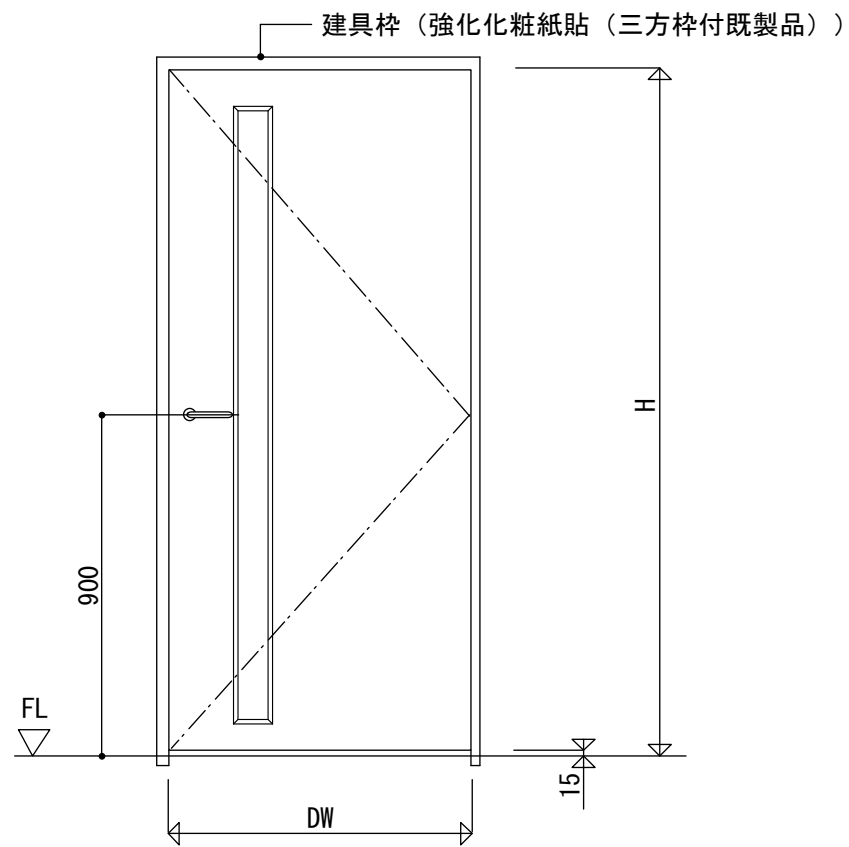
【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	パイプシャフト用扉-2 (柱型付-2)	
		縮尺	1:30	AF - 105
				頁 F-5



記号	PS	記号	PS
型式	パイプシャフト用扉	型式	パイプシャフト用扉
見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による	見込	「別冊 機材の品質・性能基準」による
材質			
金物			
仕上	建物設計図による	仕上	建物設計図による
換気口	メーカー仕様による。	換気口	メーカー仕様による。
備考	換気口の面積は建物設計図による	備考	換気口の面積は建物設計図による

<p>【仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質:鋼製又はアルミ製とし建物設計図による。</li> <li>・金物:戸当りの有無は建物設計図による。</li> </ul>	<p>【附記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプシャフトの同一区画内に電気とガス管を混在させる場合にはPS扉の上下に500・以上かつPS扉見附面積の5%以上の換気口をとること等、換気口の大きさを別に規定している自治体もあるので、詳細は確認すること。</li> </ul>
---	--

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	パイプシャフト用扉-3 (アルコーブ型)	
		縮尺	1:30	AF - 106
				頁 F-6

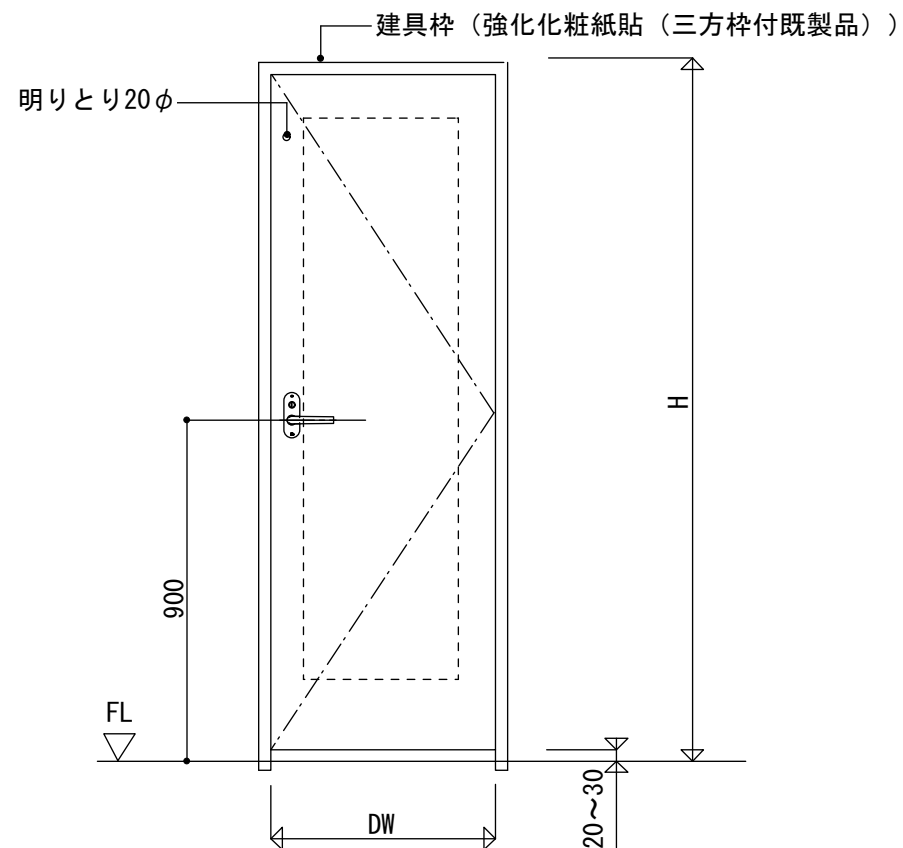


記号	WD
型式	木製片開きフラッシュガラス入りドア
見込	戸厚 33・36
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	建物設計図による
仕上	建物設計図による
金物	レバーハンドル空錠 AF-502 フランス丁番 AF-501-C 又は AF-501-E レバーストッパー又は戸当り AF-505 に準ずる
備考	三方枠建具工事

記号	WD
型式	木製片開きフラッシュドア
見込	戸厚 33・36
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	—————
仕上	建物設計図による
金物	レバーハンドル空錠 AF-502 ステンレス製丁番 (ナイロンリング入) AF-501-B 又は AF-501-D レバーストッパー又は戸当り AF-505 に準ずる
備考	三方枠建具工事

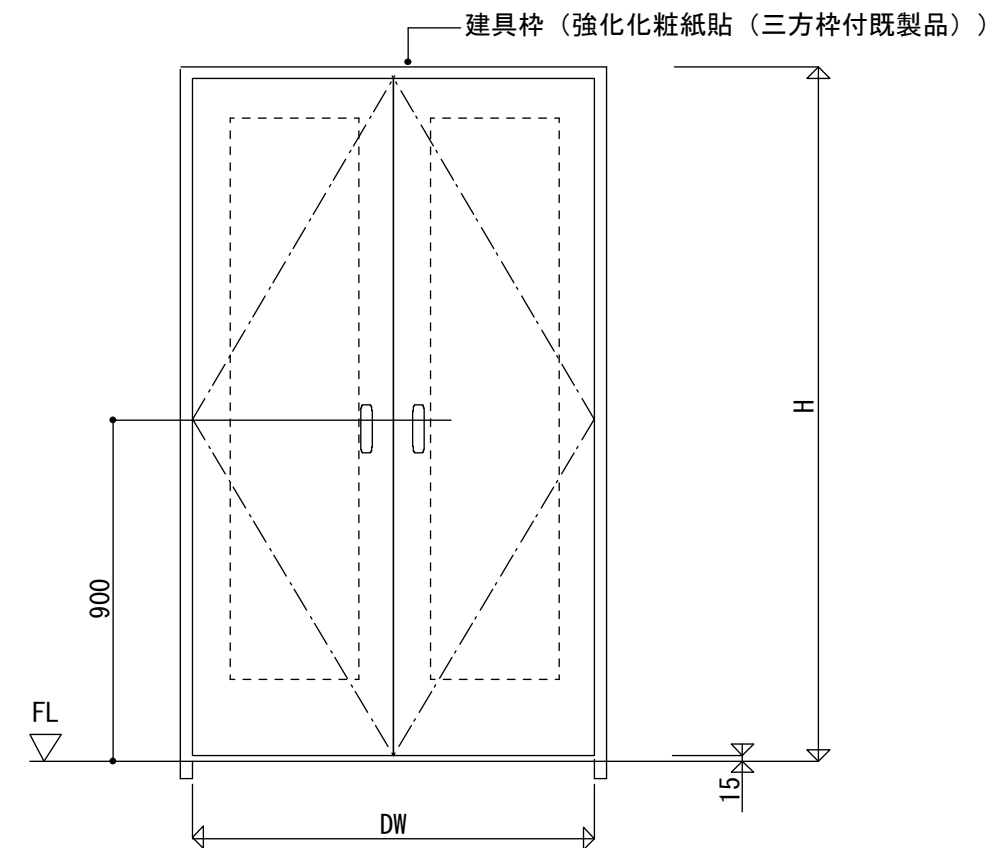
<b>【仕様】</b> ・ 丁番は3枚吊を標準とする。	<b>【附記事項】</b> ・ ドア・クローザの有無は建物設計図による。 ・ レバーストッパー又は戸当りは建物設計図による。
--------------------------------	--

<b>【改訂事項(公団住宅)】</b> ・ 第3版 H. 4. 12. 1 ・ 第4版 H. 8. 10. 1 ・ 第5版 H. 13. 11. 1	<b>【改訂事項(機構住宅)】</b> ・ 第2版 H. 21. 12. 1 ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1	名称 縮尺	内装ドア建具図-1 [型式図] 1 : 20 AF - 201	頁 F-7
---	--	----------	--	----------



記号	WD
型式	木製片開きフラッシュドア(便所用)
見込	戸厚 33・36
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	_____
仕上	建物設計図による
金物	レバーハンドル空錠(非常解装置付) AF-502 ステンレス製丁番(ナイロンリング入) AF-501-B 又は AF-501-D レバーストッパー又は戸当り AF-505 に準ずる
備考	三方枠建具工事

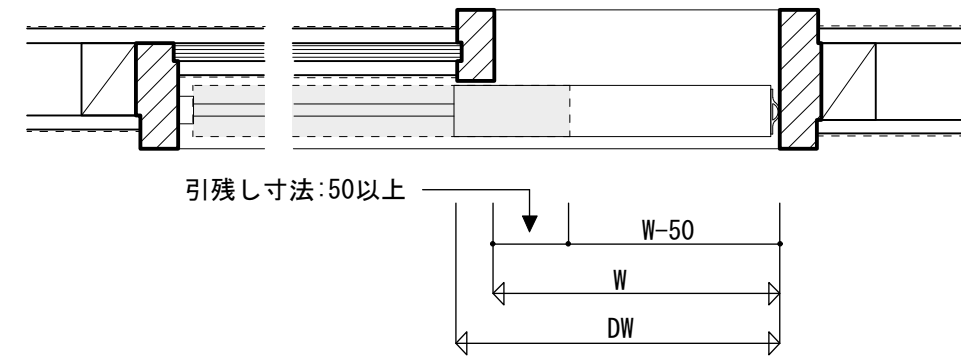
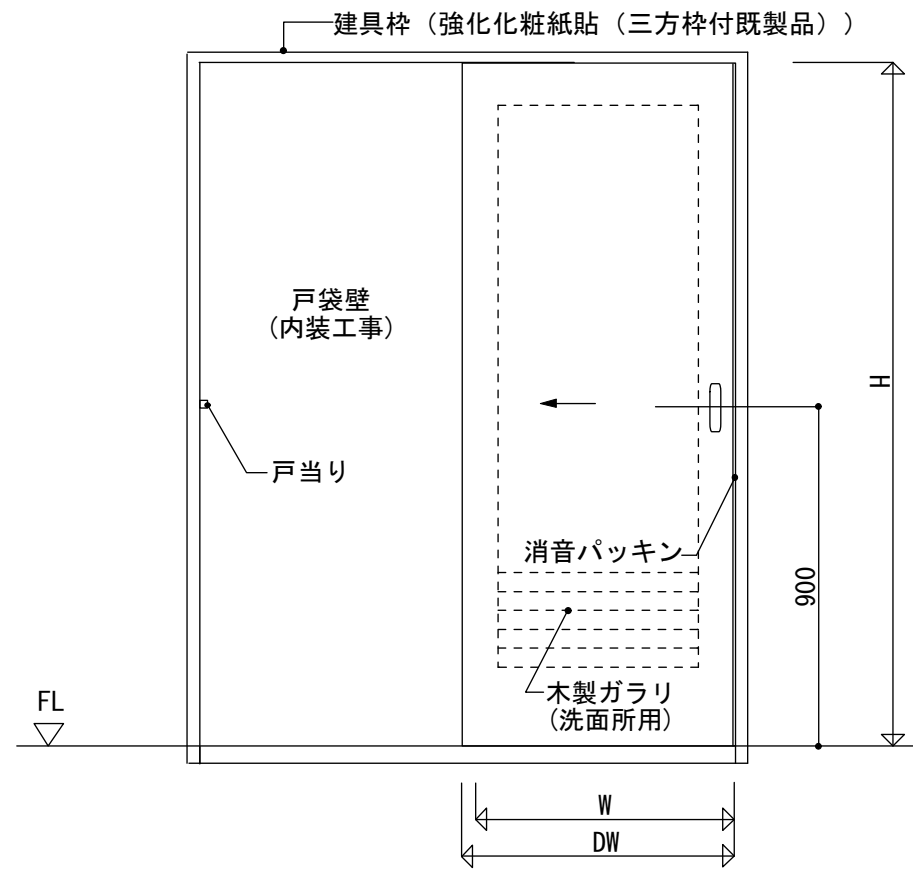
【仕様】 ・ 丁番は3枚吊を標準とする。      【附記事項】 ・ レバーストッパー又は戸当りは建物設計図による。



記号	WD
型式	木製両開きフラッシュドア(物入用)
見込	戸厚 30
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	_____
仕上	建物設計図による
金物	一文字取手 AF-504-B 又はつまみ AF-504-A ステンレス製角丁番 AF-501-A 又は スライド丁番 AF-501-F フランス落とし(ステンレス製) マグネットキャッチ(上下)
備考	三方枠建具工事

【改訂事項(公団住宅)】      【改訂事項(機構住宅)】  
 ・ 第3版 H. 4. 12. 1      ・ 第2版 H. 21. 12. 1  
 ・ 第4版 H. 8. 10. 1      ・ 第2版3刷 H. 31. 4. 1  
 ・ 第4版2版 H. 10. 2. 1  
 ・ 第5版 H. 13. 11. 1

名称	内装ドア建具図-2 [型式図]		
縮尺	1 : 20	AF - 202	頁 F-8



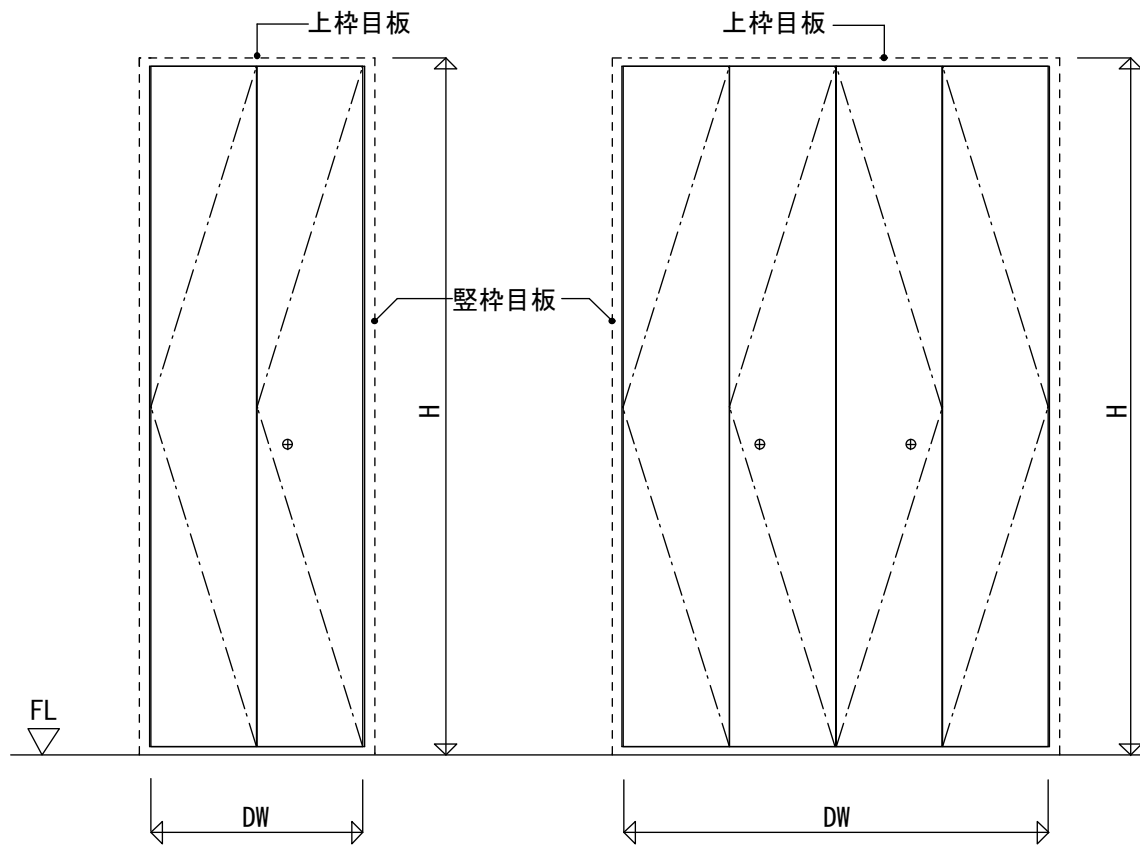
片引き戸わく廻り (平面図) 1:5

記号	WD
型式	木製片引きフラッシュドア (居室、洗面所用)
見込	戸厚 30・33
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	_____
仕上	建物設計図による
金物	床埋込レール (アルミ製) サイレント戸車 (2ヶ) (ナイロン製) AI-152 に準ずる 引手又は把手・鎌錠 AF-502 に準ずる 戸当り
備考	三方枠建具工事

【仕様】  
・鎌錠 (非常解錠装置付) を取り付ける場合は緊急時救出機構付とする。

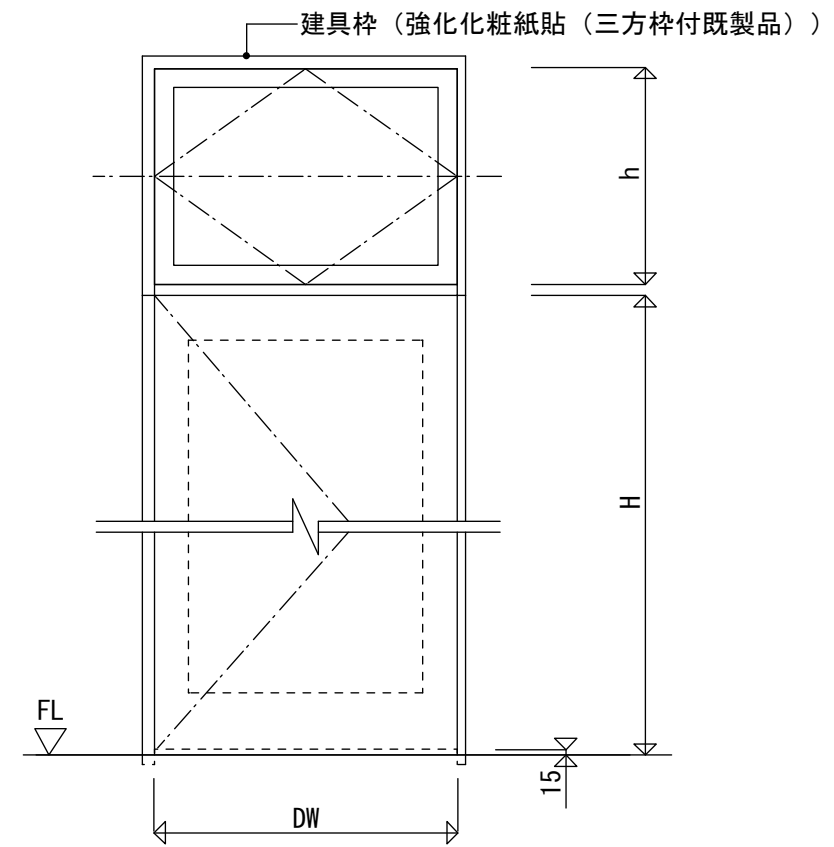
【附記事項】

【改訂事項 (公団住宅)】	【改訂事項 (機構住宅)】	名称	内装ドア建具図-3 〔型式図〕	
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1 : 5 1 : 20	AF - 203
・第4版 H. 8. 10. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1			頁 F-9
・第5版 H. 13. 11. 1				



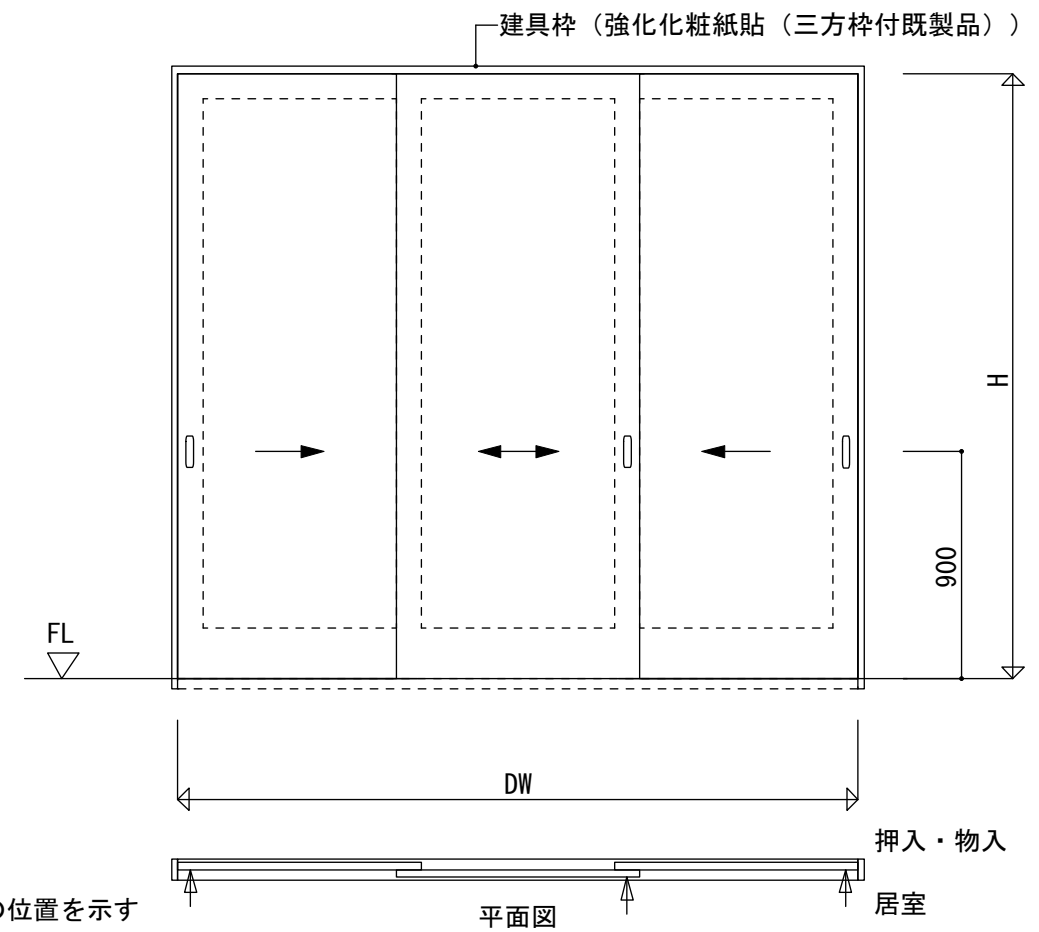
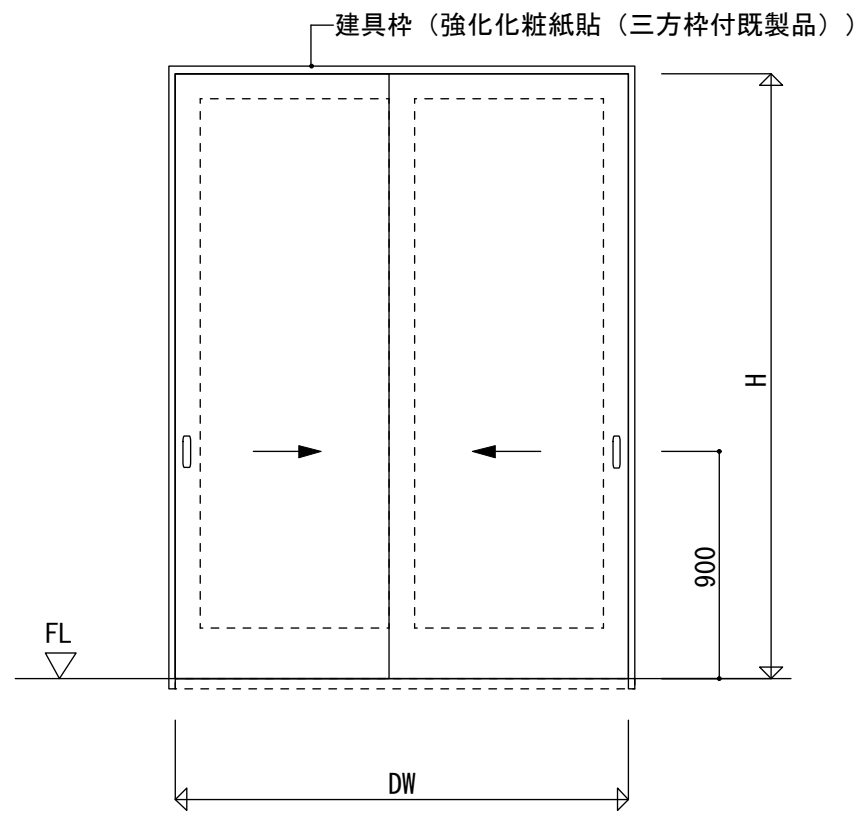
記号	WC
型式	木製折戸(指詰め防止加工)
見込	戸厚 30
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	—————
仕上	建物設計図による
金物	2枚折・4枚折金物一式 (メーカー仕様による) 把手・つまみ AF-504 に準ずる
備考	上枠目板の有無は建物設計図による

【仕様】	【附記事項】
------	--------



記号	WW
型式	木製回転ガラス窓
見込	戸厚 30
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	樹脂型硝子(ア3)
仕上	建物設計図による
金物	回転窓金物(黄銅鋳物製) クリックストッパー付 把手(亜鉛ダイキャスト製)イモ捻付
備考	AI-151 による。 三方枠・中枠建具工事

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	内装ドア建具図-4 〔型式図〕	
・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1	縮尺	1 : 20	AF - 204
・第4版 H. 8. 10. 1	・第2版3刷 H. 31. 4. 1			
・第5版 H. 13. 11. 1				
			頁	F-10



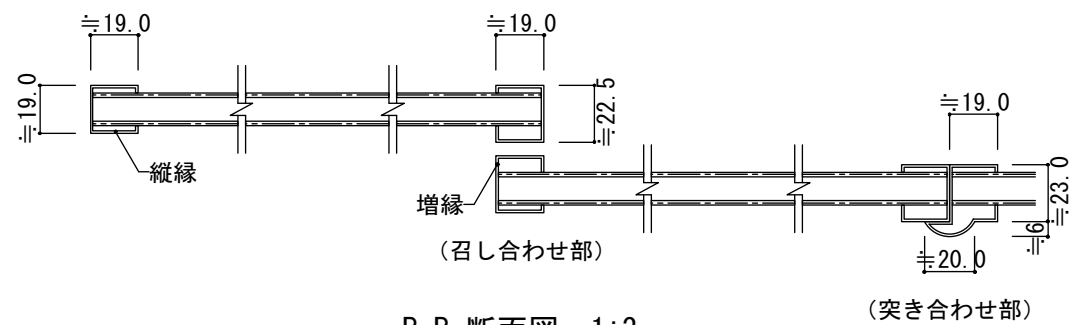
記号	WD 押入・物入
型式	木製引違いフラッシュドア(押入、物入用)
見込	戸厚 D
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	—————
仕上	戸:強化紙張 上枠、縦枠:強化紙張 下枠:UC塗装
金物	床埋込レール(アルミ製) サイレント戸車(4ヶ)(ナイロン製) AI-152 に準ずる 引手 AF-502 に準ずる
備考	三方枠建具工事

記号	WD 押入・物入
型式	木製2本溝3枚引違いフラッシュドア(押入、物入用)
見込	戸厚 D
材質	「別冊 機材の品質・性能基準」による
ガラス	—————
仕上	戸:強化紙張 上枠、縦枠:強化紙張 下枠:UC塗装
金物	床埋込レール(アルミ製) サイレント戸車(6ヶ)(ナイロン製) AI-152 に準ずる 引手 AF-502 に準ずる
備考	三方枠建具工事

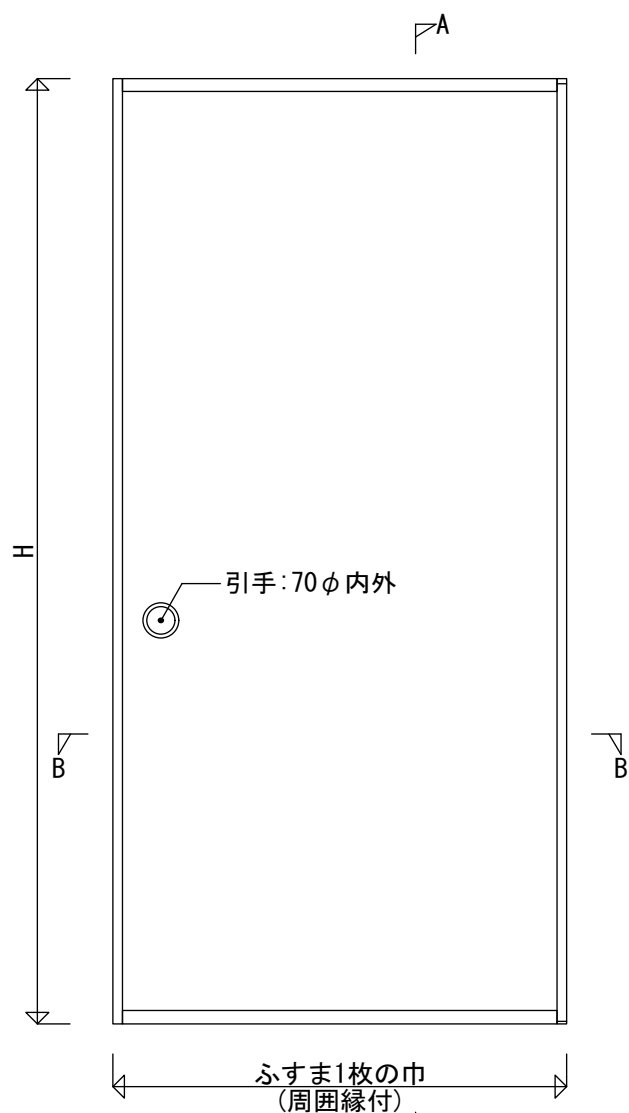
【仕様】	【附記事項】 ・戸厚 $H \leq 2.000$ の場合: $D=30\text{mm}$ 又は $33\text{mm}$ $H > 2.000$ の場合: $D=33\text{mm}$ とする。
------	---

【改訂事項(公団住宅)】	【改訂事項(機構住宅)】	名称	内装ドア建具図-5 〔型式図〕	
	・第1版(追) H. 17. 12. 1 ・第2版 H. 21. 12. 1 ・第2版3刷 H. 31. 4. 1	縮尺	1 : 30	AF - 205
				頁 F-11

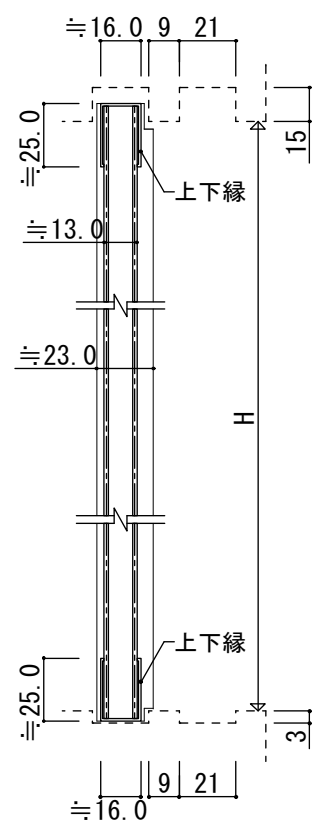
出入口・押入用



B-B 断面図 1:3

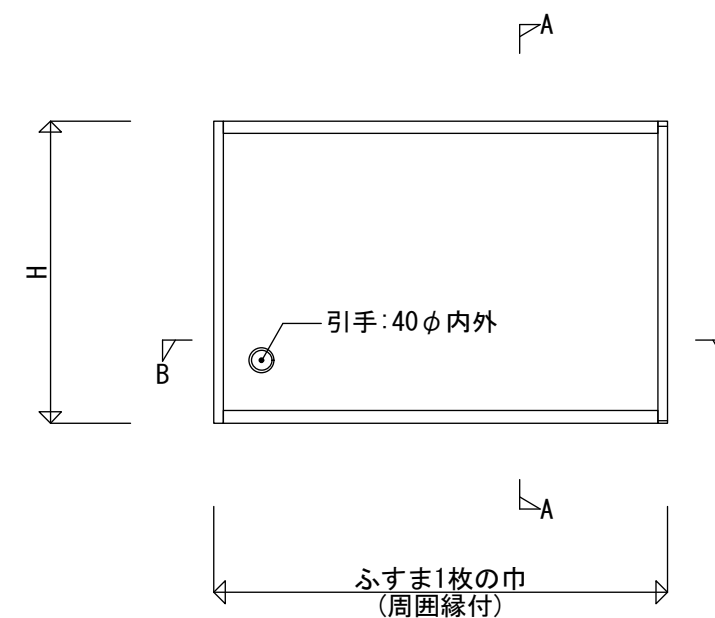


姿図



A-A 断面図 1:3

天袋・地袋用



姿図

【仕様】

- ・仕上は新鳥の子紙又はビニルシートとし建物設計図による。
- ・材質: 「別冊 機材の品質・性能基準」による。

【附記事項】

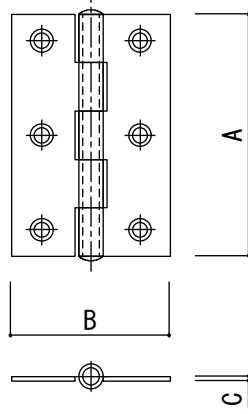
- ・H及びW(総幅寸法)は建物設計図による。

【改訂事項(公団住宅)】

【改訂事項(機構住宅)】

名称	量産ぶすま〔型式図〕		
縮尺	1:3	AF - 305	頁 F-12

A ステンレス鋼製角丁番

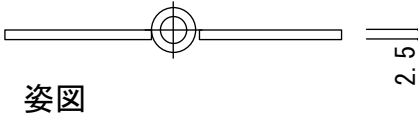
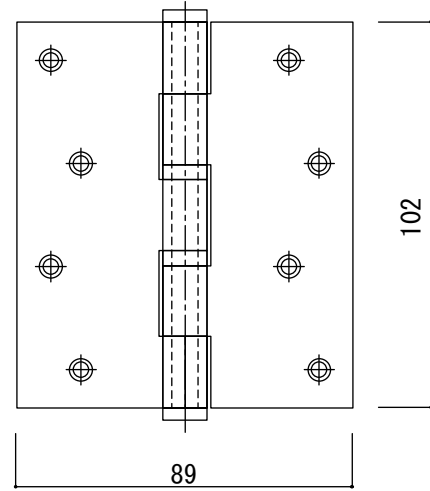


姿図

※物入用

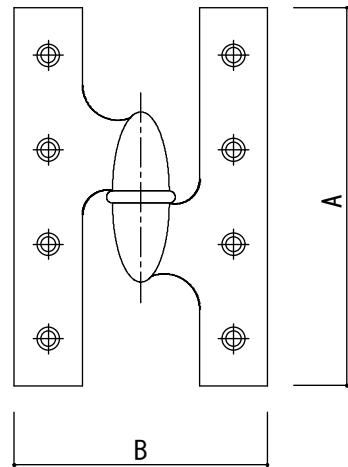
寸法表(単位mm)			
呼称	A	B	C
64	64	42	1.2
76	76	50	1.5
89	89	60	1.5

B ステンレス鋼製平儀星丁番 (ナイロンリング入り)



姿図

C 黄銅製フランス丁番

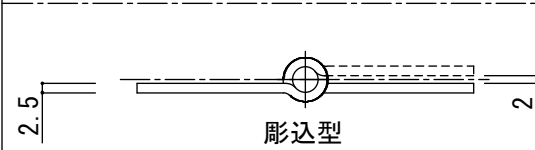
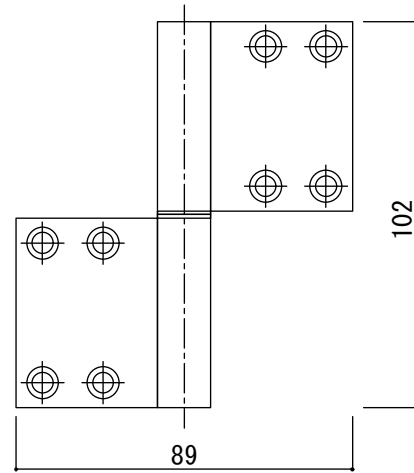


姿図

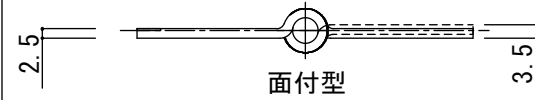
寸法表(単位 mm)			
呼称	A	B	C
102	102	80	3.8
127	127	90	4.5

D ステンレス鋼製旗丁番

※左右兼用  
(ナイロンリング入り)



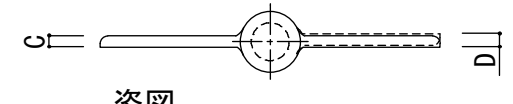
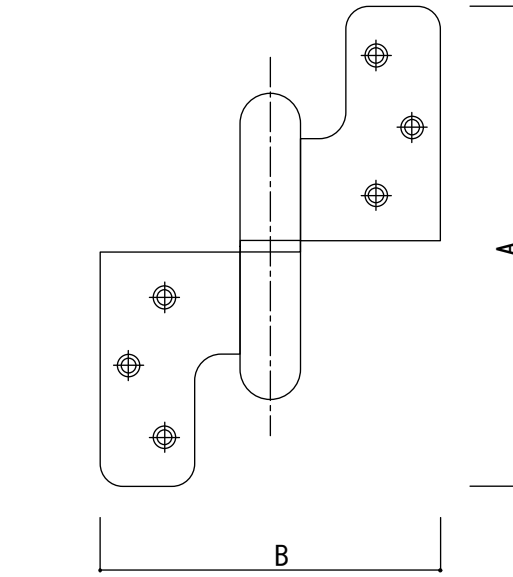
彫込型



面付型

姿図

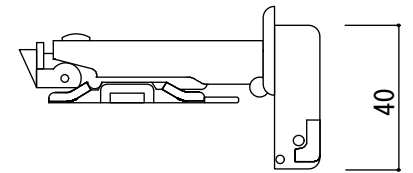
E フランス丁番 面付型



姿図

寸法表(単位 mm)				
呼称	A	B	C	D
102	102	95	2.5	2.5
127	127	100	3	3.5

F スライド丁番



姿図

全カブセ		半カブセ	
内部	扉	内部	扉
60	60	60	60
インセット、内吊り			
内部	扉	内部	扉
90	90	90	90

【仕様】

- ・ ABD: ステンレス製SUS304  
ヘアライン仕上又は  
ブロンズ仕上とする。  
軸芯材質 A: SUS304  
B: SUS304  
D: SUS304
- ・ C: 黄銅製サテンニッケル仕上  
又はブロンズ仕上とする。

- ・ E(102): ステンレス製SUS304  
ヘアライン仕上又は  
ブロンズ仕上とする。
- ・ E(127): 黄銅製サテンニッケル仕上  
又はブロンズ仕上とする。
- ・ F: 鋼板製ニッケルメッキ  
仕上とする。
- ・ 取付用ビスはステンレス製  
SUS304又は黄銅製とする。

【附記事項】

- ・ Dタイプの彫込型、面付型は  
建物設計図による。

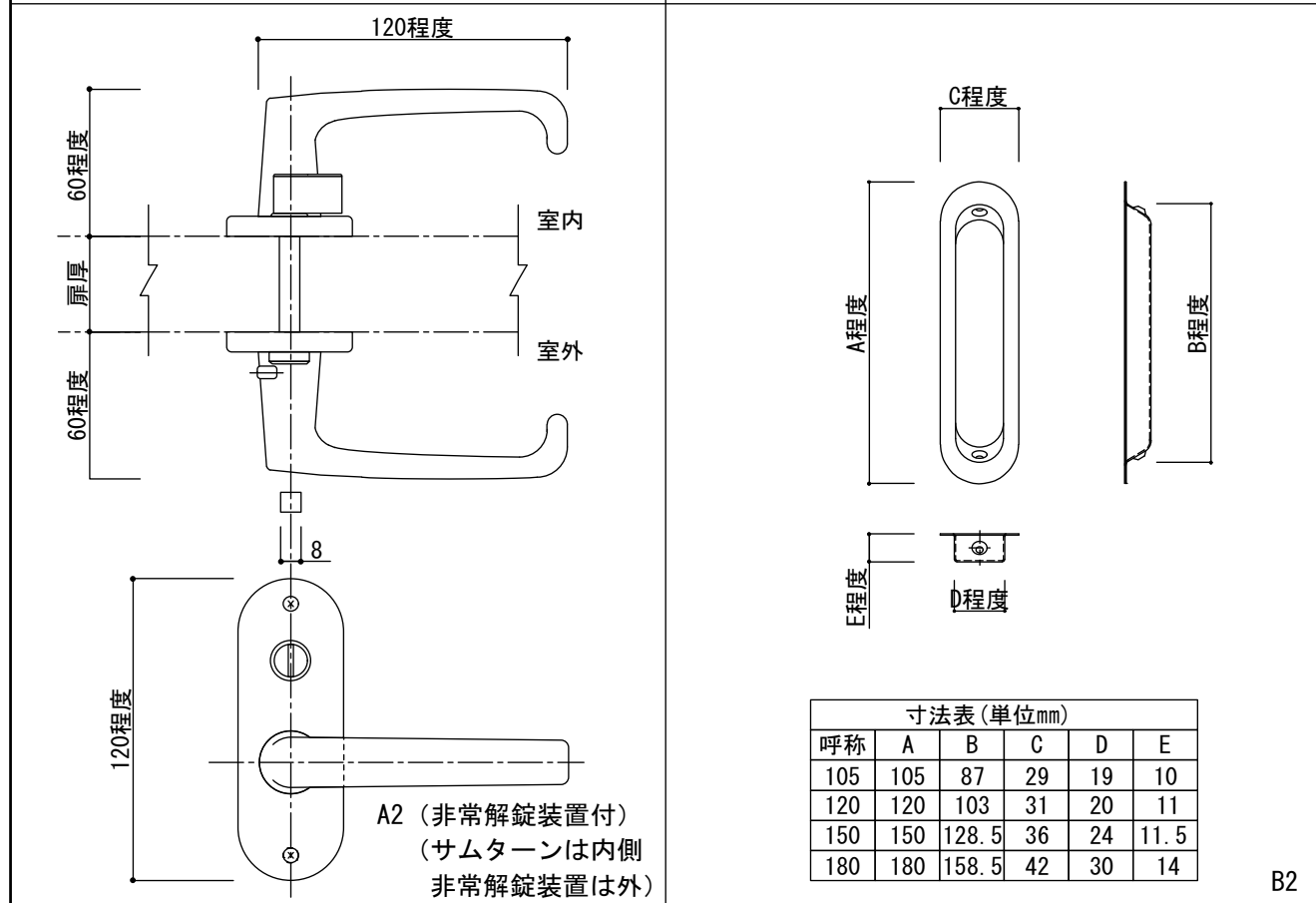
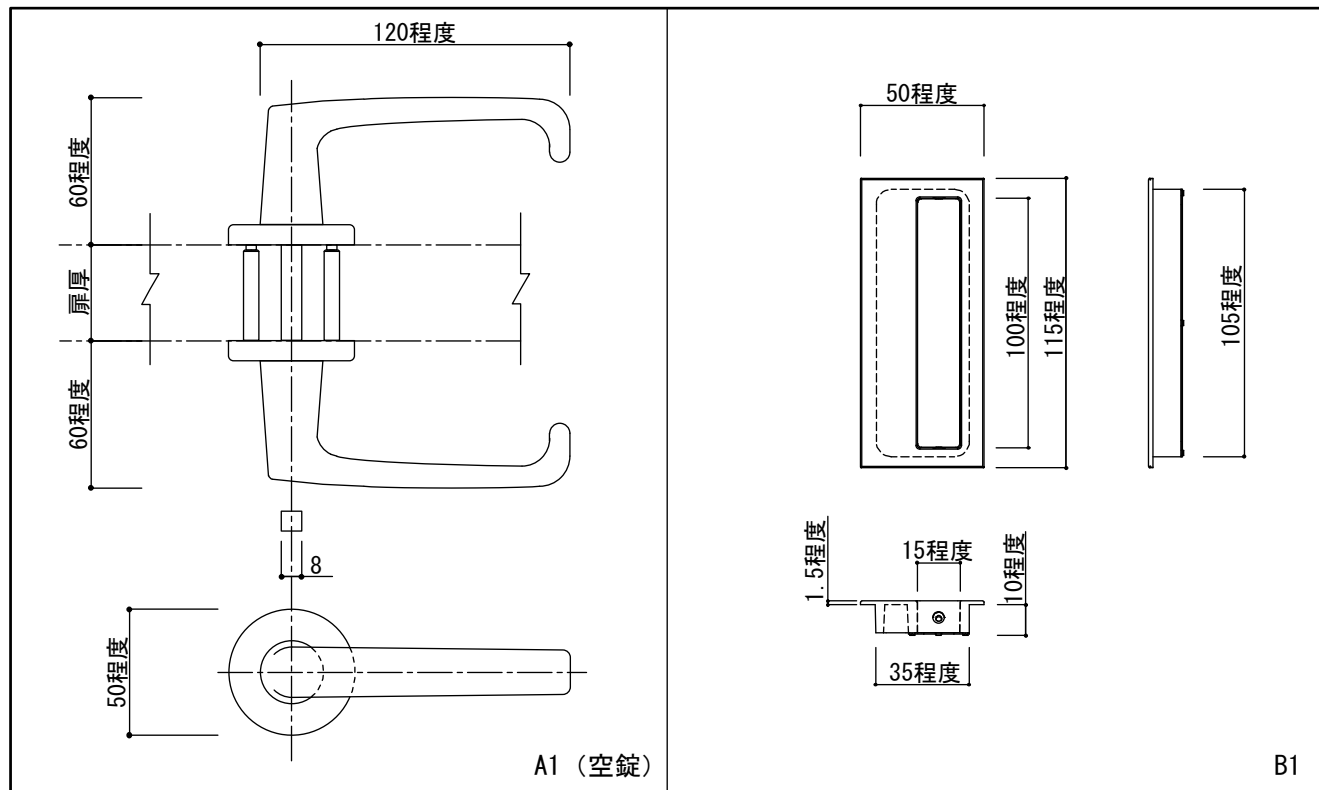
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

名称	建具金物 丁番〔型式図〕			頁 F-13
	縮尺	1:2	1:5	

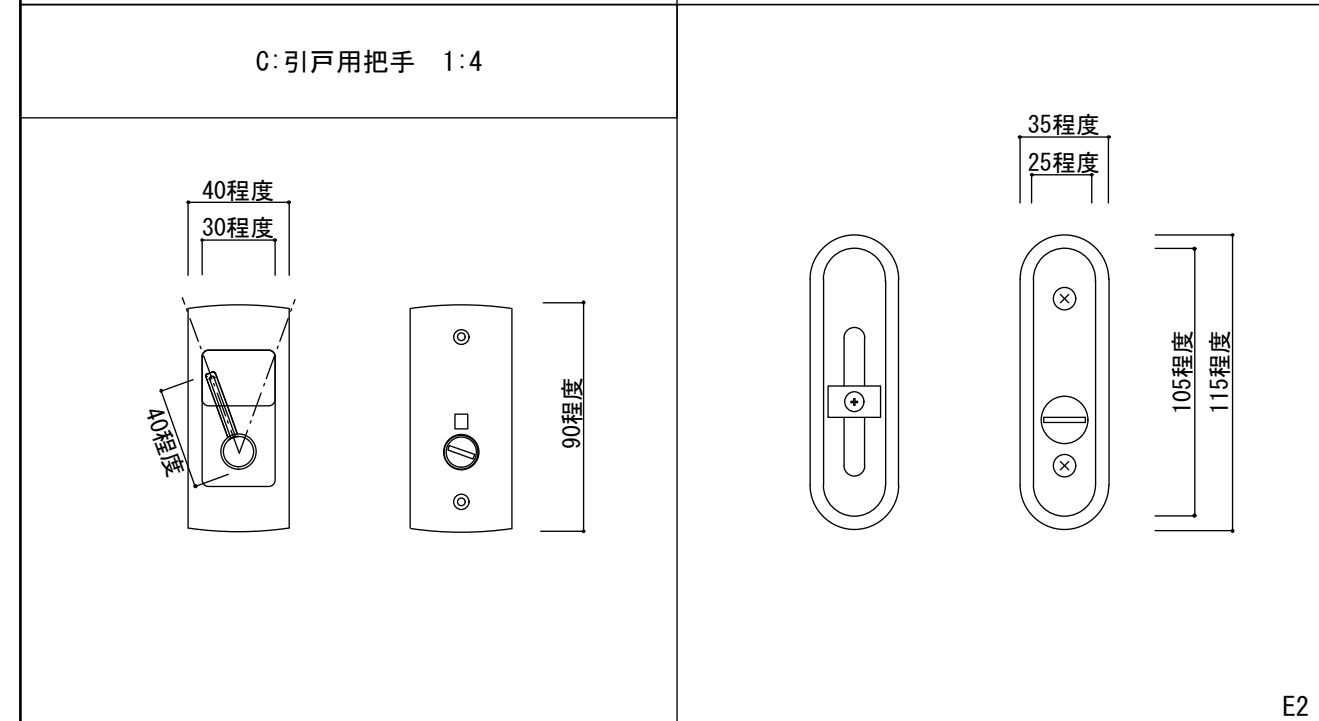
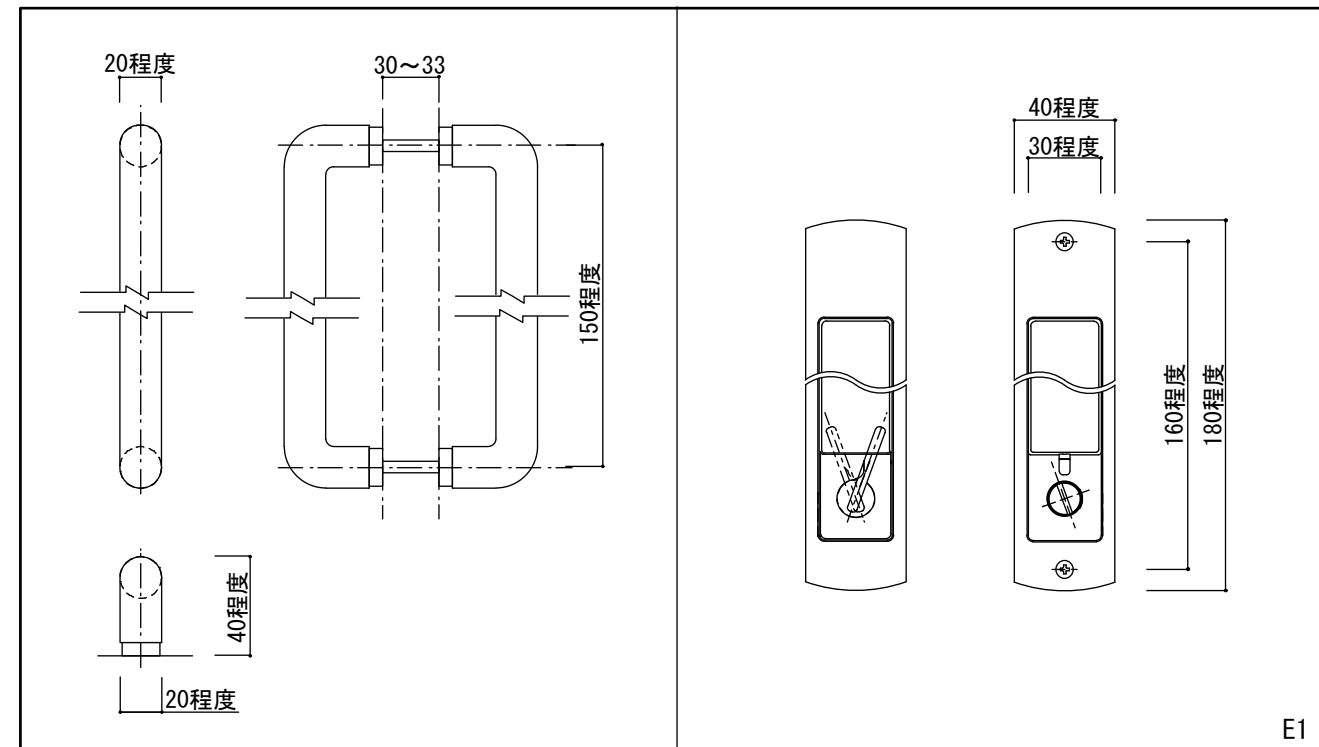




【仕様】  
・A1, A2  
材質: ステンレス製、黄銅製又はアルミ製  
居間、個室用: A1 便所用: A2  
ケースは箱錠タイプとする。

・B1  
材質: 亜鉛  
仕上: クローム又はサテンニッケル

・B2  
材質: ステンレス製SUS304  
仕上: ヘアライン又はアンバー



D: 錠錠(非常解錠装置付) 1:3 E: 引手付錠錠(非常解錠装置付) 1:3

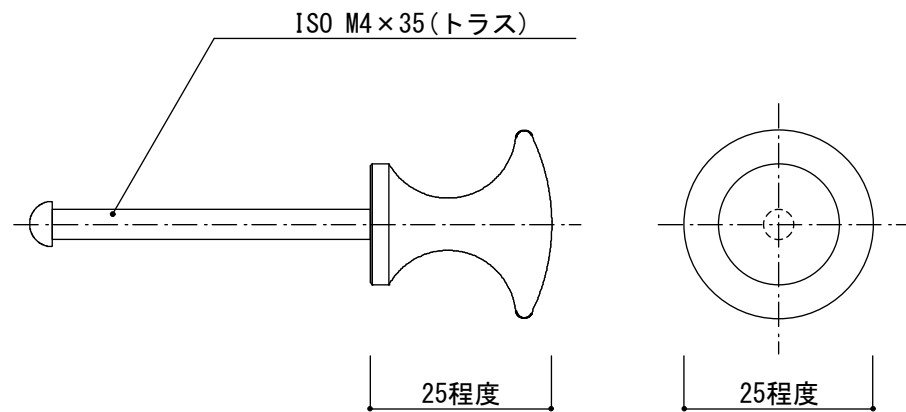
【仕様】  
・C  
材質: 黄銅製又は樹脂製  
仕上: サテックローム、ブロンズ又は乳白

・D, E1, E2  
材質: ステンレス製SUS304、亜鉛又は黄銅製  
仕上: ヘアライン、サテンニッケル又はブロンズ

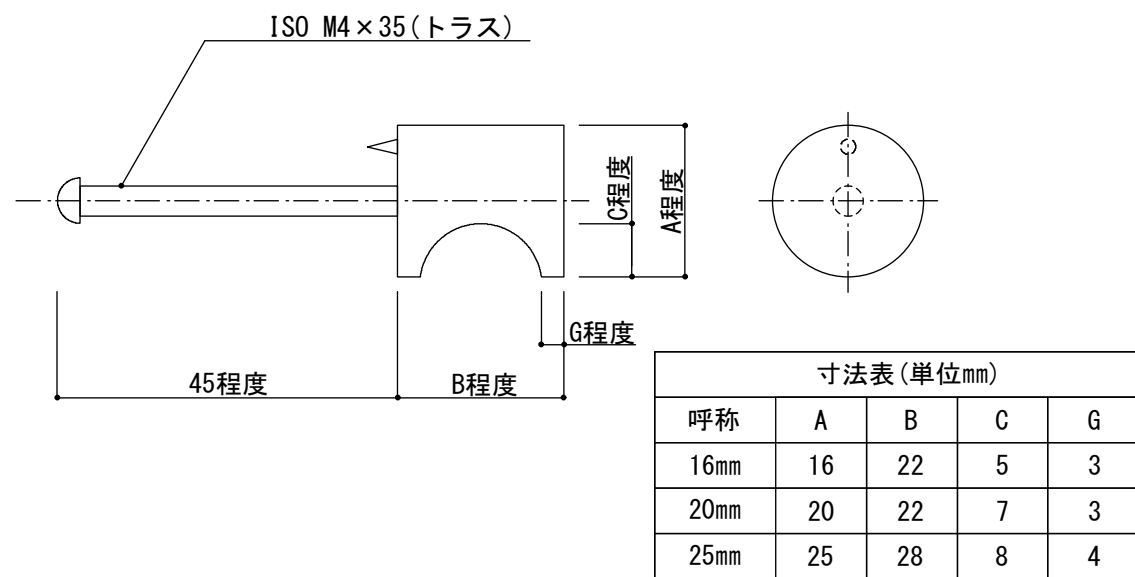
【附記事項】  
・引違い戸にはB2を使用すること。  
・Dを使用する場合はB1、B2又はCを併用すること。

【改訂事項(公団住宅)】		【改訂事項(機構住宅)】	
・第2版 S. 61. 12. 1	・第3版 H. 4. 12. 1	・第2版 H. 21. 12. 1	・第4版 H. 8. 10. 1
・第4版 H. 8. 10. 1	・第5版 H. 13. 11. 1		

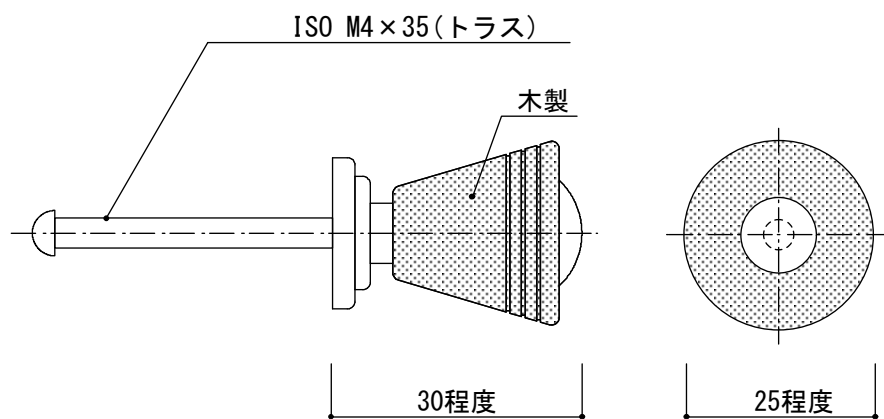
名称	建具金物 レバーハンドル・引戸用 〔型式図〕		頁
縮尺	1:3 1:4	AF - 502	F-14



A1

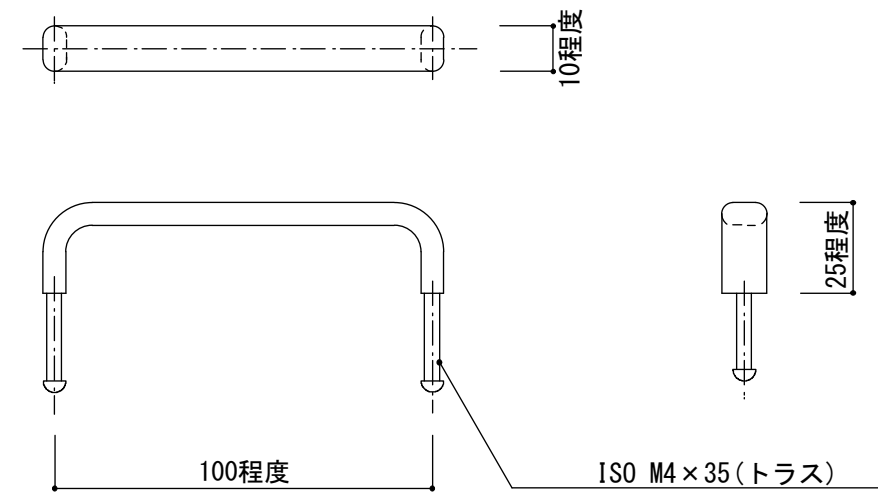


A2

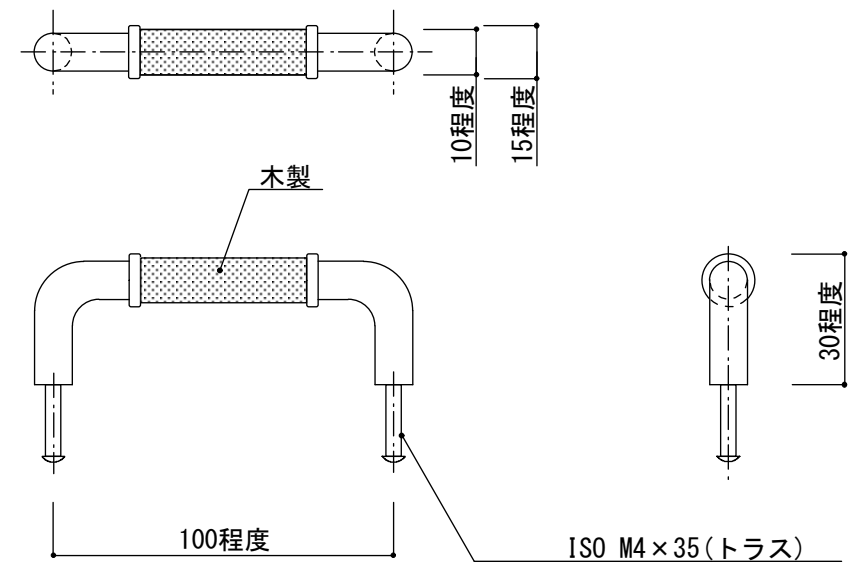


A3

A:つまみ 1:1



B1



B2

B:一文字取手 1:2

【仕様】

- ・ A1  
材質:黄銅製又はアルミ製  
仕上:サテンニッケル又はブロンズ  
又は  
材質:木製  
仕上:クリアー
- ・ A2  
材質:黄銅製  
仕上:黄銅磨き又はサテンニッケル  
又はブロンズ
- ・ A3、B2  
材質:黄銅製+木製  
仕上:クローム+オークブラウン
- ・ B1  
材質:ステンレス製又は黄銅製  
仕上:ヘアライン又はサテンク  
ローム又はブロンズ

【附記事項】

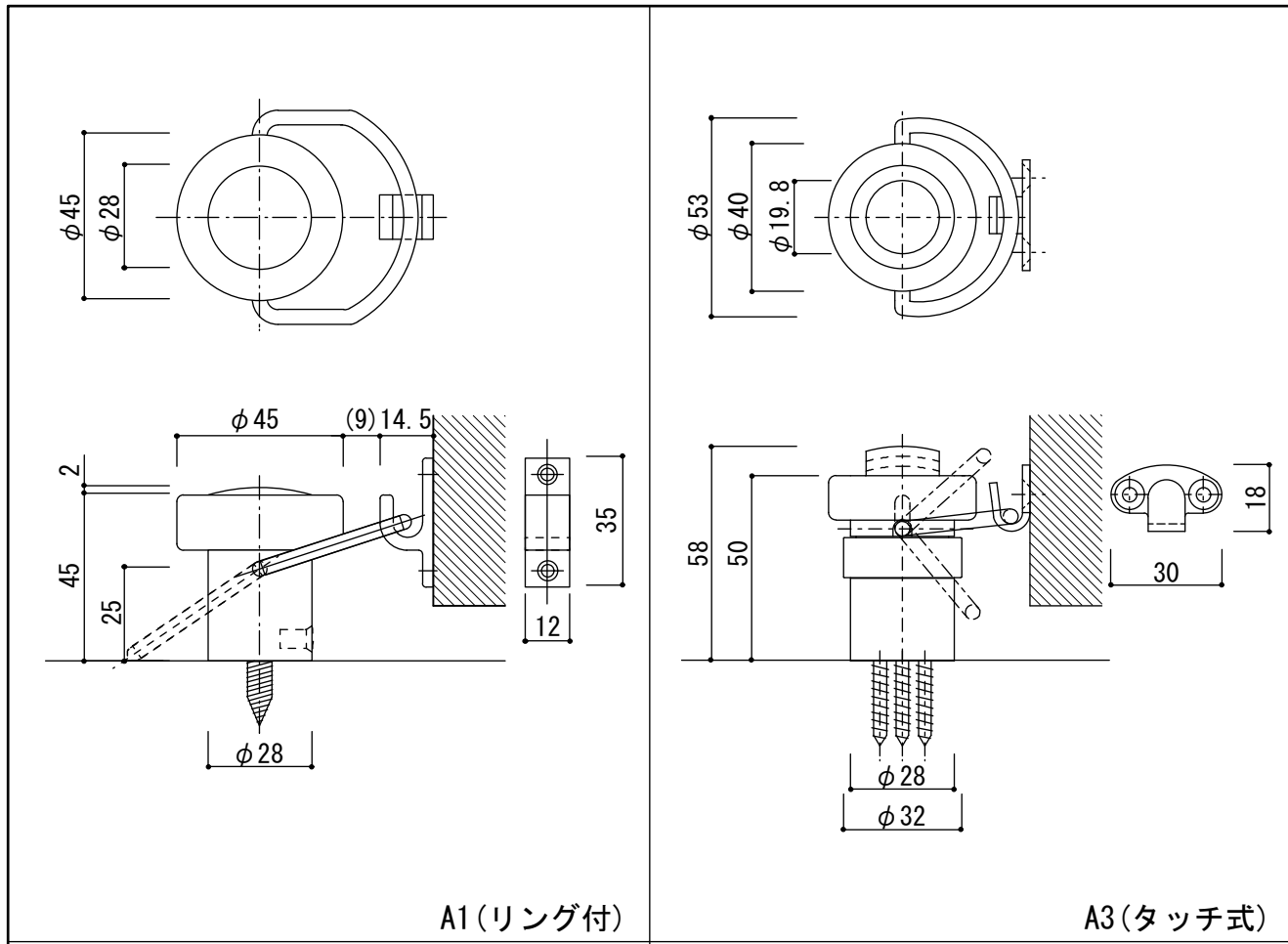
【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

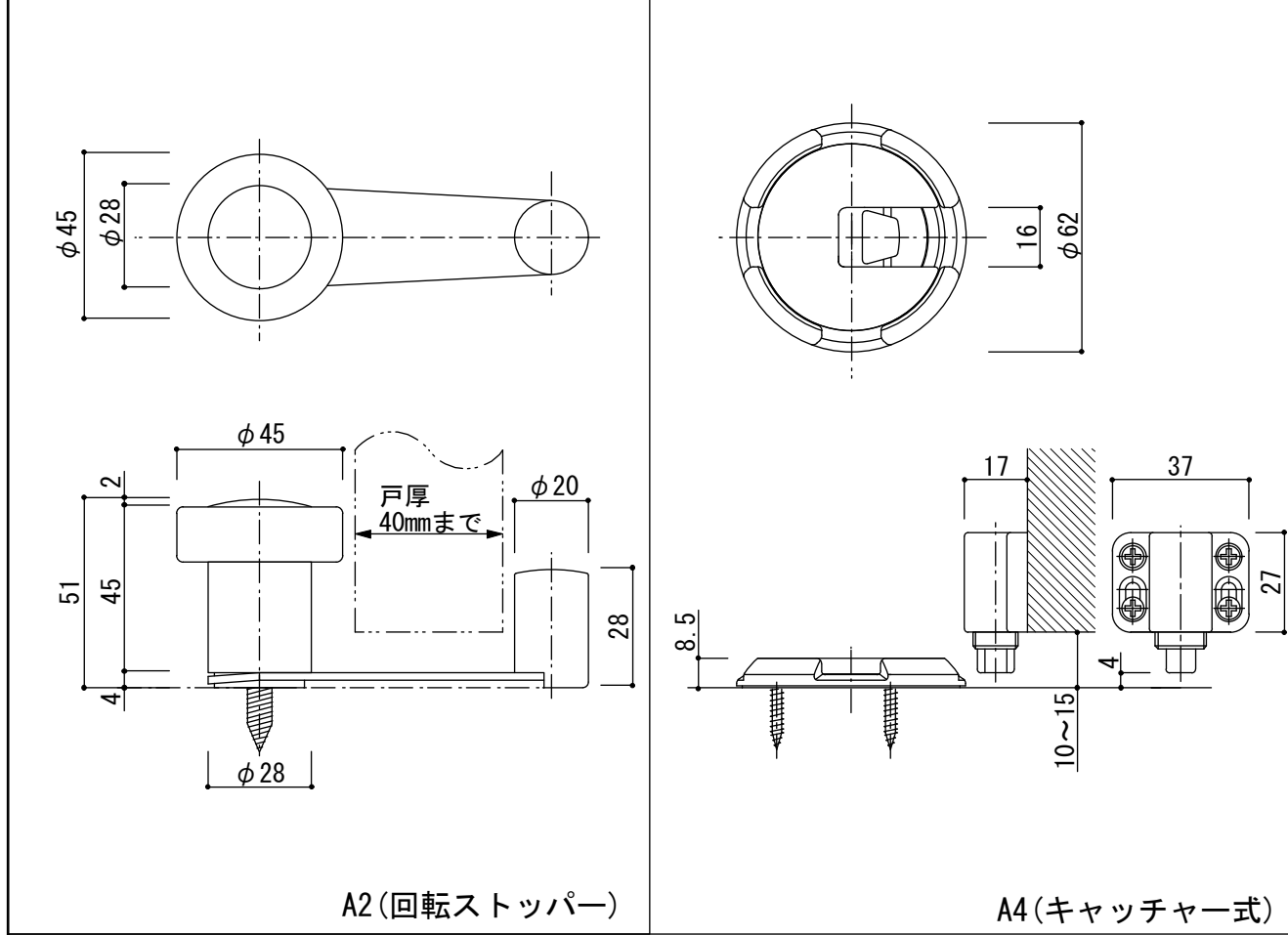
- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	建具金物 物入用【型式図】			頁 F-15
	縮尺	1:1 1:2	AF - 504	



A1(リング付)

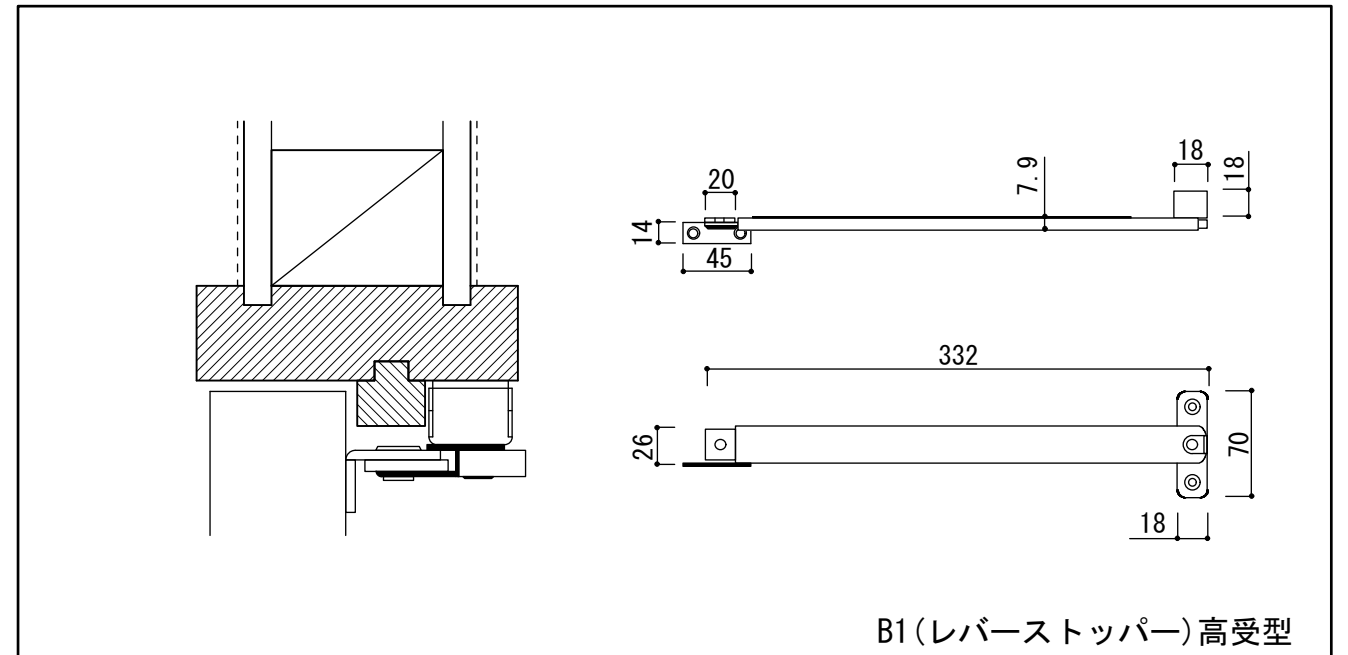
A3(タッチ式)



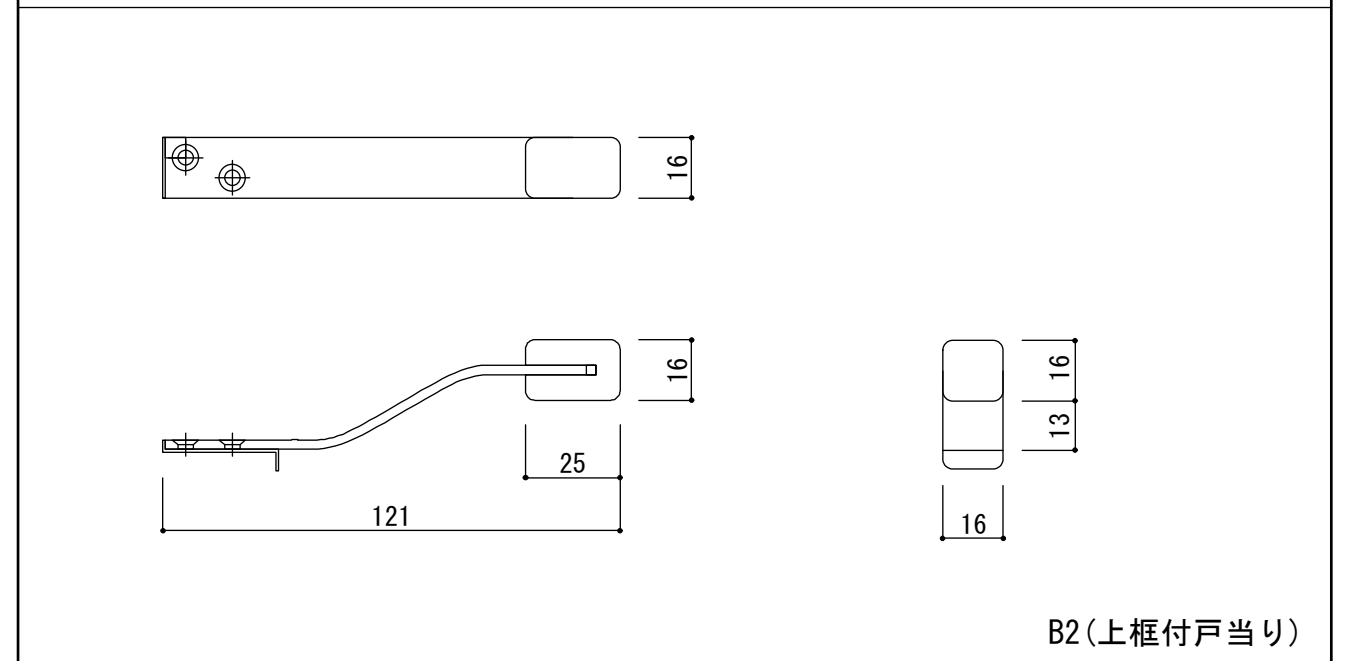
A2(回転ストッパー)

A4(キャッチャー式)

A: 床付戸当り



B1(レバーストッパー)高受型



B2(上框付戸当り)

B: ドア用ストッパー

【仕様】

- ・ A1, A2  
材質: 黄銅製  
合成ゴム(ブラック)  
仕上: サテンクローム又はブロンズ  
ビス止: 木質系床材等の場合  
取付 8×30
- ・ A3  
材質: 亜鉛  
合成ゴム(ブラック)  
仕上: サテンニッケル又はクローム  
ビス止: 木質系床材等の場合  
取付 3.5×35

- ・ A4  
材質: 亜鉛  
仕上: サテンニッケル又はクローム  
ビス止: 木質系床材等の場合  
取付 3.5×20
- ・ B1  
材質: ステンレス製SUS304  
仕上: ヘアライン又はブロンズ
- ・ B2  
材質: ステンレス製SUS304  
合成ゴム(ブラック)  
仕上: ヘアライン又はブロンズ

【附記事項】

- ・ 取付用ビスはステンレス製SUS304又は黄銅製とする。

【改訂事項(公団住宅)】

- ・ 第2版 S. 61. 12. 1
- ・ 第3版 H. 4. 12. 1
- ・ 第4版 H. 8. 10. 1
- ・ 第5版 H. 13. 11. 1

【改訂事項(機構住宅)】

- ・ 第2版 H. 21. 12. 1

名称	建具金物 戸当り・レバーストッパー 〔型式図〕		頁 F-16
	縮尺	1 : 2 1 : 3 1 : 5	

# ラ－メン構造設計図

# 共通事項

## 1) 鉄筋の表示記号

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
表示記号	•	×	○	●	∅	⊙	⊗	⊚	⊛	⊜	⊝

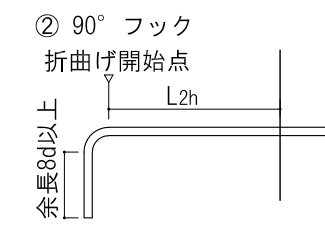
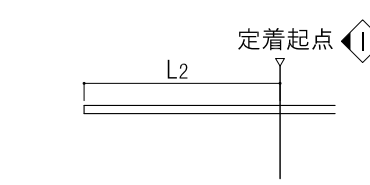
## 2) 鉄筋の継手および定着長さ

註) d は異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。( )内は、フック付きを示す。

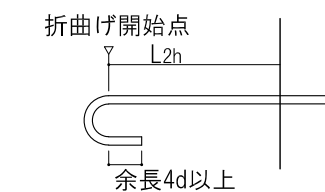
コンクリート設計 鉄筋種別		$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$				$24\text{N/mm}^2 \leq F_c \leq 27\text{N/mm}^2$				$30\text{N/mm}^2 \leq F_c \leq 36\text{N/mm}^2$				$39\text{N/mm}^2 \leq F_c \leq 45\text{N/mm}^2$			
形状	材質	L1 (L1h) ◀A	L2 (L2h) ◀B	La ◀C	Lb ◀D	L1 (L1h) ◀A	L2 (L2h) ◀B	La ◀C	Lb ◀D	L1 (L1h) ◀A	L2 (L2h) ◀B	La ◀C	Lb ◀D	L1 (L1h) ◀A	L2 (L2h) ◀B	La ◀C	Lb ◀D
異形鉄筋	SD 295	40d (30d)	35d (25d)	15d	15d	35d (25d)	30d (20d)	15d	15d	35d (25d)	30d (20d)	15d	15d	30d (20d)	25d (15d)	15d	15d
	SD 345	45d (30d)	35d (25d)	20d	20d	40d (30d)	35d (25d)	20d	15d	35d (25d)	30d (20d)	15d	15d	35d (25d)	30d (20d)	15d	15d
	SD 390	50d (35d)	40d (30d)	20d	20d	45d (35d)	40d (30d)	20d	20d	40d (30d)	35d (25d)	20d	15d	40d (30d)	35d (25d)	15d	15d
	SD 490	—	—	—	—	55d (40d)	45d (35d)	25d	—	50d (35d)	40d (30d)	25d	—	45d (35d)	40d (30d)	20d	—

コンクリート設計 鉄筋種別		$48\text{N/mm}^2 \leq F_c \leq 60\text{N/mm}^2$				$21\text{N/mm}^2 \leq F_c \leq 60\text{N/mm}^2$	
形状	材質	L1 (L1h) ◀A	L2 (L2h) ◀B	La ◀C	Lb ◀D	L3 (L3h) ◀E	L4 ◀F
異形鉄筋	SD 295	30d (20d)	25d (15d)	15d	15d	20d (10d)	10d かつ 150mm以上
	SD 345	30d (20d)	25d (15d)	15d	15d		
	SD 390	35d (25d)	30d (20d)	15d	15d		
	SD 490	40d (30d)	35d (25d)	20d	—		

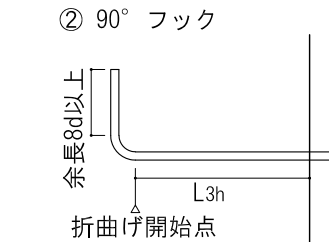
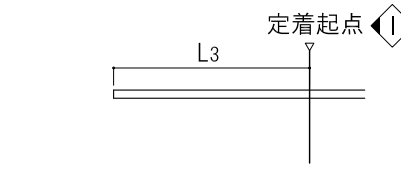
(c) L2 (L2h) の定着長さ ◀B  
① フック無し



③ 180° フック



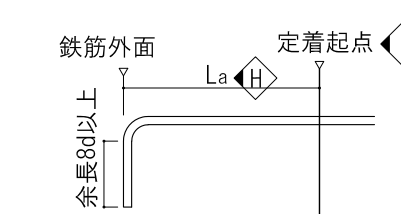
(d) L3 (L3h) の定着長さ ◀E  
① フック無し



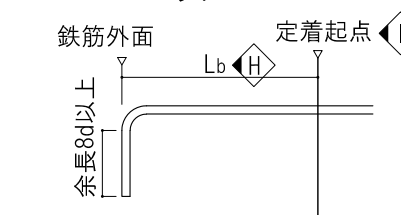
③ 180° フック



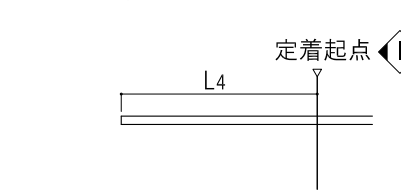
(e) 投影定着長さLa ◀C  
・ 90° フック



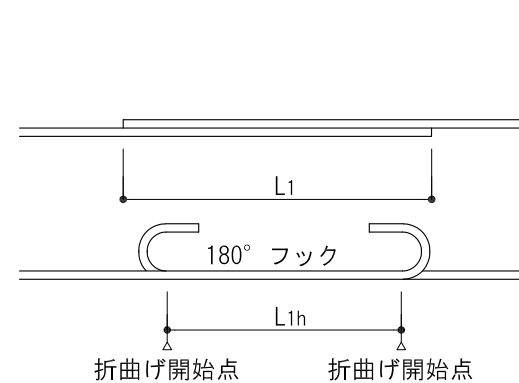
(f) 投影定着長さLb ◀D  
・ 90° フック



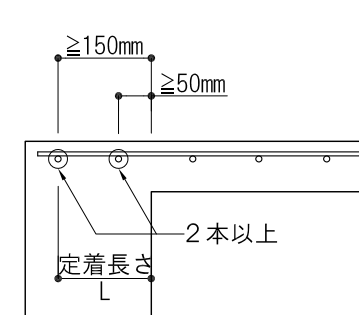
(g) L4 の定着長さ ◀F  
・ フック無し



(a) L1 (L1h) の重ね継手長さ ◀A



(b) 溶接金網の定着長さ ◀G



◀A L1 (L1h) は重ね継手長さを示す。ただし、径の異なる鉄筋の重ね継手長さは細い方の呼び名の値による。また図示のように末端のフックは、重ね長さに算入しない。  
D29 以上の鉄筋は、壁・基礎スラブ・杭主筋を除き重ね継手を設けてはならない。

◀B L2 (L2h) は一般部分 (柱、大梁主筋、基礎梁、片持ち梁、小梁、スラブの端部上端筋、耐力壁・非耐力壁の縦・横筋および開口補強筋) の定着長さを示す。

◀C La は大梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影定着長さを示す。

◀D Lb は小梁上端筋及びスラブの上端筋の投影定着長さを示す。

◀E L3 (L3h) は小梁下端筋の定着長さを示す。ただし、片持ち小梁・片持ちスラブの下端筋を直線定着する場合は、25d以上とする。

◀F L4 はスラブ下端筋の定着長さを示す。ただし、梁曲げ強度算定時に下端筋を算入する場合は、柱フェイス位置より L2 (L2h) とする (図面特記)。なお、耐力版の下端筋は引張力を受けるので、折り曲げ定着する場合は L2h (L2 かつ La) とする。片持スラブの下端筋の定着長さは、小梁下端筋用の L3 とする。

◀G 定着部に溶接点の剥離がないことを確認できた場合の溶接金網の定着長さ L は、支持部材の内側表面から溶接金網の最外端の横筋までの距離とし、その値は横筋間隔に 50mm を加えた長さ以上、かつ 150mm 以上とする。なお、鉄筋格子の場合は 2) の L2 による。

◀H 投影定着長さとは定着起点から折曲げ部の鉄筋外面までの投影長さを示す。

◀I 定着起点とは鉄筋の定着のための必要な付着応力が期待できる最初の位置を示す。

附記事項  
・ 鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項  
・ SD490の追加  
・ JIS規格変更に伴うSD295の変更

名称  
共通事項(1)

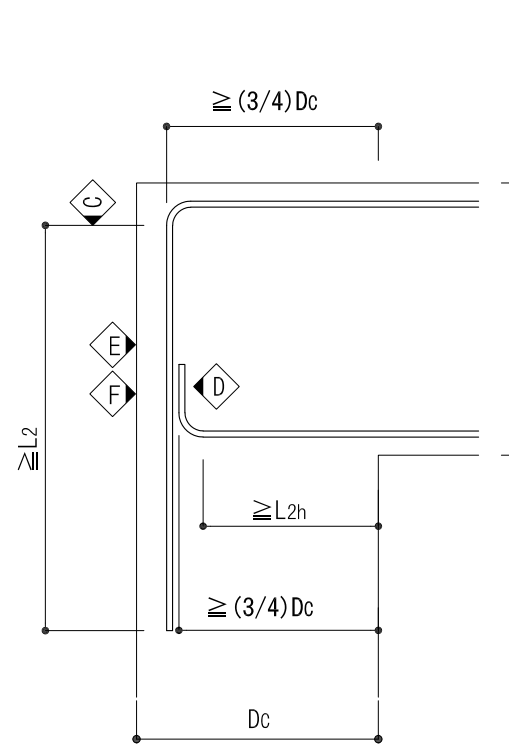
縮尺  
SR - 000

### 3) 大梁主筋の柱内定着

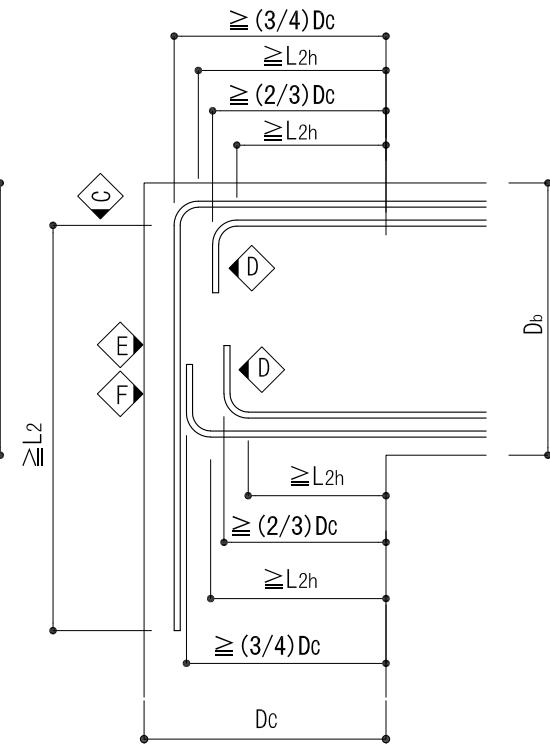
#### (a) 最上階の場合

##### ① フック付き定着長さが $L_{2h}$ を確保できる場合 A

###### (i) 1段配筋の場合

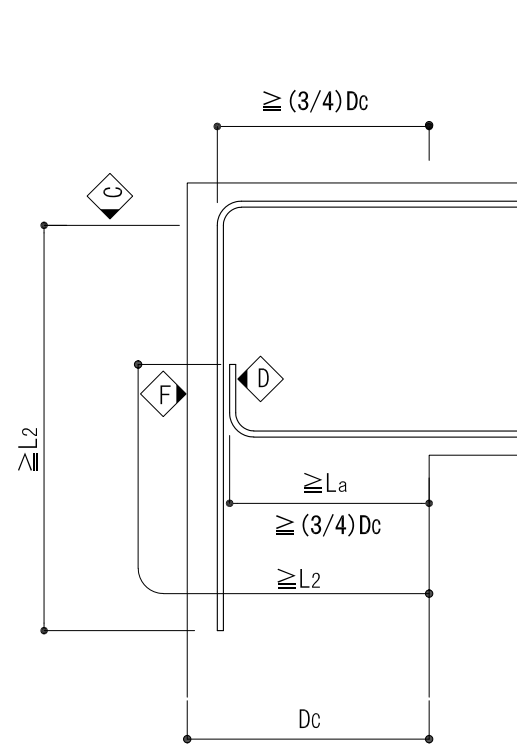


###### (ii) 2段配筋の場合

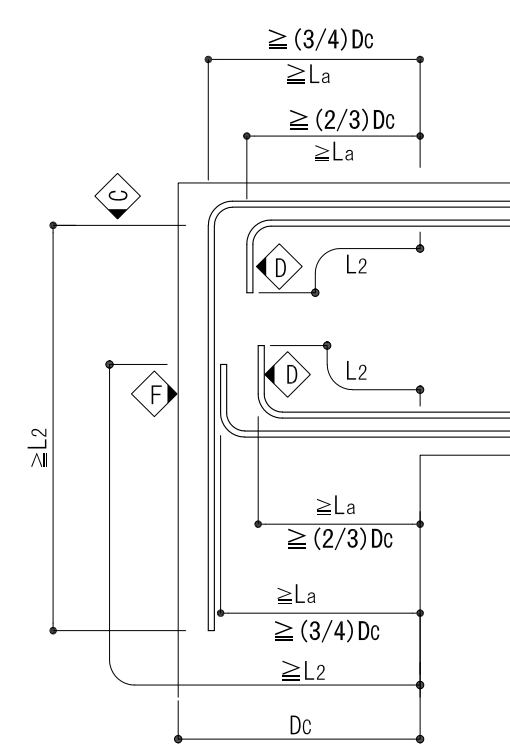


##### ② フック付き定着長さが $L_{2h}$ を確保できない場合は $L_a$ かつ $L_2$ を確保する B

###### (i) 1段配筋の場合



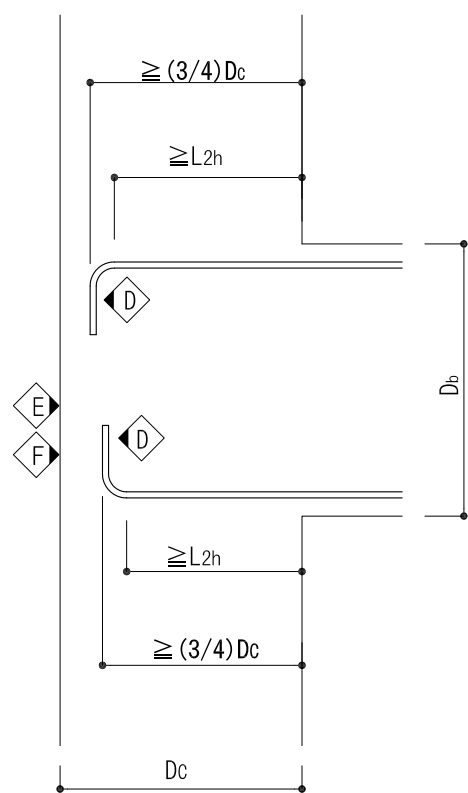
###### (ii) 2段配筋の場合



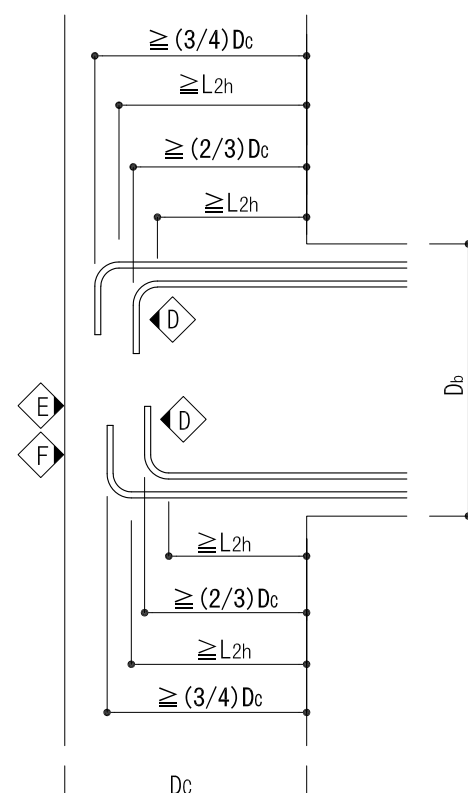
#### (b) 一般階の場合

##### ① フック付き定着長さが $L_{2h}$ を確保できる場合 A

###### (i) 1段配筋の場合

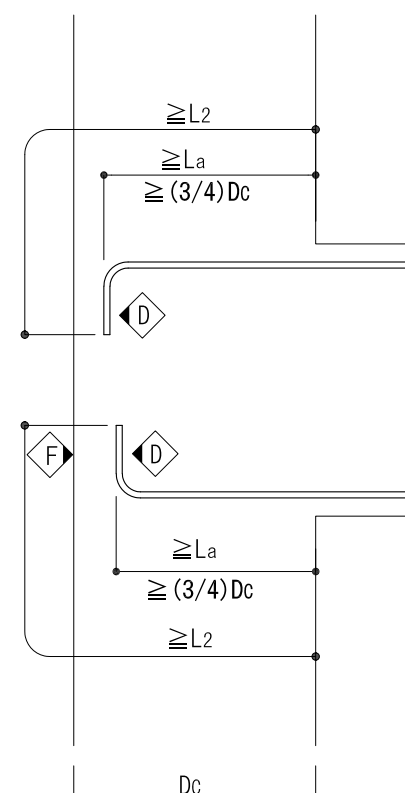


###### (ii) 2段配筋の場合

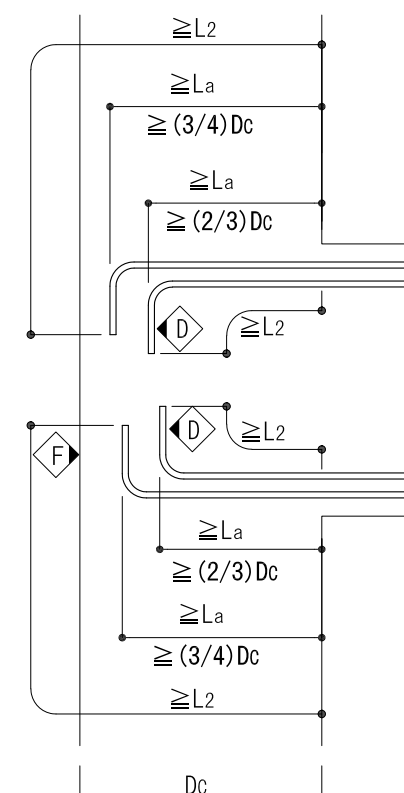


##### ② フック付き定着長さが $L_{2h}$ を確保できない場合は $L_a$ かつ $L_2$ を確保する B

###### (i) 1段配筋の場合



###### (ii) 2段配筋の場合



仕様

- A 梁主筋定着長さは、 $L_{2h}$ とする。ただし、梁主筋の投影定着長さは柱せい( $D_c$ )の(1段筋)3/4倍以上、(2段筋)2/3倍以上とする。
- B 梁主筋定着長さ  $L_{2h}$  を確保できない場合は、 $L_a$  かつ  $L_2$  とする。ただし、 $L_a$  は柱せい( $D_c$ )の3/4倍以上とする。
- C 最上階の上端の1段筋は、折曲げ終点から鉄筋端部までを定着長さとする。
- D フックを設けた場合の上端の1, 2段筋, 下端の1, 2段筋の余長はSR-003による。
- E 柱せい( $D_c$ )が梁せい( $D_b$ )の2倍以上ある場合( $2 \times D_b \leq D_c$ )は、直線定着 $L_2$ (フック無し)としても良いが、柱せい( $D_c$ )の3/4倍以上とする。なお、出隅部の梁主筋はフック付とする。
- F 下端筋の末端は曲上げを原則とするが、やむを得ない場合は曲下げ定着でもよい。

附記事項

・梁主筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項

・2段筋の投影定着長さの修正。

名称

共通事項(2)

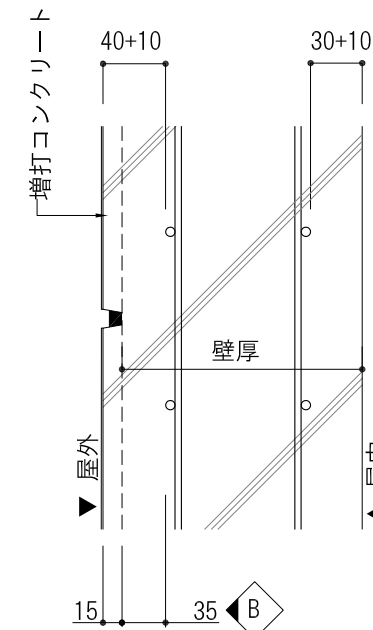
縮尺

SR - 001

4) 鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さの最小値 ◀A

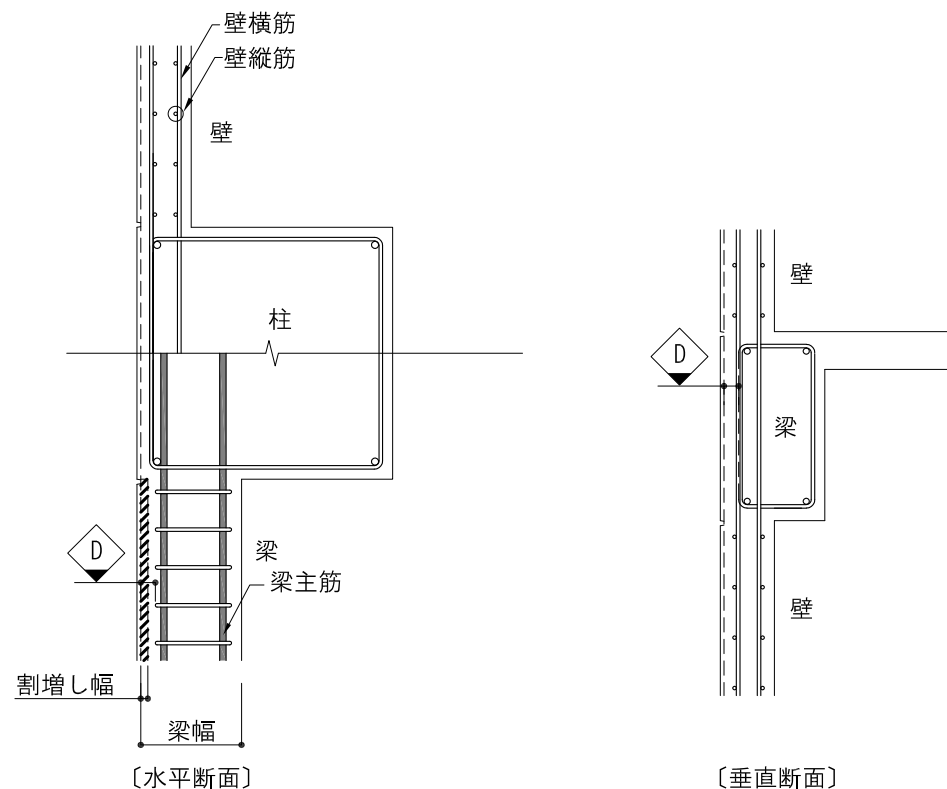
構造部分の種類		コンクリートの種類		設計かぶり厚さ (mm)		
		普通コンクリート	軽量コンクリート	普通コンクリート	軽量コンクリート	
土に接しない部分	スラブ・非耐力壁	屋外に面しない部分	20	30	30	40
		屋外に面する部分	30(20) <sup>*3</sup>	30(20) <sup>*3</sup>	40(30) <sup>*3</sup>	40(30) <sup>*3</sup>
	柱・梁・耐力壁 手すり・パラペット立上り	屋外に面しない部分	30	30	40	40
		屋外に面する部分	40(30) <sup>*3</sup>	40(30) <sup>*3</sup>	50(40) <sup>*3</sup>	50(40) <sup>*3</sup>
擁壁	40	*1	50	*1		
土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁・構造壁	40	*1	50	*1	
	基礎・擁壁	60 <sup>*2</sup>	*1	70 <sup>*2</sup>	*1	

- \*1 土に接する場合, および擁壁には軽量コンクリートを使用しない.
- \*2 捨コンクリートは, かぶり厚さに算入しない.
- \*3 ( )内数値は, 屋外に面している場合で, タイル貼り, 又はモルタル塗り仕上げなど耐久性上有効な仕上げのある場合を示す.



・上図は外壁(耐力壁)の設計かぶり厚さを示す。

5) 梁と柱が同一面に配置される場合の梁および壁の割増し幅 ◀C



仕様

- ◀A 各部位の設計かぶり厚さに関する基本的な考え方については, SR-016 を参照のこと.
- ◀B 目地底からの設計かぶり厚さを示す, 耐力壁の設計かぶり厚さは目地底から45mmとする.
- ◀C 柱・梁の面を同一面とする場合は, 梁主筋を柱主筋の内側に配筋するため, 梁側面のかぶり厚さは最小値よりも大きくなる. 梁幅を決定する際には割増し幅を考慮すること.
- ◀D 梁の鉄筋のかぶり厚さには, 割増し幅を含む.

附記事項

- ・表に示す「最小かぶり厚さ」は, 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に示される値で, 建築基準法の値とは異なるものである.
- ・本標準図においては壁の幅止め筋は, 防錆処理(溶融亜鉛めっき等)を行なうこととし(図面特記に記載のこと), かぶり厚さの対象とはしない. なお, 幅止め筋を縦筋にかける場合は, そのピッチを通常の1/2とする. その場合には防錆処理は不要とする. ただし, 「SR-118」の地下壁を除く.
- ・以下, 標準図における表示は, 設計かぶり厚さによる表示を行なう.

改訂事項

- ・かぶり厚さの記載の修正

名称

共通事項(3)

縮尺

SR - 002

6) 鉄筋の折り曲げ規準 A

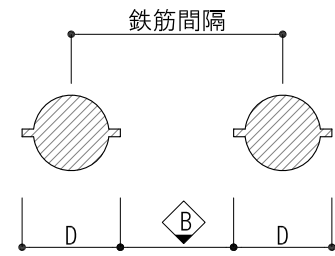
註) ・ d は異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。  
 ・ D は鉄筋折り曲げ内のり直径を, Lは余長を示す。

鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の折り曲げ形状	折り曲げ内のり直径 (D), 余長 (L)					備考	
		SD295, SD345		SD390	SD490			
		D16以下	D19~D41	D19~D41	D19~D25	D29~D41		
180°		D	3d以上	4d以上	5d以上	—	—	
		L	4d以上	4d以上	4d以上	—	—	
135°		D	3d以上	4d以上	5d以上	—	—	
		L	6d以上	6d以上	6d以上	—	—	
90°		D	3d以上	4d以上	5d以上	5d以上	6d以上	 キャップタイ スラブと同時に打ち込む 冂形のキャップタイにのみ用いる。 スラブと同時に打ち込む 冂形のキャップタイにのみ用いる。(片側スラブ付き梁)
		L	8d以上	8d以上	8d以上	8d以上	8d以上	

- A フックを必要とする末端部を次に示す。  
 ① 帯筋, あばら筋  
 ② 一般階柱, 梁(基礎梁を除く)の出隅部分  
 なお, 片持ちスラブの先端, 壁筋の自由端側の先端で 90° フックまたは 135° フックを用いる場合, 余長は 4d 以上でよい。
- B  $1.5 \times d$  (dは異形鉄筋の呼び名に用いた数値) かつ 25mm以上, および粗骨材最大寸法の1.25倍以上とする。
- C 異形鉄筋でも出隅部分主筋の重ね継手にはフックを付ける。

仕  
様

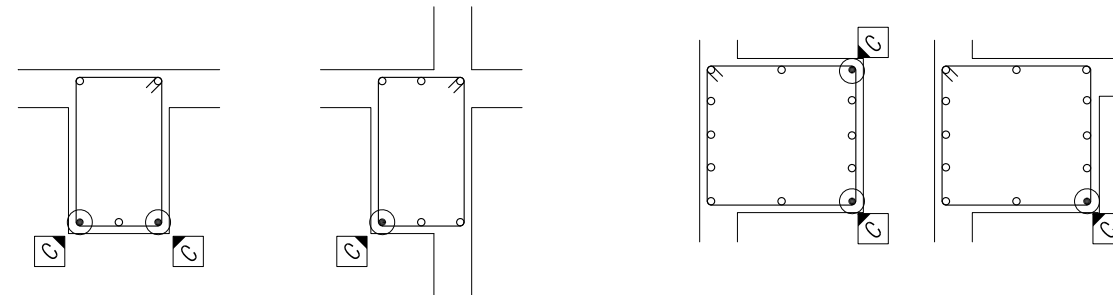
7) 異形鉄筋間隔



8) 柱・梁主筋の出隅部

(a) 梁主筋の出隅部 (基礎梁は除く.)

(b) 柱主筋の出隅部 (丸柱, 杭は除く.)



附  
記  
事  
項

改  
訂  
事  
項

- ・ SD490の追加
- ・ JIS規格変更に伴うSD295の変更

名  
称

共通事項(4)

縮  
尺

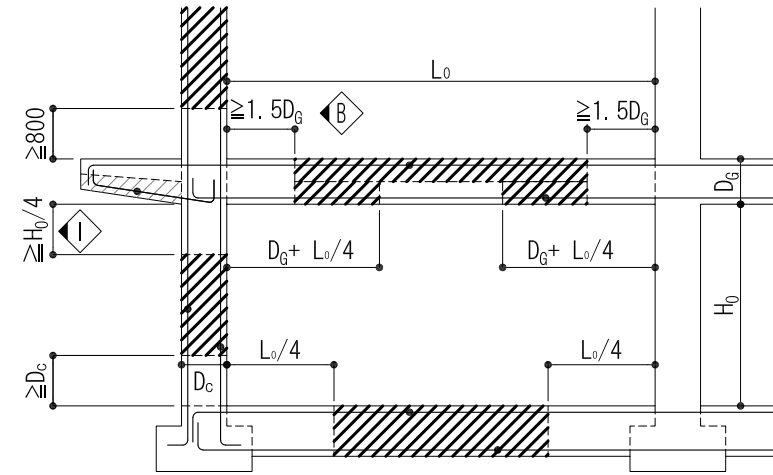
SR - 003



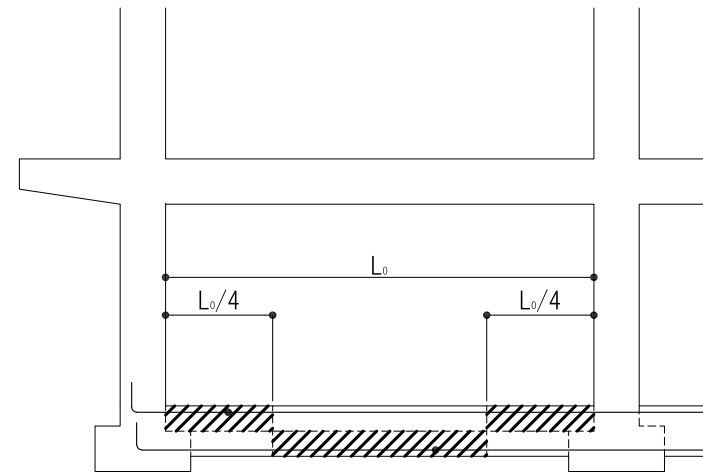
## 9) 鉄筋の継手位置

### (a) 梁主筋、柱主筋の継手の位置 ◀A

#### ① 柱、一般階梁、基礎梁 - ガス圧接継手



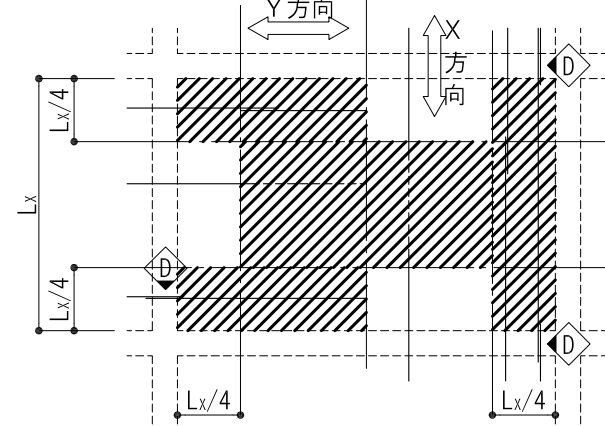
#### ② 基礎梁(耐圧版などと一体で地反力を受ける場合) - ガス圧接継手



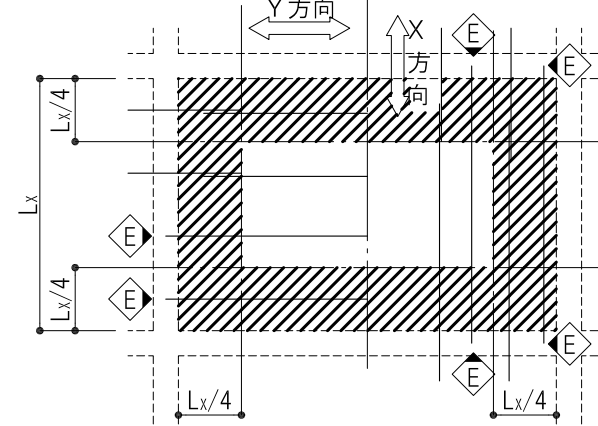
- 継手の好ましい位置
- 継手の好ましくない位置
- 印は圧接継手位置を示す.

### (b) スラブ筋の継手位置 ◀C

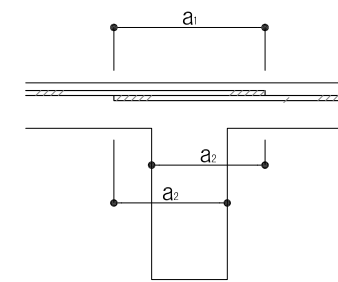
#### ① 上端筋の継手



#### ② 下端筋の継手

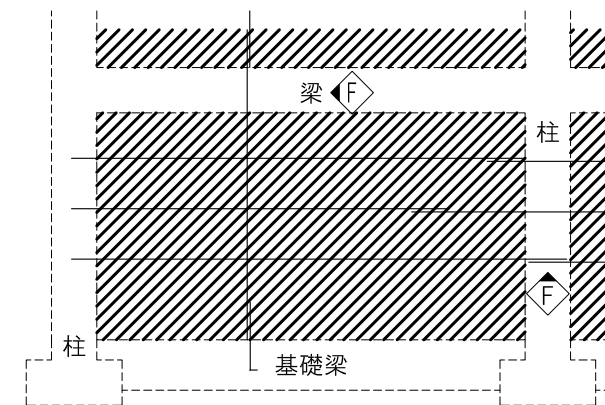


- ・スラブの上端筋  
 $a \geq L_1$  または  $a \geq L_2$  とする. ◀D

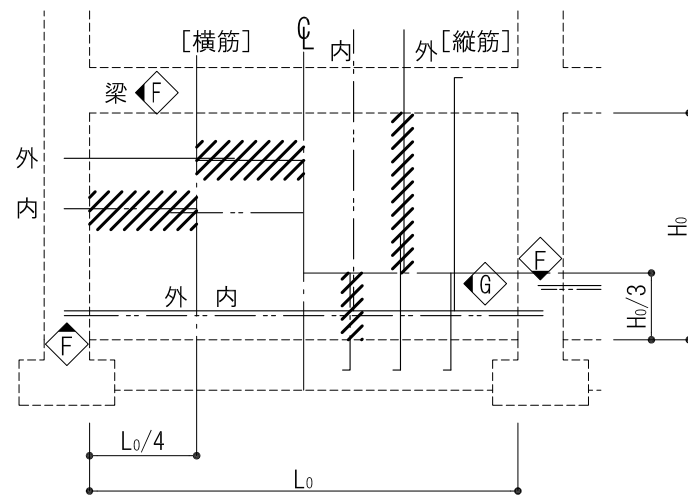


### (c) 壁筋の位置

#### ① 一般の壁筋の継手



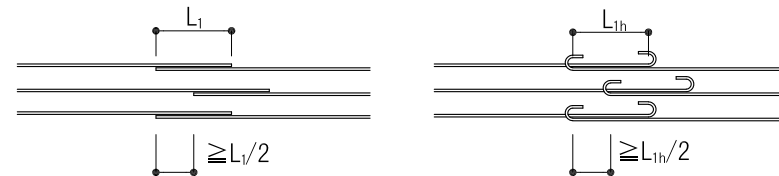
#### ② 土圧を受ける地下壁の壁筋の継手



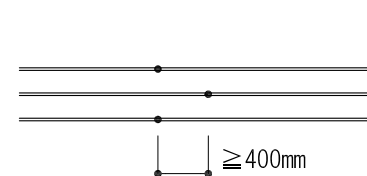
- 外側(土に接する側)の鉄筋
- - - 内側(室内側)の鉄筋

## 10) 鉄筋の相互のずらし方 ◀H

### (a) 重ね継手のずらし方



### (b) ガス圧接継手のずらし方



- ◀A 図はガス圧接継手の場合を示す。なお重ね継手の場合も本図に準ずる。
- ◀B 2階以上の梁端部主筋の継手は、柱面より  $1.5D$  以上離れたハッチで示す範囲内に設けることを標準とする。
- ◀C べた基礎のスラブ筋の場合は、本図で上端筋を下端筋、下端筋を上端筋と読みかえる。
- ◀D 梁幅内にはスラブ筋の継手を設けないことが望ましい。継手を設ける条件として、位置は柱列帯(SR-005を参照)に限り  $a_1 \geq L_1$  または  $a_2 \geq L_2$  の場合のみ設けてもよい。
- ◀E 下端筋では継手を設けず梁に定着(定着長さ  $L_4$ )する人が多い。
- ◀F 原則として柱、梁の中には壁筋の継手を設けない。ただし、横筋の場合は1スパン毎に柱に定着することは差し支えない。
- ◀G 外側鉄筋を  $H_0/3$  以内に継手を設ける場合は重ね長さを  $L+5d$  とする。
- ◀H 鉄筋の継手は応力の小さい箇所であつ常時はコンクリートに圧縮応力が生じている部分に設ける。また、継手は一箇所に集中することなく、相互にずらして設ける。
- ◀I 柱頭の鉄筋の継手は、原則、 $H_0/4$  以上とする。

仕  
様

附  
記  
事  
項

- ・特に柱せいが1150mm以上の場合は、同一階に圧接を設けない等の継手位置を考慮する。また、現場への搬入方法に注意する。
- ・鉄筋の接合部位置が好ましい位置に入りきらない場合は、コンクリートに常時圧縮応力が生じている箇所とし、監督員及び機構構造担当者の確認を受ける。

改  
訂  
事  
項

- ・継手位置を修正した。

名  
称  
縮  
尺

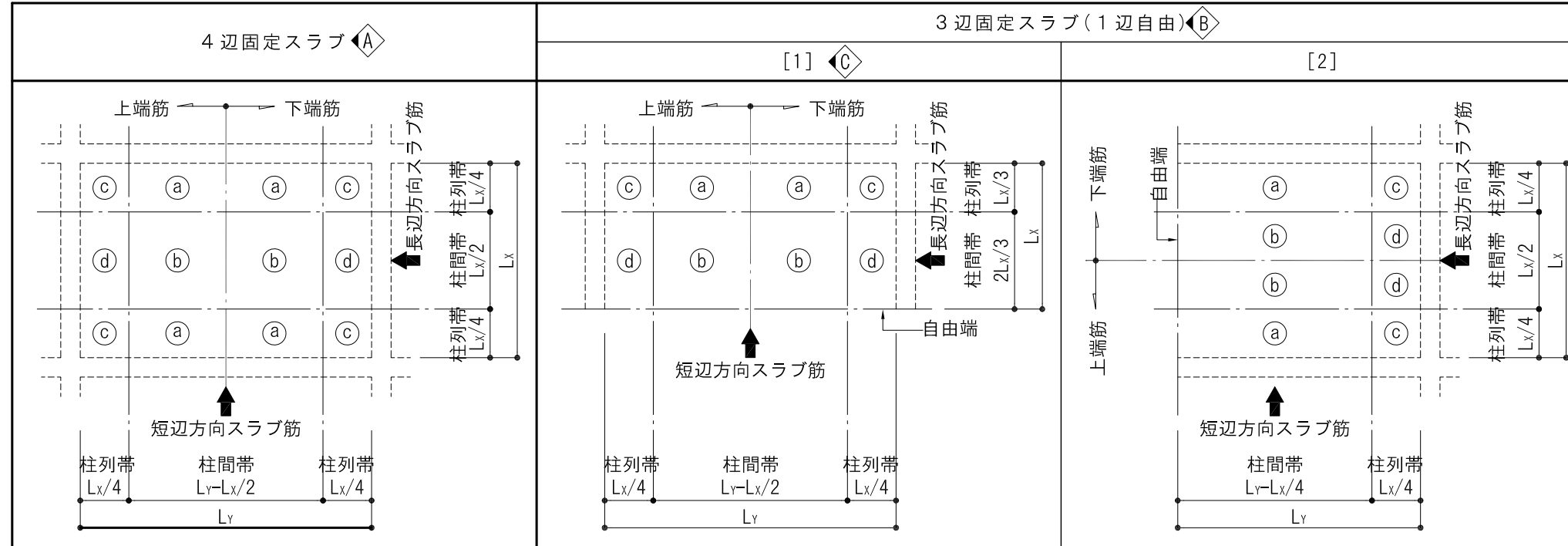
共通事項(5)

SR - 004

# スラブ配筋標準

## 1) スラブ配筋規準

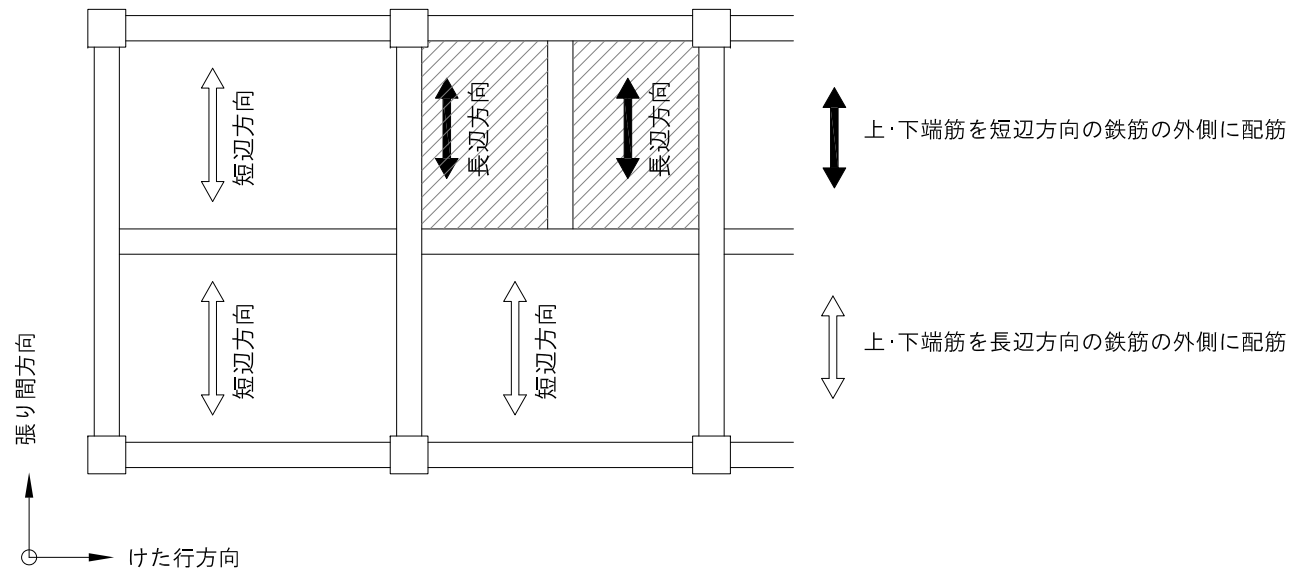
(a)~(d)は下表リストの同符号に対応する。



スラブ配筋リスト(例)

No.	板厚	位置	短辺方向			長辺方向			備考
			柱間帯		柱列帯	柱間帯		柱列帯	
			端部 (a)	中央 (b)	端部・中央 (c, d)	端部 (d)	中央 (b)	端部・中央 (c, a)	
		上端筋		◊D	◊E		◊D	◊E	
		下端筋			◊E			◊E	

設計時の施工に配慮した配筋(例) ◊F



- ◊A スラブの梁面より  $Lx/4$  の位置を柱間帯の鉄筋変化位置とする。この位置には上端筋に D13 を配し、バンド筋は使用しない。
- ◊B [2] の場合の柱間帯スラブ鉄筋変化位置は ◊A 同様、梁面より  $Lx/4$  の位置とする。[1] の場合、長辺方向は  $Lx/4$ 、短辺方向は  $Lx/3$  の位置を柱間帯鉄筋の変化位置とする。なお、この位置には上端筋に D13 を配し、バンド筋は使用しない。
- ◊C [1] のスラブで  $Lx/Ly \geq 2$  となる場合、片持ちスラブに準じて設計および配筋する。
- ◊D 中央上端筋(図中の(b)部分)は端部上端筋を1本おきに通すこと。
- ◊E 柱列帯の配筋は、柱間帯の配筋の  $1/2$  (断面積比)、かつ下表の値以上とする。

柱間帯端部 上端筋	柱列帯上・下筋
D10 D13@150	D10 @200
D10 D13@200	D10 @250
D10 D13@250	D10 @250

D13 のみ場合は上表の D10 を D13 と読みかえて適用する。

- ◊F 同一階のスラブにおいて、短辺方向と長辺方向が混在する場合は、建築物のけた行方向(長辺方向)又は張り間方向(短辺方向)のいずれかの方向のスラブ筋を外側に配筋するよう設計するとともに、図面に記載する。

仕  
様

附  
記  
事  
項

- ・本標準図は在来工法(現場施工の鉄筋コンクリート造)のスラブを示すもので、合成スラブ等については別図による。
- ・スラブ下支柱はコンクリート打設後7日以上、下部2層に存置する。
- ・大型スラブ(在来工法のスラブで内のり面積が  $24m^2$  を超える場合はスラブを支持する支保工の存置期間を28日以上とする。

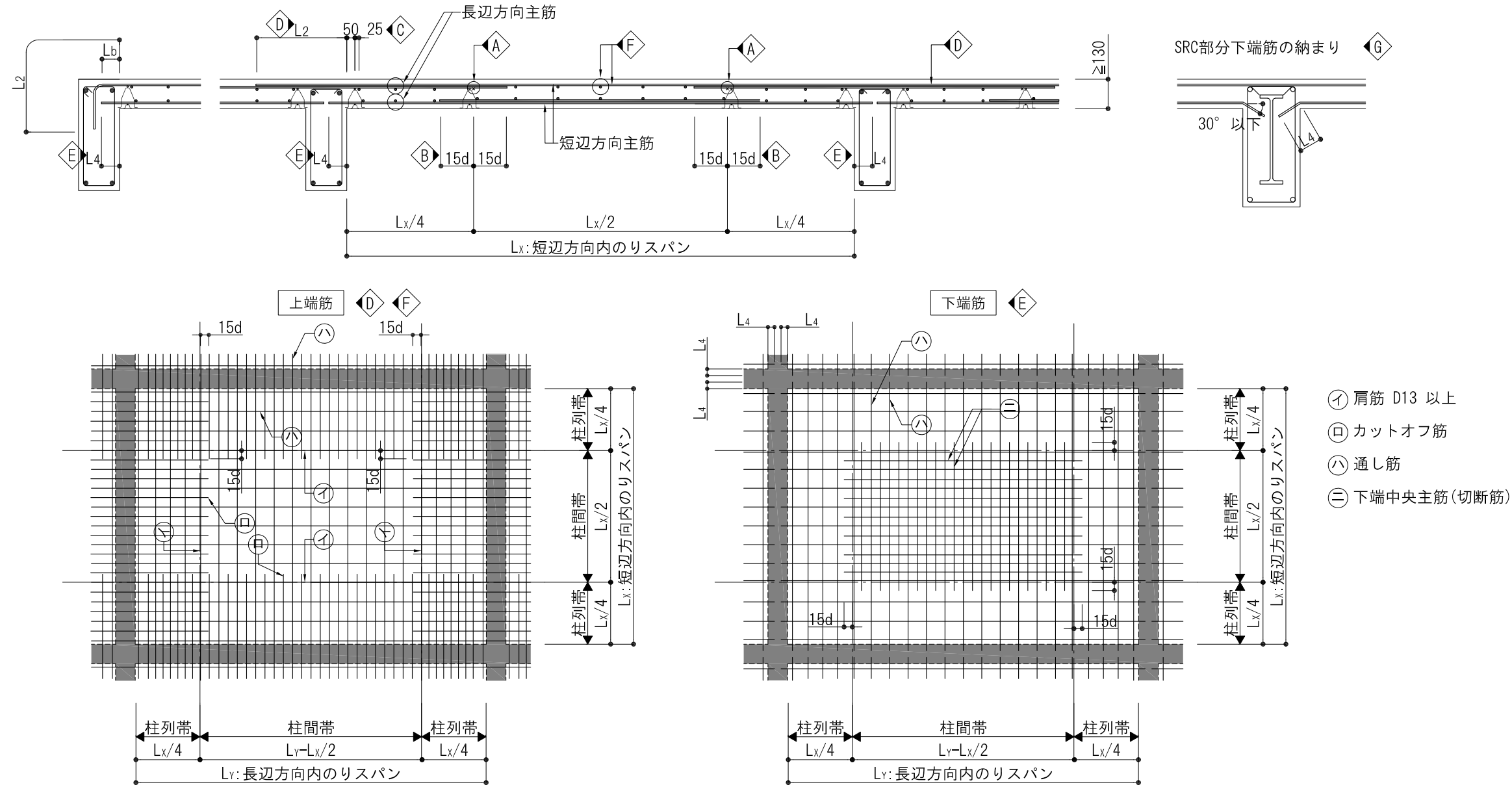
改  
訂  
事  
項

名  
称  
縮  
尺

スラブ配筋標準(1)

SR - 005

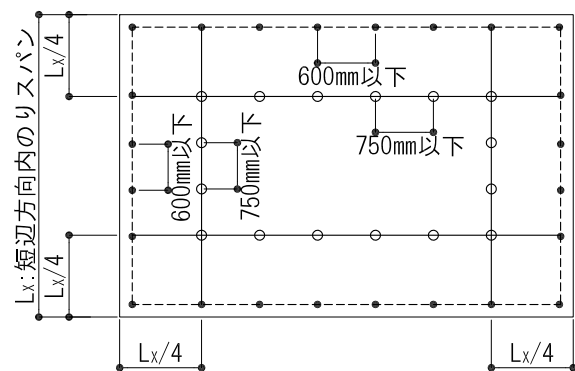
2) スラブ配筋要領



仕  
様

- ◇ A 肩筋は D13 以上とする. この位置の鋼製バーサポート等は 3) に示す要領により配する.
- ◇ B 上端のカットオフ筋および切断される下端筋中央部は  $L_x/4$  (長辺方向も  $L_x/4$ ) より 15d 以上延長する.
- ◇ C 鋼製バーサポート等を使用する場合の配置にあたっては, これと平行な上端筋とのあきを 25mm 以上確保すること.
- ◇ D 上端筋の定着は  $L_2$  とし, 隣接スラブに定着する. 鉄筋が連続する場合は通し筋とし, 連続しない場合には SR-004 9) (b) による. なお, 柱間帯上端筋は梁内には継手を設けないことが望ましい.
- ◇ E 下端筋の定着は  $L_4$  とし, 梁内または隣接スラブに定着する. 鉄筋が連続する場合は上端筋と同様な処理をしてよい.
- ◇ F 柱間帯中央上端筋は端部上端筋を一本おきに通し筋とする.
- ◇ G SRC の場合のスラブ下端筋は, 鉄骨とぶつかる場合, または梁の主筋とぶつかる場合については,  $30^\circ$  を超えない範囲で梁面から折り曲げて定着してよい.

3) スラブスペーサー配置要領

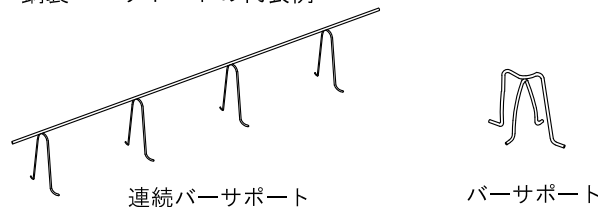


プラスチックスペーサー  
または鋼製バーサポートの間隔

- : 600mm 以下
- : 750mm 以下

— 肩筋 (D13 以上)  
- - - 床端部配筋

鋼製バーサポートの代表例



[1] スラブの上端筋用スペーサー

スラブの上端筋には, プラスチックスペーサーまたは鋼製バーサポート (いずれも鉄筋ずれ止めのあるもの) を肩筋の位置 (○印にて示す) に 750mm 以下の間隔で設置し, スラブ端部配筋の位置 (●印にて示す) に 600mm 以下の間隔で設置する. ただし, 短辺方向の長さが  $3m^2$  以下の場合には, スラブ端部肩筋位置のスペーサー間隔を 750mm 以下とすることができる.

[2] スラブの下端筋用スペーサー

スラブの下端筋には, プラスチックスペーサー (下端筋用爪付き) または鋼製バーサポート (いずれも鉄筋ずれ止めのあるもの) をスラブ  $1m^2$  当たり 2 個程度の割合で設置する.

・鋼製バーサポート性能基準

- スラブなどに使用する鋼製バーサポート等は, 次の規格に適合するものとする.
- (1) 安定しており, かつ容易に転倒しない形状であること.
  - (2) コンクリート表面に錆が出ないよう, 脚部等コンクリート表面に出る恐れのある部分に防錆処理 (溶融亜鉛めっき又はプラスチックコーティング等) がなされていること.
  - (3) 平滑な鋼板で 1 箇所あたり 1.2kN の鉛直荷重に対し, 塑性変形しないこと. また, 木製パネル上で 1 箇所あたり 1.2kN の鉛直荷重に対し, 著しいめり込みを生じないこと.

・プラスチックスペーサー性能基準

- (1)  $77^\circ C$  の温度で, 90N の荷重に耐えること.
- (2)  $74^\circ C \sim 80^\circ C$  に 6 時間放置後,  $20^\circ C$  に戻し, ひび割れがないこと.
- (3)  $-13^\circ C \sim -17^\circ C$  の低温下で, 約 25N のおもりを高さ 30cm より落させ, 毛細状ひび割れを生じないこと.

附  
記  
事  
項

・本標準図は在来工法 (現場施工の鉄筋コンクリート造) のスラブを示すもので, 合成スラブ等については別図による.

改  
訂  
事  
項

名  
称  
縮  
尺

スラブ配筋標準(2)

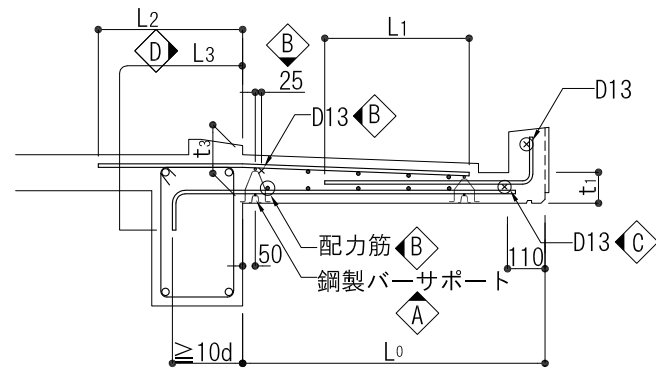
SR - 006

#### 4) 片持ちスラブ配筋要領

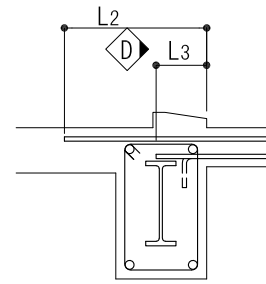
##### (a) 隣接スラブと連続する場合

- 隣接スラブと片持ちスラブ厚（元端スラブ厚）が異なる場合

(梁RC造)

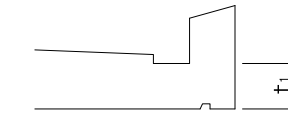


(梁SRC造)

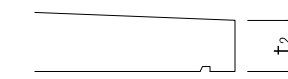


片持ちスラブの元端の厚さ  $t_3$  は設計図によるほか、下記の数値以上とする。

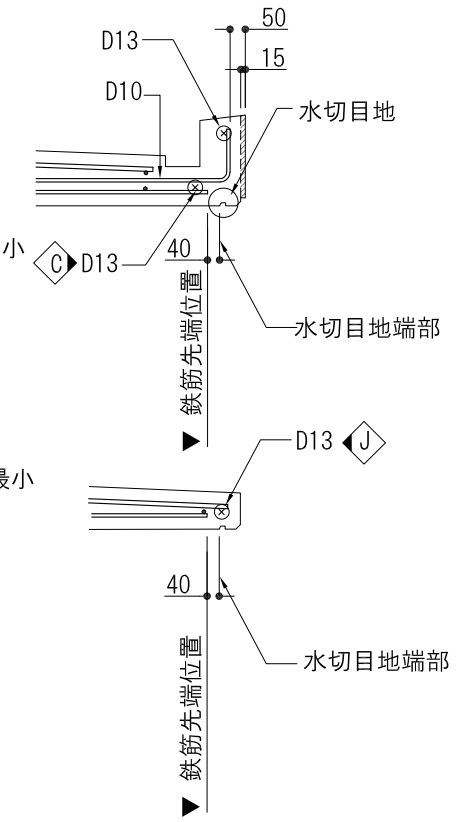
位置	$L_0$ (mm)	$t_3$ (mm)
バルコニー 廊下	$L_0 \leq 1,000$	160
	$1,000 < L_0 \leq 1,400$	180
庇	$600 \leq L_0 \leq 1,300$	150
	$1,300 < L_0 \leq 1,500$	180



排水溝がある場合の先端部最小厚さ  $t_1$  は、130mmとする。



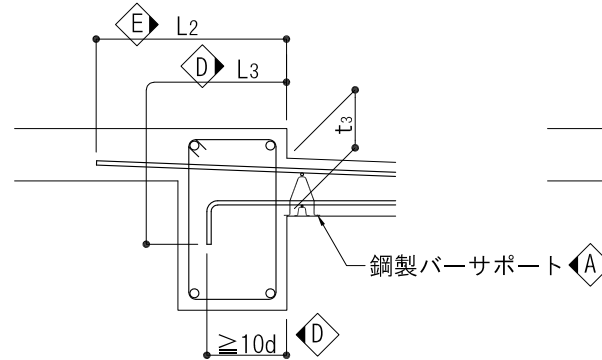
排水溝がない場合の先端部最小厚さ  $t_2$  は、120mmとする。



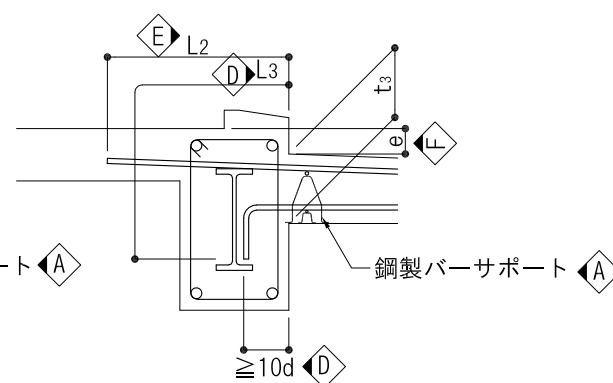
##### (b) 隣接スラブと段差がある場合

- 隣接するスラブに上端筋が直線定着可能な場合

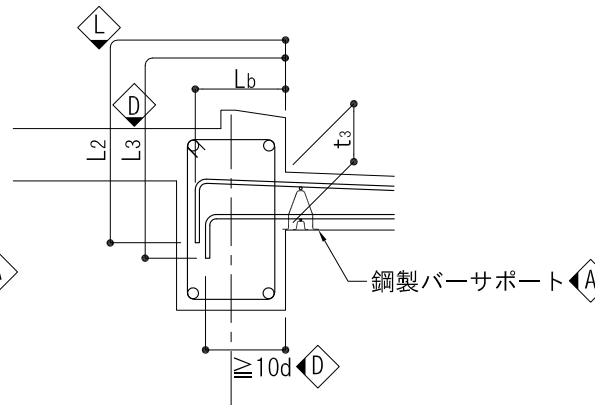
(梁RC造)



(梁SRC造)

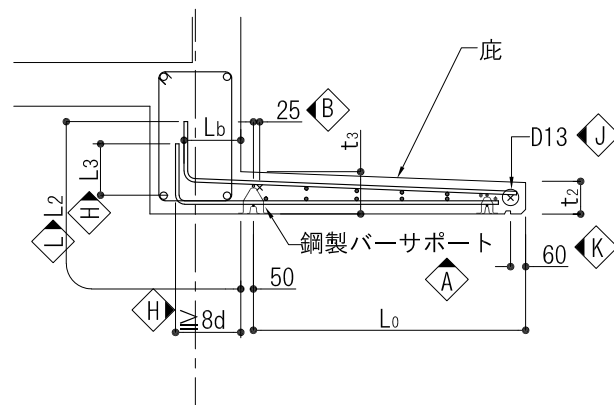


- 隣接するスラブに上端筋が直線定着できない場合

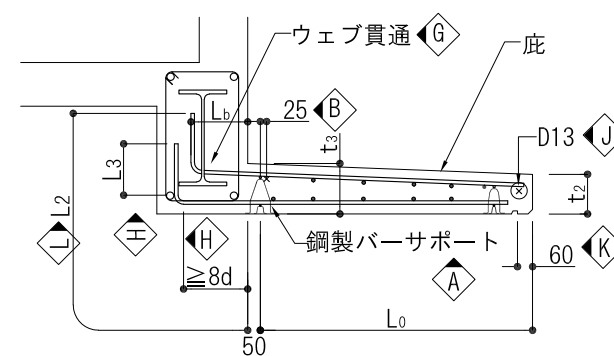


##### (c) 逆Tスラブとなる場合

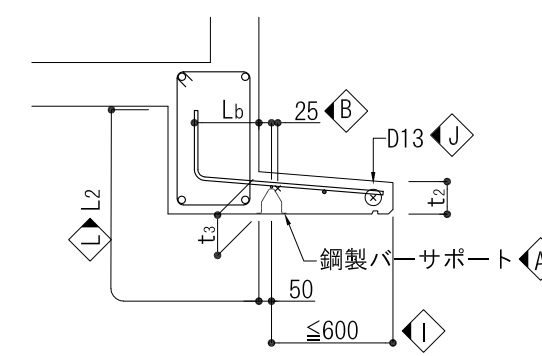
- 梁RC造の場合



- 梁SRC造の場合



##### (d) シングル配筋としてよい片持ちスラブ



- A 片持ちスラブの上端・下端筋は、鋼製バーサポート等を用いて位置の保持を確実にする。ただし、鋼製バーサポートの受筋は配力筋としては扱えない。
- B 位置確保のための鋼製バーサポート等から25mm程度の位置に配力筋を配置する。また、下端には鋼製バーサポート等の脚に隣接して配力筋を配置する。
- C 先端立上り部内の縦筋の受筋は、1- D13 以上を配置する。下端筋は水切目地位置から 40mm の位置で止める。なお、配力筋の間隔は 250mm 以下とする。
- D 片持ちスラブの下端筋の定着は直線定着する場合は25d以上、折曲げ定着とする場合はL3 かつ投影定着長さ10d以上とする（通常のスラブと異なるので注意すること）。
- E 隣接するスラブと段差のある場合も、可能な限り隣接スラブ内に直線定着とし、不可能な場合のみ梁内定着とする。
- F SRC造の場合、片持ちスラブ上端筋が鉄骨部材に当たらないようスラブ段差“e”の寸法を決定すること。
- G 逆TスラブでSRC造の場合は、上端引張鉄筋の定着が鉄骨ウェブの貫通となる。従って、スラブ厚さ“ $t_3$ ”は主筋のかぶりを確保できる値とする。
- H 折曲げ終点より L3 とする。ただし、下端主筋の投影定着長さは、梁断面の中心線を超え、かつ 8d 以上とする。
- I 片持ち長さ 600mm 以下のものは、特記なき限りシングル配筋としてよい。
- J 片持ちスラブ上端筋の先端には、1-D13以上の受筋を配置する。
- K 片持ちスラブ配力筋の第一鉄筋は先端から 60mm の位置に配置する。
- L 片持ちスラブの上端筋を折り曲げ定着する場合は、L2以上かつLb以上とし、梁断面の中心線を超えること。

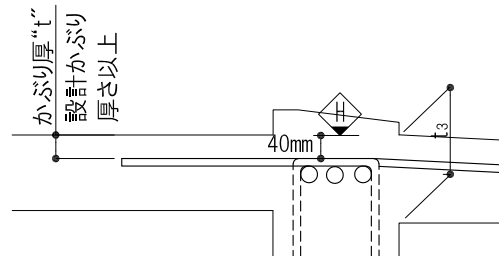
附記事項  
・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項  
・片持ちスラブの記載を削除

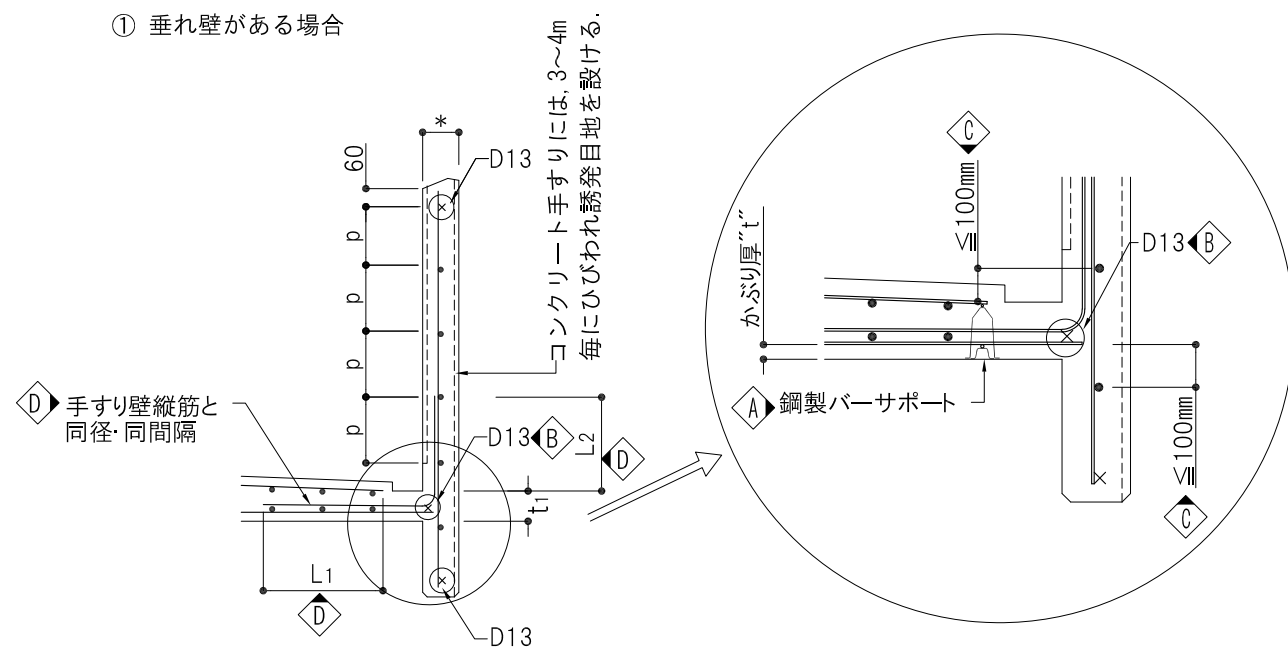
名称  
スラブ配筋標準(3)

縮尺  
SR - 007

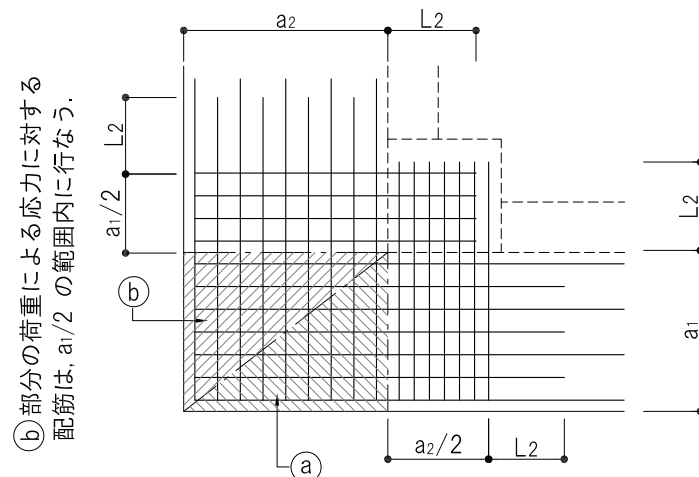
(e) 片持ちスラブかぶり厚さ



(f) 片持ちスラブ先端とRC造手すりとの配筋納まり \* 手すりの厚さは設計図による。

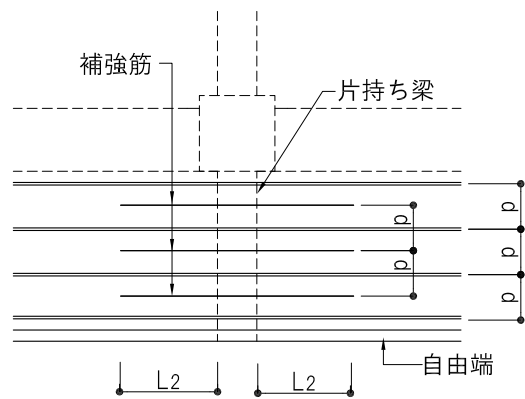


(g) 片持ちスラブ出隅部補強 ◀E

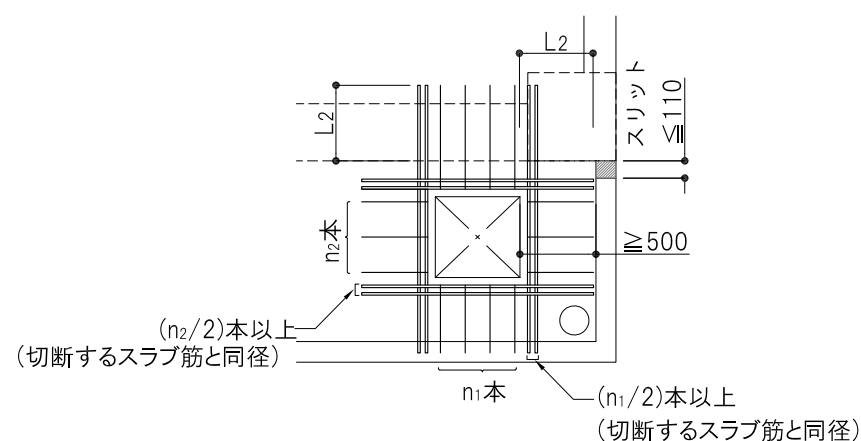


a)部分の荷重による応力に対する配筋は、a2/2の範囲内に行なう。

(h) 片持ち梁位置の配筋補強要領 ◀F

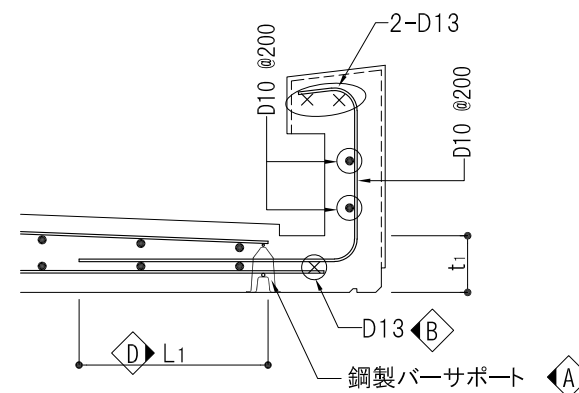


(i) 避難用開口部位置と補強要領 ◀G  
RC造手すり端部のスリット



(j) パラペット配筋要領

パラペットの形状は AE-301 による。



仕様

- ◀A 片持ちスラブの主筋は鋼製バーサポート等を用いて所定の位置を確保する。
- ◀B 先端のRC造手すり縦筋の受筋は 1-D13 以上を配置する。片持ちスラブ下端主筋は、水切り目地端部から 40mm の位置で止める。なお、片持ちスラブの配力筋間隔は 250mm 以下とする。
- ◀C 先端手すり壁の横筋は、片持ちスラブ上端筋および下端筋の上下 100mm 以内に配筋し、他の横筋の割り付けを行う。
- ◀D 垂れ壁がある場合は、手すり壁の縦筋を垂れ壁まで延長し、L 型の補強筋を配置する。L 型の補強筋と片持ちスラブ上端筋は L1 のあき重ね継手とする。  
垂れ壁がない場合は、手すり縦筋をスラブ上端筋と L1 のあき重ね継手とする。
- ◀E 片持ちスラブ隅角部は、斜め筋による補強は行なわず(補強筋を配すと 6 段筋となるため)、配力筋の本数を増して隅角部応力を処理する。かつ a) + b) 部分の荷重を a1, a2 間の各々の鉄筋で個別に処理する。
- ◀F 片持ち梁の上端位置にはひび割れ防止用の補強を行う。補強筋は配力筋と同径・同間隔とする。この補強筋は片持ちスラブ内に L2 の定着とする。
- ◀G 避難用の開口は、手すり端部より 500mm 以上離して設ける。
- ◀H 片持ちスラブの鉄筋が隣接するスラブに内に定着される場合、片持ちスラブに勾配がついているため、上端筋を勾配なりに配筋すると、定着端でのかぶり厚 "t" が不足する。このため梁位置で片持ちスラブ上端筋を水平に折り曲げる。

附記事項

・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項

名称

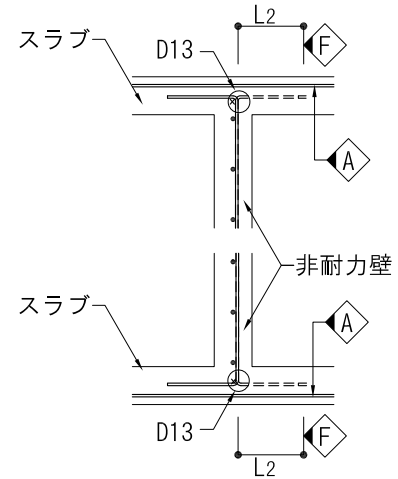
スラブ配筋標準(4)

縮尺

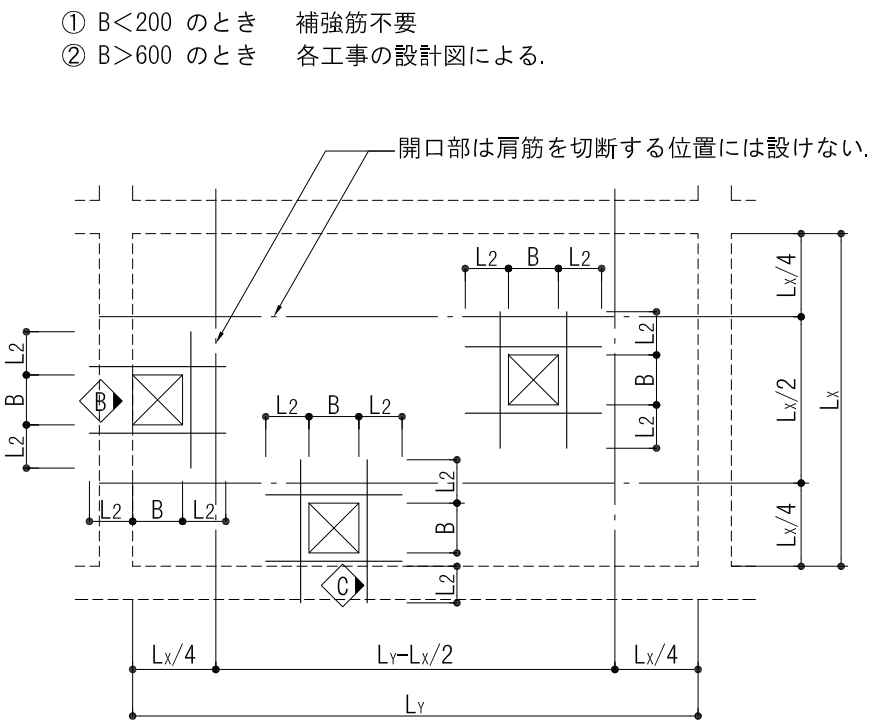
SR - 008

5) スラブ補強筋配筋要領

(a) 壁受け部分のスラブ補強



(b) スラブ開口部補強



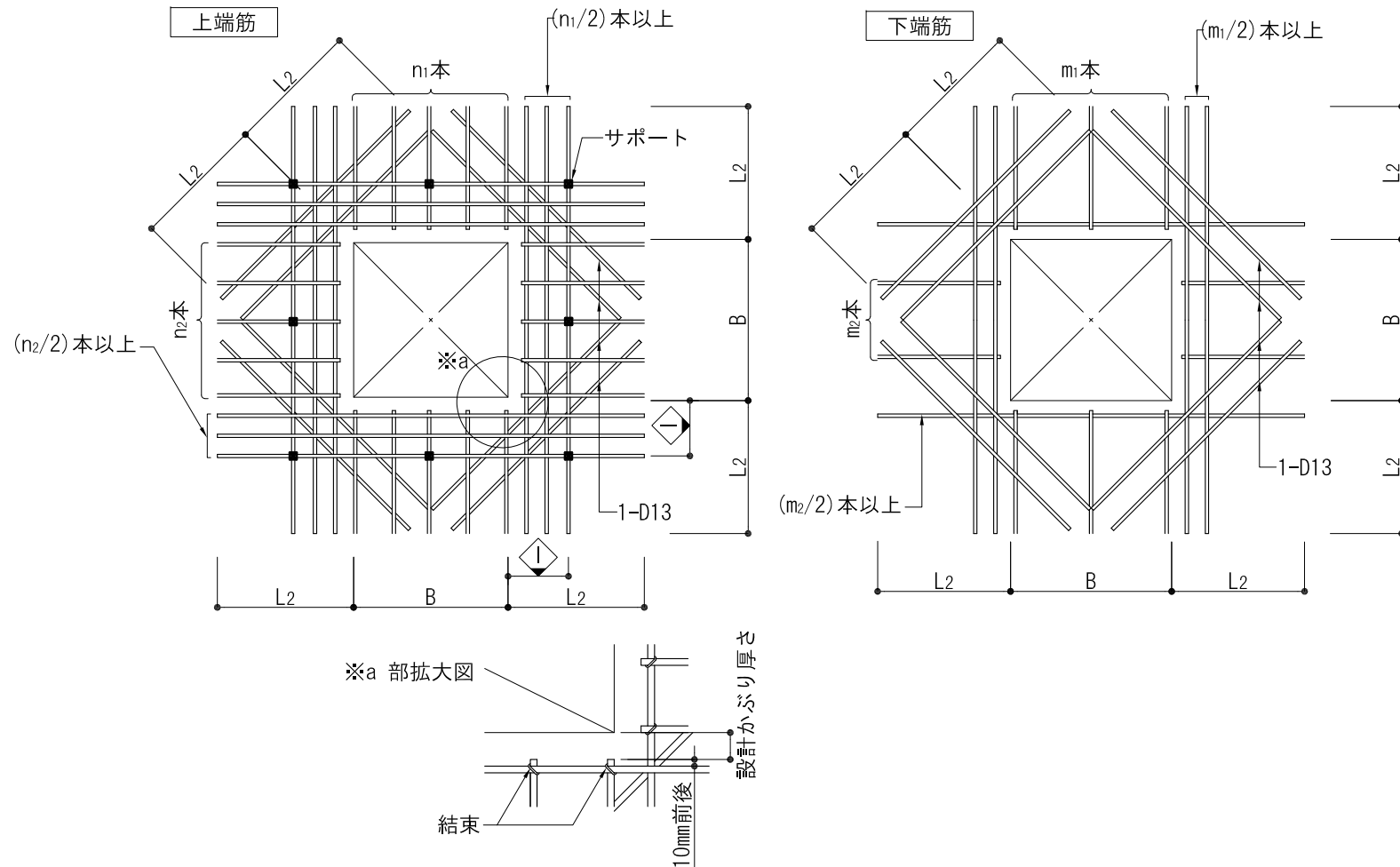
- ①  $B < 200$  のとき 補強筋不要
- ②  $B > 600$  のとき 各工事の設計図による。

③  $200 \leq B \leq 600$  のときの開口補強筋は下表による。

B (mm)	縦・横筋本数 ◊G		斜筋 ◊H
	上端筋	下端筋	
$200 \leq B < 400$	$n_1/2, n_2/2$	$m_1/2, m_2/2$	1 - D13
$400 \leq B \leq 600$	$n_1/2, n_2/2$	$m_1/2, m_2/2$	2 - D13

・  $n_1, n_2, m_1, m_2$  は切断される鉄筋本数を示す。

(c) 開口部補強要領



仕  
様

- ◊A 最上部スラブは壁による支持のため、上端に固定モーメントが生じる可能性があり、壁下部スラブは壁の重量により下端に付加曲げモーメントが生じる。この曲げモーメントに対する補強筋があるので注意する。
- ◊B 梁側面に沿って開口がある場合、梁側の開口補強筋は不要とする。開口周囲の補強筋の梁への定着長は  $L_2$  とし、他の周辺の補強筋長さも  $L_2$  の定着長とする。斜め補強筋長さは  $2L_2$  とする。
- ◊C 開口補強筋が梁にかかる場合、梁側面より定着長  $L_2$  とする。他の補強筋は  $L_2$  の定着長とする。
- ◊D 在来スラブの開口補強を行なう場合、上端・下端の配筋の間に斜め筋の配置が可能であるか検討し、配筋ができない場合はスラブ厚の変更を行なう。
- ◊E SR-011に示す出隅部・入隅部・形状変形部の補強筋と開口補強筋が同位置となる場合は、SR-009の補強筋を優先して配筋を行う。
- ◊F スラブに直接壁が取付く場合は壁筋を両側へ交互に定着する。(定着長  $L_2$ )
- ◊G 補強筋の径は切断するスラブ筋の最大径とする。
- ◊H 斜筋はスラブ上端筋と下端筋の内側に配筋する。
- ◊I 開口近傍(500mm程度)にサポート設置する。

附記事項

- ・本標準図は在来スラブに対してのもので、合成スラブ等については別図(スラブ段差等)による。
- ・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項

- ・仕様欄の I を追加した。

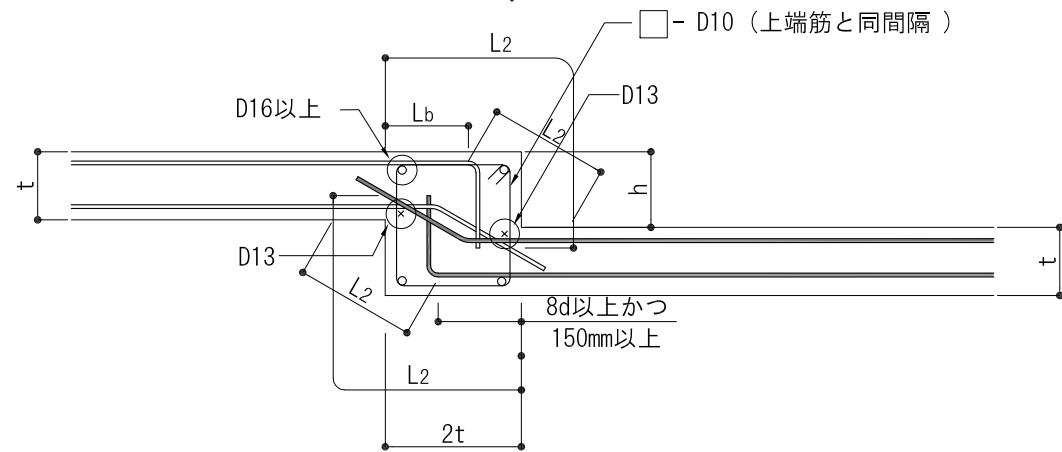
名称  
スラブ配筋標準(5)

縮尺  
SR - 009

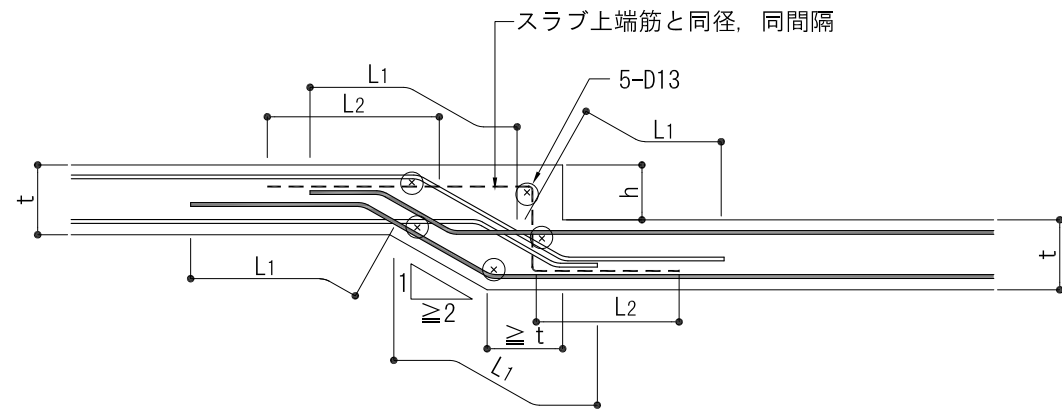
6) スラブ段差部配筋要領

(a) スラブ段差部配筋要領 ◀A

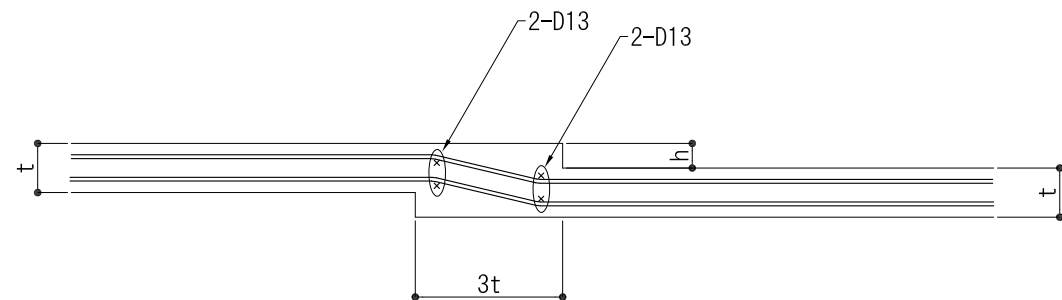
①  $h > t$  の場合 (但し,  $h \leq 200\text{mm}$  とする) ◀C



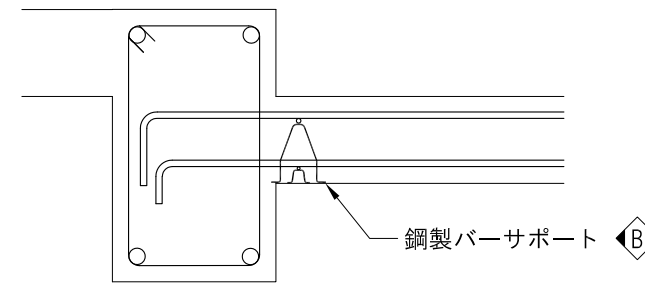
②  $t/2 < h \leq t$  の場合 (但し,  $h \leq 150\text{mm}$  とし,  $h > 150\text{mm}$  の場合は, ① による)



③  $h \leq t/2$  の場合 (但し,  $h > 70\text{mm}$  の場合は② による)



(b) 梁中間にスラブが取付く場合



◀A スラブ段差が  $h > 150\text{mm}$  となる場合については, 原則として小梁を設けて処理を行なう。  
それが不可能な場合のみ, 本図によって処理してもよい。

◀B スラブの上端・下端筋は, 鋼製バーサポート等を用いて位置の保持を確実に行う。  
ただし, 鋼製バーサポートの受筋は配力筋としては扱えない。

◀C スラブ段差200mmを超える場合は, 小梁を設置する。

仕  
様

附記事項  
・本標準図は在来のスラブに対してのもので, 合成スラブ等については別図(スラブ段差等)による。  
・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は, 本標準図の長さによらないことがある。

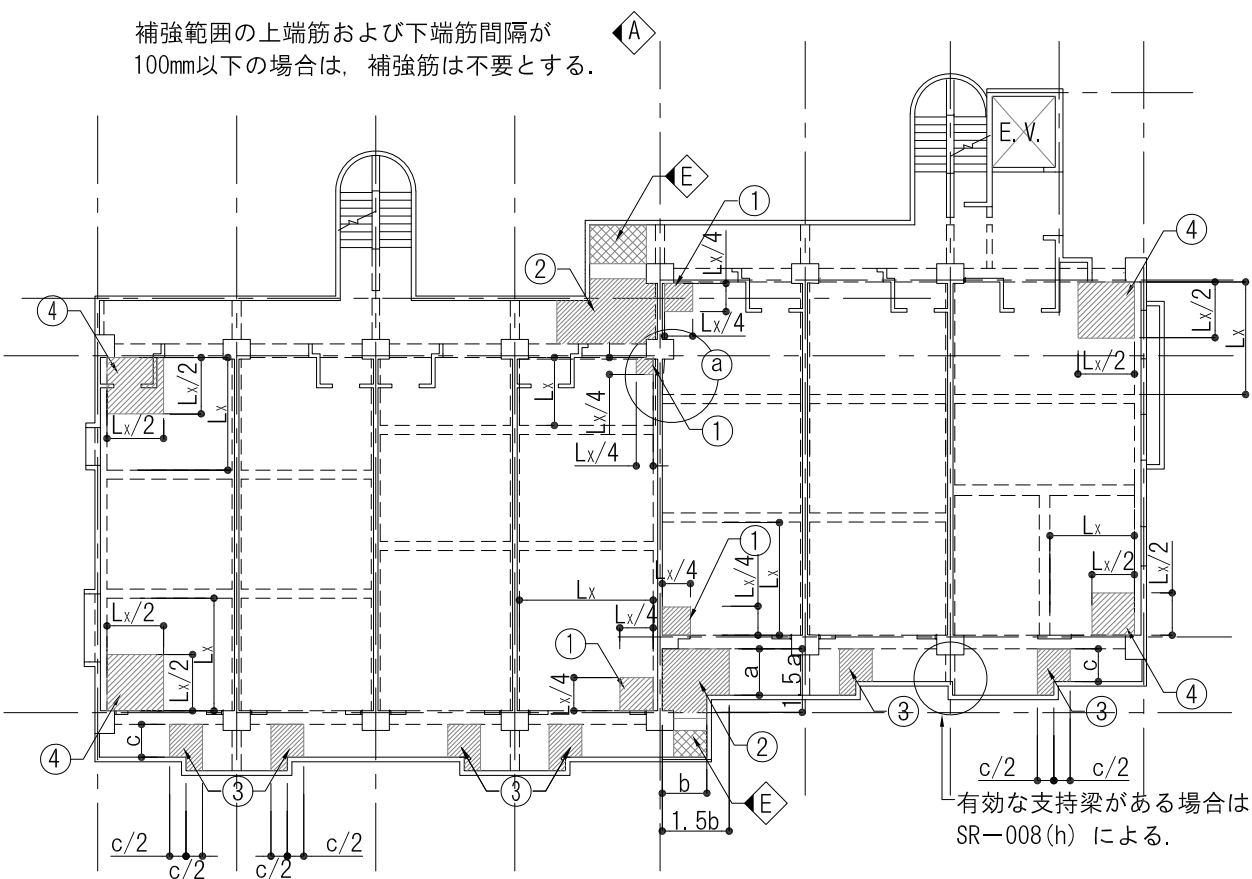
改訂事項  
・段差スラブの記載を追記。

名称  
スラブ配筋標準(6)

縮尺  
SR - 010

7) スラブ出隅部・入隅部補強要領

補強範囲の上端筋および下端筋間隔が100mm以下の場合は、補強筋は不要とする。

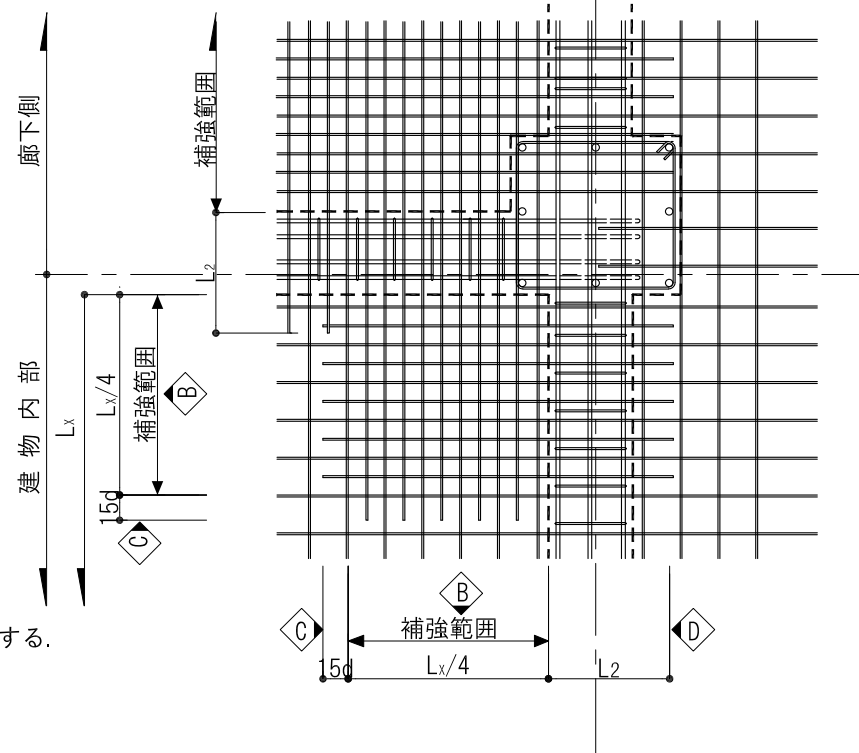


下記のスラブ各部分の上端・下端には補強筋を配する。

- ①：建物の出隅・入隅部
- ②：廊下・バルコニー入隅部
- ③：廊下・バルコニー形状変形部
- ④：建物の四隅部（この部分のみ配筋の範囲が広いことに注意）

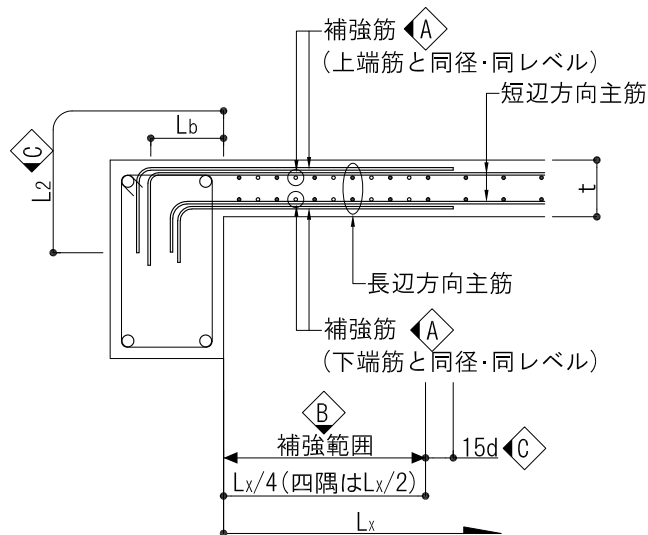
(a) 補強要領：建物入隅部 ◊F

① 部詳細図

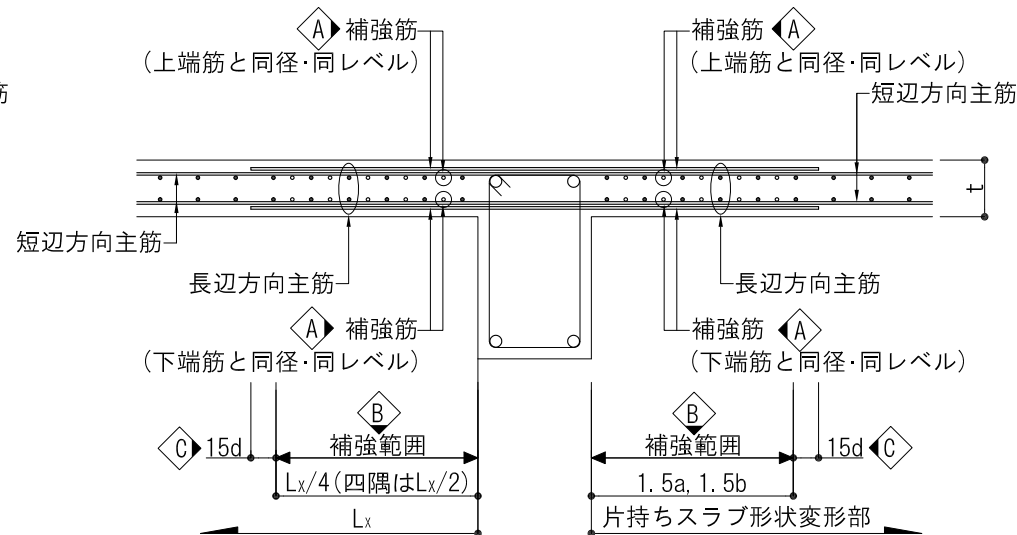


(b) 補強筋定着要領：出隅・入隅部の補強

① スラブが連続していない場合

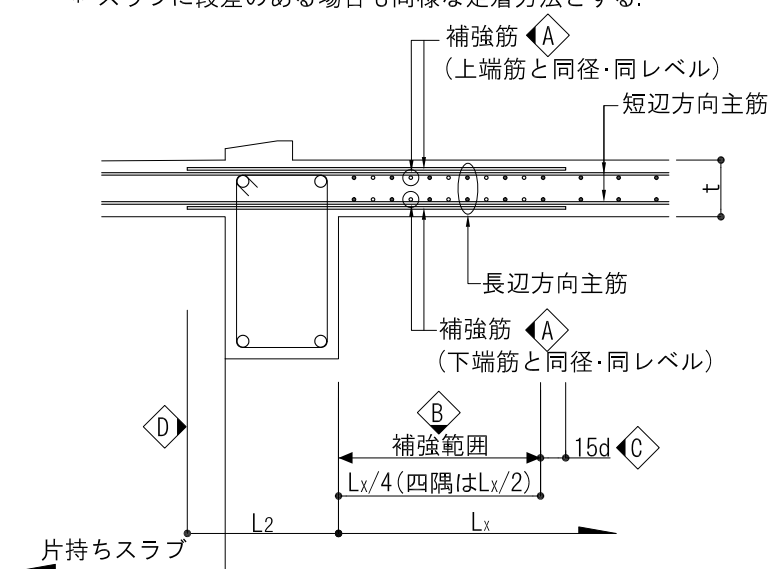


② スラブが連続している場合



③ バルコニー等が取付いている場合

\* スラブに段差のある場合も同様な定着方法とする。



仕  
様

- ◊A 建物の四隅・スラブの出隅・入隅部および形状の変化する部分は、長辺方向・短辺方向共に、スラブの上端・下端筋と同径の補強筋を各配筋と同レベルで追加する。ただし、設計図における配筋間隔が100mm以下の場合は、補強は不要とする。
- ◊B 補強範囲は建物の四隅においては、スラブ短辺長さの1/2、その他の部分は1/4とする。片持ちスラブ部分は本図に表示する範囲とする。
- ◊C 補強筋の末端部はスラブ筋と同様に15d以上の余長を確保する。
- ◊D バルコニーに段差がなく、隣接スラブ内に定着できる場合は、鉄筋を延長してもよい。
- ◊E バルコニー出隅部についてはSR-008(g)を参照のこと。
- ◊F SR-009に示す開口補強筋と出隅部・入隅部・形状変形部の補強筋が同位置となる場合は、SR-009の補強筋を優先して配筋を行う。

附  
記  
事  
項

- ・本標準図は在来のスラブに対してのもので、合成スラブ等については特記による。
- ・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある

改  
訂  
事  
項

名  
称

スラブ配筋標準(7)

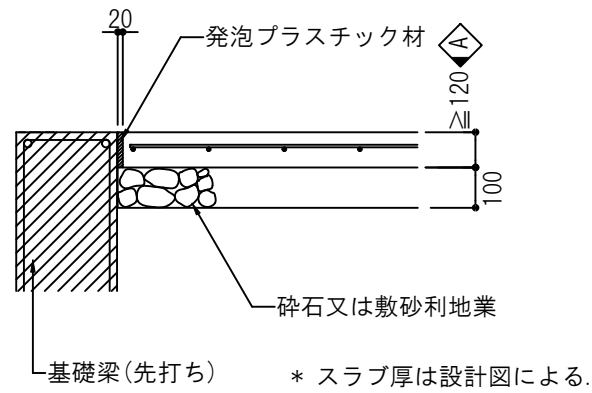
縮  
尺

SR - 011



8) 1階スラブ(土間コンクリートスラブ, 後打ちスラブ)配筋要領

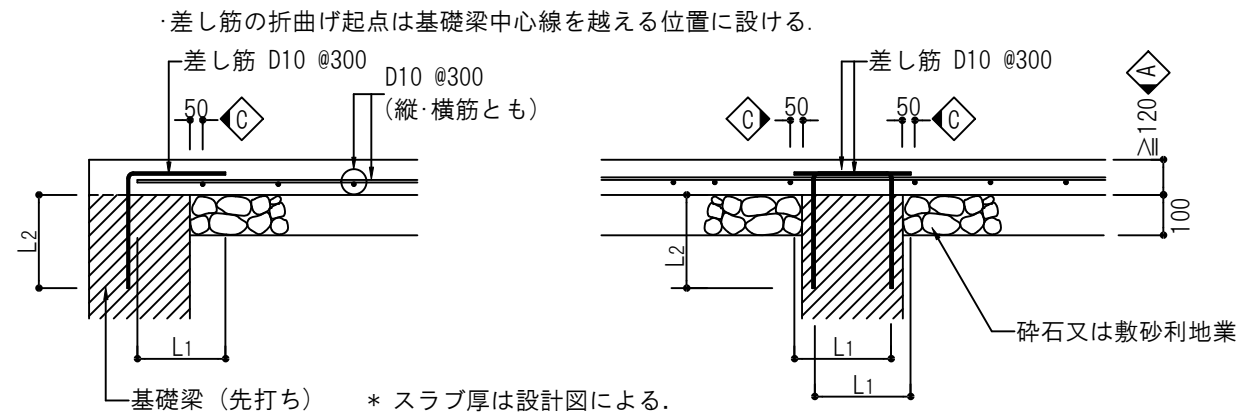
(a) 土間コンクリートを基礎梁から切離す場合



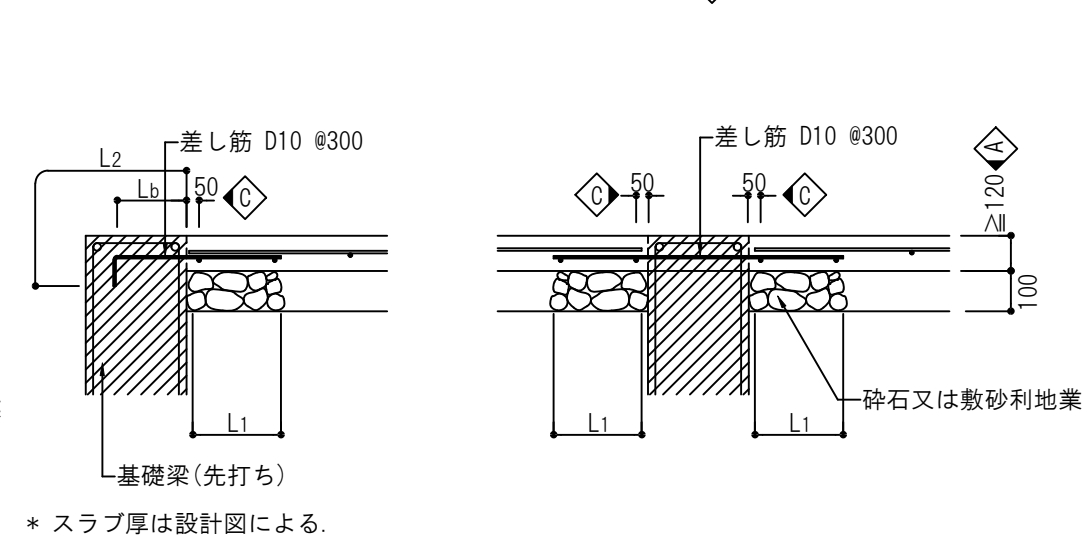
(b) 土間コンクリートを基礎梁と一体にする場合

① 基礎梁天端と土間コンクリート天端が同レベルでない場合

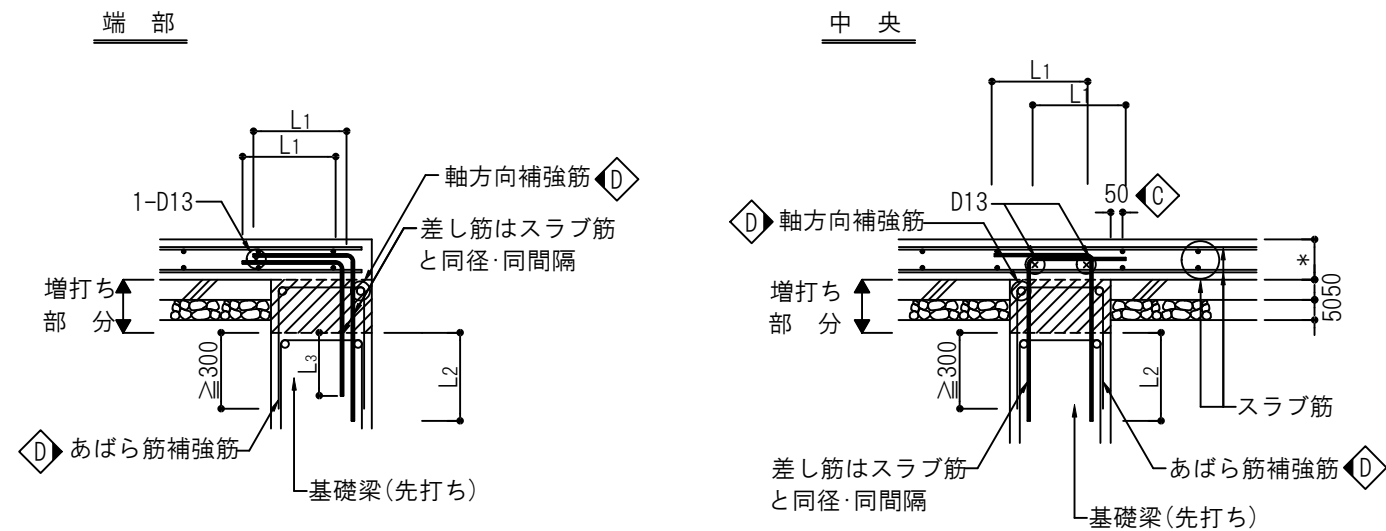
註) 基礎梁上部に耐力壁が取り付けられる場合の差し筋の径および間隔は, 設計図による。



② 基礎梁天端と土間コンクリート天端が同レベルの場合



(c) 1階後打ちスラブ差し筋配筋要領



- ◇A 土間コンクリートスラブ厚は  $t=120\text{mm}$  以上とする。ただし, 設計図に特記ある場合はその値による。
- ◇B 土間コンクリート天端と基礎梁天端が同レベルとなると, 差し筋が型わくを貫通することになるので, 可能な限り置きスラブとする。
- ◇C 梁側面から  $50\text{mm}$  の位置にスラブの第1鉄筋を配する。
- ◇D 基礎梁の増打ち部補強は SR-113による。

仕

様

附記事項

改訂事項

名称

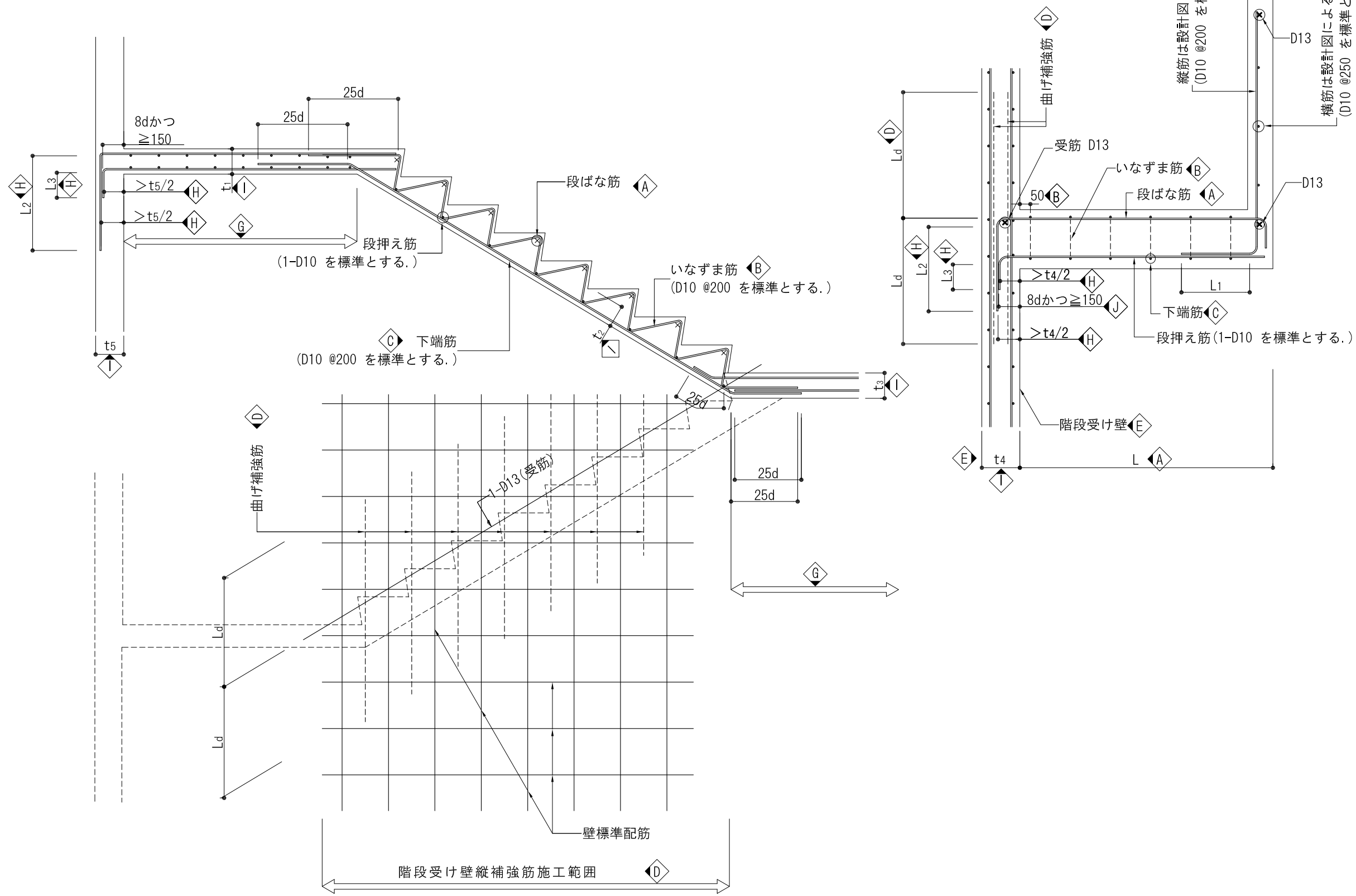
スラブ配筋標準(8)

縮尺

SR - 012

# 階段配筋標準

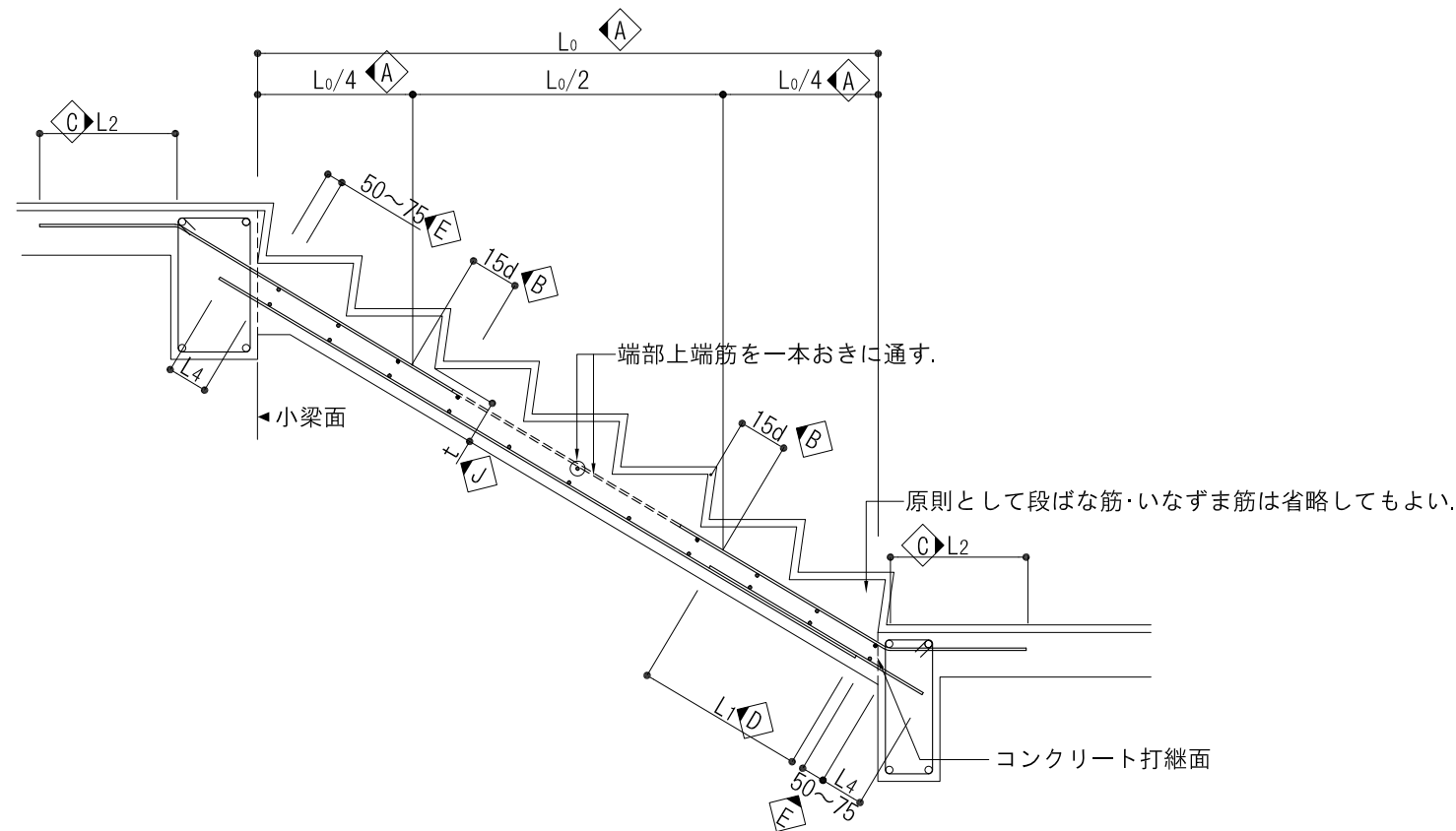
## 1) 片持ち階段の配筋 【住棟内】



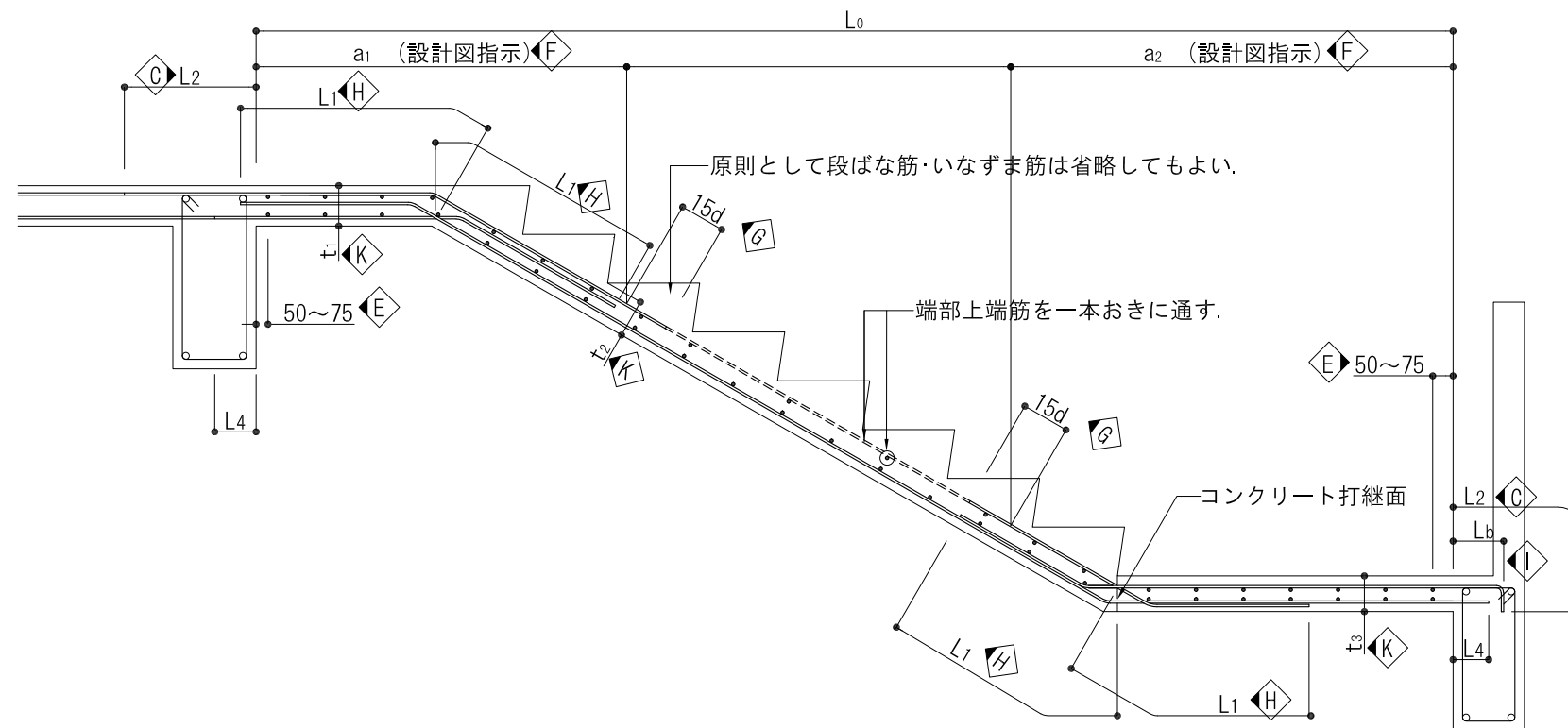
仕様	<p>◆A 段ばな筋は設計図によるほか、下記以上とする。  <math>L \leq 1,200</math> : 1-D13  <math>L &gt; 1,200</math> : 2-D13</p> <p>◆B いなくま筋は D10 @200 を標準とし、階段受け壁面より 50mm の位置に第一いなくま筋を配筋する。</p> <p>◆C 下端筋は D10 @200 を標準とする。(間隔は、いなくま筋と同じとし、いなくま筋に添えて配筋する。)</p> <p>◆D 片持ち階段受け壁に設ける段床の曲げ補強筋の有無、およびその定着長さ <math>L_d</math> は設計図による。</p> <p>◆E 階段受けの壁の厚さは 200mm 以上とする。          屋外階段受け壁の配筋については SR-015 を参照する。</p> <p>◆F 階段手すりの配筋要領は片持ちスラブの先端の手すりの配筋要領 (SR-008) に準ずる。</p> <p>◆G 踊り場のスラブは三辺固定スラブまたは二辺固定スラブとして計算した上で、もちあみ配筋を行なう。</p> <p>◆H 上端筋または下端筋は、階段受け壁厚さの 1/2 を超えて定着する。</p> <p>◆I スラブ厚及び壁厚 <math>t_1 \sim t_5</math> については設計図によるほか、下記の数値以上とする。  <math>t_1 \geq 130\text{mm}</math> , <math>t_2 \geq 90\text{mm}</math>  <math>t_3 \geq 130\text{mm}</math> , <math>t_4 \geq 200\text{mm}</math>  <math>t_5 \geq 200\text{mm}</math></p> <p>◆J 上端筋または下端筋の投影定着長さは、<math>8d</math>かつ<math>150\text{mm}</math>を超えて定着する。</p>
	<p>◆A 片持ち階段受け壁に設ける段床の曲げ補強筋の長さを変更する場合は、監督員の確認を受ける。</p>
改訂事項	・仕様欄の J を追加した。
名称	階段配筋標準(1)
縮尺	SR - 013

## 2) スラブ階段の配筋

(a) 階段の両側に小梁のある場合



(b) 折曲がりスラブで途中に梁のある場合



仕様

- ◇ A 主筋の端部、中央の区分線は階段内のリスパン  $L_0$  の  $1/4$  の位置とする。(通常のスラブと同様である。)
- ◇ B 端部カットオフ筋の余長は  $L_0/4$  の点より  $15d$  以上とする。
- ◇ C 端部上端主筋は隣接するスラブ内、または梁に十分定着させること。定着長は  $L_2$  以上とする。
- ◇ D 継手区間は  $L_0/4$  の区間内とする。なお、コンクリート打継面があるので注意する。
- ◇ E 配力筋の端部鉄筋位置を示す。配力筋はこの位置から割り付ける。
- ◇ F 主筋の端部、中央の区分線は設計図による。
- ◇ G 端部の上端筋の余長は区分線より  $15d$  以上とする。
- ◇ H 折曲り点において、上端・下端筋とも重ね継手長さ  $L_1$  を確保し、各スラブ鉄筋と連続させる。
- ◇ I 上端筋の定着は  $L_2$  以上かつ  $L_b$  以上とし、梁幅の中心を超えて定着する。
- ◇ J 板厚  $t$  は設計図によるほか  $130\text{mm}$  以上とする。
- ◇ K 板厚  $t_1 \sim t_3$  は設計図によるほか  $130\text{mm}$  以上とする。

附記事項

改訂事項

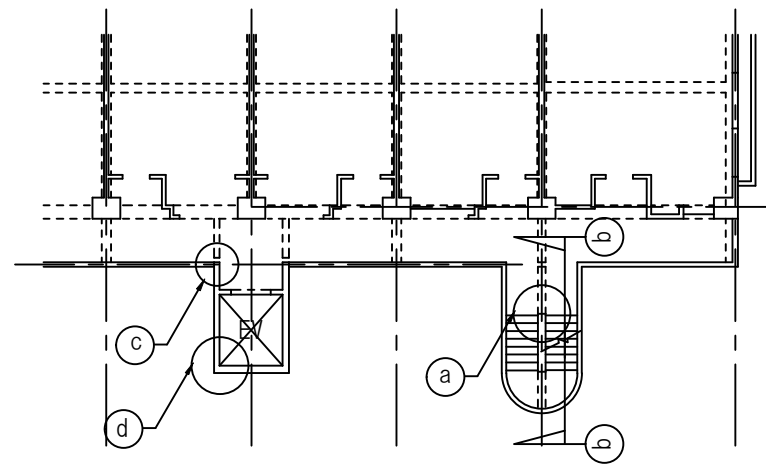
名称

階段配筋標準(2)

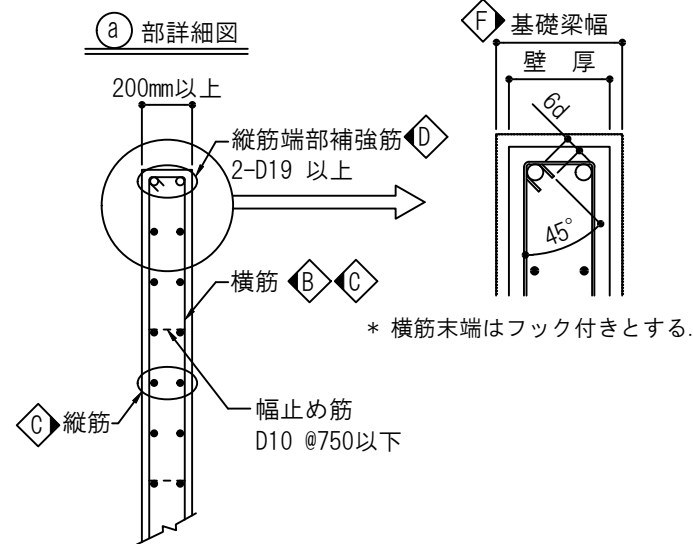
縮尺

SR - 014

3) 屋外階段およびエレベーター壁配筋要領



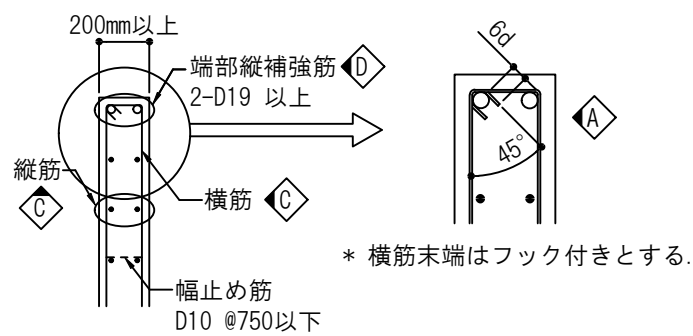
(a) 屋外階段受け壁の配筋



(b) エレベーター周囲の構造壁の配筋

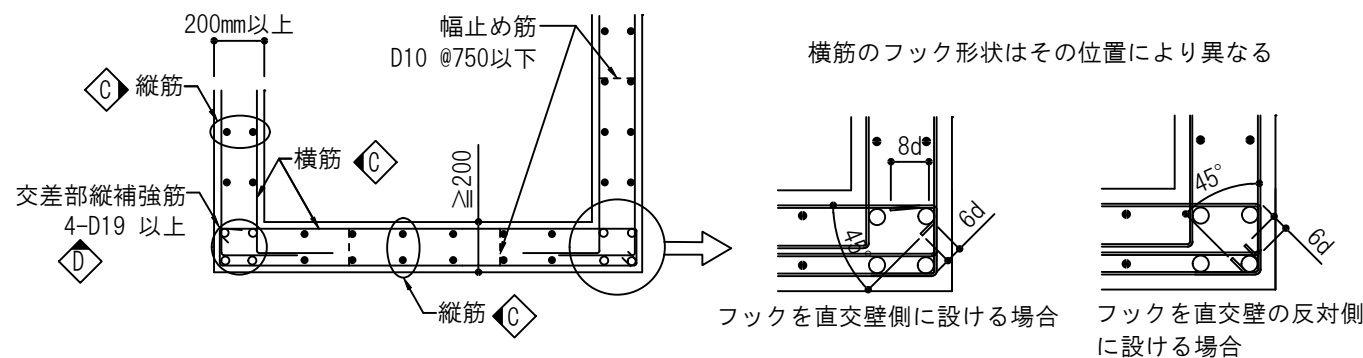
① 端部配筋要領

(c) 部詳細図

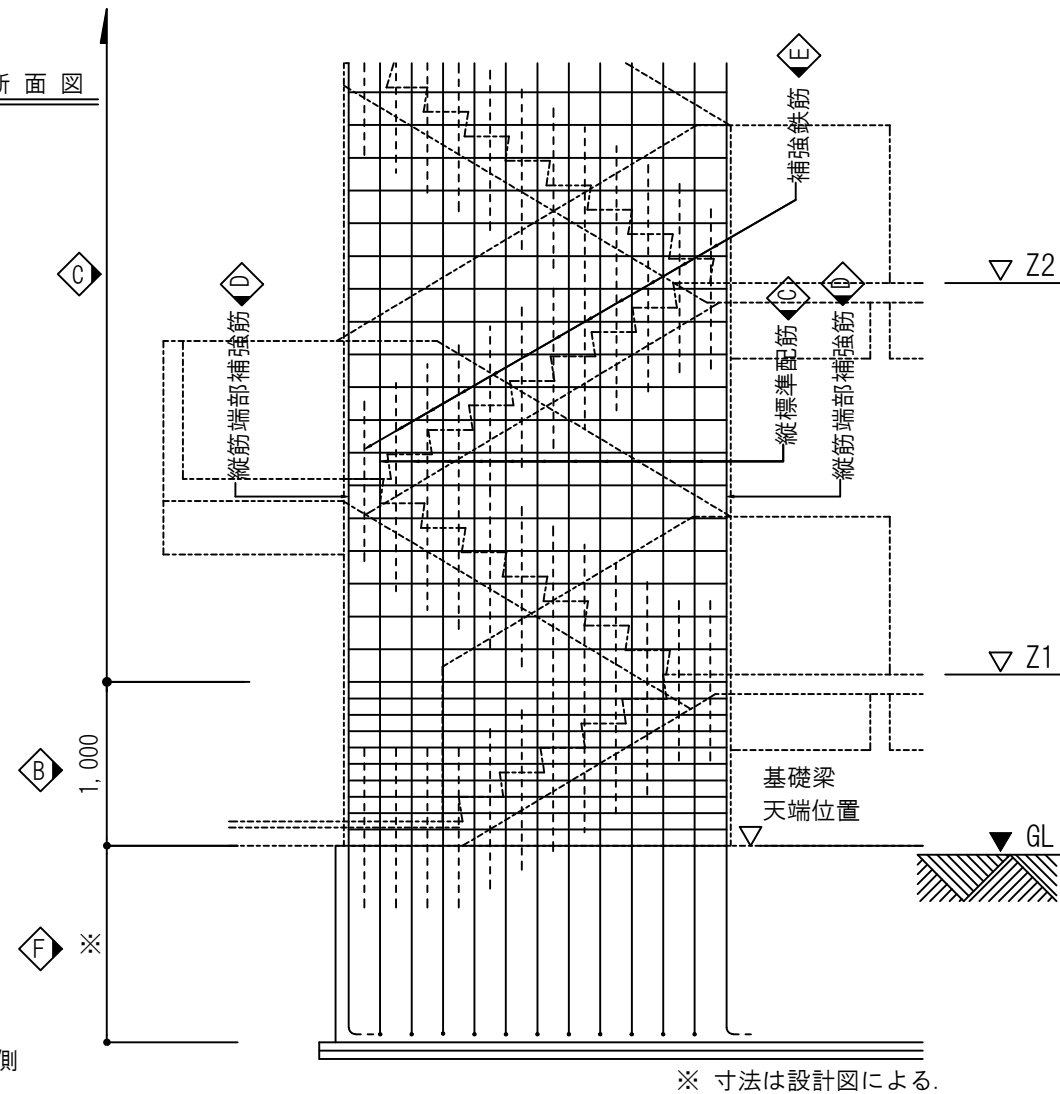


② 交差部配筋要領

(d) 部詳細図



(b)-(b) 断面図



仕  
様

- ◇A 建物本体から平面的に突出する屋外階段スラブを支持する構造壁(以下、階段壁という)およびエレベーター周囲の構造壁の横筋は、縦筋の外側に帯筋形状で配筋する。
- ◇B 階段壁横筋は、基礎梁天端から1m以内は径・間隔とも計算による他、D10 @100 以下となるように配筋する。
- ◇C 構造壁の縦・横筋は、径・間隔とも計算による他、D10 以上の鉄筋を @250以下となるように配筋する。
- ◇D 端部縦補強筋は計算による他、壁端部は 2-D19以上、交差部は 4-D19以上の鉄筋を配筋する。なお、補強筋の径が D25を超える場合、あるいは梁付きの場合には壁厚 200mmでは収まらなくなるので注意する。
- ◇E 階段スラブ等の配筋詳細についてはSR-013 を参照する。
- ◇F 縦筋は基礎梁内で十分な拘束を行う。この時、基礎梁幅は階段壁厚 +20mm 以上とする。

・本標準図においては壁の幅止め筋は、防錆処理(溶融亜鉛めっき等)を行なうこととし(図面特記に記載のこと)、かぶり厚さの対象とはしない。なお、幅止め筋を縦筋にかける場合は、そのピッチを通常の1/2とする。その場合には防錆処理は不要とする。

改訂事項

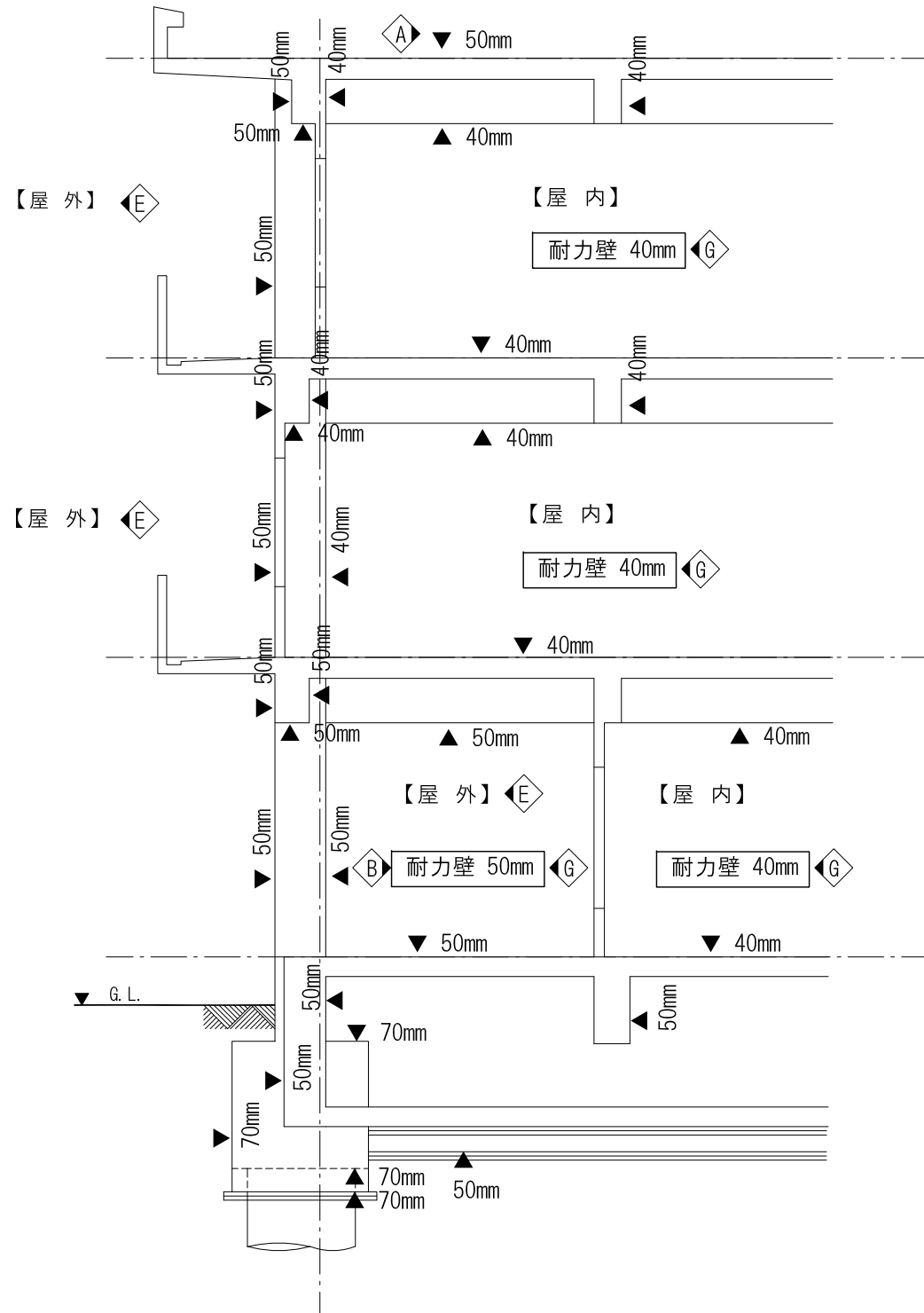
名称 階段配筋標準(3)

縮尺 SR - 015

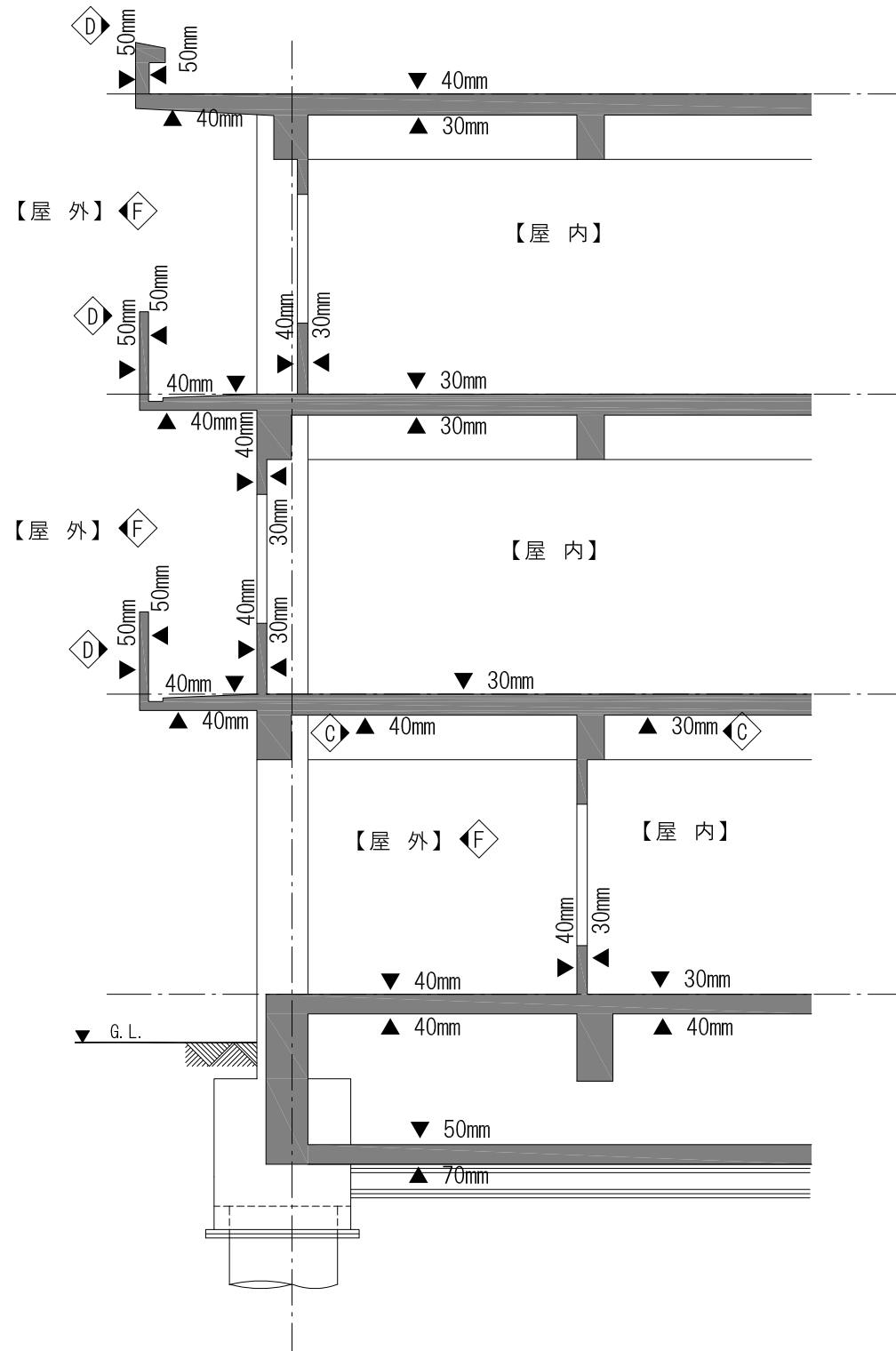
※ 寸法は設計図による。

# 設計かぶり厚さ一覧

## 1) 柱・梁・耐力壁・基礎・基礎梁



## 2) スラブ・非耐力壁・手摺壁・パラペット立上り



仕様

- ◇A 最上階の梁鉄筋のかぶり厚さは、仕上げが耐久性上有効である場合は、10mm 減ることができる。
- ◇B 耐力壁縦・横筋のかぶり厚さは、外部に面する場合は 50mm以上であるが、この値は増打ち厚さを含んだ数値としてよい。
- ◇C 1 枚のスラブが、屋外と屋内とに面する場合には、かぶり厚さが異なってくるため配筋上は厚い方のかぶりを確保しなければならないので注意。
- ◇D 手すり、パラペットの鉄筋のかぶり厚さは、一般の非耐力壁とは異なるので注意。
- ◇E 屋外に面している場合でもタイル貼り、又はモルタル塗り仕上げなど耐久性上有効な仕上げのある場合は、50mm を40mmに読み替えてよい。
- ◇F 屋外に面している場合でもタイル貼り、又はモルタル塗り仕上げなど耐久性上有効な仕上げのある場合は、40mmを 30mmに読み替えてよい。
- ◇G 耐力壁の幅止め筋は、防錆処理を行うことを原則とし、本図に示す設計かぶり厚さの測定対象とはしていない。ただし、幅止め筋からのかぶり厚さがSR-002に記載の必要最小限のかぶり厚さを満足する場合には防錆処理(溶融亜鉛めっき等)の必要はない。

附記事項

改訂事項

名称

縮尺

・地下ピットの追加。

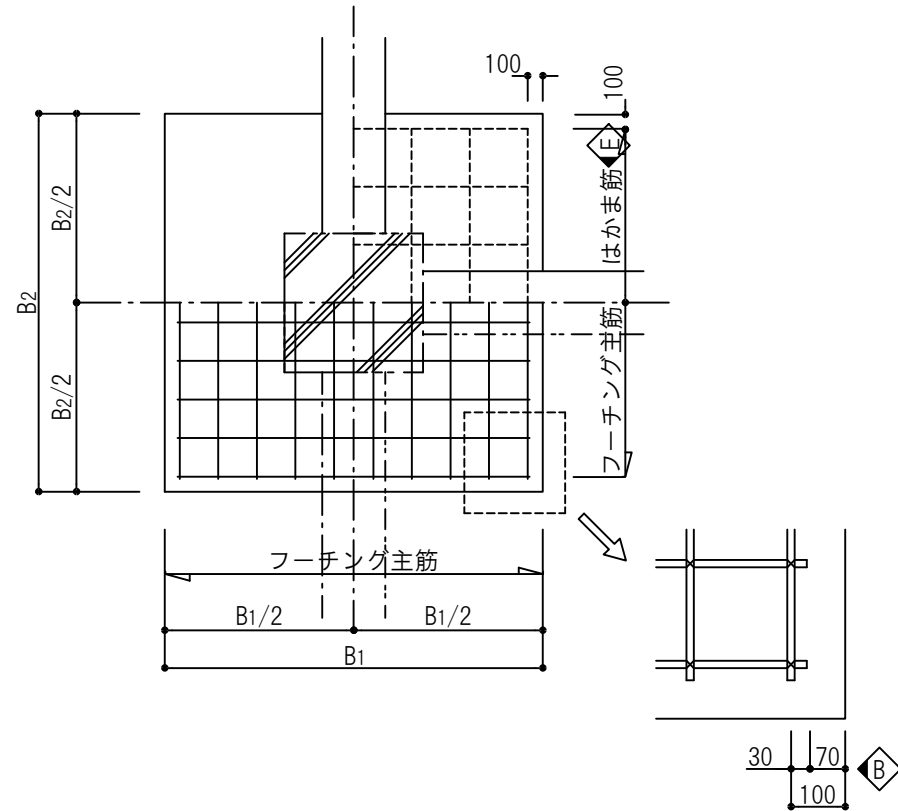
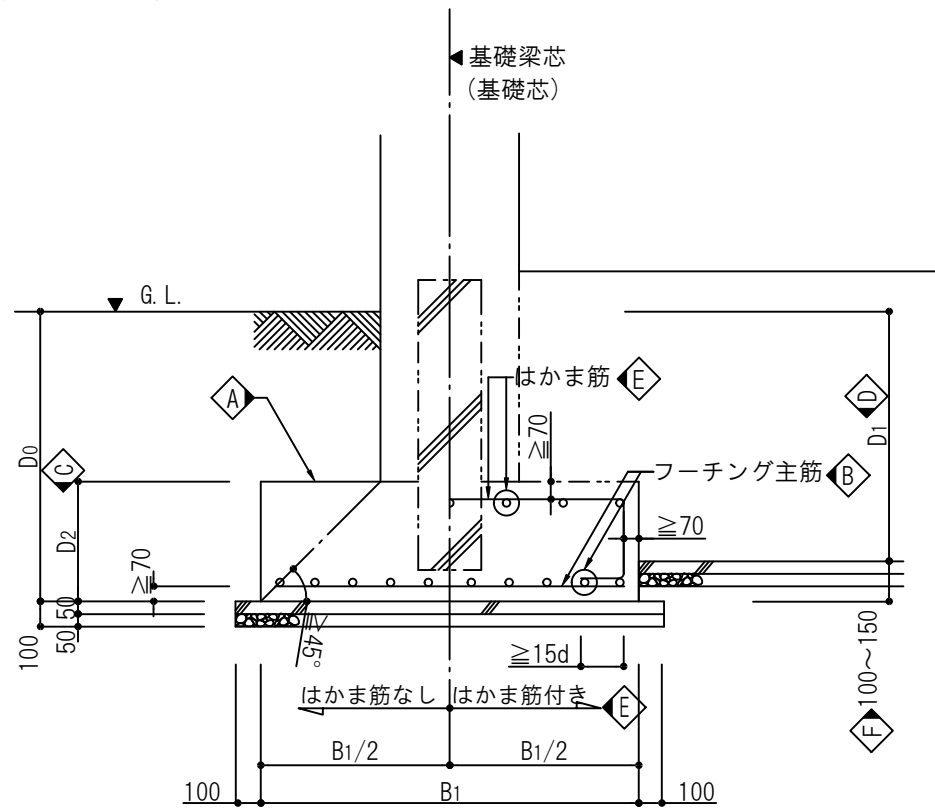
設計かぶり厚さ一覧

SR - 016

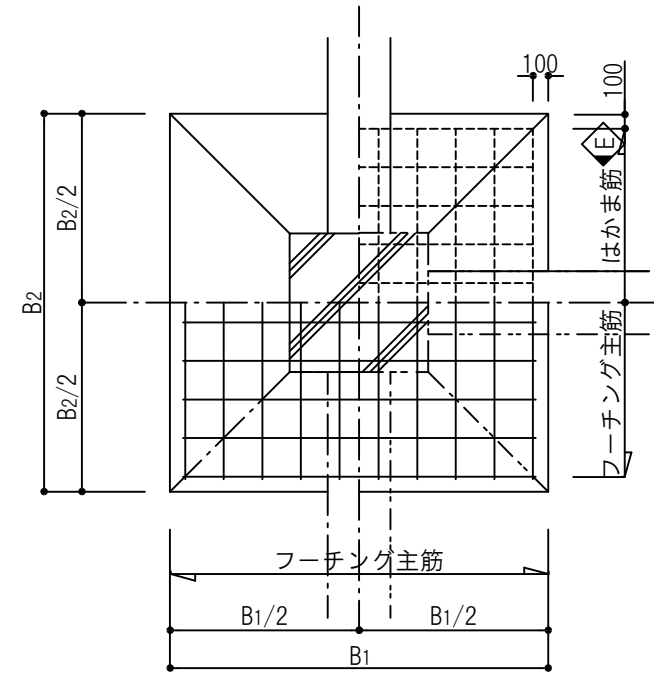
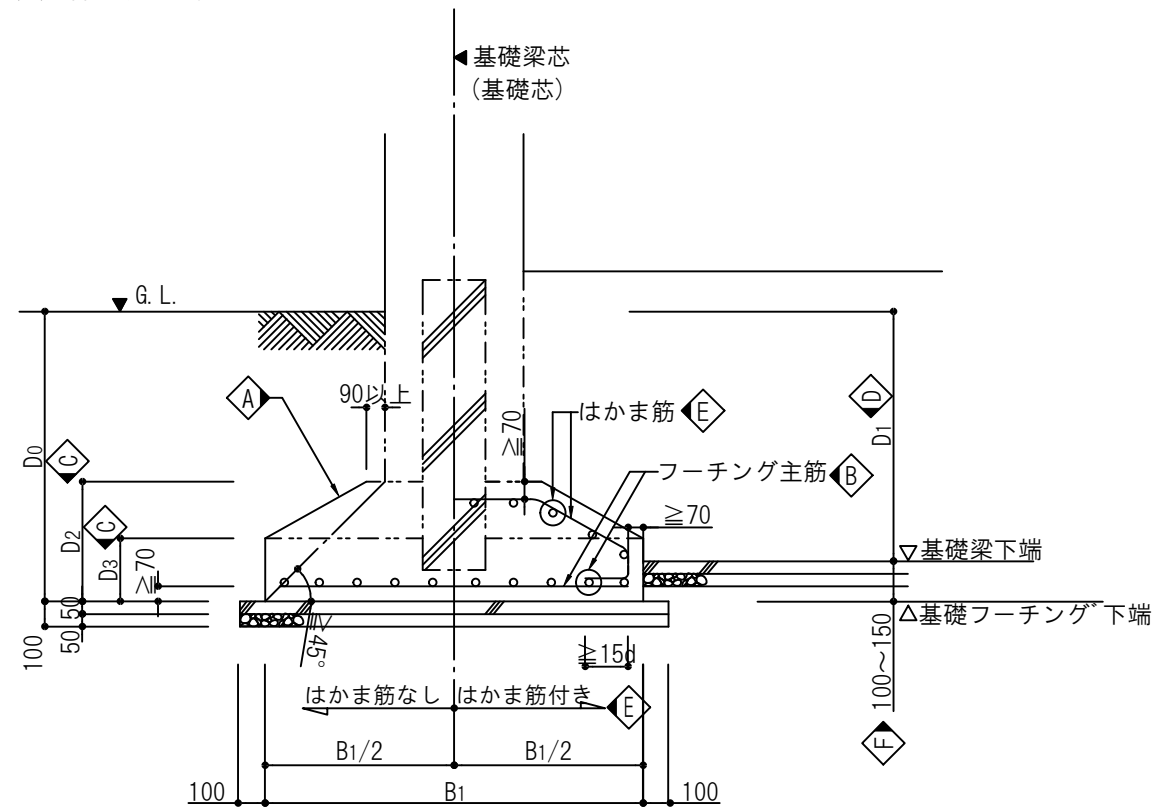
# 基礎廻り詳細図

## 1) 直接基礎

### (a) 長方形断面基礎



### (b) 台形断面基礎



仕様

- Ⓐ 2m×2m 以下の独立フーチング基礎においては、施工上の容易さを考えた台形断面としない。なお、これ以上の大きな基礎で台形断面とした場合は、テーパ部を型わくの必要のない勾配(15° ~ 20°)以下とする。
- Ⓑ フーチング主筋径、本数は設計図による。フーチング端部において70mm の設計かぶりをとる。端部のフーチング主筋1本目は100mm のかぶりをとって配筋する。
- Ⓒ フーチング厚さ D2、D3 は設計図による。フーチング厚さ D2 は、柱面とフーチング面を結んだ線の勾配が45° 以上となる厚さとする。
- Ⓓ 基礎梁の土への根入れ (D1) は、建物の軒高の6%以上とする。ただし、軒高31m かつ幅の2.5倍を超える建物においては、その値を8%以上とする。
- Ⓔ はかま筋は基礎に浮上り力が作用する場合は必ず配筋し、鉄筋径、ピッチは設計図による。
- Ⓕ 基礎梁下端と基礎フーチング下端は基礎下端筋とフーチング主筋が重なるのを避けるため100~150mm のあきをとる。

附記事項

改訂事項

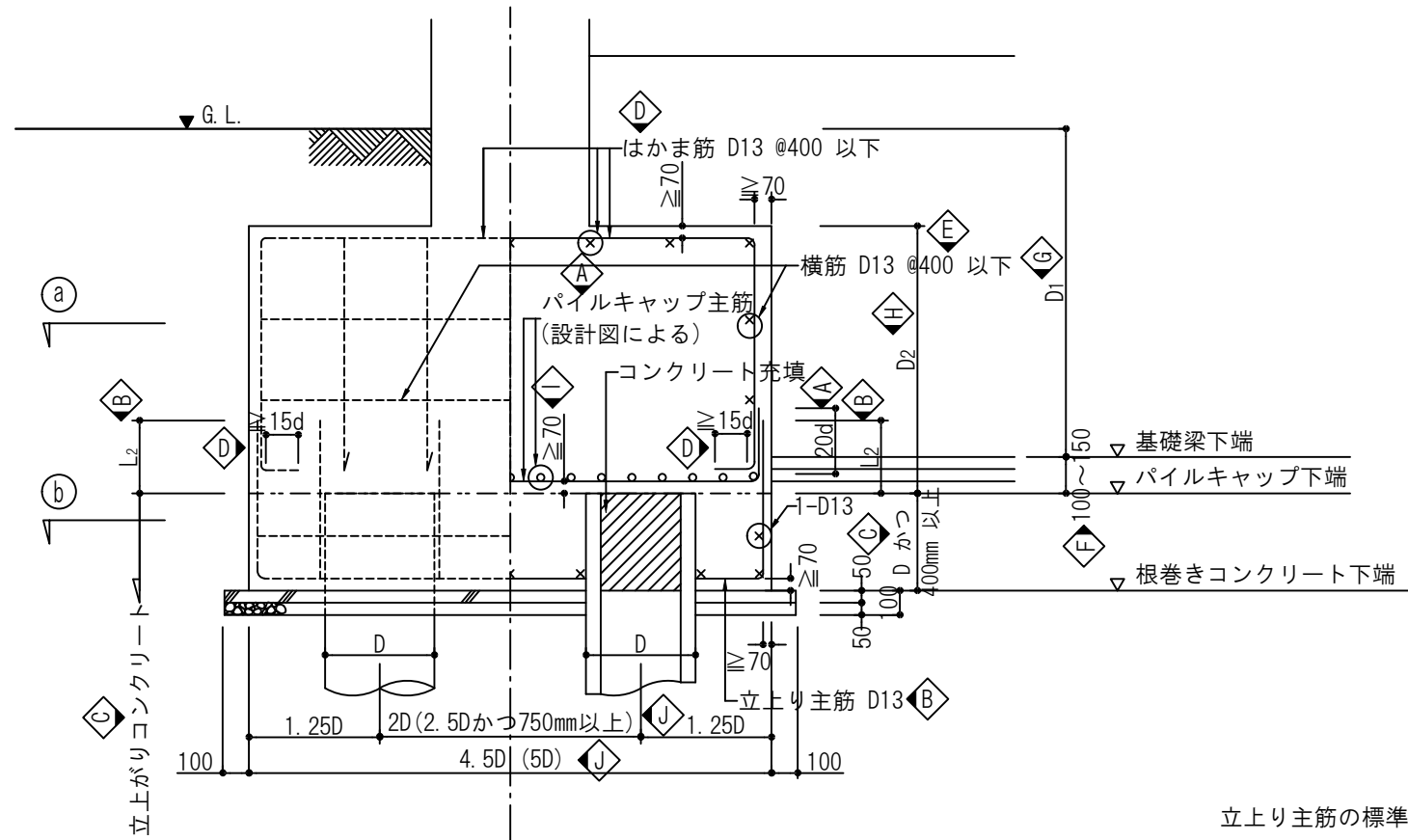
名称

基礎廻り詳細図(1)

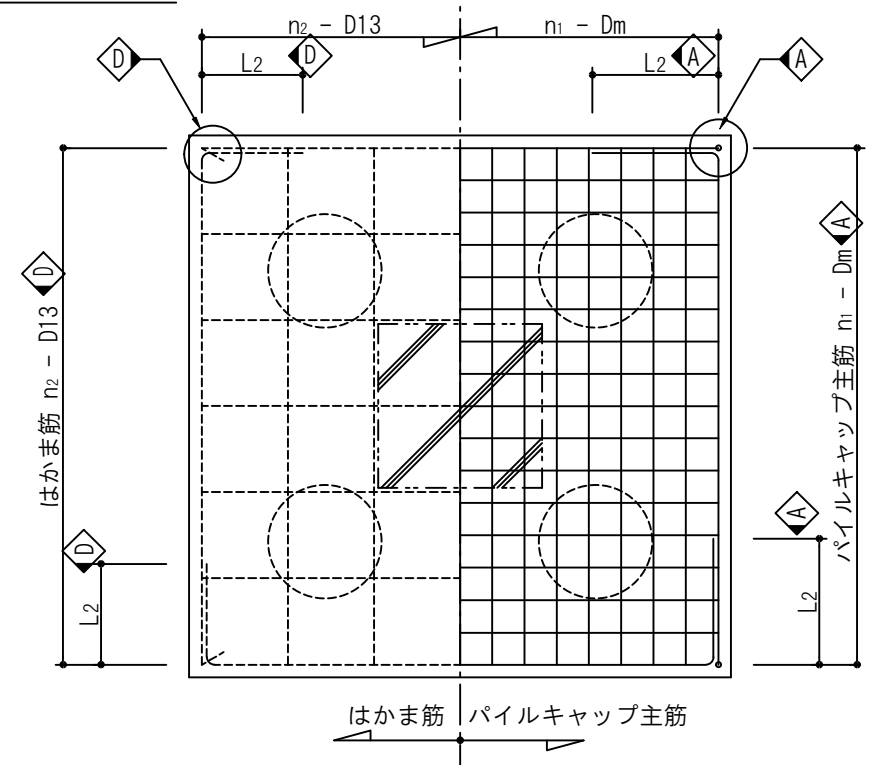
縮尺

SR - 100

2) 既製杭の場合 (PHC, SC 杭)

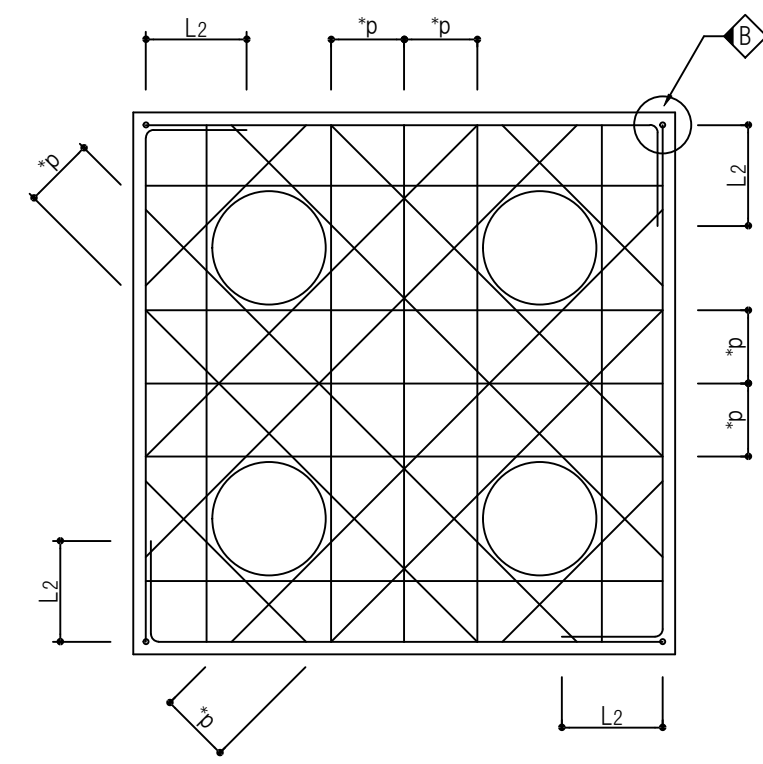


(a)-(a) 断面図



立上り主筋の標準配筋 (B)

(b)-(b) 断面図



\* p ≤ 400 となるように配筋する。

仕  
様

- (A) パイルキャップ主筋本数は設計図による。パイルキャップ端部において 20d 曲げ上げる。四隅部鉄筋は一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ上げる。
- (B) 立上り主筋は原則として D13 を用い、縦、横、斜めに間隔 400mm 以下となるように配し、末端部はパイロキャップ内に L2 埋め込む。四隅部の鉄筋は、一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ上げる。
- (C) 根巻きコンクリートの厚さは杭径以上、かつ 400mm 以上とし、設計図による。
- (D) はかま筋は、特記なき限り D13 以上の鉄筋を使用し、間隔は 400mm 以下とする。末端部の余長は 15d 以上を確保し、パイロキャップ主筋とラップさせる。なお、四隅部の鉄筋は、一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ下げる。
- (E) 横筋は、D13 以上の鉄筋を使用し、間隔は 400mm 以下とする。
- (F) 基礎梁下端とパイロキャップ下端はパイロキャップ主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mm のあきをとる。
- (G) 基礎梁の土への根入れ D1 は、建物の軒高の 6% 以上とする。ただし軒高が 31m かつ幅の 2.5 倍を超える建物においては、その値を 8% 以上とする。
- (H) パイルキャップの厚さ D2 は、設計図による。
- (I) パイルキャップ主筋は、杭頭からスペーサー等により 70mm 以上の設計かぶり厚さを確保する。
- (J) ( ) 内に示す数値は打込み杭の場合を示す。

附  
記  
事  
項

・高支持力杭については設計図による。

改  
訂  
事  
項

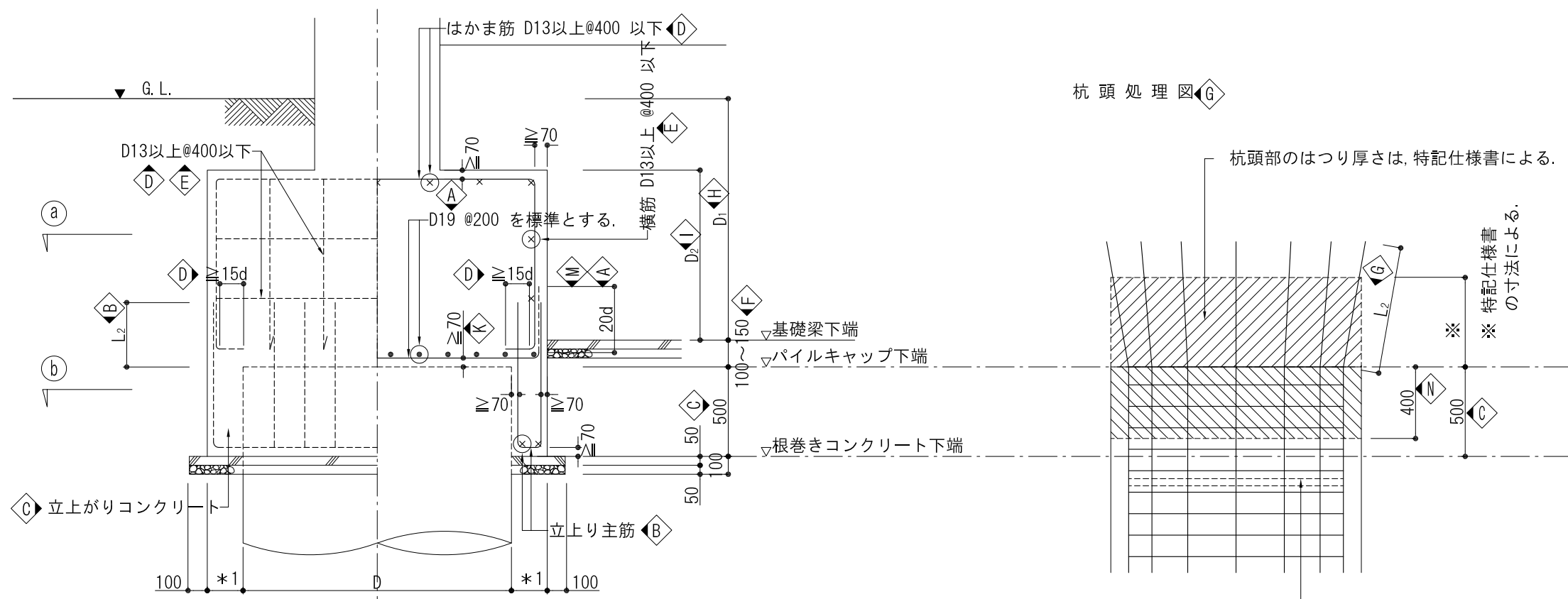
名  
称

基礎廻り詳細図(2)

縮  
尺

SR - 101

3) 場所打ち杭の場合 (柱 SRC 造で アンカーボルトを SR - 129 とする場合)



\*1: 設計図による.

断面図 (a-a) (L)

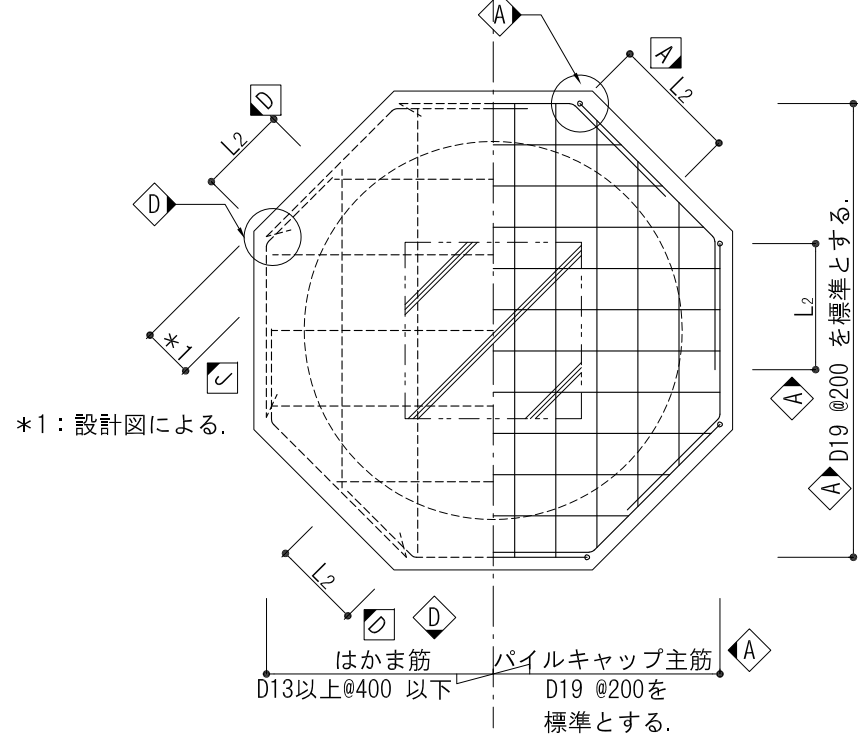
註) 正方形の場合は SR - 103 参照

立上り主筋の標準配筋 (B)

断面図 (b-b) \* p ≤ 400 となるように配筋する.

正方形の場合 (L)

\* p ≤ 400 となるように配筋する.



\*1: 設計図による.

はかま筋 D13以上@400 以下  
パイルキャップ主筋 D19 @200を標準とする.

杭頭処理図 (G)

杭頭部のはつり厚さは、特記仕様書による.

※ 特記仕様書の  
の寸法による.

補強リング材 (F. B. 等)  
(杭鉄筋の位置確保)

仕  
様

- (A) 隅角部のパイルキャップ主筋は一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ上げる.
- (B) 立上り主筋の標準は、D13以上間隔400mm 以下とする。末端部はパイルキャップ内部に L2 定着する。隅角部の鉄筋は、一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ上げる.
- (C) 立上りコンクリートの厚さは500mmを標準とする.
- (D) はかま筋は、特記なき限り D13以上間隔400mm 以下とし、末端部の余長は 15d 以上とし、パイルキャップ主筋とラップさせる。なお、隅角部の鉄筋の納まりは、一方を水平に L2 定着し、他方を曲げ下げる.
- (E) 横筋は、D13以上間隔400mm 以下とする.
- (F) 基礎梁下端とパイルキャップ下端は、パイルキャップ主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mm のあきをとる.
- (G) 杭頭部のはつり厚さは特記仕様書による。また、杭主筋はパイルキャップに L2 かつ、特記に示す値以上定着すること.
- (H) 基礎梁の土への根入れ D1 は、建物の軒高の6%以上とする。ただし、軒高が31mかつ幅の2.5倍を超える建物においては、その値を8%以上とする.
- (I) パイルキャップの厚さ D2 は、設計図による.
- (J) 杭1本打ちの場合のパイルキャップ隅角部のすみ切りは、設計図による。なお、杭が2本打ち以上となる場合のパイルキャップの水平断面形状は、長方形とする.
- (K) パイルキャップ主筋は、杭頭からスペーサー等により 70mm 以上のかぶりを確保する.
- (L) パイルキャップの水平断面形状は八角形を基本とする。ただし、正方形とする場合は本図による.
- (M) 偏心基礎および2本打の杭基礎の場合、パイルキャップ主筋の端部を 20d 以上曲げ上げる.
- (N) 鉄骨柱脚のアンカーボルト先据付け工法 (SR-129参照) の場合はアンカーボルトと干渉する部分のはつりを行う.

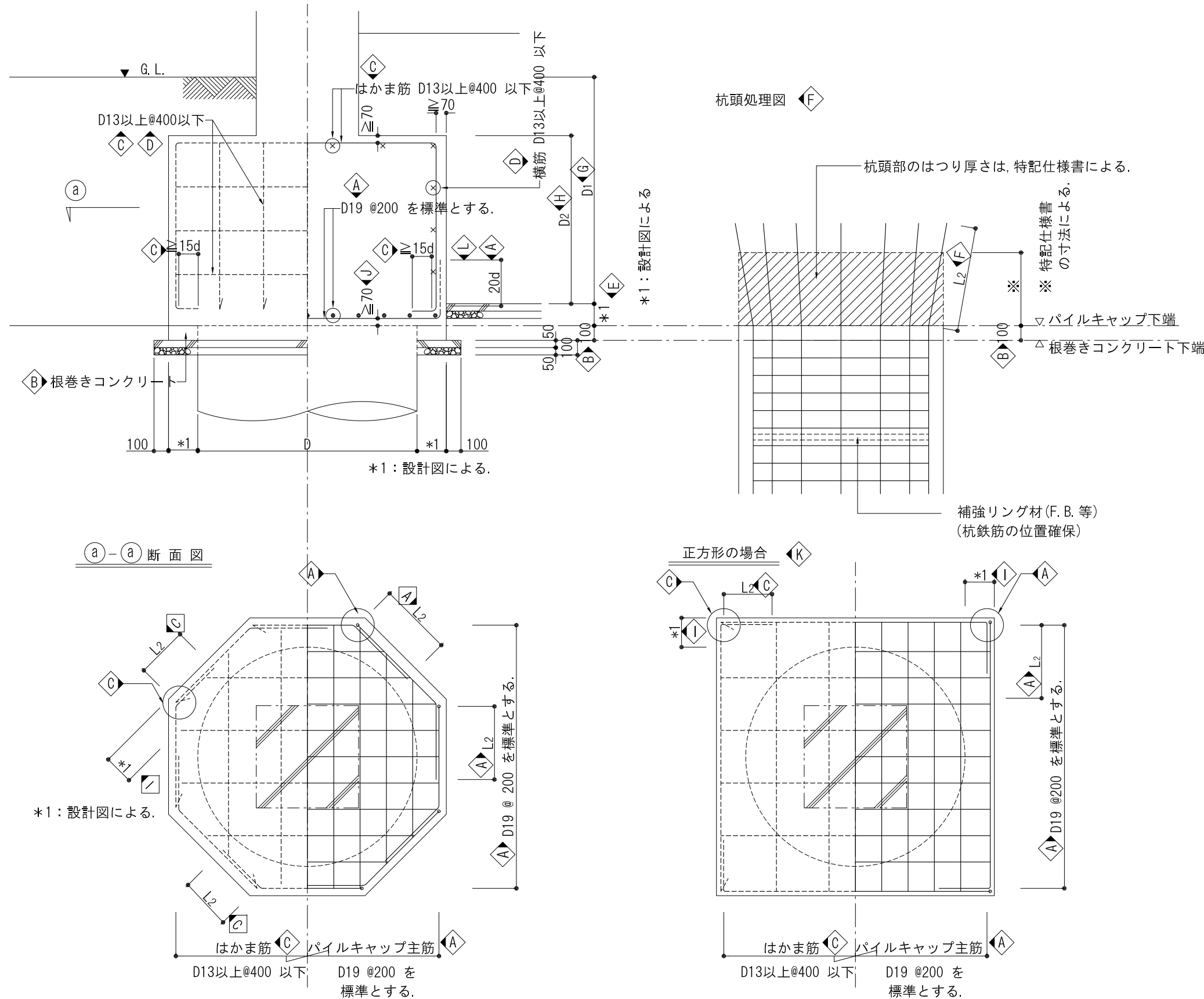
改訂事項

名称 基礎廻り詳細図(3)

縮尺 SR - 102



4) 場所打ち杭の場合 (柱 RC造および SRC造でアンカーボルトを SR - 130 とする場合)



仕様

- A 隅角部のパイルキャップ主筋は一方を水平に L<sub>2</sub> 定着し、他方を曲げ上げる。
- B 鋼管コンクリート杭の根巻きコンクリートの厚さは設計図による。本図において立上り主筋の必要はない。
- C はかま筋は、特記なき限り D13以上 間隔400 mm以下とし、末端部の余長は 15d 以上としパイルキャップ主筋とラップさせる。なお隅角部の鉄筋の納まりは一方を水平に L<sub>2</sub> 定着し、他方を曲げ下げる。
- D 横筋は、D13以上 間隔400mm 以下とする。
- E 基礎下端とパイルキャップ下端はパイルキャップ主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、あきをとる。(設計図による)
- F 杭頭部のはつり厚さは、特記仕様書による。また、杭主筋はパイルキャップに L<sub>2</sub> かつ、特記に示す値以上定着すること。
- G 基礎梁の土への根入れ D<sub>1</sub> は、建物軒高の 6%以上とする。ただし、軒高が 31m かつ幅の2.5倍を超える建物においては、その値を 8%以上とする。
- H パイルキャップの厚さ D<sub>2</sub> は、設計図による。
- I 杭1本打の場合のパイルキャップ隅角部のすみ切りは、設計図による。なお、杭が2本打以上となる場合のパイルキャップの水平断面形状は長方形とする。
- J パイルキャップ主筋は、杭頭からスペーサー等により 70mm 以上のかぶりを確保する。
- K パイルキャップの水平断面形状は八角形を基本とする。ただし、正方形とする場合は本図による。
- L 偏心基礎および2本打の杭基礎の場合、パイルキャップ主筋の端部を 20d 以上曲げ上げる。

附記事項

改訂事項

名称  
縮尺

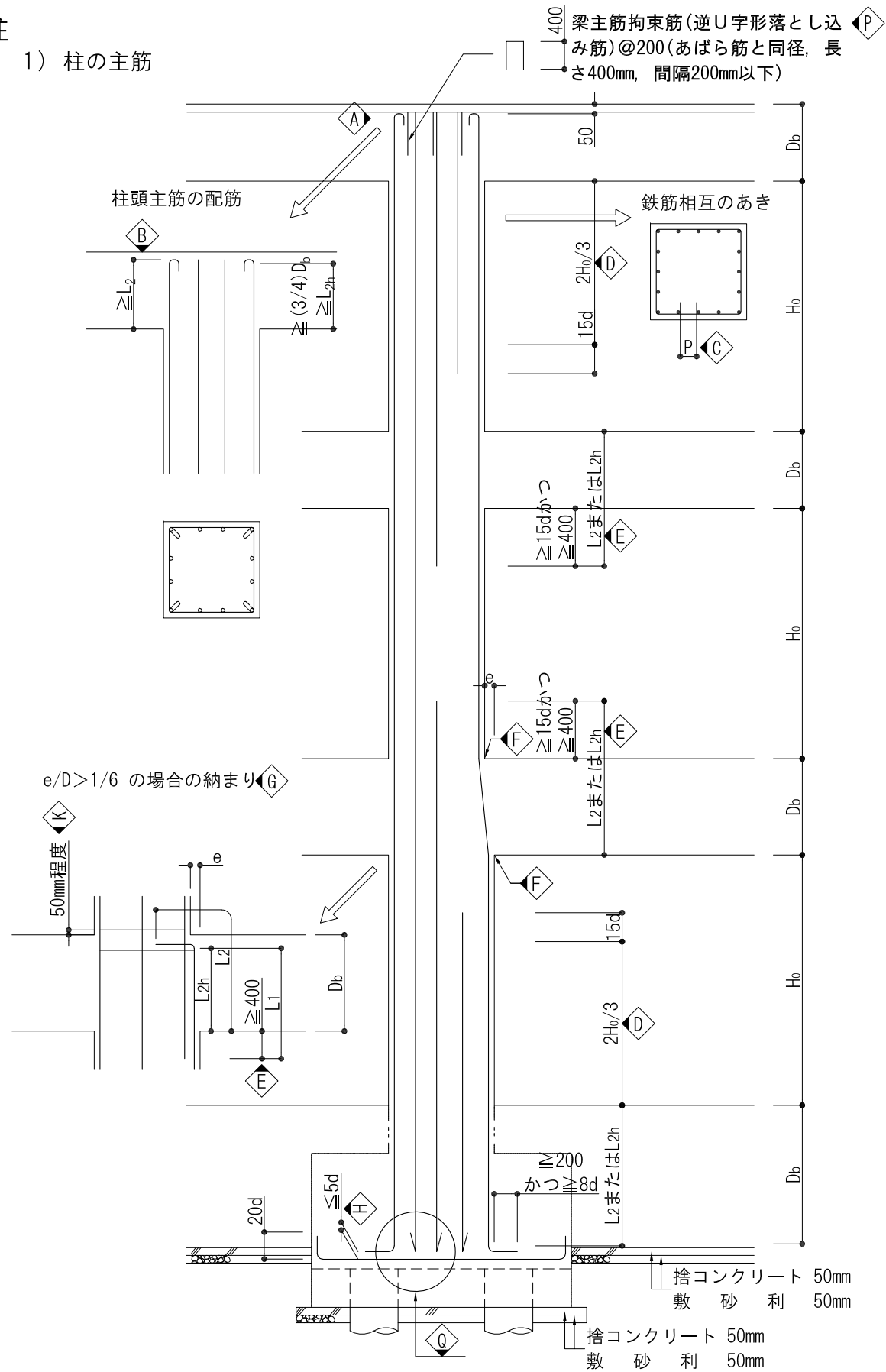
基礎廻り詳細図(4)  
SR - 103

・参照図番の変更。

\*1: 設計図による。

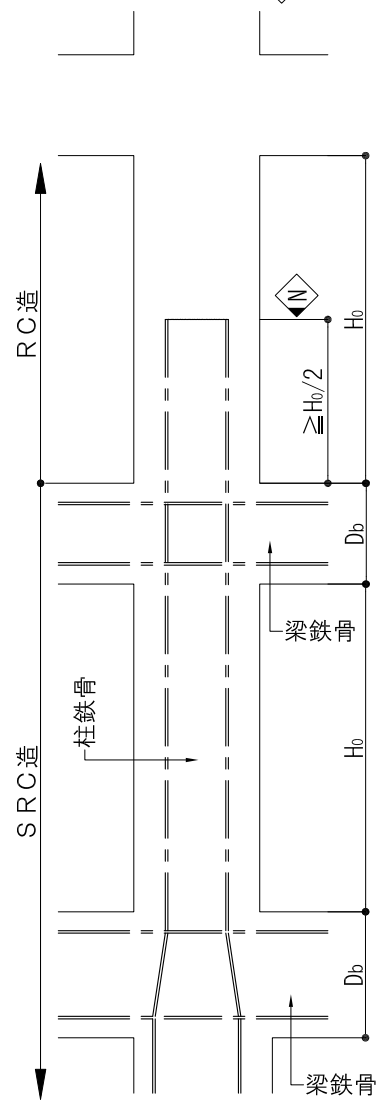
柱

1) 柱の主筋



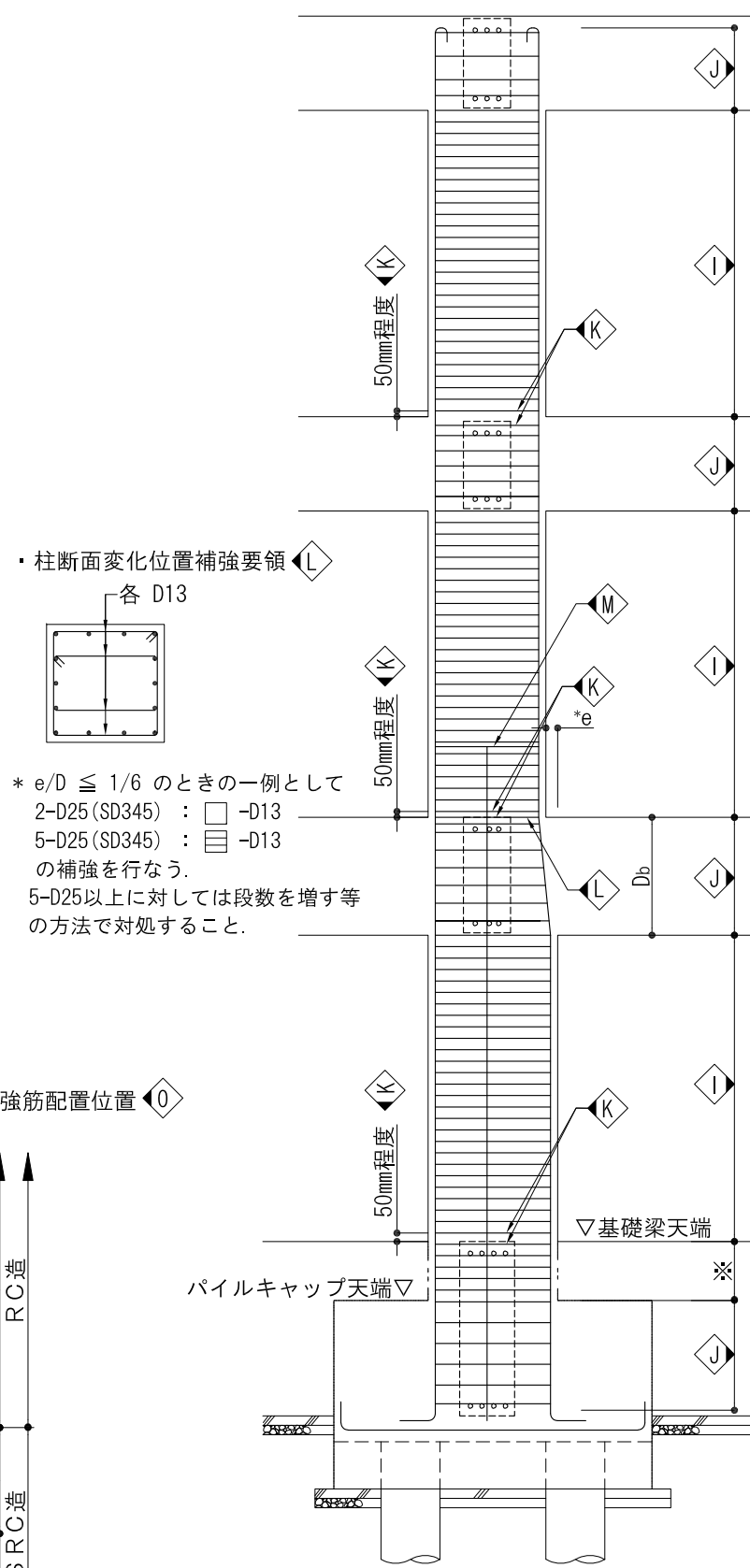
2) 柱の鉄骨

(a) 鉄骨の立上げ位置



(b) SRC造・RC造切替部のせん断補強筋配置位置

3) 柱の帯筋



※1.0m以上の範囲かつ、パイルキャップ天端までの範囲は、1階柱帯筋と同径のあばら筋を100mm以下の間隔で配筋する。

仕様

- Ⓐ 柱頭の四隅の主筋はフックを設ける。
- Ⓑ 柱頭主筋の定着長は設計図に示す定着長（設計図に記載なければ $L_2$ 又は $L_{2h}$ ）とする他、鉛直投影長さは、梁せいりの3/4倍以上とする。
- Ⓒ 主筋相互のあきは $1.5d$ (SR-107(c)を参照)、かつ $25\text{mm}$ 以上、および粗骨材最大寸法の $1.25$ 倍以上とする。
- Ⓓ 柱頭の配筋が柱脚より多い場合は、梁コンクリート下端より $2H_0/3+15d$ 以上定着をとる。柱脚の配筋が柱頭より多い場合も、梁上端より同様な配筋を行なう。
- Ⓔ その階止まりの鉄筋の定着は、その階の梁面より下方(または上方)に $L_2$ (または $L_{2h}$ )以上かつ定着方向の梁面より、 $15d$ 以上かつ $400\text{mm}$ 以上とする。
- Ⓕ 柱主筋のしぼり位置は梁のコンクリート面とする。
- Ⓖ  $e/D > 1/6$  で、かつ帯筋による補強が不可能な場合、本図のような定着となる。
- Ⓗ パイルキャップ主筋と柱筋の間隔は $5d$ 以下とする。
- Ⓘ 帯筋は同間隔とする。(① $100\text{mm}$ 以下)
- Ⓙ 柱梁接合部の帯筋は、梁上下の柱第一帯筋間の平均帯筋間隔が設計図に示す柱梁接合部帯筋間隔以下となるように配筋する。
- Ⓚ 柱梁接合部内の梁上帯筋の直上にせん断補強筋を配する。第一帯筋は、梁コンクリート上端位置から $50\text{mm}$ 程度の位置とする。
- Ⓛ 柱断面の変化する位置の帯筋を図のように補強する。補強不可能の場合はⒼに示す納まりとする。
- Ⓜ 柱主筋のカットオフ筋端部には帯筋と同径の補強筋(外周帯筋)を配置する。
- Ⓝ SRC造、RC造の切替部の柱鉄骨は、RC造の柱に $H_0/2$ 以上立ち上げる。
- Ⓞ SRC造、RC造の切替部の柱鉄骨より上部の柱は、鉄骨の応力が鉄筋コンクリート部分に伝達できるように十分な主筋、およびせん断補強筋を配する。
- Ⓟ 柱頭部には梁主筋拘束筋(逆U字形落とし込み筋)を配する。径はあばら筋と同径とし、間隔は $200\text{mm}$ 程度とする。
- Ⓠ 直線定着とする場合は、監督員及び機構造担当者に確認を受ける。

附記事項  
・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。  
・定着長を計算により確認するなど、最上階の梁せいに注意する。

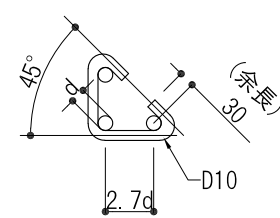
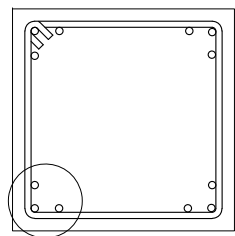
改訂事項  
・柱頭主筋の定着要の修正

名称  
柱 (1)

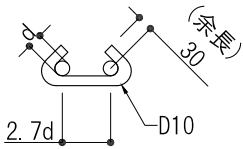
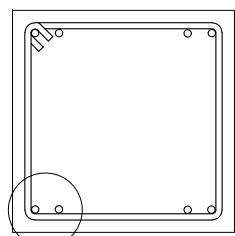
縮尺  
SR - 104

4) 主筋の位置確保

(a) 両方向の位置確保 ◀A

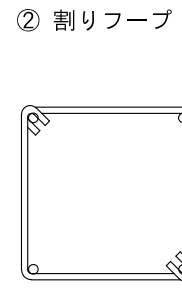
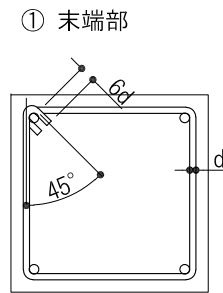


(b) 一方向の位置確保 ◀A

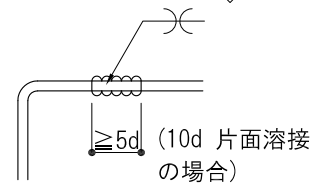


5) 帯筋の形状等

(a) 帯筋の形状 ◀B

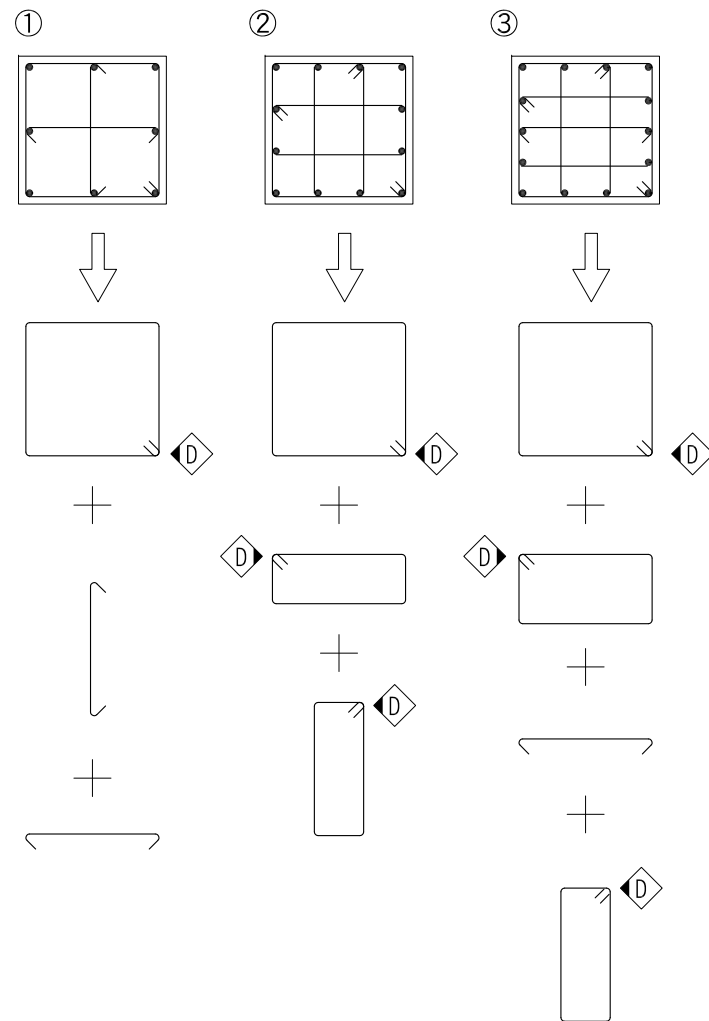


(b) 帯筋の溶接 ◀C



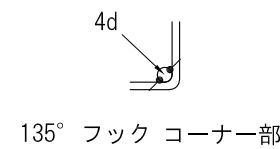
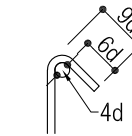
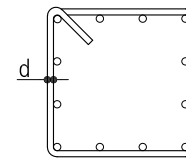
註) 閉鎖形状以外の副帯筋の使用は、ベンダー等によって規定の折曲げ、定着が十分に可能である場合に限る。

(c) 副帯筋の配筋方法 (例)

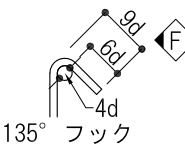
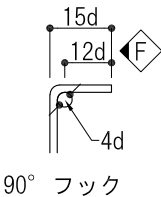
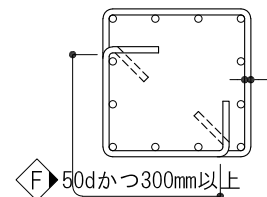


(d) 各スパイラル帯筋の配筋方法

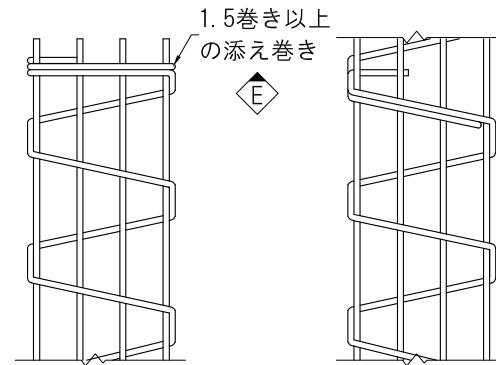
① 末端部



② 重ね継手

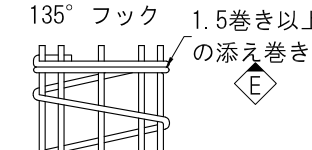
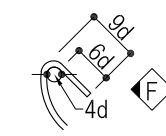
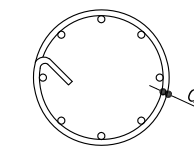


1.5巻き以上の添え巻き ◀E

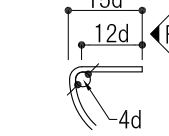
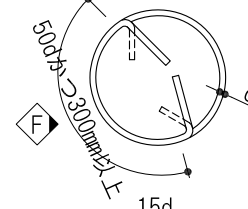


(e) 円形スパイラル帯筋の配筋方法

① 末端部

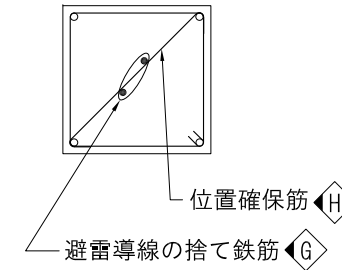


② 重ね継手



6) 避雷導線の捨て鉄筋

の位置確保 (例)



- ◀A 構造図に寄せ筋の表示がある柱主筋については、その位置の確保のため、a), b), いずれかに示す鉄筋を柱の上、下端および中央の3ヶ所に配置する。
- ◀B 帯筋の形状は余長 6d の 135° フックとする。ただし、柱・梁接合部は②の形状にて示す割りフープでもよい。
- ◀C SRC構造の柱梁接合部で帯筋をフック付き継手と出来ない場合は、両面溶接で 5d、片面溶接で 10d のフレア溶接とする。
- ◀D 鉄筋の末端フックは重ならないように位置を交互に配する。
- ◀E スパイラル筋の巻初めは、梁のコンクリート面とし、135° (余長 6d 以上) フックに 1.5巻き以上の添え巻きとする。
- ◀F スパイラル筋の重ね継手は重ね長さ 50d 以上、かつ 300mm 以上とし、90° フックでは余長 12d 以上、135° フックでは余長 6d 以上とする。
- ◀G 避雷導線の捨て鉄筋の本数、径、接続等は、都市機構建築担当及び電気担当監督員の確認を受ける。
- ◀H 避雷導線の捨て鉄筋の位置の確保のための鉄筋を柱の上、下端および中央の3ヶ所に配置する。

仕  
様

附  
記  
事  
項

・高強度せん断補強筋を使用する場合は、特記による。

改  
訂  
事  
項

・避雷導線の捨て鉄筋の位置の確保の図を追加。

名  
称

柱 (2)

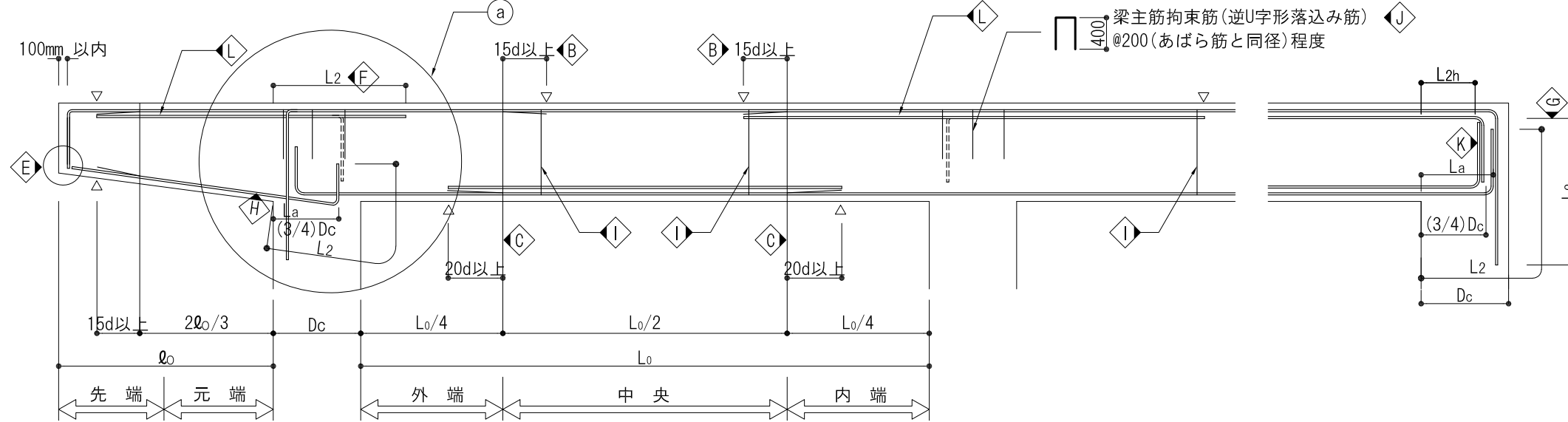
縮  
尺

SR - 105

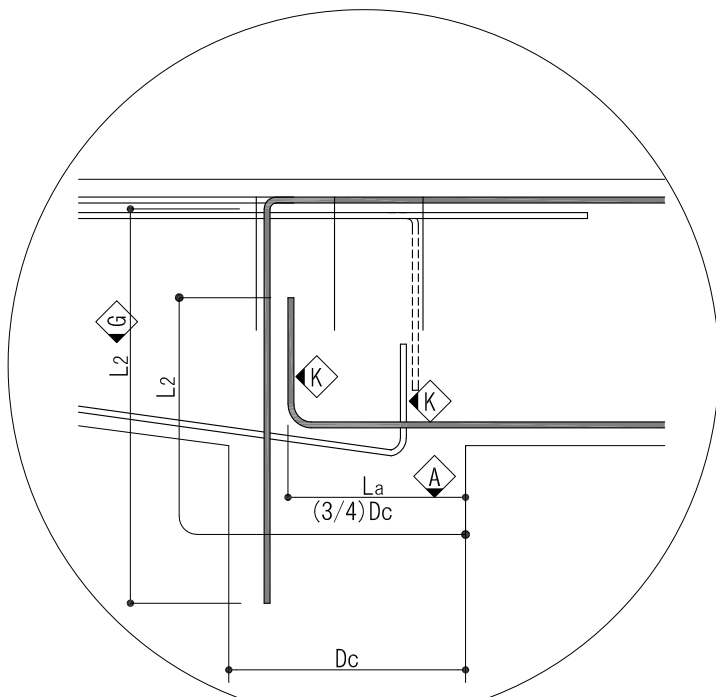
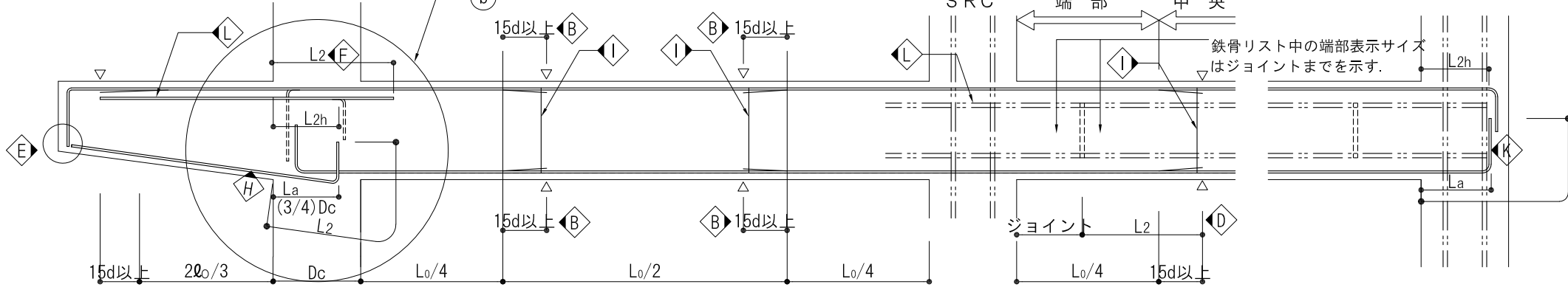
# 大 梁

## 1) 梁の主筋

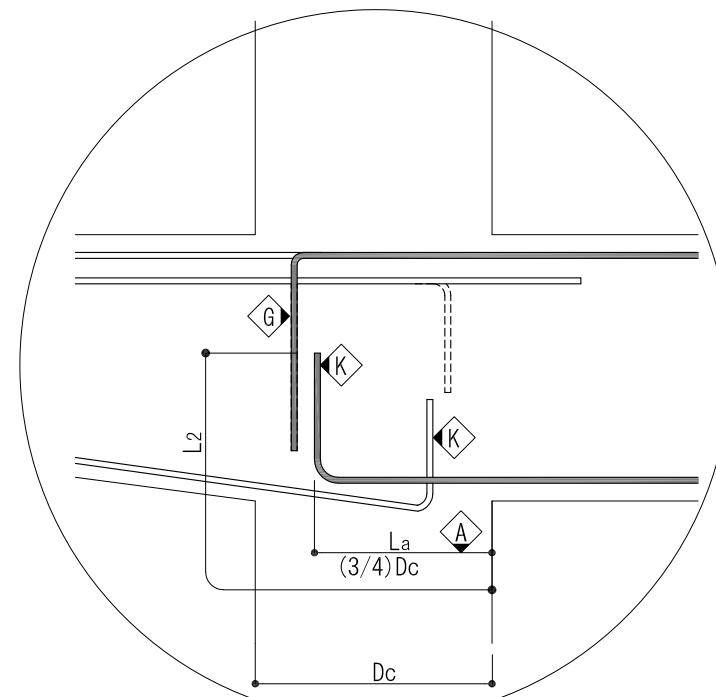
(a) 最上階(セットバック部分の最上層を含む)



(b) 一般階



(a) 部詳細図



(b) 部詳細図

仕 様

- ◇A 梁主筋の水平投影長さは柱せいの3/4倍以上とすること。
- ◇B カットオフ筋の定着長さは 計算により定まる定着長さ以上、かつ  $L_0/4+15d$  以上とする。  $L_0 \leq 2,500$  mm の場合は通し筋とする。
- ◇C 中央下端筋が端部より多い場合、  $L_0/2$  より  $20d$  以上の位置まで延長する。
- ◇D 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、ジョイント位置での設計でカットオフ筋部分を有効とするには、カットオフ筋部分の定着はジョイントより  $L_2$  か本図に示す長さのいずれか長い方で決定する。
- ◇E 片持ち梁上端筋は下端筋位置まで直角に折り曲げる。フックは不要とする。下端筋は先端まで延長(設計かぶり厚さ以上は確保)しフックなしで止める。
- ◇F 片持ち梁上端筋の定着は  $L_2$  以上とする。なお、隣接する大梁と連続している場合は通し筋としてよい。
- ◇G 大梁上端筋は片持ち梁上端筋と連続する場合でも最上階は全数を、一般階では全数の1/2以上を柱内に定着する。定着長は最上階で折り曲げ後  $L_2$ 、一般階で  $L_2$  とする。
- ◇H 片持ち梁下端筋は隣接する大梁下端筋と連結してよい。
- ◇I 梁主筋のカットオフ筋端部から  $100$  mm 以内にあばら筋と同径の補強筋を配置する。
- ◇J 柱頭部には梁主筋拘束筋(逆U字形落込み筋)を配する。径はあばら筋と同径とし、間隔は  $200$  mm 程度とする。
- ◇K 下端筋の末端は原則として曲上げ定着とする。
- ◇L 2段筋の場合の受け筋は  $D10@1,000$  とする。

附 記 事 項

- ・本標準図における詳細は、「SR-001」による。
- ・本標準図は、上端筋に  $L_{2h}$  確保の場合、下端筋に  $L_a$  かつ  $L_2$  を確保の場合を記載している。
- ・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改 訂 事 項

- ・片持ち梁下端筋の定着において、やむを得ない場合の曲げ下げ定着(点線で記載)の削除。

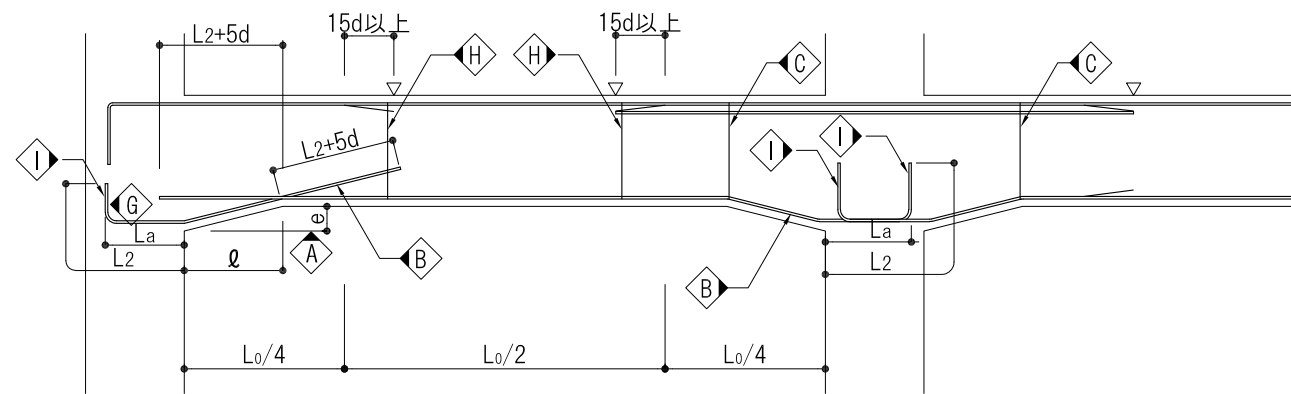
名 称

大 梁 (1)

縮 尺

SR - 106

(c) ハンチのある梁



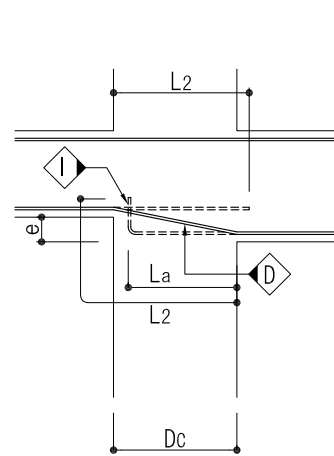
配筋は右表による。

ハンチ部あばら筋と主筋の関連性 ◊C

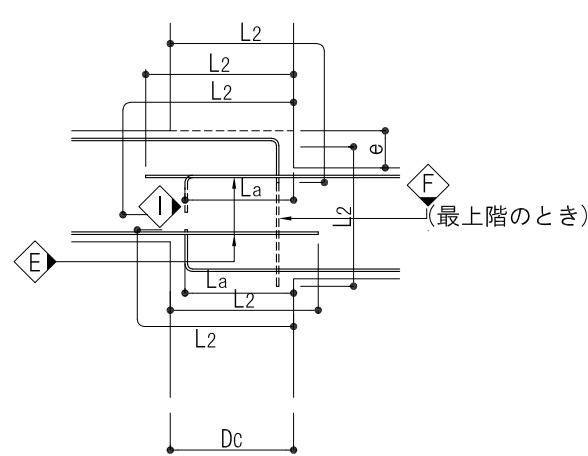
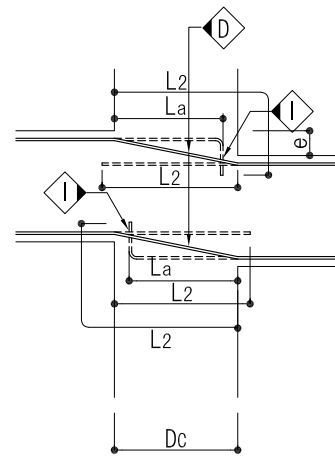
勾配	あばら筋	□□- D13	2-□□- D13
1/3 以下		4 - D22	5 - D25
1/4 以下		4 - D22	7 - D25
1/5 以下		4 - D25	8 - D25
1/6 以下		5 - D25	10 - D25

(d) 段違い梁

①  $e/D_c \leq 1/6$  の場合



②  $e/D_c > 1/6$  の場合



仕  
様

- ◊A ハンチ勾配  $e/D$  は  $1/3$  以下とする。
- ◊B ハンチ部の配筋法は直線の定着法と折曲げ法があるが、梁幅の制限、あばら筋の配筋を考慮し、いずれかを決定する。
- ◊C ハンチ部の鉄筋(折曲げ連続している鉄筋)は、勾配によって生ずる鉛直分力を処理するために、表に示す勾配に対応したあばら筋を配する。
- ◊D  $e/D \leq 1/6$  の場合、左右の梁筋を柱内に定着せず、勾配を付けて通し筋としてよい。ただし、直交の梁筋とぶつかる場合は点線の納まりとする。
- ◊E  $e/D > 1/6$  の場合も通し配筋を優先とするが、不可能な場合は柱内定着とする。
- ◊F 最上階の上端筋定着は一般階の定着長  $L_2$  に  $5d$  を加える。
- ◊G 下端筋の末端は原則として曲上げ定着とするが、やむを得ない場合は曲下げ定着でもよい。
- ◊H 梁主筋のカットオフ筋端部から  $100\text{mm}$  以内にあばら筋と同径の補強筋を配置する。
- ◊I 投影定着長さは「SR-001」参照。

附  
記  
事  
項

・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改  
訂  
事  
項

名  
称

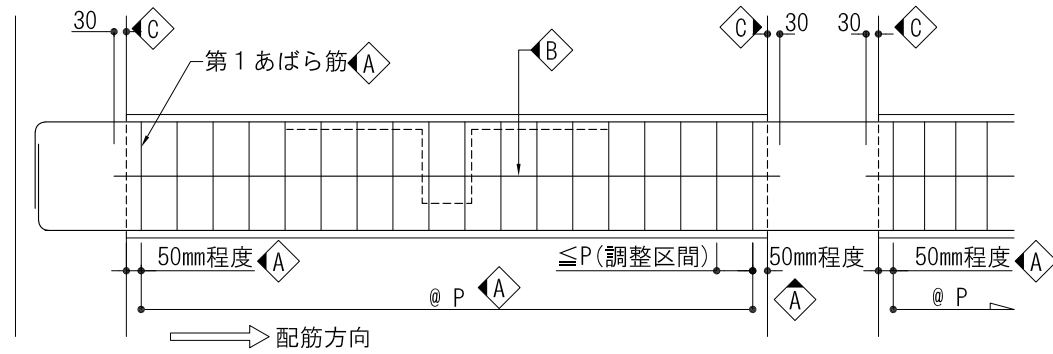
大 梁 (2)

縮  
尺

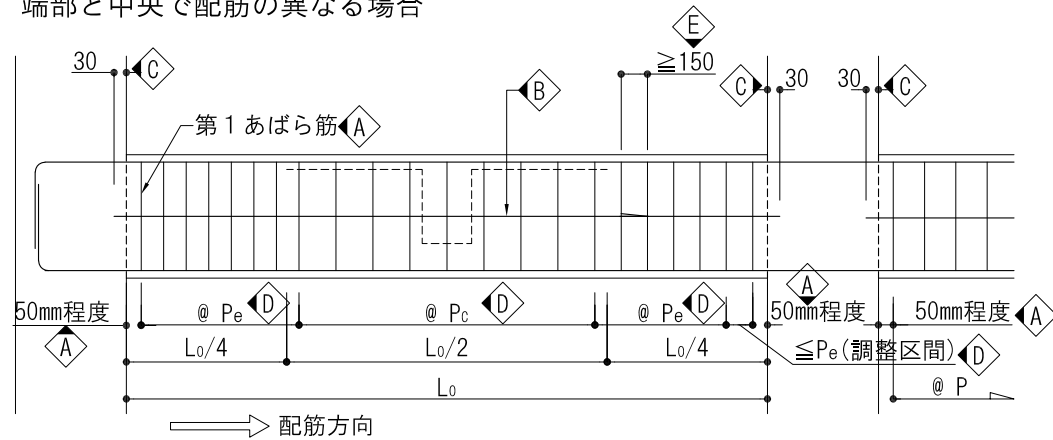
SR - 107

2) あばら筋

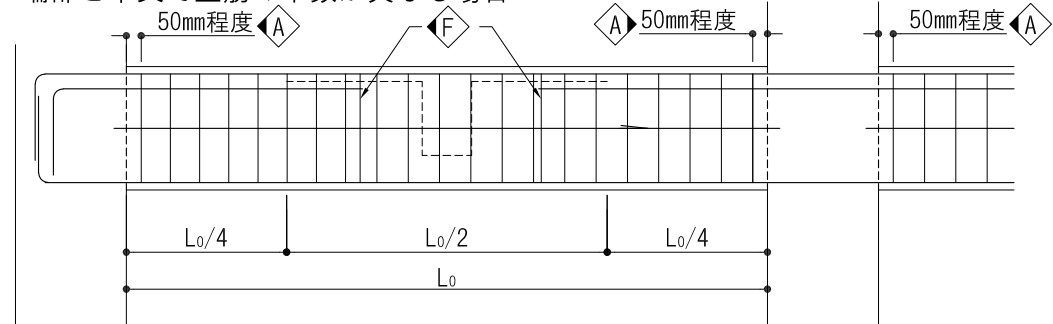
(a) 端部、中央とも同配筋の場合



(b) 端部と中央で配筋の異なる場合

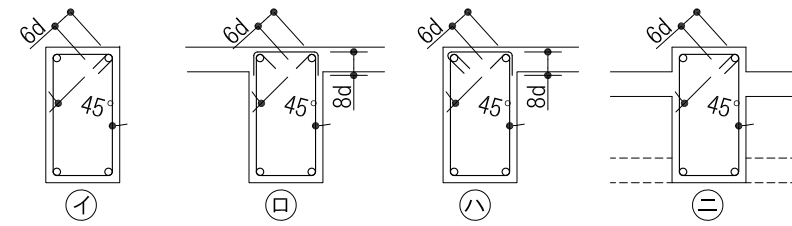


(c) 端部と中央で主筋の本数が異なる場合



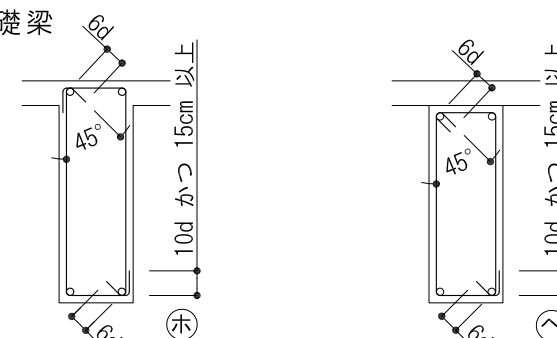
3) あばら筋の形状

(a) 一般階



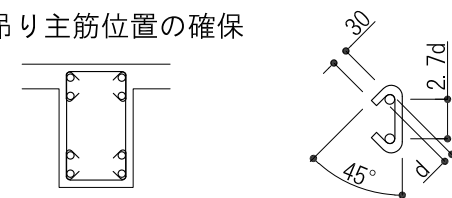
上端にスラブが取り付けられない場合(ニ)の状態もこれに準ずる.)は、あばら筋形状は(イ)とする。

(b) 基礎梁



基礎梁の場合(イ)(ロ)の他、スラブ一体打の場合は(ホ)、置きスラブの場合(ヘ)の形状でも可とする。

(c) 中吊り主筋位置の確保



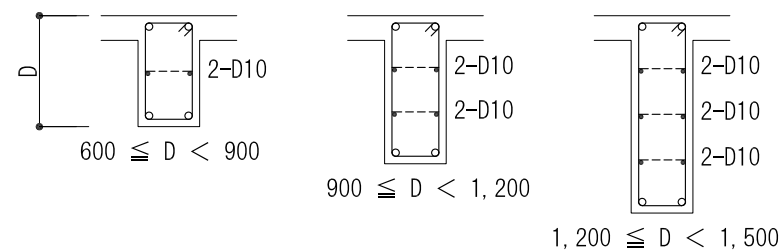
中吊り主筋の位置確保のため、図の鉄筋を梁両端および  $L_0/4$  以内に入れる。

受け筋端部形状

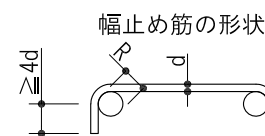


2段筋受筋  
D13 @1,000

4) 腹筋、幅止め筋

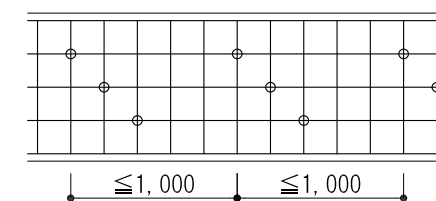


幅止め筋は、D10 @1,000 以下に設ける。D<600mm は不要。



R = 2~3d

腹筋2段以上の場合の幅止め筋位置(○印)



仕  
様

- ◇A あばら筋の割付けは、柱コンクリート面から50mm程度の位置に第一あばら筋を設け、それより所定の間隔で割り付ける。
- ◇B 腹筋は原則として D10 以上を使用し、梁せい 600mm 以上のものに適用する。なお幅止め筋については 5) を参照のこと。
- ◇C 腹筋は柱内に 30mm 程度(最終あばら筋と結束可能な程度)のみ込む。
- ◇D あばら筋が端部と中央で異なる場合は、端部を第一あばら筋から所定の間隔で割り付け、内のリスパン 1/4 の点を通り越し、端部配筋を終る。次に中央部を所定の間隔で割り付け、 $L_0/4$  点の手前で配筋を終え、端部間隔に移行する。こうして配筋した最後の間隔は所定の間隔以下となるようにする。
- ◇E 腹筋を継ぐ場合の重ね長さは150mm 以上とする。
- ◇F 梁主筋のカットオフ筋端部から 100mm 以内にあばら筋と同径の補強筋を配置する。

附記事項  
・高強度せん断補強筋を使用する場合は、特記による。  
・腹筋をねじれ補強の軸筋に使用する場合は端部の定着長さは、設計図による。

改訂事項  
・梁のハンチの記載をSR-107と統合。  
・2段筋の受け筋を追記。

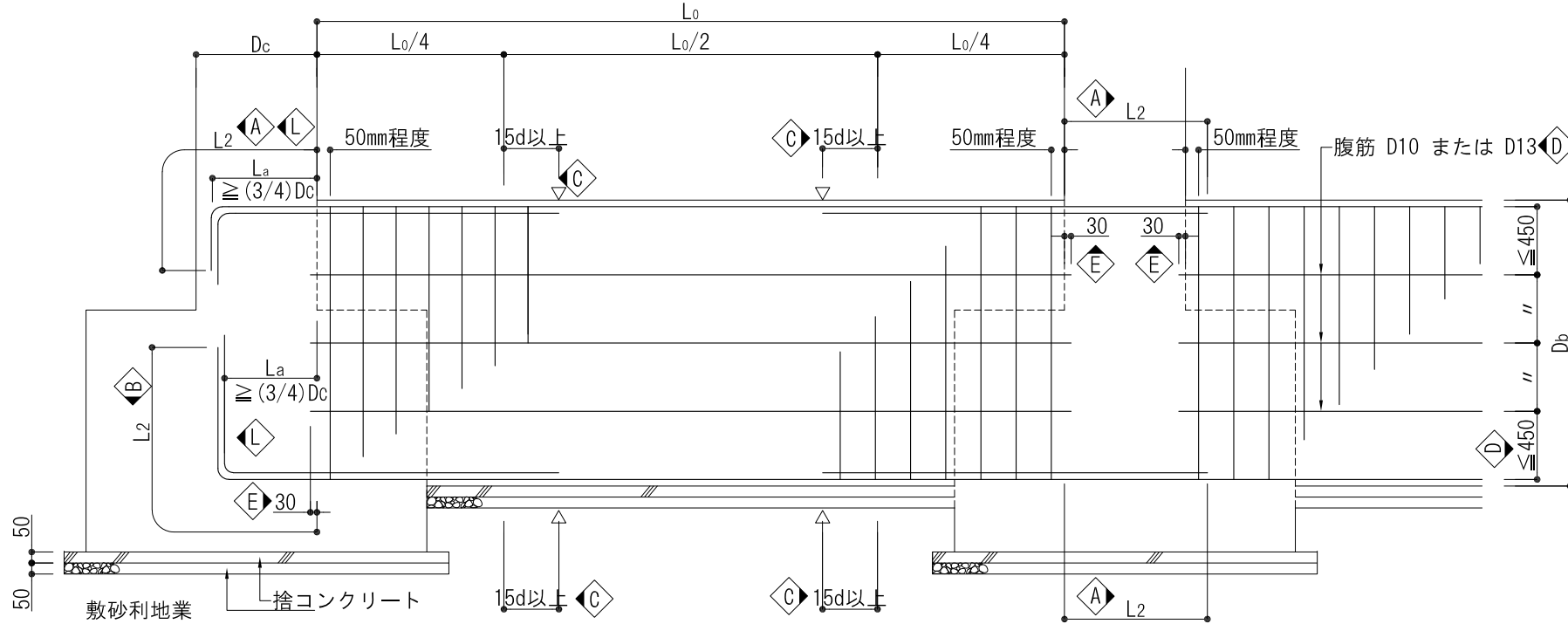
名称  
大 梁 (3)

縮尺  
SR - 108

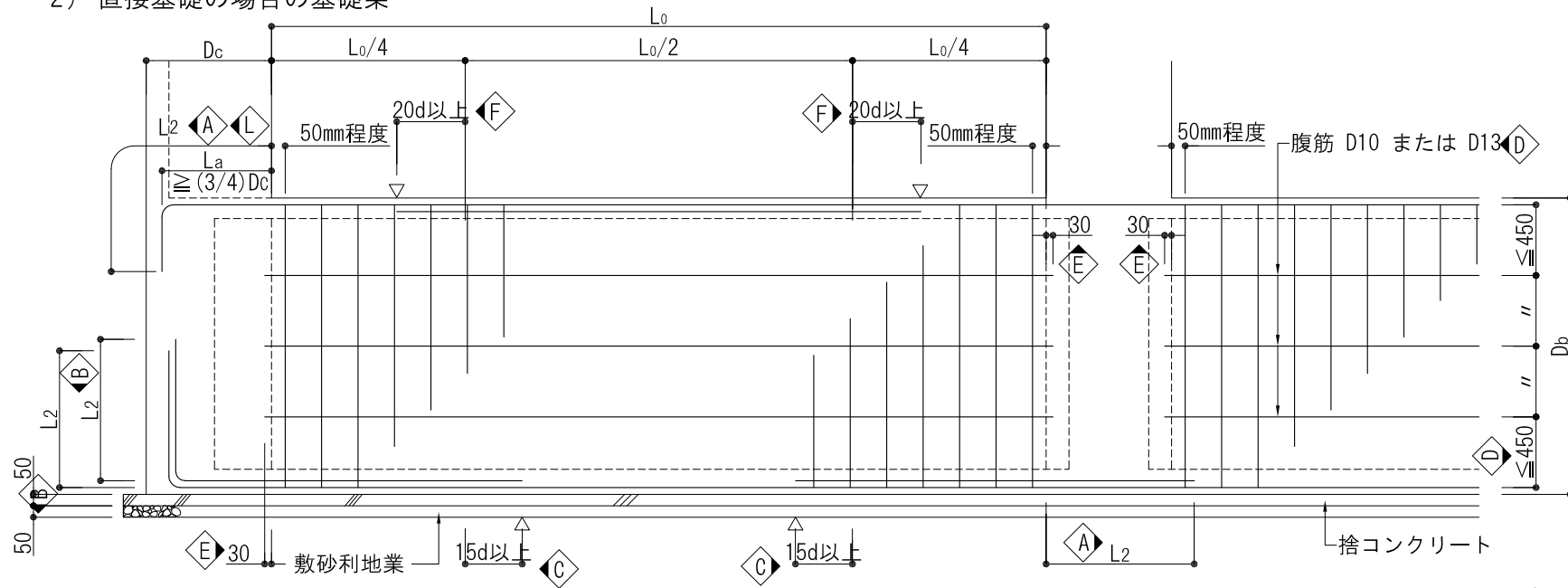
# 基礎梁

## 1) 杭基礎の場合の基礎梁

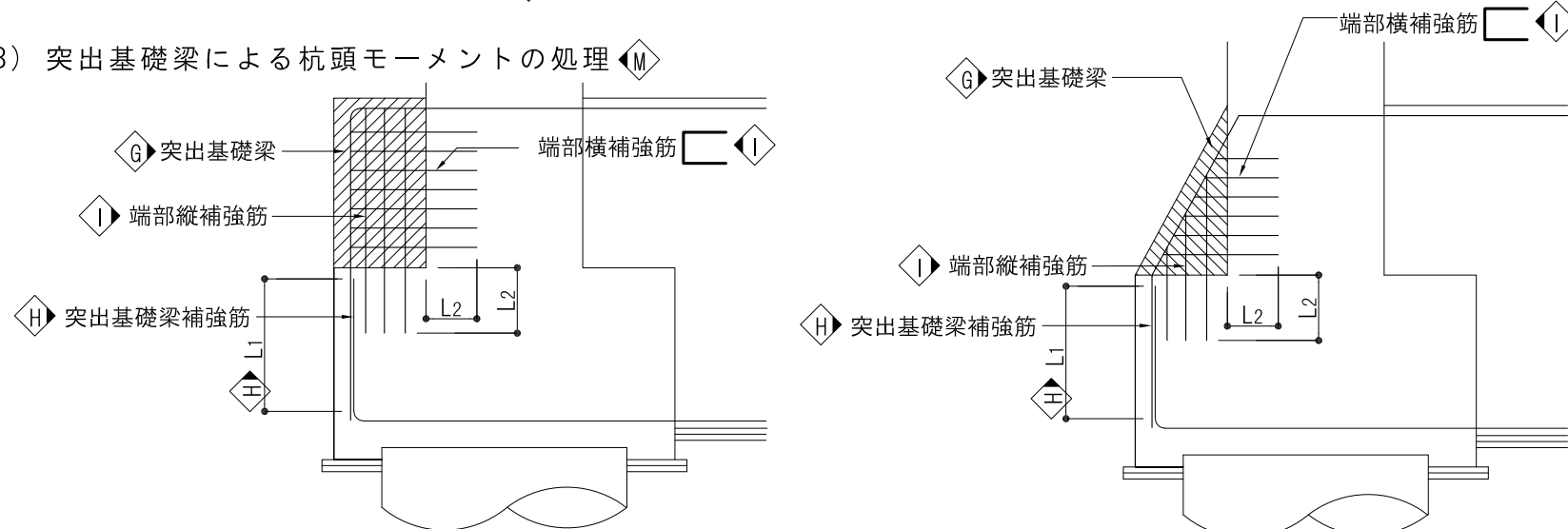
註) あばら筋形状、割付けについては、SR-108 を参照とする。



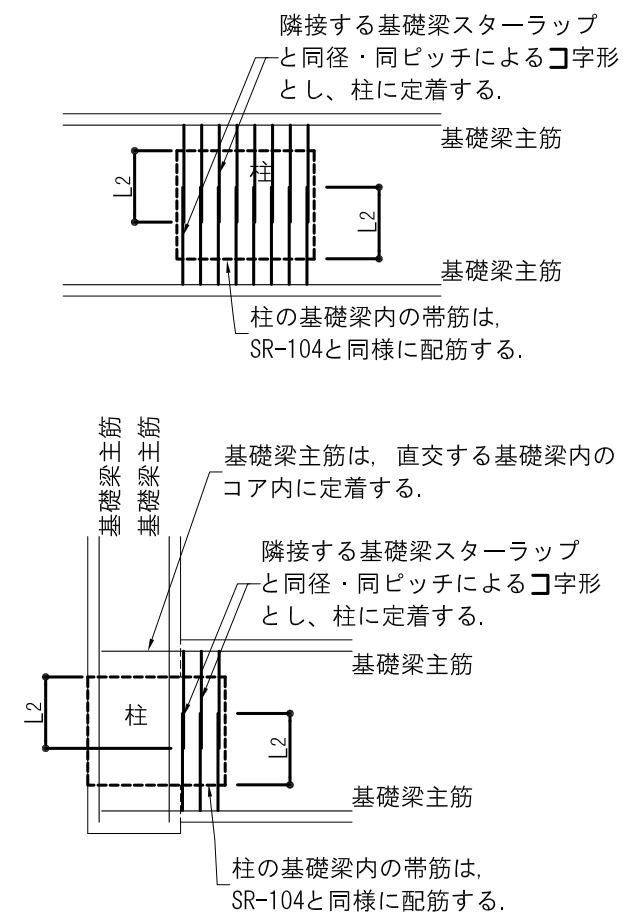
## 2) 直接基礎の場合の基礎梁



## 3) 突出基礎梁による杭頭モーメントの処理



## 4) 基礎梁幅が柱幅より大きい場合



- A 上端筋は定着を  $L_2$  とし、曲下げ定着を優先とする。隣接する梁内に定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。
- B 外端の下端筋は、直接基礎の場合は折曲げ後の直線位置から、杭基礎の場合は柱面から  $L_2$  の定着をとるものとする。
- C カットオフ筋の定着長さは、計算により定まる定着長さ以上、かつ  $L_0/4+15d$  以上とする。 $L_0 \leq 2, 500\text{mm}$  の場合は通し筋とする。
- D 腹筋は基礎梁せいが  $1,500\text{mm}$  以上の場合には  $D13$  を、それ未満の場合には  $D10$  を用い、割付け間隔は  $450\text{mm}$  以内とする。
- E 腹筋の柱内へののみ込みは  $30\text{mm}$  程度(あばら筋との結束可能な程度)とする。隣接の梁の腹筋と連続させる必要はない。
- F 地反力を受ける中央上端筋の定着長さは、 $L_0/4$  の位置より  $20d$  以上とする。
- G 杭頭部に生ずる曲げモーメントをパイルキャップを介して基礎梁に伝達させるため、基礎梁をパイルキャップ先端まで突出させて拘束する。
- H 杭頭部に生ずる曲げモーメントを処理するための補強筋は、計算による。配筋はパイルキャップ先端で、基礎梁下端筋と  $L_1$  の重ね継手長さを確保する。
- I 端部の縦・横補強筋は、基礎梁のあばら筋と同径・同間隔程度とする。
- J 杭の曲げを処理するため、パイルキャップせいを大きくして補強筋を配する方法もある。
- K パイルキャップ上端の曲げ補強筋は、計算による。また、この鉄筋と基礎梁下端筋の重ね継手は  $L_1$  の長さを確保する。
- L 基礎梁主筋の定着長さは、 $L_a$  かつ  $L_2$  とする。ただし、投影定着長さは柱せいの  $3/4$  倍以上とする。
- M 建築物の階数が、地上6階以上に適用する。

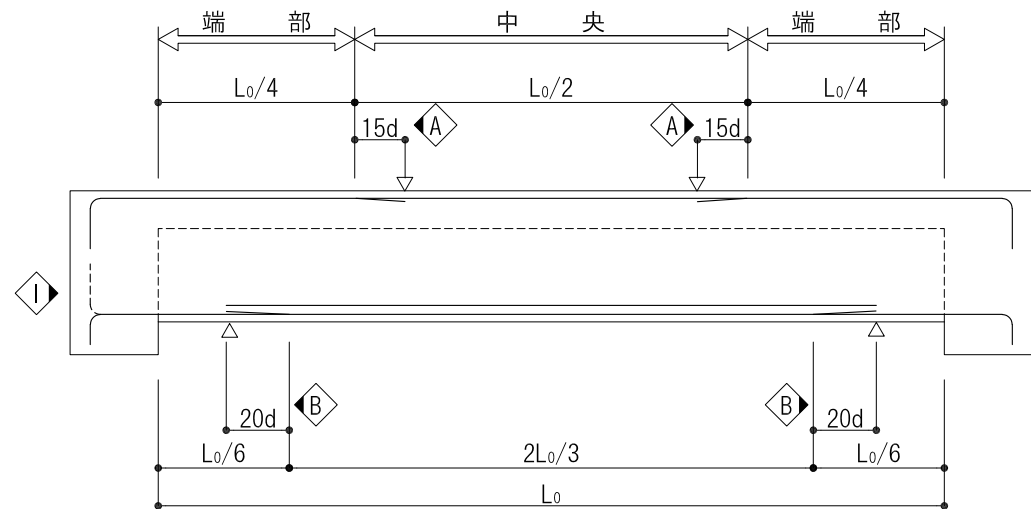
附記事項  
 ・基礎梁においては  $L_0/4$  の位置で鉄筋量のチェックを行ない、必要に応じて中央部の鉄筋を割り増すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長期で配筋が決まる場合は SR-110 を参照のこと。  
 ・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項	・基礎梁幅が柱幅より大きい場合を追加。
名称	基礎梁
縮尺	SR - 109

小

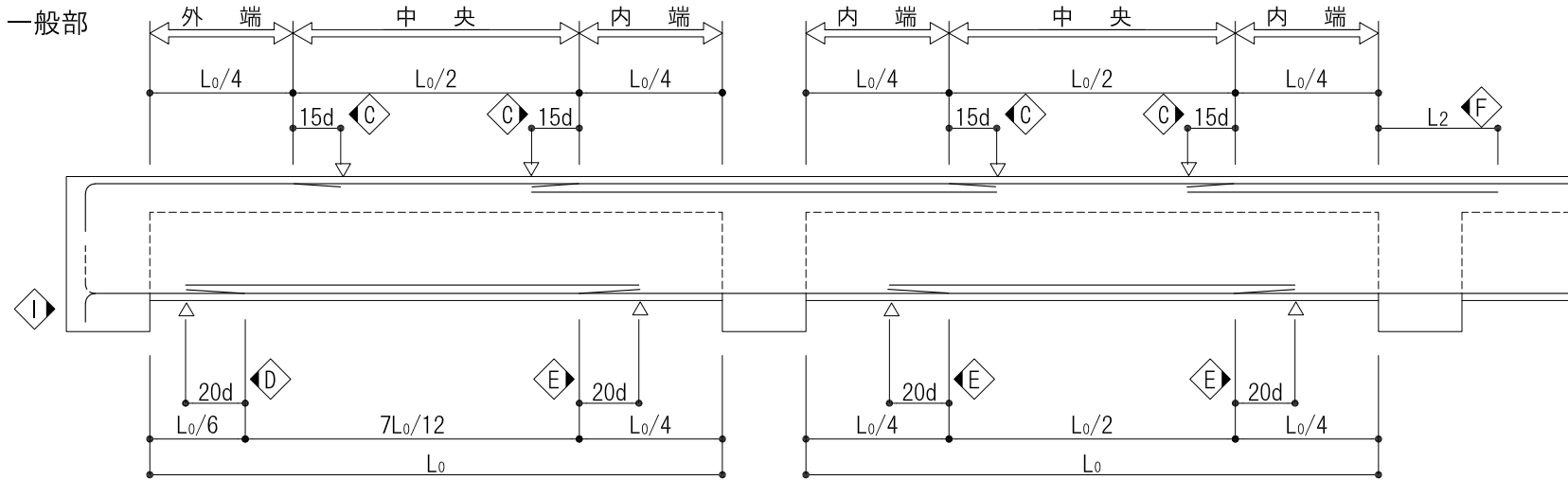
梁

1) 単純小梁の配筋

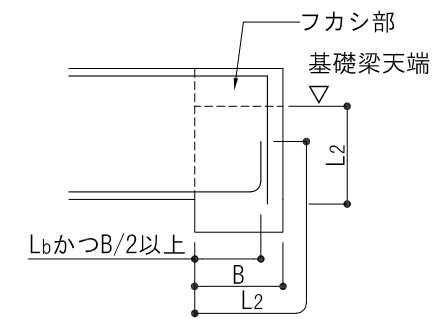


2) 連続小梁の配筋

a) 一般部

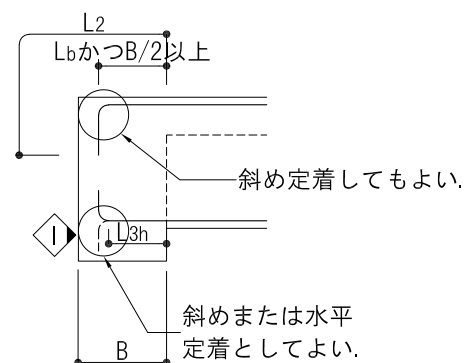


b) 基礎梁上端フカシ部への定着

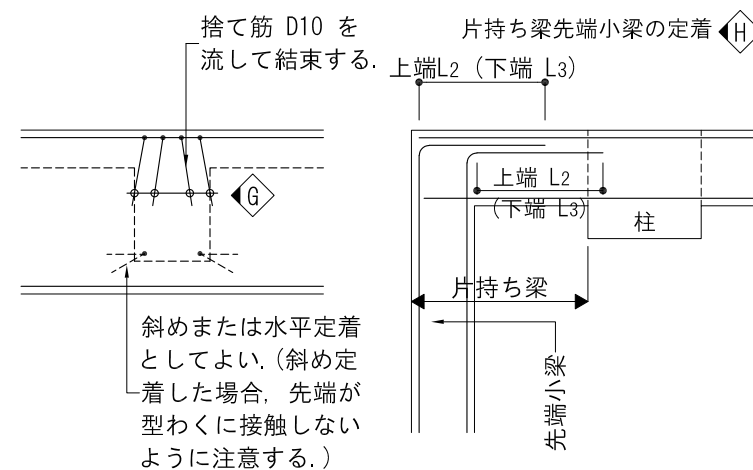
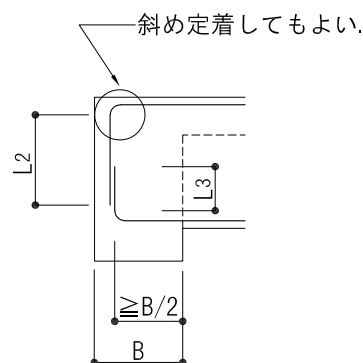


3) 小梁筋の定着

(a) 投影定着長さがLbを確保できる場合



(b) 投影定着長さがLbを確保できない場合



仕

様

附記事項

改訂事項

名称

縮尺

- A 端部カットオフ筋の定着は、 $L_0/4$  の位置より  $15d$  とする。
- B 中央引張鉄筋の定着は、 $L_0/6$  の位置より  $20d$  とする。
- C 端部カットオフ筋の定着は、外端、内端にかかわらず、 $L_0/4$  の位置より  $15d$  とする。
- D 外端を有する小梁の中央下端筋の外端方向への定着は、 $L_0/6$  の位置より  $20d$  とする。
- E 小梁中央下端筋の連続端方向への定着は、 $L_0/4$  の位置より  $20d$  とする。
- F 連続する小梁端部配筋が左右で異なる場合は、隣接小梁内に  $L_2$  の定着をとるものとする。
- G 定着筋は先端において相互に重なりやすいので、所定のあきを確保するため、捨て筋を配し結束する。
- H 片持ち先端小梁の定着は、片持ち梁内水平定着とし、定着長の取り方は図のように、片持ち梁先端側の鉄筋とその反対側の鉄筋とで異なる。
- I 下端筋の末端は、曲上げ、曲下げのいずれでもよい。
- J 小梁のあばら筋については、SR-108を参照する。

・梁のコア内（梁のあばら筋の内側で囲まれた部分のコンクリート部分）に鉄筋末端の余長部が $8d$ 以上かつ $150\text{mm}$ 以上ある場合は定着部の全長 $L_2$ を確保した上で、投影定着長さ $L_b$ を $0.8$ 倍することができる。  
ただし、鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

・基礎梁上端フカシ部への定着を追記

小 梁

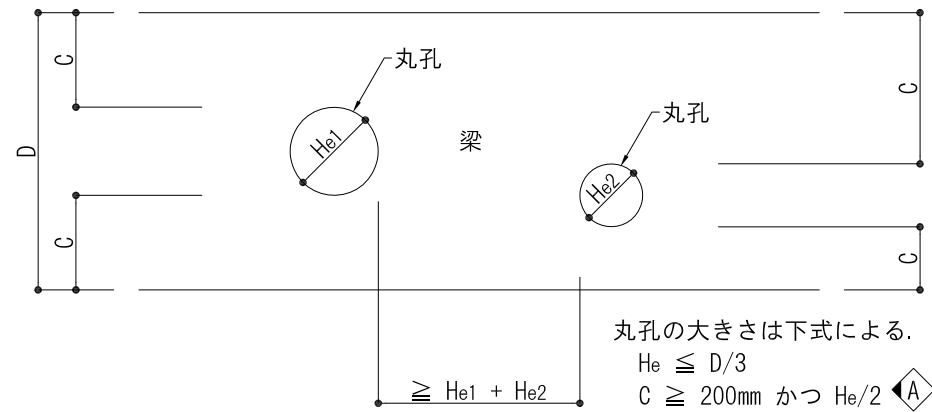
SR - 110



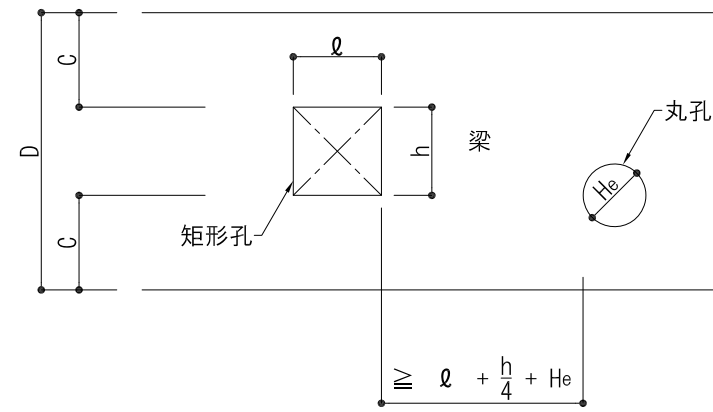
# 梁の貫通孔

## 1) 貫通孔の制限

(a) 丸孔の場合



(b) 矩形孔の場合



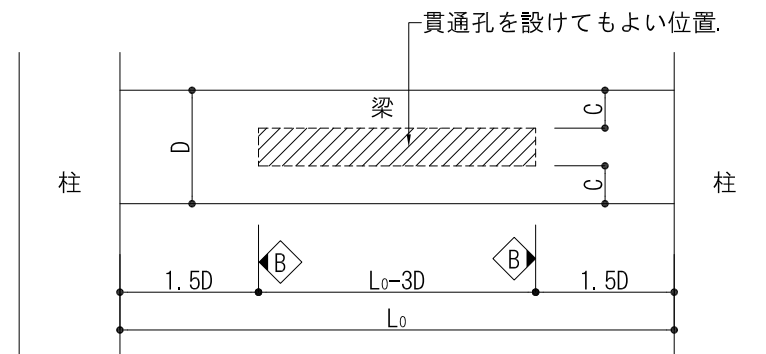
矩形孔の大きさは下表の値以下とする。

h	0.3D	この間, 直線補間	0.2D
l	0.3D		0.4D

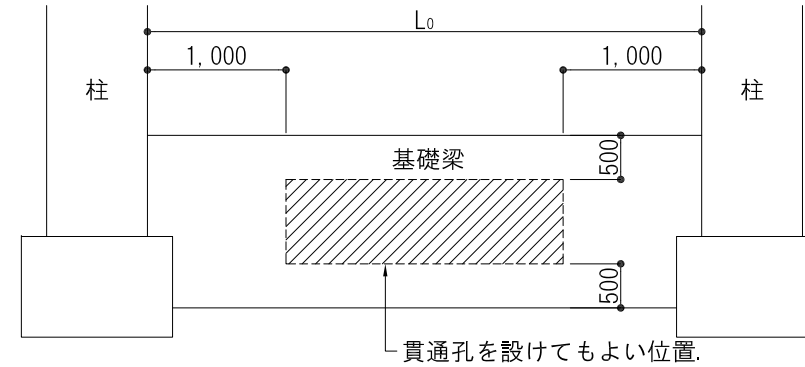
$C \geq 200\text{mm}$  かつ  $0.7l$  A

(c) 貫通孔の位置

一般階梁



基礎梁



A C の寸法は表記による値を最小値とし、個別設計での検討により決定する。

B やむを得ず柱フェイスから梁せい の1.0~1.5倍の範囲内に小開口を設ける場合には、監督員及び機構構造担当者の確認を受ける。

仕  
様

附  
記  
事  
項

改  
訂  
事  
項

名  
称

縮  
尺

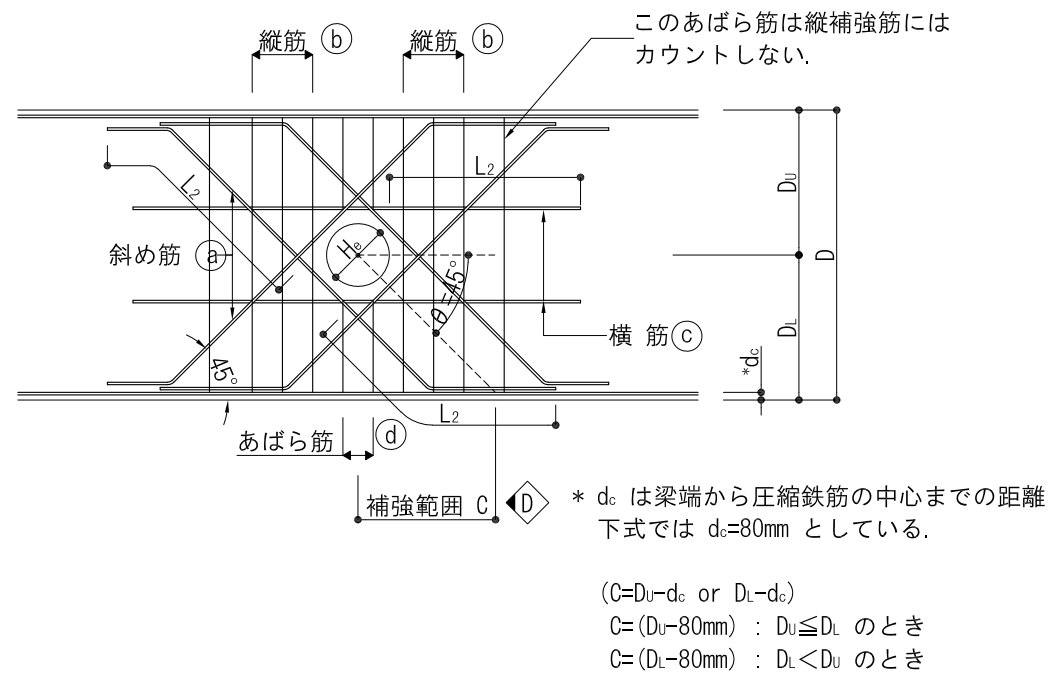
・仕様欄のBを追加。

梁の貫通孔(1)

SR - 111

2) 貫通孔の補強 ◀C

(a) 貫通補強配筋要領



(b) 補強タイプリスト

TYPE	斜め筋 ◀A (a)	縦筋 ◀A (b)	横筋 ◀A (c)	* 上下あばら筋 (d)
1	4×(2-D10)	□-D10	—	—
2	4×(2-D13)	□-D13	—	—
3	4×(2-D13)	□-D13	2×(2-D16)	—
4	4×(2-D13)	2×□-D13	2×(2-D16)	—
5	4×(2-D16)	2×□-D13	2×(2-D16)	—
6	4×(2-D19)	2×□-D13	2×(2-D16)	—
7	4×(2-D19)	* 3×□-D13	2×(2-D16)	—
8	4×(2-D22)	2×□-D13	2×(2-D16)	—
9	4×(2-D22)	* 3×□-D13	2×(2-D16)	—
10	4×(2-D25)	3×□-D13	2×(2-D16)	—
11	4×(2-D25)	3×▣-D13	2×(2-D16)	—
12	4×(2-D29)	3×□-D13	2×(2-D16)	—
13	4×(2-D29)	3×▣-D13	2×(2-D16)	—

\* 3×□-D13は、2×▣-D13 におきかえてもよい。

\* 上、下 あばら筋(d) は、貫通孔の径によって下記の本数とする。

$H_e < 200\text{mm}$	2×□-D13
$200\text{mm} \leq H_e < 300\text{mm}$	3×□-D13
$300\text{mm} \leq H_e$	4×□-D13

梁幅、梁せいによる補強可能TYPE ◀B

< 梁幅 >	
$B < 500\text{mm}$	TYPE 1~9
$400\text{mm} \leq B < 500\text{mm}$	TYPE 1~11
$500\text{mm} \leq B$	TYPE 1~13

< 梁せい >	
$D < 500\text{mm}$	TYPE 1~4
$500\text{mm} \leq D < 700\text{mm}$	TYPE 1~6, 8, 10, 12
$700\text{mm} \leq D$	TYPE 1~13

- ◀A 縦筋、斜め筋を溶接金網に変更することも可とする。その際は縦・横筋に等価な断面性能を有する溶接金網を選定すること。なお、斜め筋の開口部からのかぶり厚さは50mmとする。
- ◀B いずれのTYPEの補強を行なうかについては、設計図による。
- ◀C 本補強方法によらない場合は、貫通孔補強後の梁せん断強度は無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする。
- ◀D 貫通孔位置が梁の中心でない場合は、補強範囲は式に従って決めることが必要となる。

仕  
様

附  
記  
事  
項

・SRC造の場合の補強はSR-131を参照  
・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改  
訂  
事  
項

名  
称

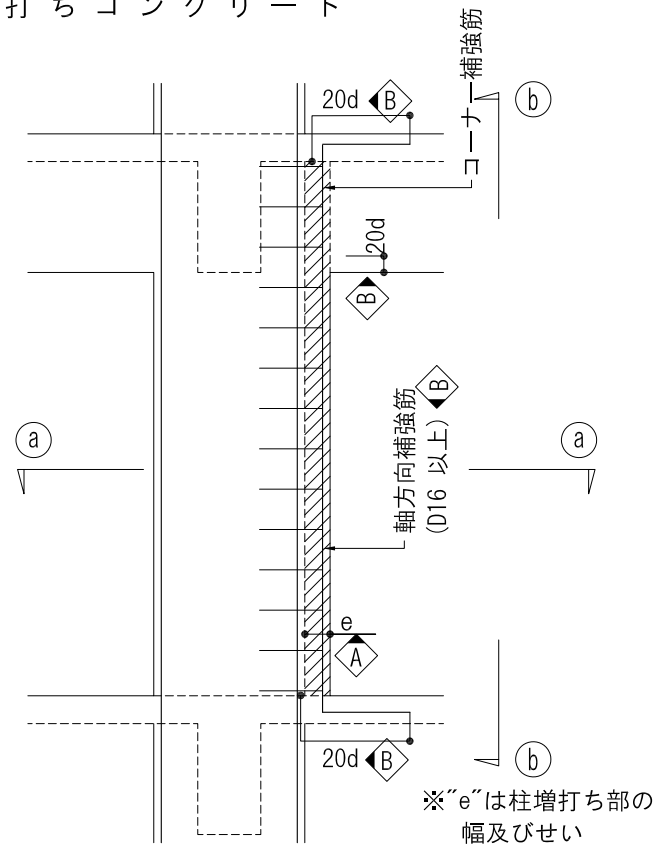
梁の貫通孔(2)

縮  
尺

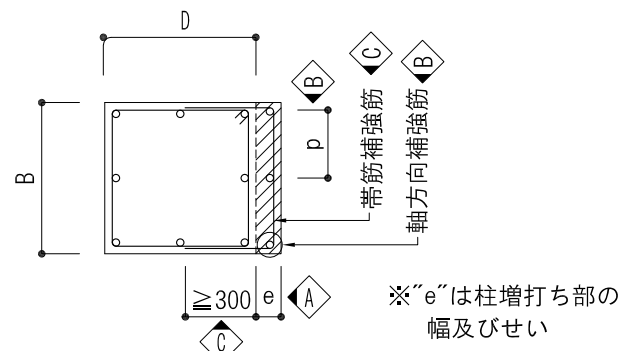
SR - 112

# 増打ち要領

## 1) 柱増打ちコンクリート



①-①断面図

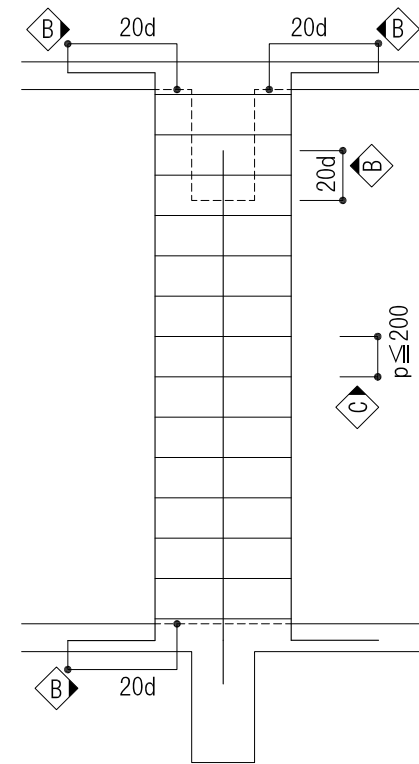


軸方向補強筋リスト

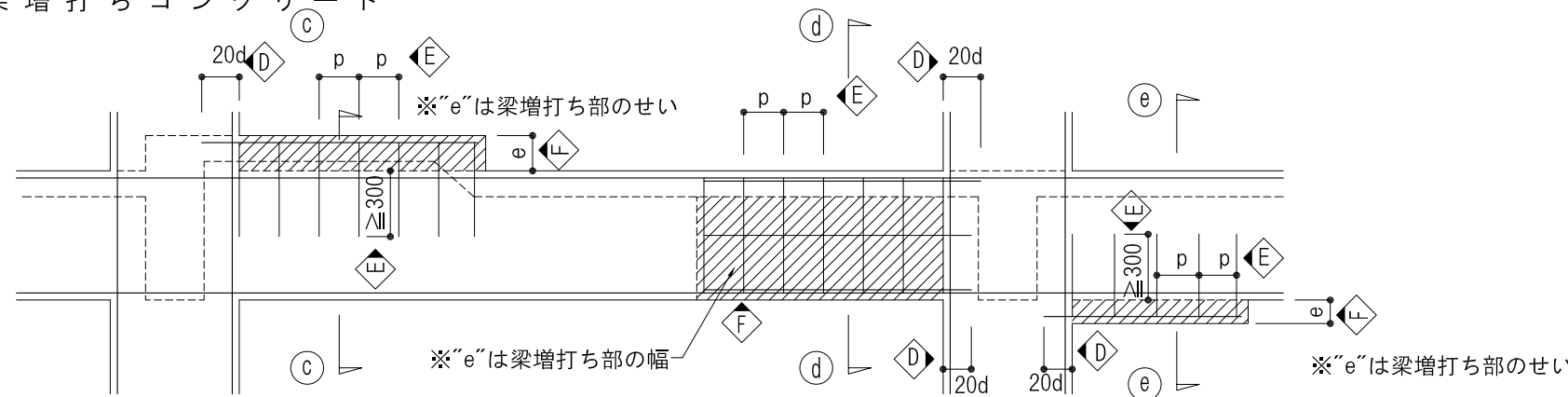
B (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 125
300 < B, D ≤ 500		3 - D16
500 < B, D ≤ 700		4 - D16
700 < B, D ≤ 900		5 - D16
900 < B, D ≤ 1,100		6 - D16
1,100 < B, D ≤ 1,300		7 - D16

\* e ≤ 50mmの場合は補強不要とする。

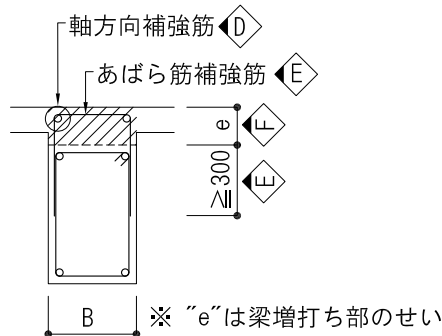
②-②断面図



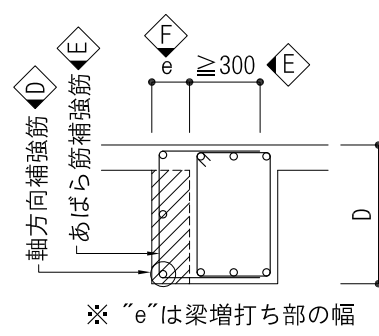
## 2) 梁増打ちコンクリート



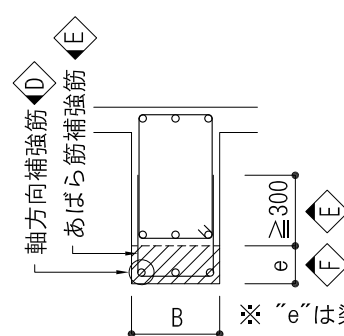
③-③断面図



④-④断面図



⑤-⑤断面図



軸方向補強筋リスト

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 200
B, D ≤ 300		2 - D16
300 < B, D ≤ 500		3 - D16
500 < B, D ≤ 700		4 - D16
700 < B, D ≤ 900		5 - D16
900 < B, D ≤ 1,100		6 - D16
1,100 < B, D ≤ 1,300		7 - D16

\* e ≤ 50mmの場合は補強不要とする。

仕  
様

- ◇ A 柱の増打ちコンクリートの厚さ e は、原則として 125mm以下とする。
- ◇ B 軸方向補強筋は増打ちコンクリート断面積の 0.8%以上かつ D16以上の鉄筋を使用し、間隔は 200mm以下とする。定着は 20dとする。補強筋を表にて示す。
- ◇ C 帯筋補強筋は実断面の帯筋と同径とし、間隔 p は 200mm以下とする。また、実断面に 300mm 以上定着する。
- ◇ D 軸方向補強筋は増打ちコンクリート断面積の 0.4%以上、かつ D16以上の鉄筋を使用し、間隔は 200mm以下とする。定着は 20dとする。補強筋を表にて示す。
- ◇ E あばら筋補強筋は D10以上の鉄筋を使用し、間隔はあばら筋と同間隔とする。また、実断面への定着は 300mm以上とする。
- ◇ F 梁の増打ちコンクリートの厚さ "e" は 200mm以下とする。

- 附記事項
- ・柱の増打ちコンクリートの厚さ "e" が 125mmを超える場合は、正規の柱断面として計算に取り入れるものとする。
  - ・梁の増打ちコンクリートの厚さ "e" が 梁全長にわたり 200mmを超える場合はこれを正規の断面と考え、計算に取り入れるものとする。
  - ・増打ち部に耐力壁が取付く場合は、設計図による。
  - ・せん断補強筋の定着長さは、『鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（日本建築学会 2021年3月）』の 20da と異なるため、注意する。

- 改訂事項
- ・定着長さの変更
  - ・附記事項の追記

名称 増打ち要領

縮尺 SR - 113

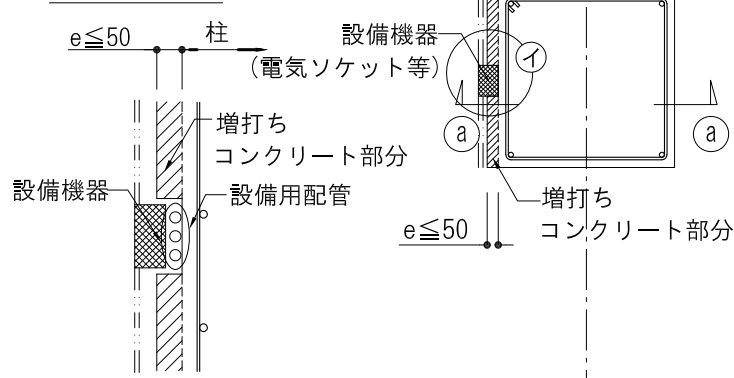
### 3) 設備機器埋込み要領

(a) 柱に設備機器を設置する場合

・ $e \leq 50$ mmの時

\*  $e$  = 増打ち厚さ

①部 詳細図

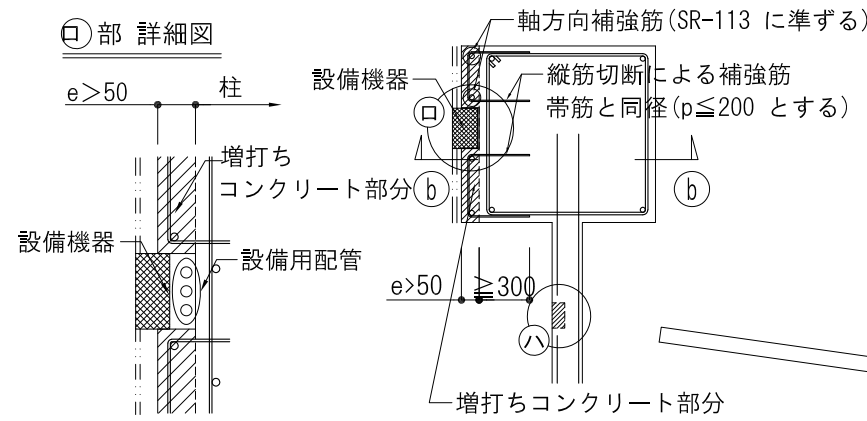


①部 断面図

・ $e > 50$ mmの時

\*  $e$  = 増打ち厚さ

②部 詳細図

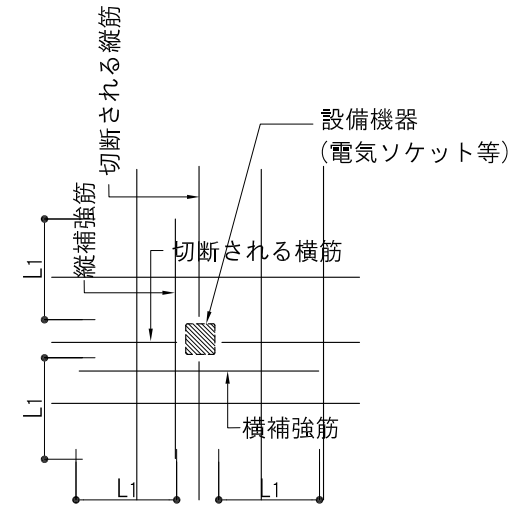
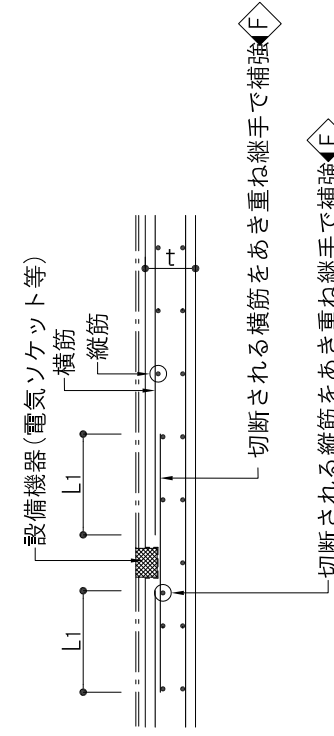


②部 断面図

設備機器を  
設置しない階

(b) 壁に設備機器を設置する場合

壁 平面形状 (ハ部 詳細)



- ◇A 柱には原則として設備機器の埋め込みは行わない。設置する場合は、設備機器設置部分を増し打ちする。
- ◇B 設備機器埋込み部増打ち厚さ $e$ が $e \leq 50$ mmの場合は補強の必要はない。
- ◇C 増打ち厚さ $e$ が $e > 50$ mmの場合の補強はSR-113に準ずる。
- ◇D 設備機器が増打ち部の補強筋を切断する場合、補強筋を設備機器の両側に分けて配置する。
- ◇E 埋込み機器が壁の鉄筋を切断しない場合には、補強の必要はない。この場合は設備機器と壁筋とのあきに十分注意する。
- ◇F 壁に設ける埋込み機器が壁の横筋ないし縦筋を切断する場合、切断した本数だけ機器の外側に補強筋を配する。この補強筋と壁の配筋はあき重ね継手とし、重ね継手長さは $L_1$ とする。

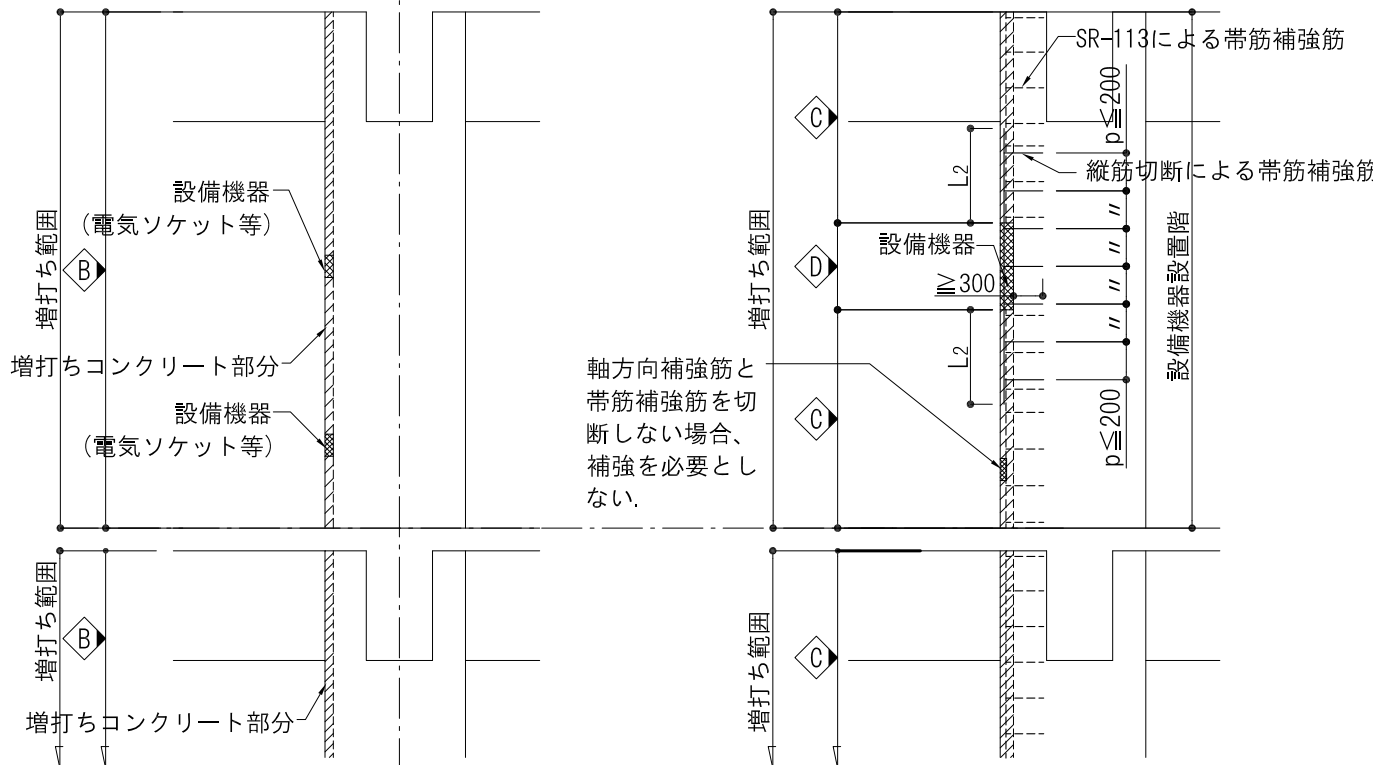
仕  
様

附  
記  
事  
項

改  
訂  
事  
項

名  
称  
設備機器埋込要領

縮  
尺  
SR - 114



# 非 耐 力 壁

## 1) 非耐力壁, コンクリートブロック壁配筋リスト

呼 称	非 耐 力 壁				備 考
	W100	W120	W150	W165 ◀A	
断 面 図					
縦 筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 300 チドリ	
横 筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 300 チドリ	
開口縦補強筋	—	2 - D13	2 - D13	2 - D13	◀B ◀C
開口上下横補強筋	—	2 - D13	2 - D13	2 - D13	◀B ◀C

呼 称	コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 壁			備 考
	CB100	CB150	CB200	
断 面 図				
縦 筋	D10 @ 400	D10 @ 400	D10 @ 400	
横 筋	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600	

- ◀A W165 は外壁で, かつ雨がかりの部分に用いる壁を示す. 壁厚は増打ちコンクリート部分の厚さも含んだ値とする.
- ◀B 見付け 200mm × 200mm 以下の開口部については補強不要とし, 縦・横筋ともに開口部を避けて割り付ける.
- ◀C W100 にはかぶりの関係で開口補強筋を設けられないので, 開口が存在する場合は壁厚を増す必要がある.

仕  
様

附  
記  
事  
項  
・ 定着は, 設計図及び SR-009による.

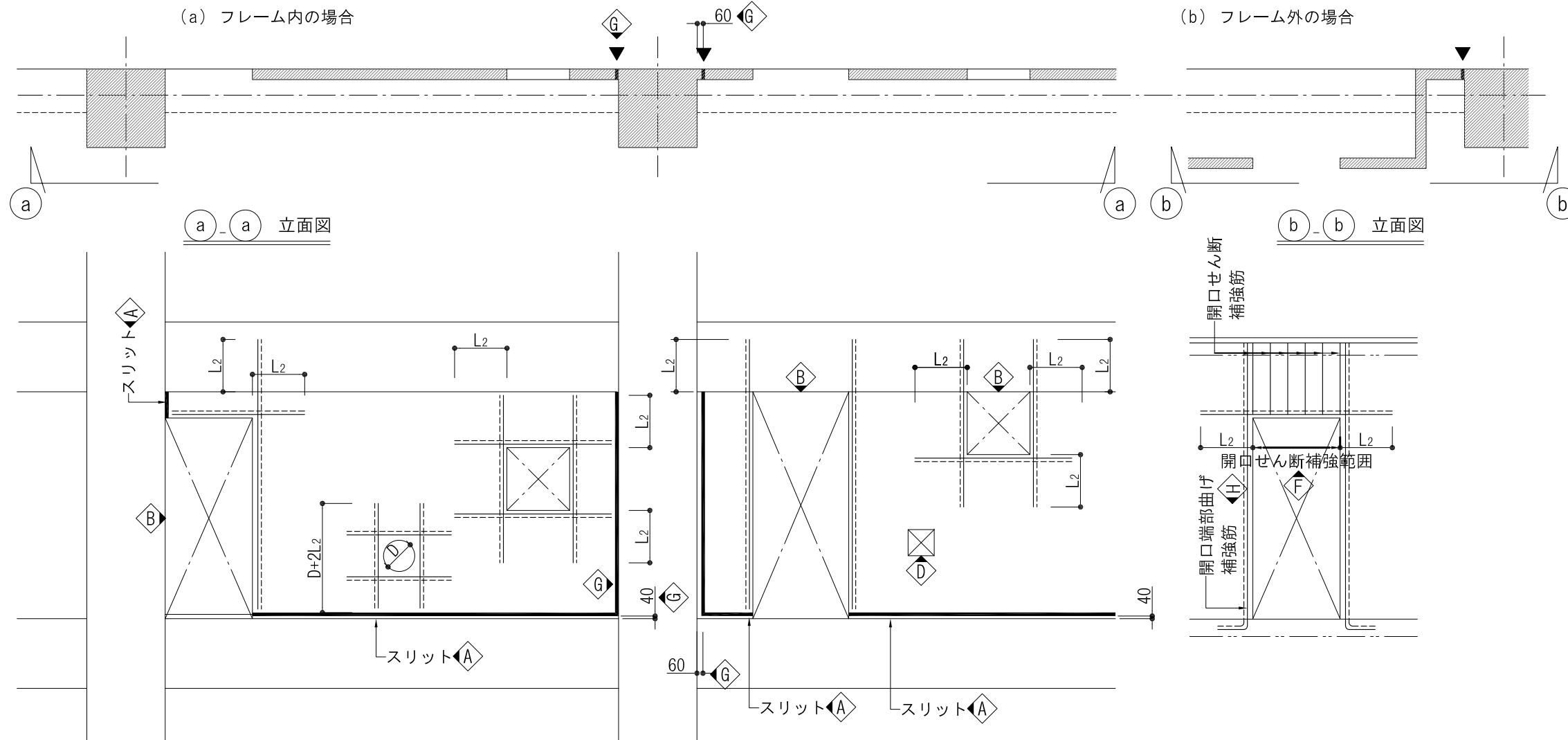
改  
訂  
事  
項  
・ 附記事項を追記.

名 称 非 耐 力 壁 (1)

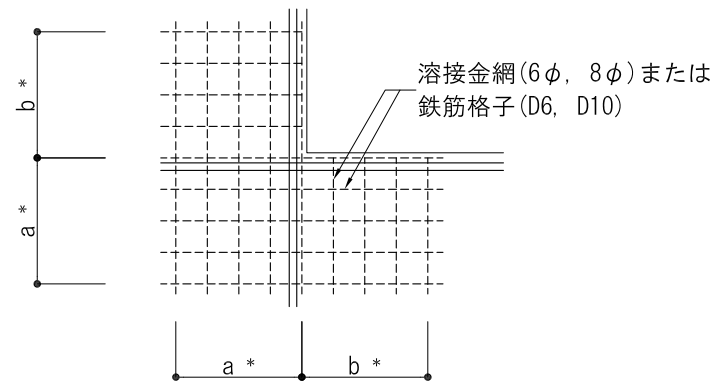
縮 尺 SR - 115

2) 非耐力壁開口補強詳細

註) 開口補強筋は全てD13を示し-----表示の補強筋はW120以上の場合に使用する。◀C



3) ひび割れ防止用補強筋 ◀E



\* 印の寸法は右表を参照のこと。

壁厚	W100		W120, W150, W165	
	a	b	a	b
溶接金網 6φ 100×100	400	200	—	—
8φ 100×100	200	200	400	200

壁厚	W100, W120		W150, W165	
	a	b	a	b
鉄筋格子 D6 100×100	200	200	—	—
D10 100×100	—	—	200	200

仕様

- ◀A スリットの要領は SR-117 を参照する。
- ◀B 開口部が柱、梁に接する場合はそれぞれ縦・横筋の補強筋は不要とする。
- ◀C 開口補強はSR-115のリストに表示したように W120 以上は 2-D13 とする。
- ◀D 見付け200mm×200mm以下の開口部については補強は不要とし、縦・横筋は開口部を避けて割り付ける。
- ◀E 開口部四隅に、斜め筋のかわりにひび割れ防止用の溶接金網、または鉄筋格子を用いる場合、サイズおよび間隔を表に示す。なお、溶接金網や鉄筋格子を用いる場合は、鉄筋のかぶり厚さを検討の上壁厚を決定する。
- ◀F 開口上部の垂れ壁せん断補強筋は径、間隔共計算による他、D10 @100を最小とする。
- ◀G 縦スリットの位置は柱面、又は柱面から 60mm の位置とし、横スリットはスラブ面から 40mm の位置に設ける。
- ◀H 開口端部曲げ補強筋はスラブに水平定着させる。

附記事項

・非耐力壁を柱、梁の剛性に寄与しないとした場合には、柱、梁との接合部に図示のスリットを設ける。剛性評価をした場合についてはスリットは不要で、かつ開口部補強筋を柱、梁内に L2 定着する。  
・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改訂事項

名称

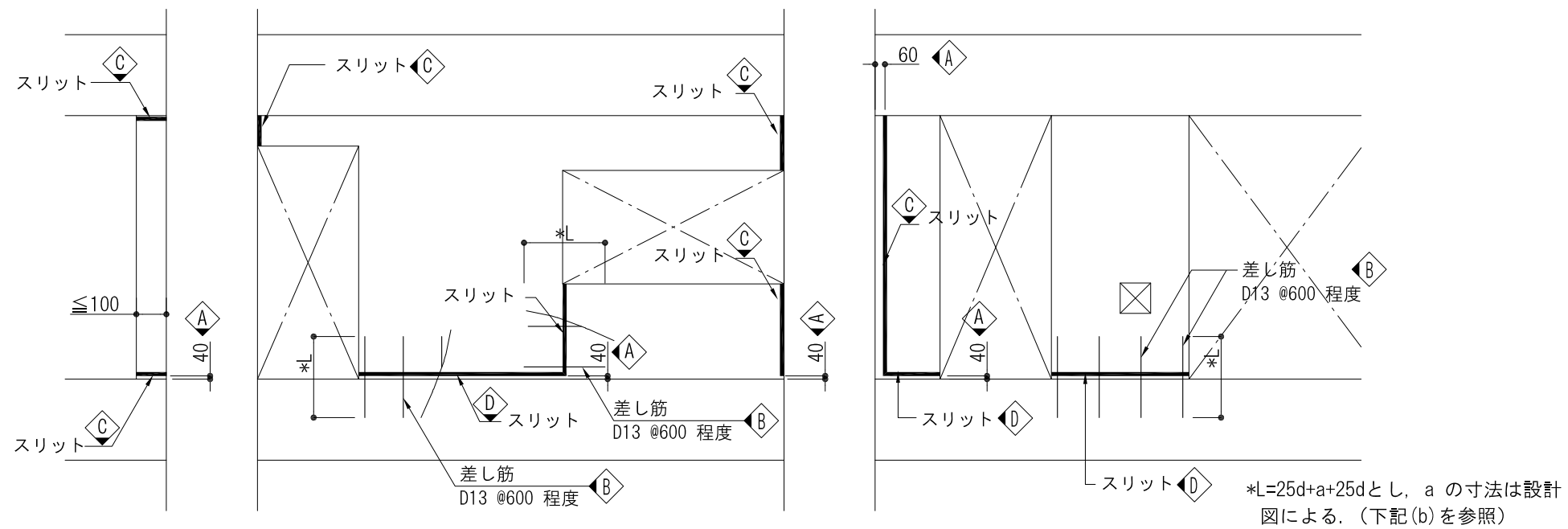
非耐力壁 (2)

縮尺

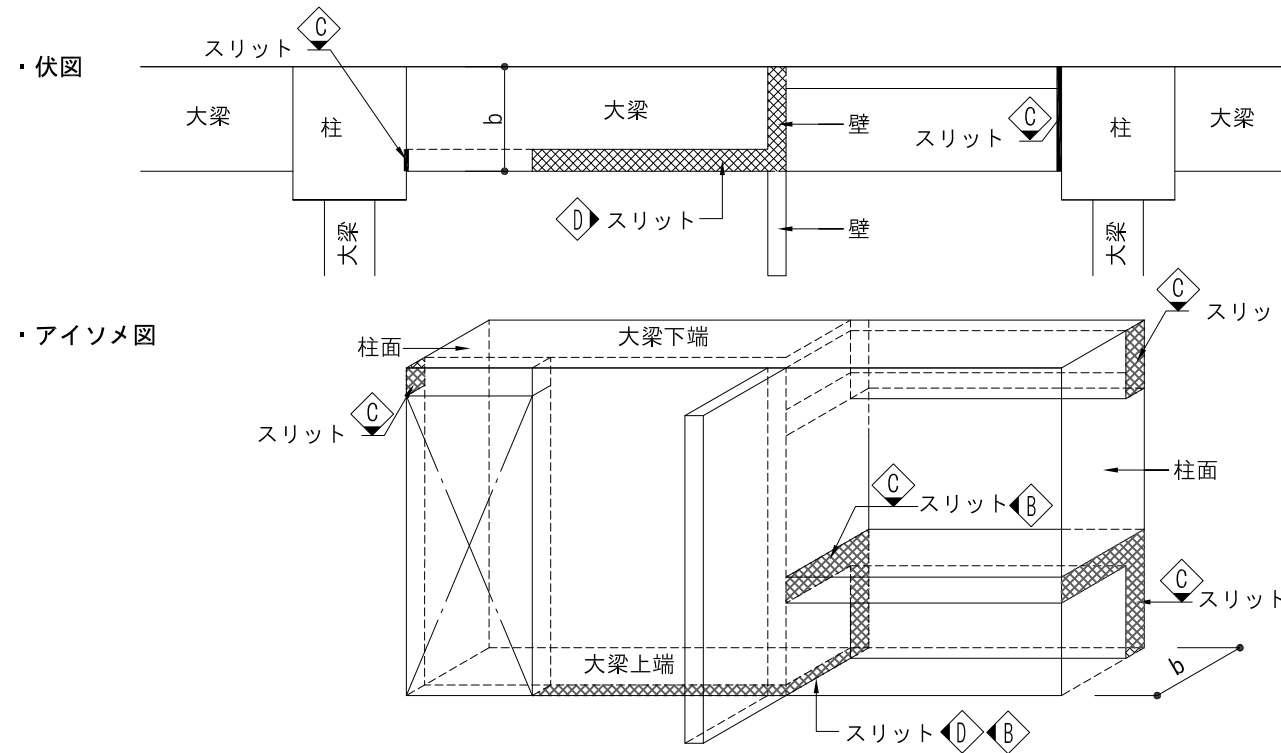
SR - 116

4) 完全スリット要領

(a) スリット配筋例

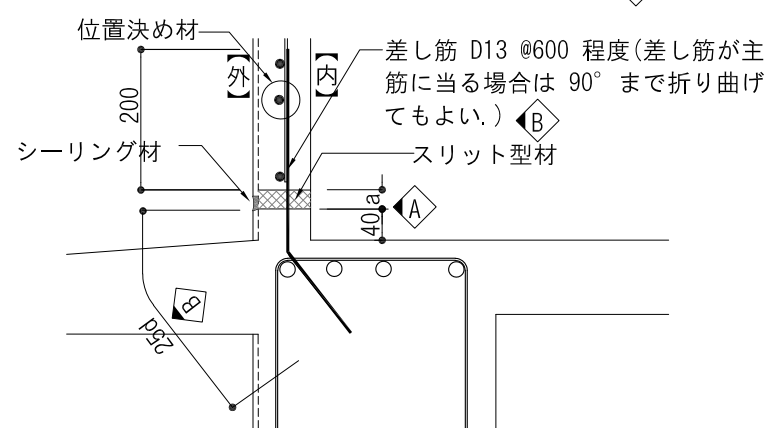


(b) スリット設置例

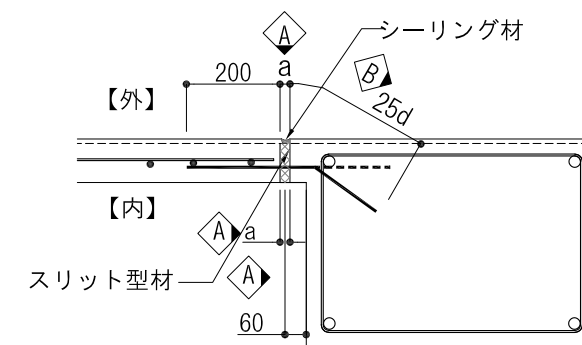
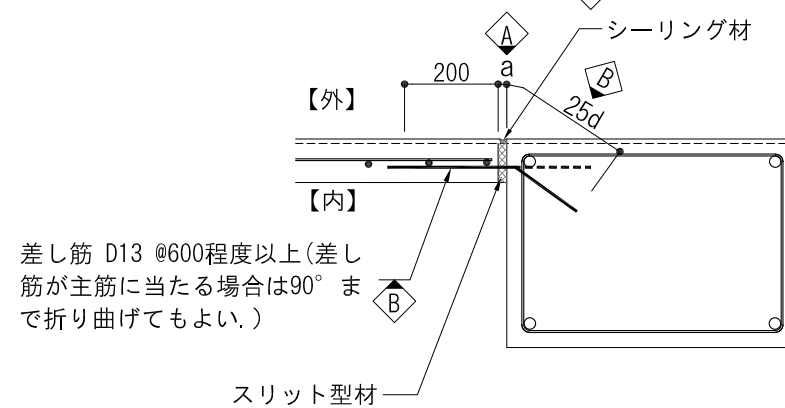


(c) スリット部分の詳細と補強筋

・梁 - 非耐力壁 ※ a の寸法は設計図による.



・柱 - 非耐力壁 ※ a の寸法は設計図による.



仕  
様

- ◆A スリットの幅は設計図による。縦スリットの位置は柱面、又は柱面から 60mm の位置とし、横スリットはスラブ面から 40mm の位置に設ける。
- ◆B 完全スリット部の差し筋は D13 @600 程度とし、柱、梁への定着長さは 25d とする。なお、差し筋は防錆処理を行うこと。
- ◆C 柱面に接する部分は、全て完全スリットを設ける。
- ◆D 梁上端に接する部分は、全て完全スリットを設ける。

附  
記  
事  
項

スリット設置例を追加。

改  
訂  
事  
項

名  
称  
縮  
尺

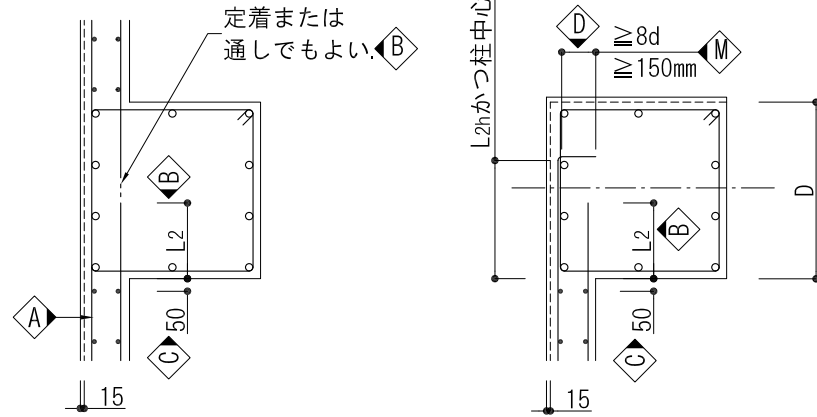
非 耐 力 壁 (3)

SR - 117

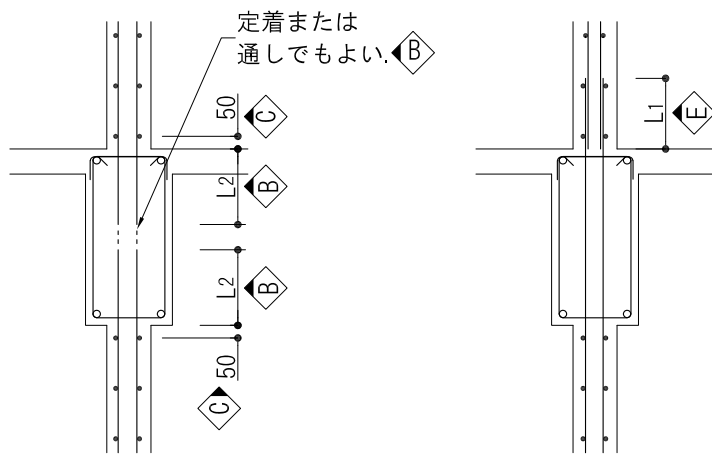
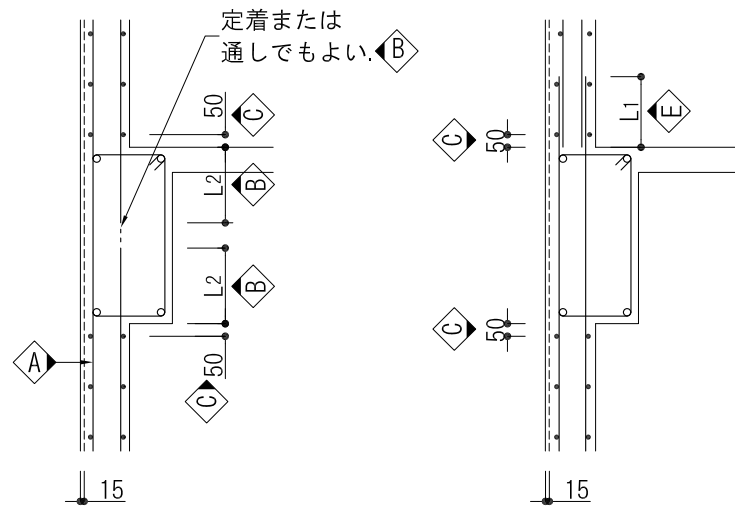
# 耐力壁・地下壁

## 1) 耐力壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着



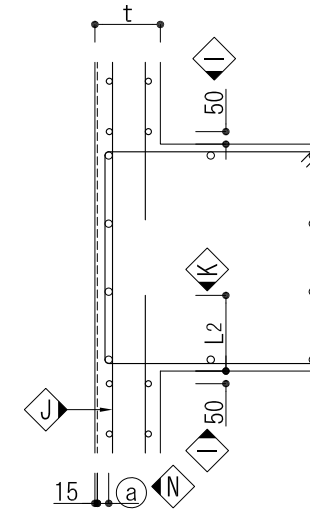
(b) 梁への定着



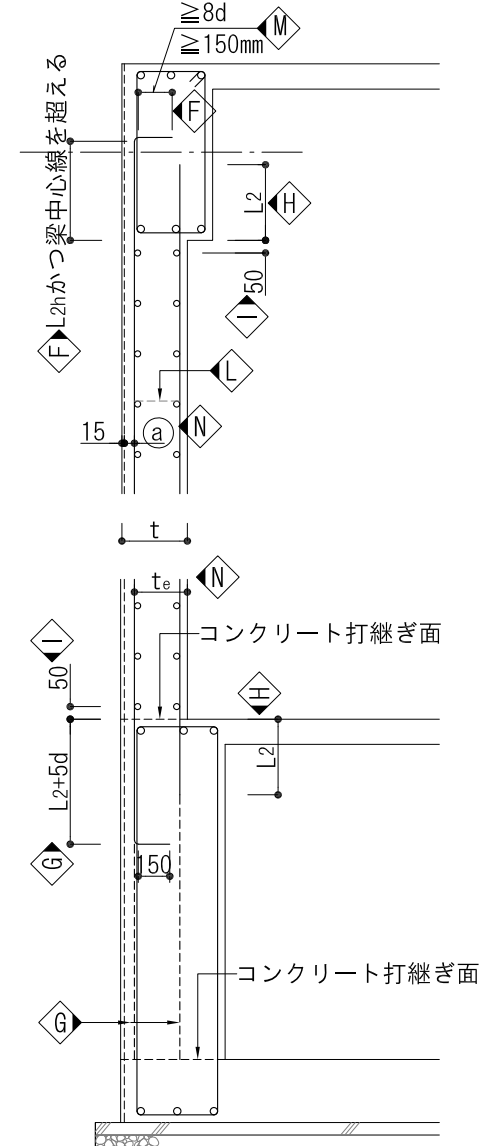
## 2) 地下壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着

\* 壁厚 t は設計図による.



(b) 梁への定着



- ◇A 壁外側鉄筋は、柱および梁断面内では定着せず、継手は壁板部に設ける。
- ◇B 壁内側鉄筋は、柱または梁断面内に定着するか、または通し筋とする。
- ◇C 配筋の第一鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準に割り付ける。
- ◇D 妻耐力壁の壁面が柱と同一面である場合、壁の外側横筋は、柱内にL2hかつ柱断面の中心線を超えた位置で折り曲げて、柱コア内に8d以上かつ150mm以上で定着する。なお、縦筋の梁への定着は梁コア内に曲げ込んでL2の定着長さを確保する。
- ◇E 縦筋は、梁を越えて継手長さの分だけ立ち上げる。また、上下の鉄筋間隔が異なるときは、あき重ね継手としてよい。
- ◇F 地下壁の外側縦筋は、梁内にL2hかつ梁断面の中心線を超えた位置で折り曲げて、梁コア内に8d以上かつ150mm以上で定着する。
- ◇G 基礎梁への定着は表示の値以上でよいが鉄筋の位置の確保のため、1m間隔程度で耐圧版の上端まで下げる。
- ◇H 内側鉄筋は梁内にL2の定着長を確保するものとする。
- ◇I 配筋の第一鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準として割り付ける。
- ◇J 外側鉄筋は原則として柱内定着とせず、壁板部で継手を設けるものとする。
- ◇K 内側横筋は柱内に定着し、定着長はL2とする。
- ◇L 幅止め筋はD10@1,000mm以内とする。
- ◇M コア内とは柱・梁で帯筋・あばら筋の内側で囲まれた部分のコンクリートを示す。

仕  
様

附  
記  
事  
項

- ・◇Aに示すように鉄筋の配置によりaの値が変化するので、設計上の有効せい“te”の値は配筋を考慮の上決定すること。柱主筋D25、壁筋D16のときはa=64mmとなる。
- ・鉄筋の定着長さを計算等により定める場合は、本標準図の長さによらないことがある。

改  
訂  
事  
項

- ・折れ曲がり定着要領の修正。

名  
称

耐力壁・地下壁

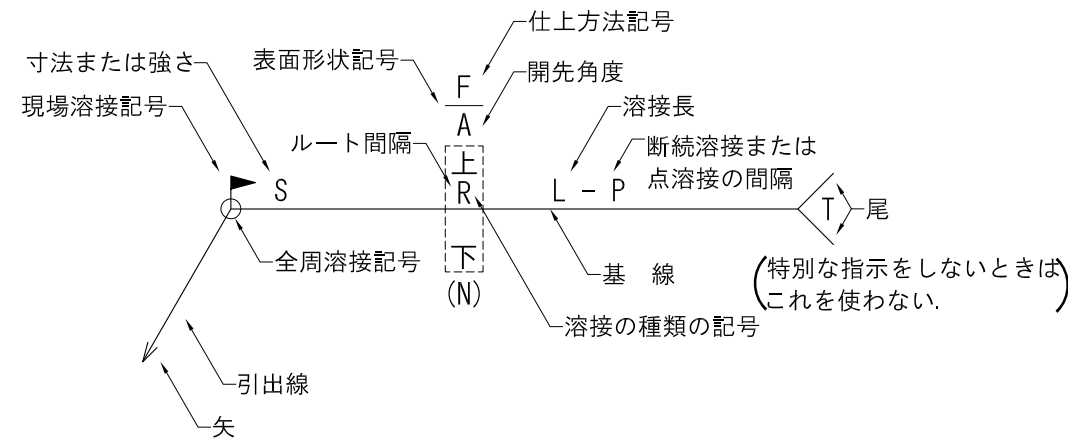
縮  
尺

SR - 118

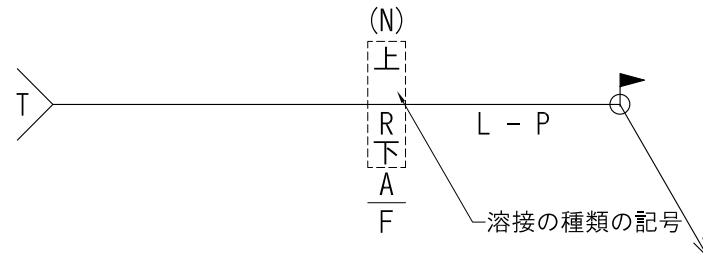


1) 溶接記号および記載方法

・溶接する側が矢の反対側または向こう側の時



・溶接する側が矢のある側または手前側の時



溶接の種類		記号	備考
突合せ溶接	I形	⊥	
	V形, X形	∨ ×	
	∟形, K形	∟ ⊥	
フレア溶接	V形, X形	∨ ⊕	
	∟形, K形	∟ ⊕	
すみ肉溶接		△	記号のたて線は左側に書く。並列溶接の場合は基線に対称にこの記号を記載する。
現場溶接		▶	
全周溶接		○	全周溶接が明らかな時はこれを省略してもよい。
全周現場溶接		◉	

2) 溶接開先の表示方法

溶接開先の標準を下記の記号を用いて表示する。

2.1) 溶接方法

記号	溶接方法の種類	溶接溶込みの種類
MC	アーク手溶接	完全溶込み溶接
MP		部分溶込み溶接
GC	ガスシールドアーク半自動溶接	完全溶込み溶接
GP		部分溶込み溶接
MF	アーク手溶接	すみ肉溶接
SF	サブマージアーク溶接	
GF	ガスシールドアーク半自動溶接	

2.2) 継手形式と開先形状

継手形式		開先形状	
記号	名称	記号	名称
B	突合せ継手	I	I形
T	T継手	L	∟形
		K	K形

2.3) 裏あてのある場合および溶接が片側か両側かの表示

裏あて		溶接する側	
記号	使用材料	記号	片側, 両側の区別
B	鋼材	1	片側だけ溶接
F	鋼材以外	2	両側とも溶接

2.4) 表示方法

表示記号は、2.1) - 2.2) - 2.3) の準に配列表示方法としては基線の尾に記入する方法がある。



本標準図においては 2.1)~2.3) に示す記号を用いて開先の指定を行なう。

仕

様

附記事項

改訂事項

名称

縮尺

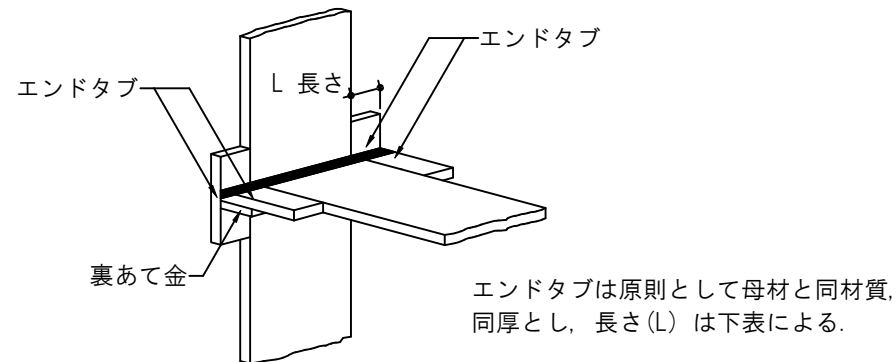
・図番の変更.

溶接接合一般事項(1)

SR - 119

# 溶接接合基準 A

## 1) エンドタブ B

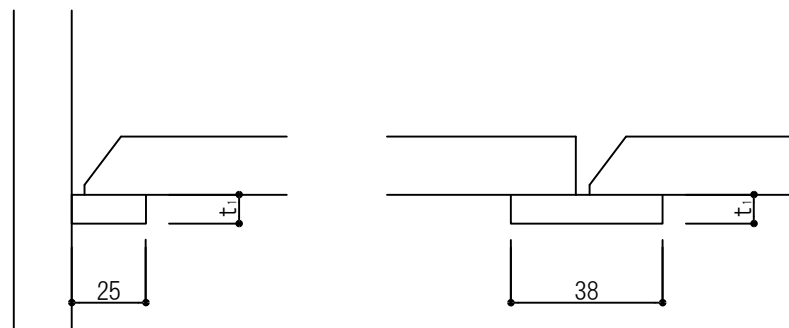


エンドタブの長さ：L (mm)

溶接方法	L
アーク手溶接	35以上
ガスシールドアーク半自動溶接	40以上
サブマージアーク溶接	70以上

## 2) 裏あて金

裏あて金は原則として母材と同材質とし、厚さは下表による。



アーク手溶接  $t_1 = 6\text{mm}$

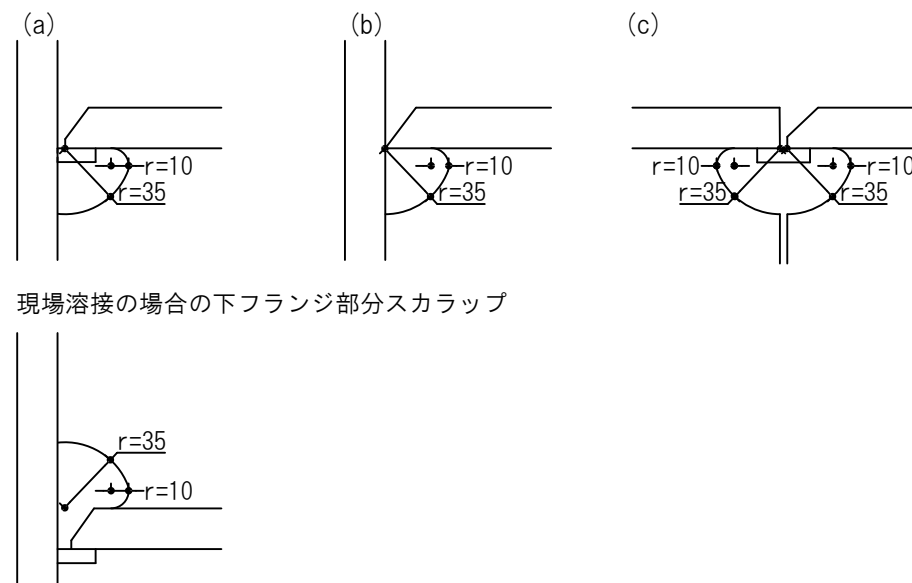
ガスシールドアーク半自動溶接  $t_1 = 9\text{mm}$

## 3) 裏はつり

突合せ溶接における両面溶接は原則として裏はつりを行なう。  
裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取った後裏溶接を行なう。

## 4) スカラップ

スカラップの半径は 35mm と 10mm の複合円を原則とする。



## 5) 溶接する板厚に段差のある場合



## 6) 余盛

- 完全溶け込み溶接の場合  
突き合わせ継手および角接手の余盛高さは、最小値0mmとする。裏当て金付きT接手の余盛高さは、突き合わせる材の1/4とし、材厚さが40mmを超える場合は、10mmとする。裏はつりT接手の余盛高さは、突き合わせる材の1/8とし、材厚さが40mmを超える場合は、5mmとする。
- 部分溶け込み溶接の場合  
突き合わせ継手および角接手の余盛高さは、最小値0mmとする。T接手の余盛高さは、突き合わせる材の1/4または、5mmの大きい方とし、材厚さが40mmを超える場合は、10mmとする。
- すみ肉溶接の場合  
余盛高さは0mm以上、 $0.4S\text{mm}$ 以下かつ4mm以下とする。 S : は指定サイズとする。

- A 溶接姿勢は、F(下向き) H(横向き)を原則とする。
- B エンドタブは、溶接完了後も配筋上支障のない限り、そのまま残して差し支えない。
- C 板厚さによる違いは、薄い方の板厚さの1/4以下かつ10mm以下とする。
- D 厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。

仕様

附記事項

- ・ 図番の変更
- ・ 余盛高さの変更

名称 溶接接合一般事項 (2)

縮尺 SR - 120

開先標準 - 1

1) アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 - 完全溶込み溶接

ⓑ

使用箇所 (溶接部位)	記号	形状	適用板厚	溶接姿勢	寸法	
・フランジの板継ぎ ・ウェブの板継ぎ ⓐ	MC - BI - 2 GC - BI - 2		$3 \leq t \leq 6$	F	G	$\frac{1}{2}t$ $\frac{1}{3}t$
	MC - BL - 2 GC - BL - 2		$t \geq 6$	F H V O	G	0
					R	2
					$\theta_1$	45°
	MC - BL - 1B GC - BL - 1B		$t \geq 6$	F H V O	G	9
					R	2
					$\theta_1$	35°
					G	7
					R	2
	MC - BK - 2 GC - BK - 2		$t \geq 16$	F H V O	G	0
					D1	$\frac{2}{3}(t - R)$
					R	2
D2					$\frac{1}{3}(t - R)$	
$\theta_1$					45°	
・柱フランジと梁フランジの接合 ・スチフナと梁フランジの接合 (梁貫通形) ・スチフナと柱フランジの接合 (柱貫通形)	MC - TL - 2 GC - TL - 2		$t \geq 6$	F H V O	G	0
	MC - TL - 1B GC - TL - 1B		$t \geq 6$	F H V O	R	2
					$\theta_1$	45°
					G	9
	MC - TK - 2 GC - TK - 2		$t \geq 16$	F H V O	R	2
					D2	$\frac{1}{3}(t - R)$
					$\theta_1$	45°
					$\theta_2$	60°
					G	0

ⓐ 裏あて金を用いないときは、裏はつりを行なう。

ⓑ 工場製作の場合の溶接姿勢は、F及びHとする。  
(以下、開先標準-4 まで共通とする。)

仕

様

附記事項

- ・開先の表示記号は溶接接合一般事項(1)の 2.1)~2.3) による。
- ・溶接姿勢の記号  
F 下向姿勢  
H 横向(水平)姿勢  
V 立向姿勢  
O 上向姿勢
- ・開先標準の寸法記号と単位  
G ルート又は部材間の間隔(mm)  
D 開先深さ(mm)  
R ルート面(mm)  
 $\theta$  開先角度(度)  
S すみ肉溶接のサイズ(mm)  
 $t_e$  有効のど厚(mm)  
t 母材の板厚(mm)

改訂事項

- ・図番の変更

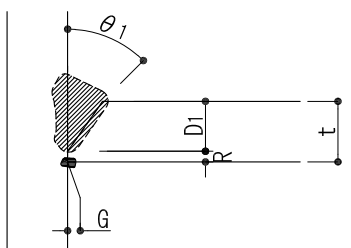
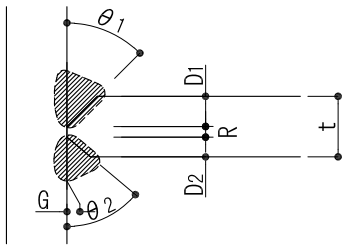
名称

溶接接合一般事項(3)

縮尺

開先標準 - 2

2) アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 - 部分溶込み溶接

使用箇所 (溶接部位)	記号	形状	適用板厚	溶接姿勢	寸法	
・柱ウェブと梁フランジの接合 (梁貫通形) ・スチフナと柱ウェブの接合 (柱貫通形) ・柱フランジとベースプレートの接合	MP - TL - 2 GP - TL - 2		≧ 6	F H V O	G	0
					D1	$\geq 2\sqrt{t}$
					R	$t - D1$
					$\theta_1$	45°
	MP - TK - 2 GP - TK - 2		≧ 25	F H V O	G	0
					D1	$\geq 2\sqrt{t}$
					R	$t - (D1 + D2)$
					D2	$\geq 2\sqrt{t}$
					$\theta_1$	45°
					$\theta_2$	45°

仕  
様

附記事項

- ・開先の表示記号は、溶接接合一般事項(1)の 2.1)~2.3) による
- ・溶接姿勢の記号
  - F 下向姿勢
  - H 横向(水平)姿勢
  - V 立向姿勢
  - O 上向姿勢
- ・開先標準の寸法記号と単位
  - G ルート又は部材間の間隔 (mm)
  - D 開先深さ (mm)
  - R ルート面 (mm)
  - $\theta$  開先角度 (度)
  - S すみ肉溶接のサイズ (mm)
  - $t_e$  有効のど厚 (mm)
  - t 母材の板厚 (mm)

改訂事項

- ・図番の変更

名称 溶接接合一般事項 (4)

縮尺 SR - 122

3) 板厚の異なる部材の接合

使用箇所 (溶接部位)	記号	形状	適用板厚	溶接姿勢	寸法	
・梁フランジプレートとそれに直 行する梁フランジプレートとの 接合 ◇A	◇B MC - BL - 2 - DI GC - BL - 2 - DI		$t1 > 6$ $t1 \leq 19$	F V	G	0~2
					R	2
					$\theta_1$	45°
	◇C MC - BL - 2 - DI K GC - BL - 2 - DI K		$t1 > 6$ $t1 \leq 19$	F V	G	0~2
					R	2
					$\theta_1$	45°
	◇B MC - BK - 2 - DI GC - BK - 2 - DI		$t1 \geq 16$ $t1 \leq 32$	F H V O	G	0
					D1	$\frac{2}{3}(t1 - R)$
					R	2
					D2	$\frac{1}{3}(t1 - R)$
					$\theta_1$	45°
					$\theta_2$	60°
◇C MC - BK - 2 - DI K GC - BK - 2 - DI K		$t1 \geq 16$ $t1 \leq 32$	F H V O	G	0	
				D1	$\frac{2}{3}(t1 - R)$	
				R	2	
				D2	$\frac{1}{3}(t1 - R)$	
				$\theta_1$	45°	
				$\theta_2$	60°	

仕  
様

附  
記  
事  
項

改  
訂  
事  
項

名  
称

縮  
尺

- ◇A ・アーク手溶接又はガスシールドアーク半自動溶接で完全溶込みとする。  
・裏はつりを行い両側を溶接する。
  - ◇B 4項目のサフィックス DI は、板厚の異なる部材で板厚の差が 4mm 以下の場合の溶接を示す。
  - ◇C 4項目のサフィックス DIK は、板厚の異なる部材で板厚の差が 4mm を超える場合の溶接を示す。なお、厚い側の板は 1/5 以下の勾配をつけるものとする。
  - ◇D 異なる板厚さの加工は、SR-120による。
- ・開先の表示記号は、溶接接合一般事項(1)の 2.1)~2.3) による。
  - ・溶接姿勢の記号  
F 下向姿勢  
H 横向(水平)姿勢  
V 立向姿勢  
O 上向姿勢
  - ・開先標準の寸法記号と単位  
G ルート又は部材間の間隔(mm)  
D 開先深さ(mm)  
R ルート面(mm)  
 $\theta$  開先角度(度)  
S すみ肉溶接のサイズ(mm)  
te 有効のど厚(mm)  
t 母材の板厚(mm)

- ・図番の変更。
- ・余盛高さに関する変更

溶接接合一般事項 (5)

SR - 123

開先標準 — 4

4) すみ肉溶接, バンドプレート溶接, フレア溶接

使用箇所 (溶接部位)	記号	形状	適用 板厚	溶接 姿勢	寸法		
・柱ウェブと梁フランジの接合 (梁貫通形) ・スチフナと柱ウェブの接合 (柱貫通形) ・柱フランジとベースプレートの接合 ・その他ウェブとフランジプレート, ウェブプレート相互, ウェブとベースプレートの接合 ・組立H形鋼	MF - 2 または GF - 2 または SF - 2		7以下	F H V O	S	6	
			8~10		S	7	
			11~13		S	10	
			14~16		S	12	
・補強プレートとフランジの接合 ・補強プレートとウェブプレートの接合	MF - 1 または GF - 1			F H V O	S	t $\diamond$ C	
					$\diamond$ D		
・バンドプレートとフランジプレート の接合	MP - BA GP - BA $\diamond$ E			F H V	$\theta_1$	規定しない	
・鉄筋とプレートの接合	MFR - K または GFR - K $\diamond$ F			F H V	D	B	S
			9		7	4	
			13		8	4.5	
			16		9	5	
			19		10	6	
			22		11	7	
			25	12	8		
・鉄筋と鉄筋との接合	MFR - X または GFR - X $\diamond$ F			F H V	D	B	
			9		6		
			13		7		
			16		8		
			19		9		
			22	10			

仕  
様

- $\diamond$ A  $t_1, t_2$  のうち小さい方を板厚とする.
- $\diamond$ B 板厚が 16mm を越えたときは MC-TK-2 または, GC-TK-2 による. ただし部分溶込みの場合は, MP-TL-2, MP-TK-2, 及びGP-TL-2, GP-TK-2 による.
- $\diamond$ C  $t_1, t_2$  のうち小さい方の板厚を "t" とする. ( $S=t$ )
- $\diamond$ D  $S=t$  としたとき板端面の肩だれの生ずるおそれのあるところでは肩だれの起こらない程度に  $S < t$  でよい.
- $\diamond$ E 片面溶接とし, 裏はつりは行わない. 記号 MP, GP は部分溶込み溶接を, BA はバンドプレートを示す.
- $\diamond$ F 溶接記号 MFR, GFR はフレア溶接を, K, X は溶接の形状を示している.
- $\diamond$ G 溶接長は鋼板に接する全長とする.  $D=9\sim 16\text{mm}$  は 1パス以上,  $D \geq 19\text{mm}$  は 2パス以上とする.

附  
記  
事  
項

- ・開先の表示記号は, 溶接接合一般事項(1)の 2.1)~2.3) による.
- ・溶接姿勢の記号  
 F 下向姿勢  
 H 横向(水平)姿勢  
 V 立向姿勢  
 O 上向姿勢
- ・開先標準の寸法記号と単位  
 G ルート又は部材間の間隔(mm)  
 D 開先深さ(mm)  
 R ルート面(mm)  
 $\theta$  開先角度(度)  
 S すみ肉溶接のサイズ(mm)  
 $t_e$  有効のど厚(mm)  
 t 母材の板厚(mm)

改  
訂  
事  
項

・図番の変更

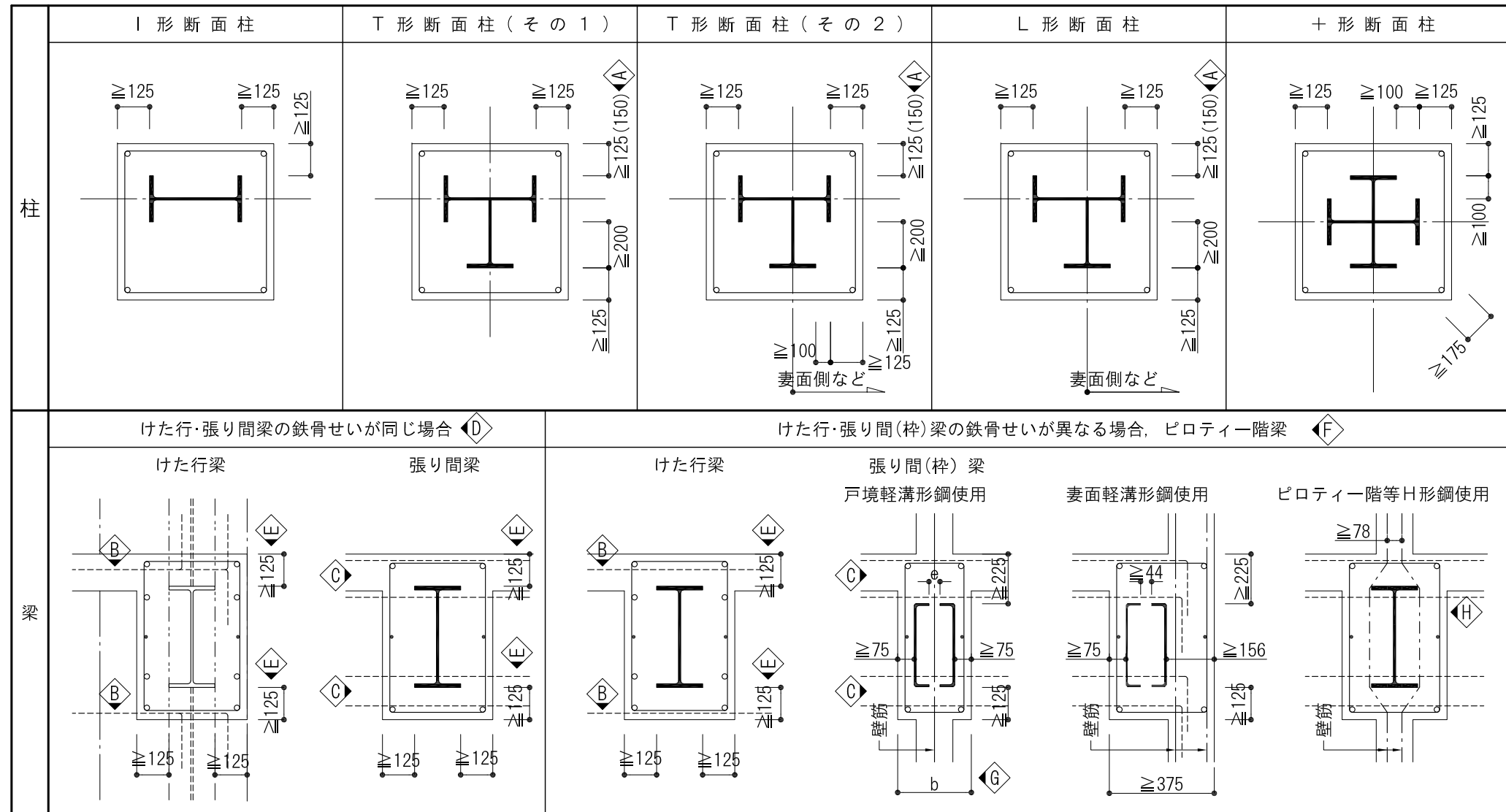
名  
称

溶接接合一般事項 (6)

縮  
尺

SR - 124

# 柱・柱の基本断面図



- ◇A ( )内の寸法は梁筋が柱のウェブを貫通し、柱内に折曲げ定着される場合の寸法を示す。(張り間方向主筋D19以上)
- ◇B 張り間方向梁の主筋位置を示す。鉄筋は条件を満足すればウェブ手前、または、ウェブ貫通後の上向き定着も可とする。
- ◇C けた行方向梁の主筋位置を示す。
- ◇D ピロティー階、施設階の鉄骨のかぶり厚さは本図による。
- ◇E 直交する梁の鉄筋を、フランジ上部に納める等の考慮をして150mmとなることもある。
- ◇F 張り間(枠)梁せいは下端筋を考慮してけた行梁のせいより小さくすることが出来る。
- ◇G b, eの関係は下記による。
  - ・壁厚 t=150  
e $\geq$ 50 b $\geq$ 300
  - ・壁厚 t=180~200  
ダブル配筋のとき  
e $\geq$ 90 b $\geq$ 350
  - ・壁厚 t $>$ 200  
ダブル配筋のとき  
設計図による。
- ◇H H形鋼を枠梁に用いるのは、一部開口があり、曲げを受ける等の特殊な場合に限る。壁厚が200mm以上の場合鉄筋の位置の寸法は設計図による。
- ◇I 柱、梁ウェブの鉄筋貫通孔の補強は行なわない。鉄骨フランジに貫通孔を設けてはならない。

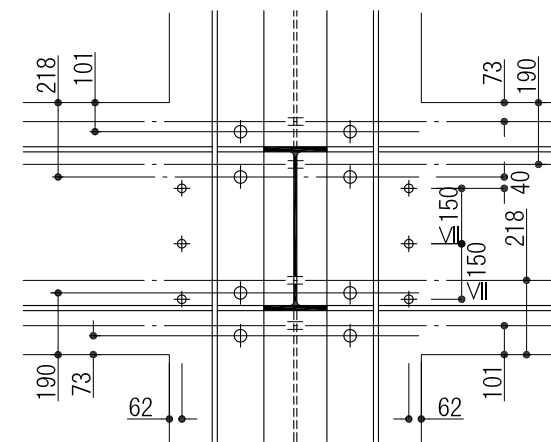
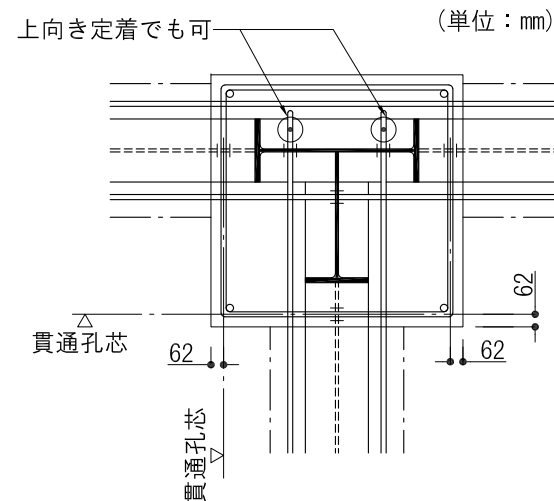
## 主筋貫通孔の標準値

(単位: mm)

鉄筋径	D10	D13	D16	D19
貫通孔径	24	24	32	32
鉄筋径	D22	D25	D29	
貫通孔径	38	38	44	

## 柱梁接合鉄筋貫通孔径例

◇I \* 柱のかぶりは50mm, 梁のかぶりは室内の40mmと仮定した。



附記事項  
 ・各寸法はけた行方向、張り間方向とも主筋径はD25として検討している(ただし、枠梁はD16)。従って、鉄筋径が異なる場合は十分寸法の検討を行うこと。  
 ・帯筋、あばら筋の径はD13として考えている。

改訂事項  
 ・図番の変更。

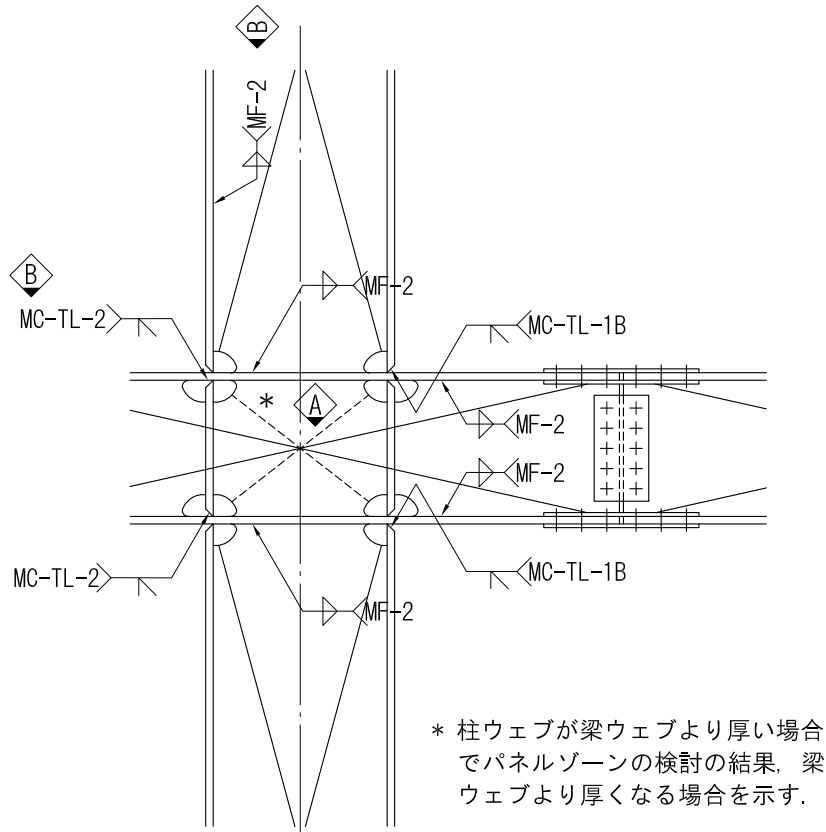
名称  
 柱・梁の基本断面図

縮尺  
 SR - 125

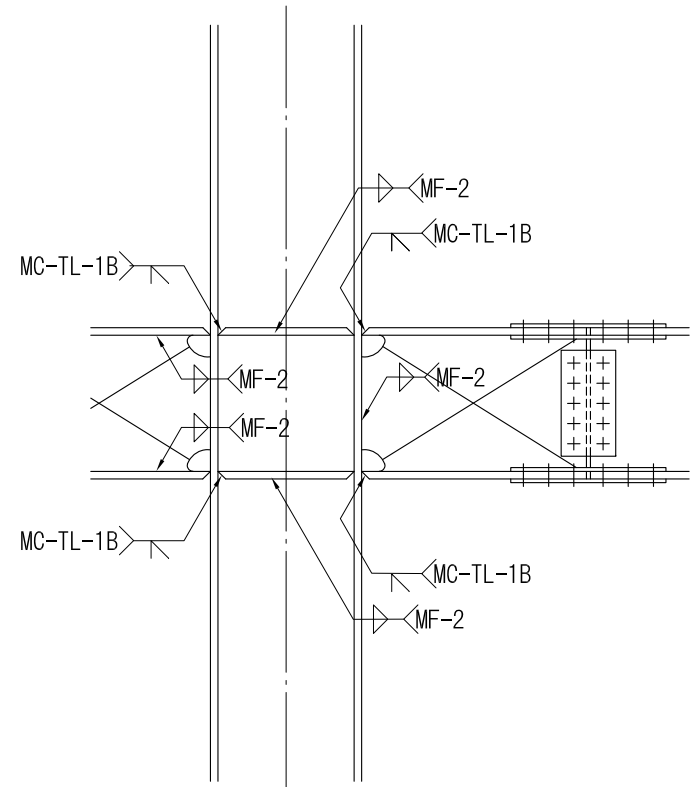
# 接合部標準詳細図

## 1) I 型 接合部標準詳細図

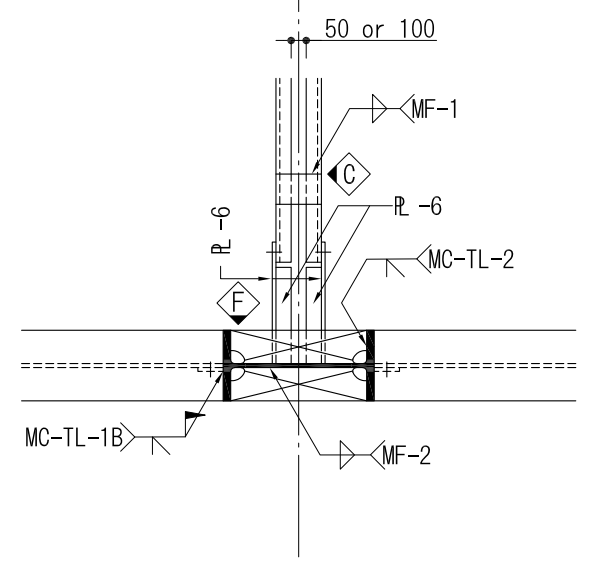
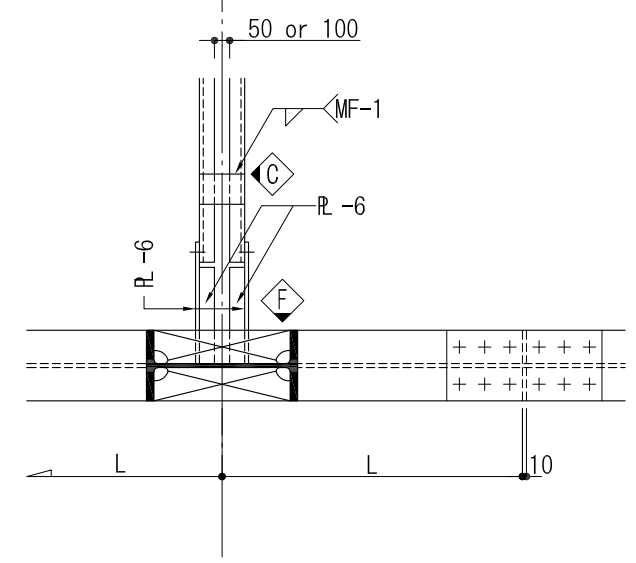
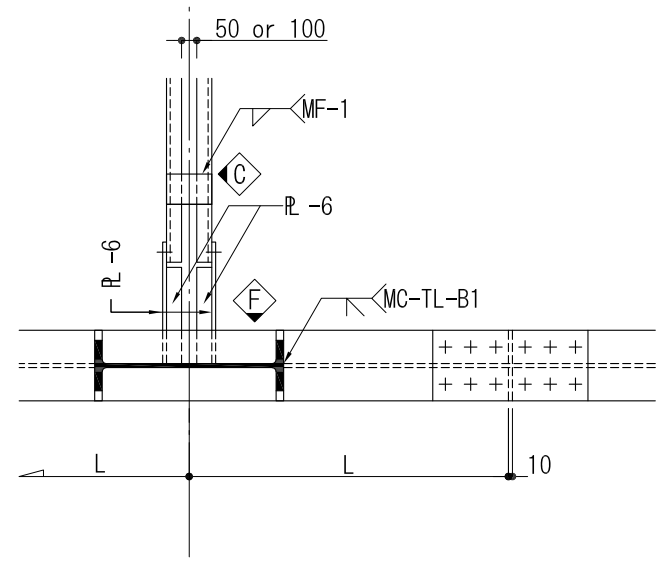
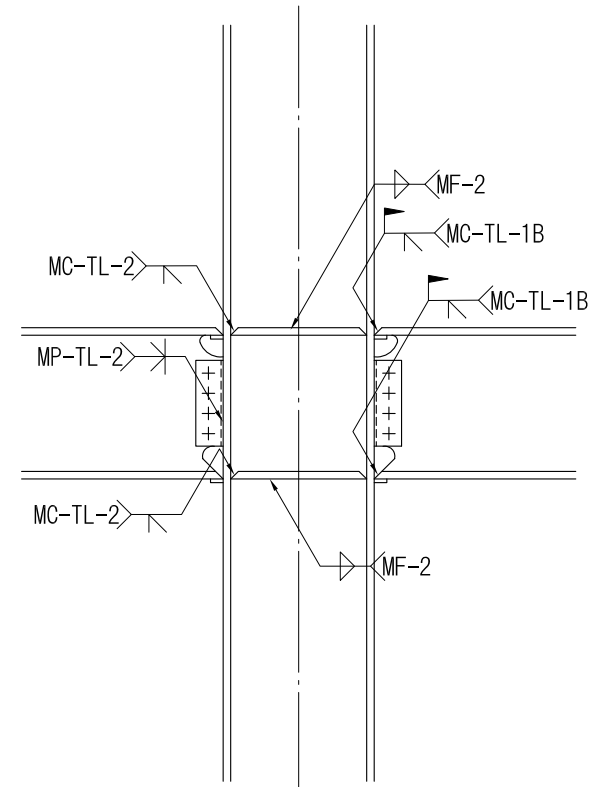
梁通し型(ブラケットタイプ) A



柱通し型(ブラケットタイプ) D



柱通し型(現場溶接タイプ) E



- A 図は柱、梁とも BH 部材を用いたものとして表してある。  
なお、柱ウェブのほうが梁ウェブ板厚より厚い場合、パネルゾーンは柱ウェブ板厚に合わせる。(軸力比制限による柱ウェブ厚を増す場合はサイズアップする前のウェブ厚とする。)
- B 溶接記号は溶接開先標準より選び、設計図に記入するものとする。  
(本図はアーク手溶接を用いた場合を示す。)
- C 枠梁の形状は SR-125 に示すタイプの中から選定する。形状については、SR-128による。
- 仕 D 図は、柱はロール H、梁端部は BH を用いたものとして表している。
- E 図は、柱、梁ともロール H を用いたものとして表している。
- F エンドタブ、裏あて金、スカロップについては、溶接接合一般事項(2)SR-121による。

様

附記事項  
 ・梁ブラケット長さ L は、1,000mm を標準とする。  
 ・溶接は設計要求性能に見合ったものとし、設計者により判断する。また加工業者の申し出により変更することが出来る。

改訂事項  
 ・図番の変更。

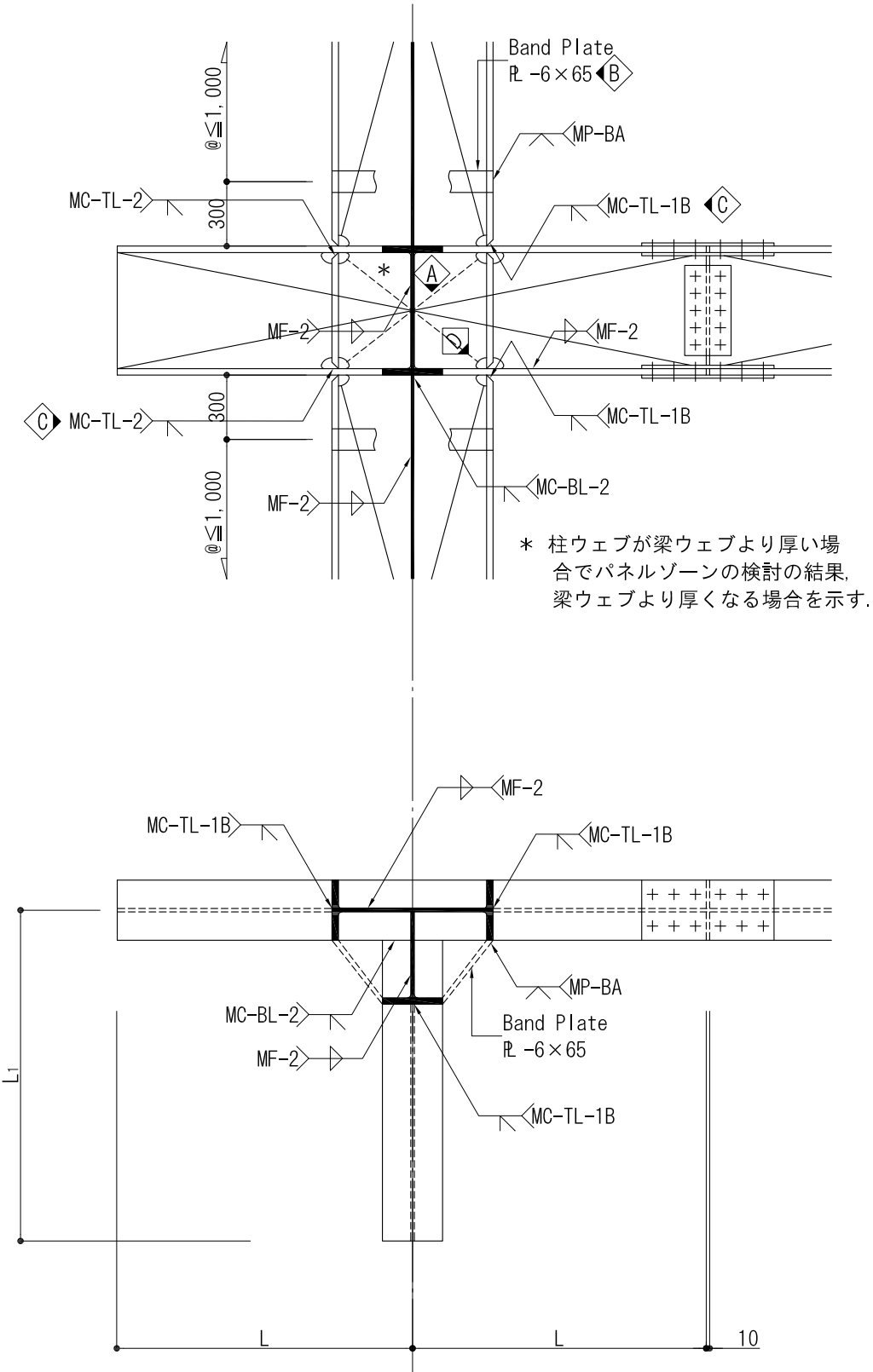
名称 接合部標準詳細図 (1)

縮尺 SR - 126

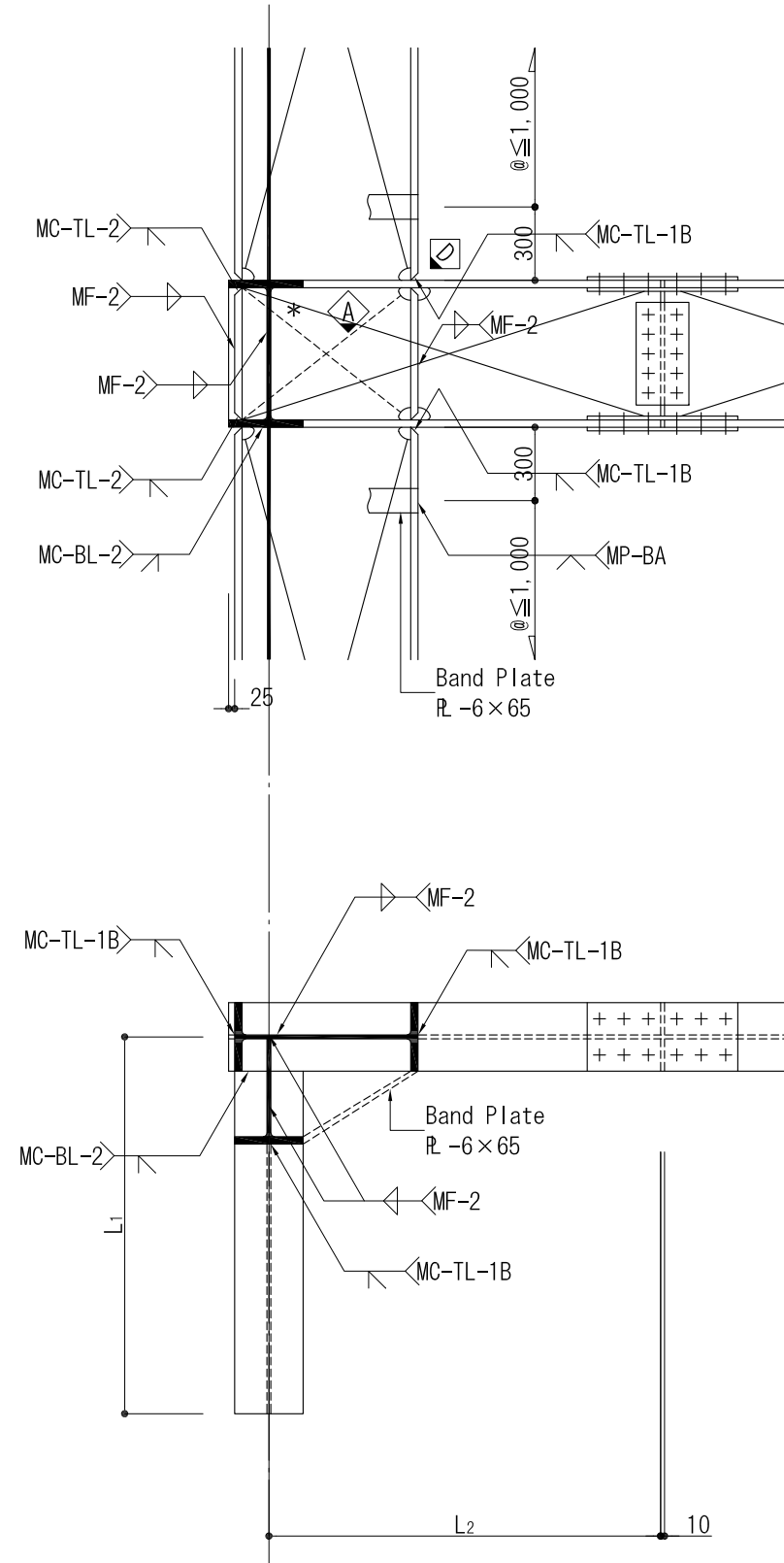


2) T形柱接合部標準詳細図 A

T形, L形柱 (梁通し形)



L形柱 (梁通し形)



- A 図は柱、梁とも BH 部材を用いたものとして表してある。なお、柱ウェブのほうが梁ウェブ板厚より厚い場合、パネルゾーンは柱ウェブ板厚に合わせる。(軸力比制限による柱ウェブ厚を増す場合はサイズアップする前のウェブ厚とする。)
- B バンドプレートはT形、L形、+形組立て柱に設けるものとし、鉄骨フランジ面より 300 mm のあきをとって配置し、中間に1ヶ所の合計3ヶ所とする。柱間部が長いときは、バンドプレートのピッチを 1,000mm以内で配置する。
- C 溶接記号は溶接開先標準より選び、設計図に記入する(本図はアーク手溶接を用いた場合を示す)。
- D エンドタブ、裏あて金、スカロップについては溶接接合一般事項(2) SR-120 による。

仕様

附記事項

改訂事項

名称

縮尺

・梁ブラケット長さ L は、1,000mmを標準とする。  
 ・L1, L2 の長さについては設計図による。  
 ・溶接は設計要求性能に見合ったものとし、設計者により判断する。また加工業者の申し出により変更することが出来る。

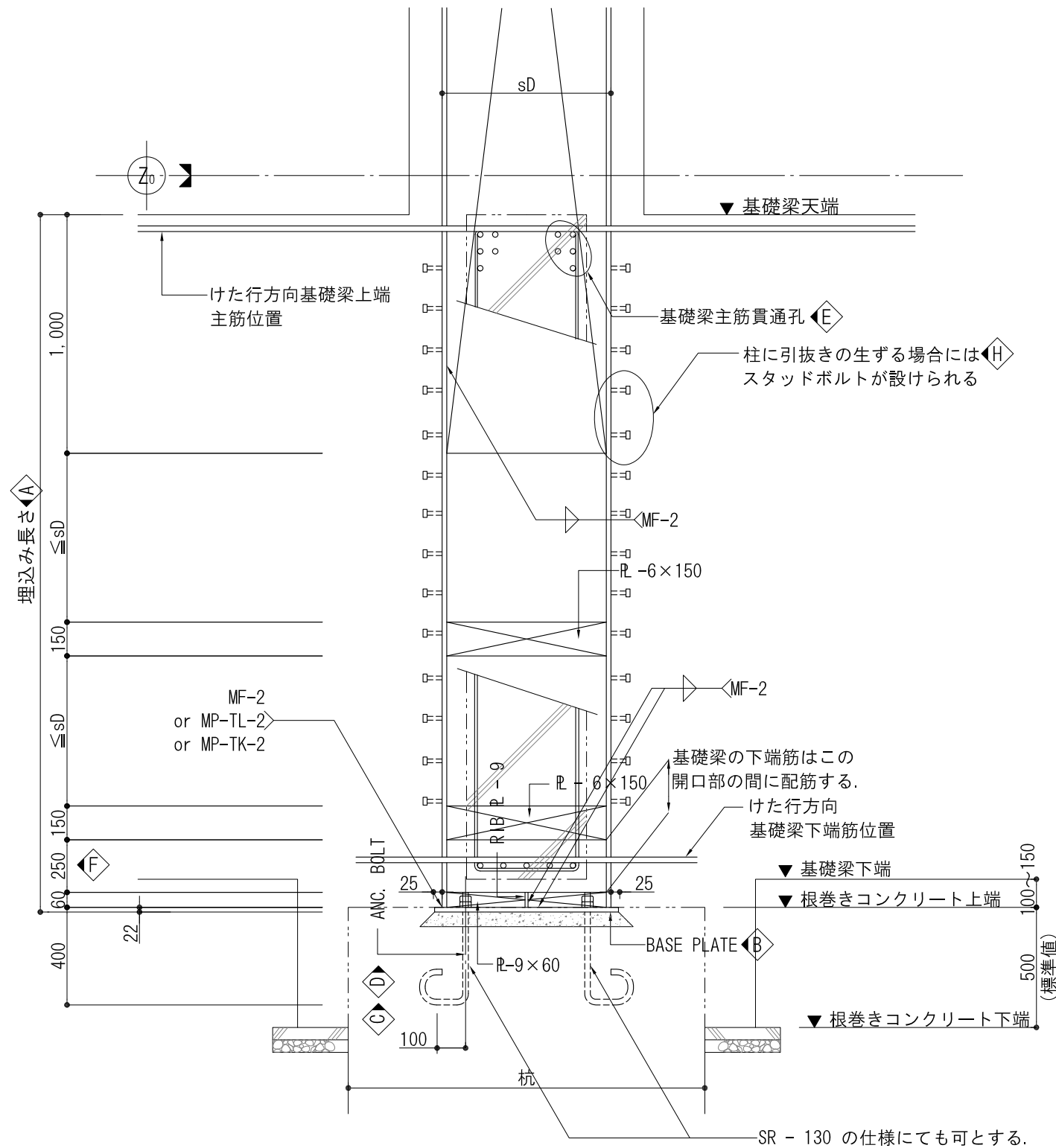
・図番の変更。

接合部標準詳細図 (2)

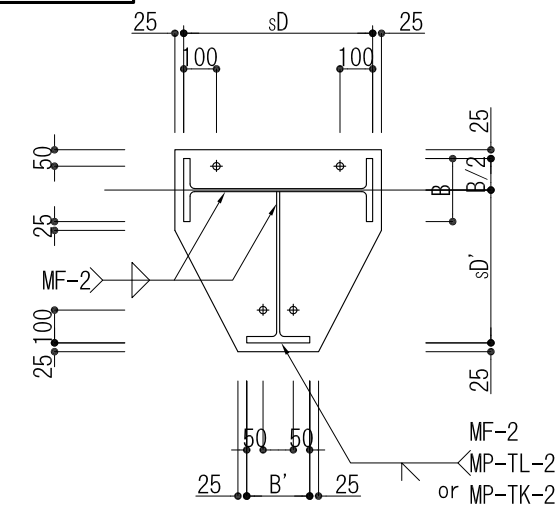


# 鉄骨柱脚

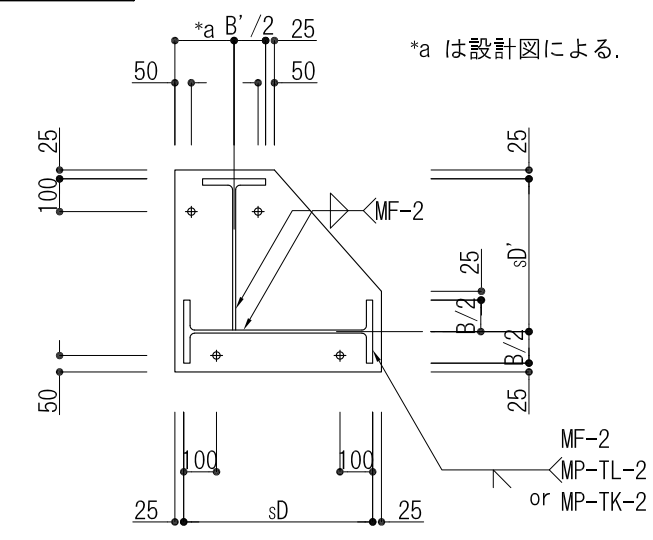
## 1) 鉄骨柱脚アンカーボルト先据付け工法



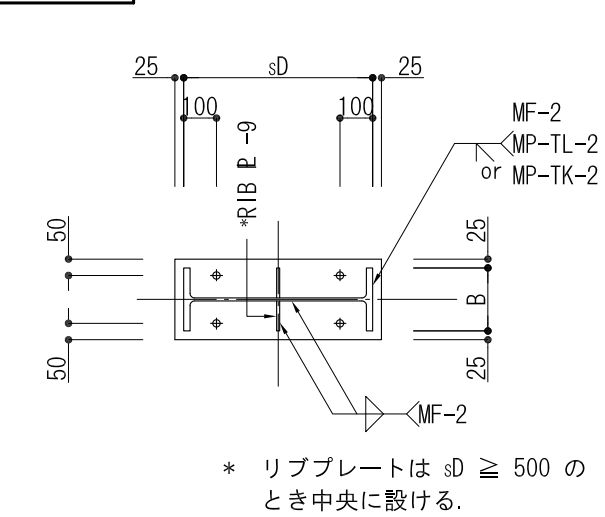
### T 形柱



### L 形柱



### I 形柱



- ◇A 鉄骨柱部材の基礎梁への埋込み長さは、鉄骨柱せい  $sD$  の2倍以上とする。
- ◇B ベースプレートは特記なき限り  $IP-22$  (SN400 又は SS400) とする。ベースプレートの上端は根巻コンクリートの上端と一致させる。
- ◇C アンカーボルトは4-M22 (SS400),  $L=500$  を標準とする。
- ◇D アンカーボルトに引抜き力を負担させる場合は、以下の検討を行なう。  
(1) 柱とベースプレートの溶接  
(2) ベースプレートの厚さ (応力)  
(3) アンカーボルトの径及び長さ
- ◇E 基礎梁の主筋貫通孔は、特に補強は行わない。
- ◇F 基礎梁の主筋が3段配筋となる場合この寸法を大きくしてよい。
- ◇G 本図はアーク手溶接を用いた場合の例を示す。
- ◇H 柱に引抜きを生ずる場合は、埋込み部分にスタッドボルトが配される場合がある。柱の主筋との取合いには十分注意が必要である。

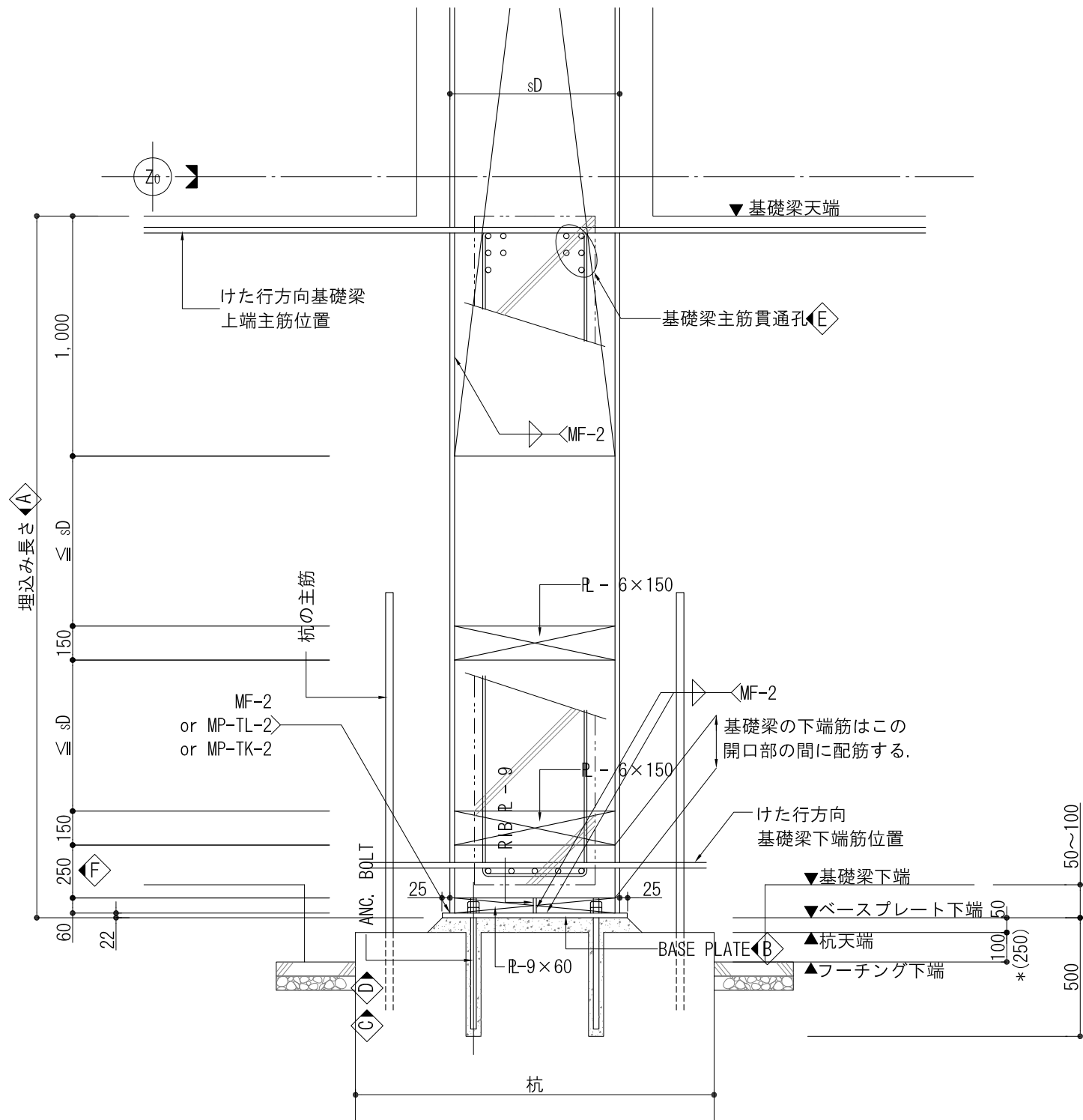
・本工法はアンカーフレームを正確に固定し、コンクリートを打設する方法である。従ってアンカーフレームの移動をなくすよう、固定方法を十分考慮する。また、この方法を用いる時は、建方時の風や地震力による引抜き力を検討する。

・図番の変更。

名称 鉄骨柱脚(1)

縮尺 SR - 129

2) 鉄骨柱脚アンカーボルト後据付け工法 ◊G

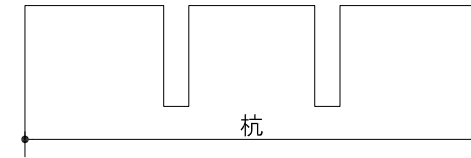


\* ( ) 内数値は鋼管コンクリート杭の場合を示す。

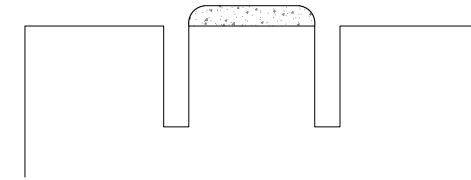
< 施工方法参考 >

アンカーボルト後据付け工法の施工順序

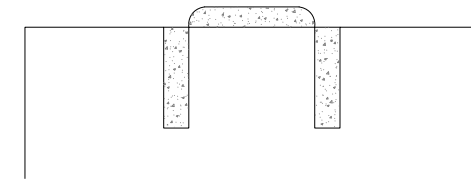
- (1) 杭の天端をならして、アンカーボルトの位置の墨出しを行う。
- (2) 杭の天端の墨位置にアンカーボルト用の穴を開ける。



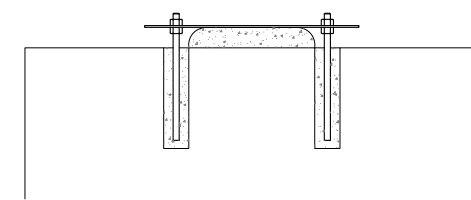
- (3) 無収縮モルタルでマンジュウを作る。



- (4) 穴にモルタルを充填する。

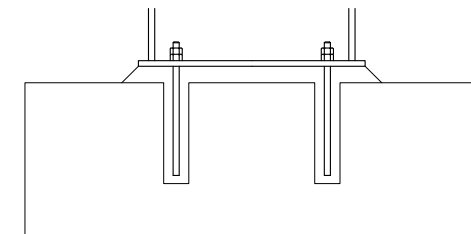


- (5) 天プレートを使用してアンカーボルトをセットする。



- (6) 天プレートを除去して鉄骨を建てる。

- (7) ベースプレート周辺に密実にモルタルを充填して仕上げる。



仕  
様

- ◊A 鉄骨柱部材の基礎梁への埋込み長さは、鉄骨柱せい  $sD$  の2倍以上とする。
- ◊B ベースプレートは特記なき限り  $E-22$  (SN400 または SS400) とする。ベースプレートの下端は杭天端位置より 50mm 上方とする。
- ◊C アンカーボルトは 4-M22 (SS400)、 $L=500$  を標準とする。
- ◊D アンカーボルトに引抜き力を負担させる場合は以下の検討を行なう。  
(1) 柱とベースプレートの溶接  
(2) ベースプレートの厚さ(応力)  
(3) アンカーボルトの径及び長さ
- ◊E 基礎梁の主筋貫通孔は、特に補強は行わない。
- ◊F 基礎梁の主筋が3段配筋となる場合この寸法を大きくしてよい。
- ◊G 本図はアーク手溶接を用いた場合の例を示す。

附  
記  
事  
項

・本工法は、杭天端をならした後に穴空けをする。そこにモルタルを充填して、アンカーボルトを天プレートを使い墨に合わせてセットする方法である。  
なお、この工法を採用する場合は、特に建方時の風や地震力による引抜き力等の検討を十分に行うこと。

改  
訂  
事  
項

・図番の変更

名  
称

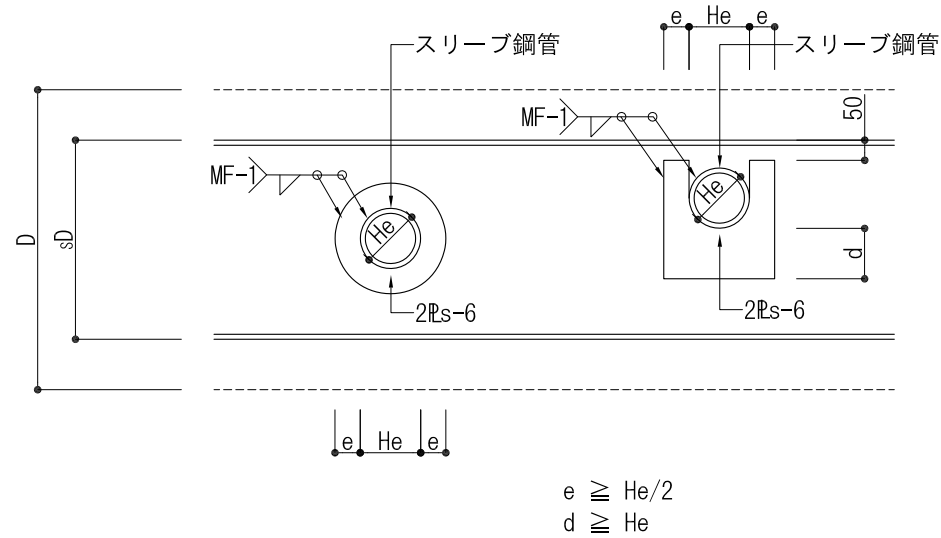
鉄 骨 柱 脚 (2)

縮  
尺

SR - 130

# 鉄骨梁のスリーブ補強 ◀D

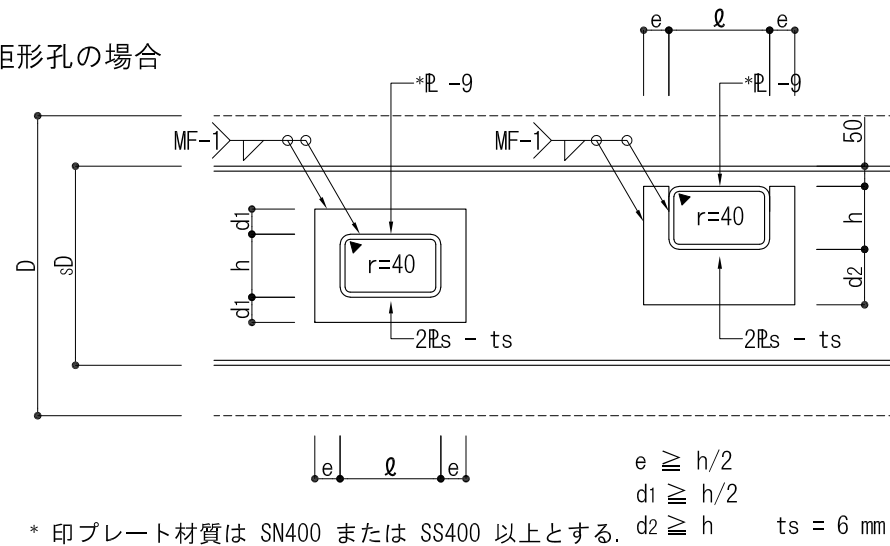
## 1) 丸孔の場合



スリーブ補強(鋼管は STK400 補強プレートはウェブと同材質)

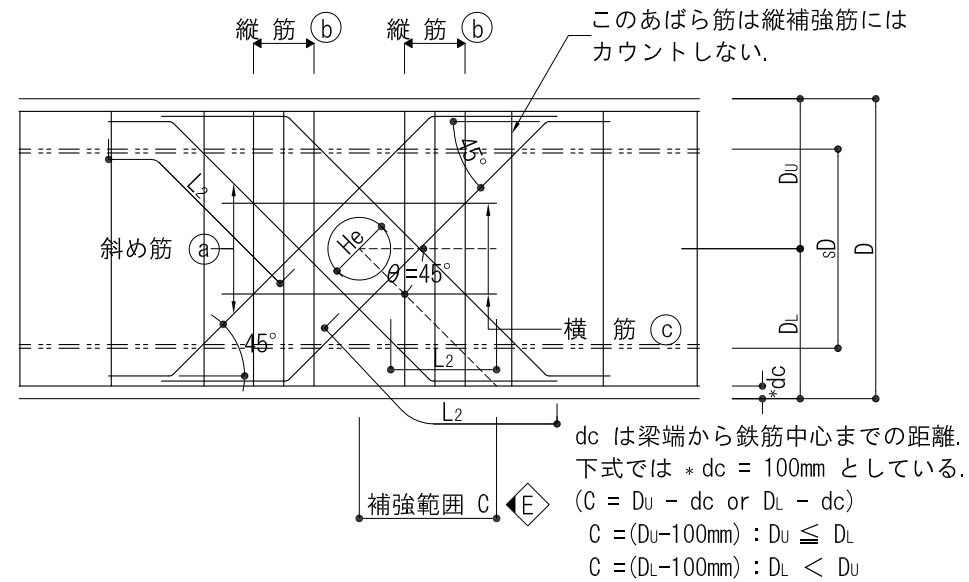
スリーブ径	鋼管		補強プレート 厚さ (mm)
	外径 (mm)	厚さ (mm)	
30φ	34. <sup>0</sup>	2. <sup>2</sup>	補強不要
50φ	60. <sup>5</sup>	3. <sup>2</sup>	補強不要
70φ	76. <sup>3</sup>	3. <sup>2</sup>	補強不要
100φ	114. <sup>3</sup>	4. <sup>5</sup>	補強不要
125φ	139. <sup>8</sup>	4. <sup>5</sup>	6. <sup>0</sup>
150φ	165. <sup>2</sup>	5. <sup>0</sup>	6. <sup>0</sup>
175φ	190. <sup>7</sup>	5. <sup>3</sup>	6. <sup>0</sup>
200φ	216. <sup>3</sup>	5. <sup>8</sup>	6. <sup>0</sup>
250φ	267. <sup>4</sup>	6. <sup>6</sup>	6. <sup>0</sup>

## 2) 矩形孔の場合



\* 印プレート材質は SN400 または SS400 以上とする.  $ts = 6 \text{ mm}$

## SRC造の鉄筋コンクリート梁部分のスリーブ補強



TYPE	斜め筋 ◀B (a)	縦筋 ◀B (b)	横筋 ◀B (c)
S <sub>1</sub>	4 × (2-D13)	□ -D10	2 × (2-D16)
S <sub>2</sub>	4 × (2-D13)	2 × □ -D10	2 × (2-D16)
S <sub>3</sub>	4 × (2-D13)	2 × □ -D13	2 × (2-D16)
S <sub>4</sub>	4 × (2-D13)	3 × □ -D13	2 × (2-D16)
S <sub>5</sub>	4 × (2-D13)	4 × □ -D13	2 × (2-D16)

## 梁せいによる補強可能範囲 ◀C

$D < 700 \text{ mm}$	TYPE S <sub>1</sub> ~ S <sub>3</sub>
$700 \text{ mm} \leq D < 800 \text{ mm}$	TYPE S <sub>1</sub> ~ S <sub>4</sub>
$800 \text{ mm} \leq D$	TYPE S <sub>1</sub> ~ S <sub>5</sub>

- ◀A 孔径の制限, 間隔等については SR-111 に基づいて決定する.  
なお, 斜め筋の開口部からのかぶり厚さは50mmとする.
- ◀B 各鉄筋を溶接金網に変更することも可とする.  
その際は縦筋, 横筋, 斜め筋に等価な溶接金網を選定すること.
- ◀C いずれのタイプの開口補強を行なうかは, 各工事の設計図によるものとする.
- ◀D スリーブ補強後の梁のせん断強度は無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする.
- ◀E スリーブ位置が梁の中心でない場合は, 補強範囲は式に従って決めることが必要となる.

仕

様

附  
記  
事  
項

・丸孔以外の形状の場合, 計算により補強後の耐力を確保すること.

改  
訂  
事  
項

・図番の変更

名  
称

鉄骨梁のスリーブ補強

縮  
尺

SR - 131